

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 61 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 61



平成 26 (2014) 年度

April 2014—March 2015

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 61 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 61

平成 26 (2014) 年度

April 2014 — March 2015

# まえがき

学長 田 尻 孝

2014年度の研究業績年報が出来上がりました。毎年この時期を待ち遠しく思っております。本学研究者の一年間の activity がどうなのか、これを見れば一目瞭然であります。この年報は研究業績を大学として世の中に発信しているわけで、本学の研究機関としての評価はまさにこの内容にかかっているとと言えます。2014年度の総論文数は1,770編と前年度に比較してほんの少し増加したものの、欧文数が924編と前年度より約40編減少いたしました。また学会発表数も4,437件と前年度より300件以上減少しております。欧文数は3年前と比較すれば約200編以上増えているものの、順調な右肩上がりとはなかなかいかないものです。次年度以降のさらなる頑張りを期待しております。

東京オリンピックの国立競技場建て替え問題のような不手際が、わが国の威信をかけたプロジェクトでも起こり得るということに驚きを感じております。昨今、あらゆる組織で責任の所在やガバナンスのあり方が問われています。組織運営の中でトップが明確な意思決定を行えるか、それが実際に機能するかどうか目標達成の成否につながります。ガバナンスの機能不全によるトラブルは組織としての脆弱性の現れでありさまざまな非難にさらされます。医療界でもいくつかの病院の問題がマスコミで取り上げられました。今後は本学のみならず多くの病院・医療機関においてガバナンスの強化が進められていくことと思います。

ここ数年来の本学を取り巻く環境は決して良好なものとはいえませんが教職員の皆さんは現在の自分の成すべきこと、自分が出来ることに熱意を持って取り組んでいただきたい。一致団結してこの正念場を乗り切ればまた新しい展開が開けることと思います。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました高橋浩前研究部長および小澤一史現研究部長ならびに関係各位に謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[医療心理学]	1
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	4
[化 学]	5
[生物学]	6
3. 外国語	9
[英語]	9
4. スポーツ科学	10

## 〔2〕基礎医学

1. 分子解剖学分野	15
2. 解剖学・神経生物学分野	18
3. 感覚情報科学分野	20
4. 生体統御科学分野	21
5. 代謝・栄養学分野	23
6. 分子遺伝医学分野	26
7. 薬理学分野	31
8. 解析人体病理学分野	35
9. 統御機構診断病理学分野	40
10. 微生物学・免疫学分野	46
11. 衛生学公衆衛生学分野	49
12. 法医学分野	54
13. 医療管理学分野	58
14. 基礎医学共同研究利用施設	59
[実験動物管理室]	59
[形態解析共同研究施設]	59
[基礎医学放射性同位元素研究室]	61

## 〔3〕臨床医学

1. 総合医療・健康科学分野	65
[付属病院総合診療科]	65
2. 循環器内科学分野	67
[付属病院循環器内科]	67
[武蔵小杉病院循環器内科]	78
[多摩永山病院内科、循環器内科]	81
[千葉北総病院循環器内科]	89
3. 神経内科学分野	93
[付属病院神経・脳血管内科]	93
[武蔵小杉病院神経内科]	97
[千葉北総病院神経・脳血管内科]	99
[脳病態画像解析学講座]	101
4. 腎臓内科学分野	103
[付属病院腎臓内科]	103
[武蔵小杉病院腎臓内科]	107
[千葉北総病院腎臓内科]	109

5.	アレルギー膠原病内科学分野	111
	[付属病院リウマチ・膠原病内科]	111
6.	血液内科学分野	113
	[付属病院血液内科]	113
	[千葉北総病院血液内科]	117
7.	消化器内科学分野	118
	[付属病院消化器・肝臓内科]	118
	[千葉北総病院消化器内科]	128
8.	内分泌糖尿病代謝内科学分野	137
	[付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]	137
	[武蔵小杉病院動脈硬化・糖尿病・内分泌内科]	140
	[千葉北総病院内分泌内科]	142
9.	呼吸器内科学分野	143
	[付属病院呼吸器内科、化学療法科]	143
	[武蔵小杉病院呼吸器内科]	151
	[武蔵小杉病院腫瘍内科]	152
	[千葉北総病院呼吸器内科]	155
10.	精神・行動医学分野	157
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	157
11.	小児・思春期医学分野	162
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科、小児外科、新生児内科）・ 多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	162
12.	臨床放射線医学分野	176
	[付属病院放射線科、放射線治療科]	176
	[武蔵小杉病院放射線科]	185
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]	187
	[多摩永山病院放射線科]	191
	[多摩永山病院放射線治療科]	192
	[千葉北総病院放射線科]	193
13.	皮膚粘膜病態学分野	195
	[付属病院皮膚科]	195
	[武蔵小杉病院皮膚科]	201
	[多摩永山病院皮膚科]	202
	[千葉北総病院皮膚科]	204
14.	リハビリテーション学分野	206
	[千葉北総病院リハビリテーション科]	206
15.	消化器外科学分野	208
	[付属病院消化器外科・一般外科・移植外科]	208
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]	238
	[千葉北総病院外科・消化器外科]	243
16.	乳腺外科学分野	250
	[付属病院乳腺科]	250
17.	内分泌外科学分野	252
	[付属病院内分泌外科]	252
18.	心臓血管外科学分野	255
	[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]	255
19.	呼吸器外科学分野	260
	[付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]	260
	[多摩永山病院呼吸器外科]	263

20.	脳神経外科学分野	265
	[付属病院脳神経外科]	265
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	273
	[多摩永山病院脳神経外科]	277
	[千葉北総病院脳神経外科]	279
21.	整形外科学分野	287
	[付属病院整形外科・リウマチ外科、武蔵小杉病院整形外科、多摩永山病院整形外科、千葉北総病院整形外科]	287
22.	女性生殖発達病態学分野	297
	[付属病院女性診療科・産科]	297
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	303
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	308
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	312
23.	頭頸部・感覚器科学分野	315
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	315
24.	男性生殖器・泌尿器科学分野	320
	[付属病院泌尿器科]	320
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	322
	[多摩永山病院泌尿器科]	323
	[千葉北総病院泌尿器科]	324
25.	眼科学分野	325
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	325
26.	疼痛制御麻酔科学分野	332
	[付属病院麻酔科・ペインクリニック]	332
	[武蔵小杉病院麻酔科]	335
	[千葉北総病院麻酔科]	336
27.	救急医学分野	338
	[付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]	338
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	349
	[多摩永山病院救命救急センター]	351
	[千葉北総病院救命救急センター]	354
28.	形成再建再生医学分野	360
	[付属病院形成外科・美容外科]	360
	[武蔵小杉病院形成外科]	370
	[千葉北総病院形成外科]	371
29.	付属病院付置施設等	373
	[付属病院遺伝診療科]	373
	[付属病院心臓血管集中治療科]	374
	[付属病院病理診断科・病理部]	377
	[付属病院臨床検査部]	380
	[付属病院薬剤部]	382
	[付属病院生理機能センター]	383
	[付属病院看護部]	383
	[付属病院放射線科技師室]	385
	[付属病院ME部]	386
	[ワクチン療法研究施設]	388
	[付属病院東洋医学科]	388

	[ゲノム先端医療部].....	392
30.	武蔵小杉病院付置施設等.....	394
	[武蔵小杉病院消化器病センター].....	394
	[武蔵小杉病院循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、神経内科、動脈硬化・ 糖尿病・内分泌内科、消化器内科、腫瘍内科].....	399
	[武蔵小杉病院心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科].....	399
	[武蔵小杉病院中央検査室].....	401
	[武蔵小杉病院薬剤部].....	401
	[武蔵小杉病院看護部].....	404
	[武蔵小杉病院放射線科技師室].....	406
	[武蔵小杉病院認知症センター].....	406
31.	多摩永山病院付置施設等.....	409
	[多摩永山病院病理部].....	409
	[多摩永山病院中央検査室].....	411
	[多摩永山病院薬剤部].....	412
	[多摩永山病院消化器科].....	413
32.	千葉北総病院付置施設等.....	418
	[千葉北総病院集中治療室].....	418
	[千葉北総病院病理部].....	419
	[千葉北総病院中央検査室].....	420
	[千葉北総病院薬剤部].....	420
	[千葉北総病院放射線センター].....	422
	[千葉北総病院歯科].....	423
	[千葉北総病院看護部].....	424
33.	医療安全管理部門.....	426
	[感染制御部].....	426
[4]	付置研究施設	
1.	老人病研究所.....	429
	[分子細胞構造学分野].....	429
	[細胞生物学分野].....	429
	[遺伝子制御学分野].....	431
	[生体機能制御学分野].....	432
2.	呼吸ケアクリニック.....	435
3.	健診医療センター.....	437
4.	成田国際空港クリニック.....	438
[5]	その他	
1.	医学教育センター.....	441
2.	学生部.....	443
	[学生相談室].....	443
付表：1.	各種研究費補助金・研究助成金交付状況.....	447
1)	平成26年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 交付決定一覧.....	447
2)	平成26年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 研究分担の交付決定一覧.....	448
3)	平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 交付決定一覧.....	449
4)	平成26年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 研究分担の交付決定一覧.....	455
5)	平成26年度補助・委託一覧.....	457
6)	平成26年度学術賞受賞一覧.....	471
7)	平成26年度知的財産一覧（特許権）.....	475

2. 動物実験実施状況	476
1) 平成 26 年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書（課題）数 （平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）	476
2) 平成 26 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率 （ケージ数を基に算出（％））	477
3) 平成 26 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数	478
4) 平成 26 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数	479
5) 平成 26 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数	480



## 〔1〕 基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [医療心理学]

### 研究概要

高齢者・軽度認知機能障害、認知症患者などを対象とする非薬物療法やケアのあり方をテーマとして調査研究を行っている。認知症ケアに関しては、街ぐるみ認知相談センターの活動に参加し、早期発見・早期対応取り組み、介護者への支援、知症を発症した患者へのケアのあり方を検討している。またこうした対象者に認知行動療法を適応する試みを進めている。高齢者の犯罪という新しい問題に、重荷刑事施設（刑務所）で受刑している高齢者の認知機能と個人プロフィールを調査している。高齢受刑者の増加は大きな社会問題になりつつあり、今後も重要性が増すことが予想される研究課題である。法と精神医学・医療心理学にまたがる領域が研究の対象であり、上記矯正施設での調査研究・医療観察法の審判への参加、労務災害・公務災害の判定への産科などを行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Asami T<sup>1</sup>, Ookubo Y<sup>1</sup>, Sekine M<sup>1</sup>, Nomura T ( <sup>1</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Eating disorders among patients incarcerated only for repeated shoplifting : a retrospective quasi-control study in a medica. BMC psychiatry 2014 ; 7 (14) : 169.
- 2) Ishiawata A<sup>1</sup>, Kitamura S<sup>1</sup>, Nomura T, Nemoto R<sup>2</sup>, Ishi C<sup>2</sup>, Wakamatsu N<sup>2</sup>, Katayama Y<sup>3</sup> ( <sup>1</sup> Department of Internal medicine, MUshashi-cosugi Hospital, <sup>2</sup> The Community Consultation Center for Citizens with MCI and dementia, Nippon Medical School, <sup>3</sup> Department of Nueurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Early Identification of Cognitive Impairment and Dementia : Result from Four Years of the Community Consultation Center. Archives of Gerontology and Geriatrics 2014 ; 59 : 457-461.
- 3) 野村俊明：司法精神医学と触法精神障害者の社会内処遇のための司法と福祉の連携. 臨床精神医学 2014 ; 43 (9) : 1303-1308.
- 4) 川西智也<sup>1</sup>, 稲垣千草<sup>1</sup>, 根本留美<sup>1</sup>, 石渡明子<sup>2</sup>, 野村俊明, 北村 伸<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学街ぐるみ認知症草案センター, <sup>2</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院) : 地域在住の中・高齢者における認知症ケアに関連したニ z-ウの実態. 認知症ケア学会誌 2014 ; 13 (3) : 618-626.
- 5) 櫻村正美<sup>1</sup>, 石村郁夫<sup>2</sup>, 竹下 遥<sup>3</sup>, 大江悠樹<sup>4</sup>, 野村俊明, 西松能子<sup>5</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学医療心理学教室, <sup>2</sup> 東京成徳大学, <sup>3</sup> 東京家政大学附属臨床相談センター, <sup>4</sup> 国立精神・神経医療研究センター, <sup>5</sup> 立正大学) : 一医療施設における学生の精神科受診行動に関する調査研究. 日本医科大学基礎科学紀要 2014 ; 43 : 73-85.

##### (2) 総説：

- 1) 川西智也<sup>1</sup>, 稲垣千草<sup>1</sup>, 根本留美<sup>1</sup>, 石渡明子, 野村俊明<sup>2</sup>, 北村 伸<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学, <sup>2</sup> 日本医科大学) : もの忘れの草案期間が展開する地域連携の実際. 老年精神医学雑誌 2014 ; 25 (12) : 1395-1399.
- 2) 野村俊明：加害者に対する精神療法. 精神療法 2015 ; 41 (1) : 15-18.
- 3) 野村俊明：精神科治療と学生生活. 首都大学東京学生サポートセンター学生相談室レポート 2015 ; (9) : 36-54.

#### 著書

- 1) 小野寺孝義<sup>1</sup>, 岩佐和典<sup>2</sup>, 大久保街亜<sup>3</sup>, 櫻村正美<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 広島国際大学, <sup>2</sup> 就実大学, <sup>3</sup> 専修大学, <sup>4</sup> 日本医科大学) : [分担] 5章分散分析, 8章多変量分散分析, 9章主成分分析と因子分析. 心理・教育統計法特論 (小野寺孝義), 2015 ; pp71-88. 一般財団法人放送大学教育振興会.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 野村俊明：ロジャーズ派の精神療法とカウンセリングの副作用. 日本精神神経学会 (横浜), 2014. 6.
- 2) 野村俊明：認知症ケアのプロフェッショナルリズム. 日本認知症予防学会 (第4回) (荒川区), 2014. 9.
- 3) 野村俊明：児童養護施設における心理職による家族支援の実践と課題. 日本子ども虐待防止学会 (第20回) (名古屋), 2014. 9.
- 4) 堀越 勝<sup>1</sup>, 森田展彰<sup>2</sup>, 伊藤正哉<sup>1</sup>, 高岸百合子<sup>3</sup>, 櫻村正美<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 国立精神・神経医療研究センター, <sup>2</sup> 筑波大学, <sup>3</sup> 駿河台大学, <sup>4</sup> 日本医科大学) : 日本における認知処理療法の可能性. 日本トラウマティック・ストレス学会 (第13回) (福島), 2014. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 樫村正美<sup>1)</sup>, 石津憲一郎<sup>2)</sup>, 下田芳幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学, 2) 富山大学)：感情との関わり方の違いと抑うつ傾向. 日本心理学会 (京都), 2014. 9.
- 2) 田島和子, 笠原絵里, 太田雪子, 野村俊明：退行予防の目的でピアノレッスンを導入したダウン症候群の1例. 日本小児保健学会 (第61回), 2014. 6.
- 3) 石村郁夫, 羽鳥健司, 山口正寛, 野村俊明, 鋤柄のぞみ：Compassion Training Programs の概観と今後の展望. ヒューマンケア心理学会 (第16回), 2014. 9.
- 4) 樫村正美, 野村俊明：認知症高齢者と介護家族に対する認知行動療法の可能性. 認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.
- 5) 並木香奈子, 井上志津子, 長久美江子, 野村俊明：認知症市民公開講座の開催から考える認知症の実際. 認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.
- 6) 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 石渡明子, 野村俊明, 北村 伸：地域の認知症相談における家族支援. 認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.
- 7) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 並木香奈子, 石渡明子, 野村俊明, 北村 伸：健常/MCI高齢者の認知症ケアのニーズ. 認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.
- 8) 川西智也, 稲垣千草, 根本留美, 並木香奈子, 野村俊明, 北村 伸：認知症に関連した健常な中高年のニーズ調査. 日本認知症ケア学会 (第15回), 2014. 5.
- 9) 根本留美, 川西智也, 稲垣千草, 野村俊明, 北村 伸：地域臨床における認知症早期発見のための MoCA-J1 の有用性について. 日本老年精神医学学会 (第29回), 2014. 6.
- 10) 稲垣千草, 根本留美, 川西智也, 野村俊明, 北村 伸：地域の認知症相談からみる家族のニーズ. 日本老年精神医学学会 (第29回), 2014. 6.

## 2. 自然科学

### [数学]

#### 研究概要

これまでの研究をさらに進展させて、有界な障害物の外部領域における、摩擦項を伴う波動方程式やシュレディンガー方程式の定常問題に対する一様リゾルベント評価式を、特に空間2次元の場合に重点的に考察した。特に、摩擦項を伴う波動方程式の極限振幅の原理に関する既存の結果をより精密化して改良することに成功した。(中澤)作用素凸関数、作用素凹関数の優加法性、劣加法性を論じ、それと同値な作用素に関する条件を考察した。それと関わることとして、作用素凸関数、作用素凹関数のフレッシュ微分の単調性を考えた。そしてそれらを論文にまとめた。また、作用素の積とその数域について考えた。(儀我)

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Giga M, Uchiyama M<sup>1)</sup>, Uchiyama A<sup>2)</sup> (1) Department of Mathematics, Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering, Shimane University, 2) Department of Mathematics, Faculty of Science, Yamagata University) : Superadditivity and derivative of operator functions. *Linear Algebra and its Applications* 2015 ; 465 (15) : 401-411.

###### (2) 総説：

- 1) 中澤秀夫：数学的散乱理論について (On mathematical Scattering Theory). 日本医科大学基礎科学紀要 (The Bulletin of Liberal Arts & Sciences Nippon Medical School) 2014 ; (43) : 1-18.
- 2) 中澤秀夫：基礎科学から医学・医療を見る：ロジスティック回帰. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (4) : 186-191.
- 3) 中澤秀夫：基礎科学から医学・医療を見る：生存時間データ解析と比例ハザードモデル. 日本医科大学医学会雑誌 2015 ; 11 (1) : 29-36.
- 4) 儀我真理子：検定の考え方，独立性の検定. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (2) : 115-119.
- 5) 儀我真理子：Hilbert 空間上の有界線形作用素の数域：Numerical Range for Bounded Linear Operators on Hilbert Space. 日本医科大学基礎科学紀要 2014 ; 43 : 63-72.

###### (3) AMS Review：

- 1) 中澤秀夫：Review on the paper : MR3092281 : "Scattering for strictly hyperbolic systems with time-dependent coefficients" by Tokio Matsuyama and Michael Ruzhansky (*Math. Nachr.* 286 (2013), no. 11-12, 1191-1207). American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2014.
- 2) 中澤秀夫：Review on the paper MR3098663 : "Elastic-wave inverse scattering based on reverse time migration with active and passive source reflection data" by Valeriy Brytik, Maarten V. de Hoop and Robert D. van der Hilst (Inverse problems and applications : inside out. II, 411-453, *Math. Sci. Res. Inst. Publ.*, 60, Cambridge Univ. Press, Cambridge, 2013). American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2015.

###### (4) AMS Reviews：

- 1) 中澤秀夫：Review on the paper MR3139301 : "Approximate Lipschitz stability for non-overdetermined inverse scattering at fixed energy" by Roman G. Novikov (*J. Inverse Ill-Posed Probl.* 21 (2013), no. 6, 813-823). American Mathematical Society, Math Sci Net, Mathematical Reviews 2015.

###### (5) 書評：

- 1) 中澤秀夫：書評「中村周：量子力学のスペクトル理論 (共立講座 21 世紀の数学, 26)」。日本数学会編集『数学』 2014 ; 66 (3) : 315-320.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 中澤秀夫：摩擦項を伴う波動方程式の散乱問題とその周辺. 日本数学会秋季年会函数方程式論分科会 (広島大学), 2014. 9.
- 2) 中澤秀夫：ヘルムホルツ方程式の解の評価とその応用. 釧路偏微分方程式研究集会 (北海道教育大学釧路校), 2014. 10.

##### (2) 招待講演：

- 1) 中澤秀夫：Uniform resolvent estimates for Helmholtz equations in 2D exterior domain and their applications. 京都大学数理解析研究所共同利用研究集会「保存則をもつ偏微分方程式に対する解の正則性・特異性の研究」(京都大学数理解析研究所), 2014. 5.

- 2) 中澤秀夫：摩擦項を伴う波動方程式の定常問題. Linear and Nonlinear Waves, No. 12 (ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター 203 会議室), 2014. 11.
  - 3) 中澤秀夫：Uniform resolvent estimates for stationary problem of dissipative wave equations in an exterior domain and the principle of limiting amplitude. Critical Exponents and Nonlinear Evolution Equation 2015 (東京理科大学神楽坂キャンパス 8 号館 831 教室), 2015. 2.
- (3) セミナー：
- 1) 中澤秀夫：2次元外部領域におけるヘルムホルツ方程式の一樣リゾルベント評価とその応用. 九州関数方程式セミナー (福岡大学 セミナーハウス), 2014. 6.
  - 2) 中澤秀夫：摩擦項を伴う波動方程式の定常問題に対する一樣リゾルベント評価とその応用. 第126回愛媛大学解析セミナー (愛媛大学理学部数学棟2階大演習室), 2014. 12.
  - 3) 儀我真理子：作用素関数の優加法性とフレッシェ微分. 関東作用素論セミナー (第24回) (東京理科大学), 2014. 10.
- (4) 一般講演：
- 1) 中澤秀夫：Sharp uniform resolvent estimate for Helmholtz and Schrödinger equations in an exterior domain in  $\mathbb{R}^2$  and their applications. The 10th AIMS Conference on Dynamical Systems, Differential Equations and Applications (Madrid, Spain), 2014. 7.
  - 2) Giga M, Uchiyama M<sup>1)</sup>, Uchiyama A<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Mathematics, Faculty of Science and Engineering, Ritsumeikan University, <sup>2)</sup> Department of Mathematics, Faculty of Science, Yamagata University) : Superadditivity and derivative of operator functions. RIMS 研究集会「作用素の平均とその関連」(京都大学数理解析研究所), 2014. 11.
  - 3) 内山 敦<sup>1)</sup>, 儀我真理子<sup>2)</sup>, 内山 充 (<sup>1)</sup> 山形大学理学部数学教室, <sup>2)</sup> 立命館大学理工学部数学教室) : Superadditivity and Derivative of Operator Functions. 平成26年作用素論・作用素環論研究集会 (東洋大学), 2014. 12.
  - 4) 儀我真理子, 内山 充<sup>1)</sup>, 内山 敦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 立命館大学理工学部数学教室, <sup>2)</sup> 山形大学理学部数学教室) : 作用素関数の優加法性とフレッシェ微分. 日本数学会2015年度年会 (明治大学), 2015. 3.

## [物理学]

### 研究概要

今年度の研究概要は以下の通りである。1. キサンチン酸化還元酵素 (XOR) において、レセプターリガンド相互作用に関する研究を継続して行っている。XOR に対する structure-based のリガンドである BOF は、既に新薬として認可されている Febuxostat と同様、哺乳類の XOR には強く阻害がかかるが、バクテリア由来の XOR には阻害がほとんどかからない。BOF がバクテリア由来の XOR の結合キャビティーに入ったときに、XOR の一部分のペプチドターンが開閉するゲートのような動きをすることを分子動力学計算から見出し、現在この運動と阻害作用との関連性などを調べている。(菊地・藤崎) 2. 奈良女子大の戸田幹人准教授と、生体分子におけるエネルギー移動の解析を始め、時系列解析の観点から解析を進めている。(藤崎) 3. 大きな分子に関する振動量子ダイナミクスを効率的に可能とする階層 (tier) モデルの開発を続けている。共同研究者 Gerhard Stock 教授との議論のために8月末から2週間ほどドイツに滞在した。その結果を紀要論文や投稿論文としてまとめた。(藤崎・菊地) 4. いくつかの国際会議でレアイベントに関する研究成果を発表し、またいくつかのシンポジウムを共同企画した。これと関連して、現在はレアイベントにおけるキネティクスを計算する手法を開発している。(藤崎) なお、1に関しては科研費基盤C、2に関しては萌芽研究の助成を受けている。

### 研究業績

#### 論文

- (1) 総説：
- 1) 藤崎弘士：分子階層モデルを用いた量子ダイナミクスの計算手法の開発. 日本医科大学基礎科学紀要 2014 ; 43 : 19-61.
  - 2) 藤崎弘士：パスサンプリングとベイズ推定. 統計数理 2014 ; 62 : 301-311.
  - 3) 藤崎弘士：分子系における遷移・反応レートの計算法についてI. 分子シミュレーション研究会誌アンサンプル 2015 ; 17 (1) : 55-61.

#### 著書

- 1) 藤崎弘士, 藤崎百合：〔翻訳〕生体分子の統計力学入門, 2014 ; ppl-322, 共立出版.

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) 藤崎弘士：生体分子における反応経路とキネテックスの計算手法. 化学反応経路探索のニューフロンティア 2014 (広島大学), 2014. 9.
- 2) 藤崎弘士：Path search and sampling methods for biomolecular systems. International symposium on extended molecular dynamics and enhanced sampling : Nose dynamics 30 years (NOSE30) (慶応大学), 2014. 11.
- 3) 藤崎弘士：Rare event sampling for conformational change and ligand binding for biomolecules. The 9th International Conference on Computational Physics (National University of Singapore), 2015. 1.
- 4) 藤崎弘士：生体分子における反応経路とキネテックスの計算手法. 研究会「柔らかな系を扱う自由エネルギー計算」(東北大学), 2015. 3.
- 5) 藤崎弘士：Extracting free energy profile and diffusion coefficients using the Onsager-Machlup action principle. Rare Event Sampling and Related Topics II (Institute for Mathematical Statistics (Tachikawa)), 2015. 3.

### (2) セミナー：

- 1) 藤崎弘士：生体分子のパスサンプリング. 武田薬品計算化学セミナー (藤沢), 2014. 6.
- 2) 藤崎弘士：Rare event sampling problems for biomolecules. Seminar for Research Center for the Mathematics on Chromatin Live Dynamics (広島大学), 2014. 11.

### (3) 一般講演：

- 1) Kikuchi H, Fujisaki H, Furuta T<sup>1</sup>, Okamoto K<sup>2</sup>, Nishino T<sup>3</sup> (1) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, (2) Department of Biochemistry, Nippon Medical School, (3) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : The loop opening motion of the bacterial XOR with the inhibitor BOF : molecular dynamics study. WATOC 2014 (Santiago, Chile), 2014. 10.
- 2) Fujisaki H, Yamamoto N<sup>1</sup>, Fuji K<sup>2</sup>, Toda M<sup>2</sup> (1) Chiba Institute of Technology, (2) Nara Women's University) : Dynamical aspects of ligand binding : A case study for PDZ domain protein. Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (52nd) (Sapporo Convention Center), 2014. 9.
- 3) 藤崎弘士：分子階層モデルを用いた量子ダイナミクスの計算. 瀬戸内応用数理研究会シンポジウム (加計学園国際学術交流センター (倉敷)), 2014. 12.
- 4) 藤崎弘士, 古田忠臣<sup>1</sup>, 戸田幹人<sup>2</sup> (1) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, (2) Nara Women's University) : 非平衡分子動力学を用いた生体分子内のエネルギー移動の解析. 日本物理学会春季大会 (早稲田大学), 2015. 3.
- 5) 櫛田菜実<sup>1</sup>, 富士香奈<sup>1</sup>, 藤崎弘士, 戸田幹人<sup>1</sup> (1) Nara Women's University) : 大自由度力学系における振動エネルギー移動の解析. 日本物理学会春季大会 (早稲田大学), 2015. 3.

## [化学]

### 研究概要

中村：(1) フラーレン誘導体の合成及び、その HIV 逆転写酵素阻害、アポトーシス誘導などの生物活性に関する研究。(2) 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝反応機構の解明及び、新規代謝物の探索。(3) 天然物を規範とした抗酸化物質のデザイン・合成及び、抗酸化作用との構造活性相関。菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。(1) 生理活性を有するラクトン類の合成。(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成。永井：2, 2'-ビビリジンまたは 1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学。(1) 錯体の合成。(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構。(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。武田：イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究。(1) 弱酸性陽イオン交換体に対するアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動。(2) 弱酸性陽イオン交換体を用いるジルコニウム (IV)、ハフニウム (IV)、および他の金属の三成分分離 (3) イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の回収と定量。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Funakoshi-Tago M<sup>1</sup>, Tsukada M<sup>1</sup>, Watanabe T<sup>1</sup>, Mameda Y<sup>1</sup>, Tago K<sup>2</sup>, Ohe T<sup>1</sup>, Nakamura S, Mashino T<sup>1</sup>, Kasahara T<sup>1</sup> (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ, (2) Jichi Med Univ) : Effect of chemical modification on the ability of pyrrolidinium fullerene to

induce apoptosis of cells transformed by JAK2 V617F mutant. *Int Immunopharmacol* 2014 ; 20 (1) : 258-263.

- 2) Watanabe T<sup>1)</sup>, Nakamura S, Ono T<sup>2)</sup>, Ui S<sup>2)</sup>, Yagi S<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>3)</sup>, Ohe T<sup>4)</sup>, Mashino T<sup>4)</sup>, Fujimuro M<sup>1)</sup> (1) Kyoto Pharm Univ, 2) Grad Sch Med Eng, Univ Yamanashi, 3) Trop Biosphere Res Cent, Univ Ryukyus, 4) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Pyrrolidinium fullerene induces apoptosis by activation of procaspase-9 via suppression of Akt in primary effusion lymphoma. *Biochem Biophys Res Commun* 2014 ; 451 (1) : 93-100.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 大江知之<sup>1)</sup>, 片岡裕樹<sup>1)</sup>, 安野拓実<sup>1)</sup>, 秋葉智紘<sup>1)</sup>, 篠原 舞<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦 (1) 慶應大・薬) : HIV 関連疾患治療薬を目指した多標的型フラレン誘導体の開発. ナノカーボンバイオシンポジウム (第1回) (名古屋), 2014. 9.
- 2) 高橋恭子<sup>1)</sup>, 横田智史<sup>1)</sup>, 池 貴幸<sup>1)</sup>, 沼館慧剛<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : ラジカル消去活性を有する新規環状ジペプチドアナログの創製. 日本酸化ストレス学会学術集会 (第67回) (京都), 2014. 9.
- 3) 安野拓実<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 藤田美歌子<sup>2)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬, 2) 熊本大・創薬研セ) : HIV 増殖抑制効果を有する新規ピリジン型フラレン誘導体の創製. 日本薬学会関東支部大会 (第58回) (東京), 2014. 10.
- 4) 北川原弓奈<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 大江知之<sup>1)</sup>, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : Cytochrome P450 による Benzbromarone の新規代謝物と肝毒性との関連. 日本薬学会関東支部大会 (第58回) (東京), 2014. 10.
- 5) 安野拓実<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : AIDS 関連疾患治療薬を目指した多標的型新規ピリジニウム型フラレン誘導体の創製. メディシナルケミストリーシンポジウム (第32回) (神戸), 2014. 11.
- 6) 於本 崇<sup>1)</sup>, 片岡裕樹<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : チオラクタム構造を経由した新規水溶性フラレン誘導体の合成とその脂質過酸化抑制効果. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.
- 7) 安野拓実<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 多標的型 AIDS 関連疾患治療薬を目指した 5-methylpyridinium proline 型フラレン誘導体の構造変換. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.
- 8) 巴川暢子<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : C-4 位メチル基が関与する nevirapine の代謝活性化機構の解析. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.
- 9) 片岡片岡<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : HCV RNA ポリメラーゼ阻害活性を有する新規プロリン型フラレン誘導体の創製. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.
- 10) 藤田亮輔<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 安田大輔<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 新規抗酸化剤環状 arylvinyl alcohol 類のデザインと合成. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.

## [生物学]

### 研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルの消化管を実験モデルとし、成体幹細胞を制御するニッチに焦点を当てながら、脊椎動物共通の器官再生の分子メカニズムの解明を目指している。この他に、植物生理学の分野でも継続した研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。1) ツメガエル幼生の小腸では、変態期に甲状腺ホルモンを引き金として幹細胞ニッチが形成され、上皮の一部が脱分化して成体幹細胞が出現する。この幹細胞への脱分化機構を明らかにするために、現在、cDNA マイクロアレイ等により数多く同定されている甲状腺ホルモン応答遺伝子の解析を進めている。今年度は Wnt 非標準経路のリガンドである Wnt5a とその膜受容体 Ror2 および Frizzled2 に着目して解析を行った。いずれの発現も幹細胞の出現時に一過性に高まり、特に Ror2 は、幹細胞出現前の幼生上皮内では散在的に発現し、幹細胞の出現と共に幹細胞特異的に発現する、という興味深いパターンを示すことを見出した。そこで、Ror2 の働きを調べるために培養実験を行い、幼生上皮内の単層円柱の Ror2 発現細胞が、Wnt5a の作用を受けて丸い幹細胞へと脱分化することを明らかにした (PLoS One, 2014)。このことは、Ror2 を発現する幼生上皮細胞が幹細胞の前駆細胞であり、Wnt5a /Ror2 シグナル経路が幹細胞への脱分化に必須であることを示している。この他、幹細胞で Notch 経路を活性化させている Notch リガンドを明らかにするために、Jagged1 と Jagged2 の発現解析も行った。どちらの発現も幹細胞の出現時に高まり、Jagged1 の発現細胞の一部は、幹細胞近くの結合組織に存在することを見出した。(長谷部, 岡) 2) 開発が進んでいるトランスジェニック技術を使って、性決定の研究にも取り組んでいる。アンドロゲン受容体を発現するトランスジェニックツチガエルを作製し、アンドロゲンが post-genetic な機構でツチガエルの性決定に関与していることを明らかにした (PLoS One, 2014)。(早稲田大学中村正久教授らとの共同研究。長谷部, 岡) 3) 紅藻の系統分類とカロテノイドの種類や分布との関係を研究している。シアノバクテリアが葉緑体として1次共生した紅藻は、カロテノイド組成から三系統に分けられ、確立しつつある紅藻の系統分類とも一致することが判った。カロテノイド組成の差異は生合成の上で2から3個の酵素(遺伝子)の獲得で説明できるが、これらの遺伝子の由来はシアノバクテリアではない。古細菌が持つ炭素数50のバクテリオルペリンの生合成遺伝子をほぼ同定できた。他にも国内外の数研究室とシアノバクテリアや植物などのカロテノイドの性質や機能に関する共同研究

をしている。日本植物学会大会の実行委員、「光合成事典 Web 版」への改訂の編集委員をした。(高市)

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Takaichi S : General methods for identification of carotenoids. *Biotechnol Lett* 2014 ; 36 (6) : 1127-1128.
- 2) Yatsunami R<sup>1)</sup>, Ando A<sup>1)</sup>, Yang Y<sup>1)</sup>, Takaichi S, Kohno M<sup>1)</sup>, Matsumura Y<sup>1)</sup>, Ikeda H<sup>1)</sup>, Fukui T<sup>1)</sup>, Nakasone K<sup>2)</sup>, Fujita N<sup>3)</sup>, Sekine M<sup>3)</sup>, Takashina T<sup>4)</sup>, Nakamura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Inst Technol, <sup>2)</sup> Kinki Univ, <sup>3)</sup> Natl Inst Technol Eval, <sup>4)</sup> Toyo Univ) : Identification of carotenoids from the extremely halophilic archaeon *Haloarcula japonica*. *Front Microbiol : Extreme Microbiol* 2014 ; 5 (3) : e100.
- 3) Nupur P<sup>1)</sup>, Srinivas T<sup>2)</sup>, Takichi S, Anil Kumar P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> CSIR-Inst Microbial Technol, <sup>2)</sup> CSIR-Inst oceanogr ) : *Rhodovulum mangrovi* sp. nov., a phototrophic alphaproteobacterium isolated from a mangrove forest sediment sample. *Int J Syst Evol Microbiol* 2014 ; 64 (9) : 3168-3173.
- 4) Fujii J<sup>1)</sup>, Kodama M<sup>1)</sup>, Oike A<sup>1)</sup>, Matsuo Y<sup>1)</sup>, Min M<sup>2)</sup>, Hasebe T, Ishizuya-Oka A, Kawakami K<sup>3)</sup>, Nakaura M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept Biol, Waseda Univ, <sup>2)</sup> Lab Wildlife Conservation Genet, Seoul Natl Univ, <sup>3)</sup> Divi Mol Dev Biol, Natl Inst Genetics ) : Involvement of androgen receptor in sex determination in an amphibian species. *PLoS One* 2014 ; 9 : e93655.
- 5) Ishizuya-Oka A, Kajita M<sup>1)</sup>, Hasebe T ( <sup>1)</sup> Dept Mol Biol, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School ) : Thyroid hormone-regulated Wnt5a/Ror2 signaling is essential for dedifferentiation of larval epithelial cells into adult stem cells in the *Xenopus laevis* intestine. *PLoS One* 2014 ; 9 : e107611.

### 著書

- 1) 高市真一 : [分担] カロテノイドの生合成, ほか 71 項目 (全約 2500 項目). Web 版光合成事典, 2015 ; 日本光合成学会 (<http://photosyn.jp>).
- 2) Ishizuya-Oka A : [分担] Regulation of adult intestinal stem cells through thyroid hormone-induced tissue interactions during amphibian metamorphosis. *Cell and Molecular Biology and Imaging of Stem Cells* (Schatten H), 2014 ; pp153-172, John Wiley & Sons.

### 学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Hasebe T, Kajita M<sup>1)</sup>, Ishizuya-Oka A ( <sup>1)</sup> Dept Mol Biol, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School ) : Notch signaling-dependent gene expression of *Hairy1* and *Hairy2b* during adult stem cell development in the *Xenopus laevis* intestine. *International Symposium on Amphibian and Reptilian Endocrinology and Neurobiology* (8th) (Okazaki), 2014. 9.

(2) 一般講演：

- 1) Nupur P<sup>1)</sup>, Srinivas T<sup>2)</sup>, Takaichi S, Anil Kumar P<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> CSIR-Inst Microbial Technol, <sup>2)</sup> CSIR-Natl Inst Oceano ) : Novel anoxygenic phototrophic bacteria isolated from a sediment sample of *Coringa* mangrove forest, India. *Bergey's International Society for Microbial Society, BISMic 2014* (Edinburgh), 2014. 4.
- 2) 高市真一, 横山亜紀子<sup>1)</sup>, 内田博子<sup>2)</sup>, 村上明男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 筑波大生命環境系, <sup>2)</sup> 神戸大内海域センター ) : 紅藻の系統分類とカロテノイドの多様性. 日本光合成学会年会および公開シンポジウム (第 5 回) (奈良), 2014. 5.
- 3) Yatsunami R<sup>1)</sup>, Yang Y<sup>1)</sup>, Ando A<sup>1)</sup>, Takaichi S, Nakamura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo Institute of Technology ) : Analysis of three genes for bacterioruberin biosynthesis in extremely halophilic archaeon *Haloarcula japonica*. *International Symposium on Carotenoids (ICS Utah 2014)* (17th) (Park City), 2014. 6.
- 4) 高市真一 : カロテノイドの分離同定方法. 光合成セミナー 2014 : 反応中心と色素系の多様性 (第 22 回) (名古屋), 2014. 7.
- 5) 加藤翔太<sup>1)</sup>, 加瀬大地<sup>1)</sup>, 大谷津知世<sup>1)</sup>, 高市真一, 石川孝博<sup>2)</sup>, 朝比奈雅志<sup>1)</sup>, 篠村知子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学理工学部, <sup>2)</sup> 島根大学生物資源科学部 ) : 強光ストレス下における微細藻類ユーグレナのカロテノイドの機能の解明. 植物電子顕微鏡サマーセミナー (第 2 回) (宇都宮), 2014. 8.
- 6) 高市真一 : カロテノイドの同定 : 不純物と分解物の影響. カロテノイド研究談話会 (第 28 回) (金沢), 2014. 9.
- 7) 八波利恵<sup>1)</sup>, 楊 影<sup>1)</sup>, 安藤 藍<sup>1)</sup>, 三横伸弘<sup>1)</sup>, 高市真一, 河野雅弘<sup>1)</sup>, 松村有里子<sup>1)</sup>, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東工大院・生命理工 ) : 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* のバクテリオルベリン生合成に関与する *c507/c0506/c0505* 遺伝子クラスター. カロテノイド研究談話会 (第 28 回) (金沢), 2014. 9.
- 8) 三横伸弘<sup>1)</sup>, 八波利恵<sup>1)</sup>, 楊 影<sup>1)</sup>, 安藤 藍<sup>1)</sup>, 高市真一, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東工大院生命理工 ) : 高度好塩性古細菌



*Haloarcula japonica* に由来する2つのフィトエンデサチユラーゼ遺伝子のカロテノイド生合成における役割. バイオ関連化学シンポジウム (第8回) (岡山), 2014. 9.

- 9) 高市真一, 横山亜紀子<sup>1)</sup>, 内田博子<sup>2)</sup>, 村上明男<sup>2)</sup>, 持丸真里<sup>3)</sup> (1) 筑波大生命環境系, 2) 神戸大内海域センター, 3) 駒澤大自然科学) : 紅色植物門の系統分類とカロテノイド生合成経路の多様性. 日本植物学会大会 (第78回) (川崎), 2014. 9.
- 10) 加藤翔太<sup>1)</sup>, 加瀬大地<sup>1)</sup>, 大谷津知世<sup>1)</sup>, 高市真一, 石川孝博<sup>2)</sup>, 朝比奈雅志<sup>1)</sup>, 篠村知子<sup>1)</sup> (1) 帝京大・理工, 2) 島根大・生物資源) : 強光ストレス下における微細藻類 *Euglena* のカロテノイドの機能の解明. 植物科学調節学会大会 (第49回) (京都), 2014. 10.
- 11) 加藤翔太<sup>1)</sup>, 加瀬大地<sup>1)</sup>, 大谷津知世<sup>1)</sup>, 高市真一, 石川孝博<sup>2)</sup>, 朝比奈雅志<sup>1)</sup>, 篠村知子<sup>1)</sup> (1) 帝京大・理工, 2) 島根大・生物資源科学) : ユーグレナのフィトエン合成酵素 *crtB* の単離と機能解析. ユーグレナ研究会大会 (第30回) (奈良), 2014. 11.
- 12) 加藤翔太<sup>1)</sup>, 加瀬大地<sup>1)</sup>, 大谷津知世<sup>1)</sup>, 高市真一, 石川孝博<sup>2)</sup>, 朝比奈雅志<sup>1)</sup>, 篠村知子<sup>1)</sup> (1) 帝京大・理工, 2) 島根大・生物資源科学) : 微細藻類ユーグレナにおけるカロテノイド合成系の強光ストレス応答. 宇都宮大学オプトバイオシンポジウム (第4回) (宇都宮), 2014. 12.
- 13) 加藤翔太<sup>1)</sup>, 加瀬大地<sup>1)</sup>, 大谷津知世<sup>1)</sup>, 高市真一, 石川孝博<sup>2)</sup>, 朝比奈雅志<sup>1)</sup>, 高橋宣治<sup>1)</sup>, 篠村知子<sup>1)</sup> (1) 帝京大・理工, 2) 島根大・生物資源科学) : ユーグレナのカロテン合成系遺伝子の単離と機能解析. 日本植物生理学会年会 (第56回) (世田谷), 2015. 3.
- 14) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 横山亜紀子<sup>2)</sup>, 内田博子<sup>3)</sup>, 村上明男<sup>3)</sup> (1) 駒澤大自然科学, 2) 筑波大生命環境系, 3) 神戸大内海域センター) : 紅色植物門におけるカロテノイドの多様性と合成遺伝子. 日本植物生理学会年会 (第56回) (世田谷), 2015. 3.
- 15) 草間友里<sup>1)</sup>, 井上修平<sup>1)</sup>, 園池公毅<sup>2)</sup>, 高市真一, 西山佳孝<sup>1)</sup> (1) 埼玉大・院・理工, 2) 早稲田大・教育) : シアノバクテリアの光阻害防御機構における熱放散の役割. 日本植物生理学会年会 (第56回) (世田谷), 2015. 3.
- 16) Kosumi D<sup>1)</sup>, Maruta S<sup>1)</sup>, Fujii R<sup>1)</sup>, Sugisaki M<sup>1)</sup>, Takaichi S, Cogdell R<sup>2)</sup>, Hashimoto H<sup>1)</sup> (1) Osaka City Univ, 2) Univ Glasgow) : A regulation of energy flow in purple bacterial photosynthetic antennas. International Conference on Ultrafast Phenomena (19th) (Naha), 2014. 7.
- 17) 関本篤人, 福永悦也, 梶田満子<sup>1)</sup>, 長谷部孝, 岡 敦子 (1) 日医大・老研・分子生物) : アフリカツメガエル変態期の消化管再構築における Jagged と Jagged 2 の発現解析. 日本動物学会大会 (第85回) (仙台), 2014. 9.

### 3. 外国語

#### [英語]

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 崎村耕二<sup>1)</sup>：英語をめぐる航海：アングロ・サクソンの言語と思考を探求する．日本医科大学医学会雑誌 2014；10（4）：196.

##### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 崎村耕二<sup>1)</sup>：英語をめぐる航海：アングロ・サクソンの言語と思考を探求する．日本医科大学医学会総会（第82回）（東京），2014. 9.

## 4. スポーツ科学

### 研究概要

三上：1) プリン体代謝物質の1つであるイノシンの経口投与がストレス負荷時の実験動物のうつ様行動の発症の予防に効果があることを明らかにして、この結果を英文論文として発表した。2) 実験動物を不活動な状態で飼育することにより作業記憶能力の低下とうつ様行動の発症が起こること、およびこれらの予防に対してイノシンの経口投与が貢献することを明らかにして、この結果を学会発表した。3) 一過性の高強度運動後に起こる海馬での神経新生の亢進に対して血管内皮細胞増殖因子 (VEGF) が関係していることを明らかにして、この結果を英語論文として発表した。4) 一過性の高強度運動後に起こる作業記憶能力の向上に対して海馬での NMDA 受容体とアデノシン受容体が関係することを両受容体の阻害剤を用いた実験より証明し、これを学会発表した。武藤：1) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を継続的に実施している高齢者についての形態、生活活動力、生理機能等の測定結果、およびアンケート結果を分析した。体内年齢、体力年齢ともに実年齢より若く、生理機能にも好影響をもたらし、活動的な日常生活を送っていることが示唆された。2) 「地域の老人クラブからの依頼により7年間に渡り実施した「文部科学省新体力テスト」の測定結果を分析し、その問題点・課題等を検討した。3) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を縦断的に調査している。運動を継続的に行うことにより生活活動力を維持することが示唆された。4) カンボジア・シェムリアップにおいて青少年の体格・体力、生活習慣、生活環境等の調査研究を継続的にやっている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Lee H<sup>1)</sup>, Kiuchi T, Muto J<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup>, Mikami T ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, <sup>2)</sup> Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University) : Intense exercise enhances the hippocampal proliferation of progenitor cells via activating the Flk-1 signaling cascade in mice. GAZZ MED ITAL 2014 ; 173 (6) : 329-340.

(2) 雑誌：

- 1) 三上俊夫：運動による海馬神経新生と認知機能. 体育の科学 2014 ; 64 (5) : 312-317.
- 2) 三上俊夫：抗うつ効果を有するイノシン. 体育の科学 2015 ; 65 (1) : 11-15.

#### 著書

- 1) 武藤三千代：[分担] 第3章 スポーツを通じた国際協力の分野 3健康とスポーツ [健康体力調査による国際協力] 事例研究 カンボジアにおける健康体力調査. スポーツと国際協力 (齋藤一彦, 岡田千あき, 鈴木直文 編著), 2015 ; pp141-144, 大修館書店.
- 2) 三上俊夫：[分担] 第7章 運動と内臓, 肝臓. ニュー運動生理学1 (宮村実晴), 2014 ; pp310-315, 真興交易 (株) 医書出版部.

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : 高齢者における新体力テスト測定の実際. 日本運動・スポーツ科学学会 (第21回) (東京), 2014. 6.
- 2) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 白石まりも<sup>2)</sup> (, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>3)</sup> 二松学舎大学) : 高齢者におけるラジオ体操の効果について. 日本体育学会大会 (第65回) (盛岡), 2014. 8.
- 3) 武藤三千代, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : ラジオ体操実施の効果について - 形態・生活活動力と健康関連 QOL -. 日本公衆衛生学会総会 (第73回) (宇都宮), 2014. 10.
- 4) 渡部月子<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>1)</sup>, 山本妙子<sup>1)</sup>, 中村眞樹子<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 若山葉子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : ラジオ体操の効果について - 生活及びラジオ体操実施状況 -. 日本公衆衛生学会総会 (第73回) (宇都宮), 2014. 10.
- 5) 若山葉子<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生・公衆衛生, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : ラジオ体操の実施効果に関する調査研究. 日本衛生学会学術総会 (第85回) (和歌山), 2015. 3.
- 6) Mikami T, Lee H<sup>1)</sup>, Ohno M<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, <sup>2)</sup> Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University) : Regular moderate or intense exercise prevents depression-like behavior without change of hippocampal tryptophan content in chronically tryptophan-deficient and stressed mice. European College of Sport Science (19th) (Amsterdam), 2014. 7.
- 7) 李ホソン<sup>1)</sup>, 朴ジョンヒョク<sup>2)</sup>, 三上俊夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学研究科加齢科学系, <sup>2)</sup> 東京慈恵医科大学臨床検査医学講座) : 一過性

の運動による作業記憶能力の亢進にはアデノシン A1 受容体が関与している。日本体力医学会総会（第 69 回），2014. 9.

- 8) 三上俊夫, 李ホソン<sup>1)</sup>, 朴ジョンヒョク<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学医学研究科加齢科学系, 2) 東京慈恵医科大学臨床検査医学講座) : イノシンはアデノシン A1 受容体を介して不活動による作業記憶能力の低下を予防する。日本体力医学会総会（第 69 回），2014. 9.

## 論文

### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Muto J<sup>1)</sup>, Lee H<sup>2)</sup>, Lee H<sup>2)</sup>, Uwaya A<sup>2)</sup>, Park J<sup>1)</sup>, Nakajima S<sup>3)</sup>, Nagata K<sup>2)</sup>, Ohno M<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>4)</sup>, Mikami T (1) Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University, 2) Department of Biochemistry and Cell Biology, 3) Kyoritsu Women's Junior College, 4) Biological Process of Aging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Oral administration of inosine produces antidepressant-like effects in mice. Sci Rep. 2014 ; 26 (4).
- 2) Lee H<sup>1)</sup>, Ohno M<sup>2)</sup>, Mikami T (1) Department of Biochemistry and Cell Biology, 2) Graduate School of Health and Sport Science, Nippon Sport Science University) : Regular moderate or intense exercise prevents depression-like behavior without change of hippocampal tryptophan content in chronically tryptophan-deficient and stressed mice. PLoS One 2013 ; 4 (8 (7)).

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) 三上俊夫, 李ホソン<sup>1)</sup>, 朴ジョンヒョク<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学研究科加齢科学系) : 長期間の不活動はマウスの認知機能を低下させる。日本運動生理学会大会（第 21 回）（東京），2013. 7.
- 2) 朴ジョンヒョク<sup>1)</sup>, 李ホソン<sup>1)</sup>, 大野 誠<sup>2)</sup>, 三上俊夫 (1) 日本医科大学医学研究科加齢科学系, 2) 日本体育大学スポーツ医科学系) : 一過性のトレッドミル走が海馬ミトコンドリア生合成に与える影響。日本体力医学会総会（第 68 回）（東京），2013. 9.
- 3) 三上俊夫, 李ホソン<sup>1)</sup>, 朴ジョンヒョク<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学研究科加齢科学系) : イノシン経口投与は不活動による認知機能低下を予防する。日本体力医学会総会（第 68 回）（東京），2013. 9.

## 〔2〕 基 礎 医 学

# 1. 分子解剖学分野

## 研究概要

(1) ノンコーディング RNA (ncRNA) の分子解剖学的研究：a) 臓器・疾患における ncRNA プロファイリングと機能解析 (趙助教, Banyar 助教, 瀧澤敬講師, 院生・宋, 院生・神戸, 国内留学生 (自治医大)・石田, 技術員・小管, 技術員・田中), b) Exosome についての分子解剖学的解析 (趙, 神戸, 小管) を行った. (当大学院 消化器外科学, 女性生殖発達病態学, および東京大学・程久美子准教授との共同研究) (2) 胎盤の分子解剖学的研究：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内の IIb 型 Fc 受容体-小胞の解析 (瀧澤敬, 小管), b) 栄養膜細胞の解析を進めた (趙, 小管). (当大学院女性生殖発達病態学, 米国オハイオ州立大学・John M Robinson 教授, 自治医科大学・松原茂樹教授, 屋代隆教授, 富山大学・齋藤滋教授との共同研究) (3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：ncRNA 発現解析のための in situ hybridization 解析の開発とその応用を行った (Banyar, 宋, 小管, 田中).

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Takahashi H<sup>1,2)</sup>, Yuge K<sup>2)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Ohkuchi A<sup>1)</sup>, Kuwata T<sup>1)</sup>, Usui R<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Differential Expression of ADAM (a Disintegrin and Metalloproteinase) Genes between Human First Trimester Villous and Extravillous Trophoblast Cells. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (3) : 122-129.
- 2) Takeuchi J<sup>1)</sup>, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup> (1) Department of Anesthesiology and Pain Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Sevoflurane anesthesia persistently downregulates muscle-specific microRNAs in rat plasma. *Int J Mol Med* 2014 ; 34 (1) : 291-298.
- 3) Kambe S<sup>1,2)</sup>, Yoshitake H<sup>1)</sup>, Yuge K<sup>1)</sup>, Ishida Y<sup>3)</sup>, Ali M<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>1)</sup>, Kuwata T<sup>3)</sup>, Ohkuchi A<sup>3)</sup>, Matsubara S<sup>3)</sup>, Suzuki M<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Saito S<sup>4)</sup>, Takizawa T<sup>1)</sup> (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine, University of Toyama, Toyama, Japan) : Human exosomal placenta-associated miR-517a-3p modulates the expression of PRKG1 mRNA in Jurkat cells. *Biol Reprod* 2014 ; 91 (5) : 129 (1) -129 (12).
- 4) Ishikawa T<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>1)</sup>, Iwaki J<sup>1)</sup>, Mishima T<sup>1)</sup>, Ui-Tei K<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>3)</sup>, Matsubara S<sup>4)</sup>, Takizawa T<sup>1)</sup> (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Biological Sciences, Graduate School of Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan) : Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. *Int J Mol Med* 2015 ; 35 : 1273-1289.
- 5) Takahashi T<sup>1)</sup>, Zenno S<sup>2)</sup>, Ishibashi O<sup>3)</sup>, Takizawa T<sup>3)</sup>, Saigo K<sup>1)</sup>, Ui-Tei K<sup>1)</sup> (1) Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan, 2) Department of Biotechnology, Faculty of Engineering, Maebashi Institute of Technology, Gunma, Japan, 3) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Interactions between the non-seed region of siRNA and RNA-binding RLC/RISC proteins, Ago and TRBP, in mammalian cells. *Nucleic Acids Res* 2014 ; 42 (8) : 5256-5269.
- 6) Takahashi H<sup>1)</sup>, Matsubara S<sup>1)</sup>, Kuwata T<sup>1)</sup>, Saruyama M<sup>1)</sup>, Usui R<sup>1)</sup>, Ohkuchi A<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Changes in expression of vascular endothelial growth factor D-related genes in placental mesenchymal dysplasia. *J Obstet Gynaecol Res* 2014 ; 40 (4) : 1145-1149.
- 7) Banyar T<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>1,2)</sup>, Tanigaki S<sup>3)</sup>, Ono M<sup>4)</sup>, Iwashita M<sup>3)</sup>, Shimada T<sup>1,2)</sup> (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 2) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan, 4) Department of Pediatrics, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan) : Presymptomatic genetic analysis during pregnancy for vascular type Ehlers-Danlos syndrome. *International Medical Case Reports Journal* 2014 ; 7 : 99-102.
- 8) Yoneda A, Okada K, Okubo H, Matsuo M, Kishikawa H, Banyar T, Watanabe A, Shimada T (1) Department of Surgery,

Kouseikai Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Spontaneous colon perforations associated with a vascular type of Ehlers-Danlos syndrome. Case Reports in Gastroenterology 2014 ; 8 (2) : 175-181.

(2) 総説 :

- 1) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学・分子解剖学分野, <sup>2)</sup> 自治医科大学・産婦人科学講座) : 網羅的マイクロRNA解析による妊娠高血圧症候群の機序の解明 (特集 オミックスが拓く生殖医学の未来).. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2015 ; 22 (1) : 53-58.

学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 高橋宏典<sup>1)</sup>, 弓削主哉<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>1)</sup>, 桑田知之<sup>1)</sup>, 薄井里英<sup>1)</sup>, 松本久宣<sup>3)</sup>, 佐藤幸保<sup>3)</sup>, 藤原 浩<sup>4)</sup>, 岡本愛光<sup>5)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産科婦人科講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院分子解剖学分野, <sup>3)</sup> 京都大学婦人科産科講座, <sup>4)</sup> 金沢大学産科婦人科講座, <sup>5)</sup> 東京慈恵会医科大学産科婦人科講座) : CD44 を介した絨毛外栄養膜細胞の浸潤調節機構の解明 (MW-3-3). 日本産科婦人科学会学術講演会 (第66回) (2014年4月18日(金), 東京国際フォーラム, 東京), 2014. 4.
- 2) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 弓削主哉<sup>1)</sup>, 稲田貢三子<sup>2)</sup>, 島 友子<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 齋藤 滋<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院分子解剖学分野, <sup>2)</sup> 富山大学医学部産科婦人科学講座, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院女性生殖発達病態学分野) : 妊娠初期脱落膜NK細胞においてmicroRNAは細胞障害活性を抑制する制御ネットワークを形成している (MW-3-4). 日本産科婦人科学会学術講演会 (第66回) (2014年4月18日(金), 東京国際フォーラム, 東京), 2014. 4.
- 3) 神戸沙織<sup>1)</sup>, 弓削主哉<sup>2)</sup>, 石田洋一<sup>3)</sup>, 大口昭英<sup>3)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 鈴木光明<sup>3)</sup>, 齋藤 滋<sup>4)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院女性生殖発達病態学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院分子解剖学分野, <sup>3)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座, <sup>4)</sup> 富山大学医学部産科婦人科学講座) : ヒト胎盤特異的マイクロRNAはエクソソームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾している (MW-3-5). 日本産科婦人科学会学術講演会 (第66回) (2014年4月18日(金), 東京国際フォーラム, 東京), 2014. 4.
- 4) Takizawa T<sup>1)</sup>, Ohkuchi A<sup>2)</sup>, Saito S<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, Japan, <sup>3)</sup> Department of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, Japan) : Involvement of microRNAs in pathophysiology of preeclampsia (Workshop 1 Pathophysiology of PE : I). 第46回国際妊娠病態生理学会 (46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy)/第35回日本妊娠高血圧学会学術集会 (2014年9月18日(木), 京王プラザホテル, 東京), 2014. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Banyar T<sup>1)</sup>, 趙 東威<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大大学院分子解剖学分野) : マウス胎盤におけるH19遺伝子の発現解析 : リアルタイムPCR解析 (1-1). 日本胎盤学会学術集会 (第22回) (2014年10月3日(金), 芝蘭会館 (京都大学医学部構内), 京都), 2014. 10.
- 2) 高橋宏典<sup>1,2)</sup>, 大口昭英<sup>1)</sup>, 桑田知之<sup>1)</sup>, 薄井里英<sup>1)</sup>, 菊池邦生<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産科婦人科講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院 分子解剖学分野, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学分野) : 栄養膜細胞におけるC19MCプロモーター領域のメチル化解析 (1-2). 日本胎盤学会学術集会 (第22回) (2014年10月3日(金), 芝蘭会館 (京都大学医学部構内), 京都), 2014. 10.
- 3) 大山聡美<sup>1)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>3)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 皮膚粘膜炎病態学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院 分子遺伝医学分野, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院 分子解剖学分野) : 悪性黒色腫における遺伝子変異ならびに増殖シグナル活性化の検討 : 新規分子標的治療薬開発に向けて. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (2014年9月6日, 日本医科大学 橋桜会館, 東京), 2014. 9.
- 4) 趙 東威<sup>1)</sup>, Banyar T<sup>1)</sup>, 稲田貢三子<sup>2)</sup>, 島 友子<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 齋藤 滋<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 分子解剖学分野, <sup>2)</sup> 富山大学 産婦人科講座, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学分野) : 妊娠初期脱落膜NK細胞の機能分子に関するパスクエイ解析 (演題番号20). 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (第29回) (2014年12月13日(土), 伊藤謝恩ホール (伊藤国際学術研究センター内 : 東京大学赤門横), 東京), 2014. 12.
- 5) 趙 東威<sup>1)</sup>, Banyar T<sup>1)</sup>, 稲田貢三子<sup>2)</sup>, 島 友子<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 齋藤 滋<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 分子解剖学分野, <sup>2)</sup> 富山大学 産科婦人科講座, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院 女性生殖発達病態学分野) : Decidual natural killer cells uptake placenta-associated miRNAs during early pregnancy (妊娠初期脱落膜NK細胞は胎盤由来miRNAを取り込んでいる) (P2-043). 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第120回) (2015年3月22日(日), 神戸国際会議場・展示場, 兵庫), 2015. 3.
- 6) Banyar T<sup>1)</sup>, 趙 東威<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 分子解剖学分野) : The expression of H19 non-coding RNA in developmental stages of the mouse placenta (H19遺伝子から転写されるノンコーディングRNAの Maus胎盤における発現様式解析) (P2-

044). 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (2015 年 3 月 22 日 (日), 神戸国際会議場・展示場, 兵庫), 2015. 3.

## 論文

### [追加分]

追加分総説 :

- 1) Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, 2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Host cellular MicroRNA involvement in the control of HBV gene expression and replication. *World Journal of Hepatology* 2015 ; 8 (4) : 696-702.

追加分原著 :

- 1) Oyama S<sup>1)</sup>, Funasaka Y<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Takizawa T<sup>3)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Saeki H<sup>1)</sup> (1) Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Molecular and Medical Genetics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Departments of Molecular Medicine and Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : BRAF, KIT, and NRAS mutations and expression of c-KIT, pERK and pAKT in Japanese melanoma patients. *J Dermatol* 2015 ; 42 : 477-484.
- 2) Mizuguchi Y<sup>1,2)</sup>, Specht S<sup>1,2)</sup>, Isse K<sup>1,2)</sup>, Sasatomi E<sup>1,2)</sup>, Lunz J<sup>1,2)</sup>, Takizawa T<sup>3)</sup>, Demetris A<sup>1,2)</sup> (1) Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh Medical Center, PA, USA, 2) The Department of Pathology, Division of Liver and Transplantation Pathology, University of Pittsburgh Medical Center, PA, USA, 3) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Breast Tumor Kinase/Protein Tyrosine Kinase 6 (Brk/PTK6) Activity in Normal and Neoplastic Biliary Epithelia. *J Hepatol* 2015 ; 63 (2) : 399-407.



## 2. 解剖学・神経生物学分野

### 研究概要

思春期は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的、精神的に成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導が明らかになってきた。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々は「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」を中心課題に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンが大きく関わりを持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関連する「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、と思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また GFP などの蛍光遺伝子の発現を利用して無麻酔下の living animal の神経活動を可視化する試みを進めており、行動と神経活動を一本化して観察するシステムの構築を進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Iwata K, Ozawa H : Expression of Glucocorticoid Receptor and Coactivators in Ependymal Cells of Male Rats. Acta Histochem. Cytochem. 2014 ; 47 (4) : 165-174.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 小澤一史：脳の機能解剖・・・どの核が何をしているか：神経内分泌学との関連より。日本神経内分泌学会学術集会（第41回）（東京），2014. 10.

##### (2) シンポジウム：

- 1) 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史：麻酔と体内時計：麻酔中に体内時計はどのように時を刻むか。日本神経内分泌学会学術集会（第41回）（東京），2014. 10.
- 2) 小澤一史：An integrated system of environmental signals on the reproductive neuroendocrine axis. 日本解剖学会総会・全国学術集会（第120回）（神戸），2015. 3.

##### (3) ワークショップ：

- 1) 小澤一史：「超微形態学観察のための新技術」超高压電子顕微鏡を用いた神経、神経膠細胞の3次元観察とその応用について。日本臨床分子形態学会総会・学術集会（第46回）（東京），2014. 10.

##### (4) 一般講演：

- 1) 飯島典生：無麻酔、非拘束動物からの脳深部神経活動のリアルタイムモニタリングー光ファイバーを介した新システムの開発ー。日本組織細胞化学学会総会・学術集会（第55回）（松本），2014. 9.
- 2) 託見 健, 嶋田耕育, 飯島典生, 小澤一史：授乳期の高脂肪食が仔の思春期発動とキスペプチンの発現に及ぼす影響。日本組織細胞化学学会総会・学術集会（第55回）（松本），2014. 9.
- 3) 岩田衣世, 國村有弓, 松本恵介, 小澤一史：高アンドロゲン血症による脳内キスペプチンの発現および下垂体への影響について。日本組織細胞化学学会総会・学術集会（第55回）（松本），2014. 9.
- 4) 國村有弓, 岩田衣世, 池原大烈, 飯島典生, 小澤一史：老齢ラット視床下部背側弓状核におけるキスペプチンニューロンとドーパミン作動性ニューロンに関する組織化学的研究。日本組織細胞化学学会総会・学術集会（第55回）（松本），2014. 9.
- 5) 友利裕二, 飯島典生, 日沼州司, 石井寛高, 託見 健, 高井信朗, 小澤一史：リポソームの細胞内に関する形態学的解析ー培養細胞内での局在解析からー。日本組織細胞化学学会総会・学術集会（第55回）（松本），2014. 9.
- 6) 石井寛高, 服部裕次郎, 小澤一史：ヒトエストロゲン受容体 $\beta$ の多重プロモーター機構と5'一非翻訳領域の選択的スプライシングパターンの同定。日本神経内分泌学会学術集会（第41回）（東京），2014. 10.
- 7) 服部裕次郎, 石井寛高, 森田明夫, 小澤一史：新規ヒトエストロゲン受容体 $\beta$ 変異体の同定と機能解析。日本神経内分泌学会学術集

- 会 (第 41 回) (東京), 2014. 10.
- 8) 肥後心平, 相川優子, 飯島典生, 小澤一史: ラット泌乳期における急性な Kiss1 遺伝子発現変化に関する分子組織化学的解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 41 回) (東京), 2014. 10.
  - 9) 村川裕子, 岩田衣世, 竹下俊行, 小澤一史: ラット視床下部 KNDy ニューロンにおける kisspeptin, NKB, DynA の局在に関する免疫電子顕微鏡観察. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 41 回) (東京), 2014. 10.
  - 10) 李 松子, 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: 発達に伴う GnRH ニューロンのスパインの形態変化, 特に思春期前後の比較において. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 41 回) (東京), 2014. 10.
  - 11) 石井寛高, 服部裕次郎, 小澤一史: Identification of transcriptional and posttranscriptional regulation of human estrogen receptor expression in the testis. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 12) 肥後心平, 相川優子, 飯島典生, 小澤一史: Molecular and histochemical analysis on acute modulation of the kiss1 expression in the lactating rat hypothalamus mediated by the suckling stimulus. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 13) 服部裕次郎, 石井寛高, 森田明夫, 小澤一史: Identification of novel estrogen receptor  $\alpha$  variants in the human and mechanism of transcriptional activation. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 14) 村川裕子, 岩田衣世, 竹下俊行, 小澤一史: Immunoelectron microscopic study on the subcellular localization of kisspeptin, neuropeptide B and dynorphin A in KNDY neurons of the female rat. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 15) 李 松子, 託見 健, 飯島典生, 小澤一史: Morphological analysis of spines of the GnRH neuron through pubertal development. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 16) 國村有弓, 岩田衣世, 石神昭人, 小澤一史: Age-related alterations of KNDY neuron and pulsatile LH release in female rats. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 17) 松尾いづみ, 肥後心平, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史: A GABAergic mechanism is indispensable for Par2-suppression effect in the rat SCN by sevoflurane. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 18) 永本盛嗣, 飯島典生, 石井寛高, 託見 健, 坂本篤裕, 小澤一史: Establishment of an in vitro experimental system using a cell line to investigate the mechanisms of anesthesia. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) (神戸), 2015. 3.
  - 19) Higo S, Aikawa S, Iijima N, Ozawa H: Acute modulation of the kiss1 expression in the lactating rat hypothalamus mediated by the suckling stimulus and prolactin. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 20) Iijima N, Matsumoto K, Ueta Y, Ozawa H: In vivo and real-time monitoring of GFP-expression neuron in the rat hypothalamus via optical fiber. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 21) Iwata K, Kunimura Y, Matsumoto K, Ozawa H: Effect of androgen on kisspeptin expression and luteinizing hormone release in female rats. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 22) Isii H, Hattori Y, Ozawa H: Characterization of alternative promoter usage and alternative splicing profiles of the estrogen receptor  $\beta$  gene in the human. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 23) Kunimura Y, Iwata K, Ikehara M, Iijima N, Ozawa H: Interactions between kisspeptin neurons and hypothalamic tuberoinfundibular dopaminergic neurons in aged female rats. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 24) Hattori Y, Ishii H, Morita A, Ozawa H: Identification of novel estrogen receptor  $\beta$  variants in the human. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.
  - 25) Matsuo I, Higo S, Iijima N, Sakamoto A, Ozawa H: A GABAergic mechanism is necessary for Per2-suppressing effect in the rat SCN by sevoflurane. The International Congress of Neuroendocrinology 2014 (Sydney), 2014. 8.

## 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Kunimura Y, Iwata K, Iijima N, Kobayashi M, Ozawa H: Effect of sex steroid hormones on the number of serotonergic neurons in rat dorsal raphe nucleus. *Neuroscience Letters* 2015; 594 (6): 127-132.

### 3. 感覚情報科学分野

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Ishii T, Kaneda M : ON-pathway-dominant glycinergic regulation of cholinergic amacrine cells in the mouse retina. *The Journal of Physiology* 2014 ; 592 (19) : 4235-4245.
- 2) Kiyama R<sup>1)</sup>, Zhu Y<sup>1, 2)</sup>, Kawaguchi K<sup>1)</sup>, Iitake N<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y, Dong S<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Signaling Molecules Research Group, Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), <sup>2)</sup> Scinet Company, <sup>3)</sup> Institute of Urban Environment, Chinese Academy of Sciences) : Estrogen-responsive genes for environmental studies. *Environmental Technology & Innovation* 2014 ; 1 (2) : 16-28.

##### 著書

- 1) 金田 誠：〔翻訳〕視覚. リッピンコット シリーズ イラストレイテッド生理学, 2014 ; 丸善出版株式会社.

##### 学会発表

###### (1) 一般講演：

- 1) Ishii T, Kaneda M : Pathway-specific inputs of starburst amacrine cells and its implication on light responses to ganglion cells in the mouse retina. *Retinal Neurobiology and Visual Processing (USA (Vermont))*, 2014. 6.
- 2) 金田 誠, 石井俊行, 本間耕平, 重松康秀<sup>1)</sup>, 霜田幸雄<sup>1)</sup>, 井上浩義<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京女子医科大学総合研究所, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学医学部化学) : マウス網膜 OFF 型コリン作動性ニューロン P2X 型プリン受容体陽イオンチャネルを介したコリン取り込み機構. 視覚科学フォーラム研究会 (第 18 回) (前橋市), 2014. 8.
- 3) 尹 成珠, 金田 誠 : マウス網膜双極細胞の周辺応答の極性反転に関与する因子. 視覚科学フォーラム研究会 (第 18 回) (前橋市), 2014. 8.
- 4) Hamada T, Sakuma Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Univ. of Tokyoh health Sci.) : Estrogen induced neural migration is important for the sexual differentiation of the rat preoptic area. *Neuroscience 2014 (横浜市)*, 2014. 9.
- 5) Yin C, Kaneda M : Contributing factors to the polarity determination of surround responses in bipolar cells of the mouse retina. *Neuroscience 2014 (横浜市)*, 2014. 9.
- 6) Ishii T, Kaneda M : Pathway-specific inputs of starburst amacrine cells in the mouse retina. *Neuroscience 2014 (横浜市)*, 2014. 9.
- 7) 本間耕平 : 「留学のすすめ」海外日本人研究者ネットワーク UJA による日本科学の推進. 日本分子生物学会年会 (第 37 回) (横浜市), 2014. 11.
- 8) Ishii T, Kaneda M : Transporter-independent choline uptake in the mouse retina. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) 日本生理学会大会 (第 92 回) 合同大会 (神戸市), 2015. 3.

## 4. 生体統御科学分野

### 研究概要

当該教室（生体統御科学）においては、現在複数の研究テーマについて解析探求を行っている。すなわち、1. 循環器領域における抗ストレス・エネルギー基質調節・虚血耐性に関わる a cardiac non-neuronal ACh system の調節機構と、心から脳への調節機構についての研究 2. 胎児期および成長後の栄養が成長・成育に与える影響 3. ストレス誘発性神経細胞死へのミクログリア活性化と酸化ストレス増加機構の研究 4. CRF-CRF 受容体発現調節機構および病態（食思不振モデル）の影響についての研究 5. ストレスによる内分泌および情動反応に対する特異的 CRF ニューロンの新規役割についての研究 6. 第三脳室壁上皮細胞の糖利用亢進による神経新生および血管新生促進機構の研究

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Noguchi T<sup>1</sup>, Kakinuma Y<sup>2</sup>, Arikawa M<sup>3</sup>, Okazaki K<sup>3</sup>, Hoshino E<sup>1</sup>, Iiyama T<sup>1</sup>, Kubo T<sup>1</sup>, Kitaoka H<sup>1</sup>, Doi Y<sup>1</sup>, Sato T<sup>3</sup> (1) 高知大学医学部 循環器内科, (2) 日本医科大学大学院 生体制御科学, (3) 高知大学医学部 循環制御学) : Donepezil can improve ischemic muscle atrophy by activating angiomyogenic properties of satellite cells. *Circulation Journal* 2014 ; 78 (9) : 2317-2324.
- 2) Kakinuma Y<sup>1</sup>, Noguchi T<sup>2</sup>, Okazaki K<sup>2</sup>, Oikawa S<sup>1</sup>, Iketani M<sup>1</sup>, Kurabayashi A<sup>3</sup>, Furihata M<sup>2</sup>, Sato T<sup>2</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体統御科学, (2) 高知大学医学部 循環制御学, (3) 高知大学医学部 病理学) : Antimuscle atrophy effect of nicotine targets muscle satellite cells partly through an  $\alpha 7$  nicotinic receptor in a murine hindlimb ischemia model. *Translational Research* 2014 ; 164 (1) : 32-45.
- 3) Kakinuma Y<sup>1</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体統御科学) : A concept of a nonneuronal cardiac cholinergic system. *Journal of Nippon Medical School* 2014 ; 81 (5) : 296-297.
- 4) Oikawa S<sup>1</sup>, Iketani M<sup>1</sup>, Kakinuma Y<sup>1</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体統御科学) : A Non-Neuronal Cholinergic System Regulates Cellular ATP Levels to Maintain Cell Viability. *Cellular Physiology and Biochemistry* 2014 ; 34 (3) : 781-789.
- 5) Kakinuma Y<sup>1</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体統御科学) : Nicotinic and non-nicotinic receptor-mediated mechanisms responsible for anti-atrophy effects in muscle. *Receptors and Clinical Investigation* 2014 ; 1 (6) : e286.
- 6) Arikawa M<sup>1</sup>, Kakinuma Y<sup>2</sup>, Noguchi T<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup> (1) 高知大学医学部 循環制御学, (2) 日本医科大学大学院 生体統御科学) : Donepezil, Therapeutic Acetylcholinesterase Inhibitor, Prevents the Progression of Ventricular Dysfunction by Promoting Myocardial Glucose Utilization in Rat Model of Chronic Heart Failure Following Myocardial Infarction. *Cardiovascular Pharmacology* 2014 ; 3 (2) : 1-9.
- 7) Sekiyama K<sup>1</sup>, Waragai M<sup>1</sup>, Akatsu H<sup>1</sup>, Sugama S<sup>2</sup>, Takenouchi T<sup>3</sup>, Takamatsu Y<sup>1</sup>, Fujita M<sup>1</sup>, Sekigawa A<sup>1</sup>, Hashimoto M<sup>1</sup> (1) Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Division of Sensory and Motor Systems, (2) Nippon Medical School, Department of Physiology, (3) National Institute of Agrobiological Sciences, Division of Animal Sciences) : Disease-modifying effect of adiponectin in model of  $\alpha$ -synucleinopathies. *Ann Clin Transl Neurol* 2014 ; 1 (7) : 479-489.
- 8) Nemoto T, Kakinuma Y, Shibasaki T : Impaired miR449a-induced downregulation of Crhr1 expression in low-birth-weight rats. *Journal of Endocrinology* 2015 ; 224 (2) : 195-203.
- 9) Nemoto T, Kakinuma Y, Shibasaki T : Dysregulation of restraint-induced expression of Urocortins in the heart of low birth weight rats. *Journal of Molecular Neuroscience* 2014 ; 53 (1) : S157-S157.
- 10) 根本崇宏, 芝崎 保 : 高脂肪食負荷ラットの視床下部室傍核におけるストレス負荷後の Hsp90 発現調節の異常. *ACTH RELATED PEPTIDES* 2015 ; 25 (1) : 14-15.

##### (2) 研究報告書：

- 1) 根本崇宏 : 妊娠前の母ラットあるいは父ラットへのニコチン投与により生じる出生時低体重の解析. 喫煙科学研究助成財団研究年報 (平成 25 年度) 2014 ; 458-463.

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) Kakinuma Y<sup>1</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体統御科学) : The fundamental significance of non-neuronal cardiac acetylcholine in terms of the pathophysiological conditions. 4th International Conference on Non-neuronal Acetylcholine (Giessen, Germany), 2014. 8.

(2) シンポジウム：

- 1) Nemoto T : Dysregulation of restraint-induced expression of urocortins in the heart of low birth weight rats. 20th International Symposium on Regulatory Peptides (REGPEP2014) (Kyoto, Japan), 2014. 9.

(3) セミナー：

- 1) 根本崇宏：胎児期および成長後の栄養が下垂体ホルモン分泌に与える影響。下垂体形態学ミーティング（第17回）（兵庫県神戸市），2015. 3.

(4) 一般講演：

- 1) 根本崇宏<sup>1)</sup>，柿沼由彦<sup>1)</sup>，芝崎 保<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 生体統御科学）：拘束ストレス負荷による心および肝の IGF-1 発現量の変化。日本内分泌学会学術総会（第87回）（福岡），2014. 4.
- 2) 洲鎌秀永<sup>1)</sup>，柿沼由彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 生体統御科学）：Stress-induced microglial activation may be triggered by noradrenergic neurons. 日本生理学会（第92回）（神戸），2015. 3.
- 3) 根本崇宏，柿沼由彦，芝崎 保：通常食及び高食塩食負荷の低出生体重ラットでみられた血圧上昇と視床下部と心臓での Ucns の mRNA 発現量の低下。日本神経内分泌学会学術集会（第41回）（東京都千代田区），2014. 10.
- 4) 根本崇宏：DOHaD 仮説への挑戦。ペプチド・ホルモン研究会（第4回）（北海道旭川市），2014. 12.
- 5) 根本崇宏，芝崎 保：通常食及び高脂肪食を負荷した低出生体重ラットでみられた血圧の上昇と視床下部での Ucns-CRF-R2 系の mRNA の発現調節の異常。間脳・下垂体・副腎系研究会（第26回）（東京都港区），2015. 3.
- 6) 原田嘉夫：新生ラットにおける単シナプス性反射電位の NMDA 成分の増強。日本生理学会大会（第92回）（神戸），2015. 3.

## 論文

### 〔追加分〕

#### 追加分原著：

- 1) 柿沼由彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院 生体統御科学）：たこつぼ心筋症と性差。自律神経 2014；51（3）：147-149.

## 5. 代謝・栄養学分野

### 研究概要

以下の多くは学内外との共同研究だが、個別の表示は割愛した。1. 石灰化の分子機構と組織非特異型アルカリホスファターゼ (TNAP) 1) 低フォスファターゼ症 (HPP) をきたす変異 TNAP (p. F327del) 蛋白質の解析。2) 他の HPP 変異体における糖鎖修飾を中心とするプロセッシングの解析。3) HPP 患者から検出された新規アミノ酸置換 (S367T) について、発現ベクターの構築と細胞への強制発現による活性と石灰化能の検討。4) 野生型 TNAP の構造解析に向けた大量発現系の構築。5) 石灰化時に細胞より芽出する基質小胞の採取法の検討と構成蛋白質のプロテオーム解析。6) 血管壁異所性石灰化のモデルとして血管平滑筋培養細胞を用いた高リンによる細胞応答の解析。7) アデニン負荷により作製した腎不全マウスへの高リン食による血管石灰化モデルとその分子機構の解析。2. キサンチン酸化還元酵素 (XOR) 1) XOR 阻害剤の抗活性酸素作用を介した虚血再灌流障害、動脈硬化などの病態治療への有効性検証と、組織保護分子機構の解析。2) 創薬への基盤形成を目指した、強固に結合する阻害剤と標的分子との相互作用の分子動力学解析。3) 活性酸素を過剰産生する遺伝子組み換えマウスの作成による長期飼育過程での表現形変化の観察と DNA アレイを用いた遺伝子変動の網羅的解析。3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素 好熱菌等の鉄硫黄酵素の構造機能解析のためのアミノ酸要求性大腸菌株作成と寄託, mitoNEET 構造機能研究など。4. 進行性難聴の原因遺伝子産物 cochlin 外リンパ液中のコクリンの ELISA 測定法の開発と、コクリン定量による外リンパ液診断の有効性。コクリン蛋白質の解析。5. 極微弱近赤外光検出装置による 1 重項酸素 (励起状態の酸素分子) の検出・定量法の開発

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Suzuki G<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Kusano T<sup>2)</sup>, Matsuda Y<sup>3)</sup>, Fuse A<sup>4)</sup>, Yokota H<sup>4)</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 3) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, 4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : protective Effects of Xanthine Oxidoreductase Inhibitors on Severe Whole-brain Ischemia in Mouse Model and Analysis of Xanthine Oxidoreductase Activity in the Mouse Brain. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2015 ; 55 (1) : 77-85.
- 2) Kuwabara Y<sup>1)</sup>, Katayama A, Tomiyama R<sup>1)</sup>, Piao H<sup>1)</sup>, Kurihara S, Ono S<sup>1)</sup>, Mine K<sup>1)</sup>, Akira S<sup>1)</sup>, Orimo H, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Gonadotropin regulation and roles of ovarian osteopontin in the periovulatory period. *Journal of Endocrinology* 2015 ; 224 (1) : 49-59.

##### (2) 総説：

- 1) Nishino T<sup>1)</sup>, Okamoto K (1) Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Mechanistic Insights into Xanthine Oxidoreductase from Development Studies of Candidate Drugs to Treat Hyperuricemia and Gout. *J. Biol. Inorg. Chem.* 2015 ; 20 : 195-207.

##### (3) 査読なし：

- 1) Iwasaki T, Hagiuda E, Fukazawa R, Hayashi-Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>2)</sup>, Kumasaka T<sup>2)</sup> (1) Inst Environ Microbiol, Kyowa-kako Co., 2) JASRI/SPring-8) : Ligand mutagenesis of TthNEET, a thermophile homolog of mitoNEET. *J. Biol. Inorg. Chem.* 2014 ; 19 (Suppl2) : S845-S846.
- 2) Fukazawa R, Lin TM<sup>1)</sup>, Miyajima-Nakano Y, Matsushita S, Choi KS<sup>1)</sup>, Baldansuren A<sup>1)</sup>, Dikanov AS<sup>1)</sup>, Gennis BR<sup>1)</sup>, Iwasaki T (1) Univ of Illinois at Urbana-Champaign) : A set of *Escherichia coli* amino acid auxotrophic expression host strains for selectively labelled metalloenzyme research. *J. Biol. Inorg. Chem.* 2014 ; 19 (Suppl2) : S845-S845.

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) 岩崎俊雄：X線結晶構造解析と分光的手法の接点 - 鉄硫黄蛋白質を例に - (フォーラム：蛋白質化学に立脚した“超域”生命化学への期待)。日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.
- 2) Kusano T : Effects of Superoxide Hyper Generation on Mice : Analysis of Xanthine Oxidoreductase Gene-modified Mice. *European Crystal Network WORKSHOP 2015 (6th)* (Paris, France), 2015. 3.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 岡本 研：痛風治療薬と標的酵素の相互作用解析 - 構造情報は臨床にどう生かされているのか - . 平成 26 年度日本生化学会関東支部例会 (水戸), 2014. 6.

(3) 一般講演 :

- 1) Fukazawa R, Lin TM<sup>1)</sup>, Miyajima-Nakano Y, Matsushita S, Choi KS<sup>1)</sup>, Baldansuren A<sup>1)</sup>, Dikanov AS<sup>1)</sup>, Gennis BR<sup>1)</sup>, Iwasaki T (1) Univ of Illinois at Urbana-Champaign) : A set of *Escherichia coli* amino acid auxotrophic expression host strains for selectively labelled metalloenzyme research. European Biological Inorganic Chemistry Conference (12th, EuroBIC 12) (Zurich, Switzerland), 2014. 8.
- 2) Iwasaki T, Hagiuda E, Fukazawa R, Hayashi-Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>2)</sup>, Kumasaka T<sup>2)</sup> (1) Inst Environ Microbiol, Kyowa-kako Co., 2) JASRI/SPRING-8) : Ligand mutagenesis of TthNEET, a thermophile homolog of mitoNEET. European Biological Inorganic Chemistry Conference (12th, EuroBIC 12) (Zurich, Switzerland), 2014. 8.
- 3) Okamoto K<sup>1)</sup>, Kikuchi H<sup>2)</sup>, Fujisaki H<sup>2)</sup>, Furuta T<sup>3)</sup>, Leimkühler S<sup>4)</sup>, Nisino T<sup>5)</sup> (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, 2) Department of Physics, Nippon Medical School, 3) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, 4) Department of Molecular Enzymology, Institute for Biochemistry and Biology, University of Potsdam, Germany, 5) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : The gate opening motion of xanthine binding pocket of XOR. International Symposium on Flavins and Flavoproteins (18th) (Thailand), 2014. 7.
- 4) 岡本 研<sup>1)</sup>, 菊地浩人<sup>2)</sup>, 藤崎 弘<sup>2)</sup>, 古田忠臣<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>3)</sup> 4) (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 2) 日本医科大学 物理学, 3) 東京工業大学, 4) 東京大学 農学部) : MD シミュレーションによるキサントシン酸化還元酵素基質結合ポケットゲート部位の揺らぎの解析. 日本生化学会大会 (第 87 回) (神戸), 2014. 10.
- 5) Kusano T, Matsumura T, Nishino T, Nishino T<sup>1)</sup>, Okamoto K (1) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) : Evaluation of Physiological Roles of Xanthine Dehydrogenase/Xanthine Oxidase Conversion : Effect of Mutation on Milk Secretion. 2014 IUBMB Symposium : International Symposium on Flavins and Flavoproteins (18th) (Phechaburi, Thailand), 2014. 7.
- 6) 草野輝男, 松村智裕, 西野朋子, 西野武士<sup>1)</sup>, 岡本 研 (1) 東大大学院・農学生命化学科・応用生命化学専攻) : キサントシン脱水素酵素からキサントシン酸化酵素への変換は泌乳に関与するか? . 日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.
- 7) 松村智裕, 齋藤志ほ, 木山明子, 織田公光<sup>1)</sup>, 折茂英生 (1) 新潟大学院・医歯学部・口腔生化学) : 低ホスファターゼ症例で見つかった変異型アルカリホスファターゼの解析. 日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.
- 8) 齋藤志ほ, 松村智裕, 松田 帆<sup>1)</sup>, 折茂英生, 池園哲郎<sup>1)</sup> (1) 埼玉医科大・医・耳鼻咽喉科) : ヒト内耳特異的 Cochlin tomo-protein の高感度検出による内耳窓瘻孔診断の検討. 日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.
- 9) Matsuda H<sup>1)</sup>, Matsumura T, Saito S, Ikezono T<sup>1)</sup>, Usami S<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>3)</sup>, Ogawa K<sup>4)</sup> (1) Department of Otorhinolaryngology, Saitama Medical University, Japan, 2) Department of Otorhinolaryngology, Shinshu University, Japan, 3) Department of Otorhinolaryngology, Tokyo Medical University, Japan, 4) Department of Otorhinolaryngology, Keio University, Japan) : The Clinical Characteristics of the Definitive PLF Cases Diagnosed by CTP Test. Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery (15th) (Seoul, Korea), 2014. 4.
- 10) Matsumura T, Matsuda H<sup>1)</sup>, Saito S, Usami S<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>3)</sup>, Ogawa K<sup>4)</sup>, Ikezono T<sup>1)</sup> (1) Department of Otorhinolaryngology, Saitama Medical University, Japan, 2) Department of Otorhinolaryngology, Shinshu University, Japan, 3) Department of Otorhinolaryngology, Tokyo Medical University, Japan, 4) Department of Otorhinolaryngology, Keio University, Japan) : Evaluation of Diagnostic Accuracy of ELISA Based CTP Detection Test for Perilymphatic Fistula. Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery (15th) (Seoul, Korea), 2014. 4.
- 11) Kawaguchi Y, Nishino T, Matsumura T, Okamoto K, Nishino T<sup>1)</sup> (1) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo) : The redox influences of Asp428 on the reactivity of FAD in xanthine dehydrogenase. International symposium on flavins and flavoproteins (18th) (Thailand), 2014. 7.
- 12) 川口裕子, 西野朋子, 岡本 研, 西野武士<sup>1)</sup> (1) 東大・院・農・生命科学) : キサントシン脱水素酵素 (XDH) の FAD のリビトール近傍 Asn350 の変異体の解析. 日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分原著 :

- 1) Watanabe A<sup>1,2)</sup>, Satoh S<sup>3)</sup>, Fujita A<sup>2)</sup>, Banyar T<sup>2)</sup>, Orimo H, Shimada T<sup>1,2)</sup> (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 3) Aomori Prefectural Central Hospital) : Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. Bone 2014 ; 60 (1) : 93-97.

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) Kusano T, Nishino T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Grad. Sch. of Life Sci., Univ. of Tokyo) : Effect of superoxide hyper generation xanthine oxidase type mutation and xanthine dehydrogenase type mutation on mouse. 2013 Molybdenum & Tungsten Enzymes Conference (Sintra, Portugal), 2013. 7.
- 2) 山口昌紘<sup>1)</sup>, 五十嵐豊<sup>1)</sup>, 橋詰哲広<sup>1)</sup>, 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 横堀將司<sup>1)</sup>, 草野輝男, 布施 明<sup>1)</sup>, 岡本 研, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 救急医学) : 全脳虚血再灌流障害モデルマウスにおける酸化ストレスマーカーの検討. 日本脳卒中学会総会 (第39回) (大阪), 2014. 3.
- 3) Kato S<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Kusano T, Nishino T<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Div. of Neuropathol., Tottori Univ., <sup>2)</sup> Div. of Molecular Pathol., Tottori Univ., <sup>3)</sup> Grad. Sch. of Life Sci., Univ. of Tokyo) : プリンサルベージ経路に対する基質ではないキサンチンオキシドレダクターゼ (XOR) 阻害剤は ALS 進行を抑制する. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第54回) (東京), 2013. 4.
- 4) 草野輝男, 西野武士<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 大大学院・農学生命化学科・応用生命化学専攻) : キサンチン酸化還元酵素変異体ノックインによるマウスへの影響. 日本生化学会大会 (第86回) (横浜), 2013. 9.
- 5) 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 松村智裕, 岡本 研, 草野輝男, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 病理学 (統御機構・腫瘍学), <sup>3)</sup> 東京大学大学院・農学生命科学研究科・応用生命化学) : 脳虚血再灌流障害におけるキサンチン酸化還元酵素阻害薬の神経細胞保護効果の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第72回) (横浜), 2013. 10.



## 6. 分子遺伝医学分野

### 研究概要

分子遺伝学では遺伝子細胞治療の基盤技術開発を中心に、幅広くゲノム医学や再生医療に取り組んでいる。遺伝子治療研究としては、アデノ随伴ウイルス (AAV) ベクター関連技術の開発を推進した。GMP 準拠ベクター製造法の確立に向け、イオン交換とゲル濾過により超遠心操作が不要なプロトコルを立案し検証した。その応用として、難治性遺伝性疾患 (デュシェンヌ型筋ジストロフィー、低フォスファターゼ症、異染性白質ジストロフィー)、網膜疾患や癌に関する分子病態解析および治療研究を推進した。単一遺伝子病に対する遺伝子治療では遺伝子産物に対する免疫応答が課題となるが、その対策として炎症制御細胞を併用した免疫寛容遺伝子治療を提案し、中型動物における効果を証明した。また、骨髄間質細胞や歯髄幹細胞を応用した炎症制御療法に向け、デュシェンヌ型筋ジストロフィーや脳虚血再還流障害の動物モデルを用いて治療研究を推進した。これら基盤技術の臨床応用に向け、民間企業と協力し共同研究を実施した。臨床展開の取り組みとして医薬品医療機器総合機構の事業戦略相談を実施し、医師主導治験に向けた取り組みについて指導を受けた。さらに遺伝子細胞治療の ELSI (倫理, 法, 社会的課題) に関し、遺伝子治療ガイドラインの改正や遺伝子治療におけるカルタヘナ法第一種使用等の規制緩和に関する事業 (厚労省および医薬品医療機器総合機構) に参加し政策提言を行った。ハイテクリサーチプロジェクトで設置されたゲノム解析室では、全学的な遺伝子研究の共同利用施設としての運営に加え、遺伝診療科と協力して日本全国から依頼された遺伝病の遺伝子解析を行った。また、ゲノム先端医療部と協力してオーダーメイド医療のための薬剤感受性遺伝子や易罹患性遺伝子の検索を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Nitahara-Kasahara Y, Hayashita-Kinoh H, Chiyo T<sup>1</sup>, Nishiyama A<sup>1</sup>, Okada H, Takeda S<sup>1</sup>, Okada T (1) 国立精神・神経医療研究センター): Dystrophic mdx mice develop severe cardiac and respiratory dysfunction following genetic ablation of the anti-inflammatory cytokine IL-10. *Hum Mol Genet* 2014; 23 (15): 3990-4000.
- 2) Arimura S<sup>2</sup>, Okada T, Tezuka T<sup>2</sup>, Chiyo T<sup>1</sup>, Kasahara Y, Yoshimura T<sup>3</sup>, Motomura M<sup>3</sup>, Yoshida N<sup>3</sup>, Beeson D<sup>3</sup>, Takeda S<sup>1</sup>, Yamanashi Y<sup>2</sup> (1) 国立精神・神経医療研究センター, (2) 東京大学 医科学研究所 癌細胞増殖部門 腫瘍抑制分野, (3) 長崎大学 医歯薬学総合研究所 病態解析抑制学講座): DOK7 gene therapy benefits mouse models of diseases characterized by defects in the neuromuscular junction. *Neuromuscular disease* 2014; 345 (6203): 1505-1508.
- 3) Hayashita-Kinoh H, Yugeta N<sup>1</sup>, Okada H, Nitahara-Kasahara Y, Chiyo T<sup>1</sup>, Okada T, Takeda S<sup>1</sup> (1) 国立精神・神経医療研究センター): Intra-amniotic rAAV-mediated microdystrophin gene transfer improves canine X-linked muscular dystrophy and may induce immune tolerance. *Mol Ther*. 2015; 23 (4): 627-637.
- 4) Ohtsuka Y<sup>1</sup>, Kanagawa M<sup>1</sup>, Yu C<sup>1</sup>, Ito C<sup>1</sup>, Chiyo T<sup>2</sup>, Kobayashi K<sup>2</sup>, Okada T, Takeda S<sup>2</sup>, Toda T<sup>1</sup> (1) 神戸大学大学院 医学研究科 内科学講座 神経内科学分野, (2) 国立精神・神経医療研究センター): Fukutin is prerequisite to ameliorate muscular dystrophic phenotype by myofiber-selective LARGE expression. *Sci Rep*. 2015; 5 (8316).
- 5) Hira R<sup>1</sup>, Ohkubo F<sup>1</sup>, Masamizu Y<sup>1</sup>, Ohkura M<sup>2</sup>, Nakai J<sup>2</sup>, Okada T, Matsuzak M<sup>1</sup> (1) 自然科学研究機構・基礎生物学研究所・光脳回路研究部門, (2) 埼玉大学 脳末梢科学研究センター): Reward-timing-dependent bidirectional modulation of cortical microcircuits during optical single-neuron operant conditioning. *Nat. Commun.* 2014; 5 (5551).
- 6) Nitahara-Kasahara Y, Takeda S<sup>1</sup>, Okada T (1) 国立精神・神経医療研究センター): Cell therapeutic approaches using multipotent mesenchymal stromal cells for muscular dystrophy. *Inflammation and Regeneration*. 2014; 34 (4): 198-205.
- 7) Igarashi T<sup>1</sup>, Miyake N, Fujimoto C<sup>1</sup>, Yaguchi C<sup>1</sup>, Iijima O, Shimada T, Takahashi H<sup>1</sup>, Miyake K (1) 付属病院眼科): Adeno-associated virus type 8 vector-mediated expression of siRNA targeting vascular endothelial growth factor efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. *Mol Vis*. 2014; 11 (20): 488-496.
- 8) Igarashi T<sup>1</sup>, Fujimoto C<sup>1</sup>, Suzuki H<sup>1</sup>, Ono M<sup>1</sup>, Iijima O, Takahashi H<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup> (1) 付属病院眼科): Short-time exposure of hyperosmolarity triggers interleukin-6 expression in corneal epithelial cells. *Cornea* 2014; 33 (12): 1342-1347.
- 9) Yamagishi A<sup>1</sup>, Matsumoto S<sup>1</sup>, Watanabe A<sup>2</sup>, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Hara K<sup>1</sup>, Kan H<sup>1</sup>, Yamada T<sup>1</sup>, Koizumi M<sup>1</sup>, Shinji S<sup>1</sup>, Matsuda A<sup>1</sup>, Sasaki J<sup>1</sup>, Shimada T, Uchida E<sup>1</sup> (1) 付属病院 消化器外科, (2) 付属病院 ゲノム先端医療部): Gene profiling and bioinformatics analyses reveal time course differential gene expression in surgically resected colorectal tissues. *Oncol Rep* 2014; 31 (4): 1531-1538.
- 10) Tamai H<sup>1</sup>, Miyake K, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Shimada T, Dan K<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup> (1) 付属病院血液内科学): Inhibition of S100A6 in-

duces graft versus leukemia effects in MLL/AF4-positive ALL in human PBMC-SCID mice. *Bone Marrow Transplant.* 2014 ; 49 (5) : 699-703.

- 11) Miyake N, Miyake M, Asakawa N, Yamamoto M, Shimada T : Long-term correction of biochemical and neurological abnormalities in MLD mice model by neonatal systemic injection of an AAV serotype 9 vector. *Gene Therapy* 2014 ; 21 (4) : 427-433.
- 12) Darambazar G<sup>1)</sup>, Nakata M<sup>1)</sup>, Okada T, Wang L<sup>1)</sup>, Li E<sup>1)</sup>, Shinozaki A<sup>1)</sup>, Motoshima M<sup>1)</sup>, Mori M<sup>1)</sup>, Yada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 自治医科大学 生理学講座 統合生理学部門) : Paraventricular NUCB2/nesfatin-1 is directly targeted by leptin and mediates its anorexigenic effect. *Biochem Biophys Res Commun.* 2015 ; 456 (4) : 913-918.

(2) 総説 :

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 ゲノム先端医療部) : がんを対象としたエクソーム解析の実用化と倫理的課題. *臨床病理レビュー* 2014 ; (153) : 8-11.

(3) 症例報告 :

- 1) Naing B, Watanabe A<sup>1)</sup>, Tanigaki S<sup>2)</sup>, Ono M<sup>2)</sup>, Iwashita M<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 杏林大学産婦人科) : Presymptomatic genetic analysis during pregnancy for vascular type Ehlers-Danlos syndrome. *Int Med Case Rep J* 2014 ; 7 : 99-102.
- 2) 高田雅代<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 澤井英明<sup>3)</sup>, 丸山秀彦, 塚原紗耶, 洪川昇平, 片山典子, 立石洋子, 熊澤一真, 中西美恵, 多田克彦, 森茂弘, 森田啓督, 山邊陽子, 中村 信, その他1名 ( <sup>1)</sup> 香川県立中央病院, <sup>2)</sup> 付属病院 遺伝診療科, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学) : 出生前に超音波検査により疑われ, 出生後の遺伝子解析で確定診断した周産期型低フォスファターゼ症の1例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2014 ; 50 (1) : 362-367.

## 著 書

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院 ゲノム先端医療部) : [翻訳] 第16章 薬理遺伝学. *コルフ臨床遺伝医学* (原著4版), 2014 ; 丸善.

## 学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院 ゲノム先端医療部) : 東京理科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する講習会 (第2回) (野田, 千葉), 2014. 4.
- 2) Okada T : AAV vector transduction strategy with MSCs-mediated immune-modulation to ameliorate neuromuscular disorders. *The 75th of Stem Cell Biology and Regenerative Medicine Forum (Tokyo)*, 2014. 11.
- 3) 岡田尚巳 : アデノ随伴ウイルスベクターを応用した細胞遺伝子治療. *日本再生医療学会 シンポジウム (第14回)* (横浜), 2015. 3.
- 4) 岡田尚巳 : 難治性疾患に対する遺伝子細胞治療法の基盤技術開発. *日本医科大学医学会総会 (第82回)* (東京), 2014. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院 ゲノム先端医療部) : 病院における薬理遺伝学的な取り組み 「臨床現場で薬剤師が知っておくべき薬理遺伝学的知識」. *日本医療薬学会年会 (第24回)* (名古屋), 2014. 9.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 遺伝診療科) : ヒトの遺伝子テラシー向上を目指した遺伝医学関連学会の取組 「初等・中等教育家課程における『ヒトの遺伝学』教育の課題と推進方策」. *日本学術会議第二部会主催公開シンポジウム (東京)*, 2014. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) Yamazaki Y, Hironaka K, Miyake N, Hirai Y, Miyake K, Okada T, Shimada T : Long-term enzyme supplementation into the CSF to treat metachromatic leukodystrophy by intraventricular injection of AAV1 vector. *Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo)*, 2014. 8.
- 2) Okada H, Ishibashi H<sup>1)</sup>, Hayashita-Kinoh H, Chiyo T<sup>1)</sup>, Masuda C<sup>1)</sup>, Nitahara-Kasahara Y, Takeda S<sup>1)</sup>, Okada T ( <sup>1)</sup> 国立精神・神経医療研究センター) : Induction of Local OPMD Histopathology in Common Marmoset By rAAV1 and 8-Mediated Transduction. *American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting (Washington DC, USA)*, 2014. 5.
- 3) Nitahara-Kasahara Y, Hayashita-Kinoh H, Chiyo T<sup>1)</sup>, Okada H, Takeda S<sup>1)</sup>, Okada T ( <sup>1)</sup> 国立精神・神経研究医療研究センター) : Skeletal Muscle Engraftment of Mesenchymal Stromal Cells Is Augmented By IL-10. *American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting (Washington DC, USA)*, 2014. 5.
- 4) Hayashita-Kinoh H, Nitahara-Kasahara Y, Okada H, Chiyo T<sup>1)</sup>, Yugeta N<sup>1)</sup>, Okada T, Takeda S ( <sup>1)</sup> 国立精神・神経医療研究センター) : Immune Tolerance Induction in Canine X-Linked Muscular Dystrophy With rAAV9-Microdystrophin Transduction. *American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting (Washington DC, USA)*, 2014. 5.
- 5) 笠原優子, 喜納裕美, 千代智子<sup>1)</sup>, 岡田浩典, 武田伸一<sup>1)</sup>, 岡田尚巳 ( <sup>1)</sup> 国立精神・神経医療研究センター) : IL-10 強制発現による

- 機能強化型 MSCs の作製と生存解析. 日本炎症・再生医学会 (第 35 回) (沖縄), 2014. 7.
- 6) Nitahara-Kasahara Y, Hayashita-Kinoh H, Tsumita N<sup>1</sup>, Chiyo T<sup>1</sup>, Okada H, Takeda S<sup>1</sup>, Okada T (1) 国立精神・神経医療研究センター) : Engraftment of mesenchymal stromal cells is effectively associated by IL-10 in skeletal muscle. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 7) 倉岡睦季<sup>1</sup>, 木村 円<sup>1</sup>, 永田哲也<sup>1</sup>, 岡田尚巳, 今村道博<sup>1</sup>, 武田伸一<sup>1</sup> (1) 国立精神・神経研究医療センター) : デュシェンヌ型筋ジストロフィー・イヌモデル CXMD<sub>J</sub> を用いた血清オステオポンチンの解析. 筋ジストロフィー治療研究合同発表会 (第 9 回) (神奈川), 2014. 11.
  - 8) Nakamura A, Iijima O, Miyake K, Watanabe A, Hirai Y, Kinoshita H<sup>1</sup>, Noguchi T<sup>1</sup>, Abe S<sup>1</sup>, Okada T (1) 東京歯科大学解剖学講座) : Improvement of hypophosphatasia model mice by muscle specific expression of bone targeted alkaline phosphatase using self-complementary AAV8 vector. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 9) Hayashita-Kinoh H, Okada H, Nitahara-Kasahara Y, Chiyo T<sup>1</sup>, Yugeta N<sup>1</sup>, Okada T, Takeda S<sup>1</sup> (1) 国立精神・神経医療研究センター) : Immune tolerance induction of canine X-linked muscular dystrophy with fetal rAAV-microdystrophin transduction. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 10) Okada H, Ishibashi H<sup>1</sup>, Hayashita-Kinoh H, Chiyo T<sup>1</sup>, Nitahara-Kasahara Y, Takeda S<sup>1</sup>, Okada T (1) 国立精神・神経医療研究センター) : rAAV1 and 8-mediated induction of local OPMD histopathology in common marmoset. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 11) Igarashi T<sup>1</sup>, Miyake K, Kobayashi M<sup>1</sup>, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K<sup>1</sup>, Hirai Y, Shimada T, Takahashi H<sup>1</sup> (1) 付属病院眼科) : Tyrosine-mutated AAV2 mediated BDNF gene therapy attenuates retinal ischemic injuries in rats. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2014 Annual Meeting (Orlando, Fla), 2014. 5.
  - 12) Igarashi T<sup>1</sup>, Miyake K, Kobayashi M<sup>1</sup>, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K<sup>1</sup>, Hirai Y, Shimada T, Takahashi H<sup>1</sup> (1) 付属病院眼科) : Efficient Protection of Retina By Tyrosine-Mutated Self-Complementary AAV2 Vector Encoding BDNF in a Rat Retinal Ischemic Injury Model. American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting (Washington, DC), 2014. 5.
  - 13) Nakamura A, Iijima O, Miyake K, Watanabe A, Hirai Y, Kinoshita H<sup>1</sup>, Noguchi T<sup>1</sup>, Abe S<sup>1</sup>, Okada T, Shimada T (1) 東京歯科大学解剖学講座) : Rescue of lethal hypophosphatasia model mice by adeno-associated virus mediated muscle specific expression of bone targeted alkaline phosphatase. The 64th American Society of Human Genetics Annual Meeting (San Diego, CA), 2014. 10.
  - 14) Iijima O, Miyake K, Watanabe A, Nakamura A, Igarashi T<sup>1</sup>, Kanokoda C, Kinoshita H<sup>2</sup>, Noguchi T<sup>2</sup>, Abe S<sup>2</sup>, Okada T, Shimada T (1) 付属病院眼科, 2) 東京歯科大学解剖学講座) : Neonatal transplantation of lentivirally transduced bone marrow cells for the treatment of lethal hypophosphatasia mice. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 15) Igarashi T<sup>1</sup>, Miyake K, Kobayashi M<sup>1</sup>, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K<sup>1</sup>, Hirai Y, Shimada T, Okada T, Takahashi H<sup>1</sup> (1) 付属病院眼科) : Tyrosine-mutated AAV2 mediated BDNF rescued inner retina in rat retinal ischemic injury model. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 16) Okawa R<sup>1</sup>, Iijima O, Kishino M<sup>1</sup>, Okawa H<sup>1</sup>, Toyosawa S<sup>1</sup>, Shimada T, Okada T, Oshima T<sup>1</sup>, Nakano K<sup>1</sup> (1) 大阪大学大学院歯学研究科) : Gene Therapy Improves Dental Manifestations in Akp2<sup>-/-</sup> Hypophosphatasia Mice. The 93th International Association for Dental Research General Session (Boston, Mass), 2015. 3.
  - 17) 仁藤智香子<sup>1</sup>, 中島壯崇, 上田雅之<sup>1</sup>, 稲葉俊東<sup>1</sup>, 斎藤萌子<sup>1</sup>, 西山康裕<sup>1</sup>, 須田 智<sup>1</sup>, 中村有希, 今川 究<sup>1</sup>, 立花克彦<sup>1</sup>, 岡田尚巳, 木村和美<sup>1</sup> (1) 付属病院 神経内科学) : ラット局所脳虚血モデルにおける歯髄幹細胞移植による脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
  - 18) 佐々木元子<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳<sup>1,2)</sup>, 市石 博<sup>3)</sup>, 白石直樹<sup>4)</sup>, 櫻井晃洋<sup>1,5)</sup> (1) 日本遺伝カウンセリング学会 遺伝教育委員会・日本人類遺伝学会 教育推進委員会, 2) 付属病院 遺伝診療科, 3) 東京都立国分寺高等学校, 4) 東京都立豊島高等学校, 5) 札幌医科大学医学部 遺伝医学) : 中等教育における『ヒトの遺伝』の導入に向けた取り組み. 日本遺伝カウンセリング学会 (第 38 回) (大阪), 2014. 6.
  - 19) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup>, 市石 博<sup>3)</sup>, 中村雅浩<sup>4)</sup>, 鈴木恵子<sup>5)</sup>, 白石直樹<sup>6)</sup>, 佐々木元子<sup>1,2)</sup>, 櫻井晃洋<sup>1,7)</sup> (1) 日本人類遺伝学会教育推進委員会・日本遺伝カウンセリング学会遺伝教育委員会, 2) 付属病院遺伝診療科, 3) 東京都立国分寺高等学校, 4) 成城学園中学校高等学校, 5) 法政大学女子高等学校, 6) 東京都立豊島高等学校, 7) 札幌医科大学医学部 遺伝医学) : 中等教育における『ヒトの遺伝』の導入に向けた取り組み. 日本人類遺伝学会 (第 59 回) (東京), 2014. 11.
  - 20) Igarashi T<sup>1</sup>, Miyake K, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C<sup>1</sup>, Shimada T<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup> (1) 付属病院眼科) : siRNA Targeting Vascular Endothelial Growth Factor by Adeno-Associated Vector (Type 8) Efficiently Inhibits Neovascularization in a Murine Choroidal Neovascularization Model. World Ophthalmology Congress 2014 (Tokyo), 2014. 4.
  - 21) 五十嵐勉<sup>1</sup>, 三宅弘一, 小林舞香<sup>1</sup>, 高橋和久, 三宅紀子, 飯島 修, 中元兼二<sup>1</sup>, 平井幸彦, 島田 隆, 岡田尚巳, 高橋 浩<sup>1</sup> (1)

- 付属病院眼科) : BDNF を発現するチロシン変異 AAV2 を用いた網膜虚血モデルにおける神経保護効果. 日本網膜硝子体学会総会 (第 53 回) (大阪), 2014. 11.
- 22) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Shimada T : Treatment of Adult MLD Model Mice By Intravenous Injection of Self-Complementary Type 9 AAV Vector Expressing ASA. American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting (Washington DC), 2014. 5.
  - 23) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Okada T, Shimada T : Trans-BBB gene therapy for metachromatic leukodystrophy using self-complementary type 9 AAV vector. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 24) Omori I<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Kitano T<sup>1</sup>, Miyake N, Miyake K, Inokuchi K ( <sup>1</sup> 付属病院 血液内科) : The D816V c-kit mutation confers higher proliferation activity by JAK-STAT and Src family kinase pathway compared to N822K c-kit mutation in core-binding factor acute myeloid leukemia. ASH Annual Meeting & Exposition (56th) (San Francisco, CA), 2014. 12.
  - 25) Sakai A<sup>1</sup>, Miyake N, Miyake K, Shimada T, Suzuki H<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 薬理学) : miR-17-92 cluster upregulation contributes to intractable neuropathic pain. Cold Spring Harbor Laboratory Meeting (Cold Spring Harbor), 2014. 8.
  - 26) 坂井 敦<sup>1</sup>, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 薬理学) : 1 次感覚神経において神経障害性疼痛特異的に発現変化するマイクロ RNA の解析. 日本疼痛学会 (第 36 回) (大阪), 2014. 6.
  - 27) 坂井 敦<sup>1</sup>, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 薬理学) : 神経障害性疼痛に対する miR-17-92 クラスターの関与. 日本神経科学大会 (第 37 回) (横浜), 2014. 9.
  - 28) 坂井 敦<sup>1</sup>, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 薬理学) : 1 次感覚神経における miR-17-92 クラスターの痛覚及び軸索伸長への影響. 日本分子生物学会年会 (第 37 回) (横浜), 2014. 11.
  - 29) 坂井 敦<sup>1</sup>, 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆, 鈴木秀典<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 薬理学) : 神経障害性疼痛及び軸索伸長に対する miR-17-92 クラスターの関与. 日本薬理学会年会 (第 88 回) (名古屋), 2015. 3.
  - 30) Ishii A<sup>1</sup>, Okada H, Hayashita-Kinoh H, Jin-Hong S<sup>1</sup>, Okada T, Takeda S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 国立精神・神経医療研究センター) : Effective microdystrophin expression in non-human primate muscle with rAAV type 2/8/9 vectors following immune suppression. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 31) 平理一郎<sup>1</sup>, 大久保文貴<sup>1</sup>, 正水芳人<sup>1</sup>, 大倉正道<sup>2</sup>, 中井淳一<sup>2</sup>, 岡田尚巳, 松崎政紀<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 基礎生物学研究所, <sup>2</sup> 埼玉大学 脳科学融合研究センター) : 2 光子イメージングを用いた単一細胞オペラント条件付けによる局所回路の報酬タイミング依存的活動変化. 日本神経科学学会 (第 37 回) (横浜), 2014. 9.
  - 32) 正水芳人<sup>1</sup>, 田中 (R) 康裕<sup>1</sup>, 田中 (H) 康代<sup>1</sup>, 平理一郎<sup>1</sup>, 大久保文貴<sup>1</sup>, 喜多村和郎<sup>2</sup>, 磯村宜和<sup>3</sup>, 岡田尚巳, 松崎政紀<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 自然科学研究機構・基礎生物学研究所・光脳回路研究部門, <sup>2</sup> 東京大学・神経生理学分野, <sup>3</sup> 玉川大学・脳科学研究所) : 運動課題学習中の 1 次運動野第 2/3 および第 5a 層での集団および個々の細胞における神経活動変化. 日本神経科学学会 (第 37 回) (横浜), 2014. 9.
  - 33) Hira R<sup>1</sup>, Ohkubo F<sup>1</sup>, Masamizu Y<sup>1</sup>, Ohkura M<sup>1</sup>, Nakai J<sup>2</sup>, Okada T, Matsuzaki M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 自然科学研究機構・基礎生物学研究所・光脳回路研究部門, <sup>2</sup> 埼玉大学 脳末梢科学研究センター) : Single-neuron operant conditioning by two-photon imaging induces reward-timing-dependent bidirectional modulations in cortical microcircuit. 9th FENS Forum of Neuroscience (Milan, Italy), 2014. 7.
  - 34) Nishie T<sup>1</sup>, Enoki T<sup>1</sup>, Kitagawa M<sup>1</sup>, Mineno J<sup>1</sup>, Okada T, Ohmori T<sup>2</sup>, Mizukami H<sup>2</sup>, Ozawa K<sup>3</sup>, Sakata Y<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> タカラバイオ株式会社, <sup>2</sup> 自治医科大学 遺伝子治療研究部, <sup>3</sup> 東京大学医科学研究所) : Examination on large scale production of AAV vectors for clinical use. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 35) Sakamoto S<sup>1</sup>, Nishie T<sup>1</sup>, Takakura H<sup>1</sup>, Enoki T<sup>1</sup>, Mineno J<sup>1</sup>, Okada T, Yamagata T<sup>2</sup>, Mizukami H<sup>2</sup>, Ozawa K<sup>3</sup>, Muramatsu S<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> タカラバイオ株式会社, <sup>2</sup> 自治医科大学 遺伝子治療研究部, <sup>3</sup> 東京大学医科学研究所) : Good manufacturing practice (GMP) compatible method for adeno-associated virus type 2 vector production and purification. Japan Society of Gene Therapy 20th Annual Meeting (Tokyo), 2014. 8.
  - 36) Kawano Y<sup>1</sup>, Ota N<sup>1</sup>, Dodo K<sup>1</sup>, Nishie T<sup>1</sup>, Okada T, Muramatsu S<sup>2</sup>, Enoki T<sup>1</sup>, Kitagawa M<sup>1</sup>, Mineno J<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> タカラバイオ株式会社, <sup>2</sup> 自治医科大学 遺伝子治療研究部) : Investigation of transduction technology using AAV vectors and AAV empty particles. 日本分子生物学会年会 (第 37 回) (神奈川), 2014. 11.
  - 37) Watanabe A<sup>1</sup>, Naing B<sup>2</sup>, Akutsu K<sup>3</sup>, Shimada T, Okada T ( <sup>1</sup> 付属病院 遺伝診療科, <sup>2</sup> 分子解剖学, <sup>3</sup> 付属病院 循環器内科) : An intronic deleted mutation in the COL3A1 gene affecting exon skipping causing vascular Ehlers-Danlos syndrome. The 64th American Society of Human Genetics Annual Meeting (San Diego, CA), 2014. 10.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説：

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> (1) 付属病院 ゲノム先端医療部)：テーラーメイド医療から見た SNP 遺伝子多型の戦略. 日本産婦人科医会研修ノート No92 「産婦人科における臨床遺伝学—ゲノム医療の展開—：各論 (産科編, 婦人科編) 2014 ; 92 : 79-84.

#### 追加分原著：

- 1) Yamazaki Y, Hirai Y, Miyake K, Shimada T : Targeted gene transfer into ependymal cells through intraventricular injection of AAV1 vector and long-term enzyme replacement via the CSF. *Scientific Reports* 2014 ; 4 : 5506.
- 2) Masamizu Y<sup>1)</sup>, Tanaka-R Y<sup>1)</sup>, Tanaka-H Y<sup>1)</sup>, Hira R<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>2)</sup>, Isomura Y<sup>3)</sup>, Okada T, Matsuzaki M<sup>1)</sup> (1) 自然科学研究機構・基礎生物学研究所・光脳回路研究部門, 2) 東京大学医科学研究所 癌細胞増殖部門 腫瘍抑制分野, 3) 玉川大学 脳科学研究所) : Two distinct layer-specific dynamics of cortical ensembles during learning of a motor task. *Nature Neurosci.* 2014 ; 17 (7) : 987-994.
- 3) Ogawa R<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Naing B, Sasaki M, Fujita A<sup>2)</sup>, Akaishi S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T (1) 付属病院 形成外科, 2) 付属病院 ゲノム先端医療部) : Associations Between Keloid Severity and Single Nucleotide Polymorphisms : Importance of rs8032158 as a Biomarker of Keloid Severity. *J. Invest. Dermatol* 2014 ; 134 : 2041-2043.
- 4) Watanabe A<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>2)</sup>, Fujita A, Naing B, Orimo H, Shimada T<sup>1)</sup> (1) 付属病院 遺伝診療科, 2) 青森県立中央病院) : Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. *Bone* 2014 ; 60 : 93-97.

#### 追加分症例報告：

- 1) Yoneda A<sup>1)</sup>, Okada K<sup>1)</sup>, Okubo H<sup>1)</sup>, Matsuo M<sup>1)</sup>, Kishikawa H<sup>1)</sup>, Naing B, Watanabe A<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> (1) 光星会病院 外科, 2) 付属病院 遺伝診療科) : Spontaneous colon perforations associated with a vascular type of Ehlers-Danlos syndrome. *Case Rep Gastroenterol* 2014 ; 8 (2) : 175-181.

## 7. 薬理学分野

### 研究概要

26年度は以下の成果を得た。a) 1次感覚神経において、miR-17-92クラスターは痛覚と軸索伸長の調節に関わることを明らかにした。b) 自己免疫疾患である橋本脳症の病態解明を目的に、小脳皮質平行線維のシナプス伝達に対する脳脊髄液の効果を調べた。いくつかのサンプルにはシナプス伝達を有意に抑制する例があることが明らかになった。c) 海馬歯状回特異的に変異型グルタミン酸NMDA受容体を発現するマウスにおいて、興奮性シナプス伝達の長期増強が亢進し、空間認知の安定性上昇とパターン分離機能低下が生じていることを明らかにした。d) 染色体重複自閉症モデルマウスにおいて生後約3週間にわたるSSRI処理によって、社会性行動、中脳縫線核におけるセロトニン含量および電気的な活動性において改善が見られた。また、周産期ミノサイクリン投与が不安様行動を減弱することを見出した。e) ヒトiPS細胞株由来神経幹細胞を用いて向精神薬の神経分化に与える影響を評価する系を作製した。f) 小脳プルキンエ細胞におけるGABA電流は脱分極により20分以上振幅が減少することを見出した。この現象はCa<sup>2+</sup>依存性Cl<sup>-</sup>チャネルとクロライドトランスポーター(NKCC)の活性化により、細胞内Cl<sup>-</sup>濃度の上昇で起こることを明らかにした。g) ヒトを対象にした脳機能画像研究において、抗うつ薬プロピオンが報酬予測に関わる側坐核の脳活動を増加させることを明らかにした。h) 精神・行動医学分野との共同研究によって、食欲抑制薬マジンドールが脳内ドーパミン放出を増加させること、およびナルコレプシー治療薬モダフィニルがドーパミントランスポーターを阻害することを、陽電子断層撮像法(PET)を用いてヒト生体脳で明らかにした。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Funayama T<sup>1)</sup>, Ikeda Y, Tateno A<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>3)</sup>, Okubo Y<sup>2)</sup>, Fukayama H<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Anesthesiology and Clinical Physiology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, 2) Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University) : Modafinil augments brain activation associated with reward anticipation in the nucleus accumbens. *Psychopharmacology* 2014 ; 231 (16) : 3217-3228.
- 2) Ito T<sup>1)</sup>, Wu D<sup>2)</sup>, Marutani T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Suzuki H, Shimojo S<sup>2)</sup>, Matsuda T<sup>1)</sup> (1) Brain Science Institute, Tamagawa University, 2) Division of Biology/Option Representative, Computation and Neural Systems, California Institute of Technology) : Changing the mind? Not really-activity and connectivity in the caudate correlates with changes of choice. *Social Cognitive & Affective Neuroscience* 2014 ; 9 (10) : 1546-1551.
- 3) Ogawa K<sup>1,2)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Arakawa R<sup>1,3)</sup>, Sakayori T<sup>1)</sup>, Ikeda Y, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Yowa Hospital, 3) Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry) : Occupancy of serotonin transporter by tramadol : a positron emission tomography study with [<sup>11</sup>C] DASB. *International Journal of Neuropsychopharmacology* 2014 ; 17 (6) : 845-850.
- 4) Kim W<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Arakawa R<sup>1,2)</sup>, Sakayori T<sup>1)</sup>, Ikeda Y, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry) : In vivo activity of modafinil on dopamine transporter measured with positron emission tomography and [<sup>18</sup>F] FE-PE2I. *International Journal of Neuropsychopharmacology* 2014 ; 17 (5) : 697-703.
- 5) Shingai Y<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Arakawa R<sup>1,2)</sup>, Sakayori T<sup>1)</sup>, Kim W<sup>1)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry) : Age-related decline in dopamine transporter in human brain using PET with a new radioligand [<sup>18</sup>F] FE-PE2I. *Annals of Nuclear Medicine* 2014 ; 28 (3) : 220-226.
- 6) Sakayori T<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Arakawa R<sup>1,2)</sup>, Ikeda Y, Suzuki H, Okubo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry) : Effect of mazindol on extracellular dopamine concentration in human brain measured by PET. *Psychopharmacology* 2014 ; 231 (11) : 2321-2325.
- 7) Otsuki T<sup>1)</sup>, Kishikawa Y<sup>1)</sup>, Suzuki H, Ueki M<sup>1)</sup> (1) Anti-Doping Research Laboratory, Japan Chemical Analysis Center) : Structure-based comprehensive identification of erythropoiesis-stimulating agents and their biosimilars. *Forensic Toxicology* 2014 ; 32 (2) : 292-298.
- 8) Onouchi T<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>2)</sup>, Sakai K<sup>3)</sup>, Shimomura A<sup>1)</sup>, Smits R<sup>4)</sup>, Sumi-Ichinose C<sup>5)</sup>, Kurosumi M<sup>6)</sup>, Takao K<sup>7,8)</sup>, Nomura R<sup>1)</sup>, Iizuka-Kogo A<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Kondo K<sup>5)</sup>, Akiyama T<sup>9)</sup>, Miyakawa T<sup>7,8)</sup>, Fodde R<sup>10)</sup>, et al. (1) Department of Anatomy

- I, Fujita Health University School of Medicine, <sup>2)</sup> Japan Science and Technology Agency, Core Research for Evolutional Science and Technology, <sup>3)</sup> Department of Anatomy, Faculty of Clinical Engineering, Fujita Health University School of Health Sciences, <sup>4)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Erasmus Medical Center, <sup>5)</sup> Department of Pharmacology, Fujita Health University School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Saitama Cancer Center, <sup>7)</sup> Center for Genetic Analysis of Behavior, National Institute for Physiological Sciences, <sup>8)</sup> Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University, <sup>9)</sup> Laboratory of Molecular and Genetic Information, Institute for Molecular and Cellular Biosciences, University of Tokyo, <sup>10)</sup> Department of Pathology, Josephine Nefkens Institute, Erasmus Medical Center) : Targeted deletion of the C-terminus of the mouse adenomatous polyposis coli tumor suppressor results in neurologic phenotypes related to schizophrenia. *Molecular Brain* 2014 ; 7 : 21.
- 9) Shimpuku M<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Inamori M<sup>2)</sup>, Yamawaki H<sup>1)</sup>, Sato H<sup>1)</sup>, Kodaka Y<sup>1)</sup>, Nagoya H<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Kawagoe T<sup>1)</sup>, Saitow F, Suzuki H, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Gastroenterology Division, Yokohama City University Hospital) : Distinct associations between depression status and initial phase of gastric emptying in functional dyspepsia and healthy volunteers. *International Journal of Gastroenterology Disorders & Therapy* 2014 ; 1 : 106.
- 10) Mitoma H<sup>1)</sup>, Yoneda M<sup>2)</sup>, Saitow F, Suzuki H, Matsunaga A<sup>3)</sup>, Ikawa M<sup>3)</sup>, Mizusawa H<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Medical Education, Tokyo Medical University, <sup>2)</sup> Faculty of Nursing and Social Welfare Science, Fukui Prefectural University, <sup>3)</sup> Department of Neurology, University of Fukui Hospital, <sup>4)</sup> Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University) : Presynaptic dysfunction caused by cerebrospinal fluid from a patient with the ataxic form of Hashimoto's encephalopathy. *Neurology and Clinical Neuroscience* 2014 ; 2 (4) : 104-108.
- 11) Hayashi Y<sup>1)</sup>, Nabeshima Y<sup>1)</sup>, Kobayashi K, Miyakawa T<sup>1,2)</sup>, Tanda K<sup>1)</sup>, Takao K<sup>1,3)</sup>, Suzuki H, Esumi E<sup>4)</sup>, Noguchi S<sup>5)</sup>, Matsuda Y<sup>6,4)</sup>, Sasaoka T<sup>4)</sup>, Noda T<sup>7)</sup>, Miyazaki J<sup>8)</sup>, Mishina M<sup>9)</sup>, Funabiki K<sup>10)</sup>, et al. (<sup>1)</sup> Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Division of Systems Medical Science, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University, <sup>3)</sup> National Institute for Physiological Sciences, Center for Genetic Analysis of Behavior, <sup>4)</sup> National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>5)</sup> Meiji Institute of Research and Development, Meiji Milk Products Company Limited, <sup>6)</sup> Laboratory of Integrative Bioscience, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University, <sup>7)</sup> Department of Cell Biology, Japanese Foundation for Cancer Research, Cancer Institute, <sup>8)</sup> Department of Nutrition and Physiological Chemistry, Osaka University Medical School, <sup>9)</sup> Department of Molecular Neurobiology and Pharmacology, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, <sup>10)</sup> Osaka Bioscience Institutes) : Enhanced stability of hippocampal place representation caused by reduced magnesium block of NMDA receptors in the dentate gyrus. *Molecular Brain* 2014 ; 7 : 44.
- (2) 総説 :
- 1) Sakai A, Suzuki H : Emerging roles of microRNAs in chronic pain. *Neurochemistry International* 2014 ; 77 : 58-67.
- 2) Nagahara N<sup>1)</sup>, Nagano M, Ito T<sup>2)</sup>, Suzuki H (<sup>1)</sup> Isotope Research Center, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology and Experimental Medicine, Graduate School of Medical Science, Kumamoto University) : Chapter 13 : Redox Regulation of Mammalian 3-Mercaptopyruvate Sulfurtransferase. *Methods in Enzymology : Hydrogen Sulfide in Redox Biology, Part A* 2015 ; 554 : 229-254.

## 著 書

- 1) 鈴木秀典 : [編集幹事, 分担] 一過性運動と薬物動態. スポーツにおける薬物治療 : 処方と服薬指導 (日本臨床スポーツ医学会 學術委員会), 2014 ; pp2-7, オーム社.
- 2) 小林克典 : [分担] 抗うつ作用を担う海馬神経可塑性の解析. *ブレインサイエンス・レビュー* 2015 (廣川信隆), 2015 ; pp125-143, クバプロ.

## 学会発表

- (1) 教育講演 :
- 1) 鈴木秀典 : ドーピング検査の現状と将来. 生物試料分析科学会年次学術集会 (第 25 回) (文京学院大学), 2015. 2.
- (2) シンポジウム :
- 1) Suzuki H, Sakai A : MicroRNA and CNS disorders : Role of microRNAs in neuropathic pain. The 12th Meeting of The Asian-Pacific Society for Neurochemistry (Kaohsiung (Taiwan)), 2014. 8.
- 2) 小林克典 : 大人の脳の若返り : 成体海馬神経細胞の機能的成熟の活動依存性制御. 日本神経科学大会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 9.
- 3) 坂井 敦 : 神経障害性疼痛に対する治療標的としてのマイクロ RNA の可能性. 薬力学研究会学術講演会 (東京医科歯科大学歯学部

特別講堂), 2015. 1.

(3) ワークショップ:

- 1) 齋藤文仁, 鈴木秀典: 背側縫線核セロトニン作動性ニューロンにおける GABA 作動性シナプスによる調節. 活性アミンに関するワークショップ (第 18 回) (香川県高松市), 2014. 8.

(4) 一般講演:

- 1) Sakai A, Miyake N<sup>1</sup>), Miyake K<sup>1</sup>), Shimada T<sup>1</sup>), Suzuki H ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School): miR-17-92 cluster upregulation contributes to intractable neuropathic pain. Cold Spring Harbor Laboratory Meeting: Regulatory & Non-Coding RNAs (State of New York, USA), 2014. 8.
- 2) Kusakari S<sup>1</sup>), Saitow F, Hashimoto M<sup>2</sup>), Matsuzaki Y<sup>3</sup>), Kotani T<sup>4</sup>), Murata Y<sup>4</sup>), Hirai H<sup>3</sup>), Suzuki H, Matozaki T<sup>4</sup>), Ohnishi H<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup> Laboratory of Biosignal Sciences, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University, <sup>2</sup> Department of Laboratory Sciences, Gunma University Graduate School of Health Sciences, <sup>3</sup> Department of Neurophysiology, Gunma University Graduate School of Medicine, <sup>4</sup> Division of Molecular and Cellular Signaling, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Kobe University Graduate School of Medicine): Functional analysis of protein tyrosine phosphatase Shp2 in post-mitotic neurons. International Conference on Protein Phosphatase (11th) (Tohoku university), 2014. 11.
- 3) Satoh H, Saitow F, Suzuki H: Novel form of depolarization-induced depression of GABAergic IPSCs in the Purkinje cells. Neuroscience 2014, the Society for Neuroscience's 44th annual meeting (Washington D.C., USA), 2014. 11.
- 4) 坂井 敦, 三宅紀子<sup>1</sup>), 三宅弘一<sup>1</sup>), 島田 隆<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大・生化・分子生物): 一次感覚神経において神経障害性疼痛特異的に発現変化するマイクロ RNA の解析. 日本疼痛学会 (第 36 回) (KKR ホテル大阪), 2014. 6.
- 5) 井本有基<sup>1</sup>), 西谷直也<sup>2</sup>), 永安一樹<sup>2</sup>), 中川貴之<sup>2</sup>), 金子周司<sup>2</sup>), 小林克典<sup>3</sup>), 瀬木 (西田) 恵里<sup>4</sup>) ( <sup>1</sup> 京都大院・薬・生体情報制御, <sup>2</sup> 京都大院・薬・生体機能解析, <sup>3</sup> 科学技術振興機構・CREST, <sup>4</sup> 京都大院・薬・統合薬学教育開発センター): 抗うつ薬 SSRI 投与による海馬歯状回の神経新生促進作用における 5-HT<sub>4</sub> 受容体の役割. 日本神経科学大会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 9.
- 6) 大西浩史<sup>1</sup>), 草苺伸也<sup>2</sup>), 齋藤文仁, 橋本美穂<sup>1</sup>), 松崎泰教<sup>3</sup>), 小谷武徳<sup>4</sup>), 村田陽二<sup>4</sup>), 平井宏和<sup>3</sup>), 鈴木秀典, 的崎 尚<sup>4</sup>) ( <sup>1</sup> 群馬大院・保健・生体情報, <sup>2</sup> 群馬大・生体調節研・バイオシグナル, <sup>3</sup> 群馬大院・医・神経生理, <sup>4</sup> 神戸大院・医・シグナル統合): 成熟前脳神経細胞におけるチロシン脱リン酸化酵素 Shp2 の機能解析. 日本神経科学大会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 9.
- 7) 坂井 敦, 三宅紀子<sup>1</sup>), 三宅弘一<sup>1</sup>), 島田 隆<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大・生化・分子生物): 神経障害性疼痛に対する miR-17-92 クラスターの関与. 日本神経科学大会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 9.
- 8) 池田裕美子, 船山拓也<sup>1</sup>), 館野 周<sup>2</sup>), 高橋英彦<sup>3</sup>), 大久保善朗<sup>2</sup>), 深山治久<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 東京医歯大院・医歯・麻酔生体管理, <sup>2</sup> 日本医科大院・医・精神行動, <sup>3</sup> 京都大院・医・精神): 健常者へのプロピオン投与によって側坐核での報酬機能が增强される. 日本神経科学大会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 9.
- 9) 坂井 敦, 三宅紀子<sup>1</sup>), 三宅弘一<sup>1</sup>), 島田 隆<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大・生化・分子生物): 一次感覚神経における miR-17-92 クラスターの痛覚及び軸索伸長への影響. 日本分子生物学会年会 (第 37 回) (パシフィコ横浜), 2014. 11.
- 10) 中山亜紀<sup>1</sup>), 荒井勇輝<sup>1</sup>), 増川陽大<sup>1</sup>), 御園生圭太<sup>1</sup>), 木明琢磨<sup>1</sup>), 荒木勇磨<sup>1</sup>), 片山 映<sup>2</sup>), 鈴木秀典, 飯島史朗<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> 文京学院大学, <sup>2</sup> 日本医科大学・生化学・分子生物学): 健常人尿中エクソソームタンパク質の基礎的解析 3. 生物試料分析学会年次学術集会 (第 25 回) (文京学院大学), 2015. 2.
- 11) 荒井勇輝<sup>1</sup>), 中山亜紀<sup>1</sup>), 荒木勇磨<sup>1</sup>), 木明琢磨<sup>1</sup>), 御園生圭太<sup>1</sup>), 増川陽大<sup>1</sup>), 片山 映<sup>2</sup>), 鈴木秀典, 飯島史朗<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> 文京学院大学, <sup>2</sup> 日本医科大学・生化学・分子生物学): 健常人尿中エクソソームタンパク質量の日内変動に関する基礎的解析. 生物試料分析学会年次学術集会 (第 25 回) (文京学院大学), 2015. 2.
- 12) 坂井 敦, 三宅紀子<sup>1</sup>), 三宅弘一<sup>1</sup>), 島田 隆<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大・生化・分子生物): 神経障害性疼痛及び軸索伸長に対する miR-17-92 クラスターの関与. 日本薬理学会年会 (第 88 回) (名古屋国際会議場), 2015. 3.
- 13) 池田裕美子, 鈴木秀典: 多量飲酒者の報酬および抑制機能に関する fMRI 研究. 日本薬理学会年会 (第 88 回) (名古屋国際会議場), 2015. 3.
- 14) 丸山基世<sup>1</sup>), 坂井 敦, 秋元敏雄<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大・実験動物管理): TRPV3 遺伝子機能獲得型変異ラットにおける痛覚行動解析. 日本薬理学会年会 (第 88 回) (名古屋国際会議場), 2015. 3.
- 15) 重盛朋子<sup>1</sup>), 坂井 敦, 内匠 透<sup>2</sup>), 伊藤保彦<sup>1</sup>), 鈴木秀典 ( <sup>1</sup> 日医大院・医・小児科学, <sup>2</sup> 理研・BSI): 染色体重複自閉症モデルマウスにおける周産期ミノサイクリン投与による扁桃体ミクログリアと不安行動への効果. 日本薬理学会年会 (第 88 回) (名古屋国際会議場), 2015. 3.
- 16) 齋藤文仁, 鈴木秀典: 背側縫線核セロトニン神経細胞における GABA シナプス伝達のコリン作動性修飾. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 120 回) 日本生理学会大会 (第 92 回) (神戸国際会議場), 2015. 3.

(5) ミニシンポジウム:

- 1) 小林克典: 海馬歯状回の遺伝子発現が制御する精神神経機能: 成体歯状回における活動依存性の神経成熟制御. 日本薬理学会年会



(第 88 回) (名古屋国際会議場), 2015. 3.

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) Kageyama S<sup>1)</sup>, Hirai C<sup>2)</sup>, Okano M<sup>1)</sup>, Asakawa S<sup>2)</sup>, Ikekita A<sup>1)</sup>, Akama T<sup>2)</sup>, Suzuki H ( <sup>1)</sup> Anti-Doping Laboratory, Mitsubishi Chemical Medience Corporation, <sup>2)</sup> Japan Anti-Doping Agency) : Strategy for selecting testosterone doping in Japan : The 1st year. Proceedings of the Manfred Donike Workshop 31th Cologne Workshop on Dope Analysis (Köln (Germany)), 2013. 2.

## 8. 解析人体病理学分野

### 研究概要

基礎研究として、腎、肺、婦人科、移植、消化器の病理を中心に行われた。腎では腎臓の骨髄移植後急性 GVHD、ANCA 関連血管炎の進展機序、糸球体疾患の IV 型コラーゲン  $\alpha$  鎖染色や低真空走査顕微鏡による係蹄基底膜障害の同定、菲薄基底膜病に見られる係蹄壁障害、腎局在樹状細胞の応答性、糸球体上皮細胞特異的 SIRT1 ノックアウト、多重染色フローサイトメトリー法を用いた腎炎症性疾患の病態解析、PPAR  $\gamma$  アゴニストによるマクロファージのインフラマソーム活性化抑制効果、肺では抗酸化力を利用した水素分子治療、肺傷害と survivin の動態、間質性肺炎の線維化巣の血管新生と IV 型コラーゲンや IV 型コラーゲン関連血管新生抑制因子など。婦人科では、子宮ポリープ状異型腺筋腫と子宮頸癌の survivin 発現など、移植ではラット肝臓移植モデルを用いた移植肝臓の免疫寛容獲得の機序とバイオマーカーの同定、実験的臓器移植（心臓、腎臓、脾臓）の長期生着や免疫寛容、自然抗原ノックアウトブタなど、消化器では、大腸癌における ErbB1-4 と heregulin など報告された。他大学や研究施設との共同研究も盛んに行われ、報告としてまとめられた。診断病理学に関しては、厚労省研究班 IgA 腎症前向きコホート研究、腎病理診断書の質や腎生検に有用な免疫染色、ネフローゼ症候群、巣状分節性糸球体硬化症、膜性増殖性糸球体腎炎、播種性血管内凝固症候群、造血幹細胞移植後 TMA、菲薄基底膜病、紫斑病性腎炎、IgG4 関連疾患、顕微鏡的多発血管炎、原発性胆汁性肝硬変に合併した腎疾患、IgA 腎症への扁桃摘除療法や慢性上咽頭炎加療、自己免疫性肺蛋白症、気腫合併肺線維症、肝細胞癌肺転移、帝王切開癒痕部妊娠、子宮頸部中腎管癌、境界悪性類内膜腫瘍、子宮頸部乳頭状扁平上皮癌などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会が行われ、報告としてまとめられた。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Higo S, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Kajimoto Y, Kanzaki G, Fukui M<sup>1)</sup>, Nagahama K, Mii A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Department of Internal Medicine) : Acute Graft-Versus-Host disease of the kidney in allogeneic rat bone marrow transplantation. *PLoS One* 2014 ; 9 (12) : e115399.
- 2) Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishii H<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Shimizu A (1) Division of Diagnostic Pathology, 2) Pathology and integrative oncological pathology) : Morphological spectrum of renal pathology and its correlation to clinical features in patients with disseminated intravascular coagulation : A study involving a series of 21 autopsy cases. *Pathol Int* 2014 ; 64 (9) : 443-52.
- 3) Scalea J<sup>1)</sup>, Okumi M<sup>1)</sup>, Villan V<sup>1)</sup>, Shimizu A, Nishimura H<sup>1)</sup>, Gillon B<sup>1)</sup>, Torabi R<sup>1)</sup>, Cormack T<sup>1)</sup>, Moran S<sup>1)</sup>, Leguern C<sup>1)</sup>, Sachs D<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Abrogation of renal allograft tolerance in MGH miniature swine : the role of intra-graft and peripheral factors in long-term tolerance. *Am J Transplant* 2014 ; 14 (9) : 2001-10.
- 4) Scalea J<sup>1)</sup>, Torabi R<sup>1)</sup>, Tena A<sup>1)</sup>, Tasaki M<sup>1)</sup>, Gillon B<sup>1)</sup>, Moran S<sup>1)</sup>, Cormack T<sup>1)</sup>, Villani V<sup>1)</sup>, Shimizu A, Sachs D<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : The rejuvenating effects of leuprolide acetate on the aged baboon's thymus. *Transpl Immunol* 2014 ; 31 (3) : 134-9.
- 5) Yamada K<sup>1)</sup>, Tasaki M<sup>1)</sup>, Sekijima M<sup>1)</sup>, Wilkinson R<sup>1)</sup>, Villani V<sup>1)</sup>, Moran S<sup>1)</sup>, Cormack T<sup>1)</sup>, Hanekamp I<sup>1)</sup>, Arn J<sup>1)</sup>, Fishman J<sup>1)</sup>, Shimizu A, Sachs D<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Porcine cytomegalovirus infection is associated with early rejection of kidney grafts in a pig to baboon xenotransplantation model. *Transplantation* 2014 ; 98 (4) : 411-8.
- 6) Sekijima M<sup>1)</sup>, Waki S<sup>1)</sup>, Sahara H<sup>1)</sup>, Tasaki M<sup>1)</sup>, Wilkinson R<sup>1)</sup>, Villani V<sup>1)</sup>, Shimatsu Y<sup>1)</sup>, Nakano K<sup>1)</sup>, Matsunari H<sup>1)</sup>, Nagashima H<sup>1)</sup>, Fishman J<sup>1)</sup>, Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Results of life-supporting galactosyltransferase knockout kidneys in cynomolgus monkeys using two different sources of galactosyltransferase knockout Swine. *Transplantation* 2014 ; 98 (4) : 419-26.
- 7) Miura K<sup>1)</sup>, Sahara H<sup>1)</sup>, Sekijima M<sup>1)</sup>, Kawai A<sup>1)</sup>, Waki S<sup>1)</sup>, Nishimura H<sup>1)</sup>, Setoyama K<sup>1)</sup>, Clayman E<sup>1)</sup>, Shimizu A, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Protective effect of neutralization of the extracellular high-mobility group box 1 on renal ischemia-reperfusion injury in miniature swine. *Transplantation* 2014 ; 98 (9) : 937-43.
- 8) Tasaki M<sup>1)</sup>, Shimizu A, Hanekamp I<sup>1)</sup>, Torabi R<sup>1)</sup>, Villani V<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (1) Transplantation Biology Research Center Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Rituximab treatment prevents the early development of proteinuria following pig-to-baboon xeno-kidney transplantation. *J Am Soc Nephrol* 2014 ; 25 (4) : 737-44.

- 9) Fujita E<sup>1)</sup>, Nagahama K, Shimizu A, Aoki M, Higo S, Yasuda F<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Fukui M<sup>1)</sup>, Kaeko T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology): Glomerular capillary and endothelial cell injury is associated with the formation of necrotizing and crescentic lesions in crescentic glomerulonephritis. *J Nippon Med Sch* 2015; 82 (1) : 27-35.
- 10) Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A, Shinji S<sup>2)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterology, 2) Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery): Localization of phosphorylated ErbB1-4 and heregulin in colorectal cancer. *BMC Cancer* 2014; 14 : 863.
- (2) 総説 :
- 1) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 付属病院腎臓内科): 特集: TTP/HUS/aHUS TMA (HUS/TTP を含む) の病理組織 Renal pathology of thrombotic microangiopathy. *日腎会誌* 2014; 56 (7) : 1031-1042.
  - 2) 神崎 剛, 清水 章: 特集: 腎のたまり病 アミロイド以外の蛋白由来物質が蓄積する疾患 軽鎖沈着症・重鎖沈着症の診断と最新の進歩. *腎と透析* 2014; 77 (2) : 171-178.
  - 3) 神崎 剛, 清水 章: 特集: 腎移植にかかわる医療従事者の役割と最新の知識 医療従事者の役割 病理医の役割. *腎と透析* 2015; 78 (1) : 35-38.
  - 4) 長濱清隆, 清水 章: 特集: 腎臓にとっての脂質とは何なのだろう 脂質異常に伴う腎の組織変化. *腎と透析* 2015; 77 (3) : 315-320.
  - 5) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 付属病院腎臓内科): 特集: AKI 診療の進歩 組織病理診断. *腎と透析* 2014; 76 (4) : 508-514.
  - 6) 長濱清隆, 清水 章: 特集: 新たな腎臓病の知識・治療 最新の知識 膜性腎症の最新の知識 (PLA2R). *成人病と生活習慣病* 2015; 45 (1) : 42-46.
  - 7) 長濱清隆, 清水 章: Cardio-Renal Diabetes 糖尿病性腎症カラーアトラス. *メディカルレビュー社* 2014; 3 (3) : 4-7.
  - 8) 寺崎泰弘, 福田 悠: 特発性間質性肺炎の鑑別診断のポイント. *間質性肺炎診断マニュアル 改訂第2版 II-C* 2014; 2014 : 78-83.
  - 9) 寺崎泰弘: 肺・非腫瘍性疾患 (肺疾患の立体的理解に向けて) II: 間質性肺炎以外の非腫瘍性疾患 リンパ増殖性肺疾患. *病理と臨床* 2014; 32 (10) : 1109-1116.
  - 10) 寺崎泰弘, 漆山博和, 福田 悠<sup>1)</sup> (1) 板橋中央総合病院病理診断科): ATS/ERS 2013 IIPs 分類と今後の課題 病理学的な概説と今後の課題. *日本胸部臨床* 2014; 73 (11) : 1295-1306.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 寺崎泰弘, 國保成暁, 漆山博和, 寺崎美佳, 功刀しのぶ, 丸山基世<sup>1)</sup>, 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 金澤 智<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学実験動物管理室, 2) 名古屋市立大学大学院細胞分子生物学): DICC マウスリウマチモデルの肺病変の病理形態学的に解析と高濃度水素分子 (H<sub>2</sub>) 水飲水の病変に対する効果. *びまん性肺疾患に関する調査研究 平成 26 年度研究報告書* 2015; 2015 : 115-122.
- (4) 症例報告 :
- 1) Watanabe H<sup>1)</sup>, Osawa Y<sup>2)</sup>, Goto S<sup>1)</sup>, Habuka M<sup>1)</sup>, Imai N<sup>1)</sup>, Ito Y<sup>1)</sup>, Hirose T<sup>3)</sup>, Chou T<sup>3)</sup>, Ohashi R<sup>4)</sup>, Shimizu A, Ehara T<sup>5)</sup>, Shimotori T<sup>2)</sup>, Narita I<sup>1)</sup> (1) Division of Clinical Nephrology and Rheumatology, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 2) Department of Internal Medicine, Niigata Rinko Hospital, 3) Department of Internal Medicine, Niigata Cancer Center Hospital, Niigata, 4) Division of Diagnostic Pathology, 5) Graduate School of Health Sciences, Department of Health and Sport Science, Matsumoto University, Matsumoto): A case of endocapillary proliferative glomerulonephritis with macrophages phagocytosing monoclonal immunoglobulin lambda light chain. *Pathology International* 2015; 65 (1) : 38-42.
  - 2) Ohno D<sup>1)</sup>, Sakai Y<sup>1)</sup>, Suuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimizu A, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Musashikosugi Hospital, 2) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology): Dense deposit disease in an elderly patient : report of a case. *J Nippon Med Sch.* 2014; 81 (3) : 120-121.
  - 3) Matsuda Y<sup>1, 2)</sup>, Yoshimura H<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Murai K<sup>3)</sup>, Honma H<sup>3)</sup>, Ohhashi R<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup> (1) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, 2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 3) Department of Cardiovascular Internal Medicine, 4) Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital): Aortic squamous metaplasia in a patient with aorto-esophageal fistula secondary to thoracic aortic aneurysm : An autopsy case. *Pathol Int* 2014; 64 (4) : 173-177.

## 著 書

- 1) Shimizu A, Kanzaki G : [分担] Xenotransplantation. *Pathobiology of Human Di* (Linda M, McManus, Richard N. Mitchell), 2014 ; pp665-675. Elsevier.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 松原美幸<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup> (1) 付属病院病理部, 2) 帝京大学医学部付属溝の口病院病理診断科)：非腫瘍性呼吸器疾患の細胞診：炎症性疾患を中心として. 日本臨床細胞学会 (第 55 回), 2014. 6.

### (2) ワークショップ：

- 1) 清水 章：診断書の質を規定するもの. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.

### (3) 一般講演：

- 1) 漆山博和, 寺崎泰弘, 永坂真也, 寺崎美佳, 功刀しのぶ, 益田幸成, 福田 悠<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 板橋中央総合病院病理診断科)：IV 型コラーゲン関連血管新生抑制因子の線維芽細胞遊走への影響と間質性肺炎早期線維化巣での発現の解析. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 2) 寺崎泰弘, 大澤郁朗<sup>1)</sup>, 鈴木徹也<sup>1)</sup>, 渡名喜梢<sup>1)</sup>, 漆山博和, 寺崎美佳, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>2)</sup>, 清水 章 (1) 東京都健康医療長寿医療センター研究所 生体環境応答研究, 2) 板橋中央総合病院病理診断科)：高濃度水素水によるゲフィチニブの急性肺障害抑制. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 3) 神崎 剛, 永坂真也, 梶本雄介, 肥後清一郎, 益田幸成, 清水 章：MPO-ANCA 関連血管炎モデルにおける半月体形成の進展機序. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 4) 梶本雄介, 益田幸成, 肥後清一郎, 神崎 剛, 永坂真也, 清水 章：腎臓の菲薄基底膜病の臨床病理学的特徴. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 5) 片岡光枝, 新井孝司, 若松恭子, 石川吾利美, 桑原尚美, 益田幸成, 清水 章：腎生検に有用な免疫染色の確認. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 6) 益田幸成, 石川吾利美, 片岡光枝, 桑原尚美, 新井孝司, 清水 章：IgA 腎症における IV 型コラーゲン  $\alpha$  鎖 ( $\alpha 1\sim 6$  鎖) の検討. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 7) 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 若松恭子, 桑原尚美, 高橋美紀子, 永坂真也, 功刀しのぶ, 漆山博和, 野村俊一郎, 益田幸成, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 付属病院女性診療科・産科)：子宮ポリープ状異型腺筋腫 (atypical polypoid adenomyoma) および子宮頸癌における survivin 発現検討. 日本病理学会総会 (第 103 回), 2014. 4.
- 8) 庄司 昂<sup>1)</sup>, 永坂真也, 清水 章 (1) 医学部第 5 学年)：PPAR  $\gamma$  アゴニストによるマクロファージのインフラマソーム活性化抑制効果の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回), 2014. 9.
- 9) 神崎 剛, 永坂真也, 梶本雄介, 肥後清一郎, 益田幸成, 清水 章：MPO-ANCA 関連血管炎モデルにおける糸球体腎炎の増悪機序. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回), 2014. 9.
- 10) 梶本雄介, 肥後清一郎, 神崎 剛, 永坂真也, 益田幸成, 清水 章：菲薄基底膜病の臨床病理学的特徴. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回), 2014. 9.
- 11) 清水 章, 鎌野千佐子<sup>1)</sup>, 久野 敏<sup>2)</sup>, 片渕律子<sup>3)</sup>, 橋口明典<sup>4)</sup>, 川村哲也<sup>5)</sup>, 城 謙輔<sup>6)</sup> (1) 博慈会病院腎クリニック, 2) 福岡大学医学部病理, 3) 国立病院機構福岡東医療センター腎臓内科, 4) 慶応義塾大学医学部病理, 5) 東京慈恵会医科大学病院腎臓高血圧内科, 6) 仙台社会保険病院病理)：厚労省研究班 IgA 腎症前向きコホート研究：臨床病理相関に関する横断的研究. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 12) 久野敏之<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>2)</sup>, 片渕律子<sup>3)</sup>, 清水 章, 橋口明典<sup>4)</sup>, 川村哲也<sup>5)</sup> (1) 福岡大学医学部病理, 2) 仙台社会保険病院病理部, 3) 国立病院機構福岡東医療センター, 4) 慶応義塾大学医学部病理, 5) 東京慈恵会医科大学病院腎臓高血圧内科)：厚労省研究班 IgA 腎症前向きコホート研究：IgA 腎症の Oxford 分類および組織学的重症度分類の再現性. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 13) 橋口明典<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>2)</sup>, 久野 敏<sup>3)</sup>, 清水 章, 片渕律子<sup>4)</sup>, 川村哲也<sup>5)</sup> (1) 慶応義塾大学医学部病理, 2) 仙台社会保険病院病理部, 3) 福岡大学医学部病理, 4) 国立病院機構福岡東医療センター腎臓内科, 5) 東京慈恵会医科大学病院腎臓高血圧内科)：臨床情報との関連から見た日本分類と Oxford 分類の比較：前向き研究 411 例の検証. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 14) 岩堀 徹<sup>1)</sup>, 城島嘉磨<sup>1)</sup>, 江崎真我<sup>1)</sup>, 江崎昌俊<sup>1)</sup>, 新井桃子<sup>2)</sup>, 福井めぐみ<sup>2)</sup>, 金子朋広<sup>2)</sup>, 鶴岡秀一<sup>2)</sup>, 永坂真也, 清水 章, 奥村康<sup>3)</sup> (1) 幸有会記念病院腎・免疫内科, 2) 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 3) 順天堂大学医学部アトピー疾患研究センター)：多重染色フローサイトメトリー法 (PFC) を用いた IgA 腎症扁桃前後における末梢血免疫細胞解析. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 15) 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 清水 章, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：巣状糸球体硬化症における糸球体内皮細胞傷害. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 16) 片渕律子<sup>1)</sup>, 橋口明典<sup>2)</sup>, 久野 敏<sup>3)</sup>, 清水 章, 永田雅治<sup>4)</sup>, 川村哲也<sup>5)</sup>, 城 謙輔<sup>6)</sup> (1) 国立病院機構福岡東医療センター腎臓内科, 2) 慶応義塾大学医学部病理, 3) 福岡大学医学部病理, 4) 九州大学医学部形態機能内科, 5) 東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, 6) 仙台社会保険病院病理部)：厚労省研究班 IgA 腎症前向きコホート研究病理解析：病変と治療反応性. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.

- 17) 神崎 剛, 永坂真也, 肥後清一郎, 梶本雄介, 益田幸成, 清水 章 : MPO-ANCA 関連血管炎モデルにおける半月体形成の進展機序. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 18) 永坂真也, 岩堀 徹<sup>1)</sup>, 肥後清一郎, 神崎 剛, 梶本雄介, 益田幸成, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 幸有会記念病院腎・免疫内科) : 腎局在樹状細胞の表現型解析. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 19) 本西秀太<sup>1)</sup>, 南学正臣<sup>1)</sup>, 和田健彦<sup>1)</sup>, 石本 遊<sup>1)</sup>, 松阪泰二<sup>2)</sup>, 清水 章, 稲城玲子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学腎臓内分泌内科, <sup>2)</sup> 東海大学腎臓内分泌代謝内科, <sup>3)</sup> 東京大学 CKD 病態生理学) : SIRT1 は podocyte において cortactin を脱アセチル化しアクチン細胞骨格を制御する. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 20) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章, 金子朋広<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 造血幹細胞移植後の腎血管性微小血管症 (TMA) と移植片対宿主病 (GVHD) の関与. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回), 2014. 7.
- 21) 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 渡辺容子<sup>1)</sup>, 宮本大資<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 清水 章, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : ギランバレー症候群を併発したネフローゼ症候群の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 22) 中村恭菜<sup>1)</sup>, 吉田泰子<sup>1)</sup>, 竹村浩至<sup>1)</sup>, 清水 章, 高野秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科) : IgG4 関連疾患との鑑別が重要であった顕微鏡的多発血管炎の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 23) 東原崇明<sup>1)</sup>, 吉田泰子<sup>1)</sup>, 中村恭菜<sup>1)</sup>, 竹村浩至<sup>1)</sup>, 清水 章, 高野秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科) : 原発性胆汁性肝硬変に合併した腎疾患に対し, ステロイドが有効だった 2 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 24) 竹村浩至<sup>1)</sup>, 吉田泰子<sup>1)</sup>, 清水 章, 高野秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科) : ネフローゼ症候群が自然寛解した後に急速進行性糸球体腎炎を来し診断されたループス腎炎の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 25) 宮本大資<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 清水 章, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 重症心不全を呈した男性の SLE の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 26) 金子朋広<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 渡辺容子<sup>1)</sup>, 清水 章, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 乾癆性関節炎を合併した IgA 腎症に対し, 扁桃摘除療法に加え慢性上咽頭炎加療が有効であった 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 27) 吉田泰子<sup>1)</sup>, 竹村浩至<sup>1)</sup>, 益田幸成, 清水 章, 高野秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科) : PSL に CsA を追加投与しネフローゼ症候群が改善した HSP の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 28) 竹村浩至<sup>1)</sup>, 吉田泰子<sup>1)</sup>, 南学正臣<sup>2)</sup>, 清水 章, 高野秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科) : 悪性リンパ腫に対する Gemcitabine の投与に伴い非典型的溶血性尿毒症症候群 (aHUS) を生じた 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 29) 山田剛久<sup>1)</sup>, 柏木哲也<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 付属千葉北総病院腎臓内科) : 当院で経験した tip variant の 2 症例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 30) 山田祥子<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 清水 章, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院内科神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : 高安動脈炎に膜性増殖性糸球体様腎炎様病変を呈した 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回), 2014. 10.
- 31) Masuda Y, Nagahama K, Shimizu A : Morphological and qualitative alterations of glomerular basement membrane in IgA nephropathy. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 32) Yasuda F<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Fukui M<sup>1)</sup>, Masuda Y, Tsuruoka S<sup>1)</sup>, Shimizu A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Quantity and quality of nodular sclerosis (Kimmelstiel - Wilson Lesion) is important in the evaluation of diabetic nephropathy. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 33) Sakai Y<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Sukegawa Y<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimizu A, Tsuruoka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : A case of the primary membranous nephropathy with the necrotizing cellular crescent. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 34) Kajimoto Y, Higo S, Kanzaki G, Nagasaka S, Nagahama K, Masuda Y, Tsuruoka S<sup>1)</sup>, Shimizu A ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Glomerular basement membrane injuries in thin basement membrane disease. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 35) Kanzaki G, Nagasaka S, Higo S, Kajimoto Y, Nagahama K, Masuda Y, Shimizu A : Enhanced glomerular neutrophil chemoattractants expression in experimental ANCA associated vasculitis. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 36) Motonishi S<sup>1)</sup>, Nangaku M<sup>1)</sup>, Wada T<sup>1)</sup>, Ishimoto T<sup>1)</sup>, Matsusaka T<sup>2)</sup>, Shimizu A, Inagi R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology, Tokyo University, <sup>2)</sup> Department of Nephrology, Tokai University) : SIRT1 maintains actin cytoskeleton by deacetylation of cortactin in podocytes. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 37) Higo S, Shimizu A, Masuda Y, Nagasaka S, Kajimoto Y, Kanzaki G, Fukui M<sup>1)</sup>, Nagahama K, Mii A<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : The histopathological investigation of kidney in acute graft-versus-host disease after allogeneic rat bone marrow transplantation. ASN Kidney Week 2014 (Philadel-

- phia), 2014. 11.
- 38) Fukui M<sup>1</sup>, Mii A<sup>1</sup>, Masuda Y, Shimizu A, Tsuruoka S<sup>1</sup> (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Glomerular endothelial cell injury in focal segmental glomerulosclerosis. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 39) Fukui M<sup>1</sup>, Mii A<sup>1</sup>, Shimizu A, Tsuruoka S<sup>1</sup> (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Glomerular endothelial cell injury and focal segmental glomerulosclerosis lesion in idiopathic membranous nephropathy. ASN Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 40) 杉田洋佑<sup>1</sup>, 米山剛一<sup>1</sup>, 米澤美令<sup>1</sup>, 白井有香<sup>1</sup>, 渡邊建一郎<sup>1</sup>, 大内 望<sup>1</sup>, 桑原慶充<sup>1</sup>, 寺崎美佳, 竹下俊行<sup>1</sup> (1) 附属病院 女性診療科・産科) : 子宮峡部に胎嚢を認め帝王切開癒痕部妊娠との鑑別が困難であった1例. 関東連合産婦人科学会 (127回), 2014. 6.
- 41) 内山美穂子<sup>1</sup>, 米山剛一<sup>1</sup>, 加藤雅彦<sup>1</sup>, 川瀬里衣子<sup>1</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1</sup>, 寺崎美佳, 彭 為霞<sup>2</sup>, 石井英昭<sup>3</sup>, 大橋隆治<sup>3</sup>, 内藤善哉<sup>2</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup> (1) 附属病院 女性診療科・産科, 2) 病理学統御機構・腫瘍学病理, 3) 附属病院病理診断科) : 偶発的に発見された子宮頸部中腎管癌の1例. 関東連合産婦人科学会 (127回), 2014. 6.
- 42) 飯田朝子<sup>1</sup>, 米山剛一<sup>1</sup>, 川瀬里衣子<sup>1</sup>, 岩崎奈央<sup>1</sup>, 加藤雅彦<sup>1</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1</sup>, 山本晃人<sup>1</sup>, 鴨井青龍<sup>1</sup>, 土居大祐<sup>1</sup>, 寺崎美佳, 大橋隆治<sup>2</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup> (1) 附属病院 女性診療科・産科, 2) 附属病院病理診断科) : 卵巣子宮内膜症に合併した境界悪性類内膜腫瘍の1例. 関東連合産婦人科学会 (127回), 2014. 6.
- 43) 米山剛一<sup>1</sup>, 飯田朝子<sup>1</sup>, 川瀬里衣子<sup>1</sup>, 岩崎奈央<sup>1</sup>, 加藤雅彦<sup>1</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1</sup>, 寺崎美佳, 大橋隆治<sup>2</sup>, 山本晃人<sup>1</sup>, 山田 隆<sup>1</sup>, 鴨居青龍<sup>2</sup>, 土居大祐<sup>1</sup>, 朝倉啓文<sup>1</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup> (1) 附属病院 女性診療科・産科, 2) 附属病院病理診断科) : 病理診断に苦慮した境界悪性類内膜腫瘍の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (56回), 2014. 7.
- 44) 米山剛一<sup>1</sup>, 川瀬里衣子<sup>1</sup>, 高屋 茜<sup>1</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1</sup>, 寺崎美佳 (1) 附属病院 女性診療科・産科) : 子宮頸部乳頭状扁平上皮癌の1例. 日本臨床細胞学会 (55回), 2014. 6.
- 45) 武村民子<sup>1</sup>, 蛇澤 晶<sup>2</sup>, 寺崎泰弘, 小橋陽一郎<sup>3</sup>, 村上知之<sup>4</sup>, 熊坂利夫<sup>1</sup>, 田畑和宏<sup>5</sup>, 福岡順也<sup>5</sup>, 藤井丈士<sup>6</sup>, 河端美則<sup>7</sup>, 小倉高志<sup>8</sup> (1) 日本赤十字社医療センター病理部, 2) NHO 東京病院研究検査科, 3) 天理よろづ相談所病院病理, 4) NHO 関門医療センター病理, 5) 長崎大学大学院病態病理, 6) 虎の門病院病理部, 7) 埼玉県立循環器呼吸器病センター病理, 8) 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科) : 気腫合併肺線維症の病理組織学的検討 : 分類不能型間質性肺炎に焦点をあてて. 日本病理学会総会 (第103回), 2014. 4.
- 46) 清水理光<sup>1</sup>, 三浦由記子<sup>1</sup>, 根井貴仁<sup>1</sup>, 林 宏紀<sup>1</sup>, 国保成暁, 功刀しのぶ, 寺崎泰弘, 齋藤好信<sup>1</sup>, 弦間昭彦<sup>1</sup>, 吾妻安良太<sup>1</sup> (1) 附属病院内科 呼吸器・感染・腫瘍部門) : ステロイド休薬と休業により自然軽快した自己免疫性肺胞蛋白症 (PAP) の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (121回), 2014. 11.
- 47) Terasaki Y, Suzuki T<sup>1</sup>, Ohsawa I<sup>1</sup>, Urushiyama H, Terasaki M, Takahashi M, Kunugi S, Ishikawa I, Kuwahara N, Kokuho N, Shimizu A (1) Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Hydrogen-supplemented drinking water protects against naphthalene-gefitinib induced lung injury from inflammation-associated oxidative stress. ATS (American Thoracic Society) International Conference (San Diego), 2014. 5.

## 学会発表

### 〔追加分〕

追加分一般講演 :

- 1) 竹内真吾<sup>1</sup>, 石角太一郎<sup>1</sup>, 井上達哉<sup>1</sup>, 飯島慶仁<sup>1</sup>, 揖斐孝之<sup>1</sup>, 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 白田実男<sup>1</sup> (1) 附属病院呼吸器外科) : 診断に苦慮した肝細胞癌肺転移の一切除例. 日本肺癌学会関東支部会 (第169回), 2014. 3.

## 9. 統御機構診断病理学分野

### 研究概要

統御機構診断病理学分野では、消化器癌などの腫瘍性疾患につき、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発やプロテオーム解析による診断・治療法選択に関わるバイオマーカーの探索を目指し研究している。1) 卵巣腫瘍のプロテオーム解析による診断や治療に関わるバイオマーカーの探索：婦人科領域の腫瘍である卵巣癌の明細胞癌で Cystatin B と Annexin A4 が高発現し、増殖進展に関連することを見出した。また、各種卵巣癌培養細胞を用い血清診断マーカーとしての可能性につき検討した。2) 消化器癌の肝細胞癌を用いたプロテオーム解析と診断や治療に関わるバイオマーカーの探索：病理組織標本パラフィン包埋組織からタンパク質を抽出、プロテオーム解析、タンパク質発現プロファイルを作成し、バイオマーカー候補タンパク質の同定を行っている。肝細胞癌では、ストレス応答に関連する PDIA3 などが、増殖進展、予後予測のバイオマーカーとなることを明らかにし、肝細胞癌培養細胞を用い増殖進展に関わる機序の解明を進めている。3) 種々の正常細胞や癌細胞における糖代謝や解糖系制御による細胞増殖や増殖抑制に関わるシグナル伝達系の変化とタンパク質や遺伝子発現制御に関わる検討を行っている。4) その他の研究：消化器腫瘍における増殖因子やその受容体の発現と機能解析のほか、消化管腫瘍、内分泌腫瘍や皮膚腫瘍における組織診断と鑑別診断に応用可能なタンパク質や遺伝子などについて、解析を進めている。今後も各種の腫瘍性疾患の有効な診断、腫瘍の進展制御や治療を目指し、日々の努力を重ねて行きたい。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Ohashi R<sup>1)</sup>, Ishii H<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1,2)</sup>, Shimizu A<sup>3)</sup> (1) Diagnostic Pathology, NMS hosp., 2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 3) Analytic Human Pathology) : Morphological spectrum of renal pathology and its correlation to clinical features in patients with disseminated intravascular coagulation : a study involving a series of 21 autopsy cases. *Pathol Int.* 2014 ; 64 (9) : 443-452.
- 2) Matsuda Y<sup>1,2)</sup>, Yoshimura H<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 3) Surgery for Organ and Biological Regulation) : Inhibition of fibroblast growth factor receptor 2 attenuates proliferation and invasion of pancreatic cancer. *Cancer Sci.* 2014 ; 105 (9) : 1212-1219.
- 3) Ohashi R<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>3)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Diagnostic Pathology, NMS hosp., 2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 3) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Downregulation of fibroblast growth factor receptor 2 and its isoforms correlates with a high proliferation rate and poor prognosis in high-grade glioma. *Oncol Rep.* 2014 ; 32 (3) : 1163-69.
- 4) Yoshimura H<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>1,2)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Simultaneous detection of different RNAs using a novel branched DNA in situ hybridization method. *J Nippon Med Sch.* 2014 ; 81 (2) : 62-63.
- 5) Matsuda Y<sup>1,2)</sup>, Yoshimura H<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>3)</sup>, Murai K<sup>4)</sup>, Honma H<sup>4)</sup>, Ohashi R<sup>5)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup> (1) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, 2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 3) Analytic Human Pathology, 4) Cardiovascular Internal Medicine, 5) Diagnostic Pathology, NMS hosp.) : Aortic squamous metaplasia in a patient with aortoesophageal fistula secondary to thoracic aortic aneurysm : an autopsy case. *Pathol Int.* 2014 ; 64 (4) : 173-7.
- 6) Narita K<sup>1,2)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Seike M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : Nestin regulates proliferation, migration, invasion and stemness of lung adenocarcinoma. *Int J Oncol.* 2014 ; 44 (4) : 1118-1130.
- 7) Takayama R<sup>1,2)</sup>, Ansai S<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>2)</sup>, Yamamoto T<sup>3)</sup>, Matsuda Y<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> (1) Department of Dermatology, 2) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Expression of lumican in hidroacanthoma simplex and clonal-type seborrheic keratosis as a potent differential diagnostic marker. *Am J Dermatopathol.* 2014 ; 36 (8) : 655-660.
- 8) Wada R<sup>1)</sup>, Yagihashi S<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology and Molecular Medicine, Graduate School of Medicine, Hirosaki University, Japan) : The Expression of Glucagon-Like Peptide-1 Receptor and Dipeptidyl Peptidase-IV in Neuroendocrine Neoplasms of the Pancreas and Gastrointestinal Tract. *Endocr Pathol.* 2014 ; 25 (4) : 390-396.
- 9) Yajima N<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Matsuzaki Y<sup>1)</sup>, Yagihashi S<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology, Hirosaki University School of Medicine) : DNA

damage response and its clinicopathological relationship in appendiceal tumors. Int J Colorectal Dis. 2014 ; 29 (11) : 1349-54.

(2) 症例報告 :

- 1) Kure S, Peng W, Kudo M, Matsubara M<sup>1)</sup>, Tsunoda T<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Pathology,NMS hosp., <sup>2)</sup> Department of Orthopedics) : Arare case of myxoid liposarcoma of the adult foot diagnosed using fine needle aspiration cytology (FNAC). Pathology and Laboratory Medicine International 2014 ; 2015 (7) : 1-5.
- 2) 高田英志<sup>1, 2)</sup>, 吉田 寛<sup>3)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 統御機構病理学) : 肝細胞癌と細胆管細胞癌成分を伴った肝内胆管癌の同時性重複癌の1切除例. 肝臓 2014 ; 55 (2) : 106-114.
- 3) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 安東克征<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 樋口勝美<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1, 2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 消化器外科学, <sup>2)</sup> 統御機構診断病理学) : 壁外性発育による皮下膿瘍を初発症状としたS状結腸癌の1例. 日本外科系連合学会雑誌 2015 ; 40 (1) : 85-90.

著 書

- 1) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 小林俊介<sup>3)</sup>, 三富弘之<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 市川一仁<sup>3)</sup>, 藤盛孝博<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 消化器内科学, <sup>2)</sup> 統御機構診断病理学, <sup>3)</sup> 獨協医科大学病理学 (人体分子)) : [分担] 炎症性腸疾患 : 最近の知見とトピックス : 腸炎関連腫瘍の現状. 病理と臨床 32 卷 11 号, 2014 ; pp1224-1227, 文光堂.
- 2) 内藤善哉, 彭 為霞, 高田英志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 陶器様胆嚢炎に合併した胆嚢癌. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1108-1110, 医学書院.
- 3) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 胃 GIST の肝転移. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1105-1107, 医学書院.
- 4) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 充満型胆嚢癌. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1102-1104, 医学書院.
- 5) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 統御機構診断病理学, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理部) : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 限局性結節性過形成 (FNH). 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1099-1101, 医学書院.
- 6) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 直腸癌の肝転移. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1096-1098, 医学書院.
- 7) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 膵胆管合流異常症に合併した胆嚢癌. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1093-1095, 医学書院.
- 8) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 肝血管肉腫. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1090-1092, 医学書院.
- 9) 内藤善哉, 許田典男, 山初和也 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 肝内胆管癌. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1087-1089, 医学書院.
- 10) 内藤善哉 : [分担] (6 章) 肝胆膵脾 肝細胞癌. 検査と技術増刊号「超音波×病理 対比アトラス」(医学書院), 2014 ; pp1084-1086, 医学書院.
- 11) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 三富弘之<sup>1)</sup>, 岩館峰雄<sup>1)</sup>, 生本太郎<sup>1)</sup>, 佐野 寧<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup>, 藤盛孝博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学病理学 (人体分子), <sup>2)</sup> 統御機構診断病理学, <sup>3)</sup> 消化器内科学) : [分担] 【今, 変わるのか? 大腸微小病変の取り扱い】 処置・治療 Resect and Discard trial の是非 病理の立場から. Intestine 18 卷 3 号 (藤井隆広, 鶴田修 他), 2014 ; pp279-284, 日本メディカルセンター.
- 12) 秋元直彦<sup>1)</sup>, 三富弘之<sup>1)</sup>, 岡本陽祐<sup>1)</sup>, 小林俊介<sup>1)</sup>, 岡本健太郎<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 富田 茂樹 茂<sup>1)</sup>, 上野 秀樹 秀<sup>1)</sup>, 海上 雅光 雅<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup>, 藤盛孝博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学病理学 (人体分子), <sup>2)</sup> 統御機構診断病理学, <sup>3)</sup> 消化器内科学) : [分担] 【大腸 T1 (SM) 癌に対する内視鏡治療の適応拡大】 大腸 T1 (SM) 深部浸潤癌に対する内視鏡治療適応拡大における病理学的問題点 特に非連続尿管管侵襲について. 胃と腸 49 卷 7 号 (鶴田修 他), 2014 ; pp973-977, 医学書院.
- 13) 内藤善哉 : [作成統括委員長] 婦人科・泌尿器. 細胞診ガイドライン 1 (日本臨床細胞学会 細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ委員会), 2015 ; pp 全ページ -221, 金原出版.
- 14) 内藤善哉 : [作成統括委員長] 乳腺・皮膚・軟部骨. 細胞診ガイドライン 2 (日本臨床細胞学会 細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ委員会), 2015 ; pp 全ページ -240, 金原出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 内藤善哉 : 超音波内視鏡下穿刺細胞診 (EUS-FNA) の細胞像・病理組織に関する話題. 日本臨床細胞学会中国四国連合会学術集会 (第 29 回) (香川県高松市), 2014. 8.



(2) 教育講演 :

- 1) Naito Z<sup>1,2)</sup>, Peng W<sup>1,2)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup> (1) Integrated Diagnostic Pathology, 2) Department of Diagnostic Pathology, NMS hosp.) : Molecular and diagnostic cytopathology of pancreatic lesions and cancer. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (22th) (Phuket, Thailand), 2015. 1.

(3) シンポジウム :

- 1) Naito Z : Molecular Pathology of Pancreaticobiliary tract cancer. Congress of the International Academy of Pathology (XXXth, 30回) (Bangkok, Thailand), 2014. 10.

(4) 一般講演 :

- 1) Narita K<sup>1,2)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Seike M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : Nestin regulates proliferation, migration, invasion and stemness of lung adenocarcinoma. Annual Meeting of the American Association for Cancer Research (105) (San Diego, CA, USA), 2014. 4.
- 2) Yoshimura H, Matsuda Y, Suzuki T, Naito Z, Ishiwata T : Long non-coding RNA H19 as a novel therapeutic target for pancreatic cancer. Annual Meeting of the American Association for Cancer Research (105) (San Diego, CA, USA), 2014. 4.
- 3) Peng W<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Takaya A<sup>1,2)</sup>, Kurose K<sup>2)</sup>, Yoneyama K<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Gynecology and Obstetrics) : p16-positive gastric type adenocarcinoma in uterine cervix : a case report. Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology (18th) (Taipei, Taiwan), 2014. 5.
- 4) Takata H<sup>1,2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Peng WX<sup>1,2)</sup>, Ishino K<sup>2)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, 2) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery) : Proteomic analysis for identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 5) Arai H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 3) Department of Integrated Diagnostic Pathology) : A case report of synchronous early gastric adenocarcinoma and gastric mucosa associated with a lymphoid tissue lymphoma. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 6) Kanzaki A<sup>1,2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Ansai S<sup>3)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Tezuka K<sup>1)</sup>, Peng W<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Saeki H<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Integrated Diagnostic Pathology, 2) Department of Dermatology, 3) Faculty of Pharmaceutical Science, Kinki University) : Proteome analysis using formalin-fixed paraffin-embedded keratoacanthoma tissue. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 7) Takaya A<sup>1,2)</sup>, Peng W<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>3)</sup>, Ishino K<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Tezuka K<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Integrated Diagnostic Pathology, 2) Department of Gynecology and Obstetrics, 3) Faculty of Pharmaceutical Science, Kinki University) : Proteome analysis of formalin-fixed paraffin-embedded epithelial ovarian cancer tissues. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 8) Akimoto N<sup>1,2,3)</sup>, Fujimori T<sup>2)</sup>, Mitomi H<sup>2)</sup>, Ichikawa K<sup>2)</sup>, Tomita S<sup>2)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterology, 2) Department of Surgical and Molecular Pathology, Dokkyo Medical University, 3) Integrated Diagnostic Pathology) : Micropapillary pattern at the invasive front and its association with unresectable colorectal carcinomas. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 9) Ishiwata T : Nestin as novel cancer stem cell marker and therapeutic target for cancer. MRS Symposium, Advanced Cancer Prevention Research (Seoul, South Korea), 2014. 10.
- 10) Ishiwata T<sup>1)</sup>, Yoshimura H<sup>1,2)</sup>, Matsuda Y<sup>1,3)</sup>, Murase M<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Ishiwata S<sup>4)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Integrated Diagnostic Pathology, 2) Department of Applied Science, School of Veterinary Nursing and Technology, Nippon Veterinary and Life Science University, 3) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital and Institute of Gerontology, 4) Laboratory of Medical Pharmaceutics & Therapeutics, Division of Clinical Pharmacy, Faculty of Pharmacy, Kinki University, Osaka) : Decrease in Fibroblast Growth Factor Receptor-4 Levels Inhibited the Proliferation, Migration, and Invasion of Pancreatic Cancer. MRS Symposium, Advanced Cancer Prevention Research (Big Island, Hawaii, USA), 2014. 11.
- 11) Peng W, Fujii T, Teduka K, Kurose K<sup>1)</sup>, Ishino K, Kudo M, Wada R, Naito Z (1) Department of Gynecology and Obstetrics) : Serous adenocarcinoma arising in an endometrial polyp : a case report. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology

- (22th) (Phuket, Thailand), 2015. 1.
- 12) Peng W<sup>1</sup>, Takaya A<sup>2</sup>, Fujii T<sup>1</sup>, Kurose K<sup>2</sup>, Yoneyama K<sup>2</sup>, Naito Z<sup>1</sup> (1) Integrated Diagnostic Pathology, (2) Department of Gynecology and Obstetrics) : Co-occurrence of minimal deviation adenocarcinoma and gastric type adenocarcinoma of the uterine cervix in a patient with Peutz-Jeghers syndrome. European Congress of Cytology (38th) (Geneva, Switzerland), 2014. 9.
  - 13) Hosone M<sup>1</sup>, Arai S<sup>1</sup>, Higashi N<sup>2</sup>, Osada S<sup>2</sup>, Naito Z<sup>1</sup> (1) Department of Pathology, (2) Department of Dermatology) : Cutaneous intravascular NK/T-cell lymphoma mimicking erythema nodosum and deep vein thrombosis : a case report. Congress of European Hematology Association (Milan, Italy), 2014. 6.
  - 14) 久米絢子<sup>1</sup>, 呉 壮香<sup>2,3</sup>, 岸田由起子<sup>3</sup>, 内藤善哉<sup>2</sup>, 田村浩一<sup>3</sup> (1) 九州大学医学部医学科, (2) 統御機構診断病理学, (3) 東京通信病院病理診断科) : 肝臓血管肉腫の1例. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 15) 吉村久志, 松田陽子, 村瀬めぐみ, 川原清子, 河本陽子, 鈴木妙子, 内藤善哉, 石渡俊行 : 長鎖 non-coding RNA H19 の浸潤性膵管癌における発現と役割の検討. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 16) 高屋 茜, 彭 為霞, 紺野亜希子, 高田英志, 藤井雄文, 手塚 潔, 石野孔祐, 山本哲志<sup>1</sup>, 工藤光洋, 内藤善哉 (1) 近畿大学薬学部) : FFPE 組織を用いた卵巣癌プロテオーム解析による新規バイオマーカーの探索. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 17) 彭 為霞<sup>1</sup>, 工藤光洋<sup>1</sup>, 高屋 茜<sup>1</sup>, 藤井雄文<sup>1</sup>, 手塚 潔<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>2</sup>, 前田昭太郎<sup>3</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 多摩永山病院病理部, (3) 三菱化学メディエンス) : 高分化乳頭状上皮腫に類似する腹膜上皮型中皮腫の1例. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 18) 呉 壮香<sup>1</sup>, 彭 為霞<sup>1</sup>, 恩田宗彦<sup>1</sup>, 高田英志<sup>1,2</sup>, 野村 務<sup>2</sup>, 松谷 毅<sup>2</sup>, 萩原信敏<sup>2</sup>, 内田英二<sup>2</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 付属病院消化器外科) : 食道扁平上皮癌にバレット食道腺癌を合併した2例の検討. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 19) 紺野亜希子<sup>1,2</sup>, 工藤光洋<sup>1</sup>, 安齋眞一<sup>2</sup>, 山本哲志<sup>3</sup>, 藤井雄文<sup>1</sup>, 手塚 潔<sup>1</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 皮膚科学, (3) 近畿大学薬学部病態分子解析学) : FFPE 組織を用いたプロテオーム解析による keratoacanthoma-like SCC と SCC の比較検討. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 20) 石野孔祐, 工藤光洋, 川原清子, 河本陽子, 藤井雄文, 手塚 潔, 内藤善哉 : 2-デオキシ-D-グルコース曝露により増殖抑制を示した膵がん細胞株のプロテオーム解析. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 21) 高田英志<sup>1,2</sup>, 工藤光洋<sup>1</sup>, 山本哲志<sup>3</sup>, 彭 為霞<sup>1</sup>, 藤井雄文<sup>1</sup>, 手塚 潔<sup>1</sup>, 石野孔祐<sup>1</sup>, 高屋 茜<sup>1</sup>, 紺野亜希子<sup>1</sup>, 川原清子<sup>1</sup>, 河本陽子<sup>1</sup>, 内田英二<sup>2</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 消化器外科学, (3) 近畿大学薬学部病態分子解析学) : 肝細胞癌において発現低下を示す代謝関連タンパク質の検討. 日本病理学会総会 (第103回) (広島), 2014. 4.
  - 22) 石渡俊行 : 癌幹細胞と EMT を標的とした, 癌転移の新規治療法の開発. Bio TEC 2014 (東京ビッグサイト), 2014. 5.
  - 23) 川瀬里衣子<sup>1</sup>, 米山剛一<sup>1</sup>, 高屋 茜<sup>1,2</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1</sup>, 彭 為霞<sup>2</sup>, 内藤善哉<sup>2</sup> (1) 付属病院産婦人科, (2) 統御機構診断病理学) : Peutz-Jeghers 症候群合併若年女性に発症した子宮頸部腺癌の1例. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第55回) (横浜), 2014. 6.
  - 24) 柳田裕美<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>1</sup>, 片山博徳<sup>1</sup>, 磯部宏昭<sup>1</sup>, 川野記代子<sup>1</sup>, 岩瀬裕美<sup>1</sup>, 日吾美栄子<sup>1</sup>, 新井 悟<sup>1</sup>, 前田昭太郎<sup>1</sup>, 内藤善哉<sup>2</sup> (1) 多摩永山病院病理部, (2) 統御機構診断病理学) : 子宮頸部細胞診にて再発が推定された悪性リンパ腫の1例. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第55回) (横浜), 2014. 6.
  - 25) 吉村久志<sup>1</sup>, 松田陽子, 村瀬めぐみ, 鈴木妙子, 河本陽子, 川原清子, 内藤善哉, 石渡俊行 (1) 日本獣医畜産大学獣医保健看護学部応用部門6月末まで当教室PD) : 膵癌の遊走, 転移に対する治療標的のとしての長鎖 non-coding RNA H19. 日本膵臓学会大会 (第45回) (福岡県北九州市), 2014. 7.
  - 26) 石野孔祐, 工藤光洋, 彭 為霞, 呉 壮香, 川原清子, 河本陽子, 鈴木妙子, 藤井雄文, 手塚 潔, 和田龍一, 内藤善哉 : 2-デオキシ-D-グルコース曝露により増殖抑制を示した膵がん細胞株のプロテオーム解析. 日本プロテオーム学会2014年会 (茨城県つくば市), 2014. 7.
  - 27) 石野孔祐, 工藤光洋, 彭 為霞, 呉 壮香, 川原清子, 河本陽子, 鈴木妙子, 藤井雄文, 手塚 潔, 和田龍一, 内藤善哉 : Proteomic analysis of pancreatic cancer cell growth inhibited by 2-deoxyglucose treatment. 日本癌学会学術総会 (第73回) (横浜市), 2014. 9.
  - 28) 高田英志<sup>1,2</sup>, 工藤光洋<sup>1</sup>, 山本哲志<sup>3</sup>, 和田龍一<sup>1</sup>, 彭 為霞<sup>1</sup>, 石野孔祐<sup>1</sup>, 手塚 潔<sup>1</sup>, 藤井雄文<sup>1</sup>, 河本陽子<sup>1</sup>, 内田英二<sup>2</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 消化器外科, (3) 近畿大学薬学部病態分子解析学) : Identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue (肝細胞癌のホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックを用いた発現低下を示すタンパク質の検討). 日本癌学会学術総会 (第73回) (横浜市), 2014. 9.
  - 29) 神崎亜希子<sup>1,2</sup>, 工藤光洋<sup>1</sup>, 安齋眞一<sup>2</sup>, 山本哲志<sup>3</sup>, 藤井雄文<sup>1</sup>, 手塚 潔<sup>1</sup>, 彭 為霞<sup>1</sup>, 和田龍一<sup>1</sup>, 佐伯秀久<sup>2</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup> (1) 統御機構診断病理学, (2) 皮膚科学, (3) 近畿大学薬学部病態分子解析学) : Proteome analysis using formalin-fixed paraffin-embedded keratoacanthoma tissue (FFPE 切片を用いたケラトアクトーマのプロテオーム解析). 日本癌学会学術総会 (第73回) (横浜

- 市), 2014. 9.
- 30) 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉村久志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1,2)</sup>, 村瀬めぐみ<sup>1)</sup>, 鈴木妙子<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 石渡俊二<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 統御機構診断病理学, 2) 東京都健康長寿医療センター・病理診断科, 3) 近畿大学薬学部・医療薬剤学(分野): The effects of fibroblast growth factor receptor-4 inhibition on pancreatic cancer cells (膵癌における fibroblast growth factor receptor-4 の抑制効果の検討). 日本癌学会学術総会 (第 73 回) (横浜市), 2014. 9.
- 31) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1,2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 三菱化学メディエンス, 3) 統御機構診断病理学): 乳腺 Solid papillary carcinoma の 2 症例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 53 回) (山口県下関市), 2014. 11.
- 32) 斎藤良明<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 石井英明<sup>1)</sup>, 呉 壮香<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1,2)</sup> (1) 付属病院病理部, 2) 統御機構診断病理学): ENBD にて推定し得た膵頭部悪性リンパ腫の 1 例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 53 回) (山口県下関市), 2014. 11.
- 33) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 田中信之<sup>2)</sup>, 古川文夫<sup>3)</sup> (1) 統御機構診断病理学, 2) 遺伝子制御学(分野), 3) (株) DIMS 医科学研究所): タバコ抽出物によるびまん性肺胞傷害における 2-deoxy-D-glucose の抑制効果について. 喫煙科学研究財団 平成 25 年度助成研究発表会 (第 29 回) (東京都新宿), 2014. 7.
- 34) 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>, 竹内千枝<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院呼吸器外科, 3) LSI メディエンス, 4) 新百合ヶ丘総合病院, 5) 統御機構診断病理学): 高感度検出系試薬を用いた肺癌における ALK 免疫染色の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都文京区), 2014. 9.
- 35) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>5)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院女性診療科・産科, 3) LSI メディエンス, 4) 新百合ヶ丘総合病院, 5) 統御機構診断病理学): 悪性リンパ腫の再発を子宮頸管細胞診にて推定し得た 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都文京区), 2014. 9.
- 36) 大橋隆治<sup>1)</sup>, 坂谷貴司<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>2)</sup>, 山下浩二<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>1,3)</sup>, 武井寛幸<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1,4)</sup> (1) 付属病院病理診断科・病理部, 2) 乳腺外科, 3) 飯田病院, 4) 統御機構診断病理学): 神経内分泌分化を伴う乳腺粘液癌の細胞像と臨床組織所見との関連について. 日本乳癌学会学術総会 (第 22 回) (大阪), 2014. 7.
- 37) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 消化器外科, 2) 千葉北総病院外科, 3) 多摩永山病院外科, 4) 病理): mFOLFOX6 が奏功した膵頭部腫瘍, 肝転移の 1 例. 東京膵臓研究会 (東京都), 2014. 11.
- 38) 三枝順子<sup>1)</sup>, 島津詢美<sup>1)</sup>, 京本晃典<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 羽鳥 努<sup>1)</sup>, 飯塚幸人<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院病理部, 2) 博慈会記念病院病理部, 3) 統御機構診断病理学): 上皮, 間葉系マーカー双方に陽性を呈した, ER 陽性乳癌の微細形態的検討. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第 46 回) (東京都市ヶ谷), 2014. 10.
- 39) 内山美穂子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 寺崎美佳<sup>2)</sup>, 彭 為霞<sup>3,4)</sup>, 石井英昭<sup>4)</sup>, 大橋隆治<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>3,4)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 解析人体病理学, 3) 統御機構診断病理学, 4) 付属病院病理診断科・病理部): 偶発的に発見された子宮頸部中腎管腺癌の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 128 回) (長野県松本市), 2014. 10.
- 40) 飯田朝子<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 統御機構診断病理学): Peutz-Jeghers 症候群に合併した子宮頸部腺癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木県宇都宮市), 2014. 7.
- 41) 高屋 茜<sup>1,2)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>3)</sup>, 石野孔祐<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 統御機構診断病理学, 2) 付属病院女性診療科・産科, 3) 近畿大学薬学部病態分子解析学): 卵巣癌 FFPE 組織を用いたプロテオーム解析による新規バイオマーカーの探索. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木県宇都宮市), 2014. 7.
- 42) 秋元直彦<sup>1,2)</sup>, 岡本陽祐<sup>1)</sup>, 小林俊介<sup>1)</sup>, 岡本健太郎<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 富田茂樹<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup>, 藤盛孝博<sup>1)</sup> (1) 獨協医科大学 病理学 (人体分子), 2) 統御機構診断病理学, 3) 消化器内科学): 鋸歯状病変を伴う Crohn 病に回腸癌を併発した 1 例 (第 2 報). 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
- 43) 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 吉村久志<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器外科, 2) 統御機構病理学): 消化管神経内分泌癌培養細胞株の樹立とがん幹細胞マーカーの同定. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都市), 2014. 4.
- 44) 高田英志<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>3)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器外科, 2) 統御機構病理学, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝細胞癌における GRP78, PDIA3, PSME2 の発現と臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都市), 2014. 4.
- 45) 上田純志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器外科, 2) 第二病理): Epithelial splicing regulatory protein 1 による膵癌の転移抑制および予後との関連. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都市), 2014. 4.
- 46) 新井洋紀<sup>1,2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 和田龍一<sup>2)</sup>,

内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 消化器外科学, 2) 統御機構診断病理学) : 胃癌壁内転移転移を来した1例. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島市), 2015. 3.

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 吉村久志<sup>4)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 消化器外科学, 2) 東京都健康長寿医療センター, 3) 統御機構診断病理学, 4) 日本獣医生命科学大学) : 大腸神経内分泌癌におけるがん幹細胞マーカー. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第69回) (横浜市), 2015. 11.

## 10. 微生物学・免疫学分野

### 研究概要

I 研究概要(平成26年度)当微生物学・免疫学講座では「自然免疫」システム,特にその中枢を担う樹状細胞(DC)による腫瘍ならびに感染の制御に関する研究を展開している.感染症学および感染免疫学:[A] HIV感染伝播機構の解明とその制御法の開発・(1)我々はこれまで,HAART治療中患者において,回盲部組織中に多数のHIV感染細胞を確認し,その主体がR5型であること,そしてその感染標的の主体が粘膜内ナチュラルキラーT(NKT)細胞であることを見いだした.そして,このNKT細胞に感染したR5型HIVの制御に粘膜内 $V\gamma 1V\delta 1$ 型T細胞が関わることを明らかにした.現在, $V\gamma 1V\delta 1$ 型T細胞を活性化するような薬物の検索を,漢方薬成分を含め検討している.(2)ピルビン酸脱水素酵素であるジクロロ酢酸(DCA)により麻疹ウイルスの持続感染が制御できることを国際誌であるAntiviral Res.誌に掲載した.(3)DC亜群である表皮内の有棘層に局在するランゲルハンス細胞は様々な細菌由来のLPSに応答するtoll-like-receptor(TLR)-4が欠損しているが,アトピーや乾癬など様々な皮膚病態では,TLR4が強発現していることに着目し,その誘発因子に関して検討を重ねている.腫瘍免疫学[B](1)腫瘍内には抗腫瘍作用を誘導するもの(helper DC:hDC)と腫瘍増殖を助けるもの(tolerogenic DC:tDC)とが存在するが,そのような差異は腫瘍細胞の放出する液性因子に起因することを明らかにした.また,極少量の抗癌剤によりこうした腫瘍由来の液性因子の産生・放出が抑制され,tDCの誘導が阻害される.(2)妊娠時において,DC亜群(DEC-205と33D1)のバランスが妊娠維持に関与すること,そしてこのバランスは胎盤ではなく,子宮筋層で保持されていることを見いだした.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Omi K, Shimizu M, Watanabe E, Matsumura J, Takaku C, Shinya E, Takahashi H: Inhibition of R5-tropic human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4<sup>+</sup> natural killer T cells by gamma-delta T lymphocytes. Immunology 2014; 141 (4): 596-608.
- 2) Matsushashi T<sup>1,2</sup>, Shimizu M<sup>1</sup>, Negishi Y<sup>1,2</sup>, Takeshita T<sup>2</sup>, Takahashi H<sup>1</sup> (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): A low, non-toxic dose of paclitaxel can prevent dendritic cell-precursors from becoming tolerogenic dendritic cells with impaired functions. Biomed. Res. 2014; 35 (6): 369-380.
- 3) Takahashi M, Watari E, Takahashi H: Dichloroacetate induces cell cycle arrest in human glioblastoma cells persistently infected with measles virus: A way for controlling viral persistent infection. Antiviral Res. 2015; 113 (1): 107-110.

##### (2) 総説:

- 1) 熊谷善博: 免疫工学による免疫システム分子機構の解析: I T細胞抗原レセプター遺伝子トランスジェニックマウスを用いたアレルギー発症機構の解析. ケミカルタイムズ 2014; 232 (2): 8-14.
- 2) 高橋秀実: (序) 樹状細胞とランゲルハンス細胞. 炎症と免疫 2014; 22 (3): 151-152.
- 3) 高橋秀実: Eカドヘリンとランゲルハンス細胞. 炎症と免疫 2014; 22 (3): 153-158.
- 4) 若林あや子, 高橋秀実: 腸管上皮内リンパ球の細胞傷害性T細胞への分化. 臨床免疫・アレルギー科 2014; 62 (1): 17-24.
- 5) 新谷英滋, 高橋秀実: ヒト免疫不全ウイルスHIV-1 Nefによる樹状細胞CD1脂質抗原提示機能の低下. 臨床免疫・アレルギー科 2014; 62 (3): 239-244.
- 6) 高橋秀実: 鼻アレルギー診療におけるエビデンス: 治療法6) 漢方薬の効果的な使い方. Prog. Med. 2014; 34 (10): 1707-1711.
- 7) 根岸靖幸, 高橋秀実: 樹状細胞による妊娠, 分娩の制御. 臨床免疫・アレルギー科 2014; 62 (6): 604-608.
- 8) 松村次郎, 高橋秀実: HIVと悪性腫瘍. 臨床免疫・アレルギー科 2015; 63 (1): 21-27.
- 9) 高橋秀実: HAART治療中の粘膜組織に潜伏するHIVとその制御. 日本エイズ学会誌 2015; 17 (1): 14-18.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 高橋秀実: 東洋医学の発想と近代医学の最前線: 未病と自然炎症. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 6.
- 2) 高橋秀実: 免疫疾患に対する温病治療: 成人型Still病をモデルとして. 日本東洋医学会神奈川支部総会 (横浜), 2014. 7.
- 3) 高橋秀実: 日常診療に役立つ漢方医学とその作用機序に対する一考察. KAMPO入門講座 (東京), 2014. 8.
- 4) 高橋秀実: ウイルス感染症に対する漢方治療. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 10.

- 5) 高橋秀実：免疫と漢方. 日本東洋医学会兵庫県支部総会（神戸），2014. 10.
  - 6) 高橋秀実：免疫と漢方. 日本東洋医学会北陸支部総会（神戸），2014. 10.
  - 7) 高橋秀実：日常診療に役立つ漢方医学の基礎概念. 日本医科大学産婦人科学教室臨床研究会（東京），2014. 11.
  - 8) 高橋秀実：ウイルスに対する生体応答と各種の疾病. KAMPO Medical Conference（東京），2015. 1.
- (2) 教育講演：
- 1) 若林あや子：食品学の基礎. アレルギー大学（第9期）（千葉），2014. 6.
  - 2) 高橋秀実：ばい菌は本当にきたないの？. 子どもアカデミア講座（東京），2014. 7.
  - 3) 若林あや子：アレルギーの食品栄養学. アレルギー大学（千葉）ベーシックプログラム（千葉），2014. 8.
  - 4) 若林あや子：アレルギーの食品栄養学. アレルギー大学（沖縄）ベーシックプログラム（沖縄），2014. 10.
- (3) シンポジウム：
- 1) 高橋秀実：東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症（統括）（シンポジウム I：東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症）. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 2) 高橋秀実：未病と自然炎症：生薬成分による制御の可能性（シンポジウム I：東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症）. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
- (4) セミナー：
- 1) 高橋秀実：抗体医薬は人類の救世主となるか. 北区医師会セミナー（東京），2014. 8.
  - 2) 高橋秀実：生体応答制御医学としての東洋医学. 杉並区医師会セミナー（東京），2014. 11.
- (5) ワークショップ：
- 1) 廣田 薫<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院東洋医学科)：日本医科大学付属病院における湯液と鍼灸の併用治療の現状と展望. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 2) 大倉定之, Stoyl J<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>(1)</sup> Division of Virology, MRC National Institute for Medical Research, London)：細胞内抑制因子 TRIM5a によるレトロウイルスのキャプシドの認識：もう1つの因子 Fv1 との比較. 日本エイズ学会学術集会（第28回）（大阪），2014. 12.
- (6) 一般講演：
- 1) Negishi Y<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>1, 2)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup> (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Different role of IL-13 for the fetal loss induced by IL-12 treatment or 33D1+ DC depletion in mice. The American Society of Reproductive Immunology (34th) (New York, USA), 2014. 6.
  - 2) 高久 俊, 廣田 薫, 高久千鶴乃, 近江恭子, 小野顕人, 大藪英一, 平馬直樹, 高橋秀実：手根管症候群に対して五積散が有効であった3例. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 3) 小野顕人, 近江恭子, 廣田 薫, 高久 俊, 平馬直樹, 高橋秀実：湯液ならびに鍼灸治療の併用で腰部脊柱管狭窄症による疼痛が改善した1例. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 4) 福永豊永, 高久 俊, 廣田 薫, 平馬直樹, 高橋秀実：重症の眩暈に対して鍼灸治療が即効性を示した1例. 日本中医学学会学術総会（第4回）（東京），2014. 9.
  - 5) 大倉定之, Stoyl J, 高橋秀実：マウス抑制因子 Fv1 によるマウス白血病ウイルスの認識機序. 日本ウイルス学会学術集会（第62回）（横浜），2014. 11.
  - 6) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Mori L, De Libero G, Takahashi H： $\alpha$ -GalCer augmented the “trans-infection” of sulfatide-specific CD11a-restricted T cells via immature DCs. 日本エイズ学会学術集会（第28回）（大阪），2014. 12.
  - 7) 松村次郎, 近江恭子, 大脇敦子, 清水真澄, 新谷英滋, 高橋秀実：ART の reservoir である NKT 細胞の制御に関わる  $\gamma \delta$  T 細胞. 日本エイズ学会学術集会（第28回）（大阪），2014. 12.
  - 8) Takahashi H, Matsuhashi T, Shimizu M, Kohgo T, Date T, Negishi Y, Takeshita T：Non-toxic dose of paclitaxel can prevent dendritic cell-precursors from becoming tolerogenic dendritic cells with impaired functions. 日本免疫学会学術集会（第43回）（京都），2014. 12.
  - 9) Ichikawa T, Negishi Y, Shimizu M, Takeshita T, Takahashi H：DEC-205+ DCs and iNKT cells in the uterus activated by  $\alpha$ -GalCer cause fetal loss in mice. 日本免疫学会学術集会（第43回）（京都），2014. 12.
  - 10) Negishi Y, Ichikawa T, Koike E, Okura S, Takeshita T, Takahashi H：Effects of glycolipid antigens on the differentiation of dendritic cells. 日本免疫学会学術集会（第43回）（京都），2014. 12.
  - 11) Wakabayashi A, Otsuka Y, Ishi K, Takahashi H：Enhancement of costimulatory molecule-expression on mucosal DCs by treatment with cholera toxin *in vitro*. 日本免疫学会学術集会（第43回）（京都），2014. 12.
  - 12) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Mori L, De Libero G, Takahashi H：HIV-1 Nef down-regulation CD11a-restricted lipid-antigen

presentation in immature dendritic cells (iDCs) via Hemopoietic cell kinase (HCK) and p21-activated kinase 2 (PAK2). 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.

- 13) Takaku S, Nakagawa Y, Shimizu M, Owaki A, Takahashi M, Takahashi H : IL-15 reenhances CD8<sup>+</sup> HIV-1 gp160-specific murine CTL resistance to both Fas-FasL and perforin-granzyme mediated apoptosis induced by free antigenic peptide. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 14) Kumagai Y, Takahashi H : The analysis of the interaction between HIV-1 gp120 and chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 15) Negishi Y, Ichikawa T, Takeshita T, Takahashi H : Effects of glycolipid antigens on the differentiation of dendritic cells in pregnancy. 日本生殖免疫学会学術集会 (第 30 回) (東京), 2014. 12.

## 論 文

### [追加分]

追加分総説 :

- 1) 熊谷善博 : 免疫工学による免疫システム分子機構の解析 : II T 細胞抗原レセプター遺伝子トランスジェニックマウスを用いた免疫調節機構の解析. ケミカルタイムズ 2015 ; 236 (2) : 2-7.

## 11. 衛生学公衆衛生学分野

### 研究概要

衛生学公衆衛生学分野では、社会医学に関連した研究テーマを選択し、実験および調査研究を精力的に行っている。研究手法は多様であるが、最終的には「人間」を対象とした予防医学研究につながるものである。各教員が研究を進めるにあたり、外部研究資金の獲得が基本であるが、本年度は以下の教員が、文科省科研費補助金等の外部資金を研究代表者として獲得している。・職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究（基盤（C））（川田智之）・カーバメイト系農薬による抗腫免疫機能への影響及びその機序（基盤（C））（李卿）・メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職業疫学研究（基盤（C））（大塚俊昭）・ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明（基盤（C））（李英姫）・サリン事件被害者の長期的な健康不安の解析（挑戦的萌芽）（勝又聖夫）・非正規雇用の増加は健康と医療の格差を拡大したのか—20年間の経時的分析から（科研費若手（B））（可知悠子）研究費の獲得、および学術論文の作成が各教員の使命であり、継続的に業績を積み重ねることを期待したい。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Otsuka T : Change in job stress and job satisfaction over a two-year interval using the Brief Job Stress Questionnaire. *Work* 2014 ; 49 (1) : 107-111.
- 2) Kawada T, Andou T<sup>1)</sup>, Fukumitsu M<sup>1)</sup> (1) Sano City Hospital) : Relationship between cardio-ankle vascular index and components of metabolic syndrome in combination with sex and age. *Diabetes Metab Syndr* 2014 ; 8 (4) : 242-244.
- 3) Otsuka T, Kato K, Kachi Y, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>2)</sup>, Kawada T (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Serum cystatin C, creatinine-based estimated glomerular filtration rate, and the risk of incident hypertension in middle-aged men. *Am J Hypertens* 2014 ; 27 (4) : 596-602.
- 4) Otsuka T, Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Kachi Y, Kato K, Inagaki H, Kawada T (1) Department of Neurology, Nippon Medical School) : Predictive value of asymmetric dimethylarginine and C-reactive protein for the risk of developing metabolic syndrome in middle-aged men. *IJC Metabolic & Endocrine* 2014 ; 5 : 42-47.
- 5) Ochiai H<sup>1)</sup>, Ikei H<sup>2)</sup>, Song C<sup>2)</sup>, Kobayashi M, Takamatsu A<sup>3)</sup>, Miura T<sup>4)</sup>, Kagawa T<sup>5)</sup>, Li Q, Kumeda S<sup>6)</sup>, Imai M<sup>7)</sup>, Miyazaki Y<sup>2)</sup> (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National hospital organization Tokyo Medical Center, 2) Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University, 3) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Center for Child Health and Development, 4) Agematsu Town Office Industry & Tourism Department, 5) Forestry and Forest Products Research Institute, 6) Nagano Prefectural Kiso Hospital, 7) Le Verseau Inc) : Physiological and psychological effects of forest therapy on middle-aged males with high-normal blood pressure. *Int J Environ Res Public Health* 2015 ; 12 (3) : 2532-2542.
- 6) Oguri A<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Mouillet G<sup>1)</sup>, Gilard M<sup>2)</sup>, Laskar M<sup>3)</sup>, Eltchaninoff H<sup>4)</sup>, Fajadet J<sup>5)</sup>, Iung B<sup>6)</sup>, Donzeau-Gouge P<sup>7)</sup>, Leprince P<sup>8)</sup>, Leguerrier A<sup>9)</sup>, Prat A<sup>10)</sup>, Chevreur K<sup>1)</sup>, Otsuka T, Teiger E<sup>1)</sup>, et al. (1) Centre Hospitalier Universitaire Henri Mondor, 2) Centre Hospitalier Universitaire Brest, 3) Centre Hospitalier Universitaire Dupuytren, 4) Hopital Charles Nicolle, University of Rouen, 5) Clinique Pasteur, 6) Bichat Hospital, 7) Insitut Jacques Cartier, 8) Pitie-Salpetriere Hospital, 9) Centre Hospitalier Universitaire Rennes, 10) Centre Hospitalier Universitaire Lille) : Clinical outcomes and safety of transfemoral aortic valve implantation under general versus local anesthesia : Subanalysis of the French Aortic National CoreValve and Edwards 2 Registry. *Circ Cardiovasc Interv* 2014 ; 7 (4) : 602-610.
- 7) Li Y, Kanaji N<sup>1)</sup>, Wang X<sup>2)</sup>, Sato T<sup>3)</sup>, Nakanishi M<sup>4)</sup>, Kim M<sup>5)</sup>, Michalski J<sup>6)</sup>, Nelson A<sup>6)</sup>, Farid M<sup>6)</sup>, Basma H<sup>6)</sup>, Patil A<sup>6)</sup>, Toews M<sup>7)</sup>, Liu X<sup>6)</sup>, Rennard S<sup>6)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan, 2) Department of Respiratory Disease, Affiliated Hospital of Hebei United University, Hebei, China, 3) Department of Respiratory Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, 4) Third Department of Internal Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, 5) Internal Medicine, Jeju Medical College, Jeju-si, Republic of Korea, 6) Pulmonary, Critical Care, Sleep & Allergy, University of Nebraska Medical Center, Omaha, NE, United States, 7) Pharmacology, University of Nebraska Medical Center, Omaha, NE, United States) : Prostaglandin E2 switches from a stimulator to an inhibitor of cell migration after epithelial-to-mesenchymal transition. *Prostaglandins Other Lipid Mediat* 2015 ; 116-117 (1) : 1-9.



- 8) Song C<sup>1)</sup>, Ikei H<sup>1)</sup>, Kobayashi M, Miura T<sup>2)</sup>, Taue M<sup>3)</sup>, Kagawa T<sup>4)</sup>, Li Q, Kumeda S<sup>5)</sup>, Imai M<sup>6)</sup>, Miyazaki Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University, <sup>2)</sup> Agematsu Town Office Industry & Tourism Department, <sup>3)</sup> Agematsu Town Office, <sup>4)</sup> Forestry and Forest Products Research Institute, <sup>5)</sup> Nagano Prefectural Kiso Hospital, <sup>6)</sup> Le Verseau Inc) : Effect of forest walking on autonomic nervous system activity in middle-aged hypertensive individuals : a pilot study. *Int J Environ Res Public Health* 2015 ; 12 (3) : 2687-2699.
- 9) Takayama N<sup>1)</sup>, Korpela K<sup>2)</sup>, Lee J<sup>3)</sup>, Morikawa T<sup>1)</sup>, Tsunetsugu Y<sup>1)</sup>, Park B<sup>4)</sup>, Li Q, TyrvÄInen L<sup>5)</sup>, Miyazaki Y<sup>6)</sup>, Kagawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Forestry and Forest Products Research Institute, <sup>2)</sup> School of Social Sciences and Humanities, University of Tampere, <sup>3)</sup> Korea Forest Service, Government Complex 1, <sup>4)</sup> College of Agriculture and Life Sciences, Chungnam National University, <sup>5)</sup> Finnish Forest Research Institute (METLA), <sup>6)</sup> Center for Environment, Health and Field Sciences, Chiba University) : Emotional, restorative and vitalizing effects of forest and urban environments at four sites in Japan. *Int J Environ Res Public Health* 2014 ; 11 (7) : 7207-7230.
- 10) Hirata Y, Inagaki H, Shimizu T, Kawada T : Substrate specificity of human granzyme 3 : analyses of P3-P2-P1 triplet using fluorescence resonance energy transfer substrate libraries. *BioScience Trends* 2014 ; 8 (2) : 126-131.
- (2) 総説 :
- 1) 李 卿, 川田智之 : 森林医学の臨床応用の可能性. *日本衛生学雑誌* 2014 ; 69 (2) : 117-121.
- 2) 宮崎良文<sup>1)</sup>, 李 卿 ( <sup>1)</sup> 千葉大学環境健康フィールド科学センター) : 第 83 回日本衛生学会総会 (金沢) における森林医学研究会による企画シンポジウムに関連した特集について : 森林医学の臨床応用と個人差. *日本衛生学雑誌* 2014 ; 69 (2) : 97-97.
- (3) 資料 :
- 1) 勝又聖夫, 平田紀美子, 小林麻衣子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之 : 改良したタバコ煙採取法を含む喫煙防止教育プログラムの検討. *日本衛生学雑誌* 2014 ; 69 (3) : 235-241.
- (4) 手紙 :
- 1) Kawada T : Air pollution and respiratory symptoms in children. *J Epidemiol Community Health* 2014.
- 2) Kawada T : Screening by the Patient Health Questionnaire for Chinese adolescents with depression. *Pediatrics* 2014.
- 3) Kawada T : The difference between healthy life expectancy and life expectancy at birth in men is smaller than that in women in populations with high life expectancy. 2014 ; 59 (2) : 423-424.
- 4) Kawada T : Stress model in relation to mental health outcome : job satisfaction is also a useful predictor of the development of depression in workers. *J Occup Environ Med* 2014 ; 56 (4) : e6-e7.
- 5) Kawada T : Antidepressant use among survivors of childhood, adolescent and young adult cancer. *Pediatr Blood Cancer* 2014 ; 61 (5) : 953-953.
- 6) Kawada T : Physical activity and sleep by actigraphy in children with cancer. *Pediatr Blood Cancer* 2014 ; 61 (5) : 955-955.
- 7) Kawada T : Antihypertensive prescriptions in China. *Am J Hypertens* 2014 ; 27 (5) : 761-761.
- 8) Kawada T : Rate ratio for mortality by Poisson's regression analysis : Limitation on predictive ability for the individual events. *Int J Cardiol* 2014 ; 173 (2) : 316-316.
- 9) Kawada T : Validating GFR estimating samples with clinical outcomes. *Am J Kidney Dis* 2014 ; 63 (5) : 859-859.
- 10) Kawada T : Definition of renal glomerular hyperfiltration or hypofiltration from the reference population. *Nutr Metab Cardiovasc Dis* 2014 ; 24 (5) : e19-e19.
- 11) Kawada T : The association between plasma phospholipids and insulin-related variables with special reference to statistical validity. *Am J Clin Nutr* 2014 ; 99 (5) : 1142-1143.
- 12) Kawada T : Validity of U-shaped risk of estimated glomerular filtration rate for all-cause mortality. *Int J Cardiol* 2014 ; 173 (3) : 552-552.
- 13) Kawada T : Associated factors of acute myocardial infarction in patients with systemic sclerosis. *Am J Med* 2014 ; 127 (5) : e27-e27.
- 14) Kawada T : Road traffic noise and anxiolytic-hypnotic medication : causality in relation to deprivation stratum. *Eur J Public Health* 2014.
- 15) Kawada T : Relationship between sleep and disease activity in pediatric depressed patients with Crohn disease. *J Pediatr Gastroenterol Nutr* 2014 ; 58 (5) : e51-e51.
- 16) Kawada T : Self-reported sleep and beta-amyloid deposition in community older adults. *JAMA Neurol* 2014 ; 71 (5) : 651-651.
- 17) Kawada T : Sleep duration for children with autism spectrum disorders : longitudinal study. *Arch Dis Child* 2014.
- 18) Kawada T : Working hours, sleep duration and risk of coronary heart disease. *Int J Cardiol* 2014 ; 174 (1) : 162-162.
- 19) Kawada T : Depressive symptoms and HbA1c in patients with in type 1 and type 2 diabetes. *Diabet Med* 2014 ; 31 (6) : 759-

760.

- 20) Kawada T : Screening for post-stroke depression : caution for meta-analysis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2014.
- 21) Kawada T : Letter by Kawada Regarding Article, "Sleep duration and risk of stroke mortality among Chinese adults : Singapore Chinese Health Study". *Stroke* 2014 ; 45 (7) : e134-e134.
- 22) Kawada T : Mental health issues and university student dropouts. *Occup Med (Lond)* 2014 ; 64 (5) : 392-392.
- 23) Kawada T : Estimated glomerular filtration rate by height, serum creatinine and age for adolescent boys. *Nephrol Dial Transplant* 2014.
- 24) Kawada T : Associated factors with gender gap in life expectancy : recommendation for the use of healthy life expectancy. *Geriatr Gerontol Int* 2014 ; 14 (3) : 728-729.
- 25) Kawada T : Appropriate baseline setting for the evaluation of treatment. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2014.
- 26) Kawada T : Dietary glycemic load and stroke : what is need for stable risk assessment?. *Eur J Nutr* 2014 ; 53 (5) : 1291-1292.
- 27) Kawada T : Once-weekly teriparatide administration for 24 weeks in postmenopausal women with osteoporosis. *Osteoporosis Int* 2014 ; 25 (9) : 2321-2321.
- 28) Kawada T : Predictive ability of B-type natriuretic peptide for cardiovascular events with reference to renal function. *J Cardiol* 2014 ; 64 (3) : 241-241.
- 29) Kawada T : Parkinson disease and dementia. *Neurology* 2014.
- 30) Kawada T : Long working hours and obesity with special reference to sleep duration. *J Occup Health* 2014 ; 56 (5) : 399-400.
- 31) Kawada T, Andou T, Fukumitsu M <sup>(2)</sup> Sano City Hospital, <sup>(3)</sup> Sano City Hospital) : Predictors of the incidence of metabolic syndrome in general inhabitants. *Nutrition* 2014 ; 30 (10) : 1208-1209.
- 32) Kawada T, Andou T, Fukumitsu M <sup>(2)</sup> Sano City Hospital, <sup>(3)</sup> Sano City Hospital) : Cardio-ankle vascular index and carotid ultrasound data reflect different concept on vascular damage. *J Atheroscler Thromb* 2014 ; 21 (10) : 1098-1100.
- 33) Kawada T : Predictive factors for low ankle brachial index in patients with systemic lupus erythematosus. *J Rheumatol* 2014 ; 41 (10) : 2086-2086.
- 34) Kawada T : Sleep and body mass index in patients with bipolar disorder. *Eur Psychiatry* 2014 ; 29 (8) : 528-528.
- 35) Kawada T : Air pollution and the risk of stroke by meta-analysis. *Int J Cardiol* 2014 ; 176 (3) : 1247-1248.
- 36) Kawada T : Chronic fatigue syndrome in adolescents : definition and epidemiological characteristics. *J Paediatr Child Health* 2014 ; 50 (10) : 840-840.
- 37) Kawada T : Incident dementia and cognitive decline in patients with stroke/TIA. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2014.
- 38) Kawada T : Estimated glomerular filtration rate by two equations and their relationship with metabolic syndrome. *Clin Chim Acta* 2014 ; 437 : 220-221.
- 39) Kawada T : Combination effect of hypertension and diabetes mellitus on urinary protein excretion. *J Hypertens* 2014 ; 32 (11) : 2277-2277.
- 40) Kawada T : Detection limit of saliva cotinine values and statistical validity. *Nicotine Tob Res* 2014 ; 16 (11) : 1532-1532.
- 41) Kawada T : Battle and non-battle injury and posttraumatic stress disorder in military personnel. *Injury* 2014 ; 45 (11) : 1801-1801.
- 42) Kawada T : Persistent insomnia symptoms and its predictors by questionnaire survey. *Sleep Med* 2014 ; 15 (11) : 1427-1428.
- 43) Kawada T : Advantage of bariatric surgery for patients with type 2 diabetes mellitus. *J Hepatol* 2014 ; 61 (11) : 1188-1188.
- 44) Kawada T : No effect of epigallocatechin-3-gallate with weight loss on adiposity reduction, cardiometabolic risk factors and liver function in pre-menopausal obese women. *Br J Nutr* 2014 ; 112 (9) : 1586-1586.
- 45) Kawada T : Factors affecting macular pigment optical density. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 2014 ; 252 (11) : 1865-1866.
- 46) Kawada T : Socioeconomic status and obesity : causality of the association. *J Epidemiol Glob Health* 2014 ; 4 (4) : 327-328.
- 47) Kawada T : Risk of peptic ulcer bleeding in patients with chronic kidney disease and end-stage renal disease receiving peritoneal or hemodialysis. *Dig Dis Sci* 2014 ; 59 (12) : 3131-3132.
- 48) Kawada T : Selective serotonin reuptake inhibitors exposure during pregnancy and neonatal outcomes. *J Clin Psychopharmacol* 2014 ; 34 (6) : 751-751.
- 49) Kawada T : Macular pigment optical density and cognitive function in older adults. *Age Ageing* 2014.
- 50) Kawada T : Fasting plasma glucose as the predictor of morbidity and mortality in patients with symptomatic congenital heart disease. *Int J Cardiol* 2014 ; 177 (2) : 512-512.
- 51) Kawada T : Long sleep duration and risk of dementia-specific mortality. *Neurology* 2014.
- 52) Kawada T : Chronic kidney disease and socioeconomic condition in the elderly. *Nephrol Dial Transplant* 2014.

- 53) Kawada T : Dietary factors on dementia incident : Cox regression analysis with special emphasis on the number of events. *J Am Geriatr Soc* 2014 ; 62 (12) : 2467-2467.
- 54) Kawada T : Caffeine therapy for apnea of prematurity : long-term effect on sleep by actigraphy and polysomnography. *Am J Respir Crit Care Med* 2014 ; 190 (12) : 1457-1457.
- 55) Kawada T : Effect of olmesartan on blood pressure in patients with hypertension : specification on causality. *J Hum Hypertens* 2015 ; 29 (1) : 69-70.
- 56) Kawada T : Effect of aspirin for ischemic stroke in patients with dialysis. *Int J Stroke* 2015 ; 10 (1) : E9-E9.
- 57) Kawada T : The association between obesity and nighttime blood pressure in obese children by adjustments of insulin resistance and arterial stiffness. *Am J Hypertens* 2015 ; 28 (1) : 143-143.
- 58) Kawada T : Cadmium exposure in inhabitants living in non-polluted area. *J Expo Sci Environ Epidemiol* 2015 ; 25 (1) : 119-119.
- 59) Kawada T : Urinary creatinine adjustment for uranium and kidney outcomes from lead workers. *J Expo Sci Environ Epidemiol* 2015 ; 25 (1) : 119-120.
- 60) Kawada T : Effect of serum C-reactive protein and plasma fibrinogen levels on recurrent preeclampsia. *J Hypertens* 2015 ; 33 (2) : 421-421.
- 61) Kawada T : Self-reported passive smoking and salivary cotinine concentration. *J Epidemiol Community Health* 2014.
- 62) Kawada T : Snoring and Mortality in Patients with Heart Failure and Dialysis. *Am J Nephrol* 2015 ; 40 (6) : 571-571.
- 63) Kawada T : Cardio-ankle vascular index and plasma lipids in patients with hypertension : causality of the association. *J Hum Hypertens* 2015 ; 29 (2) : 137-137.
- 64) Kawada T : Dietary glycemic load and cognitive performance in elderly subjects. *Eur J Nutr* 2015 ; 54 (1) : 157-158.
- 65) Kawada T : Sleep medication in patients with attention-deficit/hyperactivity disorder. *Sleep Med* 2015 ; 16 (1) : 207-207.
- 66) Kawada T : Validation study on sleep parameters by actigraphy for normal subjects. *Sleep Breath* 2015 ; 19 (1) : 11-11.
- 67) Kawada T : Prognosis of arrhythmia patients with implantable cardioverter-defibrillator with special reference to heart rate and QRS duration. *Int J Cardiol* 2015 ; 181 : 106-107.
- 68) Kawada T : Relationship between metabolic syndrome and psychiatric disorders in patients with bipolar disorder or schizophrenia. *Bipolar Disord* 2015 ; 17 (2) : 233-234.
- 69) Kawada T : Air pollution and cardiovascular disease. *Heart* 2015.
- 70) Kawada T : Television, small screen and sleep in children. *Pediatrics* 2015.
- 71) Kawada T : Predictors of dementia in Parkinson disease : A prospective cohort study. *Neurology* 2015 ; 84 (12) : 1285-1285.

## 著 書

- 1) 川田智之 : [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学 (鈴木庄亮, 久道 茂監修), 2015 ; pp283-293, 南江堂.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 李 英姫, 吾妻安良太<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科) : マクロライドと oxidative stress (COPD とマクロライド). マクロライド新作用研究会 (第 21 回) (東京), 2014. 7.
- 2) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介<sup>1)</sup>, 梅澤雅和<sup>1)</sup>, 武田 健<sup>1)</sup>, 井原智美<sup>2)</sup>, 菅又昌雄<sup>2)</sup>, 吾妻安良太<sup>3)</sup>, 山本雅之<sup>4)</sup>, 川田智之 (1) 東京理科大学 総合研究機構, 2) 栃木臨床病理研究所, 3) 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, 4) 東北大学大学院 医化学分野) : ディーゼル排ガス曝露のマウスブレオマイシン肺障害病態への影響 : Nr2f2 の役割. 日本医科大学・東京理科大学第 1 回合同シンポジウム (東京), 2014. 5.

### (2) 一般講演 :

- 1) 若山葉子, 川田智之, 勝又聖夫 : ウイルス肝炎地域流行既往者の長期追跡成績 : HCV genotype からみた既往者の自然経過. 日本衛生学会学術総会 (第 84 回) (岡山市), 2014. 5.
- 2) 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup>, 若山葉子 (1) 日本医科大学 スポーツ科学, 2) 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎, 3) 神奈川県立保健福祉大学 看護学) : ラジオ体操実施の効果について : 形態・生活活動力と健康関連 QOL. 日本公衆衛生学会総会 (第 73 回) (宇都宮市), 2014. 11.
- 3) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学 スポーツ科学, 2) 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎, 3) 神奈川県立保健福祉大学 看護学) : ラジオ体操の実施効果に関する調査研究. 日本衛生学会学術総会 (第 85 回) (和歌山市), 2015. 3.
- 4) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之 : マイトゲン刺激によるヒト末梢血単核球のグランザイム A 産生. 日本生化学会大会 (第

- 87回) (京都), 2014. 10.
- 5) 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: サリン事件等の被害者における健康不安. 日本衛生学会学術総会 (第84回) (岡山市), 2014. 5.
  - 6) 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: サリン事件等の被害者における健康不安-2-. 日本衛生学会学術総会 (第85回) (和歌山市), 2015. 3.
  - 7) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: カラムスイッチングシステムを用いたHPLCによる唾液中カテコールアミン代謝物の同時分析法-2-. 日本薬学会 (第135年会) (神戸市), 2015. 3.
  - 8) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: マイトゲン刺激下ヒト末梢血単核球によるグランザイム3の産生. 日本生化学会大会 (第87回) (京都), 2014. 10.
  - 9) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之: ラット臓器におけるグランザイム3の発現. 日本薬学会 (第135年会) (神戸), 2015. 3.
  - 10) 大塚俊昭, 可知悠子, 加藤活人, 川田智之: 職域集団における高血圧発症リスク予測モデル作成の試み. 日本衛生学会学術総会 (第84回) (岡山), 2014. 5.
  - 11) 大塚俊昭, 可知悠子, 加藤活人, 西城由之, 川田智之: Dyslipidemia and the risk of developing hypertension in a working-age male population. 日本疫学会学術総会 (第25回) (名古屋), 2015. 1.
  - 12) Li Y, Shimizu T, Kato K<sup>1</sup>, Sugamata M<sup>2</sup>, Takeda K<sup>3</sup>, Yamamoto M<sup>4</sup>, Kawada T (1) Environmental Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Tochigi Institute of Clinical Pathology, Tochigi, Japan, (3) Hygiene Chemistry, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Sciences, Noda city, Japan., (4) Department of Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan): Nrf2 lowers risk for airway injury induced by diesel exhaust. European Respiratory Journal (24th) (Munich), 2014. 9.
  - 13) 西城由之, 大塚俊昭, 可知悠子, 加藤活人, 川田智之: Difference between the non HDL-C and LDL-C levels in a working-age population. 日本疫学会学術総会 (第25回) (名古屋), 2015. 1.
  - 14) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之, 吾妻安良太<sup>1</sup>, 滝澤 始<sup>2</sup>, 工藤翔二<sup>3</sup> (1) 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, (2) 杏林大学 呼吸器内科, (3) 結核予防会 複十字病院): ヒト気道上皮細胞におけるディーゼル排気粒子の酸化ストレスによる上皮間葉移行 (EMT) の誘発. 日本呼吸器学会学術講演会 (第54回) (大阪), 2014. 4.
  - 15) 李 英姫, 清水孝子, 加藤活人, 菅又昌雄<sup>1</sup>, 武田 健<sup>2</sup>, 山本雅之<sup>3</sup>, 川田智之 (1) 栃木臨床病理研究所, (2) 東京理科大学 薬学部 衛生化学, (3) 東北大学大学院 医化学分野): Nrf2 欠損マウスにおけるディーゼル排気粒子の気道・肺への影響. 日本衛生学会学術総会 (第84回) (岡山), 2014. 5.
  - 16) 李 英姫, 清水孝子, 滝澤 始<sup>1</sup>, 吾妻安良太<sup>2</sup>, 山本雅之<sup>3</sup>, 川田智之 (1) 杏林大学 呼吸器内科学, (2) 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科, (3) 東北大学大学院 医化学分野): OVA アレルギー性気道炎症病態のマウス系統差におけるNrf2の役割. 日本衛生学会学術総会 (第85回) (和歌山), 2015. 3.
  - 17) 小林麻衣子, 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: ヒト気道上皮細胞におけるディーゼル排気粒子の上皮間葉移行 (EMT) 誘発作用. 日本衛生学会学術総会 (第85回) (和歌山), 2015. 3.
- (3) Late-Breaking Clinical Trials :
- 1) 大塚俊昭, 水野杏一<sup>1</sup>, 中村治雄<sup>1</sup>, 篠崎智大<sup>2</sup> (1) 三越厚生事業団, (2) 東京大学大学院医学系研究科 生物統計学分野): プラバスタチンによる高血圧発症予防効果の検討: MEGA Study サブ解析. 日本高血圧学会総会 (第37回) (横浜), 2014. 10.
- (4) サテライト研究会 (第8回): 脈波解析研究会 (第56回):
- 1) 大塚俊昭, 小谷英太郎<sup>1</sup>, 可知悠子, 加藤活人, 西城由之, 宗像 亮<sup>2</sup>, 川田智之 (1) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 循環器センター): 中年男性集団における指尖容積加速度脈波による高血圧進展予測. 日本臨床生理学会総会 (第51回) (東京), 2014. 11.
- (5) ミニレクチャー:
- 1) 大塚俊昭: 論文の書き方-統計解析をやさしく学ぼう-. 日本フットケア学会年次学術集会 (第13回) (東京), 2015. 2.

## 12. 法医学分野

### 研究概要

1. 法医中毒学・臨床中毒学：急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の剖検資料に対して、GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた薬毒物分析システムを運用し、多くの成果を挙げている。質量分析計を用いて剖検資料に含まれる睡眠薬の新規代謝物を探索し、別途化学合成した標準品とデータを比較することで、その存在を明らかにした。質量分析機器を用いた最新技法(LC-TOF, QTOF)を用いた薬毒物および代謝物の微量分析法の開発にも取り組んでいる。2. アルコール(Alc)の代謝とその細胞および生体に及ぼす影響を研究：Alc脱水素酵素(ADH1・ADH3)のAlc代謝における役割を遺伝子、蛋白酵素、細胞、動物個体の各レベルで検討し、Alc感受性およびAlc関連障害の個体差およびその機序を研究している。またAlcの心臓への影響を、培養心筋細胞を用いて、蛋白質と遺伝子の発現レベルで解析している。3. NMRおよびMRIを用いた研究：共同研究センター磁気共鳴分析施設のNMR装置を用いて、NMR技術を用いた死体髄液からの頭蓋内傷病変の診断法の新規開発に関する研究を行っている。また防衛医大および筑波剖検センターと共同で死後画像診断およびMR組織学に関する基礎研究を、形成外科学と共同で美容医療材料と美容医療後遺症との関連に関する研究を行っている。さらに京都大学、東京工芸大学等との共同研究の成果物であるNMRデータ解析技術を用いて、救急医学、神経内科学、小児医学および京都大学附属病院各科と新しい診断技術に関する共同研究を進めている。4. 法医実務の研究：2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している(日本大学医学部法医解剖室を借用)ので、剖検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shintani-Ishida K<sup>1</sup>, Saka K<sup>1</sup>, Yamaguchi K<sup>2</sup>, Hayashida M<sup>2</sup>, Nagai H<sup>1</sup>, Takemura G<sup>3</sup>, Yoshida K<sup>1</sup> (1) Department of Forensic Medicine, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, (2) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (3) Department of Cardiology, Gifu University Graduate School of Medicine) : MDMA induces cardiac contractile dysfunction through autophagy upregulation and lysosome destabilization in rats. *Biochimica et Biophysica Acta* 2014 ; 1842 (5) : 691-700.
- 2) Yi HS<sup>1</sup>, Lee YS<sup>1</sup>, Byun JS<sup>2</sup>, Seo W<sup>1</sup>, Jeong JM<sup>1</sup>, Park O<sup>3</sup>, Duester G<sup>4</sup>, Haseba T<sup>5</sup>, Kim SC<sup>6,7</sup>, Park KG<sup>8</sup>, Gao B<sup>3</sup>, Jeong WI<sup>1</sup> (1) Laboratory of Liver Research, Graduate School of Medical Science and Engineering, KAIST, (2) Department of Oral Medicine, School of Dentistry, Kyungpook National University, (3) Laboratory of Liver Study, National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism, National Institutes of Health, (4) Sanford-Burnham Medical Research Institute, (5) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (6) Intelligent Synthetic Biology Center, (7) Department of Biological Sciences, Korea Advanced of Science and Technology, (8) Department of Internal Medicine, Kyungpook National University School of Medicine) : Alcohol dehydrogenase III exacerbates liver fibrosis by enhancing stellate cell activation and suppressing natural killer cells in mice. *Hepatology* 2014 ; 60 (3) : 1044-1053.
- 3) Kanawaku Y<sup>1,2</sup>, Someya S<sup>3</sup>, Kobayashi T<sup>3</sup>, Hirakawa K<sup>4</sup>, Shiotani S<sup>5</sup>, Fukunaga T<sup>2</sup>, Ohno Y<sup>4</sup>, Kawakami S<sup>6</sup>, Kanetake J<sup>1,2</sup> (1) Department of Forensic Medicine, National Defense Medical College, (2) Tokyo Medical Examiner Office, (3) Department of Radiological Technology, Tsukuba Medical Center, (4) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (5) Department of Radiology, Tsukuba Medical Center, (6) Resident, National Defense Medical College) : High-resolution 3D-MRI of postmortem brain specimens fixed by formalin and gadoteridol. *Legal Medicine* 2014 ; 16 (4) : 218-221.
- 4) Nakata K<sup>1</sup>, Sato N<sup>2</sup>, Hirakawa K<sup>3</sup>, Asakura T<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Zhu R<sup>4</sup>, Asano T<sup>5</sup>, Koike K<sup>2</sup>, Ohno Y<sup>3</sup>, Yokota H<sup>1</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University, (3) Department of Legal Medicine and NMR Laboratory, Nippon Medical School, (4) Department of Critical Care Medicine, 1st Affiliated Hospital of China Medical University, (5) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Pattern Recognition Analysis of Proton Nuclear Magnetic Resonance Spectra of Extracts of Intestinal Epithelial Cells under Oxidative Stress. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (4) : 236-247.
- 5) Zhou J<sup>1,2</sup>, Yamaguchi K<sup>2</sup>, Ohno Y<sup>2</sup> (1) Department of Forensic Science, Zhejiang Police College, (2) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Quantitative analysis of quazepam and its metabolites in human blood, urine, and bile by liquid chromatography-tandem mass spectrometry. *Forensic Science International* 2014 ; 241 (-) : e5-e12.

- 6) 富田ゆかり<sup>1)</sup>, 渡辺彬子<sup>2)</sup>, 崔 范来<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>2)</sup> 日本医科大学医学部第4学年) : 解離性椎骨動脈瘤破裂の一剖検例 : 内因性と外傷性の鑑別. 法医学の実際と研究 2014 ; 57 : 89-95.
- 7) Oshima S<sup>1)</sup>, Haseba T<sup>2)</sup>, Nemoto A<sup>1)</sup>, Siiya S<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Research & Development Laboratories for Innovation, Asahi Group Holdings, Ltd., <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Effect of ALDH2 Genetic Polymorphism on the Adaptive Change in Alcohol Metabolism Due to Continuous Moderate Alcohol Consumption in Humans. Food and Nutrition Sciences 2015 ; 6 : 195-204.
- 8) Asano T<sup>1)</sup>, Hirakawa K<sup>2,3)</sup>, Koike K<sup>4)</sup>, Ohno Y<sup>2,3)</sup>, Fujino O<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> NMR Laboratory, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) : Visualization of different characteristics of cerebrospinal fluid with acute encephalopathy and febrile seizures using pattern recognition analysis of <sup>1</sup>H NMR. Pediatric Research 2015 ; 77 (1) : 70-74.

(2) 総説 :

- 1) Ohno Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Tetrodotoxin-Mediated Delay in Aconitine Toxicity : A Murder in Okinawa. Forensic Science Review 2014 ; 26 (2) : 139-144.
- 2) 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 長谷場健<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> アサヒグループホールディングス (株) イノベーション研究所, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 日常生活におけるアルコール代謝動態. 精神科 2014 ; 24 (5) : 501-507.
- 3) 長谷場健<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学法医学) : アルコール代謝における Non-ADH pathway の正体と Class III アルコール脱水素酵素 (ADH3). 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2014 ; 49 (3) : 159-168.

著 書

- 1) 鈴木 修<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 須崎紳一郎<sup>3)</sup>, 花尻瑠理<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 浜松医科大学副学長, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院救命救急センター, <sup>4)</sup> 国立医薬品食品衛生研究所 生薬部第3室) : [監修] 薬毒物情報インデックス. 薬毒物情報インデックス, 2014 ; 日本医事新報社.
- 2) 林田真喜子<sup>1)</sup>, その他 22 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学法医学) : [分担] 薬毒物情報インデックス. 薬毒物情報インデックス, 2014 ; 日本医事新報社.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Watanabe A<sup>1)</sup>, Tomita Y<sup>2)</sup>, Cui F<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 3rd grade student, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Ruptured Vertebral Artery Dissecting Aneurysm : Discrimination of Natural and Traumatic Causes. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 2) Kanawaku Y<sup>1)</sup>, Hatanaka N<sup>2)</sup>, Hirakawa K<sup>2,3)</sup>, Koike K<sup>4)</sup>, Ohno Y<sup>2,3)</sup>, Konta T<sup>2)</sup>, Harada K<sup>1)</sup>, Kanetake J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Forensic Medicine, National Defense Medical College, <sup>2)</sup> Department of NMR Laboratory, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) : Profiling of postmortem cerebrospinal fluid in rats with pentylentetrazole-induced seizures using nuclear magnetic resonance spectroscopy. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 3) Takino M<sup>1)</sup>, Terada M<sup>2)</sup>, Hayashida M<sup>3)</sup>, Sasaki C<sup>4)</sup>, Kurihara K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Agilent Technologies Japan, Ltd., <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, School of Medicine, Toho University, <sup>3)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Legal Medicine, Kitasato University School of Medicine) : Changes of the metabolite profile using LC/Q-TOF with a PFP column in benzodiazepine poisoning cases. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 4) Kudo K<sup>1)</sup>, Usumoto Y<sup>1)</sup>, Usui K<sup>2)</sup>, Hayashida M<sup>3)</sup>, Kurisaki E<sup>4)</sup>, Saka K<sup>5)</sup>, Tsuji A<sup>1)</sup>, Ikeda N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Forensic Pathology and Sciences, Kyushu University, <sup>2)</sup> Division of Forensic Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Legal Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, <sup>5)</sup> Department of Forensic Medicine, University of Tokyo) : Rapid and simultaneous extraction of acidic and basic drugs using modified QuEChERS method and protein-lipid removal filter cartridge. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 5) Tie J<sup>1,2)</sup>, Uchigasaki S<sup>1)</sup>, Haseba T<sup>2)</sup>, Cui F<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup>, Isobe E<sup>1)</sup>, Isahai I<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Legal Medicine, Department of

- Social Medicine, Nihon University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Distribution of phytoplankton DNA in drowned rabbit tissues. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 6) Zhou J<sup>1)</sup>, Yamaguchi K<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Forensic Science, Zhejiang Police College, <sup>2)</sup> Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Quantitative analysis of quazepam and its metabolites in human blood, urine and bile by liquid chromatography-tandem mass spectrometry. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 7) Terada M<sup>1)</sup>, Takino M<sup>2)</sup>, Sasaki C<sup>3)</sup>, Hayashida M<sup>4)</sup>, Arai H<sup>5)</sup>, Hasegawa C<sup>1)</sup>, Namba J<sup>1)</sup>, Tonooka K<sup>6)</sup>, Shinozuka T<sup>6)</sup>, Tanaka E<sup>7)</sup>, Ohno Y<sup>4)</sup>, Kurihara K<sup>3)</sup>, Kurosaki K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> School of Medicine, Toho University, <sup>2)</sup> Agilent Technologies, <sup>3)</sup> School of Medicine, Kitasato University, <sup>4)</sup> Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Frontier Science Business Division, Shiseido Co., Ltd., <sup>6)</sup> Yokohama College of Pharmacy, <sup>7)</sup> Showa University School of Medicine) : Simple and simultaneous quantification of triazolam, etizolam and their hydroxymetabolites in human urine by reversed-phase liquid-chromatography with a core-shell pentafluorophenyl column. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 8) Hayashida M<sup>1)</sup>, Takino M<sup>2)</sup>, Abe H<sup>3)</sup>, Uekusa K<sup>1)</sup>, Yamaguchi K<sup>1)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Agilent Technologies, <sup>3)</sup> Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University) : An application of the comprehensive liquid chromatography/quadrupole time-of-flight mass spectrometer (QTOF) drug screening for post-mortem cases. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 9) Abe H<sup>1)</sup>, Takino M<sup>2)</sup>, Hayashida M<sup>3)</sup>, Inokuchi G<sup>1)</sup>, Yajima D<sup>1)</sup>, Iwase H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>2)</sup> Agilent Technologies Japan Ltd., <sup>3)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Identification of EAM2201 metabolites using the EPIC method : an autopsy case. 9th International Symposium on ADVANCES IN LEGAL MEDICINE 第98次日本法医学会学術全国集会 (福岡国際会議場 (福岡)), 2014. 6.
- 10) 山口晃志<sup>1)</sup>, 周 婧<sup>1)</sup>, 合田隆大<sup>3)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>2)</sup> 浙江警察学院刑事科学技術系浙警院, <sup>3)</sup> 島津製作所分析計測事業部グローバルアプリケーション開発センター) : 剖検で得られた胆汁に含まれるクアゼパム代謝物の構造解析. 日本法中毒学会第33年会 (名古屋大学シンポジオンホール (名古屋)), 2014. 7.
- 11) 高間雅志<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>2)</sup>, 吉澤智恵子<sup>1)</sup>, 佐藤由依<sup>1)</sup>, 國末容子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 材料科学技術振興財団, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 救命救急センター入室患者試料から亜硝酸ブチル, シルデナフィル, ケタミン, ミダゾラムが検出された例. 日本法中毒学会第33年会 (名古屋大学シンポジオンホール (名古屋)), 2014. 7.
- 12) 安部寛子<sup>1)</sup>, 滝埜昌彦<sup>2)</sup>, 須賀香屋子<sup>3)</sup>, 林田眞喜子<sup>4)</sup>, 早川 陸<sup>1)</sup>, 矢島大介<sup>5)</sup>, 岩瀬博太郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉大学大学院医学研究院法医学, <sup>2)</sup> アジレント・テクノロジー, <sup>3)</sup> AB SCIEX, <sup>4)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>5)</sup> 旭川医科大学法医学) : LC-QTOF を用いた  $\alpha$ -PVP 代謝物構造推定が有効であった剖検事例. 日本法中毒学会第33年会 (名古屋大学シンポジオンホール (名古屋)), 2014. 7.
- 13) 真下啓子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学法医学) : エタノール曝露したラット培養心筋細胞の遺伝子発現解析. 日本アルコール・薬物医学会 (第49回) (パシフィコ横浜 (横浜)), 2014. 10.
- 14) 佐久間隆弘<sup>1)</sup>, 長谷場健<sup>2)</sup>, 丸山基世<sup>3)</sup>, 秋元敏雄<sup>3)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学第四学年, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学, <sup>3)</sup> 日本医科大学実験動物管理室) : 急性アルコール中毒下での臓器障害とアルコール脱水素酵素の役割. 日本法医学会学術関東地方集会 (第83回) (東京女子医科大学弥生記念講堂 (東京)), 2014. 11.
- 15) 田邊 綾<sup>1)</sup>, 富田ゆかり<sup>2)</sup>, 崔 范来<sup>2)</sup>, 奥田貴久<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学第三学年, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 生活保護者宿泊施設での食道癌による衰弱死の1例. 日本法医学会学術関東地方集会 (第83回) (東京女子医科大学弥生記念講堂 (東京)), 2014. 11.
- 16) Yamaguchi K<sup>1)</sup>, Goda T<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Shimadzu Global Application Development Center) : Structural Determination of Quazepam Metabolites Detected in Postmortem Bile by Ion-Trap Time-of-Flight Mass Spectrometry. 52nd ANNUAL MEETING OF THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF FORENSIC TOXICOLOGISTS (TIAFT) (BUENOS AIRES, ARGENTINA), 2014. 11.
- 17) 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 長谷場健<sup>2)</sup>, 神田智正<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> アサヒグループホールディングス (株) イノベーション研究所, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学) : 飲酒によるヘマトクリット値の変動 : ALDH2 遺伝子多型による違い. アルコール医学生物学研究会学術集会 (第34回) (津・三重), 2015. 1.
- 18) Okuda T<sup>1, 2)</sup>, Shiotani S<sup>3)</sup>, Ohno Y<sup>1)</sup>, Fowler DR<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Office of the Chief Medical Examiner, State of Maryland, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Tsukuba Medical Center) : Sudden death in a bathtub in Japan. National Association of Medical Examiners 2014 Annual Meeting (Portland, Oregon, USA), 2014. 9.

- 19) 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 苛原隆之<sup>1)</sup>, 畠中直樹<sup>2)</sup>, 今田トモ子<sup>2)</sup>, 北口綾子<sup>1)</sup>, 平川慶子<sup>2,3)</sup>, 鈴木崇生<sup>1)</sup>, 川嶋秀治<sup>1)</sup>, 邑田 悟<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup> (1) 京都大学医学部初期診療・救急科, 2) 日本医科大学 NMR 研究室, 3) 日本医科大学法医学) : 敗血症時の酸化ストレスに対する免疫修飾経腸栄養剤投与による影響. 日本外科代謝栄養学会 第 51 回学術集会 (千里 (大阪)), 2014. 7.

## 論 文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Hikiji W<sup>1)</sup>, Yamaguchi K<sup>2)</sup>, Saka K<sup>3)</sup>, Hayashida M<sup>2)</sup>, Ohno Y<sup>2)</sup>, Fukunaga T<sup>1)</sup> (1) Tokyo Medical Examiner's Office, Tokyo Metropolitan Government, 2) Department of Legal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Forensic Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo) : Acute fatal poisoning with Tolfenpyrad. J. Forensic Legal Med. 2013 ; 20 (8) : 962-964.



## 13. 医療管理学分野

### 研究概要

医療管理学教室では、超高齢社会における医療システムのあり方に関して様々な角度から研究を実施してきた。特に、①福祉と関連する医療需要の現状把握と将来予測、②変質する需要に対する医療システムのあり方について、高齢者の生活支援を軸にした新しい情報共有のあり方に関して研究を行ってきた。今後も、社会医学系の学問として対応していくべき課題を中心に、超高齢社会という現状を見据えたうえで、更に医療システム体系化を目的とした研究を進めていく。本年度は以下の成果を得た。①病院機能に関して、日本と他の経済協力開発機構 OECD 加盟国との比較を行い、病院の人的体制および急性期治療機能等において、他国との違いがあることを明らかにした。②本学3年生を対象に授業の一環として医療インタビューの課題を与え、その後アンケート調査を行ったところ、学生は現在医療が抱えている社会問題においても直視することができたという結果を得た。特に高齢者との面談では、個人的な事情を具体化した回答が比較的多く、コミュニケーション能力向上のための学生教育は高齢社会の医療システムにも有用であると考えられる。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 熊田朝子, 藤谷克己, 小塩篤史:「コミュニケーション力向上」を目的とした医療インタビュー実習について. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山市), 2014. 7.

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [実験動物管理室]

#### 研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定によって疾患の解明・医学研究への貢献を目指して研究を進めている。非肥満2型糖尿病モデル動物であるWBN/Kobラットに肥満遺伝子を導入したWBN/Kob-fattyコンジュニクラットを確立し、新たな肥満2型糖尿病モデル動物を作成した。膵臓における炎症関連の遺伝子発現、および長期飼育により糖尿病性合併症モデルとしてヒトの病態の理解に資すると考え研究を行っている。さらにヘアレスラットWBN/Ita-Htラットはアトピー性皮膚炎のモデルで、TRPV3遺伝子に変異がある。このラットは皮膚炎発症および被毛の病態だけでなく、2次性胆汁性肝硬変への抵抗性が明らかとなったことから、遺伝的要因との関連について調べている。神経障害性疼痛は、感覚神経の障害に起因する痛覚過敏とアロディニアを特徴とし、既存の抗炎症薬やモルヒネなどの薬物に対して抵抗性を示す難治性の慢性疼痛である。中でも冷痛覚過敏は、治療ニーズが高いにも関わらず未だ十分な治療法が無い。治療標的分子として近年、冷刺激を受容するtransient receptor potential (TRP)チャネルの内、TRPA1やTRPM8が注目を浴びているが、これらの受容体のみでは冷痛覚全てを説明できない。すなわち、冷刺激の検出メカニズム自体に不明な点が多く、冷痛覚過敏の発症メカニズムに至ってはほとんど明らかになっていない。我々は、従来温かい温度を受容するとされてきたTRPV3チャネルが、冷痛覚に関与していることを見出した。また、TRPV3の発現は病的疼痛に伴って上昇することから冷痛覚過敏にも関与している可能性が考えられる。従って、本研究ではTRPV3チャネルの冷痛覚における役割を分子、細胞、行動レベルにおいて明らかにし、冷痛覚過敏に対する新規の治療標的の同定を目指す。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Medina A<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Ma J<sup>1)</sup>, Li L<sup>1)</sup>, Hamano K<sup>1)</sup>, Akimoto T<sup>2)</sup>, Ninomiya Y<sup>3)</sup>, Kojima I<sup>1)</sup> (1) Institute for Molecular & Cellular Regulation, Gunma University, 2) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 3) Department of Oral Physiology, Kyushu University Graduate School of Dental Science) : Expression of the glucose-sensing receptor T1R3 in pancreatic islet : changes in the expression levels in various nutritional and metabolic states. *Endocr J.* 2014 ; 61 (8) : 797-805.
- 2) Terada M<sup>1)</sup>, Horii Y<sup>2)</sup>, Sato F<sup>3)</sup>, Taniguchi K<sup>4)</sup>, Hori T<sup>5)</sup>, Kawakami E<sup>5)</sup>, Tsutsui T<sup>5)</sup>, Akimoto T<sup>6)</sup>, Shinoda M<sup>1)</sup>, Saito T<sup>7)</sup> (1) Laboratory Animal Research Center, Dokkyo Medical University, 2) Kitayama Labes Co., Ltd., Nagano, Japan, 3) Japan Racing Association, Hidaka Training and Research Center, 4) Department of Veterinary Anatomy, Kitasato University, 5) Department of Reproduction, Nippon Veterinary and Life Science University, 6) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 7) Behavioral Neuroscience Laboratory, Nippon Veterinary and Life Science University) : Time-dependent changes in cardiovascular function during copulatory behavior induced by the hand method in the male dog. *Reprod Med Biol.* 2014 ; 13 : 53-58.

##### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 丸山基世, 坂井 敦<sup>1)</sup>, 秋元敏雄, 鈴木秀典<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 医学部 薬理学分野) : Analysis of pain-related behaviors in the gain-of-function mutant rat of TRPV3 gene. 日本薬理学会年会 (第88回) (名古屋), 2015. 3.
- 2) 藤澤正彦<sup>1)</sup>, 大坂優衣<sup>1)</sup>, 丸山基世, 袴田陽二<sup>1)</sup> (1) 日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科 基礎部門 生体機能学分野) : Hydrodynamic 法による naked DNA 導入に対するヒスタミン処置の有効性. 日本実験動物学会総会 (第61回) (札幌), 2014. 5.
- 3) 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 丸山基世<sup>1)</sup>, 寺田 節<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学実験動物管理室, 2) 独協医科大学実験動物センター) : WBN/Kob-fatty ラット糖尿病発症の性差について. 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (第29回) (京都), 2015. 2.
- 4) 寺田 節<sup>1)</sup>, 今 弘枝<sup>1)</sup>, 秋元敏雄<sup>2)</sup>, 篠田元扶<sup>1)</sup> (1) 獨協医科大学実験動物センター, 2) 日本医科大学実験動物管理室) : ラットおよびマウスにおける安楽死方法の相違による血液パラメーターに与える影響. 日本実験動物科学技術さっぽろ2014 (札幌コンベンションセンター), 2014. 5.

### [形態解析共同研究施設]

#### 研究概要

共同研究センター形態解析共同研究施設は、バーチャルスライド、電子顕微鏡、レーザー顕微鏡などの形態研究に関する種々の先端機

器の管理、運営および共同利用の推進を業務としている。一方、学内研究者に形態機器の技術指導、および共同研究も実施している。また、附属病院、関連病院から依頼された病理生検材料について、診断サポートのための電子顕微鏡による検索、報告も行っている。研究としては、鈴木は厚生労働省科研費による班研究（創薬基盤推進研究事業「人工血小板/H12（ADP）リボソーム：臨床研究への移行を目指した品質管理と薬物試験（H24-創薬総合-一般-008）」）の研究分担者として従事し、人工血小板リボソームを使った *in vitro* および *in vivo* の実験における形態的検討を行い、銃弾発射時に生じる衝撃波による肺出血にも、本リボソームの前投与により出血が軽減することを形態的に確認した。また、昨年度京都大学医学部小児科との共同研究であるフィラミン A 異常症患者の血小板の形態と機能について、今年度も継続的に検討した。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Kunishima S<sup>1</sup>), Nishimura S<sup>2</sup>), Suzuki H<sup>3</sup>), Imaizumi M<sup>4</sup>), Saito H<sup>5</sup>) (1) Department of Advanced Diagnosis, Clinical Research Center, National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan, (2) Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, (3) Department of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Department of Hematology and Oncology, Miyagi Children's Hospital, Miyagi, Japan, (5) National Hospital Organization Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan) : TUBB1 mutation disrupting microtubule assembly impairs proplatelet formation and results in congenital macrothrombocytopenia. *Eur J Haematol.* 2014 ; 92 (4) : 276-282.
- 2) Yoda E<sup>1</sup>), Rai K<sup>1</sup>), Ogawa M<sup>1</sup>), Takakura Y<sup>1</sup>), Kuwata H<sup>1</sup>), Suzuki H<sup>2</sup>), Nakatani Y<sup>1</sup>), Murakami M<sup>3</sup>), Hara S<sup>3</sup>) (1) Division of Health Chemistry, Department of Healthcare and Regulatory Sciences, School of Pharmacy, Showa University, Shinagawa-ku, Tokyo, Japan, (2) Division of Morphological and Biomolecular Research, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, (3) Lipid Metabolism Project, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Setagaya-ku, Tokyo, Japan) : Group VIB calcium-independent phospholipase A2 (iPLA2 $\gamma$ ) regulates platelet activation, hemostasis and thrombosis in mice. *PLoS One.* 2014 ; 9 (10) : e109409.

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木英紀<sup>1</sup>), 金澤彩子<sup>1</sup>), 瀧澤俊広<sup>1</sup>), 小田紘嗣<sup>2</sup>), 中川権史<sup>2</sup>), 井澤和司<sup>2</sup>), 河合朋樹<sup>2</sup>), 西小森隆太<sup>2</sup>), 小原 収<sup>2</sup>), 平家俊男<sup>2</sup>) (1) 日本医科大学共同研究センター形態解析共同研究施設, (2) 京都大学医学部小児科) : Filamin A 異常症患者血小板の形態学的解析. 日本血栓止血学会学術集会 (第 36 回) (大阪), 2014. 5.
- 2) 鈴木英紀<sup>1</sup>), 萩沢康介<sup>2</sup>), 木下 学<sup>2</sup>), 武岡真司<sup>3</sup>), 半田 誠<sup>4</sup>) (1) 日本医科大学共同研究センター形態解析共同研究施設, (2) 防衛医科大学校, (3) 早稲田大学理工学部学術院, (4) 慶應大学医学部輸血・細胞療法センター) : 人工血小板/H12 (ADP) リボソームの超微形態学的検討. 日本血液代替物学会年次大会 (第 21 回) (東京), 2014. 12.

### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Sakata A<sup>1</sup>), Ohmori T<sup>1</sup>), Nishimura S<sup>1</sup>), Suzuki H<sup>2</sup>), Madoiwa S<sup>1</sup>), Mimuro J<sup>1</sup>), Kario K<sup>3</sup>), Sakata Y<sup>1</sup>) (1) Research Division of Cell and Molecular Medicine, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan, (2) Department of Morphological and Biomolecular Research, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University School of Medicine, Tochigi, Japan) : Paxillin is an intrinsic negative regulator of platelet activation in mice. *Thromb J.* 1014 ; 12 (1) : 1-13.

### 著書

追加分：

- 1) 佐藤 茂<sup>1</sup>), 山中宣昭<sup>2</sup>) (1) 日本医科大学共同研究センター形態解析共同研究施設, (2) 東京腎臓研究所) : [共著] 電子顕微鏡アトラス. 腎生検 renal biopsy, 1014 ; pp1-142, 日新 EM 株式会社.

## [基礎医学放射性同位元素研究室]

### 研究概要

基礎医学放射性同位元素研究室（以下、基礎医学 RI 研究室）は平成 24 年 6 月より本事業所の放射線主任者である永原准教授が選任教員として任命され、「共同研究センター・基礎医学放射性同位元素研究室」の法的および管理業務一般、従事者に対する教育訓練、放射線影響に関する教育（放射線衛生学）、基礎配属における教育、大学院講義、研究を行った。また、平成 25 年 4 月より内藤善哉大学院教授（統御機構診断病理学）が研究室室長として統括している。永原は従来からのメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素（MST）の酵素化学とシステインレドックス化学（酸化還元）に関する研究を中心に継続するとともに、環境医学、病態生化学、酵素学、タンパク質化学、proteomics の分野の研究を展開した。最近、MST が抗酸化タンパク質であることを証明し、さらに共同研究者により H<sub>2</sub>S が MST から産生される事が明らかになった。また、SO<sub>x</sub> が MST から産生される事を *in vitro* で証明して、酵素（タンパク質）機能の多様性を明らかにした。今年度の科研費研究の一環として MST ノックアウト（KO）マウスの作成し、網羅的研究を行っている。ヒトの MST の先天的欠損症（mercaptolactate cysteine disulfiduria）は精神遅延発達障害を伴うが、未だに病態が明らかになっていない。MST-KO マウスを用いた研究結果として、MST 欠損による不安障害を認めており、病態の解明を進めた。上記の研究を含め、国内や欧米と複数の共同研究（国立精神神経医療センター研究所・木村博士、熊本大学・伊藤教授、嶋村教授、神奈川県立こども医療センター・田中博士、東北大学・赤池孝章教授、明治薬科大学・小笠原裕樹教授、ジャギロニアン大（ポーランド）・Wrobel 教授、ハノーバー大（ドイツ）・Papenbrock 教授、アテネ大学（ギリシャ）・Papapetropoulos 教授）を行った。結果は論文、学会、招待講演などで発表した。現在、選任教員が一名の体制であり、実験スペース、分析機器、試薬、実験器具など、昨年と同様に整備の必要性が課題として残った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Okudela K<sup>1</sup>, Katayama A<sup>2</sup>, Woo T<sup>3</sup>, Mitsui H<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>1</sup>, Tateishi Y<sup>1</sup>, Umeda S<sup>1</sup>, Tajiri M<sup>4</sup>, Masuda M<sup>3</sup>, Nagahara N, Kitamura H<sup>1</sup>, Ohashi K<sup>1</sup> (1) Dept. of Pathol., Yokohama City Univ., Grad. Sch. Med., (2) Dept. of Biochem. Cell Biol., Nippon Med. Univ., (3) Dept. of Surg., Yokohama City Univ., Grad. Sch. Med., (4) Div. of Gen. Thorac. Surg., Kanagawa Pref. Cardiovasc. Respir. Ctr. Hosp.) : Proteome analysis for downstream targets of oncogenic KRAS - the potential participation of CLIC4 in carcinogenesis in the lung. *PLoS One* 2014 ; 9 : e87193.
- 2) Niimori-Kita K<sup>1</sup>, Ogino K<sup>1</sup>, Mikami S<sup>2</sup>, Kudoh S<sup>1</sup>, Koizumi D<sup>1</sup>, Kudoh N<sup>1</sup>, Nakamura F<sup>1</sup>, Misumi M<sup>1</sup>, Shimomura T<sup>1</sup>, Hasegawa K<sup>1</sup>, Usui F<sup>2</sup>, Nagahara N, Ito T<sup>1</sup> (1) Dept. of Pathol. Exp. Med. Kumamoto Univ. Grad. Sch. Med., (2) AMR Inc.) : Identification of nuclear phosphoproteins as novel tobacco markers in mouse lung tissue following short-term exposure to tobacco smoke. *FEBS Open Bio* 2014 ; 4 : 746-754.

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) Nagahara N : Mercaptopyruvate sulfurtransferase and hydrogen sulfide. 3rd International Congress on H<sub>2</sub>S Biology and Medicine (Japan), 2014. 6.

##### (2) 一般講演：

- 1) Nagahara N : A mechanism of inactivation of rat mercaptopyruvate sulfurtransferase by bromopyruvate. 日本生化学会大会（第 87 回）（京都），2014. 10.

##### 追加招待講演：

- 1) 永原則之：酵素から硫化水素は産生されるか：3-mercaptopruvate sulfurtransferase の分子進化と生理的役割。慶應大学セミナー（東京），2014. 2.

### 〔3〕臨 床 医 学

# 1. 総合医療・健康科学分野

## [付属病院総合診療科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 須崎 真<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)：救急患者の症候と疾患の疫学. 腎と透析 2014; 77 (1) : 39-43.

#### 著書

- 1) 桐木園子, 宮本正章：[分担] マゴットセラピー. 糖尿病ケア, 2014 ; pp58-59, メディカ出版.

#### 学会発表

##### (1) 招待講演：

- 1) 桐木 (市川) 園子：蛆虫清創治療：温故知新. The Wound Healing and Cartilage Repair Meeting (第1回) (大連), 2014. 11.

##### (2) ポスター：

- 1) 須崎 真<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1,2)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)：総合診療外来における小児外傷の特徴と問題点. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.

##### (3) 一般講演：

- 1) 三枝太郎<sup>1)</sup>, 渡邊健太郎<sup>2)</sup>, 大内基司<sup>3)</sup>, 小原 信<sup>4)</sup>, 亀田 亘<sup>3)</sup>, 諏佐真治<sup>3)</sup>, 大泉俊英<sup>3)</sup>, 鈴木達也<sup>1)</sup>, 大庭健三<sup>5)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 加藤丈夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 山形大学医学部第三内科, 3) 独協医科大学医学部薬理学講座, 4) 昭和大学医学部内科学講座 (糖尿病・代謝・内分泌内科学部門), 5) 大洗海岸病院コアクリニック)：2型糖尿病患者における総頸動脈IMT肥厚進展と背景因子の関連性の検討. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第52回) (パシフィコ横浜), 2015. 1.
- 2) 三枝太郎<sup>1)</sup>, 渡邊健太郎<sup>2)</sup>, 大内基司<sup>3)</sup>, 小原 信<sup>4)</sup>, 鈴木達也<sup>1)</sup>, 大庭健三<sup>5)</sup>, 加藤丈夫<sup>3)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 山形大学医学部第三内科, 3) 独協医科大学医学部薬理学講座, 4) 昭和大学医学部内科学講座 (糖尿病・代謝・内分泌内科学部門), 5) 大洗海岸病院コアクリニック)：高齢糖尿病患者におけるBody mass indexと背景因子の関連-断面調査による検討-. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第61回) (公立学校共済組合 関東中央病院), 2015. 2.
- 3) Wakakuri H<sup>1)</sup>, Suzaki M<sup>1)</sup>, Kirinoki S<sup>1)</sup>, Onodera N<sup>1)</sup>, Araki T<sup>2)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Kawai M<sup>2)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup> (1) Department of General Medicine & Health Science, Nippon Medical School, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：A simple screening method to detect malignancy using red cell distribution width (RDW). Society of General Internal Medicine 2014 annual meeting (San Diego), 2014. 4.
- 4) 若栗大朗<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター)：赤血球容積粒度分布幅 (RDW) による担癌患者スクリーニングの有効性. 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 (第5回) (岡山), 2014. 5.
- 5) 若栗大朗<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学高度救命救急センター)：Shaken elderly ? syndromeの2症例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 6) 若栗大朗<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>2)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：急激な両側性下肢浮腫の原因が後腹膜に発生した脱分化型脂肪肉腫と診断された1例. 日本フットケア学会年次学術集会 (第13回) (東京), 2015. 2.
- 7) 若栗大朗<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>1)</sup>, 田中啓広<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター)：一般外来に来院する急性冠症候群の臨床的特徴. 日本病院総合診療医学会 (第10回) (福岡), 2015. 2.
- 8) 須崎 真<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1,2)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター)：大学病院ERにおける小児外傷診療の現状と課題. 日本小児救急医学会学術集会 (第28回) (横浜), 2014. 6.

- 9) 須崎 真<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1,2)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 総合診療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 小児外傷診療における ER の役割と今後の課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 10) 桐木 (市川) 園子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学病院 循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病院 放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学病院 消化器外科): <sup>67</sup>Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像による半定量的骨髄炎新規診断法の開発と高気圧酸素療法の効果判定. 日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会 (第 14 回) (東京), 2014. 6.
- 11) 桐木 (市川) 園子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器外科): <sup>67</sup>Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像により骨髄炎に対する高気圧酸素療法効果判定の可能性を示唆した 1 例. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 49 回) (鹿児島), 2014. 11.
- 12) Kirinoki-Ichikawa S<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Kubota Y<sup>1)</sup>, Tezuka A<sup>1)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Sugihara Y<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Cardiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital): New Method for Quantitative Evaluation and Prognostification of Osteomyelitis in Diabetic Foot by Using <sup>67</sup>Ga-Citrate-SPECT-CT Fusion Imaging. International Diabetes Federation-Western Pacific Region Congress (第 10 回) (シンガポール), 2014. 11.
- 13) 桐木 (市川) 園子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 杉原康朗<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 放射線科): <sup>67</sup>Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像評価による新しい骨髄炎の診断および評価法. 日本フットケア学会年次学術集会 (第 13 回), 2015. 2.
- 14) 桐木 (市川) 園子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 飯村剛史<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器外科): マゴットセラピー 159 例から考える難治性慢性下肢潰瘍治療と救肢. マゴットセラピー研究会 (第 4 回) (東京), 2015. 2.

## 2. 循環器内科学分野

### [付属病院循環器内科]

#### 研究概要

内科学（循環器内科学）教室では循環器病学では、以下に示すような臨床的基礎的研究を行った。1. 慢性心房細動に対する至適な高周波カテーテル焼灼術の開発 2. 3次元マッピング機器を用いた開心術後心房頻拍の機序解明と治療法の開発 3. 器質的心疾患に合併した重症心室性不整脈の薬物療法および非薬物治療（高周波カテーテル焼灼術，デバイス治療）の検討 4. 遺伝性不整脈疾患（QT延長症候群，ブルガダ症候群など）の遺伝子診断とこれに基づいた薬物および非薬物治療 5. 次世代シーケンサを用いた網羅的全エクソン（Exome）解析，全ゲノム解析，ゲノムワイド関連解析（GWAS）による遺伝性不整脈の新規遺伝子同定 6. iPS細胞を用いた遺伝性不整脈の病態解明とテラーメイド治療 7. 心電図 Wavelet 解析を用いて心サルコイドーシスの病態進行評価 8. 急性冠症候群の発生機序を解明：PET-冠動脈CT融合画像により非侵襲的に検出される炎症に富む冠動脈プラークと血管内視鏡・optical coherence tomographyなどの血管内画像診断による組織特性との対比からの検討 9. カテーテルによる肥大型心筋症の心筋焼灼術後の左室形態と血行動態の変化の検討 10. 心肥大・心不全進展過程における $\beta$ 3アドレナリン受容体情報伝達系の心保護作用に関する検討 11. 心疾患病態・血管内皮機能関係に影響する因子の検討 12. 運動療法による心疾患病態に対する改善効果の機序 13. 心疾患合併高血圧症における中心血圧と病態との関連 14. 自己骨髄細胞による血管新生療法と徐放化増殖因子ハイドロゲルによる血管再生治療 15. マゴットセラピー法（無菌性医用うじ虫治療）の活用 16. 組織ドブラ，スペックルトラッキング法を用いた心機能評価：心臓再同期療法，大動脈壁の硬さ，左右心機能

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kinugawa K, Nagai R, Inoue H, Atarashi H, Seino Y, Yamashita T, Shimizu W, Aiba T, Kitakaze M, Sakamoto A, Ikeda T, Inami Y, Daimon T, Fujino K, Nagano T, et al. : Impacts of patient characteristics on the effectiveness of landiolol in AF/AFL patients complicated with LV dysfunction : Subgroup analysis of the J-Land Study. *Adv Ther* 2014 ; 31 (5) : 577-578.
- 2) Toyota N<sup>1)</sup>, Miyazaki A<sup>2)</sup>, Sakaguchi H<sup>2)</sup>, Shimizu W, Ohuchi H<sup>2)</sup> (1) 大津赤十字病院, (2) 国立循環器病研究センター) : A high-risk patient with long-QT syndrome with no response to cardioselective beta-blockers. *Heart Vessels* 2014 ; Epub.
- 3) Makita N, Yagihara N, Crotti L, Johnson C, Beckmann B, Roh M, Shigemizu D, Lichtner P, Ishikawa T, Aiba T, Homfray T, Behr E, Klug D, Denjoy I, Mastantuono E, et al. : Novel Calmodulin (CALM2) Mutations Associated with Congenital Arrhythmia Susceptibility. *Circ Cardiovasc Genet* 2014 ; Epub.
- 4) Ise T<sup>1)</sup>, Hasegawa T<sup>1)</sup>, Morita Y<sup>1)</sup>, Yamada N<sup>1)</sup>, Funada A<sup>1)</sup>, Takahama H<sup>1)</sup>, Amaki M<sup>1)</sup>, Kanzaki H<sup>1)</sup>, Okamura H<sup>1)</sup>, Kamakura S<sup>1)</sup>, Shimizu W, Anazai T<sup>1)</sup>, Kitakaze M<sup>1)</sup> (1) 国立循環器病研究センター) : Extensive late gadolinium enhancement on cardiovascular magnetic resonance predicts adverse outcomes and lack of improvement in LV function after steroid therapy in cardiac sarcoidosis. *Heart* 2014 ; 100 (15) : 1165-1172.
- 5) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Okazaki H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Asai K, Shimizu W (1) Division of Intensive Care Unit CHiba Hokusoh Hospital) : Immediate administration of tolvaptan prevents the exacerbation of acute kidney injury and improves the mid-term prognosis of patients with severely decompensated acute heart failure. *Circ J* 2014 ; 78 (4) : 911-921.
- 6) Yodogawa K, Shimizu W : Noninvasive risk stratification of lethal ventricular arrhythmias and sudden cardiac death after myocardial infarction. *J Arrhythm* 2014 ; 30 : 230-234.
- 7) Shimizu W : Importance of clinical analysis in the new era of molecular genetic screening. *J Am Coll Cardiol* 2014 ; 64 (1) : 80-82.
- 8) Shimizu W : Current status and future perspective in inherited cardiac arrhythmias. *Nihon Rinsho* 2014 ; 72 (3) : 553-563.
- 9) 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 植竹俊介, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 小林義典<sup>1)</sup>, 清水 渉 (1) 東海大学八王子病院循環器内科) : 虚血と不整脈 虚血関連 Purkinje 心室頻拍および Electrical Storm のアブレーション. *心電図* 2014 ; 34 (2) : 127-136.
- 10) 中島育太郎<sup>1)</sup>, 野田 崇<sup>1)</sup>, 石橋耕平<sup>1)</sup>, 山田優子<sup>1)</sup>, 宮本康二<sup>1)</sup>, 岡村英夫<sup>1)</sup>, 里見和浩<sup>2)</sup>, 相庭武司<sup>1)</sup>, 鎌倉史郎<sup>1)</sup>, 草野研吾<sup>1)</sup>, 清水 渉 (1) 国立循環器病研究センター心臓血管内科, (2) 東海大学八王子病院循環器内科) : 虚血と不整脈 虚血性心疾患に伴う心室不整脈に対するデバイス治療. *心電図* 2014 ; 34 (2) : 137-143.
- 11) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Okazaki H<sup>1)</sup>, Hata



- N<sup>1</sup>, Shimizu W ( <sup>1</sup> Division of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital ) : Preventable effects of bare-metal stent on restenosis after everolimus-eluting stent deployment. *Heart Vessels* 2014 ; Epub.
- 12) Saito T, Asai K, Sato S<sup>1</sup>, Takano H, Mizuno K, Shimizu W ( <sup>1</sup> Central Electron Microscopic Institute ) : Ultrastructural features of cardiomyocytes in dilated cardiomyopathy with initially decompensated heart failure as a predictor of prognosis. *Eur Heart J* 2015 ; 36 ( 12 ) : 724-732.
- 13) Nakamura S, Asai K, Kubo Y, Murai K, Takano H, Tsukada Y, Shimizu W : Impact of sleep-disordered breathing and efficacy of positive airway pressure on mortality in patients with chronic heart failure and sleep-disordered breathing : a meta-analysis. *Clin Res Cardiol* 2015 ; 104 ( 3 ) : 208-216.
- 14) Nakagomi A<sup>1</sup>, Seino Y<sup>2</sup>, Noma S<sup>1</sup>, Kohashi K<sup>1</sup>, Kosugi M<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Shimizu W ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Chiba-Hokusoh Hospital ) : Relationships between the Serum Cholesterol Levels, Production of Monocyte Proinflammatory Cytokines and Long-term Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure. *Intern Med* 2014 ; 53 ( 21 ) : 2415-2424.
- 15) Shirakabe A<sup>1</sup>, Hata N<sup>1</sup>, Kobayashi N<sup>1</sup>, Okazaki H<sup>1</sup>, Shinada T<sup>1</sup>, Tomita K<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Tsurumi M<sup>1</sup>, Matsushita M<sup>1</sup>, Yamamoto Y<sup>1</sup>, Yokoyama S<sup>1</sup>, Asai K, Shimizu W ( <sup>1</sup> Division of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital ) : Serum Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Level Can Be Used to Detect Acute Kidney Injury on Admission and Predict an Adverse Outcome in Patients With Acute Heart Failure. *Circ J* 2015 ; 79 ( 1 ) : 119-128.
- 16) Miyachi H<sup>1</sup>, Onozawa S<sup>2</sup>, Akutsu K<sup>1</sup>, Shimizu W, Kumita S<sup>2</sup>, Tanaka K<sup>1</sup>, Murata S<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Division of Intensive and Cardiovascular Care Unit, <sup>2</sup> Department of Radiology ) : Treatment of Visceral Malperfusion in Acute Type B Aortic Dissection by Percutaneous Endovascular Fenestration Using a Stent, with Additional Stenting of the True Lumen. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 ( 5 ) : 340-345.
- 17) Okamura H<sup>1</sup>, Kamakura T<sup>1</sup>, Morita H<sup>2</sup>, Tokioka K<sup>2</sup>, Nakajima I<sup>1</sup>, Wada M<sup>1</sup>, Ishibashi K<sup>1</sup>, Miyamaoto K<sup>1</sup>, Noda T<sup>1</sup>, Aiba T<sup>1</sup>, Nishii N<sup>2</sup>, Nagase S<sup>2</sup>, Shimizu W, Yasuda S<sup>1</sup>, Ogawa H<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>2</sup> Okayama University ) : Risk Stratification in Patients With Brugada Syndrome Without Previous Cardiac Arrest : Prognostic Value of Combined Risk Factors. *Circ J* 2015 ; 79 ( 2 ) : 310-317.
- 18) Okamatsu H<sup>1</sup>, Ohrata T<sup>1</sup>, Kanzaki H<sup>1</sup>, Nakajima I<sup>1</sup>, Miyamoto K<sup>1</sup>, Okamura H<sup>1</sup>, Noda T<sup>1</sup>, Aiba T<sup>1</sup>, Kusano K<sup>1</sup>, Kamakura S<sup>1</sup>, Shimizu W<sup>1</sup>, Satomi K ( <sup>1</sup> National Cerebral and Cardiovascular Center ) : Impact of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on Outcome of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Patients With Hypertrophic Cardiomyopathy. *Circ J* 2015 ; 79 ( 2 ) : 419-424.
- 19) Miyamoto K<sup>1</sup>, Aiba T<sup>1</sup>, Kimura H<sup>1</sup>, Hayashi H<sup>1</sup>, Ohno S<sup>2</sup>, Yasuoka C<sup>1</sup>, Tanioka Y<sup>1</sup>, Tsuchiya T<sup>1</sup>, Yoshida Y<sup>1</sup>, Hayashi H, Tsuboi I, Nakajima I<sup>1</sup>, Ishibashi K<sup>1</sup>, Okamura H<sup>1</sup>, Noda T<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> 国立循環器病研究センター, <sup>2</sup> 滋賀医科大学 ) : Efficacy and safety of flecainide for ventricular arrhythmias in patients with Andersen-Tawil syndrome with KCNJ2 mutations. *Heart Rhythm* 2015 ; 12 ( 3 ) : 596-603.
- 20) Kubota Y, Asai K, Furuse E, Nakamura S, Murai K, Tetsuo Tsukada Y, Shimizu W : Impact of  $\beta$ -blocker selectivity on long-term outcomes in congestive heart failure patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015 ; 10 ( 1 ) : 515-523.
- 21) Inoue K<sup>1</sup>, Murakawa Y<sup>2</sup>, Nogami A<sup>3</sup>, Shoda M<sup>4</sup>, Naito S<sup>5</sup>, Kumagai K<sup>6</sup>, Miyauchi Y, Yamane T<sup>7</sup>, Morita N<sup>8</sup>, Okumura K<sup>9</sup> ( <sup>1</sup> Sakurabashi Watanabe Hospital, <sup>2</sup> Teikyo University Mizonokuchi Hospital, <sup>3</sup> University of Tsukuba, <sup>4</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>5</sup> Gunma Prefectural Cardiovascular Center, <sup>6</sup> Fukuoka Sanno Hospital, <sup>7</sup> The Jikei University School of Medicine, <sup>8</sup> Tokai University Hachioji Hospital, <sup>9</sup> Hirosaki University of Graduate School of Medicine ) : Clinical and procedural predictors of early complications of ablation for atrial fibrillation : Analysis of the national registry data. *Heart Rhythm* 2014 ; 11 ( 12 ) : 2247-2253.
- 22) Murakawa Y<sup>1</sup>, Nogami A<sup>1</sup>, Shoda M<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Naito S<sup>1</sup>, Kumagai K<sup>1</sup>, Miyauchi Y, Yamane T<sup>1</sup>, Morita N<sup>1</sup>, Okumura K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Teikyo University ) : Nationwide survey of catheter ablation for atrial fibrillation : the Japanese Catheter Ablation Registry of Atrial Fibrillation (J-CARAF) --report of 1-year follow-up. *Circ J* 2014 ; 78 ( 5 ) : 1091-1096.
- 23) Inoue K<sup>1</sup>, Murakawa Y<sup>1</sup>, Nogami A<sup>1</sup>, Shoda M<sup>1</sup>, Naito S<sup>1</sup>, Kumagai K<sup>1</sup>, Miyauchi Y, Yamane T<sup>1</sup>, Morita N<sup>1</sup>, Okumura K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Sakurabashi Watanabe Hospital ) : Current status of catheter ablation for atrial fibrillation--updated summary of the Japanese Catheter Ablation Registry of Atrial Fibrillation (J-CARAF). *Circ J* 2014 ; 78 ( 5 ) : 1112-1120.
- 24) Murakawa Y<sup>1</sup>, Nogami A<sup>1</sup>, Shoda M<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Naito S<sup>1</sup>, Kumagai K<sup>1</sup>, Miyauchi Y, Yamane T<sup>1</sup>, Morita N<sup>1</sup>, Mita-mura H<sup>1</sup>, Okumura K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Teikyo University ) : Nationwide survey of catheter ablation for atrial fibrillation : The Japanese Catheter Ablation Registry of Atrial Fibrillation (J-CARAF) -Report on antiarrhythmic drug therapy. *J Arrhythm* 2014 ; 30

- (5) : 362-366.
- 25) Tsuboi I, Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Hayashi H, Uetake S, Takahashi K, Shimizu W : Anatomical Factors Associated with Periesophageal Vagus Nerve Injury after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (4) : 248-257.
  - 26) Hayashi H, Hayashi M, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Yodogawa K, Iwasaki Y, Shimizu W : Left atrial wall thickness and outcomes of catheter ablation for atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy. *J Interv Card Electrophysiol* 2014 ; 40 (2) : 153-160.
  - 27) Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Shimizu W : Three-month lower-dose flecainide after catheter ablation of atrial fibrillation. *Europace* 2014 ; 16 (8) : 1160-1167.
  - 28) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Umemoto T<sup>1)</sup>, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Shizuoka Medical Center) : Cardiac resynchronization therapy restored ventricular septal myocardial perfusion and enhanced ventricular remodeling in patients with nonischemic cardiomyopathy presenting with left bundle branch block. *Heart Rhythm* 2014 ; 11 (5) : 836-841.
  - 29) Uetake S, Miyauchi Y, Osaka M, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Horie T, Tsuboi I, Hayashi H, Takahashi K, Shimizu W : Frequency analysis of surface electrocardiograms (ECGs) in patients with persistent atrial fibrillation : Correlation with the intracardiac ECGs and implications for radiofrequency catheter ablation. *J Arrhythm* 2014 ; 30 (6) : 453-459.
  - 30) Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Kirinoki-Ichikawa S, Kubota Y, Hada T, Takagi I, Mizuno K : Therapeutic vascular angiogenesis for intractable macroangiopathy-related digital ulcer in patients with systemic sclerosis : a pilot study. *Rheumatology (Oxford)* 2014 ; 53 (5) : 854-859.
  - 31) 宮本正章, 高瀬仁志, 桐木園子, 高木 元 : 難治性創傷に対する医療用無菌ウジによるマゴットセラピーの有用性とその展開. *生化学* 2014 ; 86 (5) : 620-625.
  - 32) Yamanaka H, Osaka M, Takayama M, Munakata K, Nejima J<sup>1)</sup>, Katayama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Tsurumi University School of Dental Medicine, <sup>2)</sup> Tsukuba Research Laboratories) : Age-adjusted level of circulating elastin as a cardiovascular risk factor in medical check-up individuals. *J Cardiovasc Med* 2014 ; 15 (5) : 364-370.
  - 33) Tokita Y, Yamamoto T, Sato N, Hosokawa Y, Munakata R, Akutsu K, Shimizu W, Tanaka K : Usefulness of N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide Levels to Predict Success of Weaning from Intra-Aortic Balloon Pumping. *Am J Cardiol* 2014 ; 114 (6) : 942-945.
  - 34) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Heart-type fatty acid-binding protein is a novel prognostic marker in patients with essential hypertension. *Int J Cardiol* 2014 ; 176 (3) : 1323-1325.
  - 35) Nakamura S, Takano H, Kubota Y, Asai K, Shimizu W : Impact of the efficacy of thrombolytic therapy on the mortality of patients with acute submassive pulmonary embolism : a meta-analysis. *J Thromb Haemost* 2014 ; 12 (7) : 1086-1095.
  - 36) Nakamura S, Inami S, Murai K, Takano M, Takano H, Asai K, Yasutake M, Shimizu W, Mizuno K : Relationship between Cholesterol Crystals and Culprit Lesion Characteristics in Patients with Stable Coronary Artery Disease : An Optical Coherence Tomography Study. *Clin Res Cardiol* 2014 ; 103 (12) : 1015-1021.
  - 37) Nakamura S, Takano H, Matsuda J, Kitamura M, Murai K, Inami S, Asai K, Yasutake M, Takayama M, Shimizu W : Prognostic values of highly sensitive cardiac troponin T and B-type natriuretic peptide for clinical features in hypertrophic obstructive cardiomyopathy. *BMJ Open* 2014 ; 4 (9) : e005968.
  - 38) Tsuboi I, Hayashi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Yodogawa K, Hayashi H, Uetake S, Takahashi K, Shimizu W : Anatomical Factors Associated with Periesophageal Vagus Nerve Injury after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (4) : 248-257.
  - 39) Okazaki H<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Asai K, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit CHiba Hokusoh Hospital) : New scoring system (APACHE-HF) for predicting adverse outcomes in patients with acute heart failure : Evaluation of the APACHE II and Modified APACHE II scoring systems. *J Cardiol* 2014 ; 64 (6) : 441-449.
  - 40) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Okazaki H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Asai K, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit CHiba Hokusoh Hospital) : Prognostic impact of the serum heart-type fatty acid-binding protein (H-FABP) levels in patients admitted to the non-surgical intensive care unit. *Clin Res Cardiol* 2014 ; 103 (10) : 791-804.
  - 41) Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Okazaki H<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Division of Intensive Care Unit CHiba Hokusoh Hospital) : Seasonal variation in patients with

- acute heart failure : Prognostic impact of admission in the summer. *Heart Vessels* 2015 ; 130 (2) : 593-599.
- 42) 本間 博, 大野忠明, 時田祐吉, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 藤本啓志, 吉永 綾, 佐藤丞子, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 大動脈弁石灰化と胸部上行大動脈近位部の硬度上昇 : 左室拡張能障害と早期慢性腎臓病との関連について. *Jpn J Med Ultrasonics* 2014 ; 41 (6) : 835-843.
- 43) Hayashi H, Hayashi M, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Yodogawa K, Iwasaki Y, Shimizu W : Left atrial wall thickness and outcomes of catheter ablation for atrial fibrillation in patients with hypertrophic cardiomyopathy. *J Interv Card Electrophysiol* 2014 ; 40 (2) : 153-160.
- 44) Maruyama M<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Seino Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>2)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Tama Nagayama Hospital) : Number needed to entrain : a new criterion for entrainment mapping in patients with intra-atrial reentrant tachycardia. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 2014 ; 7 (3) : 490-496.
- 45) Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Reply to the Letter to the editor : "A comment on Thyrotoxic pericarditis". *Int J Cardiol* 2014 ; 175 (3) : 592-593.
- 46) Iwasaki Y, Kato T, Xiong F<sup>1)</sup>, Shi Y<sup>1)</sup>, Naud P<sup>1)</sup>, Maguy A<sup>1)</sup>, Mizuno K, Tardif J<sup>1)</sup>, Comtois P<sup>1)</sup>, Nattel S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Montreal Heart Institute and Universite de Montreal) : Atrial fibrillation promotion with long-term repetitive obstructive sleep apnea in a rat model. *J Am Coll Cardiol* 2014 ; 64 (19) : 2013-2023.
- 47) Kato T, Iwasaki Y, Duker G<sup>1)</sup>, Fjellstrom O<sup>1)</sup>, Giordanetto F<sup>1)</sup>, Sundqvist M<sup>1)</sup>, Wallin A<sup>1)</sup>, Wang Q<sup>1)</sup>, Nattel S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Montreal Heart Institute and Universite de Montreal) : Inefficacy of a highly selective T-type calcium channel blocker in preventing atrial fibrillation related remodeling. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2014 ; 25 (5) : 531-536.
- 48) 岩崎雄樹 : 救急外来におけるフレカイニド中毒の診断と治療 (コメント). *日本集中治療医学会雑誌* 2014 ; 21 (5) : 476-477.
- 49) 林 洋史, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 高橋健太, 植竹俊介, 坪井一平, 清水 渉, 新田 隆<sup>2)</sup>, 坂本俊一郎<sup>2)</sup>, 藤井正太<sup>3)</sup>, 功刀しのぶ, 青沼和隆, その他2名 ( <sup>1)</sup> 心臓血管外科, <sup>2)</sup> 病理部, <sup>3)</sup> 筑波大学) : 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を開胸下凍結凝固により抑制しえた Gorlin 症候群の1例 : 病理学的見地も踏まえて. *心臓* 2014 ; 46 (suppl) : 258-263.
- (2) 総説 :
- 1) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Kasugai CyberKnife Rehabilitation Hospital, <sup>2)</sup> Sakakibara Heart Institute) : Revisiting Electrophysiological Mechanisms of VF/VT Arrest During Early Ischemia and Spontaneous Electrical Activity After Defibrillation : From Cell to ACLS. *Austin J Cerebrovascu Dis Stroke* 2014 ; 1 (4) : 1-11.
- 2) 清水 渉 : 特集 遺伝性不整脈の診断とマネージメント : 三大陸油整脈学会 Expert Consensus Statement を踏まえて「総論」. *CARDIAC PRACTICE* 2014 ; 25 (2) : 15-15.
- 3) 清水 渉 : 特集 遺伝性不整脈, 呼吸と循環 2014 ; 62 (9) : 825-825.
- 4) 高野仁司, 加藤浩司 : NIRS-IVUS とは. *Coronary Intervention* 2014 ; 10 (5) : 51-54.
- 5) 高木 元, 宮本正章, 桐木園子, 久保田芳明, 手塚晶人, 清水 渉 : 私の病院のフットケア紹介 : 重症創傷患者の全身ケアとフットケア. *日本フットケア学会雑誌* 2014 ; 12 (2) : 81-84.
- 6) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Shizuoka Medical Center) : Antiarrhythmic effect of cardiac resynchronization therapy. *Exp Clin Cardiol* 2014.
- 7) Kurihara O<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Shimizu W, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Coronary atherosclerosis is already ongoing in pre-diabetic status : Insight from intravascular imaging modalities. *World J Diabetes* 2015 ; 6 (1) : 184-191.
- 8) 岩崎雄樹 : 心房細動 from bench to bedside 閉塞性睡眠時無呼吸症候群に発症する心房細動の機序 (解説). *心電図* 2014 ; 34 (4) : 44-54.
- 9) 岩崎雄樹, 清水 渉 : 【日常診療における心房細動治療 Up to Date 最新の動向を日常実地診療に生かす】治療 実地医家による心房細動治療 日常診療から最新治療まで 心房細動に対する心拍数コントロールのすすめかた (解説/特集). *Medical Practice* 2014 ; 31 (10) : 1653-1657.
- 10) 岩崎雄樹, 清水 渉 : 【降圧療法とβ遮断薬】合併症のある高血圧症例のβ遮断薬 心房細動 (解説/特集). *血圧* 2014 ; 21 (9) : 760-763.
- (3) 症例報告 :
- 1) Inami T<sup>1)</sup>, Tsurumi M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Successful treatment of ball-shaped very late thrombus after myocardial infarction. *BMJ Case Rep* 2014 ; pub med.
- 2) Bando S<sup>1)</sup>, Soeki T<sup>1)</sup>, Matsuura T<sup>1)</sup>, Niki T<sup>1)</sup>, Ise T<sup>1)</sup>, Yamaguchi K<sup>1)</sup>, Taketani Y<sup>1)</sup>, Iwase T<sup>1)</sup>, Yamada H<sup>1)</sup>, Wakatsuki T<sup>1)</sup>, Akaike M<sup>1)</sup>, Aiba T<sup>2)</sup>, Shimizu W, Sata M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 徳島大学, <sup>2)</sup> 国立循環器病研究センター) : Congenital long QT syndrome

with compound mutations in the KCNH2 gene. Heart Vessels 2014 ; 29 (4) : 554-559.

- 3) Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Division of Intensive Care Unit CHiba Hokusoh Hospital) : Reply to the Letter to the editor. "A comment on Thyrotoxic pericarditis". Int J Cardiol 2014 ; 175 (3) : 592-593.
- 4) Yamamoto T<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Marshall bundle reentry : a novel type of macroreentrant atrial tachycardia. Heart rhythm 2014 ; 11 (7) : 1229-1232.

## 著 書

- 1) 村松 光, 安武正弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院総合診療・健康科学分野) : [翻訳] エssenシャル心臓電気生理学. Essential Cardiac Electrophysiology : The Self-Assessment Approach, Second Edition, 2014 ; pp1-xi514, Medical Science International (MEDSI).
- 2) 清水 渉 : [分担] 4 遺伝性不整脈の遺伝医学. いまさら聞けない「遺伝医学」(斎藤加代子, 近藤恵里), 2014 ; pp49-58, メディカルドゥ.
- 3) 林 明聡, 清水 渉 : [分担] 第3章 心房細動における心原性脳塞栓症発症リスク Q6 心房細動患者の年齢が, 65,75,85歳では, 心原性脳塞栓症の発症に関してどの程度のリスクの相違が認められるか?. 抗凝固療法 達人の処方箋 (山下武志), 2014 ; pp56-58, メディカルレビュー社.
- 4) 林 明聡, 清水 渉 : [分担] 第3章 心房細動における心原性脳塞栓症発症リスク Q7 CHADS2スコア1点の心房細動患者 : CHA2DS2-VASCスコア,HAS-BLEDスコアによる評価を加えたとき,治療はどのように異なるか?. 抗凝固療法 達人の処方箋 (山下武志), 2014 ; pp60-62, メディカルレビュー社.
- 5) 岩崎雄樹, 清水 渉 : [分担] 1第3章 IV. 不整脈 : 5. 慢性炎症と不整脈. Annual Review 2015 循環器 (小室一成・佐地 勉, 坂田隆造, 赤坂隆史), 2015 ; pp142-146, 中外医学社.
- 6) 淀川顕司, 清水 渉 : [分担] 循環器疾患 解説 不整脈. ガイドライン外来診療 2015 (泉 孝英), 2015 ; pp110-114, 日経メディカル開発.
- 7) 宮内靖史 : [分担] 植え込み型除細動器. 今日の治療指針 2015 (山口徹, 北原光夫), 2015 ; pp359-361, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) Shimizu W : How to implement the HRS guidelines on inherited arrhythmias into my practice. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
- 2) Shimizu W : Latest in Brugada syndrome. HRS-EHRA-APHRS Expert consensus statement. APHRS 2014 (New Delhi, India), 2014. 10.
- 3) Shimizu W : Genetics of LQTS. International Forum of Ventricular Arrhythmia (1st) (Taiwan), 2015. 3.

### (2) 教育講演 :

- 1) 岩崎雄樹 : EPS (心内電位について). 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.

### (3) シンポジウム :

- 1) Makimoto H, Horie M, Ogawa S, Aizawa Y, Ohe T, Yamagishi M, Makita N, Makiyama T, Aiba T, Kamakura S, Miyamoto Y, Shimizu W : Clinical and genetic features of Japanese patient with congenital long QT syndrome. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 2) Shimizu W : Management of patients with inherited primary arrhythmia. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 3) Aiba T<sup>1)</sup>, Ishibashi K<sup>1)</sup>, Nakajim I<sup>1)</sup>, Miyamoto K<sup>1)</sup>, Okamura H<sup>1)</sup>, Noda T<sup>1)</sup>, Kamakura S<sup>1)</sup>, Kusano K<sup>1)</sup>, Sekine A<sup>1)</sup>, Tanaka T<sup>1)</sup>, Miyamoto Y<sup>1)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> 国立循環器病研究センター) : How to find high risk patients in inherited arrhythmia syndromes?. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 4) Shimizu W : Inherited arrhythmias and potential of curative catheter ablation. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 5) 松田範子, 宮本正章, 内田英二<sup>1)</sup>, 桐木園子, 高木 元, 小川 令, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 竹田晋浩, 徳永 昭 ( <sup>1)</sup> 消化器外科) : 末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療に対する新たな展開 : 高気圧酸素療法と骨髄血管再生医療の併用による創傷治癒促進効果. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第49回), 2014. 11.
- 6) 宮本正章, 桐木園子, 久保田芳明, 福嶋善光, 高木 元 : 重症糖尿病足壊疽による難治性骨髄炎に対する高気圧酸素治療 (HBO) とマゴットセラピーを用いた包括的治療. 日本糖尿病合併症学会 (第29回), 2014. 10.
- 7) 高木 元, 宮本正章, 久保田芳明, 桐木園子, 手塚晶人, 高木郁代, 清水 渉 : 徐放化 PRP 血管再生治療による創傷治療. 日本フットケア学会学術集会 (第13回), 2015. 2.

- 8) 手塚晶人, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 桐木園子, 清水 渉 : 創傷治癒への低出力体外衝撃波血管再生療法の可能性. 日本フットケア学会学術集会 (第13回), 2015. 2.
  - 9) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Umemoto T<sup>1)</sup>, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Shizuoka Medical Center) : Cardiac Resynchronization Therapy Restored Ventricular Septal Myocardial Perfusion and Enhanced Ventricular Remodeling in Patients with Non-ischemic Cardiomyopathy Presenting with Left Bundle Branch Block. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
  - 10) Hayashi M, Takahaishi K, Shimizu W, et al. : Urgent catheter ablation is also an optimal therapeutic strategy in octogenarians with serious tachyarrhythmias. The 16th International Symposium on Progress in Clinical Pacing (Roma,Italy), 2014. 12.
  - 11) 林 明聡, 宮内靖史, 清水 渉, et al. : Efficacy of antiarrhythmic drug administration during the blanking period after catheter ablation of atrial fibrillation. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
  - 12) 清野精彦<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>3)</sup>, 清水 渉 (1) 千葉北総病院, 2) 千葉北総病院集中治療室, 3) 集中治療室) : 急性心不全におけるNPPVによる呼吸管理: PEEP, CPAP, BiPAP, ASVの有効性. 日本心不全学会学術集会 (第18回), 2014. 10.
  - 13) Iwasaki Y, Shimizu W, Nattel S<sup>1)</sup> (1) Montreal heart Institute) : Mechanisms of Atrial Fibrillation in Obstructive Sleep Apnea Rat Model. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
  - 14) Iwasaki Y, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Hayami N<sup>2)</sup>, Shimizu W, Yamashita T<sup>1)</sup> (1) The Cardiovascular Institute, 2) Teikyo University School of Medicine) : PDGF-C Mediated Pulmonary Vein Specific Endocardial Fibrosis on AF Promotion in Hypertension. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) Ishii Y, Sakamoto S, Watanabe Y, Takahashi K, Miyauchi Y, Shimizu W : Prevention and treatment for atrial tachycardia after the maze procedure. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
  - 2) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Shizuoka Medical Center) : Impact of clinical event reduction by cardiac resynchronization therapy with triple-site ventricular stimulation. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
  - 3) Hayashi M : Pharmacological Therapy for catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia. APHRS 2014(New Delhi,India), 2014. 10.
- (5) ポスター :
- 1) 岡英一郎 : Successful Catheter Ablation of Premature Ventricular Contractions Arising From the Transition of Great Cardiac Vein and Anterior Interventricular Vein Using Manual Irrigation Technique. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
  - 2) Goda H, Inui K, Nakamura S, Kubota Y, Murai K, Kato K, Okubo S<sup>1)</sup>, Takano H, Katayama Y<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Neurology) : Incidence and clinical significance of ischemic stroke following cardiac catheterization. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 3) 吉永 綾 : 心不全に徐脈頻脈症候群を合併し経食道心エコーで心房筋肥大を認めた1例. 日本心エコー図学会学術集会 (第25回), 2014. 4.
  - 4) 吉永 綾 : 心房細動カテーテルアブレーション後の医原性心房中隔欠損症の有病率と発症因子の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
  - 5) 吉永 綾 : 肺高血圧症を合併した心房中隔欠損症・部分肺静脈還流異常の診断に経食道心エコー検査が有用であった1例. 日本心エコー図学会学術集会 (第26回), 2015. 3.
  - 6) 志摩綾香, 久保田芳明, 桐木園子, 村井綱児, 加藤浩司, 高木 元, 宮本正章, 清水 渉 : 閉塞性動脈硬化症合併糖尿病性腎症に対するペラプロストナトリウムの腎保護効果. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回), 2014. 5.
  - 7) 久保田芳明, 浅井那也, 知念大悟, 吉永 綾, 乾 恵輔, 中村俊一, 村井綱児, 吉川雅智, 加藤浩司, 塚田弥生, 清水 渉 : Pathogenesis and prognostic factors involved in the HFpEF. 日本心不全学会学術集会 (第18回), 2014. 10.
  - 8) 手塚晶人, 高木 元, 桐木園子, 久保田芳明, 塩村玲子, 小野寺健太, 宮本正章, 清水 渉 (1) 形成外科) : 創傷治癒への低出力体外衝撃波血管再生療法の可能性. 日本創傷治癒学会 (第44回), 2014. 12.
  - 9) 市川知恵<sup>1)</sup>, 宮本正章, 高木 元, 桐木園子, 古山景子<sup>1)</sup> (1) 看護部) : マゴットセラピーに携わる看護師の「困り事」と「大切にしている事」: 2007年からの変化を振り返る. 日本フットケア学会学術集会 (第13回), 2015. 2.
  - 10) 百瀬祐子, 桐木園子, 高木 元, 永積 歩, 佐藤敏子, 吉井英輔, 山脇豊美, 酒井良子, 佐藤和美, 三原恵理, 大貫朋子, 鈴木唯美, 日ノ澤進一郎 : 糖尿病性足壊疽治療中にうつ病による自殺企図, 急性腎不全を発症し下肢切断後の栄養管理に難渋した1例. 日本フットケア学会学術集会 (第13回), 2015. 2.
  - 11) 渡邊友起子, 高木 元, 桐木園子, 菅野仁士, 永積 渉, 酒井良子, 杉山理恵, 日ノ澤進一郎, 杉山未緒, 鈴木唯美, 本城和義, 片

- 山志郎：NST 介入によりジゴキシン中毒の診断に至った 1 例。日本静脈経腸栄養学会学術集会（第 30 回），2015。2。
- 12) Ogano M<sup>1</sup>), Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1</sup>), Takagi H<sup>1</sup>), Umemoto T<sup>1</sup>), Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W<sup>1</sup>) (Shizuoka Medical Center) : Better acute and chronic hemodynamic responses of cardiac resynchronization therapy with triple-site ventricular stimulation. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 13) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Iwasaki Y, Yodogawa K, Murata H, Uetake S, Hayashi H, Takahashi K, Ito K, Oka E, Shimizu W : Characteristics of pulmonary vein activation during circumferential pulmonary vein isolation during atrial fibrillation in relation to the procedure outcome. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会（第 29 回/第 31 回），2014。7.
  - 14) 八木 瞳<sup>1</sup>), 坪井一平, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 植竹俊介, 林 洋史, 高橋健太, 伊藤かな子, 岡英一郎, 藤本雄飛, 庭山ゆう子<sup>1</sup>), 鈴木健一<sup>1</sup>), 竹田晋浩<sup>2</sup>), その他 1 名<sup>1</sup>) ME 部,<sup>2</sup>) 麻酔科) : 高出力でのエントレイメントペーシングにより postpacing interval の短縮を呈した Ridge 依存性 AT の 1 例。カテーテルアブレーション委員会公開研究会（第 26 回），2014。10.
  - 15) Tsurumi M<sup>1</sup>), Hata N<sup>1</sup>), Takano M<sup>2</sup>), Furuse E<sup>1</sup>), Kano S<sup>1</sup>), Okazaki H<sup>1</sup>), Tomita K<sup>1</sup>), Shinada T<sup>1</sup>), Shimizu W<sup>1</sup>) (Division of Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital,<sup>2</sup>) Chiba-Hokusoh Hospital) : Optical coherence tomography (OCT) identified plaque erosion in a young female with acute myocardial infarction : A case report. 日本心血管インターベンション治療学会（第 23 回），2014。7.
  - 16) Kitamura M, Takayama M<sup>1</sup>), Shibuya J, Matsuda J, Yoshinaga A, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W<sup>1</sup>) (Sakakibara Heart Institute) : Clinical Characteristics of the patients received Repeat Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation in Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Catheter Interventions in Congenital, Structural and Valvular Heart Disease 2014 (Frankfurt, Germany), 2014. 6.
  - 17) Kitamura M, Amano Y<sup>1</sup>), Takayama M<sup>2</sup>), Shibuya J, Matsuda J, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W<sup>1</sup>) (Radiology,<sup>2</sup>) Sakakibara Heart Institute) : Clinical characteristics and cardiac magnetic resonance for the patients received repeat percutaneous transluminal septal myocardial ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 18) Kitamura M, Amano Y<sup>1</sup>), Takayama M<sup>2</sup>), Shibuya J, Matsuda J, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W<sup>1</sup>) (Radiology,<sup>2</sup>) Sakakibara Heart Institute) : Clinical characteristics and cardiac magnetic resonance for the patients received repeat percutaneous transluminal septal myocardial ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. AHA 2014 (Chicago, USA), 2014. 11.
  - 19) 北村光信<sup>1</sup>), 藤本雄飛, 澁谷淳介<sup>1</sup>), 松田淳也<sup>1</sup>), 吉真 孝<sup>1</sup>), 宮地秀樹<sup>1</sup>), 細川雄亮<sup>1</sup>), 坪 宏一<sup>1</sup>), 山本 剛<sup>1</sup>), 清水 渉<sup>1</sup>) (心臓血管集中治療科) : 治療抵抗性循環不全を伴う閉塞性肥大型心筋症へのカテーテル治療・体外式ペースメーカー併用の臨床的意義。日本集中治療医学会学術集会（第 42 回），2015。2.
  - 20) 佐藤丞子, 吉川雅智, 松崎つや子<sup>1</sup>), 吉永 綾, 淀川顕司, 横島友子, 大野忠明, 本間 博, 清水 渉<sup>1</sup>) (生理機能センター) : カテーテルアブレーション前に偶然見つかった先天性左心耳欠損の 1 例。日本超音波医学会学術集会（第 87 回），2014。5.
  - 21) 吉川雅智, 本間 博, 松崎つや子<sup>1</sup>), 合田浩紀, 谷田篤史, 吉永 綾, 大野忠明, 清水 渉<sup>1</sup>) (生理機能センター) : 中等症 COPD 患者における 6 分間歩行試験の意義。日本心臓病学会学術集会（第 62 回），2014。9.
  - 22) Munakata R<sup>1</sup>), Otsuka T<sup>2</sup>), Shimura T<sup>1</sup>), Kurihara O<sup>1</sup>), Inami T<sup>1</sup>), Murakami D<sup>1</sup>), Ohba T<sup>1</sup>), Takano M<sup>1</sup>), Seino Y<sup>1</sup>), Shimizu W<sup>1</sup>) (Hygiene and Public Health,<sup>2</sup>) Chiba Hokusoh Hospital) : Volume Elastic Modulus of the Brachial Artery and Coronary Artery Stenosis in Patients with Suspected Stable Coronary Artery Disease. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 23) Hosokawa Y, Yamamoto T, Nagao K, Tachibana E, Takayama T, Shimizu W, Takayama M : Initial characteristics and outcomes of cardiogenic shock due to acute heart failure in comparison with acute myocardial infarction. AHA 2014(Chicago, USA), 2014. 11.
  - 24) 伊藤かな子 : Characteristics of ECG and echocardiographic parameters in the patients with AFL documented spontaneous 1 : 1 AV node conduction. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
- (6) 一般講演 :
- 1) Kawata H<sup>1</sup>), Funasako M<sup>1</sup>), Nakajima I<sup>1</sup>), Ishibashi K<sup>1</sup>), Miyamoto K<sup>1</sup>), Sakaguchi H<sup>1</sup>), Miyazaki A<sup>1</sup>), Noda T<sup>1</sup>), Aiba T<sup>1</sup>), Kengo K<sup>1</sup>), Kamakura S<sup>1</sup>), Shimizu W<sup>1</sup>) (国立循環器病研究センター) : Catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia (CPVT) associated with ryanodine receptor (RYR2) gene mutations : long term prognosis after initiation of optimal medical treatment. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
  - 2) Miyamoto K<sup>1</sup>), Aiba T<sup>1</sup>), Kimura H<sup>1</sup>), Hayashi H<sup>1</sup>), Nakajima I<sup>1</sup>), Ishibashi K<sup>1</sup>), Okamura H<sup>1</sup>), Noda T<sup>1</sup>), Kamakura S<sup>1</sup>), Kusano K<sup>1</sup>), Horie M<sup>1</sup>), Shimizu W<sup>1</sup>) (国立循環器病研究センター) : Electrocardiographic characteristic of flecainide therapy for ventricular arrhythmia in patients with andersen-tawil syndrome with KCNJ2 Mutation. Heart Rhythm Society 2014 (San Fran-

- cisco, USA), 2014. 5.
- 3) Wijeyeratne Y, Probst V, Veltmann C, Shimizu W, Crotti L, Horie M, Mckeown P, Makita N, Roden D : Ethnicity and phenotype in the SCN5A E1748K mutation. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 4) Nishiuchi S, Makiyama T, Sasaki K, Wuriyanghai Y, Yoshida Y, Ono S, Aiba T, Shimizu W, Horie M, Kimura T : Recapitulation of lamin A/C-related cardiomyopathy using patient-specific induced pluripotent stem cells. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 5) Ono T, Yana K<sup>1)</sup>, Furuya M<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Atarashi H<sup>2)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Hosei Univ, <sup>2)</sup> Tama-nagayama Hospital) : The clinical implication of analyzing beat-to-beat QT interval dynamicity by the non-invasive manner. 9th Tawara-Aschoff Symposium, 2014. 7.
  - 6) Aiba T<sup>1)</sup>, Makimoto H<sup>1)</sup>, Makiyama T<sup>2)</sup>, Hayashi K<sup>3)</sup>, Nakano Y<sup>4)</sup>, Miyauchi Y, Morita H<sup>5)</sup>, Aonuma K<sup>6)</sup>, Hagiawara N<sup>7)</sup>, Fukuda K<sup>8)</sup>, Yoshinaga M<sup>9)</sup>, Horigome H<sup>6)</sup>, Sumitomo N<sup>7)</sup>, Tanaka T<sup>8)</sup>, Sekine A<sup>1)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> 国立循環器病研究センター, <sup>2)</sup> 京都大学, <sup>3)</sup> 金沢大学, <sup>4)</sup> 広島大学, <sup>5)</sup> 筑波大学, <sup>6)</sup> 東京女子医科大学, <sup>7)</sup> 岡山大学, <sup>8)</sup> 慶應義塾大学, <sup>9)</sup> 鹿児島メディカル) : Diverse Gender Difference of Arrhythmic Risk in Patients With Congenital Long QT Syndrome : From Japanese Congenital LQTS Multicenter Registry. AHA 2014 (Chicago, USA), 2014. 11.
  - 7) Aiba T<sup>1)</sup>, Ishibashi K<sup>1)</sup>, Wada M<sup>1)</sup>, Nakajima I<sup>1)</sup>, Miyamoto K<sup>1)</sup>, Okamura H<sup>1)</sup>, Noda T<sup>1)</sup>, Shigemizau D<sup>2)</sup>, Satake W<sup>3)</sup>, Toda T<sup>3)</sup>, Kusano S<sup>1)</sup>, Kamakura S<sup>1)</sup>, Yasuda S<sup>1)</sup>, Sekine A<sup>1)</sup>, Miyamoto Y<sup>1)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> 国立循環器病研究センター, <sup>2)</sup> 理化学研究所, <sup>3)</sup> 神戸大学) : Clinical Significance of Whole Exome Analysis Using Next Generation Sequencing in the Genotypenegative Long-QT Syndrome. AHA 2014 (Chicago, USA), 2014. 11.
  - 8) Takano H, Ohba T, Yamamoto E, Miyachi H, Takahashi Y, Inami S, Kusama Y, Seino Y, Shimizu W, Mizuno K : Can VH-IVUS predict the occurrence of periprocedural myocardial injury in statin-treated patients who undergo elective PCI ?. CVIT 2014, 2014. 7.
  - 9) Inui K, Tachi M<sup>1)</sup>, Saito T, Kubota Y, Murai K, Kato K, Takano H, Amano Y<sup>1)</sup>, Asai K, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Radiology) : In vivo comparison between myocardial fibrosis and myocardial extracellular volume (ECV) measurement by cardiovascular magnetic resonance (CMR). ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 10) Goda H, Inui K, Nakamura S, Kubota Y, Murai K, Kato K, Okubo S<sup>1)</sup>, Takano H, Katayama Y<sup>1)</sup>, Shimizu W ( <sup>1)</sup> Neurology) : Incidence and clinical significance of ischemic stroke following cardiac catheterization. CVIT 2014, 2014. 7.
  - 11) 合田浩紀, 乾 恵輔, 中村有希, 久保田芳明, 青山里恵, 大久保誠二<sup>1)</sup>, 加藤浩司, 高野仁司, 片山泰郎<sup>1)</sup>, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 神経内科) : 心臓カテーテルに合併した脳梗塞の神経学的転帰に関する検討. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
  - 12) 乾 恵輔, 城 正樹<sup>1)</sup>, 齊藤恒徳<sup>2)</sup>, 吉永 綾, 久保田芳明, 村井綱見, 加藤浩司, 高野仁司, 天野康雄<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 放射線科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院 循環器内科) : MOLLI法を用いた心臓MRIでの extracellular volume (ECV) 測定と心筋生検組織における線維化の比較. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
  - 13) 吉永 綾 : 心不全を来したSLEに対しステロイド治療が奏功し左室収縮能の改善した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第233回), 2014. 9.
  - 14) 大山 亮, 久保田芳明, 吉永 綾, 岩崎雄樹, 浅井邦也, 清水 渉 : IgG4 関連疾患として炎症性大動脈瘤を発症した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第234回), 2014. 12.
  - 15) 久保田芳明, 浅井邦也, 知念大悟, 吉永 綾, 乾 恵輔, 中村俊一, 村井綱見, 吉川雅智, 加藤浩司, 塚田弥生, 清水 渉 : 非心臓関連併存疾患がHFpEFに与える影響. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
  - 16) 荻野恵理, 久保田芳明, 知念大悟, 村井綱見, 浅井邦也, 清水 渉 : 心不全外来における 看護指導介入. 日本心不全学会学術集会 (第18回), 2014. 10.
  - 17) 久保田芳明, 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 高木郁代, 太良修平, 桐木-市川園子, 手塚晶人, 古瀬領人, 清水 渉 : 脈管新生血管径の画像評価. 日本脈管学会総会 (第55回), 2014. 11.
  - 18) 久保田芳明, 高木 元, 手塚晶人, 桐木園子, 加藤浩司, 宮本正章, 清水 渉 : 2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬の血管内皮機能に及ぼす影響. 日本フットケア学会学術集会 (第13回), 2015. 2.
  - 19) 大石典子, 久保田芳明, 大山 亮, 吉永 綾, 岩崎雄樹, 浅井邦也, 清水 渉 : IgG4 関連疾患として 炎症性大動脈瘤を発症した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第235回), 2015. 2.
  - 20) 久保田芳明, 浅井邦也, 知念大悟, 吉永 綾, 村井綱見, 吉川雅智, 塚田弥生, 清水 渉 : COPD 合併による左室拡張障害. 日本心エコー図学会学術集会 (第26回), 2015. 3.
  - 21) 荒尾正人<sup>1)</sup>, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 都立松沢病院) : The difference in left ventricular mass index associated with the cardiac function after the administration of anticancer agents with cardiac toxicity. ESC Congress 2014 (Barcelona,Spain), 2014. 8.
  - 22) 荒尾正人<sup>1)</sup>, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 都立松沢病院) : 抗癌剤のもたらす心毒性の分析とその年齢による影響の検討. 日本心臓病学会学術集会

- (第 62 回), 2014. 9.
- 23) 荒尾正人<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> (都立松沢病院): 分子標的治療薬トラスツズマブのもたらす心毒性の分析とその年齢による影響の検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
  - 24) 高木 元, 宮本正章, 桐木園子, 手塚晶人, 古瀬領人, 乾 恵輔, 久保田芳明, 清水 渉: 下肢救済における マゴットセラピーの位置づけ. 日本下肢救済・足病学会学術集会 (第 6 回), 2014. 6.
  - 25) 桐木・市川園子, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 手塚晶人, 福嶋善光, 松田範子, 汲田伸一郎, 内田英二, 清水 渉: 67Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像評価により骨髄炎に対する高気圧酸素治療の効果を証明できた 1 例. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 49 回), 2014. 11.
  - 26) Kirinoki-Ichikawa S, Miyamoto M, Takagi G, Kubota Y, Tezuka A, Fukushima Y, Sugihara Y, Kumita S, Shimizu W: NEW METHOD FOR QUANTATIVE EVALUATION AND PROGNOSTICATION OF OSTEOMYELITIS IN DIABETIC FOOT BY USING 67GA-CITRATE HYBRID SPECT CT FUSION IMAGING. THE 10TH IDF-WPR CONGRESS AND 6TH AASD SCIENTIFIC MEETING (Suntec, Singapore), 2014. 12.
  - 27) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明, 高木 元, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 形成外科): ケロイドと血管内皮機能に関連に対して二項ロジスティック回帰分析を用いての検討. 日本創傷治癒学会 (第 44 回), 2014. 12.
  - 28) 久保田芳明, 高木 元, 宮本正章, 安武正弘, 高木郁代, 太良修平, 桐木園子, 手塚晶人, 羽田朋人, 古瀬領人, 清水 渉: 脈管新生血管径の画像評価. 日本脈管学会総会 (第 55 回), 2014. 10.
  - 29) 志摩綾香, 久保田芳明, 手塚晶人, 桐木園子, 加藤浩司, 高木 元, 宮本正章, 清水 渉: 閉塞性動脈硬化症合併糖尿病性腎症患者に対するペラプロストナトリウムの腎保護効果. 日本フットケア学会学術集会 (第 13 回), 2015. 2.
  - 30) 桐木・市川園子, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 手塚晶人, 飯村剛史, 松田範子, 清水 渉: マゴットセラピー 159 例から考える難治性慢性下肢潰瘍治療と救肢. 日本フットケア学会学術集会 (第 13 回), 2015. 2.
  - 31) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Yodogawa K, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Shizuoka Medical Center): Is triple-site ventricular stimulation beneficial for all candidates for cardiac resynchronization therapy? Usefulness of temporary pacing study for patient-tailored therapy. APHRS 2014 (New Delhi, India), 2014. 10.
  - 32) Ogano M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y, Tanabe J<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>1)</sup>, Umemoto T<sup>1)</sup>, Hayashi M, Miyauchi Y, Shimizu W (1) Shizuoka Medical Center): Antiarrhythmic effect of cardiac resynchronization therapy with triple-site biventricular stimulation. CardioRhythm 2015 (Hong Kong, China), 2015. 1.
  - 33) 坪井一平, その他 1 名: HCM に対するデバイス治療 1 2014 年 ESC ガイドラインの概説とデバイス診療の実際. 東京 HOCM フォーラム 2014, 2014. 10.
  - 34) 清田裕美<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>1)</sup>, 宮國知世<sup>1)</sup>, 澁谷淳介<sup>1)</sup>, 加納誠士<sup>1)</sup>, 鶴見昌史<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 畑典武<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> (千葉北総集中治療室): 経口肺動脈拡張薬 2 剤併用が著効した重症肺動脈性肺高血圧症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 232 回), 2014. 6.
  - 35) 澤谷倫史<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 内山沙央里<sup>1)</sup>, 福泉 偉<sup>1)</sup>, 志村徹郎<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 小宮山英徳<sup>1)</sup>, 山本哲平<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, その他 3 名 (1) 千葉北総病院): 発作性心房細動に伴う胸痛で受診し Type2MI と診断, CPAP が奏功している重症 OSAS 合併高血圧の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 234 回), 2014. 12.
  - 36) 岡崎大武<sup>1)</sup>, 内山沙央里<sup>1)</sup>, 古瀬領人<sup>1)</sup>, 鶴見昌史<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> (北総病院集中治療科): 劇症型心筋症に横紋筋融解症を合併した A 型インフルエンザ (H1N1) の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回), 2015. 2.
  - 37) Kitamura M, Takayama M<sup>1)</sup>, Shibuya J, Matsuda J, Yoshinaga A, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (1) Sakakibara Heart Institute): Combination of Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation and Active Temporary Pacing Successfully Salvaged from Hemodynamic Deterioration and Decompensated Heart Failure for Drug-Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Catheter Interventions in Congenital, Structural and Valvular Heart Disease 2014 (Frankfurt, Germany), 2014. 6.
  - 38) 小野寺健太: 約 2 週間で急速に発症したアミオダロン肺炎の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 606 回), 2014. 5.
  - 39) 小野寺健太, 細川雄樹<sup>1)</sup>, 古瀬領人<sup>1)</sup>, 鈴木啓士<sup>1)</sup>, 林 洋史<sup>1)</sup>, 平田晶子<sup>1)</sup>, 吉真 孝<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本剛<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> (1) 心臓血管集中治療科): 発症後 2 週間で心破裂を来した下壁心筋梗塞の 1 例. 東京 CCU 研究会 (第 34 回), 2014. 12.
  - 40) 野間さつき<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> (多摩永山病院): 慢性心不全患者において, 単球上に発現する組織因子活性の高値, 亢進は炎症, 血管内皮機能障害と関連し, 予後不良である. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
  - 41) 野間さつき<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 合田浩紀<sup>1)</sup>, 中野博之<sup>1)</sup>, 齋藤恒徳<sup>1)</sup>, 野崎文華<sup>1)</sup>, 原千鶴子<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>,



- 村田広茂<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, その他4名<sup>(1)</sup> 多摩永山病院) : 急速に拡大した炎症性総腸骨動脈瘤に対し準緊急的 EVAR を施行したが, 血栓閉塞により再治療を要した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第233回), 2014. 12.
- 42) 稲見 徹<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木股伸恒<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>2)</sup>, 富田和憲<sup>2)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 千葉北総病院集中治療室) : 睡眠呼吸障害と大動脈解離の病態に関する分析 : 偽腔開存性の規定因子. 日本内科学会総会 (第111回), 2014. 4.
- 43) 村上大介<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 千葉北総病院) : 難治性冠攣縮性狭心症に対する薬効判定の意義 : 投薬下 ACh 負荷試験の可能性. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
- 44) 山本哲平<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 千葉北総病院) : 高出力 entrainment pacing が診断および焼灼部位の同定に有用だった Marshall bundle reentry の1例. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2014, 2014. 10.
- 45) 澤谷倫史<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 内山沙央里<sup>1)</sup>, 福泉 偉<sup>1)</sup>, 志村徹郎<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 小宮山英徳<sup>1)</sup>, 山本哲平<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, その他3名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院) : 発作性心房細動に伴う胸痛で受診し Type2MI と診断, CPAP が奏功している OSAS 合併高血圧症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第234回), 2014. 12.
- 46) 細川雄亮<sup>1)</sup>, 加藤浩司, 福泉 偉, 池田 健<sup>1)</sup>, 乾 恵輔, 久保田芳明, 川中秀和<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 中村俊一, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 村井綱児, 吉川雅智, 稲見茂信, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 高木 元, その他5名<sup>(1)</sup> 心臓血管集中治療科) : スtent留置を行わなかった calcified nodule による ST 上昇型心筋梗塞の1例. 日本心臓血管インターベンション治療学会 (第23回), 2014. 7.
- 47) 平田晶子<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 岡英一郎, 古瀬領人<sup>1)</sup>, 池田 健<sup>1)</sup>, 林 洋史<sup>1)</sup>, 杉田慎二<sup>2)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 心臓血管集中治療科, <sup>2)</sup> 心臓血管外科) : 冠動脈塞栓症を契機に診断され感染性心内膜炎に対し僧帽弁置換および冠動脈バイパス術を行うも, 梗塞後左室リモデリングが急速に進行した1例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第23回), 2014. 8.
- 48) 細川雄亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 心臓血管集中治療科) : 治療抵抗性の乏尿性心不全に対する持続的血液濾過透析の治療成績. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
- 49) 知念大悟, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 池田 健<sup>1)</sup>, 平田晶子<sup>1)</sup>, 林 洋史<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 村井綱児, 吉川雅智, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 清水 渉<sup>1)</sup> (心臓血管集中治療科) : 拡張型心筋症による難治性心不全に対し125日間に渡る長期 IABP 管理を行い改善した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第234回), 2014. 12.
- 50) Igawa O<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Murata H<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Ino T<sup>1)</sup>, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital) : Reversal of ntriculoarterial Junction Level of Aorta and Pulmonary Trunk : Essential information for the catheter ablation at ventricular outflow tract. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
- 51) Igawa O<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Murata H<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Ino T<sup>1)</sup>, Adachi M<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital) : Anatomical characteristics of sinus node Artery Located on the left side : Important findings related to the catheter ablation in the left atrium. Heart Rhythm Society 2014 (San Francisco, USA), 2014. 5.
- 52) 高橋健太, 宮内靖史, 村田広茂<sup>1)</sup>, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 植竹俊介, 坪井一平, 林 洋史, 伊藤かな子, 岡英一郎, 藤本雄飛, 清水 渉, 坂本俊一郎<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院, <sup>2)</sup> 心臓血管外科) : 心臓腫瘍に関連した複数個心室頻拍に対する外科的冷凍凝固術後に発生した Mitral Isthmus VT の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第44回), 2014. 5.
- 53) 松崎 弦<sup>1)</sup>, 小谷英一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 多摩永山病院) : カルバマゼピン投与により顕在化した高度房室ブロックの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第232回), 2014. 6.
- 54) Murata H<sup>1)</sup>, Miyauchi Y, Nitta T<sup>2)</sup>, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Sakamoto S<sup>2)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Soejima K<sup>3)</sup>, Igawa O<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Surgery, <sup>3)</sup> Kyorin University) : Characteristics of ventricular tachycardia needing surgical treatment. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 55) Murata H, Miyauchi Y, Hayashi M, Ueno A, Yodogawa K, Iwasaki Y, Tanaka K, Atarashi H<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Tama Nagayama Hospital) : Clinical and Electrocardiographic Characteristics of Electrical Storm due to Monomorphic Ventricular Tachycardia Refractory to Intravenous Amiodarone. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第29回/第31回), 2014. 7.
- 56) 村田広茂, 宮内靖史, 新田 隆<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ<sup>2)</sup>, 井川 修<sup>3)</sup>, 小杉宗範<sup>3)</sup>, 小谷英太郎<sup>3)</sup>, 中込明裕<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>3)</sup>, 新 博次<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 心臓血管外科, <sup>2)</sup> 病理部, <sup>3)</sup> 多摩永山病院) : 原発性心臓腫瘍に関連した心室頻拍の発生機序と治療 : 開心術中の電気生理学的ならびに病理学的な検討. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
- 57) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>(1)</sup> 多摩永山病院) : 高インスリン血症は冠攣縮性狭心症患者においてカルシウム拮抗薬抵抗性の発症に関与する. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.

- 58) 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : 冠動脈疾患患者において, Osteoprotegrin は血管内皮機能と関連し, 早期頸動脈硬化症の予測因子として有用である. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
- 59) 小橋啓一<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : エイコサペンタエン酸ハ脂質異常症を有する慢性心不全患者のアディポネクチンを上昇させ, 心機能と長期予後を改善する. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
- 60) 中込明裕<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : 慢性心不全において, 単球の産生する Interleukin-8 の高値, 亢進状態は予後不良である. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
- 61) 林 洋史, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 清水 渉, 山本 剛<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>2)</sup>, 細川雄亮<sup>2)</sup>, 宮地秀樹<sup>2)</sup>, 北村光信<sup>2)</sup>, 吉真 孝<sup>2)</sup>, 平田晶子<sup>2)</sup>, 古瀬順人<sup>2)</sup> (多摩永山病院, <sup>2)</sup> 心臓血管集中治療科) : 経口アミオダロン不耐症例に合併した電気的ストームに対する静注アミオダロンの安全性および有効性. アミオダロン研究会 (第 19 回), 2014. 9.
- 62) 齋藤恒徳<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 佐野 茂<sup>2)</sup>, 高野仁司, 水野杏一, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院, <sup>2)</sup> 中央電子顕微鏡研究施設) : 拡張型心筋症における心筋細胞のオートファジーおよび超微形態と左室収縮能の改善. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回), 2014. 9.
- 63) 加藤泰裕<sup>1)</sup>, 三浦由記子<sup>1)</sup>, 齋藤好信<sup>1)</sup>, 小野寺健太, 加藤浩司, 山本 剛, 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (呼吸器内科) : アミオダロン投与 3 日後に器質性肺炎, 肺胞出血を生じた 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 606 回), 2014. 6.
- 64) Murata H<sup>1)</sup>, Miyauchi Y, Nitta T<sup>2)</sup>, Fujimoto Y, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Uetake S, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Sakamoto S<sup>2)</sup>, Kunugi S<sup>3)</sup>, Shimizu W (多摩永山病院, <sup>2)</sup> Surgery, <sup>3)</sup> Pathology) : Intraoperative Electroanatomical Mapping and Histopathological Examination Revealed Mechanism of Monomorphic Ventricular Tachycardia associated with Primary Cardiac Tumor Affiliation. AHA 2014 (Chicago, USA), 2014. 11.
- 65) 新妻美沙<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : 心不全を契機に多彩な臨床症状を認めた Mosaic Turner 症候群の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 611 回), 2014. 12.
- 66) 村田広茂<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 合田浩紀<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (多摩永山病院) : 静注アミオダロン不応性心室頻拍ストームの臨床的特徴. 心臓性急死研究会 (第 27 回), 2014. 12.
- 67) 村田広茂<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 合田浩紀<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 齋藤恒徳<sup>1)</sup>, 野崎文華<sup>1)</sup>, 原千鶴子<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 松崎 弦<sup>1)</sup>, 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, その他 3 名 (多摩永山病院) : 特発性心室頻拍との鑑別に造影 MRI および 3D-CT が有用であった右室心尖部癒痕起源心室頻拍の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 235 回), 2015. 2.
- 68) 伊藤かな子 : Electrocardiographic and echocardiographic characteristics in the patients with common atrial flutter associated with documented spontaneous 1 to 1 AV conduction. 日本不整脈学会/日本心電学会合同学術集会 (第 29 回/第 31 回), 2014. 7.
- 69) 萩原かな子 : 肥大型心筋症に合併した僧帽弁輪起源の心房頻拍の 1 例. 臨床不整脈研究会, 2015. 1.
- 70) 徳山榮男<sup>1)</sup>, 高木宏治<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 池亀 翔<sup>1)</sup>, 中摩健二<sup>1)</sup>, 表 俊也<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石原嗣郎<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院) : ペースメーカーリードによる重度三尖弁逆流から, 右心不全, 腎うっ血を来した症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 235 回), 2015. 2.
- 71) Tokuyama H<sup>1)</sup>, Ishizuka A<sup>1)</sup>, Shigihara S<sup>1)</sup>, Takagi K<sup>1)</sup>, Sone M<sup>1)</sup>, Nakama K<sup>1)</sup>, Omote T<sup>1)</sup>, Kikuchi A<sup>1)</sup>, Ishihara S<sup>1)</sup>, Ishikawa M<sup>1)</sup>, Amitani K<sup>1)</sup>, Takahashi N<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Shimizu W (武蔵小杉病院) : Successful false-lumen-to-true-lumen stenting for chronic iliac artery occlusion secondary to aortic dissection. JET2015, 2015. 2.
- 72) 高木宏治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院, <sup>2)</sup> 心臓血管集中治療科) : ECMO 管理中の理学療法が有効であった重症レジオネラ肺炎の 1 例. 日本集中治療学会学術集会 (第 42 回), 2015. 2.
- 73) 石原嗣郎<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 高木宏治<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院) : 循環器疾患患者におけるデスクメドミジンの循環に与える影響. 日本集中治療学会学術集会 (第 42 回), 2015. 2.
- 74) 表 俊也<sup>1)</sup>, 嶋原祥太<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 鈴木啓士<sup>1)</sup>, 高木宏治<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 中摩健二<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 山本英世<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院) : 迅速な血栓溶解療法により救命し得た prosthetic mitral valve thrombosis の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 234 回), 2014. 12.
- 75) 富山 毅<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>2)</sup>, 石原圭一<sup>1)</sup>, 須田匡也<sup>1)</sup>, 橋本英伸<sup>1)</sup>, 高野仁司, 杉原康朗<sup>1)</sup>, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 桐山智成<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (放射線科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院) : アンモニア心筋血流 PET における肺野集積に関する検討. 日本核医学会学術集会 (第 54 回), 2014. 11.
- 76) 高橋直人<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 橋和聡文<sup>2)</sup>, 花岡大資<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>4)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院血管低侵襲センター, <sup>4)</sup> 放射線科) : アデノシン誘発虚血患者において左室同期性に強く関与するのは何か. 日本核医学会学術集会 (第 54 回), 2014. 11.
- 77) 高木宏治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院) : 低アルブミン血症を伴う心不全患者に対する利尿薬の効果.

日本心臓病学会学術集会（第62回），2014. 9.

78) 佐藤直樹<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院）：心不全バンデミックに対する心不全認知活動の重要性. 日本心臓病学会学術集会（第62回），2014. 9.

79) 徳山榮男<sup>1)</sup>，山本英世<sup>1)</sup>，高木宏治<sup>1)</sup>，曾根教子<sup>1)</sup>，中摩健二<sup>1)</sup>，表 俊也<sup>1)</sup>，菊池有史<sup>1)</sup>，石川昌弘<sup>1)</sup>，網谷賢一<sup>1)</sup>，高橋直人<sup>1)</sup>，佐藤直樹<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院）：TAVR時代においてBAVが有効であった2症例. TOPIC2014, 2014. 7.

## 論文

### 〔追加分〕

追加分総説：

1) 岩崎雄樹，清水 渉：【2025年を見すえた心不全診療ロードマップ 突破口はどこにあるのか】心不全管理の立場からみた不整脈治療（解説/特集）. 内科 2014；113（3）：527-530.

追加分原著：

1) 林 洋史，宮内靖史，林 明聡，高橋健太，植竹俊介，坪井一平，村田広茂，淀川颯司，岩崎雄樹，清水 渉：僧帽弁輪峡部焼灼中に冠静脈洞内カテーテルで記録された電位興奮順序から，Marshall静脈が心内膜側の伝導ブロックを架橋していることが示唆された1例. 臨床電気生理 2013；37：11-19.

2) 岩崎雄樹：美甘論文に対する Editorial Comment（コメント）. 心臓 2014；46（3）：348-348.

3) Kohashi K<sup>1)</sup>，Nakagomi A<sup>1)</sup>，Saiki Y<sup>1)</sup>，Morisawa T<sup>1)</sup>，Kosugi M<sup>1)</sup>，Kusama Y<sup>1)</sup>，Atarashi H<sup>1)</sup>，Shimizu W<sup>(1)</sup> Tama Nagayama Hospital）：Effects of eicosapentaenoic acid on the Levels of inflammatory markers, cardiac function and long-term prognosis in chronic heart failure patients with dyslipidemia. J Atheroscler Thromb 2014；4（546）：543-546.

## 著書

追加分：

1) 岩崎雄樹：〔分担〕6. 最早期興奮部位同定法. 心内局所電位（アブレーションに役立つ特殊電位観察法）（小林義典，野上昭彦），2014；pp44-53, 南江堂.

## 学会発表

追加分ポスター：

1) 荻野恵理，久保田芳明，村井綱児，浅井邦也，清水 渉：心不全外来における看護指導介入. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2014. 3.

追加分一般講演：

1) 井川 修<sup>1)</sup>，岡崎怜子<sup>1)</sup>，小谷英太郎<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，新 博次<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>(1)</sup> 多摩永山病院）：左房前壁に潜在する心房筋構造の特殊性. 日本内科学会総会（第111回），2014. 4.

## 〔武蔵小杉病院循環器内科〕

### 研究概要

循環器内科の2014年度活動について

心不全の共同研究：世界17か国以上が参加するGreat networkとの共同研究を引き続き行っている。また，新規心不全治療薬 serylaxin の2相試験結果を2015年4月に行われる日本循環器学会 Late breaking セッションにて報告予定である。

循環器集中治療：非侵襲的デバイスを用いた研究を積極的に行っている。2015年5月には，欧州心不全学会で，新規利尿薬による体液バランスの変化について発表予定である。2015年度は，2014年に行った種々の研究結果を積極的に公表，論文化していく予定である。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

1) Vodovar N<sup>1)</sup>，Sesronde M<sup>1)</sup>，Laribi S<sup>1)</sup>，Gayat E<sup>1)</sup>，Lassus J<sup>2)</sup>，Boukef R<sup>3)</sup>，Nouira S<sup>3)</sup>，Manivet P<sup>1)</sup>，Samuel J<sup>1)</sup>，Logeart D<sup>1)</sup>，Ishihara S，Cohensolal A<sup>1)</sup>，Januzzi Jr J<sup>4)</sup>，Richards A<sup>5)</sup>，Launay J<sup>1)</sup>，et al. <sup>(1)</sup> UMRS 942 Inserm, <sup>2)</sup> Heart and Lung Center, Division of Cardiology, Helsinki University Central Hospital, <sup>3)</sup> Emergency Department and Research Unit UR06SP21, Fattouma Bourguiba University. <sup>4)</sup> Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Boston, <sup>5)</sup> University of Otago, Christchurch.)：Post-translational modifications enhance NT-proBNP and BNP production in acute decompensated heart failure. European Heart

Journal 2014 ; 35 (48) : 3434-3441.

(2) 総説 :

- 1) 佐藤直樹, Claudio R<sup>1)</sup>, Felker M<sup>2)</sup>, 柴垣有吾<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> St.Bortolo Hospital, <sup>2)</sup> Duke University School of Medicine, <sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学内科 (腎臓・高血圧内科) : 心腎症候群 : 急性腎障害と腎機能悪化の視点から. 日経メディカル 2014 ; (117) : 111-117.
- 2) 高木宏治, 佐藤直樹 : バソプレシン受容体拮抗薬への期待と課題. 呼吸と循環 2014 ; 62 (5) : 427-431.
- 3) 佐藤直樹 : トルパタンのエビデンス. Fluid Management Renaissance 2014 ; 4 (3) : 25-29.
- 4) 石原嗣郎, 佐藤直樹 : 病態から考える急心不全の治療. medicina 2014 ; 51 (9) : 1678-1680.
- 5) Sato N : Awareness of the Vasopressin System in Heart Failure -LessonsFrom a Novel Aquaretic Agent. Circulation Journal 2014 ; 78 : 2157-2158.
- 6) 佐藤直樹 : 利尿薬抵抗性心不全への非薬物的アプローチ. Heart View 2014 ; 18 (11) : 66-71.
- 7) 佐藤直樹 : 心原性ショックにおける昇圧薬はノルアドレナリンかドパミンか?. Heart View 2014 ; 18 (12) : 172-175.
- 8) 佐藤直樹 : 心不全患者をどう管理するか. Heart View 2014 ; 18 (13) : 78-82.
- 9) 石原嗣郎 : 急性期病態評価. ICUとCCU (集中治療医学) 2014 ; 38 (12) : 793-798.
- 10) 佐藤直樹 : 特集にあたって. ICUとCCU (集中治療医学) 2014 ; 38 (12) : 791-791.
- 11) 片山安奈<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 佐藤直樹 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院腎臓内科) : 体液過剰是正のための方策 : 非薬物療法. Fluid Management Renaissance 2015 ; 5 (1) : 54-60.
- 12) 佐藤直樹 : 急性心不全コホート研究. 循環器内科 2015 ; 77 (1) : 9-12.
- 13) 佐藤直樹 : 急性心腎症候群について. CLINICIAN 2014 ; 61 (634) : 53-55.
- 14) 石原嗣郎 : 急性期病態評価. ICUとCCU 2014 ; 38 : 793-798.
- 15) 百村伸一<sup>1)</sup>, 石原嗣郎, 木田圭亮<sup>2)</sup>, 小坂橋俊美<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 自治医科大学さいたま医療センター, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学循環器内科, <sup>3)</sup> 北里大学医学部循環器内科) : 心不全における体液状態の評価とその適正管理. Fluid Management Renaissance 2015 ; 5 (1) : 7-14.
- 16) 石原嗣郎 : CCUの呼吸管理のポイント. HEART nursing 2015 ; 28 (2) : 80-84.
- 17) 佐藤直樹 : 急性心不全コホート研究. 循環器内科 2015 ; 77 (1) : 9-12.
- 1) 佐藤直樹 : 広がる呼吸管理 : 集中治療室から在宅へ. HEART nursing 2015 2015 ; 28 (2) : 93-93.

著 書

- 1) 鈴木啓士, 佐藤直樹 : [分担] 慢性心不全. 内科外来処方 navi (富野康日己), 2015 ; pp18-18, 中外医学社.
- 2) Ishihara S, Mebazaa A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Paris Diderot University) : [分担] Vasodilators in acute heart failure. Heart Failure The expert's approach (Maisel, Alan S., M.D., Filippatos, Gerasimos S., M.D.), 2014 ; pp127-129, JAYPEE BROTHERS.
- 3) Ishihara S : [分担] Vasodilators in acute heart failure. Heart Failure The expert's approach, 2014 ; pp127-129, JAYPEE BROTHERS.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 佐藤直樹 : 集中治療におけるうっ血管理 : up-to-date. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.

(2) 招待講演 :

- 1) Sato N : What's the Possibility of AQUARETICIS in Acute Heart Failure Management : Clinical Application of AQUARETICIS in Japan. Asia Pacific Congress of Heart Failure (Bari), 2014. 4.
- 2) Sato N : Acute heart failure and hospitalizations in Asia : How registry data can improve trial design. CVCT ASIA FORUM (Singapore), 2014. 7.
- 3) Ishihara S : Novelty in the management of congestion in heart failure. The Hongqiao international Medical Science Conference 2014 (Shanghai), 2014. 10.
- 4) Ishihara S : Overview of pathophysiology of acute heart failure : Acute congestion. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.

(3) 教育講演 :

- 1) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠史<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 山口英宣<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 菊池有史, 佐藤直樹, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 山本 剛<sup>4)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低浸襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科, <sup>4)</sup> 付属病院集中治療室) : 静脈血栓塞栓症に対するIVRの実際. Tokyo Heart Imaging Club (第22回) (東京), 2014. 5.

(4) シンポジウム :

- 1) 佐藤直樹 : Managements for Congestion in Acute Heart Failure in Japan : The Earlier Intervention,the Better Outcome?. 日本心

- 不全学会学術集会（第18回）（大阪），2014. 10.
- 2) 佐藤直樹：Lesson from Acute Heart Failure (ATTEND) Registry in Japan. 日本心不全学会学術集会（第18回）（大阪），2014. 10.
  - 3) 佐藤直樹：Three Key Issues to Lead a Valuable “Big Date”：Suggestion from the experiences of the Registry. 日本心不全学会学術集会（第18回）（大阪），2014. 10.
  - 4) 田島廣之<sup>1)</sup>，金城忠史<sup>1)</sup>，竹ノ下尚子<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>2)</sup>，丸山雄二<sup>2)</sup>，佐藤直樹，村田 智<sup>3)</sup>，小野澤志郎<sup>3)</sup>，山本 剛<sup>4)</sup>，新田 隆<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低浸襲治療センター，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科，<sup>3)</sup> 付属病院放射線科，<sup>4)</sup> 付属病院放射線科，<sup>5)</sup> 付属病院心臓血管外科）：急性塊状肺血栓栓症に対するカテーテル治療. 日本血管外科学会学術総会（第42回）（青森），2014. 5.
  - 5) 田島廣之<sup>1)</sup>，金城忠史<sup>1)</sup>，竹ノ下尚子<sup>1)</sup>，橋和聡文<sup>2)</sup>，一色彩子<sup>2)</sup>，市川太郎<sup>2)</sup>，菊池有史，佐藤直樹，村田 智<sup>3)</sup>，小野澤志郎<sup>3)</sup>，山本 剛<sup>4)</sup>，中澤 賢<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低浸襲治療センター，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院放射線科，<sup>3)</sup> 付属病院放射線科，<sup>4)</sup> 付属病院集中治療室，<sup>5)</sup> 埼玉医科大学画像診断科）：肺血栓栓症におけるIVRの実際と成績. 呼吸機能イメージング研究会学術集会（第7回）（東京），2015. 2.
- (5) セミナー：
- 1) 佐藤直樹：心不全の薬物療法. 日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.
- (6) 一般講演：
- 1) 徳山榮男，山本英世，高木宏治，曾根教子，中摩健二，表 俊也，菊池有史，石川昌弘，網谷賢一，高橋直人，佐藤直樹，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院循環器内科）：TAVR時代においてBAVが有用であった2症例. TOPIC2014（東京），2014. 7.
  - 2) Sato N：Congestion is the most important target in acute heart failure. Qianjiang International Cardiovascular Conference (Hangzhou), 2014. 9.
  - 3) 佐藤直樹，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院循環器内科）：心不全パンデミックに対する心不全認知活動の重要性. 日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
  - 4) 山本 剛<sup>1)</sup>，佐藤直樹，吉田伸子<sup>2)</sup>，高山守正<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院心臓血管集中治療科，<sup>2)</sup> 東京都CCUネットワーク学術委員会）：東京都CCUネットワークにおける緊急心血管疾患の動向. 日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
  - 5) 高木宏治，佐藤直樹，徳山榮男，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院循環器内科）：低アルブミン血症を伴う心不全患者に対する利尿薬の効果. 日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
  - 6) 羽鳥 裕<sup>1)</sup>，堺 浩之<sup>2)</sup>，国島友之<sup>2)</sup>，羽鳥信郎<sup>3)</sup>，佐藤直樹（<sup>1)</sup> はとりクリニック，<sup>2)</sup> 川崎市内科医会，<sup>3)</sup> 神奈川県内科医会）：神奈川・川崎の心房細動における抗凝固療法の実態調査（SSSAF-K）のStudy Design. 日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
  - 7) 原田和昌<sup>1)</sup>，酒井哲郎<sup>1)</sup>，香坂 俊<sup>1)</sup>，白石泰之<sup>1)</sup>，佐藤直樹，高木篤俊<sup>1)</sup>，飯田 圭<sup>1)</sup>，谷本周三<sup>1)</sup>，宮本高庸<sup>1)</sup>，藤本 肇<sup>1)</sup>，山本剛<sup>1)</sup>，長尾 建<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 東京都CCUネットワーク学術委員会）：糖尿病を合併した急性心不全の院内死亡に肥満パラドックスがみられない理由：東京都CCUネットワークデータベースによる検討. 日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
  - 8) 石塚淳史，木下賀央里<sup>1)</sup>，白杵二郎<sup>1)</sup>，佐藤直樹（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院呼吸器内科）：ECMOで救命し得た重症インフルエンザ肺炎の1例. 日本内科学会関東地方会（第610回）（東京），2014. 11.
  - 9) 高橋直人，石川昌弘，橋和聡文<sup>1)</sup>，花岡大資，清水康弘<sup>1)</sup>，市川太郎<sup>1)</sup>，佐藤直樹，田島廣之<sup>2)</sup>，汲田伸一郎<sup>3)</sup>，清水 渉<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院血管低浸襲センター，<sup>3)</sup> 付属病院放射線科，<sup>4)</sup> 付属病院循環器内科）：アデノシン誘発虚血患者において左室同期性に強く関与するのは何か. 日本核医学会学術総会（第54回）（大阪），2014. 11.
  - 10) 富山 毅<sup>1)</sup>，高橋直人，石原圭一<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，橋本英伸<sup>1)</sup>，高野仁司<sup>2)</sup>，杉原康朗<sup>1)</sup>，小林靖宏<sup>1)</sup>，桐山智成<sup>1)</sup>，福島善光<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院放射線科，<sup>2)</sup> 付属病院循環器内科）：アンモニア心筋血流PETにおける肺野集積に関する検討. 日本核医学会学術総会（第54回）（大阪），2014. 11.
  - 11) Sato N：HF in patients with Diabetes Mellitus：adistinct entity. Italian Federation Cardiology (Bergamo), 2014. 11.
  - 12) 表 俊也，嶋原祥太，曾根教子，鈴木啓士，高木宏治，徳山榮男，中摩健二，菊池有史，山本英世，石川昌弘，網谷賢一，高橋直人，佐藤直樹，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院循環器内科）：迅速な血栓溶解療法により救命し得たprosthetic mitral valve thrombosisの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第234回）（東京），2014. 12.
  - 13) 石原嗣郎，佐藤直樹，高木宏治，曾根教子，徳山榮男，菊池有史，石川昌弘，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院循環器内科）：循環器疾患患者におけるデクスメトミジンの循環に与える影響. 日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.
  - 14) 高木宏治，佐藤直樹，曾根教子，徳山榮男，菊池有史，石川昌弘，松田 潔<sup>1)</sup>，竹田晋浩<sup>2)</sup>，清水 渉<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 付属病院心臓血管集中治療科，<sup>3)</sup> 付属病院循環器内科）：ECMO管理中の理学療法が有効であった重症レジオネラ肺炎の1例. 日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.
  - 15) Tokuyama H, Ishizuka A, Shigihara S, Takagi K, Sone M, Nakama K, Omote T, Kikuchi A, Ishihara S, Ishikawa M, Amitani K, Tkahashi N, Sato N, Shimizu W<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital）：Successful false-lumen-to-true-lumen stent-

- ing for chronic iliac artery occlusion secondary to aortic dissection. JET2015 (Osaka), 2015. 2.
- 16) 徳山榮男, 高木宏治, 曾根教子, 池亀 翔, 中摩健二, 表 俊也, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 佐藤直樹, 清水 渉<sup>1)</sup> (1) 付属病院循環器内科) : ベースメーカーリードによる重度尖逆流から, 右心不全, 腎うっ血を来した症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 235 回) (東京), 2015. 2.
- 17) Tokuyama H, Sato N, Nakama K, Omote T, Kikuchi A, Yamamoto E, Ishikawa M, Amitani K, Takahashi N, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Detection of Early Stage of Non-creatinine Increased Acute Kidney Injury in Acute Heart Failure. Heart Failure 2014 (Athens), 2014. 5.
- 18) 八木 孝, 小林和陽<sup>1)</sup>, 輿水 学<sup>1)</sup>, 酒井良子<sup>1)</sup>, 森本千秋<sup>1)</sup>, 曾根教子, 八木重記<sup>2)</sup>, 石川真由美, 南 史朗<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院栄養科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 日本医科大学大学院生体機能制御学) : 糖尿病性ケトアシドーシス・急性動脈閉塞症に対し早期からの積極的な栄養介入にて良好な結果を得た 1 例. 日本静脈経腸栄養学会関東甲信越支部学術集会 (第 2 回) (高崎), 2014. 10.
- 19) Sato N : Differences in clinical impact of blood urea nitrogen on cardiac death in ischemic and non-ischemic acute heart failure : a report from the ATTEND registry. Heart Failure 2014 (Athens), 2014. 5.
- 20) Sato N : Prognostic significances of systolic blood pressure and brain natriuretic peptide at admission in acute heart failure : A report from the ATTEND registry. Heart Failure 2014 (Athens), 2014. 5.
- 21) 橋和聡文<sup>1)</sup>, 石川昌弘, 高橋直人, 佐藤直樹, 清水康弘<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎 (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院血管低浸襲センター, 3) 付属病院放射線科) : 瘢痕心筋を有さないアデノシン誘発虚血における慢性腎臓病の左室同期性に及ぼす影響. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 22) 石川昌弘, 高橋直人, 橋和聡文<sup>1)</sup>, 花岡大資, 清水康弘<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 田島廣之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院血管低浸襲センター, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院循環器内科) : 瘢痕心筋を有する患者において左室同期性に強く関与するのは何か? -study II. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 1) 表 俊也, 石塚淳史, 嶋原祥太, 曾根教子, 高木宏治, 池亀 翔, 中摩健二, 徳山榮男, 菊池有史, 石原嗣郎, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 佐藤直樹, 清水 渉<sup>1)</sup> (1) 付属病院) : 運動負荷心エコー図検査における 2D スペックルトラッキング法を用いた ischemic memory の検討. 日本心エコー図学会学術集会 (北九州国際会議場), 2015. 3.

## 論文

### [追加分]

追加分総説 :

- 1) 佐藤直樹 : 急性心不全患者の予後改善のために : アジアと欧米のレジストリーから学ぶこと. 医学のあゆみ 2013 ; 245 (11) : 971-972.
- 2) 佐藤直樹 : セレラキシン. 循環器内科 1014 ; 76 (2) : 179-181.

追加分原著 :

- 1) Takahashi N : Clinical usefulness of gated technetium-99m sestamibi myocardial perfusion single-photon emission computed tomography with phase analysis for the management of patients with isolated ventricular noncompaction. Journal of Cardiology Cases 2015.
- 2) Sakai Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Ohno D<sup>1)</sup>, Murasawa T<sup>1)</sup>, Sato N, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, 2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Febuxostat for treating allopurinol-resistant hyperuricemia in patients with chronic kidney disease. Renal Failure 2014 ; 36 (2) : 225-231.

追加分研究報告書 :

- 1) 佐藤直樹 : 日本の急性心不全疫学調査 (ATTEND Registry) から学ぶ. 循環器専門医 2014 ; 22 (1) : 35-38.

## [多摩永山病院内科, 循環器内科]

### 研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され, 虚血性心疾患, 不整脈などの循環器疾患を中心に診療を行っているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている. 1) 急性冠症候群の急性期治療および予後規定因子に関する研究 2) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究 3) 心室細動を伴う冠攣縮性狭心症例に対する植込み型除細動器の適応に関する研究 4) 慢性心不全患者におけるサイトカインと予後に関する研究 5) 日本心電学会主催の心房細動症例の登録研究 (J-RHYTHM Registry)

6) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療 7) 不整脈治療に必要な臨床心臓解剖学の研究 8) 心房細動、動脈硬化の発症に関わる炎症に関する研究 9) エイコサペンタエン酸と心不全の関連についての研究 10) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療、食塩摂取量に関する研究 11) インクレチン製剤の血糖非依存性効果に関する研究 12) 日本循環器学会認定の多施設共同研究への参加 13) 多摩地区、南多摩地区における多施設共同研究への参加 14) 高齢者医療に関する共同研究 以上を中心に研究を行い、日本内科学会、日本循環器学会、日本心臓病学会、日本心電学会、日本成人病（生活習慣病）学会、日本高血圧学会、日本糖尿病学会、日本老年医学会、及びその他の関連学会へ研究成果を報告するとともに、内科総合診療部門として稀な内科系疾患の症例報告も積極的に行っている。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Okumura K<sup>1</sup>, Inoue H<sup>2</sup>, Atarashi H, Yamashita T<sup>3</sup>, Tomita H<sup>1</sup>, Origasa H<sup>4</sup>, J-Rhythm Registry Investigators. (1) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School, (2) Second Department of Internal Medicine, Toyama University Hospital, (3) The Cardiovascular Institute, (4) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama School of Medicine, (5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama School of Medicine) : Validation of CHA<sub>2</sub>DS<sub>2</sub>-VASc and HAS-BLED scores in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation : an analysis of the J-RHYTHM Registry. *Circ J* 2014 ; 78 (7) : 1593-1599.
- 2) Maruyama M<sup>1</sup>, Yamamoto T<sup>1</sup>, Abe J<sup>1</sup>, Yodogawa K<sup>1</sup>, Seino Y<sup>1</sup>, Atarashi H, Shimizu W<sup>2</sup> (1) Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital) : Number needed to entrain : a new criterion for entrainment mapping in patients with intra-atrial reentrant tachycardia. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 2014 ; 7 (3) : 490-496.
- 3) Watanabe E<sup>1</sup>, Tanabe T<sup>2</sup>, Osaka M<sup>3</sup>, Chishaki A<sup>4</sup>, Takase B<sup>5</sup>, Niwano S<sup>6</sup>, Watanabe I<sup>7</sup>, Sugi K<sup>8</sup>, Katoh T<sup>9</sup>, Takayanagi K, Mawatari K, Horie M, Okumura K, Inoue H, Atarashi H, et al. (1) Department of Cardiology, Fujita Health University School of Medicine, (2) Department of Cardiology, Tokai University School of Medicine, (3) Department of Basic Science, Nippon Veterinary and Life Science University, (4) Department of Health Sciences, Faculty of Medical Sciences, Kyushu University, (5) Department of Intensive Care Unit, National Defense Medical College, (6) Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University School of Medicine, (7) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, (8) Division of Cardiovascular Medicine, Toho University, (9) International University of Health and Welfare, Mita Hospital, and others) : Sudden cardiac arrest recorded during Holter monitoring : prevalence, antecedent electrical events, and outcomes. *Heart Rhythm* 2014 ; 11 (8) : 1418-1425.
- 4) Inoue H<sup>1</sup>, Atarashi H, Okumura K<sup>2</sup>, Yamashita T<sup>3</sup>, Kumagai N<sup>4</sup>, Origasa H<sup>5</sup> (1) Second Department of Internal Medicine, Toyama University Hospital, (2) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, (3) The Cardiovascular Institute, (4) Kochi Medical School Clinical Research Center, Kochi University, (5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama School of Medicine) : Thromboembolic Events in Paroxysmal vs. Permanent Non-Valvular Atrial Fibrillation. *Circ J* 2014 ; 78 (10) : 2388-2393.
- 5) Yamashita T<sup>1</sup>, Inoue H<sup>2</sup>, Okumura K<sup>3</sup>, Atarashi H, Origasa H<sup>4</sup> (1) The Cardiovascular Institute, (2) Second Department of Internal Medicine, University of Toyama School of Medicine, (3) Department of Cardiology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, (4) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama School of Medicine) : Warfarin anticoagulation intensity in Japanese nonvalvular atrial fibrillation patients : A J-RHYTHM Registry analysis. *J Cardiol* 2015 ; 65 (3) : 175-177.
- 6) Nakagomi A, Seino Y<sup>1</sup>, Noma S, Kohashi K, Kosugi M, Kato K, Kusama Y, Atarashi H, Shimizu W : Relationships between the Serum Cholesterol Levels, Production of Monocyte Proinflammatory Cytokines and Long-term Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure. *Intern Med* 2014 ; 53 (21) : 2415-2424.
- 7) Otuka T<sup>1</sup>, Kachi Y<sup>1</sup>, Takada H<sup>2</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kodani E, Ibuki C<sup>3</sup>, Kusama Y, Kawada T<sup>1</sup> : Development of a risk prediction model for incident hypertension in a working-age Japanese male population. *Hypertens Res* 2014 ; 38 (6) : 419-425.
- 8) 二宮里紗<sup>1</sup>, 東 直行<sup>1</sup>, 本間英恵, 草間芳樹, 新 博次, 川名誠司<sup>2</sup>, 石綿 司 (1) 多摩永山病院皮膚科, (2) 日本医科大学付属病院皮膚科) : 出産後、薬疹を契機に Sjogren 症候群、全身性エリテマトーデスが疑われた1例. *皮膚科の臨床* 2014 ; 56 (5) : 747-752.
- 9) Kodani E : Early detection of atrial fibrillation is the first step to prevent cardiogenic stroke : Usefulness of B-type natriuretic peptide. *J Cardiol* (in press) 2014 ; 5087 (14) : 254-258.
- 10) Otsuka T<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kachi Y<sup>1</sup>, Ibuki C<sup>2</sup>, Seino Y<sup>2</sup>, Kodani E, Kawada T<sup>1</sup> : Serum Cystatin C, Creatinine-Based Estimated Glomerular Filtration Rate, and the Risk of Incident Hypertension in Middle-Aged Men. *Am J Hypertens* 2014 ; 27 (4) : 596-602.
- 11) Kodani E, Atarashi H, Inoue H<sup>1</sup>, Okumura K<sup>2</sup>, Yamashita T<sup>3</sup> (4) : Target Intensity of Anticoagulation with Warfarin in Japa-

- nese Patients with Valvular Atrial Fibrillation : Subanalysis of the J-RHYTHM Registry. *Circ J* 2014 ; 79 (2) : 325-330.
- 12) 大野 敦<sup>1)</sup>, 植木彬夫<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 住友秀孝<sup>2)</sup>, 関口芳弘<sup>3)</sup>, 宮川高一<sup>4)</sup>, 朝比奈崇介<sup>5)</sup>, 伊藤 聡<sup>6)</sup>, 牛川憲司<sup>7)</sup>, 小澤幸彦<sup>8)</sup>, 藤井仁美<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科, <sup>2)</sup> 立川相互病院内分泌代謝, <sup>3)</sup> 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, <sup>4)</sup> クリニックみらい, <sup>5)</sup> 朝比奈クリニック, <sup>6)</sup> 町田市民病院 糖尿病・内分泌内科, <sup>7)</sup> 小宮山メディカルクリニック, <sup>8)</sup> みなみの糖クリニック) : 多摩地域におけるインクレチン製剤の使用状況と臨床的評価に関するアンケート調査結果の推移. *Prog Med* 2014 ; 34 (10) : 1857-1865.
- 13) Suzuki S<sup>1)</sup>, Yamashita T, Okumura K, Atarashi H, Akao M, Ogawa H, Inoue H ( <sup>1)</sup> IDepartment of Cardiovascular Medicine, The Cardiovascular Institute.) : Incidence of Ischemic Stroke in Japanese Patients With Atrial Fibrillation Not Receiving Anticoagulation Therapy. *Circ J* 2015 ; 79 (2) : 432-438.
- 14) Saito T, Asai K<sup>1)</sup>, Satou S<sup>2)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine , Nippon Medical School, <sup>2)</sup> central Electron microscopic Institute, Nippon Medical School) : Ultrastructural features of cardiomyocytes in dilated cardiomyopathy with initially decompensate heart failure as a predictor of prognosis. *Eur Heart J.* 2014 ; 36 (12) : 724-732.
- 15) 林 洋史<sup>1)</sup>, 村田広茂, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 高橋健太<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 坪井一平<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 新田隆<sup>2)</sup>, 坂本俊一郎<sup>2)</sup>, 藤井正太<sup>3)</sup>, 功刀しのぶ<sup>4)</sup>, 青沼和隆<sup>5)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>2)</sup> 同 心臓血管外科, <sup>3)</sup> 同 病理部, <sup>4)</sup> 筑波大学循環器内科) : 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を開胸下凍結凝固により抑制しえた Gorlin 症候群の 1 例 : 病理学的見地も踏まえて. *心臓* 2014 ; 46 (suppl) : 258-263.
- 16) Inoue H<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kamakura S<sup>1)</sup>, Koretsune Y<sup>1)</sup>, Kumagai K<sup>1)</sup>, Mitamura H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Sugi K<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Yasaka M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> JCS Joint Working Group) : Guidelines for Pharmacotherapy of Atrial Fibrillation (JCS 2013). *Circ J* 2014 ; 78 (8) : 1997-2021.
- 17) Imura H<sup>1)</sup>, Hames-Y K<sup>1)</sup>, Miyagi Y<sup>1)</sup>, Murata H, Nitta T<sup>2)</sup>, Ochi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Institute Nippon Medical School) : Ablation on the mitral annulus for the treatment of atrial fibrillation : Anatomical consideration to prevent coronary injury. *Journal of Arrhythmia* 2014 ; 30 : 444-445.
- (2) 総説 :
- 1) 新 博次 : 心房細動ガイドライン : 日本と欧米との違い. *Cardio Coagulation* 2014 ; 1 (2) : 90-95.
- 2) 小谷英太郎, 新 博次, 井上 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 富山大学第 2 内科学) : 高齢者の非弁膜症性心房細動例における抗血栓療法の実状 : J-RHYTHM Registry からの検討. *日本老年医学会雑誌* 2014 ; 51 (Suppl) : 72.
- 3) 井川 修 : Septum (中隔). *心エコー* 2014 ; 15 (8) : 758-766.
- 4) 新 博次 : J 波症候群とその関連疾患. *医学のあゆみ* 2014 ; 249 (6) : 571-572.
- 5) 小谷英太郎 : 抗血栓療法の実状と実際. *Cardiac practice* 2015 ; 26 (1) : 27-34.
- 6) 新 博次 : 日本における心房細動と脳梗塞の実状. *Mebio* 2015 ; 32 (1) : 13-19.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 小谷英太郎, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次, 宮川高一<sup>1)</sup>, 小俣百世<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> クリニックみらい国立) : 高血圧・高コレステロール血症合併例に対する Ca 拮抗薬/スタチン配合錠の有用性. *成人病と生活習慣病* 2014 ; 44 (5) : 596-597.
- (4) 症例報告 :
- 1) 林 洋史<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 高橋健太<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 坪井一平<sup>1)</sup>, 村田広茂, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科) : 僧帽弁輪峡部焼灼中に冠静脈洞内カテーテルで記録された電位興奮順序から, Marshall 静脈が心内膜側の伝導ブロックを架橋していることが示唆された 1 例. *臨床心臓電気生理* 2014 ; 37 : 11-20.
- 2) 上野明子<sup>1)</sup>, 副島京子<sup>1)</sup>, 三輪陽介<sup>1)</sup>, 塚田雄大<sup>1)</sup>, 宮越 睦<sup>1)</sup>, 星田京子<sup>1)</sup>, 長岡身佳<sup>1)</sup>, 佐藤俊明<sup>1)</sup>, 吉野秀朗<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 村田広茂 ( <sup>1)</sup> 杏林大学循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学心臓血管外科) : 二弁置換後の心室頻拍に対する心外膜アブレーションを施行した 1 例. *臨床心臓電気生理* 2014 ; 37 : 241-250.

## 著 書

- 1) Kodani E, Atarashi H : [分担] Efficacy and safety of novel oral anticoagulants for venous thromboembolism. *Deep-Vein thrombosis* Francisco Irving (Francisco Irving), 2014 ; pp71-92, Nova science publishers.
- 2) 井川 修 : [分担] 不整脈診断 : カテーテルアブレーションに必要な心臓解剖. *小児不整脈のカテーテルアブレーション～心臓解剖から先天性心疾患まで* (住友直方編集), 2014 ; pp2-14, 診断と治療社.
- 3) 村田広茂 : [分担] VII 章-1 PTSM 施行後 5 年で発症した心室頻拍の症例. 『循環器疾患 : 治療過程で遭遇する諸問題の解決法』 (代田浩之 (編)), 2014 ; pp264-270, 日本医事新報社.
- 4) 村田広茂 : [分担] 第 3 章最も危険な頻脈性不整脈 : 心室細動. 『特集 この波形を見逃すな ! 循環器病棟の危険な不整脈』 (加藤貴



## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) Igawa O<sup>1)</sup>: Cardiac Anatomy for Catheter Ablation and Arrhythmic Surgery. 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 2) 井川 修: アブレーションに必要な心臓解剖. 日本不整脈学会第26回カテーテルアブレーション関連秋季大会2014, 2014. 10.
- 3) 井川 修, 村田広茂, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>(1)</sup> 多摩永山病院病理部): 循環器診療に役立つ心臓解剖 Educational Seminar on the Anatomy of the Human Heart: Basic anatomy of the heart from a clinical perspective. 日本不整脈学会学術集会(第29回), 2014. 7.
- 4) 井川 修: カテーテルアブレーションおよび不整脈外科治療に役立つ心臓解剖?. 日本不整脈学会学術集会(第29回), 2014. 7.

### (2) シンポジウム:

- 1) 福田浩二<sup>1)</sup>, 小川久雄<sup>2)</sup>, 新 博次, 井上 博<sup>3)</sup>, 内山真一郎<sup>4)</sup>, 北園孝成<sup>5)</sup>, 池田隆徳<sup>6)</sup>, 海北康一<sup>7)</sup>, 鴨打正浩<sup>8)</sup>, 下川宏明<sup>1)</sup> (1) 東北大学循環器内科学, 2) 熊本大学循環器内科学, 3) 富山大学内科学第2, 4) 国際医療福祉大学臨床医学研究センター, 5) 九州大学病態機能内科学, 6) 東邦大学内科学講座循環器内科学分野, 7) 九州大学医療経営・管理学, 8) 熊本大学付属病院地域医療システム学寄附講座): 非弁膜症性心房細動患者に対するリバーロキサパン登録観察研究 EXPAND Study 登録症例の背景因子(新規経口凝固薬ああ(NOAC)をどう使いこなすか). 日本心臓病学会学術集会(第62回)(仙台), 2014. 9.
- 2) Igawa O: Important anatomical in formation for ablation of atrial flutter. The 7th Asia-Pacific Heart Rhythm Society (APHR2014) (India), 2014. 10.
- 3) 井川 修: 心臓構造からみた右室中隔ペーシングの問題点(右室ペーシングを考える: 電気生理と心エコー図). 日本心エコー図学会学術集会(第26回), 2015. 3.
- 4) 井川 修: 心臓構造からみた乳頭筋: 周囲心筋興奮収縮連関(右心機能を考える). 日本心エコー図学会学術集会(第26回), 2015. 3.

### (3) セミナー:

- 1) 井川 修: 心電図と心臓構造の関連(心電図セミナー). 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 2) 草間芳樹: 心電図をどう読むか. 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 3) 井川 修, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 病理部): ヒト心臓標本の観察ポイント: 右心系構造の注目点. 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 4) 井川 修, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 病理部): ヒト心臓標本の観察ポイント: 左心系構造の注目点. 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 5) 井川 修: 心臓解剖学からみたデバイス植込み時の合併症とその対策. 植込みデバイス関連冬季大会(第7回), 2015. 2.
- 6) 井川 修: EPSの見方: 心臓の解剖学的所見との関連を含む(心臓ペースメーカー技士養成のためのセミナー). 日本不整脈学会学術集会(第29回), 2014. 7.
- 7) 井川 修: 心電図と心臓構造の関連. 日本不整脈学会学術集会(第29回), 2014. 7.

### (4) 一般講演:

- 1) 井川 修, 岡崎怜子, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学循環器内科): 左房前壁に潜在する心房筋構造の特殊性. 日本内科学会総会・講演会(第111回)(東京), 2014. 4.
- 2) 大野 敦<sup>1)</sup>, 植木彬夫<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 住友秀孝<sup>2)</sup>, 関口芳弘<sup>3)</sup>, 宮川高一<sup>4)</sup>, 伊藤 聡<sup>5)</sup>, 牛川憲司<sup>6)</sup>, 小澤幸彦<sup>7)</sup>, 但木 太<sup>8)</sup> (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 立川相互病院内分泌代謝科, 3) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 4) クリニックみらい国立, 5) 町田市民病院内科, 6) 小宮メディカルクリニック, 7) 東海大学八王子病院糖尿病・代謝腎透析内科): 多摩地域における糖尿病患者の血糖管理方針に関するアンケート結果の推移. 日本内科学会総会・講演会(第111回)(東京), 2014. 4.
- 3) 小谷英太郎, 大野 敦<sup>1)</sup>, 植木彬夫<sup>1)</sup>, 住友秀孝<sup>2)</sup>, 関口芳弘<sup>3)</sup>, 宮川高一<sup>4)</sup> (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 立川相互病院内分泌代謝科, 3) 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科, 4) クリニックみらい国立): 多摩地域における糖尿病と高血圧に関するアンケート調査. 日本内科学会総会・講演会(第111回)(東京), 2014. 4.
- 4) 栗田 明<sup>1)</sup>, 高瀬凡平<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 岩原信一郎<sup>3)</sup>, 草間芳樹, 新 博次<sup>(1)</sup> リハビリパーク練馬, 2) 防衛医科大学校集中治療部, 3) 南町田病院): 超高齢者の予後判定におけるBNP測定の有用性. 日本内科学会総会・講演会(第111回)(東京), 2014. 4.
- 5) 小谷英太郎, 松本 真, 岡崎怜子, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次: 慢性心房細動例に対するカルベジロールの心拍数減少効果: ホルター心電図による検討. 日本内科学会総会・講演会(第111回)(東京), 2014. 4.
- 6) 小谷英太郎, 飯田美佐子, 加藤活人<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>2)</sup>, 緒方憲一, 草間芳樹, 新 博次<sup>(1)</sup> 多摩永山病院 看護部, 2) 日本医科大学 公

- 衆衛生学)：2型糖尿病におけるアログリプチン/ピオグリタゾン配合錠への切り替え治療の臨床的評価。日本糖尿病学会年次学術集会(第57回)(大阪), 2014. 5.
- 7) 藤井仁美<sup>1)</sup>, 馬場美佳子<sup>1)</sup>, 伊藤眞一<sup>2)</sup>, 菅野一男<sup>3)</sup>, 加藤光敏<sup>4)</sup>, 加藤則子<sup>4)</sup>, 近藤弘子<sup>5)</sup>, 吉田敦行<sup>5)</sup>, 盛田路子<sup>5)</sup>, 長谷谷子<sup>5)</sup>, 佐藤竜児<sup>6)</sup>, 高村 宏<sup>7)</sup>, 泉ゆかり<sup>7)</sup>, 武居正郎<sup>8)</sup>, 小谷英太郎, et al. ( <sup>1)</sup> 多摩センタークリニックみらい 内科, <sup>2)</sup> 伊藤医院内科, <sup>3)</sup> がんの内科, <sup>4)</sup> 加藤内科クリニック, <sup>5)</sup> 近藤医院, <sup>6)</sup> 国立内科クリニック, <sup>7)</sup> 高村内科クリニック, <sup>8)</sup> 武居小児科クリニック)：インスリン・デグルデクによる強化インスリン療法コントロール改善：TRAIN (TResiva Analog Insulin in Nishi-Tokyo) Study. 日本糖尿病学会年次学術集会(第57回)(大阪), 2014. 5.
- 8) 森 隆幸<sup>1)</sup>, 宮川高一<sup>1)</sup>, 藤井仁美<sup>1)</sup>, 馬場美佳子<sup>1)</sup>, 浅田美子<sup>1)</sup>, 飯田美佐子, 泉ゆかり<sup>1)</sup>, 岡崎美美恵<sup>1)</sup>, 加藤則子<sup>1)</sup>, 徳永礼子<sup>1)</sup>, 長谷谷子<sup>1)</sup>, 加藤光敏<sup>1)</sup>, 川越宣明<sup>1)</sup>, 菅野一男<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, その他11名 ( <sup>1)</sup> NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会)：新しいインスリンデバイスアンケート調査の報告：患者によるフレックスタッチの評価。日本糖尿病学会年次学術集会(第57回)(大阪), 2014. 5.
- 9) 野間さつき, 小谷英太郎, 合田浩紀, 中野博之, 齋藤恒徳, 野崎文華, 原千鶴子, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 吉尾敬秀<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, その他1名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科)：急速に拡大した炎症性総腸骨動脈瘤に対し準緊急的EVARを施行したが、血栓閉塞により再治療を要した1例。多摩地区虚血性心疾患研究会(第40回)(東京), 2014. 5.
- 10) 小谷英太郎, 新 博次, 井上 博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 富山大学 第2内科)：高齢者の非弁膜症性心房細動例における抗血栓療法の実状：J-RHYTHM Registryからの検討。日本老年医学会学術集会(第56回)(福岡), 2014. 6.
- 11) 松崎 弦, 小谷英太郎, 小杉宗範, 岡崎怜子, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 循環器内科)：カルバマゼピン投与により顕在化した高度房室ブロックの1例。日本循環器学会関東甲信越地方会(第232回)(東京松崎 弦1, 小谷英太郎1, 小杉宗範1, 岡崎怜子1, 中込明裕1, 井川 修1, 草間芳樹1, 新 博次1, 清水 渉2.), 2014. 6.
- 12) Kodani E, Matsumoto S, Okazaki R, Igawa O, Kusama Y, Atarashi H : Carvedilol reduces daytime heart rate in patients with chronic atrial fibrillation under treatment with digitalis. The joint meeting of the 29th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society and the 31st Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology (東京), 2014. 7.
- 13) Murata H, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>2)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>2)</sup>, Kodani E, Nakagomi A, Soejima K<sup>3)</sup>, Igawa O, Kusama Y, Atarashi H, Snimizu W<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine.) : Characteristics of ventricular tachycardia needing surgical treatment. The joint meeting of the 29th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society and the 31st Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology, 2014. 7.
- 14) Igawa O : Clinical Cardiac Structuralogy-Useful Anatomial information for Device Therapy and Ardiiovascular Treatment. 日本心電学会学術集会(第31回)(東京), 2014. 7.
- 15) Kodani E, Atarashi H, Inoue H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Origasa H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> J-RHYTHM Registry Investigators) : Status of Anticoagulation Therapy and Incidence of Events in Japanese Elderly Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation : a Report from the J-RHYTHM Registry. ESC Congress 2014 (Barcelona, Spain), 2014. 9.
- 16) 草間芳樹, 関原 正<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 新 博次 ( <sup>1)</sup> からきだ駅前クリニック)：高齢者医療需要に対する急性期医療と在宅医療との地域連携プロジェクト。日本老年医学会関東甲信越地方会 ( ) 第60回(東京), 2014. 9.
- 17) 斉藤恒徳, 小谷英太郎, 野崎文華, 野間さつき, 原千鶴子, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗徳, 岡崎怜子, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 循環器内科)：巨細胞性動脈炎を合併したリウマチ性多発筋痛の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会(第233回)(東京), 2014. 9.
- 18) 村田広茂, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ<sup>3)</sup>, 井川 修, 小杉宗範, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 病理部)：原発性心臓腫瘍に関連した心室頻拍の発症機序と治療：開心術の電気生理学的ならびに病理組織学的な検討。日本心臓病学会学術集会(第62回)(仙台), 2014. 9.
- 19) 小橋啓一, 中込明裕, 野間さつき, 森澤太一郎, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科)：エイコサペンタエン酸ハ脂質異常症を有する慢性心不全患者のアディポネクチンを上昇させ、心機能と長期予後を改善する。日本心臓病学会学術集会(第62回)(仙台), 2014. 9.
- 20) 中込明裕, 野間さつき, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 草間芳樹, 新 博次, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科)：慢性心不全において、単球の産生するInterleukin-8の高値、亢進状態は予後不良である。日本心臓病学会学術集会(第62回)(仙台), 2014. 9.
- 21) 小谷英太郎, 新 博次, 井上 博<sup>1)</sup>, 奥村 謙<sup>2)</sup>, 山下武志<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 富山大学内科学第2, <sup>2)</sup> 弘前大学循環器内科学, <sup>3)</sup> 心臓血管研究所)：心房細動ワファリン治療における1次予防例と2次予防例のイベント発症率：J-RHYTHM Registryからの検討。日本心臓病学

- 会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 22) 小杉宗範，中込明裕，野間さつき，森澤太郎，小橋啓一，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学循環器内科）：高インスリン血症は冠連攣縮性狭心症患者においてカルシウム拮抗薬抵抗性の発症に関与する。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 23) 野間さつき，中込明裕，小橋啓一，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学循環器内科）：慢性心不全患者において，単球上に発現する組織因子活性の高値，亢進は炎症，血管内皮機能障害と関連し，予後不良である。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 24) 森澤太郎，中込明裕，野間さつき，小橋啓一，小杉宗範，小谷英太郎，草間芳樹，新 博次，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学循環器内科）：冠動脈疾患患者において，Osteoprotegrin は血管内皮機能障害と関連し，早期頸動脈硬化症の予後因子として有用である。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 25) 乾 恵輔<sup>1)</sup>，城 正樹<sup>2)</sup>，斉藤恒徳，吉永 綾<sup>1)</sup>，久保田芳明<sup>1)</sup>，加藤浩司<sup>1)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，天野康雄<sup>2)</sup>，浅井邦也<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院 循環器内科，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院 放射線科）：MOLLI法を用いた心臓MRIでのextracellular volume (ECV)測定と心筋生検組織における線維化の比較。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 26) 飯尾千春子<sup>1)</sup>，大木元秋吉<sup>1)</sup>，西村和久<sup>1)</sup>，鈴木 純<sup>1)</sup>，中川宏彦<sup>1)</sup>，河野珠美<sup>1)</sup>，坂上智城<sup>1)</sup>，上谷晃由<sup>1)</sup>，永井啓行<sup>1)</sup>，井上勝次<sup>1)</sup>，大蔵隆文<sup>1)</sup>，土居原拓也<sup>2)</sup>，松田正司<sup>2)</sup>，井川 修，檜垣實男<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>愛媛大学 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座，<sup>2)</sup>愛媛大学解剖学・発生学講座）：循環器疾患におけるデバイス植込み時の合併症を目指した解剖学的研修の経験。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 27) 内山真一郎<sup>1)</sup>，小川久雄<sup>2)</sup>，新 博次，井上 博<sup>3)</sup>，北園孝成<sup>4)</sup>，池田隆徳<sup>5)</sup>，海北幸一<sup>2)</sup>，鴨打正浩<sup>6)</sup>，福田浩二<sup>7)</sup>，松井邦彦<sup>8)</sup>，下川宏明<sup>7)</sup>（<sup>1)</sup>国際医療福祉大学臨床医学研究センター，<sup>2)</sup>熊本大学 循環器内科，<sup>3)</sup>富山大学内科学第2，<sup>4)</sup>九州大学病態機能内科学，<sup>5)</sup>東邦大学内科学講座循環器内科学分野，<sup>6)</sup>九州大学医療経営・管理学，<sup>7)</sup>東北大学 循環器内科学，<sup>8)</sup>熊本大学付属病院地域医療システム学寄附講座）：EXPAND Studyにおける虚血性脳血管障害急性期症例の背景因子。日本栓子検出と治療学会（第17回）（福岡），2014. 9.
- 28) 大野 敦<sup>1)</sup>，植木彬夫<sup>1)</sup>，小谷英太郎，住友秀孝<sup>2)</sup>，関口芳弘<sup>3)</sup>，宮川高一<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科，<sup>2)</sup>立川相互病院内分泌代謝科，<sup>3)</sup>青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科，<sup>4)</sup>クリニックみらい国立）：多摩地域におけるメタボリックシンドロームへの対応に関するアンケート調査。日本糖尿病合併症学会（第29回），2014. 10.
- 29) 大野 敦<sup>1)</sup>，植木彬夫<sup>1)</sup>，小谷英太郎，住吉秀孝<sup>2)</sup>，関口芳弘<sup>3)</sup>，宮川高一<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科，<sup>2)</sup>立川相互病院内分泌代謝科，<sup>3)</sup>青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科，<sup>4)</sup>クリニックみらい国立）：メタボリックシンドロームへの対応に関するアンケート調査結果の推移：2005年度と2014年度の比較。日本肥満学会（第35回），2014. 10.
- 30) 合田浩紀，小谷英太郎，松崎 弦，野間さつき，中野博之，齋藤恒徳，野崎文華，原千鶴子，小橋啓一，森澤太郎，小杉宗範，中込明裕，草間芳樹，新 博次：単冠動脈症に重症冠動脈病変を合併した虚血性心筋症の1例。多摩地区虚血性心疾患研究会（第41回）（東京），2014. 10.
- 31) 大塚俊昭<sup>1)</sup>，小谷英太郎，可知悠子<sup>1)</sup>，加藤活人<sup>1)</sup>，西城由之<sup>1)</sup>，宗像 亮<sup>2)</sup>，川田智之<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学衛生学公衆衛生学，<sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院 循環器センター）：中年男性集団における指尖容積加速度脈波による高血圧進展予測。脈波解析研究会（第56回）学会名：第56回脈波解析研究会（第51回日本臨床生理学会総会第8回分科会），2014. 11.
- 32) Fuji H<sup>1)</sup>，Ito S<sup>2)</sup>，Kanno K<sup>3)</sup>，Kato M<sup>4)</sup>，Kato N<sup>4)</sup>，Kondo H<sup>5)</sup>，Yoshida N<sup>6)</sup>，Morita M<sup>6)</sup>，Sato R<sup>6)</sup>，Takamura H<sup>7)</sup>，Takesue M<sup>8)</sup>，Kodani E，Daikoku H<sup>9)</sup>，Watanabe Y<sup>1)</sup>，Kawagoe Y<sup>1)</sup>，et al.（<sup>1)</sup>Tama-center Mirai Clinic，<sup>2)</sup>Ito Clinic，<sup>3)</sup>Kanno Clinic，<sup>4)</sup>Kato Clinic，<sup>5)</sup>Kondo Clinic，<sup>6)</sup>Kunitachinaika Clinic，<sup>7)</sup>Takamura Clinic，<sup>8)</sup>Takesue Clinic，<sup>9)</sup>Showa General Hospital）：Once daily insulin degludec injection shows improved glycemic control in diabetic patients on intensive insulin therapy in the real-life practice in Japan. International Diabetes Federation-Western Pacific Region (IDF-WPF) Congress 2014 (The 10th) and Scientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetest (The 6th) (AASD) (Singapore), 2014. 11.
- 33) 小谷英太郎，村田広茂，草間芳樹，新 博次：ジギタリスによる心拍数調節が不十分な慢性心房細動例に対するカルベジロール上乗せによる心拍数減少効果の検討。日本臨床薬理学会学術総会（第35回）（松山市），2014. 12.
- 34) 野間さつき，小谷英太郎，合田浩紀，中野博之，齋藤恒徳，野崎文華，原千鶴子，小橋啓一，森澤太郎，小杉宗範，村田広茂，中込明裕，井川 修，草間芳樹，新 博次，et al.：急速に拡大した炎症性総腸骨動脈瘤に対し準緊急的EVARを施行したが，血栓閉塞により再治療を要した1例。日本循環器学会関東甲信越地方会（第234回）（東京），2014. 12.
- 35) 新妻美沙，小橋啓一，小谷英太郎，中込明裕，草間芳樹，新 博次，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学内科学（循環器内科学））：心不全を契機に多彩な臨床症状を認めたMosaic Turner症候群の1例。日本内科学会関東地方会（第611回）（東京），2014. 12.
- 36) 村田広茂，井川 修，小谷英太郎，合田浩紀，小杉宗範，岡崎怜子，中込明裕，草間芳樹，新 博次，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学循環器内科）：静注アミオダロン不応性心室頻拍ストームの臨床的特徴。心臓性急死研究会（第27回）（東京），2014. 12.
- 37) 小谷英太郎，小杉宗範，草間芳樹，新 博次：DPP-4阻害薬によるHbA1c低下効果の予測因子の検討。日本成人病（生活習慣病）

- 学会学術集会（第48回）（東京），2015. 1.
- 38) 合田浩紀，乾 恵輔<sup>1)</sup>，中村有紀<sup>1)</sup>，久保田芳明<sup>1)</sup>，青山里恵<sup>1)</sup>，加藤浩司<sup>1)</sup>，大久保誠二<sup>2)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，片山泰芳<sup>2)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 循環器内科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 神経内科）：心臓カテーテルに合併した脳梗塞の神経学的転帰に関する検討。日本心臓病学会学術集会（第62回）（仙台），2014. 9.
- 39) 村田広茂，井川 修，小谷英太郎，合田浩紀，野間さつき，斉藤恒徳，野崎文華，原千鶴子，小橋啓一，森澤太一郎，小杉宗範，松崎 弦，岡崎怜子，中込明裕，草間芳樹，その他3名：特発性心室頻拍との鑑別に造影MRIおよび3D-CTが有用であった右室心尖部瘢痕起源心室頻拍の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会（第235回）（東京），2015. 2.
- 40) 村田広茂，井川 修，小谷英太郎，中込明裕，草間芳樹，新 博次，小原俊彦<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，八島正明<sup>2)</sup>，宮内靖史<sup>2)</sup>，清水 渉（<sup>1)</sup> 日本医科大学総合診療科，<sup>2)</sup> 日本医科大学循環器内科）：静注アミオダロン不応性心室頻拍による電気的ストームの心電図学的特徴。心電情報処理ワークショップ（第30回），2014. 10.
- 41) 大野 敦<sup>1)</sup>，植木彬夫<sup>1)</sup>，小谷英太郎，住友秀孝<sup>2)</sup>，関口芳弘<sup>3)</sup>，宮川高一<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科，<sup>2)</sup> 立川相互病院内分泌代謝科，<sup>3)</sup> 青梅市立総合病院内分泌糖尿病内科，<sup>4)</sup> クリニックみらい国立，<sup>5)</sup> 糖尿病治療多摩懇話会）：多摩地域の内科医におけるインスリン療法の選択状況に関するアンケート調査。日本糖尿病学会関東甲信越地方会（第52回），2015. 1.
- 42) Mori T, Fujii H, Miyakawa T, Baba M, Asada Y, Kato N, Kato M, Kawagoe Y, Kannno K, Kodani E, Kodo H, Sato R, Daikoku H, Takamura H, Nogawa M, et al. (<sup>1)</sup> TRAIN Study Investigators) : Usage of a New Prefilled Insulin Device Flex-Touch™; was Not Painful, Comfortable Completing Injection, and Showed Less Insulin Leakage. American Diabetes Association (ADA) 74th Scientific Sessions 2014 (San Francisco), 2014. 6.
- 43) Igawa O, Okazaki R, Murata H, Kusama Y, Ino T, Adachi M<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Sanin Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School.) : Anatomical Characteristics of Sinus Node Artery Located on the left Side : Important findings related to the catheter ablation in the left atrium. Heart Rhythm 2014, the Heart Rhythm Society's 35th Annual Scientific Sessions (San Francisco), 2014. 5.
- 44) Igawa O, Okazaki R, Murata H, Kusama Y, Ino T<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Sanin Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School.) : Reversal of ntriculoarterial Junction Level of Aorta and Pulmonary Trunk : Essential information for the catheter ablation at ventricular outflow tract. Heart Rhythm 2014, the Heart Rhythm Society's 35th Annual Scientific Sessions (San Francisco), 2014. 5.
- 45) 間仁田守<sup>1)</sup>，井川 修，中田円仁<sup>1)</sup>，比嘉南夫<sup>1)</sup>，旭 朝弘<sup>1)</sup>，田端一彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 地方独立行政法人那覇市立病院循環器内科）：心室細動のトリガーと考えられた心室性期外収縮に対してカテーテルアブレーションを施行した1例。日本不整脈学会第26回カテーテルアブレーション関連秋季大会2014（東京），2014. 10.
- 46) 松井崇生<sup>1)</sup>，井上 勝<sup>1)</sup>，松原隆夫<sup>1)</sup>，安田敏彦<sup>1)</sup>，三輪健二<sup>1)</sup>，油尾 亨<sup>1)</sup>，役田洋平<sup>1)</sup>，東慶之介<sup>1)</sup>，金谷法忍<sup>1)</sup>，車谷 宏<sup>2)</sup>，井川 修（<sup>1)</sup> 石川県立中央病院循環器内科，<sup>2)</sup> 同病理診断科）：下壁心筋梗塞後の心室頻拍に対するカテーテルアブレーション後の1割検例。日本不整脈学会第26回カテーテルアブレーション関連秋季大会2014，2014. 10.
- 47) 斉藤恒徳，浅井邦也<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>2)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科，<sup>2)</sup> 中央電子顕微鏡室）：拡張型心筋症における心筋細胞のオートファジーおよび超微形態と左室収縮能の改善。日本心臓病学会学術集会（第62回），2014. 10.
- 48) 斉藤恒徳，浅井邦也<sup>1)</sup>，佐藤 茂<sup>2)</sup>，高野仁司<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科，<sup>2)</sup> 同中央電子顕微鏡研究施設）：拡張型心筋症における心筋細胞のオートファジーおよび超微形態と左室収縮能の改善。心筋生検研究会（第36回），2014. 11.
- 49) 斉藤恒徳：拡張型心筋症におけるオートファジーの意義。Next Generation Heart Failure Conference（第2回），2015. 2.
- 50) Murata H, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>2)</sup>, Takahashi K, Tsuboi I, Hayashi H, Uetake S, Yodogawa K, Iwasaki Y, Hayashi M, Sakamoto S<sup>2)</sup>, Kunugi S<sup>3)</sup>, Tanaka K, Shimizu W (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School., <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, <sup>3)</sup> Division of Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Mechanism of Monomorphic Ventricular Tachycardia associated with Primary Cardiac Tumor as Revealed by Intraoperative Electroanatomical Mapping and Histopathological Examination. Heart Rhythm 2014, the Heart Rhythm Society's 35th Annual Scientific Sessions (San Francisco), 2014. 5.
- 51) Murata H, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Ueno A<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Atarashi H, Shimizu W<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Clinical and Electrocardiographic Characteristics of Electrical Storm due to Monomorphic Ventricular Tachycardia Refractory to Intravenous Amiodarone. The joint meeting of the 29th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society and the 31st Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology, 2014. 7.
- 52) Murata H, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Nitta T<sup>2)</sup>, Fujimoto Y<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Tsuboi I<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Uetake S<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>2)</sup>, Kunugi S<sup>3)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical

- School, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Intraoperative Electroanatomical Mapping and Histopathological Examination Revealed Mechanism of Monomorphic Ventricular Tachycardia associated with Primary Cardiac Tumor Affiliation. American Heart Association 2014 (Chicago), 2014. 11.
- 53) 村田広茂 : 薬剤不応性心室頻拍の治療. Meeting to consider the complications and arrhythmia (第1回), 2014. 11.
- 54) 林 洋史<sup>1)</sup>, 村田広茂, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川賢司<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>2)</sup>, 細川雄亮<sup>2)</sup>, 宮地秀樹<sup>2)</sup>, 北村光信<sup>2)</sup>, 吉 眞孝<sup>1)</sup>, 平田晶子<sup>1)</sup>, 古瀬領人<sup>1)</sup>, その他2名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>2)</sup> 同集中治療室) : 経口アミオダロン不耐症例に合併した電気的ストームに対する静注アミオダロンの安全性および有効性. アミオダロン研究会 (第19回), 2014. 9.
- 55) 高橋健太<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 村田広茂, 林 明聡<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川賢司<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 坪井一平<sup>1)</sup>, 林 洋史<sup>1)</sup>, 伊藤かな子<sup>1)</sup>, 岡英一郎<sup>1)</sup>, 藤本雄飛<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 循環器内科, <sup>2)</sup> 同 心臓血管外科) : 心臓腫瘍に関連した複数個心室頻拍に対する外科的冷凍凝固術後に発生した Mitral Isthmus VT の1例. 臨床心臓電気生理研究会 (第44回), 2014. 5.
- 56) 林 洋史<sup>1)</sup>, 村田広茂, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川賢司<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>2)</sup>, 細川雄亮<sup>2)</sup>, 宮地秀樹<sup>2)</sup>, 北村光信<sup>2)</sup>, 吉 眞孝<sup>1)</sup>, 平田晶子<sup>1)</sup>, 古瀬領人<sup>1)</sup>, その他2名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>2)</sup> 同集中治療室) : 経口アミオダロン不耐症例に合併した電気的ストームに対する静注アミオダロンの安全性および有効性. 東京CCU研究会 (第19回), 2014. 12.
- (5) 教育セッション :
- 1) 井川 修 : 心臓構造からみた成人先天性心疾患. 日本不整脈学会植込み型デバイス関連冬季大会 (第7回), 2015. 2.
- (6) 特別企画 :
- 1) 井上 博<sup>1)</sup>, 新 博次, 奥村 謙<sup>2)</sup>, 山下武志<sup>3)</sup>, 折笠秀樹<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 富山大学内科学第2, <sup>2)</sup> 弘前大学循環器・呼吸器・腎臓内科, <sup>3)</sup> 心臓血管研究所循環器科, <sup>4)</sup> 富山大学統計情報学) : 心房細動と心源性塞栓症 : J-RHYTHM Registry から学ぶ (日本の臨床研究の現状と展望). 日本心臓病学会学術集会 (第62回) (仙台), 2014. 9.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説 :

- 1) 井川 修 : 心臓構造の特殊性. 日本小児循環器学会雑誌 2014 ; 30 (2) : 119-124.
- 2) 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 不整脈と炎症 (臨床データから). 心電図 2013 ; 33 (2) : 170-174.

#### 追加分原著 :

- 1) Kohashi K, Nakagomi A, Saiki Y, Morisawa T, Kosugi M, Kusama Y, Atarashi H<sup>1)</sup>, Shimizu W : Effects of eicosapentaenoic acid on the Levels of inflammatory markers, cardiac function and long-term prognosis in chronic heart failure patients with dyslipidemia. J Atheroscler Thromb 2014 ; 21 (7) : 712-729.
- 2) 草間芳樹, 新 博次 : 専門医トレーニング問題 I. 循環器専門医 2014 ; 22 (1) : 116-119.
- 3) Kodani E, Tadera T, Ibuki C, Atarashi H : A case of slowly progressive purulent pericarditis in elderly healthy woman. Journal of General Practice 2014 ; 2 (2) : 149-152.
- 4) 山本 彰<sup>1)</sup>, 小杉宗範, 上田達夫<sup>1)</sup>, 小林由子<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 草間芳樹, 新 博次, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科) : 胸部の最新画像情報 2013】 アデノシン負荷の心筋血流・収縮能・壁運動協調性とその相関への影響 心筋梗塞症例を除く. 臨床放射線 2013 ; 58 (1) : 206-214.
- 5) Tanaka K<sup>1)</sup>, Yodagawa K<sup>1)</sup>, Ono T<sup>1)</sup>, Yana K<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Katou T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School) : Greater insulin resistance indicates decreased diurnal variability in the QT interval in patients with type 2 diabetes. Heart Vessels 2014 ; 29 (2) : 256-262.
- 6) Inoue H<sup>1)</sup>, Atarashi H, Okumura K<sup>2)</sup>, Yamashita T<sup>3)</sup>, Origasa H<sup>4)</sup>, Kumagai N<sup>5)</sup>, Sakurai M<sup>6)</sup>, Kawamura Y<sup>7)</sup>, Kubota I<sup>8)</sup>, Matumoto K<sup>9)</sup>, Kaneko Y<sup>1,0)</sup>, Ogawa S<sup>1,1)</sup>, Aizawa Y<sup>1,2)</sup>, Chinushi M<sup>1,3)</sup>, Kodama I<sup>1,4)</sup>, et al. : Impact of gender on the prognosis of patients with nonvalvular atrial fibrillation. Am J Cardiol 2014 ; 113 (6) : 957-962.
- 7) 井川 修 : 心房細動診療に役立つ心房解剖. 循環器内科 2014 ; 75 (5) : 523-530.
- 8) Imura H<sup>1)</sup>, Murata H, Ochi M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> The Cardiovascular Institute Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Institute Nippon Medical School) : Electro-Anatomical Approach to Membranous Septal Aneurysm : Potential as a Focus of Critical Ventricular Arrhythmias Hajime Imura, Hiroshige Murata, Masami Ochi. Surgical Science 2013 ; 4 (546) : 543-546.

#### 追加分症例報告 :

- 1) 森田 孝<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>2)</sup>, 宮地秀樹, 新 博次, 川名誠司<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院皮膚科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科) : Nonepisodic Angioedema with Eosinophilia の1例. 皮膚科の臨床 2013 ; 55 (7) : 889-892.

追加研究報告書：

- 1) 小谷英太郎, 新 博次, 奥村 謙<sup>1)</sup>, 井上 博<sup>2)</sup>, 山下武志<sup>3)</sup> (1) 弘前大学, 2) 富山大学, 3) 心臓血管研究所) : わが国のワルファリン治療中の心房細動例におけるイベント発症率と日本人の至適 INR : J-RHYTHM Registry からの報告. 日本臨床生理学会雑誌 2014 ; 44 (1) : 7-16.

著 書

追加分：

- 1) 草間芳樹 : [自著] 一発診断！フローチャートで判る心電図. 一発診断！フローチャートで判る心電図 (新 博次), 2014 ; pp1-219, 総合医学社.
- 2) 井川 修 : [分担] X. 不整脈 3. 心房期外収縮. 循環器疾患最新の治療 (堀 正二, 永井良三編集), 2014 ; pp274-277, 南光堂.

## [千葉北総病院循環器内科]

### 研究概要

循環器内科は, (1) 冠動脈疾患の最先端診療 (①外来対応の冠動脈マルチスライス CT 検査, ②2泊3日冠動脈造影検査, 冠動脈カテーテル治療パス, ③血管内超音波, 血管内視鏡, 光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断, ④血液生化学バイオマーカーの臨床開発) や, (2) 不整脈の最先端治療 (カテーテル焼灼術, 重症心不全心室再同期 (CRT) 治療, 植え込み型除細動器治療), (3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床, 研究, 教育を構築しております. 診療実績は年々増加しており冠動脈カテーテル治療は年間 450 例を, 不整脈カテーテル治療は年間約 200 例を実施し良好な治療成績を示しております. さらに (4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸, (5) 高血圧・動脈硬化症の診断と治療などについても, 地域医療との連携の中で効率的な診療の提供と臨床研究に努めております. 平成 21 年に睡眠時無呼吸専門外来を開設し, 地域医療機関との連携の中で取りまとめた臨床研究 (CHSARC 研究) の成績は, 第 79 回日本循環器学会 Late Breaking Cohort Study に採択され発表したところです. また, 大学医学部教育 (文部科学省特色 GP 選定), 研修医教育, 循環器専門医教育, 学位研究指導に精力的に取り組んでおり, 特色ある研究成果を AHA, ESC などの国際学会や, 日本循環器学会などで発表しており, Circulation などのトップジャーナルに多くの論文を発表しております. 学会公務として当科教授は日本循環器学会各種ガイドライン (急性心不全 GL, 性差医療 GL, 心肺蘇生・心血管救急 GL, 睡眠時無呼吸 GL など) 作成委員を務めております.

### 研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Kinugawa K<sup>1)</sup>, Nagai R<sup>2)</sup>, Inoue H<sup>3)</sup>, Atarashi H<sup>4)</sup>, Seino Y, Yamashita T<sup>5)</sup>, Shimizu W<sup>6)</sup>, Aiba T<sup>7)</sup>, Kitakaze M<sup>7)</sup>, Sakamoto A<sup>8)</sup>, Ikeda T<sup>9)</sup>, et al. (1) Department of Therapeutic Strategy for Heart Failure, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo, Japan, 2) Jichi Medical University, Shimotsuke, Japan, 3) The Second Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, University of Toyama, Toyama, Japan, 4) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, 5) The Cardiovascular Institute, Tokyo, Japan, 6) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita, Japan, 7) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita, Japan, 8) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 9) Department of Cardiovascular Medicine, Toho University Faculty of Medicine, Tokyo, Japan, and others) : Impacts of Patient Characteristics on the Effectiveness of Landiolol in AF/AFL Patients Complicated with LV Dysfunction : Subgroup Analysis of the J-Land Study. *Advances in Therapy* 2014 ; 31 (4) : 426-439.
- 2) Maruyama M, Yamamoto T, Abe J, Kenji Y<sup>1)</sup>, Seino Y, Atarashi H<sup>2)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan) : Number needed to entrain : a new criterion for entrainment mapping in patients with intra-atrial reentrant tachycardia. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 2014 ; 7 (3) : 490-496.
- 3) Momomura S<sup>1)</sup>, Seino Y, Kihara Y<sup>2)</sup>, Adachi H<sup>3)</sup>, Yasumura Y<sup>4)</sup>, Yokoyama H<sup>5)</sup> (1) Cardiovascular Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, Saitama, Japan, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Hiroshima University, Hiroshima, Japan, 3) Division of Cardiology, Gunma Prefectural Cardiovascular Center, Gunma, Japan, 4) Cardiovascular Division, Osaka National Hospital, Osaka, Japan, 5) Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan) : Adaptive servo-ventilation therapy using an innovative ventilator for patients with chronic heart failure : a real-world, multicenter, retrospective, observational study (SAVIOR-R). *Heart Vessels* 2014.
- 4) Inami T, Seino Y, Hata N<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>2)</sup> (1) Department of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital,

- Chiba, Japan, <sup>2</sup>Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Reply to the Letter to the editor : "A comment on Thyrotoxic pericarditis". *International Journal of Cardiology* 2014 ; 175 (3) : 592-593.
- 5) Setsuta K<sup>1</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Japan, <sup>2</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Japan) : Heart-type fatty acid-binding protein is a novel prognostic marker in patients with essential hypertension. *International Journal of Cardiology* 2014 ; 176 (3) : 1323-1325.
  - 6) Otsuka T<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kachi Y<sup>1</sup>, Ibuki C, Seino Y, Kodani E<sup>2</sup>, Kawada T<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2</sup>Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan) : Serum Cystatin C, Creatinine-Based Estimated Glomerular Filtration Rate, and the Risk of Incident Hypertension in Middle-Aged Men. *American Journal of Hypertension* 2014 ; 27 (4) : 596-602.
  - 7) Nakamura S<sup>1</sup>, Inami S<sup>1</sup>, Murai K<sup>1</sup>, Takano M, Takano H<sup>1</sup>, Asai K<sup>1</sup>, Yasutake M<sup>1</sup>, Shimizu W<sup>1</sup>, Mizuno K<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Relationship between cholesterol crystals and culprit lesion characteristics in patients with stable coronary artery disease : an optical coherence tomography study. *Clinical Research in Cardiology* 2014 ; 103 (12) : 1015-1021.
  - 8) Shirakabe A<sup>1</sup>, Takano M, Yamamoto M, Kurihara O, Kobayashi N<sup>1</sup>, Matsushita M<sup>1</sup>, Hirotake M<sup>1</sup>, Okazaki H<sup>1</sup>, Hata N<sup>1</sup>, Shimizu W<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Division of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, <sup>2</sup> Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Preventable effects of bare-metal stent on restenosis after everolimus-eluting stent deployment. *Heart Vessels* 2014.
  - 9) Maruyama M, Ai T<sup>1</sup>, Chua S<sup>1</sup>, Park H<sup>1</sup>, Lee Y<sup>1</sup>, Shen JM<sup>1</sup>, Chang P<sup>1</sup>, Lin S<sup>1</sup>, Chen P<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Krannert Institute of Cardiology and the Division of Cardiology, Department of Medicine, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, Indiana) : Hypokalemia promotes late phase 3 early afterdepolarization and recurrent ventricular fibrillation during isoproterenol infusion in Langendorff perfused rabbit ventricles. *Heart rhythm* 2014 ; 11 (4) : 697-706.
  - 10) Shinohara T<sup>1</sup>, Kim D<sup>2</sup>, Joung B<sup>2</sup>, Maruyama M, Vembaiyan K<sup>3</sup>, Back GT<sup>3</sup>, Chen S<sup>3</sup>, Chen PS<sup>2</sup>, Lin SF<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Department of Cardiology and Clinical Examination, Faculty of Medicine, Oita University, Oita, Japan, <sup>2</sup> Krannert Institute of Cardiology and the Division of Cardiology, Department of Medicine, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, USA, <sup>3</sup> Department of Physiology and Pharmacology, Libin Cardiovascular Institute of Alberta, University of Calgary, Calgary, Canada) : Carvedilol analog modulates both basal and stimulated sinoatrial node automaticity. *Heart Vessels* 2014 ; 29 (3) : 396-403.
  - 11) Nakagomi A<sup>1</sup>, Seino Y, Noma S<sup>1</sup>, Kohashi K<sup>1</sup>, Kosugi M<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Shimizu W<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Japan, <sup>2</sup> Division of Cardiology, Nippon Medical School, Japan) : Relationships between the Serum Cholesterol Levels, Production of Monocyte Proinflammatory Cytokines and Long-term Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure. *Internal Medicine* 2014 ; 53 (21) : 2415-2424.
  - 12) Mizuno M<sup>1</sup>, Sato N<sup>2</sup>, Kajimoto K<sup>3</sup>, Sakata Y<sup>4</sup>, Minami Y<sup>1</sup>, Munakata R, Hagiwara N<sup>1</sup>, Takano T<sup>5</sup> (<sup>1</sup> Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, <sup>2</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Kawasaki, Japan, <sup>3</sup> Department of Cardiology, Sensoji Hospital, Tokyo, Japan, <sup>4</sup> Department of Cardiology, Osaka University, Japan, <sup>5</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Intra-aortic balloon counterpulsation for acute decompensated heart failure. *International Journal of Cardiology* 2014 ; 176 (3) : 1444-1446.
  - 13) Seino Y, Momomura S<sup>1</sup>, Kihara Y<sup>2</sup>, Adachi H<sup>3</sup>, Yasumura Y<sup>4</sup>, Yokoyama H<sup>5</sup> (<sup>1</sup> Division of Cardiovascular Medicine, Saitama Medical Center, Jichi Medical University, Saitama, Japan, <sup>2</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima, Japan, <sup>3</sup> Division of Cardiology, Gunma Prefectural Cardiovascular Center, Gunma, Japan, <sup>4</sup> Cardiovascular Division, Osaka National Hospital, Osaka, Japan, <sup>5</sup> Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan) : Effects of adaptive servo-ventilation therapy on cardiac function and remodeling in patients with chronic heart failure (SAVIOR-C) : study protocol for a randomized controlled trial. *Trials* 2015 ; 16 : 1-7.
  - 14) Kurihara O, Takano M, Seino Y, Shimizu W<sup>1</sup>, Mizuno K<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Division of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2</sup> Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo, Japan) : Coronary atherosclerosis is already ongoing in pre-diabetic status : Insight from intravascular imaging modalities. *World Journal of Diabetes* 2015 ; 6 (1) : 184-191.
  - 15) Ogihara T<sup>1</sup>, Saruta T<sup>2</sup>, Rakugi H<sup>3</sup>, Saito I<sup>2</sup>, Shimamoto K<sup>4</sup>, Matsuoka H<sup>5</sup>, Shimada K<sup>6</sup>, Ito S<sup>7</sup>, Horiuchi M<sup>8</sup>, Imaizumi T<sup>9</sup>, Takishita S<sup>10</sup>, Higaki J<sup>8</sup>, Katayama S<sup>10</sup>, Kimura G<sup>10</sup>, Seino Y, et al. (<sup>1</sup> Morinomiya University of Medical Sciences, Osaka, <sup>2</sup> Keio University, Tokyo, <sup>3</sup> Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, <sup>4</sup> Sapporo Medical University, Hokkaido, <sup>5</sup> Dokkyo Medical University, <sup>6</sup> Shin-Oyama City Hospital, Tochigi, <sup>7</sup> Tohoku University Graduate School of Medicine, Miyagi, <sup>8</sup> Ehime University Graduate School of Medicine, Ehime, <sup>9</sup> Kurume University School of Medicine, Fukuoka, <sup>10</sup> and

others) : Combinations of olmesartan and a calciumchannel blocker or a diuretic inelderly hypertensive patients : a randomized, controlled trial. *Journal of Hypertension* 2014 ; 32 (10) : 2054-2063.

(2) 総説 :

- 1) 志村徹郎, 清野精彦 : インターベンション治療. *臨床透析* 2014 ; 30 (8) : 967-973.
- 2) 小宮山英徳, 清野精彦 : BNP と NT-proBNP はどう違うのですか. 使い分けがありますか. トロポニンも測定する必要がありますか. *Heart View* 2014 ; 18 (12) : 151-154.
- 3) Seino Y, Otsuka T<sup>1)</sup> (1) Department of Hygiene, Nippon Medical School, Tokyo, Japan ; Department of Public Health, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Expanding the role of cardiac biomarkers-natriuretic peptides and troponins-further in pre-Stage A. *Hypertension Research* 2015 ; 38 (1) : 11-12.
- 4) 志村徹郎, 内山沙央里, 清野精彦 : 診断のために「バイオマーカー」と「心電図」をどう使うか. *Heart View* 2014 ; 18 (13) : 29-35.
- 5) 村上大介, 高野雅充, 清野精彦 : 虚血性心疾患の治療に違いはあるか?. *Heart View* 2015 ; 19 (2) : 70-77.
- 6) 清野精彦 : 慢性心不全における中枢性睡眠時無呼吸と夜間酸素療法の有効性. *循環器内科* 2015 ; 77 (2) : 162-165.
- 7) Maruyama M : Management of electrical storm : The mechanism matters. *Journal of Arrhythmia* 2014 ; 30 (4) : 242-249.

(3) 症例報告 :

- 1) Inami T, Tsurumi M, Seino Y, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Successful treatment of ball-shaped very late thrombus after myocardial infarction. *BMJ Case Report* 2014.
- 2) Yamamoto T, Maruyama M, Seino Y, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Marshall bundle reentry : a novel type of macroreentrant atrial tachycardia. *Heart rhythm* 2014 ; 11 (7) : 1229-1232.

## 著書

- 1) 清野精彦 : [分担] 心筋バイオマーカー. 専門医のための循環器病学 (小川 聡, 井上 博, 筒井 裕之), 2014 ; pp122-125, 医学書院.
- 2) 清野精彦 : [分担] 心不全のバイオマーカー : 診断指標から治療評価指標へ. 臨床心不全のいちばん大事なところ 60 (佐藤幸人), 2014 ; pp183-193, メディカ出版.
- 3) 清野精彦 : [分担] 急性心不全. year note TOPICS 2015-2016 (医療情報科学研究所), 2015 ; pp67-70, メディックメディア.
- 4) 清野精彦 : [分担] 慢性心不全. year note TOPICS 2015-2016 (医療情報科学研究所), 2015 ; pp71-78, メディックメディア.

## 学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 清野精彦 : 女性の虚血性心疾患の特徴と対策 (臨床心臓病学における性差医学・医療の実践). 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回) (仙台), 2014. 9.
- 2) 清野精彦, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 清水 渉<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, 2) 日本医科大学付属病院集中治療室, 3) 日本医科大学循環器内科学) : 急性心不全における NPPV による呼吸管理 : PEEP, CPAP, BiPAP, ASV の有用性. 日本心不全学会学術集会 (第 18 回) (大阪), 2014. 10.

(2) セミナー :

- 1) 高野雅充 : Clinical Utilization of NIRS-IVUS (バスキュラーイメージング & フィジオロジー). 豊橋ライブデモンストレーションコース (第 4 回) (豊橋), 2014. 5.
- 2) 丸山光紀 : 特発性左室 VT (Purkinje 由来, 乳頭筋, 僧帽弁輪). 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2014 (新潟), 2014. 10.

(3) ポスター :

- 1) Uetake S : Frequency Analysis of the Intracardiac Signals as a Predictor of Procedural and Clinical Outcome in Catheter Ablation of Persistent Atrial Fibrillation. *Heart Rhythm* 2014 (San Francisco), 2014. 5.
- 2) 宗像 亮 : 傾斜挿入で回収困難となった中心静脈フィルターをミカエルソンカテーテルを利用して矯正し, 回収に成功した 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第 23 回) (名古屋), 2014. 7.
- 3) 志村徹郎 : 浅大腿動脈に留置した薬剤溶出性ステントの血管内視鏡を用いた血管治療反応の評価. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第 23 回) (名古屋), 2014. 7.
- 4) Munakata R, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimura T, Kurihara O, Inami T, Murakami D, Ohba T, Takano M, Seino Y, Shimizu W<sup>2)</sup> (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Volume Elastic Modulus of the Brachial Artery and Coronary Artery Stenosis in Patients with Suspected Stable Coronary Artery Disease. *ESC Congress 2014 (Barcelona)*, 2014. 8.



- 5) 西村とき子<sup>1)</sup>, 亀山雅弥<sup>1)</sup>, 野本剛史<sup>1)</sup>, 稲見 徹, 清野精彦 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院中央検査室): 脳梗塞を契機に発見された心房中隔血腫の1例. 日本心臓病学会学術集会 (第62回) (仙台), 2014. 9.
- (4) 一般講演:
- 1) 稲見 徹, 清野精彦, 栗原 理, 木股仲恒, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 宗像 亮, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科): 睡眠呼吸障害と大動脈解離の病態に関する分析: 偽腔開存性の規定因子. 日本内科学会総会 (第111回) (東京), 2014. 4.
  - 2) 福泉 偉: 大量血栓を伴う急性心筋梗塞への血栓吸引療法: PCI前の血栓吸引が有益でないのは真実か?. 日本心血管インターベンション治療学会学術集会 (第23回) (名古屋), 2014. 7.
  - 3) 村上大介, 高野雅充, 稲見 徹, 大場崇芳, 清野精彦, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科): 難治性冠攣縮性狭心症に対する薬効判定の意義: 投薬下 ACh 負荷試験の可能性. 日本心臓病学会学術集会 (第62回) (仙台), 2014. 9.
  - 4) 山本哲平, 丸山光紀, 植竹俊介, 清野精彦, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科): 高出力 entrainment pacing が診断および焼灼部位の同定に有用だった Marshall bundle reentry の1例. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会2014 (新潟), 2014. 10.
  - 5) 澤谷倫史, 稲見 徹, 宗像 亮, 内山沙央里, 福泉 偉, 志村徹郎, 栗原 理, 植竹俊介, 小宮山英徳, 山本哲平, 村上大介, 丸山光紀, 大場崇芳, 高野雅充, 清野精彦, その他3名: 発作性心房細動に伴う胸痛で受診し Type2MI と診断, CPAP が奏功している OSAS 合併高血圧症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2014. 12.
  - 6) 内山沙央里: Tolvaptan はフロセミド抵抗性容量過負荷心不全例で  $\beta$  遮断薬療法の導入を早めるか?. 日本心不全学会学術集会 (第18回) (大阪), 2014. 10.

## 著 書

### [追加分]

#### 追加分:

- 1) Maruyama M, Yamamoto T : [分担] Electrophysiologic Testing and Cardiac Mapping. Cardiac Arrhythmias From Basic Mechanism to State-of-the-Art Management, 2014 ; pp187-197, Springer.
- 2) Maruyama M, Yamamoto T : [分担] Electrical Storm : Recent Advances. Cardiac Arrhythmias From Basic Mechanism to State-of-the-Art Management, 2014 ; pp285-292, Springer.

### 3. 神経内科学分野

#### [付属病院神経・脳血管内科]

#### 研究概要

当科では脳卒中、パーキンソン病、認知症の研究に取り組んでいる。脳卒中では、基礎的研究として脳梗塞の病態解明および臨床研究を主要課題として取り組んでいる。臨床研究では、SCU (Stroke Care Unit) が設立され、脳卒中急性期の超早期診断・治療、特に t-PA 治療、Penumbra system やステントを用いた血管内治療や MRI や超音波、SPECT を用いた診断・治療の研究がなされている。基礎研究では、脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生を主な研究テーマの一つとして行っているが、骨髄単核球細胞・骨髄間葉系細胞・歯髄間葉系幹細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経微候に及ぼす影響およびその保護効果のメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており、当科においても臨床実施を目指して研究を行っている。また、免疫抑制薬、抗酸化薬、スタチン、EPA およびマクロライド系抗生物質の脳保護効果に注目して、それらが有用な脳保護薬となり得ることを見出した。パーキンソン病に関しては、近年、トピックスとなっている非運動症状に関して積極的に研究を行っている。特に幻視と FDG-PET・神経心理学的評価の関係や、生活の質への影響が大きいとされる、うつ、アンヘドニア、アパシーといった精神微候を予測するバイオマーカーの検討に関する検討を行っている。さらには最も効果的な薬剤であるレボドパの体内動態に影響する項目の検討、ドパミントランスポーター SPECT の正常データベース構築に関する検討も予定している。その他、脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症の PET・MRI・SPECT 等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。当科では付属病院の他、千葉北総病院および武蔵小杉病院内科、全国多くの関連病院へ人員を派遣し、各施設での診療、研究に貢献している。以上、当教室では神経内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Ishiwata A, Mizumura S<sup>1</sup>, Mishina M, Yamazaki M, Katayama Y ( <sup>1</sup> Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center) : The Potentially Protective Effect of Donepezil in Alzheimer's Disease. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2014 ; 38 (4) : 170-177.
- 2) Abe A, Harada-Abe M, Ueda M, Katano T, Nakajima M, Muraga K, Suda S, Nishiyama Y, Okubo S, Mishina M, Katsura K, Katayama Y : Aortic Arch Atherosclerosis in Ischaemic Stroke of Unknown Origin Affects Prognosis. *Cerebrovasc Dis Extra* 2014 ; 4 (2) : 92-101.
- 3) 三品雅洋 : 特集 I . パーキンソニズムの画像 update, パーキンソニズムの PET. *神経内科* 2015 ; 82 (2) : 131-135.
- 4) 三品雅洋 : 特集 神経難病ケアのコベルニクスの転回, 神経難病診療の新たな画像検査を活かす. *総合診療* 2015 ; 25 (3) : 215-218.
- 5) Suda S, Ueda M, Nito C, Nishiyama Y, Okubo S, Abe A, Aoki J, Suzuki K, Sakamoto Y, Kimura K : Valproic acid ameliorates ischemic brain injury in hyperglycemic rats with permanent middle cerebral occlusion. *Brain Res* 2015 ; 1606 : 1-8.
- 6) Kanamaru T<sup>1</sup>, Kamimura N<sup>1</sup>, Yokota T<sup>1</sup>, Nishimaki K<sup>1</sup>, Iuchi K<sup>1</sup>, Lee H<sup>1</sup>, Takami S<sup>2</sup>, Akashiba H<sup>2</sup>, Shitaka Y<sup>2</sup>, Ueda M, Katsura K, Kimura K, Ohta S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Pharmacology Research Laboratories, Astellas Pharma Inc) : Intravenous transplantation of bone marrow-derived mononuclear cells prevents memory impairment in transgenic mouse models of Alzheimer's disease. *Brain Res* 2015 ; 1605 : 49-58.
- 7) Kanamaru T<sup>1</sup>, Kamimura N<sup>1</sup>, Yokota T<sup>1</sup>, Iuchi K<sup>1</sup>, Nishiyama K<sup>1</sup>, Takami S<sup>2</sup>, Akahashi H<sup>2</sup>, Shitaka Y<sup>2</sup>, Katsura K, Kimura K, Ohta S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Pharmacology Research Laboratories, Astellas Pharma Inc) : Oxidative stress accelerates amyloid deposition and memory impairment in a double-transgenic mouse model of Alzheimer's disease. *Neurosci Lett* 2015 ; 587 : 126-131.
- 8) Sakamoto Y, Okubo S, Kanamaru T, Suzuki K, Kimura K : A case report of bilateral paramedian thalamic and occult midbrain infarctions without disturbance of consciousness. *Neurol Sci* 2015.
- 9) Naganawa M<sup>1</sup>, Mishina M, Sakata M<sup>2</sup>, Oda K<sup>3</sup>, Hiura M<sup>4</sup>, Ishii K<sup>2</sup>, Ishiwata K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> PET Center, Yale University School of Medicine, <sup>2</sup> Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3</sup> Department of Radiological Technology, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University of Science, <sup>4</sup> Faculty of Sports and Health Studies, Hosei University) : Test-retest variability of adenosine A2A binding in the human brain with 11C-TMSX and PET. *EJNMMI Res* 2014 ; 4 (1) : 76.

- 10) Kumagai T, Nagayama H, Ota T, Nishiyama Y, Mishina M, Ueda M : Sex differences in the pharmacokinetics of levodopa in elderly patients with Parkinson disease. *Clin Neuropharmacol* 2014 ; 37 (6) : 173-176.
  - 11) Inaba T, Katayama Y, Ueda M, Nito C : Neuroprotective effects of pretreatment with macrolide antibiotics on cerebral ischemia reperfusion injury. *Neurol Res* 2015 ; 37 (6) : 514-524.
  - 12) Katayama Y, Inaba T, Nito C, Ueda M, Katsura K : Neuroprotective effects of erythromycin on cerebral ischemia reperfusion-injury and cell viability after oxygen-glucose deprivation in cultured neuronal cells. *Brain Res* 2014 ; 1588 : 159-167.
  - 13) Abe A, Okubo S, Onozawa S<sup>1)</sup>, Nakajima M, Suzuki K, Harada-Abe M, Ueda M, Katsura K, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School) : Acute vertebral artery origin occlusion leading to basilar artery thrombosis successfully treated by angioplasty with stenting and thrombectomy. *Interv Neuroradiol* 2014 ; 20 (3) : 325-328.
  - 14) Nakajima N<sup>1)</sup>, Ueda M, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Kitamura Public Hospital) : Brainstem infarction with wall-eyed bilateral internuclear ophthalmoplegia syndrome and vertical one-and-a-half syndrome. *Journal of stroke and cerebrovascular disease* 2014 ; 23 (4) : e291-e293.
  - 15) Kano O<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>2)</sup>, Nagayama H, Hamada S<sup>3)</sup>, Maeda T<sup>4)</sup>, Hasegawa T<sup>5)</sup>, Kadowaki T<sup>6)</sup>, Sengoku R<sup>7)</sup>, Terashi H<sup>8)</sup>, Hatano T<sup>9)</sup>, Nomoto N<sup>10)</sup>, Inoue M, Shimura H, Takahashi T, Uchiyama T, et al. ( <sup>1)</sup> Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Toho University Omori Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Neurology, Hokuyukai Neurological Hospital, <sup>4)</sup> Department of Neurology, Research Institute for Brain and Blood Vessels, <sup>5)</sup> Division of Neurology, Department of Neuroscience & Sensory Organs, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Neurology, Ashikaga Red Cross Hospital, <sup>7)</sup> The Third Department of Internal Medicine, <sup>8)</sup> Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, <sup>9)</sup> Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Toho University Ohashi Medical Center, <sup>10)</sup> and others) : Rhinorrhea in Parkinson's disease : a consecutive multicenter study in Japan. *Journal of the neurological sciences* 2014 ; 343 (1-2) : 88-90.
  - 16) Takahashi S<sup>1)</sup>, Tanizaki Y<sup>1)</sup>, Kimura H<sup>2)</sup>, Akaji K<sup>1)</sup>, Kano T<sup>1)</sup>, Suzuki K, Takayama Y, Kanzawa T<sup>3)</sup>, Shidoh S<sup>1)</sup>, Nakazawa M<sup>4)</sup>, Yoshida K<sup>5)</sup>, Mihara B<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurology, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital, <sup>3)</sup> Department of Stroke Medicine, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital, <sup>4)</sup> Department of Image Diagnosis, Institute of Brain and Blood Vessels, Mihara Memorial Hospital, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, School of Medicine, Keio University) : Comparison of Cerebral Blood Flow Data Obtained by Computed Tomography (CT) Perfusion with that Obtained by Xenon CT Using 320-Row CT. *Journal of stroke and cerebrovascular diseases* 2015 ; 24 (3) : 635-641.
  - 17) Abe A, Nishiyama Y, Harada-Abe M, Okubo S, Ueda M, Mishina M, Katayama Y : Relative risk values of age, acrolein, IL-6 and CRP as markers of periventricular hyperintensities : a cross-sectional study. *BMJ Open* 2014 ; 4 (8) : e005598.
  - 18) Muraga K, Nishiyama Y, Otsuka T, Ueda M, Abe A, Katayama Y : The asymmetric dimethylarginine level is associated with the predicted stroke risk in Japanese women. *J Atheroscler Thromb* 2014 ; 21 (7) : 640-647.
  - 19) Abe A, Harada-Abe M, Takayama Y, Toda Y, Ueda M, Katayama Y : Excision of Zenker's diverticulum to treat dysphagia associated with acute-phase cerebral infarction. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (2) : 164-167.
  - 20) Nakajima N<sup>1)</sup>, Ueda M, Igarashi H<sup>2)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Kitamura Public Hospital, <sup>2)</sup> Center for Integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata) : Transient disappearance of white matter lesions on correction of hyponatremia. *Neurol Clin Pract* 2014 ; 4 (3) : 266-267.
  - 21) Nakajima N<sup>1)</sup>, Ueda M, Nagayama H, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Kitamura Public Hospital) : Putaminal changes before the onset of clinical symptoms in diabetic hemichorea-hemiballism. *Internal medicine* 2014 ; 53 (5) : 489-491.
  - 22) 上田雅之 : 虚血性脳損傷に対する脳保護療法. *日医大医学会誌* 2014 ; 10 (4) : 164-171.
  - 23) 上田雅之 : 新規脳保護療法 : EPA. *脳卒中 ; 日本脳卒中学会機関紙* 2014 ; 36 (2) : 113-119.
  - 24) 上田雅之 : 片頭痛クリニカル・クエスチョンの要点. *Mebio* 2014 ; 31 (6) : 36-40.
  - 25) 上田雅之, 有井一正, 井田正博 : 新しい perfusion-diffusion mismatch の臨床応用. *分子脳血管病* 2014 ; 13 (2) : 13-17.
  - 26) Suda S, Katsura K, Saito M, Kamiya N, Katayama Y : Valproic acid enhances the effect of bone marrow-derived mononuclear cells in a rat ischemic stroke model. *Brain Res* 2014 ; 1565 : 74-81.
  - 27) 永山 寛 : 進化する Parkinson 病の治療 症状とその対応 新たなステージへ Parkinson 病と「うつ」. *神経治療学* 2014 ; 3 : 171-174.
- (2) 総説 :
- 1) Mishina M, Ishiwata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Research Team for Neuroimaging, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Chapter Two- Adenosine Receptor PET Imaging in Human Brain. *International Review of Neurobiology* 2014 ; 119 : 51-69.

(3) 症例報告：

- 1) Mishina M, Ohkubo S, Kamiya N, Abe A, Suda S, Sakamaki M, Kominami S, Mizunari T, Kobayashi S, Katayama Y : Efficacy of Tracheostomy for Central Alveolar Hypoventilation Syndrome Caused by Lateral Medullary Infarction. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (4) : 276-284.

著 書

- 1) 上田雅之：〔分担〕もやもや病に伴う脳梗塞の病態と治療. 日本臨床72 (増刊号7) 最新臨床脳卒中学 (下), 2014 ; pp246-249, 日本臨牀社.
- 2) 上田雅之：〔分担〕脊髄各部の構成を機能. 神経機能解剖テキスト (浦上克哉, 北村伸, 小川敏英); 文光堂.
- 3) 上田雅之, 片山泰朗：〔分担〕脳血管障害の病型分類法と問題点. 脳血管障害治療最前線 (鈴木則宏), 2014 ; pp15-22, 中山書店.
- 4) 永山 寛：〔分担〕1章 臨床生理学 4. 運動系の検査：筋電図. 目で見える臨床検査 (芝紀代子, 川良徳弘), 2014 ; メジカルビュー社.
- 5) 永山 寛：〔分担〕5章 臨床検査医学総論 2. 神経・運動器疾患と検査. 目で見える臨床検査 (芝紀代子, 川良徳弘), 2014 ; メジカルビュー社.
- 6) 永山 寛：進化する Parkinson 病の治療 症状とその対応 新たなステージへ パーキンソン病の気分障害の機序と治療. メディカル朝日, 2014 ; pp36-37, 朝日新聞出版社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 三品雅洋：ドパミン欠乏に対する線条体の代償機能. 茨城県神経病態研究会 (第3回) (つくば), 2014. 4.
- 2) 三品雅洋：アデノシン A2A 受容体をみる - PLoS ONE 論文の検証. 東海パーキンソン病研究会 (名古屋), 2014. 9.
- 3) 三品雅洋：認知症の診断と治療：Memantine を実臨床でどう活かすか. 城東認知症カンファランス 2015 (東京), 2015. 1.

(2) 招待講演：

- 1) Mishina M : Human brain imaging of Adenosine A<sub>1</sub> and A<sub>2A</sub> receptors. Purines 2014 (Bonn, Germany), 2014. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) 永山 寛：パーキンソン病のうつ・アパシー. International Parkinson's Disease Symposium in Takamatsu (第14回) (高松), 2015. 3.

(4) セミナー：

- 1) 木村和美：脳梗塞急性期に対する血栓溶解療法の現状と新たな展開. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 2) 木村和美：日本における抗凝固療法の現状と課題. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 3) 永山 寛：パーキンソン病患者の診断と将来を見据えた治療. 日本自律神経学会総会 (第67回) (さいたま), 2014. 10.

(5) ポスターセッション：

- 1) 阿部 新, 原田未那, 大久保誠二, 西山康裕, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 足立眞理<sup>1)</sup>, 倉 禎<sup>2)</sup>, 片山泰朗 (1) 葛飾健診センター) : 実臨床における脳梗塞リスク値の脳室周囲白質病変への有用性の検討. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 2) 阿部 新, 松本 学, 高山洋平, 片野雄大, 大久保誠二, 原田未那, 小澤明子, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 横田裕行, 片山泰朗 : 急性期血行再建術における Penumbra システムの初期経験. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (30回) (神奈川), 2014. 12.
- 3) 金丸拓也, 上村尚美, 井内勝哉, 西楨貴代美, 横田 隆, 高見新也, 赤芝洋紀, 志鷹義嗣, 桂研一郎, 太田成男, 片山泰朗 : アルツハイマーモデルマウスに対する骨髄単核球移植の認知機能改善効果 - 第2報 -. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 4) 杵名章仁, 西山康裕, 中島壯崇, 後藤由也, 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 上田雅之, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗 : 当院における奇異性脳塞栓症と心原性脳塞栓症の臨床的特徴の比較. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 5) 中島壯崇, 阿部 新, 杵名章仁, 原田未那, 後藤由也, 西山康裕, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗 : 当院においての大動脈原性脳塞栓症と心原性脳塞栓症の臨床的特徴の比較. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 6) 後藤由也, 西山康裕, 中島壯崇, 杵名章仁, 岨 康太, 大内崇弘, 藤澤洋輔, 原田未那, 阿部 新, 大久保誠二, 上田雅之, 三品雅洋, 桂研一郎, 片山泰朗 : 心原性脳塞栓症発症後の血液中における好中球および単球の動態変化. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 7) 大久保誠二, 阿部 新, 杵名章仁, 中島壯崇, 後藤由也, 西山康裕, 上田雅之, 原田未那, 三品雅洋, 片山泰朗 : edarabone と tPA 静注の併用効果の検討. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
- 8) 岨 康太, 熊谷智昭, 野上 茜, 永山 寛, 上田雅之 : 免疫グロブリン大量静注療法とステロイドパルス療法の併用療法を行った重症筋無力症3症例の治療経験. 日本神経治療学会総会 (第32回) (東京), 2014. 11.

- 9) 藤澤洋輔, 永山 寛, 熊谷智昭, 小澤明子, 上田雅之: サルコイドーシスを既往にもち小細胞肺癌及びリンパ節転移に先行した傍腫瘍性小脳変性症の1例. 日本神経治療学会総会 (第32回) (東京), 2014. 11.
- (6) ポスター:
- 1) 村賀香名子, 西山康裕, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 木村和美<sup>(1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 衛生学公衆衛生学分野): 中年男性におけるADMA, 高感度CRPとメタボリック症候群発症の危険性の検討. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 2) 呉 侑樹, 阿部 新, 中島壯崇, 藤澤洋輔, 鈴木健太郎, 金丸拓也, 西山康裕, 大久保誠二, 上田雅之, 木村和美: 内頸動脈閉塞症に対する治療の取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 3) 片野雄大, 鈴木健太郎, 佐藤貴洋, 坂本悠記, 青木淳哉, 阿部 新, 須田 智, 大久保誠二, 木村和美: ガイディング挿入困難例に対し, Pull through法が有効であった緊急頸動脈ステント留置術の1例. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 4) 須田 智, 斎藤萌子, 稲葉俊東, 上田雅之, 仁藤智香子, 西山康裕, 木村和美: 永久脳虚血モデルに対するバルプロ酸の脳保護効果: 糖尿病誘発ラットを用いて. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 5) 西 祐吾, 鈴木健太郎, 大久保誠二, 須田 智, 阿部 新, 青木淳哉, 坂本悠記, 木村和美: 診断に苦慮したWallenberg症候群の1例. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 6) 小林和人<sup>1)</sup>, 坂井健一郎<sup>1)</sup>, 松本典子<sup>1)</sup>, 植村順一<sup>1)</sup>, 佐治直樹<sup>1)</sup>, 八木田佳樹<sup>1)</sup>, 木村和美<sup>(1)</sup> 川崎医科大学 脳卒中医学教室): 頭蓋内MR angiographyによる頸動脈狭窄病変の予測. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 7) 須田 智, Bing Y, 片山泰朗, 桂研一郎, 木村和美: 脳出血モデルに対する自己骨髄由来単核球細胞治療の有用性. 日本脳循環代謝学会総会 (第26回) (岡山), 2014. 11.
  - 8) Suda S, Saito M, Inaba T, Nishiyama Y, Nito C, Ueda M, Katayama Y, Kimura K: Valproic Acid Ameliorates Ischemic Brain Injury in Hyperglycemic Rats with Permanent Middle Cerebral Occlusion. International stroke conference 2015 (Nashville, USA), 2015. 2.
- (7) 一般講演:
- 1) Nagayama H, Mishina M: A Case With Making Comparison Of Levodopa Pharmacokinetics Before And After Intestinal Resection. MDS 18th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Stockholm), 2014. 6.
  - 2) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 鈴木正彦<sup>1,2)</sup>, 橋本昌也<sup>1,2)</sup>, 木村裕一, 長縄美香, 坂田宗之, 織田圭一, 豊原 潤, 永山 寛, 石渡喜一, 片山泰朗<sup>(1)</sup> 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター神経内科): 線条体アデノシン A<sub>1</sub> および A<sub>2A</sub> 受容体とパーキンソン病の振戦・固縮の関係. 日本神経学会学術大会 (第55回) (福岡), 2014. 5.
  - 3) 永山 寛, 熊谷智昭, 三品雅洋, 木村和美: パーキンソン病における anhedonia に対する pramipexole 少量投与の効果. パーキンソン病・運動障害疾患コンgres (第8回) (京都), 2014. 10.
  - 4) 三品雅洋: 脳卒中急性期治療の連携について. 東京の脳卒中を考える会 (東京), 2014. 12.
  - 5) 三品雅洋: 医療連携にクリニカルパス. 平成26年度日本医科大学付属病院クリニカルパス大会 (東京), 2014. 12.
  - 6) 三品雅洋: 診療現場でのDATイメージング. 関東脳核医学研究会 (第7回) (東京), 2015. 2.
  - 7) 仁藤智香子<sup>1)</sup>, 中島壯崇<sup>1,2)</sup>, 上田雅之<sup>1)</sup>, 稲葉俊東<sup>1)</sup>, 斎藤萌子<sup>1)</sup>, 西山康裕<sup>1)</sup>, 須田 智<sup>1)</sup>, 中村有希<sup>2)</sup>, 今川 究<sup>3)</sup>, 立花克彦<sup>3)</sup>, 岡田尚巳<sup>2)</sup>, 木村和美<sup>(1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学分野, <sup>3)</sup> JCRファーマ株式会社): ラット局所脳虚血モデルにおける歯髄幹細胞移植による脳保護効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 8) 西山康裕, 上田雅之, 仁藤智香子, 須田 智, 木村和美, Ahmet A<sup>1)</sup>, Tonya B<sup>1)</sup>, Gary S<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> スタンフォード大学 脳神経外科): 実験的脳虚血モデルを用いた単球由来脳内マクロファージの経時変化と神経機能に及ぼす影響について. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 9) 上田雅之, 仁藤智香子, 西山康裕, 須田 智, 木村和美: 非侵襲的脳血流モニターを用いたラット局所脳虚血モデルの梗塞均一化の検討. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 10) 有井一正<sup>1,3)</sup>, 小林美紀<sup>1)</sup>, 岡村正哉<sup>1,3)</sup>, 長尾毅彦<sup>2,3)</sup>, 岨 康太<sup>1,3)</sup>, 木村和美<sup>3)</sup>, 田久保秀樹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 東京都保健医療公社原病院総合脳卒中センター 神経内科, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学 神経内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野): 頸動脈硬化と危険因子の関係について, 左右別での検討. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 11) 鈴木健太郎, 谷崎義生<sup>1)</sup>, 青木淳哉, 木村和美, 美原 盤<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 美原記念病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 美原記念病院 脳神経内科): 放線冠領域梗塞の原因血管と予後の関連. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 12) 田辺 緑<sup>1)</sup>, 増田恭子<sup>1)</sup>, 尾崎仁美<sup>1)</sup>, 鈴木健太郎, 大久保誠二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院CCU・SCU): 当院におけるrt-PA静注療法開始時間短縮への取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
  - 13) 松本典子<sup>1)</sup>, 松原俊二<sup>2)</sup>, 小林和人<sup>1)</sup>, 佐治直樹<sup>1)</sup>, 植村順一<sup>1)</sup>, 松下展久<sup>2)</sup>, 宇野昌明<sup>2)</sup>, 八木田佳樹<sup>1)</sup>, 木村和美 <sup>(1)</sup> 川崎医科大学 脳卒中医学, <sup>2)</sup> 川崎医科大学 脳神経外科学): 超音波造影剤を用いた造影頸部血管エコーによるステント内血栓評価の試み. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.

- 14) 佐治直樹<sup>1)</sup>, 植村順一<sup>1)</sup>, 木村和美<sup>1)</sup> (川崎医科大学 脳卒中医学): NOACs 関連頭蓋内出血に関する全国アンケート調査. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
- 15) 山上 宏<sup>1)</sup>, 吉村紳一<sup>2)</sup>, 江頭裕介<sup>3)</sup>, 坂井伸幸<sup>4)</sup>, 岡田 靖<sup>5)</sup>, 北川一夫<sup>5)</sup>, 木村和美, 棚橋紀夫<sup>5)</sup>, 瓢子敏夫<sup>5)</sup> (国立循環器研究センター 脳神経外科, <sup>2)</sup> 兵庫医科大学 脳神経外科, <sup>3)</sup> 岐阜大学 脳神経外科, <sup>4)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科, <sup>5)</sup> RESCUE Japan 運営委員): 急性期脳梗塞に対する血管内治療の手技時間と転帰との関係. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
- 16) 有廣昇司<sup>1)</sup>, 藤堂謙一<sup>2)</sup>, 木村和美, 古井英介<sup>3)</sup>, 寺崎修司<sup>4)</sup>, 木下直人<sup>1)</sup>, 山上 宏<sup>1)</sup>, 古賀政利<sup>1)</sup>, 豊田和則<sup>1)</sup>, Samurai 研究班<sup>1)</sup> (国立循環器病研究センター 脳血管内科/脳神経内科, <sup>2)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院 神経内科・脳卒中センター, <sup>3)</sup> 広南病院 脳血管内科, <sup>4)</sup> 熊本赤十字病院 神経内科): 非弁膜症性心房細動を有する脳梗塞・TIA に対する経口抗凝固療法: SAMURAI-NVAF 研究: 3 か月転帰. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
- 17) 井上 剛<sup>1)</sup>, 榊原 敬<sup>2)</sup>, 木村和美<sup>1, 3)</sup>, 岩永 健<sup>1, 4)</sup>, 山下真史<sup>1)</sup>, 八木田佳樹<sup>1)</sup> (川崎医科大学 脳卒中医学, <sup>2)</sup> 心臓病センター 榊原病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, <sup>4)</sup> 岡山赤十字病院 脳卒中科): iPad mini を用いた病院間の急性期脳卒中 24 時間コンサルトシステム: 過疎地の遠隔診療を目指して. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
- 18) 青木淳哉, 木村和美: 脳血管障害における画像検査 (教育講演 17 中枢神経 脳血管障害). 日本画像医学会 (第 34 回) (東京), 2015. 2.
- 19) Ueda M, Nakajima N, Nishiyama Y, Okubo S, Katayama Y: Potential impact of neurovascular compression at the rostral ventrolateral medulla in posterior reversible encephalopathy syndrome. The 2nd Asian Clinical Congress, 2014. 4.
- 20) 後藤由也, 熊谷智昭, 太田智大, 角南英子, 永山 寛, 片山泰朗: 頻回のステロイドパルス療法が奏功した皮膚筋炎の 30 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 209 回) (東京), 2014. 6.
- 21) 岨 康太, 熊谷智昭, 野上 茜, 後藤由也, 杏名章仁, 永山 寛, 木村和美: ネフローゼ症候群の治療中に発症したギラン・バレー症候群の 43 歳女性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 210 回) (東京), 2014. 9.
- 22) 後藤由也, 熊谷智昭, 岨 康太, 野上 茜, 永山 寛, 木村和美: VP シェント術後にパーキンソン症状を呈した 32 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第 211 回) (東京), 2014. 11.
- 23) 永山 寛, 熊谷智昭, 上田雅之, 三品雅洋, 片山泰朗: anhedonia に対する pramipexole 少量投与の効果. 日本神経学会学術大会 (第 55 回) (福岡), 2014. 5.
- 24) 曾原康二<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 桐山智成<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>1)</sup>, 永山 寛, 館野 周<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (日本医科大学放射線科, <sup>2)</sup> 東邦大学医療センター大森病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学精神科): DAT SPECT 診断の線条体集積比における操作者間, 解析ツール (QSPECT・DATview) 間の再現性. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 25) 鈴木静香, 杏名章仁, 野上 茜, 片野雄大, 阿部 新, 大久保誠二, 上田雅之, 木村和美: 経口避妊薬服用中に脳静脈洞血栓症を発症した 1 例. 日本頭痛学会総会 (第 42 回) (下関), 2014. 11.

## 論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) 三品雅洋: 脳の障害に対する可塑性と代償. 日医大医学会誌 2014; 10 (2): 101-105.

追加分原著:

- 1) 上田雅之: 脳卒中合併時の薬剤投与の注意と禁忌薬. 成人病と生活習慣病 2014; 44: 192-196.

## [武蔵小杉病院神経内科]

### 研究概要

武蔵小杉病院神経内科では, 主に認知症, 脳梗塞, 神経免疫に関する研究を行っている. 当教室では脳循環代謝に関する歴代の研究がなされ, 変性疾患における SPECT や PET を用いた研究では日本でも先駆的役割を担ってきた. 4 年前のアルツハイマー病 (AD) の診断基準の改訂に伴い, 治療対象は軽度認知障害 (MCI due to AD) や発症前 AD (preclinical AD) へ移行するものと予測されている. 我々は, MCI から AD に至る過程で A $\beta$  沈着のバイオマーカー (髄液 A $\beta$ <sub>42</sub>, アミロイド PET) とタウ蛋白を介した神経障害のバイオマーカー (髄液タウ, MRI での脳容積測定, SPECT), 疾患関連遺伝子, 神経心理学的評価をすることで, MCI から AD への進行を正確かつ客観的に評価する方法を策定し, 根本治療薬の標的を明確にすることを研究テーマとしている. アミロイド PET は, 精神神経科との共同研究で健診医療センター内で行っている. また, 当院は川崎市から認知症疾患医療センターとして認定され, 当科はその医療部門の役割を担っており, 様々な研究を行っている. 脳梗塞は高齢化社会の進むわが国の医療経済的負担の最重要因子であり, 基礎研究からヒトへの臨床応用にかかる期待は増している. しかしながら, 動物実験で効果を認めた数多くの候補薬が, 臨床試験で効果を示すことができない

いのが現状である。一方、近年脳梗塞は一連の炎症反応であるとする研究結果が相次いでいる。炎症性疾患はすでに各種薬剤により治療応用されており、脳梗塞への治療応用が期待される。我々は代表的な免疫担当細胞である単球やマクロファージ、および内在性マイクログリアの介在を追求し、脳内で起こる炎症反応変化および具体的な治療タイミングを検討している。さらに、我々は神経免疫疾患について、Th1, Th2, Th17 関連を測定し、サイトカインバランスの傾向を経時的に追跡している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ishiwata A, Mizumura S, Mishina M<sup>1</sup>, Yamazaki M, Katayama Y<sup>1</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : The potentially protective effect of donepezil in Alzheimer's disease. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2014 ; 38 (3-4) : 170-177.
- 2) Ishiwata A, Kitamura S, Nomura T<sup>2</sup>, Nemoto R<sup>3</sup>, Ishii C<sup>3</sup>, Wakamatsu N<sup>4</sup>, Katayama Y<sup>5</sup> (1) Nippon Medical School, Musashi-Kosugi Hospital, (2) Department of Psychology, Nippon Medical School, (3) The Community Consultation Center for Citizens with MCI and Dementia, Nippon Medical School, (4) Department of Rehabilitation, Niigata University of Rehabilitation, (5) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Early identification of cognitive impairment and dementia : Results from four years of the community consultation center. *Arch Gerontol Geriatr* 2014 ; 59 (2) : 457-461.
- 3) Otsuka T<sup>1</sup>, Nishiyama Y, Kachi Y<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Inagaki H<sup>1</sup>, Kawada T<sup>1</sup> (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School) : Predictive value of asymmetric dimethylarginine and C-reactive protein for the risk of developing metabolic syndrome in middle-aged men. *IJC Metabolic & Endocrine* 2014 ; 5 : 42-47.
- 4) Arac A<sup>1</sup>, Grimbaldston M<sup>2</sup>, Nepomuceno A<sup>1</sup>, Olayiwola O<sup>1</sup>, Pereira M<sup>1</sup>, Nishiyama Y, Tsykin A<sup>3</sup>, Goodall G<sup>3</sup>, Schlecht U<sup>4</sup>, Vogel H<sup>5</sup>, Tsai M<sup>5</sup>, Galli S<sup>5</sup>, Bliss T<sup>1</sup>, Steinberg G<sup>1</sup> (1) Department of Neurosurgery, School of Medicine, Stanford University, (2) Stanford Institute for Neuro-Innovation and Translational Neurosciences, School of Medicine, Stanford University, (3) Division of Human Immunology, Center for Cancer Biology, University of South Australia and SA Pathology, (4) Department of Biochemistry, School of Medicine, Stanford University, (5) Stanford Institute for Neuro-Innovation and Translational Neurosciences, School of Medicine, Stanford University) : Evidence that meningeal mast cells can worsen stroke pathology in mice. *Am J Pathol* 2014 ; 184 (9) : 2493-2504.
- 5) Abe A, Nishiyama Y, Harada-Abe M, Okubo S, Ueda M, Mishina M, Katayama Y : Relative risk values of age, acrolein, IL-6 and CRP as markers of periventricular hyperintensities : a cross-sectional study. *BMJ Open* 2014 ; 4 (8) : e005598.
- 6) Abe A, Harada-Abe M, Ueda M, Katano T, Nakajima M, Muraga K, Suda S, Nishiyama Y, Okubo S, Mishina M, Katsura K, Katayama Y : Aortic arch atherosclerosis in ischaemic stroke of unknown origin affects prognosis. *Cerebrovasc Dis Extra* 2014 ; 4 : 92-101.
- 7) Muraga K, Nishiyama Y, Otsuka T, Ueda M, Abe A, Katayama Y : The asymmetric dimethylarginine level is associated with the predicted stroke risk in Japanese women. *J Atheroscler Thromb* 2014 ; 21 (7) : 640-647.
- 8) Kumagai T, Nagayama H, Ota T, Nishiyama Y, Mishina M, Ueda M : Sex differences in the pharmacokinetics of levodopa in elderly patients with Parkinson disease. *Clinical Neuropharmacology* 2014 ; 37 (6) : 173-176.

#### (2) 総説：

- 1) 石渡明子, 北村 伸 : Alzheimer 病の統計解析画像. *神経内科* 2014 ; 81 (5) : 514-518.
- 2) 川西智也, 根本留美, 稲垣千草, 石渡明子, 野村俊明, 北村 伸 : もの忘れ相談機関が展開する地域連携の実際 : 連携ネットワーク構築のための活動と, 相談実績を通じた連携. *老年精神医学雑誌* 2014 ; 25 (12) : 1395-1399.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 石渡明子 : 認知症 : 正しく理解していますか. 認知症市民公開講座 (川崎), 2014. 4.
- 2) 石渡明子 : 認知症にならないために, なったときには : 予防と治療. かわさき市民アカデミー地域共同講座, 2014. 10.
- 3) 石渡明子 : みえてくるアルツハイマー病の診断と治療の進歩 : 20 年の研究から. 中原区認知症連携を考える会, 2014. 10.
- 4) 石渡明子 : 認知症 知っておくべき基礎知識 : 診断と治療の今. 一般社団法人老人病研究会公開講座健康の集い (第 22 回), 2014. 11.
- 5) 石渡明子 : アルツハイマー病へのアプローチ : 中核症状および BPSD から. 勝浦・夷隅認知症医療連携懇話会, 2014. 12.
- 6) 石渡明子 : 認知症の予防と治療 : 1 次予防と 3 次予防を中心に. JWINC 認知症セミナー, 2015. 1.
- 7) 石渡明子 : 認知症の脳機能画像のピットフォール : 薬効判定と再現性について. 認知症診断・治療を考える会, 2015. 1.

- 8) 石渡明子：知ってほしいアルツハイマー病とレビー小体型認知症の違い：よりよい服薬指導のために。保険薬局認知症座談会，2015. 2.
  - 9) 石渡明子：かかりつけ医から想定される認知症診療への疑問点を解決する。AD Round Table Discussion in Yokohama (横浜)，2015. 3.
  - 10) 石渡明子：認知症ミニマム診察：いかに短時間で正確に認知症患者さんの診察をするか。川崎認知症ケアミーティングーかかりつけ医ネットワークをめざしてー(川崎)，2015. 3.
- (2) 一般講演：
- 1) Ishiwata A, Mizumura S, Kimura K：Pharmacological Effects of Donepezil as a Disease Modifier. 12th International Conference on Alzheimer's & Parkinson's Diseases (France)，2015. 3.
  - 2) 石渡明子，水村 直<sup>1)</sup>，林 俊行，片山泰朗<sup>(1)</sup> 東邦大学医療センター大森病院 放射線科)：アルツハイマー病における脳血流と認知機能との相関：最大値参照法を用いて。日本神経学会総会(第55回)(福岡)，2014. 5.
  - 3) 石渡明子，林 俊行，並木香奈子<sup>1)</sup>，井上志津子<sup>1)</sup>，長久美江子<sup>1)</sup>，根本留美<sup>1)</sup>，稲垣千草<sup>1)</sup>，川西智也<sup>1)</sup>，野村俊明<sup>1, 2)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室)：認知症相談センターの認知症早期診断における役割。認知症予防学会総会(第4回)(東京)，2014. 9.
  - 4) 稲垣千草<sup>1)</sup>，根本留美<sup>1)</sup>，川西智也<sup>1)</sup>，並木香奈子<sup>1)</sup>，石渡明子，野村俊明<sup>1, 2)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室)：地域の認知症相談からみる家族のニーズ：街ぐるみ認知症相談センターにおける家族相談の検討より。老年精神医学会総会(第29回)(東京)，2014. 6.
  - 5) 稲垣千草<sup>1)</sup>，根本留美<sup>1)</sup>，川西智也<sup>1)</sup>，並木香奈子<sup>1)</sup>，石渡明子，野村俊明<sup>1, 2)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室)：健常/MCI高齢者の認知症ケアのニーズ：地域包括支援センターへのインタビューを通して。認知症予防学会(第4回)(東京)，2014. 9.
  - 6) 川西智也<sup>1)</sup>，根本留美<sup>1)</sup>，稲垣千草<sup>1)</sup>，並木香奈子<sup>1)</sup>，石渡明子，野村俊明<sup>1, 2)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室)：認知症者とのやりとりで生じる介護家族の困難：家族会での観察から。認知症予防学会(第4回)(東京)，2014. 9.
  - 7) 根本留美<sup>1)</sup>，川西智也<sup>1)</sup>，稲垣千草<sup>1)</sup>，並木香奈子<sup>1)</sup>，石渡明子，野村俊明<sup>1, 2)</sup>，北村 伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室)：地域の認知症相談における家族支援：副介護者の相談内容からの検討。認知症予防学会(第4回)(東京)，2014. 9.
  - 8) 西山康裕，上田雅之，永田智香子，須田 智，木村和美：脳梗塞モデルマウスにおける血液単球由来マクロファージの脳梗塞進行過程に及ぼす影響。日本脳循環代謝学会総会(第26回)(岡山)，2014. 11.
  - 9) Nishiyama Y, Otsuka T, Ueda M, Kimura K：Asymmetric dimethylarginine, C-reactive protein, and the risk of developing metabolic syndrome in middle-aged men. International Stroke Conference 2015 (Nashville, TN, USA)，2015. 2.
  - 10) 西山康裕，上田雅之，永田智香子，須田 智，木村和美：実験的脳虚血モデルを用いた単球由来脳内マクロファージの経時的変化と神経機能に及ぼす影響について。日本脳卒中学会総会(第40回)(広島)，2015. 3.
  - 11) 岨 康太，熊谷智昭，野上 茜，永山 寛，上田雅之：免疫グロブリン大量静注療法とステロイドパルス療法の併用療法を行った重症筋無力症3症例の治療経験。日本神経治療学会総会(第32回)(東京)，2014. 11.
  - 12) 藤澤洋輔，永山 寛，熊谷智昭，小澤明子，上田雅之：サルコイドーシスを既往にもち小細胞肺癌及びリンパ節転移に先行した傍腫瘍性小脳変性症の1例。日本神経治療学会総会(第32回)(東京)，2014. 11.
  - 13) 後藤由也，熊谷智昭，太田智大，角南英子，永山 寛，片山泰朗：頻回のステロイドパルス療法が奏功した皮膚筋炎の30歳男性例。日本神経学会関東・甲信越地方会(第209回)(東京)，2014. 6.
  - 14) 岨 康太，熊谷智昭，野上 茜，後藤由也，沓名章仁，永山 寛，木村和美：ネフローゼ症候群の治療中に発症したギラン・バレー症候群の43歳女性例。日本神経学会関東・甲信越地方会(第210回)(東京)，2014. 9.
  - 15) 後藤由也，熊谷智昭，岨 康太，野上 茜，永山 寛，木村和美：VPシャント術後にパーキンソン症状を呈した32歳男性例。日本神経学会関東・甲信越地方会(第211回)(東京)，2014. 11.

## [千葉北総病院神経・脳血管内科]

### 研究概要

東京都健康長寿医療センター研究所ブレインバンク、神経病理学部門(村山繁雄部長)との共同研究で進行性核上性麻痺(PSP)の臨床病理学的研究を、また信州大学神経難病講座(小柳清光教授)との共同研究でグアム島パーキンソン認知症の神経病理学的研究を行っている。前者では、とくにPSPの早期病変や発症前PSPが病理学および生化学的に捉えることが出来るのかというテーマのもとに、研究を進めている。自己免疫性神経疾患としての脳症や神経筋疾患の症例研究も行っており、日本神経学会関東地方会では、「IgA腎症と限局



性強皮症を同時発症した抗 SRP 抗体陽性ミオパチー」の症例報告を行った。今後は、日本医科大学付属病院（東京都文京区）と京都大学の共同研究として行っていたアルツハイマー病のバイオマーカー探索研究を、当院においても共同で行う予定である。本研究は患者血清を用いて、独自開発された「NMR 核磁気共鳴」計測とパターン認識によるデータ解析を行うことにより、アルツハイマー病患者と、認知正常例および軽度認知障害例との識別が可能か否かを検討するもので、すでに上記両施設の予備解析で有望な結果が得られている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ishiwata A<sup>1</sup>), Mizumura S<sup>2</sup>), Mishina M<sup>1</sup>), Yamazaki M, Katayama Y<sup>1</sup>) (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center) : The Potentially Protective Effect of Donepezil in Alzheimer's Disease. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2014 ; 38 (3-4) : 170-177.
- 2) 山崎峰雄：Alzheimer 病の疫学と臨床診断：治療薬開発上の問題点. *神経治療* 2014 ; 31 (3) : 302-304.
- 3) Toda Y, Katsura K<sup>1</sup>), Saito M<sup>1</sup>), Inaba T<sup>1</sup>), Sakurazawa M<sup>1</sup>), Katayama Y<sup>1</sup>) (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : The effect of cilostazol and aspirin pre-treatment against subsequent transient focal cerebral ischemia in rat. *Neurological Research* 2014 ; 36 (11) : 1011-1019.

#### (2) 総説：

- 1) 山崎峰雄：非アルツハイマー型認知症；第3の認知症“非AD型変性性認知症”とは；変性疾患に伴う認知症；大脳皮質基底核変性症（CBD），進行性核上性麻痺（PSP）などを中心に；. *認知症の最新治療* 2014 ; 4 (4) : 165-169.
- 2) 亀山茄美<sup>1</sup>), 仙石鍊平<sup>2</sup>), 新里和弘<sup>3</sup>), 武井洋一<sup>4</sup>), 秋下雅弘<sup>1</sup>), 山崎峰雄, 繁田雅弘<sup>5</sup>) (1) 東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座, 2) 東京都健康長寿医療センター神経内科, 3) 東京都立松沢病院精神科, 4) まつもと医療センター中信松本病院神経内科, 5) 首都大学東京大学院人間健康科学研究科) : アルツハイマー病診療のスキルアップを考える；この症例をどう診るか 2013. *老年精神医学雑誌* 第25巻増刊号 2014 ; 25 (増1) : 7-26.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 山崎峰雄：教育講演 16 中枢神経；画像，臨床，病理からみた認知症診断と画像診断の位置付け. *日本画像医学会*（第34回）（千代田区），2015. 2.

#### (2) ポスター：

- 1) 片野雄大, 野村浩一<sup>1</sup>), 片山泰朗<sup>2</sup>) (1) 塩田病院脳神経内科, 2) 日本医科大学付属病院 神経内科学) : パーキンソン病治療におけるイストラデフィリンの有用性. *日本神経学会学術大会*（第55回）（福岡市），2014. 5.
- 2) 後藤由也<sup>1</sup>), 西山康裕<sup>1</sup>), 中島壯崇<sup>1</sup>), 杳名章仁<sup>1</sup>), 岨 康太<sup>1</sup>), 大内崇弘, 藤澤洋輔, 原田美那<sup>1</sup>), 阿部 新<sup>1</sup>), 大久保誠二<sup>1</sup>), 上田雅之<sup>1</sup>), 三品雅洋<sup>1</sup>), 桂研一郎<sup>1</sup>), 片山泰朗<sup>1</sup>) (1) 日本医科大学大学院神経内科学) : 心原性脳塞栓症発症後の血液中における好中球および単球の動態変化. *日本神経学会学術大会*（第55回）（福岡市），2014. 5.

#### (3) 一般講演：

- 1) 野上 茜<sup>1,2</sup>), 山崎峰雄, 中野祐太<sup>1</sup>), 隅蔵大幸<sup>1</sup>), 内野彰子<sup>1</sup>), 初田裕幸<sup>1</sup>), 齊藤祐子<sup>3</sup>), 高尾昌樹<sup>1</sup>), 村山繁雄<sup>1</sup>) (1) 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク, 2) 日本医科大学 神経内科, 3) 国立精神神経医療研究センター病院 臨床検査部) : 前頭型認知症を呈する進行性核上性麻痺（PSP-FTD）の臨床病理学的検討. *日本神経学会学術大会*（第55回）（福岡市），2014. 5.
- 2) 酒巻雅典, 吉田知史, 太田智大<sup>1</sup>), 熊谷智昭<sup>1</sup>), 永山 寛<sup>1</sup>), 山崎峰雄<sup>1</sup>), 駒場祐一, 片山泰朗<sup>1</sup>) (1) : 日本医科大学付属病院 神経内科) : 視神経脊髄炎における関節リウマチの家族歴. *日本神経学会学術大会*（第55回）（福岡市），2014. 5.
- 3) 小柳清光<sup>1</sup>), 山崎峰雄, 橋本智代<sup>2</sup>), 森本 悟<sup>3</sup>), 初田裕幸<sup>4</sup>), 村山繁雄<sup>5</sup>), 葛原茂樹<sup>6</sup>), 小久保康昌<sup>7</sup>) (1) 信州大学医学部神経難病学講座, 2) 産業医科大学神経内科, 3) 東京都健康長寿医療センター神経内科, 4) 東京都健康長寿医療センター病理診断科, 5) 東京都健康長寿医療センター高齢者バイオリソースセンター, 6) 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科, 7) 三重大学大学院地域イノベーション学研究所) : 紀伊半島穂原出身5剖検例のリン酸化タウ陽性所見：グアム島症例との比較. *日本神経病理学会総会学術研究会*（第55回）（東京），2014. 6.
- 4) 藤澤洋輔<sup>1</sup>), 永山 寛<sup>2</sup>), 熊谷智昭<sup>2</sup>), 小澤明子<sup>2</sup>), 上田雅之<sup>2</sup>) (1) 日本医科大学大学院医学研究科 神経内科学分野, 2) 日本医科大学付属病院 神経内科) : サルコイドーシスを既往にもち小細胞肺癌およびリンパ節転移に先行した傍腫瘍性小脳変性症の1例. *日本神経治療学会総会*（第32回）（東京），2014. 11.
- 5) 藤澤洋輔, 太田智大, 戸田諭補, 木村和美<sup>1</sup>), 山崎峰雄 (1) 日本医科大学大学院研究科 神経内科学) : IgA 腎症と限局性強皮症を同時発症した抗 SRP 抗体陽性ミオパチーの74歳女性例. *日本神経学会関東・甲信越地方会*（第212回）（東京），2015. 3.

追加分一般講演：

- 1) 小柳清光<sup>1)</sup>, 山崎峰雄, 橋本智代<sup>2)</sup>, 森本 悟<sup>3)</sup>, 初田裕幸<sup>4)</sup>, 村山繁雄<sup>5)</sup>, 葛原茂樹<sup>6)</sup>, 小久保康昌<sup>7)</sup> (1) 信州大学医学部神経難病学講座, 2) 産業医科大学神経内科, 3) 東京都健康長寿医療センター神経内科, 4) 東京都健康長寿医療センター病理診断科, 5) 東京都健康長寿医療センター高齢者バイオリソースセンター, 6) 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科, 7) 三重大学大学院地域イノベーション学研究所)：紀伊半島穂原出身5剖検例のリン酸化タウ陽性所見；グアム島症例との比較。平成25年度三重県南部に多発する家族性認知症；パーキンソン症候群発症因子の探索と治療介入研究班会議（名古屋市），2014. 1.

## 【脳病態画像解析学講座】

### 研究概要

2014年12月、関係各位のご助力の元、日本医科大学大学院内の寄附講座として、脳病態画像解析学講座が開設された。日本医科大学の神経内科の前進である第二内科は、昭和35年に新城之介先生が第3代教授に就任以来、神経内科がメインテーマとなった。昭和37年赫彰郎先生（現日本医科大学理事長）が養育院に派遣され、その後脳循環測定の研究が始まった。赫先生が第4代教授に就任後、北村伸先生を中心に、PET・SPECTを用いた脳循環代謝の研究が本格化した。昭和56年から国立中野病院との共同研究がスタート、氏家隆先生らの脳血管性認知症における前頭葉の血流低下に代表される数々の成果が発表された。平成2年養育院に東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設が開設された際、大山雅史先生が出向、脳梗塞後の失語の回復過程に言語野が左から右に移動する様子を画像化したStroke論文が発表された。後に三品雅洋も出入りするようになり、ベンゾジアゼピン受容体、シグマ1受容体、アデノシン受容体の研究で成果をあげた。脳病態画像解析学講座は、この旧第二内科の流れを汲んだ講座である。現在、東京都健康長寿医療センター研究所や日本医科大学健診医療センターとの共同研究を通じて、数々の分子イメージングの開発、神経疾患への応用を研究している。本年度は、脳内アミロイドβ蛋白の蓄積を画像化する<sup>11</sup>C-PiB PETとブドウ糖代謝を画像化する<sup>18</sup>F-FDG PETを用いて、レヴィ小体病（パーキンソン病やレヴィ小体型認知症など）におけるPiB分布の特徴に関する研究を行った。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Ishiwata A<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>2)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center)：The Potentially Protective Effect of Donepezil in Alzheimer's Disease. *Dement Geriatr Cogn Disord*, 38 (4)：170-177, 2014358510 2014；38 (4)：170-177.
- 2) Abe A<sup>1)</sup>, Harada-Abe M<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>1)</sup>, Katano T<sup>1)</sup>, Nakajima M<sup>1)</sup>, Muraga K<sup>1)</sup>, Suda S<sup>1)</sup>, Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Okubo S<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Aortic Arch Atherosclerosis in Ischaemic Stroke of Unknown Origin Affects Prognosis. *Cerebrovasc Dis Extra* 2014；4 (2)：92-101.

(2) 総説：

- 1) 三品雅洋：脳の障害に対する可塑性と代償。日医大医学会誌 2014；10 (2)：101-105.
- 2) Mishina M<sup>1, 2)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup> (1) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Diagnostic Neuroimaging Research, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology)：Adenosine Receptor PET Imaging in Human Brain. *International Review of Neurobiology* 2014；119：51-69.
- 3) 三品雅洋：特集 I. パーキンソニズムの画像 update：パーキンソニズムのPET。神経内科 2015；82 (2)：135-141.
- 4) 三品雅洋：特集 神経難病ケアのコペルニクスの転回：神経難病診療の新たな画像検査を活かす。総合診療 2015；25 (3)：215-218.

(3) 症例報告：

- 1) Mishina M<sup>1)</sup>, Ohkubo S<sup>1)</sup>, Kamiya N<sup>1)</sup>, Abe A<sup>1)</sup>, Suda S<sup>1)</sup>, Sakamaki M<sup>1)</sup>, Kominami S<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Efficacy of Tracheostomy for Central Alveolar Hypoventilation Syndrome Caused by Lateral Medullary Infarction. *J Nippon Med Sch* 2014；81 (4)：276-284.
- 2) Nomura K<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>1, 2)</sup>, Okubo S<sup>1)</sup>, Suda S<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>1)</sup>, Katayama K<sup>3)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Neuro-pathophysiological imaging, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Neurology and Stroke Center, Tokyo General Hospital)：Long-term Observation of Lateral Medullary Infarction due to Vertebral Artery Dissection Assessed with Multimodal Neuroimaging. *J Nippon Med Sch* 2015；82 (1)：68-72.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 三品雅洋：ドパミン欠乏に対する線条体の代償機能. 茨城県神経病態研究会（第3回）（つくば），2014. 4.
- 2) 三品雅洋：心原性脳塞栓2次予防でのNOACの選択. エリキュース Stroke Forum（倉敷），2014. 5.
- 3) 三品雅洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野)：アデノシン A<sub>2A</sub> 受容体をみる - PLoS ONE 論文の検証 -. 東海パーキンソン病研究会（名古屋），2014. 9.
- 4) 三品雅洋：認知症の診断と治療：Memantine を実臨床でどう活かすか. 城東認知症カンファレンス 2015（東京），2015. 1.

### (2) 招待講演：

- 1) Mishina M：Human brain imaging of Adenosine A<sub>1</sub> and A<sub>2A</sub> receptors. Purines 2014 (Bonn)，2014. 7.

### (3) 教育講演：

- 1) 三品雅洋：医療連携にクリニカルパス？. 平成26年度日本医科大学付属病院クリニカルパス大会（東京），2014. 12.
- 2) 三品雅洋：診療現場でのDATイメージング. 関東脳核医学研究会（第7回）（東京），2015. 2.

### (4) 一般講演：

- 1) Nagayama H<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：A Case With Making Comparison Of Levodopa Pharmacokinetics Before And After Intestinal Resection. MDS 18th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Stockholm)，2014. 6.
- 2) 三品雅洋<sup>1, 2)</sup>, 石井賢二<sup>2)</sup>, 鈴木正彦<sup>2, 3)</sup>, 橋本昌也<sup>2, 3)</sup>, 木村裕一<sup>2, 4)</sup>, 長縄美香<sup>2, 5)</sup>, 坂田宗之<sup>2)</sup>, 織田圭一<sup>2, 6)</sup>, 豊原 潤<sup>2)</sup>, 永山 寛<sup>1)</sup>, 石渡喜一<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野, 2) 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 神経内科, 4) 近畿大学 生物理工学部 システム生命科学科, 5) PET Center, School of Medicine, Yale University, 6) 北海道科学大学 保健医療学部 診療放射線学科)：線条体アデノシン A<sub>1</sub> および A<sub>2A</sub> 受容体とパーキンソン病の振戦・固縮の関係. 日本神経学会総会（第55回）（福岡），2014. 5.
- 3) 永山 寛<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 三品雅洋<sup>1)</sup>, 木村和美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 医学研究科 神経内科学分野)：パーキンソン病における anhedonia に対する pramipexole 少量投与の効果. パーキンソン病・運動障害疾患コンgres（第8回）（京都），2014. 10.
- 4) 三品雅洋：脳卒中急性期治療の連携について. 東京の脳卒中を考える会（東京），2014. 12.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分原著：

- 1) Abe A<sup>1)</sup>, Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Harada-Abe M<sup>1)</sup>, Okubo S<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Relative risk values of age, acrolein, IL-6 and CRP as markers of periventricular hyperintensities：a cross-sectional study. BMJ Open 2014；4 (e005598)：1-6.

## 4. 腎臓内科学分野

### [付属病院腎臓内科]

#### 研究概要

付属病院腎臓内科は臨床および基礎面ともに精力的な研究と発表を行った（英文原著5編，和文原著1編）。臨床研究としては，慢性腎臓病患者に対する糖尿病治療薬や尿酸下降薬の薬効評価，維持透析患者における透析液組成の研究などを中心に国内外での関連学会への発表と論文発表を行った。また大規模臨床研究にも積極的に参加し，論文発表に貢献した。基礎研究としては主に病理学教室との共同により各種腎疾患モデルにおける障害機序解明に関わる研究を行った。また生化学教室および自治医大薬理学との共同研究により，急性腎障害における新規バイオマーカーに関する研究および腎不全における血管石灰化機序解明に関する研究にも着手した。一方，症例報告も積極的に多数の国内外における関連学会に発表し，そのうち6例が論文としても受理された（英文5編，和文1編）。研究助成としては文部科学省科学研究費（代表）1件と厚生労働省科学研究費（分担）1件を継続するとともに，厚生労働省科学研究費（分担）1件を新規に取得した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ando K, Ohtsu H, Uchida S, Kaname S, Arakawa Y, Fujita T, Evaluate Study Group, et al. : Anti-albuminuric effect of the aldosterone blocker eplerenone in non-diabetic hypertensive patients with albuminuria : a double-blind, randomised, placebo-controlled trial. *Lancet Diabetes Endocrinol.* 2014 ; 2 (12) : 944-953.
- 2) Higo S<sup>1,2)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Masuda Y<sup>2)</sup>, Nagasaka S<sup>2)</sup>, Kajimoto Y<sup>2)</sup>, Kanzaki G<sup>2)</sup>, Hukui M<sup>1)</sup>, Nagahama K<sup>2)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学腎臓内科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学解析人体病理学) : Acute Graft-Versus-Host Disease of the Kidney in Allogeneic Rat Bone Marrow Transplantation. *PLoS One* 2014 ; 9 (12) : e115399.
- 3) Sakai Y<sup>1)</sup>, Suzuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Ohno D<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Effects of alogliptin in chronic kidney disease patients with type 2 diabetes. *Internal Medicine* 2014 ; 53 (3) : 195-203.
- 4) Sakai Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Ohno D<sup>1)</sup>, Sakai S<sup>2)</sup>, Tsuruoka S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Zenjinkai Maruko Clinic, <sup>3)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical Benefit of the Change of Dialysate Calcium Concentration From 3.0 to 2.75mEq/L. Benefit of 2.75mEq/L Calcium Dialysate. *Ther Apher Dial* 2014 ; 18 (2) : 181-184.
- 5) 住祐一郎<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院腎臓内科) : 腹膜透析患者におけるダルベゴエチンアルファの有用性. *腎と透析別冊 腹膜透析* 2014 2014 ; 77 (別冊) : 183-184.

##### (2) 総説：

- 1) 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科腎臓内科学分野) : 腎機能低下時に気をつけるべき薬物動態. *医学のあゆみ 腎臓病のすべて* 2014 ; 249 (9) : 867-873.

##### (3) 症例報告：

- 1) Sakai Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder With Early Successful Induction of Double Filtration Plasmapheresis. *Ther Apher Dial* 2014 ; 18 (3) : 317-319.
- 2) Ohno D<sup>1)</sup>, Sakai Y<sup>1)</sup>, Suzuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Nephrology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Dense Deposit Disease in an Elderly Patient : Report of a Case. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (3) : 120-121.
- 3) 大塚裕介<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院腎臓内科) : 腹腔鏡で確認した pre-EPS の1症例. *腎と透析別冊 腹膜透析* 2014 2014 ; 77 (別冊) : 263-264.

(4) 症例検討会：

- 1) 新井桃子<sup>1)</sup>, 本田一穂<sup>2)</sup>, 池田まり子<sup>1)</sup>, 谷 崇<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 平間章郎<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院腎臓内科, 2) 東京女子医科大学第二病理学)：糖尿病性腎症に対して長期腹膜透析を施行した1例. 腎と透析 別冊腹膜透析 2014 2014 ; 77 (別冊) : 83-85.

著 書

- 1) 谷 崇, 鶴岡秀一：〔分担〕特集 救命救急に必要な水電解質の知識 糸球体濾過量低下と尿細管異常. 腎と透析, 2014 ; pp9-14, 東京医学社.
- 2) 福井めぐみ：〔共著〕透析に伴う脂質異常症とその治療. 腎と透析, 2014 ; pp359-363, 東京医学社.
- 3) 池ノ内綾子, 鶴岡秀一：〔共著〕多発性嚢胞腎の最新の治療. 成人と生活習慣病, 2015 ; pp108-114, 東京医学社.
- 4) 平間章郎, 金子朋広, 鶴岡秀一：〔共著〕八丈島における腎代替療法：腹膜透析を始めて. 腎と透析, 2014 ; pp817-818, 東京医学社.
- 5) 平間章郎, 鶴岡秀一：〔共著〕V.24時間パーフェクト血圧管理を目指した治療 2. 薬物療法 (3) 利尿薬. 血圧サーカディアンリズム, 2014 ; pp1472-1476, 日本臨床.
- 6) 池ノ内綾子<sup>1)</sup>, 三瀬直文<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学腎臓内科, 2) 三井記念病院腎臓内科)：〔編集〕酸塩基平衡, 電解質異常. 内科レジデント実践マニュアル第10版, 2015 ; pp357-380, 文光堂.
- 7) 土屋綾子<sup>1)</sup>, 阿佐美匡彦<sup>2)</sup>, 青江麻里<sup>1)</sup>, 近森正智<sup>1)</sup>, 本田智子<sup>1)</sup>, 三浦理加<sup>1)</sup>, 菅原真衣<sup>1)</sup>, 石澤健一<sup>1)</sup>, 谷本周三<sup>2)</sup>, 田邊健吾<sup>2)</sup>, 原和弘<sup>2)</sup>, 三瀬直文<sup>1)</sup> (1) 三井記念病院腎臓内科, 2) 三井記念病院循環器内科)：〔共著〕頻拍性心房細動のため, バスキュラーアクセス不全に陥った低心機能の1例. 腎と透析 77 巻別冊 アクセス 2014, 2014 ; pp245-247, 東京医学社.
- 8) 大塚智之<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学腎臓内科)：〔分担〕血液浄化療法の種類と特徴 総論. 腎と透析 増刊号 透析・腎移植のすべて, 2014 ; pp95-98, 東京医学社.
- 9) 山田祥子, 藤田恵美子, 鶴岡秀一：〔共著〕水欠乏の病態：脱水症・熱中症・高ナトリウム血症. 成人病と生活習慣病, 2014 ; pp1171-1177, 東京医学社.
- 10) 宮本大資<sup>1)</sup>, 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学腎臓内科)：〔共著〕腎臓からみた糖尿病の病態と治療. 月刊糖尿病, 2015 ; pp86-93, 医学出版.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 鶴岡秀一：腎不全における臨床薬理学. 日本臨床薬理学会 (第35回) (松山), 2014. 12.

(2) セミナー：

- 1) 鶴岡秀一：尿細管疾患：最近の話題. 日本腎臓学会学術総会 (第57回) (横浜), 2014. 7.
- 2) Tsuruoka S : Relationship between EPO receptor subtypes in circulating endothelial progenitor cells and EPO-induced hypertension. The 14th Asian Pacific Congress of Nephrology (Tokyo, Japan.), 2014. 5.

(3) ワークショップ：

- 1) 鶴岡秀一, 荒川裕輔, 藤村昭夫：薬剤性腎障害に対する早期マーカー探索の試み. 日本腎臓学会東部学術大会 (第44回) (東京), 2014. 10.

(4) 一般講演：

- 1) 谷 崇, 荒川裕輔, 安田文彦<sup>1)</sup>, 藤野鉄平<sup>2)</sup>, 金子朋広, 山田剛久<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学千葉北総病院 腎臓内科, 2) 千葉社会保険病院 腎臓内科)：心不全コントロールが不良な維持血液透析患者に, 腹膜透析の併用が奏功した1例. 日本透析医学会学術集会 (第59回) (神戸), 2014. 6.
- 2) Fukui M<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Fujita E<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>2)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Department of Nephrology, Nippon Medical School, 2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Glomerular Endothelial Cell Injury and Focal Segmental Glomerulosclerosis Lesion in Idiopathic Membranous Nephropathy. ASN Kidney Week 2014 Annual Meeting (Philadelphia), 2014. 11.
- 3) Fukui M<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Fujita E<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>2)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Department of Nephrology, Nippon Medical School, 2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Glomerular endothelial cell injury in focal segmental glomerulosclerosis. ASN Kidney Week 2014 Annual Meeting (Philadelphia), 2014. 11.
- 4) 福井めぐみ, 三井亜希子, 金子朋広, 清水 章<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学解析人体病理学)：巣状糸球体硬化症における糸球体上皮細胞傷害. 日本腎臓学会学術総会 (第57回) (横浜), 2014. 7.
- 5) 福井めぐみ, 渡辺容子, 宮本大資, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 金子朋広, 清水 章<sup>2)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学付属病院神経内科, 2) 日本医科大学解析人体病理学)：ギランバレー症候群を併発したネフローゼ症候群の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第44回) (東京),

2014. 10.
- 6) Higo S<sup>1,2)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Masuda Y<sup>2)</sup>, Nagasaka S<sup>2)</sup>, Kajimoto Y<sup>2)</sup>, Kanzaki G<sup>2)</sup>, Hukui M<sup>1)</sup>, Nagahama K<sup>2)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学腎臓内科学, (2) 日本医科大学解析人体病理学) : The histopathological investigation of kidney in acute graft-versus-host disease after allogeneic rat bone marrow transplantation. American Society of Nephrology (2014) (Philadelphia), 2014. 11.
  - 7) 金子朋広, 三井亜希子, 福井めぐみ, 渡辺容子, 清水 章<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学解析人体病理学) : 乾癱性関節炎を合併した IgA 腎症に対し, 扁桃パルス療法に加え慢性上咽頭炎加療が有効であった 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (東京), 2014. 10.
  - 8) 金子朋広, 新井桃子, 福井めぐみ, 渡辺容子, 平間章郎, 石原 力, 有馬留志, 藤田恵美子, 鶴岡秀一 : Steal 症候群に対する動脈表在化術の有用性. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 9) 少前貴康<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 金子朋広, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学附属病院 ME 部, (2) 日本医科大学附属病院麻酔科) : 高度の体液過剰を伴うクリオグロブリン血症に対しクライオフィльтраーションを施行し著効した 4 症例の検討. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 10) Ikenouchi A<sup>1)</sup>, Kotera N<sup>1)</sup>, Aoe M<sup>1)</sup>, Chikamori M<sup>1)</sup>, Honda T<sup>1)</sup>, Miura R<sup>1)</sup>, Sugahara M<sup>1)</sup>, Ishizawa K<sup>1)</sup>, Saito K<sup>1)</sup>, Mise N<sup>1)</sup> (1) Mitsui Memorial Hospital) : IMPACT OF EXIT-SITE INFECTION ON PERITONEAL DIALYSIS TECHNIQUE SURVIVAL. 15th Congress of the International Society of Peritoneal Dialysis (Madrid, Spain), 2014. 9.
  - 11) 池ノ内綾子<sup>1)</sup>, 小寺永章<sup>1)</sup>, 青江麻里<sup>1)</sup>, 近森正智<sup>1)</sup>, 本田智子<sup>1)</sup>, 三浦理加<sup>1)</sup>, 菅原真衣<sup>1)</sup>, 石澤健一<sup>1)</sup>, 齊藤克典<sup>1)</sup>, 三瀬直文<sup>1)</sup> (1) 三井記念病院腎臓内科) : カテーテル出口部感染の腹膜透析継続に対する影響. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 12) 池ノ内綾子<sup>1)</sup>, 青江麻里<sup>1)</sup>, 近森正智<sup>1)</sup>, 本田智子<sup>1)</sup>, 三浦理加<sup>1)</sup>, 菅原真衣<sup>1)</sup>, 藤井晶子<sup>2)</sup>, 森 正也<sup>2)</sup>, 石澤健一<sup>1)</sup>, 古瀬 1), 齊藤克典<sup>1)</sup>, 三瀬直文<sup>1)</sup> (1) 三井記念病院腎臓内科, (2) 三井記念病院病理診断科) : 膜性増殖性糸球体腎炎様の腎組織像を呈したクリオグロブリン血症の 1 例. 日本腎臓学会東部学術集会 (第 44 回) (新宿), 2014. 10.
  - 13) Sakai Y<sup>1)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Sukegawa M<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Suzuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Long-term safety and efficacy of darbepoetin alfa in peritoneal dialysis patients. American Society of Nephrology Kidney Week 2014 (Philadelphia, Pennsylvania), 2014. 11.
  - 14) Sakai Y<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Sukegawa M<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Suzuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimiau A<sup>2)</sup>, Tsuruoka S<sup>3)</sup> (1) Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, (3) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A case of the primary membranous nephropathy with the necrotizing cellular crescent. American Society of Nephrology Kidney Week 2014 (Philadelphia, Pennsylvania), 2014. 11.
  - 15) 酒井行直<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファの長期的安全性と効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回) (横浜), 2014. 7.
  - 16) 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 原因不明の意識障害を発症したネフローゼ症候群の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (東京), 2014. 10.
  - 17) 住祐一郎<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 壊死性細胞性半月体の形成を伴う膜性腎症に対しステロイド導入を行った 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (東京), 2014. 10.
  - 18) 住祐一郎<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 深部静脈血栓症, 大動脈弁狭窄症のためバスキュラーアクセスの再建に難渋した 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 19) 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 悪性腎硬化症による末期腎不全に, 原発性肺癌, 口蓋癌の重複癌を認めた 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 20) 助川まさみ<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 大塚裕介<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科) : 体外式膜型人工肺 (Extracorporeal Membrane Oxygenation : ECMO) による呼吸管理を必要としたレジオネラ肺炎を救命するも, 末期腎不全となった 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
  - 21) 大塚裕介<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 助川まさみ<sup>1)</sup>, 鈴木安奈<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 住祐一郎<sup>1)</sup>, 大塚智之<sup>1)</sup>, 大野 大<sup>1)</sup>, 酒井行直<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一 (1) 日

- 本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：アミロイドーシスが疑われた悪性腎硬化症による急性腎傷害，多臓器不全の1例．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 22) 麦島康司<sup>1)</sup>，由井静香<sup>1)</sup>，助川まさみ<sup>1)</sup>，鈴木安奈<sup>1)</sup>，住祐一郎<sup>1)</sup>，大塚裕介<sup>1)</sup>，大塚智之<sup>1)</sup>，大野 大<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファ（DA）およびエポエチンベータベゴル（CERA）の投与経路による疼痛比較．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 23) 野崎駿史<sup>1)</sup>，大川陽平<sup>1)</sup>，上間勇輝<sup>1)</sup>，田中大介<sup>1)</sup>，加藤和久<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>2)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院ME部，<sup>2)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：PWIを用いたドライウェイト設定についての検討．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 24) 大塚裕介<sup>1)</sup>，由井静香<sup>1)</sup>，助川まさみ<sup>1)</sup>，鈴木安奈<sup>1)</sup>，麦島康司<sup>1)</sup>，住祐一郎<sup>1)</sup>，大塚智之<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：当院における腹膜透析患者に対する tolvaptan の使用経験．日本腹膜透析医学会学術集会（第20回）（山形），2014．9．
- 25) 住祐一郎<sup>1)</sup>，由井静香<sup>1)</sup>，助川まさみ<sup>1)</sup>，鈴木安奈<sup>1)</sup>，麦島康司<sup>1)</sup>，大塚裕介<sup>1)</sup>，大塚智之<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：腹膜透析患者における栄養状態評価の検討．日本腹膜透析医学会学術集会（第20回）（山形），2014．9．
- 26) 大塚智之<sup>1)</sup>，由井静香<sup>1)</sup>，助川まさみ<sup>1)</sup>，鈴木安奈<sup>1)</sup>，麦島康司<sup>1)</sup>，住祐一郎<sup>1)</sup>，大塚裕介<sup>1)</sup>，酒井行直<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院腎臓内科)：当院における腹膜透析の現状．日本腹膜透析医学会学術集会（第20回）（山形），2014．9．
- 27) 高地由紀子<sup>1)</sup>，成美雄人<sup>1)</sup>，樋上信幸<sup>1)</sup>，仲田将義<sup>1)</sup>，新谷 剛<sup>1)</sup>，橋 正昭<sup>1)</sup>，西邨俊吾<sup>1)</sup>，鎌野千佐子<sup>1)</sup>，大沢弘和<sup>1)</sup>，柏木哲也，橋本和政，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（博慈会腎クリニック)：透析におけるカルニチンの変動について．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 28) 成美雄人<sup>1)</sup>，高地由紀子<sup>1)</sup>，樋上信幸<sup>1)</sup>，仲田将義<sup>1)</sup>，新谷 剛<sup>1)</sup>，橋 正昭<sup>1)</sup>，西邨俊吾<sup>1)</sup>，斎藤サビーネ京子<sup>1)</sup>，大沢弘和<sup>1)</sup>，柏木哲也，橋本和政，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（博慈会腎クリニック)：ヘモダイアフィルター GDF の性能比較．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 29) 新井桃子，平間章郎，三井亜希子，金子朋広，鶴岡秀一：種々の合併症を呈した皮膚筋炎に対し，血漿交換，免疫抑制薬多剤併用療法が著効した1例．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 30) 新井桃子，金子朋広，三井亜希子，松井浩輔<sup>1)</sup>，船木威徳<sup>1)</sup>，窪田 実<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（貴友会王子病院 腎臓内科)：腹膜透析カテーテルの卵管采巻絡再発症例に対しカテーテル固定術が有効であった1例．日本腹膜透析医学会学術集会（第20回）（山形），2014．9．
- 31) 山田祥子，宮本大資，吉田幸恵，石原 力，鶴岡秀一，小澤明子<sup>1)</sup>，熊谷智昭<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院神経内科)：重症筋無力症初期治療における免疫吸着療法の有用性．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 32) 山田祥子，福井めぐみ，金子朋広，清水 章<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学解析人体病理学)：高安動脈炎に膜性増殖性糸球体腎炎様病変を呈した1例．日本腎臓学会東部学術大会（第44回）（東京），2014．10．
- 33) 岩堀 徹<sup>1)</sup>，城島嘉磨<sup>1)</sup>，江崎真我<sup>1)</sup>，江崎昌俊<sup>1)</sup>，新井桃子，福井めぐみ，金子朋広，鶴岡秀一，永坂真也<sup>2)</sup>，清水 章<sup>2)</sup>，奥村 康<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>幸有会記念病院，<sup>2)</sup>日本医科大学解析人体病理学，<sup>3)</sup>順天堂大学医学部アトピー疾患研究センター)：多重染色フローサイトメトリ法（PFC）を用いたIgA腎症偏摘前後における末梢血免疫細胞解析．日本腎臓学会学術総会（第57回）（横浜），2014．7．
- 34) 渡辺容子，金丸拓也<sup>1)</sup>，上田佳恵，金子朋広，勝又俊弥<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院神経内科)：急性期脳梗塞患者におけるアルブミン尿の影響．日本腎臓学会学術総会（第57回）（横浜），2014．7．
- 35) 三井亜希子，清水 章<sup>1)</sup>，金子朋広，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学解析人体病理学)：造血幹細胞移植後の腎血栓性微小血管症（TMA）と移植片対宿主病（GVHD）の関与．日本腎臓学会学術総会（第57回）（横浜），2014．7．
- 36) 下田奈央子，金子朋広，板垣史朗，福井めぐみ，有馬留志，平間章朗，藤田恵美子，鶴岡秀一：ECMO管理下の集学的治療にて救命し得た重症ANCA関連血管炎の1例．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 37) 渡辺容子，宮本大資，福井めぐみ，金子朋広，鶴岡秀一：ボタンホール感染からシャント瘤を形成した1例．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．
- 38) 荒川裕輔，谷 崇，山田剛久，金子朋広，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院腎臓内科)：診断に苦慮した若年者の急性腎不全の1例．日本透析医学会学術集会・総会（第59回）（神戸），2014．6．
- 39) 宮本大資，福井めぐみ，金子朋広，清水 章<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学解析人体病理学)：重症心不全を呈した男性のSLEの1例．日本腎臓学会東部学術大会（第44回）（東京），2014．10．
- 40) 荒川裕輔，谷 崇，山田剛久，金子朋広，鶴岡秀一：診断に苦慮した若年者の急性腎不全の1例．日本透析医学会学術集会（第59回）（神戸），2014．6．

## 論文

### [追加分]

追加分総説：

- 1) 鶴岡秀一, 酒井行直：「腎臓学この1年の進歩」水電解質. 日腎会誌 2014；56 (1)：42-47.
- 2) 新井桃子, 平間章郎, 鶴岡秀一, 飯野靖彦：低Na血症の診断と治療. 腎と透析 2013；74 (4)：646-649.
- 3) 鶴岡秀一：腎臓における尿毒素排泄機構. 日医大医学会誌 2013；9 (4)：235-235.
- 4) 鶴岡秀一：治療の薬物濃度モニタリング. 腎と透析 2013；75 (4)：473-474.

追加分原著：

- 1) Sakai Y<sup>1</sup>, Otsuka T<sup>1</sup>, Ohno D<sup>1</sup>, Tsuruoka S<sup>2</sup> (1) Department of Nephrology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Febuxostat for treating allopurinol-resistant hyperuricemia in patients with chronic kidney disease. Ren Fail 2014；36 (2)：225-231.

追加分症例報告：

- 1) Fukuda K, Shimizu A, Kaneko T, Masuda Y, Yasuda Y, Fukui M, Higo S, Hiramata A, Mii A, Tsuruoka S, Ohashi R, Iino Y, Fukuda Y：A case of secondary focal segmental glomerulosclerosis associated with malignant hypertension. CEN Case Reports 2013；2 (5)：68-75.

## 著書

追加分：

- 1) 谷 崇<sup>1</sup>, 鶴岡秀一<sup>1</sup> (1) 日本医科大学付属病院 腎臓内科)：[分担] 尿細管性アシドーシス. 腎疾患・透析 最新の治療, 2014；pp211-213, 南江堂.
- 2) 宮本大資<sup>1</sup>, 藤田恵美子<sup>1</sup>, 鶴岡秀一<sup>1</sup> (1) 日本医科大学腎臓内科)：[共著] CKD 合併時の薬剤投与の注意と禁忌薬. 成人病と生活習慣病, 2014；pp158-163, 東京医学社.

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) 西邨俊吾<sup>1</sup>, 斎藤サビーネ京子<sup>1</sup>, 鎌野千佐子<sup>1</sup>, 大沢弘和<sup>1</sup>, 柏木哲也, 橋本和政, 鶴岡秀一, 飯野靖彦, 片山泰朗<sup>2</sup> (1) 博慈会腎クリニック, (2) 日本医科大学付属病院神経内科)：血液透析患者の貧血に対する Zn 投与の有効性. 日本透析医学会学術集会 (第58回) (福岡), 2013. 6.

追加分シンポジウム：

- 1) 平間章郎：八丈島における腎代替療法－腹膜透析を始めて－「チーム医療による高齢者の腎不全管理」. 日本高齢者腎不全研究会 (12) (東京), 2014. 2.

## [武蔵小杉病院腎臓内科]

### 研究概要

武蔵小杉病院腎臓内科は臨床面に精力的な研究と発表を行った (英文原著3編, 和文原著1編). 臨床研究としては, 慢性腎臓病患者に対する新しい糖尿病治療薬や高尿酸血症治療薬の薬効評価などを中心に国内外での関連学会への発表と論文発表を行った. また血液透析施行患者に対する透析液のCa濃度の影響に関する研究もを行い, 英文論文として発表した. 一方, 症例報告も積極的に多数の関連学会に発表し, そのうち3例が論文としても受理された (英文2編, 和文1編). 研究助成としては, 文部科学省科学研究費を2件申請するとともに, 石橋由紀子記念基金助成金を新規に1件取得した. 学会発表としては国際学会 (American Society of Nephrology) に2件, 国内学会には計13件の発表を行った.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Sakai Y, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Sakai S<sup>1</sup>, Tsuruoka S<sup>2</sup> (1) Department of Internal Medicine Zenjinkai Maruko-Clinic, (2) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Clinical Benefit of the Change of Dialysate Calcium Concentration From 3.0 to 2.75mEq/L. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2014；18 (2)：181-184.
- 2) 住祐一郎, 酒井行直, 大塚裕介, 片山安奈, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 鶴岡秀一<sup>1</sup> (1) 付属病院腎臓内科)：腹膜透析患者にお



けるダルベポエチンアルファの有用性. 腎と透析 腹膜透析 2014 2014 ; 77 : 183-184.

- 3) Otsuka T, Sakai Y, Yui S, Sukegawa M, Katayama A, Mugishima K, Sumi Y, Otsuka Y, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Department of Nephrology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Comparison of Pain and Efficacy of Darbepoetin Alfa and Epoetin Beta Pegol Treatment in Patients Receiving Peritoneal Dialysis. Journal of Nippon Medical School 2015 ; 82 (1) : 21-26.

(2) 総説 :

- 1) 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 腎機能低下時に気をつけるべき薬物動態. 医学のあゆみ 腎機能のすべて 2014 ; 249 (9) : 867-873.
- 2) 片山安奈, 酒井行直, 佐藤直樹<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科) : 体液過剰は正のための方策 : 非薬物療法. Fluid Management Renaissance 2015 ; 5 (1) : 54-60.
- 3) 大塚裕介, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科) : 尿中 Na・K 排泄と血圧の関係. Fluid Management Renaissance 2015 ; 5 (1) : 73-74.

(3) 症例報告 :

- 1) Sakai Y, Otsuka T, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A Case of Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder With Early Successful Induction of Double Filtration Plasmapheresis. Therapeutic Apheresis and Dialysis 2014 ; 18 (3) : 317-318.
- 2) Ohno D, Sakai Y, Katayama A, Mugishima K, Sumi Y, Otsuka Y, Otsuka T, Shimizu A<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Dense Deposit Disease in an Elderly Patient : Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (3) : 120-121.
- 3) 大塚裕介, 酒井行直, 住祐一郎, 片山安奈, 麦島康司, 大塚智之, 大野 大, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 腹腔鏡で確認した pre-EPS の 1 症例. 腎と透析 腹膜透析 2014 2014 ; 77 : 263-264.

## 著 書

- 1) 大塚智之, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : [分担] 血液浄化療法の種類と特徴 総論. 腎と透析 増刊号透析・腎移植のすべて, 2014 ; pp95-98, 東京医学社.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 片山安奈, 住祐一郎, 助川まさみ, 由井静香, 麦島康司, 大塚裕介, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 悪性腎硬化症による末期腎不全に, 原発性肺癌, 口蓋癌の重複癌を認めた 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 2) 由井静香, 大野 大, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大塚裕介, 大塚智之, 住祐一郎, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : ネフローゼ症候群による意識障害を血液透析で治療し得た 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 3) 麦島康司, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 住祐一郎, 大塚裕介, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファ (DA) およびエポエチンベータペゴル (CERA) の投与経路による疼痛比較. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 4) 助川まさみ, 住祐一郎, 由井静香, 片山安奈, 麦島康司, 大塚裕介, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 体外式膜型人工肺 (Extracorporeal Membrane Oxygenation : ECMO) による呼吸管理を必要としたレジオネラ肺炎を救命するも, 末期腎不全となった 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 5) 大塚裕介, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 住祐一郎, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : アミロイドーシスが疑われた悪性腎硬化症による急性腎傷害, 多臓器不全の 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 6) 住祐一郎, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 大塚裕介, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 深部静脈血栓症, 大動脈弁狭窄症のためバスキュラーアクセスの再建に難渋した 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 6.
- 7) 野崎駿史<sup>1)</sup>, 大川洋平<sup>1)</sup>, 上間勇輝<sup>1)</sup>, 田中大介<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>1)</sup>, 磯野友昭<sup>1)</sup>, 門松 豊<sup>1)</sup>, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 ME 部, <sup>2)</sup> 付属病院腎臓内科) : PWI を用いたドライウエイト設定についての検討. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸), 2014. 7.
- 8) 酒井行直, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大塚裕介, 大塚智之, 住祐一郎, 大野 大, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 腹膜透析患者におけるダルベポエチンアルファの長期的安全性と効果. 日本腎臓学会学術総会 (第 57 回) (横浜), 2014. 7.

- 9) 大塚裕介, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 住祐一郎, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 当院における腹膜透析患者に対する tolvaptan の使用経験. 日本腹膜透析医学会学術集会 (第 20 回) (山形), 2014. 9.
- 10) 住祐一郎, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 大塚裕介, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 腹膜透析患者における栄養状態評価の検討. 日本腹膜透析医学会学術集会 (第 20 回) (神戸), 2014. 9.
- 11) 大塚智之, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚裕介, 住祐一郎, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 当院における腹膜透析の現状. 日本腹膜透析医学会学術集会 (第 20 回) (山形), 2014. 9.
- 12) 住祐一郎, 由井静香, 助川まさみ, 片山安奈, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 大塚裕介, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 壊死性細胞性半月体の形成を伴う膜性腎症に対しステロイド導入を行った 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (神戸), 2014. 6.
- 13) 片山安奈, 由井静香, 助川まさみ, 住祐一郎, 麦島康司, 大野 大, 大塚智之, 大塚裕介, 酒井行直, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> (1) 付属病院腎臓内科) : 原因不明の意識障害を発症したネフローゼ症候群の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (東京), 2014. 6.
- 14) Sakai Y, Yui S, Sukegawa M, Otsuka Y, Sumi Y, Katayama A, Mugishima K, Otsuka T, Tsuruoka S : Long-term safety and efficacy of darbepoetin alfa in peritoneal dialysis patients. American Society of Nephrology Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 15) Sakai Y, Yui S, Sukegawa M, Otsuka Y, Sumi Y, Katayama A, Mugishima K, Otsuka T, Shimizu A<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Department of Analytic Human Pathology, <sup>2)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : A case of the primary membranous nephropathy with the necrotizing cellular crescent. American Society of Nephrology Kidney Week 2014 (Philadelphia), 2014. 11.
- 16) 片山安奈, 由井静香, 麦島康司, 八木 孝<sup>1)</sup>, 大塚智之, 石川真由美<sup>1)</sup>, 酒井行直, 南 史朗<sup>2)</sup>, 鶴岡秀一<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院内分泌・糖尿病・動脈硬化, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院生体機能制御学, <sup>3)</sup> 腎臓内科) : インフルエンザワクチン接種後に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した劇症 1 型糖尿病の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 612 回) (東京), 2015. 2.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Sakai Y, Katayama A, Mugishima K, Sumi Y, Otsuka Y, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Tsuruoka S<sup>1)</sup> (1) Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Effects of alogliptin in chronic kidney disease patients with type 2 diabetes. Internal Medicine 2014 ; 53 (3) : 195-203.
- 2) Sakai Y, Otsuka T, Ohno D, Murasawa T, Sato N<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Febuxostat for treating allopurinol-resistant hyperuricemia in patients with chronic kidney disease. Renal Failure 2014 ; 36 (2) : 225-231.

## [千葉北総病院腎臓内科]

### 研究概要

腎臓内科は持続性蛋白尿, 血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断, 治療を行い外来での長期観察を行っている. 腎生検症例は千駄木腎カンファランス, 東部腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断, 予後推測に役立てている. CKD, 慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している. 慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター, ICU, SCU にて積極的に対処している. 成田, 印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に 2 回行い各施設間の意見交換, 患者さんの QOL の向上に努めている. 対外循環治療 (血漿交換・IDL アフェレーシス) も各科よりの依頼があれば積極的に対応している.

### 研究業績

#### 学会発表

(1) ポスター :

- 1) 山田剛久 : 腸管リンパ管拡張症の関与が考えられた蛋白漏出性腸症合併の SLE の 1 例. 日本透析医学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2014. 6.
- 2) 山田剛久, 柏木哲也, 清水 章<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学解剖人体解剖学) : 当院で経験した tip variant の 2 症例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 44 回) (東京), 2014. 10.

- 3) 山田剛久：維持透析患者に発症し T2 強調脂肪抑制 MRI が早期診断に有用であった化膿性脊椎炎の 1 例. 日本透析医学会学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2014. 6.
  - 4) 荒川裕輔<sup>1)</sup>, 谷 崇<sup>1)</sup>, 山田剛久, 金子朋宏<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院腎臓内科) : 診断に苦慮した若年者の急性腎不全の 1 例. 日本透析医学会学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2014. 6.
  - 5) 谷 崇<sup>1)</sup>, 荒川裕輔<sup>1)</sup>, 金子朋宏<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup>, 安田文彦<sup>1)</sup>, 山田剛久, 藤野鉄平<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院腎臓内科) : 心不全コントロールが不良な維持血液透析患者に腹膜透析の併用の併用が奏功した 1 例. 日本透析医学会学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2014. 6.
- (2) 一般講演 :
- 1) 新井桃子, 平間章郎, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 鶴岡秀一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院腎臓内科) : 種々の合併症を呈した皮膚筋炎に対し, 血漿交換, 免疫抑制薬多剤併用療法が著効した 1 例. 日本透析医学会学会学術集会 (第 59 回) (神戸市), 2014. 6.

## 5. アレルギー膠原病内科学分野

### [付属病院リウマチ・膠原病内科]

#### 研究概要

アレルギー膠原病内科は平成 26 年 7 月に新設された講座であることから、今年度は研究の立ち上げを目指して施設の整備、前任施設からの研究テーマの移行手続きとともに前年度から実施してきた公的研究費による研究を継続した。1. 研究室の整備丸山記念研究棟 3 階に約 22m<sup>2</sup>の実験室スペースを割り当てられたことから、慶應義塾大学リサーチパークから実験機器の引越を行った。フローサイトメーター (FACSCalibur)、蛍光顕微鏡などの大型機器を設置し、細胞生物・生化学の実験ができる環境が整った。2. 研究テーマの引き継ぎ慶應義塾大学医学部で実施してきた膠原病患者血清中の自己抗体の検索、バイオマーカーの同定を開始した。3. 公的研究費による研究の日本医科大学への移行 1) 厚生労働科学研究年度途中より日本医大に研究の場を移し、当初の予定通り実施した。成果は各研究班の平成 26 年度報告書に掲載した。厚労科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業「免疫疾患における T 細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発」「強皮症・皮膚腺維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業」「ベーチェット病に関する調査研究」「血液凝固異常症等に関する研究」厚労科学研究委託費「強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究」2) 文部科学省科学研究基盤研究 (C)「末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発」4. 学内基礎教室との連携体制の確立今後の分子生物学、免疫学の研究を推進するため免疫学病室の高橋秀実先生と共同研究することになった。研究員の交流を行い、来年度より開始予定の研究の準備を行った。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Salem D<sup>1)</sup>, Subang R<sup>1)</sup>, Okazaki Y<sup>2)</sup>, Laplante P<sup>1)</sup>, Levine J<sup>3)</sup>, Kuwana M<sup>2)</sup>, Rauch J<sup>3)</sup> (1) Division of Rheumatology, Department of Medicine, Research Institute of the McGill University Health Centre, 2) Dept. of Allergy and Rheumatology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, 3) Section of Nephrology, Department of Medicine, University of Illinois at Chicago) :  $\beta$ 2-glycoprotein I-specific T cells are associated with epitope spread to lupus-related autoantigens in multiple MHC class II haplotypes. J. Biol. Chem. 2015 ; 290 (9) : 5543-5555.

###### (2) 総説：

- 1) 桑名正隆：強皮症の病態と最新治療. medicina 2014 ; 51 (13) : 2409-2413.
- 2) 桑名正隆：混合性結合組織病と肺高血圧症. 呼吸器内科 2014 ; 26 (4) : 257-262.
- 3) 桑名正隆：免疫抑制薬の臨床応用実践論. 炎症と免疫 2015 ; 23 (1) : 90-95.
- 4) 桑名正隆：強皮症の診断と治療：自己免疫疾患治療の最新知見. クリニシャン 2015 ; 636 (62) : 113-118.

##### 著書

- 1) 桑名正隆：〔自著〕バイオシミラーの今後の展望について教えてください。関節リウマチクリニカルクエスト 100 (住田孝之), 2014 ; pp190-192. 診断と治療社.

##### 学会発表

###### (1) シンポジウム：

- 1) 桑名正隆：強皮症における血管病変の病態メカニズム (強皮症の血管病変：血管病変のひとつとしての PH)。日本肺高血圧症学会 (第 2 回) (東京), 2014. 10.
- 2) 桑名正隆：新たな概念による強皮症治療 (膠原病の新規治療)。日本臨床リウマチ学会 (第 29 回) (福岡), 2014. 11.

###### (2) パネルディスカッション：

- 1) 桑名正隆：膠原病に伴う静脈病変 (PVOD の病態と治療)。日本肺高血圧症学会 (第 2 回) (東京), 2014. 10.

###### (3) ワークショップ：

- 1) 桑名正隆：自己免疫と T 細胞 (ヒトの免疫システム研究における T 細胞)。日本臨床免疫学会総会 (第 42 回) (東京), 2014. 9.
- 2) 桑名正隆：Immune thrombocytopenia : roles of immune regulatory mechanisms in autoimmune pathogenesis. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.

###### (4) 一般講演：

- 1) Shirai Y, Okazaki Y, Inoue Y<sup>0,1)</sup>, Tamura Y, Yasuoka H<sup>0,1)</sup>, Takeuchi T<sup>0,1)</sup>, Kuwana M (1) 慶應義塾大学医学部リウマチ内科) : Elevated Pentraxin 3 in Patients with Systemic Sclerosis : Associations with Vascular Manifestations and Defective Vasculo-

genesis. Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (第78回) (Boston), 2014. 11.

- 2) Kuwana M, Okazaki Y, Takeuchi T<sup>1)</sup> (慶應義塾大学医学部リウマチ内科) : A New Multianalyte Assay for Detection of Dermatomyositis-Specific Autoantibodies Undetectable By Commercially Available Immunoassays. Annual Scientific Meeting of American College of Rheumatology (第78回) (Boston), 2014. 11.

## 論文

[追加分]

追加分総説 :

- 1) 桑名正隆 : 全身性硬化症 ; 高齢者のリウマチ・膠原病はこう診る. 内科 2014 ; 115 (3) : 413-417.

## 6. 血液内科学分野

### [付属病院血液内科]

#### 研究概要

血液病学の基礎的研究では、急性白血病の遺伝子異常やその機能解析、次世代シーケンサーを用いた骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明などを重点的に行った。さらに本年度も骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの腫瘍免疫学などの方法論を駆使した病態の解明を行った。また真性多血症、本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構、病態についても解析をすすめた。臨床的研究では、急性白血病の臨床病態解析および遺伝子異常による予後解析、悪性リンパ腫の病態および治療成績に関する解析などを行い、造血幹細胞移植では臍帯血移植、骨髄非破壊的移植の治療成績改善や移植合併症に関する検討を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 田村秀人：Proteasome inhibitor の新薬。最新医学 別冊 2014；192-200.
- 2) 田村秀人：自家移植療法：single vs double。日本臨床 2015；73 (1)：85-89.
- 3) 田村秀人<sup>1)</sup>：多発性骨髄腫における SLAM ファミリー分子の機能とそれらを標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変 T 細胞免疫療法。血液内科 2015；70 (2)：211-217.
- 4) 玉井勇人, 猪口孝一：急性リンパ性白血病の分子機構。臨床血液 特集号 2015；56 (3)：253-260.
- 5) Tanino Y<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Fukuhara A<sup>1)</sup>, Munakata M<sup>1)</sup> (1) Dept of Pulmonary Medicine, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, 2) Division of Hematology, Dept of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan)：Pulmonary fibrosis associated with TINF2 gene mutation：is somatic reversion required. Eur Respir 2014；44 (1)：270-271.
- 6) Konuma T<sup>4)</sup>, Ooi J<sup>2)</sup>, Uchida N<sup>3)</sup>, Ogawa H<sup>4)</sup>, Ohashi K<sup>5)</sup>, Kanamori H<sup>6)</sup>, Aotsuka N<sup>7)</sup>, Onishi Y<sup>8)</sup>, Yamaguchi H<sup>9)</sup>, Kozai Y<sup>10)</sup>, Nagamura-Inoue T, Kato K, Suzuki R, Atsuta Y, Kato S<sup>4)</sup>, et al. (1) Department of Hematology and Oncology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, 2) Department of Hematology and Oncology, Teikyo University School of Medicine, Tokyo, 3) Department of Hematology, Toranomon Hospital, Tokyo, 4) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, 5) Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, Tokyo, 6) Department of Hematology, Kanagawa Cancer Center, Yokohama, 7) Division of Hematology-Oncology, Japanese Red Cross Society Narita Hospital, Narita, Japan, 8) Department of Hematology and Rheumatology, Tohoku University Hospital, Sendai, 9) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, 10) and others)：Granulocyte colony-stimulating factor combined regimen in cord blood transplantation for acute myeloid leukemia：a nationwide retrospective analysis in Japan. Haematologica 2014；99 (12)：264-268.
- 7) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Fukuda T<sup>1)</sup>, Matsushita Y<sup>1)</sup>, Narahara Y<sup>1)</sup>, Osada Y<sup>4)</sup>, Yamaguchi H<sup>4)</sup>, Nakatsuka K<sup>4)</sup>, Iwakiri K<sup>4)</sup>, Kawamoto C<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>4)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, Japan, 2) Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, Japan, 3) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, Japan, 4) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo)：Effect of fluvastatin on 24-week telaprevir-based combination therapy for hepatitis C virus genotype 1b-infected chronic hepatitis C. Eur J Gastroenterol Hepatol 2014；26 (7)：781-787.
- 8) 脇田知志, 山口博樹：急性骨髄性白血病とエピジェネティクス制御関連遺伝子変異。日本臨床 2014；72 (6)：1026-1032.
- 9) 山口博樹, 由井俊輔, 猪口孝一：重症再生不良性貧血の治療。血液内科 2014；68 (5)：599-608.
- 10) Inokuchi K<sup>1)</sup>, Kumagai T<sup>2)</sup>, Matsuki E<sup>3)</sup>, Ohashi K<sup>4)</sup>, Shinagawa A<sup>5)</sup>, Hatta Y<sup>6)</sup>, Takeuchi J<sup>6)</sup>, Yoshida C<sup>7)</sup>, Wakita H<sup>8)</sup>, Kozai Y<sup>9)</sup>, Shirasugi Y<sup>10)</sup>, Fujisawa S, Osamu O, Yano S, Okamoto S, et al. (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Hematology, Ohme Municipal General Hospital, 3) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, 4) Hematology Division, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, 5) Department of Internal Medicine, Hitachi General Hospital, 6) Department of Hematology and Rheumatology, Nihon University School of Medicine, 7) Department of Hematology, National Hospital Organization Mito Medical Center, 8) Division of Hematology and Oncology, Japanese Red Cross Society, Narita Red Cross Hospital, 9)

Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Tama Medical Center, <sup>10)</sup> and others) : Efficacy of Molecular Response at 1 or 3 Months after the Initiation of Dasatinib Treatment Can Predict an Improved Response to Dasatinib in Imatinib-Resistant or Imatinib-Intolerant Japanese Patients with Chronic Myelogenous Leukemia during the Chronic Phase. *Journal of Clinical and Experimental Hematopathology* 2014 ; 54 (3).

- 11) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research, Nippon Medical School.) : Inhibition of S100A6 induces GVL effects in MLL/AF4-positive ALL in human PBMC-SCID mice. *Bone Marrow Transplantation* 2014 ; 49 (5) : 699-703.

## 著書

- 1) 山口博樹 : [共著] 血液疾患に合併する呼吸器感染症. 呼吸器疾患診療 最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014 ; pp71-78, 株式会社総合医学者.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 山口博樹 : 血液疾患に合併した急性呼吸窮迫症候群の予後因子と集中治療室入室対応. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第36回) (秋田), 2014. 7.

### (2) パネルディスカッション :

- 1) Okuyama N<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Moriya K<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Hamada Y<sup>1)</sup>, Asayama T<sup>1)</sup>, Tohyama K<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Laboratory Medicine, Kawasaki Medical School) : Mechanism of malignant progression in myelodysplastic syndrome blasts via the CD7 molecule. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 2) Asayama T<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Moriya M<sup>1)</sup>, Onodera-Kondou A<sup>1)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Hamada Y<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : The pathophysiological role of high-mobility group box (HMGB-1) in myelodysplastic syndromes. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 3) Ishibashi M<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Moriya K<sup>1)</sup>, Kondo-Onodera A<sup>1)</sup>, Okuyama A<sup>1)</sup>, Hamada Y<sup>1)</sup>, Asayama T<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Analysis of myeloid-derived suppressor cells (MDSCs) in myelodysplastic syndromes. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 4) Yamada A<sup>1)</sup>, Moriya K<sup>1)</sup>, Asayama T<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Hamada Y<sup>1)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Kondo-Onodera A<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : Evaluating an enhanced International Prognostic Index (NCCN-IPI) for Japanese patients with DLBCL. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 5) Hamada Y<sup>1,2)</sup>, Ishibashi M<sup>2)</sup>, Tamura H<sup>2)</sup>, Asayama T<sup>2)</sup>, Okuyama N<sup>2)</sup>, Onodera-Kondo A<sup>2)</sup>, Moriya K<sup>2)</sup>, Hyodo H<sup>2)</sup>, Igarashi T<sup>3)</sup>, Onose H<sup>4)</sup>, Yokose N<sup>2)</sup>, Tanosaki S<sup>5)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup>, Gomi S<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan, <sup>2)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Endocrine Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Division of Endocrinology, Kanaji Hospital, Tokyo, Japan, <sup>5)</sup> Division of Hematology, the Fraternity Memorial Hospital) : A20 mutation and clinical characteristics in primary thyroid lymphoma with Hashimoto's thyroiditis. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 6) Wakita S<sup>1)</sup>, Yokose N<sup>1)</sup>, Okabe M<sup>1)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : A case report of atypical hemolytic uremic syndrome treated with eculizumab. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 7) Watanabe M<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Usuki K<sup>2)</sup>, Kobayashi Y<sup>3)</sup>, Tajika K<sup>4)</sup>, Gomi S<sup>4)</sup>, Kobayashi A<sup>1)</sup>, Azuma K<sup>1)</sup>, Yuko S<sup>1)</sup>, Todoroki T<sup>1)</sup>, Omori I<sup>1)</sup>, Fukunaga K<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Arai K<sup>1)</sup>, その他5名 (<sup>1)</sup> Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, Kyoto, Japan, <sup>4)</sup> Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan) : The Clinical features and prognostic impact of de novo acute myeloid leukemia with WT1 mutation. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 8) Moriya K<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Hamada Y<sup>1)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Asayama T<sup>1)</sup>, Yamada A<sup>1)</sup>, Onodera-Kondo A<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School) : RCd therapy for relapsed refractory multiple plasmacytomas resistant to bortezomib. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.

- 9) Onodera (Kondo) A<sup>1</sup>, Ishibashi M<sup>1</sup>, Tamura H<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup>, Isoda A<sup>2</sup>, Matsumoto M<sup>2</sup>, Sasaki M<sup>3</sup>, Komatsu N<sup>3</sup>, Handa H<sup>4</sup>, Imai Y<sup>5</sup>, Tanaka J<sup>5</sup>, Tanosaki S<sup>6</sup>, Ito S<sup>7</sup>, Ishida Y<sup>7</sup>, Koike M<sup>8</sup> (1) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, (3) Division of Hematology, Juntendo University School of Medicine, (4) Gunma University Graduate School of Medicine, (5) Department of Hematology, Tokyo Women's Medical University, (6) Department of Hematology, Fraternity Memorial Hospital, (7) Department of Hematology and Oncology, Iwate Medical University, (8) Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital) : Characteristics of multiple myeloma patients with high expression of B7-H1 (PD-L1) on tumors. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 10) Fujiwara Y<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Kobayashi K<sup>2</sup>, Tamai H<sup>1</sup>, Okamoto M<sup>1</sup>, Moriya K<sup>1</sup>, Nakayama K<sup>1</sup>, Tekeda S<sup>2</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : The clinical feature of hematological malignancy patients with acute respiratory distress syndrome. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 11) 福永景子, 山口博樹, 藤原裕介, 由井俊輔, 了徳寺剛, 平川経晃, 岡部雅弘, 脇田知志, 玉井勇人, 岡本宗雄, 中山一隆, 猪口孝一 : 当院における非寛解期急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植の治療成績. 日本造血細胞移植学会総会 (第37回) (神戸), 2015. 3.
- 12) 藤原裕介, 山口博樹, 小林克也<sup>1</sup>, 由井俊輔, 福永景子, 了徳寺剛, 平川経晃, 岡部雅弘, 脇田知志, 玉井勇人, 岡本宗雄, 中山一隆, 竹田晋浩<sup>1</sup>, 猪口孝一 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室 : 人工呼吸管理を必要とした呼吸不全合併造血幹細胞移植症例の予後と臨床的特徴. 日本造血細胞移植学会総会 (第37回) (神戸), 2015. 3.
- (3) 一般講演 :
- 1) Tamai H<sup>1</sup>, Miyake K<sup>2</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Kazuo D<sup>3</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Molecular Biology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Medical Education Center, Ryotokuji University, Urayasu, Japan) : The examination of RCSD1-ABL1-leukemogenicity. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 2) Okabe M<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Usuki K<sup>2</sup>, Kobayashi Y<sup>3</sup>, Kawata E<sup>3</sup>, Kuroda J<sup>4</sup>, Kimura S<sup>5</sup>, Tajika K<sup>6</sup>, Gomi S<sup>6</sup>, Arai K<sup>1</sup>, Kitano T<sup>1</sup>, Kosaka F<sup>1</sup>, Dan K<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, (2) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, (3) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, (4) Division of Hematology and Oncology, Kyoto Prefectural University of Medicine, (5) Department of Internal Medicine, Saga University, (6) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan) : Analysis of CALR gene mutation in Japanese patients with myeloproliferative neoplasms. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 3) Kobayashi A<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Usuki K<sup>2</sup>, Kobayashi Y<sup>3</sup>, Tajika K<sup>4</sup>, Gomi S<sup>4</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Azuma K<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Todoroki T<sup>1</sup>, Omori I<sup>1</sup>, Fukunaga K<sup>1</sup>, Wakita S<sup>1</sup>, Hirakawa T<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup>, その他5名 (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, (3) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, Kyoto, Japan, (4) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan) : The clinical features of acute myeloid leukemia with epigenetics modifying genes mutation. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 4) Yui S<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Usuki K<sup>2</sup>, Kobayashi Y<sup>3</sup>, Tajika K<sup>4</sup>, Gomi S<sup>4</sup>, Kobayashi A<sup>1</sup>, Watanabe M<sup>1</sup>, Azuma K<sup>1</sup>, Yuko S<sup>1</sup>, Todoroki T<sup>1</sup>, Omori I<sup>1</sup>, Fukunaga K<sup>1</sup>, Wakita S<sup>1</sup>, Hirakawa T<sup>1</sup>, その他6名 (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Hematology, NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, (3) Department of Hematology, Kyoto Second Red Cross Hospital, Kyoto, Japan, (4) Department of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital, Kanagawa, Japan) : The clinical features of PTPN11 gene mutation in Japanese patients with de novo AML. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 5) Fukunaga K<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Wakita S<sup>1</sup>, Omori I<sup>1</sup>, Yui S<sup>1</sup>, Ryotokuji T<sup>1</sup>, Hirakawa T<sup>1</sup>, Arai K<sup>1</sup>, Kitano T<sup>1</sup>, Kosaka K<sup>1</sup>, Inokuchi K<sup>1</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The prognostic impact of cytogenetic and genetic abnormality for the achievement of 2nd CR in AML. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 6) 田村秀人, 石橋真理子, 猪口孝一, 磯田 淳<sup>1</sup>, 松本守夫<sup>1</sup>, 佐々木純<sup>2</sup>, 小松則夫<sup>2</sup>, 半田 寛<sup>3</sup>, 今井陽一<sup>4</sup>, 田中淳司<sup>4</sup>, 田野崎栄<sup>5</sup>, 伊藤薫樹<sup>6</sup>, 石田陽治<sup>6</sup>, 小池道明<sup>7</sup> (1) 国立病院機構西群馬病院血液内科, (2) 順天堂大学医学部順天堂医院血液内科, (3) 群馬大学医学部附属病院血液内科, (4) 東京女子医科大学病院血液内科, (5) 同愛記念病院血液内科, (6) 岩手医科大学血液・腫瘍内科, (7) 順天堂大学医学部附属静岡病院血液内科) : フロサイトメトリーによる骨髄腫細胞腫瘍抗原の解析 : 関東-東北骨髄腫カンファレンス多施設共同研究. 日本骨髄腫学会学術集会 (第39回) (静岡), 2014. 5.
- 7) 守屋慶一, 田村秀人, 福嶋善光<sup>1</sup>, 濱田泰子, 奥山奈美子, 近藤麻加, 山田晃子, 由井俊輔, 汲田伸一郎<sup>1</sup>, 猪口孝一 (1) 日本医科



- 大学付属病院放射線科)：多発性骨髄腫の病変評価における SPECT-CT の有用性. 日本骨髄腫学会学術集会 (第 39 回) (静岡), 2014. 5.
- 8) 奥山奈美子, 石橋真理子, 田村秀人, 守屋慶一, 小野寺 (近藤) 麻加, 濱田泰子, 朝山敏夫, 通山 薫<sup>1)</sup>, 猪口孝一 (1) 川崎医科大学検査診断学)：骨髄異形成症候群における CD7 陽性腫瘍の増悪化機構の解析. 日本がん免疫学会総会 (第 18 回) (松山), 2014. 7.
- 9) 濱田泰子, 石橋真理子, 田村秀人, 朝山敏夫, 奥山奈美子, 小野寺麻加, 守屋慶一, Inhak C<sup>1)</sup>, 猪口孝一 (1) Advanced Research Center for Multiple Myeloma, Inje University College of Medicine)：骨髄異形成症候群における V-set and immunoglobulin domain containing 4 (VSIG4) の発現と機能解析. 日本がん免疫学会総会 (第 18 回) (松山), 2014. 7.
- 10) 朝山敏夫, 石橋真理子, 田村秀人, 守屋慶一, 小野寺麻加, 奥山奈美子, 濱田泰子, 猪口孝一：骨髄異形成症候群における high-mobility group box 1 (HMGB1) の解析. 日本がん免疫学会総会 (第 18 回) (松山), 2014. 7.
- 11) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research, Nippon Medical School, Tokyo, Japan)：THE DIFFERENCE OF RCSD1-ABL1- LEUKEMOGENICITY BETWEEN EXON3 OF RCSD1/EXON 4 OF ABL1 AND EXON 2 OF RCSD1/EXON 4 OF ABL1. European Hematology Association (19th) (Milan, Italy), 2014. 6.
- 12) Fukunaga K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Omori I<sup>1)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Ryotokuji T<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Arai K<sup>1)</sup>, Kitano T<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Dan K<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Medical Education Center, Ryotokuji University)：The prognostic impact of cytogenetic and genetic abnormality for the achievement of the second complete remission in adult patients with acute myeloid leukemia after first relapse. European Hematology Association (19th.) (Milan, Italy), 2014. 6.
- 13) Fukunaga K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Omori I<sup>1)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Ryotokuji T<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Arai K<sup>1)</sup>, Kitano T<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Dan K<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Medical Education Center, Ryotokuji University)：The prognostic impact of cytogenetic and genetic abnormality for the achievement of the second complete remission in adult patients with acute myeloid leukemia. JSH International Symposium (The 6th.) (浜松), 2014. 5.
- 14) Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Sakaguchi H<sup>2)</sup>, Yoshida K<sup>3)</sup>, Yabe M<sup>4)</sup>, Yabe H<sup>4)</sup>, Okuno Y<sup>2)</sup>, Muramatsu H<sup>2)</sup>, Yui S<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Etsuro I<sup>5)</sup>, Ogawa S<sup>3)</sup>, Kojima S<sup>2)</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Pediatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan, 3) Department of Pathology and Tumor Biology, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto, Japan, 4) Department of Cell Transplantation and Regenerative Medicine, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan, 5) Department of Pediatrics, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan)：The clinical and genetic features of dyskeratosis congenita, cryptic dyskeratosis congenita, and Hoyeraal-Hreidarsson syndrome in Japan. American Society of Hematology (56rd) (San Francisco, USA.), 2014. 12.
- 15) Kurosawa S<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Yamaguchi T<sup>3)</sup>, Fukunaga K<sup>2)</sup>, Yui S<sup>2)</sup>, Kanamori H<sup>4)</sup>, Usuki K<sup>5)</sup>, Uoshima N<sup>6)</sup>, Yanada M<sup>7)</sup>, Shono K<sup>8)</sup>, Ueki T<sup>9)</sup>, Mizuno I<sup>10)</sup>, Yano S, Takeuchi J, Kanda J, et al. (1) National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, 2) Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Tohoku University Hospital, Sendai, Japan, 4) Kanagawa Cancer Center, Yokohama, Japan, 5) NTT Medical Center Tokyo, Tokyo, Japan, 6) Matsushita Memorial Hospital, Moriguchi, Japan, 7) Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Japan, 8) Chiba Aoba Municipal Hospital, Chiba, Japan, 9) Nagano Red Cross Hospital, Nagano, Japan, 10) and others)：Decision Analysis of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Versus Chemotherapy in Cytogenetically Standard-Risk Acute Myeloid Leukemia in First Complete Remission：The Impact of FLT3-ITD Profile. American Society of Hematology (56rd) (San Francisco, USA.), 2014. 12.
- 16) Omori I<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Kitano T<sup>1)</sup>, Miyake N<sup>2)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> (1) Department of Hematology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, Tok)：The D816V c-kit mutation confers higher proliferation activity by JAK-STAT and Src family kinase pathways compared to N822K c-kit mutation in core-binding factor acute myeloid leukemia. American Society of Hematology (56rd) (San Francisco, USA.), 2014. 12.
- 17) 山中 聡, 濱田泰子, 福永景子, 中山一隆, 中村純子, 中村恭子, 田村秀人, 猪口孝一：形質細胞腫と B 細胞性リンパ腫の合併に対し, ベンダムスチン, レナリドミド, デキサメサゾン療法が奏功した 1 例. 日本血液学会 関東甲信越地方会 (第 1 回) (埼玉), 2014. 4.
- 18) 中山一隆, 山口博樹, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 玉井勇人, 福永景子, 由井俊輔, 了徳寺剛, 平川経晃, 岡部雅弘, 藤原裕介, 朝山敏夫, 小野寺麻加, 守屋慶一, 山中 聡, 奥山奈美子, その他 3 名 (1) 日本医科大学腎臓内科)：血液造血器腫瘍に対する同種移植後の AKI および CKD 発症のリスク因子および, 腎組織像についての検討. 日本造血細胞移植学会総会 (第 37 回) (神戸), 2015. 3.

- 19) 濱田泰子<sup>1)</sup> (1) 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院血液内科) : Rituximab 単独治療で寛解を得て妊娠・出産が可能であった濾胞型リンパ腫の1例. 日本血液学会 関東甲信越地方会 (第2回) (東京), 2015. 3.
- 20) 木村徳宏, 守屋慶一, 福田 健<sup>1)</sup>, 岡部雅弘, 中山一隆, 山口博樹, 田村秀人, 猪口孝一 (1) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科) : 肝門部腫瘍への超音波内視鏡下穿刺吸引術 EUS-FNA で診断できた形質細胞腫を伴う多発性骨髄腫の1例. 日本血液学会 関東甲信越地方会 (第2回) (東京), 2015. 3.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) 田村秀人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院血液内科) : Monoclonal gammopathy of undetermined significance (MGUS) の長期予後. 血液内科 2014 ; 69 (3) : 435-449.
- 2) 山口博樹, 猪口孝一 : MPN に対する新規治療薬 : beyond JAK2 inhibitor. 血液内科 2014 ; 69 (2) : 221-227.
- 3) 中山一隆, 猪口孝一 : 慢性骨髄性白血病治療の現状. 臨床血液 2014 ; 55 (1) : 42-55.
- 4) Zhao W<sup>1)</sup>, Meng S<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Effect of G-CSF on induction of ENA-78 and IL-8 in the patients with malignant lymphoma. Zhongguo Shi Yan Xue Ye Xue Za Zhi 2014 ; 22 (2) : 344-348.

## [千葉北総病院血液内科]

### 研究概要

白血病, 悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫等の造血器腫瘍, 造血不全症, 血小板減少症など血液疾患全般の診療に当たっています. 当科では原則的に病名を告知し, 病状・治療方針・予想される副作用について詳しくご説明し, 納得して頂いたうえで治療を開始しています. 個々の患者さんにとってのベストの治療法を, 御本人・御家族とともに考え, 治癒のみならず患者満足度の高い医療を目指しています. 自家末梢血幹細胞移植を H21 年度より開始して, 症例を蓄積しています. H23 年度には同系 (一卵性双生児) 末梢血幹細胞移植を実施しました. 骨髄増殖性腫瘍の JAK2 遺伝子の解析を行っています. 骨髄異形成症候群に対する少量メルファラン療法に関する臨床研究を実施しています. また慢性骨髄性白血病の分子標的治療に関する検討, 多発性骨髄腫細胞上の免疫関連分子が免疫反応に及ぼす影響, 治療抵抗性, 再発性高齢多発性骨髄腫に対する新規化学療法といった多施設共同研究に参加しています.

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Ishibashi M<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Sunagawa M<sup>2)</sup>, Moriya K<sup>2)</sup>, Okuyama N, Isoda A<sup>3)</sup>, Sasaki M<sup>4)</sup>, Komatsu N<sup>4)</sup>, Handa H<sup>5)</sup>, Inami Y<sup>6)</sup>, Tanosaki S<sup>7)</sup>, Ito S<sup>8)</sup>, Koike M<sup>9)</sup>, Tamada K<sup>10)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, et al. (1) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Hematology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Hematology, National Hospital Organization Nishigunma National Hospital, 4) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Juntendo University School of Medicine, 5) Department of Medicine and Clinical Sciences, Gunma University Graduate School of Medicine, 6) Department of Hematology, Tokyo Womens Medical University, 7) Department of Hematology, The Fraternity Memorial Hospital, 8) Department of Hematology, The Fraternity Memorial Hospital, 9) Department of Hematology, Juntendo University Shizuoka Hospital, 10) and others) : 2018 Interaction Between B7-H1 Molecules on Myeloma Cells and PD-1 Molecule on T Cells Induces Resistance to Antimyeloma Chemotherapy. 56th ASH Annual Meeting and Exposition (San Francisco), 2014. 12.
- 2) 奥山奈美子, 石橋真理子<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 守屋慶一<sup>1)</sup>, 小野寺 (近藤) 麻加<sup>1)</sup>, 濱田泰子<sup>1)</sup>, 朝山敏夫<sup>1)</sup>, 通山 薫<sup>2)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院血液内科, 2) 川崎医科大学検査診断学) : CD7 を介した MDS 芽球の増悪化機序の解析. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
- 3) 脇田知史 : Eculizumab が著効した非典型溶血性尿毒症症候群の1例. 日本血液学会学術集会 (第76回) (大阪市), 2014. 10.

## 7. 消化器内科学分野

### [付属病院消化器・肝臓内科]

#### 研究概要

消化器・肝臓内科では、(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討、(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義、(3) ディスペプシア (機能性胃症) の臨床的、病態生理学的研究、(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討、(5) 大腸腺腫、癌の病態に関する検討、(6) カプセル内視鏡、小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患、出血性疾患の臨床的解析、(7) COX-2 の消化管癌に対する役割など基礎的研究の実施、(8) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討、(9) 慢性活動性 C 型肝炎の治療と免疫能、など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究、(10) 腫瘍内圧を考慮した安全なラジオ波焼灼療法の開発研究、(11) 磁気センサー搭載超音波装置による肝画像診断法の研究、(12) C 型慢性肝炎における宿主遺伝子情報に基づいた治療の解析、(13) EOB 造影 MRI、造影エコー、CT を用いた各種画像診断法による肝細胞癌検出能の比較研究、(14) 肝癌分子標的治療の薬剤用量設定および他治療法との併用についての臨床的研究、を実施している。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Taki Y, Kanazawa H, Narahara Y, Itokawa N, Kondo C, Fukuda T, Harimoto H, Matsushita Y, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Kimura Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Predictive factors for improvement of ascites after transjugular intrahepatic portosystemic shunt in patients with refractory ascites. *Hepatology Research* 2014 ; 44 (8) : 871-877.
- 2) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Fukuda T, Matsushita Y, Narahara Y, Osada Y<sup>4)</sup>, Yamaguchi H<sup>5)</sup>, Nakatsuka K, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Japan, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Japan, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Japan, <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Hakujuikai Memorial Hospital, Adachi-ku, Tokyo, Japan, <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Japan) : Effect of fluvastatin on 24-week telaprevir-based combination therapy for hepatitis C virus genotype 1b-infected chronic hepatitis C. *Eur J Gastroenterol Hepatol*. 2014 ; 26 (7) : 781-787.
- 3) Nakagawa A<sup>1)</sup>, Atsukawa M, Tsubota A, Shimada N, Abe H, Kondo C, Itokawa N, Arai T, Hashimoto S, Matsushita Y, Fukuda T, Nakatsuka K, Iwakiri K, Kawamoto C, Ssakamoto C, et al. ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai) : Relationship between HCV dynamics and sustained virological responses in chronic hepatitis C genotype 1b patients treated with telaprevir-based triple therapy. *Eur J Gastroenterol Hepatol* 2014 ; 26 (12) : 1329-1334.
- 4) Abe H<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Atsukawa M<sup>4)</sup>, Kato K<sup>3)</sup>, Takaguchi K<sup>5)</sup>, Asano T<sup>6)</sup>, Chuganji Y<sup>6)</sup>, Sakamoto C, Toyoda H<sup>7)</sup>, Kumada T<sup>7)</sup>, Ide T<sup>8)</sup>, Sata M<sup>8)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research, The Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, Japan, <sup>4)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, Japan, <sup>5)</sup> Department of Hepatology, Kagawa Prefectural Central Hospital, Takamatsu, Kagawa, Japan, <sup>6)</sup> 6) Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, Sumida-ku, Tokyo, Japan, <sup>7)</sup> Department of Gastroenterology, Ogaki Municipal Hospital, Ogaki, Gifu, Japan, <sup>8)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine, Kurume, Fukuoka, Japan) : Predictors of response to 24-week telaprevir-based triple therapy for treatment-naïve genotype 1b chronic hepatitis C patients. *Gastroenterol Res Pract*. 2014.
- 5) Shimpuku M, Futagami S, Tajima N<sup>1)</sup>, Yamawaki H, Maruki Y, Kodaka Y, Nagoya H, Gudis K, Kawagoe T, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Iri Clinic, Saitama, Japan.) : Impact of eating attitude and impairment of physical quality of life between tertiary clinic and primary clinic functional dyspepsia outpatients in Japan. *J Neurogastroenterol Motil*. 2014 ; 20 (4) : 506-515.
- 6) Sano H, Iwakiri K, Kawami N, Tanaka Y, Sakamoto C : Mechanisms of Acid reflux and how refluxed Acid extends proximally in patients with non-erosive reflux disease. *Digestion* 2014 ; 90 (2) : 108-115.
- 7) Shimada N<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Atsukawa M<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Ide T<sup>5)</sup>, Takaguchi K<sup>6)</sup>, Chuganji Y<sup>7)</sup>, Toyoda H<sup>8)</sup>, Yoshizawa K<sup>9)</sup>, Ika M<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kumada T<sup>8)</sup>, Sakamoto C, Aizawa Y<sup>4)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shin-

- matsudo Central General Hospital, Matsudo, Japan, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research Jikei University School of Medicine Kashiwa Japan, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital Chiba Japan, <sup>4)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, <sup>5)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Medicine Kurume University School of Medicine Kurume Japan, <sup>6)</sup> Department of Hepatology Kagawa Prefectural Central Hospital Takamatsu Japan, <sup>7)</sup> Department of Gastroenterology Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital Tokyo Japan, <sup>8)</sup> Department of Gastroenterology Ogaki Municipal Hospital Ogaki Japan, <sup>9)</sup> Department of Gastroenterology Machida Municipal Hospital Tokyo Japan) : A 48-week telaprevir-based triple combination therapy improves sustained virological response rate in previous non-responders to peginterferon and ribavirin with genotype 1b chronic hepatitis C : A multicenter study. *Hepatol Res.* 2014 ; 44 (14) : E386-396.
- 8) Abe H, Tsubota A, Shimada N, Atsukawa M, Kato K, Takaguchi K, Asano T, Chuganji Y, Sakamoto C, Toyoda H, Kumada T, Ide T, Sata M, Aizawa Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Tokyo, Japan) : Factors associated with sustained virological response in 24-week telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C genotype 1b patients with the IL28B minor genotype. *Hepatol Res.* 2014 ; in-press.
- 9) Futagami S, Itoh T<sup>1)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Center for Information Sciences, Nippon Medical School Tokyo, Japan) : Systematic review : post-infectious functional dyspepsia. *Aliment Pharmacol Ther.* 2015 ; 41 (2) : 177-188.
- 10) Mitsui K, Yonezawa M, Tatsuguchi A, Shinji S<sup>1)</sup>, Gudis K, Tanaka S, Fujimori S, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Localization of phosphorylated ErbB1-4 and heregulin in colorectal cancer. *BMC Cancer* 2014 ; 14 : 863.
- 11) Yamawaki H, Futagami S, Shimpuku M, Shindo T, Maruki Y, Nagoya H, Kodaka Y, Sato H, Gudis K, Kawagoe T, Sakamoto C : Leu72Met408 Polymorphism of the Ghrelin Gene Is Associated With Early Phase of Gastric Emptying in the Patients With Functional Dyspepsia in Japan. *J Neurogastroenterol Motil.* 2015 ; 21 (1) : 93-102.
- 12) Kondo C<sup>1)</sup>, Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Fukuda T, Matsushita Y, Nakatsuka K, Kawamoto C, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Japan, <sup>2)</sup> Core Research Facilities for Basic Science, Research Center for Medical Sciences, The Jikei University School of Medicine, Japan, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Japan, <sup>4)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Japan) : Safety and efficacy of partial splenic embolization in telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C. *Internal Medicine* 2015 ; 54 (2) : 119-126.
- 13) Miwa H<sup>1)</sup>, Kusano M<sup>2)</sup>, Arisawa T<sup>3)</sup>, Oshima T<sup>4)</sup>, Kato M<sup>5)</sup>, Takahashi J<sup>6)</sup>, Suzuki H<sup>7)</sup>, Tominaga K<sup>8)</sup>, Nakada K<sup>9)</sup>, Nagahara A, Futagami S, Manabe N, Inui A, Haruma K, Higuchi K, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University, <sup>3)</sup> Department of Gastroenterology, Kanazawa Medical University, <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, <sup>5)</sup> Division of Endoscopy, Hokkaido University, <sup>6)</sup> Department of Gastroenterology and Metabolism, Nagoya City University, <sup>7)</sup> Department of Internal Medicine, Keio University, <sup>8)</sup> Department of Gastroenterology, Osaka City University, <sup>9)</sup> Surgery, Jikei Medical University, and others) : Evidence-based clinical practice guidelines for functional dyspepsia. *J Gastroenterol.* 2015 ; 50 : 125-139.
- 14) Matsuura M<sup>1)</sup>, Inamori M<sup>2)</sup>, Endo H<sup>1)</sup>, Matsuura T<sup>1)</sup>, Kanoshima K<sup>1)</sup>, Inoh Y<sup>1)</sup>, Fujita Y<sup>1)</sup>, Umezawa S<sup>1)</sup>, Fuyuki A<sup>1)</sup>, Uchiyama S<sup>1)</sup>, Higurashi T<sup>1)</sup>, Ohukubo H<sup>1)</sup>, Sakai E<sup>1)</sup>, Iida H<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>3)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Hepatology and Gastroenterology, Yokohama City University Hospital, <sup>2)</sup> Office of Postgraduate Medical Education, Yokohama City University Hospital, <sup>3)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, School of Medicine, and others) : Lubiprostone decreases the small bowel transit time by capsule endoscopy : an exploratory, randomised, double-blind, placebo-controlled 3-way crossover study. *Gastroenterol Res Pract.* 2014 ; E-pub.
- 15) Yamawaki H, Futagami S, Shimpuku M, Sato H, Kawagoe T, Shindo T, Nagoya H, Kodaka Y, Sakamoto C : Impact of Acotiamide Affects Meal-related Symptoms and Lower Abdominal Symptoms in Functional Dyspepsia in Japan. *Int J Gastroenterol Disord Ther* 2014 ; Open Access.
- 16) Sakamoto S<sup>1,3)</sup>, Fujimori S<sup>2)</sup>, Sakamoto F<sup>2,3)</sup> ( <sup>1)</sup> Emergency Intensive Care, Juntendo University Nerima Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Sakamoto Clinic, Chiba, Japan) : Primary Helicobacter pylori eradication rates of lansoprazole, amoxicillin, and metronidazole therapy is much higher than lansoprazole, amoxicillin and clarithromycin therapy in Chiba prefecture, Japan. *J Gastrointest Dig Syst* 2014 ; 4 (6) : 1000242.
- 17) Kassab A<sup>1)</sup>, Msolly A<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>2)</sup>, Lakhdar R<sup>3)</sup>, Miled A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Biochemistry laboratory, Farhat Hached University Hospital,

Sousse, Tunisia, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Pharmaceutical Faculty, Monastir, Tunisia) : Is folate an aetiological factor for colorectal cancer onset? A case-control study. Med chem 2014 ; 4 : 569-572.

(2) 総説 :

- 1) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C, Aizawa Y<sup>4)</sup>, Sakamoto C ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, Japan, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, Japan, <sup>4)</sup> Jikei University School of Medicine Katsusika Medical Center, Division of Gastroenterology and Hepatology, Tokyo, Japan) : Serum 25 (OH) D3 levels affect treatment outcomes for telaprevir/peg-interferon/ribavirin combination therapy in genotype 1b chronic hepatitis C. Digestive and Liver Disease 2014 ; 46 ( 8 ) : 738-743.
- 2) 三宅一昌, 藤森俊二, 坂本長逸 : 薬剤性消化管傷害の最新事情. 診断と治療 2014 ; 102 ( 7 ) : 975-981.
- 3) 藤森俊二, 秋元直彦, 大森 順, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 松浦陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : 分類困難な小腸潰瘍・びらんの現状. 胃と腸 2014 ; 49 ( 9 ) : 1303-1308.
- 4) 三井啓吾, 藤森俊二 : 消化器系検査 : ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. 日本医科大学の医師が伝える医学知識 がん医療新病院の実力 2014 ; 18-25.
- 5) 辰口篤志, 坂本長逸 : 潰瘍性大腸炎 : 飛躍的に進歩した薬物療法. 臨床と研究 2014 ; 91 ( 8 ) : 19-23.
- 6) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸 : 好酸球性胃腸炎 : 鑑別診断 : 薬剤関連腸炎. 好酸球性消化管疾患診療ガイド 2014 ; 68-71.
- 7) 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : 好酸球性胃腸炎 : 鑑別診断 : その他. 好酸球性消化管疾患診療ガイド 2014 ; 72-74.
- 8) 坂本長逸 : NSAIDs 起因性消化管傷害に関するわが国の臨床試験. The GI Forefront 2014 ; 10 ( 1 ) : 26-29.
- 9) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 三富弘之<sup>1)</sup>, 岡本陽祐<sup>4)</sup>, 小林俊介<sup>1, 4)</sup>, 岡本健太郎<sup>1, 5)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 富田茂樹, 上野秀樹<sup>6)</sup>, 海上雅光<sup>7)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 藤盛孝博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学病理学 ( 人体・分子 ), <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器内科学, <sup>3)</sup> 日本医科大学 統御機構診断病理学, <sup>4)</sup> 東邦大学医療センター大森病院 消化器内科, <sup>5)</sup> 獨協医科大学第一外科, <sup>6)</sup> 防衛医科大学校外科, <sup>7)</sup> わたり病院病理診断科) : 大腸 T1 ( SM ) 深部浸潤癌に対する内視鏡治療適応拡大における病理学的問題点. 胃と腸 2014 ; 49 ( 7 ) : 973-977.
- 10) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 三富弘之<sup>1)</sup>, 岩館峰雄<sup>4)</sup>, 生本太郎<sup>4)</sup>, 佐野 寧<sup>4)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 藤盛孝博<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学病理学 ( 人体分子 ), <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器内科学, <sup>3)</sup> 日本医科大学 統御機構病理学, <sup>4)</sup> 佐野病院消化器センター) : 処置・治療 : Resect and Discard Trial の是非 : 病理の立場から. INTESTINE 2014 ; 18 ( 3 ) : 279-284.
- 11) 三宅一昌, 楠 正典, 植木信江, 名見耶浩幸, 小高康裕, 進藤智隆, 河越哲郎, Gudis K, 二神生爾, 津久井拓, 中村 洋<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学リウマチ科) : NSAIDs 関連潰瘍合併症の代用マーカーである無症候性内視鏡的消化性潰瘍からの潜在性出血における抗血栓薬の投与. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2014 ; 56 ( 6 ) : 2019-2027.
- 12) 川口 功<sup>1, 2)</sup>, 鎌江伊三夫<sup>3)</sup>, 宗圓 聰<sup>4)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> ファイザー株式会社メディカル・アフケアーズ, <sup>2)</sup> 国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻博士課程, <sup>3)</sup> 東京大学公共政策大学院, <sup>4)</sup> 近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科) : 慢性疼痛患者におけるセレコキシブの費用対効果分析. 医療と社会 2014 ; 24 ( 3 ) : 289-304.
- 13) 福田 健, 橋原義之, 金沢秀典, 新井泰央, 坂本長逸 : 重度肝硬変例の低 Na 血症に対するトルバプタンの使用経験. Fluid Management Renaissance 2014 ; 4 ( suppl. ) : 73-77.
- 14) 坂本長逸 : 病態から見たくすりの副作用 : 薬剤起因性上部消化管傷害の up-to-date. 医学のあゆみ : くすりの副作用のすべて 2014 ; 251 ( 9 ) : 738-743.
- 15) 小高康裕, 二神生爾, 丸木雄太, 河越哲郎, 坂本長逸 : *H. pylori* 感染と胃癌の進展機構. 日本臨床整理学会雑誌 2014 ; 44 ( 3 ) : 107-111.
- 16) 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸内視鏡の発達と腸診断学への影響. 病理と臨床 2014 ; 32 ( 11 ) : 1200-1206.
- 17) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 小林俊介<sup>3)</sup>, 三富弘之<sup>4)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>5)</sup>, 藤盛孝博<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学 統御機構診断病理学, <sup>3)</sup> 東邦大学医療センター大森病院 消化器内科, <sup>4)</sup> 獨協医科大学 病理学 ( 人体・分子 ), <sup>5)</sup> 神鋼病院 病理診断センター) : 炎症性腸疾患 : 最近の知見とトピックス : 腸炎関連腫瘍の現状. 病理と臨床 32 ( 11 ) : 1224-1227.
- 18) 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸領域の変遷と展望. 臨牀消化器内科 2015 ; 30 ( 1 ) : 37-42.
- 19) 藤森俊二, 坂本長逸 : 薬剤起因性小腸傷害に対する予防・治療の実際. 消化器の臨床 2014 ; 17 ( 6 ) : 562-568.
- 20) 藤森俊二, 坂本長逸 : 外科医が知っておくべき小腸の生理, 機能. 臨床外科 2014 ; 69 ( 9 ) : 1042-1047.
- 21) 秋元直彦, 大森 順, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 松浦陽子, 江原彰仁, 三井啓吾, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 坂本長逸 : 分類困難な小腸潰瘍・びらんの現状. 胃と腸 2014 ; 49 ( 9 ) : 1303-1308.
- 22) 三宅一昌, 藤森俊二, 坂本長逸 : 胃薬剤性消化管障害の最新事情. 診断と治療 2014 ; 102 ( 7 ) : 975-981.
- 23) 田利 晶<sup>1)</sup>, 麻奥英毅, 藤原 恵, 藤森俊二, 田中信治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 広島赤十字原爆病院 総合内科, <sup>2)</sup> 広島大学付属病院 内視鏡診療科) :

消化管原発 low-grade lymphoma- 濾胞性リンパ腫の診断と治療. 胃と腸 2014 ; 49 (5) : 664-674.

24) 藤森俊二, 坂本長逸 : NSAIDs アスピリン使用時の上・下部消化管障害はどう防ぐ?. レジデント 2014 ; 7 (5) : 58-65.

25) 藤森俊二, 坂本長逸 : プロトンポンプ阻害薬は小腸の炎症を増強する. 日医大医会誌 2014 ; 10 (2) : 38-39.

(3) 症例報告 :

1) Fujimori S, Takahashi Y, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Omeprazole increased small intestinal mucosal injury in two of six disease-free cases evaluated by capsule endoscopy. Dig Endosc. 2014 ; 26 (5) : 676-679.

2) Li M<sup>1)</sup>, Omi T<sup>1)</sup>, Matano Y<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School, 2) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan) : The diagnostic usefulness of video capsule endoscopy in adolescent immunoglobulin a vasculitis (henoch-schönleinpurpura). J Nippon Med Sch. 2014 ; 81 (2) : 114-117.

3) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 丸木雄太<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 消化器内科学) : 小腸内視鏡で確定診断後に単孔式腹腔鏡下手術を行った小腸 GIST の 1 例. Prog Dig Endosc 2014 ; 84 (1) : 134-135.

(4) 抄訳 :

1) 川見典之, 岩切勝彦 : 食道好酸球浸潤患者に対する PPI8 週間投与試験の転帰. APT Digest 2014 ; 17 (4) : 44-46.

(5) 特別寄稿 :

1) 坂本長逸 : 第 100 回日本消化器病学会総会を終えて. 日本消化器病学会雑誌 2015 ; 112 (1) : 1-9.

## 著 書

1) 二神生爾, 山脇博士, 坂本長逸 : [分担] FD の病態は機能的疾患ですべて説明できるか? 粘膜炎症から考える. 機能的ディスペプシア : 日本人に適した診療を求めて (監修 荒川哲男, 編集 富永和作), 2014 ; pp79-85, フジメディカル出版.

2) 三井啓吾, 坂本長逸 : [分担] 小腸腫瘍. 消化器病診療 (監修 一般財団法人 日本消化器病学会・編集 「消化器病診療 (第 2 版)」 編集委員会), 2014 ; pp70-74, 医学書院.

3) 藤森俊二, 三井啓吾 : [分担] ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. がん医療・新病院の実力 (監修 日本医科大学), 2014 ; pp18-25, 文芸春秋企画出版部.

4) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸 : [分担] 好酸球性胃腸炎・薬剤関連性腸炎. 好酸球性消化管疾患診療ガイド (編集 : 木下芳一), 2014 ; pp68-71, 南江堂.

5) 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : [分担] 好酸球性胃腸炎・その他. 好酸球性消化管疾患診療ガイド (編集 : 木下芳一), 2014 ; pp72-74, 南江堂.

6) 藤森俊二 : [分担] PillCamSB3 カプセル. 動画でわかるカプセル内視鏡テキスト (日本カプセル内視鏡学会), 2014 ; pp14-17, コンパス出版局.

7) 藤森俊二, 坂本長逸 : [分担] 正常所見・小腸. 動画でわかるカプセル内視鏡テキスト (日本カプセル内視鏡学会), 2014 ; pp39-45, コンパス出版局.

8) 藤森俊二, 坂本長逸 : [分担] NSAID 起因性. 動画でわかるカプセル内視鏡テキスト (日本カプセル内視鏡学会), 2014 ; pp59-63, コンパス出版局.

9) 藤森俊二, 坂本長逸 : [分担] 化膿性肉芽腫. 胃と腸アトラス (胃と腸編集委員会), 2014 ; pp464-464, 医学書院.

10) 藤森俊二 : [分担] アレルギー性紫斑病. 画像で見抜く消化器疾患 (大塚和朗), 2014 ; pp84-85, 株式会社医学出版.

## 学会発表

(1) 会長講演 :

1) 坂本長逸 : PR. COX-2 の消化管粘膜における役割 : NSAID 潰瘍の病態と臨床. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.

(2) 教育講演 :

1) 藤森俊二 : 小腸腫瘍の診断と follow-up のコツ. 日本消化器内視鏡学会 重点卒後教育セミナー (第 36 回) (東京), 2014. 10.

2) 藤森俊二 : 小腸疾患の診断と治療. 日本消化器内視鏡学会関東セミナー (第 28 回) (東京), 2014. 7.

(3) シンポジウム :

1) 名見耶浩幸, 二神生爾, 坂本長逸 : Apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) による STAT3 を介した食道癌進展機構の解析. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.

2) 小高康裕, 二神生爾, 坂本長逸 : *H. pylori* 陽性胃炎患者における COX-2 の SNP を用いた除菌後ハイリスク群の絞り込み. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.

- 3) 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院) : Telaprevir3 剤併用療法に血清 25 (OH) D3 が与える影響. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 4) 川見典之, 岩切勝彦, 坂本長逸 : PPI 倍量抵抗性 NERD 患者の病態と治療. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 5) 鮑本哲兵, 三宅一昌, 坂本長逸 : 上部内視鏡検査における抗血栓薬 1 剤服用下生検による潜在性出血の可能性に関する検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 5.
  - 6) 二神生爾, 山脇博士, 佐藤ひとみ, 新福摩弓, 坂本長逸 : FD 患者における睡眠障害に及ぼす因子の検討. 日本臨床生理学会総会 (第 51 回) (東京), 2014. 11.
  - 7) 三井啓吾, 江原彰仁, 小林 剛, 大森 順, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 松浦陽子, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : バルーン内視鏡とカプセル内視鏡による小腸腫瘍診断. 小腸研究会 (第 52 回) (東京), 2014. 11.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 三宅一昌, 鮑本哲兵, 坂本長逸 : 高齢者と非高齢者における長期アスピリン関連消化管出血に対する酸分泌抑制薬による予防効果. JDDW 2014 (神戸), 2014. 10.
  - 2) 福田 健, 金沢秀典, 坂本長逸 : 難治性腹水に対する TIPS の治療成績. JDDW 2014 (神戸), 2014. 10.
  - 3) 川見典之, 岩切勝彦, 坂本長逸 : アカラシアバルーン拡張術の最新の短期及び長期治療成績. JDDW 2014 (神戸), 2014. 10.
  - 4) 馬來康太郎, 藤森俊二, 坂本長逸 : カプセル内視鏡による小腸疾患診断の変遷と課題. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 5) 山脇博士<sup>1)</sup>, 二神生爾, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器科) : EPS, PDS, EPS-PDS overlap 群における睡眠障害, QOL, 胃排出能の比較検討の試み. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 6) 新福摩弓, 二神生爾, 坂本長逸 : acotiamide 投薬前後および休薬後の症状および胃排出能について : 自己記入式アンケート (VASs-scale, GSRS, SF-8, PSQI, 食習慣) を用いて. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 7) 藤森俊二, 花田隆造<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 医療法人相生会墨田病院) : celecoxib 単剤投与は loxoprofen と lansoprazole の同時投与と比較して小腸潰瘍性病変が少ない : 2 重盲検無作為化プラセボ比較対照試験. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 8) 鮑本哲兵, 三宅一昌, 坂本長逸 : 酸分泌抑制薬がもたらす長期アスピリン関連消化管出血への影響. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 9) 福田 健, 金沢秀典, 坂本長逸 : 難治性肝性胸水に対する TIPS の治療成績. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 21 回) (東京), 2014. 9.
  - 10) 張本滉智, 金沢秀典, 榎原義之, 中塚雄久, 厚川正則, 城所秀子, 福田 健, 松下洋子, 橋本知実, 中川 愛, 新井泰央, 坂本長逸 : 肝硬変における難治性腹水患者の臨床的特徴. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 21 回) (東京), 2014. 9.
  - 11) 田利 晶<sup>1)</sup>, 麻奥英毅<sup>2)</sup>, 藤森俊二 ( <sup>1)</sup> 広島赤十字原爆病院 総合内科, <sup>2)</sup> 広島赤十字・原爆病院 検査部・血液内科) : 腸管原発濾胞性リンパ腫 “watch and wait” と治療効果判定におけるカプセル内視鏡の有用性. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- (5) セミナー :
- 1) 川本智章 : 肝硬変の栄養療法. グラクソスミスクライン株式会社 社内学術講演会 (東京), 2015. 2.
  - 2) 川本智章 : HBV 再活性化と対策. 千駄木 B 型肝炎再活性化対策セミナー (東京), 2014. 6.
- (6) ワークショップ :
- 1) 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : 深吸気時の下部食道における全周性の狭小部への襞像 (“Esophageal Rosette”) は LES 弛緩不全 (アカラシア) の特徴的内視鏡像である. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 2) 山脇博士, 二神生爾, 坂本長逸 : LPS 前投与 urocortin1 脳槽内投与ラットにおける消化管粘膜局所の炎症及び胃排出能と小腸通過時間の比較検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 3) 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸 : バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 4) 三井啓吾, 江原彰仁, 坂本長逸 : バルーン内視鏡による内視鏡処置・治療の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
  - 5) 橋本知実<sup>1)</sup>, 榎原義之, 金沢秀典, 新井泰央, 糸川典夫, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子<sup>1)</sup>, 厚川正則, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科) : ノルアドレナリンが有腹水肝硬変症例の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼす影響. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 21 回) (東京), 2014. 9.
  - 6) 秋元直彦<sup>1, 2)</sup>, 三富弘之<sup>3)</sup>, 岡本陽祐<sup>4)</sup>, 市川一仁<sup>5)</sup>, 富田茂樹<sup>6)</sup>, 上野秀樹<sup>7)</sup>, 海上雅光<sup>8)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, 藤盛孝博<sup>9)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学統御機構診断病理学, <sup>3)</sup> 独協医科大学病理学 (人体分子), <sup>4)</sup> 東邦大学医療センター大森病院消化器内科, <sup>5)</sup> 会津中央病院消化管内視鏡治療センター, <sup>6)</sup> 順天堂大学医学部附属浦安病院病理診断科, <sup>7)</sup> 防衛医科大学校

- 外科, 8) わたり病院病理診断科, 9) 神鋼病院病理診断センター): 非連続脈管侵襲陽性例における T1b (SM2) 癌に対する内視鏡治療の問題点. 日本消化管学会学術集会 (第 11 回) (東京), 2015. 2.
- 7) 川本智章: メタボ時代における肝疾患の栄養療法 (肝硬変・肝癌への対策). 病薬連携 肝疾患勉強会 (東京), 2014. 10.
- 8) 川本智章: 肝硬変の栄養療法. グラクソスミスクライン株式会社/社内学術講演会 (東京), 2014. 6.
- (7) ポスター:
- 1) 名見耶浩幸, 二神生爾, 新福摩弓, 辰口篤志, 佐藤ひとみ, 丸木雄太, 山脇博士, 小高康裕, 川見典之, 河越哲郎, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 三宅一昌, 岩切勝彦, 星原芳雄, 坂本長逸, その他 2 名 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 食道癌組織における Apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現の解析: STAT 3 を介した VEGF 産生. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 2) 竹之内菜菜, 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 梅澤まり子, 花田優理子, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科): 食道蠕動収縮力と排出時間の相関関係. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 3) 花田優理子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星野慎太郎, 竹之内菜菜, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 川見典之, 星原芳雄, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科): 内視鏡的な滑脱型裂孔ヘルニアの診断は妥当か: 内視鏡診断と内圧診断との比較. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 4) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 花田優理子, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 川見典之, 星原芳雄, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科): アコチアミドの食道運動機能に及ぼす影響. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 5) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 米澤真興, 三井啓吾, 江原彰仁, 松浦陽子, 春日裕介, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 秋元直彦, 大森 順, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学解析人体病理学): 大腸がんにおける Heregulin の発現は ErbB3 のリン酸化を介して血管新生を促進する. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 6) 丸木雄太, 河越哲郎, 大森 順, 小杉友紀, 名見耶浩幸, 江原彰仁, 植木信江, 小林 剛, 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 辰口篤志, 二神生爾, 藤森俊二, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学): 当科における Regorafenib の使用経験. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 7) 金子恵子, 川本智章, 福田 健, 松下洋子, 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学): 当院における超音波内視鏡 (EUS) を施行した膵嚢胞性症例の検討. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 8) 植木信江, 鮑本哲兵, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士<sup>1)</sup>, 小高康裕, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓, 進藤智隆, 楠 正典<sup>2)</sup>, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 消化器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 抗血栓薬が胃 ESD 後潰瘍の治癒過程に及ぼす影響について. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 9) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 橋原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 非代償性肝硬変症例における肝性脳症に対する L-carnitine 製剤の治療効果の検討. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 10) 新井泰央<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 大久保知美<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, 川本智章, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉徳洲会病院・消化器内科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医大柏病院・消化器・肝臓内科): C 型慢性肝炎における血清 25 (OH) D3 濃度の特徴についての検討. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 11) 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 吉澤 海<sup>3)</sup>, 安部 宏<sup>4)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>4)</sup>, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科, <sup>2)</sup> 千葉徳洲会病院 消化器内科, <sup>3)</sup> 町田市民病院 消化器科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医大葛飾医療センター 消化器・肝臓内科, <sup>5)</sup> 東京慈恵会医大柏病院 消化器・肝臓内科): Simeprevir3 剤併用療法における vitamin D 併用療法の治療初期効果について. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 12) 梅垣英次<sup>1)</sup>, 蘆田 潔<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 平松直樹<sup>4)</sup>, 西村 章<sup>5)</sup>, 千葉 勉<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> 神戸大大学院消化器内科学, <sup>2)</sup> 洛和会音羽病院消化器病センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>4)</sup> 大阪大大学院消化器内科学, <sup>5)</sup> 武田薬品工業 (株) 医薬開発本部, <sup>6)</sup> 京都大大学院消化器内科学): TAK-438 の逆流性食道炎 (維持療法) における第 3 相 2 重盲検比較試験. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 13) 蘆田 潔<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 梅垣英次<sup>3)</sup>, 平松直樹<sup>4)</sup>, 西村 章<sup>5)</sup>, 千葉 勉<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> 洛和会音羽病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>3)</sup> 神戸大消化器内科, <sup>4)</sup> 大阪大大学院消化器内科学, <sup>5)</sup> 武田薬品工業 (株) 医薬開発本部, <sup>6)</sup> 京都大大学院消化器内科学): TAK-438 の逆流性食道炎 (治療) における第 3 相 2 重盲検比較試験. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 14) 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科): ADL 低下症例における腹腔鏡下逆流防止術: 腹腔鏡下胃瘻造設術付加の有用性. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 15) 中川 愛<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 安良岡高志, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 橋原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科): 代償性肝硬変に対する peg-IFN/ribavirin 併用療法に血清 25 (OH) D3 濃度が与える影響. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.



- 16) 大森 順, 河越哲郎, 丸木雄太, 鮑本哲兵, 山脇博士, 山田章善, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸: 化学療法が著効した高齢 (80 歳以上) 切除不能胃癌の 2 例. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 17) 安部 宏<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 坂本長逸, 相澤良夫<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 4) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所): C 型慢性肝炎 Naïve 症例に対する Telaprevir+Peginterferon+Ribavirin3 剤療法の治療成績. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 18) 城所秀子<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 枡 卓史<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 竹之内菜葉, 安良岡高志, 中川 愛, 橋本知実, 糸川典夫, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 厚川正則, 金子恵子, 坂本長逸, その他 1 名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科): 当施設でステロイド・核酸アナログ併用治療を行った重症急性 B 型肝炎の臨床的検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 19) 金子恵子, 水口義昭<sup>1)</sup>, 橋本知実, 松下洋子, 福田 健, 川本智章, 坂本長逸, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学): 胆嚢腫瘍に対する造影ハーモニック EUS の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 20) 秋元直彦<sup>1)</sup>, 岡本陽祐<sup>1)</sup>, 小林俊介<sup>1)</sup>, 岡本健太郎<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>1)</sup>, 冨田茂樹<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 坂本長逸, 藤盛孝博<sup>1)</sup> (1) 獨協医科大学病理学 (人体分子), 2) 日本医科大学統御機構病理学): 鋸歯状病変を伴う Crohn 病に回腸癌を併発した 1 例 (第 2 報). 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 21) 江原彰仁, 三井啓吾, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 松浦陽子, 小林 剛, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡が有用であった小腸憩室 11 症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 22) 米澤真興, 辰口篤志, 坂本長逸: 大腸癌細胞における ErbB3 の核内移行を誘導する因子に関する検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 23) 馬來康太郎, 藤森俊二, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 松浦陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 坂本長逸, その他 2 名: カプセル内視鏡における小腸検査及び診断の変遷. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 5.
- 24) 遠坂由紀子, 藤森俊二, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 玉木祐希江, 松浦陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 坂本長逸, その他 2 名: ジクロフェナクとロキソプロフェンの小腸粘膜傷害の比較検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 5.
- 25) 金子恵子, 中川 愛, 安良岡高志, 橋本知実, 糸川典夫, 枡 卓史, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 厚川正則, 榎原義之, 中塚雄久, 川本智章, 坂本長逸, その他 2 名: 当科における Sorafenib 使用成績及び投与開始量の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 26) 金子恵子, 新井泰央, 橋本知実, 松下洋子, 福田 健, 川本智章, 坂本長逸, 三樹いずみ, 小野澤志郎, 村田 智: 初回肝細胞癌の治療から 8 年後に癌性腹膜炎を来した 1 症例. 日本肝癌研究会 (第 50 回) (京都), 2014. 6.
- 27) Akimoto T, Miyake K, Ueki N, Sakamoto C: Endoscopic biopsy in the user of antithrombotic agents. Asian Pacific Digestive Week (APDW) 2014 (Bali, Indonesia), 2014. 11.
- 28) Akimoto N<sup>1)</sup>, Fujimori T<sup>2)</sup>, Mitomi H<sup>2)</sup>, Ichikawa K<sup>2)</sup>, Tomita S<sup>2)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Tokyo, 2) Department of Surgical and Molecular Pathology, Dokkyo Medical University, School of Medicine, Tochigi, 3) Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, Tokyo): Micropapillary pattern at the invasive front and its association with unresectable colorectal carcinomas. World Congress on Advances in Oncology (19th) and International Symposium on Molecular Medicine (17th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- (8) 一般講演:
- 1) 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 中川 愛, 安良岡高志, 橋本知実, 糸川典夫, 枡 卓史, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正則, 金子恵子, 中塚雄久, 坂本長逸, その他 1 名: TIPS による食道静脈瘤内視鏡像の変化. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 張本滉智, 金沢秀典, 中塚雄久, 榎原義之, 厚川正則, 城所秀子, 福田 健, 松下洋子, 糸川典夫, 枡 卓史, 橋本知実, 中川 愛, 安良岡高志, 坂本長逸: 成因別にみた難治性腹水血行動態と TIPS 治療成績: C 型肝硬変とアルコール性肝硬変の比較. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 3) 橋本知実, 榎原義之, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>2)</sup>, 中川 愛<sup>3)</sup>, 糸川典夫<sup>3)</sup>, 近藤千紗<sup>3)</sup>, 張本滉智<sup>4)</sup>, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子<sup>5)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 金子恵子, 中塚雄久<sup>5)</sup>, 坂本長逸, その他 1 名 (1) 金澤病院, 2) 博慈会記念総合病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 4) 同愛記念病院, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科): 当科における 1 型肝腎症候群症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.

- 4) 新井泰央, 橋原義之, 金沢秀典, 安良岡高志, 中川 愛, 橋本知実, 糸川典夫, 枡 卓史, 近藤千紗, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 坂本長逸, その他2名: 肝硬変例の低Na血症に対するトルバプタンの治療経験. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 5) 竹之内菜菜, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 川見典之, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 田中由理子, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科: 睡眠障害を認め, 夜間胸やけを有する患者に対するラメルテオンの効果に関するPilot Study. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 6) 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 竹之内菜菜, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 星原芳雄, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科: アカシア患者に観察される“Esophageal Rosette”のバルーン拡張術後の変化. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 7) 丸木雄太, 河越哲郎, 名兄耶浩幸, 小杉友紀, 大森 順, 江原彰仁, 小林 剛, 植木信江, 辰口篤志, 二神生爾, 藤森俊二, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学消化器外科学: ESMO Group2 進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 8) 河越哲郎, 丸木雄太, 名兄耶浩幸, 小杉友紀, 鮑本哲兵, 大森 順, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 植木信江, 小林剛, 楠 正典, 二神生爾, 坂本長逸, その他1名: 切除不能胃がん症例における予後スケール作成の試み(第2報). 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 9) 辰口篤志, 三井啓吾, 米澤真興, 江原彰仁, 高橋陽子, 春日裕介, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 大腸がんにおけるリン酸化上皮成長因子受容体ファミリーの局在と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 10) 岡本陽祐<sup>1, 2)</sup>, 小林俊介<sup>1, 2)</sup>, 五十嵐良典<sup>2)</sup>, 秋元直彦, 坂本長逸, 岡本健太郎<sup>3)</sup>, 加藤広行<sup>3)</sup>, 富田茂樹<sup>1, 2)</sup>, 市川一仁<sup>1, 2)</sup>, 三富弘之<sup>1, 2)</sup>, 藤盛孝博<sup>1, 2)</sup> (1) 獨協医科大学病理学(人体・分子), (2) 東邦大学医療センター大森病院 消化器内科, (3) 獨協医科大学 第一外科: 大腸癌壁深達度の判定基準に関する研究(第6報). 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 11) 中塚雄久<sup>1)</sup>, 厚川正則, 張本滉智, 中川 愛, 安良岡高志, 橋本知実, 糸川典夫, 枡 卓史<sup>1)</sup>, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子<sup>1)</sup>, 金子恵子, 川本智章, 高橋秀実<sup>2)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科, (2) 日本医科大学微生物学免疫学: Ribavirinの制御性T細胞活性調節作用とC型慢性肝炎治療における意義. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 12) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田則朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健, 松下洋子, 橋原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, 坂本長逸, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, (2) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓内科, (3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器内科, (4) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター: C型慢性肝炎IL28B minor genotypeに対するAlfacalcidol併用3剤併用療法についての検討; Pilot Study. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 13) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 安良岡高志, 橋本知美, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 橋原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科: C型肝炎合併進行肝細胞癌に対するSorafenib, 少量PEG-IFN併用療法の検討. 日本消化器病学会総会(第100回)(東京), 2014. 4.
- 14) Kaneko K, Kawamoto C: A Case of HCC Dissemination Due to Microwave Coagulation Therapy. Asian Conference on Tumor Ablation 2014 (Taipei, Taiwan), 2014. 5.
- 15) 植木信江, 鮑本哲兵, 山田章善, 山脇博士, 小高康裕, 名兄耶浩幸, 遠藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸: 胃腫瘍に対するESD後出血における抗血栓薬の影響. 日本消化器内視鏡学会総会(第87回)(福岡), 2014. 5.
- 16) 遠坂由紀子, 藤森俊二, 秋元直彦, 大森 順, 小杉友紀, 馬來康太郎, 鈴木将大, 春日裕介, 松浦陽子, 玉木祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 坂本長逸, その他3名: ジクロフェナクとロキソプロフェンの小腸粘膜傷害の比較検討. 日本カプセル内視鏡学会学術集会(第7回)(東京), 2014. 7.
- 17) 恩田 毅, 江原彰仁, 鮑本哲兵, 秋元直彦, 大森 順, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他1名: 全身性エリテマトーデスに対するステロイドパルス療法後に発症した腸管気腫症の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第330回)(東京), 2014. 7.
- 18) 鮑本哲兵, 後藤 修<sup>1)</sup>, 木下 聡<sup>1)</sup>, 相良誠二<sup>1)</sup>, 藤本 愛<sup>1)</sup>, 落合康利<sup>1)</sup>, 西澤俊宏<sup>1)</sup>, 中村理恵子<sup>1)</sup>, 浦岡俊夫<sup>1)</sup>, 大森 泰<sup>1)</sup>, 矢作直久<sup>1)</sup>, 坂本長逸, 亀山香織<sup>2)</sup>, 緒方晴彦<sup>3)</sup> (1) 慶應義塾大学医学部腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門, (2) 慶應義塾大学医学部病理学教室, (3) 慶應義塾大学病院内視鏡センター: 範囲診断に苦慮したH.pylori除菌後早期胃癌の2例. 日本消化器病学会関東支部例会(第330回)(東京), 2014. 7.
- 19) 新井泰央, 橋原義之, 金沢秀典, 橋本知実, 糸川典夫, 福田 健, 松下洋子, 張本滉智, 城所秀子, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変患者の低Na血症におけるトルバプタンの使用経験. 日本門脈圧亢進症学会総会(第21回)(東京), 2014. 9.
- 20) 恩田 毅, 江原彰仁, 鮑本哲兵, 秋元直彦, 大森 順, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸, その他1名: 全身性エリテマトーデスに対するステロイドパルス療法後に発症した腸管気腫

- 症の1例. 日本消化器病学会支部例会 (第330回) (東京), 2014. 7.
- 21) 大久保知美<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 大森 順, 江原彰仁, 三井啓吾, 秋元直彦, 小杉友紀, 馬來康太郎, その他5名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 生検診断が困難であった小腸多発性腫瘍の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第329回) (東京), 2014. 5.
  - 22) 日下部誠<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 三井啓吾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 消化器外科): 腹膜炎症状を呈した小腸リンパ管種の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第329回) (東京), 2014. 5.
  - 23) 増田有香<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 三井啓吾, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 消化器外科): Meckel 憩室による小腸イレウスに対し単孔式腹腔鏡手術を行った1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第332回) (東京), 2014. 12.
  - 24) Ueki N, Miyake K, Akimoto T, Maruki Y, Yamawaki H, Kodaka Y, Nagoya H, Shindo T, Kusunoki M, Kawagoe T, Futagami S, Sakamoto C: The influence of aspirin on the ulcer healing after gastric ESD (endoscopic submucosal dissection). Asian Pacific Digestive Week (APDW2014) (Bali, Indonesia), 2014. 11.
  - 25) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 竹之内菜葉, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 食道蠕動収縮力と排出時間の関係. 日本食道学会学術集会 (第68回) (東京), 2014. 7.
  - 26) 辰口篤志, 米澤真興, 三井啓吾, 大森 順, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 江原彰仁, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 大腸がんにおける ErbB3 の発現とリン酸化の意義. 日本消化管学会学術集会 (第11回) (東京), 2015. 2.
  - 27) 河越哲郎, 丸木雄太, 鮑本哲兵, 山脇博士, 小高康裕, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 植木信江, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸: 切除不能胃がんにおける予後スケール作成の試み (第2報). 日本消化管学会学術集会 (第11回) (東京), 2015. 2.
  - 28) 丸木雄太, 河越哲郎, 大森 順, 小杉友紀, 名児耶浩幸, 江原彰仁, 小林 剛, 植木信江, 辰口篤志, 二神生爾, 藤森俊二, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学消化器外科): ESMO Group2 進行切除不能大腸がんの治療の検討. 日本消化管学会学術集会 (第11回) (東京), 2015. 2.
  - 29) 大森 順<sup>1)</sup>, 江原彰仁, 三井啓吾, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 (1) 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): 原因不明の消化管出血における小腸外病変の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第11回) (東京), 2015. 2.
  - 30) 大久保知美<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): 診断に難渋し Betamethasone が著効した PSC の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第333回) (東京), 2015. 2.
  - 31) 遠坂由紀子, 江原彰仁, 三井啓吾, 小林 剛, 大森 順, 秋元直彦, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 春日裕介, 松浦陽子, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, その他1名: 原因不明の消化管出血における小腸外病変の検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第98回) (東京), 2014. 6.
  - 32) 金子恵子, 川本智章, 坂本長逸: 当院における超音波内視鏡 (EUS) を施行した睪嚢胞性症例の検討. 日本消化器内視鏡学会 (第88回) (神戸), 2014. 10.
  - 33) 新井泰央, 厚川正則, 島田紀朋, 安部 宏, 大久保知美, 中川 愛, 糸川典夫, 近藤千紗, 坪田昭人, 相澤良夫, 川本智章, 坂本長逸: C型慢性肝炎における血清 25 (OH) D3 濃度の特徴についての検討. 日本肝臓学会大会 (第18回) (神戸), 2014. 10.
  - 34) Tari A, Fujimori S: The role of watch and wait strategy in the treatment of intestinal follicular lymphoma in rituximab era: A retrospective study of 33 cases compared with 70 case of nodal follicular lymphoma. United European Gastroenterology Week 2014 (22nd) (Vienna), 2014. 10.
  - 35) 丸木雄太, 河越哲郎, 大森 順, 小杉友紀, 名児耶浩幸, 江原彰仁, 小林 剛, 植木信江, 辰口篤志, 二神生爾, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 藤森俊二, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 消化器外科): ESMO Group2 と診断した進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (横浜), 2014. 8.
- 1) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 橋本知実, 福田 健, 松下洋子, 橋原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章, 坂本長逸 (1) 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科): C型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, 少量 PEG-IFN 併用療法の検討. JDDW2014 (神戸), 2014. 10.
  - 2) 鮑本哲兵<sup>1, 3)</sup>, 後藤 修<sup>1)</sup>, 木下 聡<sup>1)</sup>, 相良誠二<sup>1)</sup>, 藤本 愛<sup>1)</sup>, 落合康利<sup>1)</sup>, 西澤俊宏<sup>1)</sup>, 中村理恵子<sup>1)</sup>, 浦岡俊夫<sup>1)</sup>, 緒方晴彦<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup>, 矢作直久<sup>1)</sup> (1) 慶應義塾大学医学部腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門, 2) 慶應義塾大学医学部内視鏡センター, 3) 日本医科大学 消化器内科学): 当院で深達度診断が困難であった早期胃癌内視鏡治療症例の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第11回) (東京), 2015. 2.
- (9) Poster :
- 1) Iwakiri K, Eiji U<sup>1)</sup>, Noaki H<sup>2)</sup>, Yuuichi S, Tetsuharu H, Kentarou K, Akira N, Kiyoshi A<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterol-

- ogy, Graduate School of Medicine, Kobe University, <sup>2)</sup>Osaka University, Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology and Hepatology) : A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of TAK-438 (20mg Once-Daily) Compared to Lansoprazole (30mg Once-Daily) in Patients With Erosive Esophagitis. DDW2014 (Chicago, USA), 2014. 5.
- 2) Umegaki E<sup>1)</sup>, Iwakiri K, Hiramitsu N<sup>2)</sup>, Sakurai Y, Hori T, Kudou K, Nishimura A<sup>3)</sup>, Ashida K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Graduate School of Medicine, Kobe University, <sup>2)</sup> Osaka University, Graduate School of Medicine, Department of Gastroenterology and Hepatology, <sup>3)</sup> Takeda Pharmaceutical Company Limited) : A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of TAK-438 (10mg or 20mg Once-Daily) Compared to Lansoprazole (15mg Once-Daily) in a 24-week Maintenance Treatment for Healed Erosive Esophagitis. DDW2014 (Chicago, USA), 2014. 5.
- 3) Kuribayashi S, Iwakiri K, Kawada A, Hoshino S, Kawami N, Takenouchi N, Hosaka H, Shimoyama Y, Kawamura O, Yamada M, Kusano M : A Comparison of the High Resolution Manometry Systems Manoscan and Starlet (a New System With Unisensor Catheter). DDW2014 (Chicago, USA), 2014. 5.
- 4) Mitsui K, Fujimori S, Ehara A, Omori J, Akimoto N, Maki K, Suzuki M, Kosugi Y, Ensaka Y, Kasuga Y, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : The Role of Double Balloon Endoscopy for Crohn's Disease. United European Gastroenterology Week 2014 (Vienna, Austria), 2014. 10.
- (10) Poster Session :
- 1) Iwakiri K, Hoshino S, Itokawa N, Atsukawa M, Takenouchi N, Kawami N, Sakamoto C : Effects of Asotiamide on Esophageal Motility in Healthy Volunteers : A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Crossover Study. DDW2014 (Chicago, USA), 2014. 5.
- 2) Fujimori S, Hanada R, Hayashida M, Sakurai T, Mitsui K, Ikushima I, Sakamoto C : Celecoxib Monotherapy Developed Fewer Small Intestinal Mucosal Breaks Compared to Loxoprofen and Lansoprazole Concomitant Treatment : A Double-blind, Randomized, Controlled Trial. United European Gastroenterology Week 2014 (Vienna, Austria), 2014. 10.
- (11) Research Forum :
- 1) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健, 松下洋子, 植原義之, 中塚雄久, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, その他1名 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : IL28B minor genotype の C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法における再燃に寄与する因子の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- (12) Young World Symposium :
- 1) 山脇博士, 二神生爾, 新福摩弓, 坂本長逸 : EPS-PDS overlap 群における睡眠障害, QOL, 胃排出能の比較検討の試み. 胃病態機能研究会 (第 46 回) (横浜), 2014. 8.
- (13) コアシンポジウム :
- 1) 鈴木将大, 三井啓吾, 大森 順, 秋元直彦, 遠坂由紀子, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 馬來康太郎, 江原彰仁, 米澤真興, 田中 周<sup>2)</sup>, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 消化器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 消化器内科) : 小腸癌の内視鏡診断と予後. 日本消化管学会学術集会 (第 11 回) (東京), 2015. 2.
- (14) セッション :
- 1) 安井大祐<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 山口英亘<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 川本智章, 谷谷信彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科学) : 肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓術における加温ミリプラチンの治療効果及び安全性に関する検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- (15) ハンズオンセッション :
- 1) 川本智章 : 腹部超音波検査. 消化器病学会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- (16) 医療パネルディスカッション :
- 1) 藤森俊二, 坂本長逸 : 地域医療における若年医師の実態. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- (17) 主題 :
- 1) 鈴木将大, 三井啓吾, 秋元直彦, 大森 順, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 馬來康太郎, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸濾胞性リンパ腫に随伴する小腸狭窄の 2 例. 日本消化吸収学会総会 (第 45 回) (東京), 2014. 11.
- 2) 藤森俊二, 大森 順, 秋元直彦, 鈴木将大, 遠坂由紀子, 小杉友紀, 馬來康太郎, 春日裕介, 松浦陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, その他 3 名 : 潰瘍性大腸炎の症状緩和における probiotics, prebiotics 単独投与および同時投与 (synbiotics) の比較検討. 日本消化吸収学会総会 (第 45 回) (東京), 2014. 11.

(18) 症例検討：

- 1) 高木信介, 江原彰仁, 三井啓吾, 秋元直彦, 大森 順, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸：胸腺腫合併の重症筋無力症患者に発症した原因不明の腸炎の1例. 小腸内視鏡研究会 (第19回) (東京), 2015. 2.

(19) 要望演題：

- 1) 安良岡高志, 福田 健, 榎原義之, 金沢秀典, 新井泰央, 橋本知実, 松下洋子, 張本滉智, 厚川正則, 川本智章, 中塚雄久, 坂本長逸：バッドキアリ症候群に対しTIPSを施行した1例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第21回) (東京), 2014. 9.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説：

- 1) Shimada N<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Atsukawa M<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Ika M<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>1)</sup>, Kondo C<sup>3)</sup>, Sakamoto C, Tanaka Y<sup>5)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup> (1) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, Chiba, Japan, (2) Institute of Clinical Medicine and Research, Jikei University, School of Medicine, Kashiwa, Chiba, Japan, (3) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Inzai, Chiba, Japan, (4) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Katsushik, (5) Department of Virology and Liver unit, Nagoya City University, Graduate School of Medical Sciences, Mizuho, Nagoya, Japan) :  $\alpha$ -Fetoprotein is a surrogate marker for predicting treatment failure in telaprevir-based triple combination therapy for genotype 1b chronic hepatitis C Japanese patients with the IL28B minor genotype. J Med Virol. 2014 ; 86 (3) : 461-472.
- 2) 新福摩弓<sup>1,2)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, (2) 伊利医院) : 大学病院とクリニック受診者における機能性ディスぺプシアの疫学調査：自己記入式アンケート (GSRs, SF-8, PSQI, STAI, 食習慣) を用いて. Progress in Medicine 2014 ; 34 (3) : 404-406.

#### 追加分原著：

- 1) 坂本長逸：薬剤起因性小腸粘膜傷害と消化吸収：腸内細菌の役割. 消化と吸収 2014 ; 36 (2) : 206-213.
- 2) Harimoto H<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Nakatsuka K, Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Sakamoto C, Takahashi H<sup>1)</sup> (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Inactivation of tumor-specific CD8+CTLs by tumor-infiltrating tolerogenic dendritic cells. Immunol Cell Biol. 2013 ; 91 (9) : 545-555.
- 3) Futagami S, Yamawaki H, Izumi N, Shimpuku M, Kodaka Y, Wakabayashi T, Nagoya H, Shindo T, Kawagoe T, Gudis K, Itoh T, Sakamoto C : Impact of sleep disorders in Japanese patients with functional dyspepsia (FD) : Nizatidine improves clinical symptoms, gastric emptying and sleep disorders in FD patients. J Gastroenterol Hepatol. 2013 ; 28 (8) : 1314-1320.

## [千葉北総病院消化器内科]

### 研究概要

上部消化管領域では、食道癌・胃癌の化学療法、早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療、難治性の胃食道逆流症患者に対する病態検査および病態に基づいた治療を行っている。また新規導入した食道内圧検査により、原因不明な嚥下困難症例の診断・治療も開始している。消化管領域では、早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を行っており、原因不明の消化管出血患者に対するカプセル内視鏡検査も施行している。肝・胆・膵領域では、肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法、C型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法、総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Furuta K<sup>1)</sup>, Kohata Y<sup>2)</sup>, Fujiwara Y<sup>2)</sup>, Sugimoto M<sup>3)</sup>, Uotani T<sup>3)</sup>, Yamade M<sup>3)</sup>, Sahara S<sup>3)</sup>, Ichikawa H<sup>3)</sup>, Furuta T<sup>4)</sup>, Nio K<sup>5)</sup>, Iwakiri R<sup>5)</sup>, Inamori M<sup>6)</sup>, Kawamura O<sup>7)</sup>, Kusano M<sup>8)</sup>, Iwakiri K<sup>10)</sup>, et al. (1) Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, (2) Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, (3) First Department of Medicine, Hamamatsu University School of Medicine, (4) Center for Clinical Research, Hamamatsu University School of Medicine, (5) Department of Internal Medicine, Saga Medical School, (6) Gastroenterology Division, Yokohama City University Hospital, (7) Department of Gastroenterology, Gunma University Hospital, (8) Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University Hospital, (9) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, (10) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital,

- and others) : Intra-gastric pH following single oral administrations of rabeprazole and esomeprazole : double-blind cross-over comparison. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition* 2014 ; 55 (3) : 178-183.
- 2) Nakagawa A<sup>1)</sup>, Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>3)</sup>, Shimada N<sup>2)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>5)</sup>, Matsushita Y<sup>5)</sup>, Fukuda T<sup>5)</sup>, Nakatsuka K<sup>5)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C<sup>5)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup>, et al. (1) Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, (3) Core Research Facilities for Basic Science, Research Center for Medical Sciences, Jikei University School of Medicine, (4) Jikei University School of Medicine Katsusika Medical Center, Division of Gastroenterology and Hepatology, (5) Division of Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School) : Relationship between HCV dynamics and sustained virological responses in chronic hepatitis C genotype 1b patients treated with telaprevir-based triple therapy. *European journal of gastroenterology & hepatology* 2014 ; 26 (12) : 1329-1334.
- 3) Kuribayashi S<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>3)</sup>, Kawada A<sup>1)</sup>, Kawami N<sup>4)</sup>, Hoshino S<sup>3)</sup>, Takenouchi N<sup>4)</sup>, Hosaka H<sup>1)</sup>, Shimoyama Y<sup>1)</sup>, Kawamura O<sup>5)</sup>, Yamada M<sup>1)</sup>, Kusano M<sup>5)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Gunma University Hospital, (2) Department of Gastroenterology and Hepatology, National Hospital Organization Numata National Hospital, (3) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (4) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Hospital, (5) Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University Hospital) : Variant parameter values-as defined by the Chicago Criteria-produced by ManoScan and a new system with Unisensor catheter. *Neurogastroenterology & Motility* 2015 ; 27 (2) : 188-194.
- 4) Sano H<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>1,2)</sup>, Kawami N<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, (2) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Mechanisms of acid reflux and how refluxed Acid extends proximally in patients with non-erosive reflux disease. *Digestion* 2014 ; 90 (2) : 108-115.
- 5) Sakata Y<sup>1)</sup>, Tominaga K<sup>2)</sup>, Kato M<sup>3)</sup>, Takeda H<sup>4)</sup>, Shimoyama Y<sup>5)</sup>, Takenouchi T<sup>6)</sup>, Iwakiri R<sup>7)</sup>, Furuta K<sup>8)</sup>, Sakurai K<sup>9)</sup>, Iwakiri K<sup>10)</sup>, The G-Pride Study Group, et al. (1) Department of Internal Medicine and Gastroenterology, Saga Medical School, (2) Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, (3) Division of Endoscopy, Hokkaido University Hospital, (4) Department of Pathophysiology and Therapeutics, Hokkaido University Faculty of Pharmaceutical Sciences, (5) Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University Hospital, (6) Second Department of Internal Medicine, Osaka Medical College, (7) Department of Internal Medicine and Gastrointestinal Endoscopy, Saga Medical School, (8) Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, (9) Department of Gastroenterology, Kumamoto University Graduate School of Medicine, Kumamoto, (10) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Clinical characteristics of elderly patients with proton pump inhibitor-refractory non-erosive reflux disease from the G-PRIDE study who responded to rikkunshito. *BMC Gastroenterology* 2014 ; 2 (14) : 116-125.
- 6) Abe H<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Atsukawa M<sup>4)</sup>, Kato K<sup>3)</sup>, Takaguchi K<sup>5)</sup>, Asano T<sup>6)</sup>, Chuganji Y<sup>6)</sup>, Sakamoto C<sup>7)</sup>, Toyoda H<sup>8)</sup>, Kumada T<sup>8)</sup>, Ide T<sup>9)</sup>, Sata M<sup>9)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, (2) Institute of Clinical Medicine and Research, The Jikei University School of Medicine, (3) Department of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, (4) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (5) Department of Hepatology, Kagawa Prefectural Central Hospital, (6) Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, (7) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, (8) Department of Gastroenterology, Ogaki Municipal Hospital, (9) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine) : Predictors of response to 24-week telaprevir-based triple therapy for treatment-naïve genotype 1b chronic hepatitis C patients. *Gastroenterology Research and Practice* 2014 ; 2014 (Article ID 549709).
- 7) Takubo K<sup>1,2)</sup>, Vieth M<sup>7)</sup>, Aida J<sup>1,2)</sup>, Matsutani T<sup>3)</sup>, Hagiwara N<sup>3)</sup>, Iwakiri K<sup>4)</sup>, Kumagai Y<sup>5)</sup>, Hongo M<sup>6)</sup>, Hoshihara Y<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1,2)</sup> (1) Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (2) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, (3) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, (4) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (5) Department of Digestive Tract and General Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, (6) Kurokawa General Hospital, (7) Institute of Pathology, Klinikum Bayreuth, Bayreuth, Germany) : Histopathological diagnosis of adenocarcinoma in Barrett's esophagus. *Digestive Endoscopy* 2014 ; 26 (3) : 322-330.
- 8) Abe H<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Atsukawa M<sup>4)</sup>, Kato K<sup>3)</sup>, Takaguchi K<sup>5)</sup>, Asano T<sup>6)</sup>, Chuganji Y<sup>6)</sup>, Sakamoto C<sup>7)</sup>, Toyoda H<sup>8)</sup>, Kumada T<sup>8)</sup>, Ide T<sup>9)</sup>, Sata M<sup>9)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Inter-

- nal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research, The Jikei University School of Medicine, Kashiwa City, <sup>3)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, <sup>4)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>5)</sup> Department of Hepatology, Kagawa Prefectural Central Hospital, <sup>6)</sup> Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, <sup>7)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, <sup>8)</sup> Department of Gastroenterology, Ogaki Municipal Hospital, <sup>9)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine) : Factors associated with sustained virological response in 24-week telaprevir-based triple therapy for chronic hepatitis C genotype 1b patients with the IL28B minor genotype. *Hepatology Research* 2014.
- 9) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Fukuda T<sup>4)</sup>, Matsushita Y<sup>4)</sup>, Narahara Y<sup>4)</sup>, Osada Y<sup>6)</sup>, Yamaguchi H<sup>5)</sup>, Nakatsuka K<sup>4)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>4)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, <sup>4)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology and Hepatology, <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Hematology, Nippon Medical School, <sup>6)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Hakujuikai Memorial Hospital) : Effect of fluvastatin on 24-week telaprevir-based combination therapy for hepatitis C virus genotype 1b-infected chronic hepatitis C. *European journal of gastroenterology & hepatology* 2014 ; 26 (7) : 781-787.
- 10) Taki Y<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Narahara Y<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1, 2)</sup>, Kondo C<sup>1, 2)</sup>, Fukuda T<sup>1)</sup>, Harimoto H<sup>1)</sup>, Matsushita Y<sup>1)</sup>, Kidokoro H<sup>1)</sup>, Katakura T<sup>1)</sup>, Atsukawa M<sup>1, 2)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Predictive factors for improvement of ascites after transjugular intrahepatic portosystemic shunt in patients with refractory ascites. *Hepatology Research* 2014 ; 44 (8) : 871-877.
- 11) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C<sup>5)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>5)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei University School of Medicine, Kashiwa, <sup>3)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, Matsudo, <sup>4)</sup> Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Division of Gastroenterology and Hepatology, <sup>5)</sup> Nippon Medical School, Division of Gastroenterology and Hepatology) : Serum 25 (OH) D<sub>3</sub> levels affect treatment outcomes for telaprevir/peg-interferon/ribavirin combination therapy in genotype 1b chronic hepatitis C. *Digestive and Liver Disease* 2014 ; 46 (8) : 738-743.
- 12) Tominaga K<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Takeda H<sup>3)</sup>, Shimoyama Y<sup>4)</sup>, Umegaki E<sup>5)</sup>, Iwakiri R<sup>6)</sup>, Furuta K<sup>7)</sup>, Sakurai K<sup>8)</sup>, Iwakiri K<sup>9)</sup>, G-Pride Study Group, et al. (1) Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Division of Endoscopy, Hokkaido University Hospital, Sapporo, <sup>3)</sup> Department of Pathophysiology and Therapeutics, Hokkaido University Faculty of Pharmaceutical Sciences, Sapporo, <sup>4)</sup> Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University Hospital, Maebashi, <sup>5)</sup> Second Department of Internal Medicine, Osaka Medical College, Takatsuki, <sup>6)</sup> Department of Internal Medicine and Gastrointestinal Endoscopy, Saga Medical School, <sup>7)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Shimane University School of Medicine, <sup>8)</sup> Department of Gastroenterology, Kumamoto University Graduate School of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor : the G-PRIDE study. *Journal of Gastroenterology* 2014 ; 49 (10) : 1392-1405.
- 13) Kikuchi K<sup>1, 3)</sup>, Akiba T<sup>1)</sup>, Nitta K<sup>2)</sup>, Masakane I<sup>8)</sup>, Ando R<sup>4)</sup>, Izumi N<sup>5)</sup>, Atsukawa M<sup>9)</sup>, Yamazaki C<sup>10)</sup>, et al. (1) Department of Blood Purification, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, <sup>3)</sup> Shimoochiai Clinic, Tokyo, <sup>4)</sup> Department of Nephrology, Musashino Red Cross Hospital, <sup>5)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Musashino Red Cross Hospital, <sup>6)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Showa University School of Medicine, Tokyo, <sup>7)</sup> Division of Nephrology, Department of Medicine, Showa University School of Medicine, Tokyo, <sup>8)</sup> Yabuki Shima Clinic, Yamagata, <sup>9)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>10)</sup> Masuko Clinic Subaru, Aichi) : Multicenter study of pegylated interferon  $\alpha$ -2a monotherapy for hepatitis C virus-infected patients on hemodialysis : REACH study. *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 2014 ; 18 (6) : 603-611.
- 14) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Shimada N<sup>3)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Nakagawa A<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>4)</sup>, Fukuda T<sup>4)</sup>, Matsushita Y<sup>4)</sup>, Narahara Y<sup>4)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>4)</sup>, Kawamoto C<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>4)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research (ICMR), Jikei

University School of Medicine, Kashiwa, <sup>3</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, <sup>4</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Serum 25-hydroxyvitamin D3 levels affect treatment outcome in pegylated interferon/ribavirin combination therapy for compensated cirrhotic patients with hepatitis C virus genotype 1b and high viral load. *Hepatology Research* 2014 ; 44 (13) : 1277-1285.

- 15) Shimada N<sup>1</sup>, Tsubota A<sup>2</sup>, Atsukawa M<sup>3</sup>, Abe H<sup>4</sup>, Ide T<sup>8</sup>, Takaguchi K<sup>9</sup>, Chuganji Y<sup>5</sup>, Toyoda H<sup>10</sup>, Yoshizawa K<sup>6</sup>, Ika M<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Kato K<sup>1</sup>, Kumada T<sup>10</sup>, Sakamoto C<sup>7</sup>, Aizawa Y<sup>4</sup>, et al. <sup>1</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatsudo Central General Hospital, <sup>2</sup> Institute of Clinical Medicine and Research, Jikei University School of Medicine, Kashiwa, <sup>3</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>4</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Tokyo, <sup>5</sup> Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital, <sup>6</sup> Department of Gastroenterology, Machida Municipal Hospital, Tokyo, <sup>7</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>8</sup> Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Kurume University School of Medicine, <sup>9</sup> Department of Hepatology, Kagawa Prefectural Central Hospital, <sup>10</sup> Department of Gastroenterology, Ogaki Municipal Hospital, Ogaki) : A 48-week telaprevir-based triple combination therapy improves sustained virological response rate in previous non-responders to peginterferon and ribavirin with genotype 1b chronic hepatitis C : A multicenter study. *Hepatology Research* 2014 ; 44 (14) : 386-396.

(2) 総説 :

- 1) 田中由理子<sup>1</sup>, 岩切勝彦<sup>2,1</sup>, 川見典之<sup>1</sup>, 佐野弘仁<sup>1</sup>, 梅澤まり子<sup>1</sup>, 竹之内菜菜<sup>1</sup>, 星野慎太郎<sup>1</sup>, 坂本長逸<sup>1</sup> (1) 付属病院消化器内科学, <sup>2</sup> 千葉北総病院消化器内科) : 食道アカラシア内視鏡拡張術. *Modern Physician* 2014 ; 34 (5) : 475-477.
- 2) 星野慎太郎<sup>1,2</sup>, 岩切勝彦<sup>1,2</sup>, 竹之内菜菜<sup>2</sup>, 梅澤まり子<sup>2</sup>, 川見典之<sup>2</sup>, 坂本長逸<sup>2</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2</sup> 付属病院消化器内科学) : NERD と GERD の診断と治療最前線. *診断と治療* 2014 ; 102 (7) : 957-962.
- 3) 星野慎太郎<sup>1,2</sup>, 岩切勝彦<sup>1,2</sup>, 川見典之<sup>2</sup>, 田中由理子<sup>2</sup>, 佐野弘仁<sup>2</sup>, 梅澤まり子<sup>2</sup>, 竹之内菜菜<sup>2</sup>, 坂本長逸<sup>2</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2</sup> 付属病院消化器内科学) : 食道アカラシアの治療戦略 (バルーン拡張術) : バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴. *消化器内科* 2014 ; 59 (5) : 405-410.

(3) 症例報告 :

- 1) Nomura T<sup>1</sup>, Iwakiri K<sup>2</sup>, Uchida E<sup>1</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Thoracoscopic treatment of a patient with jackhammer esophagus. *Digestive Endoscopy* 2014 ; 26 (6) : 753-754.

## 著 書

- 1) 佐野弘仁<sup>1</sup>, 岩切勝彦<sup>2</sup> (1) 東京都保健医療公社多摩北部医療センター消化器内科, <sup>2</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : [分担] ステロイドの投与が有効であった好酸球性食道炎の1例. *好酸球性消化管疾患診療ガイド* (編集: 木下芳一), 2014 ; pp82-85, 南江堂.
- 2) 岩切勝彦<sup>1</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科) : [分担] II 疾患・1 消化管・アカラシア. *消化器病診療第2版* (監修: 一般財団法人日本消化器病学会 ・ 編集: 「消化器病診療 (第2版)」編集委員会), 2014 ; pp25-27, 医学書院.

## 学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 岩切勝彦, 木下芳一<sup>1</sup> (1) 島根大学第2内科) : 完成間近のGERD (胃食道逆流症) ガイドライン改訂と新ガイドライン作成作業の現状. *日本消化器病学会総会 (第100回)* (東京), 2014. 4.
- 2) 厚川正則<sup>1</sup>, 島田紀朋<sup>2</sup>, 坂本長逸<sup>3</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2</sup> 新松戸中央総合病院, <sup>3</sup> 日本医科大学消化器内科学) : Telaprevir3 剤併用療法に血清 25 (OH) D<sub>3</sub> が与える影響 (難治性C型肝炎治療の展望). *日本消化器病学会総会 (第100回)* (東京), 2014. 4.
- 3) 川見典之<sup>1</sup>, 岩切勝彦<sup>2</sup>, 坂本長逸<sup>1</sup> (1) 付属病院消化器内科学, <sup>2</sup> 千葉北総病院消化器内科) : PPI 微量抵抗性 NERD 患者の病態と治療 (難治性 GERD の病態と治療). *日本消化器病学会総会 (第100回)* (東京), 2014. 4.
- 4) 岩切勝彦 : 逆流性食道炎発症の原因は下部食道括約筋の機能異常なのか. *日本平滑筋学会総会 (第56回)* (横浜), 2014. 8.
- 5) 岩切勝彦 : GERD の病態と治療 : H<sub>2</sub> ブロッカーの位置付け. *日本消化器病学会大会 (第56回)* (神戸), 2014. 10.
- 6) 島田紀朋<sup>1</sup>, 厚川正則<sup>2</sup>, 吉澤 海<sup>3</sup> (1) 千葉徳洲会病院消化器内科, <sup>2</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>3</sup> 町田市民病院消化器科) : DAAs/PR3 剤併用療法の治療成績から見た今後の治療戦略. *日本肝臓学会東部会 (第40回)* (東京), 2014. 11.
- 7) 鈴木将大<sup>1,3</sup>, 三井啓吾<sup>1</sup>, 大森 順<sup>1</sup>, 秋元直彦<sup>1</sup>, 遠坂由紀子<sup>1</sup>, 小杉友紀<sup>1,2</sup>, 馬來康太郎<sup>1</sup>, 江原彰仁<sup>1</sup>, 米澤真興<sup>1,3</sup>, 田中周<sup>1</sup>, 辰口篤志<sup>1</sup>, 藤森俊二<sup>1</sup>, 坂本長逸<sup>1</sup> (1) 付属病院消化器内科学, <sup>2</sup> 多摩永山病院, <sup>3</sup> 千葉北総病院消化器内科) : 小腸癌の内視



鏡診断と予後. 日本消化管学会総会学術集会 (第 11 回) (東京), 2015. 2.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 川見典之<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1,2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : アカラシアバルーン拡張術の最新の短期及び長期治療成績「アカラシアの治療選択 (拡張術, POEM, LAP)」。日本消化器病学会大会 (第 56 回) (神戸), 2014. 10.
- 2) 島田紀朋<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup> (1) 千葉徳洲会病院・消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科) : DAAs と PR 併用療法の治療成績から見た今後の治療戦略. 日本肝臓学会大会 (第 18 回) (神戸), 2014. 10.
- 3) 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 千葉徳洲会病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科) : C 型慢性肝炎に対する Simeprevir3 剤併用療法において vitaminD のサプリメントは治療早期の HCV RNA 減衰効果を増強する. 日本肝臓学会東部会 (第 40 回) (東京), 2014. 11.

(3) セミナー :

- 1) 岩切勝彦 : 上腹部症状の治療 一見逃さない合併症. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 岩切勝彦 : 重症 GERD の病態と治療. 日本消化器内視鏡学会北陸支部例会 (第 103 回) (福井), 2014. 6.
- 3) 岩切勝彦 : 酸分泌抑制剤のリスク・ベネフィットを再考する. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (神戸), 2014. 10.

(4) ワークショップ :

- 1) 岩切勝彦<sup>1,2)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学) : バルーン拡張術が有効なアカラシア症例の特徴. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 島田紀朋<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>2)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup> (1) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科) : 第一世代プロテアーゼ阻害剤 (TVR) から得られた知見 (プロテアーゼ阻害剤の知見と問題点). 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 3) 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学) : 深呼吸時の下部食道における全周性の狭小部への襞像 (“Esophageal Rosette”) は LES 弛緩不全 (アカラシア) の特徴的内視鏡像である. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (神戸), 2014. 10.

(5) 一般講演 :

- 1) 福田 健<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 柁 卓史<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 金子恵子<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>1)</sup>, その他 1 名 (1) 付属病院消化器内科学) : TIPS による食道静脈瘤内視鏡像の変化. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 張本滉智<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1, 2)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1, 2)</sup>, 柁 卓史<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1, 2)</sup>, 安良岡高志<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 成因別にみた難治性腹水血行動態と TIPS 治療成績 : C 型肝硬変とアルコール性肝硬変の比較. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 3) 橋本知実<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>6)</sup>, 安良岡高志<sup>5)</sup>, 中川 愛<sup>3)</sup>, 糸川典夫<sup>3)</sup>, 近藤千紗<sup>3)</sup>, 張本滉智<sup>4)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 金子恵子<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 川本智章<sup>1)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院, 4) 同愛記念病院, 5) 博慈会記念総合病院, 6) 金澤病院) : 当科における 1 型肝腎症候群症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 4) 新井泰央<sup>1, 2)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1, 2)</sup>, 橋本知実<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1, 2)</sup>, 柁 卓史<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1, 2)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 張本滉智<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1, 2)</sup>, 金子恵子<sup>1)</sup>, その他 3 名 (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 肝硬変例の低 Na 血症に対するトルバプタンの治療経験. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 5) 竹之内菜菜<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 星野慎太郎<sup>2)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 睡眠障害を認め, 夜間胸やけを有する患者に対するラメルテオンの効果に関する Pilot Study. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 6) 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 竹之内菜菜<sup>2)</sup>, 佐野弘仁<sup>2)</sup>, 田中由理子<sup>2)</sup>, 梅澤まり子<sup>2)</sup>, 星原芳雄<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学) : アカラシア患者に観察される “Esophageal Rosette” のバルーン拡張術後の変化. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 7) 中川 愛<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>3)</sup>, 橋本知実<sup>3)</sup>, 福田 健<sup>3)</sup>, 松下洋子<sup>3)</sup>, 城所秀子<sup>3)</sup>, 榎原義之<sup>3)</sup>, 中塚雄久<sup>3)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, 3) 日本医科大学消化器内科学) : 代償性肝硬変に対する peg-IFN/ribavirin 併用療法に血清 25 (OH) D<sub>3</sub> 濃度が与える影響. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 8) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 大森 順<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1, 2)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, その他 1 名 (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 切除不能胃癌症例における予後スケール作成の試み (第 2 報). 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.

- 9) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 鈴木将大<sup>1,2)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1,2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 大腸がんにおけるリン酸化上皮成長因子受容体ファミリーの局在と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 10) 中塚雄久<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>2,4)</sup>, 張本滉智<sup>2)</sup>, 中川 愛<sup>2,4)</sup>, 安良岡高志<sup>2)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 糸川典夫<sup>2,4)</sup>, 枡 卓史<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 高橋秀実<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学, 3) 付属病院微生物学免疫学, 4) 千葉北総病院消化器内科) : Ribavirin の制御性 T 細胞活性調節作用と C 型慢性肝炎治療における意義. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 11) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>4)</sup>, 松下洋子<sup>4)</sup>, 榎原義之<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>4)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, 川本智章<sup>4)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓内科, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器内科, 4) 日本医科大学消化器内科学, 5) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : C 型慢性肝炎 IL28B minor genotype に対する Alfacalcidol 併用 3 剤併用療法についての検討; Pilot Study. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 12) 大森 順<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸本雄太<sup>1)</sup>, 飽本哲兵<sup>1)</sup>, 山脇博士<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 楠正典<sup>1,2)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : 化学療法が著効した高齢 (80 歳以上) 切除不能胃癌の 2 例. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 13) 城所秀子<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 枡 卓史<sup>1)</sup>, 新井泰史<sup>1)</sup>, 竹之内葉菜<sup>2)</sup>, 安良岡高志<sup>2)</sup>, 中川 愛<sup>2,3)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 糸川典夫<sup>2,3)</sup>, 張本滉智<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>2,3)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 武蔵小杉病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学, 3) 千葉北総病院消化器内科) : 当施設でステロイド・核酸アナログ併用治療を行った重症急性 B 型肝炎の臨床的検討. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 14) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>2)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 城所秀子<sup>2)</sup>, 榎原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学) : C 型肝炎合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, 少量 PEG-IFN 併用療法の検討. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 15) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 鈴木将大<sup>1,2)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1,2)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器内科学, 2) 千葉北総病院消化器内科) : ダブルバルーン内視鏡が有用であった小腸憩室 11 症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 16) 安部 宏<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 坂本長逸<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 4) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, 5) 日本医科大学消化器内科学) : C 型慢性肝炎 Naive 症例に対する Telaprevir+Peginterferon+Ribavirin3 剤療法の治療成績. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- 17) Iwakiri K<sup>1)</sup>, Umegaki E<sup>2)</sup>, Hiramatsu N<sup>3)</sup>, Sakurai Y<sup>4)</sup>, Hori T<sup>4)</sup>, Kudou K<sup>4)</sup>, Nishimura A<sup>4)</sup>, Ashida K<sup>5)</sup> (1) Nippon Medical School, 2) Osaka Medical College, 3) Osaka University Graduate School of Medicine, 4) Takeda Pharmaceutical Company, 5) Osaka Saiseikai Nakatsu Hospital) : A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of TAK-438 (20mg Once-Daily) Compared to Lansoprazole (30mg Once-Daily) in Patients with Erosive Esophagitis. Digestive Disease Week (Chicago), 2014. 5.
- 18) Iwakiri K<sup>1,2)</sup>, Hoshino S<sup>1,2)</sup>, Itokawa N<sup>1,2)</sup>, Atsukawa M<sup>1,2)</sup>, Takenouchi N<sup>2)</sup>, Kawami N<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>2)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School) : A comparison of the high resolution manometry systems ManoScan and Starlet (a new system with Unisensor catheter). Digestive Disease Week (Chicago), 2014. 5.
- 19) Umegaki E<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>2)</sup>, Hiramatsu N<sup>3)</sup>, Sakurai Y<sup>4)</sup>, Hori T<sup>4)</sup>, Kudou K<sup>4)</sup>, Nishimura A<sup>4)</sup>, Ashida K<sup>5)</sup> (1) Osaka Medical College, 2) Nippon Medical School, 3) Osaka University Graduate School of Medicine, 4) Takeda Pharmaceutical Company, 5) Osaka Saiseikai Nakatsu Hospital) : A Phase 3, Randomized, Double-Blind, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of TAK-438 (10mg or 20mg Once-Daily) Compared to Lansoprazole (15mg Once-Daily) in a 24-week Maintenance Treatment for Healed Erosive Esophagitis. Digestive Disease Week (Chicago), 2014. 5.
- 20) Kuribayashi S<sup>1,2)</sup>, Iwakiri K<sup>3)</sup>, Kawada A<sup>1)</sup>, Hoshino S<sup>3)</sup>, Kawami N<sup>4)</sup>, Takenouchi N<sup>4)</sup>, Hosaka H<sup>1)</sup>, Shimoyama Y<sup>1)</sup>, Kawamura O<sup>4)</sup>, Yamada M<sup>1)</sup>, Kusano M<sup>5)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Gunma University Hospital, 2) Department of Gastroenterology and Hepatology, National Organization Numata National Hospital, 3) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 4) Department of Gastroenterology, Nippon Medical School Hospital, 5) Department of Endoscopy and Endoscopic Surgery, Gunma University Hospital) : A comparison of the high resolution manometry systems ManoScan and Starlet (a new system with Unisensor catheter). Digestive Disease Week (Chicago), 2014. 5.
- 21) 花田優理子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 星野慎太郎<sup>2)</sup>, 竹之内葉菜<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長

- 逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院消化器肝臓内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院消化器内科) : 内視鏡的な滑脱型裂孔ヘルニアの診断は妥当か : 内視鏡診断と内圧診断との比較. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (神戸), 2014. 10.
- 22) 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 花田優理子<sup>2)</sup>, 梅澤まり子<sup>2)</sup>, 佐野弘仁<sup>2)</sup>, 田中由理子<sup>2)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 星原芳雄<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 付属病院消化器肝臓内科) : アコチアミドの食道運動機能に及ぼす影響. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (神戸), 2014. 10.
- 23) 中川 愛<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1, 4)</sup>, 福田 健<sup>4)</sup>, 松下洋子<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>4)</sup>, 長田祐二<sup>5)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>4)</sup>, 坪田昭人<sup>6)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学消化器内科学, <sup>5)</sup> 博慈会記念総合病院, <sup>6)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : C 型慢性肝炎に対する 3 剤併用療法の HCV RNA 陰性化時期が SVR に与える影響 : 48 週延長投与例も含めた解析. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 24) 島田紀朋<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>2)</sup>, 坪田昭人<sup>3)</sup> (1) 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所) : Non-responders に対する T12PR48 は SVR 率を向上させる. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 25) 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 坪田昭人<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : C 型慢性肝炎に対する IFN-base 治療における血清 25 (OH) D<sub>3</sub> 値の重要性. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 26) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>4)</sup>, 松下洋子<sup>4)</sup>, 楢原義之<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>4)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>4)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医大葛飾医療センター消化器肝臓内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学消化器内科学, <sup>5)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : Peg-IFN/ribavirin/telaprevir 三剤併用療法における再燃に寄与する因子の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 27) 神田達郎<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 篠崎正美<sup>4)</sup>, 三上 繁<sup>5)</sup>, 中本吾晋<sup>1)</sup>, 新井誠人<sup>1)</sup>, 今関文夫<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>6)</sup>, 横須賀收<sup>1)</sup> (1) 千葉大学大学院医学研究院消化器・腎臓内科学, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>4)</sup> 沼津市立病院, <sup>5)</sup> キッコーマン総合病院, <sup>6)</sup> 東京慈恵会医科大学臨床医学研究所) : B 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン療法 : 開始直前 HBe 抗原からみた治療効果の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 28) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 安良岡高志<sup>2)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 城所秀子<sup>2)</sup>, 楢原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 付属病院消化器・肝臓内科) : C 型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, 少量 PEG-IFN 併用療法の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 29) 安部 宏<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 關 伸嘉<sup>1)</sup>, 杉田知典<sup>1)</sup>, 会田雄太<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター臨床医学研究所, <sup>5)</sup> 日本医科大学消化器内科学) : C 型慢性肝炎に対する Telaprevir+Peginterferon+Ribavirin 3 剤療法の治療成績. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 30) 金子恵子<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1, 2)</sup>, 安良岡高志<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1, 2)</sup>, 橋 卓史<sup>1)</sup>, 張本混智<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1, 2)</sup>, 楢原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup>, その他 2 名 (1) 付属病院消化器・肝臓内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院消化器内科) : 当科における Sorafenib 使用成績及び投与開始量の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
- 31) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 楢原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 付属病院消化器肝臓内科) : C 型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, 少量 PEG-IFN 併用療法の検討. 日本肝臓学会大会 (第 18 回) (神戸), 2014. 10.
- 32) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 楢原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 付属病院消化器肝臓内科) : 非代償性肝硬変症例における肝性脳症に対する L-carnitine 製剤の治療効果の検討. 日本肝臓学会大会 (第 18 回) (神戸), 2014. 10.
- 33) 新井泰央<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 大久保知美<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, 川本智章<sup>5)</sup>, 坂本長逸<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, <sup>5)</sup> 日本医科大学消化器肝臓内科) : C 型慢性肝炎における血清 25 (OH) D<sub>3</sub> 濃度の特徴についての検討. 日本肝臓学会大会 (第 18 回) (神戸), 2014. 10.
- 34) 安部 宏<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 坪田昭人<sup>4)</sup>, 關 伸嘉<sup>1)</sup>, 杉田知典<sup>1)</sup>, 会田雄太<sup>1)</sup>, 井家麻紀子<sup>2)</sup>, 相澤良夫<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器・肝臓内科, <sup>2)</sup> 新松戸中央総合病院消化器・肝臓科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, <sup>4)</sup> 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター・臨床医学研究所) : Telaprevir 3 剤療法を導入した IL28B Major genotype の C 型慢性肝炎における非 SVR に関する因子の検討. 日本肝臓学会大会 (第 18 回) (神戸), 2014. 10.
- 35) 吉澤 海<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 厚川正則<sup>3)</sup>, 加藤慶三<sup>4)</sup>, 益井芳文<sup>1)</sup>, 安部 宏<sup>5)</sup>, 白濱圭吾<sup>1)</sup>, 金崎 章<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>6)</sup>, 相澤良夫<sup>5)</sup> (1) 町

- 田市民病院・消化器科, 2) 千葉徳洲会病院・消化器内科, 3) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 4) 新松戸中央総合病院・消化器・肝臓科, 5) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科, 6) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター・臨床医学研究所) : C型慢性肝炎に対するシメプレビル併用 Peg-IFN+RBV 療法における前治療反応別の早期治療効果についての検討. 日本肝臓学会大会 (第18回) (神戸), 2014. 10.
- 36) 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 吉澤 海<sup>3)</sup>, 安部 宏<sup>4)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>4)</sup>, 坂本長逸<sup>6)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 町田市民病院消化器科, 4) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科, 5) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 6) 日本医科大学消化器肝臓内科) : Simeprevir3 剤併用療法における vitaminD 併用療法の治療初期効果について. 日本肝臓学会大会 (第18回) (神戸), 2014. 10.
- 37) 中川 愛<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 吉澤 海<sup>4)</sup>, 浅野 徹<sup>5)</sup>, 大久保雄介<sup>6)</sup>, 荒木真裕<sup>7)</sup>, 池上 正<sup>8)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>9)</sup>, 忠願寺義通<sup>5)</sup>, 坪田昭人<sup>10)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 千葉徳洲会病院消化器内科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター・消化器・肝臓内科, 4) 町田市民病院, 5) 東京都立墨東病院, 6) 済生会横浜市東部病院, 7) 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター, 8) 東京医科大学茨城医療センター, 9) 日本医科大学附属病院, 10) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター基盤研究施設) : 我が国における C型慢性肝炎患者の血清 25 (OH) D<sub>3</sub> 濃度の特徴. 日本肝臓学会東部会 (第40回) (東京), 2014. 11.
- 38) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 城所秀子<sup>2)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 榎原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院・消化器・肝臓内科) : C型肝硬変合併進行肝細胞癌に対する Sorafenib, 少量 Peg-IFN 併用療法の検討. 日本肝臓学会東部会 (第40回) (東京), 2014. 11.
- 39) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 城所秀子<sup>2)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 榎原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院・消化器・肝臓内科) : B型慢性肝炎に対する Peg-IFN 単独療法, sequential 療法の検討. 日本肝臓学会東部会 (第40回) (東京), 2014. 11.
- 40) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 新井泰央<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 榎原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院・消化器・肝臓内科) : 非代償性肝硬変症例における高アンモニア血症に対する L-carnitine 製剤の治療効果の検討. 日本肝臓学会東部会 (第40回) (東京), 2014. 11.
- 41) 新井泰央<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 近藤千紗<sup>1)</sup>, 橋本知実<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 金子恵子<sup>2)</sup>, 榎原義之<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院・消化器・肝臓内科) : 実臨床における肝性浮腫に対する Tolvaptan の使用経験 : 第3相試験との比較. 日本肝臓学会東部会 (第40回) (東京), 2014. 11.
- 42) Nakagawa A<sup>1)</sup>, Atsukawa M<sup>1)</sup>, Shimada N<sup>2)</sup>, Tsubota A<sup>3)</sup>, Abe H<sup>4)</sup>, Kondo C<sup>1)</sup>, Itokawa N<sup>1)</sup>, Kato K<sup>2)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Kawamoto C<sup>5)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup>, Sakamoto C<sup>5)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Division of Gastroenterology and Hepatology, Shinmatusdo Central General Hospital, 3) Institution of Clinical Medicine and Research, Jikei University School of Medicine, Chiba, 4) Division of Gastroenterology and Hepatology, Jikei University School of Medicine Katsushika Medical Center, Tokyo, 5) Division of Gastroenterology and Hepatology, Nippon Medical School) : Effects of serum 25 (OH) D<sub>3</sub> levels on treatment response to telaprevir/pegylated-interferon/ribavirin combination therapy for chronic hepatitis C. The International Liver Congress 2014, annual meeting of the European Association for the Study of the Liver (49th) (London), 2014. 4.
- 43) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>4)</sup>, 松下洋子<sup>4)</sup>, 榎原義之<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>4)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>4)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医大葛飾医療センター消化器肝臓内科, 4) 日本医科大学消化器内科学, 5) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : Peg-IFN/ribavirin/telaprevir 三剤併用療法における再燃に寄与する因子の検討. 日本肝臓学会総会 (第50回) (東京), 2014. 5.
- (6) Research Forum :
- 1) 近藤千紗<sup>1)</sup>, 厚川正則<sup>1)</sup>, 島田紀朋<sup>2)</sup>, 安部 宏<sup>3)</sup>, 中川 愛<sup>1)</sup>, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 加藤慶三<sup>2)</sup>, 福田 健<sup>4)</sup>, 松下洋子<sup>4)</sup>, 榎原義之<sup>4)</sup>, 中塚雄久<sup>4)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>4)</sup>, 坪田昭人<sup>5)</sup>, 相澤良夫<sup>3)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器内科, 2) 新松戸中央総合病院消化器肝臓科, 3) 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター消化器肝臓内科, 4) 日本医科大学消化器内科学, 5) 東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター) : IL28B minor genotype の C型慢性肝炎に対する 3剤併用療法における再燃に寄与する因子の検討. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京), 2014. 4.
- (7) 主題セッション :
- 1) 鈴木将大<sup>1,2)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 秋元直彦<sup>2)</sup>, 大森 順<sup>2)</sup>, 遠坂由紀子<sup>2)</sup>, 小杉友紀<sup>2)</sup>, 馬來康太郎<sup>2)</sup>, 江原彰仁<sup>2)</sup>, 小林 剛<sup>2)</sup>, 瀬尾継彦<sup>2)</sup>, 米澤真興<sup>2)</sup>, 田中 周<sup>1,2)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院消化器内科, 2) 付属病院消化器内科学) : 小腸濾胞性リンパ腫に随伴する小腸狭窄の2例. 日本消化吸収学会総会 (第45回) (東京), 2014. 11.

## 論文

### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 星野慎太郎<sup>1,2)</sup>，岩切勝彦<sup>1,2)</sup>，竹之内菜菜<sup>2)</sup>，川見典之<sup>2)</sup>，佐野弘仁<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院消化器内科， <sup>2)</sup> 付属病院消化器内科学)：食道アカラシアの分類. 消化器内視鏡 2014；26 (1)：33-35.

## 8. 内分泌糖尿病代謝内科学分野

### [付属病院糖尿病・内分泌代謝内科]

#### 研究概要

基礎研究：本年度も選抜交配により樹立した高脂肪食投与後の耐糖能が異なる2系統のマウス（SDG-P/R系）の解析を進め、耐糖能を指標とした選抜交配によって摂食行動や体重が変化することを国際学術誌に発表した。SDG-P/R系マウスを用いた研究として、摂食行動の規定因子の解析、遺伝的なインスリン分泌能の規定因子の解析、経口血糖降下薬の抗動脈硬化作用に関する検証が進行中である。また、グルコース連続経口投与によって、動脈硬化モデル動物の作成が可能であることを見出し、国際学会にて報告した。昨年引き続き、手術摘出検体を用いたインスリン産生腫瘍におけるGHRP2によるインスリン分泌刺激機構の解析、アルドステロン産生腫瘍におけるPTHを介したアルドステロン分泌刺激機構の解析を行っている。臨床研究：好酸球増多を伴うインスリン抗体産生と高血糖の改善にステロイド治療が有用であることを見出し、国際学術誌に発表した。また、2型糖尿病患者での食事制限による減量効果と食事誘発性熱産生量の関係、インスリンノーマ診断におけるGHRP2負荷試験の有用性、原発性アルドステロン症の病態診断における各種負荷試験の有用性を検証し、国際学会にて報告した。昨年度に引き続き、インスリン導入時の開始単位数設定式の開発、各種内分泌疾患における治療前後での血管機能評価、急性冠症候群におけるアキレス腱肥厚の頻度調査、DPP4阻害薬の脂質代謝および高齢者糖尿病治療への有用性、血清PCOOHと冠動脈硬化の関係、心臓周囲脂肪組織面積と代謝パラメータの解析といった研究を行っている。また今年度からは、甲状腺機能異常症での脂質合成・吸収マーカーの変化、ミグリオールの減量効果とその機序、PIT1抗体に関する研究が開始されている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ishigaki Y<sup>1)</sup>, Kono S<sup>2,3)</sup>, Katagiri H<sup>1)</sup>, Oka Y<sup>1)</sup>, Oikawa S, Ntpp Investigators (1) Division of Metabolism and Diabetes, Tohoku University, Graduate School of Medicine, 2) Department of Preventive Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, 3) National Institute of Health and Nutrition) : Elevation of HDL-C in Response to Statin Treatment is Involved in the Regression of Carotid Atherosclerosis. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2014 ; 21 (10) : 1055-1065.
- 2) Ikeda Y<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>2)</sup>, Teramoto T<sup>3)</sup>, Uchiyama S<sup>4)</sup>, Yamazaki T<sup>5)</sup>, Oikawa S, Sugawara M<sup>6)</sup>, Ando K<sup>7)</sup>, Murata M<sup>8)</sup>, Yokoyama K<sup>9)</sup>, Ishizuka N<sup>10)</sup> (1) Graduate School of Advanced Science and Engineering, Waseda University, 2) Department of Cardiology, Shin-Oyama City Hospital, 3) Teikyo Academic Research Center, Teikyo University, 4) Clinical Research Center for Medicine, International University of Health and Welfare, 5) Clinical Research Support Center, Center for Epidemiology and Preventive Medicine, The University of Tokyo Hospital, 6) Department of Internal Medicine, Sugawara Medical Clinic, 7) Department of Internal Medicine, Kitamura Memorial Clinic, 8) Department of Laboratory Medicine, Keio University School of Medicine, 9) Department of Hematology, Tokai University Hachioji Hospital, 10) Clinical Trial Department, Cancer Institute Hospital) : Low-Dose Aspirin for Primary Prevention of Cardiovascular Events in Japanese Patients 60 Years or Older With Atherosclerotic Risk Factors. *The Journal of the American Medical Association* 2014 ; 312 (23) : 2510-2520.
- 3) Kato S<sup>1)</sup>, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Asai A, Nagao M, Nagashima K<sup>2)</sup>, Oikawa S, Miyazawa T<sup>1)</sup> (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural science, Tohoku University, 2) Cardiovascular Institute) : Liquid chromatography-tandem mass spectrometry determination of human plasma 1-palmitoyl-2-hydroperoxyoctadecadienoyl-phosphatidylcholine isomers via promotion of sodium adduct formation. *Analytical Biochemistry* 2015 ; 471 : 51-60.

##### (2) 総説：

- 1) 山口祐司, 小林俊介, 長尾元嗣, 及川眞一：女性のメタボリック症候群 中高年女性の耐糖能異常. *臨床 婦人科産科* 2014 ; 68 (3) : 314-320.
- 2) 長尾元嗣, 浅井 明, 及川眞一：高血糖と動脈硬化 実験動物からのアプローチ. *糖尿病合併症* 2014 ; 28 (1) : 66-69.
- 3) 仲村優子, 及川眞一：脂質異常症の病態とメカニズム. *調剤と情報* 2014 ; 20 (5) : 12-18.
- 4) 長尾元嗣, 及川眞一：グリコアルブミン測定の意義. *BIO Clinica* 2014 ; 29 (7) : 86 (698) -90 (702).
- 5) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川眞一：脂肪摂取と2型糖尿病. *オレオサイエンス* 2015 ; 15 (2) : 21-30.
- 6) 稲垣 毅<sup>1)</sup>, 稲垣 (谷村) 恭子<sup>1,2)</sup>, 酒井寿郎<sup>1)</sup> (1) 東京大学 先端科学技術研究センター代謝医学分野, 2) 日本医科大学 糖尿病内分泌代謝内科) : ゲノム・エピゲノムからみた動脈硬化症. *臨床検査* 2015 ; 59 (2) : 110-118.
- 7) 仲村優子, 稲垣恭子, 及川眞一：摂食調節因子とその作用機序 摂食抑制因子 脂肪細胞由来 レジスチン (III 肥満・肥満症の調節, 発症に関わる因子). *日本臨床 最新肥満症学* 2014 ; 72 (増刊4) : 241-245.

(3) 症例報告：

- 1) 真山大輔, 長尾元嗣, 山口祐司, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>2)</sup>, 及川眞一, 杉原 仁 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 付属病院病理部) : ミトコンドリア糖尿病の1例. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (4) : 162-163.

著 書

- 1) 杉原 仁 : [分担] 副腎疾患 4章 内分泌疾患. スポーツにおける薬物治療 処方と服薬指導 (日本臨床スポーツ医学会 学術委員会), 2014 ; pp92-96, (株) オーム社.
- 2) 稲垣恭子, 及川眞一 : [分担] 血清脂質・リポ蛋白 第6章 臨床検査の意義と評価法. 糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第6版 (日本糖尿病学会), 2014 ; pp113-118, (株) 診断と治療社.
- 3) 稲垣恭子, 及川眞一 : [分担] 治療 第18章 脂質異常症. 糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第6版 (日本糖尿病学会), 2014 ; pp423-433, (株) 診断と治療社.
- 4) 仲村優子, 小林俊介, 稲垣恭子, 及川眞一 : [分担] 第4節 アポ E. series モデル動物利用マニュアル 脂質代謝異常と関連疾患 上巻 (尾池雄一, 佐々木雄彦, 村上 誠, 矢作直也), 2015 ; pp386-396, (株) エル・アイ・シー.
- 5) 周東佑樹, 及川眞一 : [分担] 糖尿病では, 糖化 LDL のレベルは高まりますか 糖尿病・血管・循環器関連疾患. アンチエイジングのための100の質問 (太田博明, 山岸昌一), 2014 ; pp72-73, (株) メディカルレビュー社.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 長尾元嗣 : Gene-Environment Interaction に基づいた新しい糖尿病モデルマウスの開発とその解析. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
- 2) 杉原 仁 : 成長ホルモンに関する研究. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 稲垣恭子, 及川眞一 : 糖尿病における脂質異常症管理のEBM (糖尿病合併症とEBM). 日本糖尿病合併症学会 (第29回) (東京), 2014. 10.

(3) セミナー：

- 1) 稲垣恭子 : 脂質異常症. 平成26年度健康運動指導士養成講習会 B カテゴリー (東京), 2014. 12.

(4) 一般講演：

- 1) 長峯朋子, 武市奈緒美, 高野綾子, 竹光秀司, 山本雅昭, 長尾元嗣, 若栗稔子, 中島 泰, 杉原 仁, 及川眞一 : 妊娠中の甲状腺機能亢進症の5例. 日本内分泌学会学術総会 (第87回) (福岡), 2014. 4.
- 2) 高野綾子, 山本雅昭, 武市奈緒美, 長峯朋子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃<sup>1)</sup>, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科) : 原発性アルドステロン症における4種負荷試験の有用性の検討. 日本内分泌学会学術総会 (第87回) (福岡), 2014. 4.
- 3) 武市奈緒美, 杉原 仁, 長峯朋子, 高野綾子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 原田太郎, 稲垣恭子, 田村秀樹, 及川眞一 : Cushing 症候群におけるGHRP 試験の有用性の検討. 日本内分泌学会学術総会 (第87回) (福岡), 2014. 4.
- 4) 長尾元嗣, 浅井 明, 稲葉 渉<sup>1)</sup>, 小林俊介, 周東佑樹, 真山大輔, 杉原 仁, 八木橋操六<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 弘前大学大学院医学系研究科分子病態学病理学講座) : 遺伝的な臍島機能によって規定される高脂肪食誘導性耐糖能異常の出現 : 新規選抜交配モデルマウスでの解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 5) 小林俊介, 長尾元嗣, 浅井 明, 川原百代, 周東佑樹, 真山大輔, 杉原 仁, 及川眞一 : SGLT2 阻害薬 TA-1887 の高脂肪食による耐糖能異常への効果の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 6) 真山大輔, 長尾元嗣, 浅井 明, 周東佑樹, 小林俊介, 杉原 仁, 及川眞一 : 耐糖能と摂食行動の遺伝的な差異が寿命に及ぼす影響 : 新規選抜交配モデルマウスでの解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 7) 原田太郎, 竹光秀司, 山本友也, 山口祐司, 篠田 恵, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 山本雅昭, 真山大輔, 若栗稔子, その他4名 : インスリン投与開始量の設定法に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 8) 稲垣恭子, 中島 泰, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 杉原 仁, 大久保孝義<sup>1)</sup>, 今井 潤<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院薬学研究科) : 住民健診より抽出された健常人におけるプレハパリンリポ蛋白リパーゼ濃度とインスリン抵抗性との関連. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 9) 竹光秀司, 原田太郎, 周東佑樹, 小林俊介, 高野綾子, 長峯朋子, 仲村優子, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 真山大輔, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一 : 糖尿病教育入院患者における網膜症とFMDの関連について. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.

- 10) 仲村優子, 長尾元嗣, 細沼直也<sup>1)</sup>, 鈴木信也<sup>2)</sup>, 杉原 仁, 永島和幸<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 心臓血管研究所付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : 心外膜脂肪組織体積を規定する背景因子の検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 57 回) (大阪), 2014. 5.
- 11) Takeichi N, Sugihara H, Asai A, Kobayashi S, Nagamine T, Takano A, Wakakuri T, Nagao M, Yamamoto M, Tamura H, Oikawa S : Usefulness of the Growth Hormone-Releasing Peptide-2 Test in Insulinoma Diagnosis. Endocrine Society's Annual Meeting and Expo (96th) (Chicago, U.S.A.), 2014. 6.
- 12) Takano A, Yamamoto M, Sugihara H, Nagamine T, Takeichi N, Ishizaki A, Onozawa S<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Oikawa S ( <sup>1)</sup> Department of Radiology) : The Significance of Confirmatory Tests in Primary Aldosteronism. Endocrine Society's Annual Meeting and Expo (96th) (Chicago, U.S.A.), 2014. 6.
- 13) 長尾元嗣, 浅井 明, 真山大輔, 周東佑樹, 小林俊介, 杉原 仁, 及川眞一 : 高脂肪食誘導性耐糖異常への感受性が異なる SDG-P/R マウスのインスリン分泌能と膵臓遺伝子発現に関する解析. 日本動脈硬化学会 総会・学術集会 (第 46 回) (東京), 2014. 7.
- 14) 稲垣恭子, 周東佑樹, 小林俊介, 真山大輔, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 杉原 仁, 大久保孝義<sup>1)</sup>, 今井 潤<sup>1)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院薬学研究科 医薬開発構想寄附講座) : 住民健診より抽出された健常人におけるプレヘパリンリポ蛋白質リパーゼ濃度と糖代謝パラメーターとの関連. 日本動脈硬化学会 総会・学術集会 (第 46 回) (東京), 2014. 7.
- 15) 周東佑樹, 浅井 明, 長尾元嗣, 川原百代, 杉原 仁, 及川眞一 : 血糖変動が動脈硬化巣形成に及ぼす影響 : マウスを用いた生体レベルでの解析. 日本動脈硬化学会 総会・学術集会 (第 46 回) (東京), 2014. 7.
- 16) 山本友也, 高野綾子, 山口祐司, 肥後武人, 篠田 恵, 仲村優子, 周東佑樹, 小林俊介, 真山大輔, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 長尾元嗣, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁 : 降圧薬を継続のまま副腎静脈サンプリングを施行した原発性アルドステロン症の 2 例. 日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集会 (第 15 回) (埼玉), 2014. 9.
- 17) Nagao M, Asai A, Sugihara H, Oikawa S : Transgenerational phenotypic changes in selectively bred mice for different susceptibilities to diet-induced glucose intolerance. EASD Annual Meeting (50th) (Vienna, Austria), 2014. 9.
- 18) Shuto Y, Asai A, Nagao M, Kawahara M, Sugihara H, Oikawa S : Twice-daily hyperglycaemic spikes accelerate atherosclerotic lesion formation in C57BL/6 mice. EASD Annual Meeting (50th) (Vienna, Austria), 2014. 9.
- 19) 小林俊介, 長尾元嗣, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁, 及川眞一 : 2 型糖尿病患者における心電図補正 QT 時間延長と細小血管合併症の関係. 日本糖尿病合併症学会 (第 29 回) (東京), 2014. 10.
- 20) 稲垣恭子, 中島 泰, 小林俊介, 周東佑樹, 真山大輔, 長尾元嗣, 原田太郎, 浅山 敬<sup>1)</sup>, 大久保孝義<sup>1)</sup>, 今井 潤<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 帝京大学医学部 衛生学 公衆衛生学講座, <sup>2)</sup> 東北大学大学院 薬学研究科) : 健常人における肥満トリポ蛋白質リパーゼ濃度との関連. 日本肥満学会 (第 35 回) (宮崎), 2014. 10.
- 21) 長尾元嗣, 浅井 明, 小林俊介, 周東佑樹, 真山大輔, 杉原 仁, 及川眞一 : 高脂肪食誘発性肥満耐糖能異常マウスと同抵抗性マウスのレプチン分泌動態に関する解析. 日本肥満学会 (第 35 回) (宮崎), 2014. 10.
- 22) 長尾元嗣, 浅井 明, 杉原 仁, 及川眞一 : 高脂肪食誘発性耐糖能異常への感受性が異なる 2 系統のマウスにおけるレプチン分泌と視床下部レプチン受容体に関する解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 41 回) (東京), 2014. 10.
- 23) 山本友也, 山口祐司, 篠田 恵, 長峯朋子, 高野綾子, 武市奈緒美, 長尾元嗣, 原田太郎, 稲垣恭子, 杉原 仁 : ACTH の奇異生反応を認めたクッシング病の 1 例. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 41 回) (東京), 2014. 11.
- 24) 水落俊介<sup>1)</sup>, 加藤俊治<sup>1)</sup>, 宮澤大樹<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : 過酸化リン脂質の高純度異性体標品の作製とヒト血漿の分析. 日本栄養・食糧学会大会 (第 68 回) (札幌), 2014. 5.
- 25) 加藤俊治<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : 過酸化リン脂質異性体の精密定量による生体脂質過酸化機構の解明. 日本脂質生化学会 (第 56 回) (大阪), 2014. 6.
- 26) 加藤俊治<sup>1)</sup>, 伊藤隼哉<sup>1)</sup>, 水落俊介<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : 生体過酸化リン脂質 (PCOOH) 異性体の LC-MS/MS 解析. 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会年会 (第 22 回) (仙台), 2014. 8.
- 27) 仲川清隆<sup>1)</sup>, 澤根健人<sup>1)</sup>, 加藤俊治<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科) : ヒト血漿に存在する PCOOH 分解物の LC-MS/MS 分析. 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会年会 (第 22 回) (仙台), 2014. 8.
- 28) 周東佑樹, 浅井 明, 長尾元嗣, 川原百代, 杉原 仁, 及川眞一 : 血糖変動が動脈硬化巣形成に及ぼす影響 : マウスを用いた生体レベルでの解析. 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会年会 (第 22 回) (仙台), 2014. 8.
- 29) 加藤俊治<sup>1)</sup>, 伊藤隼哉<sup>1)</sup>, 水落俊介<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : LC-MS/MS による生体過酸化リン脂質 (PCOOH) の異性体解析. 日本油化学会年会 (第 53 回) (札幌), 2014. 9.



- 30) 加藤俊治<sup>1)</sup>, 伊藤隼哉<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : 質量分析による生体過酸化リン脂質異性体の解析. 平成 26 年度日本農芸化学会北海道・東北合同支部大会 (札幌), 2014. 9.
- 31) 加藤俊治<sup>1)</sup>, 伊藤隼哉<sup>1)</sup>, 水落俊介<sup>1)</sup>, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 浅井 明, 及川眞一, 永島和幸<sup>2)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院 農学研究科, <sup>2)</sup> 心臓血管研究所付属病院循環器内科) : LC-MS/MS によるヒト血漿過酸化リン脂質異性体の解析. 日本生化学会大会 (第 87 回) (京都), 2014. 10.
- 32) Kato S<sup>1)</sup>, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Mizuochi S<sup>1)</sup>, Asai A, Nagao M, Nagashima K<sup>2)</sup>, Oikawa S, Miyazawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Institute) : 1-Palmitoyl-2-hydroperoxyoctadecadienoyl phosphatidylcholine isomers via promotion of sodium adduct. Asian Conference on Oleo Science (1st) (札幌), 2014. 9.
- 33) 梶尾円香, 高野綾子, 武市奈緒美, 山口祐司, 長峯朋子, 仲村優子, 長尾元嗣, 山本雅昭, 田原重志<sup>1)</sup>, 杉原 仁 ( <sup>1)</sup> 付属病院 脳神経外科) : TSH 産生腫瘍, 脳寒栓症と抗体陰性のバセドウ病を合併した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 24 回) (埼玉), 2014. 11.
- 34) 中山孝治, 長峯朋子, 高野綾子, 武市奈緒美, 山本雅昭, 長尾元嗣, 若栗稔子, 稲垣恭子, 田村秀樹<sup>1, 2)</sup>, 杉原 仁 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, <sup>2)</sup> 医療法人 田村医院) : 低 Na 血症と視神経脊髄炎関連疾患を合併した 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (第 24 回) (埼玉), 2014. 11.
- 35) Sanoyama D, Nagao M, Nakajima Y, Sugihara H, Oikawa S : The increment of postprandial energy expenditure is associated with body weight reduction by dietary intervention in type 2 diabetes. EASD Annual Meeting (50th) (Vienna, Austria), 2014. 9.

## 論文

### [追加分]

追加分総説 :

- 1) 長尾元嗣, 及川眞一 : 動脈硬化研究の進歩. 循環器専門医 2014 ; 22 (1) : 82-86.

## 著書

追加分 :

- 1) 稲垣恭子, 長峯朋子, 及川眞一 : [分担] 脂質異常症 3 章 生活習慣病 (NCD). 健康運動指導士養成講習会テキスト (上) (公益財団法人 健康・体力づくり事業財団), 2014 ; pp95-101, (株) 南江堂.

## [武蔵小杉病院動脈硬化・糖尿病・内分泌内科]

### 研究概要

基礎研究においては, 成長ホルモン (GH) が関与する動脈硬化の進展の機序について国際学会で発表した. また膵  $\beta$  細胞の小胞体ストレスとその抑制機序における GH の役割について研究を行っている. また甲状腺乳頭癌の 3 症例から細胞株を樹立し, 国際学術誌に発表した. 代謝学の面では, 肝臓におけるインスリン抵抗性と脂質代謝障害について研究を行っている. 臨床研究においては, 自己免疫性甲状腺疾患と 1 型糖尿病, とくに GAD 抗体陽性の頻度について疫学調査をしている. また妊娠糖尿病の血糖管理と胎児の予後についての検討を行っている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ishikawa M, Tachibana T<sup>1)</sup>, Hashimoto H<sup>2)</sup>, Toyomura J<sup>3)</sup>, Ito T<sup>4)</sup>, Tsuboi K<sup>5)</sup>, Shibuya K<sup>6)</sup>, Hirose T<sup>5)</sup>, Miami S, Yoshino G<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Core Research Facilities, Jikei University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Anatomy, Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Life Sciences, Faculty of Life Dentistry, Nippon Dental University, <sup>4)</sup> Division of Breast and Endocrine Surgery, Toho University School of Medicine, <sup>5)</sup> Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, <sup>6)</sup> Department of Pathology, Toho University School of Medicine) : Functional analysis of three novel cell lines derived from human papillary thyroid carcinomas with three different clinical courses. HUMAN CELL 2014 ; 27 (3) : 111-120.

## 学会発表

### (1) ワークショップ：

- 1) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 楯三四郎<sup>2)</sup>, 春日雅人<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>4)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科, 3) 国立国際医療研究センター, 4) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：過栄養による脂肪肝・糖尿病における肝臓の de novo lipogenesis 亢進の病態生理学的意義の検討. 日本糖尿病合併症学会 (第 29 回) (東京), 2014. 10.

### (2) 一般講演：

- 1) 石川真由美, Brooks A<sup>1)</sup>, Rojo M<sup>1)</sup>, Chhabra Y<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>2)</sup>, Parton R<sup>1)</sup>, Waters M<sup>1)</sup> (1) Division of Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience University of Queensland, 2) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：肝部分切除後に必要な免疫反応である H2-BI の発現における成長ホルモンの役割. 日本内分泌学会学術総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 4.
- 2) Ishikawa M, Toyomura J<sup>1)</sup>, Kuboki K<sup>2)</sup>, Morita T<sup>3)</sup>, Tominaga N<sup>3)</sup>, Hirose T<sup>2)</sup>, Minami S<sup>4)</sup>, Yoshino T<sup>2)</sup> (1) The Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Toho University School of Medicine, 2) Department of Development and Regenerative Medical Sciences, Nippon Dental University, Faculty of Life Sciences, 3) Department of Laboratory Medicine, Toho University School of Medicine, 4) Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School)：Role of growth hormone (GH) signaling pathways in the development of atherosclerosis. INTERNATIONAL CONGRESS OF THE GRS AND IGF SOCIETY (SINGAPORE), 2014. 10.
- 3) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 楯谷三四郎<sup>3)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, 3) 神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科, 4) 国立国際医療研究センター, 5) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：肝臓の脂肪酸合成酵素は肥満・糖尿病の病態において肝脂肪蓄積の促進と高血糖の抑制に寄与する. 日本臨床分子医学会学術集会 (第 51 回) (東京), 2014. 4.
- 4) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>3)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, 3) 東京女子医科大学病理診断科, 4) 国立国際医療研究センター, 5) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. アディポサイエンス・シンポジウム (第 19 回) (大阪), 2014. 8.
- 5) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 楯三四郎<sup>2)</sup>, 春日雅人<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>4)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科, 3) 国立国際医療研究センター, 4) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：過栄養による脂肪肝・糖尿病における肝臓の de novo lipogenesis 亢進の病態生理学的意義の検討. 肝臓と糖尿病・代謝研究会 (第 1 回) (東京), 2014. 7.
- 6) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 楯谷三四郎<sup>3)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, 3) 神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科, 4) 国立国際医療研究センター, 5) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：脂肪酸合成酵素 FAS の脂肪肝・インスリン抵抗性における機能の解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 57 回) (大阪), 2014. 5.
- 7) 八木 孝, 小林和陽<sup>1)</sup>, 輿水 学<sup>1)</sup>, 酒井良子<sup>1)</sup>, 森本千秋<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>2)</sup>, 八木亜記<sup>3)</sup>, 石川真由美, 南 史朗<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院栄養科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 武蔵小杉病院消化器病センター, 4) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：糖尿病性ケトアシドーシス・急性動脈閉塞症に対し早期からの積極的な栄養介入にて良好な結果を得た 1 例. 日本静脈経腸栄養学会関東甲信越支部学術集会 (第 2 回) (高崎), 2014. 10.
- 8) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>3)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, 3) 東京女子医科大学病理診断科, 4) 国立国際医療研究センター, 5) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. 日本肥満学会 (第 35 回) (宮崎), 2014. 10.
- 9) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>3)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, 3) 東京女子医科大学病理診断科, 4) 国立国際医療研究センター, 5) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. 日本病態栄養学年次学術集会 (第 18 回) (京都), 2014. 10.
- 10) 福永ヒトミ<sup>1)</sup>, 望月瑠美<sup>1)</sup>, 佐々木友美<sup>1)</sup>, 金子佳世<sup>1)</sup>, 八木 孝, 木佐森舞夕, 石川真由美, 糸井博美<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>3)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学大学院生体機能制御学)：妊娠糖尿病患者の産後の耐糖能障害の検討. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第 30 回) (長崎), 2014. 11.

- 11) 片山安奈<sup>1)</sup>, 由井静香<sup>1)</sup>, 麦島康司<sup>1)</sup>, 八木 孝, 大塚智之<sup>1)</sup>, 石川真由美, 酒井行直<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>2)</sup>, 鶴岡秀一<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院腎臓内科, (2) 日本医科大学大学院生体機能制御学, (3) 付属病院腎臓内科): インフルエンザワクチン接種後に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した劇症1型糖尿病の1例. 日本内科学会関東地方会 (第612回) (東京), 2015. 2.
- 12) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 楯谷三四郎<sup>3)</sup>, 春日雅人<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup>, 松本道弘<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター分子代謝制御研究部, (2) 兵庫大学健康科学部栄養マネジメント学科, (3) 神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科, (4) 国立国際医療研究センター, (5) 日本医科大学大学院生体機能制御学): 脂肪酸合成酵素 FAS の脂肪肝・インスリン抵抗性における機能の解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.

## [千葉北総病院内分泌内科]

### 研究概要

研究概要平成26年度から新たに3年間科学研究費助成金の交付を受けることとなった。研究テーマは「神経経済学的適応障害としての2型糖尿病の行動経済学的病態分析」である。この研究は、将来の健康を害することがわかっているにもかかわらず、食事療法や運動療法あるいは薬物療法を遵守できない2型糖尿病患者の心理メカニズムを、行動経済学的観点から解析することにより、画期的な行動介入療法を考案しようとするものである。分析の結果、仮想的くじ購入に関して、危険愛好的であるほど糖尿病の合併症が進行していることが示された。また、同じ糖尿病であっても1型と2型では神経経済学的に異なる疾患単位であることを第57回日本糖尿病学会年次学術集会(2014年5月大阪)で報告した。さらに、1型と2型では危険回避行動において数学的な判断能力が異なることを米国内分泌学会(ENDO 2014, Chicago)で報告した。糖尿病の内服薬の併用療法についてインクレチンを測定してその作用機序を解明し、第57回日本糖尿病学会年次学術集会(2014年5月大阪)で報告した。また非専門医向に糖尿病治療薬の実践的な使い方について解説を執筆した。ICUとCCU, 2014).

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説:

- 1) 江本直也, 岡島史宜: 第43回(「糖尿病治療薬」第1回) 糖尿病治療の基本と治療薬. ICUとCCU 2014; 38: 277-280.
- 2) 江本直也, 岡島史宜: 第44回(「糖尿病治療薬」第2回)  $\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬. ICUとCCU 2014; 38: 343-346.
- 3) 江本直也, 岡島史宜: 第45回(「糖尿病治療薬」第3回) スルホニル尿素(SU)薬. ICUとCCU 2014; 38: 423-425.
- 4) 江本直也, 岡島史宜: 第46回(「糖尿病治療薬」第4回) ビグアナイド薬. ICUとCCU 2014; 38: 503-506.
- 5) 岡島史宜, 江本直也: 第47回(「糖尿病治療薬」第5回) 速効型インスリン分泌促進薬. ICUとCCU 2014; 38: 579-581.
- 6) 江本直也, 岡島史宜: 第48回(「糖尿病治療薬」第6回) チアゾリジン薬. ICUとCCU 2014; 38: 645-647.
- 7) 岡島史宜, 江本直也: 第49回(「糖尿病治療薬」第7回) DPP-4阻害薬. ICUとCCU 2014; 38: 705-708.
- 8) 岡島史宜, 江本直也: 第50回(「糖尿病治療薬」第8回) SGLT2阻害薬. ICUとCCU 2014; 38: 783-785.
- 9) 岡島史宜, 江本直也: 第51回(「糖尿病治療薬」第9回) GLP-1受容体動作薬. ICUとCCU 2014; 38: 837-840.
- 10) 江本直也, 岡島史宜: 第52回(「糖尿病治療薬」第10回) 集中治療における血糖管理: インスリン治療. ICUとCCU 2015; 39: 59-61.

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 江本直也, 岡島史宜, 石崎 晃: 糖尿病患者の行動経済学的分析(第3報): 1型との比較からみる2型の神経経済学的病態特性. 日本糖尿病学会年次学術集会(第57回)(大阪市), 2014. 5.
- 2) 岡島史宜, 石崎 晃, 田邊義博<sup>1)</sup>, 江本直也 (1) 筑西市民病院内科):  $\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬及びグリニド系薬剤へのDPP-4阻害薬併用の有効性に関する比較検討. 日本糖尿病学会年次学術集会(第57回)(大阪市), 2014. 5.
- 3) Emoto N: Low Quantitative Literacy Proficiency in middle-Aged patients with type 2 Diabetes Relative to patients with type 1 Diabetes. ICE/ENDO 2014, 2014. 6.

## 9. 呼吸器内科学分野

### [付属病院呼吸器内科, 化学療法科]

#### 研究概要

癌：肺癌個別化治療に向け、抗癌剤感受性と遺伝子発現に基づくレジメン開発、第III世代EGFR-TKI、免疫チェックポイントを標的とする国際共同の新薬開発を含む臨床試験等を行っている。EGFR 遺伝子変異に基づいた gefitinib の多施設臨床試験は国際的に評価され、研究を継続している。nab-Paclitaxel の至適用量を検討する医師主導多施設共同臨床試験を開始した。IP 合併肺癌や薬剤性肺障害の研究では我国の中心的施設となっている。がん患者の臨床的意思決定支援を目指した研究も行っている。基礎研究は感受性、副作用予測研究を展開し、新たな併用療法や耐性予測等を含む新治療開発を進めている。肺癌の発癌、増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない、発癌母地としてIIPに注目し、特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指す。炎症：炎症性肺疾患、感染症を中心に研究を展開。厚労省研究班を軸に間質性肺炎の病態研究、IIPs の治療研究を行っている。特にIPF 新規治療薬の開発・評価（ビルフェニドン、NAC、Nintedanib、PC-SOD、ほか）、疾患活動性と予後との関係は国際共同試験をリードする。また、稀少疾患であるびまん性肺疾患、サルコイドーシス、難治性気道病変の病態と治療研究、急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較、PMX 吸着療法の研究を推進（先進医療B施行）。基礎研究では肺障害、線維化病態を中心に、骨髄由来線維細胞、EMT、HSP、サーファクタント、メカニカルストレス、マクロライドの作用機序と新規化合物EM900の評価、IPの呼気凝集液を用いた分子病態の検討を行っている。呼吸ケア：COPDの基礎研究は医薬基盤研究所の助成を受け、阪大、理化研との共同で創薬を進めてきた。フコースを付加する酵素Fut8について、ヒト血清中の活性がCOPDの病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進め、血清蛋白の糖鎖修飾のCOPDバイオマーカーとしての可能性についても検討している。COPD増悪のバイオマーカー開発で2つの特許を取得、増悪感受性に関連する遺伝子（SIGLECsなど）、増悪検出のためのバイオマーカーの候補（IL27）について論文報告した。COPDのフェノタイプ（肺気腫など）に関するSNPの研究を進めている。厚労科研の助成により、在宅酸素療法患者の災害対策に対する公開講座を開催し、将来に備えた指針の作成を進めている。東京大学大学院工学系研究科と共同で医療システム関連の研究を行っている。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Yamamoto K, Seike M, Takeuchi S, Soeno C, Miyanaga A, Noro R, Minegishi Y, Kubota K, Gemma A : MiR-379/411 cluster regulates IL-18 and contributes to drug resistance in malignant pleural mesothelioma. *Oncology Report* 2014 ; 32 (6) : 2365-2372.
- 2) Iijima Y, Seike M, Noro R, Ibi T, Takeuchi S, Mikami I, Koizumi K, Usuda J, Gemma A : Prognostic significance of PIK3CA and SOX2 in Asian patients with lung squamous cell carcinoma. *Int J Oncol* 2015 ; 46 (2) : 505-512.
- 3) 長山美貴恵, 齋藤好信, 林 宏紀, 國保成暁, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 特発性肺線維症の急性増悪と肺結核とを同時発症した1例. *日本医科大学医学会雑誌* 2014 ; 10 (2) : 111-114.
- 4) Kashiwada T<sup>1,2)</sup>, Fukuhara S<sup>1)</sup>, Terai K<sup>3)</sup>, Tanaka T<sup>1,2)</sup>, Wakayama Y<sup>1)</sup>, Ando K<sup>1)</sup>, Nakajima H<sup>1)</sup>, Fukui H<sup>1)</sup>, Yuge S<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>2)</sup>, Gemma A<sup>2)</sup>, Mochizuki N<sup>1,4)</sup> (1) Department of Cell Biology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Laboratory of Function and Morphology, Institute of Molecular and Cellular Biosciences, The University of Tokyo, 4) JST-CREST, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute) : Beta-catenin-dependent transcription is central to Bmp-mediated formation of venous vessels. *Development* 2015 ; 142 (3) : 497-509.
- 5) Inomata M, Kamio K, Azuma A, Matsuda K, Miura Y, Hayashi H, Nei T, Fujita K, Saito Y, Gemma A : Pirfenidone inhibits fibrocyte accumulation in the lungs in bleomycin-induced murine pulmonary fibrosis. *Respir Res* 2014.
- 6) Bando M, Sugiyama Y, Azuma A, Ebina M, Taniguchi H, Taguchi Y, Takahashi H, Homma S, Nukiwa T, Kudoh S : A prospective survey of idiopathic interstitial pneumonias in a web registry in Japan. *Respir Investig* 2015 ; 53 (2) : 51-59.
- 7) Enomoto N, Chida K, Suda T, Kaida Y, Taniguchi M, Azuma A, Hayashi H, Ogura T, Kitamura H, Yamaguchi O, Ando M, Sato A, Kudo S : An exploratory trial of intravenous immunoglobulin therapy for idiopathic pulmonary fibrosis : A preliminary multicenter report. *Clin Respir J* 2015.
- 8) Mochimaru H, Fukuda Y, Azuma A, Osanai K, Saito Y, Mochimaru T, Gemma A : Reconsideration of discrepancies between clinical and histopathological features in acute eosinophilic pneumonia. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2015 ; 31 (4) : 325-335.
- 9) Ogura T, Taniguchi H, Azuma A, Inoue Y, Kondoh Y, Hasegawa Y, Bando M, Abe S, Mochizuki Y, Chida K, KIÜGlich M, Fujimoto T, Okazaki K, Tadayasu Y, Sakamoto W, et al. : Safety and pharmacokinetics of nintedanib and pirfenidone in-

- idiopathic pulmonary fibrosis. *Eur Respir J.* 2014.
- 10) Miura Y, Saito T, Fujita K, Tanaka T, Tsunoda Y, Azuma A, Nei T, Yatagai Y, Rin S, Sekine A, Hayashihara K : Clinical experience with pirfenidone in five patients with scleroderma-related interstitial lung disease. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis.* 2014 ; 31 (3) : 235-238.
  - 11) Kokuho N, Ishii T, Kamio K, Hayashi H, Kurahara M, Hattori K, Motegi T, Azuma A, Gemma A, Kida K. : Diagnostic Values For Club Cell Secretory Protein (CC16) in Serum of Patients of Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema. *COPD.* 2014.
  - 12) Inomata M, Ikushima S, Awano N, Kondoh K, Satake K, Masuo M, Kusunoki Y, Moriya A, Kamiya H, Ando T, Yanagawa N, Kumasaka T, Ogura T, Sakai F, Azuma A, et al. : An autopsy study of combined pulmonary fibrosis and emphysema : correlations among clinical, radiological, and pathological features. *BMC Pulm Med.* 2014 ; 14 : 104.
  - 13) 國保成暁, 石井健男, 神尾孝一郎, 林 宏紀, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : Diagnostic Values For Club Cell Secretory Protein (CC16) in Serum of Patients of Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema. *Journal of Chronic Obstructive Pulmonary Disease* 2014.
  - 14) Minegishi Y, Kokuho N, Miura Y, Matsumoto M, Miyanaga A, Noro R, Saito Y, Seike M, Kubota K, Azuma A, Kida K, Gemma A : Clinical features, anti-cancer treatments and outcomes of lung cancer patients with combined pulmonary fibrosis and emphysema. *Lung Cancer* 2014 ; 85 (2) : 258-263.
  - 15) Kamio K, Azuma A, Ohta K, Sugiyama Y, Nukiwa T, Kudoh S, Mizushima T : Double-blind controlled trial of lecithinized superoxide dismutase in patients with idiopathic interstitial pneumonia-short term evaluation of safety and tolerability. *BMC Pulm Med* 2014 ; 14 : 86.
  - 16) Richeldi L, Du Bois Rm, Raghu G, Azuma A, Brown Kk, Costabel U, Cottin V, Flaherty Kr, Hansell Dm, Inoue Y, Kim Ds, Kolb M, Nicholson Ag, Noble Pw, Selman, et al. : INPULSIS Trial Investigators. Efficacy and safety of nintedanib in idiopathic pulmonary fibrosis. *N Engl J Med* 2014 ; 370 (22) : 2071-2082.
  - 17) Kurotsu S, Tanaka K, Niino T, Asano T, Sugizaki T, Azuma A, Suzuki H, Mizushima T : Ameliorative effect of mepenzolate bromide against pulmonary fibrosis. *J Pharmacol Exp Ther* 2014 ; 350 (1) : 79-88.
  - 18) Judson Ma, Costabel U, Drent M, Wells A, Maier L, Koth L, Shigemitsu H, Culver Da, Gelfand J, Valeyre D, Sweiss N, Crouser E, Morgenthau As, Lower Ee, Azuma A, et al. : The WASOG Sarcoidosis Organ Assessment Instrument : An update of a previous clinical tool. *Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis* 2014 ; 31 (1) : 19-27.
  - 19) Satoh E<sup>1,2)</sup>, Tagami T<sup>1,3)</sup>, Watanabe A<sup>1)</sup>, Matsumoto G<sup>1)</sup>, Suzuki G<sup>1)</sup>, Onda H<sup>1)</sup>, Fuse A<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>2)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health ) : Association between Serum Lactate Levels and Early Neurogenic Pulmonary Edema after Nontraumatic Subarachnoid Hemorrhage. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (5) : 305-312.
  - 20) Takeuchi S<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Sugano T<sup>1)</sup>, Zou F<sup>1)</sup>, Nishijima N<sup>1)</sup>, Matsumoto M<sup>1)</sup>, Minegishi Y<sup>1)</sup>, Kubota K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ) : Significance of osteopontin in the sensitivity of malignant pleural mesothelioma to pemetrexed. *International Journal of Oncology* 2014 ; 44 (6) : 1886-1894.
  - 21) Minegishi Y<sup>1)</sup>, Kokuho N<sup>1)</sup>, Matsumoto M<sup>1)</sup>, Miyanaga A<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Kubota K<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Kida K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School ) : Clinical features, anti-cancer treatments and outcomes of lung cancer patients with combined pulmonary fibrosis and emphysema. *Lung Cancer* 2014 ; 85 (2) : 258-63.
  - 22) Fujimori M, Shirai Y, Asai M, Kubota K, Katsumata N, Uchitomi Y : Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news : a randomized controlled trial. *J Clin Oncol* 2014 ; 10 (32) : 2166-2172.
  - 23) Kenmotsu H, Niho S, Ito T, Ishikawa Y, Noguchi M, Tada H, Sekine I, Watanabe S, Yoshimura M, Yamamoto N, Oshita F, Kubota K, Nagai K : A pilot study of adjuvant chemotherapy with irinotecan and cisplatin for completely resected high-grade pulmonary neuroendocrine carcinoma (large cell neuroendocrine carcinoma and small cell lung cancer). *Lung Cancer.* 2014 ; 84 (3) : 254-258.
  - 24) Angata T<sup>1,2)</sup>, Ishii T, Gao C<sup>1)</sup>, Ohtsubo K<sup>1)</sup>, Kitazume S<sup>1)</sup>, Gemma A, Kida K, Taniguchi N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Systems Glycobiology Research Group, Global Research Cluster, <sup>2)</sup> Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica ) : Association of serum interleukin-27 with the exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease. *Physiol Rep* 2014 ; 2 (7) : e12069.

- 25) Ishii T, Motegi T, Kamio K, Gemma A, Kida K : Association of group component genetic variations in COPD and COPD exacerbation in a Japanese population. *Respirology* 2014 ; 19 (4) : 590-595.
- 26) Hattori K, Ishii T, Motegi T, Kusunoki Y, Gemma A, Kida K : Relationship between serum cardiac troponin T level and cardiopulmonary function in stable chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015 ; 10 : 309-320.
- 27) Takiguchi Y, Iwasawa S, Minato K, Miura Y, Gemma A, Noro R, Yoshimori K, Shingyoji M, Hino M, Ando M, Okamoto H : Phase II study of carboplatin, docetaxel and bevacizumab for chemotherapy-naïve patients with advanced non-squamous non-small cell lung cancer. *Int J Clin Oncol* 2014.
- 28) Gemma A, Kudoh S, Ando M, Ohe Y, Nakagawa K, Johkoh T, Yamazaki N, Arakawa H, Inoue Y, Ebina M, Kusumoto K, Sakai F, Taniguchi H, Fukuda Y, Seki A, et al. : Final safety and efficacy of erlotinib in the phase 4 POLARSTAR surveillance study of 10 708 Japanese patients with non-small-cell lung cancer. *Cancer Sci* 2014.
- 29) Mathumoto Y, Maemondo M, Ishii Y, Okudera K, Demura Y, Takamura K, Kobayashi K, Morikawa N, Gemma A, Ishimoto O, Usui K, Harada M, Miura S, Fujita Y, Sato I, et al. : A phase II study of erlotinib monotherapy in pre-treated non-small cell cancer without EGFR gene mutation who have never/light smoking history : Re-evaluation of EGFR gene status. *Lung Cancer* 2014.
- 30) Satoh T, Gemma A, Kudoh S, Sakai F, Yamagushi K, Watanabe T, Ishiguro M, Inoshiri S, Izawa M, Sugihara K, Sakata Y : Incidence and Clinical Features of Drug-induced Lung Injury in Patients with Advanced Colorectal Cancer Receiving Cetuximab : Results of a Prospective Multicenter registry. *Jpn J Clin Oncol* 2014.
- 31) Angata T, Ishii T, Gao C, Ohtsubo K, Kitazume S, Gemma A, Kida K, Taniguchi N : Association of serum interleukin-27 with the exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease. *Physiol Rep* 2014.
- 32) Hirakawa A, Yonemori K, Kuwatsuka Y, Kodaira M, Yamamoto H, Yunokawa M, Hamada A, Shimizu C, Tamura K, Gemma A, Fujiwara Y : A Descriptive Analysis of Post-Chemotherapy Development of Interstitial Lung Disease using Spontaneous Reporting Data in Japan. *Curr Drug Saf* 2014.
- 33) Maemondo M, Inoue A, Sugawara S, Harada T, Minegishi Y, Usui K, Miwa K, Morikawa N, Kanbe M, Ube K, Watanabe K, Ishimoto O, Sakakibara T, Gemma A, Nukiwa T : Randomized phase II trial comparing carboplatin plus weekly paclitaxel and docetaxel alone in elderly patients with advanced non-small cell lung cancer : north japan lung cancer group trial 0801. *Oncologist* 2014.

(2) 総説 :

- 1) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 忘れてはならない薬剤性肺障害の現状. *日本医師会雑誌* 2014 ; 143 (5) : 980-984.
- 2) 齋藤好信 : 薬剤性肺障害と ARDS. *日本胸部臨床* 2014 ; 73 (6) : 665-675.
- 3) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 薬剤性肺障害のとらえ方 : 頻度の高い薬剤と肺障害の特徴 : ⑧分子標的治療薬. *月刊薬事* 2015 ; 57 (2) : 53-57.
- 4) 清家正博 : 呼吸器のバイオマーカーとしての microRNA. *THE LUNG perspective* 2014 ; 22 (4) : 61-65.
- 5) 齋藤好信, 弦間昭彦 : かかりつけ医が知っておくべき薬剤性肺障害のトピックス. *日本医事新報* 2015 ; (4743) : 20-24.
- 6) 茂木 孝 : ガイドラインに沿った実地診療のポイントとテクニック COPD 早期発見のテクニック 疑いから診断まで. *Medical Practice* 2014 ; 31 (4) : 563-567.
- 7) 木田厚瑞 : 医の焦点 COPD COPD の診断と治療. *アニムス* 2014 ; 19 (4) : 39-43.
- 8) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 【シニア世代の旅行医学】 65 歳からの肺炎予防 肺炎球菌ワクチンの重要性と有効性. *日本旅行医学会学会誌* 2014 ; 11 (1) : 39-43.
- 9) 石井健男, 木田厚瑞 : SUPER VIEW 診る・識る・活かす「加齢と閉塞性肺疾患」. *Respir trends* 2014 ; 4 (1) : 8-11.

(3) 解説 :

- 1) 吾妻安良太 : 臓器の線維化とその治療 肺の線維化とその治療. *日本内科学会雑誌* 2014 ; 103 (9) : 2183-2187.

(4) 症例報告 :

- 1) 長山美貴恵, 清家正博, 國保成暁, 林 宏紀, 藤田和恵, 齋藤好信, 弦間昭彦 : 治療方針決定に EBUS-TBNA が有用であったサルコイドーシス合併肺腺癌の 1 例. *気管支学* 2014 ; 36 (3) : 239-243.
- 2) 長山美貴恵, 齋藤好信, 林 宏紀, 國保成暁, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 特発性肺線維症の急性増悪と肺結核とを同時発症した 1 例. *日本医科大学医学会雑誌* 2014 ; 10 (2) : 111-114.
- 3) 加藤泰裕, 三浦由記子, 齋藤好信, 小野寺健太, 加藤浩司, 山本 剛, 功刀しのぶ, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : アミオダロン投与 3 日後に器質性肺炎, 肺胞出血を生じた 1 例. *日本内科学会関東地方会 606 回* 2014 ; 21.
- 4) Atsumi K, Minegishi Y, Takano N, Omori M, Saito Y, Seike M, Azuma A, Kubota K, Gemma A : Crizotinib-induced severe ulcerative esophagitis three years after chemoradiotherapy. *Int Canc Conf J* 2015.

1) Azuma A : Searching hidden truth behind clinical trials. *Respir Investig* 2015 ; 53 (1) : 1.

(5) 会議録 :

- 1) 神尾孝一郎, 猪俣 稔, 吾妻安良太, 松田久仁子, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 根井貴仁, 藤田和恵, 齋藤好信, 弦間昭彦 : プレオマイシン誘発肺障害モデルマウスにおける新規抗線維化薬ピルフェニドンの骨髄由来 fibrocyte 抑制効果に関する検討. *日本医科大学医学会雑誌* 2014 ; 10 (4) : 215.
- 2) 淀川顕司, 清野精彦, 森本泰介, 高橋卓夫, 吾妻安良太, 清水 渉 : 肺サルコイドーシスにおける心イベントの早期予測 加算平均心電図を用いた検討. *日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌* 2014 ; 34 (サプリメント) : 57.
- 3) 吾妻安良太 : 間質性肺炎・肺線維症の診断と治療. *日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌* 2014 ; 24 (Suppl) : 126s.
- 4) 阿曾亮子, 大西弘高, 藤倉輝道, 吾妻安良太 : 日本医科大学での SP 参加型医療面接実習が卒後に与えるインパクトの分析. *医学教育* 2014 ; 45 (Suppl) : 118.
- 5) 清水理光, 三浦由記子, 高野夏希, 武内 進, 林宏紀, 峯岸裕司, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 肺高血圧症 (PH) を合併した HLA-B54 陰性の Good 症候群の 1 例. *日本内科学会関東地方会 611 回* 2014 ; 61.
- 6) 加藤友美, 小林研一, 渥美健一郎, 武内 進, 峯岸裕司, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 薬剤中止で改善したメサラジンによる薬剤性好酸球性肺炎の 1 例. *日本内科学会関東地方会 611 回* 2014 ; 61.
- 7) 岩田剛和, 吉野一郎, 吉田成利, 池田徳彦, 長瀬清亮, 坪井正博, 菱田智之, 朝戸裕二, 片上信之, 坂本和裕, 山下芳典, 東山聖彦, 光富徹哉, 山下素弘, 吾妻安良太, その他 16 名 : 特発性肺線維症 (IPF) 合併非小細胞肺癌に対する周術期 pirfenidone 療法の効果と安全性に関する第 II 相試験. *肺癌* 2014 ; 54 (5) : 330.
- 8) 吾妻安良太 : 間質性肺炎・肺線維症の診断と治療. *日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌* 2014 ; 24 (Suppl) : 126s.

(6) 解説/特集 :

- 1) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : 【くすりの副作用のすべて】病態からみたくすりの副作用 呼吸器系 (薬剤性肺障害) その概要と最近の知見. *医学のあゆみ* 2014 ; 251 (9) : 726-731.
- 2) 三浦由記子, 齋藤武文, 吾妻安良太 : 【すぐ役に立つ - 呼吸器薬の標準的使い方】 間質性肺疾患特発性肺線維症 (IPF) におけるピルフェニドンの使用方法と適応. *Medicina* 2014 ; 51 (10) : 1899-1903.
- 3) 三浦由記子, 齋藤武文, 吾妻安良太 : 【内科疾患 最新の治療 明日への指針】 (第 1 章) 呼吸器特発性肺線維症. *内科* 2014 ; 113 (6) : 1020-1022.
- 4) 猪俣 稔, 吾妻安良太 : 【疾患と運動時低酸素血症】 特発性肺線維症. *呼吸と循環* 2014 ; 62 (6) : 526-530.
- 5) 國保成暁, 吾妻安良太 : 【IPF 治療の最新の話】 慢性安定期 IPF ステロイド, 免疫抑制剤の適否. *呼吸と循環* 2015 ; 63 (2) : 123-126.

(7) 座談会/特集 :

- 1) 足立 満, 吾妻安良太, 小倉高志, 桑野和善, 稲瀬直彦 : 【かかりつけ医のための間質性肺炎診療の手引き】 増えつつある間質性肺炎とどう向き合うか. *日本医師会雑誌* 2014 ; 143 (5) : 945-956.

## 著 書

- 1) 齋藤好信, 弦間昭彦 : [分担] VI 神経内分泌腫瘍治療の practice ④エベロリムスの間質性肺炎をどうマネージするか? . *ガイドラインには載っていない 肝胆膵がん Practical Treatment* (古瀬純司, 石井浩, 奥坂拓志, 山口武人, 山下竜也), 2015 ; pp235-236, メジカルビュー.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦 : [分担] VI 臓器別副作用と対策 3. 呼吸器系間質性肺疾患. 抗がん剤の副作用と支持療法, 2015 ; pp384-388, 日本臨床.
- 3) 齋藤好信, 弦間昭彦 : [分担] 第 14 章 肺癌化学療法における副作用対策 5) 呼吸器毒性. *オンコロジークリニカルガイド肺癌化学療法* (弦間昭彦, 里内美弥子), 2014 ; pp392-396, 南山堂.
- 4) 齋藤好信, 弦間昭彦 : [分担] 9. 医原性肺疾患薬剤性肺障害. *呼吸器疾患診療 最新ガイドライン* (弦間昭彦), 2014 ; pp256-260, 総合医学社.
- 5) 清家正博 : [分担] 第 3 章 肺癌化学療法における併用療法 5) カルボプラチン/パクリタキセル/ベバシズマブ. *オンコロジークリニカルガイド肺癌化学療法* (弦間昭彦, 里内美弥子), 2014 ; pp110-113, 南山堂.
- 6) 清家正博 : [分担] 上皮間葉細胞形質転換 (EMT) による肺癌細胞の耐性化. *Annual Review 2015 呼吸器* (弦間昭彦, 里内美弥子), 2015 ; pp42-47, 中外医学社.
- 7) 國保成暁, 吾妻安良太 : [共著] 【IPF 治療の最新の話】 慢性安定期 IPF ステロイド, 免疫抑制剤の適否. *呼吸と循環*, 2015 ; pp123-126, 医学書院.
- 8) 國保成暁, 吾妻安良太 : [共著] 特発性肺線維症 : 欧米の治療指針. *呼吸器内科*, 2015 ; pp77-80, 化学評論社.
- 9) 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 久保田馨<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科分野) : [分担] 【肺癌の分子標的治療 個別化薬物治療の新たな

な展開】どう対応すればよい!? 肺癌の分子標的治療における副作用マネジメントの秘訣! 肺障害(解説/特集). 薬局, 2014; pp2943-2948.

- 10) 久保田馨, その他 22 名: [分担] JCOG0202 試験. がん分子標的治療, 2014; pp95-97, メディカルレビュー社.
- 11) 久保田馨: [分担] 開業医との病診連携による化学療法. medicina, 2014; pp1892-1894, 医学書院.
- 12) 久保田馨: [分担] 難治癌告知に効果のあるコミュニケーション技術習得を具体的に示す. 月刊新医療, 2014; pp18-21, 株式会社エム・イー振興協会.
- 13) 弦間昭彦, 久保田馨: [分担] III 期非小細胞肺癌. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014; pp337-341, 総合医学社.
- 14) 弦間昭彦, 久保田馨: [分担] JCOG9104 (同時 VS 逐次 化学放射線療法). オンコロジークリニカルガイド (弦間昭彦), 2014; pp313-316, 南山堂.
- 15) 久保田馨: [分担] 最新の肺癌診療. がんサポート, 2015; pp52-57, エビデンス社.
- 16) 久保田馨: [分担] 進行非小細胞癌に対する維持療法 3. がんサポート, 2014; pp28-31, がんサポート.
- 17) 久保田馨: [分担] がん相談 肺がん. がんサポート, 2015; pp108-109, がんサポート.
- 18) 久保田馨: [分担] がん化学療法における処方診療報酬評価. 日本内科学会雑誌, 2014; pp2971-2974, 一般社団法人日本内科学会.
- 19) 久保田馨: [分担] 光線力学的治療が有効であった中枢性起動狭窄を伴う進行肺癌の 1 例. 気管支学, 2014; 日本呼吸器内視鏡学会雑誌.
- 20) 中原善朗, 細見幸生, 久保田馨: [分担] 分子的標的治療を受ける非小細胞肺癌患者への AE に関する説明・指導. 臨床腫瘍プラクティス, 2014; pp242-245, ヴァンメディカル.
- 21) 茂木 孝: [分担] COPD 患者の労作時息切れと併用療法による改善. COPD 治療におけるコンビネーションセラピー (一ノ瀬正和), 2014; pp30-36, 医薬ジャーナル社.
- 22) 藤田和恵, 弦間昭彦: [共著] 内視鏡的細菌学的, 組織細胞学的診断学の進歩と臨床的意義. 呼吸, 2014; pp1012-1017, 一般社団法人呼吸研究.
- 23) 藤田和恵: [自著] 【びまん性肺疾患の併存症を考える】特発性肺線維症における抗酸菌感染症. 呼吸器内科, 2014; pp167-171, 科学評論社.
- 24) 藤田和恵, 吾妻安良太: [分担] びまん性汎細気管支炎. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014; pp98-103, 総合医学社.
- 25) 藤田和恵, 弦間昭彦: [分担] ウイルス性肺炎. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014; pp7-13, 総合医学社.
- 26) 久保田馨, 藤田和恵: [分担] Oncology Emergency 4. 感染症. 入門腫瘍内科学 改訂第 2 版 (日本臨床腫瘍学会), 2015; pp281-283, 篠原出版新社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 清家正博: Omics と感受性予測研究の展開. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (横浜), 2014. 8.
- 2) 清家正博: EMT と耐性. 日本呼吸器学会学術集会 (第 54 回) (大阪), 2014. 4.
- 3) 峯岸裕司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科分野: 間質性肺炎に合併した肺癌の現況と治療戦略 間質性肺炎に合併した肺癌の内科的治療と問題点. 日本呼吸器学会学術講演会 (54) (大阪), 2014. 5.
- 4) 茂木 孝: 在宅酸素療法患者の評価・教育の現状と課題. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪), 2014. 4.
- 5) 茂木 孝: 在宅酸素療法を受けている患者の災害時対策の現状 緊急時・災害時における HOT 患者の対応と問題点. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪), 2014. 4.
- 6) 藤田和恵: 結核モデル病床をもつ施設の現状と課題 (結核は一般病院でみる普通の病気になれるか?). 日本結核病学会 (第 89 回) (岐阜), 2014. 5.
- 7) 藤田和恵: カンジダと緑膿菌, 宿主間の相互関係—Cross-Kingdom Communication (重複感染症による重篤化, 難治化). 日本感染症学会東日本地方会 (第 63 回) (東京), 2014. 10.

### (2) パネルディスカッション:

- 1) 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 本間 栄<sup>2)</sup>, 岸 一馬<sup>3)</sup>, 小倉高志<sup>4)</sup>, 中西洋一<sup>5)</sup>, 谷口博之<sup>6)</sup>, 西岡安彦<sup>7)</sup>, 海老名雅仁<sup>8)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 杉山幸比古<sup>9)</sup> (1) 日本医科大学 大学院医学研究科呼吸器内科分野, 2) 東邦大学 呼吸器内科, 3) 虎ノ門病院 呼吸器内科, 4) 神奈川県立呼吸器・循環器病センター 呼吸器内科, 5) 九州大学 呼吸器科, 6) 公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科, 7) 徳島大学大学院 呼吸器・膠原病内科学分野, 8) 東北薬科大学呼吸器内科, 9) 自治医科大学 呼吸器内科: 特発性間質性肺炎合併進行期/術後再発肺癌の 2 次化学療法に関する全国実態調査. 日本肺癌学会学術集会 (55) (京都国際会議場), 2014. 11.

### (3) 一般講演:

- 1) 清水理光, 三浦由記子, 高野夏希, 武内 進, 林 宏紀, 峯岸裕司, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 肺高血圧症 (PH)



- を合併した HLA-B54 陰性の Good 症候群の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (東京), 2014. 12.
- 2) 加藤友美, 小林研一, 渥美健一郎, 武内 進, 峯岸裕司, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦: 薬剤中止で改善したメサラジンによる薬剤性好酸球性肺炎の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 611 回) (東京), 2014. 12.
  - 3) 加藤泰裕, 清家正博, 小林由美子, 小林研一, 中道真仁, 武内 進, 宮永晃彦, 久保田馨, 弦間昭彦: 経過中に自然縮小し診断に難渋した肺腺癌の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会学術集会 (第 172 回) (東京), 2015. 3.
  - 4) Seike M, Kitamura K, Noro R, Soeno C, Miyanaga A, Gemma A : MiR-134/487b/655 Cluster Regulates TGF- $\beta$ -induced Epithelial-Mesenchymal Transition and Drug Resistance to Gefitinib by Targeting MAGI2 in Lung Adenocarcinoma Cells. AACR Annual Meeting 2014 (San Diego Convention Center, San Diego, California, USA), 2014. 4.
  - 5) 清家正博, 菅野哲平, 野呂林太郎, 添野千絵, 中道真仁, 宮永晃彦, 峯岸裕司, 久保田馨, 弦間昭彦: 非小細胞肺癌の MET 阻害剤耐性機序における Cancer Stem Cell-Like Properties の関与. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都), 2014. 11.
  - 6) 清家正博, 岡野哲也, 栗林英彦, 弦間昭彦: 血清プロテオーム解析を用いた肺扁平上皮癌のバイオマーカー探索. 日本臨床プロテオーム研究会 (第 10 回) (東京), 2014. 5.
  - 7) 菅野哲平, 清家正博, 野呂林太郎, 添野千絵, 久保田馨, 弦間昭彦: Mechanism of Resistance to MET inhibitors in NSCLC. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (横浜), 2014. 8.
  - 8) 山本和男, 清家正博, 武内 進, 添野千絵, 弦間昭彦: MiR-379/411 Cluster Regulates IL-18 and Contributes to Drug Resistance in Malignant Pleural Mesothelioma. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (横浜), 2014. 8.
  - 9) 青山純一, 宮永晃彦, 二島俊一, 小林研一, 高橋明子, 中道真仁, 武内 進, 水谷英明, 峯岸裕司, 山本和男, 清家正博, 久保田馨, 弦間昭彦: 非小細胞肺癌に対する nab-Paclitaxel の有効性と安全性の後方視的検討. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都), 2014. 11.
  - 10) 菅野哲平, 清家正博, 野呂林太郎, 添野千絵, 久保田馨, 弦間昭彦: Mechanism of Resistance to MET inhibitors in NSCLC. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 12 回) (福岡), 2014. 7.
  - 11) Ulrich Costabel/Essen, Inoue Y, Harold R Collard, Susanne Stowasser, Inga Tschöepe, Azuma A : Effect of baseline FVC on decline in lung function with nintedanib : results from the INPULSIS<sup>○</sup>R trials. BTS Winter Meeting 2014 (Southampton,UK), 2014.
  - 12) Bando M, Yamauchi H, Ogura T, Taniguchi H, Watanabe K, Azuma A, Homma S, Sugiyama Y : Long-term efficacy of pif-  
fenidone for idiopathic pulmonary fibrosis. ATS International Conference (San Diego, California,U.S.A.), 2014. 5.
  - 13) 加藤泰裕, 三浦由記子, 齋藤好信, 小野寺健太, 加藤浩司, 山本 剛, 功刀しのぶ, 吾妻安良太, 弦間昭彦: アミオダロン投与 3 日後に器質化肺炎, 肺胞出血を生じた 1 例. 日本内科学会関東地方会 (東京), 2014. 6.
  - 14) Miura Y, Saito T, Tsunoda Y, Takoi H, Tanaka T, Yatagai Y, Lin SY, Sekine A, Hayashihara K, Inomata M, Nei T, Saito Y, Gemma A, Azuma A : Clinical effect on incidence of acute exacerbation and lung carcinoma of pif-  
fenidone in chronic interstitial pneumonia. ATS International Conference (San Diego, California,U.S.A.), 2014. 5.
  - 15) Taniguchi H, Azuma A, Ogura T, Inoue Y, Chida K, Bando M, Kakutani S, Inagaki S, Suga M, Sugiyama Y, Kudoh S, Nukiwa T : Acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis : Analysis in a post-marketing surveillance of pif-  
fenidone. ERS International Congress 2014 (Munich,Germany), 2014. 9.
  - 16) Koschel D, Cottin V, Skold M, Tomassetti S, Azuma A, Giot C, Yocum D, Hamza S, Maher T : Pif-  
fenidone post-authorization safety registry (PASSPORT) -Interim analysis of IPF treatment. ERS International Congress 2014 (Munich,Germany), 2014. 9.
  - 17) Costabel U, Inoue Y, Richeldi L, Collard H, Stowasser S, Tschöepe I, Azuma A : Effect of baseline FVC on decline in lung function with nintedanib : Results from the INPULSIS<sup>TM</sup> trials. ERS International Congress 2014 (Munich,Germany), 2014. 9.
  - 18) Miura Y, Saito T, Tsunoda Y, Tanaka T, Takoi H, Yatagai Y, Lin S, Sekine A, Hayashihara K, Inomata M, Nei T, Saito Y, Gemma A, Azuma A : Clinical effect of pif-  
fenidone on incidence of lung carcinoma in chronic interstitial pneumonia. ERS International Congress 2014 (Munich,Germany), 2014. 9.
  - 19) Ulrich Costabel/Essen, Luca Richeldi, Azuma A, Inoue Y, Harold R Collard, Inga Tschöepe, Susanne Stowasser, Moisés Selman : Pre-specified subgroup analyses of pooled data from the INPULSIS<sup>TM</sup> trials of nintedanib in idiopathic pulmonary fibrosis. DGP 2015 (deutsche Gesellschaft der Pneumologie) (Germany), 2015. 3.
  - 20) Ulrich Costabel/Essen, Luca Richeldi, Roland M. Du Bois, Ganesh Raghu, Azuma A, Kevin K. Brown, Vincent Cottin, Kevin R. Flaherty, Inoue Y, Dong Soon Kim, Kolb M, Noble PW, Moisés Selman, Taniguchi H, Michèle Brun, et al. : Efficacy and safety of nintedanib in patients with idiopathic pulmonary fibrosis : Results of two 52-week, Phase III, randomized, placebo-controlled trials (INPULSIS<sup>TM</sup>). DGP 2015 (deutsche Gesellschaft der Pneumologie) (Germany), 2015. 3.
  - 21) Ulrich Costabel/Essen, Kolb M, Inoue Y, Hernandez P, Bailes Z, Schlenker-Herceg R, Azuma A : Effect of FEV1/FVC ratio

- on reduction in FVC decline with nintedanib in the INPULSIS™ trials., DGP 2015 (deutsche Gesellschaft der Pneumologie) (Germany), 2015. 3.
- 22) 國保成暁, 石井健男, 神尾孝一郎, 林 宏紀, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 木田厚瑞: 気腫合併肺線維症の診断における血清 Club cell protein (CC16) の価値. バイオマーカー研究会 (東京), 2014. 11.
  - 23) 藤田和恵, 渥美健一郎, 成田宏介, 林 宏紀, 齋藤好信, 弦間昭彦: 18F-FDG PET/CT が診断に有用であった結核症例の検討. 日本感染症学会 (第 88 回) (福岡), 2014. 6.
  - 24) 成田宏介, 藤田和恵, 渥美健一郎, 林 宏紀, 齋藤好信, 弦間昭彦: 肺炎球菌性細気管支炎の臨床的検討. 日本感染症学会 (第 88 回) (福岡), 2014. 6.
  - 25) 藤田和恵, 中道真仁, 柏田 建, 渥美健一郎, 林 宏紀, 齋藤好信, 弦間昭彦: 肺癌化学療法中における発熱性好中球減少症の臨床的検討. 日本化学療法学会 (第 62 回) (岡山), 2014. 10.
  - 26) 佐藤悦子<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 岡野哲也<sup>1)</sup>, 松本 優<sup>1)</sup>, 成田宏介<sup>1)</sup>, 都築早美<sup>1)</sup>, 久保田馨<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 呼吸器内科: ペメトレキセド維持療法により長期生存中の非小細胞肺癌の 1 例. 日本肺癌学会関東支部学術集会 (第 171 回) (東京), 2014. 12.
  - 27) 武内 進<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 松本 優<sup>1)</sup>, 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 水谷英明<sup>1)</sup>, 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 久保田馨<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野: 悪性胸膜中皮腫のペメトレキセド感受性に関する標的遺伝子について. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪国際会議場, リーガロイヤルホテル (大阪)), 2014. 4.
  - 28) Takeuchi S<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Sugano T<sup>1)</sup>, Nishijima N<sup>1)</sup>, Matsumoto M<sup>1)</sup>, Miyanaga A<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Minegishi Y<sup>1)</sup>, Kubota K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School: Significance of osteopontin in the sensitivity of malignant pleural mesothelioma to pemetrexed. AACR Annual Meeting 2014 (San Diego Convention Center, San Diego, California, USA), 2014. 4.
  - 29) 茂木 孝, 田鎖幸江<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 山本未央<sup>1)</sup>, 古館隆子<sup>1)</sup>, 服部久弥子, 石井健男, 楠 祐司, 木田厚瑞 (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック: 在宅酸素療法患者の酸素使用アドヒアランスに関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良), 2014. 10.
  - 30) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R<sup>1)</sup>, Gemma A, Kida K (1) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School: Dose the lung function decline correlate with the changes in COPD assessment test?. ERS Annual Congress 2014 (Munich), 2014. 9.
  - 31) Miyanaga A<sup>1)</sup>, Masuda M<sup>2)</sup>, Tsuta K<sup>3)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Asamura H<sup>4)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>2)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Chemotherapy and Clinical Research, National Cancer Center Research Institute, 3) Division of Pathology and Clinical Laboratories, National Cancer Center Hospital, 4) Division of Thoracic Surgery, National Cancer Center Hospital: Novel pathway mutations in malignant mesothelioma revealed by high-throughput DNA and RNA sequencing. AACR Annual Meeting 2014 (San Diego Convention Center, San Diego, California, USA), 2014. 4.
  - 32) 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 久保田馨<sup>1)</sup>, 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 中道真仁<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 神田慎太郎<sup>2)</sup>, 堀之内秀仁<sup>2)</sup>, 藤原 豊<sup>2)</sup>, 軒原 浩<sup>2)</sup>, 山本 昇<sup>2)</sup>, 田村友秀<sup>2)</sup>, 栗本太嗣<sup>3)</sup>, 酒井 洋<sup>3)</sup>, その他 6 名 (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科, 化学療法科, 2) 国立がん研究センター中央病院呼吸器内科, 3) 埼玉県立がんセンター呼吸器内科: 肺癌に対するシスプラチン (CDDP) 併用化学療法における経口補液を用いた短時間輸液療法の多施設試験. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都), 2014. 11.
  - 33) 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 増田万里<sup>2)</sup>, 蔦 幸治<sup>3)</sup>, 中村優香<sup>2)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 浅村尚生<sup>4)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 山田哲司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科分野, 2) 国立がん研究センター研究所創薬臨床研究分野, 3) 国立がん研究センター中央病院病理科, 4) 国立がん研究センター中央病院呼吸器外科: 悪性胸膜中皮腫における RNA およびターゲットエクソンシーケンスによるパスウェイ遺伝子変異. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都), 2014. 11.
  - 34) 中道真仁<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 小林由美子<sup>1)</sup>, 加藤友美<sup>1)</sup>, 青山純一<sup>1)</sup>, 二島駿一<sup>1)</sup>, 小林研一<sup>1)</sup>, 高橋明子<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 宮永晃彦<sup>1)</sup>, 水谷英明<sup>1)</sup>, 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 久保田馨<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科分野: 液性検体を用いた RT-PCR 法による肺癌の ALK 融合遺伝子診断の当院での現状. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都), 2014. 11.
  - 35) Ishii T, Angata T<sup>1, 2)</sup>, Motegi T, Taniguchi N<sup>1)</sup>, Kida K (1) Systems Glycobiology Research Group, Global Research Cluster, RIKEN, 2) Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica: Influence Of SIGLEC9 Polymorphisms On Characteristics Of Chronic Obstructive Pulmonary Disease Including Exacerbation-Prone Phenotype. ATS 2014 International Conference (San Diego), 2014. 5.
  - 36) Kusunoki Y, Hattori K, Nakamura T<sup>1)</sup>, Motegi T, Ishii T, Furutate R<sup>1)</sup>, Gemma A, Kida K (1) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School: Increased frequency of supraventricular (SVPC) and ventricular arrhythmias (PVC) in stable patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). ERS Annual Congress 2014 (Munich), 2014. 9.

- 37) Aoki W<sup>1)</sup>, Kazue F, Airi M<sup>1)</sup>, Mano Y<sup>1)</sup>, Yoshinobu S, Akihiko G, Nobuhiko F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Bunkyo Gakuin University) : Effects of Clarithromycin Against Pseudomonas Aeruginosa From Chronic Respiratory Infection Patients With Long-term Clarithromycin Treatment. Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (54th) (Washington, DC, US), 2014. 9.
- 38) 青木 渉<sup>1)</sup>, 藤田和恵, 三上愛里<sup>1)</sup>, 眞野容子<sup>1)</sup>, 齋藤好信, 弦間昭彦, 古谷信彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 文京学院大学 臨床医療技術学部) : Effects of Clarithromycin Against Pseudomonas Aeruginosa From Chronic Respiratory Infection Patients With Long-term Clarithromycin Treatment. Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (54th) (Washington, DC, US), 2014. 9.
- 39) 五来美里<sup>1)</sup>, 藤田和恵, 眞野容子<sup>1)</sup>, 齋藤好信, 弦間昭彦, 古谷信彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 文京学院大学 保健医療技術学部) : 臨床材料由来株における過粘稠性肺炎桿菌の基礎的検討. 日本感染症学会東日本地方会 (第63回) (東京), 2014. 10.
- 40) 青木 渉<sup>1)</sup>, 藤田和恵, 眞野容子<sup>1)</sup>, 齋藤好信, 弦間昭彦, 古谷信彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 文京学院大学 保健医療技術学部) : 難治性慢性気道感染症におけるマクロライド長期投与の緑膿菌への影響に関する検討. 日本感染症学会東日本地方会 (第63回) (東京), 2014. 9.
- (4) 受賞記念講演 :
- 1) 清家正博 : 肺癌における microRNA 異常の解明と新規治療法の開発に向けた研究. 日本肺癌学会学術集会 (第55回) (京都), 2014. 11.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説 :

- 1) 神尾孝一郎, 吾妻安良太 : 間質性肺炎における抗線維化療法. 呼吸と循環 2013 ; 61 (10) : 932-937.
- 2) 木田厚瑞, 藤本圭作<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 矢内 勝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻生体情報検査学講座, <sup>2)</sup> 石巻赤十字病院 呼吸器内科) : 大災害時に備え慢性重症の呼吸器疾患の対応策をどのように構築するか (座談会). 呼吸 2014 ; 33 (3) : 222-233.

#### 追加分原著 :

- 1) Inomata M, Kamio K, Azuma A, Matsuda K, Kokuho N, Miura Y, Hayashi H, Nei T, Fujita K, Saito Y, Gemma A : Pirfenidone inhibits fibrocyte accumulation in the lungs in bleomycin-induced murine pulmonary fibrosis. Respir Res 2014 ; 15 : 16.
- 2) Boku N, Sugihara K, Kitagawa Y, Hatake K, Gemma A, Yamazaki N, Muro K, Hamaguchi T, Yoshino T, Yana I, Ueno H, Ohtsu A : Panitumumab in Japanese patients with unresectable colorectal cancer : a post-marketing surveillance study of 3085 patients. Jpn J Clin Oncol 2014 ; 44 (3) : 214-223.
- 3) Watanabe S, Minegishi Y, Yoshizawa H, Maemondo M, Inoue A, Sugawara S, Isobe H, Harada M, Ishii Y, Gemma A, Hagiwara K, Kobayashi K : Effectiveness of gefitinib against non-small-cell lung cancer with the uncommon EGFR mutations G719X and L861Q. J Thorac Oncol 2014 ; 9 (2) : 189-194.

#### 追加分症例報告 :

- 1) 長山美貴恵, 三浦由記子, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 齋藤好信, 清家正博, 吾妻安良太, 久保田馨, 弦間昭彦 : 肺癌化学療法による薬剤性肺障害を PMX-DHP を含めた集学的治療により救命できた2例. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2013 ; 17 (1) : 134.
- 2) 佐藤陽三, 齋藤好信, 二島駿一, 田中 徹, 林 宏紀, 藤田和恵, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 特発性肺線維症の診断にて経過観察中に顕微鏡的多発血管炎を発症した1例. 日本内科学会関東地方会 604回 2014 ; 32.

#### 追加分会議録 :

- 1) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介, 武田 健, 吾妻安良太, 滝澤 始, 山本雅之, 川田智之 : Nrf2 欠損マウスを用いたディーゼル排気粒子のプレオマイシン気道炎症病態への影響. 日本衛生学雑誌 2013 ; 68 (Suppl.) : S214.
- 2) 國保成暁, 阿部信二, 神尾孝一郎, 小倉高志, 迎 寛, 谷口博之, 坂東政司, 杉山幸比古, 弦間昭彦, 吾妻安良太 : 特発性間質性肺炎の急性増悪に対する血液浄化療法を考える 間質性肺炎急性増悪に対する PMX 療法の有効性. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2013 ; 17 (1) : 65.
- 3) 林 宏紀, 齋藤好信, 田中 徹, 猪俣 稔, 渥美健一郎, 三浦由記子, 國保成暁, 藤田和恵, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 福嶋善光 : 間質性肺炎における Gallium SPECT-CT 検査の有用性. 日本呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 318.
- 4) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之, 吾妻安良太, 滝澤 始, 工藤翔二 : ヒト気管支上皮細胞においてディーゼル排気粒子は酸化ストレスにより上皮間葉転換を誘発する. 日本呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 263.
- 5) 二島駿一, 林 宏紀, 田中 徹, 渥美健一郎, 三浦由記子, 國保成暁, 藤田和恵, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : MPO-ANCA 陽性肺病変の臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 165.
- 6) 渥美健一郎, 齋藤好信, 三浦由記子, 國保成暁, 田中 徹, 林 宏紀, 藤田和恵, 吾妻安良太, 弦間昭彦 : 当院における特発性肺線維症の急性増悪の予後関連因子の検討. 日本呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 164.
- 7) 吾妻安良太 : IIPs 新ガイドラインの理解を巡って. 日本呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 79.
- 8) 吾妻安良太 : IPF 治療におけるステロイド, 免疫抑制剤使用の適否 ステロイド, 免疫抑制剤使用を巡る経緯とガイドライン. 日本

呼吸器学会誌 2014 ; 3 (増刊) : 26.

9) 吾妻安良太 : 臓器の線維化とその治療 肺の線維化とその治療. 日本内科学会雑誌 2014 ; 103 (Suppl) : 105.

追加解説/特集 :

1) 猪俣 稔, 吾妻安良太 : 【間質性肺炎の基本と考え方 : 診断から治療まで】疾患概念. 臨床画像 2014 ; 30 (3) : 248-258.

2) 林 宏紀, 吾妻安良太 : 【びまん性肺疾患の最新情報】膠原病に伴う肺病変 呼吸器内科医はどう診るか. 呼吸器内科 2014 ; 25 (2) : 110-114.

## 著 書

追加 :

1) 渥美健一郎, 吾妻安良太 : [分担] 肺ランゲルハンス細胞組織球症. 新しい診断と治療の ABC 85 全身性疾患の肺病変, 2015 ; pp170-176, 最新医学社.

## [武蔵小杉病院呼吸器内科]

### 研究概要

呼吸器内科では, スタッフ人員数が非常に減少し, 研究エフォートが減少せざるを得ない中, 以下のような研究活動を行った. 慢性呼吸器疾患を対象に, 院内の RST チームと共同で呼吸ケアに関する研究を実施し, 学会発表を行った. 慢性気道感染症 (特に cystic fibrosis) に関する臨床研究に取り組み, 厚生労働科学研究難治性哮喘疾患に関する調査研究班の研究協力者 (白杵) として, 国際シンポジウムでの発表を行った. さらに気管支喘息を対象に, 吸入指導を用いた地域の薬局との連携体制の確立と, 来年度より開始予定のアドヒアランスに関する臨床研究の準備を行い, 当院倫理委員会の審査を受けた. また感染症分野では, オウム病の集団発生事例について山口助教が学会発表を行い, 日本内科学会関東地方会奨励賞に選出された. 現在論文文化を進めている. 肺癌に関しては, 主に多施設臨床研究グループによる臨床試験への登録, 参加を積極的に行った. さらに今後の研究課題として, 薬剤性肺障害, 特に抗癌剤による血管内皮障害について臨床研究を行うことを念頭に, その準備を開始している.

### 研究業績

#### 論 文

(1) 総説 :

1) 金城忠史<sup>1)</sup>, 竹之下尚子<sup>1)</sup>, 山口朋禎, 田島廣之<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 中枢性気道狭窄に対するステント留置術. 日本胸部臨床 2014 ; 73 (4) : 406-412.

#### 著 書

1) 板倉潮人 : [分担] 注意すべき身体症状 (嚥下障害, 誤嚥性肺炎を中心に). 調剤と情報 薬剤師のための認知症ケアガイドブック (本間 昭), 2014 ; pp58-64, じほう.

2) 白杵二郎 : [分担] 肺胞出血. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦 編集), 2014 ; pp130-135, 総合医学社.

#### 学会発表

(1) 一般講演 :

1) 月岡悦子<sup>1)</sup>, 高木 聡<sup>1)</sup>, 山口貴子<sup>1)</sup>, 斉藤浩子<sup>1)</sup>, 中村康一<sup>2)</sup>, 小林和陽<sup>3)</sup>, 加藤和久<sup>4)</sup>, 野口周作<sup>5)</sup>, 板倉潮人, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院理学療法室, 3) 武蔵小杉病院栄養科, 4) 武蔵小杉病院 ME 部, 5) 武蔵小杉病院薬剤部) : 当院における呼吸ケアチーム活動の実際と課題. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良), 2014. 10.

2) 高木 聡<sup>1)</sup>, 月岡悦子<sup>1)</sup>, 山口貴子<sup>1)</sup>, 斉藤浩子<sup>1)</sup>, 中村康一<sup>2)</sup>, 小林和陽<sup>3)</sup>, 加藤和久<sup>4)</sup>, 野口周作<sup>5)</sup>, 板倉潮人, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院理学療法室, 3) 武蔵小杉病院栄養科, 4) 武蔵小杉病院 ME 部, 5) 武蔵小杉病院薬剤部) : 費用対効果を考慮した栄養マネジメントで在宅移行した 1 症例. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良), 2014. 10.

3) 石塚淳史<sup>1)</sup>, 木下賀央里, 白杵二郎, 佐藤直樹<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科) : ECMO で救命し得た重症インフルエンザ肺炎の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 610 回) (東京), 2014. 11.

4) 山口朋禎, 本郷公英, 板倉潮人, 木下賀央里, 春原沙織, 佐藤純平, 鳴原祥太<sup>1)</sup>, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院循環器内科) : 集団発生したオウム病の 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 606 回) (東京), 2014. 6.

5) 望月 徹<sup>1)</sup>, 上野ひろむ<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 吉田奈央<sup>3)</sup>, 山口朋禎 (1) 武蔵小杉病院感染制御部, 2) 武蔵小杉病院看護部, 3) 武蔵小杉病院薬剤部) : 当院の救命救急センターにおける MDRP アウトブレイク発生時の伝播拡大阻止策. 日本感染症学会学術講演会 (第 88

- 回) (福岡), 2014. 6.
- 6) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 山口朋禎, 白杵二郎, 許田典男<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院呼吸器外科, 2) 武蔵小杉病院病理診断科, 3) 日本医科大学付属病院呼吸器外科): 肺葉切除術における葉間作成の有無と術後予後への影響. 日本肺癌学会総会 (第55回) (京都), 2014. 11.
- 7) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 山口朋禎, 白杵二郎, 板倉潮人, 許田典男<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院呼吸器外科, 2) 武蔵小杉病院病理診断科, 3) 日本医科大学付属病院呼吸器外科): CDDP/TS1 + 放射線療法が著効し右肺全摘術を施行, Pathological CRとなった臨床病期 IIIB 期肺癌の2症例. 日本肺癌学会総会 (第55回) (京都), 2014. 11.
- 8) 山口貴子<sup>1)</sup>, 月岡悦子<sup>1)</sup>, 高木 聡<sup>1)</sup>, 斉藤浩子<sup>1)</sup>, 中村康一<sup>2)</sup>, 小林和陽<sup>3)</sup>, 加藤和久<sup>4)</sup>, 野口周作<sup>5)</sup>, 板倉潮人, 白杵二郎 (1) 武蔵小杉病院看護部, 2) 武蔵小杉病院理学療法室, 3) 武蔵小杉病院栄養科, 4) 武蔵小杉病院 ME 部, 5) 武蔵小杉病院薬剤部): 早期集中治療により救命し得た重症インフルエンザ肺炎の1例を経験して. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第24回) (奈良), 2014. 10.
- 9) 白杵二郎, 板倉潮人, 本郷公英, 佐藤純平, 井原健太郎, 木下賀央里, 春原沙織, 山口朋禎, 岩原信一郎<sup>1)</sup> (1) 南町田病院): 市中病院における禁煙外来とバレニクリンの副作用に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第54回) (大阪), 2014. 4.
- 10) Usuki J, Itakura S, Hongo K, Sunohara S, Kinoshita K, Sata J, Yamaguchi T: Pulmonary hypertension in a Japanese patient with CFTR-related bronchiectasis: a case report with autopsy. International Symposium "Cystic fibrosis in Asia from basics to clinics" (Nagoya), 2014. 9.

## [武蔵小杉病院腫瘍内科]

### 研究概要

2014年度の研究業績概要としては、主要なものとして、卵巣がんに対する dose-dense therapy に関する研究を Annals of Oncology 誌に発表した (Quality-of-life outcomes from a randomized phase III trial of dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin compared with conventional paclitaxel and carboplatin as a first-line treatment for stage II-IV ovarian cancer: Japanese Gynecologic Oncology Group Trial (JGOG3016)). この研究は、ステージIIからIVの上皮性卵巣癌に対し、パクリタキセルとの併用でカルボプラチンを毎週投与する dose-dense weekly TC (dd-TC) 療法の初回化学療法としての有効性を検討した JGOG3016 試験では、dd-TC 療法は従来の TC 療法に比べて有効であることが示されていたが、今回、この試験に登録した患者の QOL について調査した結果を発表した。その他、英語原著論文14本、日本語総説17本の執筆を行った。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Taniyama T, Hashimoto K, Katsumata N, Hirakawa A, Yonemori K, Yunokawa M, Shimizu C, Tamura K, Ando M, Fujiwara Y: Can oncologists predict survival for patients with progressive disease after standard chemotherapies?. *Curr Oncol* 2014; 21 (2): 84-90.
- 2) Sato K, Watanabe T, Katsumata N, Sato T, Ohashi Y: Satisfying the needs of Japanese cancer patients: a comparative study of detailed and standard informed consent documents. *Clin Trials* 2014; 11 (1): 86-95.
- 3) Katsumata N: I. Dose-dense chemotherapy. *Gan To Kagaku Ryoho* 2014; 41 (2): 179-83.
- 4) Kadokura G, Katsumata N: Treatment of chemotherapy-induced anemia. *Gan To Kagaku Ryoho* 2014; 41 (4): 416-20.
- 5) Harano K, Terauchi F, Katsumata N, Takahashi F, Yasuda M, Takakura S, Takano M, Yamamoto Y, Sugiyama T: Quality-of-life outcomes from a randomized phase III trial of dose-dense weekly paclitaxel and carboplatin compared with conventional paclitaxel and carboplatin as a first-line treatment for stage II-IV ovarian cancer: Japanese Gynecologic Oncology Group Trial (JGOG3016). *Ann Oncol* 2014; 25 (1): 251-7.
- 6) Harano K, Hirakawa A, Kato T, Suzuki K, Watanabe S, Katsumata N: Use of colony-stimulating factor in patients with ovarian cancer receiving paclitaxel and carboplatin in Japan. *J Gynecol Oncol* 2014; 25 (2): 124-9.
- 7) Fujimori M, Shirai Y, Asai M, Kubota K, Katsumata N, Uchitomi Y: Effect of communication skills training program for oncologists based on patient preferences for communication when receiving bad news: a randomized controlled trial. *J Clin Oncol* 2014; 32 (20): 2166-72.
- 8) Burger-A R, Brady-F M, Bookman-A M, Monk-J B, Walker-L J, Homesley-D H, Fowler (J), Greer-E B, Boente (M), Fleming-F G, Lim-C P, Rubin-C S, Katsumata (N), Liang-X S: Risk factors for GI adverse events in a phase III randomized trial of bevacizumab in first-line therapy of advanced ovarian cancer. *J Clin Oncol* 32 (12): 1210-7.

- 9) Harano K, Hirakawa A, Kato T, Suzuki K, Watanabe S, Katsumata N : Practice pattern of the use of colony stimulating factor in ovarian cancer patients receiving paclitaxel and carboplatin in Japan. J Gynecol Oncol 2014 ; 25 (2) : 124-129.
  - 10) 勝俣範之 : 医師主導治験の実際 承認申請に至った成功例から学ぶ 卵巣がんに対するベバシズマブ医師主導治験 (解説). 薬理と治療 2014 ; 42 (2) : 78-81.
  - 11) 勝俣範之 : 子宮頸部扁平上皮癌に対する化療薬を用いた新たな治療戦略 子宮頸部扁平上皮癌に対する化療薬を用いた新たな治療戦略 (解説). 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2014 ; 32 (2) : 163-168.
  - 12) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 【卵巣がん : 開発中の分子標的薬剤 pazopanib, trebananib (AMG386), volasertib】特集 泌尿器・生殖器がんに対する分子標的治療. 腫瘍内科 2014 ; 13 (3) : 334-338.
- (2) 総説 :
- 1) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 【卵巣がん : 開発中の分子標的薬剤 pazopanib, trebananib (AMG386), volasertib】特集 泌尿器・生殖器がんに対する分子標的治療. 腫瘍内科 2014 ; 13 (3) : 334-338.
  - 2) 勝俣範之 : “医療否定本” ブームを考える①抗がん剤治療の誤解を解く : 国民や患者の信頼を取り戻すために. 週刊日本医事新報 2014 ; 15-17.
  - 3) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 【卵巣がん : 開発中の分子標的薬剤 pazopanib, trebananib (AMG386), volasertib】特集 泌尿器・生殖器がんに対する分子標的治療. 腫瘍内科 2014 ; 13 (3) : 334-338.
  - 4) 酒井 瞳 : 【血管新生を標的とした婦人科癌治療】ベバシズマブの卵巣癌に対する臨床試験 (解説/特集). 産科と婦人科 2015 ; 82 (2) : 167-172.
  - 5) 勝俣範之 : 診断時からの緩和ケアをどう実践していくか? (解説). 大学病院の緩和ケアを考える会総会・研究会記録集 2014 ; 9-16.
  - 6) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 婦人科腫瘍領域における実地臨床につながる臨床試験. 卵巣癌プラチナ抵抗性再発における臨床試験 (解説/特集) 2014 ; 63-13.
  - 7) 菅野哲平, 勝俣範之 : 【がん薬物療法の支持療法・副作用対策・リスク/コストベネフィット】G-CSF (解説/特集). 腫瘍内科 2014 ; 14 (2) : 111-115.
  - 8) 勝俣範之 : 【がん診療 One More Step—現場の薬剤師にラショナルレを】抗がん剤治療 Go or Stop? (解説/特集). 薬事 2014 ; 56 (6) : 903-909.
  - 9) 門倉玄武, 勝俣範之 : 【化学療法と貧血】がん患者における貧血と治療 (解説/特集). 癌と化学療法 2014 ; 41 (4) : 416-420.
  - 10) 勝俣範之 : がん化学療法における支持療法のエビデンスと実践 (解説). 尿路悪性腫瘍研究会記録 2014 ; 40 : 67-83.
  - 11) 小野寺恵子, 勝俣範之 : 【治療に伴う看護特集 患者のギモン・不安にこたえる 臓器別がん化学療法の一問一答】卵巣がん化学療法の一問一答 (Q&A/特集). プロフェッショナルがんナースング 2014 ; 4 (2) : 166-172.
  - 12) 勝俣範之 : 【“医療否定本” ブームを考える①抗がん剤治療の誤解を解く—国民や患者の信頼を取り戻すために】. 週刊日本医事新報 2014 ; 15-17.

## 著 書

- 1) 菅野哲平, 勝俣範之 : [自著] 抗がん剤の副作用と支持療法～より適切な抗がん剤の安全使用をめざして. 「卵巣癌 TC 療法」, 2015 ; pp604-608, 日本臨床会社.
- 2) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [自著] 卵巣癌プラチナ抵抗性再発における臨床試験. 産婦人科の実際, 2014 ; pp2057-2060, 金原出版株式会社.
- 3) 門倉玄武, 勝俣範之 : [自著] 卵巣がんの腹腔内化学療法. 消化管がん, 2014 ; pp199-201, メジカルビュー社.
- 4) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [分担] 「H. 卵巣がん 57. 化学療法 : 3 週ごとの TC 療法と dose-dense TC 療法」. 婦人科診療ハンドブック, 2014 ; pp363-371, 中外医学社.
- 5) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [分担] 各論 II 臓器別分子標的薬の位置づけ 6. その他. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014 ; pp240-252, 中外医学社.
- 6) 此松晶子, 小野寺恵子, 勝俣範之 : 「職種垣根を超えて患者さんにベストな医療を提供 チームむさこ oncology 座談会」日本医科大学の医師が伝える医学知識. がん医療 新病院の実力, 2014 ; pp104-109, 文藝春秋企画出版部.
- 7) 勝俣範之 : [分担] 抗がん剤治療 Go or Stop?. 月刊薬事, 2014 ; pp83-89.
- 8) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [自著] がんサバイバーシップの実際 1 章 身体的問題 2 次性発がん. がんサバイバーシップ, 2013 ; pp28-41, 医学書院.
- 9) 勝俣範之 : [自著] 抗がん剤は効かないの罪 - ミリオンセラ—近藤本への科学的反論 ; 毎日新聞社.
- 10) 酒井 瞳, 勝俣範之 : [分担] がん化学療法看護のいま : ケアの質を高めるためのエッセンス : 第 1 章 ホルモン療法のいま. がん看護 ; pp107-113, 南江堂.
- 11) 門倉玄武, 勝俣範之 : [分担] 特集 転移性肺腫瘍の分子標的薬治療 : 泌尿器癌・婦人科癌. 日本胸部臨床, 2014 ; pp165-179, 克誠

堂出版.

- 12) Sugano T, Katsumata N : [分担] 卵巣がん : TC 療法. Ovarian cancer : TC therapy, 2015 ; Nihon Rinsho.
- 13) Matsumoto K, Katsumata N, Shibata T, Satoh T, Saitou M, Yunokawa M, Takano T, Nakamura K, Kamura T, Konishi I : [共著] Phase II trial of oral etoposide plus intravenous irinotecan in patients with platinum-resistant and taxane-pretreated ovarian cancer (JCOG0503). Gynecol Oncol, 2015 ; pp218-223.

## 学会発表

### (1) セミナー :

- 1) Katsumata N : Weekly schedule of paclitaxel and carboplatin for advanced stage ovarian cancer. Gynecologic Oncology Canada, 14th Annual Continuing Professional Development Meeting (Toronto, Ontario, Canada), 2014. 5.
- 2) 酒井 瞳, 門倉玄武, 松田正典, 勝俣範之 : タモキシフェンが有効であった化学療法抵抗性の上皮性卵巣がんの2症例. 関東ホルモンと癌研究会 (第15回) (ベルサール八重洲), 2015. 1.
- 3) 勝俣範之 : 乳癌におけるカルボプラチンの使い方と今後の展望」第22回乳癌学会学術総会ランチョンセミナー. 関東圏富山大学医学部研究会 (第15回) (大阪国際会議場), 2014. 7.
- 4) 勝俣範之 : 「オンコロジストになるための必須条件とは?」次代を担う産婦人科医のためのセミナー. 関東連合産科婦人科学会 (都市センターホテル (千代田区)), 2014. 6.
- 5) 勝俣範之 : 座長. 「抗がん剤の皮膚障害」川崎市薬剤師がん治療カンファレンス (リッチモンドホテルプレミア武蔵小杉), 2014. 6.

### (2) ワークショップ :

- 1) Katsumata N : Treatment for ovarian cancer : current chemotherapy and future perspectives. The 19th Japan-Korea Cancer Research Workshop (Jeju, Korea), 2014. 11.

### (3) ポスター :

- 1) 門倉玄武 : カルボプラチン過敏症歴を有するプラチナ感受性再発卵巣がん, 腹膜癌に対するカルボプラチン含有レジメン脱感作療法の単施設成績. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第12回) (福岡国際センター), 2014. 7.

### (4) 一般講演 :

- 1) 勝俣範之 : サイコオンコロジー, リ・イノベーション : サイコオンコロジーと社会との新しい関わり. 日本サイコオンコロジー学会総会 (第27回) (タワーホール船堀), 2014. 11.
- 2) 勝俣範之 : 治験・臨床試験について考える. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (パシフィコ横浜), 2014. 8.
- 3) 勝俣範之 : 一般講演 子宮, 卵巣. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第12回) (福岡国際会議場), 2014. 7.
- 4) 勝俣範之 : オンコロジー・エマージェンシー, 総合診療視点からみた, その診断, 治療のダイナミクス. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第12回) (福岡国際会議場), 2014. 7.
- 5) 高野政志, 勝俣範之 : 初回化学療法もしくは再発症例に対して治療薬として推奨される分子標的治療薬はあるか?. 卵巣癌治療ガイドライン2014コンセンサスミーティング 日本婦人科腫瘍学会, 2014. 6.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説 :

- 1) 前嶋愛子<sup>1)</sup>, 勝俣範之 <sup>(1)</sup> 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科) : 【CGAを考慮した高齢者に対するがん治療の特性と適応】 高齢者婦人科がん薬物療法の特徴と治療選択 (解説/特集) : . 腫瘍内科 2014 ; 13 (2) : 211-220.
- 2) 勝俣範之 : Gynecologic Tumor 婦人科腫瘍 卵巣がん治療の新たな潮流 Dose-Dense 化学療法 (解説). 癌と化学療法 2014 ; 41 (2) : 179-183.
- 3) 門倉玄武, 勝俣範之 : 【転移性肺腫瘍の分子標的薬治療】. 分子標的治療薬 泌尿器癌・婦人科癌 (解説/特集) 2014 ; 73 (2) : 165-179.

#### 追加分原著 :

- 1) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 【がん化学療法看護のいま～ケアの質を高めるためのエッセンス～】 (第I章) がん化学療法のいま ホルモン療法のいま (解説/特集). がん看護 2014 ; 19 (2) : 107-113.
- 2) 酒井 瞳, 勝俣範之 : 【III がん薬物療法薬の作用機序 ホルモン療法薬 フルベストラント】. 最新がん薬物療法学 日本臨増刊号 2014 ; 72 (2) : 151-155.

## 著書

追加分：

- 1) Kitagawa R, Katsumata N, Shibata T, Kamura T, Kasamatsu T, Nakanishi T, Nishimura S, Ushijima K, Takano M, Satoh T, Yoshikawa H : [共著] Paclitaxel Plus Carboplatin Versus Paclitaxel Plus Cisplatin in Metastatic or Recurrent Cervical Cancer : The Open-Label Randomized Phase III Trial JCOG0505. J Clin Oncol, 2015 ; pp2129-2135.
- 2) Sasaki Y, Miwa K, Yamashita K, Sunakawa Y, Shimada K, Ishida H, Hasegawa K, Fujiwara K, Kodaira M, Fujiwara Y, Namiki M, Matsuda M, Takeuchi Y, Katsumata N : [共著] A phase I study of farletuzumab, a humanized anti-folate receptor *a* monoclonal antibody, in patients with solid tumors. Invest New Drugs, 2015 ; pp332-340.

## [千葉北総病院呼吸器内科]

### 研究概要

研究概要内科学（呼吸器，感染，腫瘍部門）を担当し大学付属病院として教育，臨床研究を担う以外に地域の中核病院として，以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ．（1）呼吸器病学：特発性間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血症も含めた治療法の開発，睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価，気管支拡張症に対する血清診断分類の開発，気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価，呼吸困難感の評価，咳喘息の治療評価慢性閉塞性肺疾患の地域連携の方法論の確立，新しい呼吸抵抗の評価（RINT，MOSTGRAPHを用いた）（2）感染症学：市井肺炎の診断と経口抗生剤治療，病院感染対策，各種院内感染サーベイランス，院内肺炎の予防，特殊感染症診断制御，結核による院内感染制御，肺非定型抗酸菌症の治療，RST：呼吸サポートチームの運営と人工呼吸器肺炎の，評価医療関係者および看護学生に対する麻疹，インフルエンザ，風疹の抗体価測定と予防接種，病院内耐性菌サーベイランス，マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御，マクロライド抗菌薬の新作用開発（3）臨床腫瘍学：肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策，肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立，肺癌末期患者に対する緩和治療の提案，肺癌の超音波気管支内視鏡（EBUS）診断，抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療以上につき臨床研究を継続中である．（4）呼吸器疾患の地域連携システムの開発かねてより慢性閉塞性肺疾患患者に対する General practitioner との手帳を用いた地域連携を進めてきた．これに加えて吸入指導や服薬指導を地域で行うべく手帳による呼吸器疾患医薬連携システムを構築している．”

### 研究業績

#### 学会発表

（1）ポスター：

- 1) Tanaka Y, Hino M, Onda N, Takoi H, Kosaihiro S, Motohashi N, Gemma A<sup>2)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Latest version : Comparison of monotherapy with a long-acting muscarinic antagonist versus combination therapy with a long-acting muscarinic antagonist plus a long-acting beta2-agonist in patients with chronic obstructive pulmonary disease. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali, Indonesia), 2014. 11.
- 2) Hino M, Tanaka Y, Onda N, Takoi H, Kosaihiro S, Motohashi S, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Could COPD patients with severe air flow limitation inhale Turbuhaler® effectively?. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali, Indonesia), 2014. 11.
- 3) Hino M, Tanaka Y, Onda N, Takoi H, Kosaihiro S, Motohashi N, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical Analysis of Sleep-Disordered Breathing in End-stage Renal Disease with Hemodialysis. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali Indonesia), 2014. 11.
- 4) Takoi H, Tanaka Y, Onda N, Kosaihiro S, Motohashi N, Hino M, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical features of patients with pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE) : Our experience. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali Indonesia), 2014. 11.
- 5) Onda N, Tanaka Y, Takoi H, Kosaihiro S, Motohashi N, Hino M, Gemma A<sup>1)</sup> (1) : Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical features of patients with combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) focusing on pulmonary hypertension : Our experience. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali Indonesia), 2014. 11.
- 6) Motohashi N, Tanaka Y, Onda N, Takoi H, Kosaihiro S, Hino M, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Evaluation of the pulmonary function tests of the patients who were referral from primary care doctors for the chronic cough. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respiriology (Bali Indonesia), 2014. 11.



7) Onda N, Tanaka Y, Takoi H, Kosaihira S, Motohashi N, Hino M, Gemma A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Clinical features of patients with combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) focusing on pulmonary hypertension : Our experience. 19th Congress of Asian Pacific Society of Respirology (Bali, Indonesia), 2014. 11.

(2) 一般講演 :

1) 本橋典久 : 胸部 X 線動態撮影から得られた気流速度による COPD の患者の性別差の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪市), 2014. 4.

## 10. 精神・行動医学分野

### [付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

#### 研究概要

精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な診断、治療法を開発することを目的に、診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に行った。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。以下の研究を行った。1. うつ病患者のアミロイドイメージング：高齢者うつ病におけるアミロイド陽性率は約40%で、軽度認知障害患者における陽性率とほぼ同等で、うつ病が軽度認知障害と同様にアルツハイマー（AD）型認知症の危険因子であることを示した。うつ病については70歳以上の晩発初発例でアミロイド陽性率が高いことから、高齢者ではアミロイド沈着に関連し認知症の前駆症状としてうつ病を発症する可能性が示唆された。2. うつ病患者のドーパミントランスポーター（DAT）イメージング：高齢うつ病患者ではDAT結合能に有意な変化を認めなかった。しかしながら、電気けいれん療法前後で測定したところ、治療後にDATが約10%低下していることが明らかになった。3. タウイメージングの開発研究：今年度新たにタウ病変を検出する新規リガンドを導入し臨床研究を開始した。4. 向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究：PETおよびfMRIを用いて、ドーパミン放出、DAT阻害作用、セロトニントランスポーター阻害作用、高次脳機能賦活に対する脳血流反応を調べ向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究を行った。5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。7. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する研究を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。8. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) 岸 泰宏：PEEC (Psychiatric Evaluation in Emergency Care) 教育コースの普及とコンサルテーション・リエゾン精神科医の関与。日本臨床救急医学雑誌 2014；17 (4)：575-578.
- 2) Yamaguchi T<sup>1)</sup>, Tsukioka E<sup>1)</sup>, Kishi Y (1) Department of Nursing)：Outcomes after delirium in a Japanese intensive care unit. Gen Hosp Psychiatry 2014；36 (6)：634-636.
- 3) Kishi Y, Otsuka K, Akiyama K, Yamada T, Sakamoto Y, Yanagisawa Y, Morimura H, Kawanishi C, Higashioka H, Miyake Y, Thurber S：Effects of a training workshop on suicide prevention among emergency room nurses. Crisis 2014；35 (5)：357-361.
- 4) Kishi Y, Hazama Y<sup>1)</sup>, Komagata Y<sup>1)</sup>, Karube M<sup>1)</sup>, Takahashi J<sup>1)</sup> (1) Department of Nursing)：Can quick first step bio-psychosocial screening, COMPRI (COMplexity PRediction Instrument), predict length of hospital stay in a general hospital in Japan?. J Psychosom Res 2014；77 (4)：330-331.
- 5) Huang H, Meller W, Kishi Y, Kathol R：What is integrated care?. Int Rev Psychiatry 2014；26 (6)：620-628.
- 6) Hatta K, Kishi Y, Wada K, Takeuchi T, Odawara T, Usui C, Nakamura H：Preventive Effects of Ramelteon on Delirium：A Randomized Placebo-Controlled Trial. JAMA Psychiatry 2014；71 (4)：397-403.
- 7) Meller W, Specker S, Schultz P, Kishi Y, Thurber S, Kathol R：Using the INTERMED complexity instrument for a retrospective analysis of patients presenting with medical illness, substance use disorder, and other psychiatric illnesses. Ann Clin Psychiatry 2015；271 (1)：38-43.
- 8) Shingai Y, Tataeno A, Arakawa R, Sakayori T, Kim W, Suzuki H, Okubo Y：Age-related decline in dopamine transporter in human brain using PET with a new radioligand [18F] FE-PE2I. Ann Nucl Med. 2014；28 (3)：220-226.
- 9) Sakayori T, Tateno A, Arakawa R, Ikeda Y, Suzuki H, Okubo Y：Effect of mazindol on extracellular dopamine concentration in human brain measured by PET. Psychopharmacology (Berl). 2014；231 (11)：2321-2325.
- 10) Ogawa K, Tateno A, Arakawa R, Sakayori T, Ikeda Y, Suzuki H, Okubo Y：Occupancy of serotonin transporter by tramadol：a positron emission tomography study with [11C] DASB. Int J Neuropsychopharmacol. 2014；17 (6)：845-850.
- 11) Suzuki M, Kodaka F, Takano H, Kimura Y, Fujiwara H, Sasaki T, Takahata K, Nogami T, Nagashima T, Nengaki N, Kawamura K, Zhang M, Varone A, Halldin C, Okubo Y, et al.：Reproducibility of PET measurement for presynaptic dopaminergic functions using L- [β- (11) C] DOPA and [(18) F] FE-PE2I in humans. Nucl Med Commun. 2014；35 (3)：231-237.
- 12) Tateno A, Okubo Y：Amyloid positron emission tomography imaging for the differential diagnosis of Alzheimer's disease. J Nip-

pon Med Sch. 2014 ; 81 (1) : 2-3.

- 13) Funayama T, Ikeda Y, Tateno A, Takahashi H, Okubo Y, Fukayama H, Suzuki H : Modafinil augments brain activation associated with reward anticipation in the nucleus accumbens. *Psychopharmacology (Berl)*. 2014 ; 231 (16) : 3217-3228.
- 14) Asami T, Okubo Y, Sekine M, Nomura T : Eating disorders among patients incarcerated only for repeated shoplifting : a retrospective quasi-case-control study in a medical prison in Japan. *BMC Psychiatry*. 2014 ; 14 : 169.
- 15) Kurita M, Nishino S, Numata Y, Okubo Y, Sato T : The noradrenaline metabolite MHPG is a candidate biomarker from the manic to the remission state in bipolar disorder I : a clinical naturalistic study. *PLoS One* 2014 ; 9 (6) : e100634.
- 16) Narishige R, Kawashima Y, Otaka Y, Saito T, Okubo Y : Gender differences in suicide attempters : a retrospective study of precipitating factors for suicide attempts at a critical emergency unit in Japan. *BMC Psychiatry* 2014 ; 14 : 144.
- 17) Kim W, Tateno A, Arakawa R<sup>1)</sup>, Sakayori T, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Department of Adult Mental Health, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>2)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : In vivo activity of modafinil on dopamine transporter measured with positron emission tomography and [18F] FE-PE2I. *International Journal of Neuropsychopharmacology* 2014 ; 17 (5) : 697-703.
- 18) Funayama T<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>2)</sup>, Tateno A, Takahashi H<sup>3)</sup>, Okubo Y, Fukayama H<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Anesthesiology and Clinical Physiology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University) : Modafinil augments brain activation associated with reward anticipation in the nucleus accumbens. *Psychopharmacology* 2014 ; 231 (16) : 3217-3228.
- 19) Tateno A, Sakayori T, Takizawa Y, Yamamoto K, Minagawa K, Okubo Y : A case of Alzheimer's disease following mild traumatic brain injury. *General Hospital Psychiatry* 2015 ; 30 (97) : e7-e9.
- 20) 朝山健太郎, 福田敬子, 大久保善朗 : Clozapine による一過性の発熱の経過中に心筋炎をきたした症例. *精神科* 2014 ; 25 (2) : 227-233.

## (2) 総説 :

- 1) 岸 泰宏 : せん妄. *内科* 2014 ; 114 (6) : 1218-1221.
- 2) 三上克央<sup>1)</sup>, 岸 泰宏 ( <sup>1)</sup> 東海大学 精神科) : 出血傾向があり, その治療を受けている患者の精神症状への薬物療法. *精神科治療学* 2014 ; 29 (4) : 483-488.
- 3) 岸 泰宏 : コンサルテーション・リエゾン精神医学におけるアウトリーチならびに多職種介入の重要性. *臨床精神医学* 2014 ; 43 (6) : 853-868.
- 4) 上田 諭 : 老年期に生じやすい危機—うつ病は身体の病, 認知症は心の病—. *心身医学* 2014 ; 54 (7) : 679-683.
- 5) 上田 諭 : 認知機能より生活を診るアルツハイマー病診療—張り合いの追求と精神療法の重要性—. *精神科治療学* 2014 ; 29 (8) : 971-978.
- 6) 上田 諭 : 認知症そのままでもいい 第1回. *医療と介護 Next* 2015 ; 1 (1) : 41-44.
- 7) 上田 諭 : 認知症そのままでもいい 第2回. *医療と介護 Next* 2015 ; 1 (2) : 41-44.
- 8) 木村真人 : 脳卒中後うつ病の診断と管理. X. 脳卒中に伴う諸症状とその管理. *最新臨床脳卒中学 (上) : 最新の診断と治療*. 日本臨牀 2014 ; 72 (増5) : 624-629.
- 9) 木村真人 : Aripiprazole の大うつ病に対する増強療法の適応追加. 特集 向精神薬の適応拡大 : 最新の知見. *臨床精神薬理* 2014 ; 17 (7) : 961-969.
- 10) 木村真人 : 脳卒中後のうつとアパシー. *臨床リハ* 2014 ; 23 (5) : 484-450.
- 11) 下田健吾, 木村真人 : 【日常診療に役立つうつ病の知識】 身体疾患と合併したうつ病の治療 脳卒中. *臨牀と研究* 2014 ; 91 (5) : 619-624.

## (3) 症例報告 :

- 1) Shimoda K, Kimura M : Two cases of emotional disorder after middle cerebral artery infarction showing distinct responses to antidepressant treatment. *Neuropsychiatric Disease and Treatment* 2014 ; 10 : 965-970.

## 著 書

- 1) 岸 泰宏 : [分担] 重症患者に発症するICUせん妄は一般病棟で発症するせん妄と同じか?. *Surviving ICU シリーズ 重症患者の痛み・不穏・せん妄 実際どうする?* (布宮 伸), 2015 ; pp92-98, 羊土社.
- 2) 上田 諭 : [自著] 治さなくてよい認知症, 2014 ; 日本評論社.
- 3) 上田 諭 : [自著] 不幸な認知症 幸せな認知症, 2014 ; マガジンハウス.
- 4) 上田 諭 : [分担] アルツハイマー病. 抑うつの鑑別を究める (野村総一郎ら), 2014 ; pp192-200, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 大久保善朗：新規 PET リガンドを用いた精神疾患の診断と治療評価 アミロイドおよびドパミントランスポーターイメージング。むさし精神科地域医療研究会（第3回），2014. 4.
- 2) 大久保善朗：分子イメージングからみた統合失調症の病態と治療。つくばアカデミー・オブ・サイカイアトリー（つくば），2014. 7.

### (2) 教育講演：

- 1) 館野 周：老年期うつ病と認知症。認知症予防学会（第4回）（東京），2014. 9.

### (3) シンポジウム：

- 1) 岸 泰宏：せん妄マネジメントの根拠としての危険因子。日本総合病院精神医学会（第27回）（筑波），2014. 11.
- 2) 上田 諭：高齢者のうつ病に対する ECT。日本老年精神医学会（第29回）（東京），2014. 6.
- 3) 上田 諭：適切な刺激用量設定と発作時モニターへの注目。日本精神神経学会学術総会（第110回）（横浜），2014. 6.
- 4) 上田 諭：焦燥型うつ病の亜型分類とその治療。日本精神神経学会学術総会（第110回）（横浜），2014. 6.
- 5) 上田 諭：薬より本人と生活への注目—診断後すべきことは何か。日本外来精神医学会大会（第14回），2014. 7.
- 6) 肥田道彦<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学教室）：統合失調症の選択的音声感受領域の脳病態と FOXP2 関連遺伝子の影響に関する検討（シンポジウム：第3回 日本生物学的精神医学会 若手研究者育成プログラム奨励賞 受賞講演）。日本生物学的精神医学会（第36回）（奈良県新公会堂），2014. 9.
- 7) 館野 周：統合失調症の PET 画像研究（画像研究）。日本統合失調症学会（第10回）（東京），2015. 3.

### (4) セミナー：

- 1) 木村真人：高齢者うつ病の病態と治療：血管性/脳卒中後うつ病を含めて。日本外来精神医療学会（第14回）（栃木），2014. 7.
- 2) 木村真人：脳卒中後のうつとアパシー。脳ドック学会総会（第23回）（山口），2014. 6.
- 3) 大久保善朗：うつ病の診断と治療。江戸川区医師会うつ診療充実強化研修（江戸川区），2014. 11.
- 4) 大久保善朗：糖尿病と認知症。鶴見メンタルヘルス懇話会（神奈川），2014. 8.
- 5) 館野 周：薬物依存の PET 画像研究：臨床応用の可能性。アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会（平成26年度）（横浜），2014. 10.

### (5) ワークショップ：

- 1) 三宅康史，大塚耕太郎，橋本 聡，三上克央，木本啓太郎，高橋有記，岸 泰宏，亀井美穂，安東友子：身体科救急スタッフに向けた精神科救急患者の初期対応 PEEC 公開コースのご紹介。日本総合病院精神医学会（第27回）（筑波），2014. 11.

### (6) 一般講演：

- 1) 東岡宏明，三宅康史，河西千秋，大塚耕太郎，岸 泰宏，三上克央，橋本 聡，秋山恵子，柳澤八重子，坂本由美子：PEEC コースの全国展開に向けての課題。日本臨床救急医学会（栃木），2014. 4.
- 2) 赤羽日出男，岸 泰宏，山口朋禎，藤原佳美，栗原香織，二宮美香，軽部みなど，青山豊子，若城由美子，宮内秀典，小泉嘉子：緩和ケアチーム介入を必要としたがんのみに対する治験の検討。日本緩和医療学会（第19回）（神戸），2014. 6.
- 3) 藤原佳美，栗原香織，二宮美香，軽部みなど，青山豊子，小泉嘉子，若城由美子，宮内秀典，赤羽日出男，山口朋禎，岸 泰宏：緩和ケアチームが介入し，困難と思われた終末期患者の故郷への転院希望を支えた1症例。日本緩和医療学会（第19回）（神戸），2014. 6.
- 4) 野崎俊樹，太組一朗，喜多村孝幸，岸 泰宏，川上康彦，森田明夫：小児神経科医にとってのてんかん外科医療の位置づけ。日本てんかん学会（第48回）（東京），2014. 10.
- 5) 伊藤滋朗，岸 泰宏，松田 潔：救命救急センターにおいて外傷性頸椎損傷を機に死を希望した1例。日本精神科診断学会（第34回）（愛媛），2014. 11.
- 6) Ueda S, Sakayori T, Okubo Y : Psychotic depression with pseudodementia misdiagnosed as dementia remitted with TCA. International Review of Psychosis and Bipolarity 2014 (Athens, Greece), 2014. 5.
- 7) Ueda S, Okubo Y : Successful combination therapy of mirtazapine and duloxetine or escitalopram in elderly patients operated for cancers. 16th World Congress of Psycho-Oncology (Lisbon, Portugal), 2014. 10.
- 8) Ueda S, Okubo Y : Delusions of Alzheimer's disease ; due to brain lesions or psychological reasons?. 9th World Congress on Controversies in Neurology (Budapest, Hungary), 2015. 3.
- 9) Koeda M<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Ikeda Y<sup>3)</sup>, Tateno A<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>3)</sup>, Okubo Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Molecular Genetics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Genetic Variation in CNTNAP2 and Cerebral Response to Human Voice Perception. Organization for Human Brain Mapping 2014 Annual Meeting.(20th) (Hamburg, Germany), 2014. 6.

- 10) 肥田道彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学教室)：音声情動認知の文化差に関する脳機能イメージング：イギリス・グラスゴー大学留学報告。日本医科大学医学部総会 (第 82 回) (日本医科大学), 2014. 9.
- 11) 肥田道彦<sup>1)</sup>, 渡辺 淳<sup>2)</sup>, 池田裕美子<sup>3)</sup>, 金 禹瑱<sup>1)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 荻部洋行<sup>4)</sup>, 鈴木秀典<sup>3)</sup>, 松浦雅人<sup>5)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 日本医科大学附属病院臨床遺伝学, 3) 日本医科大学薬理学教室, 4) 日本歯科大学, 5) 東京医科歯科大学)：人の声に選択的な脳賦活部位に対する CNTNAP2 多型の影響：機能的 MRI 研究。日本生物学的精神医学会 (第 36 回) (奈良県文化会館), 2014. 9.
- 12) 肥田道彦<sup>1)</sup>, 池田裕美子<sup>2)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 日本医科大学薬理学教室)：非言語性感音声聴取時の脳賦活に対するマジンドールの効果：fMRI 研究。日本臨床精神神経薬理学会 (第 24 回)・日本神経精神薬理学会 (第 44 回) 合同年会 (名古屋国際会議場), 2014. 11.
- 13) 大和田陽代, 太田杏奈, 秋山友美, 永田恵理香, 木村真人：当院脳神経センターに入院した脳卒中患者のうつ状態調査：PSD 患者の光トポグラフィー所見を含めて。千葉総合病院精神科研究会 (第 19 回) (千葉), 2014. 4.
- 14) 秋山友美, 永田恵理香, 太田杏奈, 増岡孝治, 大森 中, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：気分障害に対する m-ECT 治療後の光トポグラフィー検査による血流量の変化の検討。千葉総合病院精神科研究会 (第 19 回) (千葉), 2014. 4.
- 15) 永田恵理香, 秋山友美, 太田杏奈, 大和田陽代, 松本早枝子, 山本 憲, 小泉公平, 野上 毅, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：当院におけるうつ病に対する運動療法の試み。千葉総合病院精神科研究会 (第 19 回) (千葉), 2014. 4.
- 16) 永田恵理香, 秋山友美, 太田杏奈, 大和田陽代, 松本早枝子, 山本 憲, 小泉公平, 野上 毅, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：高齢者うつ病に対する運動療法の試み。日本心身医学会総会 (第 55 回), 2014. 6.
- 17) 永田恵理香, 秋山友美, 太田杏奈, 大和田陽代, 増岡孝治, 山本 憲, 松本早枝子, 野上 毅, 大森 中, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：光トポグラフィー検査で双極性障害パターンと評価された患者の特徴。日本うつ病学会総会 (第 11 回) (広島), 2014. 7.
- 18) 秋山友美, 永田恵理香, 太田杏奈, 増岡孝治, 大森 中, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：うつ状態の重症度と光トポグラフィー検査による血流量の関連。日本うつ病学会総会 (第 11 回) (広島), 2014. 7.
- 19) 永田恵理香, 秋山友美, 太田杏奈, 鈴木清人, 安田 毅, 新貝慈利, 大森 中, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：当院におけるうつ病に対する運動療法の試み。日本催眠学会学術大会 (第 30 回) (東京), 2014. 10.
- 20) 横田雅実, 木村真人：重度の爪噛み癖を有する歯科患者に対し自律訓練法を応用した 1 例。日本催眠学会学術大会 (第 30 回) (東京), 2014. 10.
- 21) 太田杏奈, 永田恵理香, 秋山友美, 鈴木清人, 安田 毅, 新貝慈利, 肥田道彦, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：うつ病の入院患者に対するアロマテラピーと運動療法の経験。北総精神科医会 (第 39 回) (千葉), 2014. 10.
- 22) 安田 毅, 鈴木清人, 新貝慈利, 肥田道彦, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人：当院における maintenance ECT の経験と実際。北総精神科医会 (第 39 回) (千葉), 2014. 10.
- 23) 大村朋子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup>, 木村真人 (1) 脳神経外科)：当院における脳卒中後うつの対策と急性期病院での現状。日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 24) 金 禹瑱, 上田 諭, 大久保善朗：子宮全摘術後、解離性昏迷を呈した 1 症例。精神神経学会総会 (第 110 回) (横浜), 2014. 6.
- 25) 金 禹瑱<sup>1)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 池田裕美子<sup>2)</sup>, 坂寄 健<sup>1)</sup>, 荒川亮介<sup>1, 3)</sup>, 鈴木秀典<sup>2)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学教室, 2) 日本医科大学薬理学教室, 3) カロリンスカ研究所・臨床神経科学部門)：セレギリンのドパミン情報伝達系への作用に関する PET 研究。神経精神薬理学会 (第 44 回) (名古屋), 2014. 11.
- 26) 佐藤孝徳<sup>1)</sup>, 高取祐子<sup>1)</sup>, 柴崎 哲<sup>1)</sup>, 大島 希<sup>1)</sup>, 鈴木砂由里<sup>1)</sup>, 成重竜一郎 (1) 社会医療法人公徳会若宮病院)：医療機関における児童思春期を対象とした精神保健相談の特徴に関する検討。日本児童青年精神医学会総会 (第 55 回) (浜松), 2014. 10.
- 27) 大島 希<sup>1)</sup>, 鈴木砂由里<sup>1)</sup>, 成重竜一郎, 寒河江昌子<sup>1)</sup>, 柴崎 哲<sup>1)</sup>, 高取祐子<sup>1)</sup> (1) 社会医療法人公徳会若宮病院)：アンガーコントロールトレーニングを活用する工夫と母子相互に実践した 1 症例。日本児童青年精神医学会総会 (第 55 回) (浜松), 2014. 10.
- 28) 澤谷 篤, 成重竜一郎, 齊藤卓弥, 大久保善朗：医学部 BSL (Bed Side Learning) における精神科の役割。日本精神神経学会学術総会 (第 110 回) (横浜), 2014. 6.
- 29) 福田敬子, 朝山健太郎, 浅井邦也, 大久保善朗：Clozapine 治療中に一過性の薬剤性心筋炎を来した統合失調症の 1 例。日本精神神経学会学術総会 (第 110 回), 2014. 9.
- 30) 朝山健太郎, 館野 周, 大久保善朗：反復性傾眠症 1 症例の傾眠期/間欠期における FDG-PET による糖代謝の比較。日本睡眠学会定期学術集会第 39 回, 2014. 7.

## 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 上田 諭：初老・老年期うつ病の亜型分類とその治療。分子精神医学 2014 ; 14 (2) : 74-76.

追加分原著：

- 1) 戸井田真木, 川西千秋, 三宅康史, 岸 泰宏, 大塚耕太郎, 荒川亮介, 河嶌 謙：救急医療従事者の自殺予防に関する知識と態度. 精神医学 2014 ; 56 (1) : 53-58.
- 2) Kishi Y, Kurosawa H, Horikawa N, Hatta K, Meller W : Diagnoses of psychiatric disorders in hypothetical patients by non-psychiatric physicians in Japan. Int J Psychiatry Med 2014 ; 47 (1) : 65-74.
- 3) Hatta K, Kishi Y, Wada K, Odawara T, Takeuchi T, Shiganami T, Tsuchida K, Oshima Y, Uchimura N, Akaho R, Watanabe A, Taira T, Nishimura K, Hashimoto N, Usui C, et al. : Antipsychotics for delirium in the general hospital setting in consecutive 2453 inpatients : a prospective observational study. Int J Geriatr Psychiatry 2014 ; 29 (3) : 253-62.
- 4) Hatta K, Kishi Y, Takeuchi T, Wada K, Odawara T, Usui C, Machida Y, Nakamura H : The predictive value of a change in natural killer cell activity for delirium. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry 2014 ; 48 : 26-31.
- 5) Tateno A, Sakayori T, Kawashima Y, Higuchi M<sup>1)</sup>, Sahara T<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>2)</sup>, Mintun AM<sup>3)</sup>, Skovronsky MD<sup>3)</sup>, Honjo K<sup>4)</sup>, Ishihara K<sup>4)</sup>, Kumita S<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center, <sup>3)</sup> Avid Radiopharmaceuticals, Inc., <sup>4)</sup> Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School, <sup>6)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Comparison of imaging biomarkers for Alzheimer's disease : amyloid imaging with florbetapir F18 positron emission tomography and MRI voxel-based analysis for entorhinal cortex atrophy. International Journal of Geriatric Psychiatry 2015 ; 30 (5) : 505-513.
- 6) Tateno A, Sakayori T, Higuchi M<sup>1)</sup>, Sahara T<sup>1)</sup>, Ishihara K<sup>2)</sup>, Kumira S<sup>3)</sup>, Suzuki H<sup>4)</sup>, Okubo Y ( <sup>1)</sup> Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>2)</sup> Clinical Imaging Center for Healthcare, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Amyloid imaging with [18F] florbetapir in geriatric depression : early-onset versus late-onset. International Journal of Geriatric Psychiatry 2015.

追加分症例報告：

- 1) 山田陽代, 秋山友美, 太田杏奈, 皆川 薫, 木村真人：精油を用いた足浴により睡眠改善の得られたうつ病患者の1例. 催眠と科学 2014 ; 28 (1) : 79-82.

著 書

追加分：

- 1) 木村真人：〔分担〕第1章 アパシー. 第2部 抑うつと類似した概念との鑑別と治療のポイント. 精神科臨床エキスパート 抑うつ の鑑別を極める (野村総一郎編集), 2014 ; pp24-32, 医学書院.

学会発表

追加分シンポジウム：

- 1) 上田 諭：自己肯定感を取り戻す精神療法—認知症に対する重要性. 日本精神神経学会学術総会 (第110回) (横浜), 2104. 6.

追加分セミナー：

- 1) 大久保善朗：電気けいれん療法 (ECT) による難治精神疾患の治療. 六郷川精神科医療懇話会 (大田区), 2014. 2.

追加分特別講演：

- 1) 大久保善朗：分子イメージングによる精神神経疾患の診断 最近の進歩について. 東京精神神経科診療所協会例会 (東京), 2014. 3.

## 11. 小児・思春期医学分野

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児内科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

### 研究概要

当教室では小児科学のほぼすべての領域について診療・研究グループが、高度で患者サイドにたった臨床研究および基礎研究を行っている。1. 免疫・膠原病・抗Ro抗体の特異性やRo抗原の分子レベルでの解析・自己抗体関連症候群の免疫学的病態解明・通常成人で発症する自己免疫疾患に対する小児期からの治療介入の可能性についての研究・小児SLEやJRA患者に対するQOL重視の治療法とくに生物学的製剤の開発・原発性免疫不全症の遺伝子治療への基礎的研究・慢性疲労症候群に対する自己免疫からのアプローチ・全国小児膠原病登録制度の確立 2. 血液・腫瘍・免疫機能（サイトカイン等）が血液疾患病態におよぼす影響の検討・薬剤耐性白血病細胞に対するアデノウイルスを用いた遺伝子治療・造血幹細胞への遺伝子治療 3. 循環器・小児期の心筋虚血の評価法の確立・血管炎後の血管再構築に關与する遺伝子多型の検討・心筋梗塞，血管炎での経時的な遺伝子発現および転写因子の検討 4. 神経・小児期けいれん性疾患の臨床病態学的検討・SPECTによる脳血流の解析・中枢神経系感染症やけいれん性疾患での髄液サイトカイン分析 5. 腎臓・小児期糸球体腎炎の臨床病理学的研究・学校検尿システムの精度管理・小児期腎尿路疾患に対するOff-label薬品使用に関する研究 6. 呼吸器・小児呼吸器のコンピューター解析・気管支鏡検査による気管支肺胞洗浄液，経気管支肺生検の研究・肺傷害の血清マーカーの研究 7. 内分泌・代謝・1型糖尿病と合併症との関係に關しての研究・低身長症への成長ホルモン投与によるアレルギー症状の改善，耐糖能，脂質の変化の研究 8. アレルギー・アレルギー疾患の発症と腸内細菌叢・腸管免疫・アレルギー疾患とマスト細胞の検討 9. 臨床遺伝・新生児・酵素欠損症に対する造血幹細胞を標的とした遺伝子治療の基礎的研究・胎児におけるサイトカインの検討

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Pawankar R<sup>1</sup>), Bachert C<sup>2</sup>), Zhang L<sup>3</sup>), Bunnag C<sup>4</sup>), et al. (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Upper Airways Research Laboratory (URL), University Hospital Ghent, Belgium, (3) Beijing Key Laboratory of Nasal diseases, Beijing Institute of Otolaryngology, Beijing, China., (4) Faculty of Medicine, Siriraj Hospital Mahidol University, Bangkok, Thailand, and others) : ICON : chronic rhinosinusitis. World Allergy Organ J. 2014 ; 7 (1) : 25.
- 2) Pawankar R, Ring J, Akdis C, Lauener R, Schappi G, Traidl-Hoffmann C (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Department of Dermatology and Allergy Biederstein, Technical University, Munich, Germany.) : Global Allergy Forum and Second Davos Declaration 2013 Allergy : Barriers to cure--challenges and actions to be taken. Allergy. 2014 ; 69 (8) : 978-82.
- 3) Pawankar R<sup>1</sup>), Allen K<sup>2</sup>), Turner P<sup>3</sup>), Taylor S<sup>4</sup>), et al. (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Murdoch Childrens Research Institute, Department of Allergy and Immunology., (3) Allergy and Infectious Diseases, MRC and Asthma UK Centre in Allergic Mechanisms of Asthma, Imperial College London, (4) Food Allergy Research & Resource Program, Department of Food Science & Technology, University of Nebraska, Lincoln, NE, USA, and others) : Precautionary labelling of foods for allergen content : are we ready for a global framework?. World Allergy Organ J. 2014 ; 7 (1) : 10.
- 4) Pawankar R, Moreira A, Matteo Bonin M (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : A World Allergy Organization international survey on physical activity as a treatment option for asthma and allergies. World Allergy Organization Journal 2014 ; 7 : 34.
- 5) Yamanishi M, Narazaki H, Asano T : Melatonin overcomes resistance to clofarabine in two leukemic cell lines by increased expression of deoxycytidine kinase. Exp Hematol. 2014 Nov 10. pii : 2014.
- 6) Asano T, Hirakawa K<sup>1</sup>), Koike K<sup>2</sup>), Ohno Y<sup>1</sup>), Fujino O (1) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (2) Department of Primary Care and Emergency Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine) : (2015) Visualization of different characteristics of cerebrospinal fluid with acute encephalopathy and febrile seizures using pattern recognition analysis of 1H NMR. Pediatr Res 2015 ; 77 (1-1) : 70-74.
- 7) Nakata K, Sato N, Hirakawa K, Asakura T, Suzuki T, Ran Z, Asano T, Koike K, Ohno Y, Yokota H : Pattern recognition analysis of proton nuclear magnetic resonance spectra of the intestinal epithelial cells extracts under oxidative stress. J Nippon Med Sch 81 2014 ; 236-247.
- 8) Kogawa K, Sato H, Asano T, Ohga S, Kudo K, Morimoto A, Ohta S, Wakiguchi H, Kanegane H, Oda M, Ishii E : Prognos-

- tic factors of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in children. *Pediatr Blood Cancer* 61 2014 ; (61) : 1257-1262.
- 9) Yamanishi M, Narazaki H, Asano T : Melatonin overcomes resistance to clofarabine in two leukemic cell lines. *Exp Hematol*. S0301-472X (14) 00748-6 2014.
  - 10) 浅野 健 : 巨赤芽球性貧血 ; 小児血液疾患—よくわかる最新知見—I 貧血 栄養性貧血. *小児科* 2014 ; 55 (11) : 1511-1516.
  - 11) 市村美帆<sup>1)</sup>, 高田治樹<sup>2)</sup>, 増野智彦<sup>3)</sup>, 吉野美緒, 稲本絵里<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 目白大学 人間学部, <sup>2)</sup> 筑波大学大学院人間総合科学研究科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院) : 病院前救急診療活動を行う医師の活動中の感情と普段の精神的健康状態との関連. *日本救急医学会誌* 2014 ; 25 (4) : 141-151.
  - 12) Mizogushi Y<sup>1)</sup>, Tsumura S, Okada S, Hirata O, Minegishi S, Imai K, Hyakuna N, Muramatsu H, Kojima S, Imai T, Takeida S, Okazaki T, Ito T, Yasunaga S, Takihara Y, et al. ( <sup>1)</sup> Hiroshima University Graduate School of Biomedical&Health Sciences) : Simple diagnosis of STAT1 gain-of-function alleles in patients with chronic mucocutaneous candidiasis. *Journal of Leukocyte Biology* 2014 ; 95 (4) : 667-676.
  - 13) Kato Y, Maeda M, Aoki Y, Ishii E, Ishida Y, Kiyotani C, Goto S, Sakaguchi S, Sugita K, Tokuyama M, Nakadate H, Kikuchi A, Tsuchida M, Ohara A : Pain management during bone marrow aspiration and biopsy in pediatric cancer patients. *Pediatrics International* 2014 ; 56 : 354-359.
  - 14) Kato M, Koh K, Manabe A, Saito T, Hasegawa D, Isoyama K, Kinoshita A, Maeda M, Okimoto Y, Kajiwara M, Kaneko T, Sugita K, Kikuchi A, Tsuchida M, Ohara A : No impact of high-dose cytarabine and asparaginase as early intensification with intermediate-risk pediatric acutelymphoblastic leukemia : Results of Randomized Trial TCCSG study L99-15. *Br J Haematol* 2014 ; 164 (3) : 376-383.
  - 15) Ishida Y, Maeda M, Urayama-Kevin Y, Kiyotani C, Aoki Y, Kato Y, Goto S, Sakaguchi S, Sugita K, Tokuyama M, Nakadate H, Ishii E, Tsuchida M, Ohara A : econdary cancers among children with acute lymphoblastic leukaemia treated by the Tokyo Children's Cancer Study Group protocols : a retrospective cohort study. *Br J Haematol* 2014 ; 164 : 101-112.
  - 16) Asano T, Kaizu K, Maeda M : Amoeboid neutrophils with few granules in childhood acute precursor B cell leukemia. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (2) : 78-83.
  - 17) 前田美穂 : 鉄欠乏性貧血 私の処方 2015. *小児科臨床* 2015 ; 68 (4) : 780-784.
  - 18) Ueda T, Fujita A, Ogawa R, Itoh Y, Fukunaga Y, Shimada T, Migita M : Adipose-derived stromal cells grown on a hydroxyapatite scaffold can support hematopoiesis in regenerated bone marrow in vivo. *Cell Biol Int* 2014 ; 38 : 790-798.
  - 19) Migita M, Kumasaka S, Matsumoto T, Tajima H, Ueda T, Yamataka A : Cholelithiasis in a patient with type 2 Gaucher disease. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 : 40-42.
  - 20) 植田高弘 : 思春期のスポーツ貧血. *小児科* 2014 ; 55 (13) : 1969-1976.
  - 21) 林 美雪, Pawankar R ( <sup>1)</sup> 日本医大小児科) : 小児食物アレルギー診療 update 指導と治療 - 28) 大豆アレルギー. *小児科* 2014 ; 55 (5) : 703-713.
  - 22) Tanno L<sup>1)</sup>, Calderon M<sup>2)</sup>, Goldberg B<sup>3)</sup>, Gayraud J<sup>4)</sup>, Bircher A<sup>5)</sup>, Casale T<sup>6)</sup>, Li J<sup>7)</sup>, Sanchez-Borges M<sup>8)</sup>, Rosenwasser L<sup>9)</sup>, Pawankar R<sup>10)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Hospital Sario Libanis, Sao Paulo, Brazil., <sup>2)</sup> Section of Allergy and Clinical Immunology, Imperial College London, <sup>3)</sup> Department of Allergy and Clinical Immunology, Kaiser-Permanente Medical Center, <sup>4)</sup> Inserm, ERI25, Montpellier F-34295, France., <sup>5)</sup> Allergy Unit, Dermatology Clinic, University Hospital Basel, <sup>6)</sup> Departments of Anatomy, Histology, Medical-Legal and the Orthopedics, Unit of Occupational Medicine, University of Rome, <sup>7)</sup> Laboratory of General Surgery, The First Affiliated Hospital, <sup>8)</sup> Departamento de Alergia e Inmunologia Clinica, Centro Medico Docente La Trinidad, <sup>9)</sup> Children's Mercy Hospital, University of Missouri, <sup>10)</sup> and others) : Constructing a classification of hypersensitivity/allergic diseases for ICD-11 by crowdsourcing the allergist community. *Allergy*. 2015.
  - 23) Fiocchi A<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>2)</sup>, Cuellar-Garcia C<sup>3)</sup>, Ahn K<sup>4)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Hospital Bambino Gesù in Rome, <sup>2)</sup> Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Tecnológico de Monterrey-School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Physiology, Chungbuk National University School of Medicine, Seoul, Korea, and others) : World Allergy Organization-McMaster University Guidelines for Allergic Disease Prevention (GLAD-P) : Probiotics. *World Allergy Organ J*. 2015 ; 8 (1) : 4.
  - 24) Yanez A<sup>1)</sup>, Cho S<sup>2)</sup>, Soriano J<sup>3)</sup>, Rosenwasser L<sup>4)</sup>, Rodrigo G<sup>5)</sup>, Rabe K<sup>6)</sup>, Peters S<sup>7)</sup>, Niimi A<sup>8)</sup>, Ledford D<sup>9)</sup>, Pawankar R<sup>10)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Investigations in Allergy, Buenos Aires, Argentina, <sup>2)</sup> Dept. of Medicine, Hanyang University, South Korea, <sup>3)</sup> Investigation Clinica, CIMERA, Spain, <sup>4)</sup> Children's Mercy Hospital, University of Missouri, <sup>5)</sup> Departamento de Emergencia, Hospital Central de las Fuerzas Armadas, <sup>6)</sup> LungenClinic Grosshansdorf, Airway Research Center North, <sup>7)</sup> St. Elisabeth Hospital gGmbH, Salzgitter, Germany, <sup>8)</sup> Department of Urology, The University of Tokyo Graduate School of Medicine, <sup>9)</sup> Division of Allergy and Immunology, Department of Internal Medicine, Morsani College of Medicine, University of South Florida, <sup>10)</sup> and others) : Asthma



- in the elderly : what we know and what we have yet to know. *World Allergy Organ J.* 2014 ; 7 (1) : 8.
- 25) Allen K<sup>1)</sup>, Turner P<sup>2)</sup>, Pawankar R<sup>3)</sup>, et al. (1) Murdoch Childrens Research Institute, Melbourne, Australia, (2) Section of Paediatrics (Allergy & Infectious Diseases), MRC & Asthma UK Centre in Allergic Mechanisms of Asthma, Imperial College London, (3) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School, and other) : Precautionary labelling of foods for allergen content : are we ready for a global framework?. *World Allergy Organ J.* 2014 ; 7 (1) : 10.
- 26) Demoly P<sup>1)</sup>, Tanno L<sup>2)</sup>, Akdis C<sup>3)</sup>, Lau S<sup>4)</sup>, Calderon M<sup>5)</sup>, Santos A<sup>6)</sup>, Sanchez-Borges M<sup>7)</sup>, Rosenwasser L<sup>8)</sup>, Pawankar R<sup>9)</sup>, et al. (1) Department of Pulmonology-Division of Allergy, Montpellier University, (2) Hospital Sírío Libanês, São Paulo, Brazil, (3) Swiss Institute of Allergy and Asthma Research, (4) Yong Loo Lin School of Medicine, National University of Singapore, Department of Geriatric Medicine, (5) Section of Allergy and Clinical Immunology, Imperial College London, (6) Departamento de Microbiologia Geral, Instituto de Microbiologia Paulo de Góes, (7) Departamento de Alergia e Imunologia Clínica, Centro Médico Docente La Trinidad, (8) Children's Mercy Hospital, University of Missouri, (9) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, and others) : Global classification and coding of hypersensitivity diseases - An EAACI - WAO survey, strategic paper and review. *Allergy.* 2014 ; 69 (5) : 559-70.
- 27) Braido F<sup>1)</sup>, Arcadipane F<sup>1)</sup>, Marugo F<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>2)</sup>, Pawankar R<sup>2)</sup> (1) Allergy and Respiratory Diseases Clinic - DIMI - University of Genoa, (2) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : Allergic rhinitis : current options and future perspectives. *Curr Opin Allergy Clin Immunol.* 2014 ; 14 (2) : 168-76.
- 28) Yokota S<sup>1)</sup>, Itoh Y, Morio T<sup>2)</sup>, Sumitomo N<sup>3)</sup>, Daimaru K<sup>4)</sup>, Minota S<sup>5)</sup> (1) Department of Pediatrics, Yokohama City University School of Medicine, (2) Department of Pediatrics and Developmental Biology, Tokyo Medical and Dental University (TMDU) Graduate School of Medical and Dental Sciences, (3) Department of Pediatric Cardiology, Saitama Medical University International Medical Center, (4) Chugai Pharmaceutical Co. Ltd., (5) Division of Rheumatology and Clinical Immunology, Jichi Medical School) : Macrophage Activation Syndrome in Patients with Systemic Juvenile Idiopathic Arthritis under Treatment with Tocilizumab. *J Rheumatol.* 2015 ; 42 (4) : 712-722.
- 29) 三浦 大<sup>1,2)</sup>, 賀藤 均<sup>1,2)</sup>, 土居庄三郎<sup>1,2)</sup>, 朴 仁三<sup>1,2)</sup>, 中川雅生<sup>1,2)</sup>, 藤原優子<sup>1)</sup>, 住友直方<sup>2)</sup>, 深澤隆治<sup>2,5)</sup>, 水上愛弓<sup>2)</sup>, 松裏裕行<sup>2)</sup>, 安河内聰<sup>3)</sup>, 清澤伸幸<sup>4)</sup> (1) 日本小児循環器学会保険診療委員会, (2) 薬事委員会, (3) 理事長, (4) 内科系学会社会保険連合小児関連委員会, (5) 日本医科大学小児科) : 日本小児循環器学会所属施設における心臓カテーテル検査・インターベンションの深鎮静に関する全国調査. *日本小児循環器学会雑誌* 2014 ; 30 (5) : 580-587.
- 30) Yoshio S, Sakae K, Makoto M : Perinatal risk factors for adverse long-term pulmonary outcomes in premature infants. *Pediatr Int* 2013 ; 55 : 578-581.
- 31) Yoshio S, Makoto M, Hirobumi A, Tsubasa T, Akira K : Effect on clinical work practice of establishing a Neonatal Intensive Care Unit at a medical school-affiliated teaching hospital. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (5) : 328-332.
- 32) Cox L, Yamanishi S, Sohn J, Alekseyenko A, Leung J, Cho I, Kim S, Li H, Gao Z, Mahana D, Zarate JR, Rogers A, Robine N, Loke P, Blaser M : Altering the intestinal microbiota during a critical developmental window has lasting metabolic consequences. *Cell* 2014 ; 158 (4) : 705-721.
- 33) Pawankar R, Hayashi M, Yamanishi S, Igarashi T : The paradigm of cytokine networks in allergic airway inflammation. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 2015 ; 15 (1) : 41-48.
- (2) 総説 :
- 1) Pawankar R<sup>1)</sup>, Braido F<sup>2)</sup>, Baiardini I<sup>3)</sup>, Blasi F<sup>4)</sup>, Canonica G<sup>5)</sup> (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan., (2) Allergy and Respiratory Diseases Department, University Genoa, (3) Department of Pathophysiology and Transplantation, University of Milan, (4) IRCCS Fondazione Ca Granda Milan, Italy, (5) Allergy and Respiratory Diseases Department, University Genoa) : Adherence to asthma treatments : 'we know, we intend, we advocate'. *Curr Opin Allergy Clin Immunol.* 2015 ; 15 (1) : 49-55.
- 2) Pawankar R<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup> (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : The paradigm of cytokine networks in allergic airway inflammation. *Curr Opin Allergy Clin Immunol.* 2015 ; 15 (1) : 41-8.
- 3) Pawankar R (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan.) : Allergic diseases and asthma : a global public health concern and a call to action. *World Allergy Organ J.* 2014 ; 7 (1) : 12.
- 4) 高瀬真人 : 小児疾患診療のための病態生理 1 改訂第5版 呼吸器疾患 呼吸不全. *小児内科* 2014 ; 46 (増刊) : 46-51.
- 5) 高瀬真人 : 保護者への説明マニュアル 症状に対する説明マニュアル 咳. *小児科診療* 2014 ; 77 (11) : 1394-1398.
- 6) 高瀬真人 : 咳嗽の病態・診断・治療 咳嗽の診断. *日本小児呼吸器学会雑誌* 2014 ; 25 (1) : 42-48.
- 7) 吉野美緒, 川尻泰樹<sup>1)</sup> (1) 近畿大学豊岡短期大学) : 不登校と発達障害. *小児科* 2014 ; 55 (6) : 967-973.
- 8) 今井丈英 : 小児疾患診療のための病態生理 1 改訂第5版 呼吸器疾患 乳幼児突然死症候群. *小児内科* 2014 ; 46 (増刊) : 165-

171.

- 9) 前田美穂：小児の治療指針. 小児科診療 2014 ; 77 : 446-449.
- 10) 前田美穂：特発性血小板減少性紫斑病. 今日の治療指針 2014 ; 1311-1312.
- 11) 早川 潤, 伊藤保彦：【一般内科外来でみる出血傾向 「ぶつけてないのにアザ」にあわてない】 出血傾向を生じるその他の疾患の診断と治療 血管性紫斑病. 内科 2014 ; 114 (2) : 271-274.
- 12) 柳原 剛, 伊藤保彦：【小児の治療指針】リウマチ・膠原病 血管炎症候群 (川崎病, Henoch-Schoenlein 紫斑病 (IgA 血管炎) を除く). 小児科診療 (0386-9806) 77 巻増刊 Page316-318 (2014.04) 2014 ; 77 (増刊) : 316-318.
- 13) Canonica G<sup>1)</sup>, Valenta R<sup>2)</sup>, Pawankar R<sup>3)</sup> (1) Allergy and Respiratory Diseases, Department of Internal Medicine, IRCCS S Martino, IST, University of Genoa, Genoa, Italy, (2) Univ of Vienna, (3) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : In memoriam - a tribute to Carlos E. Baena-Cagnani. Int Arch Allergy Immunol. 2015 ; 165 (4) : 270-272.
- 14) West C<sup>1)</sup>, Renz H<sup>2)</sup>, Jenmalm M<sup>3)</sup>, Kozylskyj A<sup>4)</sup>, Allen K<sup>5)</sup>, Vuillermin P<sup>6)</sup>, Pawankar R<sup>7)</sup> (1) The Washington State Department of Health, Public Health Laboratories, (2) Institute of Laboratory Medicine, Philipps-Universität Marburg, Marburg, Germany, (3) Division of Inflammation Medicine, Department of Clinical and Experimental Medicine, Linköping University, (4) University of Alberta Edmonton, Alberta, Canada, (5) Department of Psychology, Harvard University, (6) Barwon Health, Geelong, VIC, Australia, Murdoch Childrens Research Institute, (7) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School) : in-FLAME Microbiome Interest Group. The gut microbiota and inflammatory noncommunicable diseases : associations and potentials for gut microbiota therapies. J Allergy Clin Immunol. 2015 ; 135 (1) : 3-13.
- 15) 深澤隆治<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : 川崎病の発症機序を探る. 日本小児皮膚科学会雑誌 2014 ; 33 (2) : 115-120.
- 16) 深澤隆治<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : 巨大冠動脈瘤の遠隔期予後. 呼吸と循環 2015 ; 63 (1) : 33-38.
- 17) 島 義雄 : 小児の呼吸管理 (新生児疾患). 小児科 2013 ; 54 (1) : 185-191.

(3) 研究報告書 :

- 1) 吉野美緒, 増野智彦<sup>1)</sup>, 重村朋子<sup>1)</sup>, 稲本絵里<sup>2)</sup>, 高田治樹<sup>3)</sup>, 市村美帆<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, (2) 日本医科大学多摩永山病院, (3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科, (4) 目白大学) : 病院前救急診療に伴う心的外傷ストレス軽減を目的とした事前教育の効果 : 患者・家族・医療従事者の心と体の健康を守るために. 明治安田こころの健康財団研究助成論文集 2014 ; 49 : 19-27.

(4) 症例報告 :

- 1) 寺田有祐<sup>1)</sup>, 島 義雄, 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 峯 牧子<sup>1)</sup>, 中島瑞恵<sup>1)</sup>, 横山愛子<sup>1)</sup>, 右田 真 (1) 葛飾赤十字産院) : 胎児心臓腫瘍に伴う心房粗動に対して経母体的抗不整脈療法を行った結節性硬化症の1例. 日本周産期新生児医学会雑誌 2013 ; 49 (1) : 339-342.
- 2) Sakae K<sup>1)</sup>, Yoshio S, Makiko M<sup>1)</sup>, Mizue N<sup>1)</sup>, Makoto M (1) Japanese Red Cross Maternity Hospital) : Neonatal case of late-onset sepsis involving group B streptococcus type Ib. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (5) : 384-386.
- 3) 田村俊之<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>1)</sup>, 島 義雄, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (1) 葛飾赤十字産院) : 胎児期に発症した小腸捻転症の1例. 日医大医学会雑誌 9 (4) : 198-201.

著 書

- 1) 高瀬真人 : [分担] 小児の聴診. 聴いて見て考える肺の聴診 (工藤翔二), 2014 ; pp27-33, アトムス.
- 2) 高瀬真人 : [分担] 疾患と聴診. 聴いて見て考える肺の聴診 (工藤翔二), 2014 ; pp95-109, アトムス.
- 3) 海老澤元宏<sup>1)</sup>, 伊藤浩明<sup>2)</sup>, 岡本美孝<sup>3)</sup>, 塩原哲夫<sup>4)</sup>, 谷口正実<sup>1)</sup>, 永田 真<sup>5)</sup>, 平田博国<sup>6)</sup>, 山口正雄<sup>7)</sup>, Pawankar R<sup>8)</sup> (1) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター, (2) あいち小児保健医療総合センター, (3) 千葉大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学, (4) 杏林大学医学部皮膚科学教室, (5) 埼玉医科大学呼吸器内科/アレルギーセンター, (6) 獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科, (7) 帝京大学医学部呼吸器・アレルギー内科, (8) 日本医大小児科) : [共著] 日本アレルギー学会 アナフィラキシーガイドライン, 2014 ; pp1-24, 株式会社メディカルレビュー社.
- 4) Pawankar R<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : [共著] Air pollution, asthma and allergic airway diseases. Studies on Respiratory Disorders (Ganguly NK Jindal SK, Biswal S, Barnes PJ, Pawankar R), 2014 ; pp151-161, Springer (NY).
- 5) Pawankar R<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : [共著] Airway inflammation and remodeling. Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine (SK Jindal), 2015 ; pp868-879, Jaypee Brothers Medical Publishers.
- 6) Pawankar R<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : [共著] Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine (Jindal SK), 2015 ; pp839-848, Jaypee Brothers Medical Publishers.
- 7) Pawankar R<sup>1)</sup>, Passalacqua G<sup>2)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科, (2) University of Genoa, Italy) : [共著] Immunotherapy and Immunomodulators for Allergic rhinitis and Asthma. Textbook of Pulmonary & Critical Care Medicine (Jindal SK), 2015 ; pp910-921, Jaypee Brothers Medical Publishers.

- 8) 深澤隆治<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : [分担] 第6章心臓血管後遺症 巨大冠動脈瘤 : 自然歴. 小児科臨床ピクシス9 川崎病のすべて (五十嵐隆総編集, 石井正浩専門編集), 2015 ; pp150-151, 中山書店.
- 9) 深澤隆治<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : [分担] 第6章心臓血管後遺症 巨大冠動脈瘤 : 抗凝固療法. 小児科臨床ピクシス9 川崎病のすべて (五十嵐隆総編集, 石井正浩専門編集), 2015 ; pp152-155, 中山書店.
- 10) Miyamae T, Tanaka E, Kishi T, Matsuyama T, Igarashi T, Fujikawa S, Taniguchi A : [自著] Long-term outcome of 114 adult JIA patients in a non-pediatric rheumatology institute in Japan. *Mod Rheumatol*, 2015 ; pp62-66.
- 11) Igarashi T, Shimizu A, Yamaguchi H, Fukushima Y, Igarashi T, Takahashi H : [自著] A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy. *J Nippon Med Sch*, 2013 ; pp475-480.
- 12) Hattori M, Sako M, Kaneko T, Ashida A, Matsunaga A, Igarashi T, Itami N, Ohta T, Gotoh Y, Satomura K, Honda M, Igarashi T : [自著] End-stage renal disease in Japanese children : a nationwide survey during 2006-2011. *Clin Exp Nephrol*, 2015.
- 13) Naclerio R, Pawankar R : [分担] "Allergic Rhinitis-Comorbid". *Asthma : Comorbidities, Coexisting Conditions, and Differential Diagnosis* (RF Lockey and DK Ledford), 2014 ; pp231-243.
- 14) 山西慎吾, パワンカールビー : [共著] 魚介類アレルギー. 食物アレルギー診療 Update 小児科, 2014 ; 金原出版.
- 15) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦 : [共著] 関節・骨病変に対する治療. 小児科, 2014 ; 金原出版.
- 16) 藤野 修, 岡田 創, 山西慎吾 : [共著] 結節性硬化症の診断と治療. 小児科, 2014.
- 17) Pawankar R, Ozu C, Hayashi M, Yamanishi S : [自著] "Studies on Respiratory Disorders" published in April 2014, Humana Press Inc.. Humana Press Inc, 2014 ; p151.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : The WAO Consensus on Anaphylaxis from Etiology and Management to Precautionary Food Labelling and Chronic Rhinosinusitis Phenotypes and Endotypes. Malaysian Society of Allergy and Immunology (MSAI) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2014. 4.
- 2) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergic rhinitis update". Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose in Asia (SERINASIA) (Beijing, China), 2014. 4.
- 3) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Molecular-based allergy diagnosis". the VII World Asthma, Allergy and COPD Forum (NY, America), 2014. 4.
- 4) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Current and future perspectives of managing. Asthma and comorbid rhinitis". Symposium of Indian Academy of Allergy (Kolkatta, India), 2014. 5.
- 5) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergy a major global public health problem and its risk factors". XXI Congreso Anual de Asma, Alergia e Inmunología Pediátrica de COMEDIA (Mazatlan, Mexico), 2014. 6.
- 6) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Immune mechanisms in allergic diseases". Indian Academy of Allergy, 4th National Level Physician Training Workshop (Bangalore, India), 2014. 8.
- 7) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "The Rising Epidemic of Pediatric Allergies". Newer Horizons in Pediatrics (Pune, India), 2014. 8.
- 8) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergy a global health issue : WAO White book update 2013". Congreso Internacional de Alergia, Asma e Inmunología Pediátrica (Rima, Peru), 2014. 9.
- 9) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Molecular, Cellular and Clinical Allergology in Airway Disease". Annual SFB Meeting at Medical University of Vienna (Vienna, Austria), 2014. 10.
- 10) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "pithelial Cell Immune Cell Cross-talk in Allergic Airway Disease". WAO International Scientific Conference 2014 (Rio de Janeiro, Brazil), 2014. 12.
- 11) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergy strategies towards prevention. What do we know? Added values of the GLAD-p project". Mito o Realta : EBM prevention and management of pediatric allergy (Rome, Italy), 2015. 1.
- 12) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Antihistamines to IgE in allergy". Skin Allergy Research Society (Mumbai, India), 2015. 1.
- 13) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergic rhinitis update". Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose in Asia (SERINASIA) (Beijing, China), 2014. 4.
- 14) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Update on mast cells and eosinophils in allergic rhinitis". Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose in Asia (SERINASIA) (Beijing, China), 2014. 4.
- 15) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Biodiversity, the microbiome and airway disease". the VII World

- Asthma, Allergy and COPD Forum (NY, America), 2014. 4.
- 16) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Etiology, diagnosis and management of anaphylaxis to prevention : an update". Symposium of Indian Academy of Allergy (Kolkatta, India), 2014. 5.
  - 17) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Biodiversity, IgE and the microbiome in respiratory allergies". XXI Congreso Anual de Asma, Alergia e Inmunology Pediatrics de COMPEDIA (Mazatlan, Mexico), 2014. 6.
  - 18) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Div. of Allergy, Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Comorbidities of Allergic Rhinitis : Asthma, Rhinosinusitis, Otitis Media, and Obstructive Sleep Apnea- Understanding the Diagnosis and management". Indian Academy of Allergy, 4th National Level Physician Training Workshop (Bangalore, India), 2014. 8.
  - 19) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "WAO Consensus on Molecular-Based Allergy Diagnosis". Indian Academy of Allergy, 4th National Level Physician Training Workshop (Bangalore, India), 2014. 8.
  - 20) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Immunotherapy Past Present and Future in allergic airway disease". Indian Academy of Allergy, 4th National Level Physician Training Workshop (Bangalore, India), 2014. 8.
  - 21) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "International Consensus on the food allergies diagnosis and management". Indian Academy of Allergy, 4th National Level Physician Training Workshop (Bangalore, India), 2014. 8.
  - 22) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergy Immunotherapy : Advances and Future Development". Malaysian Society of Allergy and Immunology (MSAI) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2015. 3.
  - 23) 伊藤保彦 : 自己抗体とは何か. 東京小児免疫疾患懇話会 (第1回) (東京), 2014. 5.
  - 24) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : Anaphylaxis : understanding the etiology, diagnosis and management. Indian Academy of Allergy Seminar (New Delhi India), 2014. 8.
  - 25) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : Advances in allergy diagnosis : Molecular diagnosis. Indian Academy of Allergy Seminar (New Delhi India), 2014. 8.
  - 26) Pawankar R<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : 食物アレルギーとアナフィラキシス 世界的な現状と WAO のガイドライン. 藤田保健衛生大学アレルギー勉強会 (第49回) (藤田保健衛生大学), 2015. 1.
- (2) 招待講演 :
- 1) 伊藤保彦 : 自己抗体とは? . アステラス筑波研究所講演会 (第1回) (筑波), 2014. 10.
- (3) 教育講演 :
- 1) 林 美雪<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : 「子どもの食物アレルギーを知らう」. 足立区保健総合センター (東京), 2014. 10.
  - 2) 林 美雪<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : 「子どもの食物アレルギー」. 文京区学校保健会総会特別講演 (東京), 2014. 10.
  - 3) 林 美雪<sup>1)</sup>, Pawankar R<sup>1)</sup> (1) 日本医大小児科) : 「学校給食における食物アレルギー (エビペン) 研修会」. 墨田区教育委員会講演 (東京), 2014. 11.
  - 4) Itoh Y : Recent evidence for the use of biologics in pediatric rheumatic diseases. Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (16th) (Cebu, Philippines), 2014. 4.
  - 5) 伊藤保彦 : 小児における抗核抗体の意義. 日本小児科学会 東京都地方会 講話会 (第615回) (東京), 2015. 1.
  - 6) 伊藤保彦 : 小児リウマチ専門医の心得. 日本小児リウマチ学会 小児リウマチ研修会 (第3回) (沖縄), 2015. 2.
  - 7) 島 義雄 : 現場を預かる若手産科医のための実践新生児学. 関東連合産婦人科学会学術集会 (第127回) (東京), 2014. 6.
- (4) シンポジウム :
- 1) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "An overview on the World Allergy Organization (WAO) and SLIT update". 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第26回) (京都), 2014. 5.
  - 2) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "The microbiome is central for upper airways disease". The European Academy of Allergy and Clinical Immunology (EAACI) Congress 2014 (Copenhagen, Denmark), 2014. 6.
  - 3) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Allergic Phinitis : Pathophysiology, Diagnosis and Management". 11th Annual Meeting of the Mongolian Society of Allergology (Ulaanbaatar, Mongolia), 2014. 6.
  - 4) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "Immunotherapy to Biologics : Current and future perspectives in allergy therapeutic". The ERS/ISIAN Congress 2014 (Amsterdam, Netherland), 2014. 6.
  - 5) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "The epithelium in immune regulation of allergic airway diseases". European Respiratory Society International Congress 2014 (Munich, Germany), 2014. 9.
  - 6) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : "WAO-APAPARI Joint training and educational activities in Asia - perspective and future directions". Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respirology & Immunology Congress 2014 (APAPARI 2014) (Jakarta, Indonesia), 2014. 10.

- 7) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Co-morbidities of asthma and its impact on control”. The 32nd World Congress of Internal Medicine (WCIM 2014) (Seoul, South Korea), 2014. 10.
- 8) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “WAO SLIT Consensus Update”. 2014 ACAAI Annual Scientific Meeting (Atlanta, America), 2014. 11.
- 9) Pawankar R<sup>1)</sup>, Yamanashi S<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Itoh Y<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Microbiome and Allergy”. Highlights In Allergy And Respiratory Diseases (Genoa, Italy), 2014. 11.
- 10) Takase M : Lung auscultation in children. Asian Congress of Pediatric Infections Diseases (7th) (Beijing CHINA), 2014. 10.
- 11) 高瀬真人 : 古くて新しい聴診 基礎から最新の肺音研究 肺聴診の基本と小児における実践的活用 ビデオを用いた聴診教育プログラム. 日本小児アレルギー学会 (第 51 回) (三重県四日市市), 2014. 11.
- 12) 高瀬真人 : 乳幼児喘息のより良い診療を目指して ガイドライン 2016 年改訂に向けて ウイルス性喘鳴と喘息の鑑別. 日本小児呼吸器学会 (第 47 回) (東京都千代田区), 2014. 10.
- 13) 高瀬真人 : 乳幼児喘息における吸入ステロイドの位置づけの再考 一般病院小児科における (乳幼児に対アする) 吸入ステロイド使用の実際. 日本アレルギー学会 (第 26 回) (京都府左京区), 2014. 5.
- 14) 今井丈英 : 小児気道異物診療概論 疫学を含めた WG の活動状況について. 日本小児呼吸器学会 (第 47 回) (東京都千代田区), 2014. 10.
- 15) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Allergy : New Developments”. Malaysian Society of Allergy and Immunology (MSAI) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2015. 3.
- 16) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Epithelial cell-from barrier dysfunction to immune regulation and remodeling in airways disease”. 10th Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose (SERIN 2015) (Stockholm, Sweden), 2015. 3.
- 17) Pawankar R<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanashi S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Food Allergy : and Anaphylaxis : Pathophysiology, Diagnosis and Management”. 11th Annual Meeting of the Mongolian Society of Allergology (Ulaanbaatar, Mongolia), 2014. 6.
- 18) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Anaphylaxis : from etiology to management”. Congreso Internacional de Alergia, Asma e Inmunologia Pedriatica (Rima, Peru), 2014. 9.
- 19) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Biodiversity and the microbiome in airway disease”. Congreso Internacional de Alergia, Asma e Inmunologia Pedriatica (Rima, Peru), 2014. 9.
- 20) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “New and integrated approaches to allergic disease : immunomodulators and biologics”. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology Congress 2014 (APAPARI 2014) (Jakarta, Indonesia), 2014. 10.
- 21) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “IgE and the microbiome in airways disease”. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology Congress 2014 (APAPARI 2014) (Jakarta, Indonesia), 2014. 10.
- 22) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “WAO guidelines for the prevention of atopic disease/GLAD-P”. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology Congress 2014 (APAPARI 2014) (Jakarta, Indonesia), 2014. 10.
- 23) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Microbiome, biodiversity and Airway disease”. Korean Academy of Allergy Asthma & Clinical Immunology (Seoul, South Korea), 2014. 10.
- 24) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “Practical Management of Anaphylaxis”. WAO International Scientific Conference 2014 (Rio de Janeiro, Brazil), 2014. 12.
- 25) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “IgE and the Microbiome in Chronic Rhinosinusitis”. WAO International Scientific Conference 2014 (Rio de Janeiro, Brazil), 2014. 12.
- 26) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “New and integrated therapeutic approaches to allergic diseases : from anti-IgE to personalized medicine”. Mito o Realta : EBM prevention and management of pediatric allergy (Rome, Italy), 2015. 1.
- 27) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “WAO’s commitment in future allergy treatments”. Mito o Realta : EBM prevention and management of pediatric allergy (Rome, Italy), 2015. 1.
- 28) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School) : “WAO Global Guidelines on Prevention of Atopic Disease”. Malaysian Society of Allergy and Immunology (MSAI) (Kuala Lumpur, Malaysia), 2015. 3.
- 29) 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 赤尾見春<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : Candida Albicans Water Soluble Fraction (CAWS) による血管炎は川崎病モデルといえるのか?. 日本川崎病学会 (第 34 回) (東京

- 都), 2014. 10.
- 30) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School): Issues and questions to be addressed to Medical Regulators in regards to Immunotherapy. The European Academy of Allergy and Clinical Immunology Congress 2014 (Copenhagen, Denmark), 2014. 6.
- (5) ワークショップ:
- 1) 柳原 剛<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 3歳児検尿 — 新しい検尿システムの確立にむけて. 日本小児腎臓病学会学術集会 (第49回) (秋田), 2014. 6.
  - 2) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School): “Co-morbid asthma - allergic rhinitis”. Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology & Immunology Congress 2014 (APAPARI 2014) (Jakarta, Indonesia), 2014. 10.
  - 3) Pawankar R<sup>1)</sup> (1) Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School): “Food Allergy Prevention and Treatment”. 2014 ACAAI Annual Scientific Meeting (Atlanta, America), 2014. 10.
- (6) 一般講演:
- 1) 勝部康弘<sup>1,2)</sup>, 赤尾見春<sup>1,2)</sup>, 上砂光裕<sup>1,2)</sup>, 橋本康司<sup>1)</sup>, 橋本佳亮<sup>1)</sup>, 渡邊美紀<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科, 2) 川崎市医師会学校医部会心臓判定委員会): 学校心臓検診で発見された心房中隔欠損症の心電図所見. 日本小児科学会学術集会 (第117回) (名古屋), 2014. 4.
  - 2) 赤尾見春<sup>1)</sup>, 橋本康司<sup>1)</sup>, 大家絵理<sup>1)</sup>, 大塚雅美<sup>1)</sup>, 吉崎 薫<sup>1)</sup>, 山西未穂<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 学校心臓検診で発見された持続性心室頻拍の7歳男児例. 日本小児科学会学術集会 (第117回) (名古屋), 2014. 4.
  - 3) 吉崎 薫<sup>1)</sup>, 大塚雅美<sup>1)</sup>, 星野レイ<sup>1)</sup>, 徐 東博<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 赤尾見春<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科): 紫斑病性腎炎の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第348回) (川崎), 2014. 4.
  - 4) 大家絵理<sup>1)</sup>, 尾崎優介<sup>1)</sup>, 松川昇平<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 島 義雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): 先天性筋強直性ジストロフィーを疑った時に・・・. 川崎市小児科医会症例検討会 (第348回) (川崎), 2014. 4.
  - 5) 高橋 翼: 日本医科大学武蔵小杉病院 小児外科 Annual report 2013. 川崎市小児科医会症例検討会 (第348回) (川崎), 2014. 4.
  - 6) 島 義雄<sup>1)</sup>, 松川昇平<sup>1)</sup>, 尾崎優介<sup>1)</sup>, 一木邦彦<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 矢代健太郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科): 慢性肺疾患の定義と周産期因子. 神奈川県新生児研究会 (第34回) (横浜), 2014. 5.
  - 7) 吉崎 薫<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 大塚雅美<sup>1)</sup>, 徐 東博<sup>1)</sup>, 五十嵐徹<sup>2)</sup>, 伊藤保彦<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学付属病院小児科): 当院における小児 IgA 腎症の治療経過. 日本小児腎臓病学会 (第49回) (秋田), 2014. 6.
  - 8) 右田 真: 先天異常を診た時に, 小児科・耳鼻咽喉科臨床研究会 (第3回) (東京), 2014. 9.
  - 9) 尾崎優介, 松川昇平, 松村好克, 矢代健太郎, 島 義雄 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター新生児内科): 胎児診断から治療まで当院で行い得た巨大リンパ管腫の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第353回) (川崎), 2014. 10.
  - 10) 星野レイ, 海津聖彦, 大家絵理, 勝部康弘: 最近ご紹介いただいた貧血の3症例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第353回) (川崎), 2014. 10.
  - 11) 右田 真: 著しい偏食により腸性肢端皮膚炎を呈した自閉症の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第353回) (川崎), 2014. 10.
  - 12) 徐 東博 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): ロタウイルス性胃腸炎のため, 1日の経過で腎前性腎不全に至った1例. 川崎市小児科医会学術研究会 (第277回) (川崎), 2014. 11.
  - 13) Pawankar R<sup>1)</sup>, Liang Z<sup>1,4)</sup>, Watanabe S<sup>2)</sup>, Nonaka M<sup>3)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Suzaki H<sup>2)</sup>, Itoh Y<sup>1)</sup> (1) Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Dept. of Otolaryngology, Showa University School of Medicine, Tokyo, Japan, 3) Dept. of Otolaryngology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, Japan, 4) Department of Neonatology, The First Hospital affiliated to China Medical University, Shenyang, China): “Increased Expression of Periostin and IL-33 in Chronic Rhinosinusitis with Nasal Polyps”. Collegium Internationale Allergologicum (CIA) (Petersberg, Germany), 2014. 9.
  - 14) 浅野 健, 山西未穂, 前田美穂, 内村僚一, 板橋寿和, 午腸義宏, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘: A platform culture system using Cell-able system is useful for term for acute leukemia cells. 日本小児血液・がん学会学術集会 (第56回) (岡山), 2014. 11.
  - 15) 浅野 健, 山西未穂, 榑崎秀彦, 内村僚一, 板橋寿和, 午腸義宏, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂: Melatonin overcomes resistance to clofarabine by increased expressiof deoxycytidine kinase. 日本血液学会 (第76回) (大阪), 2014. 10.
  - 16) 榑崎秀彦: 急性リンパ性白血病の寛解導入療法中に急激な経過で死亡した1例. 千葉県小児感染症懇話会 (第35回), 2014. 11.
  - 17) 榑崎秀彦: 当院における薬剤耐性アシネトパクターバウマニ アウトブレイクの事例. 平成26年度地域医療連携協議会 (千葉), 2014. 11.

- 18) 榑崎秀彦：日本医科大学千葉北総病院での虐待への取り組み。千葉県児童虐待対策研究会（第3回）（千葉），2014。11.
- 19) 西郡綾子，熊坂 栄，寺田有佑，横山愛子，島 義雄：未受診妊婦から出生した先天梅毒の極低出生体重児例。日本未熟児新生児学会（第59回）（愛媛），2014。11.
- 20) 宮武千晴，山西未穂，小泉慎也，榑崎秀彦，上砂光裕，藤野 修，浅野 健：難治性てんかん重積を来たした11歳男児例。千葉県小児神経懇話会（第26回），2014.
- 21) 宮武千晴，山西未穂，小泉慎也，榑崎秀彦，上砂光裕，藤野 修，浅野 健，亀谷修平：内斜視から特発性頭蓋内圧亢進症と診断した一男児例。千葉小児神経懇話会（第26回）（千葉），2014。11.
- 22) 宮武千晴，草野泰造，山西未穂，小泉慎也，榑崎秀彦，小泉慎也，上砂光裕，藤野 修，浅野 健：頭部MRIが診断に有用であったてんかんの女児例。NMS Epilepsy Network Meeting（第3回），
- 23) Takase M：Lung auscultation in children. International Lung Sound Conference（39th）（Boston MA USA），2014。10.
- 24) 川上康彦，岡崎哲也，高瀬真人：レベチラセタムにより強制正常化をきたしたてんかんの一女児例。日本小児科学会（第117回）（愛知県名古屋市），2014。4.
- 25) 吉野美緒，小華和さやか，林 美雪，渡邊 誠，深澤隆治，小川俊一：Bayley 乳幼児発達検査（第3版）を用いた先天性心疾患児の発達フォローアップの取り組み。日本小児循環器学会（岡山県岡山市），2014。7.
- 26) 吉野美緒，前田美穂，海津聖彦，早川 潤，植田高弘，浅野 健，伊藤保彦：小児がん経験者の心理支援。東京児童青年精神臨床医学会（東京都），2014。4.
- 27) Imai T：A-toddler case of hyper-IgE syndrome with a mutation of the STAT3 gene. International Congress On Pediatric Pulmonology（13th）（Belgium Bruges），2014。6.
- 28) 今井丈英，竹田幸代，杼塚友紀，池上 英，高瀬真人：経過中に肺炎を呈したシグナル伝達兼転写活性化因子（STAT）遺伝子異常に因る先天免疫不全の2例。日本小児呼吸器学会（第47回）（東京都千代田区），2014。10.
- 29) 今井丈英：乳児期に口腔内カンジダ症を呈し，後に自然免疫不全症と診断された2例。日本小児耳鼻咽喉科学会（第9回）（静岡県浜松市），2014。6.
- 30) 松本多絵，柳原 剛，吉崎 薫，土屋正己，高瀬真人，益田幸成，清水 章，國島伸治，前田美穂，伊藤保彦：学校検尿を契機としてMYH9異常症の診断に至った一男児例。日本小児腎臓病学会（第49回）（秋田県秋田市），2014。6.
- 31) 松本多絵，前田美穂，土屋正己，高瀬真人：学校検尿を契機にMay-Hegglin異常の診断に至った1例。日本小児科学会（第117回）（愛知県名古屋市），2014。4.
- 32) 松本多絵：中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかんにおけるdipole spikesと総発作回数の検討。日本小児神経学会（第56回）（静岡県浜松市），2014。5.
- 33) 今井丈英，高瀬真人，Hans P<sup>1)</sup>，Melvine P<sup>1)</sup>，Giuliana V<sup>1)</sup>，Raquel Consunji A<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> ウィニベグ小児病院呼吸器科）：睡眠時無呼吸簡易検査器機（圧センサー内蔵シート型検査器機）の有用性の検討 PSGとの比較。日本小児呼吸器学会（第47回）（東京都千代田区），2014。10.
- 34) 岡崎哲也，川上康彦，藤田武久，藤野 修，伊藤保彦：中心・側頭部に棘波をもつ良性小児てんかんにおけるdipole spikesと総発作回数の検討。日本小児神経学会（第56回）（静岡県浜松市），2014。5.
- 35) Goto S, Maeda M, Aoki Y, Ishii E, Ishida Y, Kato Y, Kiyotani C, Sakaguchi S, Sugita K, Tokuyama M, Nakadate N, Tsuchida M, Ohara A, Asami K：Marriage and fertility in the survivors of childhood acute lymphoblastic leukemia in Japan. A retrospective study of two cohorts：. SIOP Asia Korea（8th）（Toront），2014。4.
- 36) Kaizu K, Uchimura R, Terada Y, Asano T, Maeda M, Ito Y, Ohmura T, Kobayashi S, Yanagisawa T, Kaizu T, Okada S：A case of recurrent medulloblastoma with TMZ salvage therapy. SIOP Asia Korea（8th）（Korea），2014。4.
- 37) Maeda M, Hori H, Maeda N, Hayakawa A, Kiyotani C, Ishida Y：Establishment of Japanese guideline of long-term follow-up care for survivors of childhood cancer. ASPR, Vancouver（10th）（Vancouver），2014。5.
- 38) Ishida Y, Qiu D, Maeda M, Fujimoto J, Kigasawa H, Kobayashi R, Sato M, Okamura J, Yoshinaga S, Rikiishi T, Shichino H, Kiyotani C, Kudo K, Asami K, Hori H：Secondary cancers after cancer diagnosis in childhood：A hospital-based retrospective cohort study in Japan. Congress of the International Society of Paediatric Oncology（46th）（Toront），2014。10.
- 39) Soejima T, Sato I, Takita J, Koh K, Maeda M, Ida K, Kamibeppu K：The influences of school reentry support on relationships that adolescents with cancer share with peers and teachers. Congress of the International Society of Paediatric Oncology（46th），2014。10.
- 40) 山西慎吾，高木篤史，桑原健太郎，五十嵐徹，前田美穂，伊藤保彦：結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫および腎血管筋脂肪種に対してエベロリムスを投与した当院での4症例の経験。日本小児科学会（第110回）（名古屋），2014。4.
- 41) 松本多絵，前田美穂，土屋正己，高瀬真人：学校検尿を契機にMay-Hegglin異常の診断に至った1例。日本小児科学会（第110回）（名古屋），2014。4.

- 42) Asano T, Narazaki H, Yamanishi M, Uchimura R, Itabashi T, Kobayashi F, Kaizu K, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M : Melatonin overcomes resistance to clofarabine by increased expression of deoxycytidine kinase. 日本血液学会 (第 76 回) (大阪), 2014. 10.
- 43) 板橋寿和, 前田美穂, 早川 潤, 海津聖彦, 植田高弘, 伊藤保彦 : 当院出経験した EB ウィルス関連リンパ増殖性疾患の 3 例. 日本血液学会 (第 76 回) (大阪), 2014. 10.
- 44) 川村眞智子, 前田美穂, 足立壮一 : 入院中の高校生学習支援に関する現状調査. 日本小児血液・がん学会 (第 56 回) (岡山), 2014. 11.
- 45) Itabashi T, Ueda T, Takeshita H, Hayakawa J, Amano Y, Maeda M, Itoh Y : A case of kaposiform Hmangioendothelioma in posterior mediastinum diagnosed by MRI. 日本小児放射線学会 (第 50 回) (神戸), 2014.
- 46) 浅野 健, 山西未穂, 前田美穂, 内村僚一, 板橋寿和, 牛腸義宏, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘 : Cell-able システムを用いた培養システムは急性白血球細胞の培養に有用である. 日本小児血液・がん学会 (第 56 回) (岡山), 2014. 11.
- 47) 河上智美, 中村侑子, 前田美穂, 荻部洋行 : シクロフォスファミドがマウスの歯根伸長および歯槽骨形成におよぼす影響. 日本小児血液・がん学会 (第 56 回) (岡山), 2014. 11.
- 48) 板橋寿和, 前田美穂, 内村僚一, 牛腸義宏, 山西未穂, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 伊藤保彦 : 当院で経験した 2 次がんの 11 例. 日本小児血液・がん学会 (第 56 回) (岡山), 2014. 11.
- 49) 内村僚一, 田辺雄次郎, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 伊藤保彦 : 治療開始直後の腫瘍内出血に対して腫瘍塞栓術を施行し救命出来た腎明細胞肉腫の 1 例. 日本小児血液・がん学会 (第 56 回) (岡山), 2014. 11.
- 50) Tanabe U, Hayakawa J, Ueda T, Maeda M, Itoh Y : Use of Mohs' ointment to reduce the size of an advanced embryonal embryonal rhabdomyosarcoma in the righ nasal vestibule and thereby improve quality of life the 27th Annual meeting of American Society of Pediatric Hematology. Oncology Chicago IL USA 2014 (Chicago), 2014.
- 51) Keino D, Kinoshita A, Tomizawa D, Takahashi H : Significance of Minimal Residual Disease Detected By Multi-Color Flow Cytometry In Childhood Acute Myeloid Leukemia With The Intermideate-Risk Cytogenetics and Ngative FMS-Like Tyrosine Kinase 3 Internal Tandem Duplication : A Report of The Tokyo Children' Cancer Study Group. The 55th annual meeting of ASH Orland, USA 2014 (Orland), 2014.
- 52) 荒木 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 川合 真<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup>, 須崎 真<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup>, 伊藤保彦 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 総合診療センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学 脳神経外科) : 長期予後を見据えた治療戦略 頭蓋内出血を有する小児軽症頭部外傷の診断治療と長期予後. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 53) 林 美雪, Pawankar R, 尾崎優介, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : Immuno CAP ISAC により PR-10 関連が疑われた食物依存性運動誘発性アナフィラキシー (FDEIA) の 1 例. 日本小児アレルギー学会会長 (第 51 回) (四日市), 2014. 11.
- 54) 田辺雄次郎, 亀井信孝, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : ステロイドパルス療法後に腸管気腫症を合併した SLE の 1 例. 日本小児科学会学術集会 (第 117 回) (名古屋), 2014. 4.
- 55) Yamanishi S, Tanabe Y, Fujii S, Ozaki Y, Takagi A, Kuwabara K, Igarashi T, Maeda M, Itoh Y : Everolimus Therapy for Tuberos Sclerosis With Subependymal Giant-Cell Astrocytoma (SEGA) and Renal Angiomyolipoma (AML). Pediatric Academic Societies' & Asian Society for Pediatric Research Joint Meeting (Vancouver, Canada), 2014. 5.
- 56) 山西慎吾, 田辺雄次郎, 赤羽洋祐, 尾崎優介, 竹下 輝, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : トシリズマブ治療中に MAS の合併が疑われた多関節型若年性特発性関節炎 (p-JIA) の 1 例. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (第 24 回) (仙台), 2014. 10.
- 57) 竹下 輝, 板橋寿和, 山西慎吾, 植田高弘, 早川 潤, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦 : ループスアンチコアグラント・低プロトロンビン血症症候群 (LAC-HPS) の発症を契機に診断された SLE の 1 例. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (第 24 回) (仙台), 2014. 10.
- 58) 西郡綾子, 田嶋華子, 伊藤保彦 : 痙攣・意識障害を主訴に発見された MCAD 欠損症の 1 例. 日本小児科学会学術集会 (第 117 回) (名古屋), 2014. 4.
- 59) Fukazawa R<sup>1)</sup>, Kenji H<sup>2)</sup>, Tsutomu S<sup>3)</sup>, Kato H<sup>4)</sup>, Suzuki H<sup>5)</sup>, Tsuda E<sup>6)</sup>, Ayusawa M<sup>7)</sup>, Miura M<sup>8)</sup>, Kobayashi T<sup>9)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatric, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science, <sup>3)</sup> First Department of Pediatrics, Toho University Omori Medical Center, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Wakayama Medical University, <sup>5)</sup> Department of Cardiology, National Center for Child Health and Development, <sup>6)</sup> Department of Pediatrics Cardiovascular Surgery, National Cardiovascular Center, <sup>7)</sup> Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, <sup>8)</sup> Division of Cardiology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, <sup>9)</sup> Division of Clinical Pharmacology and Toxicology, the Hospital for Sick Children, Toronto, Canada) : Cardiac death and myocardial infarction on Kawasaki disease with giant coronary aneurysm : Analysis of recent nationwide survey in Japan. European Society of Cardiology Congress (Barcelona, Spain), 2014.



- 9.
- 60) Watanabe M<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>1)</sup> (1) Department of Pediatric, Nippon Medical School) : Histological and rheological evaluation at coronary artery lesions in patients with Kawasaki disease. European Society of Cardiology Congress (Barcelona, Spain), 2014. 9.
- 61) Fukazawa R<sup>1)</sup>, Hamaoka K<sup>2)</sup>, Saji T<sup>3)</sup>, Kato H<sup>4)</sup>, Suzuki H<sup>5)</sup>, Tsuda E<sup>6)</sup>, Ayusawa M<sup>7)</sup>, Miura M<sup>8)</sup>, Kobayashi T<sup>9)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup> (1) Department of Pediatric, Nippon Medical School, 2) Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science, 3) First Department of Pediatrics, Toho University Omori Medical Center, 4) Department of Cardiology, National Center for Child Health and Development, 5) Department of Pediatrics, Wakayama Medical University, 6) Department of Pediatrics Cardiovascular Surgery, National Cardiovascular Center, 7) Department of Pediatrics, Nihon University School of Medicine, 8) Division of Cardiology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, 9) Division of Clinical Pharmacology and Toxicology, the Hospital for Sick Children, Toronto, Canada) : Fate of Kawasaki disease giant coronary aneurysm : Analysis of the last 10 years nationwide survey in Japan. International Kawasaki Disease Symposium (Honolulu, USA), 2015. 1.
- 62) Fukushima N<sup>1)</sup>, Miura M<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>2)</sup>, Fuse S<sup>3)</sup>, Saji T<sup>4)</sup>, Yamagishi H<sup>5)</sup>, Kato T<sup>6)</sup>, Hamaoka K<sup>7)</sup>, Nomura Y<sup>8)</sup>, Fuakazawa R<sup>9)</sup>, Kato H<sup>10)</sup>, et al. (1) Division of Cardiology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center, 2) Division of Clinical Pharmacology and Toxicology, the Hospital for Sick Children, Toronto, Canada, 3) Department of Pediatrics, NTT East Japan Sapporo Hospital, 4) First Department of Pediatrics, Toho University Omori Medical Center, 5) Department of Pediatrics, Keio University, 6) Department of Pediatrics, Nagoya University, 7) Kyoto Prefectural University of Medicine, Graduate School of Medical Science, 8) Department of Pediatrics, Kagoshima University, 9) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 10) Department of Cardiology, National Center for Child Health and Development) : Estimation of the severity of coronary artery aneurysm by Z-score of the internal diameter in Kawasaki Disease. International Kawasaki Disease Symposium (Honolulu, USA), 2015. 2.
- 63) Gutierrez N<sup>1)</sup>, Kahn A<sup>1)</sup>, Shirinsky O<sup>1)</sup>, Lyskina G<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>2)</sup>, Ogawa S<sup>2)</sup>, Burns J<sup>1)</sup> (1) University of California San Diego, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Thrombotic Risk Assessment in Kawasaki Disease Patients with Coronary Artery Aneurysms usin Transluminal Attenuation Gradient Analysis. International Kawasaki Disease Symposium (Honolulu), 2015. 2.
- 64) 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : 川崎病による高度な冠動脈狭窄に対して有効なカテーテル治療がなした幼児の2例. 日本心臓病学会学術集会 (第62回) (仙台市), 2014. 9.
- 65) 阿部正徳<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 赤尾見春<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 林 美雪<sup>1)</sup>, 渡邊美紀<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科) : 学校心臓検診をきっかけに発見される心疾患と循環器関連疾患. 日本小児循環器学会 (第50回) (岡山市), 2014. 7.
- 66) 山西慎吾, 高木篤史, 藤井秀一, 田辺雄次郎, 桑原健太郎, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦 : 結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫, 腎血管筋脂肪腫に対するエベロリムス治療. 小児科学会学術集会 (第117回) (名古屋), 2014. 4.
- 67) Yamanishi S, Tanabe Y, Fujii S, Ozaki Y, Takagi A, Kuwabara K, Igarashi T, Maeda M, Itoh Y : Everolimus therapy for tuberous sclerosis with subependymal giant-cell astrocytoma (SEGA) and renal angiomyolipoma (AML). Asian Society for Pediatric Research (ASPR) (Vancouver), 2014. 5.
- 68) 亀井信孝, 田辺雄次郎, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : SLE に対しステロイドパルス療法後に腸管気腫症を合併した1例. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第58回) (東京), 2014. 4.
- 69) 田辺雄次郎, 亀井信孝, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : SLE に対しステロイドパルス療法後, 腸管気腫症を合併した1例. 日本小児放射線学会学術集会 (第50回) (神戸), 2014. 6.
- 70) 尾崎優介, 田辺雄次郎, 竹下 輝, 高根祐希, 赤尾見春, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : 治療に難渋している MCTD の1例. 東日本リウマチ研究会 (東京), 2014. 5.
- 71) 山西慎吾, 前田美穂, 田辺雄次郎, 尾崎優介, 伊藤保彦 : 当院での麻疹アウトブレイク発生時の対応. 日本小児感染症学会総会・学術集会 (第46回) (東京), 2014. 10.
- 72) 山西慎吾, 田辺雄次郎, 赤羽洋祐, 尾崎優介, 竹下 輝, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : トシリズマブ治療中に MAS の合併が疑われた多関節型若年性特発性関節炎 (p-JIA) の1例. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (第24回) (仙台), 2014. 10.
- 73) 竹下 輝, 板橋寿和, 山西慎吾, 植田高弘, 早川 潤, 五十嵐徹, 前田美穂, 伊藤保彦 : ループスアンチコアグラント・低プロトロンビン血症症候群 (LAC-HPS) の発症を契機に診断された SLE の1例. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (第24回) (仙台), 2014. 10.
- 74) 林 美雪, パワンカールルビー, 尾崎優介, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦 : Immuno CAP ISAC により PR-10 関連が疑われた食物依存性運動誘発性アナフィラキシー (FDEIA) の1例. 日本小児アレルギー学会 (第51回) (四日市), 2014. 11.
- 75) 楊井瑛美, 田辺雄次郎, 尾崎優介, 竹下 輝, 山西慎吾, 五十嵐徹, 清水 章, 伊藤保彦 : ステロイド治療が奏功したが, 腎生検で

巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) Tip variant と診断されたネフローゼ症候群の 1 例. 日本小児科学会東京都地方会講話会 (第 614 回) (東京), 2014. 12.

- 76) 五十嵐徹, 山西慎吾, 林 美雪, パワンカールルビー, 五十嵐勉, 伊藤保彦: 当院におけるエピペン® 自己注射の指導経験について. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 26 回) (京都), 2014. 5.
- 77) 杉野健太, 竹下 輝, 田辺雄次郎, 尾崎優介, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦: 若年性特発性関節炎との鑑別に苦慮した難治性川崎病の 1 例. 日本小児科学会東京都地方会講話会 (第 617 回) (東京), 2015. 3.
- 78) 山西慎吾: 日本小児科学会東京都地方会講話会 (第 611 回) (東京), 2014. 9.
- 79) 林 美雪, パワンカールルビー, 山西慎吾, 五十嵐徹, 伊藤保彦: がんもどきによる食物依存性運動誘発性アナフィラキシー (FDE-IA) の 1 例. 日本小児皮膚科学会 (第 38 回) (東京), 2014. 7.

(7) Meet-the-Expert :

- 1) Itoh Y : Treating the child with arthritis. Asia Pacific League of Associations for Rheumatology Congress (16th) (Cebu, Philippines), 2014. 4.

(8) 指定発言 :

- 1) 伊藤保彦: 小児の全身性硬化症. 日本小児科学会東京都地方会 講話会 (第 617 回) (東京), 2015. 3.

(9) 平成 25 年度優秀論文賞記念講演 :

- 1) 赤尾見春<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : Developmental Changes in Left and Right Ventricular Function Evaluated with Color Tissue Doppler Imaging and Strain Echocardiography. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.

## 論 文

### 〔追加分〕

#### 追加分総説 :

- 1) 今井丈英: 小児における気道異物事故予防にむけて. 外来小児科 2014 ; 17 (1) : 81-85.
- 2) 伊藤保彦: 【小児の痛みについて考える】小児の線維筋痛症. 小児科臨床 2013 ; 66 (12) : 2429-2432.
- 3) 伊藤保彦: 【線維筋痛症の病態と治療】小児における線維筋痛症. 関節外科 2013 ; 32 (12) : 1360-1363.
- 4) 伊藤保彦: 【疑問解決 小児の診かた】疾患別の診療 免疫・アレルギー性疾患 抗核抗体陽性はどのような意味がありますか. 症状がなくても経過観察が必要ですか. 小児内科 2011 ; 43 (増刊) : 485-488.
- 5) 五十嵐徹, 山西慎吾, 伊藤保彦: 【若年性特発性関節炎における関節・骨病変への対応】関節・骨病変に対する治療. 五十嵐徹 (日本医科大学小児科), 山西慎吾, 伊藤保彦 Source : 小児科 (0037-4121) 55 巻 2 号 Page157-162 (2014.02) 2014 ; 55 (2) : 157-162.
- 6) 山西慎吾, 伊藤保彦: 【予防接種 Q & A】予防接種全般 要注意者への接種 生物学的製剤 若年性特発性関節炎で生物学的製剤の治療を受けていますが, 予防接種は受けられますか. 小児内科 2013 ; 45 (増刊) : 143-144.
- 7) 橋崎秀彦, 伊藤保彦: 小児全身性エリテマトーデスの治療薬の現況. 小児科 2013 ; 54 (8) : 1151-1159.
- 8) 重盛朋子, 伊藤保彦: 【小児疾患の診断治療基準 (第 4 版)】 (第 2 部) 疾患 アレルギー性疾患, 自己免疫・リウマチ性疾患 (膠原病) リウマチ熱. 小児内科 2012 ; 44 (増刊) : 266-267.
- 9) 伊藤保彦: 【疑問解決 小児の診かた】疾患別の診療 免疫・アレルギー性疾患 抗核抗体陽性はどのような意味がありますか. 症状がなくても経過観察が必要ですか. 小児内科 2011 ; 43 (増刊) : 485-488.
- 10) 伊藤保彦: 【乳幼児診療 A to Z】診察法の基本 身体所見の取り方 筋・骨格系 四肢, 肩関節, 股関節. 小児科 2011 ; 52 (5) : 573-576.
- 11) 伊藤保彦, 重盛朋子, 五十嵐徹, 福永慶隆: 【炎症性筋疾患に関する最近の知見】小児皮膚筋炎. リウマチ科 2011 ; 45 (2) : 170-174.

#### 追加分原著 :

- 1) 林 美雪, Pawankar R ( <sup>1)</sup> 日本医大小児科) : 世界と日本で増加する食物アレルギー. 保健室 2013 ; (169) : 10-17.
- 2) Canonica G<sup>1)</sup>, Cox L<sup>2)</sup>, Pawankar R<sup>3)</sup>, Baena-Cagnani C<sup>4)</sup>, Blaiss M<sup>5)</sup>, Bonini S<sup>6)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Allergy and Respiratory Diseases, Department of Internal Medicine, IRCCS S Martino, IST, University of Genoa, Genoa, Italy, <sup>2)</sup> Southampton University Hospital, Bournemouth University., <sup>3)</sup> Dep. of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Mesa Directiva de ARIA Internacional., <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, University of Tennessee Health Science Center, <sup>6)</sup> European Medicines Agency (S.B., H.-G.E., N.W., G.R.), London ; the Second University of Naples, <sup>7)</sup> and other) : World Allergy Organization position paper 2013 update. World Allergy Organ J. 2014 ; 7 (1) : 6.
- 3) 横田俊平<sup>1)</sup>, 今川智之<sup>1)</sup>, 村田卓士<sup>2)</sup>, 富板美奈子<sup>3)</sup>, 伊藤保彦, 藤川 敏<sup>4)</sup>, 武井修治<sup>5)</sup>, 森 雅亮<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立医科大学小児科, <sup>2)</sup> 大阪医科大学小児科, <sup>3)</sup> 千葉県こども病院アレルギー・膠原病科, <sup>4)</sup> 藤川医院, <sup>5)</sup> 鹿児島大学小児科) : 若年性特発性関節炎に対する生物学的製剤治療の手引き 2011 アダリムマブ. 日本小児科学会雑誌 2011 ; 115 (11) : 1836-1845.

- 4) Igarashi T, Igarashi T<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup>, Itoh Y ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Intravenous cyclophosphamide pulse therapy in Japanese children with systemic lupus erythematosus. J Nippon Med Sch. 2013 ; 80 (5) : 396-400.
- 5) Igarashi T, Shimizu A<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Hanaoka K<sup>3)</sup>, Yoshizaki K, Shigemori T, Shimizu S<sup>4)</sup>, Komeichi H<sup>4)</sup>, Itoh Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology (Analytic Human Pathology), Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Kidney and Hypertension, Department of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, <sup>4)</sup> Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical) : Seroconversion of hepatitis B envelope antigen by entecavir in a child with hepatitis B virus-related membranous nephropathy. J Nippon Med Sch. 2013 ; 80 (5) : 387-395.
- 6) Ohashi R<sup>1)</sup>, Fukazawa R, Watanabe M, Tajima H, Nagi-Miura N<sup>2)</sup>, Ohno N<sup>2)</sup>, Tsuchiya S<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Ogawa S, Itoh Y ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Laboratory for Immunopharmacology of Microbial Products, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences) : Etanercept Suppresses Arteritis in a Murine Model of Kawasaki Disease : A Comparative Study Involving Different Biological Agents. Int J Vasc Med. 2013.

## 著書

追加分：

- 1) 早川 潤, 伊藤保彦, 福永慶隆：〔分担〕【血液症候群（第2版）—その他の血液疾患を含めて—】リンパ球の異常 リンパ球機能異常と類縁疾患 原発性免疫不全症候群 補体異常症. 日本臨床 別冊血液症候群第2版II, 2013 ; pp310-316, 日本臨床社.
- 2) 山西慎吾, 福永慶隆, 伊藤保彦：〔分担〕【血液症候群（第2版）-その他の血液疾患を含めて-】リンパ球の異常 リンパ球機能異常と類縁疾患 原発性免疫不全症候群 Job 症候群（高IgE 症候群-反復感染症候群）. 日本臨床 別冊血液症候群第2版II, 2013 ; pp304-309, 日本臨床社.
- 3) 伊藤保彦：〔翻訳〕636～663章 皮膚疾患. ネルソン小児科学（衛藤義勝）, 2015 ; pp636-663, エルゼビア・ジャパン.

## 学会発表

追加分教育講演：

- 1) 伊藤保彦：小児リウマチの現状と治療. 日本リウマチ学会総会・学術集会（第57回）（京都）, 2013. 4.
- 2) 伊藤保彦：不明熱症例への対処とJIA Up-to-date. 相模原小児膠原病セミナー（第1回）（相模原）, 2013. 5.
- 3) 伊藤保彦：小児リウマチの現状と治療. JCR2013 全国中央教育研修会東京大会（東京）, 2013. 8.
- 4) 伊藤保彦：小児リウマチの現状と治療. JCR2013 全国中央教育研修会大阪大会（大阪）, 2013. 12.

追加分一般講演：

- 1) 高木篤史, 草野泰造, 桑原健太郎, 伊藤保彦, 仲野裕一郎<sup>1)</sup>, 藤原一男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 眼科, <sup>2)</sup> 東北大学大学院医学系研究科多発性硬化症治療学寄附講座) : 髄膜炎様症状で発症した特発性視神経炎の1例. 日本小児科学会東京地方会（第605回）（東京）, 2013. 12.
- 2) 赤羽洋祐, 山西慎吾, 田辺雄次郎, 渡邊 誠, 深澤隆治, 小川俊一, 伊藤保彦 : IVIG+PSL 不応例の川崎病に対し, Infliximab が奏功した1例. 日本医科大学医学会総会（第81回）（東京）, 2013. 9.
- 3) 橋本康司<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 林 美雪<sup>1)</sup>, 赤尾見春<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科) : 川崎病を契機に診断された単一冠動脈と冠動静脈瘻の2症例. 日本小児循環器学会学術集会（第50回）（岡山市）, 2015. 7.
- 4) Itoh Y, Tomoko S, Shingo Y, Hidehiko N, Tohru I : Long term outcome of children with positive anti-Ro. International Symposium on Sjögren's Syndrome (12th) (Kyoto, Japan), 2013. 10.

追加分シンポジウム：

- 1) 武井修治<sup>1)</sup>, 伊藤保彦, 横田俊平<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 鹿児島大学小児科, <sup>2)</sup> 横浜市立大学小児科) : 小児リウマチ医療のこれから 専門医制度と小慢制度. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会（第23回）（さいたま）, 2013. 10.
- 2) 藤川 敏<sup>1)</sup>, 山口賢一<sup>2)</sup>, 武井修治<sup>3)</sup>, 根路銘安仁<sup>3)</sup>, 嶺崎智子<sup>3)</sup>, 三好麻里<sup>4)</sup>, 笠井和子<sup>4)</sup>, 伊藤保彦, 五十嵐徹, 横田俊平<sup>5)</sup>, 今川智之<sup>5)</sup>, 稲毛康司<sup>6)</sup>, 藤田之彦<sup>6)</sup>, 金城紀子<sup>7)</sup>, 梅林宏明<sup>8)</sup>, その他3名 ( <sup>1)</sup> 藤川医院, <sup>2)</sup> 聖路加国際病院リウマチ膠原病センター, <sup>3)</sup> 鹿児島大学小児科, <sup>4)</sup> 兵庫県立こども病院 リウマチ科, <sup>5)</sup> 横浜市立大学小児科, <sup>6)</sup> 日本大学小児科, <sup>7)</sup> 琉球大学小児科, <sup>8)</sup> 宮城県立こども病院総合診療科) : 小児期発症ベーチェット病診断基準のためのワーキンググループ報告. 日本小児リウマチ学会総会・学術集会（第23回）（さいたま）, 2013. 10.
- 3) 富板美奈子<sup>1)</sup>, 小林一郎<sup>2)</sup>, 野中由希子<sup>3)</sup>, 原 良紀<sup>4)</sup>, 伊藤保彦, 岩田直美<sup>5)</sup>, 村田卓士<sup>6)</sup>, 梅林宏明<sup>7)</sup>, 井上祐三郎<sup>8)</sup>, 有馬孝恭<sup>8)</sup>, 森田慶紀<sup>8)</sup>, 森 雅亮<sup>4)</sup>, 佐藤泰憲<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉県こども病院アレルギー・膠原病科, <sup>2)</sup> 北海道大学小児科, <sup>3)</sup> 鹿児島大学小児科, <sup>4)</sup> 横

浜市立大学小児科, <sup>5)</sup> あいち小児保健医療総合センター, <sup>6)</sup> 大阪医科大学小児科, <sup>7)</sup> 宮城県立こども病院総合診療科, <sup>8)</sup> 千葉大学小児科) : 小児 Sjogren 症候群診断基準策定のためのワーキンググループ活動報告, 日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (第 23 回) (さいたま), 2013. 10.

- 4) 深澤隆治<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 橋本康司<sup>1)</sup>, 林 美雪<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 池上 英<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学小児科) : 巨大冠動脈瘤を有する川崎病既往者における成人期の問題点, 日本小児循環器学会 (第 50 回) (岡山市), 2015. 7.

追加分セミナー :

- 1) 伊藤保彦 : 小児のシェーグレン症候群と抗 Ro 抗体, 日本シェーグレン症候群学会学術集会 (第 22 回) (大阪), 2013. 9.

追加分特別講演 :

- 1) 伊藤保彦 : 不明熱と若年性特発性関節炎, 千駄木リウマチ膠原病セミナー (第 3 回) (東京), 2013. 7.  
2) 伊藤保彦 : 小児膠原病トピックス, 多摩小児医療研究会 (第 3 回) (調布), 2105. 2.  
3) 深澤隆治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学小児科) : 川崎病巨大冠動脈瘤の長期予後と管理, 和歌山川崎病研究会 (第 29 回) (和歌山市), 2015. 12.  
4) 伊藤保彦 : 不明熱と全身型 JIA, 群馬小児リウマチ・免疫研究会 (第 1 回) (前橋), 2013. 1.  
5) 島 義雄 : 周産期の炎症からみた早産児の慢性肺疾患, 神奈川県周産期協議会新生児研修会 (横浜), 2014. 3.  
6) 島 義雄 : 周産期の炎症からみた早産児の疾患, 日医大医学会総会 (第 81 回) (東京), 2013. 11.

## 12. 臨床放射線医学分野

### [付属病院放射線科, 放射線治療科]

#### 研究概要

(放射線診断) CTにおいては新たに導入された256列, 320列CTを用いた冠動脈, 大動脈, 末梢動脈等の解析, 脳灌流画像, Dual Energy Imaging, 被曝低減などの研究を進めている。MRIにおいては心疾患や血管病変に対する画像, 機能解析や高速撮像法に関する研究が行われている。乳房撮影ではトモシンセシス導入による乳癌の診断精度の研究やマンモトームの研究が行われている。核医学では新たに導入した半導体ガンマカメラを用いた高分解能撮影, 冠動脈SPECT/CTA融合画像による包括的診断, SPECT-CTを用いた肺血栓塞栓症や下肢閉塞性動脈硬化症の重症度および予後評価を行っている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患の重症度評価, DAT scanによるドーパミン受容体イメージングが行われている。PET-CTにおいては高分解能装置を用いた悪性腫瘍診断, アミロイドイメージング, 各種心疾患の研究が行われている。(Interventional radiology: IVR) 腹部-骨盤部領域の悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療の基礎的・臨床研究が行われている。また, 悪性腫瘍に対する塞栓術(TAE)や動静脈へのリザーバー留置・動注化学療法・ラジオ波焼灼術(RFA)などの研究を幅広く行っている。脈管領域では大動脈ステントグラフトや末梢動脈ステント留置の研究, 救急領域では外傷や消化管出血に対する超選択的止血術の研究も行われている。(放射線治療)強度変調回転照射が導入され, 前立腺癌等の治療成績に関する臨床研究が開始されている。他, 孤立性肺腫瘍に対する体幹部定位照射, 小線源治療では子宮頸癌に対するCT画像ガイド下腔内照射が実施され, 処方線量の設定や危険臓器への線量制約につき研究が行われている。さらに皮膚良性疾患に対する治療方法に関する研究も進んでいる。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Amano Y, Takeda M, Tachi M, Kitamura M, Kumita S: Myocardial fibrosis evaluated by Look-Locker and late gadolinium enhancement magnetic resonance imaging in apical hypertrophic cardiomyopathy: association with ventricular tachyarrhythmia and risk factors. *J Magn Reson Imaging* 2014; 40 (2): 407-412.
- 2) Tomiyama T, Ishihara K, Suda M, Kanaya K, Saurai M, Takahashi N<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Nitta K<sup>2)</sup>, Hakozaki K, Kumita S (1) Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, 2) NM & RT System Sales Division, Hitachi Medical Corporation): Impact of time-of-flight on qualitative and quantitative analyses of myocardial perfusion PET studies using <sup>13</sup>N-ammonia. *Journal of Nuclear Cardiology* 2014.
- 3) 富山 毅, 石原圭一, 汲田伸一郎: フィリップス社 TOF 効果の臨床へのインパクト. *PET journal* 2014; (25): 7-9.
- 4) Tani H, Uchiyama N<sup>1)</sup>, Machida M<sup>1)</sup>, Kikuchi M<sup>1)</sup>, Arai Y<sup>1)</sup>, Otsuka K<sup>2)</sup>, Jerebko A<sup>3)</sup>, Fieselmann A<sup>3)</sup>, Mertelmeier T<sup>3)</sup> (1) Department of Radiology, National Cancer Center, 2) Siemens Japan K.K., 3) Siemens AG, Healthcare Sector): Assessing Radiologist Performance and Microcalcifications Visualization Using Combined 3D Rotating Mammogram and Digital Breast Tomosynthesis. *Breast Imaging Lecture Notes in Computer Science* 2014; 8539: 142-149.
- 5) Tani H, Kurihara H<sup>1)</sup>, Hiroi K<sup>1)</sup>, Honda N<sup>1)</sup>, Yoshimoto M<sup>2)</sup>, Kono Y<sup>1)</sup>, Murakami R, Kumita S, Arai Y<sup>1)</sup>, Itami J<sup>3)</sup> (1) Department of Diagnostic Radiology, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan, 2) Division of Functional Imaging, National Cancer Center Hospital East, Chiba, Japan, 3) Department of Radiation Oncology, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan): Correlation of (18) F-BPA and (18) F-FDG uptake in head and neck cancers. *Radiotherapy and Oncology* 2014; 113 (2): 193-197.
- 6) 杉原史恵, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 嶺 貴彦, 山口英直, 上田達夫, 安井大祐, 木村隆誉, 三樹いずみ, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (1) 日本医科大学糖尿病内分泌代謝内科): 血管造影に基づく副腎静脈吻合の解剖学的特徴. *臨床放射線* 2015; 60 (3).
- 7) Yamada F, Amano Y, Hidaka F, Fukushima Y, Kumita S: Pseudonormal Corticomedullary Differentiation of the Kidney Assessed by T1-weighted MRI in Cirrhotic Patients with Chronic Kidney Disease. *Magnetic Resonance in Medical Sciences* 2015.
- 8) Murata S, Onozawa S, Sugihara F, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Ueda T, Yamaguchi H, Yasui D, Mine T, Kumita S (1) Nippon Medical School Department of Anesthesiology): Feasibility and safety of negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with pre-treated recurrent or persistent uterine cervical cancer. *Ann Surg Oncol* 2015.
- 9) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Kumita S, Shimizu A<sup>1)</sup>, Satake M<sup>2)</sup> (1) Nippon Medical School second pathology, 2) Cancer Research Center Hospital East Radiology): Minimizing systemic leakage of cisplatin during percutaneous isolated pancreas perfusion chemotherapy: A pilot study. *Radiology* 2015.

- 10) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Kumita S, Satake M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Cancer Research Center Hospital East Radiology) : Retrograde-outflow percutaneous isolated hepatic perfusion using cisplatin : A pilot study on pharmacokinetics and feasibility. *Eur Radiol* 2014.
  - 11) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Kawamoto C<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Improved efficacy of transcatheter arterial chemoembolization using warmed miriplatin for hepatocellular carcinoma. *Biomed Res Int* 2014.
  - 12) Murata S, Onozawa S, Kim C<sup>1)</sup>, Tajima H, Kimata R<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Department of Anesthesiology, <sup>2)</sup> Nippon Medical School Urology, <sup>3)</sup> Nippon Medical School first surgery) : Negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with incurable symptomatic rectal cancer : results and drug dose correlation to adverse events. *Acta Radiol* 2014 ; 55 ( 7 ) : 793-801.
  - 13) Murata S, Jeppsson B<sup>1)</sup>, Lunderquist A<sup>1)</sup>, Ivancev K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Lund University Departments of Surgery and Radiology) : Hemodynamics in rat liver tumor model during retrograde-outflow isolated hepatic perfusion with aspiration from the portal vein : angiography and in vivo microscopy. *Acta Radiol* 2014 ; 55 ( 6 ) : 737-44.
  - 14) Mine T, Murata S, Ueda T, Takeda M, Onozawa S, Yamaguchi H, Kawano Y<sup>1)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School first surgery) : Contribution of extrahepatic collaterals to liver parenchymal circulation after proper hepatic artery embolization. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2014 ; 29 ( 7 ) : 1515-21.
  - 15) Mine T, Murata S, Kumita S : Response to “Transcatheter arterial embolization for gastroduodenal ulcer bleeding : the use of cyanoacrylate glue has gained acceptance”. *Acta Radiologica* 2014 ; 55 ( 3 ) : 327.
  - 16) 嶺 貴彦, 村田 智, 小野澤志郎, 上田達夫, 山口英宣, 杉原史恵, 安井大祐, 宮内雅人, 田島廣之, 汲田伸一郎 : 出血性上部消化管潰瘍に対するNBCA塞栓術 循環への寄与と粘膜治癒の経過. *日本腹部救急医学会雑誌* 2014 ; 34 ( 7 ) : 1289-1293.
  - 17) Fukushima Y, Kumita S, Kawaguchi T, Maruyama T, Kawasaki Y, Shinkai Y : Nuclear myocardial perfusion imaging with a cadmium-telluride semiconductor detector gamma camera in patients with acute myocardial infarction. *Annals of nuclear medicine* 2014 ; 28 ( 7 ) : 646-55.
  - 18) Kiriya T, Kumita S, Moroi M, Nishimura T, Tamaki N, Hasebe N, Kikuchi K : Interpretative variability and its impact on the prognostic value of myocardial Fatty Acid imaging in asymptomatic hemodialysis patients in a multicenter trial in Japan. *Circ J* 2014 ; 79 ( 1 ) : 153-60.
  - 19) Murata S, Mine T, Sugihara F, Yasui D, Yamaguchi H, Ueda T, Onozawa S, Kumita S : Interventional treatment for unresectable hepatocellular carcinoma. *World J Gastroenterol* 2014 ; 20 ( 37 ) : 13453-65.
  - 20) Akiba A, Murata S, Mine T, Onozawa S, Sekine T, Amano Y, Kawano Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School first surgery) : Volume change and liver parenchymal signal intensity inGd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging after portal vein embolizationprior to hepatectomy. *Biomed Res Int* 2014 ; 684754.
  - 21) 嶺 貴彦, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 山口英宣, 上田達夫, 汲田伸一郎 : 【血管腫・血管奇形2014 : 診断からIVR・治療まで】IVR各論 四肢骨盤部動静脈奇形に対する血管内治療. *臨床画像* 2014 ; 30 ( 5 ) : 524-533.
- (2) 総説 :
- 1) 林 宏光 : 造影剤の安全性 : 造影剤腎症と腎性全身性線維症. *medicina* 2014 ; 51 ( 11 ) : 86-90.
  - 2) 上田達夫, 林 宏光, 平沼千明, 山口英宣, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎 : 急性大動脈症 : 放射線診断の進歩. *ICUとCCU* 2014 ; 38 ( 6 ) : 369-378.
  - 3) 石原圭一, 秋山一義, 箱崎謙太, 富山 毅, 織田絵里香, 汲田伸一郎 : 新世代を迎えたPET診断 検診におけるPET診断の有用性と限界. *臨床泌尿器科* 2014 ; 68 ( 13 ) : 998-1003.
  - 4) 高木 亮 : 造影剤を用いた脳灌流画像 : 急性期脳梗塞への臨床応用. *Innervision* 2014 ; 29 ( 5 ) : 58-60.
  - 5) Murata S, Niggemann P<sup>1)</sup>, Lee E<sup>2)</sup>, Hollee P<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, Diakoniekrankenhaus Mannheim, Mannheim Germany, <sup>2)</sup> Department of Radiology, UCLA Medical Center, David Geffen School of Medicine at UCLA, <sup>3)</sup> The Intervention Centre, Oslo University Hospital Rikshospitalet, Oslo Norway) : Diagnostic and Interventional Radiology for Liver Diseases. *Biomed Res Int* 2015.
  - 6) 嶺 貴彦, 安井大祐, 村田 智, 小野澤志郎, 上田達夫, 山口英宣, 杉原史恵, 川俣博志, 田島廣之, 汲田伸一郎 : 消化管出血に対するNBCAを用いた塞栓術. *日本IVR学会雑誌* 2014 ; 29 ( 3 ) : 243-251.
  - 7) 嶺 貴彦, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 山口英宣, 上田達夫, 汲田伸一郎 : 四肢骨盤部動静脈奇形に対する血管内治療. *臨床画像* 2014 ; 29 ( 3 ) : 524-533.
  - 8) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 町田 幹, 嶺 貴彦, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本

医科大学 消化器外科)：【虚血性腸疾患と関連病変】虚血性腸疾患の診断と治療 腸間膜動脈血栓症. 消化器外科 2014；37 (6)：987-994.

- 9) 桐山智成, 小林靖宏, 福嶋善光, 天野康雄, 林 宏光, 汲田伸一郎：明日から役立つ核医学-マルチモダリティ戦略における活用法-心臓核医学検査(解説/特集). 画像診断 2014；34 (14)：1576-1586.

### (3) 症例報告：

- 1) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮, 汲田伸一郎：救急画像カンファランス Q & A 腸回転異常に伴う急性虫垂炎. 救急医学 2014；38：478-481.
- 2) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮, 汲田伸一郎：救急画像カンファランス Q & A 黄色ブドウ球菌による壊死性肺炎. 救急医学 2014；38：604-607.
- 3) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮, 汲田伸一郎：救急画像カンファランス Q & A 大動脈腸管瘻. 救急医学 2014；38：987-990.
- 4) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮, 汲田伸一郎：救急画像カンファランス Q & A 外傷性大動脈解離. 2014；38：1600-1603.
- 5) 三羽英之, 小野真平, 宮下次廣, 百束比古, 小川 令：手術および術後放射線治療が奏功したデュブイトラン拘縮の1例. 癩痕・ケロイド治療ジャーナル 2014；8：70-73.
- 6) Miyachi H, Onozawa S, Akutsu K, Shimizu W, Kumita S, Tanaka K, Murata S：Treatment of visceral malperfusion in acute type B aortic dissection by percutaneous endovascular fenestration using a stent, with additional stenting of the true lumen. J Nippon Med Sch 2014；81 (5)：340-5.
- 7) Tajima H, Onozawa S, Isshiki S, Takenoshita N, Kaneshiro T, Ichikawa T, Murata S, Matsuda K, Furukawa A：Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. Jpn J Radiol 2014；32 (4)：238-241.
- 8) 會田久美子, 天野康雄, 町田 幹, 松田陽子, 中村慶春, 松下 晃, 汲田伸一郎：線維化が著明であった隣神経内分泌腫瘍の2例. 臨床放射線 2014；59 (8)：1117-1120.

## 著 書

- 1) 上田達夫, 林 宏光, 平沼千明, 山口英宣, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎：〔自著〕急性大動脈症放射線診断の進歩. ICUとCCU, 2014；pp369-378, 医学図書出版.
- 2) 汲田伸一郎, 町田 幹, 石原圭一, 石原真木子：〔監修・編集〕画像診断のためのリンパ節カラーアトラス(監修 汲田伸一郎・編集 町田幹・石原圭一・石原真木子), 2015；pp1-123, 金原出版.
- 3) 福島善光, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 林 宏光, 汲田伸一郎<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院感染制御部)：〔分担〕肺動静脈瘻. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン(弦間 昭彦), 2014；pp165-169, 株式会社総合医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 天野康雄：MRIで心肥大を診る. 川崎循環器懇話会(第65回)(川崎), 2014. 9.
- 2) 天野康雄：HCMの肥大しないところをMRIで診る：特徴と意義を考える. Tokyo Cardiac Imaging Conference(第6回)(東京), 2014. 11.
- 3) 天野康雄：心臓MRI撮像法の基本：心筋病変の評価のために. 埼玉医科大学総合医療センター・埼玉西都心臓MRI画像診断セミナー(埼玉), 2014. 11.
- 4) 天野康雄：T1T2 mappingで評価する心筋障害：LGEを補い, LGEを超えるか?. パラレルイメージング・シンポジウム(東京), 2014. 12.
- 5) 林 宏光：造影検査の副作用とその対策. 下町撮影技術検討会(第23回)(東京), 2014. 11.
- 6) 林 宏光：Revolution CT：新たな装置の可能性. 中部マルチスライスCT研究会(第9回)(名古屋), 2014. 10.
- 7) 林 宏光：造影検査の副作用とその対策. 自治医科大学リスクマネジメント講演会(栃木), 2014. 10.
- 8) 林 宏光：SCCTガイドライン：経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)／経カテーテル大動脈弁置換術(TAVR)前のCT画像に関するSCCT専門家合意文書. SCCT研究会(第8回)(東京), 2014. 9.
- 9) 汲田伸一郎：進化する心臓画像診断. 多摩川フォーラム(第17回)(東京), 2014. 5.
- 10) 汲田伸一郎：最適な心臓SPECT/PET検査プロトコルを考える. 神奈川PET・SPECT研究会(第34回)(神奈川), 2014. 5.
- 11) 汲田伸一郎：ここまでわかる！心臓画像診断. 多摩血管-代謝研究会(第3回)(東京), 2014. 10.
- 12) 汲田伸一郎：虚血心における心筋SPECT/PETの臨床応用. 東葛循環器画像研究会(東京), 2014. 10.

(2) 招待講演：

- 1) 小林靖宏, 石原圭一, 汲田伸一郎：非虚血性心筋症のマルチモダリティによる臨床診断 SPECT/PET. MCVI multi-modality Cardio Vascular Imaging (第5回) (東京), 2014. 10.
- 2) Kobayashi Y : Clinical Application of Nuclear Medicine for Diagnosing Ischemic Heart Disease. 30th Annual Convention Philippine Society of Nuclear Medicine 2013 (Philippine), 2015. 2.
- 3) Kobayashi Y : Myocardial FDG uptake Suppression Method for diagnosing Cardiac disease. 30th Annual Convention Philippine Society of Nuclear Medicine 2013 (Philippine), 2015. 2.
- 4) Murata S : Interventional management for advanced liver and pancreatic malignancies : percutaneous isolated perfusion chemotherapy. IASGO (Austria), 2014. 12.
- 5) 村田 智：緊急IVRと最先端のがん治療. 城東画像研究会 (第4回) (東京), 2014. 10.
- 6) Ueda T, Murata S, Yasui D, Onozawa S, Mine T, Sugihara F, Kimura T, Miki I, Kumita S : Miriplatin-Iodized oil Suspension and Cisplatin-Iodized oil Suspension for Transcatheter Arterial Chemoembolization of Hepatocellular Carcinoma : a comparative study of the antitumor efficacy. IASGO 2014 (Vienna), 2014. 12.
- 7) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Kawamoto C, Kumita S : Long term survival obtained in a case of hepatocellular carcinoma with portal venous trunk invasion. IASGO (Austria), 2014. 12.

(3) 教育講演：

- 1) 天野康雄：心臓MRI：臨床編. 豊島健康診査センター MRI/CT 症例検討会 (第12回) (東京), 2014. 5.
- 2) 天野康雄：基礎から学ぶ心臓MRI：HCMとDCMの形態, LGE, T1. AIMS Cardiac Imaging 2014 (東京), 2014. 6.
- 3) 天野康雄：高血圧が基礎となる心病変のMRI. 関東MRI画像研究会 (第270回) (東京), 2015. 3.
- 4) 林 宏光：造影剤アレルギーとその対策. 中日本PCI研究会ケースレビュー (第7回) (大宮), 2014. 5.
- 5) 小林靖宏：スタートアップ核医学 for 研修医：基礎, SPECT, PET. 研修医セミナー (東京), 2014. 5.
- 6) 高木 亮：医学生のための画像診断入門2014 中枢神経. 2014 ミッドサマーセミナー (神戸), 2014. 7.
- 7) 高木 亮：救急当直のための画像診断：中枢神経編 頭部外傷. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第50回) (神戸), 2014. 9.
- 8) 高木 亮：当直時間帯の救急画像診断：診療放射線技師に求められること. 東京ER meeting (第4回) (東京), 2015. 2.
- 9) 村田 智：AMPLATZERTM Vascular Plug. 日本IVR学会総会 (奈良), 2014. 6.
- 10) 福嶋善光：SPECT-CTを用いた下肢疾患の病態評価. 日本フットケア学会年次学術集会 (第13回) (東京), 2015. 2.
- 11) 桐山智成：大規模多施設研究から 中央読影と施設読影の差が予後予測におよぼす影響：B-SAFEサブ解析. ニュータウンカンファレンス (第50回) (京都), 2015. 2.
- 12) 桐山智成：CCT/PETの基礎. 関西 Advanced Cardiac Imaging Laboratory (京都), 2015. 2.
- 13) 桐山智成：CT冠動脈造影の基礎 (撮影法). Advanced Cardiac Imaging Laboratory (東京), 2014. 8.
- 14) 桐山智成：CCTA (応用) と update. Advanced Cardiac Imaging Laboratory (東京), 2014. 8.
- 15) 桐山智成：心臓画像診断における Fusion について. Advanced Cardiac Imaging Laboratory (東京), 2014. 5.
- 16) 桐山智成：PET 検査が必要になる時. Advanced Cardiac Imaging Laboratory (東京), 2014. 5.

(4) シンポジウム：

- 1) 富山 毅：慢性冠動脈疾患の治療適応決定. 日本医科大学・東京理科大学 第1回合同シンポジウム (東京), 2014. 5.
- 2) Takagi R, Imai S, Sekine S, Amano Y, Murai Y, Kumita S, Morita A : Pre-surgical image evaluation for unclippable unruptured large and giant aneurysms of the internal carotid artery. 10th symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society Tokyo (Finland), 2014. 6.
- 3) 町田 幹：Advanced CT ランチョンセミナー 診断と技術の最新情報高画質化を求めた低電圧腹部CTと逐次近似処理. Advanced CT・MR (軽井沢), 2014. 6.
- 4) 福嶋善光：急性・慢性肺血栓塞栓症の診断から治療まで 急性・慢性肺血栓塞栓症患者における深吸気位呼吸停止肺血流 SPECT-CT の有用性. 第7回呼吸機能イメージング研究会学術集会 (東京), 2015. 2.
- 5) 飯村剛史, 小川 令, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 百束比古：足のリンパ浮腫 Lymphoscintigraphy with SPECT-CTを用いたリンパ浮腫の最新の診断法. 日本フットケア学会年次学術集会 (第13回) (東京), 2015. 2.
- 6) 桐山智成：冠動脈PET：急性冠症候群の脆弱ブランク描出の試み. 日本心血管画像動態学会 (第25回) (東京), 2015. 1.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 林 宏光：大動脈解離の画像診断：大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン (2011年改訂版) を踏まえて. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第23回) (東京), 2014. 8.
- 2) 福嶋善光：循環器診療におけるモダリティの最近の進歩「SPECT-CT」. 心臓核医学談話会 (第46回) (東京), 2015. 1.



(6) セミナー：

- 1) 林 宏光：1st Clinical Experience of Revolution CT. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第42回）（札幌），2014. 10.
- 2) 林 宏光：ガイドラインをガイドする：画像診断と造影剤を中心に. 日本核医学会春季大会（第14回）（東京），2014. 4.
- 3) 汲田伸一郎：放射線画像診断－形態画像と機能画像－. 埼玉医療問題介護団研修会（埼玉），2014. 9.
- 4) 小林靖宏：フィルムリーディング「血液悪性腫瘍」. 第5回 TOPIC (Tokyo FDG-PET Imaging Conference)（東京），2015. 2.
- 5) 村田 智：消化管出血のIVR. ミッドサマーセミナー（神戸），2014. 7.
- 6) 桐山智成：症例読影 クリッカーシステムを使用した双方向読影トレーニング. 日本心臓核医学会地域別教育研修会（東京），2014. 10.
- 7) 桐山智成：核医学基礎セミナー 初心者・卒後研修医コース 心臓核医学の基礎と臨床. 日本核医学会春季大会（第14回）（東京），2014. 4.
- 8) 桐山智成：核医学基礎セミナー 核医学専門医受験者コース 心臓核医学（基礎と臨床）. 日本核医学会春季大会（第14回）（東京），2014. 4.
- 9) 桐山智成：Questions about CZT-SPECT images. CZT-SPECT 研究会（第5回）（東京），2014. 10.
- 10) 桐山智成：Blood, Sugar, Fat, Stone... : Coronary Risk Factors from Other. Advanced Cardiac Imaging Laboratory（東京），2015. 3.
- 11) 小野澤志郎：救急疾患のIVR. 放射線画像診断セミナー（東京），2014. 7.

(7) 一般講演：

- 1) 三樹いずみ, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 上田達夫, 嶺 貴彦, 清水 渉<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター）：当院で経験した30例の急性下肢虚血の予後と周術期因子についての検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 2) 藤本真弓, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 山口英宣, 嶺 貴彦, 小野澤志郎, 村田 智, 村上隆介, 汲田伸一郎：孤立性上腸間膜動脈解離のCT所見と治療法選択の検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 3) 杉原康朗, 福嶋善光, 河野陽一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> 千葉労災病院小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科）：肝門脈右枝塞栓術例における99mTc-GSA SPECT/CTを用いた領域別肝予備能評価. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 4) 富山 毅, 石原圭一, 須田昌也, 福嶋善光, 桐山智成, 小林靖宏, 村上隆介, 汲田伸一郎：Time-of-Flight 効果がアンモニア PET の心筋血流量解析に与える影響の検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 5) 城 正樹, 天野康雄, 武田美那子, 乾 恵輔<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科）：拡張型心筋症における心機能及び重症不整脈と T1 値及び遅延造影との関連性：EF<35% 症例での検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 6) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 村井保夫<sup>1)</sup>, 鈴木由里子<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 株）フィリップスエレクトロニクスジャパンメディカルシステムズ）：4D Flow MRI を用いた EC-IC bypass 後の血流評価：血流の定性・定量と圧格差の検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 7) 村上隆介, 今井祥吾, 藤本真弓, 青島雅人, 織田絵里香, 谷 瞳, 吉田民子, 箱崎謙太, 林 宏光, 汲田伸一郎：Contrast-induced nephropathy : direct comparison of relative risks between intra-arterial and intravenous contrast administration in the same patients. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 8) 小林靖宏, 福嶋善光, 石原圭一, 秋山一義, 汲田伸一郎：Relationship between the elevation of serum ketone body induced by long-term carbohydrate restriction and physiological myocardial F-18-FDG uptake pattern. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 9) 杉原史恵, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 嶺 貴彦, 山口英宣, 安井大祐, 三樹いずみ, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学 内分泌代謝内科）：血管造影に基づく副腎静脈の解剖学的特徴. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 10) 喜友名一, 町田 幹：ノイズ低減型逐次近似処理を用いた被曝低減の試み：人体ファントムによる検討（part 2）. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 11) 安井大祐, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原史恵, 秋葉絢子, 三樹いずみ, 汲田伸一郎：消化管出血に対する動脈塞栓術：術前 CT の手技に対する影響に関する検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 12) 今井祥吾, 喜友名一, 曾原康二, 藤本真弓, 水谷聡子, 山多美美, 嶺 貴彦, 箱崎謙太, 村上隆介, 汲田伸一郎：MDCT を用いた腎細胞癌の腫瘍血管新生の検討. 日本医学放射線学会（第73回）（横浜），2014. 4.
- 13) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Yasuo M, Matsumura Y, Kumita S : Relation of 4D Flow MRI of ophthalmic artery to cerebral vascular reactivity estimated with SPECT in patients with internal carotid artery occlusion. ISMRM (Milano), 2014. 5.
- 14) Amano Y, Tachi M, Obara M<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Philips Pacific Asia）：Blood T1 value measurement in the left and right ventricles and aorta using postcontrast Look-Locker MR imaging at 1.5 T and 3.0 T : influence of location, heart rate, ejection fraction, and valvular regurgitation. 22nd annual meeting of ISMRM (Milan), 2014. 5.

- 15) Kitamura M, Amano Y, Shibuya J, Matsuda J, Nakamura S, Takano H, Asai K, Takayama M, Shimizu W : Clinical characteristics and cardiac magnetic resonance for the patients received repeat percutaneous transluminal septal myocardial ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Euro Soc Cardiol Congress (Barcelona), 2014. 8.
- 16) Inui K, Tachi M, Saito T, Kubota Y, Murai K, Kato K, Takano H, Amano Y, Asai K, Shimizu W : In vivo comparison between myocardial fibrosis and myocardial extracellular volume (ECV) measurement by cardiovascular magnetic resonance (CMR). Euro Soc Cardiol Congress (Barcelona), 2014. 8.
- 17) 乾 恵輔, 城 正樹, 齊藤恒徳, 久保田芳明, 村井綱兄, 加藤浩司, 高野仁司, 天野康雄, 浅井邦也, 清水 渉 : MOLLI 法を用いた心臓 MRI での extracellular volume (ECV) 測定と心筋生検組織における線維化の比較. 心臓病学会 (第 62 回) (仙台), 2014. 9.
- 18) Sekine T, Kuno H, Sekiya K, Satake M : Volume of interest and apparent diffusion coefficient histograms analysis in patients with mucosal malignant melanoma of the head and neck. ISMRM (Milano), 2014. 5.
- 19) 三樹いずみ, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 山口英宜, 嶺 貴彦, 杉原史恵, 安井大祐, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 林 宏光, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (日本医科大学内分泌代謝内科) : 副腎静脈サンプリング施行前の thin slice CT の右副腎静脈同定と angioCT における一貫性について. 日本静脈学会総会 (第 34 回) (沖縄), 2014. 4.
- 20) 三樹いずみ, 小野澤志郎, 村田 智, 山口英宜, 牧田幸三<sup>2)</sup>, 高瀬 圭<sup>3)</sup>, 田島廣之, 川俣博志, 西田典史<sup>4)</sup>, 前田弘彰<sup>4)</sup>, 金崎周造<sup>4)</sup>, 鶴崎正勝<sup>4)</sup>, 保本 卓<sup>4)</sup>, 石口恒男<sup>4)</sup>, 齋藤博哉<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 練馬光が丘病院放射線科, <sup>2)</sup> 東北大学医学部放射線診断科, <sup>3)</sup> 日本 IVR 学会教育委員会) : 副腎静脈サンプリングの現状 : 2013 年版. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 21) 小林靖宏, 石原圭一, 石原眞木子, 秋山一義, 天野康雄, 汲田伸一郎, 三谷治夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 虎の門病院 循環器センター) : 長時間糖質制限処置 FDG-PET によるペースメーカー挿入例の心サルコイドーシス評価. 東京サルコイドーシス/肉芽腫性疾患研究会 (第 179 回) (東京), 2014. 6.
- 22) 小林靖宏, 福嶋善光, 石原圭一, 汲田伸一郎, 鮑本哲兵<sup>1)</sup> (日本医科大学 消化器/肝臓内科) : 陳旧性心筋梗塞 PCI 後のステント留置部に生じた IgG4 関連冠動脈周囲炎の 1 例 : 長時間糖質制限処置下 FDG-PET による評価. 日本核医学会関東甲信越地方会 (第 81 回) (東京), 2014. 7.
- 23) 小林靖宏, 石原圭一, 福嶋善光, 秋山一義, 須田匡也, 櫻井 実, 汲田伸一郎 : 心サルコイドーシスにおける長時間糖質制限 FDG-PET の集積パターンと高感度トロポニン T 上昇との関係. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 24) Tomiyama T, Ishihara K, Suda M, Kanaya K, Sakurai M, Nitta K, Kiriyama T, Hakozaki K, Fukushima Y, Kumita S : Impact of time-of-flight PET in a quantitative analysis on myocardial perfusion studies using <sup>13</sup>N-ammonia. SNMMI annual meeting 2014 (USA), 2014. 6.
- 25) 富山 毅, 石原圭一, 須田匡也, 櫻井 実, 福嶋善光, 桐山智成, 小林靖宏, 村上隆介, 汲田伸一郎 : Comparison of time-of-flight with 3D RAMLA in a quantitative analysis for rest and stress myocardial blood flow using <sup>13</sup>N-ammonia PET. 日本医学放射線学会総会 (第 73 回) (横浜), 2014. 4.
- 26) 富山 毅, 石原圭一, 須田匡也, 橋本英伸, 高橋直人<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 杉原康朗, 小林靖宏, 桐山智成, 福嶋善光, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科) : アンモニア心筋血流 PET における肺野集積に関する検討. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 27) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 桑子智之, 桐山智成, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二 : 急性虚血性心不全例におけるニコランジル負荷心筋血流 SPECT による予後予測. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 28) 橋本英伸, 汲田伸一郎, 福嶋善光, 桑子智之, 桐山智成, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二 : 閉塞性動脈硬化症例における下肢血流 SPECT-CT による予後予測. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 29) 今井祥吾, 小野澤志郎, 村田 智, 嶺 貴彦, 山口英宜, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 杉原史恵, 安井大祐, 三樹いずみ, 山多美美, 師田哲郎<sup>2)</sup>, 栗田二郎<sup>2)</sup>, 坪 宏<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 新百合ヶ丘総合病院 放射線診断科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 心臓血管外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 集中治療室) : 腹部大動脈の著明な石灰化による全周性高度狭窄病変に対しステント治療により下肢症状の改善を得た 1 例. 日本 IVR 学会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 30) 谷 瞳, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 木下貴之<sup>2)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 荒井保明<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎, 大塚恭一<sup>3)</sup>, Anna J<sup>4)</sup>, Andreas F<sup>4)</sup>, Thomas M<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科, <sup>2)</sup> 国立がん研究センター中央病院 乳腺外科, <sup>3)</sup> Siemens Japan K.K., <sup>4)</sup> Siemens AG, Healthcare Sector) : 乳腺デジタルトモシンセシスにおける 3D ローテーティングマンモグラムの有用性. 日本医学放射線学会総会 (第 73 回) (横浜), 2014. 4.
- 31) Tani H, Uchiyama N<sup>1)</sup>, Machida M<sup>1)</sup>, Kikuchi M<sup>1)</sup>, Arai Y<sup>1)</sup>, Otsuka K<sup>2)</sup>, Jerebko A<sup>3)</sup>, Fieselmann A<sup>3)</sup>, Mertelmeier T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, National Cancer Center, <sup>2)</sup> Siemens Japan K.K., <sup>3)</sup> Siemens AG, Healthcare Sector) : Assessing Radiologist Performance and Microcalcifications Visualization Using Combined 3D Rotating Mammogram and Digital Breast Tomosynthesis. IWDM2014 (Gifu), 2014. 6.

- 32) 谷 瞳<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>2)</sup>, 木下貴之<sup>1)</sup>, 町田 稔, 菊池真理, 村上隆介, 吉田民子, 箱崎謙太, 桑子智之, 汲田伸一郎, 大塚恭一<sup>3)</sup>, Anna J<sup>4)</sup>, Andreas F<sup>4)</sup>, Thomas M<sup>4)</sup>, 荒井保明<sup>1)</sup>, その他 3 名 ( <sup>1)</sup> 国立がん研究センター中央病院放射線診断科, <sup>2)</sup> 国立がん研究センター中央病院乳腺外科, <sup>3)</sup> Siemens Japan K.K., <sup>4)</sup> Siemens AG, Healthcare Sector, <sup>5)</sup> 日本医科大学付属病院 乳腺科) : 乳房デジタルトモシンセシス読影における 3D マンモグラフィの有用性. 日本乳癌学会学術総会 (第 22 回) (大阪), 2014. 7.
- 33) 宮下次廣, 栗林茂彦, 小澤由希子, 佐藤吉隆, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 稲井俊太 : 早期声門癌に対する 3 門照射の検討. 日本放射線腫瘍学会第 27 回学術大会 (横浜), 2014. 12.
- 34) 木村隆誉, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 上田達夫, 杉原史恵, 安井大祐, 三樹いずみ : Combination therapy of interventional radiology and surgery for portal vein thrombosis with necrosis of small intestine : a case report. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第 50 回) (神戸), 2014. 9.
- 35) 栗林茂彦, 宮下次廣, 小澤由季子, 汲田伸一郎, 佐藤吉隆<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 海老名総合病院 放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 形成外科) : ケロイド術後放射線治療において照射のタイミングは治療成績に影響を及ぼすか. 日本放射線腫瘍学会総会 (横浜), 2014. 12.
- 36) 杉原史恵, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 山口英宣, 嶺 貴彦, 安井大祐, 三樹いずみ, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 糖尿病内分泌代謝内科) : 副腎静脈サンプリングにおける副腎静脈吻合の検討. 日本静脈学会総会 (第 34 回) (沖縄), 2014. 4.
- 37) 杉原史恵, 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 山口英宣, 嶺 貴彦, 安井大祐, 三樹いずみ, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 糖尿病内分泌代謝内科) : 血管造影に基づく副腎静脈の解剖学的特徴. 日本医学放射線学会総会 (第 73 回) (横浜), 2014. 4.
- 38) 杉原史恵, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宣, 上田達夫, 安井大祐, 三樹いずみ, 汲田伸一郎 : 子宮頸癌における閉鎖循環下骨盤内灌流化学療法 (NIPP) 治療成績. IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 39) 山多美美, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 栗田二郎, 山口英宣, 上田達夫, 杉原史恵, 秋葉絢子, 安井大祐, 三樹いずみ, 師田哲郎, 汲田伸一郎 : AVPII による末梢側塞栓と Upside-down technique を用いた Zenith 脚留置により内腸骨動脈瘤を閉鎖した 1 例. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 40) Yamada F, Amano Y, Hidaka F, Fukushima Y, Kumita S : Pseudonormal Corticomedullary Differentiation of the Kidney assessed by T1-weighted MRI in Cirrhotic Patients with Chronic Kidney Disease. 100th annual meeting of Radiological Society of North America (Chicago), 2014. 12.
- 41) Yamada F, Murata S, Onozawa S, Mine T, Kurita J, Ueda T, Sugihara F, Miki I, Akiba J, Yasui D, Morota T, Kumita S : Endovascular treatment of internal iliac artery aneurysm : with upside-down technique of Zenith Leg : a case report. 10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 13th Nordic Japan PACS Symposium (Finland), 2014. 6.
- 42) 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 飯田信也, 山下浩二, 谷 瞳, 村上隆介, 大橋隆治, 土屋眞一, 武井寛幸 : 当院における転移性乳癌に対するベバシズマブとパクリタキセルの併用療法の検討. 日本乳癌学会総会 (第 22 回) (大阪), 2014. 7.
- 43) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Kumita S, Satake M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Cancer Center East) : Pilot study of percutaneous isolated pancreas perfusion chemotherapy : pharmacokinetic and histological assessment in a pig model. CIRSE 2014 (United Kingdom), 2014. 9.
- 44) Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Yasui D, Kumita S, Satake M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> National Cancer Center East) : A pilot study of percutaneous isolated pancreas perfusion chemotherapy. preliminary results. 10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 13th Nordic Japan PACS Symposium (Finland), 2014. 6.
- 45) Murata S, Onozawa S, Mine T, Yamaguchi H, Sugihara F, Yasui D, Miki I, Ueda T, Kumita S, Lunderquist A<sup>1)</sup>, Ivancev K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Lund University, Department of Radiology) : Phase 1 study of retrograde-outflow percutaneous isolated hepatic perfusion in non-cirrhotic patients with advanced liver tumors. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 46) 上田達夫, 村田 智, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 山口英宣, 嶺 貴彦, 小野澤志郎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 師田哲朗<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院救命救急センター) : 急性四肢動脈閉塞に対する IVR 治療成績の検討. 日本 IVR 学会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 47) 上田達夫, 村田 智, 平沼千明, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 三樹いずみ, 安井大祐, 杉原史恵, 山口英宣, 嶺 貴彦, 小野澤志郎, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 外科) : 巨大脾静脈瘤を伴う脾動脈瘤に対して血管内治療を行った 1 例. 日本血管内治療学会総会 (第 20 回) (和歌山), 2014. 6.
- 48) Mine T, Murata S, Tajima H, Onozawa S, Yamaguchi H, Sugihara F, Yasui D, Takeda M, Sohara K, Yamada F, Kumita S : Contribution of extrahepatic collaterals for liver parenchymal circulation after proper hepatic artery embolization. 10th symposium of Scandinavia Japan Radiology Society (Finland), 2014. 6.
- 49) Mine T, Murata S, Sugihara F, Yamaguchi H, Onozawa S, Kumita S : Embolization via a percutaneous transhepatic approach

- for portal venous laceration caused by blunt hepatic injury. CIRSE2014 (United Kingdom), 2014. 9.
- 50) 嶺 貴彦, 村田 智, 小野澤志郎, 山口英宣, 上田達夫, 杉原史恵, 安井大祐, 三樹いずみ, 今井祥吾, 山多美美, 田島廣之, 汲田伸一郎: AMPLATZER Vascular Plug II (AVP II) の使用経験. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
  - 51) 嶺 貴彦, 小野澤志郎, 村田 智, 市川和雄, 栗田二郎, 山口英宣, 杉原史恵, 秋葉絢子, 安井大祐, 三樹いずみ, 師田哲郎, 林宏光, 吉川公彦, 田島廣之, 汲田伸一郎: 自作ステントグラフトを用いた EVAR 後の遠隔期トラブルを企業製ステントグラフトで修復した 2 治療経験. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
  - 52) 嶺 貴彦, 村田 智, 小野澤志郎, 山口英宣, 杉原史恵, 安井大祐, 池田慎平, 金 史英, 新井正徳, 横田裕行, 汲田伸一郎, 田島廣之: 肝内門脈末梢枝の裂傷に対して経皮経肝アプローチで門脈塞栓術を施行した 1 例. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第 6 回) (青森), 2014. 9.
  - 53) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二: Pulmonary perfusion-morphological relationship assessed with deep-inspiratory breath-hold pulmonary perfusion SPECT-CT in patients with pulmonary thromboembolism. 日本医学放射線学会総会 (第 73 回) (横浜), 2014. 4.
  - 54) 橋本英伸, 福嶋善光, 汲田伸一郎: 閉塞性動脈硬化症例における下肢血流 SPECT-CT による評価. 放射線診療研究会 (第 884 回) (東京), 2014. 9.
  - 55) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 桑子智之, 桐山智成, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二: Prognostic value of myocardial perfusion SPECT following intravenous bolus administration of nicorandil in patients with acute ischemic heart failure. 日本核医学学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
  - 56) 橋本英伸, 福嶋善光, 汲田伸一郎, 桑子智之, 小林靖宏, 杉原康朗, 富山 毅, 曾原康二: Prediction of prognosis using lower limb perfusion SPECT-CT in patients with arteriosclerosis obliterans. 日本核医学学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
  - 57) 橋本英伸, 福嶋善光, 汲田伸一郎: 閉塞性動脈硬化症における下肢血流 SPECT-CT による予後予測. (第 17 回) 心世代核医学研究会 (東京), 2014. 11.
  - 58) 桐木園子, 宮本正章, 高木 元, 久保田芳明, 手塚晶人, 福嶋善光, 杉原康朗, 汲田伸一郎, 清水 渉: <sup>67</sup>Ga-citrate-SPECT-CT 融合画像評価による新しい骨髄炎の診断および評価法. 第 13 回日本フットケア学会年次学術集会 (東京), 2015. 2.
  - 59) Fukushima Y, Kumita S, Kiriyama T, Kobayashi Y, Sugihara Y, Tomiyama T, Sohara K: Prediction of cardiovascular event using global myocardial flow reserve with nicorandil-stress myocardial perfusion SPECT in patients with acute ischemic heart failure. The 27th Annual EANM Congress (Sweden), 2014. 10.
  - 60) 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原史恵, 秋葉絢子, 三樹いずみ, 汲田伸一郎: 消化管出血に対する動脈塞栓術: 術前 CT の手技に対する影響に関する検討. 第 73 回日本医学放射線学会 (横浜), 2014. 4.
  - 61) 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原史恵, 秋葉絢子, 三樹いずみ, 今井祥吾, 山多美美, 汲田伸一郎: 非外傷性腹腔内出血に対する経皮的動脈塞栓術の有用性に関する検討. 日本 IVR 学会総会 (奈良), 2014. 6.
  - 62) Yasui D, Murata S, Tajima H, Onozawa S, Mine T, Yamada F, Sohara K, Kumita S: Outcome of Transcatheter Arterial Embolization for Postoperative bleeding after Pancreaticoduodenectomy. Japanese Scandinavian Radiological Society (Finland), 2014. 6.
  - 63) Yasui D, Murata S, Onozawa S, Mine T, Ueda T, Shibata M, Kumita S: A case of pelvic arteriovenous malformation which was successfully treated by recanalization of occluded common iliac vein. LINC (Germany), 2015. 1.
  - 64) 安井大祐, 村田 智, 小野澤志郎, 嶺 貴彦, 汲田伸一郎, 谷合信彦, 内田英二, 横田裕行: 腹腔内出血を伴う腹部外傷に対する IVR. 日本腹部救急医学会総会 (京都), 2015. 3.
  - 65) Tomiyama T, Kumita S, Ishihara K, Suda M, Sakurai M, Hakozaki K, Hashimoto H, Fukushima Y, Takahashi N<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School): Reduced heart rate response to adenosine was associated with low myocardial flow reserve in <sup>13</sup>N-ammonia PET studies. ECR (Wien (Vienna), Austria), 2015. 3.
  - 66) Sohara K, Yasui D, Murata S, Tajima H, Onozawa S, Mine T, Yamaguchi H, Sugihara F, Takeda M, Yamada F, Kumita S: A case of segmental arterial mediolysis presented with ruptured splanchnic arterial aneurysm. 10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society & 13th Nordic Japan PACS Symposium (Finland), 2014. 6.
  - 67) Sohara K, Mizumura S<sup>3)</sup>, Kuwako T, Kiriyama T, Fukushima Y, Nagay H<sup>1)</sup>, Tateno A<sup>2)</sup>, Kumita S (<sup>1)</sup> Neurology, <sup>2)</sup> Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Dept of radiology, Omori Medical Center, Toho University): Inter- and Intra-operator Reproducibility of Striatal Uptake Ratio on DAT SPECT Using Analysis Tools (QSPECT and DaTVIEW). The 54th Annual Scientific Meeting of the Japanese Society of Nuclear Medicine (Osaka), 2014. 11.
  - 68) Orita E, Ishihara K, Tomiyama T, Takei M, Sakurai M, Hakozaki K, Akiyama K, Kumita S: Comparison of small lesion detectability in oncology FDG-PET between whole body and high-resolution protocols. ECR (Wien), 2015. 3.
  - 69) 芝田匡史, 師田哲郎, 藤井正大, 太田恵介, 青山純也, 田上素子, 廣本敦之, 白川 真, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 宮城泰

- 雄, 石井庸介, 嶺 貴彦, 小野澤志郎<sup>(1)</sup> 日本医科大学 心臓血管外科): 大動脈瘤診療における Vascular Team 構築を目指して. 第 55 回日本脈管学会 (倉敷), 2014. 10.
- 70) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 小野澤志郎, 大森裕也, 山内仁紫<sup>(1)</sup> 四谷・血管クリニック): 下肢静脈瘤に対する Endovenous Lase Ablation : 1470nm Radial 2-ring Fiber は Endovenous Heat-induced Thrombus を減少可能か. 第 55 回日本脈管学会 (倉敷), 2014. 10.
- 71) 嶺 貴彦, 村田 智, 小野澤志郎, 山口英宣, 杉原史恵, 木村隆誉, 安井大祐, 三樹いずみ, 池田慎平, 新井正徳, 横田裕行, 田島廣之, 汲田伸一郎: 活動性出血を伴う肝内門脈裂傷に対して経皮経肝アプローチで NBCA 塞栓術を施行した 1 例. 第 50 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 (神戸), 2014. 9.
- 72) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 嶺 貴彦, 山口英宣, 杉原史恵, 三樹いずみ, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>(1)</sup> 日本医科大学内分代謝内科): 副腎静脈サンプリングにおける angio-CT の有用性とサンプリング失敗要因に関する検討. 第 34 回日本静脈学会総会 (沖縄), 2014. 4.
- 73) Onozawa S, Tajima H, Murata S, Yamaguchi H, Ueda T, Mine T, Sugihara F, Sugihara H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>(1)</sup> Nippon Medical School of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine): Evaluation of success of right adrenal venous sampling with computed tomography during angiography in 140 patients. Japanese Scandinavian Radiological Society 2014 (Finland), 2014. 6.
- 74) 小野澤志郎, 田島廣之, 村田 智, 嶺 貴彦, 栗田二郎<sup>1)</sup>, 師田哲郎<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学心臓・血管外科): 上行大動脈術後仮性動脈瘤に対し十分な術中移動予防を講じ TAG を留置しえた 1 例. 第 18 回大動脈ステントグラフト研究会 (和歌山), 2014. 6.
- 75) 小野澤志郎, 村田 智, 嶺 貴彦, 上田達夫, 安井大祐, 杉原史恵, 三樹いずみ, 山多美美, 秋葉絢子, 汲田伸一郎: Amplazer Vascular Plug 使用の初期経験: 塞栓時間に関する検討. 第 19 回末梢血管画像・血管内治療研究会 (東京), 2014. 6.
- 76) Onozawa S, Murata S, Mine T, Sugihara F, Yasui D, Yamaguchi H, Ueda T, Miki I, Kumita S: Negative-balance isolated pelvic perfusion for the uterine cervical cancer. CIRSE2014 (United Kingdom), 2014. 9.
- 77) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 嶺 貴彦, 上田達夫, 杉原史恵, 安井大祐, 木村隆誉, 三樹いずみ, 汲田伸一郎, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救命救急センター): 塞栓術中に動脈破裂を生じたエーラスダンロス症候群が疑われる 1 例: my worst case. 第 20 回末梢血管画像・血管内治療研究会 (東京), 2014. 10.
- 78) Onozawa S, Kurita J<sup>1)</sup>, Mine T, Morota T<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>2)</sup>, Murata S<sup>(1)</sup> Nippon Medical School, Radiology, Cardiovascular Surgery, <sup>2)</sup> Nippon Medical School cardiovascular medicine): Total protection method for TEVAR migration in ascending aortic pseudoaneurysm. Leipzig Interventional course 2015 (Germany), 2015. 1.
- (8) 座長:
- 1) 林 宏光, 宮田哲郎<sup>1)</sup> (1) 山王メディカルセンター血管病センター): 日本脈管学会 脈管専門医教育セッション. 第 55 回日本脈管学会総会 (倉敷), 2014. 10.
- 2) 林 宏光: 画像診断. 第 55 回日本脈管学会総会 (倉敷), 2014. 10.
- 3) 林 宏光, 石口恒男<sup>1)</sup> (1) 愛知医科大学放射線科): 知っておきたい CT 被曝の最新情報. Advanced CT・MR (軽井沢), 2014. 6.
- 4) 林 宏光, 小松 誠<sup>1)</sup> (1) 尼崎中央病院循環器内科): Controversies and Challenges in Cardiac CT Focused on Thrombus. TCIF 2014~冠疾患をめぐる血栓の意義~(大阪), 2014. 5.
- 5) 林 宏光: ランチョンセミナー: 予防医学と画像診断: 肺がん CT 検診と低被曝 CT の最前線. 第 73 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2014. 4.
- 6) 林 宏光: 教育講演: 大動脈解離. 第 73 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2014. 4.
- (9) 教育展示:
- 1) 町田 幹, 佐藤真央, 児嶋 良, 小川真吾, 喜友名一, 富山 毅, 杉崎健一, 石原圭一, 林 宏光, 汲田伸一郎: 2D/3D 画像における頸部リンパ節の名称及び位置の検討: 各癌取扱い規約を比較して. 第 73 回日本医学放射線学会 (横浜), 2014. 4.
- 2) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 汲田伸一郎: 2D-/3D-FLAIR における脳実質外の高信号: Artifact and Diseases. 第 73 回日本医学放射線学会 (横浜), 2014. 4.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説:

- 1) 桐山智成: 心臓核医学の役割. 臨床画像 増刊号 2015.

#### 追加分原著:

- 1) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Murai Y, Kumita S: Feasibility of 4D Flow MR Imaging of the Brain with Either Cartesian y-z Radial Sampling or k-t SENSE: Comparison with 4D Flow MR Imaging using SENSE. Magn Reson Med Sci

2014 ; 13 ( 1 ) : 15-24.

- 2) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Yamaguchi H, Mine T, Ishizaki A<sup>1)</sup>, Sugihara H<sup>1)</sup>, Oikawa S<sup>1)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Endocrinology ) : Evaluation of right adrenal vein cannulation by computed tomography angiography in 140 consecutive patients undergoing adrenal venous sampling. Eur J Endocrinol 2014 ; 170 ( 4 ) : 601-608.

## 学会発表

追加分一般講演 :

- 1) Sekine T, Kuno H, Sekiya K, Satake M : Volume of interest and apparent diffusion coefficient histograms analysis in patients with mucosal malignant melanoma of the head and neck. 21th annual meeting of ISMRM (USA), 2013. 4.
- 2) Inui K, Tachi M, Kubota T, Murai K, Tuskada Y, Kato K, Amano Y, Asai K, Shimizu W : Usefulness of myocardial extracellular volume (ECV) measurement by cardiovascular magnetic resonance (CMR) for detecting cardiac remodeling. 第78回日本循環器病学会 (東京), 2014. 3.
- 3) 小澤由季子, 宮下次廣, 栗林茂彦, 汲田伸一郎, 百束比古, 小川 令<sup>1) 1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科・美容外科 ) : ケロイド放射線単独治療の検討. 日本放射線腫瘍学会第27回学術大会 (横浜), 2015. 12.

追加分シンポジウム :

- 1) 林 宏光 : 血栓閉塞型大動脈解離とUlcerlike projection : 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン (2011年改訂版) を踏まえて. 第2回大動脈解離シンポジウム (横浜), 2014. 3.

追加分セミナー :

- 1) 林 宏光 : 造影CT検査における死亡例の検討 : 判例を検証し, そこから学ぶ. 第27回ミッドウインターセミナー (福岡), 2014. 2.
- 2) 小林靖宏 : フィルムリーディング. 第46回心臓核医学談話会 (東京), 2014. 1.

追加分座長 :

- 1) 林 宏光, 井元清隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 横浜市立大学附属市民総合医療センター 心臓血管センター ) : シンポジウム : 循環器「大動脈解離」. 第33回日本画像医学会 (東京), 2014. 2.

追加分特別講演 :

- 1) 林 宏光 : 心臓CT : 現状と求められるもの. 第30回せとうちCT・MR勉強会 (松山), 2014. 2.
- 2) 林 宏光 : 腎機能障害と造影検査 : 造影剤腎症とNSF. 第44回千葉ベイシティカンファレンス (幕張), 2014. 1.
- 3) 林 宏光 : ガイドラインをガイドする : 血管疾患のガイドラインを中心に. 第30回飛鳥放射線医学セミナー (橿原), 2014. 1.

## [武蔵小杉病院放射線科]

### 研究概要

放射線診断学 : 1) 呼吸器疾患に対して呼吸器内科・外科と協同し画像と診療の質向上を図っている. 2) 消化器疾患に対して, 新しいMRIを導入し有用性を検討しており, また多検出器型CTとの対比の上で肝腫瘍の質的診断能向上に取り組んでいる. 3) 地域の肺がん・胃がん検診に協力している. 4) 乳がん検診に取り組んでおり, マンモトームを使って最終診断をつける様努めている. Interventional Radiology : 血管内・低侵襲治療センターと協力し, 肝細胞癌をはじめ各種腫瘍性病変の治療, 大動脈瘤など血管性病変の治療, 外傷性疾患への緊急対応などを行っている. 核医学 : 1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる. 2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Tajima H<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Isshiki S, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Ichikawa T, Murata S<sup>2)</sup>, Matsuda K<sup>3)</sup>, Furukawa A<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Radiology, Nippon Medical school, <sup>3)</sup> Emergency Medicine, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan University ) : Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. JPN J Radiol 2014 ; 32 ( 4 ) : 238-241.

(2) 総説 :

- 1) 一色彩子, 田島廣之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター ) : 特集アドバンストコース. 間質性肺炎の基本と考え方. 臨床画像 2014 ; 30 ( 7 ) : 801-805.

- 2) 一色彩子, 佐藤秀一<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> (1) 横浜旭中央病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): 消化管・大網・腸間膜: CT サインを中心に. 臨床画像 2014; 30 (8): 848-879.
- 3) 一色彩子: ささやかな徴候について. 画像診断 2014; 34 (10): 1153-1168.
- 4) 一色彩子: 全身性疾患の中樞神経病変. 画像診断臨時増刊号 2015; 35 (4): 190-215.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 一色彩子: 胸部単純写真の画像診断. 信濃町画像診断セミナー (新宿), 2014. 11.

### (2) 教育講演:

- 1) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 市川太郎, 菊池有史<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 山口英尊<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 山本 剛<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室): 静脈血栓塞栓症に対する IVR の実際. Tokyo Heart Imaging Club (第 22 回) (飯田橋), 2014. 5.
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 橋和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): 肺癌のラジオ波治療. 呼吸器疾患連携セミナー (第 3 回) (川崎), 2014. 7.
- 3) Tajima H<sup>1)</sup>, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Ichikawa T, Murata S<sup>2)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Mine T<sup>2)</sup>, Ueda T<sup>2)</sup>, Nakazawa K<sup>3)</sup> (1) Center For Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital, 2) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 3) Radiology, Chiba-Hokuso Hospital): Interventional Radiology for the Treatment of Venous Thrombolism. The 50th Autumn Assembly of the Japan Radiological Society (Kobe), 2014. 9.

### (3) シンポジウム:

- 1) Tajima H<sup>1)</sup>, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Mine T<sup>2)</sup>, Ueda T<sup>2)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Tajima N<sup>2)</sup>, Isshiki S, Ichikawa T, Matsuda K<sup>3)</sup> (1) Center For Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital, 2) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 3) Emergency Medicine, Musashikosugi Hospital): Angiography-assisted computed tomography for subtle aneurysms of the omentum. The Midnight sun conference. 10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 橋和聡文, 一色彩子, 市川太郎, 菊池有史<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 山本剛<sup>4)</sup>, 中澤 賢<sup>5)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室, 5) 埼玉医大画像診断科): 肺血栓塞栓症における IVR の実際と成績. 呼吸器イメージング研究会学術集会 (第 7 回) (東京), 2015. 2.
- 3) 一色彩子: 画像診断が有用な非腫瘍性肺病変. 日本臨床細胞学会総会 (第 55 回) (横浜), 2014. 6.

### (4) セミナー:

- 1) 一色彩子, 佐藤秀一<sup>1)</sup> (1) 横浜旭中央総合病院): 細かすぎて伝わらない胸部単純 X 線写真の読影: 師弟の漫才<弟子として>. JCR ミッドウィンターセミナー (第 28 回) (福岡), 2015. 1.
- 2) 一色彩子: 胸部単純写真の画像診断. 日本医学放射線学会総会 (第 73 回) 研修医セミナー (横浜), 2014. 4.
- 3) 一色彩子: 腸回転異常の CT 画像診断. AIMS-Abdominal Imaging 2014 (東京), 2014. 10.
- 4) 一色彩子: 捻れる: 消化管・大網. ミッドサマーセミナー 2014 (神戸), 2014. 7.

### (5) ポスター:

- 1) 西村祥循, 高橋 徹, 黒瀬厚成, 橋和聡文, 蘭牟田治, 市川太郎: 体幹部におけるラジアルスキャン (RADAR) 併用呼吸同期法を用いた撮像法の検討. Advanced CT・MR 研究会 2014 (軽井沢), 2014. 6.

### (6) 一般講演:

- 1) Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Ichikawa T, Ando J, Shimizu Y, Isshiki S, Yamaguchi K, Kitsuwaga A (1) Center For Minimally Invasive Treatment, Musashikosugi Hospital): Splenic artery embolization by using Hydrecoil: Treatment experience and evaluation with embolization ratio. The 73rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society (Yokohama), 2014. 4.
- 2) 橋和聡文, 高橋直人<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 清水康弘, 市川太郎, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科, 2) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 付属病院放射線科): 癒痕心筋を有さないアデノシン誘発虚血における慢性腎臓病の左室同期生に及ぼす影響. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 3) 高橋直人<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 橋和聡文, 花岡大資<sup>1)</sup>, 清水康弘, 市川太郎, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科, 2) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 付属病院放射線科): アデノシン誘発虚血患者において左室同期性に強く関与するのは何か. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 4) 石川昌弘<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 橋和聡文, 花岡大資<sup>1)</sup>, 清水康弘, 市川太郎, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>4)</sup> (1) 武蔵

- 小杉病院循環器内科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科, <sup>4)</sup> 付属病院循環器内科) : 癒痕心筋を有する患者において左室同期性に強く関与するのは何か? -studyII. 日本核医学会学術総会 (第54回) (大阪), 2014. 11.
- 5) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 太田恵介<sup>2)</sup>, 吉尾敬秀<sup>2)</sup>, 丸山雄二<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 一色彩子, 市川太郎, 小野澤志郎<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科) : Endoleak 検出不能 TEVAR 後胸部大動脈瘤拡大の1例. 川崎大動脈ステンドグラフト研究会 (第7回) (川崎), 2015. 2.

## [武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

### 研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「急性疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている. 前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を2本の研究の柱としており, 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている. 咯血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる. 後者に関しては, 胸部・腹部・腹部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルンPTA, 腎動脈狭窄のステントグラフトなど低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管塞栓術などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が注目されている. 最近, 下肢静脈瘤に対するレーザー治療を開始した. 一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌のCTガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対するCTガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティク・マンモトーム生検などを中心とした臨床研究を行っている. 血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で, 先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発も行っており, 「東京アンギオ・IVR会」の事務局を担当している. また, 国際化推進の一環として, 「日本北欧放射線医学協会」の事務局も担当している. なお, これらと平行して, 以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も継続している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Tajima H, Onozawa S<sup>1)</sup>, Isshiki S<sup>2)</sup>, Takenoshita N, Kaneshiro T, Ichikawa T<sup>2)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Matsuda K<sup>3)</sup>, Furukawa A<sup>4)</sup> (1) Radiology, Nippon Medical school Hospital, <sup>2)</sup> Radiology, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, <sup>3)</sup> Emergency Medicine, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, <sup>4)</sup> Tokyo Metropolitan University) : Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. JPN J Radiol 2014 ; 32 (4) : 238-241.
- 2) Murata S<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Kim C<sup>2)</sup>, Tajima H, Kimata R<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>4)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> (1) Radiology, Nippon Medical school Hospital, <sup>2)</sup> Anaesthesia, Nippon Medical school Chibahokusou Hospital, <sup>3)</sup> Urological, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital, <sup>4)</sup> Surgery, Nippon Medical school Hospital) : Negative-balance isolated pelvic perfusion in patients with incurable symptomatic rectal cancer : results and drug dose correlation to adverse events. Acta Radiol 2014 ; 55 (7) : 793-801.
- 3) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 牧田幸三<sup>2)</sup>, 高瀬 圭<sup>3)</sup>, 田島廣之, 川俣博志<sup>4)</sup>, 西田典史<sup>4)</sup>, 前田弘彰<sup>4)</sup>, 金崎周造<sup>4)</sup>, 鶴崎正勝<sup>4)</sup>, 保本 卓<sup>4)</sup>, 石口恒男<sup>4)</sup>, 斎藤博哉<sup>4)</sup> (1) 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 練馬光が丘病院, <sup>3)</sup> 東北大学放射線科, <sup>4)</sup> IVR学会教育委員会) : 本邦における副腎静脈サンプリングの現況と分析. IVR学会誌 2015 ; 30 (1) : 42-47.

(2) 総説 :

- 1) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村田 智<sup>2)</sup> (1) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科) : 静脈血栓塞栓症に対するIVR : IVCf留置術およびPTE/DVTに対する再灌流療法. 日本胸部臨床 2014 ; 73 (4) : 383-395.
- 2) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 山口朋禎<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院呼吸器内科) : 中枢性気道狭窄に対するステント留置術. 日本胸部臨床 2014 ; 73 (4) : 406-4012.
- 3) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 中井章夫<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院産婦人科) : 研修医のための婦人科疾患チェックポイント (第1回) 先天性奇形・発育・形態異常. 炎症性疾患. 臨床画像 2014 ; 30 (4) : 440-445.
- 4) 田島廣之 : 血管腫・血管奇形 2014. 診断からIVR/治療まで. 臨床画像 2014 ; 30 (5) : 471-471.
- 5) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科) : 四肢骨盤部動脈奇形に対する血管内治療. 序説. 臨床画像 2014 ; 30 (5) : 524-533.
- 6) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 中井章夫<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院産婦人科) : 研修医のための婦人科疾患チェックポイント (第2回) 腫瘍性疾患 : 子宮①. 臨床画像 2014 ; 30 (5) : 576-580.
- 7) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 中井章夫<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 多



- 摩永山病院産婦人科)：研修医のための婦人科疾患チェックポイント(第3回)腫瘍性疾患：子宮②, 膣, 外陰部. 臨床画像 2014; 30(6):693-696.
- 8) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 中井章夫<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 付属病院放射線科, 3) 多摩永山病院産婦人科)：研修医のための婦人科疾患チェックポイント(第4回)腫瘍性疾患：卵巣①. 臨床画像 2014; 30(7):807-811.
- 9) 一色彩子<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院放射線科)：特集アドバンスコース. 間質性肺炎の基本と考え方. 臨床画像 2014; 30(7):801-805.
- 10) 関根久遠<sup>1)</sup>, 松根彰志<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院耳鼻咽喉科)：症例で学ぶ鼻科診療の実際. 鼻アレルギーフロンティア 2014; 14(2):95-100.
- 11) 小林由子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰<sup>1)</sup>, 中井章夫<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 付属病院放射線科, 3) 多摩永山病院産婦人科)：研修医のための婦人科疾患チェックポイント(第5回)腫瘍性疾患：卵巣②. 臨床画像 2014; 30(8):934-940.
- 12) 一色彩子<sup>1)</sup>, 佐藤秀一<sup>2)</sup>, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 横浜旭中央病院放射線科)：基礎から学べるCT/MRI腹部画像診断に役立つサイン. 臨床画像 2014; 30(8):848-879.
- 13) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村田 智<sup>2)</sup> (1) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科, 2) 付属病院放射線科)：急性肺血栓塞栓症に対するIVRの実際. 日本IVR学会誌 2014; 29(2):166-172.
- 14) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科)：特集アドバンスコース. 血管腫・血管奇形2014：診断からIVR・治療まで. 臨床画像 2014; 30(9):1018-1021.
- 15) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>2)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院CCM)：出血性上部消化管潰瘍に対するNBCA塞栓術：循環への関与と粘膜治癒の経過. 腹部救急医学会誌 2014; 34(7):1289-1293.
- 16) 北川哲也<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 徳島大学)：急性肺動脈血栓塞栓症. 静脈学 2014; 25(3):281-282.
- 17) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科)：静脈血栓塞栓症Update. 急性肺血栓塞栓症②IVRの役割(下大静脈フィルターも含めて). 臨床画像 2015; 31(1):31-41.
- 18) 田島廣之：静脈血栓塞栓症Update-画像診断に何が求められているか-序説. 臨床画像 2015; 31(1):3-3.
- 19) 対馬義人<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 群馬大学)：国際シンポジウム報告. The Midnight Sun Conference. 臨床画像 2015; 31(1):126-131.
- 20) 田島廣之：ピーズの新たな展開. 序説. 臨床画像 2015; 31(2):266-266.

## 著 書

- 1) 中西敏雄<sup>1)</sup>, 赤木慎治<sup>2)</sup>, 天野 純<sup>3)</sup>, 上野高史<sup>4)</sup>, 大月審一<sup>5)</sup>, 吉川公彦<sup>6)</sup>, 木村 剛<sup>7)</sup>, 倉谷 徹<sup>8)</sup>, 小林俊樹<sup>9)</sup>, 坂本喜三郎<sup>10)</sup>, 杉山 央, 高山守正, 田島廣之, 富田 英, 原 英彦, その他1名 (1) 東京女子医科大学, 2) 岡山大学, 3) 信州大学, 4) 久留米大学, 5) 岡山大学, 6) 奈良県立医科大学, 7) 京都大学, 8) 大阪大学, 9) 埼玉医科大学, 10) 他)：[分担] 先天性心疾患, 心臓大血管の構造的疾患 (structural heart disease) に対するカテーテル治療のガイドライン. 循環器病ガイドシリーズ2014年版(中西敏雄), 2015; pp1-185, 株式会社バイオメディスインターナショナル.

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 山口英宣<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 村田智<sup>3)</sup>, 山本 剛<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室)：静脈血栓塞栓症に対するIVRの実際. Tokyo Heart imaging Club(第22回)(飯田橋), 2014. 5.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科)：肺癌のラジオ波治療. 呼吸器疾患連携セミナー(第3回)(川崎), 2014. 7.
- 3) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子：肺癌のラジオ波治療. 川崎若手呼吸器勉強会(第10回)(川崎), 2014. 9.
- 4) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N, Ichikawa T<sup>1)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Mine T<sup>2)</sup>, Ueda T<sup>2)</sup>, Nakazawa K<sup>3)</sup> (1) Radiology, Musashikosugi Hospital, 2) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 3) Radiology, Saitama Medical University International Medical Center)：Interventional Radiology for the Treatment of Venous Thromboembolism. The 50th Autumn Assembly of the Japan Radiological Society (Kobe), 2014. 9.

### (2) シンポジウム：

- 1) Tajima H, Takenoshita N, Kaneshiro T, Onozawa S<sup>1)</sup>, Mine T<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Murata S<sup>1)</sup>, Tajima N<sup>1)</sup>, Isshiki S<sup>2)</sup>, Ichikawa T<sup>2)</sup>, Matsuda K<sup>3)</sup> (1) Radiology, Nippon Medical School Hospital, 2) Radiology, Musashikosugi Hospital, 3) Emergency Medicine,

- Musashikosugi Hospital) : Angiography-assisted computed tomography for subtle aneurysms of the omentum. The Midnight Sun Conference.10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
- 2) Onozawa S<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Mine T<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Sugihara H<sup>2</sup>, Tajima H ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Evaluation of success of right adrenal venous sampling with computed tomography during angiography in 140 patients. The Midnight Sun Conference. 10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
  - 3) Yamada F<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Onozawa S<sup>1</sup>, Mine T<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Kurita J<sup>1</sup>, Takeda M<sup>1</sup>, Sohara K<sup>1</sup>, Tajima H, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Endovascular treatment of internal iliac artery aneurysm ByZenith leg implantation with upside-down technique. The Midnight Sun Conference.10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
  - 4) Mine T<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Tajima H, Onozawa S<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Sugihara F<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Takeda M<sup>1</sup>, Sohara K<sup>1</sup>, Yamada F<sup>1</sup>, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Contribution of extrahepatic collaterals for liver parenchymal circulation after proper hepatic artery embolization. The Midnight Sun Conference.10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
  - 5) Sohara K<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Tajima H, Onozawa S<sup>1</sup>, Mine T<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Sugihara F<sup>1</sup>, Takeda M<sup>1</sup>, Yamada F<sup>1</sup>, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital) : A case of segmental arterial mediolysis presented with ruptured splanchnic arterial aneurysm. The Midnight Sun Conference.10th Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society and 13th Nordic Japan PACS Symposium (Turku), 2014. 6.
  - 6) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 井村 肇<sup>1</sup>, 丸山雄二<sup>1</sup>, 佐藤直樹<sup>2</sup>, 村田 智<sup>3</sup>, 小野澤志郎<sup>3</sup>, 山本 剛<sup>4</sup>, 新田 隆<sup>5</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科, <sup>2</sup> 武蔵小杉病院循環器内科, <sup>3</sup> 付属病院放射線科, <sup>4</sup> 付属病院集中治療室, <sup>5</sup> 付属病院心臓血管外科) : 急性塊状肺血栓栓症に対するカテーテル治療. 日本血管外科学会学術総会 (第42回) (青森), 2014. 5.
  - 7) Tajima H, Kaneshiro T, Takenoshita N, Murata S<sup>1</sup>, Onozawa S<sup>1</sup>, Nakazawa K<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Radiology, Saitama Medical University international Medical Center) : Hybrid Interventional Radiology for the Treatment of Acute Massive Pulmonary Thromboembolism. 日本IVR学会総会 (第43回) (奈良), 2014. 6.
  - 8) Onozawa S<sup>1</sup>, Miki I<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Tajima H, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Mine T<sup>1</sup>, Ueda T<sup>1</sup>, Sugihara F<sup>1</sup>, Akiba A<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Sugihara H<sup>2</sup>, Hayashi H<sup>1</sup>, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Internal Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Detectivity and anatomical characteristics of the right adrenal vein on thin-slice CT for adrenal venous sampling. 日本IVR学会総会 (第43回) (奈良), 2014. 6.
  - 9) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 橘和聡文<sup>1</sup>, 一色彩子<sup>1</sup>, 市川太郎<sup>1</sup>, 菊池有史<sup>2</sup>, 佐藤直樹<sup>2</sup>, 村田 智<sup>3</sup>, 小野澤志郎<sup>3</sup>, 山本剛<sup>4</sup>, 中澤 賢<sup>5</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2</sup> 武蔵小杉病院循環器内科, <sup>3</sup> 付属病院放射線科, <sup>4</sup> 付属病院集中治療室, <sup>5</sup> 埼玉医科大学画像診断科) : 肺血栓栓症におけるIVRの実際と成績. 呼吸器イメージング研究会学術集会 (第7回) (東京), 2015. 2.
  - 10) 渡辺昌則<sup>1</sup>, 千原直人<sup>1</sup>, 三浦克洋<sup>1</sup>, 中田亮輔<sup>1</sup>, 黒田誠司<sup>1</sup>, 野村 聡<sup>1</sup>, 吉野雅則<sup>1</sup>, 鈴木英之<sup>1</sup>, 田島廣之, 内田英二<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院消防器病センター, <sup>2</sup> 付属病院外科) : 抗血栓薬内服患者の内視鏡検査における生検以上の手技: ガイドライン遵守の結果. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都), 2015. 3.
- (3) 一般講演 :
- 1) Kaneshiro T, Tajima H, Takenoshita N, Ichikawa T<sup>1</sup>, Ando J<sup>1</sup>, Shimizu Y<sup>1</sup>, Isshiki S<sup>1</sup>, Yamaguchi K<sup>1</sup>, Kitsuya A<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Musashikosugi Hospital) : Splenic artery embolization by using Hydrocoil : Treatment experience and evaluation with embolization ratio. The 73rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society (Yokohama), 2014. 4.
  - 2) Sugihara F<sup>1</sup>, Onozawa S<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Tajima H, Mine T<sup>1</sup>, Yamaguchi H<sup>1</sup>, Yasui D<sup>1</sup>, Miki I<sup>1</sup>, Sugihara H<sup>2</sup>, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Endocrinology, Nippon Medical School Hospital) : Angiographic variations of adrenal venous anatomy during adrenal venous sampling. The 73rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society (Yokohama), 2014. 4.
  - 3) Miki I<sup>1</sup>, Onozawa S<sup>1</sup>, Murata S<sup>1</sup>, Tajima H, Ueda T<sup>1</sup>, Mine T<sup>1</sup>, Shimizu W<sup>2</sup>, Ochi M<sup>3</sup>, Yokota H<sup>4</sup>, Kumita S<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2</sup> Cardiovascular Medicine, <sup>3</sup> Cardiovasc. Surg, <sup>4</sup> Emergency and Critical Care Medicine) : Prognosis and perioperative factors of acute limb ischemia in 30 consecutive cases. The 73rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society (Yokohama), 2014. 4.
  - 4) 三樹いずみ<sup>1</sup>, 小野澤志郎<sup>1</sup>, 村田 智<sup>1</sup>, 田島廣之, 山口英宣<sup>1</sup>, 嶺 貴彦<sup>1</sup>, 杉原史恵<sup>1</sup>, 安井大祐<sup>1</sup>, 杉原 仁<sup>2</sup>, 林 宏光<sup>1</sup>, 汲田伸一郎<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科, <sup>2</sup> 付属病院内分泌内科) : 副腎静脈サンプリング施工前のThin sliceCTの右副腎静脈同定とangioCTにおける一致性について. 日本静脈学会 (第34回) (沖縄), 2014. 4.

- 5) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村田 智<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 山口秀宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院内分泌内科) : 副腎静脈サンプリングにおける angioCT の有用性とサンプリング失敗要因に関する検討. 日本静脈学会 (第 34 回) (沖縄), 2014. 4.
- 6) 杉原史恵<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之, 山口英宣<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院内分泌内科) : 副腎静脈サンプリングにおける副腎静脈吻合の検討. 日本静脈学会 (第 34 回) (沖縄), 2014. 4.
- 7) 木下賀央里<sup>1)</sup>, 春原沙織<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 本郷公英<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 石塚淳史<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 田島廣之 (1) 武蔵小杉病院呼吸器内科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科) : ECMO で救命しえた重症インフルエンザ肺炎の 1 例. 多摩川フォーラム (第 17 回) (渋谷), 2014. 5.
- 8) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 木村友一<sup>2)</sup>, 八木貴典<sup>2)</sup>, 松本 尚<sup>2)</sup>, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科, 2) 千葉北総 CCM) : Damage Control Surgery の一貫として IVR を行った重症肝脾損傷. 外傷 IVR 症例検討会 (第 1 回) (九段), 2014. 5.
- 9) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 栗田二郎<sup>2)</sup>, 師田哲郎<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>3)</sup>, 吉川公彦<sup>4)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科, 3) 付属病院循環器内科, 4) 奈良医大放射線科) : Zenith Stentgraft 2000 破損・修復の 1 例. 日本 Metallic Stents & Grafts 研究会 (第 32 回) (奈良), 2014. 6.
- 10) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 今井祥吾<sup>1)</sup>, 山多扶美<sup>1)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科) : AMPLATZER Vascular Plug II の使用経験. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 11) 上田達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 落 雅美<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科, 3) 救急医学) : 急性四肢動脈閉塞に対する IVR 治療成績の検討. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 12) 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 牧田幸三<sup>2)</sup>, 高瀬 圭<sup>3)</sup>, 田島廣之, 川俣博志<sup>4)</sup>, 西田典史<sup>4)</sup>, 前田弘彰<sup>4)</sup>, 金崎周造<sup>4)</sup>, 鶴崎正勝<sup>4)</sup>, 安本 卓<sup>4)</sup>, 石口恒男<sup>4)</sup>, 斎藤博哉<sup>4)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 練馬光が丘病院, 3) 東北大学放射線科, 4) IVR 学会教育委員会) : 副腎静脈サンプリングの現況 - 2013 年度版. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 13) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 栗田二郎<sup>2)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 師田哲郎<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 吉川公彦<sup>3)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科, 3) 奈良医大放射線科) : 自作ステントグラフとを用いた EVAR 後の遠隔期トラブルを企業製ステントグラフで修復した 2 治療経験. 日本 IVR 学会総会 (第 43 回) (奈良), 2014. 6.
- 14) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村田 智<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 栗田二郎<sup>2)</sup>, 師田哲郎<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院心臓血管外科) : 上行大動脈術後仮性動脈瘤に対し TAG を留置した 1 例. 大動脈ステントグラフ研究会 (第 18 回) (和歌山), 2014. 6.
- 15) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 村上正洋<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科) : 球状塞栓物質を用いた顔面血管腫に対する血管塞栓術の 1 例. 日本 IVR 学会関東地方会 (第 9 回) (品川), 2014. 7.
- 16) 野坂俊介<sup>1)</sup>, 宮寄 治<sup>1)</sup>, 田島廣之, 金澤寛之<sup>1)</sup>, 佐々木健吾<sup>1)</sup>, 福田晃也<sup>1)</sup>, 小野 博<sup>1)</sup>, 賀藤 均<sup>1)</sup>, 笠原群生<sup>1)</sup> (1) 国立成育医療研究センター) : Amplatzer Vascular Plug による塞栓術が有効であった先天性肝外門脈体循環短絡 2 型の 1 例. 日本 IVR 学会関東地方会 (第 9 回) (品川), 2014. 7.
- 17) 吉尾敬秀<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, 神戸 将<sup>1)</sup>, 金城忠志, 田島廣之, 野間さつき<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 2) 多摩永山病院循環器内科) : 炎症性総腸骨動脈瘤に対し EVAR 施行した 1 例. 川崎大動脈ステントグラフ研究会 (第 5 回) (川崎), 2014. 7.
- 18) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 木村隆登<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 池田慎平<sup>2)</sup>, 新井正徳<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院救命救急センター) : 活動性出血を伴う肝内門脈裂傷に対して経皮経肝アプローチで NBCA 塞栓術を施行した 1 例. 日本医学放射線学会秋季大会 (第 50 回) 救急放射線研究会 (第 24 回) (神戸), 2014. 9.
- 19) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 池田慎平<sup>2)</sup>, 金 史恵<sup>2)</sup>, 新井正徳<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院救命救急センター) : 肝内門脈末梢枝の裂傷に対しての経皮経肝アプローチで門脈塞栓術を施行した 1 例. 日本 Acute Care Surgery (第 6 回) (青森), 2014. 9.
- 20) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 木村隆登<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院救命救急センター) : 塞栓術中に動脈破裂を生じたエーラス・ダンロス症候群が疑われる 1 例. 末梢血管画像・血管内治療研究会 (第 20 回) (東京), 2014. 10.
- 21) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>2)</sup>, 石川昌弘<sup>2)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科) : 癩痕心筋を有さないアデノシン誘発虚血における慢性腎臓病の左室同期生に及ぼす影響. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 22) 高橋直人<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 花岡大資<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>4)</sup> (1) 武

- 蔵小杉病院循環器内科, 2) 武蔵小杉病院放射線科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院循環器内科): アデノシン誘発虚血患者において左室同期性に強く関与するのは何か. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 23) 石川昌弘<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 花岡大資<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科, 2) 武蔵小杉病院放射線科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院循環器内科): 癒痕心筋を有する患者において左室同期性に強く関与するのは何か? - study II. 日本核医学会学術総会 (第 54 回) (大阪), 2014. 11.
- 24) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 井村 肇<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, 吉尾敬秀<sup>1)</sup>, 太田恵介<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科): Vascular Plug を用いた EVAR 前内腸骨動脈塞栓術の経験. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第 6 回) (川崎), 2014. 11.
- 25) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 太田恵介<sup>1)</sup>, 吉尾敬秀<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 2) 武蔵小杉病院放射線科, 3) 付属病院放射線科): Endoleak 検出不能 TEVAR 後胸部大動脈瘤拡大の 1 例. 川崎大動脈ステントグラフト研究会 (第 7 回) (川崎), 2015. 2.

## 論文

### [追加分]

追加分総説:

- 1) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 杉原史恵<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>2)</sup>, 田島廣之, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科): 消化管出血に対する NBCA を用いた塞栓術. 臨床画像 2014; 29 (3): 243-251.

## [多摩永山病院放射線科]

### 研究概要

現在 CT では多摩地区の肺結核における画像の検討を行っております. また, 薬剤性肺障害の画像診断についての検討も開始しております. MRI では悪性腫瘍の診断における拡散強調画像の有用性の検討とともに骨盤内疾患の画像診断の検討を行っております. 核医学では認知症や頭部外傷の脳血流の検討を行っております. また, 新たに開発された心臓の解析プログラムの試適使用法の検討を行っております. 他, 核医学と他のモダリティとの統合画像を作成し, その臨床的有用性を検討しております. IVR では悪性腫瘍の血管内治療の検討を続けております.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 杉原史恵<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 山口英宣, 上田達夫<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 木村隆誉<sup>1)</sup>, 三樹いずみ<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学糖尿病内分泌代謝内科): 血管造影に基づく副腎静脈吻合の解剖学的特徴. 臨床放射線 2015; 60 (3): 420-427.

(2) 総説:

- 1) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰, 中井章人<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科): めざせ放射線科専門医! 研修医のための婦人科疾患チェックポイント第 1 回. 臨床画像 2014; 30 (4): 441-445.
- 2) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰, 中井章人<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科): めざせ放射線科専門医! 研修医のための婦人科疾患チェックポイント第 2 回. 臨床画像 2014; 30 (5): 576-580.
- 3) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰, 中井章人<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科): めざせ放射線科専門医! 研修医のための婦人科疾患チェックポイント第 3 回. 臨床画像 2014; 30 (6): 693-696.
- 4) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰, 中井章人<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科): めざせ放射線科専門医! 研修医のための婦人科疾患チェックポイント第 4 回. 臨床画像 2014; 30 (7): 807-811.
- 5) 小林由子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 山本 彰, 中井章人<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学付属病院放射線科, 3) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科): めざせ放射線科専門医! 研修医のための婦人科疾患チェックポイント最終回. 臨床画像 2014; 30 (8): 934-940.
- 6) 上田達夫<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 平沼千明<sup>1)</sup>, 山口英宣, 小林由子, 玉井 仁, 山本 彰, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科): 特集急性大動脈症の診療の新展開: 急性大動脈症放射線診断の進歩. ICU と CCU 2014; 38 (6): 369-378.

- 7) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣, 上田達夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : 特集血管腫・血管奇形 2014 : 診断から IVR・治療まで : IVR 各論②四肢骨盤部動静脈奇形に対する血管内治療. 臨床画像 2014 ; 30 (5) : 524-533.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Yamaguchi H, Satoru M<sup>1)</sup>, Yasui D<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Mine T<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Sugihara F<sup>1)</sup>, Miki I<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Outcome of Transcatheter Arterial Embolization for Postoperative Bleeding after Pancreaticoduodenectomy. IASGO 2014 (Austria), 2014. 12.
- 2) Yamamoto A, Miyauchi H<sup>1)</sup>, Hiranuma C<sup>1)</sup>, Ueda T, Kobayashi Y, Tamai J, Kumita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Regional left ventricular function with normal perfusion and matched or mismatched fatty acid metabolism in recent myocardial infarction. JRS 2014 (Yokohama), 2014. 4.
- 3) Yamaguchi A, Murata S<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>1)</sup>, Mine T<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Sugihara F<sup>1)</sup>, Yasui D<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Strategy for the treatment of spontaneous isolated visceral artery dissection. CIRSE 2014 (Glasgow), 2014. 9.

## [多摩永山病院放射線治療科]

## 研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している。研究、業績の両者に利用できるよう受付、医師、技師間のイントラネットデータベースを構築し運用している。体幹部定位照射を施行し、最適な照射方向の組み合わせを解析している。前立腺癌の照射時に超音波装置を使い、尿量を確認し、有害事象との関連を解析している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Yoshioka Y<sup>1)</sup>, Suzuki O<sup>1)</sup>, Otani Y<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>2)</sup>, Nose T, Ogawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka University, <sup>2)</sup> Osaka Medical School) : High-dose-rate brachytherapy as monotherapy for prostate cancer ; technique, rationale and perspective using interstitial brachytherapy. Journal of contemporary brachytherapy 2014 ; 6 (1) : 91-98.
- 2) Yoshioka Y<sup>1)</sup>, Suzuki O<sup>1)</sup>, Otani Y<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>2)</sup>, Nose T, Ogawa K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Osaka University, <sup>2)</sup> Osaka Medical School) : High-dose-rate brachytherapy as monotherapy for prostate cancer ; technique, rationale and perspective using interstitial brachytherapy. Journal of contemporary brachytherapy 2014 ; 6 (1) : 91-98.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Nose T : A Japanese prospective multi-institutional feasibility study of APBI using interstitial brachytherapy. Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology (第27回) (横浜), 2014. 12.

### (2) 一般講演 :

- 1) 築山 巖<sup>1)</sup>, 旭 修司<sup>1)</sup>, 鹿間直人<sup>2)</sup>, 佐伯俊昭<sup>2)</sup>, 松村泰成<sup>3)</sup>, 藤井輝彦<sup>3)</sup>, 立入誠司<sup>4)</sup>, 森口喜生<sup>4)</sup>, 吉田 謙<sup>5)</sup>, 古妻理之<sup>6)</sup>, 増田慎三<sup>6)</sup>, 余田栄作<sup>7)</sup>, 中島一毅<sup>7)</sup>, 大谷侑輝<sup>8)</sup>, 能勢隆之, その他1名 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院, <sup>2)</sup> 埼玉医大国際医療センター, <sup>3)</sup> 九州医療センター, <sup>4)</sup> 京都市立病院, <sup>5)</sup> 大阪医科大学, <sup>6)</sup> 大阪医療センター, <sup>7)</sup> 川崎医科大学, <sup>8)</sup> 大阪大学) : 加速乳房部分照射 (APBI) 多施設共同試験 (UMIN00001677) の臨床結果. 日本乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.
- 2) 松村泰成<sup>1)</sup>, 土器屋卓志<sup>2)</sup>, 佐伯俊昭<sup>2)</sup>, 鹿間直人<sup>2)</sup>, 熊崎 祐<sup>2)</sup>, 小口正彦<sup>3)</sup>, 西村誠一郎<sup>3)</sup>, 築山 巖<sup>4)</sup>, 旭 修司<sup>4)</sup>, 吉田 謙<sup>5)</sup>, 古妻理之<sup>6)</sup>, 増田慎三<sup>6)</sup>, 余田栄作<sup>7)</sup>, 中島一毅<sup>8)</sup>, 上原 智<sup>1)</sup>, その他7名 ( <sup>1)</sup> 九州医療センター, <sup>2)</sup> 埼玉医大国際医療センター, <sup>3)</sup> がん研有明病院, <sup>4)</sup> 会津中央病院, <sup>5)</sup> 大阪医科大学, <sup>6)</sup> 大阪医療センター, <sup>7)</sup> 大阪医科大学, <sup>8)</sup> 川崎医科大学) : 組織内照射による加速乳房部分照射 (APBI) 多施設共同試験の臨床結果 (30ヶ月時). 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会研究会 (第16回) (千葉), 2014. 5.
- 3) 能勢隆之 : がん放射線治療. 多摩永山病院市民がん公開講座 (第5回) (多摩市), 2014. 9.

### (3) 口演 :

- 1) 能勢隆之, 築山 巖<sup>1)</sup>, 旭 修司<sup>1)</sup>, 鹿間直人<sup>2)</sup>, 佐伯俊昭<sup>2)</sup>, 松村泰成<sup>3)</sup>, 立入誠司<sup>4)</sup>, 吉田 謙<sup>5)</sup>, 古妻理之<sup>6)</sup>, 余田栄作<sup>7)</sup>, 大谷侑

輝<sup>8</sup>，小口正彦<sup>9</sup>，土器屋卓志<sup>2</sup> (1) 会津中央病院，2) 埼玉医大国際医療センター，3) 九州医療センター，4) 京都市立病院，5) 大阪医科大学，6) 大阪医療センター，7) 川崎医科大学，8) 大阪大学，9) がん研有明病院)：組織内照射による加速乳房部分照射 (APBI)：多施設共同試験の臨床結果 (36 ヶ月時)．日本放射線腫瘍学会学術大会 (第 27 回) (横浜)，2014. 12.

## 学会発表

### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) 築山 巖<sup>1</sup>，鹿間直人<sup>2</sup>，佐伯俊昭<sup>2</sup>，松村泰成<sup>3</sup>，藤井輝彦<sup>3</sup>，立入誠司<sup>4</sup>，森口喜生<sup>4</sup>，吉田 謙<sup>5</sup>，古妻理之<sup>6</sup>，増田慎三<sup>6</sup>，余田栄作<sup>7</sup>，中島一毅<sup>7</sup>，大谷侑輝<sup>8</sup>，能勢隆之，小口正彦<sup>9</sup> (1) 会津中央病院，2) 埼玉医大国際医療センター，3) 九州医療センター，4) 京都市立病院，5) 大阪医科大学，6) 大阪医療センター，7) 川崎医科大学，8) 大阪大学，9) がん研有明)：組織内照射を使った加速乳房部分照射 (APBI) 多施設共同 feasibility 試験の臨床結果．日本乳癌学会東北地方会 (仙台)，2014. 3.

## [千葉北総病院放射線科]

### 研究概要

心臓 CT から得られたデータを用いて，心表面での血管支配のマッピングを行い，画像表示する研究を行っている．良好な画像が得られており，今後，他のモダリティや臨床所見との比較検討を予定している．IVR 領域においては，外傷症例，悪性腫瘍，ASO，深部静脈血栓症，大動脈ステント，透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い，良好な成績を得ている．大動脈ステントについては，引き続き症例が増加し，いずれも良好な成績を得ている．この分野での，千葉県域でのリーダー的な施設となっている．放射線治療については，新たな治療装置が導入され，呼吸同期などの高度な治療を行っている．今後，さらに症例を増やしていきたい．婦人科系の腫瘍について，女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて，画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており，子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて，症例を重ねて検討している．救命救急分野において，救命救急部とのカンファランスを毎週行い，臨床像と画像との対比検討を行っている．緊急 IVR の症例などについて，臨床像とあわせて検討している．消化器疾患については，外科と合同で，術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている．画像と手術所見などについて，病理所見とあわせて比較検討を行っている．MRI 領域では，シークエンスについての基礎的検討などを行っている．3 テスラ装置にあわせた条件の検討を行っている．情報処理・PACS 分野では，システムの改善の努力を続けている．また，今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 飯ヶ谷重来<sup>1</sup>，根本 勺<sup>1</sup>，塩路 豪<sup>1</sup>，三浦剛史<sup>1</sup>，大秋美治<sup>2</sup>，川俣博志，近藤幸尋<sup>3</sup>，坪井成美<sup>1</sup> (1) 泌尿器科，2) 病理部，3) 付属病院泌尿器科)：当院における T1 Grade3 膀胱癌の治療成績．泌尿器外科 2014；27 (10)：1657-1661.
- 2) 根本 勺<sup>1</sup>，貝津俊英，塩路 豪<sup>1</sup>，遠藤勇氣<sup>1</sup>，三浦剛史<sup>1</sup>，岡田 進，坪井成美<sup>1</sup> (1) 泌尿器科)：非転移性前立腺癌に対する内分泌療法併用 3 次元原体照射法の治療成績．泌尿器外科 2014；27 (9)：1585-1588.

#### 学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 川俣博志：下肢閉塞性の IVR．Tokyo Heart Imaging Club (The 22nd) (東京)，2014. 5.

(2) ポスター：

- 1) Nakagawa T, Kawamata H, Kominami S<sup>1</sup>, Sakurasawa N<sup>2</sup>, Suzuki M<sup>3</sup>, Okada S (1) Department of Neurosurgery, 2) Department of Surgery, 3) Department of Internal Medicine)：Ultra-selective transcatheter arterial embolization of lower gastrointestinal acute hemorrhage：glue or detachable coil embolization using flow-directed microcatheter．European Congress of Radiology 2015 (Vienna, Austria)，2015. 3.

(3) 一般講演：

- 1) Morita F, Nakajo H, Okada S, Furukawa K, Kashimura T, Kumita S<sup>1</sup> (1) Nippon Medical School)：Three-dimensional mapping of coronary territories by CTCA．日本医学放射線学会 (第 73 回) (横浜)，2014. 4.
- 2) 中川達生，川俣博志，岡田 進：内腸骨動脈瘤ステントグラフト挿入術：瘤内注入ヒストアクリルが逸脱した症例．IVR 技術交流会 (第 10 回) (東京)，2014. 7.
- 3) 中川達生，川俣博志，中山文彦<sup>1</sup>，古川一博，中條秀信，榎村剛司，森田布季子，貝津俊英，岡田 進 (1) 救命救急センター)：

- Segmental arterial mediolysis (SAM) による中結腸動脈仮性動脈瘤の1例. IVR 技術交流会 (第11回) (東京), 2015. 2.
- 4) 中川達生, 川俣博志, 古川一博, 中條秀信, 櫻村剛司, 森田布季子, 貝津俊英, 岡田 進, 小南修史<sup>1)</sup> (1) 脳神経外科): 下部消化管出血に対する血流ガイド型マイクロカテーテルを用いた超選択的NBCA塞栓術. 東京AG・IVR会 (第471回) (東京), 2015. 3.
  - 5) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 永井淳司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科): Evaluation of Integrated Volitional Control Electrical Stimulator for Intrinsic Muscle Using 3T MRI. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第70回) (東京), 2014. 4.
  - 6) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 永井淳司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科): 3T MRIにおける脳腫瘍の造影効果: 脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本脳ドック学会総会 (第23回) (山口), 2014. 6.
  - 7) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 永井淳司<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 放射線センター, 2) 脳神経外科): 3T MRIにおける多発性硬化症のコントラスト改善について. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
  - 8) Kato J<sup>1)</sup>, Kawarasaki N<sup>1)</sup>, Okada S, Kobayashi S<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>3)</sup> (1) Radiology Center, 2) Department of Neuro Surgery, 3) Department of Radiology, Main Hospital): The three-dimensional display of the blood flow in the vertebrobasilar artery and the external appearance of the blood vessel. SMRT Annual meeting (23rd) (Milan, Italy), 2014. 5.

## 13. 皮膚粘膜病態学分野

### [付属病院皮膚科]

#### 研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
  - ・CHR がおよぼす毛周期への影響.
  - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水泡症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析.
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 薬疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザ療法, photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療
  - ・診断の開発
  - ・Skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Kaga M, Nakamoto Y<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>2)</sup>, Ikeda K<sup>1)</sup>, Yoshii M<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University School of Medicine) : Stress sensitivity in patients with atopic dermatitis in relation to the translocator protein 18 kDa (TSPO). J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (3) : 148-156.
- 2) 稲葉基之, 高山良子, 長田真一, 二神綾子, 安齋眞一, 川名誠司 : 脂腺分化を伴った汗孔癌 (porocarcinoma) の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (6) : 805-809.
- 3) 二宮里紗, 東 直行, 本間英恵<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 川名誠司, 石綿 司<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科, <sup>2)</sup> 君津中央病院 呼吸器内科) : 出産後, 薬疹を契機に Sjogren 症候群, 全身性エリテマトーデスが疑われた 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (5) : 747-752.
- 4) 篠原理恵, 藤本和久, 小林征洋<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科) : パルプアルブミンによる魚類アレルギーの 2 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (9) : 1270-1274.
- 5) 上野 孝, 高山良子, 秋山美知子, 田村奈渚, 二神綾子, 安齋眞一, 船坂陽子, 川名誠司 : Superficial Acral Fibromyxoma の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (8) : 1193-1196.
- 6) 木下侑里, 船坂陽子, 真弓暢子, 稲葉基之, 二宮里紗, 川名誠司 : 皮疹のコントロールにシクロスポリン抵抗性でエトレチナートが有効であった汎発性膿疱性乾癬の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (8) : 1123-1127.
- 7) 川原崎麻以, 稲葉基之, 上野 孝, 福永景子<sup>1)</sup>, 岡部雅弘<sup>2)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 竹之内研二<sup>3)</sup>, 船坂陽子, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 血液内科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院血液内科, <sup>3)</sup> 北村山公立病院整形外科) : RS3PE 症候群を伴った成人 T 細胞白血病/リンパ腫の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (7) : 975-980.



- 8) 船坂陽子：肝斑・老人性色素斑. 皮膚臨床 2014 ; 56 (11) : 1805-1815.
- 9) Ansai S, Noro S, Ogita A, Fukumoto H, Katano H<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, National Institute of Infectious Diseases) : Case of Merkel cell carcinoma with squamous cell carcinoma possibly arising in chronic radiodermatitis of the hand. J Dermatol 2014 ; 41 (12) : 1-3.
- 10) Ansai S, Hashizume S, Kawana S, Tateishi C<sup>1)</sup>, Koga H<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Kurume University School of Medicine) : Case of anti-laminin gamma-1 pemphigoid with antibody against C-terminal domain of BP180 in a patient with psoriasis vulgaris. J Dermatol 2014 ; 41 (11) : 1031-1033.
- 11) 大塚流音, 船坂陽子, 加藤篤衛, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 穂積 豊<sup>2)</sup>, 鈴木民夫<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 小児科, <sup>2)</sup> 山形大学皮膚科学講座) : 注意欠陥多動性障害を合併した遺伝性体側性色素異常症の1例. 日小皮誌 2014 ; 33 (3) : 265-270.
- 12) 東 直行, 飛田正俊<sup>1)</sup>, 中野 創<sup>2)</sup>, 澤村大輔<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup> 弘前大学皮膚科学) : 骨髄性プロトポルフィリン症の1例. 日小皮誌 2014 ; 33 (3) : 261-264.
- 13) 金子 綾, 上野 孝, 船坂陽子, 朝山祥子, 川名誠司 : 5% イミキモドクリーム外用が奏効したと考えられた汗孔角化症の1例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (8) : 1102-1105.
- 14) 山本三幸, 藤本和久, 秋山美知子, 川名誠司 : カルボシステイン (ムコダイン) による固定薬疹の小児例. 日小皮誌 2014 ; 33 (2) : 141-144.
- 15) 船坂陽子 : 4 シミの原因と対処法 : 特集 見た目のアンチエイジング update. アンチ・エイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌 2014 ; 10 (6) : 871-876.
- 16) 五十嵐敦之<sup>1)</sup>, 大槻マミ太郎<sup>2)</sup>, 川田 暁<sup>3)</sup>, 佐伯秀久, 佐野栄紀<sup>4)</sup>, 照井 正<sup>5)</sup>, 根本 治<sup>6)</sup>, 森田明理<sup>7)</sup>, 中川秀己<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> NTT 東日本関東病院皮膚科, <sup>2)</sup> 自治医大皮膚科, <sup>3)</sup> 近畿大皮膚科, <sup>4)</sup> 高知大皮膚科, <sup>5)</sup> 日大皮膚科, <sup>6)</sup> 札幌市, <sup>7)</sup> 名古屋市立大皮膚科, <sup>8)</sup> 慈恵医大皮膚科) : 治療 乾癬におけるウステキマブの使用指針. 臨皮 2014 ; 68 (13) : 1083-1089.
- 17) Yonenaga T<sup>1)</sup>, Saeki H, Nakagawa H<sup>2)</sup>, Fukuchi O<sup>2)</sup>, Umezawa Y<sup>2)</sup>, Hayashi M<sup>2)</sup>, Ito T<sup>2)</sup>, Yanaba K<sup>2)</sup>, Tojyo S<sup>1)</sup>, Fukuda K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology, The Jikei University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine) : Four cases of Japanese patients with psoriatic arthritis in whom effective treatments by anti-tumor necrosis factor- $\alpha$  drugs were evaluated by magnetic resonance imaging together with improvement of skinlesions. J Dermatol 2015 ; 42 (1) : 49-55.
- 18) Furue M<sup>1)</sup>, Onozaki D<sup>2)</sup>, Takeuchi S<sup>3)</sup>, Murota H<sup>4)</sup>, Sugaya M<sup>5)</sup>, Masuda K<sup>6)</sup>, Hragun T<sup>7)</sup>, Kaneko S<sup>8)</sup>, Saeki H, Shintani Y<sup>9)</sup>, Tsunemi Y<sup>10)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Kyushu University, <sup>2)</sup> Department of Health Services Management band Policy, Kyushu University, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Hamanomachi Hospital, <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University, <sup>5)</sup> Department of Dermatology, faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>6)</sup> Department of Dermatology, Kyoto Prefectural university of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Dermatology, Integral Health Sciences, Institute of Biomedical and Health Scienth, Hiroshima University, <sup>8)</sup> Department of Dermatology, Shimane Unversity Faculty of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Geriatric and Environmental Dermatology, Nagoya City University Graduate School of Medicine Sciences, <sup>10)</sup> and others) : Poor adherence to oral and topical medication in 3096 dermatological patients as assessed by the Morisky Medication Adherence Scale-8. Br J Dermatol 2015 ; 172 (1) : 272-275.
- 19) Hayashi M<sup>1)</sup>, Nakayama T<sup>2)</sup>, Hirota T<sup>3)</sup>, Saeki H, Nobeyama Y<sup>1)</sup>, Ito T<sup>1)</sup>, Umezawa Y<sup>1)</sup>, Fukuchi O<sup>1)</sup>, Yanaba K<sup>1)</sup>, Kikuchi S<sup>1)</sup>, Nakagawa H<sup>1)</sup>, Tsunemi Y<sup>4)</sup>, Shbata S<sup>5)</sup>, Sato S<sup>5)</sup>, Tada Y<sup>6)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Deramtology, The Jikei Unversity School of Medicine, <sup>2)</sup> department of Otorhinolarygology, The Jikei Unversity School of Medicine, <sup>3)</sup> Laboratory for respiratory and Allergic Diseases, Center for Integrative Medical Sciences, Riken, <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University, <sup>5)</sup> Department of Dermatology, Faculty of Medicine, University of Tokyo, <sup>6)</sup> Department of Dermatology, Tekyo Unversity School of Medicine) : Novel IL36RN gene mutation revealed by analysis of 8 Japanese patients with generalized pustular psoriasis. J Dermatol Sci 2014 ; 76 (3) : 267-269.
- 20) Tamari M<sup>1)</sup>, Saeki H, Hayashi M<sup>2)</sup>, Umezawa Y<sup>2)</sup>, Ito T<sup>2)</sup>, Nobeyama Y<sup>2)</sup>, Yanaba K<sup>2)</sup>, Nakagawa H<sup>2)</sup>, Tsunemi Y<sup>3)</sup>, Kato T<sup>4)</sup>, Shibata S<sup>4)</sup>, Sugaya M<sup>4)</sup>, Sato S<sup>4)</sup>, Tada Y<sup>5)</sup>, Doi S<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Laboratory for Respiratory and Allergic Diseases, Center for Integrative Medical Scences, <sup>2)</sup> Department of Deramatology, The Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Deramatology, Tokyo Women's Medical University, <sup>4)</sup> Department of Deramatology, Faculty of Medicine, Unversity of Tokyo, <sup>5)</sup> Department of Deramatology, Tekyo Unversity School of Medicine, <sup>6)</sup> Osaka Prefectual Medicine Center for Respiratory and Allergic Diseases) : An association study of 36 psoriasis susceptibility loci for psoriasis vulgaris and atopic dermatitis in a Japanese population. J deramatol Sci 2014 ; 76 (2) : 156-157.
- 21) Katayama I<sup>1)</sup>, Kohno Y<sup>2)</sup>, Akiyama K<sup>3)</sup>, Aihara M<sup>4)</sup>, Kondo N<sup>5)</sup>, Saeki H, Shoji S<sup>6)</sup>, Yamada H<sup>7)</sup>, Nakamura K<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Depart-

- ment of Dermatology, Course of Integrated Medicine, Graduate School of Medicine, Osaka University, <sup>2</sup> Chiba Rosai Hospital, <sup>3</sup> National Hospital Organization, Sagami National Hospital, <sup>4</sup> Department of Dermatology, Yokohama City University, <sup>5</sup> Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Gifu University, <sup>6</sup> National Hospital Organization, Tokyo National Hospital, <sup>7</sup> Department of Dermatology, Nara Hospital Kinki University Faculty of Medicine, <sup>8</sup> Department of Dermatology, Saitama Medical University) : Japanese Society of Allergology. Japanese Guideline for Atopic Dermatitis 2014. *Allergol Int* 2014 ; 63 (3) : 377-398.
- 22) Yanaba K<sup>1</sup>, Umezawa Y<sup>1</sup>, Ito T<sup>1</sup>, Hayashi M<sup>1</sup>, Kikuch S<sup>1</sup>, Fukuchi O<sup>1</sup>, Saeki H, Nakagawa H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Department of dermatology, The Jikei University School of Medicine) : Impact of obesity on the efficacy of ustekinumab in Japanese patients with psoriasis : a retrospective cohort study of 111 patients. *Arch Dermatol Res* 2014 ; 306 (10) : 921-925.
- 23) Ichiyama S, Nemoto R<sup>1</sup>, Tanabe H<sup>1</sup>, Haga T<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Faculty of Science, Institute for Biomolecular Science, Gakushuin University) : Interaction of the muscarinic acetylcholine receptor M<sub>2</sub> subtype with G protein G $\alpha$  (i/o) isoforms and G $\beta$   $\gamma$  subunits as studied with the maltose-binding protein-M<sub>2</sub>-G $\alpha$  (i/o) fusion proteins expressed in *Escherichia coli*. *J Biochem* 2014 ; 156 (5) : 259-272.
- 24) Nishigori C<sup>1</sup>, Aoyama Y<sup>2</sup>, Ito A<sup>3</sup>, Suzuki K<sup>4</sup>, Suzuki T<sup>5</sup>, Tanemura A<sup>6</sup>, Ito M<sup>7</sup>, Katayama I<sup>6</sup>, Oiso N<sup>8</sup>, Kagohashi Y<sup>9</sup>, Sugiura S<sup>10</sup>, Fukai K, Funasaka Y, Yamashita T, Matsunaga K (<sup>1</sup> Division of Dermatology, Department of Internal Related Graduate School of Medicine, Kobe University, <sup>2</sup> Dermatology, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Science, <sup>3</sup> Department of Dermatology, Niigata University Medical and Dental Hospital, <sup>4</sup> Department of Dermatology, Kariya Toyota General Hospital, <sup>5</sup> Department of Dermatology, Yamagata University Faculty of Medicine, <sup>6</sup> Department of Dermatology, Course of Integrated Medicine Graduate School of Medicine, Osaka University, <sup>7</sup> Department of Dermatology, Niigata University Graduate School of Medicine and Dental Science, <sup>8</sup> Department of Dermatology, Kinki University Faculty of Medicine, <sup>9</sup> Japanese Society for Dermatoallergy and Contact Dermatitis, <sup>10</sup> Department of Healthcare Administration, Nagoya University Graduate School of Medicine) : Guide for medical professionals (i.e. dermatologists) for the management of Rhododendrol-induced leukoderma. *J Dermatol* 2015 ; 42 (2) : 113-128.
- 25) Furumatsu A<sup>1</sup>, Shimizu H<sup>1</sup>, Bito T<sup>1</sup>, Funasaka Y, Nishigori C<sup>1</sup> (<sup>1</sup> Division of Dermatology, Department of Internal Related, Kobe University Graduate School of Medicine) : Large plaque-type benign cephalic histiocytosis showing rapid aggravation following vaccination. *Cutis* 2014 ; 94 (2) : E13-E14.
- 26) Okamura K<sup>1</sup>, Yoshizawa J<sup>2</sup>, Abe Y<sup>2</sup>, Hanaoka K<sup>3</sup>, Higashi N, Togawa Y<sup>4</sup>, Nakagawa S<sup>4</sup>, Kambe N<sup>4</sup>, Funasaka Y, Ohko K<sup>5</sup>, Hozumi Y<sup>2</sup>, Suzuki T<sup>2</sup> (<sup>1</sup> Department of Dermatology, Yamagata University Faculty of Medicine, <sup>2</sup> Department of Dermatology, Yamagata University Faculty of Medicine, <sup>3</sup> Division of Dermatology, Tsuchiya General Hospital, <sup>4</sup> Department of Dermatology, Chiba University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup> Department of Dermatology, Kochi Medical School, Kochi University) : Oculocutaneous albinism (OCA) in Japanese patients : five novel mutations. *J Dermatol* 2014 ; 74 (2) : 173-174.
- 27) 荻田あづさ, 安齋眞一, 紺野亜希子, 川名誠司 : 成人 StII 病における血清 IL-6, IL-18 値の検討. *皮膚臨床* 2015 ; 57 (1) : 67-71.
- 28) 加藤篤衛 : あざに対するレーザー治療の基本と実践. *日小皮誌* 2014 ; 33 (2) : 109-113.
- 29) Isomura T<sup>1</sup>, Kono T, Hindmarch I<sup>2</sup>, Kikuchi N<sup>1</sup>, Murakami A<sup>1</sup>, Inuzuka K<sup>1</sup>, Kawana S (<sup>1</sup> Clinical Study Support, Inc, <sup>2</sup> Department of Psychopharmacology, Surrey University) : Central nervous system effects of the second-generation antihistamines marketed in Japan -review of inter-drug differences using the proportional impairment ratio (PIR). *Plos One* 2014 ; 9 (12) : e114336.
- 30) Asayama S, Akilov O<sup>1</sup>, Kawana S (<sup>1</sup> Department of Dermatology, University of Pittsburgh, USA) : Photodynamic Therapy with 5%  $\delta$ -Aminolevulinic Acid is Safe and Effective Treatment of Acne Vulgaris in Japanese Patients. *Laser Therapy* 2014 ; 23 (2) : 115-120.
- 31) 尾見徳弥 : 美容皮膚科をとりまく問題点と今後の将来性. *マルホ皮膚科セミナー内容集* 2015 ; 233 : 20-23.
- (2) 総説 :
- 1) 佐伯秀久 : アトピー性皮膚炎の治療ガイドライン概説. *MB Derma*. 2014 ; 224 : 1-7.
  - 2) 佐伯秀久 : 皮膚疾患における免疫抑制薬の使い方 : アトピー性皮膚炎におけるシクロスポリンの使い方を中心に. *日皮会誌* 2014 ; 124 (13) : 2856-2858.
  - 3) 尾見徳弥 : 皮膚科における痤瘡の光線治療. *光アライアンス* 2014 ; 25 (7) : 35-39.
- (3) 症例報告 :
- 1) Li M, Omi T, Matano Y, Fujimori S<sup>1</sup>, Kawana S (<sup>1</sup> Department of gastroenterology, Nippon Medical School) : The diagnostic usefulness of video capsule endoscopy in adolescent immunoglobulin a vasculitis (Henoch-Schönlein Purpura). *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (2) : 114-117.
  - 2) Fujimoto K, Kawasaki Y, Morimoto K, Kikuchi I, Kawana S : Treatment for crusted scabies : limitations and side effects of

treatment with ivermectin. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (3) : 157-163.

- 3) 篠原理恵, 上野 孝, 福本 瞳, 船坂陽子, 川名誠司 : Verruciform xanthoma の 1 例. 臨皮 2014 ; 68 (4) : 339-342.
  - 4) Kawasaki Y, Kawana S : Efficacy and safety of a topical carbon suspension photoenhancer adjunctive to intense pulsed light treatment for pigmented lesions in Japanese patients : A pilot study. Laser Ther 2014 ; 23 (1) : 13-19.
  - 5) 木下侑里, 藤本和久, 李 民, 篠原理恵, 小林征洋<sup>1)</sup>, 川名誠司, 佐伯秀久<sup>(1)</sup> 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科) : Anis12 特異的 IgE 抗体が陽性となったアニサキスアレルギーの 2 例. アレルギー 2014 ; 63 (10) : 1348-1352.
  - 6) Yoshida R, Kato T<sup>1)</sup>, Kawase M<sup>2)</sup>, Honda M<sup>2)</sup>, Mitsuishi T<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> The Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, The Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University Yachiyo Medical Center) : Two sisters reveal autosomal recessive inheritance of epidermodysplasia verruciformis : a case report. BMC Dermatol 2014 ; 14 (12).
  - 7) Matayoshi T, Omi T, Mayumi N, Kawana S : Hashimoto's thyroiditis with clinical manifestations resembling dermatomyositis. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (2) : 106-109.
- (4) Q&A :
- 1) 佐伯秀久, 矢上晶子<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 藤田保健衛生大学皮膚科) : アトピー性皮膚炎の病院に関する新知見と診断・治療. 日本医事新報 2015 ; 4733 : 55.

## 著 書

- 1) 佐伯秀久 : [分担] 膿皮症. 今日の治療指針 (山口 徹), 2015 ; pp1167-1168, 医学書院.
- 2) 佐伯秀久 : [分担] 成人のアトピー性皮膚炎の予後を教えてください. アトピー性皮膚炎 Q & A 55 (加藤則人), 2014 ; pp12-14, 診断と治療社.
- 3) 佐伯秀久 : [分担] アトピー性皮膚炎にシクロスポリンはどこまで有用か?. EBM 皮膚疾患の治療 up-to-date (宮地良樹), 2015 ; pp27-30, 中外医学社.
- 4) 佐伯秀久 : [分担] アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 皮膚疾患ガイドライン編 (宮地良樹), 2015 ; pp26-34, メディカルレビュー社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 佐伯秀久 : アトピー性皮膚炎の病態と治療. 東京都皮膚科医学会学術集会 (第 73 回) / 臨床研究会 (第 47 回) (東京), 2014. 9.

### (2) 教育講演 :

- 1) 川名誠司 : 感染と関係する血管炎と血栓・血管閉塞. 日皮会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 2) 佐伯秀久 : 皮膚疾患における免疫抑制薬の使い方ーアトピー性皮膚炎におけるシクロスポリンの使い方を中心にー. 日皮会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 3) 佐伯秀久 : アトピー性皮膚炎の治療ー病態, 疫学, 診断, 悪化因子, スキンケア, 薬物療法ー. 日本アレルギー学会総合アレルギー講習会 (第 1 回) (横浜), 2014. 12.
- 4) 船坂陽子 : 可視光線, 赤外線と皮膚. 日皮会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 5) 船坂陽子 : 顔面のシミの病態と鑑別診断. 日皮会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 6) 尾見徳弥 : 美容機器の基礎と理論 : レーザー・光線治療の基礎. エステティックダーマトロジー教育セミナー (第 7 回) (東京), 2014. 12.

### (3) シンポジウム :

- 1) 尾見徳弥 : 炭酸ガスレーザー Update 皮膚科領域における CO<sub>2</sub> laser と Fractional CO<sub>2</sub> laser. 日本レーザー治療学会 (第 26 回) (東京), 2014. 6.
- 2) 尾見徳弥 : LLLT の皮膚科領域における臨床応用とその将来性 (LLLТ の臨床応用と光治療の新展開). 日本レーザー治療学会 (第 26 回) (東京), 2014. 6.
- 3) Omi T : Treatment for the acne scars (Advanced laser & EBD techniques for acne & scars). International Master Course on Aging Skin (IMCAS) ASIA (HONG KONG), 2014. 8.
- 4) Omi T : Histogenesis of skin rejuvenation (In-depth approach to lasers & EBD). International Master Course on Aging Skin (IMCAS) ASIA (HONG KONG), 2014. 8.
- 5) Omi T : Morphology and therapy of acne scar (Clinical dermatology : acne). International Master Course on Aging Skin (IMCAS) (第 17 回) (PARIS), 2015. 1.

(4) セミナー：

- 1) 船坂陽子：光老化皮膚治療の戦略. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会（第32回）（浦安），2014. 7.
- 2) 船坂陽子：色素斑に対するレーザー治療. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会（第32回）（浦安），2014. 7.
- 3) 佐伯秀久：アトピー性皮膚炎の治療 UPDATE. 日皮会中部支部学術大会（第65回）（大阪），2014. 10.
- 4) 佐伯秀久：長期的視点から見た乾癬治療におけるウステキヌマブの位置付け. 日皮会東京支部学術大会（第78回）（東京），2015. 2.
- 5) 船坂陽子：色素斑の治療 update. 日皮会東京支部学術大会（第78回）（東京），2015. 2.
- 6) Saeki H：Effective treatments of psoriatic arthritis by anti-TNF- $\alpha$  drugs evaluated by magnetic resonance imaging. The Annual Meeting of the JSID (39th) (Osaka), 2014. 12.
- 7) 佐伯秀久：皮膚アレルギー疾患. 日本アレルギー学会専門医教育セミナー（第46回）（東京），2014. 8.
- 8) 船坂陽子：フラクショナルレーザーと高周波による光老化皮膚の治療. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 9) 尾見徳弥：LEDを用いた皮膚科治療の現状と将来性（LEDによる皮膚症状の治療について）. 日本レーザー治療学会（第26回）（東京），2014. 6.
- 10) 尾見徳弥：ナローバンドUVB, エキシマライトによる皮膚治療（皮膚科診療における光線・レーザー治療：治療戦略と実践）. 日本皮膚科学会（第113回）（京都），2014. 5.

(5) 一般講演：

- 1) 福本 瞳, 都築慎也<sup>3)</sup>, 佐藤典子<sup>3)</sup>, 峰宗太郎<sup>1)</sup>, 望月 眞<sup>3)</sup>, 川名誠司, 長谷川秀樹<sup>1)</sup>, 黒田 誠<sup>2)</sup>, 片野晴隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 国立感染症研究所感染病理部, <sup>2)</sup> 国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター)：日本人からの Trichodysplasia-spinulosa associated polyomavirus のクローニング. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 2) 上野 孝, 高山良子, 田村奈渚, 稲葉基之, 秋山美知子, 長田真一, 亦野蓉子, 山下裕子, 田久保匡哉, 川名誠司：超高齢者の皮膚腫瘍外科. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 3) 高山良子, 船坂陽子, 上野 孝, 二神綾子, 川名誠司：Agminotated blue nevus の1例. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 4) 小坂素子, 船坂陽子, 高山良子, 加藤篤衛, 川名誠司：フラクショナル CO<sub>2</sub> レーザーと高周波によるしわ・たるみの改善効果の検討. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 5) 市山 進, 上野 孝, 稲葉基之, 高山良子, 秋山美知子, 藤本和久, 船坂陽子, 佐伯秀久：Solitary sclerrotic fibroma の2例. 日皮会東京地方会（第856回）（東京），2014. 9.
- 6) 三神絵里奈, 上野 孝, 高山良子, 又吉武光, 田中真由合, 長田真一, 二神綾子, 船坂陽子, 佐伯秀久：腋窩の生じた基底細胞癌の3例. 日皮会東京地方会（第856回）（東京），2014. 9.
- 7) 長田真一, 東 直行, 藤原裕介<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 猪口孝一<sup>2)</sup>, 川名誠司 (<sup>1)</sup> 血液内科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院病理)：右眼周囲に限局した原発性皮膚びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の1例. 日皮会東部支部学術大会（第78回）（青森），2014. 10.
- 8) 清水 愛, 長田真一, 亦野蓉子, 川名誠司：急逝無症候性脳梗塞を合併した皮膚型結節性多発動脈炎の1例. 日皮会東部支部学術大会（第78回）（青森），2014. 10.
- 9) 小坂素子, 船坂陽子, 高山良子, 加藤篤衛, 川名誠司：フラクショナル CO<sub>2</sub> レーザーと高周波によるしわ・たるみの改善効果の検討. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会（第32回）（浦安），2014. 7.
- 10) 土屋 麗, 二宮里紗, 幸野 健, 川名誠司：悪性リンパ腫に C1-INH 低下が認められた1例. 日皮会総会（第113回）（京都），2014. 5.
- 11) 高山良子, 上野 孝, 山下裕子, 二神綾子, 安齋眞一, 福本隆也<sup>1)</sup>, 佐伯秀久 (<sup>1)</sup> 札幌皮膚病理診断科)：Hobnail hemangioma の1例. 日皮会中部支部学術大会（第65回）（大阪），2014. 10.
- 12) 山瀬 綾, 幸野 健, 土屋 麗, 二宮里紗, 川壽裕史, 久保田智樹, 佐伯秀久：手掌・足底に発症した circumscribed acral hypokeratosis の1例. 日皮会中部支部学術大会（第65回）（大阪），2014. 10.
- 13) 白川典子, 真弓暢子, 朝山祥子, 佐伯秀久：Osteoma cutis の1例. 日皮会東京地方会（第857回）（東京），2014. 11.
- 14) 尾崎紗恵子, 船坂陽子, 木下侑里, 又吉武光, 久保田智樹, 上野 孝, 川名誠司, 佐伯秀久：診断確定に至るまでに数回の生検を要した NK/T 細胞リンパ腫の1例. 日皮会東京地方会（第857回）（東京），2014. 11.
- 15) 新井悠江, 高山良子, 田中真百合, 長田真一, 上野 孝, 二神綾子, 安齋眞一, 船坂陽子, 佐伯秀久：右大腿に生じた glomus tumor の1例. 日皮会東京地方会（第859回）（東京），2015. 1.
- 16) 秋山美知子, 船坂陽子, 田村奈渚, 高山良子, 藤原裕介<sup>1)</sup>, 佐伯秀久 (<sup>1)</sup> 血液内科)：マンツル細胞リンパ腫患者に合併した多発の Bowen 病様皮疹. 日皮会東京地方会（第859回）（東京），2015. 1.
- 17) 白川典子, 船坂陽子, 上野 孝, 江崎英子, 佐伯秀久：線状 IgA 水疱症の1例. 日皮会東京地方会（第859回）（東京），2015. 1.
- 18) 大山聡美, 船坂陽子, 佐伯秀久, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 分子遺伝学, <sup>2)</sup> 分子解剖学)：悪性黒色腫における遺伝子変異ならびに増殖シグナル活性化の検討 新規分子標的治療薬開発に向けて. 日本医科大学医学会（第82回）（東京），2014. 9.

- 19) 佐伯秀久：皮膚疾患とケモカイン アトピー性皮膚炎の病態における TARC/CCL17 の役割を中心に，日本医科大学医学会（第 82 回）（東京），2014. 9.
- 20) 尾崎紗恵子，船坂陽子，田久保匡哉，又吉武光，上野 孝，佐伯秀久，朝山敏夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>血液内科）：G-CSF 製剤に誘発された granulomatous dermatitis の 1 例．日皮会東京地方会合同臨床地方会（第 855 回）（東京），2014. 7.
- 21) 奈古利恵，高山良子，船坂陽子，佐伯秀久，加藤浩司<sup>1)</sup>，根井貴仁<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>循環器内科，<sup>2)</sup>呼吸器内科）：成人麻疹の 1 例．日皮会東京地方会合同臨床地方会（第 855 回）（東京），2014. 7.
- 22) 大塚流音，船坂陽子，川原崎麻以，田村奈渚，山下裕子，佐伯秀久：DIHS の病態をとった Stevens-Johnson 症候群の 1 例．日皮会東京地方会合同臨床地方会（第 855 回）（東京），2014. 7.
- 23) 市山 進，又吉武光，長田真一，田中真百合，木下侑里，田久保匡哉，金子朋広<sup>1)</sup>，新井桃子<sup>1)</sup>，三井啓吾<sup>2)</sup>，辰口篤志<sup>2)</sup>，川名誠司，佐伯秀久（<sup>1)</sup>腎臓内科，<sup>2)</sup>消化器・肝臓内科）：消化器症状治療中に腎症を発症した小児 IgA 血管炎の 1 例．皮膚脈管・膠原病研究会（第 38 回）（東京），2015. 1.
- 24) 三神絵理奈，又吉武光，高山良子，福田 健<sup>1)</sup>，川名誠司，佐伯秀久（<sup>1)</sup>消化器・肝臓内科）：IgG4 関連疾患にみられた紫斑の 1 例．皮膚脈管・膠原病研究会（第 38 回）（東京），2015. 1.
- 25) 松岡保子，安齋眞一，佐伯秀久：BSCC の 2 例．日皮会東京地方会（第 859 回）（東京），2015. 1.
- 26) 大山聡美，長田真一，高山良子，上野 孝，安齋眞一，佐伯秀久：下腿汗孔癌（Porocarcinoma）の 1 例．日皮会東京支部学術大会（第 78 回）（東京），2015. 2.
- 27) 松岡保子，安齋眞一，奈古利恵，篠原理恵，荻田あづさ，松田秀則，佐伯秀久：結節性類天疱瘡の 3 例．日皮会東京支部学術大会（第 78 回）（東京），2015. 2.
- 28) 松田秀則，安齋眞一，荻田あづさ，佐伯秀久，福本隆也<sup>1)</sup>，岩崎 隆<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>札幌市，<sup>2)</sup>川崎市）：結節性類天疱瘡の 3 例．日皮会東京支部学術大会（第 78 回）（東京），2015. 2.
- 29) 田久保匡哉，李 民，東 直行，佐伯秀久：Lichen Planus Pigmentosus Inversus の 1 例．日皮会東京支部学術大会（第 78 回）（東京），2015. 2.
- 30) 林 光葉<sup>1)</sup>，広田朝光<sup>2)</sup>，佐伯秀久，中川秀己<sup>1)</sup>，常深祐一郎<sup>3)</sup>，佐藤伸一<sup>4)</sup>，天谷雅行<sup>5)</sup>，古江増隆<sup>6)</sup>，玉利真由美<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科，<sup>2)</sup>理研総合生命科学センター呼吸器疾患研究チーム，<sup>3)</sup>東京女子医大皮膚科，<sup>4)</sup>東京大皮膚科，<sup>5)</sup>慶應大皮膚科，<sup>6)</sup>九州大皮膚科）：日本人の尋常性乾癬およびアトピー性皮膚炎患者における 36 カ所の乾癬疾患感受性遺伝子部位の解析．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- 31) 奈古利恵，松田秀則，篠原理恵，松岡保子，荻田あづさ，安齋眞一，佐伯秀久，井出真弓<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>川崎市）：皮膚粘液癌の 1 例．日皮会東京地方会（第 857 回）（東京），2014. 11.
- 32) 清水 愛，高山良子，上野 孝，安齋眞一，福本隆也<sup>1)</sup>，船坂陽子，佐伯秀久（<sup>1)</sup>札幌皮膚病理診断科）：右前腕に生じた皮膚筋線維腫の 1 例．日皮会東京地方会（第 858 回）（東京），2014. 12.
- 33) 田久保匡哉，稲葉基之，紺野亜希子，上野 孝，船坂陽子，川名誠司：小児の全頭型脱毛に DPCP を用いた局所免疫療法を行い治癒した 1 例．日本小児皮膚科学会学術大会（第 38 回）（東京），2014. 7.
- 34) 江崎英子，上野 孝，高山良子，二神綾子，安齋眞一，船坂陽子，佐伯秀久：血管増生型らせん腺腫の 1 例．日皮会東京地方会（第 858 回）（東京），2014. 12.
- 35) 福地 修<sup>1)</sup>，林 光葉<sup>1)</sup>，菊池荘太<sup>1)</sup>，築場広一<sup>1)</sup>，伊藤寿啓<sup>1)</sup>，梅澤慶紀<sup>1)</sup>，佐伯秀久，中川秀己<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科）：乾癬患者に対するアダリムマブ（ADA）の投与間隔延長について．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- 36) 菊池荘太<sup>1)</sup>，佐伯秀久，梅澤慶紀<sup>1)</sup>，伊藤寿啓<sup>1)</sup>，林 光葉<sup>1)</sup>，福地 修<sup>1)</sup>，延山嘉眞<sup>1)</sup>，照屋勝治<sup>1)</sup>，中川秀己<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科）：ウステキスマブが奏効した HIV 陽性の重症乾癬患者．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- 37) 築場広一<sup>1)</sup>，梅澤慶紀<sup>1)</sup>，林 光葉<sup>1)</sup>，菊池荘太<sup>1)</sup>，福地 修<sup>1)</sup>，伊藤寿啓<sup>1)</sup>，佐伯秀久，中川秀己<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科）：当科乾癬患者 111 例に対するウステキスマブの治療経験－有効性とそれに影響を与える諸因子の検討－．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- 38) 佐伯秀久，中川秀己<sup>1)</sup>，森崎洋二<sup>2)</sup>，青木健洋<sup>2)</sup>，石井泰子<sup>2)</sup>，Berclaz P<sup>3)</sup>，Heffernan M<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科，<sup>2)</sup>日本イーライリリー株式会社，<sup>3)</sup>イーライリリー・アンド・カンパニー）：Lxekizumab の第 3 相試験：局面型皮疹を有する乾癬患者における有効性及び安全性評価．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- 39) 中川秀己<sup>1)</sup>，佐伯秀久，森崎洋二<sup>2)</sup>，青木健洋<sup>2)</sup>，石井泰子<sup>2)</sup>，Berclaz P<sup>3)</sup>，Heffernan M<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>慈恵医大皮膚科，<sup>2)</sup>日本イーライリリー株式会社，<sup>3)</sup>イーライリリー・アンド・カンパニー）：Lxekizumab の第 3 相試験：乾癬性紅皮症と汎発性膿疱性乾癬患者における有効性及び安全性評価．日本乾癬学会学術大会（第 29 回）（高知），2014. 9.
- (6) 展示：
- 1) 福本 瞳，高橋健太<sup>1)</sup>，佐藤由子<sup>1)</sup>，峰宗太郎<sup>1)</sup>，保科しほ<sup>1)</sup>，中島典子<sup>1)</sup>，佐伯秀久，長谷川秀樹<sup>1)</sup>，黒田 誠<sup>2)</sup>，片野晴隆<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立感染症研究所感染病理部，<sup>2)</sup>国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター）：網羅的ウイルス検出法 multivirus real-time PCR

の改良と臨床検体への応用. 日本ウイルス学会学術集会 (第 62 回) (横浜), 2014. 11.

## 論文

### [追加分]

追加分総説:

- 1) 尾見徳弥, 沼野香世子: これだけは知っておきたい炭酸ガスレーザーの基礎知識. 日小皮会誌 2014; 33 (1): 63-67.
- 2) 沼野香世子, 尾見徳弥: レーザー・光線治療の機序と安全性: part.2 美容皮膚科の基礎知識. J Visual Dermatol 2013; 12 (6): 633-637.

追加分原著:

- 1) Omi T, Numamo K: The role of the CO2 laser and fractional CO2 laser in dermatology. Laser Therapy 2014; 23 (1): 49-60.
- 2) Omi T, Sato S, Kaminaka C, Yamamoto Y, Kawana S, Naito Z: A histological study on the treatment of acne scars with fractional radiofrequency: preliminary findings. J Clin Exp Dermatol Res 2014; 5 (1): 1-5.
- 3) Ueno T, Omi T, Uchida E, Yokota H, Kawana S: Evaluation of hyperbaric oxygen therapy for chronic wounds. J Nippon Med Sch 2014; 81 (1): 4-11.
- 4) Emerson R, Ash C, Town G, Omi T, Daniel G: Pigmentation: selective photothermolysis or non-specific skin necrosis using different intense pulsed light systems?. J Cosmet Laser Ther 2013; 15 (3): 133-142.

## 学会発表

追加分一般講演:

- 1) Omi T: Fractional radiofrequency treatment for the acne scars. International Master Course on Aging Skin (IMCAS) Asia (Singapore), 2013. 7.
- 2) Omi T: Cosmeceuticals-sun screen. International Master Course on Aging Skin (IMCAS) Asia (Singapore), 2013. 7.
- 3) Omi T: Acne scar treatment by fractional RF. Congress of European Academy of Dermatology and Venereology (EADV) (22nd (Istanbul,Turkey), 2013. 10.
- 4) Omi T: Clinical and histological study for acne scars by fractional RF. American Society For Laser Medicine and Surgery (ASLMS) (33rd Annual Meeting) (Boston, USA), 2013. 4.

追加分シンポジウム:

- 1) 尾見徳弥: 美容皮膚科をとりまく問題点と今後の将来性. 日皮会中部支部学術大会 (第 64 回) (名古屋), 2013. 11.
- 2) 尾見徳弥: 皮膚科診療における LED 治療の基礎的考察と将来の可能性. 日本レーザー治療学会学術集会総会 (第 25 回) (名古屋), 2013. 6.
- 3) 尾見徳弥: 皮膚科における痤瘡の光線治療の最近の話題. 日本レーザー治療学会学術集会総会 (第 25 回) (名古屋), 2013. 6.
- 4) Omi T: Cellulite morphology: clues to a therapeutic strategy?. International Master Course on Aging Skin (IMCAS) Asia (Singapore), 2013. 7.

追加分セミナー:

- 1) 尾見徳弥, 春名邦隆: 皮膚科におけるこれだけは知っておきたい光線・レーザー治療の基礎知識. 日本小児皮膚科学会学術大会 (第 37 回) (東京), 2013. 7.

## [武蔵小杉病院皮膚科]

### 研究概要

皮膚上皮腫瘍の病理診断 皮膚付属器腫瘍 (とくに汗腺及び脂腺腫瘍) について免疫組織化学的検討によってその診断精度を上げるために必要な方法を見出すさらにはケラトアcantoma Keratoacanthoma についてその病理診断基準を確立し類似の悪性腫瘍との鑑別について検討する

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 安齋眞一, 福本隆也<sup>1)</sup>, 阿南 隆<sup>1)</sup>, 木村鉄宣<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 札幌皮膚病理診断科, 2) 付属病院皮膚科): 澄明細胞性棘細胞腫の臨床病理学的検討. 臨床皮膚科 2014; 68: 201-206.
- 2) 篠原理恵, 上野 孝<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科): Verneiform xanthoma の 1 例. 臨床皮膚科 2014; 68 (4): 339-342.

- 3) 篠原理恵, 藤木和久<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科) : パルプアルブミンによる魚類アレルギーの2例. 皮膚科の臨床 2014 ; 56 (9) : 1270-1274.
- (2) 総説 :
- 1) 安齋眞一 : 紫斑・血管炎. 病理と臨床 2014 ; 32 : 267-273.
  - 2) 安齋眞一 : 皮膚病理 (特殊染色・免疫染色). Monthlybook Derma 初歩から学べる皮膚科検査の実際 2014 ; 216 : 148-156.
  - 3) 安齋眞一 : CPC 乳頭状管状腺腫を伴う乳頭状汗管嚢胞腺腫 : Syringocystadenoma papilliferum with papillary tubularadenoma. Visual Dermatology 2014 ; 13 : 598-602.
  - 4) 安齋眞一, 田中 勝<sup>1)</sup> (1) 女子医科大学東医療センター) : CPC メラノーマのまとめ. Skin cancer 2014 ; 29 : 210-214.
  - 5) 安齋眞一, 阿南 隆<sup>1)</sup> (1) 札幌皮膚病理診断科) : signs&symptoms : 病理. 皮膚病診療 2014 ; 36 (suppl) : 88-131.
- (3) 症例報告 :
- 1) 若林満貴<sup>1)</sup>, 丹羽祐介<sup>1)</sup>, 高木 敦<sup>1)</sup>, 安齋眞一, 福本隆也<sup>1)</sup>, 池田志孝<sup>1)</sup> (1) 順天堂大学病院) : 左手掌に多発した Spindle cell hemangioma の1例. 皮膚科の臨床 2014 ; 56 : 260-262.
  - 2) 斉藤 彬<sup>1)</sup>, 山田勝裕<sup>1)</sup>, 能登 舞<sup>1)</sup>, 加藤真紀<sup>1)</sup>, 真鍋 求<sup>1)</sup>, 梅林芳弘<sup>1)</sup>, 安齋眞一 (1) 秋田大学) : 断頭分泌像をともなった Syringomatous carcinoma の1例. 皮膚科の臨床 2014 ; 56 : 810-813.
  - 3) Ansai S, Hashizume S<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Tateishi C<sup>1)</sup>, Koga H<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>1)</sup> (1) 付属病院) : Case of anti-laminin gamma-1 pemphigoid with antibody against C-terminal domain of BP180 in a patient with psoriasis vulgaris. J Dermatol 2014 ; 41 : 1031-1033.
  - 4) 大谷綾子<sup>1)</sup>, 福田英嗣<sup>1)</sup>, 大原関利章<sup>1)</sup>, 安齋眞一, 向井秀樹<sup>1)</sup> (1) 東邦大学) : 背部に生じた Plexiform Fibrohistiocytic Tumour の1例. 皮膚科の臨床 2014 ; 56 : 1495-1498.
  - 5) 荻田あづさ, 安齋眞一, 細野亜希子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科) : 成人 Still 病における血清 IL-6, IL-18 値の検討. 皮膚科の臨床 2015 ; 57 (1) : 67-71.

## 著 書

- 1) 安齋眞一 : [分担] 有棘細胞癌, 日光角化症, Bowen 病, ケラトアカントーマの診断と治療. 皮膚科臨床アセット 17 皮膚悪性腫瘍 (古江増隆, 山崎直也), 2014 ; pp222-227, 中山書店.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) 篠原理恵, 安齋眞一 : Desmoplastic trichoepithelioma との鑑別を要した Microcystic adnexal carcinoma の1例. 日本皮膚科学会 東京支部 (第78回), 2014. 10.
- 2) 松岡保子, 安齋眞一, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科) : BSCC の2例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第859回), 2015. 1.
- 3) 松岡保子, 安齋眞一, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科) : 結節性類天疱瘡の3例. 日本皮膚科学会東京支部総会 (第859回), 2015. 3.
- 4) 松田秀則, 安齋眞一, 荻田あづさ, 福本隆也<sup>1)</sup>, 岩崎 隆<sup>2)</sup> (1) 札幌皮膚病理診断科, <sup>2)</sup> 川崎市) : 肩に生じた neurothekeoma の1例. 日本皮膚科学会 東京支部学術大会 (第78回), 2015. 2.
- 5) 松田秀則, 安齋眞一, 荻田あづさ, 福本隆也<sup>1)</sup>, 阿南 隆<sup>1)</sup> (1) 札幌皮膚病理診断科) : 後頸部に生じた hybrid schwannoma/perineurioma の1例. 日本皮膚科学会 東京支部 合同臨床地方会 (第855回), 2014. 7.
- 6) 奈古利恵, 安齋眞一, 松田秀則 : 粘液癌の1例. 日本皮膚科学会 東京地方会 (第857回), 2014. 11.

### 追加分教育講演 :

- 1) 安齋眞一 : 皮膚軟部腫瘍病理診断のポイント. 日本皮膚科学会東京支部学術大会チャレンジレクチャー (第77回), 2014. 2.

### 追加分シンポジウム :

- 1) 安齋眞一, 田中 勝<sup>1)</sup>, 澤田美月<sup>1)</sup>, 種瀬啓士<sup>1)</sup>, 山川千尋<sup>1)</sup>, 荻田あづさ, 外川八菟<sup>1)</sup>, 伊藤慶悟<sup>1)</sup>, 緒方 大<sup>1)</sup>, 高山良子, 佐藤俊次<sup>1)</sup>, 荻原護久<sup>1)</sup> (1) 東京女子医大) : みんなで解き明かそう デーモスコピー所見. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第77回), 2014. 2.

## [多摩永山病院皮膚科]

### 研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗 DFS70 抗体の発現解析 3. 乳児期湿疹の統計的観察 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析 5. 蕁麻疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー : 皮膚テストによる原因物質の確認, 血清

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Konno S<sup>1)</sup>, Makino A<sup>1)</sup>, Maruyama G<sup>1)</sup>, Takai S<sup>2)</sup>, Higashi N<sup>3)</sup> (1) Dept. of Orthopaedic Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Dept. of Orthopaedic Surgery, Nippon Medical School, 3) Dept. of Dermatology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Subcutaneous angioliopoma : Magnetic resonance imaging features with histological correlation. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (5) : 313-319.

#### (2) 症例報告:

- 1) 二宮里紗, 東 直行, 本間英恵<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 石綿 司<sup>3)</sup> (1) 多摩永山内科・循環器内科, 2) 付属皮膚科, 3) 多摩総合リウマチ膠原病科) : 出産後, 薬疹を契機に Sjogren 症候群, 全身性エリテマトーデスが疑われた 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (5) : 747-752.
- 2) 東 直行, 飛田正俊<sup>1)</sup>, 中野 創<sup>2)</sup>, 澤村大輔<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup> (1) 多摩市, 2) 弘前大皮膚科, 3) 付属皮膚科) : 骨髄性プロトポルフィリン症の 1 例. 日小皮会誌 2014 ; 33 (3) : 261-264.
- 3) Li M<sup>1,2)</sup>, Omi T<sup>1)</sup>, Matano Y<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>3)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> (1) Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, 2) Dept. of Dermatology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, 3) Dept. of Gastroenterology, Nippon Medical School) : The diagnostic usefulness of video capsule endoscopy in adolescent immunoglobulin A vasculitis (Henoch-Schonlein purpura). J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (2) : 114-117.
- 4) 稲葉基之, 高山良子<sup>1)</sup>, 長田真一<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 武蔵小杉皮膚科) : 脂腺分化を伴った汗孔癌 (porocarcinoma) の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (6) : 805-809.
- 5) 川原崎麻以<sup>1)</sup>, 稲葉基之, 上野 孝<sup>1)</sup>, 福永景子<sup>2)</sup>, 岡部雅弘<sup>2)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup>, 竹之内研二<sup>3)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 付属血液内科, 3) 付属整形外科) : RS3PE 症候群を伴った成人 T 細胞白血病/リンパ腫の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (7) : 975-980.
- 6) 木下侑里<sup>1)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 真弓暢子<sup>1)</sup>, 稲葉基之, 二宮里紗<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科) : 皮疹のコントロールにシクロスポリン抵抗性でエトレチナートが有効であった汎発性膿疱性乾癬の 1 例. 皮膚臨床 2014 ; 56 (8) : 1123-1127.

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション:

- 1) 東 直行, 李 民 : 外国製化粧品中の 2-methyl-4-isothiazolin-3-one によるアレルギー性接触皮膚炎の 1 例. 日本皮膚科学会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 2) 渡邊幸夫<sup>1)</sup>, 豊里 慧<sup>1)</sup>, 大澤幾未<sup>1)</sup>, 東 直行, 塩谷和音<sup>1)</sup>, 松本 恵<sup>1)</sup>, 鈴木晴恵<sup>2)</sup>, 上田豊甫<sup>1)</sup> (1) 明星大理工生命科学, 2) 京都市) : アミノ酸イオンの経皮浸透吸収と Hydrophile Lipophile Balance 数依存性に関する研究. 日本皮膚科学会総会 (第 113 回) (京都), 2014. 5.
- 3) 東 直行, 李 民 : 外国製化粧品中の 2-methyl-4-isothiazolin-3-one によるアレルギー性接触皮膚炎の 2 例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第 44 回) (仙台), 2014. 11.
- 4) 田久保匡哉, 稲葉基之, 紺野亜希子<sup>1)</sup>, 上野 孝<sup>1)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科) : 小児の全頭型脱毛に DPCP を用いた局所免疫療法を行い治癒した 1 例. 日本小児皮膚科学会 (第 38 回) (東京), 2014. 7.

#### (2) 一般講演:

- 1) 長田真一, 東 直行, 藤原裕介<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup> (1) 付属血液内科, 2) 多摩永山病理, 3) 付属皮膚科) : 右眼周囲に限局した原発性皮膚びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例. 日皮会東部支部学術大会 (第 78 回) (青森), 2014. 10.
- 2) 東 直行, 李 民 : 外国製化粧品中の 2-methyl-4-isothiazolin-3-one によるアレルギー性接触皮膚炎の 2 例. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第 44 回) (仙台), 2014. 11.
- 3) 田久保匡哉, 李 民, 東 直行 : 薬疹を起こし治療に難渋した皮膚腺病の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 858 回) (東京), 2014. 12.
- 4) 森本健介, 東 直行 : Deep dissecting hematoma の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 859 回) (東京), 2015. 1.
- 5) 田久保匡哉, 李 民, 東 直行, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科) : Lichen planus pigmentosus inversus の 1 例. 日本皮膚科学会東京支部学術大会 (第 78 回) (東京), 2015. 2.
- 6) 渡邊幸夫<sup>1)</sup>, 東 直行, 上田豊甫<sup>1)</sup>, 塩谷和音<sup>1)</sup>, 松本 恵<sup>1)</sup>, 鈴木晴恵<sup>2)</sup> (1) 明星大学理工生命科学, 2) 京都市) : アミノ酸キラリティと経皮吸収に関する研究. 日本化学会春季年会 (第 95 回) (名古屋), 2015. 3.
- 7) 高山良子, 上野 孝<sup>1)</sup>, 山下裕子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>2)</sup>, 福本隆也<sup>3)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 武蔵小杉皮膚科, 3) 札幌皮



- 膚病理診断科) : Hobnail hemangioma の 1 例. 日皮会中部支部 (第 65 回), 2014. 10.
- 8) 清水 愛<sup>1)</sup>, 高山良子, 上野 孝<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>2)</sup>, 福本隆也<sup>3)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 武蔵小杉皮膚科, 3) 札幌皮膚病理診断科) : 右前腕に生じた皮膚筋線維腫の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (858 回), 2014. 12.
- 9) 新井悠江<sup>1)</sup>, 高山良子, 田中真百合<sup>1)</sup>, 長田真一<sup>1)</sup>, 上野 孝<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科) : 右大腿に生じた glomus tumor の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (859 回), 2015. 1.
- 10) 秋山美知子<sup>1)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 田村奈渚<sup>1)</sup>, 高山良子, 内藤智之<sup>2)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>3)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 付属血液内科, 3) 武蔵小杉皮膚科) : マントル細胞リンパ腫患者に合併した多発の Bowen 病様皮疹. 日本皮膚科学会東京地方会 (859 回), 2015. 1.
- 11) 大山聡美<sup>1)</sup>, 長田真一<sup>1)</sup>, 高山良子, 安齋眞一<sup>2)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 武蔵小杉皮膚科) : 下腿汗孔癌 (Porocarcinoma) の 1 例. 日本皮膚科学会東京支部総会 (78 回), 2015. 2.
- 12) 江崎英子<sup>1)</sup>, 上野 孝<sup>1)</sup>, 高山良子, 二神綾子<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>2)</sup>, 船坂陽子<sup>1)</sup>, 佐伯秀久<sup>1)</sup> (1) 付属皮膚科, 2) 武蔵小杉皮膚科) : 血管増生型らせん腺腫の 1 例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第 858 回), 2014. 12.

## [千葉北総病院皮膚科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Isomura T<sup>1)</sup>, Kono T<sup>2)</sup>, Hindmarch I<sup>3)</sup>, Kikuchi N<sup>1)</sup>, Murakami A<sup>1)</sup>, Inuzuka K<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>4)</sup> (1) Clinical Study Support, Inc., 2) Department of Dermatology, Nippon Medical School Chiba-Hokusou Hospital, 3) Department of Psychopharmacology, Surrey University, 4) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Central nervous system effects of the second-generation antihistamines marketed in Japan -review of inter-drug differences using the proportional impairment ratio (PIR). Plos One 2014 ; 9 (12) : e114336.

##### (2) 総説 :

- 1) 幸野 健 : アトピー性皮膚炎-角層バリア異常とアトピー性皮膚炎 内臓を考えた抗ヒスタミン処方 : 皮膚科の立場から. アレルギー 2014 ; 63 (3-4) : 482.
- 2) 幸野 健 : 【帯状疱疹への鍼灸マッサージ治療】 (PART1) 帯状疱疹の発生機序・診断・治療 : 西洋医学の観点から. 医道の日本 2014 ; 73 (6) : 75-80.
- 3) 幸野 健 : かゆみ・アレルギーのトータル・マネジメント. Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergy 2014 ; 8 (3) : 162-166.
- 4) 幸野 健 : 皮膚科におけるトータル・マネジメントの提唱 アトピー性皮膚炎, 蕁麻疹編. 医薬の門 2014 ; 54 (4) : 190-193.
- 5) 幸野 健 : 皮膚科におけるトータル・マネジメントの提唱 アトピー性皮膚炎, 蕁麻疹以外の痒み編. 医薬の門 2014 ; 54 (5) : 264-267.
- 6) 幸野 健 : 【皮膚領域の外用療法を見直す】ステロイド外用薬のエビデンス. Progress in Medicine 2014 ; 34 (12) : 2125-2131.
- 7) 幸野 健 : 体験的患者論-大阪と東京を例に. 大阪保険医雑誌 2014 ; (573) : 9-13.

##### (3) 症例報告 :

- 1) 土屋 麗, 二宮里紗, 幸野 健, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院皮膚科) : 悪性リンパ腫に C<sub>1</sub>-INH 低下が認められた 1 例. 日本皮膚科学会雑誌 2014 ; 124 (4) : 783.

#### 著書

- 1) 幸野 健 : [共著] 口唇炎. 皮膚疾患最新の治療 2015-2016 (渡辺晋一, 古川福美), 2015 ; p257, 南江堂.

#### 学会発表

##### (1) セミナー :

- 1) 幸野 健<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 皮膚科) : 内臓を考えた抗ヒスタミン処方 : 皮膚科の立場から. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会 (京都), 2014. 5.

##### (2) 一般講演 :

- 1) 土屋 麗<sup>1)</sup>, 二宮里紗<sup>1)</sup>, 幸野 健<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 皮膚科, 2) 日本医科大学附属病院 皮膚科) : 悪性リンパ腫に C<sub>1</sub>INH 低下が認められた 1 例. 第 113 回日本皮膚科学会総会 (京都), 2014. 5.
- 2) 山瀬 綾<sup>1)</sup>, 幸野 健<sup>1)</sup>, 秋山美知子<sup>1)</sup>, 二宮里紗<sup>1)</sup>, 川壽裕史<sup>1)</sup>, 久保田智樹<sup>1)</sup>, 佐伯秀久<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 皮膚科,

2) 日本医科大学附属病院 皮膚科)：手掌・足底に発症した circumscribed acral hypokeratosis の1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部総会(大阪), 2014. 10.

## 14. リハビリテーション学分野

### [千葉北総病院リハビリテーション科]

#### 研究概要

1: 比例して増幅された電気刺激を与えることによって、さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している。脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において、手関節伸展、手指伸展促進と物品把持移動からなる訓練を施行し、訓練前後での手関節、手指関節の可動域、巧緻性の変化を計測パラメーターとしている。手指関節可動域、手根伸筋のRMS、巧緻動作の改善が認められた。筋電比例式電気刺激はきめ細かな筋収縮を促進し巧緻動作訓練も可能な利点があり、筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される。また、光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討している。2: 24チャンネル光トポグラフィーを用いて、脳卒中急性期の座位、立位などの基本動作訓練が脳循環に与える影響や高次脳機能の評価を検討する。3: 脳の可塑性を検討する基礎的検討として、124チャンネルの脳磁図を用いて手指と手関節運動時の脳神経活動の局在、運動準備電位との関連を検討する。4: 回復期および慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し、脳梗塞患者の下肢静脈血栓症合併頻度、それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する。5: ニューロモデュレーションである経頭蓋直流電気刺激と機能的電気刺激の併用効果を検討し、脳への影響を光トポグラフィーを用いて検討する。6: ボツリヌス毒素注射と機能的電気刺激の併用効果について、理学所見を中心に検討を行う。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Seki C, Oh-Nishi A, Nagai Y, Obayashi S, et al. <sup>(1)</sup> Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences): Evaluation of [<sup>11</sup>C] oseltamivir uptake into the brain during immune activation by systemic polyinosine-polycytidylic acid injection: a quantitative PET study using juvenile monkey models of viral infection. *EJNMMI Research* 2014; 4 (24).

###### (2) 総説:

- 1) Hara Y<sup>1)</sup>: Brain plasticity and rehabilitation in stroke patients. *J Nippon Med Sch* 2015; 82 (1): 4-13.

##### 学会発表

###### (1) シンポジウム:

- 1) 原 行弘<sup>1)</sup>: 運動誘発型機能的電気刺激装置 (IVES) と脳神経機能的再構築. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会 (名古屋), 2014. 6.

###### (2) 一般講演:

- 1) Obayashi S, Ogino T, Hara Y <sup>(1)</sup> Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital): Dopaminergic modulation of motor cortical activation induced by transcranial DCS detected by near-infrared spectroscopy. 9th FENS forum of Neuroscience (Milan, Italy), 2014. 7.
- 2) Yozu A, Obayashi S, Ogino T, Hara Y <sup>(1)</sup> Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital): The superior frontal activity associated with quadrupedalism in adult humans detected by near-infrared spectroscopy. 9th FENS forum of Neuroscience (Milan, Italy), 2014. 7.
- 3) 大林 茂, 妹尾麻代, 伏屋洋志, 辻内和人, 原 行弘 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 リハビリテーション科): 運動皮質経頭蓋直流刺激効果のドーパミン修飾作用に関する脳機能画像学的検討. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会 (名古屋), 2014. 6.
- 4) 伏屋洋志, 大林 茂, 妹尾麻代, 辻内和人, 原 行弘: 当院脳卒中ケアユニット (SCU) における急性期リハビリテーションの現状. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会 (名古屋), 2014. 6.
- 5) 妹尾麻代, 伏屋洋志, 大林 茂, 辻内和人, 原 行弘 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 リハビリテーション科): 非麻痺側肢同期型電気刺激が、脳卒中・頸部神経根病変による上肢麻痺患者の脳血流に与える影響. 第51回日本リハビリテーション医学会学術集会 (名古屋), 2014. 6.
- 6) 原 行弘<sup>1)</sup>, 伏屋洋志<sup>1)</sup>, 大林 茂<sup>1)</sup>, 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 辻内和人<sup>1)</sup>: ボツリヌス毒素注射と機能的電気刺激による上肢痙攣性麻痺巧緻運動への効果. 第44回日本臨床神経生理学会学術集会 (福岡), 2014. 11.
- 7) 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 伏屋洋志<sup>1)</sup>, 大林 茂<sup>1)</sup>, 辻内和人<sup>2)</sup>, 原 行弘<sup>1,2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科, <sup>(2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科リハビリテーション学分野): 上肢麻痺患者における非麻痺側肢同期型電気刺激では、非障害側脳の脳血流の賦

活が抑制された. 日本脳卒中学会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分一般講演:

- 1) Hara Y<sup>1)</sup>, Fuseya H<sup>1)</sup>, Obayashi S<sup>1)</sup>, Senoo M<sup>1)</sup>, Tujiuchi K<sup>1)</sup>: Dual effects with functional electrical stimulation (FES) and neuromodulation on the brain cortical perfusion among strokes. 4th Asia-Oceania Conference of Physical & Rehabilitation Medicine (Bangkok), 2104. 12.

## 15. 消化器外科学分野

### [付属病院消化器外科・一般外科・移植外科]

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Kutsukake M<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>2)</sup>, Tamura K<sup>1)</sup>, Mastuda A<sup>2)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Tachikawa E<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, 2) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Pioglitazone attenuates lung injury by modulating adipose inflammation. JOURNAL OF SURGICAL RESEARCH 2014 ; 189 : 295-303.
- 2) 平方敦史<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学) : IV 門脈血行異常症を理解するための基礎研究 1 門脈圧亢進症とサイトカイン. HEPATOLOGY PRACTICE 2014 ; 4 : 323-325.
- 3) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 腹腔鏡下尾膵切除術 (Lap-DP) における手術部位の感染例の検討. 日本外科感染症学会雑誌 2014 ; 11 (4) : 319-324.
- 4) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : VII 膵臓の手術 慢性膵炎・その他 膵仮性嚢胞に対する腹腔鏡下手術. 消化器外科 2014 ; 37 : 944-945.
- 5) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic distal pancreatectomy : Educating surgeons about advanced laparoscopic surgery. Asian Journal of Endoscopic Surgery 2014 : 295-300.
- 6) Akagi I<sup>1)</sup>, Ishibashi O<sup>2)</sup>, Matsutani T<sup>3)</sup>, Hagiwara N<sup>3)</sup>, Matsuda A<sup>4)</sup>, Nomura T<sup>3)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>4)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Laboratory of Biological Macromolecules, Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, 3) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 4) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital) : Comprehensive Analysis of MicroRNA and mRNA Expression in Normal and Tumorous Human Esophageal Squamous Cell Lines Using Microarray Datasets. Dataset Papers in Science 2014.
- 7) 上田純志<sup>1, 2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>2)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 難治性および癌性腹水に対する腹腔：静脈シャントの治療成績. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2014 ; 20 (4) : 213-218.
- 8) Shimizu T<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Takata H<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Preoperative Three-dimensional Virtual Simulation for Safe Liver Surgery. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (6) : 354-355.
- 9) Mitsui K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Tatsuguchi A<sup>1, 2)</sup>, Shinji S<sup>3)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Fujimori S<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon, 2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, 3) Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Localization of phosphorylated ErbB1-4 and heregulin in colorectal cancer. Bio Med Central 2014.
- 10) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 特集 超高齢者の消化器疾患 : その特徴と治療上の注意 11. 超高齢者に対する消化器外科治療上の問題点. 臨牀 消化器内科 2015 ; 30 (4) : 481-486.
- 11) Matsuda A<sup>1, 2)</sup>, Weng-Lang Y<sup>1)</sup>, Asha J<sup>1)</sup>, Monowar A, Matsuo S, Matsutani T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Ping W<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Hofstra North Shore-LIJ School of Medicine and Center for translational Research, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : FK866, a Visfatin Inhibitor, Protects Against Acute Lung Injury After Intestinal Ischemia-Reperfusion in Mice via NF-κB Pathway. Annals of Surgery 2014 ; 259 : 1007-1017.
- 12) 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 増田寛喜<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学) : 臨床医のために : 腹壁癭痕ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術. 日本医科大学医学会雑誌 2015 ; 11 (1) : 16-19.
- 13) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大

学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 特集 : 食道破裂, 穿孔の診断と治療における戦略と工夫. 日本腹部救急医学会雑誌 2015 ; 35 (1) : 61-65.

- 14) Matsuda A<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>2)</sup>, Sakurazawa N<sup>1)</sup>, Takahashi G<sup>1)</sup>, Kishi T<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterological Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine) : Comparison of Long-Term Outcomes of Colonic Stent as “Bridge to Surgery” and Emergency Surgery for Malignant Large-Bowel Obstruction : A Meta-Analysis. SURGICAL ONCOLOGY 2015 ; 497-504.
- 15) 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 経肛門の減圧管より術前減圧処置を行った閉塞性大腸癌症例における術後腸管運動の評価. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (7) : 1269-1273.
- 16) Yamagishi A<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Hara K<sup>1,2)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Gene profiling and bioinformatics analyses reveal time course differential gene expression in surgically resected colorectal tissues. ONCOLOGY REPORTS 2014 ; 31 : 1531-1538.
- 17) Mizuguchi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Laparoscopic Cholecystectomy is Still Evolving. Austin Journal of Surgery 2014 ; 1 (6).
- 18) Mizuguchi Y<sup>1,2)</sup>, Isse K<sup>1,2)</sup>, Specht S<sup>1,2)</sup>, Lunz Iii J<sup>1,2)</sup>, Corbitt N<sup>1,2)</sup>, Takizawa T<sup>4)</sup>, Demetris A<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Pathology, University of Pittsburgh Medical Center, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Divisions of Transplantation, University of Pittsburgh medical Center, <sup>4)</sup> Department of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School) : Small Proline Rich Protein 2a in Benign and Malignant Liver Disease. HEPATOLOGY 2014 ; 59 (3) : 1130-1143.

(2) 総説 :

- 1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 特集 : 超高齢者に対する外科治療の問題点 I. 総論 5. 超高齢者に対する腹腔鏡手術の問題点. 外科 2014 ; 76 (5) : 478-483.
- 2) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科学 (消化器外科), <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 胸部食道癌に対する外科治療の現況. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (3) : 134-141.
- 3) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 特集エキスパートに学ぶ 脾縮小手術 腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術 (Lap-PD). 手術 2014 ; 68 (7) : 943-949.
- 4) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中川まどか<sup>2)</sup>, 倉藤晶子<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院中央手術室看護師外科係) : 第2章レベルアップを目指すオペナーのための術式マニュアル 1 消化器外科 5 腹腔鏡下脾体尾切除術. オペナーシング 2014 ; 秋 : 62-72.
- 5) Tani ai N<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Case Report of FLT3-ITD-Positive AML Patient 11 Years After Living Donor Liver Transplantation. TRANSPLANTATION PROCEEDINGS 2014 ; 46 (3) : 1003-1005.
- 6) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 「高齢者外科 : 周術期栄養管理をめぐる諸問題」高齢者における鏡視下大腸切除の意義と周術期管理. 外科と代謝・栄養 2014 ; 48 (5) : 189-196.
- 7) 上田純志<sup>1,4)</sup>, 吉田 寛<sup>5)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>4)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科准教授, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科部長, <sup>4)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科, <sup>5)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科部長) : 総論 肝性浮腫 : 病態・診断・薬物療法 難治性腹水の治療. フルイドマネジメントルネッサンス 2014 ; 4 : 53-56.
- 8) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科・消化器外科) : 特集 胆膵疾患に対する高難度腹腔鏡下手術 脾尾部嚢胞性病変に対する脾温存腹腔鏡下脾尾部切除術. 胆と膵 2014 ; 35 (11) : 1283-1287.
- 9) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : IV. Broderline resectable 脾癌の診断と手術 : 腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術 (Lap-PD) 手技上の留意点についての考察. 脾癌治療 up-to-date 2015 2014 ; 1 : 241-246.
- 10) 松田陽子<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 吉村久志<sup>1)</sup>, 濱保英樹<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 新井富生<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都健康長寿

医療センター病理診断科) : III. 膵癌補助療法の効果判定 : 病理検体を用いた膵癌術前化学療法の検討. 膵癌治療 up-to-date 2015 2014 ; 1 : 146-150.

- 11) Nomura T<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Thoracoscopic treatment of a patient with jackhammer esophagus. Digestive Endoscopy 2014 ; 26 (6) : 752-758.
  - 12) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 特集消化器外科手術ピットフォールとリカバリーショット II 各論 6. 脾 a) 巨脾摘出の注意点. 外科 2014 ; 76 (12) : 1442-1446.
  - 13) Hoshino A<sup>1, 4)</sup>, Aimoto T<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Ishii H<sup>3)</sup>, Mishima K<sup>1)</sup>, Wada Y<sup>1)</sup>, Kuroda S<sup>1)</sup>, Yagi A<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Oyama R<sup>1)</sup>, Yamagiwa R<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>1, 4)</sup>, Shibuya T<sup>1, 4)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Gastrointestinal Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Surgery, Sayama Chuo Hospital) : A Case of Nonfunctioning Pancreatic Endocrine Tumor with Atypical Imaging Findings due to Prominent Fibrosis of the Tumor Stroma. JOURNAL OF NIPPON MEDICAL SCHOOL 2014 ; 81 (3) : 179-185.
  - 14) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 特集 : 消化器外科手術ピットフォールとリカバリーショット II. 各論 8. 脾 d) 腹腔鏡下尾側膵切除のピットフォールと対策. 外科 2014 ; 76 (12) : 1489-1492.
  - 15) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 特集 中結腸動脈根部郭清を究める ! III. アプローチ法にポイントをおいた中結腸動脈根部郭清 3. 横行結腸癌に対する頭側尾側アプローチによる腹腔鏡下手術. 手術 2014 ; 68 (12) : 1593-1597.
  - 16) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 膵癌 II. 各論 上皮性腫瘍 神経内分泌腫瘍 (NET) 機能性内分泌腫瘍 膵カルチノイド腫瘍 (セロトニン産生膵神経内分泌腫瘍). 日本臨牀 2015 ; 73 (3) : 356-357.
  - 17) Wakabayashi H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Departments of Pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : A Rare Case of Primary Squamous Cell Carcinoma of the Stomach and a Review of the 56 Cases Reported in Japan. J Gastric Cancer 2014 ; 14 (1) : 58-62.
  - 18) Takubo K<sup>1, 2)</sup>, Vieth M<sup>7)</sup>, Aida J<sup>1, 2)</sup>, Matsutani T<sup>3)</sup>, Hagiwara N<sup>3)</sup>, Iwakiri K<sup>4)</sup>, Kumagai Y<sup>5)</sup>, Hongo M<sup>6)</sup>, Hoshihara Y<sup>1)</sup>, Arai T<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> Research Team for Geriatric Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of Patology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, <sup>3)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Departments of Gastroenterology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>5)</sup> Department of Digestive Tract and General Surgery, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, <sup>6)</sup> Kurokawa general Hospital, <sup>7)</sup> Institute of Pathology) : Histopathological diagnosis of adenocarcinoma in Barrett's esophagus. Digestive Endoscopy 2014 ; 26 : 322-330.
- (3) 研究報告書 :
- 1) Ueda J<sup>1, 2)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Yamahatsu K<sup>1, 2)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Korc M<sup>3)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Departments of Surgery for Organ and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Departments of Medicine, and Biochemistry and Molecular Biology, Indiana University School of Medicine and the Melvin and Bren Simon Cancer Center) : Epithelial splicing regulatory protein 1 is a favorable prognostic factor in pancreatic cancer that attenuates pancreatic metastases. Oncogene 2014 ; 33 : 4485-4495.
- (4) 症例報告 :
- 1) 高田英志<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学統御機構病理学) : 肝細胞癌と細胆管細胞癌成分を伴った肝内胆管癌の同時性重複癌の1切除例. 肝臓 2014 ; 55 (2) : 106-114.
  - 2) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 急速に進展する門脈血栓を発症した腹腔鏡下膵体尾部切除後膵液瘻の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2014 ; 75 (4) : 184-188.
  - 3) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 特集 : 予防投与抗菌薬 症例報告 肝膿瘍に対する肝切除時の適切な抗菌薬 : 膵頭十二指腸切除後出血に対する総肝動脈塞栓による肝膿瘍症例. 日本外科感染症学会雑誌 2014 ; 11 (1) : 81-86.
  - 4) 武田幸樹<sup>1, 3)</sup>, 土屋喜一<sup>1, 3)</sup>, 高田英志<sup>1, 3)</sup>, 二階堂孝<sup>2)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1, 3)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 立正佼成会付属佼成病院外科, <sup>2)</sup> 立正佼成会付属佼成病院病理科, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学 (消化器外科学)) : 同時性6多発大腸癌の1切除例. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (3) : 142-146.
  - 5) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学・消化器外科) : Gemcitabine/S-1 による

- 術前化学療法が奏効し R0 手術を施行し得た局所進行膵尾部腺扁平上皮癌の 1 例. 癌と化学療法 2014 ; 41 (5) : 669-672.
- 6) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 町田 幹<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学放射線科) : 腸間膜動脈血栓症. 消化器外科 2014 ; 37 (6) : 987-994.
- 7) Iwamoto M<sup>1)</sup>, Takei H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Kanazawa Y<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Contralateral Breast Cancer Adjacent to Fibroadenoma : Report of a Case. JOURNAL OF NIPPON MEDICAL SCHOOL 2014 ; 81 (3) : 168-172.
- 8) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 癌治療における eicosapentaenoic acid (EPA) の新たな可能性. 消化と吸収 2014 ; 36 (2) : 243-246.
- 9) 吉岡将史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>2)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 松田陽子<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器内科学, <sup>3)</sup> 日本医科大学医学部病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 原発性多発小腸癌の 1 例. 日本消化器病学会雑誌 2014 ; 111 (8) : 1594-1601.
- 10) 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : マイクロ波での前凝固による腹腔鏡下肝部分切除後に biloma をきたした 1 例. J.Microwave Surg. 2014 ; 32 (1) : 7-11.
- 11) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 特集 II 門脈圧亢進症の治療法の選択とその成績 門脈圧亢進症治療における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績. 消化器内科 2014 ; 59 (2) : 176-180.
- 12) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 藤村俊二<sup>2)</sup>, 丸木雄太<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器内科学) : 小腸内視鏡で確定診断後に単孔式腹腔鏡下手術を行った小腸 GIST の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2014 ; 84 (1) : 134-136.
- 13) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 肝細胞癌手術における内視鏡外科の効用. MEDICAL PHOTONICS 2014 ; 17 : 21-26.
- 14) Yamada T<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Dysmotility by mechanical bowel preparation using polyethylene glycol. JOURNAL OF SURGICAL RESEARCH 2014 ; 191 : 84-90.
- 15) 川野陽一<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 私の工夫 腹腔鏡下肝切除術におけるネラトン付き ENDO MINI-RETRACT を使用した脈管処理法. 日本内視鏡外科学会雑誌 2014 ; 19 (5) : 677-681.
- 16) 會田久美子<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>3)</sup>, 松下 晃<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院消化器・肝臓外科) : 線維化が著明であった膵神経内分泌腫瘍の 2 例. 臨床放射線 2014 ; 59 (8) : 1117-1120.
- 17) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 井上達哉<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸器外科) : シリコン製栓型気管支充填剤が奏効した食道癌術後難治性気胸の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2014 ; 75 (9) : 2462-2466.
- 18) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器科学) : 臨床医のために : 残胃癌に対する腹腔鏡補助下残胃全摘術. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (4) : 178-181.
- 19) 野村 務<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器内科学, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 臨床医のために : 誤嚥性肺炎を認めた逆流性食道炎・食道裂孔ヘルニア患者に対する 外科治療 : 腹腔鏡下逆流防止術の有用性. 日本医科大学医学会雑誌 2014 ; 10 (4) : 182-185.
- 20) 赤間悠一<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 杉田久記<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : アメーバ性大腸炎を伴った直腸癌の 1 例. Progress of Digestive Endoscopy 2014 ; 85 (1) : 120-121.
- 21) Hagiwara N<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Yamashita N<sup>3)</sup>, Wachi E<sup>4)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Tsuboi Cancer Center Hospital, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tsuboi Cancer Center Hospital) : Discovery of the Primary Site of Esophageal Squamous Cell Carcinoma Based on Axillary Lymph Nodes Metastasis Detected with Fluorodeoxyglucose Positron-emission Tomography : Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (6) : 395-400.
- 22) Matsutani T<sup>1)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Yokoyama T<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medi-



- cine, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : A Case of Carcinosarcoma of the Esophagus Detected on Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography. Nippon Medical School 2014 ; 81 (6) : 401-406.
- 23) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科) : 輪状甲状腺切開法の気管カニューレ抜去直後に著大な皮下気腫を認めた食道癌手術後の1例. 外科 2014 ; 76 (11) : 1295-1297.
- 24) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 食道癌術後の再建胃管癌にアルゴンプラズマ凝固・ステント留置を行った1例. Gastroenterological Endoscopy 2014 ; 56 (11) : 3786-3791.
- 25) Shinji S<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>1)</sup>, Ko K<sup>1)</sup>, Machida T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Departments of Radiology, Nippon Medical School) : Superior mesenteric artery syndrome treated with single-incision laparoscopy-assisted duodenojejunostomy. Asian J Endosc Surg 2015 ; 8 : 67-70.
- 26) 會田久美子<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>3)</sup>, 松下 晃<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院消化器・肝臓外科) : 線維化が著明であった隣神経内分泌腫瘍の2例. 臨床放射線 2014 ; 59 (8) : 1117-1120.
- 27) Umezawa H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Immediate Free Jejunum Transfer for Salvage Surgery of Gastric Tube Necrosis. Case Reports in Gastrointestinal Medicine 2014.
- 28) Matsutani T<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>2)</sup>, Nomura T<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Departments of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Transabdominal Approach for Chylorrhea after Esophagectomy by Using Fluorescence Navigation with Indocyanine Green. Case Reports in Surgery 2014.
- 29) 浅見敬一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院産婦人科, <sup>3)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した卵巣癌術後孤立性脾転移の1例. 日本医科大学医学会雑誌 2015 ; 11 (1) : 25-28.
- 30) 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 食道癌手術時に造設した空腸瘻から腸管脱出・嵌頓をきたした1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (8) : 1497-1500.

## 著 書

- 1) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : [自著] 3. 膵嚢胞性疾患. 消化器疾患最新の治療 2015-2016, 2015 ; pp417-421, 南江堂.
- 2) 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科学) : [自著] 肝・膵疾患. 禁煙学 (日本禁煙学会編集), 2014 ; pp48-50, 南山堂.
- 3) 中村慶春<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科) : [自著] 4-1 膵臓がん治療 最新の治療法で対応. 日本医科大学の医師が伝える医学知識がん医療新病院の実力 (日本医科大学監修), 2014 ; pp82-85, 文藝春秋企画出版部.
- 4) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : [自著] IV. 消化器外科 2. 腹腔鏡下膵切除術の進歩と今後の課題. Annual Review 2015 消化器, 2015 ; pp215-220, 中外医学社.
- 5) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : [自著] I. 良性疾患 腹腔鏡下膵中央切除術. 腹腔鏡下消化器外科手術 標準手技シリーズ 3. 胆道・膵臓, 2015 ; pp86-97, 株式会社メジカルビュー社.
- 6) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : [自著] II. 悪性疾患 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術. 腹腔鏡下消化器外科手術 標準手技シリーズ 3. 胆道・膵臓, 2015 ; pp130-145, 株式会社メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 胸部食道癌に対する腹臥位腹腔鏡下食道切除術, 腹腔補助下胃管作製術. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京都), 2014. 4.
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除の標準化に向けた取り組みについて. 室蘭消化器談話会 (第8回) (北海道), 2014. 9.
- 3) 中村慶春<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除の標準化に向けた取り組みについて. 信州膵胆管研究会 (第128回) (長野県), 2014. 9.
- 4) 谷合信彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 肝細胞癌に対する最近の治療戦略. 福井肝臓研究会 (第49回) (福井県), 2014. 9.

- 5) 中村慶春<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科)：腹腔鏡下臍切除術：視覚増幅を享受し、2-D と動作制限を克服する。浜松外科医学会 (第 131 回) (静岡県), 2015. 1.
- (2) シンポジウム：
- 1) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：Previous abdominal surgery の TAPP 症例に対する術前 TAU mapping の活用。日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
- 2) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：大腸癌分子治療における liquid biopsy を利用した real-time personalized therapy. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
- 3) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における臍切離・臍消化管吻合の工夫。日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
- 4) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科)：腹腔鏡下臍切除術における内視鏡外科チーム内で統一された出血時の strategy. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
- 5) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：腹腔鏡下腹会陰直腸切断術におけるストマ造設の工夫。日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 6) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における臍切離・臍空腸吻合の工夫。日本膵臓学会大会 (第 45 回) (福岡県), 2014. 7.
- 7) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：臍頭十二指腸切除後の臍消化管吻合の工夫と臍管チューブ持続低圧吸引の有用性。日本膵臓学会大会 (第 45 回) (福岡県), 2014. 7.
- 8) 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：右側結腸癌に対する単孔式 (TANKO+1) 腹腔鏡補助下回盲部切除。日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 9) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：食道癌に対する腹臥位での胸腔鏡下食道切除術：手術の工夫と安全対策。日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 10) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：臍・胆道悪性疾患に対する腹腔鏡下臍切除術の標準化を目指した手術手技について。日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 11) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科)：術後回復促進のための ESSENSE ESSENSE の基本理念に基づいた大腸癌周術期管理。日本外科代謝栄養学会 (第 51 回) (大阪府), 2014. 7.
- 12) 山田岳史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：オピオイドの導入と栄養治療の標準化。日本緩和医療薬学会年会 (第 8 回) (愛媛県), 2014. 10.
- 13) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科)：大腸癌転移抗 EGFR 抗体治療における liquid biopsy を用いた効果および耐性予測。日本消化器外科学会大会 (第 12 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 14) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科)：中長期成績を加味した臍嚢胞性疾患に対する腹腔鏡下臍切除術の有用性について。日本消化器外科学会大会 (第 12 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 15) 松田範子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2,3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>2,3)</sup>, 高木 元<sup>2,3)</sup>, 小川 令<sup>4)</sup>, 福嶋善光<sup>5)</sup>, 汲田伸一郎<sup>5)</sup>, 竹田晋浩<sup>6,7)</sup>, 徳永 昭<sup>8)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院高気圧酸素治療室, 4) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 5) 日本医科大学付属病院放射線科, 6) 日本医科大学付属病院 ME 部, 7) 日本医科大学付属病院集中治療室, 8) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療に対する新たな展開：高気圧酸素療法と骨髄血管再生医療の併用による創傷治療促進効果。日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 49 回) (鹿児島県), 2014. 11.
- 16) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：結腸癌手術における sliding functional end-to-end anastomosis：無作為比較試験による検討。日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京都), 2014. 12.
- 17) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1)

- 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 定時大腸手術の予防的抗菌薬順守に関する retrospective study. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京都), 2014. 12.
- 18) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝切除術後の SSI 予防の工夫: ドレーン法について. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京都), 2014. 12.
- 19) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医大付属病院消化器外科): 救命センターにおける感染管理. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京都), 2014. 12.
- 20) 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科): 肝切除後に遅発性胆汁漏を認めた 3 症例. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京都), 2014. 12.
- 21) 山田岳史<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科): 骨格筋量の簡易測定とがん治療の骨格筋に与える影響. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 30 回) (兵庫県), 2015. 2.
- 22) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>4)</sup> 坪井病院外科): 寝たきりを作らない外科治療. 日本胃癌学会総会 (第 87 回) (広島県), 2015. 3.
- 23) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1, 2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 大腸ステントによる BTS (bridge to surgery) は閉塞性大腸癌に対する本邦の標準治療となりうるか?. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 高田英志<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科): 成人鼠径ヘルニアに対する前方切開法の術式と術後の検討. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部消化器外科): 次世代での標準化を目指した腹腔鏡下膝切除術の手術手技について. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡県), 2014. 5.
- 3) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科): liquid biopsy による real time assessment を利用した EGFR 阻害剤の新治療戦略. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
- 4) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 食道胃静脈瘤治療における PSE の位置づけ. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
- 5) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹腔鏡補助下大腸切除術における開腹移行例の検討と対策. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
- 6) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科): 結腸ストマ造設における腹膜外経路の有用性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 7) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 経鼻内視鏡の進歩と実際 経鼻内視鏡検査の鼻痛・鼻出血のデメリットを軽減するネイザルスライダの開発と治療における多様な可能. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 98 回) (東京都), 2014. 6.
- 8) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 大腸癌腹腔鏡下手術における術中頭低位の妥当性と安全性. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 9) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 横山茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 閉塞性大腸癌に対する大腸ステントによる減圧後の腹腔鏡手術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 10) 山下浩二<sup>1)</sup>, 武井寛幸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学乳腺外科): 乳房温存内視鏡手術における乳腺断端腫瘍縁距離を縮小する検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 11) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科): 総胆管結石症再発例, 超高齢者に対する鏡視下総胆管十二指腸側々吻合術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.

- 12) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 梅本 淳<sup>2)</sup>, 金 達浩<sup>2)</sup>, 菊川利奈<sup>2)</sup>, 坂本嗣郎<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 東大宮総合病院外科): 腹腔鏡補助下噴門側胃切除再建におけるオーバーラップ法の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 13) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 食道胃接合部癌に対して低侵襲な胸腔鏡下食道切除術・吻合. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 14) 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 当施設における腹腔鏡下逆流防止術: 緊急性のある症例に対応した術式と手技の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 15) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術の手術成績. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島県), 2014. 11.
- 16) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 日本医科大学外科): 抗血栓薬内服患者の内視鏡検査における生検以上の手技: ガイドライン順守の結果. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- (4) セミナー:
- 1) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 内視鏡外科手術の展開と問題点. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- (5) ワークショップ:
- 1) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 遺残無くインスリノーマを腹腔鏡下に切除するための当科での取り組みについて. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術を標準化するための取り組みについて. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
- 3) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学部消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術の次世代への継承における考察. 日本膵臓学会大会 (第 45 回) (福岡県), 2014. 7.
- 4) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 大腸癌治療における腫瘍由来循環 DNA の役割: CTC (circulating tumor cell) との併用. 日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 5) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 骨格筋力を維持し, 予後の改善と要介護を予防する継続的な NST 活動. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 6) 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 右側結腸癌に対する Reduced Port Surgery. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 8 回)・Needlescopic Surgery Meeting (第 11 回) (福井県), 2014. 8.
- 7) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 遺残無くインスリノーマを腹腔鏡下に切除するための当科の取り組み. 日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 (第 2 回) (東京都), 2014. 9.
- 8) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 救急医療に対する腹腔鏡下手術の標準化: 閉鎖孔, 鼠径部ヘルニア嵌頓を中心に. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 9) 村木 輝<sup>1)</sup>, 高橋和裕<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>2)</sup>, 山岸征嗣<sup>2)</sup>, 野村 聡<sup>2)</sup>, 塙 秀暁<sup>2)</sup>, 松信哲朗<sup>2)</sup>, 千原直人<sup>2)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup>, 吉野雅則<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 東戸塚記念病院外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下虫垂切除術における Reduced Port Surgery の解析: 整容性, 経済性, 疼痛の評価について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 10) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 鏡視下系統的肝切除術におけるグリソン一括処理の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 11) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合

- 信彦<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下膵切除術の定型化と次世代への継承について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 12) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) を安全な術式とするための当科の取り組み. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 13) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>3)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下膵切除術における随伴性膵炎を伴った剥離困難な症例に対するソフト凝固システムの使用法. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 14) 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科, 2) 東京都健康長寿医療センター) : 消化管神経内分泌癌におけるがん幹細胞マーカーの同定と lumican の役割. 日本消化器外科学会大会 (第 12 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 15) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 胆道癌に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の標準化に向けた手術手技と中長期手術成績. 日本胆道学会学術集会 (第 50 回) (東京都), 2014. 9.
- 16) 山下浩二<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 武井寛幸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学乳腺外科) : 乳腺内視鏡手術による乳房温存手術の整容性向上のための手技. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島県), 2014. 11.
- 17) 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 膵臓・胆道鏡視下手術の効果的トレーニングのために—当科におけず Swine (ブタ) 鏡視下膵切除術モデルの構築—. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島県), 2014. 11.
- 18) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 腹腔鏡下膵切除術における随伴性膵炎を伴った剥離困難な症例に対するソフト凝固システムの使用法. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島県), 2014. 11.
- 19) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科・消化器外科) : 腹腔鏡手術時代の膵頭神経叢解剖. 臨床解剖研究会 (第 18 回) アジア臨床解剖学会 (第 2 回) (東京都), 2014. 11.
- 20) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 大腸汚染手術における SSI 発生率から検討した腹壁閉鎖法の選択. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- 21) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 嵌頓ヘルニアに対する腹腔鏡下手術の標準化への取り組み. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- 22) 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 教育機関で行う Hybrid 単孔式虫垂切除術. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府), 2015. 3.
- (6) 一般講演 :
- 1) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 当科における膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京都), 2014. 8.
- 2) 横山 正<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 平方敦史<sup>2)</sup>, 上田純志<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科) : 当施設における膵癌術前補助療法の現況と成績. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京都), 2014. 8.
- 3) 村木 輝<sup>2,3)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 山岸征嗣<sup>2)</sup>, 中田亮輔<sup>2)</sup>, 三島圭介<sup>2)</sup>, 有田 淳<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 3) 東戸塚記念病院外科) : 自動縫合器を用いた尾側膵切除における膵液瘻発生の危険因子としての膵断断面の厚みの検討. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京都), 2014. 8.
- 4) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1,2)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 正風会小林病院外科, 3) 日本医科大学外科) : 膵頭神経叢浸潤陽性膵癌に対する左方アプローチによる膵頭十二指腸切除の手技と臨床成績. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京都), 2014. 8.
- 5) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 膵頭十二指腸切除術後, 膵液瘻の重症化を予防するドレーン挿入法. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京都), 2014. 8.
- 6) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 肝切除術後胆汁漏に対する BLAKE Silicon Drain を

- 用いた腹腔内ドレーン法の有効性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
- 7) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下膵体尾部切除後の膵液瘻に対する洗浄ドレーンへの交換と EUS ガイド下穿刺ドレーナージ手技. 日本肝胆膵外科学会学術総会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 8) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>3)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 八木重記<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, その他 3 名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学外科): 肝門部領域癌に対する門脈塞栓を踏まえた術前ドレーナージの工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 9) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院): 安全な腹腔鏡下膵切除術を行うためのエネルギーデバイスの選択とその工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 10) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 自施設における超高齢者症例に対する膵頭十二指腸切除術の要点. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 11) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 高齢者総胆管結石症に対する総胆管十二指腸側々吻合術. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 12) 上田純志<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 肝細胞癌における肝線維化マーカーの検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 13) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵切除術における膵消化管吻合の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 14) 高田英志<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の 2 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 15) 神田知洋<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 肝胆膵領域の腹腔鏡手術における癒着防止フィルム貼付の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 16) 山初和也<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科): 積極的膵切除を施行した異時性子宮平滑筋肉腫膵転移症例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 17) 村木 輝<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学): 自動縫合器を用いた尾側膵切除における膵液瘻の危険因子としての膵離断面の厚みの検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 18) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 若年に発症した好酸球浸潤を伴う巨大胆嚢腺筋腫の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 19) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における膵神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術の手術成績. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
  - 20) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹壁癒着ヘルニアと右鼠径ヘルニアと右鼠径ヘルニアの併存に対する一期的腹腔鏡下ヘルニア修復術. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
  - 21) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 鼠径部, 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡下手術の定型化. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
  - 22) 菊池友太<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 関口久美子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下に修復しえた鼠径ヘルニア嵌頓の 2 例. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
  - 23) 原絵津子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 北野史朗<sup>3)</sup>, 中山雅人<sup>3)</sup>, 牛田弘<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 凸版印刷総合研究所): liquid biopsy による

- real time assessment を利用した EGFR 阻害剤 rechallenge 療法. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
- 24) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 大腸癌治療と成人病予防. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
  - 25) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学附属多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学附属千葉北総病院外科: 当科における食道癌術後胃管癌および本邦報告症例の臨床病理学的検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
  - 26) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 閉塞性大腸癌に対する治療内容と予後の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
  - 27) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>2)</sup>, 川見典之<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学消化器内科学: 食道粘表皮癌の 2 切除例. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
  - 28) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 東大宮総合病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 胃癌手術患者の予後におけるサルコペニアの影響. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京都), 2014. 4.
  - 29) 高貫公義<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 佐竹秀一<sup>1)</sup>, 武田幸樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>2)</sup>, 高橋吾郎<sup>2)</sup>, 神田知洋<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 腹部 CT 検査で得られる大腰筋・脊柱起立筋断面面積, 皮下脂肪組織断面面積の経時的評価による術後の予後評価. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 30) 上田康二<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 疾患構造, 初回手術法の変化に対応した残胃癌に対する strategy. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 31) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 閉塞性大腸癌症例に対する stent-laparoscopic approach (sLAP) の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 32) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科: 当科における食道癌術後の胸腔ドレーン管理の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 33) 保田智彦<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院: 上部限局胃癌に対する噴切の適応拡大一迷走神経温存胃前壁漿膜筋縦切開噴門形成と胃全摘の長期予後から. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 34) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科: 脾神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下脾切除術の手術成績. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 35) 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科: 当施設における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP 法) の導入. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 36) 平方敦史<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 安全で確実な系統的肝切除をするために. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 37) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科: 当科における腹腔鏡下脾臓・脾動静脈温存脾体尾部切除術の標準手技. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 38) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科: 誤嚥性肺炎を繰り返す胃食道逆流症に対する腹腔鏡下胃瘻造設を併施した腹腔鏡下逆流防止術. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 39) 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 若年者の食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核出術を行った 2 例. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 40) 松本智司<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科: 頭側アプローチによる精緻な右側結腸切除術. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
  - 41) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学附属病院消化器外科, 3) 日本医科大学附属千葉北総病院外科: 地域癌拠点病院での胃癌 D2 手術の

- quality,safety&education. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 42) 鈴木英之<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，三浦克洋<sup>1)</sup>，村木 輝<sup>1)</sup>，大山莉奈<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：大腸癌腹腔鏡下手術における術中頭低位の安全性に関する検討（国内外の論文レビューと現況）. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 43) 野村 務<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科）：内視鏡外科手術の今後のさらなる発展のために：現状の問題点と具体的な方策. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 44) 谷合信彦<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>2)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，川野陽一<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，上田純志<sup>1)</sup>，高田英志<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科）：肝細胞癌に対する安全な系統肝切除術の適応と手技（部分肝切除との比較から）. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 45) 牧野浩司<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，岩井拓磨<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>2)</sup>，松谷 毅<sup>2)</sup>，野村 務<sup>2)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：胃管後壁に刺入した CDH トロッカーに先行装着したアンビルを食道に挿入し巾着縫合する頸部吻合の工夫. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 46) 小泉岐博<sup>1)</sup>，菅 隼人<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，山岸杏彌<sup>1)</sup>，原 敬介<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：横行結腸間膜頭側からアプローチする腹腔鏡下横行結腸癌手術. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 47) 赤城一郎<sup>1)</sup>，島貫公義<sup>4)</sup>，松下 毅<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，岩尾年康<sup>5)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>3)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科，<sup>4)</sup> 会津中央病院外科，<sup>5)</sup> 会津中央病院消化器内科）：EUS ガイド下経胃管的ドレナージによる食道癌術後乳び胸に対する新しい治療法. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 48) 松谷 毅<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：胸腔鏡下食道切除術導入後の再建・吻合法. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 49) 櫻澤信行<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，鶴田宏之<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院，<sup>2)</sup> 日本医大付属病院）：当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除における D2 郭清の導入，D1+ との比較検討. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 50) 菅 隼人<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，山岸杏彌<sup>1)</sup>，原 敬介<sup>1)</sup>，松本智司<sup>2)</sup>，鶴田宏之<sup>2)</sup>，鈴木英之<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター）：局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法および術前化学療法. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 51) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，菅 隼人<sup>1)</sup>，松本智司<sup>2)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，山岸杏彌<sup>1)</sup>，原 敬介<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科）：超高齢者（85 歳以上）大腸癌手術症例の検討. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 52) 坊 英樹<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，塙 秀暁<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学外科）：消化器癌手術における SSI 予防を念頭においた閉創の工夫. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 53) 吉岡正人<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，川野陽一<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，上田純志<sup>1)</sup>，高田英志<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：当科における腹腔鏡下肝切除術の適応拡大と手技の工夫. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 54) 神田知洋<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，川野陽一<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下分流手術，Feasibility を目差した術式の変遷と工夫. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 55) 近藤亮太<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，関 奈紀<sup>1)</sup>，堀田正啓<sup>1)</sup>，金丸里奈<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：多彩な病理組織像を呈した後腹膜脂肪肉腫の 1 例. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 56) 村木 輝<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，吉野雅則<sup>1)</sup>，松信哲朗<sup>1)</sup>，三浦克洋<sup>1)</sup>，清水貴夫<sup>1)</sup>，大山莉奈<sup>1)</sup>，水谷 聡<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科）：大腸癌手術症例におけるクリニカルパスの有用性とその評価. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 57) 丸山 弘<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，堀田正啓<sup>1)</sup>，関 奈紀<sup>1)</sup>，金丸里奈<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医大多摩永山病院外科，<sup>2)</sup> 日本医大付属病院消化器外科）：腹腔鏡補助下大腸手術における SSI 対策と発症要因の検討. 日本消化器外科学会総会（第 69 回）（福島県），2014. 7.
- 58) 上田純志<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>2)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，川野陽一<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，高田英志<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科）：肝細胞癌における肝線維化マ



- カーと臨床病理学的因子および予後の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島県), 2014. 7.
- 59) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 閉塞性大腸癌の治療と予後. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 60) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 結腸癌手術における sliding functional end-to-end anastomosis の功罪 - 無作為比較試験による. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 61) 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院消化器外科: Circulating cell free DNA 量は治療効果を反映する. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 62) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: liquid biopsy を用いた KRAS および BRAF 変異解析による抗 EGFR 抗体の効果予測. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 63) 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: Fournier 症候群加療後, 直腸切断術と右腎溝皮弁による腔後壁再建術を行った, 直腸癌腔瘻. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 64) 日下部誠<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: 下腸間膜静脈内に腫瘍塞栓を伴った直腸癌同時性肝転移の 1 例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 65) 松本智司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 右側結腸がんに対する頭側アプローチ法の有用性と定型化. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 66) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉「病院消化器病センター」, 2) 日本医科大学消化器外科: 大腸腹腔鏡下手術における妥当な術中頭低位と安全性に関する検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (神奈川県), 2014. 11.
- 67) 山初和也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科: 腹腔鏡下瘻切除術における瘻インスリノーマ完全摘出への取り組み. 日本瘻臓学会大会 (第 45 回) (福岡県), 2014. 7.
- 68) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 瘻癌における STAT5b の抗癌剤感受性, 接着能, 浸潤能への関与. 日本瘻臓学会大会 (第 45 回) (福岡県), 2014. 7.
- 69) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院外科: 切除可能な局所進行直腸癌に対する術前療法. 日本外科学会連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 70) 吉岡将史<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 眞鍋理子<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 重篤な誤嚥性肺炎改善後, 腹腔鏡下逆流防止術を施行した III 型食道裂孔ヘルニアの 1 例. 日本外科学会連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 71) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: 高齢者大腸癌に対する腹腔鏡下手術症例の検討. 大腸研究会 (第 81 回) (愛知県), 2014. 7.
- 72) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科: 高齢者における根治切除不能 stageIV 大腸癌症例の検討. 大腸研究会 (第 81 回) (愛知県), 2014. 7.
- 73) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: Laparoscopic pancreatectomy for low grade malignancies of the pancreas. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 74) 原総津子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 北野史郎<sup>3)</sup>, 中山雅人<sup>3)</sup>, 牛田 弘<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 凸版印刷総合研究所: liquid biopsy を利用した抗 EGFR 抗体の効果および耐性の予測. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 75) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 瘻神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下瘻切除術の手術成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 76) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科: 腹腔鏡下瘻切除術における術中出血に対する strategy. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 77) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科: 腹臥位胸腔鏡下食道切

- 除術における手技工夫と成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 78) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 高度進行胃腹膜播種症例に対する治療の検討: minimal peritoneal metastasis, CY1P0, CY1P1 (旧規約) 症例において. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 79) 上田純志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学第二病理): Epithelial splicing regulatory protein 1 による膵癌の転移抑制および予後との関連. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 80) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝臓に対する安全な鏡視下系統的肝切除術への工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 81) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 東大宮総合病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): サルコペニアの評価と胃癌に対する胃切除患者における栄養リハビリテーションの必要性. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 82) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 骨格筋量が終末期患者の予後に与える影響: 最大大腰筋断面積は骨格筋量の指標となる. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 83) 安藤文彦<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 高齢者の結腸癌術後腸管運動: 何が回復に影響するのか?. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 84) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): stageIV 大腸癌における原発巣切除の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 85) 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): E-PASS scoring system による胃癌手術における年齢別術後合併症発生リスクの検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 86) 星野有哉<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 当科における膵内分沁腫瘍切除例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 87) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 小泉里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 当科における膵癌術前補助化学療法の現況とその成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 88) 野村 務<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 医学生の内視鏡外科 Virtual reality simulator (VRS) トレーニングの有用性: 胆嚢モデルを用いた Augmented reality simulator (ARS) による評価. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 89) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 小泉里奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡補助下大腸手術における SSI 対策. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 90) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 進行再発大腸癌に対する XELOX と FOLFOX の比較検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 91) 高田英志<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>3)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学統御機構病理学, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科): 肝細胞癌における GRP78, PDIA3, PSME2 の発現と臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 92) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 膵癌における STAT5b の生物学的役割についての検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 93) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 膵外神経叢浸潤陽性膵癌に対する左方アプローチによる膵頭十二指腸切除の実際と臨床成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 94) 山初和也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>2)</sup>, 清水哲也<sup>2)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学外科): インスリンノーマに対する腹腔鏡下膵切除術: 腫瘍の局在診断と末梢動脈血インスリン値モ

- ニタリングの有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 95) 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腸管虚血再灌流障害における visfatin 阻害剤の急性肺障害抑制効果. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 96) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): マウス盲腸穿孔結紮術により誘導される脂肪および肺組織炎症に対するピオグリタゾン前投与の効果. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 97) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 切除可能 T3/4 下部直腸癌に対する治療戦略. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 98) 原 敬介<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>3)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 島田隆<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学大学院分子遺伝医学, 3) 日本医科大学第二病理): 大腸癌病理標本における RNA 安定性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 99) 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 吉村久志<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学): 消化管神経内分泌癌培養細胞株の樹立とがん幹細胞マーカーの同定. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 100) 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 開腹移行へのリスク因子分析から見た腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応と限界. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 101) 小峯 修<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術は術後創部痛・整容性を改善するか? : 細径鉗子併用単孔式 (SILC) と 4 孔式手術 (CLC) の前向き無作為化比較試験. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 102) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 消化器癌手術における創感染のない最適創治療をめざした閉創の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 103) 松本智司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 脾彎曲部結腸癌に対する鏡視下 D3 郭清手技. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 104) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 小泉里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>3)</sup>, 松谷 毅<sup>3)</sup>, 野村 務<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, その他 3 名 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学消化器外科): 側臥位と腹臥位胸腔鏡 (VATSE) 及び縦隔鏡食道切除術 (MATHE) の経験と各々のメリット・デメリットから選択した現在の方法. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 105) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 低侵襲食道癌手術における安全性を考慮した腹腔鏡補助下胃管作成および吻合の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 106) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 当院における超高齢者胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 107) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科): 心肺疾患を合併する胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 108) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 長期予後などから考える (今後, 増加が予想される) 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除の適応拡大. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都府), 2014. 4.
- 109) 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): リコンビナントトロンボモジュリンは敗血症性 DIC の予後を改善させるか? : メタアナリシスによる検討. Shock 学会 (第 29 回) (愛媛県), 2014. 5.
- 110) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 消化器外科領域における上部消化管潰瘍穿孔例の時代による変遷とその背景. 消化器疾患病態治療研究会 (第

- 23回) (北海道), 2014. 8.
- 111) 吉岡将史<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 結節性多発動脈炎経過中に発症した胆嚢穿孔・出血に対し鏡視下胆摘術を施行した1例. 外科集談会 (第833回) (東京都), 2014. 6.
- 112) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 経鼻内視鏡検査の鼻痛・鼻出血のデメリットを軽減するネイザルスライダの開発と治療における多様な可能. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第98回) (東京都), 2014. 6.
- 113) 赤間悠一<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 杉田久記<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): アメーバ感染を伴った直腸癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第98回) (東京都), 2014. 6.
- 114) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存脾体尾部切除術 (Lap-SPDP) の標準手技. サマーセミナー in OKINAWA (第3回) (沖縄県), 2014. 7.
- 115) 若林秀幸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): マウス盲腸穿孔結紮術による脂肪および肺組織炎症に対するピオグリタゾン前投与の効果. Shock学会 (第29回) (愛媛県), 2014. 5.
- 116) Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): Suppression of STAT5b Expression in PANC-1 Pancreatic Cancer Cells Leads to Attenuated Survival, Adhesion and Invasion. 日本癌学会学術集会 (第73回) (神奈川県), 2014. 9.
- 117) Takata H<sup>1, 2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>3)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Weixia P<sup>1)</sup>, Ishino K<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Kawamoto Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Dept. Integr. Diag. Path., Nippon Med. Sch., 2) Dept. Surg. Nippon Med. Sch., 3) Fac. Pharm., Kinki Univ.): Identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. 日本癌学会学術集会 (第73回) (神奈川県), 2014. 9.
- 118) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school): Laparoscopic Surgery for Pancreatic Cancer. The Korea-Japan Pancreato-Biliary Collaborative Multicenter Symposium (Seoul), 2014. 8.
- 119) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 鑑別診断に苦慮し腹腔鏡下脾中央切除術を施行した脾体部腫瘍の1例. 東京脾臓研究会 (第24回) (東京都), 2014. 5.
- 120) 日下部誠<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学消化器内科): 腹膜炎症状を呈した小腸リンパ管腫の1例. 日本消化器病学会関東支部 (第329回) 例会 (東京都), 2014. 5.
- 121) 増田寛喜<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 超音波内視鏡膵管穿刺ランデブー法を用いて副乳頭切開を施行したPancreas divisumの1例. 日本消化器病学会関東支部 (第331回) 例会 (東京都), 2014. 9.
- 122) 野村 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): Sarcoid reactionによる広範リンパ節腫大が手術適応を迷わせた進行食道癌の1例. 日本消化器病学会関東支部 (第331回) 例会 (東京都), 2014. 9.
- 123) 永嶋裕司<sup>1)</sup>, 吉本憲介<sup>1)</sup>, 嶋山文子<sup>1)</sup>, 三浦富宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日産厚生会玉川病院消化器内科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学付属病院外科): 市販の漢方薬が原因と考えられた薬剤性肝障害の1例. 日本消化器病学会関東支部 (第331回) 例会 (東京都), 2014. 9.
- 124) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): Eicosapentaenoic acid (EPA) と Docosahexaenoic acid (DHA) の抗腫瘍効果. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (神奈川県), 2014. 8.
- 125) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 輪湖哲也<sup>2)</sup>, 岸田悦子<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学付属病院薬剤部): 切除不能・再発胃癌に対する nab-Paclitaxel の臨床効果と安全性. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (神奈川県), 2014. 8.
- 126) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 財団法人慈山会研究所付属坪井病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 播種を中心としたStageIV胃癌の治療略の平遷と現状: TS-1+PTX (iv,ip) の導入. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (神奈川県), 2014. 8.
- 127) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永

- 山病院外科, <sup>4)</sup> 財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院外科, <sup>5)</sup> 医療法人社団協友会東大宮総合病院外科): 心肺疾患を併存する胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県), 2014. 8.
- 128) Takahashi G<sup>1,2)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Kan H<sup>2)</sup>, Yamada T<sup>2)</sup>, Koizumi M<sup>2)</sup>, Shinji S<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School): Is Preoperative Decompression Necessary for Malignant Large Bowel Obstruction?. The 14th Japan-China-Korea Colorectal Cancer Symposium (大阪府), 2014. 9.
- 129) 清水哲也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下手術. 日本胆道学会学術集会 (第 50 回) (東京都), 2014. 9.
- 130) 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 鏡視下胆管消化管吻合習得のための豚胆嚢空腸吻合モデル構築. 日本胆道学会学術集会 (第 50 回) (東京都), 2014. 9.
- 131) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当科における胃切除術後総胆管結石症の治療方針と治療成績. 日本胆道学会学術集会 (第 50 回) (東京都), 2014. 9.
- 132) 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 先天性胆道拡張症における分流手術後 16 年目に遺残膵内胆管内に発生した胆管癌の 1 切除例. 日本膵・胆管合流異常研究会 (第 37 回) (神奈川県), 2014. 9.
- 133) 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 先天性胆道拡張症 I 型に対する腹腔鏡下分流手術. 日本膵・胆管合流異常研究会 (第 37 回) (神奈川県), 2014. 9.
- 134) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 杉田久記<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における腹腔鏡下腹壁瘻痕ヘルニア修復術における手技の工夫. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 6.
- 135) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科): 胃癌手術における予後予測因子としての modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義. 日本外科代謝栄養学会 (第 51 回) (大阪府), 2014. 7.
- 136) 山田岳史<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山口文子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科): 術式別パスによる大腸癌周術期管理. 日本医療マネジメント学会学術総会 (第 16 回) (岡山県), 2014. 6.
- 137) 山際 亮<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 専修医の技量に配慮した腹腔鏡下虫垂切除術 (LA) の修練. 日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 138) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 大腸 Self-expanding metallic stent の検討. 日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都), 2014. 6.
- 139) 高田英志<sup>1,2)</sup>, 工藤光洋<sup>2)</sup>, 山本哲志<sup>3)</sup>, 彭 為霞<sup>2)</sup>, 藤井雄文<sup>2)</sup>, 手塚 潔<sup>2)</sup>, 石野孔祐<sup>2)</sup>, 高屋 茜<sup>2)</sup>, 紺野亜希子<sup>2)</sup>, 川原清子<sup>2)</sup>, 河本陽子<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学統御機構病理学, <sup>3)</sup> 近畿大学薬学部病態分子解析学): 肝細胞癌において発現低下を示す代謝関連タンパク質の検討. 日本病理学会総会 (第 103 回) (広島県), 2014. 4.
- 140) 呉 壮香<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1,2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院統御機構病理学, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科): 食道扁平上皮癌にバレット食道腺癌を合併した 2 例の検討. 日本病理学会総会 (第 103 回) (広島県), 2014. 4.
- 141) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): 中長期成績を加味した膵嚢胞性疾患に対する腹腔鏡下膵切除術の有有用性について. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 88 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 142) 高屋 茜<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 紺野亜希子<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 藤井雄文<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 石野孔祐<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>2)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院統御機構病理学, <sup>2)</sup> 近畿大学薬学部病態分子解析学): FFPE 組織を用いた卵巣癌プロテオーム解析による新規バイオマーカーの深索. 日本病理学会総会 (第 103 回) (広島県), 2014. 4.
- 143) 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当院における肝切除の術前シミュレーションの導入とその実際. 肝癌治療シミュレーション研究会 (第 9 回) (大阪府), 2014. 9.
- 144) 近藤亮太<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 術前肝臓シミュレーションで脈管の描出が困難であった 2 症例. 肝癌治療シミュレーション研究会 (第 9 回) (大阪府), 2014. 9.
- 145) 上田純志<sup>1,2)</sup>, 吉田 寛<sup>1,2)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1,2)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医大多摩永山病院外科): 非 B 非 C 肝細胞癌における肝線維化マーカーの意

- 義. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 146) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): 膵癌における STAT5b の抗癌剤感受性, アポトーシス, 接着能, 浸潤能への関与. 日本消化器病学会大会 (第 56 回) (兵庫県), 2014. 10.
- 147) 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当院における早期胃癌治療の現状と問題点. 武蔵野消化器病談話会 (第 45 回) (東京都), 2014. 10.
- 148) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術の安全な普及をめざした膵切離・膵消化管吻合の工夫. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 6 回) (岩手県), 2014. 10.
- 149) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): ラバ膵の教育と標準化, 保険収載実現に向けた考察. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 6 回) (岩手県), 2014. 10.
- 150) 上田純志<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科): StageIV 大腸癌に対して 4 回の内視鏡外科手術を施行し長期生存を得た 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 151) 高 和英<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 術前診断に難渋し腹腔鏡下肝切除を施行した肝結節の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 152) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 術前鑑別診断が困難であり, 腹腔鏡下膵中央切除術を施行した膵体部膵内副脾の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 153) 山田岳史<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 直腸瘤腹腔鏡手術では小腸運動が早期に回復する. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 154) 近藤亮太<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 巨大肝嚢胞に対する腹腔鏡下肝嚢胞開窓術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 155) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における腹腔鏡下肝切除術の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 156) 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学, 2) 日本医科大学多摩永山病院): 完全鏡視下肝外側区域切除における当科の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 157) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 臍部単孔式腹腔鏡補助下遊離空腸採取手技および開腹法との比較検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 158) 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): S 状結腸軸捻転症に対して腹腔鏡補助下 S 状結腸切除術を行った 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 159) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 東大宮総合病院外科): 噴門近傍胃粘膜下腫瘍に対する超音波凝固切開装置を用いた腹腔鏡下胃局所切除. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 160) 上田康二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 経乳頭のアプローチが困難であった総胆管結石に対し腹腔鏡下胆管十二指腸吻合術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 161) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>3)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 安全に導入可能で Stsasis の少ない幽門側胃切除 R-Y 再建. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.

- 162) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 東大宮総合病院外科) : 指導的助手による6番郭清における術野展開の考え方. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 163) 川島万平<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>3)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下インスリノーマ手術における, 遺残無き腫瘍切除のための当科の取り組み. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 164) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 胆石症腹腔鏡下胆嚢摘出術後の落下結石の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 165) 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 当院における後期高齢者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 166) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 特殊な膜構造を呈する鼠径ヘルニアに対する TAPP に必要な知識と手術手技. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 167) 進士誠一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 右側結腸癌に対する単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 168) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : LAG (腹腔鏡下胃切除) より学ぶ OG (開腹胃切除) にての手術教育. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 169) 平方敦史<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院外科) : 鏡視下 Hassab 手術の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 170) 松本智司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横山茂樹<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 鏡視下大腸手術における頭側アプローチによる精緻な肝・脾彎曲部の脱転と D3 郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 171) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 松田陽子<sup>3)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学病理学) : 膀胱癌に対する術前科学療法としての GS 療法の意義と問題点. 膀胱癌術前治療研究会 (第9回) (鹿児島県), 2014. 10.
- 172) 横山康行<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 当科における腹腔鏡下直腸切除術後の縫合不全の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 173) 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 審査腹腔鏡による術後腹膜播種診断の試み. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 174) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 当科における腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 175) 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 当科における再発肝癌症例に対する鏡視下再肝切除術. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 176) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 減圧管留置後に待機的に腹腔鏡補助下手術を行った閉塞性大腸癌症例の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 177) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 腹腔鏡下直腸癌手術における腹膜外経路によるストマ造設の有用性. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 178) 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 上

- 田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 若年者の巨大食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核出術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会(第27回)(岩手県), 2014. 10.
- 179) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除腹腔鏡補助下胃管作成術の術後合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会(第27回)(岩手県), 2014. 10.
- 180) 赤間悠一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術術後早期に発症した移動盲腸による内ヘルニアの1例. 日本内視鏡外科学会総会(第27回)(岩手県), 2014. 10.
- 181) Takata H<sup>1, 2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Peng W<sup>1)</sup>, Ishino K<sup>1)</sup>, Kawamura Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, 2) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School): Proteomic analysis for identification of down-regulated proteins using formalin-fixed paraffin-embedded HCC tissue. 19th World Congress on Advances in Oncology and 17th International Symposium on Molecular Medicine (Greece), 2014. 10.
- 182) Arai H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary -Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 3) Department of Integrated Diagnosticpathology, Nippon Medical School): A case report of synchronous early gastric adenocarcinoma and gastric mucosa associated with a lymphoid tissue lymphoma. 19th World Congress on Advances in Oncology and 17th International Symposium on Molecular Medicine (Greece), 2014. 10.
- 183) Yamada T<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>2)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>2)</sup>, Yamagishi A<sup>1)</sup>, Yokoyama Y<sup>1)</sup>, Iwai T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Dept. Digestive Surgery, Nippon Medical School, 2) Dept. Surgery, Nippon Medical School, Chiba-hokuso Hospital): Real time personalized therapy for colorectal cancer by using liquid biopsy. 日本消化器癌発生学会総会(第25回)(福岡県), 2014. 11.
- 184) 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): ERCP 関連後腹膜穿孔の原因とその対応. 日本消化器内視鏡学会総会(第88回)(兵庫県), 2014. 10.
- 185) 金子恵子<sup>1)</sup>, 川本智章<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>2)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 清水哲也<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器肝臓内科, 2) 日本医大消化器外科): 当院における超音波内視鏡(EUS)を施行した膵嚢胞性症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会(第88回)(兵庫県), 2014. 10.
- 186) 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科, 3) 日本医大千葉北総病院消化器内科): ADL低下症例における腹腔鏡下逆流防止術: 腹腔鏡下胃瘻造設術付加の有用性. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 187) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医大消化器外科): 切除不能食道癌治療の新たな試み: 胸腔鏡下食道バイパス術の早期施行から化学放射線療法へ. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 188) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科, 2) 日本医大千葉北総病院外科, 3) 日本医大多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 東大宮総合病院外科): 胃癌手術における modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 189) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): 手術を行った大腸憩室疾患症例の検討. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 190) 近藤亮太<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医大多摩永山病院外科, 2) 日本医大付属病院1外科): PET-CT 検査陽性で悪性が強く疑われた黄色肉芽腫性胆嚢炎症例の検討. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 191) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): 胃切除 Roux-Y/Billroth-II 再建後, 総胆管結石症に対する総胆管十二指腸吻合術の検討. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 192) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科): 腹腔鏡下インスリノーマ手術における, 遺残無き腫瘍切除のための当科の取り組み. 日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 193) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日



- 本医大付属病院1外科)：臍切除後の臍液瘻に対する洗浄用ドレーンの工夫と交換法およびEUSガイド下穿刺ドレナージ手技。日本消化器外科学会大会(第12回)(兵庫県), 2014. 10.
- 194) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 高 和英<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科)：食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下手術(VASTE)のメリット・デメリットと106recL郭清の工夫。日本内視鏡外科学会総会(第27回)(岩手県), 2014. 10.
- 195) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科)：我々の臍消化管吻合法の工夫—臍管径に応じた二種類の吻合法—とその成績。日本消化器外科学会総会(第69回)(福島県), 2014. 7.
- 196) 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：肝切除術における開腹, 鏡視下手術の教育法の比較。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 197) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1,2)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 正風会小林病院外科, 3) 日本医科大学外科)：切除可能臍頭部癌に対するSMA神経叢全周温存, total Mesopancreas resectionを伴う左方アプローチ臍頭十二指腸切除術。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 198) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：教育機関で行うInterval appendectomyを併用したHybrid単孔式虫垂切除術。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 199) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科)：食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下手術(VATSE)のメリットとストリッピングによる106recL郭清の工夫。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 200) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：食道癌再建術の工夫：腹腔鏡下胃管と腹腔鏡補助下胸骨後経路作成。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 201) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：Marionette Techniqueを用いた単孔式腹腔鏡補助下回首部切除術。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 202) 神田知洋<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：当院における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術の検討。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 203) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 八木亜記<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科 消化器外科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科)：腹腔鏡下側方リンパ節郭清—簡便化と定型化を目指して—。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 204) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科)：幽門狭窄を伴った非根治胃癌に対する腸瘻による経腸栄養維持, 化学療法継続性, 在宅治療の改善。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 205) 赤城一郎<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下食道切除術・吻合。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 206) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：閉塞性大腸癌症例の治療内容および臨床病理学的検討。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 207) 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 松下晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下肝外側区域切除術を安全に行うための当科の工夫。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.
- 208) 赤間悠一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科)：乳糜腹水を伴ったPetersen's herniaの1例。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県), 2014. 11.

- 209) 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 当科における腹腔鏡下肝切除術の手法・工夫. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 210) 保田智彦<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 長期予後改善を目指した上部限局胃癌に対する噴門側胃切除. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 211) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 食道癌手術における腹腔鏡下胃管作成および胃管挙上の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 212) 横山康行<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 放射線不透過マーカーを用いた StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡手術の有用性の検討. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 213) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 八木亜紀<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 大腸癌腹腔鏡下手術を安全に行うための術中体位の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 214) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 再発性腓頭部 Ewing 肉腫に対し, 亜全胃温存腓頭十二指腸切除術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 215) 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 当科における肝切除後性の遅発性胆汁漏症例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 216) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 東大宮総合病院外科) : 胃癌手術における modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 217) 古木裕康<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 梅澤裕巳<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学頭頸部外科, 3) 日本医科大学形成外科) : 胸腔鏡下に切除した食道原発平滑筋肉腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 218) 原絵津子<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 一般外科手術患者における術前下肢超音波診断スクリーニングの適応. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 219) 増田寛喜<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : Upside down stomach を呈した III 型食道裂孔ヘルニアに対し腹腔鏡下にメッシュ修復術を施行した1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 220) 日下部誠<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡補助下に摘出した出血性空腸脂肪腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 221) 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大消化器外科) : 自然穿孔を契機に発見された胃悪性リンパ腫の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 222) 安藤文彦<sup>1,2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1,2)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院外科, 2) 慈山会坪井病院外科) : 右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対して幽門側胃切除術を施行した3例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 223) 高 和英<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大付属病院消化器外科) : イレウス管留置が誘因と考えられた小腸重積症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 224) 近藤亮太<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 赤間悠一<sup>1)</sup>, 高野竜太郎<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院) : 巨大胃 GIST と巨大肝転移巣に対して同時切除した1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 225) 上田康二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 山下直行<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院, 2) 日本医科大学付属病院, 3) 坪井病院) : 胃癌術後一ヶ月で発見された髄膜瘤腫症の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 226) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器・乳腺外科) : 腸管穿孔にて緊急手術を要した多発小腸憩室の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島県), 2014. 11.
- 227) 武田幸樹<sup>1,2)</sup>, 島貫公義<sup>1)</sup>, 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 旭 修司<sup>1)</sup>, 坂本 渉<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1,2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院外科, 2) 日本医科大学消

- 化器外科)：低栄養状態，サルコペニアと低fT3状態を繰り返し併発し，腸管ポリープの摘出にて改善を認めた Peutz-Jeghers 症候群の1例。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県)，2014. 11.
- 228) 川島万平<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，山初和也<sup>3)</sup>，横山 正<sup>2)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学多摩永山病院外科，3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：臍頭十二指腸切除術を施行後，内ヘルニアを生じた1例。日本臨床外科学会総会(第76回)(福島県)，2014. 11.
- 229) 増田寛喜<sup>1)</sup>，菅野仁士<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，柿沼大輔<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：狭窄をきたした食道胃接合部癌に対し術前 S-1/CDDP 併用療法が著効し切除した1例。外科集談会(第834回)(東京都)，2014. 9.
- 230) 藤田逸郎<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，菅野仁士<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，櫻澤信行<sup>2)</sup>，山下直行<sup>3)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>4)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科，3) 坪井病院外科，4) 東大宮総合病院消化器外科)：高齢者胃癌における外科的治療戦略。日本消化器外科学会総会(第69回)(福島県)，2014. 7.
- 231) 勝野 暁<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，山初和也<sup>2)</sup>，横山 正<sup>3)</sup>，内藤善哉<sup>4)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科，3) 日本医科大学多摩永山病院外科，4) 日本医科大学病理)：mFOLFOX 6 が奏功した臍頭部腫瘍，肝転移の1例。東京膵臓研究会(第25回)(東京都)，2014. 11.
- 232) 近藤亮太<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，高田英志<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科)：肝門部胆管癌の術前に胆汁より検出されたメタロ-β-ラクタマーゼ産生 Klebsiella pneumoniae の1例。日本外科感染症学会総会(第27回)(東京都)，2014. 12.
- 233) 眞鍋忠理子<sup>1)</sup>，柿沼大輔<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，菅野仁士<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，吉岡将史<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，加藤俊二<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：Press Through Package 誤嚥による十二指腸穿孔の1例。外科集談会(第835回)(東京都)，2014. 12.
- 234) 関 奈紀<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，柳原恵子<sup>2)</sup>，飯田信也<sup>4)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，内田英二<sup>3)</sup>，武井寛幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院一般・消化器・乳腺外科，2) 日本医科大学付属病院乳腺科，3) 日本医科大学付属病院消化器・一般・移植外科，4) 日本医科大学千葉北総病院乳腺科)：皮膚浸潤性乳癌にて受診し，術前化学療法が著効した乳腺扁平上皮癌の1例。日本乳癌学会関東地方会(第11回)(埼玉県)，2014. 12.
- 235) 横山 正<sup>1)</sup>，関 奈紀<sup>1)</sup>，武井寛幸<sup>2)</sup>，内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科，2) 日本医科大学乳腺科，3) 日本医科大学消化器外科)：ラパチニブで長期間の奏効性が得られている転移性乳癌の1例 一分子標的治療戦略における興味ある考察一。日本乳癌学会関東地方会(第11回)(埼玉県)，2014. 12.
- 236) 永嶋裕司<sup>1)</sup>，吉本憲介<sup>1)</sup>，嶋山文子<sup>1)</sup>，三浦富宏<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>2)</sup>，内田英二<sup>3)</sup> (1) 日産厚生会玉川病院，2) 日本医科大学多摩永山病院外科，3) 日本医科大学付属病院外科)：内視鏡下胃瘻造設術後に横行結腸が腹壁と胃壁の間隙に陥入し腸閉塞を来した1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第99回)(東京都)，2014. 12.
- 237) 助川 誠<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>1)</sup>，野村 聡<sup>1)</sup>，前島顕太郎<sup>1)</sup>，埴 秀暁<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，山際 亮<sup>1)</sup>，三浦克洋<sup>1)</sup>，千原直人<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，2) 日本医科大学消化器外科)：内視鏡的な改善が困難であった Roux-Y 再建術後の輸入脚症候群の1例。日本消化器内視鏡学会関東地方会(第99回)(東京都)，2014. 12.
- 238) 松田明久<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，山田真吏奈<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，高橋吾郎<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科)：消化器外科周術期における血中 lysophosphatidylcholine (LPC) 値の変動とその測定意義。外科侵襲とサイトカイン研究会(第21回)(徳島県)，2014. 12.
- 239) 増田有香<sup>1)</sup>，進士誠一<sup>1)</sup>，菅 隼人<sup>1)</sup>，山田岳史<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，山岸杏彌<sup>1)</sup>，横山康行<sup>1)</sup>，高橋吾郎<sup>1)</sup>，岩井拓磨<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，江原彰仁<sup>2)</sup>，三井啓吾<sup>2)</sup>，坂本長逸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学付属病院消化器・肝臓内科)：Meckel 憩室による小腸イレウスに対し単孔式腹腔鏡手術を行った1例。日本消化器病学会関東支部(第332回)(東京都)，2014. 12.
- 240) Nakamura Y<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School)：Laparoscopic pancreatectomy. International Meeting for Pancreatic Cancer (和歌山県)，2014. 12.
- 241) 増田寛喜<sup>1)</sup>，水口義昭<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，清水哲也<sup>1)</sup>，神田知洋<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，吉岡正人<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，勝野 暁<sup>1)</sup>，住吉宏樹<sup>1)</sup>，高田英志<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡にて確定診断し得た先天性胆嚢欠損症の1例。日本消化器病学会関東支部(第333回)例会(東京都)，2015. 2.
- 242) 菅野仁士<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，小野寺浩之<sup>1)</sup>，柿沼大輔<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，櫻澤信行<sup>2)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，松谷 毅<sup>1)</sup>，牧野浩司<sup>3)</sup>，木山輝郎<sup>4)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科，3) 日本医科大学多摩永山病院外科，4) 朝霞台中央総合病院外科)：手術における術前予後予測因子としての modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義。日本静脈経腸栄養学会学術集会(第30回)(兵庫県)，2015. 2.
- 243) 渡邊友起子<sup>1)</sup>，高木 元<sup>2)</sup>，桐木園子<sup>3)</sup>，菅野仁士<sup>4)</sup>，永積 渉<sup>5, 6)</sup>，酒井良子<sup>7)</sup>，杉山理恵<sup>8)</sup>，日ノ澤進一郎<sup>9)</sup>，杉山未緒<sup>1)</sup>，鈴木唯美<sup>1)</sup>，本城和義<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部，2) 日本医科大学付属病院循環器内科，3) 日本医科大学付属病院総合

- 診療センター, 4) 日本医科大学付属病院消化器外科, 5) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 6) 日本医科大学付属病院言語聴覚士, 7) 日本医科大学付属病院栄養科, 8) 日本医科大学付属病院看護部, 9) 日本医科大学付属病院中央検査部): NST 介入によりジゴキシン中毒の診断に至った1例. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第30回) (兵庫県), 2015. 2.
- 244) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 無治療にて14年間の長期生存が得られている胃癌の1例. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 245) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 坪井病院外科): 当科における残胃癌手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 246) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 助川 誠<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科): 早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術のE-PASSスコアリングシステムを用いた比較. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 247) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 鏡視下胃全摘術 (LTG) におけるRY再建. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 248) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 菊地友太<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医大千葉北総病院外科, 2) 日本医大付属病院消化器外科): 腹腔鏡手術の吻合時に吻合器の簡便確実なアンビル固定の工夫, ダブルループ鉗子を用いた2例. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 249) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 今泉西病院外科): 迷走神経温存漿膜筋層切噴門形成術の評価: 長期予後を中心に. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 250) 柿沼大輔<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 教育病院における腹腔鏡下噴門側胃切除 (LPG) 再建術の定型化への試み. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 251) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 朝霞台中央総合病院外科): ESD 非治癒切除後追加外科切除術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 252) 中村慶春<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院): 腹腔鏡下腓体尾部切除の定型化とLAPPDの展望. 城南消化器内視鏡外科研究会 (第5回) (東京都), 2015. 2.
- 253) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 和田龍一<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学大学院医学研究所統御機構診断病理学): 胃癌壁内転移を来した1例. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 254) 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 高齢者胃癌手術における術後合併症と縮小手術の予後に与える影響. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 255) 古木裕康<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 透視患者における胃癌手術の検討. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島県), 2015. 3.
- 256) 山田岳史<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 非壊死性絞扼性イレウスの造影CT所見. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 257) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡手術における術中頭低位と偶発症リスクの検討. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 258) 安藤文彦<sup>1,2)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 坪井病院外科): 横行結腸間膜裂孔ヘルニアと後腹膜ポートサイト Richter 型ヘルニアを同時に認めた1例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 259) 金谷洋平<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消火器・一般外科): 鼠径ヘルニア徒手整復後, 腸管虚血が疑われた症例に審査腹腔鏡を施行した症例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 260) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 増田寛喜<sup>1)</sup>, 高

- 野竜太郎<sup>1</sup>，梅澤裕己<sup>2</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，(2) 日本医科大学形成外科)：頸部放射線照射歴を有する食道癌患者で術後難治性瘻孔を生じた2例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 261) 栗山 翔<sup>1</sup>，松田明久<sup>1</sup>，松本智司<sup>1</sup>，下田朋宏<sup>1</sup>，金谷洋平<sup>1</sup>，宮下正夫<sup>1</sup>，内田英二<sup>2</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，(2) 日本医科大学消火器外科)：直腸癌術後縫合不全に対して内視鏡下クリップ閉鎖術を施行しえた3例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 262) 菅 隼人<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup>，山田岳史<sup>1</sup>，小泉岐博<sup>1</sup>，進士誠一<sup>1</sup>，山岸杏彌<sup>1</sup>，横山康行<sup>1</sup>，岩井拓磨<sup>1</sup>，高橋吾郎<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：大腸憩室疾患に対する手術施行症例の検討。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 263) 水口義昭<sup>1</sup>，真々田裕宏<sup>1</sup>，中村慶春<sup>1</sup>，清水哲也<sup>1</sup>，神田知洋<sup>1</sup>，谷合信彦<sup>1</sup>，吉岡正人<sup>1</sup>，松下 晃<sup>1</sup>，勝野 暁<sup>1</sup>，高田英志<sup>1</sup>，住吉宏樹<sup>1</sup>，近藤亮太<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：80歳以上の高齢者に対する早期緊急腹鏡視下胆嚢摘出術の安全性に関する検討。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 264) 高橋吾郎<sup>1</sup>，山田岳史<sup>1</sup>，松田明久<sup>2</sup>，菅 隼人<sup>1</sup>，松本智司<sup>2</sup>，小泉岐博<sup>1</sup>，進士誠一<sup>1</sup>，山岸杏彌<sup>1</sup>，横山康行<sup>1</sup>，岩井拓磨<sup>1</sup>，宮下正夫<sup>2</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科，(2) 日本医科大学千葉北総病院)：閉塞性大腸癌における術前減圧処置の長期予後に与える影響。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 265) 中田亮輔<sup>1,2</sup>，萩原英之<sup>1</sup>，小泉正樹<sup>1</sup>，宮前 拓<sup>1</sup>，阿部 豊<sup>1</sup>，加納恒久<sup>1</sup>，名取穰治<sup>1</sup>，内山喜一郎<sup>1</sup>，鈴木英之<sup>2</sup> (1) 海老名総合病院外科，(2) 日本医科大学武蔵小杉病院消火器病センター)：腸閉塞症に対する腹腔鏡手術の検討。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 266) 進士誠一<sup>1</sup>，菅 隼人<sup>1</sup>，山田岳史<sup>1</sup>，小泉岐博<sup>1</sup>，山岸杏彌<sup>1</sup>，横山康行<sup>1</sup>，高橋吾郎<sup>1</sup>，岩井拓磨<sup>1</sup>，川島万平<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：S状結腸癌術後に広範な皮下気腫をきたした縫合不全の1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 267) 原 敬介<sup>1</sup>，島貫公義<sup>1</sup>，旭 修司<sup>1</sup>，坂本 渉<sup>1</sup>，佐竹秀一<sup>1</sup>，武田幸樹<sup>1,2</sup>，内田英二<sup>2</sup> (1) 会津中央病院外科，(2) 日本医科大学消化器外科)：出血性十二指腸潰瘍穿孔に伴う腹腔内出血に対し止血に難渋した1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 268) 高野竜太郎<sup>1</sup>，松谷 毅<sup>1</sup>，野村 務<sup>1</sup>，萩原信敏<sup>1</sup>，藤田逸郎<sup>1</sup>，金沢義一<sup>1</sup>，柿沼大輔<sup>1</sup>，菅野仁士<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学医学部消化器外科)：ULTRAPRO plugにて修復した特発性上腰ヘルニアの1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 269) 川島万平<sup>1</sup>，進士誠一<sup>1</sup>，菅 隼人<sup>1</sup>，山田岳史<sup>1</sup>，小泉岐博<sup>1</sup>，山岸杏彌<sup>1</sup>，横山康行<sup>1</sup>，高橋吾郎<sup>1</sup>，岩井拓磨<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腸回転異常と血管走行異常を伴ったS状結腸癌に対し腹腔鏡手術を施行した1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 270) 野村 聡<sup>1</sup>，渡辺昌則<sup>1</sup>，鈴木英之<sup>1</sup>，吉野雅則<sup>1</sup>，中田亮輔<sup>1</sup>，清水貴夫<sup>1</sup>，山岸征嗣<sup>1</sup>，山際 亮<sup>1</sup>，内田英二<sup>2</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，(2) 日本医科大学外科)：穿孔部位2ヶ所認めた特発性食道破裂の1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 271) 小峯 修<sup>1</sup>，塩谷 猛<sup>1</sup>，大山莉奈<sup>1</sup>，澁谷 肇<sup>1</sup>，渡邊善正<sup>1</sup>，南部弘太郎<sup>1</sup>，山田太郎<sup>1</sup>，島田裕司<sup>2</sup>，大石卓彌<sup>2</sup>，内間久隆<sup>3</sup> (1) さいたま市民医療センター外科，(2) さいたま市民医療センター放射線科，(3) さいたま市民医療センター病理診断科)：胃軸捻転内視鏡的整復後に捻転再発により胃穿孔を来した1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 272) 大山莉奈<sup>1</sup>，塩谷 猛<sup>1</sup>，小峯 修<sup>1</sup>，南部弘太郎<sup>1</sup>，渡邊善正<sup>1</sup>，澁谷 肇<sup>1</sup>，山田太郎<sup>1</sup> (1) さいたま市民医療センター外科)：胃瘻を軸とした胃軸捻転症の1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 273) 武田幸樹<sup>1,2</sup>，島貫公義<sup>1</sup>，旭 修司<sup>1</sup>，坂本 渉<sup>1</sup>，原 敬介<sup>1,2</sup>，新井田憩<sup>1</sup>，内田英二<sup>2</sup> (1) 会津中央病院外科，(2) 日本医科大学消化器外科)：肺癌小腸転移の穿孔により汎発性腹膜炎を来した1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 274) 原田潤一郎<sup>1</sup>，櫻澤信行<sup>1</sup>，下田朋宏<sup>1</sup>，菊池友太<sup>1</sup>，宮下正夫<sup>1</sup>，内田英二<sup>2</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，(2) 日本医科大学附属病院消化器外科)：魚骨穿通による腹直筋下膿瘍の1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 275) 水谷 聡<sup>1</sup>，鈴木英之<sup>1</sup>，相本隆幸<sup>1,2</sup>，田島廣之<sup>3</sup>，山岸征嗣<sup>1</sup>，三島圭介<sup>1</sup>，村木 輝<sup>1</sup>，中田亮輔<sup>1</sup>，清水貴夫<sup>1</sup>，大山莉奈<sup>1</sup>，前島顕太郎<sup>1</sup>，吉野雅則<sup>1</sup>，渡辺昌則<sup>1</sup>，内田英二<sup>4</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター，(2) 正風会小林病院外科，(3) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター，(4) 日本医科大学外科)：臍頭十二指腸切除術後第10病日に発症したSMA血栓症による広範囲小腸虚血の1例。日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府)，2015. 3.
- 276) 松下 晃<sup>1</sup>，中村慶春<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：腹腔鏡下膝切除術におけるチーム内で統一された止血操作に関わるstrategyについて。肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (第11回) (静岡県)，2015. 2.
- 277) 水口義昭<sup>1</sup>，中村慶春<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：Swine 鏡視下膝切。肝胆膵内視鏡下手術勉強会 (第11回) (静岡県)，2015. 2.
- 278) 高橋吾郎<sup>1</sup>，菅 隼人<sup>1</sup>，松本智司<sup>2</sup>，山田岳史<sup>1</sup>，小泉岐博<sup>1</sup>，進士誠一<sup>1</sup>，山岸杏彌<sup>1</sup>，横山康行<sup>1</sup>，岩井拓磨<sup>1</sup>，内田英二<sup>1</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，(2) 日本医科大学千葉北総病院)：S状結腸，直腸S状部進行癌に対する腹腔鏡下手術成績。大腸癌研究会 (第

- 82回) (東京都), 2015. 1.
- 279) 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下肝外側区域切除術をより安全に行うための当科における工夫. 肝臓内視鏡外科研究会 (第8回) (福島県), 2014. 11.
- 280) 高田英志<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 当院での再発肝癌症例に対する鏡視下再肝切除術. 肝臓内視鏡外科研究会 (第8回) (福島県), 2014. 11.
- 281) 吉岡正人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 当科における腹腔鏡下肝切除術の手法. Reduced port surgeryを含めて. 肝臓内視鏡外科研究会 (第8回) (福島県), 2014. 11.
- 282) 清水哲也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 症例検討1: 腹腔鏡下肝外側区域切除術にて切除しえた巨大肝細胞癌の症例. 首都圏東部肝疾患研究会 (第3回) (東京都), 2015. 2.
- 283) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学): 胆道癌に対する腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) の手術手技と中長期手術成績. LABS教育ラボセミナー (第2回) (東京都), 2015. 1.
- 284) 大草幹大<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 腹腔鏡下結腸癌手術中の皮下気腫に起因する高二酸化炭素血症を生じた超高齢者の1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第69回) (神奈川県), 2014. 11.
- 285) 丸木雄太<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 名児那浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 大森 順<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学消化器外科): ESMO Group2 進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本消化器病学会総会 (第100回) (東京都), 2014. 4.
- 286) 丸木雄太<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 大森 順<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 名児那浩幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医大・消化器肝臓内科, 2) 日本医大・消化器外科): 当科における Regorafenib の使用経験. 日本消化器病学会大会 (第56回) (兵庫県), 2014. 10.
- 287) 丸木雄太<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 大森 順<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 名児那浩幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学消化器外科): ESMO Group2 進行切除不能大腸がんの治療の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第11回) (東京都), 2015. 2.
- 288) 浅見敬一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方 敦<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 金丸里奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔内出血に対し segmental arterial mediolysis (SAM) と診断し保存的に軽快した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 289) 増田有香<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): 自然解除された絞扼性イレウスの1例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 290) 助川 誠<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 渡邊昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科): 内視鏡的止血に難渋し, IVRにより止血を得た憩室出血の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都府), 2015. 3.
- 291) 横山康行<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): リスク因子数別にみた男性直腸癌患者における術後縫合不全の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第69回) (神奈川県), 2014. 11.
- 292) 大野 崇<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 内田英一<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 寿英会内田病院): ヘルニア内容に子宮を認めた成人鼠径ヘルニアの1例. 外科集談会 (第836回) (東京都), 2015. 3.
- 293) 大草幹大<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科): SACIテストとIRI測定にて遺残なく切除し得た膵島過形成を伴うPNETの1例. 外科集談会 (第836回) (東京都), 2015. 3.
- 294) 水口義昭<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 古木裕康<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 両端針による確実な腹腔鏡下胆道消化管吻合術と Learning strategy. 腹腔鏡下胆道手術研究会 (第4回) (北海道), 2015. 3.
- 295) 横山康行<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 当科における腹腔鏡下直腸切除術後の縫合不全の現状. 日本内視鏡外科学会総会 (第27回) (岩手県), 2014. 10.
- 296) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 杉田久記<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 切除不能食道癌に対する治療戦略: 胸腔鏡補助下食道バイパス術の導入による新たな試み. 日本食道学会学術集会 (第68回) (東京都), 2014. 7.

- 297) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 稲井俊太<sup>2)</sup>, 酒主敦子<sup>2)</sup>, 梅澤裕巳<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 3) 日本医科大学形成外科) : 当院におけるチーム医療による食道再建術の工夫. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京都), 2014. 7.
- 298) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : シリコン製栓型気管支充填剤が奏功した食道癌術後後有瘻性膿胸の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京都), 2014. 7.
- 299) 杉田久記<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 全身性アミロイドーシス治療中に食道狭窄をきたしたサイトメガロウイルス食道炎の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京都), 2014. 7.
- 300) 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 若林秀幸<sup>2)</sup>, 上田康二<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 同時に食道癌と胃癌, 異時性に悪性リンパ腫と膀胱癌を認めた 4 重複癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京都), 2014. 7.
- 301) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 食道縫合不全時の止血クリップ・OTSC (Over the scope clipping) の内視鏡的治療の工夫. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京都), 2014. 7.
- 302) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 胸部食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下食道切除術の成績. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県), 2014. 10.
- 303) 丸木雄太<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 大森 順<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 名児那浩幸<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学消化器外科) : ESMO Group2 と診断した進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県), 2014. 8.
- 304) Matsushita A<sup>1)</sup>, Nakamura K<sup>1)</sup>, Katsuno A<sup>1)</sup>, Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Yamahatu K<sup>2)</sup>, Yokoyama T<sup>3)</sup>, Tani ai N<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Dept of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, 2) Dept of Surgsry, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Dept of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : The Oncologic and Long-term Outcomes of Laparoscopic Pancreatotomy for Pancreatic Cancer. AMERICAN PANCREATIC ASSOCIATION (45th) (HAWAII), 2014. 11.

## 論文

### [追加分]

追加分総説 :

- 1) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 専門医必修! 消化器癌定型手術の標準手技アトラス 膵癌 30. 腹腔鏡下膵体尾部切除術. 手術 2014 ; 68 (4) : 589-593.
- 2) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 特集 私たちはこう工夫している 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術における膵切離に ELS を用いる意義. 手術 2014 ; 68 (2) : 153-156.
- 3) 平方敦史<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 特集 肝胆膵のチューブ管理を極める! 異常の緊急度がわかる・異常発見時の対応がわかる : 8 左横隔膜下ドレーン. 消化器外科 NURSING 2012 ; 17 (7) : 46-50.
- 4) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科・消化器外科) : 専門医必修! 消化器癌定型手術の標準手技アトラス 膵癌 30. 腹腔鏡下膵体尾部切除術. 手術 2014 ; 68 (4) : 589-593.

追加分原著 :

- 1) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : IX 胃癌の治療戦略 高齢者症例に対する胃癌治療 高齢者胃癌の治療戦略. 日本臨牀 2014 ; 72 (1) : 532-536.
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 特集 肝胆膵腹腔鏡下手術の秘策 : 合併症・偶発症回避のコツ : 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) における再建の工夫とコツ. 消化器外科 2013 ; 36 (2) : 209-216.
- 3) Shigehara K<sup>1)</sup>, Yokomuro S<sup>1)</sup>, Ishibashi O<sup>2)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Arima Y<sup>1)</sup>, Kawahigashi Y<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Akagi I<sup>1)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, 2) Deparyment of Molecular and Anatomy, Nippon Medical School) : Real-Time PCR-Based Analysis of the Human Bile Micro RNAome Identifies miR-9 as a Potential Diagnostic Biomarker for Biliary Tract Cancer. PLOS one 2011 ; 6 (8) : 1-9.

追加分症例報告 :

- 1) 高田英志<sup>1,2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学統御機構病理学) : クリッピング後再出血をきたした小腸毛細血管腫に対して単孔式腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 臨床外科 2014 ; 69 (3) : 361-366.

- 2) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 特集 局所進行・再発直腸癌の治療戦略 切除不能な局所進行・再発直腸癌の治療 予後延長をめざした早期緩和ケア : palliative care から supportive oncology へ. 消化器外科 2014 ; 37 (2) : 223-227.
- 3) 松野邦彦<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 症例報告 高齢者食道癌手術後に門脈ガス血症と腸管嚢胞様気腫症を呈した 非閉塞性腸間膜虚血症の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (1) : 115-119.
- 4) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 食道癌術後再建胃管癌の臨床病理学的検討 : 本邦報告 165 例の年代による変化と傾向. 日本消化器病学会雑誌 2014 ; 111 (3) : 512-520.
- 5) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科) : 症例報告 単孔式腹腔鏡下手術が有用であった完全内蔵逆位に伴った急性虫垂炎の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (3) : 681-684.
- 6) 下田朋宏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科) : 症例報告 縦隔気腫, 後腹膜気腫, 皮下気腫を認めた直腸 S 状部穿孔の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (3) : 685-689.
- 7) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 臨床経験 胃癌術後局所再発に対するステント治療. 外科 2014 ; 76 (3) : 305-308.
- 8) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 特集 : 腹部救急治療としてのヘルニアの診断と治療 鼠径部ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡を用いた治療戦略. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (1) : 81-86.
- 9) Nomura T<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>2)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Makino H<sup>3)</sup>, Maruyama H<sup>3)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Kawai N<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Division of Digestive Surgery, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Division of Gastroenterology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School) : Laparoscopic anti-reflux surgery to treat proton pump inhibitor-resistant non-erosive reflux disease. Esophagus 2013 ; 10 : 157-160.
- 10) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 破骨細胞様巨細胞型退形成性膵管癌術後肝転移に対して化学療法が奏功し長期生存中の1例. 膵臓 2013 ; 28 (5) : 622-626.
- 11) Kim S<sup>1)</sup>, Kang C<sup>2,3)</sup>, Sato S<sup>4)</sup>, Sho M<sup>5)</sup>, Nakamura Y<sup>6)</sup>, Lee W<sup>2,3)</sup> (1) Department of Surgery, Yonsei University Wonju College of Medicine, Wonju Christian Hospital, 2) Department of Hepatobiliary and Pancreas, Department of Surgery, Yonsei University College of Medicine, Lundlow Faculty, 3) Pancreaticobiliary Cancer Clinic, Insitute of gastroenterology, Yonsei University Healthy System, 4) Department of Surgery, Kansai Medical University, 5) Department of Surgery, Nara Medical University, 6) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Proposal for splenectomy-omitting radical distal pancreatectomy in well-selected left-sided pancreatic cancer : multicenter survey study. J Hepatobiliary Pancreat Sci 2013 ; 375-381.
- 12) Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>2)</sup>, Taniai N<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Surgical Management in Portal Hypertension. HEPATIC SURGERY 2013 ; 517-529.
- 13) Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Preoperative Diagnosis of Abdominal Diseases with Endoscopic Ultrasonography. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (4) : 250-251.
- 14) 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学病院外科) : 各種塞栓術の組み合わせ. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2009 ; 15 : 348-351.
- 15) 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 田尻 孝<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 門亢症と救急治療. 日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010 ; 16 : 69-71.
- 16) Matsutani T<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>2)</sup>, Maruyama H<sup>2)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>3)</sup>, Hosone M<sup>3)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Endoscopic removal of large hyperplastic (inflammatory) polyp in esophagogastric anastomosis after esophagectomy. Esophagus 2012 ; 9 : 114-117.
- 17) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 谷合信彦<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 特集 集中治療医に必要な再診ステント治療の知識 : 肝・胆・膵のステント. ICU と CCU 2012 ; 36 (10) : 747-753.



## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷谷信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：悪性を否定できず腹腔鏡下臍中央切除術を施行した臍体部臍内副脾の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第328回) (東京都), 2014. 2.
- 2) Takata H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：A CASE OF HEPATIC BILOMA AFTER LAPAROSCOPIC PARTIAL HEPATIC RESECTION FOR HEPATOCELLULAR CARCINOMA USING MICROWAVE PRE-COAGULATION TECHNIQUE. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 3) Ko H<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Matsutani A<sup>1)</sup>, Yasuda T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：SURGICAL RESECTION OF HEPATIC CYSTIC ECHINOCOCCOSIS IMPAIRED BY PREOPERATIVE DIAGNOSIS：REPORT OF A CASE. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 4) Matsushita A<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：LAPAROSCOPIC PANCREATECTOMY FOR PANCREATIC CANCER. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 5) Ueda J<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Shimizu T<sup>1)</sup>, Kakinuma D<sup>1)</sup>, Takata H<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：EVALUATION OF POSITIVE DUCTAL MARGINS OF CHOLANGIOCARCINOMA IN INTRAOPERATIVE HISTOLOGICAL EXAMINATION. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 6) Shimizu T<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：LAPAROSCOPIC EXCISION OF CHOLEDOCHAL CYST. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 7) Taniai N<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Takata H<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical school)：THE GOOD IDEA FOR ADDITIONAL INDICATION FOR SAFETY LAPAROSCOPIC LIVER RESECTION. IHPBA World Congress 2014 Seoul (Seoul), 2014. 3.
- 8) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：進行・再発胃癌初回治療における Capecitabine+CDDP 療法 (XP) 分割投与の安全性試験. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 9) 木山輝郎<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 東大宮総合病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：胃癌に対する胃切除患者の予後におけるサルコペニアの影響. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 10) 山田岳史<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：胃癌治療による骨格筋量の変化. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 11) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：胃癌終末期における GPS と骨格筋量に関する検討. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 12) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科)：当科における胃 SMT 手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 13) 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学外科)：切除不能進行再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法の有害事象対策と外来化学療法. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 14) 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院)：腫瘍随伴手掌筋膜炎にて胃癌を早期に指摘・加療し得た症例. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 15) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>2)</sup>, 高尾嘉宗<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：胃癌手術後脳転移の1例. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 16) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：心機能・呼吸機能障害を有する胃癌患者に対する腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 17) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 坪井病院外科)：高度進行胃腹膜播種症例に対する治療の検討ー minimal peritoneal metastasis, CY1P0 においてー. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 18) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 高尾嘉宗<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科)：高齢者胃癌に対する腹腔鏡補助下胃切除術のリスク評価. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.

- 19) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 超音波内視鏡下ドレナージ術にて炎症制御後に外科治療を行った巨大胃粘膜下腫瘍の1例. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 20) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 坪井病院外科) : 長期成績からみた腹腔鏡下胃切除適応拡大の可能性. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 21) 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 東大宮総合病院外科) : 腹腔鏡下幽門側胃切除におけるD2郭清 #8a~#11p郭清. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 22) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学消化器外科) : 早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術のE-PASSスコアリングシステムを用いた比較. 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 23) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 迷走神経温存胃切除術の手技とその成績 中長期予後からみた上部限局胃癌に対する迷走神経温存胃漿膜筋縦切開噴門形成術 (NP-EGP). 日本胃癌学会総会 (第86回) (神奈川県), 2014. 3.
- 24) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 膠原病合併胸部食道癌術後に重症低Na血症をきたした1例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 25) 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 胸部食道癌術後に生じた難治性乳糜胸の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 26) 原絵津子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>2)</sup>, 原 敬介<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科) : 結腸癌待機手術症例における術後イレウス発症危険因子. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 27) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : Hybrid単孔式腹腔鏡下虫垂切除術: 腹腔外への虫垂の誘導法に関する検討. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 28) 関口久美子<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 眞鍋恵理子<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 後縦隔経路の再建食道癌術後に発症した食道裂孔ヘルニアの2例. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 29) 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院多摩永山病院, 2) 日本医科大学付属病院外科) : 桃の種子による食餌性イレウス. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 30) 水口義昭<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 一期的手術, C-tubeドレナージ法を含めた当科における良性急性胆管炎治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 31) 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 安全な腹腔鏡下手術を目指したBTSとしての大腸ステントの有用性. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 32) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 当院での閉塞性大腸癌に対する治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 33) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 坪井病院外科) : 上部消化管術後合併症の診断と治療の工夫. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 34) 安藤文彦<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科) : Enhanced-CT Strangulation Ileus Diagnostic scoreを用いた絞扼性イレウスの鑑別. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 35) 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : ERCPのトラブルシューティング ERCPのトラブルシューティング ERCP関連後腹膜穿孔の対応. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 36) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 病態に基づいた造影CTによる絞扼性イレウスの早期診断. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.
- 37) 上田純志<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1)

日本医科大学消化器外科)：胆道癌に対する術中病理迅速診断における胆管断端陽性症例と予後の検討。日本病理学会総会(第102回)(北海道)，2013. 6.

- 38) 高田英志<sup>1,2)</sup>，山本哲志<sup>1)</sup>，工藤光洋<sup>1)</sup>，彭 為霞<sup>1)</sup>，藤井雄文<sup>1)</sup>，手塚 潔<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理学 統御機構・腫瘍学，2) 日本医科大学付属病院消化器外科)：ホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックを用いた肝細胞癌のプロテオミクス解析。日本病理学会総会(第102回)(北海道)，2013. 6.

追加分シンポジウム：

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>，野村 務<sup>1)</sup>，萩原信敏<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，保田智彦<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，金沢義一<sup>1)</sup>，松田明久<sup>2)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科，2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：食道破裂に対する診断と治療 当科における食道破裂・穿孔の検討。日本腹部救急医学会総会(第50回)(東京都)，2014. 3.

追加分パネルディスカッション：

- 1) 高橋吾郎<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>1)</sup>，松田明久<sup>1)</sup>，横室茂樹<sup>1)</sup>，飯田信也<sup>1)</sup>，瀬谷知子<sup>1)</sup>，堀場光二<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，鶴田宏之<sup>1)</sup>，櫻澤信行<sup>1)</sup>，勝野暁<sup>1)</sup>，山初和也<sup>1)</sup>，下田朋宏<sup>1)</sup>，菊池友太<sup>1)</sup>，内田英二<sup>2)</sup>，その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科，2) 日本医科大学消化器外科)：閉塞性大腸癌に対する治療戦略 閉塞性大腸癌に対する治療成績と当科の治療戦略。日本腹部救急医学会総会(第50回)(東京都)，2014. 3.

追加分ワークショップ：

- 1) 牧野浩司<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，堀田正啓<sup>1)</sup>，岩井拓磨<sup>1)</sup>，宮下正夫<sup>2)</sup>，藤田逸郎<sup>2)</sup>，野村 務<sup>2)</sup>，内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科，2) 日本医科大学消化器外科)：食道胃接合部癌に対する鏡視下食道切除術・吻合，開腹胃切除術。日本胃癌学会総会(第86回)(神奈川県)，2014. 3.

## [多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

### 研究概要

「研究体制とその現状」研究目的臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制消化器系臓器別に上部消化管，下部消化管，肝胆膵の3領域における病態生理，臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は癌に関連するものが多い。手術手技，腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。研究材料，方法診療業務から得た臨床データ，血液，組織，臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には，当院病理部との共同研究となる。分子生物学的手法を用いる場合は，武蔵小杉病院と協力している。文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。研究結果の公表各医学会，多摩地域の研究会等で発表する。さらに原著，症例報告，著書等に論文として公表する。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Hirakata A, Hotta M, Uchida E : Hepaticoduodenostomy in Hepatectomy for Perihilar cholangiocarcinoma : A Preliminary Report. *Austin Journal of Surgery* 2014 ; 1 (3) : 1-5.
- 2) 上田純志，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，清水哲也，神田知洋，高田英志，内田英二：難治性および癌性腹水に対する腹腔・静脈シャントの治療成績。日本門脈圧亢進症学会 雑誌 2014 ; 20 (4) : 213-218.
- 3) Ueda J, Matsuda Y, Yamahatsu K, Uchida E, Naito Z, Korc M, Ishiwata T : Epithelial splicing regulatory protein 1 is a favorable prognostic factor in pancreatic cancer that attenuates pancreatic metastases. *Oncogene* 2014 ; 33 (36) : 4485-4495.

(2) 総説：

- 1) 牧野浩司，吉田 寛，丸山 弘，横山 正，赤城一郎，内田英二：上部消化管手術での縫合不全時の止血クリップ・OTSC (Over the scope clipping) による内視鏡的治療。手術 2014 ; 68 (10) : 1401-1405.
- 2) 谷合信彦，吉田 寛，内田英二：門脈圧亢進症治療における部分的脾動脈塞栓術 (PSE) の長期成績。消化器内科 2014 ; 59 (2) : 176-180.
- 3) 吉田 寛，平方敦史，上田純志，牧野浩司，横山 正，丸山 弘，中村慶春，谷合信彦，真々田裕宏，内田英二：巨脾摘出の注意点。外科 2014 ; 76 (12) : 1442-1446.
- 4) 上田純志，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，清水哲也，神田知洋，高田英志，内田英二：難治性腹水の治療。Fluid Management Renaissance 2014 ; 4 : 53-56.
- 5) 牧野浩司，吉田 寛，丸山 弘，横山 正，赤城一郎，内田英二：食道ストリップングによる腹臥位 VATS-E における左反回神経周囲リンパ節郭清。手術 2014 ; 68 (13) : 1721-1726.

(3) 研究報告書：

- 1) 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 上田純志, 近藤亮太, 吉田 寛, 内田英二：マイクロ波での前凝固による腹腔鏡下肝部分切除術後に biloma をきたした 1 例. J Microwave Surg 2014 ; 32 (1) : 7-11.
- 2) 平方敦史, 吉田 寛：気腹圧および Pringle 法と門脈血流量の関連に関する研究. 平成 26 年厚労省委託業務成果報告書 2015 ; 46.

(4) 症例報告：

- 1) Taniai N, Yoshida H, Kawano Y, Uchida E : Case Report of FLT3-ITD-Positive AML Patient 11 Years After Living Donor Liver Transplantation. TRANSPLANTATION PROCEEDINGS 2014 ; 46 (3) : 1003-1005.
- 2) 浅見敬一, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 中井章人, 内田英二：腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した卵巣癌術後孤立性脾転移の 1 例. 日本医科大学医学会雑誌 2015 ; 11 (1) : 25-28.
- 3) 武田幸樹, 島貫公義, 旭 修司, 赤城一郎, 秋丸琥甫, 川口隆憲, 内田英二：栄養状態並びに甲状腺機能を 16 年間観察した Putz-Jeghers 症候群の 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2014 ; 76 : 117-122.

著 書

- 1) 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 上田純志, 堀田正啓, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二：肝細胞癌手術時における内視鏡外科の効用. MEDICAL PHOTONICS, 2014 ; pp21-26.
- 2) 吉田 寛：肝がん治療の今. 文藝春秋企画出版部, 2014 ; pp48-49.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 吉田 寛：門脈圧亢進症に対する集学的治療. 近畿食道・胃静脈瘤研究会 (第 23 回) (大阪), 2014. 6.
- 2) 吉田 寛：「大腸がん肝転移に対する肝切除術」. 大腸がん肝転移セミナー in 南多摩 (東京), 2014. 6.
- 3) 吉田 寛：『肝臓外科医が携わる肝疾患』. 南町田 DS-net : Digestive ststem net (第 1 回) (東京), 2014. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 内田英二：臍頭十二指腸切除術の臍消化管吻合の工夫と臍管チューブ持続低圧吸引の有用性. 日本臍臓学会大会 (第 45 回) (九州), 2014. 7.
- 2) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 上田純志, 内田英二：当施設における臍癌術前補助療法の現況と成績. 日本臍切研究会 (第 41 回) (東京), 2014. 8.
- 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮太, 内田英二：「肝切除後の SSI 予防の工夫 - ドレーン法について -」. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京), 2014. 12.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二：食道胃静脈瘤治療における PSE の位置づけ. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 高田樹一, 中澤貴秀, 南野 勉, 田中賢明, 奥脇裕介, 日高 央, 渋谷明隆, 小泉和三郎, 大部 誠, 吉田 寛：肝結節性過形成の EOB-MRI 所見からみた問題点. 日本肝癌研究会 (第 50 回) (京都), 2014. 6.
- 3) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 岩井拓磨, 近藤亮太, 金丸里奈, 高 和英, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 関 奈紀, 内田英二：経鼻内視鏡検査の鼻痛・鼻出血のデメリットを軽減するネイザルスライダの開発と治療における多様な可能. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 98 回) (東京), 2014. 6.
- 4) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 金丸里奈, 高 和英, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 藤田逸郎, 内田英二：食道胃接合部癌に対して底侵襲な胸腔鏡下食道切除術・吻合. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.

(4) セミナー：

- 1) 吉田 寛：「門脈圧亢進症治療の変遷と新しい考え方」. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.

(5) ワークショップ：

- 1) 谷合信彦, 川野陽一, 吉岡正人, 清水哲也, 高田英志, 水口義昭, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二：鏡視下系統的肝切除術におけるグリソン一括処理の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.

(6) 一般講演：

- 1) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 小泉里奈, 篠塚恵理子, 高 和英, 宮坂俊光, 内田英二：当科における臍癌術前補助化学療法の実況とその成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 2) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 小泉里奈, 内田英二：腹腔鏡補助下大腸手術における

- SSI 対策. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 3) 高田英志, 工藤光洋, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 神田知洋, 上田純志, 内藤善也, 内田英二: 肝細胞癌における GPR78, PDIA3, PSME2 の発現と臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
  - 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 内田英二: 肝臓に対する安全な鏡視下系統的肝切除術への工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
  - 5) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 小泉里奈, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 宮下正夫, 野村 務, その他 2 名: 腹臥位と腹臥位胸腔 (VATSE) 及び縦隔鏡食道切除術 (MATHE) の経験と各々のメリット・デメリットから選択した現在の方法. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
  - 6) 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二: 有症状多発肝嚢胞に対する治療成績の検討. 日本肝臓学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 5.
  - 7) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 肝細胞癌における肝線維化マーカーの検討. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
  - 8) 高田英志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 上田純志, 内田英二: 肝細胞癌と胆管細胞癌の同時性重複癌の 2 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
  - 9) 神田知洋, 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 中村慶春, 吉岡正人, 松下 晃, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 内田英二: 肝胆膵領域の腹腔鏡手術における癒着防止フィルム貼付の工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
  - 10) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 篠塚恵理子, 松谷 毅, 野村 務, 宮下正夫, 内田英二: 食道縫合不全時に止血クリップ・OTSC (Over the scope clipping) の内視鏡的治療の工夫. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2014. 7.
  - 11) 横山 正, 関 奈紀, 吉田 寛, 武井寛幸, 内田英二: CEX 療法による術前補助化学療法を試み<第 2 報>. 日本乳癌学会学術総会 (第 22 回) (大阪), 2014. 7.
  - 12) 近藤亮太, 吉田 寛, 横山 正, 平方敦史, 牧野浩司, 丸山 弘, 関 奈紀, 堀田正啓, 金丸里奈, 内田英二: 多彩な病理組織像を呈した後腹膜脂肪肉腫の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島), 2014. 7.
  - 13) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 神田知洋, 高田英志, 内田英二: 肝細胞癌における肝線維化マーカーと臨床病理学的因子および予後の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島), 2014. 7.
  - 14) 上田康二, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 金丸里奈, 高 和英, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 当科における急性虫垂炎の治療成績. 日本消化病学会関東支部例会 (第 330 回) (東京), 2014. 7.
  - 15) 永嶋裕司, 吉本憲介, 鳴島文子, 三浦富宏, 吉田 寛, 内田英二: 市販の漢方薬が原因と考えられた薬剤性肝障害の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 331 回) (東京), 2014. 9.
  - 16) Makino H, Maruyama H, Yoshida H, Yokoyama T, Akagi I, Hotta M, Seki N, Kanamaru R, Ko K, Shinozuka E, Miyashita T, Miyasaka T, Nomura T, Matsutani T, Hagiwara T, et al. : Lymph-node Dissection along the Left Recurrent Laryngeal Nerve after Esophageal Stripping and Esophagectomy in Prone Position Video-Assisted Thoracoscopic Surgery of Esophagus, and Safe Anastomosis in the Narrow Neck Operative Field. The International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE) (14th) (カナダ), 2014. 9.
  - 17) 高 和英, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 金丸里奈, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 術前診断に難渋した腹腔鏡下肝切除術を施行した肝結節の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
  - 18) 上田純志, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 真々田裕宏, 谷合信彦, 平方敦史, 平田知己, 内田英二: StageIV 大腸癌に対して 4 回の内視鏡外科手術を施行し長期生存を得た 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
  - 19) 上田康二, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 金丸里奈, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 高 和英, 宮坂俊光, 内田英二: 経乳頭的アプローチが困難であった総胆管結石に対し腹腔鏡下胆管十二指腸吻合術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
  - 20) 清水哲也, 谷合信彦, 吉岡正人, 高田英志, 近藤亮太, 水口義昭, 神田知洋, 住吉宏樹, 勝野 暁, 松下 晃, 中村慶春, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 完全鏡視下肝外側区域切除術における当科の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
  - 21) 平方敦史, 吉田 寛, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 金丸里奈, 高 和英, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二: 鏡視下 Hassab 手術の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
  - 22) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 金丸里奈, 高 和英, 篠塚恵理子, 上田康二, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二: 食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下手術 (VATSE) メリット・デメリットの 106recL 郭清の工夫.

日本内視鏡外科学会総会（第27回）（岩手），2014. 10.

- 23) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 松谷 毅, 内田英二：腹臥位胸腔鏡下食道切除腹腔鏡補助下胃管作成術の術後合併症の検討. 日本内視鏡外科学会総会（第27回）（岩手），2014. 10.
  - 24) 篠塚恵理子, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 若林秀幸, 高 和英, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二：若年者の巨大食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核出術を施行した1例. 日本内視鏡外科学会総会（第27回）（岩手），2014. 10.
  - 25) 高田英志, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 上田純志, 近藤亮太, 松下 晃, 勝野暁, 中村慶春, 吉田 寛, 内田英二：当科における再発肝癌症例に対する鏡視下再肝切除術. 日本内視鏡外科学会総会（第27回）（岩手），2014. 10.
  - 26) 上田純志, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 神田知洋, 高田英志, 内田英二：非B非C肝細胞癌における肝線維化マーカーの意義. 日本消化器病学会大会（JDDW）（第56回）（神戸），2014. 10.
  - 27) 細川貴範, 黒崎雅之, 森山光彦, 海老沼浩利, 野内俊彦, 上司裕史, 西野博一, 橋本悦子, 野口 修, 森安史典, 唐鎌優子, 川村直弘, 島津元秀, 吉田 寛, 大久保裕直, その他3名：腹水合併肝硬変の治療・病態・予後に関する多施設共同調査研究. 日本肝臓学会大会（JDDW）（第18回）（神戸），2014. 10.
  - 28) 近藤亮太, 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 丸山 弘, 関 奈紀, 堀田正啓, 岩井拓磨, 金丸里奈, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 宮坂俊光, 内田英二：PET-CT検査陽性で悪性が強く疑われた黄色肉芽腫性胆嚢炎症例の検討. 日本消化器外科学会大会（JDDW）（第12回）（神戸），2014. 10.
  - 29) 上田康二, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 金丸里奈, 篠塚恵理子, 宮下哲平, 藤田逸郎, 山下直行, 内田英二：胃癌術後一ヶ月で発見された髄膜癌腫症の1例. 日本臨床外科学会総会（第76回）（福島），2014. 11.
  - 30) 丸山 弘, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 上田康二, 篠塚恵理子, 内田英二：消化器外科における<Candida>属の検出状況と薬剤感受性. 日本外科感染症学会総会（第27回）（東京），2014. 12.
  - 31) 永嶋裕司, 吉本憲介, 嶋山文子, 三浦富宏, 吉田 寛, 内田英二：内視鏡下胃瘻造設術後に横行結腸が腹壁と胃壁の間に陥入し腸閉塞を来した1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会（第99回）（東京），2014. 12.
  - 32) 関 奈紀, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 柳原恵子, 飯田信也, 吉田 寛, 内田英二, 武井寛幸：皮膚浸潤性乳癌にて受診し, 術前化学療法が著効した乳腺扁平上皮癌の1例. 日本乳癌学会関東地方会（第11回）（埼玉），2014. 12.
- (7) ワークショップ（特別発言）：
- 1) 吉田 寛：門脈圧亢進症. 日本肝臓学会東部会（第40回）（東京），2014. 11.
- (8) 医学生セッション：
- 1) 鈴木幹人, 吉田 寛, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 金丸里奈, 内田英二：同時性多発性肝肺転移, S状結腸内転移を伴ったS状結腸腺扁平上皮癌の1例. 日本臨床外科学会総会（第76回）（福島），2014. 11.
- (9) 企画関連口演：
- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 内田英二：肝細胞癌に対する安全な系統肝切除術の適応と手技（部分肝切除との比較から）. 日本消化器外科学会総会（第69回）（福島），2014. 7.
  - 2) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 岩井拓磨, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二：胃管後壁に刺入したCDHトロッカーに先行装着したアンビルを食道に挿入し巾着縫合する頸部吻合の工夫. 日本消化器外科学会総会（第69回）（福島），2014. 7.
  - 3) 横山 正, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 岩井拓磨, 近藤亮太, 内田英二：我々の降消化管吻合の工夫-膀胱径に応じた二種類の吻合法-とその成績. 日本消化器外科学会総会（第69回）（福島），2014. 7.
- (10) 研修医セッション：
- 1) 浅見敬一, 吉田 寛, 平方敦史, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 赤城一郎, 上田純志, 関 奈紀, 高 和英, 金丸里奈, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, その他1名：腹腔鏡にて切除し得た卵巣癌による孤立性転移性脾腫瘍の1例. 日本消化病学会関東支部例会（第330回）（福島），2014. 7.
- (11) 主題関連演題：
- 1) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 赤城一郎, 上田純志, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 萩原信敏, 松谷 毅, 野村 務, 内田英二：食道癌に対する腹臥位胸腔鏡下手術（VATSE）のメリットとストリッピングによる106recL郭清の工夫. 日本臨床外科学会総会（第76回）（福島），2014. 11.
- (12) 主題要望演題：
- 1) 谷合信彦, 中村慶春, 吉岡正人, 清水哲也, 水口義昭, 松下 晃, 神田知洋, 高田英志, 近藤亮太, 吉田 寛, 内田英二：肝切除における開腹, 鏡視下手術の教育法の比較. 日本臨床外科学会総会（第76回）（福島），2014. 11.

(13) 要望ビデオ：

- 1) 平方敦史, 吉田 寛, 横山 正, 牧野浩司, 丸山 弘, 関 奈紀, 堀田正啓, 岩井拓磨, 近藤亮太, 内田英二：安全で確実な系統的肝切除をするために. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島), 2014. 7.
- 2) 岩井拓磨, 牧野浩司, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 堀田正啓, 関 奈紀, 近藤亮太, 内田英二：若年者の食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核出術を行った 2 例. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (福島), 2014. 7.

(14) 要望演題 (ポスター)：

- 1) 横山 正, 吉田 寛, 平方敦史, 近藤亮太, 内田英二：自施設における超高齢者症例に対する膵頭十二指腸切除術の要点. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
- 2) 水口 聡, 鈴木英之, 吉田 寛, 谷合信彦, 山岸征嗣, 田中亮輔, 村木 輝, 黒田誠司, 八木亜記, 三島圭介, 和田由大, 大山莉奈, 清水貴夫, 前島顕太郎, 吉野雅則, その他 3 名：肝門部領域癌に対する門脈塞栓を踏まえた術前ドレナージの工夫. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.

(15) 要望演題 (口演)：

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 高田英志, 水口義昭, 中村慶春, 真々田裕宏, 内田英二：肝切除後胆汁漏に対する BLAKE Silicon Drain を用いた腹腔内ドレーン法の有効性. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
- 2) 赤城一郎, 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 上田純志, 若林秀幸, 篠塚恵理子, 上田康二, 宮下哲平, 宮坂俊光, 宮下正夫, 藤田逸郎, 内田英二：食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下食道切除術・吻合. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島), 2014. 11.

## 論文

### {追加分}

#### 追加分研究報告書：

- 1) 吉田 寛：本年度, 当科で経験した肝外門脈閉塞症の 2 例. 厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書 2014; 130-134.

## 学会発表

### 追加分一般講演：

- 1) 岩井拓磨, 平方敦史, 宮坂俊光, 近藤亮太, 堀田正啓, 丸山 弘, 横山 正, 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二：桃の種子による食餌性イレウス. 日本腹部救急医学会総会 (第 50 回) (東京), 2014. 3.
- 2) 近藤亮太, 横山 正, 平方敦史, 吉田 寛：PET 検査にて悪性が強く疑われた黄色肉芽腫性胆嚢炎症例の検討：特に診断精度と治療方針について. 多摩肝胆膵クラブ (第 18 回) (東京), 2014. 3.
- 3) 篠塚恵理子, 吉田 寛, 牧野浩司, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 関 奈紀, 岩井拓磨：腹腔鏡補助下肝外側区域切除後に横隔膜ヘルニアをきたし食道裂孔ヘルニアと鑑別が困難であった 1 例. 城西外科研究会 (第 88 回) (東京), 2014. 3.
- 4) 岩井拓磨, 牧野浩司, 宮坂俊光, 関 奈紀, 平方敦史, 丸山 弘, 横山 正, 吉田 寛：腫瘍随伴手掌筋膜炎にて胃痛を早期に指摘・加療し得た症例. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (第 88 回) (神奈川), 2014. 3.
- 5) Ko H, Yoshida H, Ueda J, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Matsushita A, Yasuda T, Uchida E：SURGICAL RESECTION OF HEPATIC CYSTIC ECHINOCOCCOSIS IMPAIRED BY PREOPERATIVE DIAGNOSIS：REPORT OF A CASE. 11th World Congress of the International Hepato-Biliary Association (韓国), 2014. 3.
- 6) Taniai N, Yoshida H, Ueda J, Takada H, Uchida E：THE GOOD IDEA FOR ADDITIONAL INDICATION FOR SAFETY LAPAROSCOPIC LIVERRESECTION. 11th World Congress of the International Hepato-Biliary Association (韓国), 2014. 3.
- 7) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Kawano Y, Shimizu T, Kakinuma D, Takata H, Uchida E：EVALUATION OF POSITIVE DUCTAL MARGINS OF CHOLANGIOCARCINOMA IN INTRAOPERATIVE HISTOLOGICAL EXAMINATION. 11th World Congress of the International Hepato-Biliary Association (韓国), 2014. 3.

### 追加分シンポジウム：

- 1) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 堀田正啓, 岩井拓磨, 宮下正夫, 藤田逸郎, 野村 務, 内田英二：食道胃接合部癌に対する鏡視下食道切除術・吻合, 開腹胃切除術. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (神奈川), 2014. 3.

### 追加分特別講演：

- 1) 吉田 寛：肝臓外科の最近の知見. 川崎市外科医会 学術講演会 (神奈川), 2014. 2.

## [千葉北総病院外科・消化器外科]

### 研究概要

消化器外科、一般外科領域における基礎的、臨床的研究を行い、その成果を学会や学会誌等で報告している。研究活動としては以下の通り。1) 消化器疾患に対する内視鏡治療、特に早期胃癌に対するESD、早期大腸癌に対するEMR、胆道疾患に対する内視鏡治療、閉塞性黄疸やがんによる消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等を行い臨床成績を集計している。2) 腹腔鏡手術は胆石症、胃癌、大腸癌の他、ヘルニア、虫垂切除など広い分野で行っている。3) 各種の癌に対して癌化学(放射線)療法の効果と予後に対する治療成績を検討している。4) 基礎研究としては、各種がんバイオマーカー、がんの悪性度にかかわる遺伝子の研究、さらに手術侵襲と生体反応などの研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 野村 務<sup>1)</sup>、岩切勝彦<sup>2)</sup>、松谷 毅<sup>1)</sup>、萩原信敏<sup>1)</sup>、藤田逸郎<sup>1)</sup>、中村慶春<sup>1)</sup>、金沢義一<sup>1)</sup>、川見典之<sup>2)</sup>、宮下正夫<sup>3)</sup>、内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学、2) 日本医科大学消化器内科学、3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：臨床医のために：誤嚥性肺炎を認めた逆流性食道炎・食道裂孔ヘルニア患者に対する 外科治療；腹腔鏡下逆流防止術の有用性。日本医科大学医学会雑誌 2014；10 (4)：182-185.
- 2) 山田岳史<sup>1)</sup>、菅 隼人<sup>1)</sup>、松本智司<sup>2)</sup>、小泉岐博<sup>1)</sup>、進士誠一<sup>1)</sup>、松田明久<sup>2)</sup>、山岸杏彌<sup>1)</sup>、横山康行<sup>1)</sup>、岩井拓磨<sup>1)</sup>、内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科、2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：「高齢者外科：周術期栄養管理をめぐる諸問題」高齢者における鏡視下大腸切除の意義と周術期管理。外科と代謝・栄養 2014；48 (5)：189-196.
- 3) Takei H<sup>1)</sup>、Yanagihara K<sup>1)</sup>、Kurita T<sup>1)</sup>、Iwamoto M<sup>1)</sup>、Seki N<sup>2)</sup>、Hoshina H<sup>3)</sup>、Yokoyama T<sup>2)</sup>、Yamashita K<sup>1)</sup>、Iida S<sup>4)</sup>、Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Breast Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 4) Department of Breast Oncology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 5) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School)：Immunohistochemical Analyses of Cytokeratin in Breast Cancers from Old and New Eras. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (4)：192-193.

##### (2) 総説：

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>、野村 務<sup>1)</sup>、萩原信敏<sup>1)</sup>、牧野弘司<sup>2)</sup>、丸山 弘<sup>2)</sup>、宮下正夫<sup>3)</sup>、内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科学(消化器外科学)、2) 日本医科大学多摩永山病院外科、3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：胸部食道癌に対する外科治療の現況。日本医科大学医学会雑誌 2014；10 (3)：134-141.

##### (3) 症例報告：

- 1) Hagiwara N<sup>1)</sup>、Matsutani T<sup>1)</sup>、Nomura T<sup>1)</sup>、Miyashita M<sup>2)</sup>、Yamashita N<sup>3)</sup>、Wachi E<sup>4)</sup>、Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Surgery, Tsuboi Cancer Center Hospital, 4) Department of Pathology, Tsuboi Cancer Center Hospital)：Discovery of the Primary Site of Esophageal Squamous Cell Carcinoma Based on Axillary Lymph Nodes Metastasis Detected with Fluorodeoxyglucose Positron-emission Tomography：Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (6)：395-400.
- 2) Matsutani T<sup>1)</sup>、Nomura T<sup>1)</sup>、Hagiwara N<sup>1)</sup>、Yoshida H<sup>2)</sup>、Yokoyama T<sup>2)</sup>、Katayama H<sup>3)</sup>、Hosone M<sup>3)</sup>、Matsuda A<sup>1)</sup>、Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital)：A Case of Carcinosarcoma of the Esophagus Detected on Fluorodeoxyglucose Positron Emission Tomography. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (6)：401-405.
- 3) 金谷洋平<sup>1)</sup>、沖野哲也<sup>1)</sup>、吉安正行<sup>1)</sup>、吉村和康<sup>1)</sup>、勝田美和子<sup>1)</sup> (1) 博慈会記念総合病院外科)：空腸腸間膜炎を契機に発見された異所性膵の1例。臨床外科 2014；69 (5)：634-637.

### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 松田明久<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：「日常の疑問を大切に - 臨床・研究・教育3拍子揃った外科医を目指して-」。とちぎ外科教育セミナー(第5回)(宇都宮), 2015. 1.
- 2) 櫻澤信行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科)：「当院における胃がん治療について」。がん診療連携協議会(第4回)(千葉),



2014. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：腹腔鏡下腹会陰陰式直腸切断術におけるストマ造設の工夫. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 2) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 4) 坪井病院 外科)：寝たきりを作らない外科治療. 日本胃癌学会総会 (第 87 回) (広島), 2015. 3.
- 3) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1,2)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科)：大腸ステントによる BTS (bridge to surgery) は閉塞性大腸癌に対する本邦の標準治療となりうるか?. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 小泉岐博<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：結腸ストマ造設における腹膜外経路の有用性. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 2) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科)：脳神経内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術の手術成績. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.

(4) ワークショップ：

- 1) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：骨格筋量を維持し, 予後の改善と要介護化を予防する継続的な NST 活動. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 2) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学部消化器外科)：腹腔鏡下膵切除術の次世代への継承における考察. 日本膵臓学会大会 (第 45 回) (北九州), 2014. 7.

(5) 一般講演：

- 1) 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：膵・胆道悪性疾患に対する腹腔鏡下膵切除術の標準化を目指した手術手技について. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 2) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術における手技の工夫と成績. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 3) 上田純志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学第二病理)：Epithelial splicing regulatory protein 1 による膵癌の転移抑制および予後との関連. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 4) 安藤文彦<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：高齢者の結腸癌術後腸管運動：何が回復に影響するのか?. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 5) 野村 務<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科)：医学生の内視鏡外科 Virtual reality simulator (VRS) トレーニングの有用性：胆嚢モデルを用いた Augmented reality simulator (ARS) による評価. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 6) 山初和也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>2)</sup>, 吉岡正人<sup>2)</sup>, 清水哲也<sup>2)</sup>, 勝野 暁<sup>2)</sup>, 住吉宏樹<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：インスリンノーマに対する腹腔鏡下膵切除術：腫瘍の局在診断と抹消動脈血インスリン値モニタリングの有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 7) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：マウス盲腸穿孔結紮術により誘導される脂肪および肺組織炎症に対するピオグリタゾン前投与の効果. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 8) 松本智司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横山茂樹<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科)：脾彎曲部結腸癌に対する鏡視下 D3 郭清手技. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.

- 9) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋五郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総外科, (2) 日本医科大学消化器外科): 当院における超高齢者胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 10) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 切除可能 T3/4 下部直腸癌に対する治療戦略. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 11) 原 敬介<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>3)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 島田隆<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, (2) 日本医科大学大学院分子遺伝医学, (3) 日本医科大学第二病理): 大腸癌病理標本における RNA 安定性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 12) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 小泉里奈<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, その他3名 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科, (3) 日本医科大学消化器外科): 側臥位と腹臥位胸腔鏡 (VATSE) 及び縦隔鏡食道切除術 (MATHE) の経験と各々のメリット・デメリットから選択した現在の方法. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 13) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 骨格筋量が終末期患者の予後に与える影響: 最大大腰筋断面積は骨格筋量の指標となる. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 14) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, (2) 日本医科大学消化器外科, (3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 長期予後などから考える (今後, 増加が予想される) 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除の適応拡大. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 15) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学附属病院消化器外科): 閉塞性大腸癌症例に対する stent-laparoscopic approach (sLAP) の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第69回) (郡山), 2014. 7.
- 16) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における臍切離・臍消化管吻合の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第69回) (郡山), 2014. 7.
- 17) 松本智司<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学附属病院消化器外科): 頭側アプローチによる精緻な右側結腸切除術. 日本消化器外科学会総会 (第69回) (郡山), 2014. 7.
- 18) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学附属病院消化器外科): 当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除における D2 隔清の導入, D1+ との比較検討. 日本消化器外科学会総会 (第69回) (郡山), 2014. 7.
- 19) 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学附属病院消化器外科): 出血性進行胃癌で胃全摘術後, 1年半で発症した輸入脚症候群に対して内視鏡バルーン拡張を行った1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第330回) (東京), 2014. 7.
- 20) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 金谷洋平<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他2名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学附属病院消化器外科): EMR 後粘膜下腫瘍様再発早期胃癌に対し ESD を施行した1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第330回) (東京), 2014. 7.
- 21) 関口久美子<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 坂田義則<sup>1)</sup>, 高崎秀明<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 神栖済生会病院外科, (2) 日本医科大学千葉北総病院外科, (3) 日本医科大学附属病院消化器外科): 術前に診断し得た十二指腸憩室穿孔の2例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第330回) (東京), 2014. 7.
- 22) 山初和也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科): 腹腔鏡下臍切除術における臍インスリノーマ完全摘出への取り組み. 日本膵臓学会大会 (第45回) (北九州), 2014. 7.
- 23) 飯田信也<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>2)</sup>, 関口久美子<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>4)</sup>, 武井寛幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, (2) 日本医科大学乳腺外科, (3) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, (4) 日本医科大学消化器外科): 乳腺外科医から見た乳癌オンコプラステック・サージャリー導入後の問題点と対策. 乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.
- 24) 山下浩二<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 武井寛幸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学乳腺外科): 3D-CT リンパ管造影と SPECT 合成画像の内視鏡手術映像への投影. 乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.

- 25) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1, 2)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 谷 瞳<sup>3)</sup>, 村上隆介<sup>3)</sup>, 大橋隆治<sup>4)</sup>, 土屋眞一<sup>4)</sup>, 武井寛幸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院乳腺外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学付属病院放射線科, 4) 日本医科大学付属病院病理部: 当院における転移性乳癌に対するベパシズマブとパクリタキセルの併用療法の検討. 乳癌学会学術総会 (第 22 回) (大阪), 2014. 7.
- 26) 山初和也<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院消化器科: 膵管内乳頭粘液腫瘍由来膵腺扁平上皮癌の 1 切除例. 千葉肝胆膵外科フォーラム (第 14 回) (千葉), 2014. 9.
- 27) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科: 結腸癌手術における sliding functional end-to-end anastomosis の功罪: 無作為比較試験による検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 28) 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: Circulating cell free DNA 量は治療効果を反映する. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 29) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: liquid biopsy を用いた KRAS および BRAF 変異解析による抗 EGFR 抗体の効果予測. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 30) 横山康行<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 大草幹大<sup>1)</sup>, 日下部誠<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科: リスク因子数別にみた男性直腸癌患者における術後縫合不全の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 31) 松本智司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科: 右側結腸がんに対する頭側アプローチ法の有用性と定型化. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 69 回) (横浜), 2014. 9.
- 32) 勝野 暁<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>3)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院 外科: 腹腔鏡下痔切除術における随伴性痔炎を伴った剥離困難な症例に対するソフト凝固システムの使用法. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 33) 山田岳史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 小野寺宏之<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学 千葉北総病院外科: 教育機関で行う Interval appendectomy を併用した Hybrid 単孔式虫垂切除術. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 34) 進士誠一<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科: Marionette Technique を用いた単孔式腹腔鏡補助下回盲部切除術. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 35) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 八木亜紀<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科 消化器外科, 3) 日本医科大学附属病院 消化器外科: 腹腔鏡下側方リンパ節摘出: 簡便化と定型化を目指して. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 36) 赤城一郎<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 上田康二<sup>1)</sup>, 宮下哲平<sup>1)</sup>, 宮坂俊光<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 食道胃接合部癌に対する胸腔鏡下食道切除術・吻合. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 37) 保田智彦<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 荻原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学 消化器外科: 長期予後改善を目指した上部限局胃癌に対する噴門側胃切除. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 38) 横山康行<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科: 放射線不透過マーカーを用いた StageIV 大腸癌に対する腹腔鏡手術の有用性の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 39) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>4)</sup>, 木山輝郎<sup>5)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院外科, 4) 坪井病院外科, 5) 東大宮総合病院外科: 胃癌手術における modified Glasgow Prognostic Score (mGPS) の意義. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 40) 原絵津子<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科: 一般外科手術患者における術前下肢超音波診断スクリーニングの適応. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.

- 41) 安藤文彦<sup>1,2)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1,2)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 湖山信篤<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 慈恵会坪井病院 外科) : 右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の胃癌に対して幽門側胃切除術を施行した3例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (郡山), 2014. 11.
- 42) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 近藤亮太<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科 乳腺外科) : 腸管穿孔にて緊急手術を要した多発小腸憩室の1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (郡山), 2014. 11.
- 43) 川島万平<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>3)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 臍頭十二指腸切除術を施行後, 内ヘルニアを生じた1例. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (郡山), 2014. 11.
- 44) 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学付属病院) : リコンビナントトロンボモジュリンは敗血症性DICの予後を改善させるか? : メタアナリシスによる検討. 日本 Shock 学会 (第29回) (松山), 2014. 5.
- 45) 三浦剛史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 伏屋洋志<sup>1)</sup>, 池森紀夫<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>1)</sup>, 小泉はるか<sup>1)</sup>, 平野知子<sup>1)</sup>, 下川陽子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケアチーム) : 医療従事者はDNR指示をどのように捉えているか : アンケート結果を通してDNR指示はあるべきかを考える. 日本緩和医療学会学術大会 (第19回) (神戸), 2014. 6.
- 46) 小泉はるか<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 下川陽子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 池森紀夫<sup>1)</sup>, 伏屋洋志<sup>1)</sup>, 古山めぐみ<sup>1)</sup>, 平野知子<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 緩和ケアチーム) : 早期からの緩和ケアに向けた新たな取り組み : 自発的緩和ケア回診を振り返る. 日本緩和医療学会学術 (第19回) (神戸), 2014. 6.
- 47) 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術における臍切離・腔空腸吻合の工夫. 日本膵臓学会大会 (第45回) (北九州), 2014. 7.
- 48) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 膵癌におけるSTAT5bの抗癌剤感受性, 接着能, 浸潤能への関与. 日本膵臓学会大会 (第45回) (北九州), 2014. 7.
- 49) 白井 舞<sup>1)</sup>, 渡辺光子<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 看護部, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : 嚥嚥で片麻痺のある患者のストーマ装具選択. 東関東ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 (浦安), 2014. 11.
- 50) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 結腸癌手術におけるsliding functional end-to-end anastomosis : 無作為比較試験による検討. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第27回) (東京), 2014. 12.
- 51) 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学消化器外科) : 腸管虚血再灌流障害におけるvisfatin阻害剤の急性肺障害抑制効果. 日本外科学会定期学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 52) 松本智司<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 当科で経験した鏡視下3D映像による, より精緻な直腸癌手術. 千葉内視鏡外科研究会 (第20回) (千葉), 2015. 2.
- 53) 坂巻雅美<sup>1)</sup>, 渡辺光子<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 看護部, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科) : パンフレットを用いた高齢者のストーマ装具交換指導 : 記憶過程の符号化へのはたらきかけ. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 (第32回) (舞浜), 2015. 2.
- 54) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 鏡視下胃全摘術 (LTG) におけるRY再建. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島), 2015. 3.
- 55) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 菅野仁士<sup>2)</sup>, 吉田初雄<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 3) 今泉西病院 外科) : 迷走神経温存漿膜筋層切噴門形成術の評価 : 長期予後を中心に. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島), 2015. 3.
- 56) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 腹腔鏡手術の吻合時に吻合器の簡便確実なアンビル固定の工夫, ダブルループ鉗子を用いた2例. 日本胃癌学会総会 (第87回) (広島), 2015. 3.
- 57) 山初和也<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 積極的臍切除を施行した異時性子宮平滑筋肉腫腫転移症例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第26回) (和歌山), 2014. 6.
- 58) 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 結腸癌手術におけるsliding functional end-to-end anastomosisの有用性. 東京大腸手術手技研究会学術集会 (第28回) (東京), 2014. 10.

- 59) 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 教育機関で行う Hybrid 単孔式虫垂切除術. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 60) 山田岳史<sup>1)</sup>, 青木悠人<sup>1)</sup>, 安藤文彦<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 非壊死性絞扼性イレウスの造影 CT 所見. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 61) 金谷洋平<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 鼠径ヘルニア徒手整復後, 腸管虚血が疑われた症例に審査腹腔鏡を施行した症例. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 62) 栗山 翔<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 金谷洋平<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 直腸癌術後縫合不全に対して内視鏡下クリップ閉鎖術を施行しえた 3 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 63) 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 閉塞性大腸癌における術前減圧処置の長期予後に与える影響. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 64) 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 魚骨穿通による腹直筋下膿瘍の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 65) 下田朋宏<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腸閉塞術後の敗血症を契機に発症したたこつぼ心筋症の 1 例. 千葉重症感染症研究会 (第 10 回) (幕張), 2014. 6.
- 66) 菊池友太<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 下田朋宏<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 関口久美子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下に修復しえた鼠径部ヘルニア嵌頓の 2 例. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京), 2014. 6.
- 67) Matsuda A<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>2)</sup>, Wakabayashi H<sup>2)</sup>, Takahashi G<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): DECREASED PRODUCTION OF ADIPONECTIN IS ASSOCIATED WITH POSTOPERATIVE COMPLICATIONS IN UPPER GASTROINTESTINAL CANCER SURGERY. ANNUAL CONFERENCE ON SHOCK (37th) (U.S.A), 2014. 6.
- 68) 横室茂樹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 「胆道炎治療の現状」. 北総消化器病フォーラム (第 2 回) (千葉), 2014. 10.
- 69) 山田真吏奈<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 臨床研究センター): 「新規炎症性バイオマーカー探索と外科医療応用への可能性を考える」. SIY メディカルネットマーク (第 2 回) (成田), 2014. 11.
- 70) 松田明久<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 「脂肪細胞機能からみた侵襲後炎症性生体反応」. DIC セミナー (千葉), 2015. 2.
- 71) 山初和也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腺癌と新生血管に発現する nestin の解析と, 分子標的治療への応用. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
- 72) 松田明久<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 山田真吏奈<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 高橋吾郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科): 消化器外科周術期における血中 lysophosphatidylcholine (LPC) 値の変動とその測定意義. 外科侵襲とサイトカイン研究会 (第 21 回) (徳島), 2014. 12.
- 73) 保田智彦<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 菊池友太<sup>1)</sup>, 金谷洋平<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 栗山 翔<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 鏡視下直腸癌手術後に下腿コンパートメント症候群を発症した 1 例. 千葉県外科医会 (第 73 回) (千葉), 2015. 3.
- 74) 金谷洋平<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 「エリブリンが有効であった転移性乳がんの 1 例」. 印旛市郡外科医会 (千葉), 2015. 2.

## 論文

### [追加分]

追加分症例報告:

- 1) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科): 腹部鈍的外傷により破裂し腹腔内出血をきたした有茎性肝血管筋脂肪腫の 1 例. 日本腹部救急医学会雑誌 2013; 33 (8): 1377-1380.
- 2) 下田朋宏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院外科): 縦隔気腫, 後腹膜気腫, 皮下気腫を認めた直腸 S 状部穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会雑誌 2014; 34 (3): 685-689.

追加研究報告書：

- 1) Nagoya H, Futagami S, Shimpuku M, Tatsuguchi A, Wakabayashi T, Yamawaki H, Kodaka Y, Kawagoe T, Watarai Y, Makino H, Miyashita M, Tsuchiya S, Crowe S, Sakamoto C : Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 is associated with angiogenesis and VEGF production via upregulation of COX-2 expression in esophageal cancer tissues. 2014 ; 306 (3) : 183-90.
- 2) Song J, Futagami S, Nagoya H, Kawagoe T, Yamawaki H, Kodaka Y, Tatsuguchi A, Gudis K, Wakabayashi T, Yonezawa M, Shimpuku M, Watarai Y, Iwakiri K, Hoshihara Y, Miyashita M, et al. : Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) is overexpressed via the activation of NF-kB-p65 in MCP-1-positive esophageal squamous cell carcinoma tissue. 2013 ; 52 (2) : 112-119.

学会発表

追加分一般講演：

- 1) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 山下直行<sup>3)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 坪井病院外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 食道癌術後再建胃管癌の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 2) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 金澤義一<sup>2)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 上部限局胃癌 (U) に根治性のために胃全摘は必要か? : 上部限局胃癌に対する No.4d, 5, 6 の郭清意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 3) 野村 務<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 萩原伸敏<sup>1)</sup>, 藤倉輝道<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学教育推進室, <sup>3)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 医学生の自由参加型教育システムにおける内視鏡外科 Virtual reality simulator トレーニングの有用性. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 4) 菅 隼人<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 山岸杏彌<sup>1)</sup>, 原 敬介<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 局所進行直腸癌に対する術前化学放射線療法の意義. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.
- 5) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 高尾嘉宗<sup>2)</sup>, 松田明久<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : T4 局所進行食道癌に対する治療戦略: 腹腔補助下食道バイパス手術の位置付け. 日本外科学会定期学術集会 (第 113 回) (福岡), 2013. 4.

## 16. 乳腺外科学分野

### [付属病院乳腺科]

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Yamashita K : Breast Surgery. Reduced Port Laparoscopic Surgery, edited by Toshiyuki Mori, Giovanni Dapri (20th EAES Post-graduate course II : Single Port Surgery joined with TANKO June 20, 2012, Brussel, Belgium), Springer 2014 ; 513-522.
- 2) Yamasita K : Endoscopic Sentinel Node Biopsy is Less Invasive and Facilitated by SPECT-Fused 3D-CT Lymphography. Global Journal of Medical Research : I. 14 2014 ; 14 (3) : 1-7.
- 3) Takei H<sup>1)</sup>, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Iwamoto M<sup>1)</sup>, Seki N<sup>2)</sup>, Hoshina H<sup>3)</sup>, Yokoyama T<sup>2)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Iida S<sup>4)</sup>, Uchida E<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Breast Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>4)</sup> Department of Breast Oncology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>5)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Immunohistochemical Analyses of Cytokeratin in Breast Cancers from Old and New Eras. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (4) : 192-193.

###### (2) 症例報告：

- 1) Iwamoto M<sup>1)</sup>, Takei H<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Kanazawa Y<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Contralateral Breast Cancer Adjacent to a Fibroadenoma : Report of a Case. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (3) : 168-172.
- 2) Yanagihara K<sup>1)</sup>, Takei H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>1)</sup>, Iwamoto M<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Breast Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Grade 4 Epistaxis in a Woman with Metastatic Breast Cancer Treated with Bevacizumab : A Case Report. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (5) : 333-336.

##### 学会発表

###### (1) 招待講演：

- 1) Yamashita K : Endoscopic Breast Cancer Surgery 400 cases later : Where to next ? . Breast Cancer Multidisciplinary Course, Dene-gal Clinical Reserch Academy (Dublin, Ireland), 2014. 8.

###### (2) シンポジウム：

- 1) 山下浩二, 柳原恵子, 武井寛幸 : 乳房オンコプラスティックサージャリーにおける乳腺内視鏡手術の可能性. 乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 (第2回) (東京), 2014. 10.

###### (3) パネルディスカッション：

- 1) 山下浩二, 柳原恵子, 武井寛幸 : 乳房温存手術における乳腺内視鏡手術での切離断端距離縮小の試み. 日本小切開・鏡視外科学会総会 (第27回) (函館), 2014. 8.
- 2) 山下浩二, 柳原恵子, 武井寛幸 : 乳房温存内視鏡手術における乳腺断端腫瘍縁距離を縮小する検討. 日本内視鏡外科学会 (第27回) (盛岡), 2014. 10.

###### (4) ワークショップ：

- 1) 山下浩二, 柳原恵子, 武井寛幸 : 乳腺内視鏡手術による乳房温存手術の整容性向上のための手技. 日本臨床外科学会総会 (第76回) (福島), 2014. 11.

###### (5) 一般講演：

- 1) Kurita T<sup>1)</sup>, Takei H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Iwamoto M<sup>1)</sup>, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Breast Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : INTRAOPERATIVE FROZEN-SECTION ANALYSIS ON TANGENTIAL SHAVED MARGIN IN BREAST-CONSERVING SURGERY. SIS World Congress on Breast Healthcare (18th) (Florida), 2014. 10.
- 2) 大草幹大<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 武井

- 寛幸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院乳腺外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部) : 破骨細胞類似の多核巨細胞を伴った浸潤性乳管癌と乳頭腺管癌の多発癌の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第11回) (埼玉県), 2014. 12.
- 3) 横山 正<sup>1)</sup>, 関 奈紀<sup>1)</sup>, 武井寛幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学乳腺科, <sup>3)</sup> 日本医科大学消化器外科) : ラパチニブで長期間の奏効性が得られている転移性乳癌の1例 - 分子標的治療戦略における興味ある考察 -. 日本乳癌学会関東地方会 (第11回) (埼玉県), 2014. 12.
- 4) 保科淑子<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>2)</sup>, 武井寛幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学乳腺外科) : 軟骨性分化を伴う悪性葉状腫瘍の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第11回) (埼玉県), 2014. 12.
- 5) 関 奈紀<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>4)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 武井寛幸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院一般・消化器・乳腺外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院乳腺科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院消化器・一般・移植外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院乳腺科) : 皮膚浸潤性乳癌にて受診し, 術前化学療法が著効した乳腺扁平上皮癌の1例. 日本乳癌学会関東地方会 (第11回) (埼玉県), 2014. 12.
- 6) Yamashita K, Takei H : SINGLE PORT SURGERY BY TRANS-AXILLARY VIDEO-ASSISTED BREAST SURGERY IS BENEFICIAL FOR LOW-COMPLICATIONS AND HIGH-AESTHETICS. 14th World Congress of Endoscopic Surgery- 22nd European Association of Endoscopic Surgery (Paris, France), 2014. 6.
- 7) Yamashita K, Takei H : Long-term results of the endoscopic video-assisted breast surgery over 10 years are evaluated for early breast cancer. 39th Congress of European Society for Medical Oncology (ESMO) 2014 (第39回) (Madrid, Spain), 2014. 9.
- 8) Yamashita K, Yanagihara K, Takei H : Endoscopic sentinel node biopsy and axillary dissection for early breast cancer can be navigated by the fusion image of 3D-CT lymphography and SPECT-CT. 34th Congress of European Society of Surgical Oncology (ESSO) with BASO 2014 (第34回) (Liverpool, UK), 2014. 10.
- 9) Yamashita K, Yanagihara K, Takei H : Endoscopic sentinel node biopsy for early breast cancer can be performed by 3D navigation with virtual endoscopic image of 3D-CT lymphography and SPECT-CT. 26th Annual Meeting of Asian Pacific Endocrine Conference (APEC) (第26回) (Hawaii, USA), 2015. 2.
- 10) Yamashita K, Yanagihara K, Takei H : Endoscopic breast surgery can be navigated by virtual mode of 3D-CT. 14th St. Gallen International Breast Cancer Conference : Primary Therapy of Early Breast Cancer (第14回) (Vienna, Austria), 2015. 3.
- 11) 山下浩二, 武井寛幸, 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 内分泌外科) : 単孔乳輪縁切開アプローチによる乳頭乳輪温皮下乳腺全摘術での乳腺内視鏡手術の有効性 Single port endoscopic skin-sparing total mastectomy with periareolar incision : early results. 日本外科学会学術集会 (第114回) (京都), 2014. 4.
- 12) 山下浩二, 岩本美樹, 栗田智子, 柳原恵子, 武井寛幸 : 3D-CT リンパ管造影と SPECT 合成画像の乳腺内視鏡映像への投影. 日本乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.
- 13) 山下浩二, 岩本美樹, 栗田智子, 柳原恵子, 武井寛幸 : Endoscopic sentinel node biopsy can be navigated by the fusion image of 3D-CT lymphography and SPECT-CT. 3D-CT リンパ管造影と SPECT 合成画像誘導による内視鏡的センチネルリンパ節生検. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第12回) (福岡), 2014. 7.
- 14) 山下浩二, 柳原恵子, 武井寛幸 : The satisfaction and the aesthetics after the endoscopic breast surgery. 日本癌治療学会 (第52回) (横浜), 2014. 8.
- 15) 柳原恵子, 栗田智子, 岩本美樹, 飯田信也<sup>1)</sup>, 山本浩二, 谷 瞳<sup>2)</sup>, 上村隆介<sup>2)</sup>, 大橋隆治<sup>3)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 多形寛之 (1) 日本医大千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医大付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医大附属病院病理部) : 当院における転移性乳癌に対するペバシズマブとバクタキセルの併用療法の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.
- 16) 谷 瞳<sup>1,3)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 木下貴之<sup>2)</sup>, 町田 稔<sup>1)</sup>, 菊池真理<sup>1)</sup>, 上村隆介<sup>3)</sup>, 吉田民子<sup>3)</sup>, 箱崎謙太<sup>3)</sup>, 桑子智之<sup>3)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup>, 大塚恭一<sup>4)</sup>, Jerebko A<sup>3)</sup>, Fieselmann A<sup>5)</sup>, Mertelmeier T<sup>5)</sup>, 荒井保明<sup>1)</sup>, その他3名 (1) 国立がんセンター中央病院放射線診断科, <sup>2)</sup> 国立がんセンター中央病院乳腺外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>4)</sup> STEMEND Japan, <sup>5)</sup> SIEMENS AG) : 乳房デジタルトモシンセシス読影における3Dマンモグラフィの有用性. 日本乳癌学会学術総会 (第22回) (大阪), 2014. 7.



## 17. 内分泌科学分野

### [付属病院内分泌外科]

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Uchino S<sup>1)</sup>, Sugitani I, Shimizu K (1) Department of Surgery, Noguchi Hospital) : An Extended Family with Familial Medullary Thyroid Carcinoma and Hirshsprung's Disease. J Nippon Ned Sch 2014 ; 81 (2) : 64-69.
- 2) Yoshida A<sup>1)</sup>, Sugino K<sup>2)</sup>, Sugitani I, Miyauchi A<sup>3)</sup> (1) Division of Breast and Endocrine Surgery, Kanagwa Cancer Center, 2) Department of Surgery, Ito Hospital, 3) Department of Surgery, Kuma Hospital) : Anaplastic Thyroid Carcinomas Incidentally Found on Postoperative Pathological Examination. World J Surg 2014 ; 38 (9) : 2311-2316.
- 3) Togashi T<sup>1)</sup>, Sugitani I, Toda K, Kawabata K, Takahashi S<sup>2)</sup> (1) Department of Head and Neck Surgery, Cancer Institute Hospital, 2) Department of general tumor, Cancer Institute Hospital) : Surgical Management of Retropharyngeal Nodes Metastases from Papillary Thyroid Carcinoma. World J Surg 2014 ; 38 (11) : 2831-2837.
- 4) Ebina A<sup>1)</sup>, Sugitani I, Fujimoto Y<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>2)</sup> (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, 2) Division of Ultrasonography Examination, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan) : Risk-adapted management of papillary thyroid carcinoma according to our own risk-group classification system : Is thyroid lobectomy the treatment of choice for low-risk patients?. Surgery 2014 ; 156 (6) : 1579-1589.
- 5) 岡村律子, 杉谷 巖 : 甲状腺腫の穿刺吸引細胞診で髄様癌と診断された！. JOHNS 2014 ; 30 (9) : 1330-1332.
- 6) 杉谷 巖 : 甲状腺癌に対する最善の治療法を求めて : エビデンス・レベル向上のための方策. 日医大医会誌 2014 ; 10 (4) : 201-201.
- 7) 杉谷 巖 : グレーゾーンの甲状腺乳頭癌に対する甲状腺切除術式. 日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 2015 ; 31 (4) : 261-265.
- 8) 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 杉谷 巖 (1) がん研有明病院頭頸科) : 甲状腺乳頭癌における全摘の適応基準—甲状腺温存手術(腺葉切除)を積極的に行う立場から— . Thyroid Cancer Explore 2015 ; 1 (1) : 42-45.

###### (2) 症例報告：

- 1) 長岡竜太, 杉谷 巖 : 甲状腺微小乳頭癌をどのように取り扱うか. Medical Practice 2014 ; 31 (11) : 1816-1819.

##### 著書

- 1) 杉谷 巖 : [分担] 多発性内分泌腫瘍症 2 型 (MEN2) と遺伝性甲状腺髄様癌. 癌の遺伝医療 (新井正美), 2015 ; pp125-131, 南江堂.

##### 学会発表

###### (1) 特別講演：

- 1) 杉谷 巖 : 甲状腺がんの診療：最近のトピックス. 日本耳鼻咽喉科学会和歌山地方部会 (第 96 回) (和歌山県), 2014. 7.
- 2) 杉谷 巖 : 甲状腺がん：疾患の特徴, 治療体系, 終末期管理の特異性. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 12 回) (福岡県), 2014. 7.
- 3) Sugitani I : Non-surgical observation trial for patients with asymptomatic papillary microcarcinoma of the thyroid. Asia Oceania Thyroid Association Congress 2014 (11th) (Kochi, India), 2014. 9.
- 4) 杉谷 巖 : 進行・転移性甲状腺癌治療と分子標的薬. 東北甲状腺癌分子標的治療セミナー (仙台市), 2014. 11.
- 5) 杉谷 巖 : 甲状腺がんの最新のトピックス. 埼玉頭頸部がんカンファレンス (埼玉県さいたま市), 2014. 12.

###### (2) 教育講演：

- 1) 杉谷 巖 : 甲状腺未分化癌研究コンソーシアム：その設立, 成果, 今後の展望. 京滋臨床甲状腺懇話会 (第 14 回) (京都府), 2014. 7.

###### (3) シンポジウム：

- 1) 杉谷 巖, 五十嵐健人, 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 藤本吉秀<sup>1)</sup> (1) がん研有明病院 頭頸科) : グレーゾーンの甲状腺乳頭癌に対する甲状腺切除術式. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
- 2) 清水一雄, 杉谷 巖, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 五十嵐健人, 岡村律子, 長岡竜太, Maya MY, Wilairat P, 山田 哲<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, 2) 金地病院 外科) : 甲状腺疾患に対する鏡視下手術の現状と将来展望 - 普及と発展につながる簡便, 安全で合

併症を起こさない術式. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 27 回) (北海道・函館), 2014. 8.

- 3) 清水一雄, 杉谷 巖, 五十嵐健人, 岡村律子, 長岡竜太: ベラルーシ共和国における内視鏡補助下甲状腺手術. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県横浜市), 2014. 8.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 杉谷 巖: 本邦におけるより効果的な進行・再発甲状腺がん治療は?. Thyroid Cancer Workshop in TOKYO (東京都), 2014. 9.

(5) セミナー:

- 1) 杉谷 巖: 甲状腺癌の臨床 Up to date. 中国四国甲状腺外科研究会 (第 43 回) (松山), 2015. 2.

(6) ワークショップ:

- 1) 五十嵐健人, 宮内 昭<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 杉野公則<sup>2)</sup>, 野口志郎<sup>3)</sup>, 小野田尚佳<sup>4)</sup>, 杉野圭三<sup>5)</sup>, 折田頼尚<sup>6)</sup>, 藤盛啓成<sup>7)</sup>, 和田修幸<sup>8)</sup>, 菊森豊根<sup>9)</sup>, 長谷川泰久<sup>10)</sup>, 佐藤雄一郎, 吉本世一, 宮崎眞和 (1) 隈病院外科, 2) 伊藤病院外科, 3) 野口病院外科, 4) 大阪市立大学腫瘍外科, 5) あかね会土谷総合病院外科, 6) 岡山大学耳鼻咽喉科, 7) 東北大学腫瘍外科, 8) 横浜市立大学外科, 9) 名古屋大学乳腺内分泌外科, 10) 愛知県がんセンター頭頸部外科 他): 甲状腺未分化癌の発生由来と予後に関する検討. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
  - 2) 小野田尚佳<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 吉田 明<sup>2)</sup>, 鈴木眞一<sup>3)</sup>, 伊藤研一<sup>4)</sup>, 神森 眞<sup>5)</sup>, 杉野公則<sup>6)</sup>, 原 尚人<sup>7)</sup>, 東山卓也<sup>8)</sup>, 戸田和寿<sup>9)</sup>, 宮内昭<sup>8)</sup> (1) 大阪市立大学腫瘍外科, 2) 神奈川県立がんセンター乳腺内分泌外科, 3) 福島県立医科大学乳腺内分泌甲状腺外科, 4) 信州大学乳腺内分泌外科, 5) 金地病院外科, 6) 伊藤病院外科, 7) 筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科, 8) 隈病院外科, 9) がん研有明病院頭頸科): 甲状腺未分化癌研究コンソーシアムと医師主導前向き臨床試験の進捗状況. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
  - 3) 岡村律子, 長岡竜太, 軸菌智雄, 五十嵐健人, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 清水一雄 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科): パセドウ病における VANS 法 32 症例の経験. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
  - 4) 五十嵐健人, 原 尚人<sup>1)</sup>, 岡村律子, 長岡竜太, 軸菌智雄, 杉谷 巖, 清水一雄 (1) 筑波大学 乳腺甲状腺内分泌外科): 甲状腺・副甲状腺疾患における先進医療 A と内視鏡下甲状腺手術ワーキンググループの現状. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
  - 5) 長岡竜太, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 杉谷 巖, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 清水一雄 (1) 日本医科大学 病理部): 高カルシウム血症クリーゼを来した緊急手術となった副甲状腺癌の 1 例. 日本内分泌外科学会総会 (第 26 回) (愛知県名古屋市), 2014. 5.
  - 6) 岡村律子, 清水一雄, 五十嵐健人, 杉谷 巖: VANS 法における正中アプローチの工夫. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 27 回) (北海道・函館), 2014. 8.
  - 7) 岡村律子, 清水一雄, 五十嵐健人, 杉谷 巖: パセドウ病における VANS 法の長期成績. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県盛岡市), 2014. 10.
  - 8) 五十嵐健人, 岡村律子, 杉谷 巖, 清水一雄: 甲状腺乳頭癌に対する内視鏡補助下頸部手術 (VANS 法) を用いた術式と治療成績の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県盛岡市), 2014. 10.
  - 9) 清水一雄, 杉谷 巖, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 五十嵐健人, 岡村律子, 長岡竜太, Maya Y, Wilairat P, 山田 哲<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科, 2) 金地病院 外科): 内視鏡補助下頸部手術 (VANS 法) 690 例の成績と現況および将来展望. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手県盛岡市), 2014. 10.
  - 10) 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 川端一嘉<sup>1)</sup> (1) がん研有明病院 頭頸科): 根治手術を施行した甲状腺未分化癌の臨床的検討. 日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- (7) 一般講演:
- 1) 太田久幸<sup>1)</sup>, 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 近藤貴仁<sup>1)</sup>, 戸田和寿<sup>1)</sup>, 福島啓文<sup>1)</sup>, 杉谷 巖 (1) がん研有明病院頭頸科): 気管, 食道浸潤のある進行甲状腺乳頭癌に対する術中, 術後の当科のとりくみ. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.
  - 2) 近藤貴仁<sup>1)</sup>, 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 太田久幸<sup>1)</sup>, 戸田和寿<sup>1)</sup>, 杉谷 巖 (1) がん研有明病院頭頸科): 甲状腺未分化癌 (ATC) in 2014 @ がん研究会 有明病院. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.
  - 3) 長岡竜太, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 杉谷 巖, 大橋隆治<sup>1)</sup>, 清水一雄 (1) 日本医科大学 病理部): 術前の臨床所見より診断に至った副甲状腺癌の 2 例. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.
  - 4) Ebina A<sup>1)</sup>, Sugitani I, Fujimoto Y<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>2)</sup> (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, 2) Division of Ultrasonography Examination, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan): Risk-adapted Management of Papillary Thyroid Carcinoma: According to Our Risk-group Definition. TOKYO Thyroid Cancer Seminar (Tokyo), 2014. 5.
  - 5) 杉谷 巖: 甲状腺がんの臨床: 組織型ごとのノウハウ. がん診療連携拠点病院研修会 (第 13 回) (東京都), 2014. 6.
  - 6) 杉谷 巖: 進行・転移性甲状腺癌治療における注意すべきポイント. Nexavar TYC Web Conference (東京都), 2014. 7.
  - 7) 小野田尚佳<sup>1)</sup>, 伊藤研一<sup>2)</sup>, 杉谷 巖, 鈴木眞一<sup>3)</sup>, 吉田 明<sup>4)</sup> (1) 大阪市立大学 腫瘍外科, 2) 信州大学 乳腺内分泌外科, 3) 福島

県立医科大学 乳腺内分泌甲状腺外科, 4) 神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科) : 甲状腺未分化癌研究コンソーシアムの設立とその成果と活動. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 12 回) (福岡県), 2014. 7.

- 8) 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 戸田和寿<sup>1)</sup>, 新橋 渉<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup> (1) がん研有明病院 頭頸科) : 甲状腺濾胞癌における後発遠隔転移の危険因子の検討. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 47 回) (福岡県), 2014. 10.

(8) Oral Paper Presentation :

- 1) Ebina A<sup>1)</sup>, Sugitani I, Fujimoto Y<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>2)</sup> (1) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan, 2) Division of Ultrasonography Examination, Cancer Institute Hospital, Japanese Foundation for Cancer Research, Tokyo, Japan) : Risk-adapted management of papillary thyroid carcinoma according to our own risk-group classification system : is thyroid lobectomy the treatment of choice for low-risk patients?. Annual Meeting of the American Association of Endocrine Surgeons (35th) (Boston, USA), 2014. 4.

(9) コンソーシアム報告 :

- 1) 覚道健一<sup>1)</sup>, 廣川満良<sup>2)</sup>, 坂本穆彦<sup>3)</sup>, 小野田尚佳<sup>4)</sup>, 杉谷 巖, 宮内 昭<sup>5)</sup> (1) 近畿大学医学部奈良病院病理部, 2) 隈病院病理細胞診断部, 3) 大森赤十字病院検査部, 4) 大阪市立大学腫瘍外科, 5) 隈病院外科) : ATCCJ 病理報告 : 過剰診断に陥りやすい症例. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 47 回) (福岡県), 2014. 10.

(10) ビデオシンポジウム :

- 1) 戸田和寿<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 蛭名 彩<sup>1)</sup>, 山田恵子<sup>2)</sup>, 杉谷 巖 (1) がん研有明病院 頭頸科, 2) がん研有明病院 超音波検査部) : 当科における甲状腺癌に対する手術法とその工夫. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第 47 回) (福岡県), 2014. 10.

(11) ミートザプロフェッサー・パネル :

- 1) 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 長岡竜太, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 清水一雄 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科) : 当科における頸部リンパ節郭清について. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.
- 2) 岡村律子, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 軸菌智雄, 五十嵐健人, 赤須東樹<sup>2)</sup>, 杉谷 巖, 清水一雄 (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌外科) : 副甲状腺の手術手技・確実性と機能低下の防止. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.

(12) ミートザプロフェッサー基調講演 :

- 1) 杉谷 巖 : 反回神経・上喉頭神経の同定法. 大江戸内分泌手術手技懇話会 (第 9 回) (東京), 2014. 4.

(13) 口演 :

- 1) 小野田尚佳<sup>1)</sup>, 杉谷 巖, 鈴木眞一<sup>2)</sup>, 東山卓也<sup>3)</sup>, 伊藤研一<sup>4)</sup>, 原 尚人<sup>5)</sup>, 杉野公則<sup>6)</sup>, 神森 眞<sup>7)</sup>, 戸田和寿<sup>8)</sup>, 宮内 昭<sup>3)</sup>, 吉田明<sup>9)</sup> (1) 大阪市立大学腫瘍外科, 2) 福島県立医科大学乳腺内分泌甲状腺外科, 3) 隈病院外科, 4) 信州大学乳腺内分泌外科, 5) 筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科, 6) 伊藤病院外科, 7) 金地病院外科, 8) がん研有明病院頭頸科, 9) 神奈川県立がんセンター乳腺内分泌外科) : 甲状腺未分化癌に対する医師主導前向き臨床試験の開始経緯と進捗状況報告. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (神奈川県横浜市), 2014. 8.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分原著 :

- 1) 五十嵐健人, 杉谷 巖 : 多発性内分泌腫瘍症診療ガイドブック : MEN2. 家族性腫瘍 2014 ; 14 (1) : 12-14.

## 学会発表

### 追加分シンポジウム :

- 1) Sugitani I : Treatment Strategy for Patients with Papillary Thyroid Microcarcinoma : Option of Non-surgical Observation. Biennial Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (14th) (Negombo, Sri Lanka), 2014. 3.

## 18. 心臓血管外科学分野

[付属病院心臓血管外科・千葉北総病院胸部・心臓血管外科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Panthee N<sup>1)</sup>, Ono M<sup>1)</sup>, Morota T, Tanaka T<sup>1)</sup>, Itoda Y<sup>1)</sup>, Ikemura M<sup>2)</sup>, Yamamoto T<sup>3)</sup>, Suzuki H<sup>3)</sup>, Saito A<sup>1)</sup>, Motomura N<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> Department of Cardiac Surgery, University of Tokyo, (<sup>2)</sup> Department of Neuropathology, University of Tokyo, (<sup>3)</sup> Department of Pharmacy, University of Tokyo) : Paraplegia prevention by oral pretreatment with memantine in a rabbit model. *The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2014 ; 148 (4) : 1732-1738.
- 2) Sakamoto S, Fujii M, Watanabe Y, Hiromoto A, Ishii Y, Morota T, Nitta T : Exploration of Theoretical Ganglionated Plexi Ablation Technique in Atrial Fibrillation Surgery. *Ann Thorac Surg* 2014 ; 98 : 1598-1605.
- 3) Morota T, Takamoto S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiothoracic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan) : Healing process of a novel zero-porosity vascular graft. *Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery* 2014 ; 18 (5) : 556-561.
- 4) Takata M<sup>1)</sup>, Amiya E<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Omori K<sup>1)</sup>, Imai Y<sup>1)</sup>, Fujita D<sup>1)</sup>, Nishimura H<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Morota T, Nawata K<sup>1)</sup>, Ozeki A<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>1)</sup>, Kawarasaki S<sup>1)</sup>, Hosoya Y<sup>1)</sup>, Nakao T<sup>1)</sup>, et al. (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8655, Japan) : Impairment of flow-mediated dilation correlates with aortic dilation in patients with Marfan syndrome. *Heart and Vessels* 2014 ; 29 (4) : 478-485.
- 5) 藤井正大, 芝田匡史, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 別所竜蔵 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : 腎機能低下を伴う高齢者に対する心臓手術の周術期体液管理におけるバソプレッシン V<sub>2</sub> 受容体拮抗薬 : 使用経験から. *Fluid Management Renaissance* 2014 ; 4 (4) : 356-361.
- 6) Noda T<sup>1)</sup>, Kurita T<sup>2)</sup>, Nitta T, Abe H<sup>3)</sup>, Watanabe S<sup>4)</sup>, Furushima H<sup>5)</sup>, Matsumoto N<sup>6)</sup>, Toyoshima T<sup>7)</sup>, Shimizu A<sup>8)</sup>, Mitamura H<sup>9)</sup>, Ohe T<sup>10)</sup>, Aizawa Y (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, (<sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, (<sup>3)</sup> Department of Heart Rhythm Management, University of Occupational and Environmental Health, (<sup>4)</sup> Department of Cardiology, Tsukuba University Hospital Mito Medical Center, (<sup>5)</sup> The First Department of Internal Medicine, Niigata University School of Medicine, (<sup>6)</sup> Department of Pharmacology, St. Marianna University School of Medicine, (<sup>7)</sup> Faculty of Health and Medical Care, Saitama Medical University, (<sup>8)</sup> Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, (<sup>9)</sup> Tachikawa Hospital, (<sup>10)</sup> The Sakakibara Heart Institute of Okayama) : Appropriate duration of driving restrictions after inappropriate therapy from implantable cardiac shock devices-interim analysis of the Nippon Storm Study. *Circulation Journal* 2014 ; 78 (8) : 1989-1991.

##### (2) 総説：

- 1) 田上素子, 新田 隆 : 特集 : 内科医に求められる他科の知識 : 専門医が伝える Do-Don't : 心房細動. *内科* 2014 ; 114 : 939-942.
- 2) 宮内靖史<sup>1)</sup>, 新田 隆 (<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科) : 不整脈学研究の進歩. *循環器専門医* 2014 ; 22 : 301-304.
- 3) 廣本敦之, 新田 隆 : 心房細動手術におけるアブレーションデバイス. *胸部外科* 2014 ; 67 : 641-645.
- 4) 新田 隆 : 心房細動の外科治療. *循環器内科* 2014 ; 75 : 492-498.
- 5) 石井庸介 : 心房細動に対するメイズ手術. *日外会誌* 2014 ; 115 (5) : 266-269.

##### (3) 症例報告：

- 1) 師田哲郎 : 山崎論文に対する Editorial Comment. *心臓* 2014 ; 46 (5) : 627-628.
- 2) 田上可桜<sup>1)</sup>, 齋藤 綾<sup>1)</sup>, 木下 修<sup>1)</sup>, 川島 大<sup>1)</sup>, 柴田深雪<sup>1)</sup>, 師田哲郎, 本村 昇<sup>1)</sup>, 小野 稔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京大学医学部附属病院心臓外科) : 先天性アンチトロンビン欠乏症患者の大動脈弁置換術における周術期管理の経験. *日本心臓血管外科学会雑誌* 2014 ; 43 (3) : 101-104.
- 3) Sasaki T<sup>1)</sup>, Asou T<sup>1)</sup>, Takeda Y<sup>1)</sup>, Tominaga T<sup>1)</sup>, Onakatomi Y<sup>1)</sup>, Ueda H<sup>2)</sup>, Kawataki M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Surgery Kanagawa Children's Medical Center, (<sup>2)</sup> Department of Cardiology Kanagawa Children's Medical Center, (<sup>3)</sup> Department of Neonatology Kanagawa Children's Medical Center) : Hybrid Palliation for a Neonate With Functional Single Ventricle and Restrictive Atrial Septal Defect : A Case Report. *World Journal for Pediatric and Congenital Heart Surgery* 2015 ; 6 ((1)) : 139-142.
- 4) 林 洋史<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 高橋健太<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 坪井一平<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 新田 隆, 坂本俊一郎, 藤井正大, 功刀しのぶ<sup>2)</sup>, 青沼和隆<sup>3)</sup>, その他2名 (<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科学, (<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理

部, <sup>3)</sup> 筑波大学循環器内科学): 切除不能な心臓腫瘍に関連した心室頻拍を開胸下凍結凝固により抑制しえた Gorlin 症候群の 1 例: 病理学的見地も踏まえて. 心臓 2014; 46 (3): 258-263.

- 1) 別所竜蔵: 下行大動脈瘤の患者に手術適応がないプルスルー法にて手術を実施し, 対麻痺を生じさせたとして損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2014; 51 (8): 97-101.
- 2) 別所竜蔵: オフポンプ CABG 術後, 多発性脳梗塞を発症したのは, 術中に適切な回避措置を怠ったからであるとして損害賠償を求めた事例. 医療判例解説 2015; 54 (2): 9-14.
- 3) 新田 隆: 橋桜だより: 学生の留学離れ. 日本医科大学医学会雑誌 2015; 11: 3.
- 4) 新田 隆: 手術の tips and pitfalls: 心房細動に対する外科手技: 冠静脈洞と僧帽弁輪の確実な処理. 日外会誌 2015; 116: 62-62.
- 5) 石井庸介: ペースメーカーアレルギーに対し, ジェネレーターを Polytetrafluoroethylene で被覆して植え込みを施行し, 7 年後に電池交換を行った 1 例に対する editorial comment. 心臓 2014; 46 (4): 476-477.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Nitta T: Surgery of VT. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (7th) (India), 2014. 11.

### (2) 教育講演:

- 1) 大森裕也: リード抜去の現状と課題 - 抜去困難例に対する対策 -. 植込みデバイス関連冬季大会 (第 7 回) (東京), 2015. 2.

### (3) シンポジウム:

- 1) Shimizu A<sup>1)</sup>, Mituhashi T<sup>1)</sup>, Furushima H<sup>1)</sup>, Sekiguchi Y<sup>1)</sup>, Manaka T<sup>1)</sup>, Nishii N<sup>1)</sup>, Ueyama T<sup>1)</sup>, Yokoshiki S<sup>1)</sup>, Morita N<sup>1)</sup>, Nitta T, Okumura K<sup>1)</sup> (1) Implantable Devices Registry and Assessment Committee of the Japanese Heart Rhythm Society, Japan): Are Different Guidelines than Those for Dilated Cardiomyopathy Necessary for Patients with a Lower Ejection Fraction and Heart Failure, and Other Underline Heart Diseases?. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
- 2) Ishii Y, Sakamoto S, Watanabe Y, Nitta T: Long-term Outcomes of the AF Surgery for Two Decades: Does the AF Surgery Prevent Strokes?. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
- 3) 清水昭彦<sup>1)</sup>, 三橋武司<sup>1)</sup>, 古嶋博司<sup>1)</sup>, 真中哲之<sup>1)</sup>, 関口幸夫<sup>1)</sup>, 上山 剛<sup>1)</sup>, 森田典成<sup>1)</sup>, 西井伸洋<sup>1)</sup>, 横式尚司<sup>1)</sup>, 新田 隆, 奥村謙<sup>1)</sup> (1) 日本不整脈学会・デバイス登録評価委員会): 日本の心臓再同期療法の植込み適応基準のリアルワールドにおける変遷. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回) (仙台市), 2014. 9.
- 4) 佐々木孝<sup>1, 2)</sup>, 武田裕子<sup>2)</sup>, 富永崇司<sup>2)</sup>, 佐多荘一郎<sup>2)</sup>, 大中臣康子<sup>2)</sup>, 麻生俊英<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 心臓血管外科, 2) 神奈川県立こども医療センター 心臓血管外科): 小児心臓外科手術後補助循環と ECPR の成績: 神奈川県立こども医療センターでの経験. 関東小児心臓外科の会 (第 19 回) (東京), 2014. 11.

### (4) パネルディスカッション:

- 1) Ishii Y, Sakamoto S, Watanabe Y, Takahashi K<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup>, Nitta T (1) Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Surgical Management for the Mitral and Tricuspid Annulus to Prevent Postoperative Atrial Tachycardia after the Maze Procedure. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.

### (5) セミナー:

- 1) 新田 隆: 心臓血管外科手術における  $\beta$  遮断薬の役割: 薬理から実臨床まで. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第 45 回) (京都), 2015. 2.
- 2) 石井庸介: 着用型自動除細動器 (WCD) の有用性: バイパス症例/低心機能患者の新たな選択肢. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 67 回) (博多), 2014. 9.

### (6) 一般講演:

- 1) 大森裕也, 藤井正大, 師田哲郎, 栗田二郎, 廣本敦之, 坂本俊一郎, 渡邊嘉之, 網谷亮輔, 神戸 将, 芝田匡史, 落 雅美, 新田 隆: 肺梗塞発症を機に診断された膝窩静脈瘤に対する 2 手術例. 日本静脈学会総会 (第 34 回) (沖縄), 2014. 7.
- 2) 丸山雄二<sup>1)</sup>, 芝田匡史, 高橋賢一朗, 田上素子, 廣本敦之, 白川 真, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大<sup>2)</sup>, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科): フリーグラフトとしての GEA の使用方法: ITA-GEA による I-composite graft の有用性. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 19 回) (東京), 2014. 7.
- 3) 神戸 将, 網谷亮輔, 芝田匡史, 廣本敦之, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 藤井正大, 師田哲郎, 新田 隆, 白川 真, 井村 肇<sup>1)</sup>, 石井庸介, 別所竜蔵<sup>2)</sup>, 落 雅美 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科): 透析症

- 例に対する冠動脈バイパス術の治療戦略. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 19 回) (東京), 2014. 7.
- 4) 白川 真, 井村 肇<sup>1)</sup>, 新田 隆 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 心臓血管外科): 未熟心筋の虚血再灌流傷害に対する MPTP-inhibitor の効果. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 67 回) (福岡県), 2014. 9.
  - 5) 石井庸介, 坂本俊一郎, 渡邊嘉之, 大森裕也, 白川 真, 廣本敦之, 高橋賢一郎, 太田恵介, 新田 隆: 発作性心房細動に対する至適 lesion set: Full-Maze or 肺静脈隔離術. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 67 回) (福岡県), 2014. 9.
  - 6) 坂本俊一郎, 渡邊嘉之, 廣本敦之, 太田恵介, 高橋賢一郎, 白川 真, 大森裕也, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆: 心房細動手術における GP アブレーション: 標準的手技の確立および治療成績の検討. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 67 回) (福岡県), 2014. 9.
  - 7) Sakamoto S, Ota K, Aoyama J, Takahashi K, Shibata M, Tanoue M, Hiromoto A, Shirakawa M, Watanabe Y, Ishii Y, Morota T, Nitta T: Surgical Ablation of Ganglionic Plexi: Experimental and Clinical Assessment of Autonomic Denervation. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
  - 8) Sakamoto S, Omori H, Watanabe Y, Hiromoto A, Ota K, Shibata M, Aoyama J, Takahashi K, Shirakawa M, Ishii Y, Morota T, Nitta T: Intraoperative Electroanatomical Mapping-assisted Surgical Treatment of Ventricular Tachycardia: Application to Atypical Cases. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
  - 9) Murata H<sup>1,2)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Nitta T, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Sakamoto S, Kodani E<sup>2)</sup>, Nakagomi A<sup>2)</sup>, Soejima K<sup>3)</sup>, Igawa O<sup>2)</sup>, Kusama Y<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>2)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Cardiology, Kyorin University School of Medicine, Tokyo, Japan): Characteristics of Ventricular Tachycardia Needing Surgical Treatment. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
  - 10) Mase H<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Sugita S<sup>1)</sup>, Kobayashi K<sup>1)</sup>, Hiromoto A, Watanabe Y, Ohmori H, Shun-Ichiro S, Isii Y, Nitta T, Sakamoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Perioperative Management after the Surgical Ablation for Atrial Fibrillation. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
  - 11) Takahashi K<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Iwasaki Y<sup>1)</sup>, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Tsuboi I<sup>1)</sup>, Omori H, Ishii Y, Nitta T, Shimizu W<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Mechanisms and Treatment of Post-operative Atrial Tachycardia Emerging Late after Full-Maze Surgery. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 7.
  - 12) 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 新田 隆, 功刀しのぶ<sup>3)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 小川宗範<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 循環器内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部): 原発性心臓腫瘍に関連した心室頻拍の発症機序と治療: 開心術中の電気生理学的ならびに病理組織学的な検討. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回) (仙台市), 2014. 9.
  - 13) 廣本敦之, 太田恵介, 青山純也, 芝田匡史, 高橋賢一郎, 田上素子, 白川 真, 渡邊嘉之, 大森裕也, 坂本俊一郎, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆: 成人期に診断された 2 型心室中隔欠損, 右冠尖逸脱による大動脈閉鎖不全症の 1 症例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 166 回) (群馬県高崎市), 2014. 11.
  - 14) 青山純也, 宮城泰雄, 白川 真, 廣本敦之, 太田恵介, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 循環器内科): 右室流出路狭窄を引き起こした心臓腫瘍の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 234 回) (東京都), 2014. 12.
  - 15) Sasaki T<sup>1)</sup>, Asou T<sup>1)</sup>, Takeda Y<sup>1)</sup>, Tominaga T<sup>1)</sup>, Onakatomi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Surgery Kanagawa Children's Medical Center): Blalock-Taussig shunt in neonates with functionally univentricular heart. The Society of Thoracic Surgeons the 51st Annual Meeting (San Diego, California, USA), 2015. 1.
  - 16) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 麻生俊英<sup>1)</sup>, 武田裕子<sup>1)</sup>, 富永崇司<sup>1)</sup>, 大中臣康子<sup>1)</sup>, 上田秀明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立こども医療センター心臓血管外科, <sup>2)</sup> 神奈川県立こども医療センター循環器科): 小児 ASD 閉鎖術の治療成績カテーテル治療と外科手術の比較. 小児循環器学会総会 (第 50 回) (岡山), 2014. 7.
  - 17) 佐々木孝<sup>1)</sup>, 麻生俊英<sup>1)</sup>, 武田裕子<sup>1)</sup>, 富永崇司<sup>1)</sup>, 大中臣康子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立こども医療センター心臓血管外科): 小児心疾患患者に対する体外循環を使用した心肺蘇生の成績. 日本人工臓器学会大会 (第 52 回) (札幌), 2014. 10.
  - 18) 田上素子, 廣本敦之, 師田哲郎, 新田 隆: 腹部大動脈瘤人工血管置換術の吻合部仮性瘤・左下肢急性虚血に対し集学的治療にて救命し得た 1 例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 23 回) (ステーションコンファレンス東京), 2014. 8.

- 19) 上田仁美, 藤井正大, 川瀬康裕, 仁科 大, 別所竜蔵: 冠動脈バイパス術後に遅発性乳び胸をきたした1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第167回) (東京), 2015. 3.
  - 20) 上田仁美, 藤井正大, 川瀬康裕, 仁科 大, 別所竜蔵: 三尖弁位感染性心内膜炎に対し, 急性期に弁形成術を施行した1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第166回) (群馬県高崎市), 2014. 11.
  - 21) 藤井正大, 廣本敦之, 渡邊嘉之, 大森裕也, 師田哲郎, 新田 隆, 上田淳志<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学 消化器外科): 下大静脈腫瘍栓を合併した左腎細胞癌の術後に下大静脈腫瘍栓の再発をきたし, 再手術を施行した1例. 日本静脈学会総会 (第34回) (沖縄), 2014. 4.
  - 22) 藤井正大, 栗田二郎, 渡邊嘉之, 師田哲郎, 新田 隆, 赤塚 純<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (日本医科大学 泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 人工心肺補助下に摘出した左腎細胞癌下大静脈腫瘍栓右房進展の1例. 日本血管外科学会学術総会 (第42回) (青森), 2014. 5.
  - 23) 藤井正大: 遠隔成績からみた高齢者における冠動脈バイパス術. 北総循環器フォーラム (第7回) (印西市), 2014. 7.
  - 24) 大石典子<sup>1)</sup>, 大山 亮<sup>1)</sup>, 吉永 綾<sup>1)</sup>, 岩崎雄樹<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup>, 渡邊嘉之, 石井庸介, 新田 隆 (日本医科大学付属病院 循環器内科): Streptococcus oralis による感染性心内膜炎に対して AVR 後, PVE を発症した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第235回) (東京都), 2015. 2.
  - 25) 田上素子, 石井庸介, 佐々木孝, 青山純也, 高橋賢一朗, 廣本敦之, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 宮城泰雄, 師田哲郎, 新田 隆: 部分肺静脈還流異常症に対して Warden 手術および右房 maze を施行した1成人例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第167回) (東京都), 2015. 3.
  - 26) 井関陽平<sup>1)</sup>, 青山純也, 芝田匡史, 高橋賢一朗, 田上素子, 廣本敦之, 白川 真, 佐々木孝, 坂本俊一郎, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆 (日本医科大学付属病院 研修医): 心房細動を合併した三心房性の成人例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第167回) (東京都), 2015. 3.
  - 27) 新田 隆, 坂本俊一郎: 心房細動手術における心臓神経叢アブレーションの効果に関する他施設共同試験」の経験から. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第45回) (京都), 2015. 2.
  - 28) 廣本敦之, 青山純也, 芝田匡史, 高橋賢一朗, 田上素子, 白川 真, 佐々木孝, 渡邊嘉之, 宮城泰雄, 大森裕也, 坂本俊一郎, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆: 大動脈弁狭窄症に合併した心房細動に対する術式の選択: Maze? or PVI?. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第45回) (京都), 2015. 2.
  - 29) 高橋賢一朗, 太田恵介, 青山純也, 芝田匡史, 田上素子, 廣本敦之, 白川 真, 佐々木孝, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆: 心臓・胸部大血管手術中に生じる医原性大動脈解離の危険因子と対策の検討. 日本心臓血管外科学会学術総会 (第45回) (京都), 2015. 2.
- (7) 学生発表:
- 1) 堀部達也<sup>1)</sup>, 青山純也, 廣本敦之, 太田恵介, 芝田匡史, 高橋賢一朗, 田上素子, 白川 真, 渡邊嘉之, 坂本俊一郎, 石井庸介, 師田哲郎, 新田 隆 (日本医科大学5年生): 重症大動脈閉鎖不全・発作性心房細動に対して大動脈弁置換術及び肺静脈隔離術を施行した大動脈4尖弁の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第166回) (群馬県高崎市), 2014. 11.

## 論文

### [追加分]

追加分原著:

- 1) Mihic A<sup>1)</sup>, Li J<sup>1)</sup>, Miyagi Y, Gagliardi M<sup>2)</sup>, Li S<sup>1)</sup>, Zu J<sup>3)</sup>, Weisel R<sup>4)</sup>, Keller G<sup>5)</sup>, Li R<sup>6)</sup> (1) Division of Cardiac Surgery, University of Toronto, Toronto, ON, Canada., (2) McEwen Centre for Regenerative Medicine, Toronto, ON, Canada., (3) Department of Mechanical and Industrial Engineering, University of Toronto, Toronto, ON, Canada., (4) Division of Cardiac Surgery, University of Toronto, Toronto, ON, Canada; McEwen Centre for Regenerative Medicine, Toronto, ON, Canada., (5) McEwen Centre for Regenerative Medicine, Toronto, ON, Canada; Department of Medical Biophysics, University of Toronto, Toronto, ON, Canada., (6) Division of Cardiac Surgery, University of Toronto, Toronto, ON, Canada; McEwen Centre for Regenerative Medicine, Toronto, ON, Canada.) : The effect of cyclic stretch on maturation and 3D tissue formation of human embryonic stem cell-derived cardiomyocytes. *Biomaterials* 2014; 35 (9) : 2798-2808.
- 2) Bessho R, Ishii Y, Nishina D, Kawase Y : Thoracic aortic aneurysms in octogenarians : The results of open surgical repair using hypothermic circulatory arrest with antegrade selective cerebral perfusion. *J Nippon Med Sch* 2014; 81 (1) : 12-18.

## 学会発表

追加分一般講演:

- 1) Hiromoto A, Ota K, Aoyama J, Takahashi K, Shibata M, Tanoue M, Shirakawa M, Watanabe Y, Sakamoto S, Ishii Y,

Morota T, Nitta T : Efficacy of Atrial Fibrillation Surgery as a Concomitant Procedure to Aortic Valve Surgery. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (29th) 日本不整脈学会 (第 29 回)・日本心電学会 (第 31 回) 合同学術大会 (Tokyo), 2014. 2.

- 2) 石井庸介, 川瀬康裕, 仁科 大, 高橋賢一郎, 坂本俊一郎, 渡辺嘉之, 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美 : Full-Maze 手術 vs. 肺静脈隔離術 どちらを選択すべきか?. 日本心臓血管外科学会総会 (第 43 回) (熊本), 2014. 2.

追加分セミナー :

- 1) 石井庸介 : 着用型自動除細動器 (WCD) の有用性 : 低心機能の冠動脈バイパス術患者における新たな治療選択. 日本心臓血管外科学会定期学術集会 (第 45 回) (京都), 2014. 2.



## 19. 呼吸器外科学分野

### [付属病院呼吸器外科・千葉北総病院呼吸器外科]

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 井上達哉, 白田実男, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : シリコン製栓型気管支充填剤が奏効した食道癌術後難治性気胸の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2014 ; 75 (9) : 2462-2466.
- 2) Okuda K<sup>1)</sup>, Yano M<sup>1)</sup>, Yoshino I<sup>2)</sup>, Okumura M<sup>3)</sup>, Higashiyama M<sup>4)</sup>, Suzuki K<sup>5)</sup>, Tsuchida M<sup>6)</sup>, Usuda J, Tateyama H<sup>7)</sup> (1) Department of Oncology, Immunology and Surgery, Nagoya City University Graduate School of Medical Science, Nagoya, 2) Department of Oncology, Immunology and Surgery, Nagoya City University Graduate School of Medical Science, Nagoya, 3) Department of General Thoracic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, 4) Department of General Thoracic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 5) Department of Thoracic Surgery, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, Osaka, 6) Division of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata, 7) Department of pathology, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai) : Thymoma Patients With Pleural Dissemination : Nationwide Retrospective Study of 136 Cases in Japan. The Annals of Thoracic Surgery 2014 ; 97 (5) : 1743-1749.
- 3) Maehara S<sup>1)</sup>, Usuda J, Ishizumi T, Ichinose S<sup>1)</sup>, Ohtani K<sup>1)</sup>, Inoue T, Imai K<sup>1)</sup>, Furumoto H<sup>1)</sup>, Kudo Y<sup>1)</sup>, Kajiwara N<sup>1)</sup>, Ohira T<sup>1)</sup>, Ikeda N<sup>1)</sup> (1) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University) : Combination effect of photodynamic therapy using NPe6 with pemetrexed for human malignant pleural mesothelioma cells. Int J Oncol 2015 ; 46 (2) : 505-512.

###### (2) 総説：

- 1) 白田実男, 石角太一郎, 井上達哉, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 蓮実健太 : 肺癌ワークショップ特集—肺癌に対する光線力学的治療. 肺癌 2014 ; 54 (7) : 983-987.
- 2) 白田実男 : 中心型肺癌に対する光線力学的療法. Pharma Medica 2015 ; 33 (3) : 71-74.

###### (3) 症例報告：

- 1) Okamoto J<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Motoda N<sup>2)</sup>, Hoshina H<sup>1)</sup>, Ishii H<sup>3)</sup>, Kitayama Y, Usuda J (1) Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Local Recurrence of Lung Adenocarcinoma 10 Years after Left Upper Lobectomy Resembling Pseudomesotheliomatous Adenocarcinoma : A Case Report. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (3) : 173-178.
- 2) Imai K<sup>1)</sup>, Suga Y<sup>1)</sup>, Nagatsuka Y<sup>1)</sup>, Usuda J<sup>1)</sup>, Ohira T<sup>1)</sup>, Kato H<sup>1)</sup>, Ikeda N<sup>1)</sup> (1) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University) : Pneumothorax caused by costal exostosis. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2014 ; 20 (2) : 161-164.

###### (4) 手技の工夫：

- 1) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 窪倉浩敏<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器外科) : 気管支：死腔瘻を伴う肺アスペルギローマに対する手術工夫：菌球除去後の気管支瘻孔閉鎖. 日本呼吸器外科学会雑誌 2014 ; 28 (6) : 707-711.

##### 著書

- 1) 白田実男 : [分担] 13 : 縦隔疾患. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014 ; pp375-378, 総合医学社.
- 2) 白田実男 : [分担] 光線力学的治療. レーザー安全教育ガイドライン (日本レーザー医学会安全教育委員会編).
- 3) 池田徳彦<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 東京医科大学外科学第一講座) : [分担] 気管 (気管支) 腫瘍 (2014年改訂版). E-Book : 今日の臨床サポート (電子辞書) (高橋和久 (順天堂大学大学院)), 2014 ; エルセビアジャパン.

##### 学会発表

###### (1) 招待講演：

- 1) Hirai K<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of thoracic surgery) : Therapeutic efficacy of single incision thoracoscopic surgery for stage I lung cancer. 3rd Asian Single Port VATS symposium & live surgery (Hong Kong), 2015. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) Usuda J, Ohtani K<sup>1)</sup>, Oka K<sup>2)</sup>, Kato H<sup>1)</sup> (1) Department of Thoracic Surgery, Tokyo Medical University, (2) OK Fiber Technology Co., Ltd.) : The new interventional technique by photodynamic therapy using composite-type optical fiberscope of 1.0 mm in diameter for peripheral lung lesion. International Symposium on PDT and PDD in clinical practice Symposium : Challenge of PDT for peripheral early lung cancer (10th) (Brixen/Bressanone (South Tyrol, Italy)), 2014. 10.
- 2) 石角太一郎, 白田実男, 井上達哉, 揖斐孝之, 堀内 翔, 佐藤 明, 蓮実健太 (1) 日本医科大学 呼吸器外科) : 末梢肺癌に対する PDT : 多施設臨床試験の取り組み. 日本レーザー医学会総会 (第 35 回) (新宿区西新宿 (東京)), 2014. 11.
- 3) Usuda J : Photodynamic therapy for peripheral lung cancers. WCBIP/WCBE World Congress (18th) (kyoto (Japan)), 2014. 4.
- 4) 白田実男 : 肺癌に対する PDT. 日本呼吸器学会 (第 54 回) (大阪府), 2014. 4.
- 5) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 呼吸器外科領域における鏡視補助手術の今後について. 日本小切開・鏡視外科手術学会 (第 27 回) (函館), 2014. 8.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 井上達哉, 石角太一郎, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 蓮実健太, 白田実男 : 呼吸器外科手術における 3D 術前シミュレーション画像の有用性. 日本外科系連合学会学術集会 (第 39 回) (東京都千代田区), 2014. 6.
- 2) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 当科における早期肺癌に対しての Reduced port surgery の実際について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.

(4) セミナー：

- 1) 白田実男 : 早期肺癌に対する最新治療. 日本光線力学学会学術講演会 (第 24 回) (静岡県浜松市), 2014. 6.
- 2) 白田実男 : 呼吸器の病気について - 肺の病気から身を守るために…肺活しましょう! . 市民公開健康セミナー (東京都北区), 2015. 2.

(5) ワークショップ：

- 1) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 早期肺癌に対する Single Incision Thoracoscopic Surgery (SITS) と conventional VATS (c-VATS) に関する手術成績と医療経費の比較検討. 単孔式手術研究会 (第 8 回) (福井), 2014. 8.

(6) ポスター：

- 1) 揖斐孝之, 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学千葉北総病院呼吸器外科) : 右肺上葉切除後に発生した中葉軸捻転の 3 症例. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京都港区台場), 2014. 5.
- 2) 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup>, 白橋二郎<sup>2)</sup>, 許田典男<sup>3)</sup>, 北山康彦, 白田実男 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部) : CDDP/TS1+ 放射線療法が著効し右肺全摘術を施行, Pathological CR となった臨床病期 IIIB 期肺癌の 2 症例. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 新井 悟, 白田実男 (1) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器センター, (2) 日本医科大学多摩永山病理部) : 非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対する Erlotinib の使用経験. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 4) 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科) : 肺原発顆粒細胞腫の一切除例. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 5) 岡本淳一<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup>, 白橋二郎<sup>2)</sup>, 許田典男<sup>3)</sup>, 北山康彦, 白田実男 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理診断部) : 肺葉切除術における葉間作成の有無と術後予後への影響. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 6) 竹内真吾<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科) : 左上葉と右後縦隔に同時に発見された血管腫の 1 例. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 7) 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 花田和正<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 温知会会津中央病院 呼吸器科) : 肺癌と鑑別困難であり胸腔鏡下に切除した臓側胸膜中皮のう胞の 1 例. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 8) 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 新井 悟<sup>2)</sup>, 白田実男, 川本雅司<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器センター, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 帝京大学医学部附属病院 臨床病理科) : 血痰の持続を契機に発見された空洞結節型肺多形癌の一手術例. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 9) 堀内 翔, 井上達哉, 蓮実健太, 佐藤 明, 揖斐孝之, 石角太一郎, 白田実男 : 肺原発骨肉腫の 1 切除例. 日本肺癌学会学術集会

- (第55回)(京都市(京都府)), 2014. 11.
- 10) 井上達哉, 石角太一郎, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 蓮実健太, 白田実男: 糖尿病合併患者における肺がん周術期管理の検討. 日本肺癌学会学術集会(第55回)(京都市(京都府)), 2014. 11.
- 11) 揖斐孝之, 蓮実健太, 堀内 翔, 佐藤 明, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 冠動脈ステント留置術後の肺癌手術症例に対する周術期管理の検討. 日本肺癌学会学術集会(第55回)(京都市(京都府)), 2014. 11.
- 12) 竹内真吾<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院): Surgical strategy for stage III thymoma by video assisted thoracoscopic surgery (VAT-T) with lateral thoracotomy. 14th CELCC (Vienna), 2014. 12.
- (7) 一般講演:
- 1) 蓮実健太, 井上達哉, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 石角太一郎, 白田実男: 外科的切除と光線力学的治療が有効であった原発性同時多発肺癌の1例. 日本光線力学学会学術講演会(第24回)(静岡県浜松市), 2014. 6.
- 2) 井上達哉, 石角太一郎, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 蓮実健太, 岡 潔<sup>1)</sup>, 白田実男 ( <sup>1)</sup> 日本原子力研究開発機構): 抹消型肺癌に対するPDTの新たな試み. 日本光線力学学会学術講演会(第24回)(静岡県浜松市), 2014. 6.
- 3) 揖斐孝之, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 竹内慎吾<sup>1)</sup>, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院呼吸器外科): 後縦隔に発生した傍神経節腫の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第165回)(神奈川県横浜市), 2014. 6.
- 4) 石角太一郎, 蓮実健太, 堀内 翔, 佐藤 明, 揖斐孝之, 井上達哉, 白田実男: 肺悪性腫瘍手術における区域間形成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会(第27回)(岩手県盛岡市), 2014. 10.
- 5) 揖斐孝之, 蓮実健太, 堀内 翔, 佐藤 明, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 間質性肺炎合併肺癌に対する手術症例の検討. 文京区呼吸器外科研究会(第24回)(東京都文京区千駄木), 2014. 4.
- 6) 揖斐孝之, 蓮実健太, 佐藤 明, 堀内 翔, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 頸部から縦隔に連続する巨大な粘液繊維肉腫の1切除例. 文京区呼吸器外科研究会(第25回)(東京都文京区千駄木), 2014. 9.
- 7) Ishizumi T, Hasumi K, Horiuchi S, Sato A, Ibi T, Inoue T, Usuda J: Frequency of mediastinal lymph node metastasis in patients with clinical stage IA Non-small cell lung cancer. 2014 IASLC Asia Pacific Lung Cancer Conference (第6回)(クアラランプール(マレーシア)), 2014. 11.
- 8) Ishizumi T, Usuda J, Inoue T, Takeuchi S, Ibi T: Therapeutic strategy for multiple central-type lung cancer. 18th World Congress for Bronchology and Interventional Pulmonology. World Congress Bronchoesophagology (第18回), 2014. 4.
- 9) 富張雅宏, 石角太一郎, 揖斐孝之, 井上達哉, 白田実男: 3D-CTを用いた完全鏡視下肺区域切除術の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第165回)(横浜(神奈川)), 2014. 6.
- 10) 佐藤 明, 蓮実健太, 堀内 翔, 揖斐孝之, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 緊急ドレナージ術により軽快した縦隔炎の1例. 外科集談会(第834回)(東京都文京区), 2014. 9.
- 11) 堀内 翔, 井上達哉, 蓮実健太, 佐藤 明, 揖斐孝之, 石角太一郎, 白田実男: 限局型小細胞肺癌完全寛解導入15年後に非小細胞肺癌を発生し治癒切除しえた1例. 日本肺癌学会関東支部学術集会(第171回)(新宿区西新宿), 2014. 12.
- 12) 佐藤 明, 井上達哉, 蓮実健太, 堀内 翔, 揖斐孝之, 石角太一郎, 白田実男: 胸骨正中切開右第4肋間開胸で右肺全摘を施行した肺癌の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第167回)(東京都千代田区丸の内), 2015. 3.
- 13) 小谷野麻耶<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>2)</sup>, 窪倉浩俊<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 呼吸器外科): 多発外傷後大量胸膜外血腫に対し, TAE後に血腫除去術を行った1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第167回)(東京都千代田区丸の内), 2015. 3.
- 14) 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属多摩永山病院 呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 呼吸器外科): 嗄声を契機に発見され, 完全切除し得た上縦隔発生胸腺癌の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第167回)(東京都千代田区丸の内), 2015. 3.
- 15) 蓮実健太, 佐藤 明, 堀内 翔, 揖斐孝之, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 頸部から縦隔に連続する巨大な粘液肉腫の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第166回)(群馬県高崎市), 2014. 11.
- 16) 蓮実健太, 佐藤 明, 堀内 翔, 揖斐孝之, 井上達哉, 石角太一郎, 白田実男: 気管内に急速に進展した肺癌の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会(第39回)(東京都新宿四谷), 2014. 9.
- 17) 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸器外科): 結節影を呈し気管支鏡検査が診断に有効であった肺原発悪性リンパ腫の2例. 日本呼吸器外科学会(第31回)(東京), 2014. 5.
- 18) 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸器外科): CO2胸腔内陽圧法とバイポーラベッセルシーリングシステムによる3Port完全鏡視下における右上縦隔廓清手技. 日本呼吸器外科学会(第31回)(東京), 2014. 5.
- 19) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 付属病院 呼吸

器外科) : I期肺癌に対する Single Incision Thoracoscopic Surgery (SITS) の有用性について. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京), 2014. 5.

- 20) Hirai K<sup>1)</sup>, Takeuchi S<sup>1)</sup>, Iijima Y<sup>1)</sup>, Usuda J<sup>2)</sup> (1) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Division of thoracic surgery, 2) Nippon Medical School, Division of thoracic surgery) : Therapeutic efficacy of Single-Incision Thoracoscopic Surgery (SITS) for stage I lung cancer. Central European Lung Cancer Conference (14 th) (Vienna, Wien), 2014. 12.
- 21) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 当科における浸潤性または巨大縦隔腫瘍 に対する側方開胸併用の胸腔鏡補助下手術について. 日本胸部外科学会定期学術集会 (67 回) (福岡), 2014. 10.
- 22) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 術後肺癆に対するフィブログロガミン P の有用性の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京), 2014. 5.
- 23) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : 当科での浸潤性および巨大縦隔腫瘍 に対する胸腔鏡補助下手術について. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京), 2014. 5.
- 24) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : Therapeutic efficacy of Single-Incision Thoracoscopic Surgery (SITS) for stage I lung cancer. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.

(8) ビデオセッション :

- 1) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科) : Single incision thoracoscopic surgery (SITS) の早期肺癌に対する治療成績について. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 2) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男 (1) 日本医科大学千葉北総病院 呼吸器外科) : 呼吸器外科領域での EndoGIATMRadial Re-load (Covidien) の有用性について. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.
- 3) 石角太一郎, 井上達哉, 揖斐孝之, 堀内 翔, 佐藤 明, 蓮実健太, 白田実男 : 解剖学的肺区域切除術における術前シミュレーションの重要性. 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (京都市 (京都府)), 2014. 11.

(9) 学生発表 :

- 1) 鈴木幹人, 井上達哉, 揖斐孝之, 佐藤 明, 堀内 翔, 蓮実健太, 石角太一郎, 白田実男 : 術前に 3 次元画像構築をして行った左上大区切除術の経験. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 166 回) (群馬県高崎市), 2014. 11.

(10) 宿題口演 :

- 1) 平井恭二<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 呼吸器外科, 2) 日本医科大学 附属病院 呼吸器外科) : プタ摘出心臓標本を利用した呼吸器外科トレーニングの新しい試み. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京), 2014. 5.

(11) 要望ビデオ :

- 1) 石角太一郎, 揖斐孝之, 竹内真吾, 井上達哉, 白田実男 : 当院における肺区域切除術をより正確に行うための工夫. 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回) (東京都港区台場), 2014. 5.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分教育講演 :

- 1) 白田実男 : 肺癌に対するレーザー治療. 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医大会 (第 21 回) (千葉市 (千葉県)), 2014. 2.

## [多摩永山病院呼吸器外科]

### 研究概要

当科では主に以下の課題で研究に取り組んでいる.

1. 胸腔鏡による手術手技の向上と技術開発
2. 間質性肺炎合併肺癌の転移の特徴について
3. ドライバー遺伝子と肺癌手術症例の予後について
4. 肺癌および悪性胸膜中皮腫におけるホメオボックス遺伝子の異常について
5. 肺癌術後補助化学療法について
6. 胸膜中皮腫の予後と治療選択について
7. 末梢小腫瘍病変に対する検出機器の開発

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hirata T<sup>1)</sup>, Zheng Q<sup>1)</sup>, Chen Z<sup>1)</sup>, Kinoshita H<sup>1)</sup>, Okamoto J<sup>1)</sup>, Kratz J<sup>1)</sup>, Li H<sup>1)</sup>, Lui N<sup>1)</sup>, Do H<sup>1)</sup>, Cheng T<sup>1)</sup>, Zhou H<sup>3)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup>, He B<sup>1)</sup>, et al. (1) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, (2) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, (3) School of Life Sciences, Tsinghua University) : Wnt7A is a putative prognostic and chemosensitivity marker in human malignant pleural mesothelioma. *Oncology reports* 2015 ; 33 (4) : 2052-2060.
- 2) Giroux Leprieur E<sup>1,2)</sup>, Hirata T<sup>1,4)</sup>, Mo M<sup>5)</sup>, Chen Z<sup>5)</sup>, Okamoto J<sup>1,4)</sup>, Clement G<sup>1)</sup>, Li H<sup>1)</sup>, Wislez M<sup>3)</sup>, Jablons MD<sup>1,6)</sup>, He B<sup>1,6)</sup> (1) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco, (2) Sorbonne Universities, UPMC Paris 6 University, GRC04 Therascan, (3) Respiratory Diseases and Thoracic Oncology Department, Ambroise Pare Hospital-APHP, Versailles Saint Quentin en Yvelines University, (4) Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, (5) School of Life Sciences, Tsinghua University, (6) Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco) : The homeobox gene EMX2 is a prognostic and predictive marker in malignant pleural mesothelioma. *Lung Cancer* 2014 ; 85 (3) : 465-471.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, (2) 多摩永山病院呼吸器外科, (3) 病理学(統御制御・腫瘍学), (4) 新百合ヶ丘総合病院) : 高感度検出系試薬を用いた肺癌における ALK 免疫染色の検討. 日本医科大学医学会総会(第82回)(日本医科大学), 2014. 9.
- 2) 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : さ声を契機に発見され, 完全切除し得た上縦隔発生胸腺癌の1例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会(第167回)(東京), 2015. 3.
- 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 新井 悟<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器センター, (2) 日本医科大学多摩永山病院 病理部, (3) 日本医科大学呼吸器外科) : 非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対する Erlotinib の使用経験. 日本肺癌学会総会(第55回)(京都), 2014. 11.
- 4) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科, (2) 日本医科大学呼吸器外科) : 心不全と肺癆を合併した再発慢性出血性膿胸の一治験例. 呼吸器外科学会総会(第31回)(東京), 2014. 5.
- 5) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 呼吸器センター, (2) 日本医科大学呼吸器外科) : 両肺換気下に Carbon dioxide insufflation を使用し胸腔鏡手術を施行した COPD 合併気胸の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会(東京), 2014. 6.
- 6) 竹内千枝<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 新井 悟<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器センター, (2) 日本医科大学多摩永山病院病理部, (3) 日本医科大学付属病院呼吸器外科, (4) 帝京大学医学部附属病院臨床病理科) : 血痰の持続を契機に発見された空洞結節型肺多形癌の一手術例. 日本肺癌学会学術集会(第55回)(京都), 2014. 11.

## 20. 脳神経外科学分野

### [付属病院脳神経外科]

#### 研究概要

平成 26 年度付属病院脳神経外科における論文業績は英文 33 編 (原著 24, 症例報告 9), 和文 10 編の計 43 編であった。これに分担著書として 11 編が加わる。学会発表は 134 回あり, 内国際学会は 14 回であった。一方, 研究補助金に関しては, 文部科学省科学研究費を 3 件, その他研究費を 1 件取得している。また, 大学本部より医学研究科特別経費補助金を受けている。2 名が学術集会から受賞をうけた。当教室の基礎臨床研究グループは, 下垂体, 悪性脳腫瘍, 血管障害, 脊椎脊髄, 機能外科の 5 つに分かれている。また, 治療を主体とした横断的なグループとしては, 頭蓋底外科治療, 血管内治療, 神経内視鏡, バイパス手術のグループが活動している。今年度は視機能再建をめざす機能再建の基礎動物研究をシステム生理学金田教授グループと開始した。また多くの多施設共同研究に参画している。また脳腫瘍分野では基礎研究も深く行っており, 海外からの研究者も迎えている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも, 教員には年 1 編以上の論文投稿 (審査有のもの) と助教以上には科研費応募を義務としている。海外への論文投稿, 学会報告を奨励し, 多くの欧米誌への掲載がなされた。当科ではさらに臨床・研究活動を広げ, 一人でも多くの臨床力および科学的思考力を有する脳神経外科医を教室一丸となって輩出し, 日本全体の脳神経外科学の土台を支える教室として発展したい。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) Murai Y, Mizunari T<sup>1)</sup>, Koketsu K<sup>1)</sup>, Tateyama K<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Umeoka K<sup>1)</sup>, Teramoto A, Morita A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Musashikosugi Hospital, Kanagawa, Japan) : Target-controlled infusion technique with indocyanine green videoangiography for radial artery graft. Clin Neurol Neurosurg. 2014 ; 119 (4) : 70-74.
- 2) Matano F, Murai Y, Nakagawa S, Kato T, Kitamura T, Sekine T<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Radiology) : Atypical radiological and intraoperative findings of acute cerebral hemorrhage caused by ruptured cerebral aneurysm in a patient with severe chronic anemia. J Nippon Med Sch. 2014 ; 81 (4) : 264-268.
- 3) Umeoka K, Mizunari T, Murai Y, Kobayashi S, Morita A : Occlusion of the ascending pharyngeal artery during carotid artery surgery : importance and technique. Turk Neurosurg. 2014 ; 24 (4) : 546-548.
- 4) Morita A, Sameshima T, Sora S, Kimura T, Nishimura K, Itoh H, Shibahashi K, Shono N, Machida T, Hara N, Mikami N, Harihara Y, Kawate R, Ochiai C, Wang W, et al. : Development of a new compact intraoperative magnetic resonance imaging system : concept and initial experience. Neurosurgery 2014 ; 10 (Suppl 2) : 220-229.
- 5) Murai Y, Mizunari T, Koketsu K, Tateyama K, Kobayashi S, Umeoka K, Teramoto A, Morita A : Target-controlled infusion technique with indocyanine green videoangiography for radial artery graft. Clin Neurol Neurosurg 2014 ; 119 : 70-74.
- 6) Etminan, Beseoglu, Barrow L, Bederson, Brown Rd Jr, Connolly Es Jr, Derdeyn Cp, HÄNggi, Hasan, Morita, Vajkoczy, Wanke, Wong Gk, Wong Jh, Macdonald Rl, et al. : Multidisciplinary consensus on assessment of unruptured intracranial aneurysms : proposal of an international research group. Stroke 2014 ; 45 (5) : 1523-1530.
- 7) Shibahashi K, Morita A, Kimura T : Does a craniotomy for treatment of unruptured aneurysm affect cognitive function?. Neurol Med Chir (Tokyo) 2014 ; 54 (10) : 786-793.
- 8) Kim K, Isu T, Morimoto D, Sasamori T, Sugawara A, Chiba Y, Isobe M, Kobayashi S, Morita A : Neurovascular bundle decompression without excessive dissection for tarsal tunnel syndrome. Neurol Med Chir (Tokyo) 2014 ; 54 (11) : 901-906.
- 9) Behr R, Colletti V, Matthies C, Morita A, Nakatomi H, Dominique L, Darrouzet V, Brill S, Shehata-Dieler W, Lorens A, Skarzynski H : New outcomes with auditory brainstem implants in NF2 patients. Otol Neurotol 2014 ; 35 (10) : 1844-1851.
- 10) Minami N, Kimura T, Uda T, Ochiai C, Kohmura E, Morita A : Effectiveness of zigzag Incision and 1.5-Layer method for frontotemporal craniotomy. Surg Neurol Int 2014 ; 15 (5) : 69.
- 11) Umeoka K, Mizunari T, Murai Y, Kobayashi S, Morita A : Occlusion of the ascending pharyngeal artery during carotid artery surgery : importance and technique. Turk Neurosurg 2014 ; 24 (4) : 546-548.
- 12) 森田明夫 : UCAS Japan の示したものと日本からの情報発信. Vascular Medicine 2014 ; 10 (1) : 54-61.
- 13) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦, 森本大二郎, 岩本直高, 千葉泰弘, 小林士郎, 森田明夫 : 上殿皮神経障害の外科治療の試み. Peripheral Nerve 2014 ; 25 (1) : 107-114.

- 14) 金 景成, 井須豊彦, 國保倫子, 森本大二郎, 岩本直高, 千葉泰弘, 菅原 淳, 小林士郎, 森田明夫: 腰椎後方除圧術: よりよい手術成績を得るためのわれわれの工夫. *Jpn J Neurosurg (脳神経外科ジャーナル)* 2014; 23 (10) : 468-475.
  - 15) 森田明夫, 村井保夫, 木村俊運: Occipital transtentorial approach の基本. *Jpn J Neurosurg (脳神経外科ジャーナル)* 2014; 23 (10) : 812-819.
  - 16) Murai Y<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>2)</sup>, Amano Y<sup>2)</sup>, Sekine T<sup>2)</sup>, Morita A<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School) : 4D Flow Preliminary Investigation for Anterior Fossa Dural Arteriovenous Fistula. *Can J Neurol Sci* 2014; 41 (5) : 656-658.
  - 17) Matano F, Yoshida D, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Endocan, a new invasion and angiogenesis marker of pituitary adenomas. *J Neurooncol* 2014; 117 (3) : 485-491.
  - 18) Ishii Y, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Endoscopic endonasal skull base surgery : advantages, limitations, and our techniques to overcome cerebrospinal fluid leakage : technical note. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 2014; 54 (12) : 983-990.
  - 19) Su Y, Ishii Y, Lin C, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Endoscopic Transsphenoidal Cisternostomy for Nonneoplastic Sellar Cysts. *BioMed Research International* 2015.
  - 20) Koketsu K, Yoshida D, Kim K, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Gremlin, a Bone Morphogenetic Protein Antagonist, Is a Crucial Angiogenic Factor in Pituitary Adenoma. *International Journal of Endocrinology* 2015.
  - 21) Tominari S<sup>1)</sup>, Morita A<sup>1)</sup>, Ishibashi T<sup>1)</sup>, Yamazaki T<sup>1)</sup>, Takao H<sup>1)</sup>, Murayama Y<sup>1)</sup>, Sonobe M<sup>1)</sup>, Yonekura M<sup>1)</sup>, Saito N<sup>1)</sup>, Shiokawa Y<sup>1)</sup>, Date I<sup>1)</sup>, Tominaga T<sup>1)</sup>, Nozaki K<sup>1)</sup>, Houkin K<sup>1)</sup>, Miyamoto S<sup>1)</sup>, et al. (1) for UCAS Japan Investigators) : Prediction model for three-year rupture risk of unruptured cerebral aneurysms in Japanese patients. *Ann Neurol* 2015; 77 : 1050-1059.
  - 22) Matano F, Yoshida D, Ishi Y, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Endocan, a new invasion and angiogenesis marker of pituitary adenomas. *Journal of Neurooncology* 2014; 117 (3) : 485-491.
  - 23) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>3)</sup>, 国保倫子<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター) : 症候性脊椎脊髄疾患に合併した足根管症候群の治療成績. *脳神経外科速報* 2014; 24 (9) : 1016-1024.
  - 24) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>3)</sup>, 山崎和義<sup>2)</sup>, 岩本直高<sup>2)</sup>, 千葉泰弘<sup>2)</sup>, 穂刈正昭<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 脳神経外科, 2) 釧路労災病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター) : 上殿皮神経の外科的治療成績. *脊髄外科* 2014; 28 (1) : 86-89.
  - 25) Matano F, Yoshida D, Ishii Y, Tahara S, Teramoto A, Morita A : Endocan, a new invasion and angiogenesis marker of pituitary adenomas. *J Neurooncol*. 2014; 117 (3) : 485-491.
  - 26) Shirokane K, Umeoka K<sup>1)</sup>, Mishina M<sup>2)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, 2) Department of Internal Medicine, 3) Japan Labour Health and Welfare Organization, Tokyo Rosai Hospital) : Hemothorax after the intravenous administration of tissue plasminogen activator in a patient with acute ischemic stroke and rib fractures. *J Nippon Med Sch* 2014; 81 (1) : 43-47.
  - 27) Tsukiyama A, Tagami T, Kim S, Yokota H : Use of 3-dimensional computed tomography to detect a barium-masked fish bone causing esophageal perforation. *J Nippon Med Sch* 2014; 81 (6) : 384-387.
- (2) 総説 :
- 1) Morita A : Current perspectives on the unruptured cerebral aneurysms : origin, natural course and management. *J Nippon Med Sch* 2014; 81 (4) : 194-202.
  - 2) 森田明夫, 加藤天美: 私の手術論 偉大なる Curiosity : 臨床医の「こんなこといいな, できたらいいな」. *脳神経外科速報* 2014; 24 (10) : 1052-1063.
  - 3) 森田明夫: 海綿静脈洞腫瘍. *神経症候群 (第2版) (III) : その他の神経疾患を含めて*. 別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No.28 2014; 499-505.
  - 4) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤の破裂危険度. *日本医師会雑誌* 2014; 143 (9) : 1872.
  - 5) 森田明夫, 中富浩文, 熊川孝三, 加我君孝: 脳幹インプラント : 有用性と課題 [特集3 電気信号を用いた神経機能再建]. *脳* 2015; 18 (1) : 76-83.
- (3) 症例報告 :
- 1) Matano F, Adachi K, Murai Y, Kitamura T, Ohashi R, Teramoto A, Morita A : Microcystic meningioma with late-phase accumulation on thallium-201 single-photon emission computed tomography : case report. *Neurol Med Chir* 2014; 54 (8) : 686-689.
  - 2) Suzuki M, Umeoka K, Kominami S, Morita A : Successful treatment of a ruptured flow-related aneurysm in a patient with hemangioblastoma : Case report and review of literature. *Surg Neurol Int* 2014; 26 (5 (Suppl 9)) : S430-433.

- 3) Matano F, Adachi K, Murai Y, Kitamura T, Ohashi R, Teramoto A, Morita A : Microcystic meningioma with late-phase accumulation on Thallium-201 single-photon emission computed tomography : case report. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2014 ; 54 (8) : 686-689.
- 4) Murai Y, Mizunari T, Koketsu K, Tateyama K, Kobayashi S, Morita A, Teramoto A : Fluorescence angiography with temporary occlusion to confirm the distal artery : technical notes. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2014 ; [Epub ahead of print].
- 5) Suzuki M, Kominami S, Koketsu K, Mizunari T, Kobayashi S, Morita A : Endovascular Repair of a Middle Meningeal Artery Aneurysm after Cranial Surgery. *NMC Case Report Journal* 2014 ; 1 : 6-8.
- 6) Kidani N, Kimura T, Ichikawa Y, Usuki K, Morita A : Steroids and Immunosuppressant Agents Do Not Affect Indirect Revascularization in Quasi-Moyamoya Disease Associated with Pure Red Cell Aplasia : A Case Report. *NMC Case Report Journal* 2015 ; 1 : 12-15.
- 7) Matano F<sup>1)</sup>, Murai Y<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>2)</sup>, Kitamura T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科) : Pathophysiology and management of intracranial arterial stenosis around the circle of Willis associated with hyperthyroidism : case reports and literature review. *Neurosurgical Review* 2014 ; 37 (2) : 347-356.
- 8) Matano F, Murai Y, Nakagawa S, Kato T, Kitamura T, Sekine T<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線科) : Atypical radiological and intraoperative findings of acute cerebral hemorrhage caused by ruptured cerebral aneurysm in a patient with severe chronic anemia. *Journal of Nippon Medical School* 2014 ; 81 (4) : 264-268.
- 9) Matano F, Murai Y, Nakagawa S, Wada T, Kitamura T, Teramoto A : Spontaneous angiographic regression of cerebral arteriovenous malformations : angiographic disappearance is not the real cure. *Turkish Neurosurgery* 2015 ; 25 (1) : 168-173.

## 著 書

- 1) 村井保夫, 森田明夫 : [分担] 皮質下出血の予後. 最新臨床脳卒中 (下), 2014 ; pp399-402, 日本臨床社.
- 2) 村井保夫, 水成隆之, 森田明夫 : [分担] AICA. 脳動脈コンプリート (波出石弘, 石川達哉, 田中美千裕), 2014 ; pp109-117, 中外医学社.
- 3) 村井保夫 : [編集] high flow bypass 術. 脳神経外科研修 診療心得 (総括編集 森田明夫), 2014 ; pp68-71, Medical View 社.
- 4) 森田明夫 : [編集] 脳神経外科研修 診療心得 (編集), 2014 ; メジカルビュー社.
- 5) 森田明夫, 塩川芳昭, 藤原 悟 : [分担] 5. 発見される代表的な異常とその対策 3) 未破裂脳動脈瘤の対応. 脳ドックのガイドライン 2014 [改訂・第4版] (編集 : 日本脳ドック学会 脳ドックの新ガイドライン作成委員会), 2014 ; pp71-84, 響文社.
- 6) 森田明夫 : [分担] 【1章 内頸動脈瘤概論】<4>内頸動脈瘤の疫学と特徴 (B) 未破裂. 内頸動脈瘤 (ICA Aneurysm) のすべて 近位部 (cavernous-paraclinoid) (宝金清博 (監修) 井川房夫 宮地茂 (編)), 2015 ; pp23-27, メディカ出版.
- 7) 森田明夫 : [分担] 神経内科医に必要な外科の知識. 神経内科研修ノート (永井良三 シリーズ総監修, 荒木信夫他 (編)), 2015 ; pp632-636, 診断と治療社.
- 8) 森田明夫, 楚良繁雄, 光石 衛 : [分担] II 応用編 ロボットとバイパス術 ロボットの microsurgery への応用と科学的手術手技評価. 新 NS Now : バイパス術のすべて 次世代への技術の継承 (編集 : 森田明夫, 伊達 勲, 菊田健一郎), 2015 ; pp134-143, メジカルビュー社.
- 9) 森田明夫 : [編集] ◆ナーシングケア Q & A No.52 ◆これだけは知っておきたい脳神経外科ナーシング Q & A 第2版 (森田明夫 編集), 2014 ; 総合医学社.
- 10) 森田明夫 : [編集] バイパス術のすべて 次世代への技術の継承. 新 NS Now 1 (森田明夫 編集), 2015 ; メジカルビュー社.
- 11) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学 脳神経外科) : [分担] (1) 問診票で知りたいこと (2) 入院中および手術前に再確認すべきこと. クリニカルスタッフのための しびれ・痛み診療と薬物治療 (井須豊彦, 金景成), 2014 ; 中外医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Morita A : Surgery for cranial base tumor, history and future perspectives. Geneva University Hospital Neurosurgery (Geneva, Switzerland), 2014. 6.
- 2) Morita A : Natural course and management risks of unruptured cerebral aneurysm in Japan. Geneva, Switzerland (Geneva University Neurosurgery Grand Rounds), 2014. 6.
- 3) Morita A : Natural course and management risks of unruptured cerebral aneurysms in Japan. Neurosurgery Grand Rounds, Helios Clinic, Berlin University (Berlin, Germany), 2014. 6.
- 4) 森田明夫 : 日本における未破裂脳動脈瘤の自然歴と治療成績 : UCAS Japan から得られたもの. 筑波ブレインアタックフォーラム



- (第11回) (つくば市), 2014. 6.
- 5) 森田明夫: 日本における未破裂脳動脈瘤の自然歴と治療成績: UCAS Japan から得られたもの. 広島脳卒中フォーラム (第29回) (広島), 2014. 7.
  - 6) 森田明夫: UCAS Japan からわかったこと. Fighting Vascular Events in Nagano 11 (長野), 2014. 9.
  - 7) 森田明夫: 私の好きなこと: 料理と脳神経外科. つくば開成会 (筑波学園都市), 2014. 10.
  - 8) 森田明夫: 脳卒中専門病院での脳卒中外科治療. 東京都脳卒中協会市民公開セミナー (第16回) (東京), 2014. 11.
  - 9) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤治療の意義と課題. 東部脳神経外科フォーラム (第25回) (東京), 2014. 11.
  - 10) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤治療の意義と問題点. 上中越脳神経外科医会 (第42回) (長岡), 2014. 11.
  - 11) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤の自然歴と対応ガイドライン. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
- (2) 招待講演:
- 1) Morita A: My perspectives on clinical research: from Japan to the world. Kobe university graduate school of medicine, English neuroscience lecture (Kobe), 2014. 10.
  - 2) 森田明夫: 料理と脳神経外科 好きこそものの上手なれ. 帝人ファーマ社内講習会 (東京), 2014. 12.
  - 3) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤の破裂リスクと治療適応の検証. 北海道ブレインアタックフォーラム (第13回) (札幌), 2015. 1.
  - 4) 森田明夫: 『料理と脳神経外科』: 好きこそものの上手なれ. Fukuoka Neurology and Neurosurgery Seminar (第9回) (福岡), 2015. 2.
  - 5) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤への対応: 日本初の臨床科学. 千葉脳神経外科研究会 (第65回) (千葉), 2015. 2.
  - 6) Yamaguchi F: Recognition of neural tracts in brain tumor surgery for patients' quality of life and medical safety. The Second International Neurosurgery Summit Forum (Taipei, Taiwan), 2015. 3.
- (3) 教育講演:
- 1) 森田明夫: 頭蓋底腫瘍の手術 その歴史と展望. 脳腫瘍レビュー2014 (東京), 2014. 5.
  - 2) 森田明夫: 日本における未破裂脳動脈瘤の自然歴と治療. 日本臨床脳神経外科学会 (第17回) (東京), 2014. 7.
  - 3) 田原重志: 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の現状-基礎から応用まで-. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第25回), 2015. 2.
- (4) シンポジウム:
- 1) 村井保夫, 水成隆之, 小林士郎, 立山幸次郎, 亦野文宏, 森田明夫: 様々なバイパス手術における合併症回避のための工夫-血管を縫って結ぶ事以外のポイント-. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
  - 2) 水成隆之, 瀧瀬健太, 山田敏雅, 玉置智規, 村井保夫, 立山幸次郎, 小林士郎, 森田明夫: 内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
  - 3) Morita A: Result of UCAS Japan, shape matters. Interdisciplinary Cerebrovascular Symposium / Intracranial Stent Meeting ICS2014 (The 11th) (Zurich, Switzerland), 2014. 6.
  - 4) Morita A: Natural course of unruptured cerebral aneurysms in a Japanese cohort (CVD). Japanese Russian Neurosurgical Symposium (The 4th) (Hiroshima, Japan), 2014. 10.
  - 5) 森田明夫: 未破裂脳動脈瘤への対応: 疫学 (自然歴解析) の立場から (シンポジウム①「未破裂脳動脈瘤」). 日本脳ドック学会総会 (第23回) (下関), 2014. 6.
  - 6) 喜多村孝幸<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科: 低髄液圧症候群 (脳脊髄液減少症) の最新の治療 (頭痛治療の最先端). 日本頭痛学会総会 (第42回) (下関), 2014. 11.
  - 7) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲<sup>(1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>(1)</sup> 東京共済病院脳神経外科: NBCA を用いた脳動静脈奇形の塞栓術の適応と方法およびその結果 (AVM 塞栓術の適応と方法: Onyx と NBCA の使い分け). 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第30回) (横浜), 2014. 12.
  - 8) 大山健一: 当科における内視鏡下経鼻頭蓋底手術のスタンダード: 内視鏡下拡大経鼻手術について (頭蓋底). 日本神経内視鏡学会 (第21回) (東京), 2014. 11.
  - 9) Tahara S: Endoscopic transsphenoidal surgery for pituitary adenomas (Update of surgical treatment for hypothalamo-pituitary tumors). Biennial World Congress of The International College of Surgeons (The 39th) (Bali, Indonesia), 2014. 10.
  - 10) 吉田大蔵, 田原重志, 大山健一, 森田明夫: prolactinoma 男性例に対する治療戦略. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第25回) (京都), 2015. 2.
  - 11) 田原重志: 浸潤性 GH 産生下垂体腺腫の治療成績と特徴. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第25回), 2015. 2.
- (5) ランチョンセミナー:
- 1) Morita A: The natural course of unruptured cerebral aneurysm in a Japanese cohort: UCAS Japan. Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (The 12th) (Osaka, Japan), 2014. 9.
  - 2) 田原重志: 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本と応用. 日本神経内視鏡学会 (第21回) (東京), 2014. 11.

(6) ワークショップ：

- 1) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤のMRA診断と対応小委員会（新ガイドラインを解説する1）。日本脳ドック学会総会（第23回）（下関），2014. 6.
- 2) 太組一郎，野崎俊樹，築山 敦，森田明夫：両法施行後の現場医師の声—両法施行3ヵ月後のアンケート調査結果（てんかんと運転をめぐる—臨床現場に直結する諸問題—）。日本てんかん学会（第48回）（東京），2014. 10.

(7) プレナリーセッション：

- 1) 森田明夫：未破裂脳動脈瘤の自然歴（出血性脳血管障害）。日本脳神経外科コンgres（第34回）（大阪），2014. 5.

(8) ポスター：

- 1) 築山 敦，村井保夫，石坂栄太郎，森田明夫，江浦重義<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 形成外科・美容外科）：頸椎神経鞘腫を伴う多発性神経鞘腫症。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 2) 廣中浩平，田原重志，馬場栄一，寺本 明<sup>1)</sup>，森田明夫（<sup>1)</sup>東京労災病院脳神経外科）：無菌性髄膜炎を合併したリンパ球性下垂体炎の症例検討。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 3) 馬場栄一，田原重志，服部裕次郎，廣中浩平，森田明夫，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東京労災病院脳神経外科）：内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術後にくも膜下出血を来した症例の検討。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 4) 森本大二郎，井須豊彦<sup>1)</sup>，金 景成，国保倫子，森田明夫（<sup>1)</sup>釧路労災病院脳神経外科）：症候性脊椎脊髄病変に合併した足根管症候群の治療成績。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 5) 中川俊祐，立山幸次郎，太組一郎，足立好司，喜多村孝幸，森田明夫：若年発症の内頸動脈瘤の1例 線維筋性異型性の合併症例。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 6) 樋口直司，山口文雄，喜多村孝雄，展 広智，大村朋子，足立好司，喜多村孝幸，寺本 明<sup>1)</sup>，森田明夫（<sup>1)</sup>東京労災病院）：当院における初発悪性神経膠腫に対するBevacizumab使用経験。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 7) 木暮一成，玉置智規，山崎道生，野手洋治，森田明夫：定型的頸椎前方固定術はどこまで低侵襲に施行しうるか。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 8) 野崎俊樹，太組一郎，立山幸次郎，足立好司，喜多村孝幸，饒波正博<sup>1)</sup>，森田明夫（<sup>1)</sup>沖縄赤十字病院脳神経外科）：VNSはてんかん外科医療推進に有用なツールである。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京，...），2014. 10.
- 9) 鈴木雅規，小南修史，小林士郎，森田明夫：様々な成因の遠位脳動脈瘤に対するn-butyl cyanoacrylateを用いた塞栓術の有用性。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 10) 石坂栄太郎，村井保夫，馬場栄一，服部裕次郎，白銀一貴，森田明夫：箸による経眼窩頭蓋内穿通外傷の小児の1例 木製箸による穿通外傷の診断と治療上の注意点。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 11) 石坂栄太郎<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，馬場栄一<sup>1)</sup>，白銀一貴<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院 脳神経外科）：遺残性原始三叉動脈を合併した片側型もやもや病の1例。日本脳卒中の外科学会（第44回）（広島），2015. 3.
- 12) 瓜生康浩<sup>1), 2), 3)</sup>：責任病変の確定に苦慮したSITSHの1例。日本内分泌学会学術総会（第87回）（福岡），2014. 4.
- 13) 阿部雅志<sup>1)</sup>，池亀 敏<sup>1)</sup>，加藤丈司<sup>1)</sup>，小南修史，小林士郎（<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線センター）：AVM塞栓術後にASLを用いた脳血流変化の検討。日本脳神経血管内治療学会学術総会（第30回）（横浜），2014. 12.
- 14) 足立好司：中枢神経系（原発）悪性リンパ腫の精巣病変。日本脳腫瘍学会（第32回）（東京），2014. 11.
- 15) 服部裕次郎<sup>1, 2)</sup>，石井寛高<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>，小澤一史<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野，<sup>2)</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野）：新規ヒトエストロゲン受容体 $\alpha$ 変異体の同定と転写活性化機構の解明。日本解剖学会総会・全国学術集会（120回）・日本生理学会大会（第92回）合同大会（神戸），2015. 3.
- 16) 服部裕次郎<sup>1, 2)</sup>，石井寛高<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>，小澤一史<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野，<sup>2)</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野）：新規ヒトエストロゲン受容体変異体の同定と機能解析。臨床内分泌代謝 Update（第24回）（大宮），2014. 11.
- 17) Hattori Y<sup>1, 2)</sup>，Ishii H<sup>1)</sup>，Morita A<sup>2)</sup>，Ozawa H<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Identification of novel estrogen receptor  $\beta$  variants in the human. International Congress of Neuroendocrinology (The 8th) (Sydney, Australia), 2014. 8.
- 18) 山田敏雅，水成隆之<sup>1)</sup>，石坂栄太郎，白銀一貴，額額健太，鈴木雅規<sup>1)</sup>，村井保夫，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫（<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科）：前交通動脈瘤に対するアプローチ法。日本脳卒中の外科学会（第44回）（広島），2015. 3.
- 19) 築山 敦，村井保夫，石坂栄太郎，森田明夫，小島豊之<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>四谷メディカルキューブ）：上下垂体動脈瘤と思われた内頸動脈後交通動脈分岐部動脈瘤。日本脳卒中の外科学会（第44回）（広島），2015. 3.
- 20) 村井保夫，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>2)</sup>，額額健太<sup>1)</sup>，赤野文宏，白銀一貴，森田明夫（<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科，<sup>2)</sup>武蔵小杉病院脳神経外科）：血管縫合以外の血管吻合術の留意点—誰でも出来る配慮について—。日本脳卒中の外科学会（第44回）（広島），2015. 3.

- 21) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 馬場栄一<sup>1)</sup>, 石坂栄太郎, 石井雄道<sup>2)</sup>, 田原重志, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 帝京大学脳神経外科): クリッピング術における神経内視鏡の有用性. 日本脳卒中の外科学会 (第 44 回) (広島), 2015. 3.
- (9) 一般講演:
- 1) 亦野文宏, 村井保夫, 立山幸次郎, 玉置智規, 水成隆之, 寺本 明, 太田伸郎, 野田公寿茂, 坪井俊之, 谷川緑野, 上山博康 ( <sup>1)</sup> 禎心会病院 脳神経外科): STA-MCA バイパスの長期 patency バイパス patency に何が影響するか?. 日本脳神経外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
  - 2) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 馬場栄一, 石坂栄太郎, 森田明夫: ハイビジョン対応新型 endarm の有用性. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
  - 3) 廣中浩平, 田原重志, 馬場栄一, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 東京労災病院脳神経外科): 無菌性髄膜炎を合併したリンパ球性汎下垂体炎の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 124 回) (東京), 2014. 9.
  - 4) Morita A, Et Al.: Prediction model for three-year rupture risk of unruptured cerebral aneurysms in Japanese cohorts. 2014 American Association of Neurological Surgeons (AANS) Annual Scientific Meeting (The 82nd) (San Francisco, USA), 2014. 4.
  - 5) 喜多村孝雄, 山口文雄, 樋口直司, 展 広智, 馬場栄一, 土岐幸生, 森田明夫: 脳実質内腫瘍摘出における虚血合併症の検討. 日本医科大学医学部総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 6) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 山田敏雅<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 瀬戸健太<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 開頭手術後に発生した中硬膜動脈瘤に対する塞栓術. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 124 回) (東京), 2014. 9.
  - 7) 野崎俊樹<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 腰曲がりとななめ兆候を有するパーキンソン病に対して DBS 早期介入が有効であった 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 124 回) (東京), 2014. 9.
  - 8) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 馬場栄一, 石坂栄太郎, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 開頭術におけるハイビジョン内視鏡の有用性. 日本術中画像情報学会 (第 14 回) (東京), 2014. 7.
  - 9) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院): 確実な錐体路同定をめざした Navigation-assisted subcortical mapping. 日本術中画像情報学会 (第 14 回) (東京), 2014. 7.
  - 10) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>3)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>5)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院, <sup>4)</sup> 景雲会春日居サイバーナイフ・リハビリ病院, <sup>5)</sup> 東京労災病院): グリオーマ手術における高輝度 LED レーザー併用 5-ALA 蛍光診断の有用性: 病理学的所見の立場. 日本術中画像情報学会 (第 14 回) (東京), 2014. 7.
  - 11) 服部裕次郎<sup>1,2)</sup>, 石井寛高<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野): 新規ヒトエストロゲン受容体変異体の同定と機能解析. 臨床内分泌代謝 Update (第 24 回) (大宮), 2014. 11.
  - 12) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup>, 秋元正宇<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科): 露出した頭皮下異物の対応. 日本整容脳神経外科研究会 (第 7 回) (福岡), 2014. 4.
  - 13) 村井保夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Cavernous sinus に伸展した傍鞍部 epidermoid の 1 例. 日本頭蓋底外科学会 (第 26 回) (幕張), 2014. 6.
  - 14) 展 広智 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Endoscopic endonasal transpterygoid approach にて生検術を行ったメッセル腔近傍部への転移性腫瘍の 1 例. 日本頭蓋底外科学会 (第 26 回) (幕張), 2014. 6.
  - 15) 梅岡克哉 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): Trigemino-cerebellar artery による三叉神経痛の検討. 日本頭蓋底外科学会 (第 26 回) (幕張), 2014. 6.
  - 16) 石井雄道 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 内視鏡下経鼻頭蓋底手術: water-tight closure の方法と成績. 日本頭蓋底外科学会 (第 26 回) (幕張), 2014. 6.
  - 17) 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 井上聖啓<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>3)</sup> 横浜新緑総合病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 札幌山の上病院神経内科): 腰部脊柱管狭窄症と腰椎周辺疾患併存例に対する新たな治療戦略の試み. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
  - 18) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 頸椎前方固定手技: fusion の評価 -bone graft から titanium cage へ. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
  - 19) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科): 症候性

- 脊椎脊髄病変に合併した足根管症候群の治療成績. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 20) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 足根管症候群の治療経験. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 21) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 下肢血流検査を用いた足根管症候群の冷えに関する研究. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 22) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 岩本直高<sup>2)</sup>, 千葉泰弘<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>4)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科, 4) 岩手医科大学脳神経外科): 上臀皮神経障害の絞扼部に関する検討. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 23) 岩本直高<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 日本医科大学脳神経外科): パーキンソン病の腰痛に対する新たな治療戦略. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 24) 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 井上聖啓<sup>4)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 横浜新緑総合病院脳神経外科, 4) 札幌山の上病院神経内科): 脊椎椎体骨折後の腰痛に対する新たな治療戦略の試み. 日本脊髄外科学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 25) 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>2)</sup>, 関根鉄朗<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学放射線科): 急性硬膜下血腫で発症した破裂脳動脈瘤の 1 症例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 123 回) (東京), 2014. 4.
- 26) 額綱健太<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 山田敏雅<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋外内頸動脈解離に対し High flow bypass 術を施行した 2 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 123 回) (東京), 2014. 4.
- 27) 大村朋子<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): 小脳神経膠芽腫の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 125 回) (東京), 2014. 12.
- 28) 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>3)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 3) 釧路労災病院脳神経外科): ドラム演奏が誘因であった腓骨神経の絞扼性障害の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 125 回) (東京), 2014. 12.
- 29) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 田草川豊<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 2) 東京医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 責任血管の違いによる三叉神経痛手術の工夫. 日本頭痛学会総会 (第 42 回) (下関), 2014. 11.
- 30) 佐藤 俊, 喜多村孝幸, 森田明夫: 中硬膜動脈塞栓術後に出現する頭痛と片頭痛との比較 <病態生理とトリプタンについて>. 日本頭痛学会総会 (第 42 回) (下関), 2014. 11.
- 31) 喜多村孝雄, 山口文雄, 樋口直司, 展 広智, 土岐幸生, 森田明夫: 脳実質内腫瘍摘出における虚血合併症の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 32) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 岩本直高<sup>2)</sup>, 千葉泰弘<sup>2)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>3)</sup>, 菅原 淳<sup>4)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科, 4) 岩手医科大学脳神経外科): 腰椎変性すべりを伴う腰下肢痛に対する治療戦略. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 33) 山口文雄, 展 広智, 樋口直司, 大村朋子, 玉置智規, 山崎道生, 足立好司, 喜多村孝幸, 小林士郎, 野手洋治, 森田明夫: 術中神経路把握のための複数モダリティによる情報補完. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 34) 小南修史<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 渡辺 玲<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京共済病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた塞栓術とその成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 35) 大山健一, 田原重志, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup>: 翼口蓋窩経路法による側方病変への内視鏡下経鼻頭蓋底手術の実際. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 36) 大村朋子, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫, 木村真人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科): 当院における脳卒中後うつへの対策と急性期病院での現状. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 37) 亦野文宏, 村井保夫, 立山幸次郎, 玉置智規, 水成隆之, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森田明夫, 太田伸郎<sup>2)</sup>, 野田公寿茂<sup>2)</sup>, 坪井俊之<sup>2)</sup>, 谷川緑野<sup>2)</sup>, 上山博康<sup>2)</sup> (1) 東京労災病院脳神経外科, 2) 社会医療法人禎心会病院脳神経外科): STA-MCA バイパスの長期 patency バイパス patency に何が影響するか?. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 38) 玉置智規, 野手洋治, 斎藤寛浩<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫 (1) 東京労災病院脳神経外科): CEA 中の迷走神経モニタリング. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 39) 石井雄道, 蘇 鈺凱<sup>1)</sup>, 田原重志, 寺本 明<sup>2)</sup>, 松野 彰<sup>3)</sup>, 森田明夫 (1) 台北医科大学雙和病院脳神経外科, 2) 東京労災病院, 3) 帝

- 京大学ちば総合医療センター脳神経外科)：下垂体部嚢胞性病変に対する手術：ラトケ嚢胞とクモ膜嚢胞に対する経鼻内視鏡下脳槽交通術の有用性。日本内分泌学会学術総会(第87回)(福岡), 2014. 4.
- 40) 服部裕次郎<sup>1,2)</sup>, 石井寛高<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野, 2) 日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野)：新規ラットC末端欠損型エストロゲン受容体 $\alpha$ 変異体の局在・機能解析。日本内分泌学会学術総会(第87回)(福岡), 2014. 4.
- 41) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫：頭蓋内硬膜動静脈瘻に対するn-butyl cyanoacrylateを用いた塞栓術。日本脳神経血管内治療学会学術総会(第30回)(横浜), 2014. 12.
- 42) 大山健一：視交差後方部頭蓋咽頭腫に対する経錐体法および内視鏡下経鼻手術法に関する解剖学的検討。日本神経内視鏡学会(第21回)(東京), 2014. 11.
- 43) 白銀一貴：開頭術におけるハイビジョン内視鏡の有用性。日本神経内視鏡学会(第21回)(東京), 2014. 11.
- 44) 大山健一：精密立体頭蓋モデルを用いた内視鏡下経鼻頭蓋底手術アプローチのシミュレーション。日本神経内視鏡学会(第21回)(東京), 2014. 11.
- 45) 村井保夫：Cavernous sinusに伸展した傍鞍部epidermoid。日本神経内視鏡学会(第21回)(東京), 2014. 11.
- 46) 石井寛高<sup>1)</sup>, 服部裕次郎<sup>1,2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野, 2) 日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野)：ヒトエストロゲン受容体 $\beta$ の多重プロモーター機構と5'-非翻訳領域の選択的スプライシングパターンの同定。日本神経内分泌学会学術集会(第41回)(東京), 2014. 10.
- 47) 服部裕次郎<sup>1,2)</sup>, 石井寛高<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野, 2) 日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野)：新規ヒトエストロゲン受容体 $\beta$ 変異体の同定と機能解析。日本神経内分泌学会学術集会(第41回)(東京), 2014. 10.
- 48) 山口文雄：アミノレブリン酸蛍光診断における新規抗てんかん薬の影響に関する検討。日本脳神経外科光線力学学会(第10回)(浜松), 2014. 6.
- 49) 樋口直司：Low grade gliomaに対する5-ALAの使用経験。日本脳神経外科光線力学学会(第10回)(浜松), 2014. 6.
- 50) 杉山 誠<sup>1)</sup> (1) 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院)：下垂体疾患と就労について。日本職業・災害医学会学術大会(第62回)(神戸), 2014. 11.
- 51) 杉山 誠<sup>1)</sup> (1) 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院)：脳神経外科頭痛患者に対し有効な漢方薬の検討。日本脳神経外科漢方医学会(第22回)(東京), 2014. 11.
- 52) Morita A, Et Al：Risks associated with the management of unruptured cerebral aneurysms in Japan：UCAS-treat result and risk prediction model. International Stroke Conference 2015 (Nashville, TN), 2015. 2.
- 53) 鞠 東輝<sup>1,2)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科学, 2) 哈尔滨医科大学脳神経外科・中国)：悪性神経膠腫に対する超音波力学療法的作用機序の検討。学校法人日本医科大学外国人留学生研究会(第25回)(東京), 2015. 2.
- 54) Matano F<sup>1)</sup>, Yoshida D<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Tahara S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Morita A<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 脳神経外科)：Endocan, a new invasion and angiogenesis marker of pituitary adenoma. American association of neurological surgeon (Sanfrancisco), 2014. 4.
- 55) 亦野文宏, 吉田大蔵, 森田明夫：下垂体腺腫における腫瘍浸潤とEndocanの発現。間脳下垂体腫瘍学会(第24回)(福岡), 2014. 5.
- 56) Matano F, Ishii Y, Tahara S, Yoshida D, Morita A：Endocan, a New Invasion and Angiogenic Markerin Pituitary Adenomas. AANS Annual Scientific Meeting (82nd) (San Francisco, CA, USA), 2014. 9.
- 57) 吉田大蔵, 田原重志, 森田明夫：下垂体腺腫の成長におけるCthrc1の発現の意義に関する研究。日本脳神経外科学会第73回学術総会(第73回)(東京), 2014. 10.
- 58) 石坂栄太郎, 村井保夫, 馬場栄一, 服部裕次郎, 白銀一貴, 森田明夫：箸による経眼窩頭蓋内穿通外傷の小児の1例 木製箸による穿通外傷の診断と治療上の注意点。日本脳神経外科救急学会(第20回)(東京), 2015. 1.
- 59) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 森田明夫：開頭術におけるハイビジョン内視鏡の有用性。脳神経外科手術と機器学会(第23回), 2014. 4.
- 60) 樋口直司, 山口文雄, 展 広智, 大村朋子<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 東京労災病院)：グリオーマ手術における高輝度LEDレーザー併用5-ALA 蛍光診断の有用性：病理学的所見の立場から。脳神経外科手術と機器学会(第23回), 2014. 4.
- 61) 石坂栄太郎, 村井保夫, 喜多村孝雄, 中川俊祐, 白銀一貴, 増野 聡, 青木秀治, 森田明夫：前頭側頭開頭術後に鼓室内血腫による伝音性難聴を合併した症例。脳神経外科手術と機器学会(第23回), 2014. 4.
- 62) 樋口直司, 山口文雄, 展 広智, 大村朋子<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 武

- 蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京労災病院) : 神経膠腫に対する術中蛍光診断. 千駄木脳腫瘍研究会 (第4回), 2014. 6.
- 63) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>3)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院, <sup>4)</sup> 東京労災病院) : 病理診断に苦慮した脳室内腫瘍の1例. 文京脳腫瘍研究会 (第21回) (東京), 2014. 7.
- 64) 白銀一貴, 村井保夫, 喜多村孝雄, 森田明夫 : ハイビジョン内視鏡の有用性. 日本脳腫瘍の外科学会 (第19回) (東京), 2014. 10.
- 65) 樋口直司, 山口文雄, 喜多村孝雄, 永山 寛, 森田明夫 : パーキンソン病に対する脊髄刺激療法の使用経験. 新三水会 (第8回), 2014. 6.
- 66) 山田敏雅, 水成隆之<sup>1)</sup>, 石坂栄太郎, 白銀一貴, 額額健太<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 村井保夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : 前交通動脈瘤に対するアプローチ法. 一般社団法人日本脳神経外科学会第73回学術総会, 2014. 10.
- 67) 亦野文宏, 谷川緑野<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 太田伸郎<sup>1)</sup>, 坪井俊之<sup>1)</sup>, 野田公寿茂<sup>1)</sup>, 松川東俊<sup>1)</sup>, 村井保夫, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 禎心会病院脳神経外科) : 未破裂傍前床突起内頸動脈瘤128症例の手術成績. 日本脳卒中の外科学会 (第44回) (広島), 2015. 3.
- 68) 亦野文宏, 谷川緑野<sup>1)</sup>, 上山博康<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>4)</sup>, 松川東俊<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>5)</sup>, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 禎心会病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>5)</sup> 東京労災病院) : 動脈硬化性病変に対するSTA-MCA bypassの過灌流症候群. 日本脳卒中の外科学会 (第44回) (広島), 2015. 3.
- 69) 築山 敦 : 難治性 chiasmal herniation に対して有茎鼻中隔粘膜炎による chiasm apex を行った1例. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第25回), 2015. 2.
- 70) 大山健一 : 視交差後部頭蓋咽頭腫に対する経錐体法及び内視鏡下経鼻手術法に関する解剖学的検討. 日本間脳下垂体腫瘍学会 (第25回), 2015. 2.
- 71) 中川俊祐, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 森田明夫 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : 頭蓋外内頸動脈解離における治療法の検討. 日本脳卒中の外科学会 (第44回) (広島), 2015. 3.
- 72) 山口文雄 : 錐体路近傍悪性脳腫瘍に対する治療方針. 東京脳腫瘍治療懇話会 (第28回), 2015. 1.
- 73) 鞠 東輝, 山口文雄, 朝倉隆之, 樋口直司, 森田明夫 : 悪性神経膠腫に対する超音波力学療法の作用機序の検討. 学校法人日本医科大学外国人留学者研究会 (第25回), 2015. 2.
- 74) 亦野文宏 : Spontaneous angiographic regression of cerebral arteriovenous malformations. 日本脳神経 CI 学会総会 (第38回), 2015. 2.
- (10) Keynote lecture :
- 1) 森田明夫 : 失敗から学ぶ脳腫瘍手術. 手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファランス (第2回) (東京), 2015. 1.
- (11) ビデオシンポジウム :
- 1) 梅岡克哉 : 椎骨・脳底動脈が責任血管である三叉神経痛の手術成績. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- (12) ビデオセッション :
- 1) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1,3)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 当科における脊椎手術基本手技 - 頸椎前方手技のスタンダードを中心に. 日本脊髄外科学会 (第29回) (東京), 2014. 6.

## 論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Yamaoka Y, Ichikawa Y, Morita A : Evaluation of rotational vertebral artery occlusion using ultrasound facilitates the detection of arterial dissection in the atlas loop. J Neuroimaging 2015 ; 25 (4) : 547-551.
- 2) Ishii Y, Tahara S, Hattori Y, Teramoto A, Morita A, Matsuno A : Fascia patchwork closure for endoscopic endonasal skull base surgery. Neurosurg Rev 2015 ; 38 (3) : 551-557.

## [武蔵小杉病院脳神経外科]

### 研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、脳神経外科各分野における国内有数のエキスパートからなるスタッフで構成されており、川崎市および神奈川県東部の中核的大学付属病院としての地域からの信頼を得て診療を行ってきた。各スタッフの専門領域は、神経内視鏡手術（脳腫瘍（脳室内腫瘍）、水頭症、嚢胞性疾患、脳内出血）、特発性正常圧水頭症・脳脊髄液減少症の病態解析と診断・治療法の確立、難治性頭痛および中枢性疼痛の病態解析と診断・治療（喜多村孝幸病院教授、部長）、「悪性脳腫瘍の集学的治療（足立好司准教授）」、「機能的脳神経

外科（てんかん・パーキンソン病の外科治療）（太組一朗講師，医長），「治療困難な脳血管障害（未破裂/破裂脳動脈瘤，閉塞性脳血管障害）・頭蓋底良性腫瘍（聴神経腫瘍，髄膜腫等）の外科治療（立山幸次郎助教，医局長）」であり，各々の分野で臨床研究の中核施設となっている．現在の研究課題として，1) 内視鏡下脳内血腫除去の有用性の確立，2) 脳脊髄液減少症の診断と治療法の確立（厚生労働省研究班分担研究者），3) 分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析，4) 神経疾患に対する免疫療法の臨床応用，5) ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析，6) 新規抗てんかん薬の治療効果解析，7) 片頭痛治療の新薬開発を進めている．なお，喜多村孝幸病院教授は，平成 28 年 11 月 17，18 日に，第 23 回日本神経内視鏡学会（会員数 約 2500 名，参加予定者数 約 1000 名）を主催することが決まっている．

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Matano F<sup>1)</sup>, Murai Y<sup>1)</sup>, Adachi K, Kitamura T, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery) : Pathophysiology and management of intracranial arterial stenosis around the circle of Willis associated with hyperthyroidism : case reports and literature. *Neurosurg Rev* 2014 ; 37 (2) : 347-356.
- 2) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Ae R<sup>1)</sup>, Takumi I, Nobuo S<sup>2)</sup>, Kitamoto T<sup>3)</sup>, Yamada M<sup>4)</sup>, Mizusawa H<sup>2)</sup> (1) Department of Public Health, Jichi Medical University, 2) Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, 3) Department of Prion Protein Research, Division of CJD Science and Technology, Tohoku University Graduate School of Medicine, 4) Department of Neurology and Neurobiology of Aging, Kanazawa University Graduate School of Medical Science) : Descriptive Epidemiology of Prion Disease in Japan : 1999-2012. *J Epidemiology* 2015 ; 25 (1) : 8-14.

(2) 症例報告：

- 1) Adachi K, Matano F<sup>1)</sup>, Murai Y<sup>1)</sup>, Kitamura T, Ohashi R<sup>2)</sup>, Teramoto A, Morita A<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery, 2) Nippon Medical School, Department of Pathology) : Microcystic meningioma with late-phase accumulation on thallium-201 single-photon emission computed tomography. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 2014 ; 54 (8) : 686-689.
- 2) Iwamoto N<sup>1)</sup>, Murai Y<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>2)</sup>, Adachi K, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery, 2) Nippon Medical School, Department of Pathology) : Supratentorial extracentricular anaplastic ependymoma in an adult with repeated intratumoral hemorrhage. *Brain Tumor Pathol* 2014 ; 31 (2) : 138-143.

### 著書

- 1) 足立好司：〔分担〕上衣下腫．神経症候群 III（第 2 版），2014；pp74-77，日本臨床社．
- 2) 太組一朗，浦 裕之<sup>1)</sup>，渡辺雅子<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部，2) 国立精神・神経医療研究センター病院精神科)：〔自著〕総合病院におけるてんかん診療の課題 外科治療・新規抗てんかん薬・キャリアオーバー．臨床精神医学（【総合病院精神医学の新しい展開】），2014；pp833-839，アークメディア．
- 3) 太組一朗，戸田弘紀<sup>1)</sup> (1) 北野病院脳神経外科)：〔共著〕パーキンソン病患者の DBS 手術早期導入．日本医事新報，2014；pp62-63，日本医事新報社．
- 4) 太組一朗：〔Webinar〕講座 IV てんかん発作，見たことはありますか？実際の患者さんを診てみよう Vol.1. ケアネット WEB レジデントのためのてんかん講座 20140806 公開(山本貴道)，2014；ppweb-web．
- 5) 太組一朗：〔Webinar〕講座 V てんかん発作，見たことはありますか？実際の患者さんを診てみよう Vol.2. ケアネット WEB レジデントのためのてんかん講座 (山本貴道)，2014；ppweb-web．
- 6) 喜多村孝幸：〔分担〕4. 硬膜損傷と髄液漏れ．6 脊椎術後脳脊髄液減少症に対する処置．脊椎脊髄術中・術後のトラブルシューティング 第 2 版，2014；pp205-210，三輪書店．
- 7) 喜多村孝幸：〔分担〕IV. 外傷以外の神経救急 1. 救急疾患としての頭痛．脳神経外科診療プラクティス 4 神経救急診療の進め方，2014；pp162-166，文光堂．
- 8) 喜多村孝幸：〔分担〕X 脊髄・脊椎疾患，髄液動態異常 低髄液圧症候群（脳脊髄液減少症）．神経症候群（第 2 版）：その他の神経疾患を含めて，2014；pp171-174，日本臨牀社．

### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 太組一朗：てんかん診療における脳波検査を考える 2 デジタル脳波計と発作記録：てんかん診療への応用．Yokohama EEG セミナー（横浜市立大学神経内科）（第 2 回）（神奈川県横浜市），2014. 9.
- 2) 太組一朗：てんかん治療アップデート：治療選択と運転免許の問題．徳島臨床神経カンファレンス（徳島大学）（徳島市），2014. 8.

- 3) 喜多村孝幸：頭痛診療のトピックス：脳脊髄液減少症の診断と治療。ペインクリニック診断研究会（第13回），2014. 4.
  - 4) 喜多村孝幸：頭痛診療のトピックス：女性の片頭痛&脳脊髄液減少症。郡山頭痛研究会（第3回）（郡山市），2014. 6.
  - 5) 喜多村孝幸：うつ状態を合併した頭痛診療のトピックス。茨城県南PSD研究会，2014. 9.
  - 6) 喜多村孝幸：頭痛診療のトピックス：最近の知見から。城西頭痛セミナー，2014. 10.
- (2) シンポジウム：
- 1) 立山幸次郎<sup>1)</sup>，廣中浩平<sup>3)</sup>，村井保夫<sup>2)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，喜多村孝幸<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学病院脳神経外科，<sup>3)</sup>関東労災病院脳神経外科）：Perfusion CTによるくも膜下出血急性期患者の評価と予後予測。日本脳神経CI学会総会（名古屋），2015. 2.
  - 2) 喜多村孝幸：低髄液圧症候群（脳脊髄液減少症）の最新の治療。日本頭痛学会総会（第42回）（東京），2014. 11.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 太組一朗，森田明夫<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup>，百束比古<sup>3)</sup>，秋元正幸<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 脳神経外科，<sup>2)</sup>東京労災病院，<sup>3)</sup>日本医科大学 形成外科，<sup>4)</sup>日本医科大学千葉北総病院 形成外科）：整容脳神経外科の取り組み（頭蓋変形・頭蓋底変形をこここで治す）。日本頭蓋顎顔面外科学会（第32回）（大阪），2014. 11.
- (4) セミナー：
- 1) 太組一朗：知っておくと便利なたんかん診療 多選択肢時代のたんかん診療。日本脳神経外科コンgres総会（第34回）（大阪府），2014. 5.
  - 2) 喜多村孝幸：プライマリケア医のための頭痛治療講座：脳神経外科医から見る女性の片頭痛。M3 Web 講演会，2014. 9.
  - 3) 喜多村孝幸：脳神経外科医が知っておくべき頭痛診療のトピックス：慢性頭痛診療ガイドライン2013 & 国際頭痛分類 ICHD-3βのポイント & 女性の片頭痛。日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- (5) ワークショップ：
- 1) 太組一朗，川合謙介<sup>1)</sup>，荒木 敦<sup>1)</sup>，久保田英幹<sup>1)</sup>，菅野秀宣<sup>1)</sup>，西田拓司<sup>1)</sup>，平田幸一<sup>1)</sup>，前垣義弘<sup>1)</sup>，松浦雅人<sup>1)</sup>，野崎俊樹，築山敦<sup>2)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本てんかん学会法的问题検討委員会，<sup>2)</sup>日本医科大学 脳神経外科）：両法施行後の現場医師の声 両法施行3ヵ月後のアンケート調査結果。日本てんかん学会（第48回）（東京都新宿区），2014. 10.
- (6) 一般講演：
- 1) 馬場栄一<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，喜多村孝幸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科）：WHO GRADE II, III 髄膜腫5例について。ニューロオンコロジーの会（第43回）（東京女子医科大学 Twins），2015. 1.
  - 2) 馬場栄一<sup>1)</sup>，田原重志<sup>1)</sup>，服部裕次郎<sup>1)</sup>，廣中浩平<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学附属病院脳神経外科）：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術後にくも膜下出血を来した症例の検討。脳神経外科学会学術総会（第73回）（グランドプリンスホテル新高輪），2014. 10.
  - 3) 馬場栄一<sup>1)</sup>，田原重志<sup>2)</sup>，瓜生康浩<sup>3)</sup>，廣中浩平<sup>4)</sup>，樋口直司<sup>2)</sup>，服部裕次郎<sup>2)</sup>，喜多村孝幸<sup>5)</sup>，築山 敦<sup>2)</sup>，野手洋治<sup>6)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>7)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学附属病院脳神経外科，<sup>3)</sup>国立病院機構横浜医療センター脳神経外科，<sup>4)</sup>関東労災病院脳神経外科，<sup>5)</sup>目白第二病院脳神経外科，<sup>6)</sup>日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>7)</sup>東京労災病院脳神経外科）：細菌叢の変化を踏まえた蝶形骨洞内手術における抗菌薬選択。日本間脳下垂体腫瘍学会（第25回）（京都テルサ），2015. 2.
  - 4) 立山幸次郎<sup>1)</sup>，馬場栄一<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，喜多村孝幸<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科）：当科でのCEA基本術式とトラブル事例から学ぶ考察。日本脳卒中の外科学会総会（第44回）（広島県広島市），2015. 3.
  - 5) 立山幸次郎<sup>1)</sup>，中川俊祐<sup>1)</sup>，野崎俊樹<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，足立好司<sup>1)</sup>，喜多村孝幸<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学脳神経外科）：Subtemporal approachでのSTA-SCA吻合術の基本。日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京都），2014. 10.
  - 6) Higuchi T<sup>1)</sup>，Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Ten H<sup>1)</sup>，Omura T<sup>2)</sup>，Adachi K，Kitamura T，Teramoto A<sup>3)</sup>，Morita A<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery，<sup>2)</sup>Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital, Department of Neurological Surgery，<sup>3)</sup>Tokyo Rosai Hospital, Department of Neurological Surgery）：Comparative study of intraoperative photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid and pathological diagnosis. American Association of Neurological Surgeons Annual Scientific Meeting (82) (San Francisco, California, USA), 2014. 4.
  - 7) Higuchi T<sup>1)</sup>，Yamaguchi F<sup>1)</sup>，Ten H<sup>1)</sup>，Omura T<sup>2)</sup>，Adachi K，Kitamura T，Teramoto A<sup>3)</sup>，Morita A<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery，<sup>2)</sup>Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital, Department of Neurological Surgery，<sup>3)</sup>Tokyo Rosai Hospital, Department of Neurological Surgery）：Comparative study of intraoperative photodynamic diagnosis using 5-aminolevulinic acid and pathological diagnosis. International Congress on Photodynamic Applications (Dundee, Scotland, UK), 2014. 5.
  - 8) 立山幸次郎，足立好司，野崎俊樹，太組一朗，喜多村孝幸，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学脳神経外科）：硬膜転移をきたした子宮肉腫の1例。脳腫瘍病理学会（第32回）（徳島），2014. 5.



- 9) 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 音楽家の脳腫瘍. I-BT 研究会 (第2回) (川崎), 2014. 6.
- 10) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): Pile driving technique による機能温存脳腫瘍摘出術. 千駄木脳腫瘍研究会 (第4回) (東京), 2014. 6.
- 11) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京労災病院脳神経外科): 神経膠腫に対する術中蛍光診断. 千駄木脳腫瘍研究会 (第4回) (東京), 2014. 6.
- 12) 野崎俊樹, 足立好司, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸: 悪性脳腫瘍に対する bevacizumab の使用経験について. 千駄木脳腫瘍研究会 (第4回) (東京), 2014. 5.
- 13) 山口文雄<sup>1)</sup>, 朝倉隆之<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): アミノレプリン酸蛍光診断における新規抗てんかん薬の影響に関する検討. 日本脳神経外科光線力学学会 (第10回) (浜松), 2014. 6.
- 14) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): Low grade glioma に対する 5-ALA の使用経験. 日本脳神経外科光線力学学会 (浜松), 2014. 6.
- 15) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 確実な錐体路同定をめざした navigation-assisted subcortical mapping. 日本術中画像情報学会 (第14回) (東京), 2014. 7.
- 16) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京労災病院脳神経外科): グリオーマ手術における高輝度 LED レーザー併用 5-ALA 蛍光診断の有用: 病理学的所見の立場から. 日本術中画像情報学会 (第14回) (東京), 2014. 7.
- 17) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京労災病院脳神経外科): 病理診断に苦慮した脳室内腫瘍の1例. 文京脳腫瘍研究会 (第21回) (東京), 2014. 7.
- 18) 日高可奈子<sup>1)</sup>, 高山幸芳<sup>1)</sup>, 野崎俊樹, 立山幸次郎, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸, 高橋 弘<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院言語療法室, <sup>2)</sup> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科): 中枢神経系胚細胞性腫瘍患者の高次脳機能. 日本意識障害学会 (第23回) (札幌), 2014. 8.
- 19) 高山幸芳<sup>1)</sup>, 日高可奈子<sup>1)</sup>, 野崎俊樹, 立山幸次郎, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院言語療法室): 脳血管疾患患者の蛍光撮取得と意識レベル・端座位保持能力の関係. 日本意識障害学会 (第23回) (札幌), 2014. 8.
- 20) 野崎俊樹, 太組一朗, 足立好司, 立山幸次郎, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 腰曲がりとなめ兆候を有するパーキンソン病に対して DBS 早期介入が有効であった1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第124回) (東京), 2014. 9.
- 21) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): Pile driving technique による神経路温存手術. 日本脳腫瘍の外科学会 (第19回) (東京), 2014. 9.
- 22) 野崎俊樹, 太組一朗, 饒波正博<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 小児神経科医にとってのてんかん外科医療の位置づけ. 日本てんかん学会学術総会 (第48回) (東京), 2014. 10.
- 23) 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 東京労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 医学生に対するシミュレータを用いた腰椎穿刺臨床実習. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 24) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口直司<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 山崎道生<sup>3)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 小林士郎<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山脳神経外科): 術中神経路把握のための複数モダリティによる情報補完. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 25) 樋口直司<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 寺本 明<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京労災病院脳神経外科): 当院における初発悪性神経膠腫に対する bevacizumab 使用経験. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 26) 太組一朗, 野崎俊樹, 展 広智<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): DBS 手術における PEG キャッピング法-デュラシル TM を用いた最近の工夫-. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 27) 野崎俊樹, 太組一朗, 饒波正博<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 足立好司, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): VNS はてんかん外科医療推進のために有用なツールである. 日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 28) 馬場栄一, 足立好司, 野崎俊樹, 立山幸次郎, 太組一朗, 喜多村孝幸, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): Germinoma にお

- ける不妊について. 神奈川脳腫瘍フォーラム (第 28 回) (横浜), 2014. 10.
- 29) 足立好司, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 山口文雄<sup>4)</sup>, 高橋 弘<sup>5)</sup>, 森田明夫<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, 4) 日本医科大学脳神経外科, 5) 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院脳神経外科): 中神経系 (原発) 悪性リンパ腫の精巣病変. 日本脳腫瘍学会 (第 32 回) (浦安), 2014. 11.
- 30) 足立好司, 太組一朗, 日高可奈子<sup>1)</sup>, 馬場栄一, 立山幸次郎, 喜多村孝幸 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院言語療法室): 海馬神経膠腫の手術症例. 神奈川脳腫瘍フォーラム (第 29 回) (横浜), 2015. 3.
- 31) Takumi I, Nozaki T, Kishi Y<sup>1)</sup>, Morita A<sup>2)</sup> (1) Department of psychiatry, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): VNS (vagus nerve stimulation) is a useful tool to promote the epilepsy surgery. The 68th annual meeting of the American Epilepsy Society Meeting (Seattle, WA), 2014. 12.
- (7) Plenary Session :
- 1) Takumi I, Morita A<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>2)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, 2) Department of Neurosurgery, Jichi Medical School): Analysis of pre-surgical evaluation. 8th Asian Epilepsy Surgery Congress (AESC2014) (Tokyo), 2014. 10.
- (8) Webinar :
- 1) 太組一朗: てんかん治療新時代の到来: 新しい薬剤選択と専門医紹介のタイミングを易しく解説します. GSK WEB (Web Based), 2014. 10.
- (9) 市民公開講座 :
- 1) 喜多村孝幸: あなたの頭痛はどのタイプ?: もう頭痛で悩まない. 文京区健康教育講座, 2014. 10.
- 2) 喜多村孝幸: 女性の頭痛. 頭痛を専門医と考える. 習志野市民公開フォーラム, 2014. 10.
- 3) 喜多村孝幸: 最先端の脳腫瘍治療とは. 脳の病気になったら. 川崎脳神経外科懇話会市民公開講座 (川崎市), 2014. 10.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Adachi K, Yamaguchi F<sup>1)</sup>, Node Y<sup>2)</sup>, Kobayashi S<sup>3)</sup>, Takagi R<sup>4)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School, Department of Neurological Surgery, 2) Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, Department of Neurological Surgery, 3) Nippon Medical School, Chiba-Hokuso Hospital, Department of Neurological Surgery, 4) Nippon Medical School, Department of Radiology): Neuroimaging of primary central nervous system lymphoma in the immunocompetent patient : comparison of recent and previous findings. J Nippon Med Sch 2013 ; 80 (3) : 174-183.

## 学会発表

追加分教育講演 :

- 1) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の診断基準. 脳脊髄液減少症研究会 (第 13 回), 2014. 2.

追加分一般講演 :

- 1) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): PerfusionCT によるくも膜下出血急性期患者の評価と予後予測. 日本脳卒中の外科学会総会 (第 43 回) (大阪府), 2014. 3.

追加分特別講演 :

- 1) 喜多村孝幸: 脳神経外科における頭痛治療のトピックス. 房総疼痛研究会, 2014. 2.

## [多摩永山病院脳神経外科]

## 研究業績

### 論文

(1) 総説 :

- 1) Kogure K<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup> (1) Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, 2) Department of Neurological Surgery, Kushiro Rosai Hospital): Complications of spinal surgery and the importance of collaboration between facilities - a focus on second opinions. 日本脊髄障害医学会誌 2015 ; 28 (1) : 170-172.
- 2) Kogure K<sup>1, 2)</sup>, Isu T<sup>5)</sup>, Node Y<sup>1, 2)</sup>, Tamaki T<sup>1, 2)</sup>, Kim K<sup>1, 3)</sup>, Morimoto D<sup>1, 4)</sup>, Morita A<sup>1, 4)</sup> (1) Department of Neurosurgery,

Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Technical Arrangement of the Williams-Isu Method for Anterior Cervical Discectomy and Fusion. JOURNAL OF NIPPON MEDICAL SCHOOL 2015 ; 82 (1) : 50-53.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 木暮一成<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎前方アプローチの基本手技 : 合併症の厳密な評価とリスクマネージメント ( 脊椎・脊髄外科手術 1). 脳神経外科手術と機器学会 ( 第 23 回) ( 福岡県福岡市), 2014. 4.
- 2) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1,3)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 当科における脊椎手術基本手技 : 頸椎前方手技のスタンダードを中心に. 日本脊髄外科学会 ( 第 29 回) ( 東京都千代田区), 2014. 6.
- 3) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 斎藤寛浩<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup>, 梅岡克哉<sup>4)</sup>, 水成隆之<sup>4)</sup>, 森田明夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京労災病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>5)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頸動脈内膜摘出術 (CEA) 周術期の推算糸球体濾過量 (eGFR) を指標とした腎機能の検討 (CEA or CAS 1). 日本心血管脳卒中学会学術集会 ( 第 1 回) ( 埼玉県さいたま市), 2014. 6.

### (2) 一般講演 :

- 1) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頸椎前方固定手技 : fusion の評価 : bone graft から titanium cage へ. 日本脊髄外科学会 ( 第 29 回) ( 東京都千代田区), 2014. 6.
- 2) 木暮一成<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 椎体炎の外科治療 : そのタイミング. Summer Forum for Practical Spinal Surgery 2014 ( 青森県八戸市), 2014. 8.
- 3) 木暮一成<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター, <sup>3)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 脊髄手術合併症としての神経障害 : その対策と施設連携の重要性. 日本脊髄障害医学会 ( 第 49 回) ( 北海道旭川市), 2014. 9.
- 4) 木暮一成<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 変形性頸椎症に対する前方固定術 : プレートは多くのケースで不要では?. 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 ( 第 21 回) ( 宮城県宮崎市), 2014. 9.
- 5) 木暮一成<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 脳神経外科) : 定型的頸椎前方固定術はどこまで低侵襲に施行しうるか. 日本脳神経外科学会 ( 第 73 回学術総会) ( 東京都港区), 2014. 10.
- 6) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 斎藤寛浩<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京労災病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : CEA 中の迷走神経モニタリング. 日本脳神経外科学会 ( 第 73 回学術総会) ( 東京都港区), 2014. 10.
- 7) 山崎道生<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 斎藤寛浩<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>3)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京労災病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : CEA 術野でみられる迷走神経走行のバリエーション. 日本脳神経外科学会 ( 第 73 回学術総会) ( 東京都港区), 2014. 10.
- 8) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 斎藤寛浩<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup>, 梅岡克哉<sup>4)</sup>, 水成隆之<sup>4)</sup>, 森田明夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京労災病院 脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, <sup>5)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : CEA 術野でみられる迷走神経走行のバリエーション. 日本心血管脳卒中学会学術集会 ( 第 1 回) ( 埼玉県さいたま市), 2014. 6.
- 9) 玉置智規<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 脳卒中の予防と治療. ベネッセスタイルケア市民講座 ( 東京都多摩市), 2014. 11.
- 10) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : CEA 中にみられる迷走神経のバリエーションとその対応について. 日本脳卒中の外科学会 ( 第 44 回) ( 広島県広島市), 2015. 3.
- 11) 玉置智規<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 脳梗塞の外科治療. 南多摩地域脳卒中連携協議会 ( 第 5 回公開講座) ( 東京都多摩市), 2014. 10.
- 12) 玉置智規<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 興味あるプラーク所見を有した頸動脈狭窄の検討. 永山神経外科研究会 ( 第 13 回) ( 東京都多摩市), 2015. 2.

- 13) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : CEA 中の迷走神経モニタリング, 連続 100 例の経験から, 日本脳卒中の外科学会 (第 44 回) (広島県広島市), 2015. 3.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Tamaki T<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Saitou N<sup>2)</sup>, Saigusa H<sup>3)</sup>, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Morita A<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Surgery, Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurological Surgery, Tokyo Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Vernet's syndrome after carotid endarterectomy. *Perspect Vasc Surg Endovasc Ther* 2013 ; 25 (3-4) : 65-68.

## [千葉北総病院脳神経外科]

### 研究概要

開院 21 年目を迎えた千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍, 脳代謝, 脳血管内手術, 脊髄脊椎外科, 機能的脳神経外科, 日本脳卒中協会千葉県支部を中心とした臨床および基礎的研究を行った。①脳血管障害: 内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略の総説を行った。内頸動脈病変に対する RA グラフト術の patency 向上のための継続検討を行った。SCU における脳卒中患者早期離床への取り組みを報告した。②頭部外傷: 頭蓋内慢性硬膜下血腫に合併する腰椎硬膜下血腫について検討を継続した。③脳腫瘍: 5-ALA を用いた術中蛍光診断と病理学的診断との比較検討を継続した。小脳神経膠芽腫の報告を行った。④脳代謝: ヒト被殻におけるアデノシン A1 及び A2A レセプターの加齢変化を継続検討した。⑤脳血管内治療: 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対する NBCA を用いた塞栓術の総説を行った。脳動静脈奇形に対する塞栓術を併用した定位放射線治療の成績を報告した。⑥脊髄脊椎外科: 腰椎変性すべりを伴う腰下肢痛に対する治療戦略の総説を行った。足根管症候群の治療経験を報告した。⑦機能的脳神経外科: けいれん重積の定義と病態の総説を行った。責任血管の違いによる三叉神経痛の治療経験を報告した。⑧日本脳卒中協会千葉県支部: 脳卒中急性期の stroke bypass (CHIBA DRID AND HELI SYSTEM (仮称)) を構築する目的で, 脳卒中急性期病院, 行政, 救急隊員に呼びかけて設立した千葉県脳卒中急性期医療協議会も継続して開催した。千葉県各地で脳卒中市民公開講座, かかりつけ医を対象とした脳卒中講演会を開講した。「千葉県共用脳卒中地域医療連携パス」を運用した。脳卒中对策基本法を早期実現するための署名活動を積極的に実施した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Mishina M<sup>1)</sup>, Okubo S<sup>1)</sup>, Kamiya N<sup>1)</sup>, Abe A<sup>1)</sup>, Suda S<sup>1)</sup>, Sakamaki M<sup>1)</sup>, Kominami S, Mizunari T, Kobayashi S, Katayama Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Efficacy of Tracheostomy for Central Alveolar Hypoventilation Syndrome Caused by Lateral Medullary Infarction. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (4) : 276-284.
- 2) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Sasamori T<sup>1)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Chiba Y<sup>1)</sup>, Isobe M, Kobayashi S, Morita A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University) : Neurovascular Bundle Decompression without Excessive Dissection for Tarsal Tunnel Syndrome. *Neurol Med Chir* 2014 ; 54 (11) : 901-906.
- 3) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 小林士郎 ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科) : 腰椎疾患術後成績へ末梢神経障害が与える影響について. *日本脊髄障害医学会誌* 2014 ; 27 (1) : 86-87.
- 4) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 岩本直高, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 上殿皮神経障害の外科治療の試み. *日本脊髄障害医学会誌* 2014 ; 25 (1) : 107-114.
- 5) 永野 修<sup>1)</sup>, 芹澤 徹<sup>2)</sup>, 小南修史, 藤川 厚<sup>1)</sup>, 石毛 聡<sup>1)</sup>, 町田利生<sup>1)</sup>, 小林士郎, 小野純一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉県循環器病センター 脳神経外科, <sup>2)</sup> 築地神経クリニック/東京ガンマユニットセンター) : 塞栓術を併用した安全な定位放射線治療への取り組み: ナイダス体積 10cm<sup>3</sup> 以下の AVM での検討一. *The Mt. Fuji Workshop on CVD* 2014 ; 32 : 108-112.
- 6) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Sasamori T<sup>1)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Matsumoto R, Isobe M, Kobayashi S, Morita A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University) : Long-Term Results After Cervical Anterior Fusion Using an Autologous Bone Graft (Williams-Isu Method). *World Neurosurg* 2014 ; 82 (1-2) : 219-224.

7) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 上殿皮神経障害の外科治療に関する検討. 日本脊髄障害医学会誌 2015 ; 28 (1) : 154-155.

(2) 総説 :

- 1) Umeoka T, Kominami S, Koketsu K, Mizunari T, Kobayashi S, Morita A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Occlusion of the ascending pharyngeal artery during carotid artery surgery : importance and technique. Turkish Neurosurgery 2014 ; 24 (4) : 546-548.
- 2) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 脊椎・脊髄疾患. Brain Nursing 2014 ; 30 (4) : 32-33.
- 3) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科) : 腰椎後方除圧術 : よりよい手術成績を得るためのわれわれの工夫. 脳神経外科ジャーナル別冊 2014 ; 23 (6) : 468-475.
- 4) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : Willaims-Isu 法. 脊髄脊椎ジャーナル 2014 ; 27 (5) : 495-500.
- 5) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 脊髄硬膜外血腫. 脊髄脊椎ジャーナル 2014 ; 27 (7) : 656-662.
- 6) 金 景成, 國保倫子, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科) : 古くて新しい腰痛. 印旛市郡医師会報 2014 ; 63 : 23-29.
- 7) 金 景成 : 軟部腫瘍. 脊髄外科 治療戦略ミーティング 2014 ; 28 (1) : 35-39.
- 8) 金 景成 : 軟部腫瘍. 脊髄外科 治療戦略ミーティング 2014 ; 28 (1) : 35-39.
- 9) 金 景成, 村田英俊<sup>1)</sup>, 伊東清志<sup>2)</sup>, 張 漢秀<sup>3)</sup>, 寶子丸稔<sup>4)</sup> (1) 横浜市立大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 信州大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科, <sup>4)</sup> 暇生会脳神経外科病院信愛会脊椎脊髄センター) : 不全麻痺で発症した脊髄海綿状血管腫. 脊髄外科 2014 ; 28 (2) : 134-143.
- 10) Kogure K<sup>2)</sup>, Isu T<sup>1)</sup>, Nobe Y<sup>2)</sup>, Tamaki T<sup>2)</sup>, Kim K, Morimoto D<sup>2)</sup>, Morita A<sup>2)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Technical arrangement of the Williams-Isu method for anterior cervical discectomy and fusion. J Nippon Medical School 2015 ; 82 (1) : 50-53.

(3) 症例報告 :

- 1) Suzuki M, Kominami S, Koketsu K, Mizunari T, Kobayashi S, Morita A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Endovascular repair of a middle meningeal artery aneurysm after cranial surgery. NMC Case Report Journal 2014 ; 1 (1) : 6-8.
- 2) Suzuki M, Umeoka K, Kominami S, Morita A<sup>1)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Successful treatment of a ruptured flow-related aneurysm in a patient with hemangioblastoma : Case report and review of literature. Surgical Neurology Internationa 2014 ; 26 (5) : 430-433.

## 著 書

- 1) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成 (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] しびれ・痛み診療と薬物治療. しびれ・痛み診療と薬物治療, 2014 ; 中外医学社.
- 2) 森本大二郎<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成, 山崎和義<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : [共著] 上殿皮神経障害の外科的治療成績. 脊髄外科, 2014 ; pp86-89, 三輪書店.
- 3) 森本大二郎<sup>2)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成, 國保倫子, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : [共著] 症候性脊椎脊髄病変に合併した足根管症候群の治療成績. 脳神経外科速報, 2014 ; pp1016-1024, メディカ出版.
- 4) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [共著] 脊髄硬膜外血腫. 脊髄脊椎ジャーナル, 2014 ; pp656-662, 三輪書店.
- 5) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : [共著] 上殿皮神経障害の外科治療の試み. Peripheral Nerve, 2014 ; pp107-114, 日本末梢神経学会.
- 6) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] 腰部脊柱管狭窄症. 神経症候学 V, 2014 ; pp131-134, 日本臨床.
- 7) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] 脊椎症. 神経疾患の最新の治療 2015-2017, 2015 ; pp2015-2017, 南江堂.
- 8) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] 手術体位による空気塞栓. 新版 脊椎インストゥルメンテーション テクニカルポイントと合併症対策, 2014 ; p232, メジカルビュー社.
- 9) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] cervical posterior approach. NS Now, 2015 ; pp150-159, メジカルビュー社.
- 10) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科) : [分担] 脊椎症. 神経疾患の最新の治療 2015-2017, 2015 ; pp177-180, 南江堂.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳卒中にならないために：万一の場合の早期対応（ACT FAST）を含めて。千葉県生涯学習センター 市民公開健康講座（千葉），2014. 4.
- 2) 小南修史：脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術。大分県脳神経外科医会（大分NS会）（第45回）（大分），2014. 4.
- 3) 金 景成：しびれのはなし。手足のしびれから腰痛まで。日本医科大学千葉北総病院タウン講座（第29回）（千葉），2014. 10.
- 4) 丸 栄一：基礎研究とトランスレーショナル研究。日本てんかん学会学術集会（第48回）（東京），2014. 10.
- 5) 小林士郎：こわい脳卒中 予防と予知と治療の最前線。専門家ネットワーク・佐倉市共催セミナー（第6回）（千葉），2014. 10.
- 6) 丸 栄一：急性脳障害における新規抗てんかん薬の脳保護作用：基礎研究の観点から。てんかん学術講演会（仙台），2014. 10.
- 7) 小林士郎：神経外傷学の歩み。山口県脳神経外科談話会（第122回）（宇部），2014. 11.
- 8) 小林士郎：脳卒中治療の変遷と千葉県地域連携バス。東総地区超急性期脳梗塞治療研究会（第6回）（千葉），2014. 11.
- 9) 小林士郎：脳卒中と子どもの片頭痛。印西市PTA 連絡協議会運営研修会（講演会）（千葉），2014. 11.
- 10) 小林士郎：日本医科大学千葉北総病院の児童・生徒を含めた地域とのかかわり：こどもと大人の頭部傷病に対する取組を通じて。平成26年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会 第2回教育委員研修会（千葉），2015. 1.
- 11) 小林士郎：認知症の基本知識と診断。印旛市郡・印西市白井地区医師会 かかりつけ医認知症対応対応力向上研修会と主治医研修会（千葉），2015. 1.
- 12) 小林士郎：認知症の治療とケア及び連携。印旛市郡・印西市白井地区医師会 かかりつけ医認知症対応対応力向上研修会と主治医研修会（千葉），2015. 1.

### (2) 教育講演：

- 1) 金 景成：腰椎の解剖，手術の種類と適応。AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演（横浜），2015. 2.
- 2) 金 景成：頸椎手術の留意点，合併症（金属固定を含む）。AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演（横浜），2015. 2.
- 3) 加藤丈司<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 放射線センター）：閉所恐怖を克服する：MR検査における心理誘導。千葉MRIセミナー（第32回）（千葉），2014. 10.

### (3) シンポジウム：

- 1) 水成隆之<sup>1)</sup>，額額健太<sup>1)</sup>，山田敏雅<sup>1)</sup>，玉置智規<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：内頸動脈病変に対するRAグラフト術における注意点。脳神経外科手術と機器学会（第23回）（福岡），2014. 4.
- 2) 山口文雄<sup>1)</sup>，展 広智<sup>1)</sup>，樋口直司<sup>1)</sup>，大村朋子<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：双極刺入型電極NY-Tract Finderによるリアルタイム神経路測位。脳神経外科手術と機器学会（第23回）（福岡），2014. 4.
- 3) 玉置智規<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，斎藤寛浩<sup>2)</sup>，梅岡克哉<sup>1)</sup>，山崎道生<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：頸動脈内膜摘出術（CEA）周術期の推算糸球体濾過量（eGFR）を指標とした腎機能の検討。日本心血管脳卒中学会学術集会（第1回）（埼玉），2014. 6.
- 4) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，田草川豊<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 東京医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：椎骨・脳底動脈が責任血管である三叉神経痛の手術成績。一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 5) 小南修史<sup>1)</sup>，鈴木雅規<sup>1)</sup>，渡辺 玲<sup>2)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 東京共済病院脳神経外科）：NBCAを用いた脳動静脈奇形の塞栓術の適応と方法およびその結果。NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会（第30回）（横浜），2014. 12.

### (4) 一般講演：

- 1) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，田草川豊<sup>1)</sup>，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 東京医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：上小脳動脈から分枝する硬膜枝に関する検討。日本微小脳神経外科解剖研究会（第28回）（大阪），2014. 4.
- 2) 川上洋子<sup>1)</sup>，木下菜奈<sup>1)</sup>，松枝理沙<sup>1)</sup>，横井亜邪<sup>1)</sup>，梅岡克哉<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>：術中皮膚障害予防を目的とした側臥位体位固定方法の検討：ピュアフィックスを用いて。脳神経外科手術と機器学会（第23回）（福岡），2014. 4.
- 3) 梅岡克哉<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>，秋元正宇<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 東京医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科）：露出した頭皮下異物の対応。日本整容脳神経外科研究会（第7回）（福岡），2014. 4.
- 4) 國保倫子<sup>1)</sup>，金 景成<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院 脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：上臀皮神経障害による腰痛の外科治療。日本脊椎脊髄病学会学術総会（第43回）（京都），2014. 4.
- 5) 額額健太<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：頭蓋外内頸動脈解離に対しHigh flow bypass術を施行した2例。社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会（第123回）（東京），2014. 4.
- 6) 小林士郎<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，大村朋子<sup>1)</sup>，額額健太<sup>1)</sup>：脳卒中千葉県共有地域医療連携バス運用の現状。平成26年度厚生労働科学研究 障害者対策総合研究事業（精神障害分野）身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究会議（千葉），2014. 5.
- 7) 大村朋子<sup>1)</sup>，額額健太<sup>1)</sup>，水成隆之<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>：脳神経センターにおける脳卒中患者のうつ状態評価と抗うつ薬治療。平成26年度厚生

労働科学研究 障害者対策総合研究事業（精神障害分野）身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究会議（千葉），2014. 5.

- 8) 岡田知弥子, 佐々木優子：脳卒中後の精神症状に対する看護師の関わりと課題. 平成 26 年度厚生労働科学研究 障害者対策総合研究事業（精神障害分野）身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究会議（千葉），2014. 5.
- 9) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線センター,<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：3T MRI における脳腫瘍の造影効果-脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本脳ドック学会総会（第 23 回）（下関），2014. 6.
- 10) 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 金 景成, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 井上聖啓<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科,<sup>2)</sup> 横浜新緑総合病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 札幌山の上病院神経内科)：腰部脊柱管狭窄症と腰椎周辺疾患併存例に対する新たな治療戦略の試み. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 11) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 金 景成, 國保倫子, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：症候性脊椎椎髄病変に合併した足根管症候群の治療成績. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 12) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：足根管症候群の治療経験. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 13) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：下肢血流検査を用いた足根管症候群の冷えに関する研究. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 14) 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 金 景成, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 井上聖啓<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 横浜新緑総合病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 札幌山の上病院神経内科)：脊椎椎体骨折後の腰痛に対する新たな治療戦略の試み. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 15) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科)：上臀皮神経障害の絞扼部に関する検討. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 16) 岩本直高<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 金 景成, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 穂刈正昭<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科)：パーキンソン病の腰痛に対する新たな治療戦略. 日本脊椎外科学会（第 29 回）（東京），2014. 6.
- 17) 梅岡克哉, 田草川豊<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：Trigemino-cerebellar artery による三叉神経痛の検討. 日本頭蓋底外科学会（第 26 回）（千葉），2014. 6.
- 18) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科)：Feeder に発生した破裂後下小脳動脈遠位部脳動脈瘤を伴った小脳血管芽腫の 1 例. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会（第 11 回）（東京），2014. 7.
- 19) 八木野健太, 下川正樹, 加藤武大, 秋元麻衣, 金高薫利, 高安麻紀, 渡邊留奈, 田中 緑, 水成隆之, 佐々木優子：意識障害患者に対するクーリングの有効性. 日本意識障害学会（第 23 回）（札幌），2014. 8.
- 20) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：足根管症候群の治療経験. 日本抹消神経学会学術集会（第 25 回）（京都），2014. 8.
- 21) 山口文雄<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 樋口佳則<sup>1)</sup>, 喜多村孝雄<sup>1)</sup>, 大村朋子, 足立好司<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：Pile Driving Technique による神経路温存手術. 日本脳腫瘍の外科学会（第 19 回）（東京），2014. 9.
- 22) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科)：開頭手術後に発生した中硬膜動脈瘤に対する塞栓術. 一般社団法人日本脳神経外科学会関東支部会（第 124 回）（東京），2014. 9.
- 23) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 國保倫子, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：上殿皮神経障害の外科治療に関する検討. 日本脊椎障害医学会（第 49 回）（旭川），2014. 9.
- 24) 岩本直高<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 千葉泰弘<sup>1)</sup>, 金 景成, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科)：腰椎固定術後の腰痛に対する新たな治療戦略. 日本脊椎障害医学会（第 49 回）（旭川），2014. 9.
- 25) 小暮一成<sup>1)</sup>, 金 景成, 井須豊彦<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：脊髄手術合併症としての神経障害：その対策と施設連携の重要性. 日本脊椎障害医学会（第 49 回）（旭川），2014. 9.
- 26) 山田敏雅, 水成隆之, 瀬瀬健太, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎：脳底動脈幹部動脈瘤の 1 例. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」（第 10 回）（千葉），2014. 9.
- 27) 金 景成, 國保倫子, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科)：頭蓋頸椎移行部硬膜動脈瘤 +  $\alpha$  の 1 例. 東葛脳神経外科カンファレンス（第 83 回）（浦安），2014. 9.
- 28) 水成隆之, 瀬瀬健太, 山田敏雅, 玉置智規<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>3)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略. 一般社

- 団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 29) 小南修史，鈴木雅規，渡辺 玲<sup>1)</sup>，小林士郎，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 東京共済病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術とその成績．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 30) 金 景成，井須豊彦<sup>1)</sup>，岩本直高<sup>1)</sup>，千葉泰弘<sup>1)</sup>，國保倫子，森本大二郎<sup>2)</sup>，菅原 淳<sup>3)</sup>，小林士郎，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科）：腰椎変性すべりを伴う腰下肢痛に対する治療戦略．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 31) 鈴木雅規，小南修史，小林士郎，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：様々な成因の遠位脳動脈瘤に対するn-butyl cyanoacrylateを用いた塞栓術の有用性．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 32) 大村朋子，水成隆之，小林士郎，森田明夫<sup>1)</sup>，木村真人<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科）：当院における脳卒中後うつへの対策と急性期病院での現状．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 33) 緜額健太，水成隆之，山田敏雅，亦野文宏，立山幸次郎<sup>2)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，小林士郎，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科）：内頸動脈解離性動脈瘤に対する治療戦略．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 34) 國保倫子，金 景成，井須豊彦<sup>1)</sup>，森本大二郎<sup>2)</sup>，小林士郎，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：腰椎変性すべりを伴う腰下肢痛に対する治療戦略．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 35) 加藤文司<sup>1)</sup>，富田尚樹<sup>1)</sup>，池亀 敏<sup>1)</sup>，永井淳史<sup>1)</sup>，阿部雅志<sup>1)</sup>，河原崎昇<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>2)</sup>，小林士郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科）：3T MRIにおけるコントラストの改善 脱髄斑の信号変化．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 36) 千葉泰弘<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，岩本直高<sup>1)</sup>，金 景成，森本大二郎<sup>2)</sup>，山崎和義<sup>1)</sup>，池田拓磨<sup>1)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>，井上聖啓<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>3)</sup> 札幌山の上病院神経内科）：腰椎椎間板ヘルニアによる腰部周囲の圧痛所見の変化．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 37) 山口文雄<sup>1)</sup>，展 広智<sup>1)</sup>，樋口直司<sup>1)</sup>，喜多村孝雄<sup>1)</sup>，大村朋子，玉置智規<sup>2)</sup>，山崎道生<sup>2)</sup>，足立好司<sup>3)</sup>，喜多村孝幸<sup>3)</sup>，小林士郎，野手洋治<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科）：術中神経路把握のための複数モダリティによる情報補完．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 38) 森本大二郎<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>2)</sup>，金 景成，國保倫子，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科）：症候性脊椎脊髄病変に合併した足根管症候群の治療成績．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 39) 岩本直高<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，千葉泰弘<sup>1)</sup>，金 景成，森本大二郎<sup>2)</sup>，池田拓磨<sup>1)</sup>，山崎和義<sup>1)</sup>，磯部正則<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：腰椎固定術後の腰痛に対する新たな治療戦略．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 40) 山田敏雅，水成隆之，石坂栄太郎<sup>1)</sup>，白銀一貴<sup>1)</sup>，緜額健太，鈴木雅規，村井保夫<sup>1)</sup>，小林士郎，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：前交通動脈瘤に対するアプローチ法．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 41) 玉置智規<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，齋藤寛浩<sup>2)</sup>，梅岡克哉，水成隆之，森田明夫<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 東京労災病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：CEA中の迷走神経モニタリング．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 42) 村井保夫<sup>1)</sup>，水成隆之，小林士郎，立山幸次郎<sup>2)</sup>，亦野文宏<sup>1)</sup>，森田明夫（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科）：様々なバイパス手術における合併症回避のための工夫：血管を縫って結ぶ事以外のポイント．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 43) 亦野文宏<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>，立山幸次郎<sup>2)</sup>，玉置智規<sup>3)</sup>，水成隆之，寺本 明<sup>4)</sup>，森田明夫<sup>5)</sup>，太田仲郎<sup>5)</sup>，野田公寿茂<sup>5)</sup>，坪井俊之<sup>5)</sup>，谷川緑野<sup>5)</sup>，上山博康<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>4)</sup> 東京労災病院脳神経外科，<sup>5)</sup> 社会医療法人禎心会病院脳神経外科）：STA-MCAバイパスの長期 patency バイパス patency に何が影響するか？．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 44) 永野 修<sup>1)</sup>，芹澤 徹<sup>2)</sup>，小南修史，樋口佳則<sup>3)</sup>，奥山 翼<sup>1)</sup>，青柳京子<sup>1)</sup>，石毛 聡<sup>1)</sup>，町田利生<sup>1)</sup>，小林士郎，小野純一<sup>1)</sup>，佐伯直勝<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 千葉県循環器病センター脳神経外科，<sup>2)</sup> 築地神経科クリニック／東京ガンマユニットセンター，<sup>3)</sup> 千葉大学医学部脳神経外科）：小さな脳動静脈奇形に対するわれわれの治療戦略：塞栓術を併用した定位放射線治療成績．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
- 45) 樋口直司<sup>1)</sup>，山口文雄<sup>1)</sup>，好司孝雄<sup>1)</sup>，展 智<sup>1)</sup>，大村朋子，足立好司<sup>2)</sup>，喜多村孝幸<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>3)</sup>，森田明夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，<sup>3)</sup> 東京労災病院）：当院における初発悪性神経膠腫に対するBevacizumab使用経験．一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.



- 46) 梅岡克哉, 田草川豊<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>1) 2)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 責任血管の違いによる三叉神経痛手術の工夫. 日本頭痛学会総会 (第 42 回) (下関), 2014. 11.
- 47) 大村朋子, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 脳神経外科): 小脳神経膠芽腫の 1 例. 社団法人日本脳神経外科学会 関東支部学術集会 (第 125 回) (東京), 2014. 12.
- 48) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋内硬膜動静脈瘻に対する n-butyl cyanoacrylate を用いた塞栓術. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 30 回) (東京), 2014. 12.
- 49) 阿部雅志<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 放射線センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): AVM 塞栓術後に ASL を用いた脳血流変化の検討. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 30 回) (東京), 2014. 12.
- 50) 阿部晃大<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 上田 司<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 小南修史, 小林士郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 千葉北総病院 放射線センター): MRI を用いた線維性被膜の描出の試み. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 30 回) (東京), 2014. 12.
- 51) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Morita A<sup>2)</sup> (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Neurosurgery, Nippon Medical School): The treatment for the dural AVF at the cervical region. 5th Cervical Spine research Society Asia Pacific Section (Viet Nam), 2014. 4.
- 52) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Kokubo R, Morimoto D<sup>2)</sup>, Iwamoto N<sup>1)</sup>, Chiba Y<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Morita A (1) Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Neurosurgery, Nippon Medical School): Surgical treatment of superior cluneal nerve entrapment neuropathy: tips and pitfalls. The 5th Annual Meeting of Asia Spine (Tokyo), 2014. 6.
- 53) 金 景成: 腰部脊柱管狭窄症の保存療法. 糖尿病合併時の注意点. RUG meeting (東京), 2014. 5.
- 54) 水成隆之: 脳血管内障害の基礎と臨床, 画像の読み方. 日本脳神経看護研究学会 脳神経看護セミナー (東京), 2014. 7.
- 55) 水成隆之: 脳動脈瘤の最新外科治療. 佐倉北総地区脳神経外科セミナー (千葉), 2014. 10.
- 56) 小南修史: Embolization of brain AVMs with NBCA -navigation of Magic catheter and delivery of glue. NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 30 回) (横浜), 2014. 12.
- 57) 金 景成: しびれのはなし. 手足のしびれから腰痛まで. 佐倉市民連絡会 (千葉), 2014. 12.
- 58) Kominami S, Suzuki M: Arteriovenous shunt of the trigeminal artery. The 35th ABC/WIN meeting 2015 (Val d'Isere), 2015. 1.
- 59) 梅岡克哉, 田草川豊<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>1) 2)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 穿通枝によって圧迫血管の移動が著しく制限される顔面痙攣例. 日本脳神経減圧術学会 (第 17 回) (東京), 2015. 1.
- 60) 梅岡克哉, 田草川豊<sup>1)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>1) 2)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 椎骨・脳底動脈圧迫による三叉神経痛に対する手術工夫. 手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス (第 2 回) (東京), 2015. 1.
- 61) 久保田麻紗美, 村井保夫<sup>1)</sup>, 亦野文宏<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): もやもや病における ivy sign の有用性 CBF study との相関を認めた 1 例. 日本脳神経 CI 学会総会 (第 38 回) (愛知), 2015. 2.
- 62) 野崎俊樹, 水成隆之, 藤木 悠, 額額健太, 小林士郎: もやもや病における ivy sign の有用性 CBF study との相関を認めた 1 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 63) 藤木 悠, 中江竜太<sup>1)</sup>, 佐藤 慎<sup>2)</sup>, 金子純也<sup>2)</sup>, 松本 学<sup>2)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 兵頭明夫<sup>3)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>4)</sup> (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院救急医学教室, 3) 獨協医科大学越谷病院脳神経外科, 4) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 頭部顔面外傷患者に合併した内頸動脈海綿静脈洞瘻の 3 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 64) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院 脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 中心性脊髄損傷に合併した小脳梗塞の 1 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 65) 中川俊祐<sup>1) 2)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 額額健太, 水成隆之, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): 頭蓋外内頸動脈解離における治療法の検討. 日本脳卒中の外科学会 (第 44 回) (広島), 2015. 3.
- 66) 梅岡克哉, 田草川豊<sup>1)</sup>, 小南修史, 山田敏雅, 額額健太, 鈴木雅規, 水成隆之, 小林士郎, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 上小脳動脈から分枝する硬膜枝に関する検討. 日本脳卒中の外科学会 (第 44 回) (広島), 2015. 3.
- 67) 水成隆之, 額額健太, 山田敏雅, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 立山幸次郎<sup>3)</sup>, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 東京医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科): 脳底動脈本幹部動脈瘤に対する外科治療法の選択. 日本脳卒中の外科学会 (第 44 回) (広島), 2015. 3.
- 68) 櫻井美知子, 木下菜奈, 武田裕子, 佐々木優子, 水成隆之: SCU を有する脳神経センターにおけるニューロナース活動の現状と問題点. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
- 69) 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 様々な成因の遠位脳動脈瘤に対する n-butyl cyanoacrylate を用いた塞栓術の有用性. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.

- 70) 額健太, 水成隆之, 野崎俊樹, 藤木 悠, 國保倫子, 大村朋子, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 治療に苦慮した内頸動脈 blister-like 動脈瘤破裂によるクモ膜下出血の1例. 東葛脳神経外科手術手技研究会 (第11回) (千葉), 2015. 3.
- 71) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科: 突発性脊髄硬膜外血腫の診断: MRIにおける出血点の検討. 日本脊髄障害医学会 (第49回) (旭川), 2014. 9.
- 72) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科: 下肢血流検査を用いた足根管症候群の冷えに関する研究. 日本抹消神経学会学術集会 (第25回) (京都), 2014. 8.
- 73) 國保倫子, 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科: 突発性脊髄硬膜外血腫の診断: MRIにおける出血点の検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会学術総会 (第73回) (東京), 2014. 10.
- 74) 金 景成: 腰の病気? 神経の病気?. 印西市市民公開講座 (千葉), 2015. 2.
- 75) 梅岡克哉: 顔の痛みと顔のけいれん. 印西市市民公開講座 (千葉), 2015. 2.
- 76) 鈴木雅規: 最近の脳梗塞治療: 予防からあたまのカテーテル治療まで. 印西市市民公開講座 (千葉), 2015. 2.
- 77) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 脳神経外科: CEA中の迷走神経モニタリング, 連続100例の経験から. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 78) 亦野文宏<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 谷川緑野<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 玉置智則<sup>1)</sup>, 水成隆之, 松川東俊<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 榎心会病院 脳神経外科: 動脈硬化性病変に対するSTA-MCA bypassの過灌流症候群 - 過灌流症候群の発生に何が関与するか?. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 79) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 梅岡克哉, 水成隆之, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 脳神経外科: CEA中にみられる迷走神経のバリエーションとその対応について. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 80) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 額健太, 亦野文宏<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 脳神経外科: 血管縫合以外の血管吻合術の留意点: 誰でも出来る配慮について. 日本脳卒中の外科学会 (第44回) (広島), 2015. 3.
- 81) 古口徳雄<sup>1, 2)</sup>, 近藤国嗣<sup>3)</sup>, 小沢義典<sup>2)</sup>, 烏谷博英<sup>2)</sup>, 吉永勝訓<sup>3)</sup>, 小林士郎 (1) 千葉県救急医療センター 神経内科, <sup>2)</sup> CAMP-S計画管理病院協議会, <sup>3)</sup> 千葉県回復期リハビリテーション連携の会: 千葉県における医療圏別の地域連携パス運用実績: 急性期・回復期アンケート集計から. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島), 2015. 3.
- 82) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 永井淳史<sup>1)</sup>, 阿部雅志<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 小林士郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科: Evaluation of Integrated Volitional Control Electrical Stimulator for Intrinsic Muscle Using 3T MRI. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第70回) (東京), 2014. 4.
- 83) Kato J<sup>1)</sup>, Kawarasaki N<sup>1)</sup>, Okada S<sup>1)</sup>, Shiro K, Kumita S<sup>2)</sup> (1) Department of Radiology, Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Main Hospital: The three-dimensional display of the blood flow in the vertebrobasilar artery and the external appearance of the blood vessel. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB SMRT 23rd Annual meeting (Milano), 2014. 5.
- (5) ビデオ発表:
- 1) 金 景成: そしてぱたぱたへ. 脊髄疾患VTR技術研究会 (第25回) (滋賀), 2014. 12.
- (6) 教育講演及びカダバー実技講演:
- 1) 金 景成: 代表的な末梢神経障害. 愛知頭蓋底脊椎手術手技ワークショップ (第19回) (広島), 2014. 7.
- 2) 金 景成: 代表的な末梢神経障害. 愛知頭蓋底脊椎手術手技ワークショップ (第19回) (愛知), 2014. 7.

## 論文

### [追加分]

追加分総説:

- 1) 木村真人<sup>1)</sup>, 小林士郎, 水成隆之, 駒場祐一<sup>2)</sup>, 下田健吾<sup>1)</sup>, 大村朋子, 秋山友美<sup>1)</sup>, 鈴木順一<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 メンタルヘルス科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 神経内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 医療連携支援センター: 脳卒中患者におけるうつ病・うつ状態の評価と地域医療連携パスの開発. 平成26年度厚生労働科学研究 障害者対策総合研究事業 (精神障害分野) 身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究 2014.

追加分原著:

- 1) Kokubo R, Kim K, Mishina M<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup>, Kobayashi S, Yoshida D<sup>3)</sup>, Morita A<sup>3)</sup> (1) Department of Neurological Science, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurological Science, Nippon Medical School: Prospective assessment of concomitant lumbar and chronic subdural hematoma: is migration from the intracranial space involved in their manifestation?. Journal of neurosurgery.Spine 2014; 20 (2): 157-163.
- 2) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Omura T, Morimoto D<sup>2)</sup>, Kobayashi S, Morita A<sup>3)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Shin-Midori General Hospital, Kanagawa, Japan, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical

School) : Transarticular fixation with a bioabsorptive screw for cervical spondylolisthesis. World Neurosurg 2014 ; 81 (5-6) : 843.

- 3) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Kobayashi S, Morita A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Dizziness attributable to a cervical dural arteriovenous fistula. Acta Neurochir (Wien) 2014 ; 156 (3) : 547-549.

## 著 書

追加分 :

- 1) 梅岡克哉, 小林士郎 : [自著] VI. くも膜下出血 2. 急性期診断 a. 画像診断の pitfall. 脳神経外科診療プラクティス 1 脳血管障害の急性期マネジメント, 2014 ; pp205-208, 文光堂.

## 学会発表

追加分教育講演 :

- 1) 金 景成 : 神経根症後方手術. AOSpine Principles Course 横浜教育講演 (横浜), 2014. 2.
- 2) 金 景成 : 頸部神経根症 ; 画像診断とその他の診断. AOSpine Principles Course 横浜教育講演 (横浜), 2014. 2.
- 3) 金 景成 : 頸部神経根症手術 ; 前方・後方. AOSpine Principles Course 横浜教育講演 (横浜), 2014. 2.
- 4) 金 景成 : 頸部脊髄症 (OPLL) 手術 ; 前方・後方. AOSpine Principles Course 横浜教育講演 (横浜), 2014. 2.
- 5) 金 景成 : 頸椎手術の種類と適応. AOSpine Operating Room Personnel Course 横浜教育講演 (横浜), 2014. 2.
- 6) 金 景成 : 脊椎・脊髄疾患による痛み・しびれ : 診断に必要な最低限の知識・検査法と治療について. 広島大学脳神経外科教育講演 (広島), 2014. 3.

追加分一般講演 :

- 1) 金 景成 : 脊椎・脊髄疾患による痛み・しびれ : 診断に必要な最低限の知識・検査法と治療について. 広島大学脳神経外科教育講演 (広島), 2014. 3.

追加分特別講演 :

- 1) 丸 栄一 : レベチラセタムの神経保護作用 : 動物モデルを用いた基礎研究から. Neurosurgery Forum (神奈川), 2014. 1.

## 21. 整形外科学分野

[付属病院整形外科・リウマチ外科, 武蔵小杉病院整形外科, 多摩永山病院整形外科, 千葉北総病院整形外科]

### 研究概要

整形外科教室の平成26年度の研究は、臨床研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍などを対象にした疾患ならびに外傷に対する手術数が劇的に増加したことを背景に、臨床研究報告や講演を行った。部位別にみると、脊椎疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療法および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。人工膝関節に関しては日常生活機能向上を目指した新しい手術手技を報告した。基礎研究においては自己免疫性関節炎に対する治療薬の開発に関する基礎研究成果および、軟骨変性に関する基礎研究成果を報告した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表も増え、教育研修講演、シンポジウム、招待講演、一般講演などが積極的に行われた。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 高井信朗：変形性膝関節症. 日本臨床 最新肥満症学 2014；72 (4)：627-631.
- 2) 高井信朗：MIS人工膝関節置換術の現状と展望 緒言. 臨床整形外科 2014；49 (6)：490-490.
- 3) 高井信朗：PS型, CR型の使い分け. Bone Joint Nerve 2015；(16)：111-114.
- 4) 岩下 哲, 橋口 宏, 佐原 亘<sup>1)</sup>, 菅本一臣<sup>1)</sup>, 高井信朗 ( <sup>1)</sup>大阪大学整形外科)：2D3Dレジストレーション法による肩関節動作解析の撮影条件の検証. 肩関節 2014；38 (3)：791-794.
- 5) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗：夜間痛を伴う腱板断裂例の臨床的特徴に関する検討. 東日本整形災害外科学会雑誌 2014；26 (1)：55-58.
- 6) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗：腱板断裂における delamination 発生関連因子の検討. JOSKAS 2014；39 (3)：614-618.
- 7) 瀧藤 敦, 橋口 宏, 岩下 哲, 星川直哉, 高井信朗：肩甲上神経麻痺を呈した傍肩関節唇嚢腫に対する関節鏡視下手術の治療成績. 東日本整災誌 2014；26 (1)：59-62.
- 8) 望月祐輔<sup>1)</sup>, 篠原正浩<sup>1)</sup>, 浅原弘嗣<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 システム発生再生医学分野)：関節軟骨破壊と保護の分子メカニズム. 2014年増刊号 最新関節リウマチ学：寛解・治療を目指した研究と最新治療 2014；72 (3)：103-107.
- 9) 星川直哉, 南野光彦, 青木孝文<sup>1)</sup>, 高井信朗 ( <sup>1)</sup>山王病院整形外科)：健康成人に発生した化膿性縫工筋炎・腸骨筋炎の1例. 関東整形災害外科学会雑誌 2015；46 (1)：32-35.
- 10) Nanno M, Sawaizumi T, Kodera N, Tomori Y, Takai S：Transverse ultrasound assessment of the displacement of the median nerve in the carpal tunnel during wrist and finger motion in healthy volunteers. Journal of Nippon Medical School 2015.
- 11) Nanno M, Sawaizumi T, Kodera N, Tomori Y, Takai S：Three-dimensional analysis of the attachment and path of the transverse carpal ligament. Journal of Nippon Medical School 2015；82 (3)：130-135.
- 12) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：超音波短軸像による正中神経の手根管内的移動の検討：手根管症候群例. 日本手外科学会誌 2014；31 (3)：271-274.
- 13) 南野光彦, 澤泉卓哉, 飯澤典茂, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する骨釘移植術の治療経験. 日本肘関節学会誌 2014；21 (2)：203-206.
- 14) Nanno M, Sawaizumi T, Tomori Y, Takai S：Flexor pollicis longus rupture in a trigger thumb after intrasheath triamcinolone injections：a case report with literature review. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (4)：269-275.
- 15) 河路秀巳, 小林俊之, 高橋謙治, 植松卓哉, 大場良輔, 佐竹美彦, 星川直哉, 高井信朗：セメントレス人工股関節全置換術における大腿骨インプラントの内反挿入の影響の検討. Hip Joint 2014；40：628-631.
- 16) Takahashi K, Nakamura H, Takenouchi K, Iizawa N, Koiwa M, Sato A, Mochizuki Y, Watanabe H, Takai S：Serum KL-6 elevation and possible pulmonary involvement in patients with rheumatoid arthritis treated with biological agents. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (6)：364-371.
- 17) Shindo S<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Kodera K<sup>1)</sup>, Kurosaki H<sup>2)</sup>, Takahashi K ( <sup>1)</sup>Dept of Mech Eng. inf., Meiji Univ., Kanagawa, Japan, <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Tokyo Koseinenkin Hospital, Tokyo, Japan)：Heating properties of resonant cavity applicator for treatment of osteoarthritis-Heating experiments using prototype applicator. Thermal Medicine 2014；30 (2)：13-25,43.
- 18) 佐藤章子, 竹之内研二, 高橋謙治, 河路秀巳, 金 竜, 友利裕二, 高井信朗, 中村 洋：単径部巨大腫瘍をきたした人工股関節置

換術後の2症例. 関東リウマチ 2014 ; (47) : 275-284.

- 19) Hagiwara Y, Dymment N<sup>2)</sup>, Jiang X<sup>2)</sup>, Huang J<sup>2)</sup>, Ackert-Bicknell C<sup>2)</sup>, Adams D<sup>2)</sup>, Rowe D<sup>2)</sup> (1) Department of Reconstructive Sciences, University of Connecticut Health Center, Farmington, CT, USA) : Fixation stability dictates the differentiation pathway of periosteal progenitor cells in fracture repair. J Orthop Res. 2015 2015 ; 33 (7) : 948-956.
- 20) Kitagawa Y<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Konno S<sup>1)</sup>, Makino A<sup>1)</sup>, Maruyama G<sup>1)</sup>, Takai S<sup>2)</sup>, Higashi N<sup>3)</sup> (1) Dept of Orthopaedics, Tamagayama, 2) Dept of Orthopedic Surgery, 3) Dept of Dermatology) : Subcutaneous angioliipoma : magnetic resonance imaging features with histological correlation. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (5) : 313-319.
- 21) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗 : 経験と考察 小児上腕骨顆上骨折に対する牽引台を用いた非観血的整復・経皮鋼線固定術の治療成績. 整形外科 (0030-5901) 2014 ; 65 (5) : 411-415.
- 22) Asano K<sup>1)</sup>, Arito M<sup>1)</sup>, Kurokawa-S M<sup>2)</sup>, Omoteyama K<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Suematsu N<sup>1)</sup>, Yudoh K<sup>3)</sup>, Nakamura H, Beppu M<sup>4)</sup>, Kato T<sup>1)</sup> (1) Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 2) Disease Biomarker analysis and Molecular Regulation, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 3) Institute of Medical Science, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 4) Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine) : Secretion of inflammatory factors from chondrocytes by layilin signaling. Biochem Biophys Res Commun 2014 ; 452 (1) : 85-90.
- 23) Endo W<sup>1)</sup>, Arito M<sup>1)</sup>, Sato T<sup>1)</sup>, Kurokawa M<sup>1)</sup>, Omoteyama K<sup>1)</sup>, Iizuka N<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Suematsu N<sup>1)</sup>, Nakamura H, Beppu M<sup>2)</sup>, Kato T<sup>1)</sup> (1) Clinical proteomics and Molecular Medicine, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 2) Department of Rheumatology, St. Marianna University School of Medicine) : Effects of tofacitinib on nucleic acid metabolism in human articular chondrocytes. Mod Rheumatol 2015 ; Epub 1-Epub 6.
- 24) Yoshioka T<sup>1)</sup>, Kurokawa M<sup>2)</sup>, Sato T<sup>1)</sup>, Nagai K<sup>1)</sup>, Iizuka N<sup>1)</sup>, Arito M<sup>1)</sup>, Takakuwa Y<sup>1)</sup>, Nakano H<sup>1)</sup>, Ooka S<sup>1)</sup>, Suematsu N<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Yudoh K<sup>3)</sup>, Nakamura H, Suzuki N<sup>3)</sup>, Ozaki S<sup>4)</sup>, et al. (1) Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St. Marianna university Graduate School of Medicine, 2) Disease Biomarker analysis and Molecular Regulation, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 3) Institute of Medical Science, St. Marianna University Graduate School of Medicine, 4) Department of rheumatology, St. Marianna University School of Medicine) : Protein profiles of peripheral blood mononuclear cells as a candidate biomarker for Behc (セディユ付) t's disease. Clin Exp Rheumatol. 2014 ; 32 (4 Suppl 84) : S9-S19.
- 25) Hashizume H<sup>1)</sup>, Konno S<sup>2)</sup>, Takeshita K<sup>3)</sup>, Fukui M<sup>4)</sup>, Takahashi K<sup>5)</sup>, Chiba K<sup>6)</sup>, Miyamoto M<sup>7)</sup>, Matsumoto M<sup>8)</sup>, Kasai Y<sup>9)</sup>, Kanamori M<sup>10)</sup>, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Tanaka N (1) Wakayama Medical University, 2) Fukushima Medical University School of Medicine, 3) The University of Tokyo, 4) Osaka City University Faculty of Medicine, 5) Chiba University, 6) Kitasato University Kitasato Institute Hospital, 7) Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, 8) Keio University, 9) Mie University Graduate School of Medicine, 10) University of Toyama) : Japanese orthopaedic association back pain evaluation questionnaire (JOABPEQ) as an outcome measure for patients with low back pain : reference values in healthy volunteers. J Orthop Sci 2015 ; 20 (2) : 264-280.

(2) 総説 :

- 1) 高井信朗 : 超高齢社会を迎え, 増加する一方の変形性膝関節症. カルナの豆知識 2014 ; (66) : 6-9.
- 2) 橋口 宏 : 肩鎖関節脱臼に対する鏡視下手術. Monthly Book Orthopaedics プラッシュアップ! 関節鏡視下手術テクニック 2014 ; 27 (5) : 56-61.
- 3) 橋口 宏 : 原因不明 (五十肩など). Monthly Book Orthopaedics 2014 ; 27 (6) : 60-66.

(3) 症例報告 :

- 1) Sato A, Watanabe H, Takahashi K, Takenouchi K, Kawaji H, Nakamura H, Takai S : Pseudotumor and deep venous thrombosis due to crevice corrosion of the head-neck junction in metal-on-polyethylene total hip arthroplasty. Journal of Orthopaedic Science 2014 ; 27 : Epub.
- 2) Kure S<sup>1)</sup>, Wei-Xia P<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Matsubara M<sup>2)</sup>, Tsunoda R, Naito Z<sup>1,2)</sup> (1) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Arare case of myxoid liposarcoma of the adult foot diagnosed using fine needle aspiration cytology (FNAC). Pathology and Laboratory Medicine International 2014 ; 2015 (7) : 1-5.

著 書

- 1) 高井信朗 : [分担] NHK あさイチめざせ-3kg ! 簡単ダイエット. TJ MOOK (井野良介), 2014 ; pp8-9, 宝島社.
- 2) 高井信朗 : [監修] 全部見える整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp1-336, 成美堂出版.
- 3) 高井信朗 : [分担] 運動器のしくみとおもな検査. 全部見える整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp38-53, 成美堂出版.

- 4) 森 淳：〔分担〕整形外科における症候. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp54-57, 成美堂出版.
- 5) 森 淳：〔分担〕整形外科の診察. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp58-58, 成美堂出版.
- 6) 森 淳：〔分担〕画像診断. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp64-70, 成美堂出版.
- 7) 森 淳：〔分担〕関節鏡検査. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp71-71, 成美堂出版.
- 8) 森 淳：〔分担〕関節液検査. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp73-73, 成美堂出版.
- 9) 中村 洋：〔分担〕骨・関節疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp78-79, 成美堂出版.
- 10) 中村 洋：〔分担〕変形性関節症. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp80-83, 成美堂出版.
- 11) 中村 洋：〔分担〕神経病性関節症 (シャルコー関節). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp84-85, 成美堂出版.
- 12) 中村 洋：〔分担〕関節リウマチ. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp86-89, 成美堂出版.
- 13) 中村 洋：〔分担〕痛風. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp92-95, 成美堂出版.
- 14) 中村 洋：〔分担〕強直性脊椎炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp96-97, 成美堂出版.
- 15) 小寺訓江：〔分担〕骨髄炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp98-99, 成美堂出版.
- 16) 角田 隆：〔分担〕化膿性関節炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp100-101, 成美堂出版.
- 17) 角田 隆：〔分担〕脊椎カリエス. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp102-103, 成美堂出版.
- 18) 角田 隆：〔分担〕結核性関節炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp104-105, 成美堂出版.
- 19) 中村 洋：〔分担〕その他のリウマチ性疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp106-106, 成美堂出版.
- 20) 北川泰之：〔分担〕骨腫瘍, 軟部腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp108-109, 成美堂出版.
- 21) 北川泰之：〔分担〕良性骨腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp110-111, 成美堂出版.
- 22) 北川泰之：〔分担〕悪性骨腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp112-114, 成美堂出版.
- 23) 北川泰之：〔分担〕骨腫瘍類似疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp116-117, 成美堂出版.
- 24) 北川泰之：〔分担〕良性軟部腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp118-119, 成美堂出版.
- 25) 北川泰之：〔分担〕悪性軟部腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井 信朗), 2014 ; pp120-121, 成美堂出版.
- 26) 森 淳：〔分担〕T1 強調像と T2 強調像. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp68-68, 成美堂出版.
- 27) 森 淳：〔分担〕核医学検査 (シンチグラフィ). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp72-72, 成美堂出版.
- 28) 中村 洋：〔分担〕血友病性関節症. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp85-85, 成美堂出版.
- 29) 中村 洋：〔分担〕偽痛風 (CPPD 沈着症). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp95-95, 成美堂出版.
- 30) 角田 隆：〔分担〕骨関節結核の現況. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp105-105, 成美堂出版.
- 31) 北川泰之：〔分担〕転移性骨腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp115-115, 成美堂出版.
- 32) 北川泰之：〔分担〕脊髄腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp122-123, 成美堂出版.
- 33) 北川泰之：〔分担〕脊椎腫瘍. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp124-124, 成美堂出版.
- 34) 河路秀巳：〔分担〕代謝性骨疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp126-127, 成美堂出版.
- 35) 河路秀巳：〔分担〕骨粗鬆症. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp128-131, 成美堂出版.
- 36) 河路秀巳：〔分担〕くる病, 骨軟化症. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp132-134, 成美堂出版.
- 37) 河路秀巳：〔分担〕副甲状腺 (上皮小体) 機能亢進症. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp135-137, 成美堂出版.
- 38) 河路秀巳：〔分担〕骨パジェット病. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp138-139, 成美堂出版.
- 39) 河路秀巳：〔分担〕骨系統疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp141-141, 成美堂出版.
- 40) 河路秀巳：〔分担〕腎性骨ジストロフィー. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp140-142, 成美堂出版.
- 41) 河路秀巳：〔分担〕骨系統疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp141-141, 成美堂出版.
- 42) 今野俊介：〔分担〕神経・筋・腱疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp144-145, 成美堂出版.
- 43) 今野俊介：〔分担〕脳性麻痺. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp146-146, 成美堂出版.
- 44) 今野俊介：〔分担〕手根管症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp147-149, 成美堂出版.
- 45) 澤泉卓哉：〔分担〕ギラン・バレー症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp149-149, 成美堂出版.
- 46) 澤泉卓哉：〔分担〕ギヨン管症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp150-151, 成美堂出版.
- 47) 澤泉卓哉：〔分担〕肘部管症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp152-153, 成美堂出版.
- 48) 澤泉卓哉：〔分担〕進行性筋ジストロフィー (PMD). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp154-154, 成美堂出版.
- 49) 澤泉卓哉：〔分担〕筋萎縮性側索硬化 (ALS). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp154-154, 成美堂出版.
- 50) 澤泉卓哉：〔分担〕上腕骨外側上顆炎 (テニス肘). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp155-156, 成美堂出版.
- 51) 澤泉卓哉：〔分担〕上腕骨内側上顆炎 (ゴルフ肘). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp157-157, 成美堂出版.
- 52) 澤泉卓哉：〔分担〕野球肘. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp157-157, 成美堂出版.
- 53) 澤泉卓哉：〔分担〕滑液包炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp158-159, 成美堂出版.

- 54) 澤泉卓哉：〔分担〕ドケルバン病. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp160-161, 成美堂出版.
- 55) 澤泉卓哉：〔分担〕ばね指. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp162-163, 成美堂出版.
- 56) 青木孝文：〔分担〕足根管症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp164-165, 成美堂出版.
- 57) 青木孝文：〔分担〕モートン病. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp165-165, 成美堂出版.
- 58) 青木孝文：〔分担〕アキレス腱周囲炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp166-167, 成美堂出版.
- 59) 青木孝文：〔分担〕複合性局所疼痛症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp168-168, 成美堂出版.
- 60) 小寺訓江：〔分担〕外傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp170-170, 成美堂出版.
- 61) 小寺訓江：〔分担〕RICE 処置. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp171-171, 成美堂出版.
- 62) 小寺訓江：〔分担〕骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp172-176, 成美堂出版.
- 63) 小寺訓江：〔分担〕脱臼. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp177-179, 成美堂出版.
- 64) 小寺訓江：〔分担〕亜脱臼. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp179-179, 成美堂出版.
- 65) 小寺訓江：〔分担〕捻挫, 打撲. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp180-181, 成美堂出版.
- 66) 宮本雅史：〔分担〕脊椎損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp182-184, 成美堂出版.
- 67) 宮本雅史：〔分担〕脊髓損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp185-188, 成美堂出版.
- 68) 今野俊介：〔分担〕末梢神経損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp189-193, 成美堂出版.
- 69) 今野俊介：〔分担〕四肢血管損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp194-195, 成美堂出版.
- 70) 飯澤典茂：〔分担〕筋断裂 (肉離れ). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp196-197, 成美堂出版.
- 71) 飯澤典茂：〔分担〕腱断裂. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp198-200, 成美堂出版.
- 72) 飯澤典茂：〔分担〕靭帯損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp201-203, 成美堂出版.
- 73) 飯澤典茂：〔分担〕半月板損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp204-204, 成美堂出版.
- 74) 飯澤典茂：〔分担〕区画症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp205-207, 成美堂出版.
- 75) 飯澤典茂：〔分担〕挫滅 (圧挫) 症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp208-209, 成美堂出版.
- 76) 角田 隆：〔分担〕四肢切断. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp210-211, 成美堂出版.
- 77) 角田 隆：〔分担〕偽関節. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp214-215, 成美堂出版.
- 78) 角田 隆：〔分担〕骨壊死. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp216-216, 成美堂出版.
- 79) 角田 隆：〔分担〕脂肪塞栓症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp216-216, 成美堂出版.
- 80) 角田 隆：〔分担〕スポーツ損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp217-217, 成美堂出版.
- 81) 角田 隆：〔分担〕軟部組織損傷. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp218-218, 成美堂出版.
- 82) 橋口 宏：〔分担〕上肢・上肢帯の疾患. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp220-221, 成美堂出版.
- 83) 橋口 宏：〔分担〕胸郭出口症候群. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp222-223, 成美堂出版.
- 84) 橋口 宏：〔分担〕肩関節周囲炎 (五十肩). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp224-225, 成美堂出版.
- 85) 橋口 宏：〔分担〕肩関節脱臼. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp226-227, 成美堂出版.
- 86) 橋口 宏：〔分担〕肩腱板断裂. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp228-229, 成美堂出版.
- 87) 橋口 宏：〔分担〕鎖骨骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp230-231, 成美堂出版.
- 88) 橋口 宏：〔分担〕先天性肩甲骨高位症 (シュプレングル変形). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp231-231, 成美堂出版.
- 89) 橋口 宏：〔分担〕上腕骨骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp232-232, 成美堂出版.
- 90) 橋口 宏：〔分担〕上腕骨近位端骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp233-233, 成美堂出版.
- 91) 橋口 宏：〔分担〕上腕骨骨幹部骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp234-234, 成美堂出版.
- 92) 橋口 宏：〔分担〕上腕骨下端部骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp235-235, 成美堂出版.
- 93) 橋口 宏：〔分担〕肘関節部骨折・脱臼. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp236-237, 成美堂出版.
- 94) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗：〔自著〕Q & A 小児肘関節横分散脱臼. 雑誌 整形外科, 2015 ; pp253-254, 社南江堂.
- 95) 南野光彦：〔分担〕肘内障. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp238-239, 成美堂出版.
- 96) 南野光彦：〔分担〕内反肘, 外反肘. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp240-241, 成美堂出版.
- 97) 南野光彦：〔分担〕肘離脱性骨軟骨炎. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp242-243, 成美堂出版.
- 98) 南野光彦：〔分担〕尺骨神経麻痺. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp244-245, 成美堂出版.
- 99) 南野光彦：〔分担〕橈骨遠位端骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp246-247, 成美堂出版.
- 100) 南野光彦：〔分担〕モンテジア骨折. 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp247-247, 成美堂出版.
- 101) 南野光彦：〔分担〕月状骨軟化症 (キーンベック病). 全部見える 整形外科疾患 (高井信朗), 2014 ; pp248-249, 成美堂出版.

- 102) 南野光彦：〔分担〕 槌指（マレット指）. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp250-251, 成美堂出版.
- 103) 南野光彦：〔分担〕 ガングリオン. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp252-253, 成美堂出版.
- 104) 南野光彦：〔分担〕 ベネット骨折. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp254-254, 成美堂出版.
- 105) 宮本雅史：〔分担〕 脊椎・体幹の疾患. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp256-257, 成美堂出版.
- 106) 宮本雅史：〔分担〕 頸椎椎間板ヘルニア. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp258-259, 成美堂出版.
- 107) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗：〔分担〕 小児上腕骨顆上骨折の保存療法. 特集 小児肘外傷の初期治療と後遺症に対する治療上肢骨折. 関節外科（加藤博之），2014；pp813-818, メジカルビュー社.
- 108) 宮本雅史：〔分担〕 変形性頸椎症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp260-261, 成美堂出版.
- 109) 宮本雅史：〔分担〕 頸椎症性脊髄症・神経根症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp262-263, 成美堂出版.
- 110) 宮本雅史：〔分担〕 頸椎後縦靭帯骨化症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp264-265, 成美堂出版.
- 111) 宮本雅史：〔分担〕 リウマチ性脊椎炎. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp266-267, 成美堂出版.
- 112) 元文芳和：〔分担〕 斜頸. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp268-269, 成美堂出版.
- 113) 元文芳和：〔分担〕 腰痛症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp270-272, 成美堂出版.
- 114) 元文芳和：〔分担〕 腰椎椎間板ヘルニア. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp274-277, 成美堂出版.
- 115) 元文芳和：〔分担〕 外側型腰椎椎間板ヘルニア. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp277-277, 成美堂出版.
- 116) 元文芳和：〔分担〕 変形性腰椎症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp278-279, 成美堂出版.
- 117) 南野光彦, 伊藤博元<sup>1)</sup> (1) 厚生労働省労働保険審査会)：〔分担〕 上肢のリハビリテーション—手, 手関節, 運動器リハビリテーションシラバス—セラピストのための実践マニュアル（改訂第3版）（岩谷 力・伊藤博元・藤野圭司・星野雄一），2014；pp162-166, 南江堂.
- 118) 今野俊介：〔分担〕 椎管狭窄症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp280-282, 成美堂出版.
- 119) 中嶋隆夫：〔分担〕 腰椎変性すべり症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp284-285, 成美堂出版.
- 120) 中嶋隆夫：〔分担〕 腰椎分離症・分離すべり症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp286-287, 成美堂出版.
- 121) 中嶋隆夫：〔分担〕 骨盤骨折. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp288-289, 成美堂出版.
- 122) 中嶋隆夫：〔分担〕 脊柱側湾症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp290-291, 成美堂出版.
- 123) 中嶋隆夫：〔分担〕 脊柱後湾症（円背）. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp292-293, 成美堂出版.
- 124) 中嶋隆夫：〔分担〕 平背. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp293-293, 成美堂出版.
- 125) 中嶋隆夫：〔分担〕 クリップル・ファイル症候群. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp294-294, 成美堂出版.
- 126) 中嶋隆夫：〔分担〕 腰痛を起こす疾患. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp294-294, 成美堂出版.
- 127) 高橋謙治：〔分担〕 下肢・下肢帯の疾患. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp296-297, 成美堂出版.
- 128) 高橋謙治：〔分担〕 変形性股関節症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp298-299, 成美堂出版.
- 129) 高橋謙治：〔分担〕 発育性股関節形成不全. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp300-301, 成美堂出版.
- 130) 高橋謙治：〔分担〕 特発性大腿骨頭壊死症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp302-303, 成美堂出版.
- 131) 高橋謙治：〔分担〕 ヘルテス病. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp304-305, 成美堂出版.
- 132) 高橋謙治：〔分担〕 大腿骨頭すべり症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp306-307, 成美堂出版.
- 133) 高橋謙治：〔分担〕 大腿骨近位部骨折. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp308-309, 成美堂出版.
- 134) 高橋謙治：〔分担〕 大腿骨骨幹部骨折. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp310-311, 成美堂出版.
- 135) 飯澤典茂：〔分担〕 足関節捻挫. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp322-323, 成美堂出版.
- 136) 飯澤典茂：〔分担〕 アキレス腱断裂. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp324-325, 成美堂出版.
- 137) 飯澤典茂：〔分担〕 扁平足. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp326-327, 成美堂出版.
- 138) 飯澤典茂：〔分担〕 先天性内反足. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp328-329, 成美堂出版.
- 139) 飯澤典茂：〔分担〕 足部の変形. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp329-329, 成美堂出版.
- 140) 飯澤典茂：〔分担〕 外反母趾. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp330-331, 成美堂出版.
- 141) 飯澤典茂：〔分担〕 運動器不安定症. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp332-334, 成美堂出版.
- 142) 飯澤典茂：〔分担〕 ロコモティブシンドローム. 全部見える 整形外科疾患（高井信朗），2014；pp333-333, 成美堂出版.
- 143) 高橋謙治：〔分担〕 第7章 変形性膝関節症の物理療法. 変形性膝関節症の運動療法ガイド 保存的治療から術後リハまで（千田益生），2014；pp155-162, 日本医事新報社.
- 144) 澤泉卓哉：〔分担〕 手関節の機能評価法とその活用. 関節外科（帖佐悦男），2014；pp36-43, メジカルビュー社.
- 145) 澤泉卓哉：〔分担〕 小児の肘周辺骨折. 今日の治療指針，2015；pp1044-1045, 医学書院.



## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 高井信朗：人工膝関節置換術の最先端。Bone Masters Course III - joint - (兵庫県), 2014. 5.
- 2) 高井信朗：CR型TKAに必要な基礎知識とその手術手技。日本整形外科学会学術総会(第87回)(兵庫県), 2014. 5.
- 3) 高井信朗：人工膝関節再置換術の手術手技。日本整形外科学会学術総会(第87回)(兵庫県), 2014. 5.
- 4) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床。District Pain Conference for OA Fukushima(福島県), 2014. 5.
- 5) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。近整会夏期研究会(第23回)(大阪府), 2014. 8.
- 6) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床。日本整形外科学スポーツ医学会学術集会(第40回)(東京都), 2014. 9.
- 7) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床。立川整形外科開業医界学術講演会(東京都), 2014. 10.
- 8) 高井信朗：変形性膝関節症の治療戦略。多摩リウマチ研究会(第54回)(東京都), 2014. 10.
- 9) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。鹿児島骨・関節フォーラム(第12回)(鹿児島県), 2014. 10.
- 10) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望。日本フットケア学会年次学術集会(第15回)(東京都), 2015. 2.
- 11) 中村 洋：関節リウマチの診療ガイドラインと実地医療における保存療法・手術療法。兵庫整形リウマチの会(第12回)(神戸), 2015. 2.

### (2) シンポジウム：

- 1) 橋口 宏, 岩下 哲, 大久保敦, 星川直哉, 高井信朗：腱板完全断裂治療の適応と問題点。東日本整形災害外科学会(第63回)(東京), 2014. 9.
- 2) Takahashi K, Nakamura H, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Takai S<sup>(1)</sup> Minami-Shinjuku Orthopaedic Rehabilitation Clinici: Strategy for osteoarthritis via stress response of chondrocyte. Asia Pacific League of Association for Rheumatology (The 16th) Basic Science of Joints (Cebu), 2014. 4.
- 3) 宮本雅史：脊椎診療ガイドラインまるわかり(改定版の特徴と導入効果)腰椎椎間板ヘルニアの診療ガイドライン。日本整形外科学会(第87回)(神戸), 2014. 5.

### (3) パネルディスカッション：

- 1) 橋口 宏, 岩下 哲, 原田和弘, 大久保敦, 高井信朗：リバース型人工肩関節置換術の適応と注意点。日本人工関節学会(第45回)(福岡), 2015. 2.

### (4) 一般講演：

- 1) Takai S: Influence of the Individual Components of the Main Medial Knee Structures on Valgus and Rotatory Stability Total Knee Arthroplasty. 日本台湾整形外科シンポジウム(第22回)(東京都), 2014. 4.
- 2) Takai S: Influence of the Individual Components of the Main Medial Knee Structures on Valgus and Rotatory Stability in TKA. APOKA Symposium(第2回)(台湾), 2014. 7.
- 3) Takai S: Cruciate Retaining Versus Posterior Stabilized Total Knee Replacement. Advances in Orthopaedics International Conference (Hawaii Maui), 2014. 8.
- 4) Takai S: Balancing Flexion/Extension Gaps in Primary Total Knees. Advances in Orthopaedics International Conference (Hawaii Maui), 2014. 8.
- 5) Takai S: Radiographic Evaluation of Post-operative TKA: Make it Perfect!. The Combined Meeting of 2014 Asia Pacific Knee Society (APKS) and 2014 Annual Meeting of the Thai Hip & Knee Society (THKS) (Thailand Phuket), 2014. 8.
- 6) Takai S: Pathophysiology of Pulmonary Embolism just after TKA. The Combined Meeting of 2014 Asia Pacific Knee Society (APKS) and 2014 Annual Meeting of the Thai Hip & Knee Society (THKS) (Thailand Phuket), 2014. 8.
- 7) 河路秀巳, 植松卓哉, 大場良輔, 佐竹美彦, 渡部 寛, 星川直哉, 岡崎愛未, 高井信朗：当科の人工股関節置換術における術中自己血回収装置データの検討。日本自己血輸血学会学術総会(第28回)(東京), 2015. 3.
- 8) 丸山 剛, 角田 隆, 宮本雅史, 北川泰之, 南野光彦, 高井信朗：両手指に発症した腱鞘巨細胞腫の1例。関東整形災害外科学会月例会整形外科集談会東京地方会(第674回)(東京), 2014. 9.
- 9) Iwashita S, Hashiguchi H, Takai S: Factors related to delamination in full-thickness rotator cuff tears. ASIA Pacific of Shoulder & Elbow Surgery (1th)(上海), 2014.
- 10) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 大久保敦, 高井信朗：鏡視下腱板修復術(ARCR)における斜角筋ブロックおよび肩甲上神経ブロックの除痛効果および合併症に関する検討。日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(第6回)(広島), 2014. 7.
- 11) 岩下 哲, 橋口 宏, 大久保敦, 星川直哉, 高井信朗：腱板断裂例における肩甲上腕リズムの検討。日本肩関節学会(第41回)(佐賀), 2014. 10.
- 12) Iwashita S, Hashiguchi H, Okubo A, Watanabe H, Takai S: The efficacy of pain relief by interscalenous brachial plexus block using ultrasound and suprascapular nerve block on arthroscopic rotator cuff repair. the Academic Congress of the Asian Shoulder

- Association (8th) (Philippines), 2014. 11.
- 13) 佐藤章子, 高橋謙治, 竹之内研二, 河路秀己, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 高井信朗, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院) : 関節リウマチに対するアバタセプトの有効性と安全性の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 14) 佐藤章子, 中村 洋, 竹之内研二, 河路秀己, 高橋謙治, 高井信朗 : RA 肘に対する人工肘関節再置換術の治療成績. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 15) Sato A, Takahashi K, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Mori A, Watanabe H, Nakamura H, Takai S ( <sup>1)</sup> Minami-Shinjuku Orthopaedic Rehabilitation Clinic) : White Meniscus sign associated with degeneration of cartilage in pre-radiographic osteoarthritis. Annual European Congress of Rheumatology (The15th) (Paris), 2014. 6.
  - 16) Sato A, Nakamura H, Takahashi K, Takenouchi K, Kawaji H, Takai S : Clinical Outcome of Revision Total Elbow Arthroplasty for RA Elbows. Society for Technology in Arthroplasty 27th Annual Congress (Kyoto), 2014. 9.
  - 17) Sato A, Takahashi K, Shindo Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Nakamura H, Takai S ( <sup>1)</sup> Department of Mechanical Engineering Informatics, Meiji University) : Thermal Therapy with a Resonant Cavity Applicator for Osteoarthritis. Orthopaedic Research Society 2015 Annual Meeting (Las Vegas), 2015. 3.
  - 18) 佐藤章子, 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 高井信朗 : 関節リウマチ肘に対する Coonrad-Morrey 型人工肘関節置換術の治療成績. 日本人工関節学会 (第 45 回) (福岡), 2015. 2.
  - 19) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 小岩政仁<sup>1)</sup>, 鎌田利一<sup>2)</sup>, 佐藤章子, 佐竹美彦, 河路秀己, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 秀和総合病院 整形外科, <sup>2)</sup> 原整形外科病院) : 生物製剤使用下における関節リウマチに対する整形外科手術の現状. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 20) 高橋謙治, 佐藤章子, 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 河路秀己, 竹之内研二, 高井信朗, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック) : 高齢発症 RA 患者の治療経過の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 21) 鎌田利一<sup>1)</sup>, 中村 洋, 高橋謙治, 小岩政仁<sup>2)</sup>, 金子礼志<sup>3)</sup>, 竹之内研二, 佐藤章子, 河路秀己, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院 整形外科, <sup>2)</sup> 秀和総合病院 整形外科, <sup>3)</sup> 国立国際医療センター国府台病院 内科) : 生物学的製剤で治療中の関節リウマチ患者における固形がんの発症リスク. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 22) 大久保敦, 橋口 宏, 岩下 哲, 高井信朗 : 鏡視下腱板断裂修復術の治療成績に対する上腕二頭筋長頭腱損傷の影響. 日本肩関節学会 (第 41 回) (佐賀), 2014. 10.
  - 23) 竹之内研二<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 佐藤章子, 小岩政仁<sup>2)</sup>, 鎌田利一<sup>3)</sup>, 河路秀己, 高井信朗, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院整形外科, <sup>2)</sup> 秀和総合病院整形外科, <sup>3)</sup> 原整形外科病院整形外科) : 関節リウマチに対する Infliximab 治療の長期成績. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 24) 小岩政仁<sup>1)</sup>, 後藤 晋<sup>1)</sup>, 中村 洋, 高橋謙治, 河路秀己, 竹之内研二, 佐藤章子, 高井信朗, 鎌田利一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 秀和総合病院 整形外科, <sup>2)</sup> 原整形外科病院 整形外科) : 関節リウマチにおける生物学的製剤使用例の予後規定因子とリンパ球/好中球比の変化. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
  - 25) Okubo A, Hashiguchi H, Iwashita S, Takai S : Influence of long head lesion of the biceps on clinical outcomes after arthroscopic rotator cuff repair. the Academic Congress of the Asian Shoulder Association (8th) (Philippines), 2014. 11.
  - 26) 中村 洋 : 運動器加齢の生物学. 日本抗加齢医学会総会 (第 14 回) (大阪), 2014. 6.
  - 27) 角田 隆, 河路秀己, 大場良輔, 星川直哉, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院感染制御部) : アクリジンオレンジ光線力学療法による骨・軟部組織感染症に対する新しい治療方法の検討. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
  - 28) 望月祐輔<sup>1)</sup>, 山下 聡<sup>1)</sup>, 千葉朋希<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 高井信朗, 浅原弘嗣<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大学システム発生再生医学分野) : Co12a1 に対する Sox9 binding site を標的とした CRISPR/Cas9 システムによる CHIP 法の確立. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
  - 29) 渡部 寛, 高橋謙治, 望月祐輔, 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 中村 洋, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック) : 変形性関節症自然発生モデルを用いたラジオ波温熱効果の検討. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
  - 30) 中村 洋, 佐藤章子, 高橋謙治, 河路秀己, 高井信朗 : 従来型 DMARDs 併用療法の実際と問題点. 日本関節病学会 (第 42 回) (東京), 2014. 11.
  - 31) 高橋謙治, 中村 洋, 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 佐藤章子, 森 淳, 河路秀己, 飯澤典茂, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック) : 青壮年膝関節の MRI 所見 : 3 テスラ MRI による軟骨評価と関節病理との関連. 日本関節病学会 (第 42 回) (東京), 2014. 11.
  - 32) 高橋謙治, 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 中村 洋, 佐藤章子, 森 淳, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック) : 青壮年膝関節の MRI 評価とグルコサミン塩酸塩の軟骨変性に与える影響について. グルコサミン研究会 (第 11 回) (東京), 2015. 2.
  - 33) 渡部 寛, 高橋謙治, 望月祐輔, 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 中村 洋, 高井信朗 ( <sup>1)</sup> 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック) : 変形性関

- 節症自然発症モデルを用いたラジオ波温熱効果の検討. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
- 34) 望月祐輔<sup>1,2)</sup>, 山下 聡<sup>1)</sup>, 高橋謙治<sup>2)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 浅原弘嗣<sup>1)</sup> (1) 東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 システム発生再生医学分野, 2) 日本医科大学大学院医学研究科外科系整形外科学分野): CRISPR/dCas9 system を用いた Sox9 CpG island での target CHIP 法. 運動器科学研究会 (第 15 回) (東京), 2014. 9.
- 35) 望月祐輔<sup>1,2)</sup>, 山下 聡<sup>1)</sup>, 千葉朋希<sup>1)</sup>, 高橋謙治<sup>2)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 浅原弘嗣<sup>1)</sup> (1) 東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 システム発生再生医学分野, 2) 日本医科大学大学院医学研究科外科系整形外科学分野): Col2a1 に対する Sox9 binding site を標的とした CRISPR/Cas9 system による ChIP 法の確立. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
- 36) 望月祐輔<sup>1,2)</sup>, 山下 聡<sup>1)</sup>, 千葉朋希<sup>1)</sup>, 高橋謙治<sup>2)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 浅原弘嗣<sup>1)</sup> (1) 東京医科歯科大学大学院 歯医学総合研究科 システム発生再生医学分野, 2) 日本医科大学大学院医学研究科外科系整形外科学分野): CRISPR/Cas system を用いた Sox9 enhancer の同定. 日本軟骨代謝学会 (第 28 回) (東京), 2015. 3.
- 37) 飯澤典茂, 森 淳, 吉澤隆明, 石原陽子<sup>1)</sup>, 松井秀平, 大場良輔, 岡崎愛未, 高井信朗 (1) 山手クリニック): 人工膝関節における内側副韌帯深層と後斜韌帯の外反および回旋安定性に与える影響. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第 6 回) (広島), 2014. 7.
- 38) Iizawa N, Mori A, Matsui S, Oba R, Satake Y, Takai S: Influence of the individual components of the main medial knee structures on valgus and rotatory stability in total knee arthroplasty. International Society for Technology in Arthroplasty (27th) (Kyoto), 2014. 9.
- 39) 飯澤典茂, 森 淳, 松井秀平, 大場良輔, 佐竹美彦, 片岡達紀, 水野祥寛, 高井信朗: 人工膝関節における内側副韌帯深層と後斜韌帯の回旋安定性に与える影響: 特に外反安定性と回旋安定性との関連について. 日本人工関節学会 (第 45 回) (福岡), 2015. 2.
- 40) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 超音波短軸像による正中神経の手根管内での移動の検討 - 手根管症候群例 -. 日本手外科学会 (第 57 回) (沖縄), 2014. 4.
- 41) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 超音波による橈骨遠位端部における長母指屈筋の腱滑動の検討 - 掌側プレート固定除去前後の変化について -. 日本骨折治療学会 (第 40 回) (熊本), 2014. 6.
- 42) 南野光彦, 澤泉卓哉, 友利裕二, 高井信朗: 重度手根管症候群に対する母指対立再建術 - 小皮切による Camitz 変法の経験 -. 日本最小侵襲整形外科学会 (第 20 回) (栃木), 2014. 11.
- 43) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 橈骨頭頸部粉碎骨折に対する手術治療の成績. 日本肘関節学会 (第 27 回) (沖縄), 2015. 2.
- 44) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 友利裕二, 高井信朗: 手根管症候群に対する手関節装具療法の治療成績と適応 - 電気生理学的検査による検討 -. 東日本手外科研究会 (第 29 回) (宮城), 2015. 3.
- 45) 家田俊也, 寺本 司<sup>1)</sup> (1) 大洗海岸病院 整形外科): 中足骨骨折に対してキルシュナー鋼線を用いた髓内固定法の実験. 日本骨折治療学会 (第 40 回) (熊本), 2014. 6.
- 46) 家田俊也: 変形性足関節症の治療. 茨城足の外科研究会 (第 3 回) (茨城), 2014. 7.
- 47) 家田俊也, 寺本 司<sup>1)</sup> (1) 大洗海岸病院 整形外科): 変形性足関節症と変形性膝関節症の 1 例. 関東足の外科研究会 (第 13 回) (東京), 2014. 8.
- 48) 家田俊也: 内反型変形性足関節症と外反型変形性足関節症に遠位脛骨斜め骨切り術 (DToo) を行った 2 例. 関東足の外科研究会 (第 14 回) (東京), 2015. 1.
- 49) 家田俊也, 寺本 司<sup>1)</sup> (1) 大洗海岸病院 整形外科): 下腿骨骨折および変形性足関節症に対するイリザロフ創外固定器の使用経験. 日本創外固定・骨延長学会 (第 28 回) (東京), 2015. 3.
- 50) 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 中村 洋 (1) 南新宿整形外科リハビリテーションクリニック): 運動器のアンチエイジングを科学する 変形性膝関節症の早期診断と保存的治療 MRI 診断, 薬物療法, 運動療法, サプリメント. 日本抗加齢医学会総会 (第 14 回) (大阪), 2014. 6.
- 51) 生田 太<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 蒲田和芳<sup>2)</sup> (1) 下北沢病院, 2) 広島国際大学): 運動器のアンチエイジングを科学する 変形性膝関節症の異常な動きを回復させる運動療法. 日本抗加齢医学会総会 (第 14 回) (大阪), 2014. 6.
- 52) 佐竹美彦, 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 佐藤章子, 河路秀巳, 高井信朗: 関節リウマチ前足部変形に対する関節形成術の成績: 切除関節形成術と中足骨遠位短縮斜め骨切り術の術後成績の比較. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 58 回) (東京), 2014. 4.
- 53) 原田和弘, 橋口 宏, 岩下 哲, 大久保敦: リバース型人工肩関節置換術を行なった陳旧性脱臼骨折の 2 例. 関東災害整形外科学会 (第 55 回) (埼玉), 2015. 3.
- 54) 萩原祐介, David R<sup>1)</sup>, 高井信朗 (1) UCHC): マウス ACL 再建モデルを用いた早期移植腱 - 骨間治癒過程の組織観察. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.

- 55) Hagiwara Y<sup>1)</sup>, Nathaniel A<sup>1)</sup>, Douglas J<sup>1)</sup>, Takai S, David W<sup>1)</sup> (1) University of Connecticut Health Center) : Joint and Epiphyseal Progenitor Cells Revitalize Tendon Graft and Form Mineralized Insertion Sites in Murine ACL Reconstruction Model. Orthopaedic Research Society 2015 Annual Meeting (Las Vegas), 2015. 3.
- 56) Sato A, Takahashi K, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Mori A, Mochizuki Y, Nakamura H, Takai S (1) Minami-Shinjuku Orthopaedic Rehabilitation Clinic) : Medial meniscal posterior root/horn radial tears are a strong predisposing factor for cartilage degeneration observed on T1  $\rho$  relaxation mapping. Annual European Congress of Rheumatology (15th) (Paris), 2014. 6.
- 57) Matsushita T<sup>1)</sup>, Shindo Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kurosaki H<sup>2)</sup>, Takahashi K (1) Department of Mechanical Engineering Informatics, Meiji University, 2) Department of Radiology, Tokyo Kousei Nenkin Hospital) : Heating properties of resonant cavity applicator for treatment of osteoarthritis. Asian congress of hyperthermic oncology (The 6th) & Japanese congress of thermal medicine (The 31th) (Fukui), 2014. 9.
- 58) Shiina A<sup>1)</sup>, Takahashi K, Nakano J<sup>1)</sup>, Kuroda K<sup>1)</sup> (1) Course of Information Science and Engineering, Graduate School of Engineering, Tokai University) : Feasibility of noninvasive magnetic resonance thermometry of the knee joint under thermal therapy. Asian congress of hyperthermic oncology (The 6th) & Japanese congress of thermalmedicine (The 31th) (Fukui), 2014. 9.
- 59) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗 : 手指内軟骨腫に対する内視鏡併用搔爬術の経験と骨開窓部の術中操作による拡大. 日本手外科学会 (第 57 回) (沖縄), 2014. 4.
- 60) 北川泰之, 丸山 剛, 牧野 晃, 今野俊介, 宮本雅史, 高井信朗, 新井 悟<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 血管平滑筋腫の MRI 像. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 47 回) (大阪), 2014. 7.
- 61) 北川泰之, 丸山 剛, 牧野 晃, 今野俊介, 宮本雅史, 高井信朗, 新井 悟<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の臨床的意義. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 47 回) (大阪), 2014. 7.
- 62) 北川泰之, 丸山 剛, 牧野 晃, 今野俊介, 宮本雅史, 高井信朗, 新井 悟<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 10 年の経過を有した下腿皮下 angiofibroma of soft tissue の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 47 回) (大阪), 2014. 7.
- 63) 北川泰之, 宮本 暖, 牧野 晃, 今野俊介, 玉井健介, 高井信朗 : 内視鏡併用搔爬術を施行した 中手骨骨内ガングリオン. 日本最小侵襲整形外科学会 (第 20 回) (栃木), 2014. 11.
- 64) 中嶋隆夫, 大久保敦, 宮本雅史, 高井信朗 : XLIF 初期 28 症例の検討. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (第 23 回) (静岡), 2014. 8.
- 65) 中嶋隆夫 : 脊椎固定術における Innovation : XLIF 手術手技の実際. ちば脊椎カンファレンス (第 23 回) (千葉), 2014. 7.
- 66) 中嶋隆夫, 宮本雅史, 高井信朗 : 上位腰椎部 XLIF の問題点. 日本腰痛学会 (第 22 回) (千葉), 2014. 11.
- 67) 友利裕二, 日沼州司<sup>1)</sup>, 石井寛高<sup>1)</sup>, 託見 健<sup>1)</sup>, 高井信朗, 小澤一史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野) : リポソームの細胞内に関する形態学的解析 培養細胞内での局在解析から. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 55 回) (長野), 2014. 9.
- 68) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 高井信朗 : 掌側転位型橈骨遠位端関節外骨折 (Smith 骨折) 治療における問題点. 日本手外科学会 (第 57 回) (沖縄), 2014. 4.
- 69) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 高井信朗 : 鏡視下関節整復術を行った橈骨遠位端関節内骨折 (AO 分類 C 型) の治療成績. 日本手外科学会 (第 57 回) (沖縄), 2014. 4.
- 70) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗 : 中指中手骨骨頭骨折の 1 例. 日本骨折治療学会 (第 40 回) (熊本), 2014. 6.
- 71) 友利裕二, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗 : ミニイリザロフ創外固定器を使用した小指中手骨頸部変形治療骨折の 1 例. 日本骨折治療学会 (第 40 回) (熊本), 2014. 6.
- 72) Tomori Y, Sawaizumi T, Nanno M, Takai S : Closed radial wedge osteotomy for Preiser's disease. the 69th Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand (69th) (Boston, MA), 2014. 9.
- 73) 角田 隆, 河路秀巳, 大場良輔, 星川直哉, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 高井信朗 (1) 日本医科大学付属病院感染制御部) : アクリジンオレンジ光線力学療法による骨・軟部感染症に対する新しい治療方法. 日本整形外科学会基礎学術集会 (第 29 回) (鹿児島), 2014. 10.
- 74) 伊藤寿彦, 角田 隆, 佐藤章子, 友利裕二, 竹之内研二, 北川泰之, 高井信朗 : 10 年の経過で自然治癒したと考えられる上腕骨単純性骨嚢腫の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 47 回) (大阪), 2014. 7.
- 75) Matsubara T<sup>1)</sup>, Kusuzaki K<sup>2)</sup>, Okada K<sup>3)</sup>, Tsuchiya T<sup>4)</sup>, Goto T<sup>5)</sup>, Tsunoda R<sup>6)</sup>, Yamamoto N<sup>7)</sup>, Tsuchiya H<sup>7)</sup>, Matsumine A<sup>1)</sup>, Asanuma K<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>1)</sup>, Sudo A<sup>1)</sup> (1) Department of Orthopaedic Surgery, Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan, 2) Department of Orthopaedic Surgery, Kyoto Kujo Hospital, Kyoto, Japan, 3) Department of Orthopaedic Surgery, Akita University Graduate School of Medicine, Akita, Japan, 4) Department of Orthopaedic Surgery, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan, 5) Department of Orthopaedic Surgery, Tokyo Metropolitan Cancer and Infection Disease

Center Komagome Hospital, Tokyo, Japan, <sup>6)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>7)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medical Science Kanazawa University, Ishikawa, Japan) : Acridine Orange Therapy as a New Less-invasive Limb Salvage Surgery for Bone and Soft Tissue Sarcomas. American Academy of Orthopaedic Surgeons 2015 Annual Meeting (Las Vegas), 2015. 3.

- 76) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 高井信朗: 脊椎のタンデム狭窄を体性感覚誘発電位で診断しえた1例. 日本臨床神経生理学 (第44回) (福岡), 2014. 11.
- 77) 橋爪 洋<sup>1)</sup>, 紺野慎一<sup>1)</sup>, 竹下克志<sup>1)</sup>, 高橋 和久<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 松本守雄<sup>1)</sup>, 笠井裕一<sup>1)</sup>, 金森昌彦<sup>1)</sup>, 松永俊二<sup>1)</sup>, 細野 昇<sup>1)</sup>, 寒竹 司<sup>1)</sup>, 種市 洋<sup>1)</sup>, 田中信弘<sup>1)</sup>, 金山雅弘<sup>1)</sup>, 清水敬親<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会) : 患者立脚型アウトカム (JOABPEQ, JOACMEQ) を用いた臨床研究 日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) 健常者基準値作成のための調査報告. 日本脊椎脊髄病学会 (第43回) (京都), 2014. 4.
- 78) 田中信弘<sup>1)</sup>, 紺野慎一<sup>1)</sup>, 竹下克志<sup>1)</sup>, 川上 守<sup>1)</sup>, 高橋和久<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 松本守雄<sup>1)</sup>, 笠井裕一<sup>1)</sup>, 金森昌彦<sup>1)</sup>, 松永俊二<sup>1)</sup>, 細野昇<sup>1)</sup>, 寒竹 司<sup>1)</sup>, 種市 洋<sup>1)</sup>, 橋爪 洋<sup>1)</sup>, 金山雅弘<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会) : 患者立脚型アウトカム (JOABPEQ, JOACMEQ) を用いた臨床研究 日本整形外科学会頸部脊髄症評価質問票 (JOACMEQ) 健常者基準値作成のための調査報告. 日本脊椎脊髄病学会 (第43回) (京都), 2014. 4.
- 79) 宮本雅史: 脊椎リハビリテーション. 平成26年夏季セラピスト研修会 (東京), 2014. 6.
- 80) 宮本雅史: 脊椎リハビリテーション. 平成26年秋季セラピスト研修会 (東京), 2014. 11.
- 81) 宮本 暖, 澤泉卓哉, 南野光彦, 今野俊介, 友利裕二, 高井信朗: 尺骨骨幹部に2重骨折を伴った Monteggia 骨折の1例. 東日本手外科研究会 (第29回) (仙台), 2015. 3.
- 82) 伊藤寿彦: トリアムシノロン腱鞘内注射後に長母指屈筋腱断裂 (FPL) をきたした1例. 東日本手外科研究会 (第29回) (仙台), 2015. 3.
- 83) 澤泉卓哉: 舟状骨偽関節に対する欠陥柄付骨移植術: コツとピットフォール. なにわマイクロサージャリー・手外科研究会 (大阪), 2014. 12.
- 84) 澤泉卓哉: 橈骨遠位端骨折診療ガイドラインとその周辺. 橈骨遠位端骨折を語る会, 2014. 12.
- (5) ポスター発表:
- 1) 岡崎愛未, 森 淳, 飯澤典茂, 石原陽子, 伊藤寿彦, 高井信朗: 膝関節内痛風結節を生じた若年性痛風の1例. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第6回) (広島), 2014. 7.
- 2) 片岡達紀, 森 淳, 飯澤典茂, 吉澤隆明, 伊藤寿彦, 高井信朗: 壮年期男性に発症した脛骨内側顆不顕性骨折の2例. 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 (第6回) (広島), 2014. 7.

## 論文

### [追加分]

追加分原著:

- 1) Shindo S<sup>1)</sup>, Watanabe K<sup>1)</sup>, Iseki Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kurosaki H<sup>2)</sup>, Takahashi K (<sup>1)</sup> Dept. of Mech Eng. inf., Meiji Univ., Kanagawa, Japan, <sup>2)</sup> Dept. of Radiology, Tokyo Koseinenkin Hospital, Tokyo, Japan) : Heating properties of resonant cavity applicator for treatment of osteoarthritis-Temperature distributions calculated by 3-D FEM. Thermal Medicine 2014 ; 30 (1) : 1-12, 26.
- 2) 友利裕二, 杉田秀幸<sup>1)</sup>, 澤泉卓哉, 南野光彦, 高井信朗 (<sup>1)</sup> 明理会中央総合病院整形外科) : 関節支持組織の高度な損傷を伴った環指MP関節掌側脱臼の1例. 整形・災害外科 2014 ; 57 (2) : 229-234.

## 学会発表

追加分一般講演:

- 1) 岩下 哲, 橋口 宏, 中島隆夫, 星川直哉, 渡部 寛, 高井信朗: 鏡視下腱板修復術における斜角筋ブロックの有効性および問題点. 関東整形災害外科学会 (第54回) (神奈川), 2014. 3.
- 2) 渡部 寛, 岩下 哲, 中島隆夫, 橋口 宏, 南 和文<sup>1)</sup>, 高井信朗 (<sup>1)</sup> 山王病院 整形外科) : 脛骨近位骨端線離開3例の治療経験. 関東整形災害外科学会 (第54回) (神奈川), 2014. 3.

## 22. 女性生殖発達病態学分野

### [付属病院女性診療科・産科]

#### 研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 女性医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。周産期医学領域では, 分子解剖学講座との共同研究にてヒト胎盤特異的マイクロ RNA がエクソゾームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾していることを見出し報告した。婦人科腫瘍学領域では子宮体癌症例を中心に各種腫瘍組織において特異的に発現が上昇するマイクロ RNA を同定し, それらのマイクロ RNA がどの遺伝子をターゲットとしているかを検討した。生殖内分泌医学領域では, 不育症症例における各種自己抗体, 凝固因子などを検討し予後との関連を解析し報告した。女性医学領域, 手術学領域では, 当院から申請している骨盤臓器脱に対する先進医療である, 腹腔鏡下仙骨脛固定術に関して積極的に報告し, 術式の周知に貢献した。また, 子宮体癌に対してはすでに腹腔鏡下手術を施行しており, 今後は子宮頸癌に対しても腹腔鏡下手術を導入する予定である。以上, 各領域において活発に研究活動が行われており, その成果については, 本邦および海外の学術集会および論文にて報告を行った。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著:

- 1) 倉品隆平, 竹下俊行: 妊娠高血圧症候群 UPDATE: 妊娠高血圧症候群とマイクロ RNA. 周産期医学 2014; 44 (11): 1441-1444.
- 2) 関根仁樹, 和田華子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 明楽重夫: 子宮筋腫合併不妊の治療: 現代生殖医療のメインストリーム ART マスターたちの治療戦略. 産婦人科の実際 2014; 63 (臨時増刊): 1691-1699.
- 3) 峯 克也, 米澤美令, 渡邊建一郎, 小野修一, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 海外での卵子提供による妊娠後に流産を来し, 抗リン脂質抗体陽性が判明した2症例の検討. 日本産婦人科学会東京地方部会雑誌 2014; 63 (4): 634-638.
- 4) 峯 克也, 小野修一, 竹下俊行: 当院における子宮鏡手術について. 東京産婦人科医会誌 2014; (47): 46-47.
- 5) Yoneyama K, Ishibashi O, Kawase R, Kurose K, Takeshita T: miR-200a, miR-200b and miR-429 Are Onco-miRs that Target the PTEN Gene in Endometrioid Endometrial Carcinoma. Anticancer Res. 2015; 35 (3): 1401-1410.
- 6) Yoneyama K, Kojima S, Kodani Y, Yamaguchi N, Igarashi A, Kurose K, Kawase R, Takeshita T, Hattori S, Nagata K: Proteomic identification of autoantibodies in sera from patients with ovarian cancer as possible diagnostic biomarkers. Anticancer Res. 2015; 35 (2): 881-889.
- 7) Yoneyama K, Shibata R, Igarashi A, Kojima S, Kodami Y, Nagata K, Kurose K, Kawase R, Takeshita T, Hattori S: Proteomic identification of dihydrolipoamide dehydrogenase as a target of autoantibodies in patients with endometrial cancer. Anticancer Res 2014; 34 (9): 5021-5027.
- 8) Yoneyama K, Sekiguchi A, Matsushima T, Kawase R, Nakai A, Asakura H, Takeshita T: Clinical characteristics of amniotic fluid embolism: an experience of 29 years. J Obstet Gynaecol Res 2014; 40 (7): 1862-1870.
- 9) 内山美穂子, 米山剛一, 川瀬里衣子, 加藤雅彦, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 子宮内膜異型増殖症を併発した漿液性卵巣境界悪性腫瘍の1例. 東京産科婦人科学会誌 2015; 64 (1): 38-41.
- 10) 市川雅男, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫: 現代 POP 治療のグレーゾーン: 直腸瘤. 臨床泌尿器科 2014; 68 (10): 746-751.
- 11) 市川雅男, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫: 腹腔鏡下仙骨脛固定術 骨盤臓器脱: 戦国時代を生きる. 臨床婦人科産科 2015; 69 (1): 137-141.
- 12) 明楽重夫: 器質性月経困難症の治療戦略: 子宮内膜症・子宮腺筋症・子宮筋腫を中心に. Pharma Medica 2014; 21: 51-55.
- 13) 小野修一, 明楽重夫, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 当院におけるダグラス窩深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下手術の系統的アプローチ手順と治療成績. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2014; 35 (7): 210-213.
- 14) 市川雅男, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫: 手術手技 女性泌尿器関連の手術 基本手技とコツ 現代 POP 治療のグレーゾーン 直腸瘤 いま, あなたはどのようにして治療していますか?. 臨床泌尿器科 2014; 68 (10): 746-751.
- 15) 北野正剛, 山下裕一, 白石憲男, 橋爪 誠, 板東登志雄, 矢永勝彦, 渡邊昌彦, 北川雄光, 瀧口修司, 遠藤俊輔, 森川利昭, 玉木康博, 松本純夫, 四津良平, 明楽重夫, その他3名: 内視鏡外科手術に関するアンケート調査: 第12回集計結果報告. 日本内視鏡外科学会雑誌 2014; 19 (9): 495-640.
- 16) 加藤久美子, 明楽重夫, 島田 誠: 第13回日本女性骨盤底医学会ディベート (2011年) からみた骨盤臓器脱の術式選択. 日本女性骨盤底医学会誌 2014; 11 (1): 41-44.

- 17) Nakagawa K, Juen H, Nishi Y, Sugiyama R, Motoyama H, Kuribayashi Y, Inoue M, Akira S, Sugiyama R : Advanced scheduling for zygote intrafallopian transfer is possible via the use of a hormone replacement cycle for patients who have experienced repeated implantation failures. Arch Gynecol Obstet 2014 ; (290) : 1031-1035.
  - 18) Kambe S, Yoshitake H, Yuge K, Ishida Y, Ali MM, Takizawa T, Kuwata T, Ohkuchi A, Matsubara S, Suzuki, Takeshita T, Saito S, Takizawa T : Human exosomal placenta-associated miR-517a-3p modulates the expression of PRKG1 mRNA in Jurkat cells. Biol Reprod. 2014 ; 91 (5) : 129-129.
  - 19) Sekiguchi A, Nakai A, Okuda N, Inde Y, Takeshita T : Consecutive cervical length measurements as a predictor of preterm cesarean section in complete placenta previa. J Clin Ultrasound 2015 ; 43 (1) : 17-22.
  - 20) Ishikawa A, Omata W, Ackerman W, Takeshita T, VandrÉ DD, Robinson JM : Cell fusion mediates dramatic alterations in the actin cytoskeleton, focal adhesions, and E-cadherin in trophoblastic cells. Cytoskeleton (Hoboken) 2014 ; 71 (4) : 241-256.
  - 21) Matsushashi T, Shimizu M, Negishi Y, Takeshita T, Takahashi H : A low, non-toxic dose of paclitaxel can prevent dendritic cell-precursors from becoming tolerogenic dendritic cells with impaired functions. Biomed Res. 2014 ; 35 (6) : 369-380.
  - 22) 花岡正智<sup>1)</sup>, 山口 暁, 永野玲子, 都甲明子, 山口 稔, 横田明重, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 成和会山口病院) : 1次施設での新生児蘇生 NCPR 2010 施行の実際. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2014 ; 50 (1) : 205-210.
  - 23) Kuwabara Y, Katayama A, Tomiyama R, Piao H, Kurihara S, Ono S, Mine K, Akira S, Orimo H, Takeshita T : Gonadotropin regulation and role of ovarian osteopontin in the periovulatory period. J Endocrinology 2015 ; 224 (1) : 49-59.
- (2) 総説 :
- 1) 竹下俊行 : 【新たな出生前診断・着床前診断の幕開け】 着床前診断 着床前スクリーニング. 産婦人科の実際 2014 ; 63 (9) : 1261-1265.
  - 2) 斎藤英和, 石原 理, 久具宏司, 久保田俊郎, 桑原 章, 澤倫太郎, 阪埜浩司 : 平成 25 年度倫理委員会 登録・調査委員会報告 (2012 年分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および 2014 年 7 月における登録施設名). 日産婦誌 2014 ; 65 (9) : 2445-2481.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 高杉敬久, 澤倫太郎, 水谷 渉 : 厚生労働化学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業) 総括研究報告書. 全国の医療機関別の診療行為等に係る有害事象数に関する特別研究. 2014.
- (4) 報告書 :
- 1) 澤倫太郎, 畑中卓司, 野村真美 : 団塊世代を中心とした超高齢社会における医療提供体制のあり方 : 2025・40 年の大都市圏等の医師数を中心とした定量的需給試算からみた提言と課題. 日医総研ワーキングペーパー 2014 ; (314).
  - 2) 江口成美, 野村真美, 佐藤和孝, 出口真弓, 澤倫太郎 : 第 2 回女性医師を中心とした産婦人科医の就労状況についての調査女性医師の継続的就労に向けて. 日医総研ワーキングペーパー 2014 ; (314).
- (5) 症例報告 :
- 1) 松井遼子, 米山剛一, 今道小百合, 可世木華子, 岩崎奈央, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : Gliomatosis Peritonei の合併を認めた卵巣未熟奇形腫の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2014 ; 63 (2) : 357-360.
  - 2) 今道小百合, 可世木華子, 渡邊建一郎, 米澤美令, 桑原慶充, 里見操緒, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行 : 妊娠・産褥期に免疫吸着療法を施行した全身型重症筋無力症合併妊娠の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2014 ; 63 (3) : 433-437.
  - 3) 伊藤麻利江, 鴨井青龍, 白銀 恵, 中西一步, 高屋 茜, 村川裕子, 山田 隆, 渡辺美千明, 羽鳥 務<sup>1)</sup>, 米山剛一, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理部) : B 濾胞型乳頭癌の組織型を呈した悪性卵巣甲状腺腫の 1 例. 千葉県産科婦人科医学会雑誌 2014 ; 8 (1) : 37-41.
  - 4) 峯 克也, 米澤美令, 小野修一, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行 : 海外での卵子提供による妊娠後に流産をきたし, 抗リン脂質抗体陽性が判明した 2 症例の検討. 東京産科婦人科学会誌 2014 ; 63 (4) : 634-638.
  - 5) 今道小百合, 可世木華子, 渡邊建一郎, 米澤美令, 桑原慶充, 里見操緒, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行 : 妊娠・産褥期に免疫吸着療法を施行した全身型重症筋無力症合併妊娠の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2014 ; 63 (3) : 433-437.
  - 6) 飯田朝子, 峯 克也, 田村俊之, 小野修一, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行 : 初経から 6 年後に腔留膿症を呈した子宮奇形の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2014 ; 63 (1) : 155-158.

## 著 書

- 1) 峯 克也, 竹下俊行 : [分担] 骨盤計測. 産婦人科研修ノート, 2014 ; pp109-111, 診断と治療社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 明楽重夫 : エキスパートに学ぶ手術のコツ そこが聞きたい : 生殖機能温存・妊孕性温存の手術手技—子宮内膜症に対する機能温存

術式：妊孕性と根治性の両立をめざして．産婦人科手術学会（第37回）（札幌），2014．11．

- 2) 竹下俊行：PGD, PGSは出産率を改善するか？：着床前診断委員会に関わった経験から．熊本産婦人科セミナー（熊本），2014．9．
- 3) 竹下俊行：卵子が老化する前にできることって何？．不妊に関する市民公開講座（茨城），2014．12．
- 4) 竹下俊行：子宮奇形と不育症．茨城不妊臨床懇話会（第25回）（茨城），2014．12．

(2) 招待講演：

- 1) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Shibata R<sup>2)</sup>, Igarashi A<sup>3)</sup>, Kojima S<sup>3)</sup>, Kodani Y<sup>3)</sup>, Nagata K<sup>3)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Hattori S<sup>2, 4)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, (2) Division of Cellular Proteomics, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, (3) Department of Advanced Medicine and Development, BML Inc, (4) Division of Biochemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University) : Identification of Dihydrolipoamide Dehydrogenase as a Target of Autoantibodies in Patients with Endometrial Cancer : a Proteomic analysis. International Conference of Anticancer Research (The 9th) (Sithonia, Greece), 2014. 10.

(3) 教育講演：

- 1) 米山剛一：婦人科病理診断ドリル，ベーシックコース（卵巣病変・子宮体部病変）．関東連合産科婦人科学会学術集会（第127回）（東京），2014．6．

(4) シンポジウム：

- 1) 明楽重夫：腹腔鏡下仙骨隆固定術 Laparoscopic sacrocolpopexy (LSC) の新展開（骨盤臓器脱メッシュ手術の新展開）．日本女性骨盤底医学会（第16回）（青森），2014．7．
- 2) 市川雅男，明楽重夫，関根仁樹，小野修一，峯 克也，竹下俊行：深部子宮内膜症手術における卵巣機能温存・根治性・美容性を考える．日本内視鏡外科学会（第27回）（岩手），2014．10．
- 3) 黒瀬圭輔，山本晃人，川瀬里衣子，山田 隆，土居大祐，米山剛一，鴨井青龍，松原美幸，渡會泰彦，大橋隆治：AGCの細胞像 AGC 総論 臨床の事項．日本臨床細胞学会総会春季大会（第55回）（東京），2014．6．

(5) パネルディスカッション：

- 1) 市川雅男，関根仁樹，可世木華子，小野修一，峯 克也，明楽重夫，竹下俊行：あなたの知らないPOPな世界！．日本内視鏡外科学会（第27回）（岩手），2014．10．

(6) ワークショップ：

- 1) 峯 克也，市川雅男，関根仁樹，可世木華子，小野修一，明楽重夫，竹下俊行：擬態法とバスタブ法の新たな出会い：ハイブリッドバスタブ法．日本内視鏡外科学会（第27回）（岩手），2014．10．
- 2) 市川雅男，明楽重夫，関根仁樹，可世木華子，峯 克也，竹下俊行：腹腔鏡下仙骨隆固定術の安全を極める．日本産婦人科手術学会，2014．10．

(7) 一般講演：

- 1) 神戸沙織，弓削主哉<sup>1)</sup>，石田洋一<sup>2)</sup>，大口昭英<sup>2)</sup>，松原茂樹<sup>2)</sup>，鈴木光明<sup>2)</sup>，齋藤 滋<sup>3)</sup>，瀧澤俊広<sup>1)</sup>，竹下俊行 (1) 日本医大分子解剖学，(2) 自治医大，(3) 富山大)：ヒト胎盤特異的マイクロRNAはエクソソームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾している．日本産科婦人科学会学術集会（第66回）（東京），2014．4．
- 2) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>，稲田貢三子<sup>2)</sup>，島 友子<sup>1)</sup>，竹下俊行，齋藤 滋<sup>2)</sup> (1) 日本医大分子解剖学，(2) 富山大学)：妊婦初期脱落膜NK細胞においてmicroRNAは細胞傷害活性を抑制する制御ネットワークを形成している．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．
- 3) 小野修一，米澤美令，峯 克也，桑原慶充，明楽重夫，竹下俊行：中核子宮に対する子宮形成術に関する臨床的検討．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．
- 4) 峯 克也，米澤美令，渡邊建一郎，小野修一，阿部 崇，富山僚子，西 弥生，桑原慶充，明楽重夫，竹下俊行：40歳未満女性の低Anti-Mullerian Hormone (AMH)は低妊娠率を予測させるか？．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．
- 5) 渡邊建一郎，明楽重夫，小野修一，峯 克也，市川雅男，根本崇宏<sup>1)</sup>，瀧澤俊広<sup>2)</sup>，竹下俊行 (1) 日本医大生理学（生体統御学），(2) 日本医大解剖学（分子解剖学）)：子宮内膜症におけるWnt4mRNAの発現の解析．日本産科婦人科学会学術講演会（第60回）（東京），2014．4．
- 6) 松島 隆，深見武彦，土居大祐，明楽重夫，朝倉啓文，竹下俊行：低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬治療中に脳血栓症を発症したが，GnRHアゴニスト漸減療法にて子宮腺筋症の長期治療が可能であった1例．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．
- 7) 松橋智彦，清水真澄<sup>1)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup>，竹下俊行 (1) 日本医大微生物学・免疫学)：低容量パクリタキセルは樹状細胞の抗腫瘍免疫能を賦活化する．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．
- 8) 齋藤桃子，米澤美令，新村裕樹，重見大介，関根仁樹，可世木華子，里見操緒，八木幸恵，桑原慶充，磯崎太一，澤倫太郎，竹下俊行：当院で経験した妊娠中発症・憎悪したうつ病合併妊娠の3症例．日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014．4．



- 9) 桑原慶充, 富山僚子, 米澤美令, 渡邊建一郎, 橋本恵理子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 周排卵期マウスにおけるオステオポンチンの発現誘導および作動性分子シグナリングに関する解析. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 10) 市川雅男, 明楽重夫, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行: 先進医療: 腹腔鏡下仙骨腔固定術の実際. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 11) 池田真利子, 山口 暁<sup>1)</sup>, 角田陽平, 花岡正智<sup>1)</sup>, 栗栖美穂<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 成和会山口病院): B 型肝炎母子感染予防対策の現状について. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 12) 重見大介, 印出佑介, 都甲明子<sup>1)</sup>, 江本龍生<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 成和会山口病院): 妊婦における抗サイトメガロウイルス IgG 抗体スクリーニング. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 13) 米澤美令, 里見操緒, 可世木華子, 渡邊建一郎, 大内 望, 峯 克也, 桑原慶充, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 不育症症例における抗カルジオリピン抗体測定間隔に関する検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 14) 柿栖陸実, 田村俊之, 佐藤杏月, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: やせと妊娠中の体重増加と早産の関係. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 15) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 川瀬里衣子, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行: 発症時期に視点を置いた羊水塞栓症の臨床的特徴. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 16) 深見武彦, 西田直子, 立山尚子, 稲垣知子, 田村俊之, 柿栖陸実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 山口道子, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 子宮頸部円錐切除術後妊娠における頸管長の経時的観察と早産予測. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 17) 稲垣知子, 田村俊之, 柿栖陸実, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 帝王切開における子宮前壁菲薄化予防のための研究. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 18) 関口敦子, 中井章人, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 橋本恵理子, 山岸恵美, 川端伊久乃, 深見武彦, 石川 源, 朝倉啓文, 竹下俊行: 破水は常位胎盤早期剥離の予後を改善する. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 19) 林 昌子, 桑原慶充, 石川 源, 関口敦子, 松田義雄<sup>1)</sup>, 佐藤昌司<sup>2)</sup>, 中井章人, 竹下俊行: 日本産科婦人科学会の単一胚移植提唱が本邦の周産期医療に与えた影響. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 20) 山本晃人, 池田真利子, 角田陽平, 尾崎景子, 森 瑛子, 加藤雅彦, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: 後腹膜出血を来した Nut Cracker Syndrome の 1 例. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 21) 川瀬里衣子, 米山剛一, 松井遼子, 飯田朝子, 岩崎奈央, 大内 望, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 出血のコントロールに苦しめた子宮頸部・直腸 adenomyoma の 1 例. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 22) 黒瀬圭輔, 松井遼子, 岩崎奈央, 大内 望, 山本晃人, 川瀬里衣子, 山田 隆, 土居大祐, 米山剛一, 鴨井青龍, 竹下俊行: 子宮頸部細胞診において Atypical Glandular Cell (AGC) と判定された症例の検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 23) 峯 克也, 米澤美令, 渡邊建一郎, 小野修一, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 海外での卵子提供による妊娠後に流産をきたし, 抗リン脂質抗体陽性が判明した 2 例の検討. 東京産科婦人科学会例会 (第 370 回) (東京), 2014. 5.
- 24) 黒瀬圭輔, 山本晃人, 川瀬里衣子, 山田 隆, 土居大祐, 米山剛一, 鴨井青龍, 松原美幸<sup>1)</sup>, 渡會泰彦<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大付属病院病理部): AGC 総論: 臨床的事項. 日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (第 55 回) (神奈川), 2014. 6.
- 25) 米山剛一, 川瀬里衣子, 高屋 茜, 黒瀬圭輔, 寺崎美佳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大解析人体病理学): 子宮頸部乳頭状扁平上皮癌の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (第 55 回) (神奈川), 2014. 6.
- 26) 川瀬里衣子, 米山剛一, 高屋 茜, 黒瀬圭輔, ポンウェイシヤ<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大統御機構・腫瘍学): Peutz-Jeghers 症候群合併若年女性に発症した子宮頸部腺癌の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (第 55 回) (神奈川), 2014. 6.
- 27) 山田 隆, 島津絢子<sup>1)</sup>, 山本晃人, 川瀬里衣子, 高屋 茜, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 土居大祐, 羽鳥 務<sup>1)</sup>, 鴨井青龍 ( <sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理部): 若年子宮体癌の高用量黄体ホルモン療法における経時的な内膜細胞像の検討. 日本臨床細胞学会総会 (春期大会) (第 55 回) (神奈川), 2014. 6.
- 28) 市川雅男, 明楽重夫, 関根仁樹, 可世木華子, 峯 克也, 竹下俊行: 腹腔鏡下仙骨腔固定術の安全神話を考える. 日本女性骨盤底医学会 (第 16 回) (青森), 2014. 7.
- 29) 桑原慶充, 米澤美令, 大内 望, 澤倫太郎, 中井章人, 竹下俊行: プロゲステロンは細胞外マトリクス関連分子を転写レベルで調節し, 子宮頸管リモデリングを制御する. 日本周産期・新生児医学会 (第 50 回) (千葉), 2014. 7.
- 30) 重見大介, 角田陽平, 永野玲子, 山口 稔<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 成和会山口病院): 一般分娩施設における産褥熱 45 例の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 50 回) (千葉), 2014. 7.
- 31) 深見武彦, 柿栖陸実, 間瀬有里, 川端伊久乃, 山口道子, 朝倉啓文, 竹下俊行: 子宮頸部円錐切除術後妊娠における頸管長と頸管腺領域像 (Cervical gland area) を指標とした早産予測. 日本周産期・新生児医学会 (第 50 回) (千葉), 2014. 7.

- 32) 高屋 茜, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>2)</sup>, 石野孔祐<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大統御機構・診断病理学, <sup>2)</sup> 近畿大学薬理・病態分析学) : 卵巣癌 FFPE 組織を用いたプロテオーム解析による新規バイオマーカーの探索. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 33) 米山剛一, 飯田朝子, 川瀬里衣子, 岩崎奈央, 加藤雅彦, 黒瀬圭輔, 寺崎美佳<sup>1)</sup>, 大橋隆治<sup>2)</sup>, 山本晃人, 山田 隆, 鴨井青龍, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医大解析人体病理, <sup>2)</sup> 日本医大付属病院病理部) : 病理診断に苦慮した境界悪性類内膜腫瘍の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 34) 角田陽平, 山田 隆, 池田真利子, 森 瑛子, 尾崎景子, 中田真理世, 山本晃人, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 羽鳥 務<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理部) : 卵管発生と考えられた成熟嚢胞性奇形腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 35) 加藤雅彦, 川瀬里衣子, 飯田朝子, 岩崎奈央, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行 : 卵巣転移を呈した腔扁平上皮癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 36) 池田真利子, 山本晃人, 角田陽平, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 羽鳥 務, 竹下俊行 : 術前に診断し得た Angiomyofibroblastoma の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 37) 飯田朝子, 川瀬里衣子, 加藤雅彦, 岩崎奈央, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医大統御機構・腫瘍学) : Peutz-Jeghers 症候群に合併した子宮頸部腺癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 56 回) (栃木), 2014. 7.
- 38) 米澤美令, 峯 克也, 渡邊建一郎, 小野修一, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行 : 海外卵子提供後の流産症例における不育症リスク因子の検討. 日本受精着床学会 (第 32 回) (東京), 2014. 7.
- 39) 田中智子<sup>1)</sup>, 小松由佳<sup>1)</sup>, 星 真一<sup>1)</sup>, 星野裕子<sup>1)</sup>, 亀山信彦<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 明楽重夫 ( <sup>1)</sup> 東京リバーサイド病院産婦人科) : 小切開・鏡視外科手術と婦人科臓器は好相性である. 日本小切開・鏡視外科学会 (第 27 回) (函館), 2014. 8.
- 40) 杉田洋佑, 米山剛一, 米澤美令, 白井有香, 渡邊建一郎, 大内 望, 桑原慶充, 竹下俊行 : 帝王切開痕部へと進展した子宮峡部妊娠の 1 例. 日本医科大学医学会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
- 41) 市川雅男, 明楽重夫, 関根仁樹, 小野修一, 峯 克也, 竹下俊行 : 腹腔鏡下仙骨腔固定術, その進化の軌跡!. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第 54 回) (鹿児島), 2014. 9.
- 42) 峯 克也, 市川雅男, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行 : 擬態法を併用したハイブリッドバスタブ手術 : より高い整容性を目指して. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第 54 回) (鹿児島), 2014. 9.
- 43) 小野修一, 市川雅男, 関根仁樹, 可世木華子, 阿部 崇, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行 : 腹腔鏡下子宮筋腫核出術における出血リスクの検討. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第 54 回) (鹿児島), 2014. 9.
- 44) 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行 : 当院で経験した腹腔鏡下子宮体がん根治手術の後方視的検討. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第 54 回) (鹿児島), 2014. 9.
- 45) 内山美穂子, 米山剛一, 川瀬里衣子, 加藤雅彦, 黒瀬圭輔, 竹下俊行 : 子宮内膜異型増殖症を併存した漿液性境界悪性腫瘍の 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 371 回) (東京), 2014. 9.
- 46) 角田陽平, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 松井遼子, 伊藤麻利江, 寺田佳世子, 中野裕子<sup>1)</sup>, 中西一步, 宮崎美和, 柴田良枝<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院) : 無症状で経過し常位胎盤早期剥離に至った重度絨毛膜羊膜炎の 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 371 回) (東京), 2014. 9.
- 47) 関根仁樹, 明楽重夫, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行 : 子宮内膜症手術執刀に向けた当院でのトレーニングシステム. 日本内視鏡外科学会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
- 48) 米山剛一<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>2)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 内山美穂子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 羽鳥 務<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院病理診断科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 細胞診が診断の契機となった placental site trophoblastic tumor 1 症例の病理的検討. 日本胎盤学会 (第 22 回), 日本絨毛性疾患研究会 (第 32 回) (京都), 2014. 10.
- 49) 杉田洋佑, 米山剛一, 米澤美令, 白井有香, 渡邊建一郎, 大内 望, 桑原慶充, 竹下俊行 : 子宮峡部妊娠 1 症例の臨床病理学的検討. 日本胎盤学会 (第 22 回) (京都), 2014. 10.
- 50) 高橋宏典<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>1)</sup>, 桑田知之<sup>1)</sup>, 薄井里英<sup>1)</sup>, 菊池邦生<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 自治医科大産婦人科, <sup>2)</sup> 日本医大分子解剖) : 栄養膜細胞における C19MC プロモーター領域のメチル化解析. 日本胎盤学会 (第 22 回) (京都), 2014. 10.
- 51) 明楽重夫 : 子宮内膜症に対する機能温存手術 : 妊孕性と根治性の両立をめざして. 日本産婦人科手術学会 (第 37 回) (札幌), 2014. 10.
- 52) 内山美穂子, 米山剛一, 加藤雅彦, 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 寺崎美佳, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 石井英昭<sup>2)</sup>, 大橋隆治<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 日本医大解析人体病理, <sup>2)</sup> 日本医大付属病院病理診断科) : 偶発的に発見された子宮頸部中腎管腺癌の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 128 回) (松本), 2014. 10.

- 53) 杉田洋佑, 米山剛一, 米澤美令, 白井有香, 渡邊建一郎, 大内 望, 桑原慶充, 寺崎美佳, 竹下俊行: 子宮峡部に胎嚢を認め帝王切開痕部妊娠との鑑別が困難であった1例. 関東連合産科婦人科学会 (第128回) (長野), 2014. 10.
- 54) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Tsunoda Y<sup>1)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): PREOPERATIVE DIAGNOSIS OF SQUAMOUS CELL CARCINOMA ARISING FROM MATURE CYSTIC TERATOMA. BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Melbourne, Australia), 2014. 11.
- 55) Inde Y, Yoneyama K, Kato M, Kawase R, Kurose K, Doi D, Peng W<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Takeshita T (<sup>1)</sup> Pathology Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School): A CASE OF CERVICAL ADENOCARCINOMA ASSOCIATED WITH PEUTZ-JEGHERS SYNDROME. INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Australia), 2014. 11.
- 56) Kurose K, Kato M, Iwasaki N, Yamamoto A, Kawase R, Yamada T, Doi D, Yoneyama K, Kamoi S, Takeshita T: ATYPICAL GLANDULAR CELLS (AGC) OF CERVICAL CYTOLOGY. INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Australia), 2014. 11.
- 57) Yamamoto A, Ikeda M, Kamoi S, Tamada T, Yoneyama K, Kawase R, Kurose K, Takeshita T: PERFORMANCE OF THE AUTONOMIC NERVE-SAVING METHOD IN RADICAL HYSTERECTOMY. INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Australia), 2014. 11.
- 58) Kawase R, Ishiwata T, Takeshita T, Naito Z (<sup>1)</sup> Pathology Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School): FIBROBLAST GROWTH FACTOR RECEPTOR2 IIIc IN CERVICAL CANCER. INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Australia), 2014. 11.
- 59) 峯 克也, 米澤美令, 小野修一, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不妊原因から検討した, 40歳未満女性の低 Anti-Müllerian Hormone の不妊治療成績. 日本生殖医学会学術講演会 (第59回) (東京), 2014. 12.
- 60) 大内 望, 米澤美令, 小野修一, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 竹下俊行: TLC 外来の試み. 日本生殖医学会学術講演会 (第59回) (東京), 2014. 12.
- 61) 小野修一, 米澤美令, 阿部 崇, 峯 克也, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 中隔子宮が不育症の原因と考えられ外科的介入を行った症例の検討. 日本生殖医学会学術講演会 (第59回) (東京), 2014. 12.
- 62) 桑原慶充, 片山 映<sup>1)</sup>, 米澤美令, 大内 望, 澤倫太郎, 中井章人, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大分子生物学・生化学): プロゲステロンはヒト子宮頸部線維芽細胞培養系において, LPS 誘導性 MMP 群の発現を転写レベルで抑制する. 日本生殖免疫学会学術集会 (東京), 2014. 12.
- 63) 内山美穂子, 桑原慶充, 白井有香, 中尾仁彦, 米澤美令, 大内 望, 澤倫太郎, 竹下俊行: 非定型的な子宮筋層切開を行った, 前壁付着の低置胎盤の1例. 東京産科婦人科学会例会 (第372回) (東京), 2014. 12.
- 64) 齋藤桃子, 山本晃人, 川瀬里衣子, 杉田洋佑, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 直接トロンビン阻害剤内服中に大量性器出血をきたし緊急手術を要した子宮体癌の1例. 東京産科婦人科医会 (第28回)・東京産科婦人科学会例会 (第373回) (東京), 2015. 2.
- 65) Kuwabara Y<sup>1)</sup>, Katayama A<sup>2)</sup>, Kurihara S<sup>1)</sup>, Sugita Y<sup>1)</sup>, Shirai Y<sup>1)</sup>, Nakao K<sup>1)</sup>, Yonezawa M<sup>1)</sup>, Ouchi N<sup>1)</sup>, Sawa R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology Nippon Medical School): The Effects of Progesterone on the Gene Expression Profile of LPS-Stimulated Cultured Human Cervical Fibroblasts. Society for Reproductive Investigation (San Francisco), 2015. 3.
- 66) 峯 克也, 内山美穂子, 杉田洋佑, 白井有香, 中尾仁彦, 米澤美令, 大内 望, 桑原慶充, 澤倫太郎, 明楽重夫, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行, 渡邊 淳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大遺伝診療科): 低フォスファターゼ症の出生前診断. 四水会, 2014. 11.
- 67) 関根仁樹, 市川雅男, 今道小百合, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: 当院における腹腔鏡手術トレーニングシステム: 初心者からの脱皮!. 関東連合産科婦人科学会 (第127回) (東京), 2014. 6.
- 68) 関根仁樹, 明楽重夫, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 当院での腔子宮内膜症に対する手術療法について. 日本エンドメトリオーシス学会学術講演会 (第36回), 2015. 1.
- 69) 関根仁樹, 市川雅男, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 明楽重夫: 当院で施行したメッシュ除去手術の経験. 日本骨盤臓器脱手術学会 (第9回) (東京), 2015. 3.
- 70) Wei-Xia P<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Teduka K<sup>1)</sup>, Takaya A<sup>2)</sup>, Kurose K<sup>2)</sup>, Yoneyama K<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Gynecology and Obstetrics, Nippon Medical School): p16-positive gastric type adenocarcinoma in uterine cervix: a case report. Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology (The 18th) (台北, 台湾), 2014. 5.
- 71) Yamamoto A, Ikeda M, Kamoi S, Yamada T, Yoneyama K, Kawase R, Kurose K, Takeshita T: PREOPERATIVE DIAGNOSIS OF SQUAMOUS CELL CARCINOMA ARISING FROM MATURE CYSTIC TERATOMA. BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (15th) (Melbourne, Australia), 2014. 11.

- 72) 杉田洋佑, 米山剛一, 米澤美令, 白井有香, 渡邊建一郎, 大内 望, 桑原慶充, 竹下俊行: 帝王切開癒痕部へと進展した子宮峡部妊娠の1例. 日本医科大学医学部総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
- 73) 飯田朝子, 米山剛一, 川瀬里衣子, 岩崎奈央, 加藤雅彦, 黒瀬圭輔, 山本晃人, 鴨井青龍, 土居大祐, 寺崎美佳, 大橋隆治, 竹下俊行: 卵巣子宮内膜症に合併した境界悪性類内膜腫瘍の1例. 関東連合産科婦人科学会 (第127回) (東京), 2014. 6.
- 74) 加藤雅彦, 川瀬里衣子, 飯田朝子, 岩崎奈央, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 卵巣転移を呈した腔扁平上皮癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第56回) (栃木), 2014. 7.
- 75) 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 若松恭子, 桑原尚美, 高橋美紀子, 永坂真也, 功力しのぶ, 漆山博和, 野村俊一郎, 益田幸成, 米山剛一, 竹下俊行, 清水 章: 子宮ポリープ状異型腺筋腫 (atypical polypoid adenomyoma) および子宮類内膜癌における survivin 発現の検討. 日本病理学会 (広島), 2014. 4.
- 76) Takaya A<sup>1,2)</sup>, Wei-Xia P<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>3)</sup>, Ishino K<sup>1)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Wada R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Department of Integrated Diagnostic Pathology, Nippon Medical School, (2) Departments of Gynecology and Obstetrics, Nippon Medical School, (3) Faculty of Pharmacy, Kinki University): Proteome analysis of formalin-fixed paraffin-embedded epithelial ovarian cancer tissues. World Congress on Advances in Oncology and 17th International Symposium on Molecular (19th) (Athens, Greece), 2014. 10.
- 77) 杉田洋祐, 桑原慶充, 内山美穂子, 白井有香, 中尾仁彦, 米澤美令, 大内 望, 澤倫太郎, 竹下俊行: 演題名 胎児心拍異常を伴わない切迫早産様症状より急速に進行した常位胎盤早期剥離の症例. 分娩監視研究会, 2014. 11.
- 78) 大内 望, 桑原慶充, 内山美穂子, 杉田洋佑, 白井有香, 中尾仁彦, 米澤美令, 澤倫太郎, 竹下俊行: 経腹的アプローチにて子宮頸管縫縮術を施行した2例. 早産予防研究会学術集会, 2014. 11.

## 論文

### [追加分]

追加分原著:

- 1) Takaya A, Peng W, Ishino K, Ishino M, Yamamoto T, Wada R, Takeshita T, Naito Z: CystatinB as a potential diagnostic biomarker in ovarian clear cell carcinoma. *International Journal of Oncology* 2015; 46 (4): 1573-1581.
- 2) Ishikawa T, Takizawa T, Iwaki J, Mishima T, Ui-Tei K, Takeshita T, Matsubara S, Takizawa T: Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. *Int J Mol Med*. 2015; 35 (5): 1273-1289.
- 3) Kurashina R, Kikuchi K, Iwaki J, Yoshitake H, Takeshita T, Takizawa T: Placenta-specific miRNA (miR-512-3p) targets PPP3R1 encoding the calcineurin Bregulatory subunit in BeWo cells. *J Obstet Gynaecol Res*. 2014; 40 (3): 650-660.

追加分症例報告:

- 1) 角田陽平, 山田 隆, 中西一步, 伊藤麻利江, 村川裕子, 山本晃人, 永野玲子, 渡辺美千明, 新井 悟<sup>1)</sup>, 平野孝幸<sup>1)</sup>, 羽鳥 務<sup>1)</sup>, 米山剛一, 竹下俊行 (1) 日本医大千葉北総病院病理部): 術前に強く悪性転化を疑った卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. 関東連合産科婦人科学会誌 2014; 51 (1): 39-43.

追加分:

- 1) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 吉武 洋, 弓削主哉, 竹下俊行 (1) 日本医科大学大学院分子解剖学): microRNA 研究の基礎と応用. *組織細胞化学* 2013; 2014 (7): 169-179.

## [武蔵小杉病院女性診療科・産科]

### 研究概要

本教室では周産期領域を中心とした臨床的研究を行っている。1) 従来から継続している子宮頸管腺領域像と妊娠予後の関連について: 切迫早産例を対象とした頸管腺領域消失所見とヒアルロン酸および妊娠予後との関連について新たな知見を得ることが出来た。2) 経陰超音波により内子宮口付近の羊水中に観察される sludge に着目した。この sludge と流早産のリスクの上昇について報告した。3) 近年増加傾向にあるやせ妊婦と FGR との関連について: 特に痩せ妊婦が妊娠中に体重増加不良の場合 FGR のリスクが高いことを報告した。4) 帝王切開術後の子宮癒痕部菲薄化を予防するための新しい術中の試みを実施中で良好な成果が集積されつつある。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Yamaguchi M, Fukami T, Asakura H, Takeshita T: Predicting onset of labor from echogenicity of the cervical gland area on vaginal ultrasonography at term. *J Perinat Med* DOI: 10.1515/JPM-2014-0080 2014.
- 2) Matsushima T, Fujie Y, Kaseki H, Asakura H: Laser hysteroscopic metroplasty guided by laparoscopically assisted intraab-

- dominal sonohysterography (LHME-GLAIS) for intrauterine disease. J Gynecol Surg 2014 ; 30 (5) : 280-284.
- 3) Asakura H, Fukami T, Inagaki T, Tateyama N : Serious influence of Yersinia enterocolitis on pregnancy in a woman complicated with chronic hypertension and gestational diabetes mellitus ; a case report. Journal of Pregnancy & Child Health 2015 ; 2 (135) : 1-3.
- 4) Shima Y<sup>1)</sup>, Migita M<sup>2)</sup>, Asakura H<sup>3)</sup>, Takahashi T<sup>4)</sup>, Yashiro K<sup>1)</sup>, Matsumura Y<sup>1)</sup>, Kurokawa A<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of neonatal medicine, Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Musashikosugi Hospital, <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, <sup>4)</sup> Department of Pediatric surgery, <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, Medical Center for maternal and child health, Nippon Medical school Musashikosugi Hospital) : Effect of clinical work practice of establishing a neonatal intensive care unit at a medical school affiliate teaching hospital. J Nippon Med sch 2014 ; 81 (5) 2014 ; 81 (5) : 328-332.
- 5) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Ishibashi O<sup>2)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Laboratory of Biological Macromolecules, Graduate School of Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Sakai, Japan) : miR-200a, miR-200b and miR-429 are onco-miRs that target the PTEN gene in endometrioid endometrial carcinoma. Anticancer Res. 2015 ; 35 (3) : 1401-1410.
- 6) 杉浦 賢<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 林 康子<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 東條龍太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川産科婦人科学会悪性腫瘍対策部) : 平成 24 年度 神奈川産科婦人科学会 婦人悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会誌 2014 ; 51 (1) : 19-22.
- 7) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>2)</sup>, Kodani Y<sup>2)</sup>, Yamaguchi N<sup>2)</sup>, Igarashi A<sup>2)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Hattori S<sup>3,4)</sup>, Nagata K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Advanced Medicine and Development, BML Inc., Saitama, Japan, <sup>3)</sup> Division of Cellular Proteomics, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Division of Biochemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, Tokyo, Japan) : Proteomic identification of autoantibodies in sera from patients with ovarian cancer as possible diagnostic biomarkers. Anticancer Res. 2015 ; 35 (2) : 881-889.
- 8) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Shibata R<sup>2)</sup>, Igarashi A<sup>3)</sup>, Kojima S<sup>3)</sup>, Kodani Y<sup>3)</sup>, Nagata K<sup>3)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Hattori S<sup>2,4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Division of Cellular Proteomics, Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Advanced Medicine and Development, BML Inc., Saitama, Japan, <sup>4)</sup> Division of Biochemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, Tokyo, Japan) : Proteomic identification of dihydroliipoamide dehydrogenase as a target of autoantibodies in patients with endometrial cancer. Anticancer Res. 2014 ; 34 (9) : 5021-5027.
- 9) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>2)</sup>, Matsushima T<sup>3)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Asakura H<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tama, Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Kanagawa, Japan) : Clinical characteristics of amniotic fluid embolism : an experience of 29 years. J Obstet Gynaecol Res. 2014 ; 40 (7) : 1862-1870.
- 10) 内山美穂子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科) : 子宮内膜異型増殖症を併発した漿液性卵巣境界悪性腫瘍の 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2015 ; 64 (1) : 38-41.
- (2) 総説 :
- 1) 朝倉啓文, 柿栖睦実 : 妊婦のやせと早産. 産婦実際 2015 ; 64 (1) : 35-41.
- 2) 川端伊久乃, 中井章人 : 細菌性膣症, 頸管炎, 絨毛膜羊膜炎. 産科と婦人科 2015 ; 82 (増刊) : 14-19.
- (3) 症例報告 :
- 1) 稲垣知子, 立山尚子, 松村好克, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文 : エルシニア腸炎のため妊娠 27 週で早産した加重型妊娠高血圧腎症の 1 例. 産婦実際 63 (7).1025-27 2014 ; 63 (7) : 1025-1027.
- 2) 伊藤麻利江<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 白銀 恵<sup>1)</sup>, 中西一步<sup>1)</sup>, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 村川裕子<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 羽鳥 努<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部) : B 濾胞型乳頭癌の組織型を呈した悪性卵巣甲状腺腫の 1 例. 千葉県産科婦人科医学会雑誌 2014 ; 8 (1) : 37-41.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 朝倉啓文 : 早産リスクと子宮頸管の超音波所見. 川崎産科婦人科医学会学術講演会 (川崎), 2014. 7.

### (2) 招待講演 :

- 1) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Shibata R<sup>2)</sup>, Igarashi A<sup>3)</sup>, Kojima S<sup>3)</sup>, Kodani Y<sup>3)</sup>, Nagata K<sup>3)</sup>, Kurose K<sup>1)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Hattori S<sup>2,4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Division of Cellular Proteomics,

Institute of Medical Science, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, <sup>3</sup>)Department of Advanced Medicine and Development, BML Inc., Saitama, Japan, <sup>4</sup>)Division of Biochemistry, School of Pharmaceutical Sciences, Kitasato University, Tokyo, Japan) : Identification of Dihydrolipoamide Dehydrogenase as a Target of Autoantibodies in Patients with Endometrial Cancer : a Proteomic analysis. The 9th International Conference of Anticancer Research (Sithonia, Greece), 2014. 10.

(3) 教育講演 :

- 1) 米山剛一 : 婦人科病理診断ドリル, ベーシックコース : 卵巣病変・子宮体部病変 (June seminar). 第127回関東連合産科婦人科学会 学術集会 (東京), 2014. 6.

(4) シンポジウム :

- 1) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 山田 隆 隆<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 渡會泰彦<sup>2)</sup>, 大橋隆治<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2</sup>) 日本医科大学付属病院病理部) : AGC の細胞像 AGC 総論 臨床的事項. 日本臨床細胞学会総会春季大会 2014.06 (第55回), 2014. 6.

(5) 一般講演 :

- 1) 松島 隆, 深見武彦, 土居大祐, 明楽重夫, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 低用量エストロゲン, プロゲステロン配合剤治療中に脳血栓症を発症したが, GnRH アゴニスト漸減療法にて子宮腺筋症の長期治療が可能であった1例. 日本産科婦人科学会 (第66回) (東京), 2014. 4.
- 2) 稲垣知子, 田村俊之, 柿栖睦実, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 帝王切開における子宮壁菲薄化予防のための研究. 日本産科婦人科学会 (第66回) (東京), 2014. 4.
- 3) 米山剛一, 関口敦子, 松島 隆, 川瀬里衣子, 中井章人, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 発症時期に視点を置いた羊水塞栓症の臨床的特徴. 日本産科婦人科学会 (第66回) (東京), 2014. 4.
- 4) 関口敦子, 中井章人, 奥田尚貴, 林昌子, 印出佑介, 橋本恵理子, 山岸絵美, 川端伊久乃, 深見武彦, 石川 源, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 破水は常位胎盤早期剥離の予後を改善する. 日本産科婦人科学会 (第66回), 2014. 4.
- 5) 針金幸代, 柿栖睦実, 稲垣知子, 田村俊之, 佐藤杏月, 山口道子, 間瀬有里, 西田直子, 立山尚子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文 : 先天性QT延長症候群合併妊娠の1例. 日産婦学会関東連合地方部会 (長野), 2014. 6.
- 6) 飯田朝子, 柿栖睦美, 土居大祐, 伊藤友希, 針金幸代, 川端英恵, 山口道子, 間瀬有里, 西田直子, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島隆, 朝倉啓文 : 卵巣 dermoid cyst 術後に短期間で急速に腫大した卵巣 yolk sack tumor の1例. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会 (406回) (横浜), 2014. 7.
- 7) 松村好克, <sup>1)</sup>, 矢代健太郎, <sup>1)</sup>, 一木邦彦, <sup>1)</sup>, 松川昇平<sup>1)</sup>, 鳥義雄, <sup>1)</sup>, 深見武彦, <sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>) 小児内科, <sup>2)</sup> 女性診療科・産科) : 胎児心拍数モニター異常を示した先天性筋強直性ジストロフィーの1例. 日本周産期新生児医学会 (第56回) (千葉), 2014. 7.
- 8) 深見武彦, 柿栖睦美, 間瀬有里, 川端伊久乃, 山口道子, 朝倉啓文, 竹下俊行 : 子宮頸部円錐切除後妊娠における頸管長と頸管腺領域像 (Cervical gland area) を指標とした早産予防. 日本周産期新生児医学会 (第56回) (千葉), 2014. 7.
- 9) 小谷野麻耶, 深見 隆, 伊藤友希, 飯田朝子, 針金幸代, 川端英恵, 柿栖睦実, 山口道子, 間瀬有里, 興石太郎, 川端伊久乃, 松島隆, 土居大祐, 朝倉啓文 : 妊娠中期に診断した胎児腋窩リンパ管腫瘍合併妊娠の1例. 日産婦学会神奈川産科婦人科学 (第407回) (川崎), 2014. 9.
- 10) Kawabata I<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup>, Inoue Y<sup>2)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Fukami T<sup>1)</sup>, Asakura H<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Japan, <sup>2</sup>) Inoue Ladies Clinic, Tokyo, Japan) : Regular maternal exercise training prevents exacerbation of arterial stiffness. The 46th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy and The 35th Meeting of Japan Spcoety for the Study of Hypertention in Pregnancy (Tokyo), 2014. 9.
- 11) 許田典男<sup>1)</sup>, 前本直子<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 中村祐司<sup>1)</sup>, 川上陽子<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>3)</sup>, 北山康彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>) 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科, <sup>2</sup>) 日本医科大学統御機構診断病理学, <sup>3</sup>) 日本医科大学女性診療科・産科) : 腹水細胞診にて診断に苦慮した胞巣型横紋筋肉腫の1例. 神奈川県臨床細胞学会学術集会 (第33回), 2014. 10.
- 12) 山田 隆<sup>1)</sup>, 島津絢子<sup>4)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>2)</sup>, 高屋 茜<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>3)</sup>, 羽鳥 務<sup>4)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, <sup>2</sup>) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>3</sup>) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>4</sup>) 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 若年子宮体癌の高用量黄体ホルモン療法における経時的な内膜細胞像の検討. 日本臨床細胞学会総会 (第55回), 2014. 6.
- 13) 飯田朝子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>2)</sup>, 鴨井青龍<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>3)</sup>, 寺崎美佳<sup>4)</sup>, 大橋隆治<sup>5)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2</sup>) 日本医科大学千葉北総病院産婦人科, <sup>3</sup>) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>4</sup>) 日本医科大学付属病理解析人体病理, <sup>5</sup>) 日本医科大学付属病院病理部) : 卵巣子宮内膜症に合併した境界悪性類内膜腫瘍の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第127回), 2014. 6.
- 14) 泰井幸代, 稲垣知子, 田村俊行, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 山口道子, 間瀬有里, 西田直子, 立山尚子, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓

- 文：先天性QT延長症候群合併妊娠の1例。関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第127回），2014。6。
- 15) 米山剛一<sup>1)</sup>，飯田朝子<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，岩崎奈央<sup>1)</sup>，加藤雅彦<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，寺崎美佳<sup>2)</sup>，大橋隆治<sup>3)</sup>，山本晃人<sup>4)</sup>，山田 隆<sup>4)</sup>，鴨井青龍<sup>4)</sup>，土居大祐<sup>5)</sup>，朝倉啓文<sup>5)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学解析人体病理，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院病理部，<sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科，<sup>5)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科）：病理診断に苦慮した境界悪性類内膜腫瘍の1例。日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第56回）（栃木），2014。7。
  - 16) 飯田朝子，川瀬里衣子，加藤雅彦，岩崎奈央，黒瀬圭輔，米山剛一，彭 為霞，内藤善哉，竹下俊行（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理学（統御機構・腫瘍学））：Peutz-Jeghere 症候群に合併した子宮頸部腺癌の1例。日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第56回），2014。7。
  - 17) 柿栖陸実，佐藤杏月，山口道子，松島 隆，土居大祐，北山康彦，朝倉啓文（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院病理部）：局所再発した子宮頸部乳頭状扁平上皮癌の1例。日本婦人科腫瘍学会学術講演会（第56回），2014。7。
  - 18) 伊藤友希<sup>1)</sup>，間瀬有里<sup>1)</sup>，飯田朝子<sup>1)</sup>，針金幸代<sup>1)</sup>，川端英恵<sup>1)</sup>，柿栖陸実<sup>1)</sup>，山口道子<sup>1)</sup>，輿石太郎<sup>1)</sup>，川端伊久乃<sup>1)</sup>，深見武彦<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，朝倉啓文<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 女性診療科・産科）：一絨毛膜二羊膜性双胎（MD twin）一児死亡の緊急腹帝王切開術後に診断された拡張型心筋症の1例。日本医科大学医学会総会（第82回），2014。9。
  - 19) Peng W<sup>1)</sup>，Kudo M<sup>1)</sup>，Fujii T<sup>1)</sup>，Teduka K<sup>1)</sup>，Takaya A<sup>2)</sup>，Kurose K<sup>2)</sup>，Yoneyama K<sup>2)</sup>，Naito Z<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Integrated Diagnostic Pathology，<sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology）：p16-positive gastric type adenocarcinoma in uterine cervix : a case report. The 18th Japan-Korea-Taiwan Joint Conference for Gynecological Pathology (the 18th) (Taipei Taiwan), 2014. 5。
  - 20) 福永ヒトミ<sup>1)</sup>，望月瑠美<sup>1)</sup>，佐々木友美<sup>1)</sup>，金子佳世<sup>1)</sup>，八木 孝，木佐森舞夕，石川真由美，糸井博美<sup>2)</sup>，南 史朗<sup>3)</sup>，朝倉啓文<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院看護部，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院女性診療科・産科，<sup>3)</sup> 日本医科大学大学院生体機能統御学）：妊娠糖尿病患者の産後の耐糖能障害の検討。日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会（第30回）（長崎），2014。11。
  - 21) Iida A<sup>1)</sup>，Yoneyama K<sup>1)</sup>，Kato M<sup>1)</sup>，Kawase R<sup>1)</sup>，Kurose K<sup>1)</sup>，Doi D<sup>1)</sup>，Peng W<sup>2)</sup>，Naito Y<sup>2)</sup>，Takeshita T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理学（統御機構・腫瘍学））：A CASE OF CERVICAL ADENOCARCINOMA ASSOCIATED WITH PEUTZJEGHERS SYNDROME. INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (Melbourne, Australia), 2014. 11。
  - 22) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，松井遼子<sup>1)</sup>，岩崎奈央<sup>1)</sup>，大内 希<sup>1)</sup>，山本晃人<sup>2)</sup>，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，山田 隆<sup>2)</sup>，土居大祐<sup>3)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>2)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院産婦人科，<sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科）：子宮頸部細胞診において Atypical Glandular Cells (AGC) と判定された症例の検討。日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京），2014。4。
  - 23) Yoneyama K<sup>1)</sup>，Yamamoto A<sup>1)</sup>，Tsunoda Y<sup>1)</sup>，Kawase R<sup>1)</sup>，Yamada T<sup>1)</sup>，Kurose K<sup>1)</sup>，Doi D<sup>1)</sup>，Kamoi S<sup>1)</sup>，Takeshita T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：PREOPERATIVE DIAGNOSIS OF SQUAMOUS CELL CARCINOMA ARISING FROM MATURE CYSTIC TERATOM. 15th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (Melbourne, Australia), 2014. 11。
  - 24) Yamamoto A, Ikeda M, Kamoi S, Yamada T, Yoneyama K, Kawase R, Kurose K, Takeshita T（<sup>1)</sup> Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Performance of the autonomic nerve-sparing method in radical hysterectomy. 15th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (Melbourne, Australia), 2014. 11。
  - 25) Kurose K<sup>1)</sup>，Kato M<sup>1)</sup>，Iwasaki N<sup>1)</sup>，Yamamoto A<sup>1)</sup>，Kawase R<sup>1)</sup>，Yamada T<sup>1)</sup>，Doi D<sup>1)</sup>，Yoneyama K<sup>1)</sup>，Kamoi S<sup>1)</sup>，Takeshita T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan）：Atypical glandular cells (AGC) of cervical cytology. 15th BIENNIAL MEETING OF THE INTERNATIONAL GYNECOLOGIC CANCER SOCIETY (Melbourne, Australia), 2014. 11。
  - 26) 米山剛一<sup>1)</sup>，鴨井青龍<sup>2)</sup>，峯 克也<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，山田 隆<sup>2)</sup>，山本晃人<sup>1)</sup>，内山美穂子<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>3)</sup>，羽鳥 務<sup>4)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院病理診断科，<sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部）：細胞診が診断の契機となった placental site trophoblastic tumor 1 症例の病理学的検討。日本絨毛性疾患研究会 2014.10.3-4（第32回）（京都），2014。10。
  - 27) 米山剛一<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，高屋 茜<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，寺崎美佳<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，<sup>2)</sup> 日本医科大学解析人体病理）：子宮頸部乳頭状扁平上皮癌の1例。日本臨床細胞学会総会春季大会（第55回）（横浜），2014。6。
  - 28) 杉田洋佑<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，米澤美令<sup>1)</sup>，白井有香<sup>1)</sup>，渡邊建一郎<sup>1)</sup>，大内 望<sup>1)</sup>，桑原慶充<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科）：子宮峡部妊娠1症例の臨床病理学的検討。日本胎盤学会学術集会（第22回）（京都），2014。10。
  - 29) 内山美穂子<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，加藤雅彦<sup>1)</sup>，黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，竹下俊行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科）：子宮内膜異型増殖症を併発した漿液性卵巣境界悪性腫瘍の1例。第371回東京産科婦人科学会例会（東京），2014。9。

- 30) 齋藤桃子, 山本晃人, 川瀬里衣子, 杉田洋祐, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科): 直接トロンピン阻害剤内服中に大量性器出血をきたし緊急手術を要した子宮体癌の1例. 第373回東京産科婦人科学会婦人科学会例会(東京), 2015. 2.
- 31) 川瀬里衣子, 黒瀬圭輔, 関根仁樹, 可世木華子, 小野修一, 峯 克也, 市川雅男, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 当院で経験した腹腔鏡下子宮体がん根治手術の後方視的検討. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(第54回)(鹿児島), 2014. 9.
- 32) 内山美穂子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 寺崎美佳<sup>2)</sup>, 彭 為霞<sup>3)</sup>, 石井英昭<sup>3)</sup>, 大橋隆治<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院産婦人科, 2) 日本医科大学解析人体病理, 3) 日本医科大学付属病院病理診断科): 偶発的に発見された子宮頸部中腎管腺癌の1例. 関東連合産科婦人科学会(第128回)(松本), 2014. 10.
- 33) 杉田洋祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 米澤美令<sup>1)</sup>, 白井有香<sup>1)</sup>, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 大内 望<sup>1)</sup>, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 寺崎美佳<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学産婦人科, 2) 日本医科大学解析人体病理): 子宮峡部に胎嚢を認め帝王切開痕部妊娠との鑑別が困難であった1例. 関東連合産科婦人科学会(第128回)(松本), 2014. 10.
- 34) 杉田洋祐, 米山剛一, 米澤美令, 白井有香, 渡邊建一郎, 大内 望, 桑原慶充, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科): 帝王切開痕部へと進展した子宮峡部妊娠の1例. 日本医科大学医学会総会(第82回)(東京), 2014. 9.
- 35) 加藤雅彦, 川瀬里衣子, 飯田朝子, 岩崎奈央, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医科大学女性診療科・産科): 卵巣転移を呈した腔扁平上皮癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会(第56回)(栃木), 2014. 7.
- 36) 寺崎美佳<sup>1)</sup>, 寺崎泰弘<sup>1)</sup>, 若松恭子<sup>1)</sup>, 桑原尚美<sup>1)</sup>, 高橋美紀子<sup>1)</sup>, 永坂真也<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ<sup>1)</sup>, 漆山博和<sup>1)</sup>, 野村俊一郎<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学解析人体病理, 2) 日本医科大学女性診療科・産科): 子宮ポリープ状異型腺筋腫(atypical polypoid adenomyoma)および子宮頸内膜癌における survivin 発現の検討. 日本病理学会(第103回)(広島), 2014. 4.
- 37) 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, ポンウエイシヤ<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科, 2) 日本医科大学病理学(統御機構・腫瘍学)): Peutz-Jeghers 症候群合併若年女性に発症した子宮頸部腺癌の1例. 日本臨床細胞学会総会春季大会(第55回)(横浜), 2014. 6.

## 論文

### [追加分]

追加分原著:

- 1) Sato A, Ishikawa T, Matsuda Y, Yamamoto, Asakura H, Takeshita T, Naito Z: Expression and role of nestin in human cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. *Int J Oncol* 2012; 41 (2): 441-448.
- 2) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Konishi H<sup>2)</sup>, Yahata T<sup>3)</sup>, Fujita K<sup>3)</sup>, Aoki Y<sup>4)</sup>, Doi D<sup>1)</sup>, Matsushima T<sup>1)</sup>, Kodama S<sup>5)</sup>, Honma S<sup>5)</sup>, Kato H<sup>6)</sup>, Nakayama H<sup>6)</sup>, Kamoi S<sup>1)</sup>, Asakura H<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>3)</sup> (1) Nippon Medical School, 2) Kato women's clinic, 3) Niigata University, 4) Ryukyus University, 5) Niigata prefecture cancer center hospital, 6) Kanagawa cancer center hospital): A phase II study of paclitaxel and carboplatin with a biweekly schedule in patients with epithelial ovarian cancer; Gynecologic cancer network trial. *J Nippon Med Sch* 2014; 81 (1): 28-34.
- 3) 飯田朝子<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 田村俊之<sup>1)</sup>, 小野修一<sup>1)</sup>, 市川雅男<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科): 初経から6年後に腔留膿症を呈した子宮奇形の1例. *東京産科婦人科学会誌* 2014; 63 (1): 155-158.
- 4) 松井遼子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 今道小百合<sup>1)</sup>, 可世木華子<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科): Gliomatosis Peritonei の合併を認めた卵巣未熟奇形腫の1例. *東京産科婦人科学会誌* 2014; 63 (2): 357-360.

追加分症例報告:

- 1) 角田陽平<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 中西一步<sup>1)</sup>, 伊藤麻利江<sup>1)</sup>, 村川裕子<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 永野玲子<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>2)</sup>, 平野孝幸<sup>2)</sup>, 羽鳥 努<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 術前に強く悪性転化を疑った卵巣成熟嚢胞性奇形腫の1例. *関東連合産科婦人科学会誌* 2014; 51 (1): 39-43.

## 学会発表

追加分一般講演:

- 1) 柿栖睦実, 田村俊之, 佐藤杏月, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 西田直子, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: やせ妊婦と妊娠中の体重増加と早産の関係. 日本産科婦人科学会(第66回)(東京), 2015. 4.
- 2) 深見武彦, 西田直子, 立山尚子, 稲垣知子, 田村俊之, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 子宮頸部円錐切除後妊娠における頸管長の経時的観察と早産予測. 日本産科婦人科学会(第66回)(東京), 2015. 4.



- 3) 伊藤友希, 山口道子, 柿栖睦実, 飯田朝子, 佐藤杏月, 針金幸代, 川端英恵, 深見武彦, 川端伊久乃, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文: 脊髄損傷合併妊娠の1例. 日産婦学会神奈川地方部会(第408回)(平塚), 2015. 10.

追加特別講演:

- 1) 朝倉啓文: 早産リスクと子宮頸管の超音波所見. 葛飾区産婦人科医会集団会(東京), 2015. 6.

## [多摩永山病院女性診療科・産科]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。(1) 妊婦とスポーツ: 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的及び精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ, 脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古, 母乳栄養確立母体の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて, 興味深い成績をあげている。(2) 周産期領域: 臨床面では, 妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し, 超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母体腎・肝臓の観察では新たな視点から, 妊娠高血圧症候群, 胎児心拍数図の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与などの治療を行い早産の予防効果を上げている。また, 胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内エネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 中井章人<sup>1)</sup>, 伊藤 進<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学産婦人科, 2) 香川大学小児科): 座長のまとめ: シンポジウム9「生殖補助医療と周産期・小児医療」. 周産期新生児誌 2014; 50 (1): 93-93.
- 2) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>2)</sup>, Matsushima T<sup>3)</sup>, Reiko K<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Asakura H<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of obstetrics and Gynecology, Nippon medical School Hospital, 2) Department of obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tama, Tokyo, 3) Department of obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Kanagawa, Japan): An experience of 29 years: Clinical characteristics of amniotic fluid embolism. Journal of obstetrics and Gynecology Research 2014; 40 (7): 1862-1870.
- 3) Hayashi M<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>2)</sup>, Matsuda Y<sup>3)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Maternal and Perinatal Care Center, Oita Prefectural Hospital, Oita, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, International University of Health and Welfare, Tochigi, Japan): The Effect of Single Embryo Transfer on Perinatal Outcomes in Japan. Int J Med Sci 2015; 12 (1): 57-62.
- 4) Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Ikeda T<sup>2)</sup>, Okamura K<sup>3)</sup>, Nakai A<sup>4)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan, 2) Department of Obstetrics and Gynecology Mie University, Mie, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tohoku Kosai Hospital, Miyagi, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital, Tokyo, Japan): Safety of induced abortions at less than 12 weeks of pregnancy in Japan. Int J Gynaecol Obstet 2014; 129 (1): 54-57.
- 5) Yamada T<sup>1)</sup>, Abe K, Baba Y, Inubashiri E, Kawabata K, Kubo T, Maegawa Y, Fuchi N, Nomizo M, Shimada M, Shiozaki A, Hamada H, Matsubara S, Akutagawa N, Nakai A, et al. (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine): Vaccination During the 2013-2014 influenza season in pregnant Japanese women. Eur J Clin Microbiol Infect Dis 2014; 34 (3): 543-548.
- 6) Minakami H<sup>1)</sup>, Kubo T<sup>2)</sup>, Nakai A<sup>3)</sup>, Saito S<sup>4)</sup>, Unno N<sup>5)</sup> (1) Department of Obstetrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan, 2) Department of Obstetrics, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 4) Department of Obstetrics and Gynecology, University of Toyama, Toyama, Japan, 5) Department of Obstetrics and Gynecology, Kitasato University, Kanagawa, Japan): Pregnancy outcomes of women exposed to laninamivir during pregnancy. Pharmacoevidiol Drug Saf 2014; 23 (10): 1084-1087.
- 7) Yoneyama K<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>2)</sup>, Matsushima T<sup>3)</sup>, Kawase R<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>2)</sup>, Asakura H<sup>3)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, Tama, Tokyo, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Kanagawa, Japan): Clinical characteristics of amniotic fluid embolism: An experience of 29 years. J Obstet

Gynaecol Res 2014 ; 40 (7) : 1862-1870.

- 8) Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup>, Okuda N<sup>1)</sup>, Innede Y<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, Tama Nagayama Hospital ) : Consecutive Cervical Length Measurements as a Predictor of Preterm Cesarean Section in Complete Placenta Previa. J Clin Ultrasound 2015 ; 43 (1) : 17-22.
- 9) Fujimori K<sup>1)</sup>, Kyozuka H, Yasuda S, Goto A, Ota M, Ohtsuru A, Nomura Y, Hata K, Suzuki K, Nakai A, Sato M, Matsui S, Nakano K, Abe M ( <sup>1)</sup> Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey ) : Pregnancy and birth survey after the Great East Japan Earthquake and Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident in Fukushima prefecture. : Pregnancy and Birth Survey Group of the Fukushima Health Management Survey. Fukushima J Med Sci 2014 ; 60 (1) : 75-81.
- 10) Suzuki S<sup>1)</sup>, Tanaka M, Matsuda H, Tsukahara Y, Kuribayashi Y, Gomibuchi H, Miyazaki R, Kamiya N, Nakai A, Kinoshita K ( <sup>1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, Tateishi, Katsushika-ku, Japan ) : Instruction of feeding methods to Japanese pregnant women who cannot be confirmed as HTLV-1 carrier by western blot test. J Matern Fetal Neonatal Med 2014 ; 27 (13) : 1392-1393.
- 11) Hayakawa M<sup>1)</sup>, Ito Y, Saito S, Missuda N, Hosono S, Yoda H, Cho K, Otsuki K, Ibara S, Terui K, Matsumoto K, Murakoshi T, Nakai A, Tanaka M, Nakamura T ( <sup>1)</sup> Division of Neonatology, Center for Maternal-Neonatal care, Nagoya University Hospital, Nagoya, Japan ) : Incidence and prediction of outcome in hypoxic-ischemic encephalopathy in Japan. Executive Committee, Symposium on Japan Society of Perinatal and Neonatal Medicine. Pediatr Int. 2014 ; 56 (2) : 215-221.

(2) 総説 :

- 1) 中井章人 : 輸血の遅れと母体死亡 : 母体輸血対策 ; 特集 : 周産期における出血対策と輸血. 周産期医学 2014 ; 44 (5) : 657-661.
- 2) 関口敦子 : 出血をきたす疾患 : 治療のコツ : 前置胎盤の治療のコツ ; 母体出血対策 ; 特集 : 周産期における出血対策と輸血. 周産期医学 2014 ; 44 (5) : 593-597.
- 3) 林 昌子, 中井章人 : 不妊治療と周産期医療のかかわり ; ART マスターたちの治療戦略 ; 現代生殖医療のメインストリーム. 産婦人科の実際 臨時増刊号 2014 ; 63 (11) : 1446-1451.
- 4) 中井章人 : 5. 新型インフルエンザから学んだこと ; I. 概論 ; 周産期感染症 2014. 周産期医学 2014 ; 44 (増刊) : 20-25.
- 5) 橋本恵理子, 林 昌子, 中井章人 : 常位胎盤早期剥離 ; 合併症の管理 ; 特集 : 妊娠高血圧症候群 UPDATE. 周産期医学 2014 ; 44 (11) : 1521-1524.
- 6) 中井章人 : 1. 妊婦検診の今後の動向 ; 特集 : ワンランク上の妊婦検診. 産科と婦人科 2015 ; 82 (1) : 7-12.
- 7) 林 昌子, 中井章人 : 多胎の最新疫学 ; 特集 : 多胎妊娠 2015. 周産期医学 2015 ; 45 (1) : 5-8.
- 8) 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科 ) : 3. 細菌性膣症, 頸管炎, 絨毛膜羊膜炎 ; A. 妊娠中の母体異常・胎児異常 ; 第1章 周産期分野 ; 特集 : よくわかる検査と診断. 三課と婦人科 2015 ; 82 (増刊) : 14-18.

(3) 症例報告 :

- 1) 齋藤桃子, 林 昌子, 橋本恵理子, 新村裕樹, 川端英恵, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 子宮体癌の術後補助化学療法中に洞不全症候群をきたした1例. 東京産婦会誌 2014 ; 63 (2) : 272-276.
- 2) 橋本恵理子, 林 昌子, 齋藤桃子, 新村裕樹, 川端英恵, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 悪性腫瘍と鑑別が困難であった黄色肉芽腫性炎症の1例. 東京産婦会誌 2014 ; 63 (3 (別刷)) : 451-454.
- 3) 原田寛子, 林 昌子, 寺田佳世子, 島田 学, 神戸沙織, 山岸絵美, 橋本恵理子, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人 : 胎盤遺残の診断に苦慮した2症例. 東京産婦会誌 2015 ; 64 (1) : 86-90.
- 4) 浅見敬一<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 産婦人科, <sup>3)</sup> 日本医科大学消化器外科 ) : 腹腔鏡下脾臓摘出術を施行した卵巣癌術後孤立性脾転移の1例. 日医大医学会誌 2015 ; 11 (1) : 25-28.

著 書

- 1) 中井章人 : [分担] 前置胎盤 低置胎盤 ; 産婦人科疾患. 今日の治療指針 ; 私はこうして治療している ; TODAY'S THERAPY 2015 (山口徹, 北原光夫, 監修, 福井次矢, 高木 誠, 小室一成 総編集), 2015 ; pp1240-1240, 医学書院.
- 2) 中井章人 : [分担] 羊水塞栓 ; 産婦人科疾患. 今日の治療指針 ; 私はこうして治療している ; TODAY'S THERAPY 2015 (山口徹, 北原光夫監修, 福井次矢, 高木誠, 小室一成 総編集), 2015 ; pp1248-1248, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 中井章人 : ii 切迫早産と常位胎盤早期剥離の鑑別 ; ②常位胎盤早期剥離をいかに早く診断するか ; 2. 産科医療補償制度原因分析委員

- 会報告から（日本産婦人科医会共同プログラム 症例から学ぶシリーズ（1））. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京都），2014. 4.
- 2) 中井章人：常位胎盤早期剥離とCTGの判読を中心に；産科医療補償制度原因分析報告書からみた脳性麻痺. 江戸川・江東・千葉西ブロック産婦人科医会合同卒後研修会（東京都），2014. 6.
  - 3) 中井章人：切迫早産UPDATE. 平成26年度 東京リバーサイド病院研修会（東京都），2014. 7.
  - 4) 中井章人：母体大量出血時の対応. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（東京都），2014. 9.
  - 5) 中井章人：「CTGの判読」脳性麻痺の事例検討から. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（東京都），2014. 9.
  - 6) 中井章人：胎児心拍モニタリングの判読ポイント. 社）埼玉県助産師会安全対策委員会&助産所部会共催（埼玉県），2014. 9.
  - 7) 中井章人：脳性麻痺の事例検討. 社）埼玉県助産師会安全対策委員会&助産所部会共催（埼玉県），2014. 9.
  - 8) 中井章人：-地域連携強化と医療の標準化-；セミオープンシステムが周産期医療を変える. 高知県周産期医療研修会（高知県），2014. 10.
  - 9) 中井章人：母体大量出血時の対応. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（宮城県），2014. 11.
  - 10) 中井章人：「CTGの判読」脳性麻痺の事例検討から. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（宮城県），2014. 11.
  - 11) 中井章人：胎児心拍数モニターの判読と注意点. 平成26年度助産所部会企画「助産を極める」日本助産師会，2014. 11.
  - 12) 中井章人：「CTGの判読力を向上させよう」脳性麻痺事例から学ぶ. 南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第7回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第45回）（東京都），2014. 11.
  - 13) 中井章人：母体大量出血時の対応. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（石川県），2014. 12.
  - 14) 中井章人：「CTGの判読」脳性麻痺の事例検討から. 「助産業務ガイドライン2014」普及啓発研修会（石川県），2014. 12.
  - 15) 中井章人：助産業務ガイドライン2014-改訂のポイント；テーマ：「エキスパートによる助産師関連ガイドライン徹底解説」. 大阪母性衛生学会学術集会・研修会（第53回）（大阪府），2014. 12.
  - 16) 中井章人：産婦人科の動向と勤務医就労環境；産婦人科医療グランドデザイン2015（GD201）の策定に向けて. 平成26年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革公開フォーラム」（東京都），2015. 1.
  - 17) 中井章人：勤務医師の就労環境と女性医師の今後；テーマ：勤務医師の就労環境と女性医師の今後. 公益社団法人日本産婦人科医会記者懇談会（第83回）（東京都），2015. 1.
  - 18) 中井章人：母体大量出血時の対応；「CTGの判読」脳性麻痺の事例検討から；テーマ：助産実践能力を高める. 公益社団法人全国助産師教育協議会 助産学臨床指導者 専任教員研修会（東京都），2015. 2.
  - 19) 中井章人：子宮収縮薬を用いた陣痛誘発と陣痛促進の注意点. 南多摩エリア周産期医療ネットワークグループ検討会（第8回）および多摩産婦人科病診連携懇話会（第46回）（東京都），2015. 3.
  - 20) 中井章人：移り行く切迫早産の治療戦略. 北里大学病院周産母子成育医療センター周産期講演会（神奈川県），2015. 3.
  - 21) 中井章人：分娩監視CTG. 調布産婦人科医会研究会（東京都），2015. 3.
  - 22) 山岸絵美：大量腹水を来した卵巣癌の1例；症例2. 平成26年度日本医科大学多摩永山病院院内CPC（第4回）（東京都），2015. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) 中井章人：産婦人科医師の勤務実態と将来ビジョン；テーマ：産婦人科医師の勤務実態と将来ビジョン. 公益社団法人日本産婦人科医会 記者懇談会（第81回）（東京都），2014. 11.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 関口敦子：創造しよう，日本のお産の未来を；（セミオープンシステムが作る地域連携）. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京都），2014. 4.
- (4) セミナー：
- 1) 中井章人：チーム医療を成功させる5つの秘訣. 2014 TOG ナースセミナー（東京都），2014. 4.
  - 2) 石川 源：産科急変対応シュミレーション講習「君は母体を救命できるか!？」；（産婦人科 June seminar）. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第127回）（東京都），2014. 6.
  - 3) 石川 源：総合医・プライマリケア医が知るべき産科急変と母体管理の知識. 平成26年度ミニレクチャー（第14回）（東京都），2015. 3.
  - 4) 中井章人：産婦人科医師の勤務実態と将来ビジョン；社会をうごかす助産のちから：女性，母子と家への切れ目ない支援を実現するために. 日本助産学会学術集会（第29回）（東京都），2015. 3.
- (5) ワークショップ：
- 1) 神戸沙織<sup>1)</sup>，弓削主哉<sup>2)</sup>，石田洋一<sup>3)</sup>，大口昭英<sup>3)</sup>，松原茂樹<sup>3)</sup>，鈴木光明<sup>3)</sup>，齋藤 滋<sup>4)</sup>，瀧澤俊広<sup>2)</sup>，竹下俊一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学，<sup>2)</sup> 日本医大分子解剖学，<sup>3)</sup> 自治医大，<sup>4)</sup> 富山大）：ヒト胎盤特異的マイクロRNAはエクソソームを介して母体免疫細胞の遺伝子発現を修飾している；（胎盤関連の分子）. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会（第66回）（東京都），2014. 4.

- 2) 林 昌子：データベースからみた常位胎盤早期剥離：「常位胎盤早期剥離のインパクト」. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.
  - 3) 関口敦子：不定愁訴に対する漢方治療のコツ：「女性のプライマリーケア外来診療のコツ」. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.
  - 4) 中井章人：助産業務ガイドライン 2014：早期母子接触の注意点も含めて. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会プログラム (第 50 回) (千葉県), 2014. 7.
- (6) 一般講演：
- 1) 齋藤桃子<sup>1)</sup>, 米澤美令<sup>1)</sup>, 新村裕樹<sup>1)</sup>, 重見大介<sup>1)</sup>, 関根仁樹<sup>1)</sup>, 可世木華<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 八木幸恵<sup>1)</sup>, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 磯崎太一<sup>1)</sup>, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医大)：当院で経験した妊娠中発症・憎悪したうつ病合併妊娠の 3 症例. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
  - 2) 米山剛一<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 松島 隆<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医大)：発症時期に視点を置いた羊水塞栓症の臨床的特徴. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
  - 3) 関口敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 印出祐介<sup>1)</sup>, 橋本恵理子<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 深見武彦<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医大)：破水は常位胎盤早期剥離の予後を改善する. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
  - 4) 林 昌子<sup>1)</sup>, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 松田義雄<sup>2)</sup>, 佐藤昌可<sup>3)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医大, 2) 国際医療福祉大, 3) 大分県立病院)：日本産科婦人科学会の単一胚移植提唱が本邦の周産期医療に与えた影響. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
  - 5) 桑原慶充<sup>1)</sup>, 富山僚子<sup>1)</sup>, 米澤美令<sup>1)</sup>, 渡邊健一郎<sup>1)</sup>, 橋本恵理子<sup>1)</sup>, 小野修一<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医大)：周排卵期マウスにおけるオステオポンチンの発現誘導および作動性分子シグナリングに関する解析. 公益社団法人日本産科婦人科学会学術講演会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
  - 6) 橋本恵理子, 関口敦子, 齋藤桃子, 新村裕樹, 島田 学, 神戸沙織, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 中井章人：当院で過去 5 年間に緊急帝王切開術を施行した常位胎盤早期剥離症例の検討. 東京産科婦人科学会例会 (第 370 回) (東京都), 2014. 5.
  - 7) 新妻美紗, 橋本恵理子, 林 昌子, 齋藤桃子, 新村裕樹, 島田 学, 山岸絵美, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：子宮体部原発悪性リンパ腫の 1 症例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.
  - 8) 林 昌子<sup>1,2)</sup>, 大内 望<sup>2)</sup>, 桑原慶充<sup>2)</sup>, 関口敦子<sup>2)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1,2)</sup>, 苛原 稔<sup>1)</sup> (1) 厚労科学研究「生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証と生殖補助医療技術の標準化に関する研究」班, 2) 日本医科大学産婦人科)：ART データベースと周産期登録の連結 - ART による妊娠の周産期予後の解析に向けて：(合併症妊娠 2). 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 50 回) (千葉県), 2014. 7.
  - 9) 寺田佳代子<sup>1)</sup>, 伊藤麻利江<sup>1)</sup>, 重見大介<sup>1)</sup>, 中西一步<sup>1)</sup>, 宮崎美和<sup>1)</sup>, 柴田良枝<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 熊坂 栄<sup>2)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (1) 葛飾赤十字産院 産科, 2) 葛飾赤十字産院 小児科)：新生児短期予後からみた妊娠 37 週以降の双胎選択的帝王切開分娩. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会プログラム (第 50 回) (千葉県), 2014. 7.
  - 10) 原田寛子<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 寺田佳世子<sup>1)</sup>, 島田 学<sup>1)</sup>, 橋本恵理子<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> (1) 日医大 多摩永山病院 女性診療科・産科)：胎盤遺残の診断に苦慮した 2 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 371 回) (東京都), 2014. 9.
  - 11) 島田 学, 山岸絵美, 関口敦子, 齋藤桃子, 原田寛子, 神戸沙織, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 中井章人：癒着胎盤の感染から敗血症を発症し産褥 4 日目に子宮全摘術を余儀なくされた 1 例；I. 周産期と診断. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都), 2014. 9.
  - 12) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 山岸絵美, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 丹野正隆<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) LSI メディエンス, 3) 新百合ヶ丘総合病院, 4) 統御機構診断病理学)：悪性リンパ腫の再発を子宮頸管細胞診断にて推定し得た 1 例；I. 周産期と診断. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都), 2014. 9.
  - 13) 島田 学, 山岸絵美, 齋藤桃子, 原田寛子, 神戸沙織, 橋本恵理子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：癒着胎盤の感染から敗血症を発症し産褥 4 日目に子宮全摘術を余儀なくされた 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 128 回) (長野県), 2014. 10.
  - 14) 寺田佳世子, 原田寛子, 林 昌子, 島田 学, 神戸沙織, 山岸絵美, 橋本恵理子, 印出佑介, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：子宮内膜ポリープの感染に起因する SIRS に高容量ピルによる DVT を合併し治療に苦慮した 1 例. 平成 26 年度日本医科大学産科婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京都), 2014. 11.
  - 15) 小笠原純子, 印出佑介, 島田 学, 原田寛子, 神戸沙織, 山岸絵美, 橋本恵理子, 林 昌子, 奥田直貴, 石川 源, 関口敦子, 中井章人：切迫早産治療中に急激に発症した母体セラチア菌敗血症の 1 例. 東京産科婦人科学会例会 (第 372 回) (東京都), 2014. 12.

- 16) 倉品隆平：胎盤特異的 miRNA, miR-512-3p は Bewo 細胞においてカルシニューリン調節性サブユニット PPP3RI を標的とする。日本医科大学産婦人科学教室同窓会総会（第 27 回）（東京都），2015. 2.
- 17) 神戸沙織：エクソソーム中のヒト胎盤特異的 miR-517a-3p は Jurkat 細胞において PRKG1 の発現を調節している。日本医科大学産婦人科学教室同窓会総会（第 27 回）（東京都），2015. 2.
- 18) 寺田佳世子，原田寛子，林 昌子，島田 学，神戸沙織，山岸絵美，橋本恵理子，印出佑介，奥田直貴，石川 源，関口敦子，中井章人：子宮内膜ポリープの感染に起因する SIRS に高用量ピルによる DVT を合併し治療に苦慮した 1 例。東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会（第 28 回）並びに東京産科婦人科学会例会（第 373 回）（東京都），2015. 2.
- (7) 平成 26 年度医学研究奨励賞受賞者講演：
- 1) 印出佑介：日本人妊産婦の正常分娩における標準分娩曲線の作成。日本医科大学産婦人科学教室同窓会総会（第 27 回）（東京都），2015. 2.

## [千葉北総病院女性診療科・産科]

### 研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門，手術学部門，周産期学部門のそれぞれにおいて，主として臨床研究を行っている。婦人科腫瘍学部門では，若年者子宮体癌患者に対して，子宮を温存するために，高用量の黄体ホルモンを投与しているが，投与中の治療効果，すなわち，形態学的な組織の変化については，あまり知られていない。今回は，若年者子宮体癌患者の電子顕微鏡を使用して，治療中の超微形態の変化について研究を始めた。また，高用量黄体ホルモン療法による子宮温存療法患者に転移再発が認められたので，紙面で発表した。子宮癌肉腫の化学療法に関する臨床研究としてこれまで多施設共同研究として遂行してきたパクリタキセル，カルボプラチンの 3 週毎投与方法の結果がまとまり論文となった。手術学部門では，子宮頸癌に対する自律神経温存広汎性子宮全摘術の術式について研究し，その成果を学会に発表した。周産期部門では，成和会山口病院との共同で以下の研究を行った。一つは，周産期管理が向上した現代における一般分娩施設での産褥熱の動向について調査した。また，近年，本邦妊婦におけるサイトメガロウイルス（CMV）の保有率低下に伴い，重症の胎内感染症の増加が危惧されている。そこで，妊婦 CMV スクリーニング検査をおこなった。それぞれの成果につき，学会で発表を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kamoi S, Ito M<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Ishikawa A, Yamada T, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Relapse as Advanced Carcinosarcoma Following Uterus-Preserving Therapy in a Patient with Early-Stage and Grade 1 Endometrioid Adenocarcinoma : A Case Report and Review of the Literature. *Gynecology & Obstetrics* 2014 ; 4 (4).
- 2) Otuki A, Watanabe Y, Nomura H, Futagami M, Yokoyama Y, Shibata K, Kamoi S, Arakawa A, Nishiyama H, Katsuta W, Shimada M, Sato N, Kotera K, Katabuchi H, Yaegashi N : Paclitaxel and carboplatin in patients with completely or optimally resected carcinosarcoma of the uterus : a phase II trial by the Japanese Uterine Sarcoma Group and the Tohoku Gynecologic Cancer Unit. *International Journal of Gynecological Cancer* 2015 ; 25 (1) : 92-97.
- 3) Shigemi D, Ichikawa M<sup>1)</sup>, Ono S<sup>1)</sup>, Mine K<sup>1)</sup>, Akira S<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan) : Secure and quick transumbilical initial trocar insertion with skin hooks : The skin hook method. *Gynecology Minimally Invasive Therapy* 2015.
- 4) Shigemi D, Nakanishi K, Miyazaki M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital, Japan) : The Effect of the Gelatinous Lactulose for Postoperative Bowel Movement in the Patients Undergoing Cesarean Section. *International Scholarly Research Notices* 2014 ; 2014.

##### (2) 症例報告：

- 1) Shigemi D, Nakanishi K, Miyazaki M<sup>1)</sup>, Shibata Y<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital) : A case of Maternal Vitamin K Deficiency Associated with Hyperemesis Gravidarum ; its Potential Impact on Fetal Blood Coagulability. *Journal of Nippon Medical School* 2015 ; 82 (1) : 54-58.

### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>，山本晃人，川瀬里衣子<sup>1)</sup>，山田 隆，土居大祐<sup>1)</sup>，米山剛一<sup>1)</sup>，鴨井青龍，松原美幸<sup>2)</sup>，渡曾泰彦<sup>2)</sup>，大橋隆治<sup>2)</sup> (1) 日本

医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部): AGC 総論: 臨床の事項. 日本臨床細胞学会 (第 55 回) (神奈川県), 2014. 6.

(2) ワークショップ:

- 1) 山本晃人: 当院における神経温存広汎性子宮全摘術 (婦人科がん手術の工夫). 関東連合産科婦人科学会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.

(3) 一般講演:

- 1) 池田真利子, 山口 暁<sup>1)</sup>, 角田陽平, 花岡正智<sup>1)</sup>, 栗栖美穂<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 成和会山口病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): B 型肝炎母子感染予防対策の現状について. 日本産科婦人科学会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
- 2) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 松井遼子<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 大内 望<sup>1)</sup>, 山本晃人, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 山田 隆, 土居大祐<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 子宮頸部細胞診において Atypical Glandular Cells (AGC) と判定された症例の検討. 日本産科婦人科学会 (第 66 回) (東京), 2014. 4.
- 3) 山本晃人, 池田真利子, 角田陽平, 尾崎景子, 森 瑛子, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 後腹膜出血を来した Nut Cracker Syndrome の 1 例. 日本産科婦人科学会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
- 4) 飯田朝子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 山本晃人, 鴨井青龍, 土居大祐<sup>2)</sup>, 寺崎美佳<sup>3)</sup>, 大橋隆治<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院解析人体病理, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院病理部): 卵巣子宮内膜症に合併した境界悪性類内膜腫瘍の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.
- 5) 池田真利子, 山本晃人, 角田陽平, 森 瑛子, 尾崎景子, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍: 外陰部に発生した血管筋繊維芽細胞腫の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 127 回) (東京都), 2014. 6.
- 6) 山田 隆, 島津絢子<sup>1)</sup>, 山本晃人, 川瀬里衣子<sup>2)</sup>, 高谷 茜<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 土居大祐<sup>3)</sup>, 羽鳥 努<sup>1)</sup>, 鴨井青龍 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 若年子宮体癌の高用量黄体ホルモン療法における経時的な内膜細胞像の検討. 日本臨床細胞学会 (第 55 回) (神奈川県), 2014. 6.
- 7) 重見大介, 角田陽平, 永野玲子, 山口 稔<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 成和会山口病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 一般分娩施設における産褥熱 45 例の検討. 日本周産期・新生児医学会 (第 50 回) (千葉県), 2014. 7.
- 8) 角田陽平, 重見大介, 尾崎景子, 中田真理世, 村川裕子, 永野玲子, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 花岡正智<sup>2)</sup>, 山口 暁<sup>2)</sup>, 森田訓子<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 成和会山口病院, <sup>3)</sup> 小張総合病院耳鼻咽喉科): 新生児聴覚スクリーニングとその後の療育の現状について. 日本周産期・新生児医学会 (第 50 回) (千葉県), 2014. 7.
- 9) 重見大介, 印出佑介<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>2)</sup>, 江本龍生<sup>2)</sup>, 山口 稔<sup>2)</sup>, 山口 暁<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 成和会山口病院): 妊婦における抗サイトメガロウイルス IgG 抗体スクリーニング. 日本産科婦人科学会 (第 66 回) (東京都), 2014. 4.
- 10) 米山剛一<sup>1)</sup>, 飯田朝子<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 寺崎美佳<sup>2)</sup>, 大橋隆治<sup>2)</sup>, 山本晃人, 山田 隆, 鴨井青龍, 土居大祐<sup>3)</sup>, 朝倉啓文<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 病理診断に苦慮した境界悪性類内膜腫瘍の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 56 回) (栃木県), 2014. 7.
- 11) 角田陽平, 山田 隆, 池田真利子, 森 瑛子, 尾崎景子, 中田真理世, 山本晃人, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 羽鳥 努<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 卵管発生と考えられた成熟のう胞性奇形腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 56 回) (栃木県), 2014. 7.
- 12) 池田真利子, 山本晃人, 角田陽平, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 羽鳥 努<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 術前に診断し得た Angiomyofibroblastoma の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 56 回) (栃木県), 2014. 7.
- 13) 今道小百合, 山田 隆, 池田真利子<sup>1)</sup>, 浜野愛理, 尾崎景子, 森 瑛子, 中田真理世, 村川裕子, 山本晃人<sup>1)</sup>, 永野玲子, 渡辺美千明, 鴨井青龍 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 小腸転移をきたした子宮体癌の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 128 回) (長野県), 2014. 10.
- 14) 松橋智彦, 森 瑛子, 今道小百合, 重見大介, 尾崎景子, 中田真理世, 山田 隆, 渡辺美千明, 鴨井青龍: 水様性帯下が発見の契機となった子宮腺肉腫の 1 例. 千葉県産科婦人科医学会平成 26 年度冬期学術講演会 (千葉県), 2015. 1.
- 15) 村川裕子, 岩田衣世<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 女性生殖発達病態学): 雌ラット視床下部 KNDy ニューロンにおける kisspeptin, NKB, DynA の局在に関する免疫電子顕微鏡観察. 日本神経内分泌学会 (第 41 回) (東京都), 2014. 10.
- 16) 村川裕子, 岩田衣世<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. Anat. Neurobiol., Grad. Sch. Med., Nippon Med. Sch., Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Dept.

Obgyne., Grad. Sch. Med., Nippon Med. Sch., Tokyo, Japan) : 雌ラット KNDy ニューロンにおける kisspeptin, NKB, DynA の局在に関する免疫電子顕微鏡観察 Immunoelectron microscopic study on the subcellular localization of kisspeptin, neurokinin B and dynorphin A in KNDy neurons of the female rat. 日本解剖学会 (第 120 回) (兵庫県), 2015. 3.

## 23. 頭頸部・感覚器科学分野

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

分野の主たる研究領域は現状、鼻科学、免疫・アレルギー学、耳科学、めまい平衡医学、頭頸部外科学に関するものである。生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的研究方法を駆使して、質の高い基礎的・臨床的研究成果を目指している。この入力された業績の英文・和文論文、学会発表で示されている通り、様々な研究が症例報告を含めて、質の高い成果として国内・国外に示されている。2013年度に発表された英文原著は昨年度より減少し4であった(論文合計23, 和文原書4, 和文総説15, 厚労省研究報告1)。これらの数は減少しているものの、国内外の耳鼻咽喉科学教室の上位である。また分野主任が編集主幹した日本のアレルギー性鼻炎ガイドライン2013年度版は現在改訂準備中である。これらの活動を援助するための外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を獲得している。分野教授自身は厚生労働省科学研究費補助金事業の2つの組織の分担研究者も行き、継続中である。またアレルギー性鼻炎の舌下免疫療法の研究は継続して行っており、スギ花粉以外にもダニ抗原が実際に国内の薬剤製造承認を受けた。他の分野においても積極的に分野全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い、着実な成果を上げている。次年度も同じように質の高い、患者のためになる基礎的・臨床的研究を行っていききたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 石田麻里子, 吉岡友真, 若山 望, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): ダイナミックMRIによる耳下腺良性腫瘍の診断. 耳鼻臨床 2014; 107 (12): 987-991.
- 2) 吉野綾穂, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 稲井俊太, 原口美穂子, 大久保公裕: 副耳下腺腫瘍5手術例の成績. 頭頸部外科 2015; 24 (3): 317-321.
- 3) 大塚博邦<sup>1)</sup>, 高梨征雄<sup>2)</sup>, 大久保公裕 (1) 大塚耳鼻科, 2) 神奈川総合高校): スギ花粉症における鼻腔細菌と鼻汁細胞診: 季節前無症状群, 季節前発症群および季節中発症群の比較. アレルギー 2014; 62 (6): 689-697.
- 4) Okubo K, Okamasa A<sup>1)</sup>, Honma G<sup>1)</sup>, Komatsubara M<sup>1)</sup> (1) GSK): Efficacy and safety of fluticasone furoate nasal spray in Japanese children with perennial allergic rhinitis: a multisentre, randomized, double-blind, placebo-controlled trial. Allergol Int 2014; 63 (4): 543-551.
- 5) Hosoya K, Masuno S, Hashiguchi K<sup>1)</sup>, Okubo K (1) Futaba Clinic): Placebo-controlled study with OHIO chamber of prophylactic puranlukast for children with Japanese cedar pollinosis: TOPIC-J III study. J Drug Assessment 2014; 3 (6): 51-59.
- 6) 高井敏朗<sup>1)</sup>, 岡本美孝<sup>2)</sup>, 大久保公裕, 永田 真<sup>3)</sup>, 阪口雅弘<sup>4)</sup>, 福富友馬<sup>5)</sup>, 齋藤明美<sup>5)</sup>, 安枝 浩<sup>5)</sup>, 増山敬祐<sup>6)</sup> (1) 順天堂大, 2) 千葉大, 3) 埼玉医大, 4) 麻布獣医大, 5) 相模原病院, 6) 山梨大): ダニアレルギーワクチン標準化に関する日本アレルギー学会タスクフォース報告. アレルギー 2014; 63 (9): 1229-1240.
- 7) 國本泰臣<sup>1)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部感覚運動医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科): 中耳真珠腫に対する軟骨鼓室形成術の術後中期成績. Otology Japan (0917-2025) 2014; 24 (3): 233-239.
- 8) 渡邊健一, 大久保公裕: 喉頭癌組織におけるヒストン・タンパク修飾. 日医大医会誌 2014; 10 (5): 132-133.
- 9) 濱田聡子<sup>1)</sup>, 朝子幹也<sup>1)</sup>, 鳥野卓史<sup>1)</sup>, 大岡久司<sup>1)</sup>, 小林良樹<sup>1)</sup>, 神田 晃<sup>1)</sup>, 友田幸一<sup>1)</sup>, 後藤 穰, 大久保公裕 (1) 関西医科大学耳鼻咽喉科): 当科におけるスギ花粉症舌下免疫療法の検討. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 2014; 32 (2): 104-105.
- 10) 西村友枝<sup>1)</sup>, 佐伯真弓<sup>1)</sup>, 森 晶夫 晶<sup>2)</sup>, 後藤 穰, 大久保公裕, 神沼 修<sup>1)</sup>, 廣井隆親<sup>1)</sup> (1) 東京都医学総合研究所 花粉症プロジェクト, 2) 国立相模原病院): マウスにおける抗原誘発鼻粘膜過敏性亢進反応に対する抗アレルギー薬の作用. アレルギー 2014; 63 (3-4): 545-545.
- 11) 西村友枝<sup>1)</sup>, 佐伯真弓<sup>1)</sup>, 森 晶夫 晶<sup>2)</sup>, 後藤 穰, 大久保公裕, 神沼 修<sup>1)</sup>, 廣井隆親<sup>1)</sup> (1) 東京都医学総合研究所花粉症プロジェクト, 2) 国立相模原病院): マウスにおける抗原誘発鼻粘膜過敏性亢進反応に対する抗アレルギー薬の作用. アレルギー 2014; 63 (3-4): 545-545.

##### (2) 総説:

- 1) 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 耳鼻咽喉科領域疾患: アレルギー性鼻炎, 好酸球性副鼻腔炎, 中耳炎など. Progress in Medicine 2014; 34 (6): 1023-1027.
- 2) 松根彰志: アレルギー性鼻炎・花粉症とアレルギー免疫療法. 日本臨床内科医会誌 2014; 20 (1): 119-123.



- 3) 松根彰志：後鼻漏，後鼻漏感はどうしたら治るか？. JOHNS 2014；30（7）：857-860.
  - 4) 松根彰志：点鼻用血管収縮薬の正しい使い方. Progress in Medicine 2014；34（10）：1699-1701.
  - 5) 松根彰志：慢性副鼻腔炎・滲出性中耳炎. Respiratory Medical Research 2014；2（4）：33（245）-38（250）.
  - 6) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子：耳下腺深葉良性腫瘍の手術. 耳鼻咽喉科臨床 2015；108（2）：92-93.
  - 7) 横島一彦：下咽頭・喉頭全摘出術：甲状腺・副甲状腺の取り扱いも含めて. 頭頸部癌 2014；40（3）：314-317.
  - 8) 横島一彦，中溝宗永：唾液腺（耳下腺）腫瘍の画像診断. 耳喉頭頸 2014；86（5）：192-199.
  - 9) 松根彰志：顔が痛い（痛みの鑑別診断）. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2015；87（3）：212-215.
  - 10) Okubo K, Kurono Y<sup>1)</sup>, Fujieda S<sup>2)</sup>, Ogino S<sup>3)</sup>, Uchio E<sup>4)</sup>, Odajima H<sup>5)</sup>, Takenaka H<sup>6)</sup>（<sup>1)</sup> Kagoshima Univ, <sup>2)</sup> Fukui Univ, <sup>3)</sup> Osaka Univ, <sup>4)</sup> Fukuoka Univ, <sup>5)</sup> Fukuoka National Hosp, <sup>6)</sup> Osaka Mud College）：Japanese Guideline for Allergic Rhinitis 2014. Allergology Int 2014；63（3）：357-375.
  - 11) 大久保公裕，村山貢司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 気象業務支援センター）：花粉症と大気汚染. アレルギー・免疫 2014；21（10）：1520-1526.
  - 12) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の神経・生理・免疫学的アプローチの最前線 神経学的側面から. 耳鼻咽喉科ニューロサイエンス 2014；28（1）：6-7.
  - 13) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法. 感染・炎症・免疫 2014；44（1）：81-85.
  - 14) Ohta N<sup>1)</sup>, Ishida A<sup>1)</sup>, Kurakami K<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Kakehata S<sup>1)</sup>, Ono J<sup>2)</sup>, Ikeda H<sup>3)</sup>, Okubo K, Izuhara K<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> Yamagata Univ, <sup>2)</sup> Shio-test Corp, <sup>3)</sup> Wakayama Med Center, <sup>4)</sup> Saga Med Sch）：Expression and roles of periostine in otolaryngological disease. Allergology Int 2014；63（2）：171-180.
  - 15) 大久保公裕：花粉症治療最前線. 公衆衛生 2014；78（2）：116-120.
  - 16) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の現状とスポーツ活動における対策. スポーツ医学 2014；31（8）：760-763.
  - 17) 大久保公裕：舌下免疫療法：小児への適応拡大. 日本小児アレルギー誌 2014；28（3）：313-319.
  - 18) 大久保公裕：花粉症：その原因物質とメカニズム. モダンメディア 2014；60（12）：351-355.
  - 19) 大久保公裕：免疫療法中にショックを生じた. JOHNS 2014；30（9）：1249-1252.
  - 20) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の臨床研究：pathophysiology and immunology. アレルギー 2014；63（10）：1317-1324.
  - 21) 後藤 稔：アレルギー性鼻炎の薬物療法の有効性評価法. アレルギー・免疫 2015；22（2）：276-283.
  - 22) 後藤 稔：舌下免疫療法の実践. 日本鼻科学会誌 2014；53（1）：42-42.
  - 23) 後藤 稔：舌下免疫療法の実践と展望. 日本鼻科学会誌 2014；53（3）：253-253.
  - 24) 後藤 稔：スギ花粉症の舌下免疫療法. 喘息 2014；27（2）：219-222.
  - 25) 後藤 稔：舌下免疫療法は根治療法となるか. Progress in Medicine 2014；34（10）：1713-1718.
  - 26) 後藤 稔：舌下免疫療法の実践. アレルギー 2014；63（3-4）：483-483.
  - 27) 後藤 稔：対スギ花粉症 新治療戦略；抗ヒスタミン薬・鼻噴霧用ステロイド薬併用療法の有効性. アレルギー 2014；63（3-4）：469-469.
  - 28) 後藤 稔：スギ花粉症における舌下免疫療法. 日本職業・環境アレルギー学会雑誌 2014；22（1）：41-41.
  - 29) 後藤 稔：スギ花粉症に対する舌下免疫療法. アレルギー・免疫 2014；21（7）：1094-1101.
  - 30) 後藤 稔：アレルギー用語解説シリーズ；QOL 評価. アレルギー 2014；63（5）：695-696.
  - 31) 後藤 稔：アレルギー疾患におけるアレルギー再考. 小児科診療 2014；77（10）：1329-1335.
- (3) 症例報告：
- 1) 小町太郎<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>2)</sup>，山口 智<sup>1)</sup>，門園 修<sup>2)</sup>，中村 毅<sup>1)</sup>，粉川隆行<sup>1)</sup>，愛野威一郎<sup>1)</sup>，木村 繁<sup>3)</sup>，伊藤裕之<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科頭頸部・感覚器科学，<sup>2)</sup> 東京女子医科大学八千代医療センター 耳鼻咽喉科，<sup>3)</sup> 木村耳鼻咽喉科小児科医院）：第2鰓溝の遺残による内瘻孔が原因であった扁桃周囲および深頸部膿瘍の1例. 日本気管食道科学会会報 2015；66（1）：40-45.
  - 1) 渡辺建一，大久保公裕：喉頭癌組織におけるヒストン・タンパク修飾. 日医大誌 2014；10（3）：132-133.
  - 2) 藤倉輝道<sup>1)</sup>：わが国における臨床アレルギー学の卒前教育. アレルギー・免疫 2014；21（11）：15.

## 著 書

- 1) 大久保公裕：〔分担〕ステロイド鼻噴霧・吸入薬. 耳鼻咽喉科最新薬物療法マニュアル-選び方・使い方（市村恵一），2014；pp93-93, 中山書店.
- 2) 大久保公裕：〔分担〕第17章. 耳鼻咽喉科疾患 1. 突発性難聴. スポーツにおける薬物療法. 処方と服薬指導（日本臨床スポーツ医学会学術委員会編集），2014；pp321-323, オーム社.
- 3) 大久保公裕：〔分担〕第17章耳鼻咽喉科疾患 2. メニエール病. スポーツにおける薬物療法. 処方と服薬指導（日本臨床スポーツ医学会学術委員会編集），2014；pp324-326, オーム社.
- 4) 大久保公裕：〔自著〕第17章耳鼻咽喉科疾患 3. 花粉症. スポーツにおける薬物療法. 処方と服薬指導（日本臨床スポーツ医学会

学術委員会編集), 2014; pp327-330, オーム社.

- 5) 後藤 穰: [分担] 第4章 知っておきたい総合診療的アレルギーの知識; アレルギー性鼻炎・花粉症. イチから知りたいアレルギー診療 (大久保公裕 (編集)), 2014; pp106-115, 全日本病院出版会.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 小町太郎<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>2)</sup>, 山口 智<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>2)</sup>, 粉川隆行<sup>1)</sup>, 伊藤裕之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学 耳鼻咽喉科学教室, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学八千代医療センター 耳鼻咽喉科): 鼻咽腔の機能的な開閉調節機構ならびにその他の構音器官との協調性についての機能生理学的研究. 日本音声言語医学会 (第59回) (福岡), 2014. 10.

### (2) 教育講演:

- 1) 後藤 穰: 舌下免疫療法の実際. 日本アレルギー学会春期臨床大会 (第26回) (京都), 2014. 5.  
2) 後藤 穰: 舌下免疫療法の実際と展望. 日本鼻科学会 (第53回) (大阪), 2014. 9.

### (3) シンポジウム:

- 1) 横島一彦: 下咽頭・喉頭全摘出術 - 甲状腺・副甲状腺温存も含めて - . 頭頸部癌学会教育セミナー (第5回) (東京), 2014. 6.  
2) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 横島一彦, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 形成外科・美容外科): 当院における頭頸部再建術後合併症の解析と対応. 日本創傷外科学会 (第6回) (高松), 2014. 7.  
3) 大久保公裕: 舌下免疫療法の展開. アレルゲン免疫療法 update (EVS7). 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第26回) (京都), 2014. 5.  
4) 後藤 穰: 抗ヒスタミン薬・鼻噴霧用ステロイド薬併用療法の有効性 (対スギ花粉症: 新治療戦略). 日本アレルギー学会春期臨床大会 (第26回) (京都), 2014. 5.

### (4) パネルディスカッション:

- 1) 長谷川賢作<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 鳥取大学における真珠腫進展度分類の活用について. 日本耳科学会 (新潟), 2014. 10.

### (5) セミナー:

- 1) 山口 智: 当科で行っているVFの読影法と嚥下障害診療の実際. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 嚥下機能評価研修セミナー (第1回) (横浜市), 2014. 12.  
2) 松根彰志: アレルギー性鼻炎とロイコトリエン受容体拮抗薬. 日本アレルギー学会総合アレルギー講習会 (第1回) 教育セミナー (横浜市), 2014. 12.  
3) 松根彰志: 鼻粘膜, 副鼻腔粘膜における抗原特異的抗体産生とその臨床的意義. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第33回) (東京都), 2015. 2.  
4) 中溝宗永: 選択的頸部郭清術: 側頸部郭清術とSOND. 日本頭頸部癌学会 (第25回) (大阪市), 2015. 1.  
5) 後藤 穰: スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 日本職業・環境アレルギー学会 (福岡), 2014. 6.  
6) 後藤 穰: アレルギー性鼻炎治療の新展開. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第33回) (東京), 2015. 2.

### (6) ワークショップ:

- 1) 後藤 穰: 舌下免疫療法の実際. 日本耳鼻咽喉科学会総会 (第115回) (福岡), 2014. 5.  
2) 後藤 穰: 舌下免疫療法の実際. 日本鼻科学会 (第53回) (大阪), 2014. 9.  
3) 後藤 穰: 舌下免疫療法の実際. 日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会 (第28回) (横浜), 2014. 11.  
4) 後藤 穰: アレルギー性鼻炎 (免疫療法). 日本アレルギー学会総合アレルギー講習会 (第1回) (横浜), 2014. 12.

### (7) ポスター:

- 1) 若山 望, 関根久遠, 石田麻里子, 山口 智, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): アレルギー性鼻炎に対する当科における後鼻神経切断術について. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第33回) (東京都), 2015. 2.

### (8) 一般講演:

- 1) 山口 智, 若山 望, 吉岡友真, 石田麻里子, 関根久遠, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科): 慢性副鼻腔炎の保存的治療における鼻噴霧用ステロイドの併用効果について. 日本耳鼻咽喉科学会総会 (第115回) (福岡市), 2014. 5.  
2) Matsune S, Nozomu W, Sekine K, Yamaguchi S, Okubo K<sup>1)</sup>: Staphylococcus Aureus Enterotoxin and Fungi Specific IGE Production in Ethmoid Sinus Mucosa in Chronic Rhinosinusitis with Nasal Polyps. 25th Congress of the European Rhinologic Society in conjunction with 32th International Symposium of Infection & Allergy of the Nose (Amsterdam), 2014. 6.  
3) Wakayama N, Matsune S, Sekine K, Yamaguchi S, Yoshioka Y, Okubo K: Suppression of Inflammatory Cytokines from Cultured Epithelial Cells by CAM and EM900 in Chronic Rhinosinusitis with Nasal Polyps Cases. 25th Congress of the European

- Rhinologic Society in conjunction with 32th International Symposium of Infection & Allergy of the Nose (Amsterdam), 2014. 6.
- 4) 吉岡友真, 山口 智, 若山 望, 石田麻里子, 関根久遠, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 小児の睡眠時無呼吸症候群とアレルギー性鼻炎との関係について: 簡易モニターを用いた評価での検討. 耳鼻咽喉科臨床学会総会 (第 76 回) (盛岡市), 2014. 6.
  - 5) 若山 望, 吉岡友真, 石田麻里子, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 砂塚敏明<sup>2)</sup>, 大村 智<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 北里大学生命科学研究所): 鼻茸由来培養上皮細胞を用いた EM900 の有効性に関する検討. マクロライド新作用研究会 (第 21 回) (東京都), 2014. 7.
  - 6) 若山 望, 吉岡友真, 石田麻里子, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科): 慢性副鼻腔炎病態における黄色ブドウ球菌, 真菌の感作の問題について. 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会ならびに学術講演会 (第 2 回) (東京都), 2014. 9.
  - 7) 若山 望, 石田麻里子, 吉岡友真, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): カンジダ皮内反応陽性症例における副鼻腔炎術後経過の検討. 日本鼻科学会総会・学術講演会 (第 53 回) (大阪市), 2014. 9.
  - 8) 石田麻里子, 若山 望, 吉岡友真, 関根久遠, 山口 智, 木村まき, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科): 慢性副鼻腔炎篩骨洞粘膜におけるブ菌エンテロトキシン, 真菌特異的抗体の産生について. 日本鼻科学会総会・学術講演会 (第 53 回) (大阪市), 2014. 9.
  - 9) Matsune S, Nozomu W, Yamaguchi S, Sekine K, Ishida M, Yoshioka Y, Okubo K: Antigen-Specific Immunoglobulin Production in Ethmoid Mucosa in Refractory Chronic Rhinosinusitis With Nasal Polyps. AAO-HNSF ANNUAL MEETING & OTO EXPO (ORLAND), 2014. 9.
  - 10) 山口 智, 小町太郎<sup>1)</sup>, 永積 渉<sup>2)</sup>, 伊藤裕之<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup>, 門園 修<sup>3)</sup>, 武藤博之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup> 東京女子医科大学八千代医療センター耳鼻咽喉科): 有声子音 vs 無声子音発声時の咽頭運動. 日本音声言語医学会総会・学術講演会 (第 59 回) (福岡市), 2014. 10.
  - 11) 山口 智: 当科で行っている VF の読影法と嚥下障害診察の実際. 日耳鼻神奈川嚥下研究会 (第 16 回) (横浜市), 2014. 5.
  - 12) 関根久遠, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院): 当科初診患者における耳掃除・耳かきの傾向および耳鏡所見の検討. 日本耳科学会総会・学術講演会 (第 24 回) (新潟市), 2014. 10.
  - 13) 松根彰志, 若山 望, 関根久遠, 石田麻里子, 山口 智, 吉岡友真, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 当科における後鼻神経切断術の手法とその臨床的意義. 日本頭頸部外科学会総会 (第 25 回) (大阪市), 2015. 1.
  - 14) 石田麻里子, 稲井俊太<sup>1)</sup>, 酒主敦子<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 松根彰志, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 田中 健<sup>2)</sup>, 神尾友信<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科, <sup>2)</sup> 神尾記念病院): ガマ腫に対する舌下腺摘出術の有用性. 日本頭頸部外科学会総会 (第 25 回) (大阪市), 2015. 1.
  - 15) 横島一彦, 中溝宗永: 高齢頭頸部癌患者の診療に関するアンケート結果. 日本耳鼻咽喉科学会 (第 115 回) (福岡), 2014. 5.
  - 16) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 門園 修, 加藤大星, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 粉川隆行, 大久保公裕 (1) 形成外科・美容外科): 低悪性度耳下腺癌の術前診断と顔面神経温存. 日本頭頸部癌学会 (第 38 回) (東京), 2014. 6.
  - 17) 横島一彦, 中溝宗永, 酒主敦子, 稲井俊太, 加藤大星, 石田麻里子, 吉岡友真, 大久保公裕: 耳下腺上皮筋上皮癌 5 症例の検討. 日本頭頸部外科学会 (第 24 回) (大阪), 2015. 1.
  - 18) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤大星, 大久保公裕, 梅澤裕己, 中尾淳一, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏 (1) 形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 消化器外科): 症状緩和を目的に下咽頭喉頭全摘出術を行った下咽頭癌の 1 例. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会 (第 206 回) (東京), 2015. 3.
  - 19) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>2)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 横島一彦, 松谷 毅<sup>3)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 消化器内科, <sup>3)</sup> 消化器外科): 下咽頭・頸部食道内圧が嚥下圧あるいは食道内圧に与える影響. 日本マイクロサージャリー学会 (第 41 回) (京都), 2014. 12.
  - 20) 小町太郎<sup>1)</sup>, 原口美穂子<sup>1)</sup>, 吉野綾穂<sup>1)</sup>, 馬場俊吉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科): 妊娠中に発症した鼻腔血管腫の 1 例. 日耳鼻千葉県地方部会 (第 85 回) (千葉県), 2014. 7.
  - 21) 小町太郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 耳鼻咽喉科): 慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下手術の工夫. 谷根千耳鼻咽喉科・頭頸部外科フォーラム (第 2 回) (東京都), 2014. 9.
  - 22) 加藤大星, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 吉岡友真, 大久保公裕: 耳下腺非脂腺型リンパ腺腫の 2 例. 日本頭頸部外科学会 (第 25 回) (大阪市), 2015. 1.
  - 23) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 大久保公裕: 下咽頭癌での喉頭温存下咽頭部分切除術後の原発巣再発. 日本耳鼻咽喉科学会 (第 115 回) (福岡市), 2014. 5.
  - 24) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 山口 智, 門園 修, 大久保公裕: 下咽頭癌における喉頭温存下咽頭部分切除後のリン

- パ節再発. 日本気管食道科学会 (第 66 回) (高知市), 2014. 11.
- 25) 大久保公裕, 岡正有沙<sup>1)</sup>, 本間剛介<sup>1)</sup>, 小松原昌樹<sup>1)</sup> (1) GSK: 小児アレルギー性鼻炎患者におけるフルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液のプラセボ対照第 III 相試験. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 26 回) (京都), 2014. 5.
- 26) 西村友枝<sup>1)</sup>, 佐伯真弓<sup>1)</sup>, 森 昌夫<sup>2)</sup>, 後藤 穰, 大久保公裕, 神沼 修<sup>1)</sup>, 廣井隆親<sup>1)</sup> (1) 東京都医学総合研究所, 2) 相模原病院): マウスにおける抗原誘発鼻粘膜過敏性亢進反応に対する抗アレルギー薬の作用. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 26 回) (京都), 2014. 5.
- 27) 大塚博邦<sup>1)</sup>, 得能俊介<sup>2)</sup>, 遠藤定男<sup>2)</sup>, 大久保公裕 (1) 大塚耳鼻科, 2) 京浜予防医学研究所): 飛散前発症と鼻腔内細菌培養コロニー. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 26 回) (京都), 2014. 5.
- 28) 大久保公裕, 岡正有沙<sup>1)</sup>, 本間剛介<sup>1)</sup>, 小松原昌樹<sup>1)</sup> (1) GSK: 小児通年性アレルギー性鼻炎患者におけるフルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液の長期投与試験. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第 26 回) (京都), 2014. 5.
- 29) 國本泰臣<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>1)</sup>, 有井士郎<sup>2)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 鳥取大学工学部 情報エレクトロニクス専攻 知能情報工学講座): ヒト生体における耳小骨の振動特性. 日本耳鼻咽喉科学会 (福岡), 2014. 5.
- 30) 矢間敬章<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>1)</sup>, 國本泰臣<sup>1)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 頭蓋底手術中に三叉・迷走神経反射による心静止を来した 1 例. 日本耳鼻咽喉科学会 (福岡), 2014. 5.
- 31) 長谷川賢作<sup>1)</sup>, 國本泰臣<sup>1)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 軟骨鼓膜に伴う術前後の聴力変化. 日本耳鼻咽喉科学会 (福岡), 2014. 5.
- 32) 長谷川賢作<sup>1)</sup>, 國本泰臣<sup>2)</sup>, 矢間敬章<sup>2)</sup>, 久家純子<sup>2)</sup>, 北野博也<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 薄切軟骨鼓室形成術の術後聴力特性. 日本医科大学医学会 (東京), 2014. 9.
- 33) 國本泰臣<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>2)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 鼓膜再建に薄切軟骨を用いた鼓室形成術の術後成績. 日本耳科学会 (新潟), 2014. 10.
- 34) 久家純子<sup>1)</sup>, 國本泰臣<sup>1)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>2)</sup>, 有井士郎<sup>3)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 3) 鳥取大学工学部 情報エレクトロニクス専攻 知能情報工学講座): 非接触型レーザードップラー法によるヒト鼓膜および耳小骨振動の解析. 日本耳科学会 (新潟), 2014. 10.
- 35) 矢間敬章<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>2)</sup>, 國本泰臣<sup>1)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 当院で経験した ANCA 関連血管炎性中耳炎症例. 日本耳科学会 (新潟), 2014. 10.
- 36) 横山裕子<sup>1)</sup>, 國本泰臣<sup>1)</sup>, 矢間敬章<sup>1)</sup>, 長谷川賢作<sup>2)</sup>, 久家純子<sup>1)</sup>, 北野博也<sup>1)</sup> (1) 鳥取大学医学部 感覚運動医学講座 耳鼻咽喉・頭頸部外科学, 2) 日本医科大学付属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科学): 鼓室型グロムス腫瘍の 2 症例. 日本耳科学会 (新潟), 2014. 10.
- 37) 細矢 慶, 小町太郎, 増野 聡, 村上亮介, 大久保公裕: 好酸球性副鼻腔炎による嗅覚障害に対する内視鏡下副鼻腔手術症例の検討. 日本鼻科学会 (第 53 回) (大阪), 2014. 9.
- 38) Watanabe K, Bloch W: Detailed analysis of histone modification in the spiral ganglion of mice cochlea. 51st Inner Ear Biology Workshop (Sheffield), 2014. 8.
- 39) 増野 聡, 渡邊健一, 斎藤明彦, 斎藤亜希子, 細根 勝, 大久保公裕: 急性感音難聴を伴った髄膜瘤腫瘍の 1 症例. 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会第 204 回学術講演会 (東京都), 2014. 7.
- 40) 渡邊健一, 大久保公裕: 加齢によるヒストン蛋白質修飾の変化. 日本耳科学会 (第 24 回) (新潟), 2014. 10.

## 論文

### [追加分]

追加分総説:

- 1) 大久保公裕: フェニルプロパノールアミンとプソイドエフェドリンの安全性とは. 薬局 2014; 65 (3): 431-433.
- 2) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎. アレルギー疾患ガイドライン改訂について. アレルギー・免疫 2014; 21 (3): 418-424.
- 3) 大久保公裕: 近年のスギ・ヒノキ花粉症. アレルギー・免疫 2014; 21 (1): 11-16.
- 4) 大久保公裕: 「アレルギー性鼻炎診療ガイドライン-通年性鼻炎と花粉症: 2013 年版」の変更点について. 鼻アレルギーフロンティア 2014; 14 (1): 28-32.
- 5) 藤倉輝道: ウデを磨く・アタマを鍛えるシリーズ アレルギー性鼻炎のトータルマネージメント: 実は, 鼻炎は「様々」. 日本医事新報 2014; (4687): 6-18.

## 24. 男性生殖器・泌尿器科学分野

### [付属病院泌尿器科]

#### 研究業績

- 1) Beer T, Armstrong A, Rathkopf D, Loriot Y, Sternberg C, Higano C, Iversen P, Bhattacharya S, Carles S, Chowdhury S, Davis I, De Bono J, Evans C, Kim C, Kimura G, et al. : Enzalutamide in Metastatic Prostate Cancer before Chemotherapy. *N Engl J Med* 2014 ; 371 (5) : 424-433.
  - 2) Kondo T<sup>1)</sup>, Nakazawa H<sup>2)</sup>, Oya M<sup>3)</sup>, Kimura G, Fujii Y<sup>4)</sup>, Hatano T<sup>5)</sup>, Kawata N<sup>6)</sup>, Kume H<sup>7)</sup>, Morita M<sup>8)</sup>, Nakajima K<sup>9)</sup>, Ohno Y<sup>10)</sup>, Okegawa T, Takahashi S, Wakumoto Y, Horie S ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Urology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Urology, Keio University School of Medicine, Tokyo, <sup>4)</sup> Department of Urology, Tokyo Medical and Dental University Graduate School, Tokyo, <sup>5)</sup> Department of Urology, JR Tokyo General Hospital, Tokyo, <sup>6)</sup> Department of Urology, Nihon University School of Medicine, Tokyo, <sup>7)</sup> Department of Urology, Tokyo University, Tokyo, <sup>8)</sup> Department of Urology, Showa University Koto Toyosu Hospital, Tokyo, <sup>9)</sup> Department of Urology, Toho University School of Medicine, Tokyo, <sup>10)</sup> Department of Urology, Tokyo Medical University, Tokyo) : Clinical efficacy and prognostic factors of tumor progression in Japanese patients with advanced renal cell carcinoma treated with sorafenib. *Jpn J Clin Oncol* 2015 ; 45 (3) : 274-280.
- (2) 総説 :
- 1) 木村 剛, 濱崎 務, 近藤幸尋 : 「分子標的薬時代の進行腎癌に対する外科治療」腎癌手術におけるリンパ節廓清の現状と展望. . 泌尿器外科 2014 ; 27 (5) : 811-816.
  - 2) 木村 剛 : 「去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) への新たななる挑戦」去勢抵抗性前立腺癌に対する新規アンドロゲン受容体阻害薬 : エンザルタミド. . 泌尿器外科 2015 ; 28 (1) : 15-20.
  - 3) 木村 剛 : 「腎がんの分子標的治療薬副作用ケア」進行腎がんに対する薬物治療. 泌尿器ケア 2014 ; 19 (10) : 10-18.
- (3) 症例報告 :
- 1) 遠藤勇気, 飯ヶ谷重来, 西村泰司, 石井直弘, 北岡芳久, 河島俊文, 大原千知, 濱崎 務, 近藤幸尋 : A Case of Vesicovaginal Fistula Repair with Rectus Abdominus Myofascial Interposition Flap after Radical Hysterectomy and Radiation Therapy. *Acta urologica Japonica* 2014 ; 60 (10) : 497-499.
  - 2) Ohashi R<sup>1)</sup>, Harada O<sup>1)</sup>, Akatsuka J, Tsuzuki T<sup>2)</sup>, Kimura G, Tsuchiya S<sup>1)</sup>, Kondo Y ( <sup>1)</sup> Division of Diagnostic Pathology, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nagoya Daini Red Cross Hospital, Nagoya, Japan) : Spermatocytic seminoma in a 92-year-old man : report of a case in which SALL4, a potential novel marker for testicular germ cell tumors, was useful for the diagnosis. *Int Canc Conf* 2014 ; 3 (2) : 77-80.

#### 著 書

- 1) 岸田悦子<sup>1)</sup>, 木村 剛 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部) : [分担] mTOR 阻害薬. a. エベロリムス, b. テムシロリムス. . 分子標的治療薬マスターガイド (弦間昭彦, 伊藤良則, 古瀬純司, 遠藤一司 編), 2014 ; pp74-89, 中外医学社.

#### 学会発表

- (1) ランチョンセミナー :
- 1) 木村 剛 : 腎細胞癌薬物治療の最前線 1) 転移性腎細胞癌の最新治療 : Phase III 試験からの新たな知見. 日本泌尿器科学会中部総会 (第 64 回) (浜松市), 2014. 10.
- (2) 一般講演 :
- 1) 井上 泰<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> がん研有明病院) : Cisplatin 投与と不適格な転移性尿路上皮癌に対する Gemcitabine-Carboplatin 療法の治療成績. 日本泌尿器科学会総会 (第 102 回) (神戸), 2014. 4.
  - 2) 稲津宏紀<sup>1)</sup>, 遠藤勇気<sup>1)</sup>, 三神 晃<sup>1)</sup>, 中森央貴<sup>2)</sup>, 柳 雅人<sup>3)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 泌尿器科, <sup>2)</sup> 博慈会記念総合病院 泌尿器科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 泌尿器科) : 腹腔鏡下尿管管切除術の有用性の検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (第 28 回) (ヒルトン福岡シーホーク), 2014. 11.
  - 3) 遠藤勇気, 鈴木康友, 赤塚 純, 武田隼人, 松澤一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋 : 腹腔鏡下尿管管全摘の安全性に関する検討. 日本泌尿器内視鏡学会総会 (福岡), 2014. 4.

- 4) 戸山友香<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 中山聡子<sup>1)</sup>, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 河原崎由里子<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科) : 骨盤臓器脱に起因する腎不全を認めた3例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第79回) (横浜), 2014. 10.
- 5) 戸山友香<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 中山聡子<sup>1)</sup>, 河原崎由里子<sup>1)</sup>, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 泌尿器科) : よりハイエンドなウロギネ診療を目指すための協力体制 : 大学病院泌尿器科の立場から. 日本骨盤臓器脱手術学会 (第9回) (東京), 2015. 3.
- 6) 中山聡子<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 箕輪忠明<sup>1)</sup>, 飯ヶ谷重来<sup>1)</sup>, 河原崎由里子<sup>1)</sup>, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 青木綾子<sup>1)</sup>, 高橋 亮<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 松澤一郎<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学) : 当院における腹腔鏡下膀胱部分切除を施行した膀胱子宮内膜症7例の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第102回) (神戸), 2014. 4.
- 7) Tombal B<sup>1)</sup>, Iversen P<sup>2)</sup>, Miller K<sup>3)</sup>, Tammela T<sup>4)</sup>, Borre M<sup>5)</sup>, Bjartell A<sup>6)</sup>, Mulders P<sup>7)</sup>, Kliment J<sup>8)</sup>, Ramon J<sup>9)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Cliniques Universitaires Saint-Luc, , Brussels, Belgium, <sup>2)</sup> Rigshospitalet, University of Copenhagen, Copenhagen, Denmark, <sup>3)</sup> Charité-Universitätsmedizin Berlin, Berlin, Germany, <sup>4)</sup> Tampereen Yliopistollinen Sairaala, Tampere, Finland, <sup>5)</sup> Aarhus University Hospital, Skeljby, Denmark, <sup>6)</sup> Skånes Universitetssjukhus/Malmö, Malmö, Sweden, <sup>7)</sup> Radboud University Nijmegen Medical Center, Nijmegen, Netherlands, <sup>8)</sup> Jessenius School of Medicine, University Hospital Martin, Martin, Slovakia, <sup>9)</sup> The Chaim Sheba Medical Center, Ramat-Gan, Israel, and others) : Enzalutamide in men with chemotherapy-naïve metastatic castration resistant prostate cancer (mCRPC) : Primary and European regional results of the phase 3 prevail study. 29th EAU (Stockholm), 2014. 4.
- 8) Evans C<sup>1)</sup>, Higano C<sup>2)</sup>, Keane T<sup>3)</sup>, Andriole G<sup>4)</sup>, Saad F<sup>5)</sup>, Iversen P<sup>6)</sup>, Miller K<sup>7)</sup>, Kim C<sup>8)</sup>, Kimura G, Armstrong A<sup>9)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> UC Davis Cancer Center, Sacramento, USA, <sup>2)</sup> University of Washington/Seattle Cancer Care Alliance, <sup>3)</sup> Medical University of South Carolina, <sup>4)</sup> Washington University School of Medicine, <sup>5)</sup> University of Montreal Health Center, <sup>6)</sup> University of Copenhagen, <sup>7)</sup> Charité-Universitätsmedizin Berlin, <sup>8)</sup> Asan Medical Center, <sup>9)</sup> Duke University Medical Center, and others) : The PREVAIL Study : Primary and non-visceral/visceral disease subgroup results for enzalutamide-treated men with metastatic prostate cancer (mPC) that had progressed on ADT. 109th AUA (Orlando), 2014. 5.
- 9) Saad F<sup>1)</sup>, Evans C<sup>2)</sup>, Higano C<sup>3)</sup>, Keane T<sup>4)</sup>, Andriole G<sup>5)</sup>, Iversen P<sup>6)</sup>, Miller K<sup>7)</sup>, Kim C<sup>8)</sup>, Kimura G, Armstrong A<sup>9)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> University of Montreal Health Center, <sup>2)</sup> UC Davis Comprehensive Cancer Center, <sup>3)</sup> University of Washington/Seattle Cancer Care Alliance, <sup>4)</sup> Medical University of South Carolina, <sup>5)</sup> Washington University School of Medicine, <sup>6)</sup> Rigshospitalet, University of Copenhagen, <sup>7)</sup> Charité-Universitätsmedizin Berlin, <sup>8)</sup> Asan Medical Center, <sup>9)</sup> Duke University Medical Center, and others) : The PREVAIL Study : Primary and non-visceral/visceral disease subgroup results for enzalutamide-treated men with metastatic castration-resistant prostate cancer. 34th SIU (Glasgo), 2014. 10.
- 10) Davis I<sup>1)</sup>, Kim C<sup>2)</sup>, Kimura G, Lau W<sup>3)</sup>, Noonberg S<sup>4)</sup>, Perabo F<sup>5)</sup>, Bhattacharya S<sup>6)</sup>, Phung D<sup>5)</sup>, Tombal B<sup>6)</sup>, Beer T<sup>7)</sup>, Mainwaring P<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> Monash University and Eastern Health, <sup>2)</sup> Asan Medical Center, <sup>3)</sup> Singapore General Hospital, <sup>4)</sup> Medivation Inc., San Francisco, <sup>5)</sup> Astellas Pharma Global Development, Northbrook, <sup>6)</sup> Cliniques Universitaires Saint-Luc, Brussels, <sup>7)</sup> OHSU Knight Cancer Institute, Oregon Health and Science University, <sup>8)</sup> Icon Cancer Care, South Brisbane, QLD) : Enzalutamide in men with chemotherapy-naïve metastatic castration resistant prostate cancer (mCRPC) : Primary and Australian/Asian regional results of the phase 3 PREVAIL Study. 2014 World Cancer Congress (Melbourne), 2014. 12.
- 11) Kimura G, Yonese J<sup>1)</sup>, Fukagai T<sup>2)</sup>, Kamba T<sup>3)</sup>, Nishimura K<sup>4)</sup>, Nozawa M<sup>5)</sup>, Mansbach H<sup>6)</sup>, Theeuwes A<sup>7)</sup>, Beer T<sup>8)</sup>, Tombal B<sup>9)</sup>, Ueda T<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> Cancer Institute Hospital of Japanese Foundation for Cancer Research, <sup>2)</sup> Showa University Koto Toyosu Hospital, <sup>3)</sup> Kyoto University Hospital, <sup>4)</sup> Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>5)</sup> Kinki University Faculty of Medicine, <sup>6)</sup> Medivation Inc., San Francisco, <sup>7)</sup> Astellas Pharma, Leiden, <sup>8)</sup> OHSU Knight Cancer Institute, Oregon Health and Science University, <sup>9)</sup> Cliniques Universitaires Saint-Luc, <sup>10)</sup> Chiba Cancer Center) : Subgroup analyses of Japanese patients from the PREVAIL trial of enzalutamide in patients with chemotherapy-naïve, metastatic castration-resistant prostate cancer (mCRPC). ASCO-GU 2015 (Orlando), 2015. 2.
- 12) Tombal B<sup>1)</sup>, Iversen P<sup>2)</sup>, Stenzl A<sup>3)</sup>, Kim C<sup>4)</sup>, Kimura G, Saad F<sup>5)</sup>, Tammela T<sup>6)</sup>, Borre M<sup>7)</sup>, Mulders P<sup>8)</sup>, Bjartell A<sup>9)</sup>, Kliment J<sup>10)</sup>, Ramon J, Evans C, Parli T, Bhattacharya S, et al. ( <sup>1)</sup> Cliniques Universitaires Saint-Luc, <sup>2)</sup> Rigshospitalet, University of Copenhagen, <sup>3)</sup> Universitätsklinikum Tübingen, <sup>4)</sup> Asan Medical Center, <sup>5)</sup> University of Montreal Health Center, <sup>6)</sup> Tampereen Yliopistollinen Sairaala, <sup>7)</sup> Aarhus University Hospital, <sup>8)</sup> Radboud University Nijmegen Medical Center, <sup>9)</sup> Skånes Universitetssjukhus/Malmö, <sup>10)</sup> Jessenius School of Medicine, University Hospital Martin) : Enzalutamide in Men with Chemotherapy-Naïve Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer (mCRPC) : Updated Overall Survival Analysis of the Phase 3 PREVAIL Study. 30th EAU (Madrid), 2015. 3.
- 13) 深貝隆志<sup>1)</sup>, 山中英壽<sup>2)</sup>, 赤倉功一郎<sup>3)</sup>, 木村 剛, 門間哲雄<sup>4)</sup>, 中島洋介<sup>5)</sup>, 森山正敏<sup>6)</sup>, 柏原 剛<sup>7)</sup>, 執印太郎<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 昭和大学医学部泌尿器科, <sup>2)</sup> 黒沢病院泌尿器科, 前立腺研究財団, <sup>3)</sup> JCHO 東京新宿メディカルセンター泌尿器科, <sup>4)</sup> 国立病院機構埼玉病院泌尿器科, <sup>5)</sup> 済生会横浜市東部病院泌尿器科, <sup>6)</sup> 横浜州市市民病院泌尿器科, <sup>7)</sup> 佐久総合病院泌尿器科, <sup>8)</sup> 高知大学医学部泌尿器科) :

日本における前立腺癌の啓発と前立腺がん検診の普及を目的として施行した「前立腺がん啓発週間」の役割に関する検討. 日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 (第 23 回) (東京), 2014. 7.

## 論文

### [追加分]

追加分総説:

- 1) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 泌尿器科): 【前立腺がんの新展開】前立腺がん免疫療法の最新知見 (解説/特集). 腫瘍内科 2013; 12 (5): 562-568.
- 2) 木村 剛: 「前立腺がん最新特集」1. 前立腺がんの基礎知識. . がんサポート 2014; 131: 20-23.

追加分原著:

- 1) Saito Y<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Yamanashi Y<sup>2)</sup>, Terajima K<sup>2)</sup>, Sakamoto A<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup> (1) Department of Urology, Nippon Medical School, 2) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): The impact on renal function of fluid resuscitation with hemoglobin vesicle solution in moderate hemorrhagic shock. Journal of Artificial Organs 2013; 16 (3): 376-381.

## 学会発表

追加分一般講演:

- 1) 井上 泰<sup>1)</sup>, 小串聡子<sup>1)</sup>, 河野弘圭<sup>1)</sup>, 新藤貴雄<sup>1)</sup>, 柳 雅人<sup>1)</sup>, 武田隼人<sup>1)</sup>, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 濱崎務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学): TURP で診断された Prostatic stromal tumor of uncertain malignant potential (STUMP) の 1 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京), 2012. 10.
- 2) 稲津宏紀<sup>1)</sup>, 堀内崇真<sup>1)</sup>, 徳永まゆ子<sup>1)</sup>, 饒村静江<sup>1)</sup>, 村田太郎<sup>1)</sup>, 富田京一<sup>1)</sup> (1) 日本赤十字医療センター 泌尿器科): 右水腎症を伴った卵巣静脈原発平滑筋肉腫の 1 例. 日本泌尿器科学会地方会 (第 612 回) (ベルサール八重洲), 2013. 6.
- 3) 稲津宏紀<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 飯ヶ谷重来<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup>, 阿部裕行<sup>3)</sup>, 山田 隆<sup>4)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院 泌尿器科, 2) 日本医科大学 泌尿器科, 3) 神栖済生会病院 泌尿器科, 4) 千葉北総病院 女性診療科・産科): 尿路上皮癌の子宮・腔内転移に対して放射線治療が有効であった 1 例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第 613 回) (山の上ホテル), 2013. 12.
- 4) 稲津宏紀<sup>1)</sup>, 赤塚 純<sup>1)</sup>, 新藤貴雄<sup>1)</sup>, 田邊邦明<sup>2)</sup>, 武田隼人<sup>3)</sup>, 木全亮二<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 泌尿器科, 2) 海老名総合病院 泌尿器科, 3) 平成立石病院 泌尿器科): 膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の 2 例. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 77 回) (東京ドームホテル), 2012. 10.
- 5) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 武田隼人<sup>1)</sup>, 鈴木健太<sup>1)</sup>, 松澤一郎<sup>1)</sup>, 藤野綾子<sup>1)</sup>, 小串聡子<sup>1)</sup>, 赤塚 純<sup>1)</sup>, 林 達郎<sup>1)</sup>, 遠藤勇気<sup>1)</sup>, 濱崎務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科): 骨盤臓器脱における TVM 術前排尿機能の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 98 回), 2010. 4.
- 6) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 小串聡子<sup>1)</sup>, 高橋 亮<sup>1)</sup>, 田邊邦明<sup>1)</sup>, 武田隼人<sup>1)</sup>, 遠藤勇気<sup>1)</sup>, 青木綾子<sup>1)</sup>, 鈴木健太<sup>1)</sup>, 松澤一郎<sup>1)</sup>, 濱崎務<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科): 当院における骨盤臓器脱に対する TVM 手術の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回), 2011. 4.
- 7) 齋藤友香<sup>1)</sup>, 鈴木健太<sup>1)</sup>, 佐々木崇<sup>1)</sup>, 佐藤三洋<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 泌尿器科): 当院における ESWL 抵抗結石術前因子の評価. 日本泌尿器科学会総会 (第 101 回), 2013. 4.

## [武蔵小杉病院泌尿器科]

### 研究概要

当科では現在, 尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石, 尿路感染症, 前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている. 特筆すべきものを以下に示す. 1) 前立腺癌に対しては, 現在, 局所麻酔下での前立腺生検を行っている. 局所麻酔下でも患者さんの苦痛の軽減がはかれるよう鎮静薬剤の導入を含め検討を行っている. 2) 筋層浸潤性膀胱癌に関しては, 術前動注化学療法を導入することにより, その治療の安全性および効果, 膀胱温存の可能性についても検討している. 3) 尿管結石の保存的治療については a1 ブロッカーを併用した治療を行い, 自然排石向上の可能性を調査している. また, Ho-YAG レーザーを用いた内視鏡下結石破碎術を積極的に行っている. 4) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して, 国際前立腺症状スコア (IPSS) や過活動膀胱症状スコア (OABSS) および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定している. 5) 性感染症に関しては, 当院における, 地域的特性について調査している. 6) その他, 稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kimata R, Nemoto K<sup>1)</sup>, Tomita Y, Takahashi R<sup>2)</sup>, Hamasaki T<sup>2)</sup>, Kondo Y<sup>2)</sup> (1) Department of Urology, Nippon Medical School, Ciba Hokusoh Hospital, (2) Department of Urology, Nippon Medical School) : Efficacy of a thermoexpandable metallic prostate stent (Memokath) in elderly patients with urethral obstruction requiring long-term management with urethral Foley. *Geriatrics & Gerontology International* 2014.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 堀内和孝：よくわかる前立腺がんのお話，前立腺癌の現状・病態・診断．川崎市泌尿器科医会市民公開講座（川崎市），2014．11．
- 2) 堀内和孝：高齢者の排尿トラブル：原因とその解方法．一般社団法人老年研究会公開講座第23回健康の集い（川崎市），2015．2．

#### (2) 一般講演：

- 1) 木全亮二，富田祐司，河原崎由里子，堀内和孝，田島廣之<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科 血管内・低侵襲治療センター，(2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：合併症などにより手術不可能な腎癌に対してTEAを施行する意義について．日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014．4．
- 2) 富田祐司，木全亮二，河原崎由里子，堀内和孝，近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当院における淋病性およびクラミジア性尿道炎患者の検討．日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014．4．
- 3) 河原崎由里子，木全亮二，富田祐司，堀内和孝，近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：初診時PSA値100ng/ml以上であった前立腺癌症例に関する臨床的検討．日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014．4．
- 4) 中山聡子<sup>1)</sup>，鈴木康友<sup>1)</sup>，箕輪忠明<sup>1)</sup>，飯ヶ谷重来<sup>1)</sup>，河原崎由里子，佐々木崇<sup>1)</sup>，青木綾子<sup>1)</sup>，高橋 亮<sup>1)</sup>，齋藤友香<sup>1)</sup>，松沢一郎<sup>1)</sup>，濱崎 務<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当院における腹腔鏡下膀胱部分切除を施行した膀胱子宮内膜症7例の検討．日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014．4．
- 5) 野村俊一郎<sup>1)</sup>，鈴木康友<sup>1)</sup>，赤塚 純<sup>1)</sup>，高橋 亮<sup>1)</sup>，木全亮二，濱崎 務<sup>1)</sup>，木村 剛<sup>1)</sup>，清水 章<sup>2)</sup>，近藤幸尋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科，(2) 日本医科大学解析人体病理学)：術前化学療法を施行した膀胱癌患者の生存に関するSnailの発現の意義．日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014．4．
- 6) 田中金雄<sup>1)</sup>，笹川翔太<sup>1)</sup>，松野めぐみ<sup>1)</sup>，堀内和孝 (1) 入谷クリニック)：血糖コントロール指標をHbA1C値からグリコアルブミン(GA)値変更後サキサグリブチン投与をした症例の検討．日本透析医学会学術集会・総会（第59回）（神戸），2014．6．
- 7) 宗像和男<sup>1)</sup>，高久雅年<sup>1)</sup>，加藤文宣<sup>1)</sup>，笹川翔太<sup>1)</sup>，坂田文枝<sup>1)</sup>，藤井 操<sup>1)</sup>，中田瑛浩<sup>1)</sup>，栗原康治<sup>2)</sup>，堀内和孝 (1) 栗山中央病院透析センター，(2) 栗山中央病院薬剤科)：透析患者にみられる筋症状に対するLカルニチン静注の有用性．日本透析医学会学術集会・総会（第59回）（神戸），2014．6．
- 8) 戸山友香<sup>1)</sup>，鈴木康友<sup>1)</sup>，中山聡子<sup>1)</sup>，佐々木崇<sup>1)</sup>，河原崎由里子 (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：骨盤臓器脱に起因する腎不全を認めた3例．日本泌尿器科学会東部総会（第79回）（神奈川県横浜市），2014．10．

#### 追加一般講演：

- 1) 堀内和孝，河原崎由里子，富田祐司，木全亮二：川崎市におけるミラベグロンの初期治療成績について．川崎市泌尿器科医会（第2回）（神奈川県川崎市），2014．3．

## [多摩永山病院泌尿器科]

### 研究概要

当科では感染症，結石から神経疾患，腫瘍を中心に診察，研究を行っているが，特筆すべき点を列記する。

#### 1) 尿路感染症

扱う感染症は急性単純性膀胱炎から閉塞性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方，起炎症菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適な治療法を研究している。

#### 2) 尿路結石

保存療法から軟性尿管鏡を用いた経尿道的尿管碎石や体外衝撃波碎石術も行い，治療の最適化を求めて臨床的検討を行っている。

#### 3) 排尿障害

施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い，その有用性を検討している。

#### 4) 前立腺癌

放射線による治療の他に局所進行性のハイリスク前立腺癌に対して拡大前立腺全摘術，拡大リンパ節郭清術を行いその有効性をみてい



る、内分泌治療法の適応となった症例に対してはその副作用、特に糖・脂質代謝異常、骨密度の減少については検討を行い合併症の予防に役立っている。また去勢抵抗性前立腺癌への治療薬の投与順序を研究中である。

#### 5) 膀胱癌

浸潤性膀胱癌に対しては化学療法と放射線照射の併用治療にて膀胱温存を図っている。

#### 6) 女性尿失禁、骨盤臓器脱

保存的治療無効の場合は外科的治療を施行し、手術の有効性を検討している。また腹圧性失禁のみならず、切迫性尿失禁と臓器脱の関連を研究している。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木健太, 佐藤三洋, 塩路 豪, 尾形吉彦：膀胱原発アミロイドーシスの1例. 多摩泌尿器科医会（第126回）（吉祥寺），2014. 11.

### 論文

#### (1) 原著：

## [千葉北総病院泌尿器科]

## 研究業績

- 2) 飯ヶ谷重来, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 大秋美治<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup>, 坪井成美（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 泌尿器科）：当院における T1 Grade3 膀胱癌の治療成績. 泌尿器外科 2014 ; 27 (10) : 1657-1661.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 飯ヶ谷重来, 石舘卓三<sup>1)</sup>, 阿部裕行<sup>2)</sup>, 坪井成美（<sup>1)</sup> 国立病院機構函館病院 病理部, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院 泌尿器科）：排尿障害を受診動機とする包茎を合併した高齢者乾燥性閉塞性龟头炎の治療経験. 日本泌尿器科学会総会（第102回）（神戸），2014. 4.
- 2) 程塚直人, 柳 雅人, 根本 勺, 河野弘圭<sup>1)</sup>, 箕輪忠明, 塩路 豪, 三浦剛史, 長谷川匡<sup>2)</sup>, 坪井成美（<sup>1)</sup> 北村山公立病院 泌尿器科, <sup>2)</sup> 札幌医科大学付属病院 病理診断科）：精索原発の脱分化型脂肪肉腫の1例. 千葉泌尿器科集談会（第102回）（千葉），2014. 11.

## 25. 眼科学分野

### [付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

#### 研究概要

前眼部分野では、引き続きドライアイの基礎・臨床研究を継続した(高橋・五十嵐)。培養角膜上皮細胞の超短時間高浸透圧によってもIL-6の上昇が生じうることを示した。不定愁訴解明の一助としてfNIRS(機能的近赤外線分光法)による羞明感の他覚的計測を行い、網膜色素変性、ドライアイ、視神経疾患、眼瞼痙攣症例に対し予定症例の約9割をほぼ終了した(小野)。網膜分野ではVEGFのsiRNAを発現させるAAVタイプ8ベクターを作製し、マウス脈絡膜新生血管モデルにおいて新生血管抑制効果を確認した(五十嵐)。クリスタリン網膜症の症例において補償光学眼底カメラを用いた高解像度視細胞解析を行った。また、錐体ジストロフィーや周辺型錐体ジストロフィーの症例においても補償光学眼底カメラを用いて発見した新たな所見について論文として報告した(亀谷)。ぶどう膜炎分野では、臨床研究として「vogt-小柳-原田病の再発に関わる臨床統計」と「強膜炎の臨床統計と治療成績」の検討を行った。ぶどう膜炎を対象とした生物学的製剤とステロイド剤の治験を行った。基礎研究として「新規の免疫制御分子による眼炎症抑制」および「関節リウマチに随伴する強膜炎と角膜炎のモデル作成」を継続した(堀)。緑内障分野では正常眼圧緑内障患者におけるbody mass indexと24時間座位眼圧変動について、また、視野検査後の眼圧変動と24時間眼圧日内変動の関係について検討した。さらに緑内障手術の晩期合併症に対する有茎弁結膜被覆術の成績について論文発表した(中元)。白内障分野では超音波乳化吸引装置における術中の前房温度と角膜内皮温度の変化を検討した。また、機器の設定の違いや、術中に使う粘弾性物質の種類の違いによる前房温度変化も調べ、術中の角膜内皮保護における有用性を検討した(鈴木)。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Gocho K, Kameya S, Akeo K, Kikuchi S, Usui A, Yamaki K, Hayashi T, Tsuneoka H, Mizota A, Takahashi H : High-Resolution Imaging of Patients with Bietti Crystalline Dystrophy with CYP4V2 Mutation. *Journal of Ophthalmology* 2014 ; 2014 : 1-12.
- 2) Kikuchi S, Kameya S, Gocho K, El Shamieh S, Akeo K, Sugawara Y, Yamaki K, Zeitz C, Audo I, Takahashi H : Cone Dystrophy in Patient with Homozygous RP1L1 Mutation. *BioMed Research International* 2015 ; 2015 : 1-13.
- 3) Ito N<sup>1)</sup>, Kameya S, Gocho K, Hayashi T<sup>1)</sup>, Kikuchi S, Katagiri S<sup>1)</sup>, Gekka T<sup>1)</sup>, Yamaki K, Takahashi H, Tsuneoka H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学眼科) : Multimodal imaging of a case of peripheral cone dystrophy. *Doc Ophthalmol* 2015 ; 2015 (24) : 1-11.
- 4) 小早川信一郎 : 若年者の硝子体手術と白内障. *日本白内障学会誌* 2014 ; 26 : 45-48.
- 5) 小早川信一郎 : 水晶体嚢と細菌と眼内レンズ. *日本白内障学会誌* 2014 ; 26 : 20-25.
- 6) Takeuchi M, Kezuka T, Sugita S, Keino H, Namba K, Kaburaki T, Maruyama K, Nakai K, Hijioka K, Shibuya E, Komae K, Hori J, Ohguro N, Sonoda K, Mizuki N, et al. : Evaluation of the Long-Term Efficacy and Safety of Infliximab Treatment for Uveitis in Behçet's Disease : A Multicenter Study. *Ophthalmology* 2014 ; 17 : 1877-1884.
- 7) 藤田雅裕, 中元兼二, 高橋 浩 : マイトマイシンC併用線維柱帯切除術後の晩期合併症に対する有茎弁結膜被覆術の短期成績. *日本医科大学医学雑誌* 2014 ; 10 (2) : 106-110.
- 8) 野呂隆彦<sup>1)</sup>, 中元兼二, 里 誠, 安田典子<sup>2)</sup>, 伊藤義徳<sup>1)</sup>, 小川俊平<sup>1)</sup>, 中野 匡<sup>1)</sup>, 常岡 寛<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 慈恵会医科大学 眼科, <sup>2)</sup> 昭和大学医学部眼科学教室) : 視野検査後の眼圧変動と24時間眼圧日内変動の関係. *日本眼科学会雑誌* 2014 ; 118 (10) : 831-837.
- 9) Suzuki H, Oki K, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : Temperature in the anterior chamber during phacoemulsification. *J Cataract Refract Surg* 2014 ; 40 (5) : 805-810.
- 10) Igarashi T, Fujimoto C, Suzuki H, Ono M, Iijima O, Takahashi H, Takahashi H : Short-time exposure of hyperosmolarity triggers interleukin-6 expression in corneal epithelial cells. *Cornea* 2014 ; 33 (12) : 1342-1347.
- 11) Igarashi T, Ono M, Fujimoto C, Suzuki H, Takahashi H : The conjunctival sensitivity in soft contact lens wearers. *Int Ophthalmol* 2014 ; 7.
- 12) 高橋和久, 鈴木久晴, 稲毛道憲, 志和利彦, 高橋 浩 : Signature Ellips の虹彩色素脱出の予防における Curved Tip の効果. *IOL & RS* 2014 ; 28 (2) : 180-183.
- 13) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 眼内レンズセミナー 日本医大式(三日月型)MQA. *あたらしい眼科* 2014 ; 31 (4) : 531-532.
- 14) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 眼内レンズセミナー 超音波乳化吸引術と角膜内皮温度. *あたらしい眼科* 2014 ; 31 (10) : 1475-1476.
- 15) Igarashi T, Miyake N, Fujimoto C, Yaguchi C, Iijima O, Shimada T, Takahashi H, Miyake K : AAV2/8-mediated expression

of siRNA targeting VEGF efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. *Molecular Vision* 2014; 20: 488-496.

- 16) 堀田恭広<sup>1)</sup>, 小早川信一郎<sup>(1)</sup> 東邦大学医療センター大森病院眼科): 春季カタル ◎特集/結膜・前眼部小手術 徹底ガイド. *OCULISTA* 2014; 16: 47-52.

(2) 総説:

- 1) 堀 純子: 「海外医学情報」眼内原発悪性リンパ腫の治療戦略欧州 17 施設共同研究. *日本の眼科* 2015; 86 (1): 36-37.
- 2) 鈴木久晴: 超音波白内障手術と角膜内皮障害. *IOL & RS* 2014; 28 (3): 275-280.
- 3) 有馬武志: 印象記 *American Society of Cataract and Refractive Surgery*. *IOL & RS* 2014; 28 (3): 333-334.

## 著書

- 1) 志和利彦, 小早川信一郎: [編集] 結膜・前眼部小手術 徹底ガイド. *OCULISTA* オクリスタ (志和利彦, 小早川信一郎), 2014; pp1-63, 全日本病院出版会.
- 2) 國重智之, 志和利彦: [共著] 翼状片手術の遊離弁移植. *OCULISTA* (オクリスタ) (志和利彦, 小早川信一郎), 2014; pp18-22, 全日本病院出版社.
- 3) 高橋永幸: [共著] 結膜嚢胞, 結膜結石, 偽膜除去. *OCULISTA* (オクリスタ) (志和利彦, 小早川信一郎), 2014; pp59-63, 全日本病院出版会.
- 4) 亀谷修平: [共著] 常染色体優性視神経萎縮. 新版どうとる? どう読む? *ERG* (山本修一, 新井三樹, 近藤峰生, 町田繁樹, 篠田啓), 2015; pp130-131, メジカルビュー社.
- 5) 後町清子: [共著] 視細胞「ターゲット別! 画像診断お助けガイド」. *臨床眼科* (寺崎浩子, 中澤 満, 坂本泰二, 鈴木康之, 下村嘉一, 稲谷 大), 2014; pp110-115, 医学書院.

## 学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 堀 純子: 強膜炎診療の現状と展望. 高知眼科集談会 (高知), 2014. 4.
- 2) 堀 純子: 眼の免疫特権における inducible co-stimulatory molecule/B7RP-1 の役割. 日本医科大学東京理科大学合同シンポジウム (第一回) (東京), 2014. 5.
- 3) 堀 純子: 診療アップデート「眼炎症」. 千駄木フォーラム (第 20 回) (東京), 2014. 6.
- 4) 堀 純子: 強膜炎診療の現状と展望. 新潟眼科学術講演会 (新潟), 2014. 11.
- 5) Takahashi H: Inflammation in the postoperative eye; what we should assume?. *WOC 2014* (東京), 2014. 4.
- 6) 高橋 浩: 第 19 回難儀な手術シリーズ. 千駄木フォーラム (第 20 回) (東京), 2014. 6.
- 7) 高橋 浩: 炎症性疾患としてのドライアイ. フォーサム 2014 (東京), 2014. 7.
- 8) 高橋 浩: オキュラーサーフェス疾患と炎症. 眼表面を真剣に考える会 (第 4 回) (東京), 2014. 7.
- 9) 高橋 浩: 結膜疾患の基本と診断. 平成 26 年度東京都眼科医会卒後研修会 (東京), 2014. 8.
- 10) 高橋 浩: オキュラーサーフェス疾患と炎症. コルニアフェイコセミナー (第 4 回) (横浜), 2014. 10.
- 11) 高橋 浩: 第 20 回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第 21 回) (東京), 2014. 12.
- 12) 高橋 浩: ドライアイを科学する・知覚の観点から. ムコスタ点眼薬セミナー (東京), 2014. 12.
- 13) 高橋 浩: 医療安全・患者相談室長として. 日本医科大学麻酔科学同門会総会講演 (第 18 回) (東京), 2015. 1.
- 14) 高橋 浩: オキュラーサーフェス疾患と炎症. 大塚スキルアップセミナー (東京), 2015. 1.
- 15) 高橋 浩: 大塚スキルアップセミナー. ベネッセ地域医療セミナー (東京), 2015. 1.
- 16) 高橋 浩: 眼科からの花粉症予防. 東京都花粉症予防・治療シンポジウム (第 9 回) (東京), 2015. 2.
- 17) 高橋 浩: 落とし穴ケーススタディ. 角膜カンファレンス 2015 (高知), 2015. 2.
- 18) 高橋 浩: 炎症が関与するオキュラーサーフェス疾患の治療戦略. 大塚スキルアップセミナー (第 4 回) (東京), 2015. 3.
- 19) 中元兼二: 緑内障と上手に付き合う: 視神経に優しい生活を目指して. 世界緑内障週間 市民公開講座 (東京), 2015. 3.
- 20) 中元兼二: 質の高い眼圧下降治療戦略. *Bunkyo Ophthalmology Conference* (第 2 回) (東京), 2014. 5.
- 21) 中元兼二: 眼圧変動を考慮した緑内障治療. 静岡県眼科学術セミナー (第 14 回) (静岡), 2014. 5.
- 22) 中元兼二: 緑内障長期管理のノウハウ. *Glaucoma Summer Seminar in Yokkaichi-City* (愛知), 2014. 7.
- 23) 中元兼二: 診療アップデートセミナー「緑内障」. 千駄木フォーラム (第 20 回) (東京), 2014. 6.
- 24) 中元兼二: 質の高い緑内障治療戦略. 眼科医療フォーラム (第 28 回) (徳島), 2014. 8.
- 25) 中元兼二: より質の高い緑内障治療. 神奈川県眼科学術講演会 (第 15 回) (神奈川), 2014. 9.
- 26) 中元兼二: 緑内障における点眼アドヒアランスの現状と対策. 川崎眼科フォーラム (第 16 回) (川崎), 2015. 2.

- 27) 鈴木久晴：経験100眼までの白内障手術「大学病院における白内障手術教育と指導者の悩み」. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 28) 鈴木久晴：みんなで考える白内障手術-前眼部術者のための破囊処理. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 29) 鈴木久晴：みんなで考える白内障手術-緑内障合併眼編. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 30) 鈴木久晴：核分割徹底解説：セッティングについて. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 31) 鈴木久晴：翼状片手術の創意工夫. OSKA (神奈川), 2014. 5.
  - 32) 鈴木久晴：偽落屑症候群に伴い眼圧コントロールに苦慮した白内障手術の1例, 難治症例白内障手術の検討—行列のできる白内障手術相談所. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 33) 鈴木久晴：低侵襲白内障手術. iseminar x forum (第5回) (東京), 2014. 9.
  - 34) 鈴木久晴：角膜内皮を守るための白内障手術. COST (第39回) (東京), 2014. 12.
  - 35) 鈴木久晴：診療アップデートセミナー「白内障手術」. 千駄木フォーラム (第20回) (東京), 2014. 6.
  - 36) 鈴木久晴：角膜に優しい超音波白内障手術装置について. 前進の会 (栃木), 2014. 7.
  - 37) 鈴木久晴：白内障手術：最新情報と今できる低侵襲手術. 長野眼科フォーラム (第24回) (長野), 2015. 1.
  - 38) 鈴木久晴：IOL 縫着術を初めてやる人のために・・・. 眼科手術の寺子屋 (第10回) (東京), 2015. 3.
  - 39) 小早川信一郎：白内障治療最前線. 栃木県内科眼科関連疾患懇話会 (第8回) (宇都宮), 2014. 10.
  - 40) 小早川信一郎：白内障手術のトラブルシューティング. 昭和大学藤が丘病院オープンカンファレンス (第1回) (横浜), 2014. 4.
  - 41) 小早川信一郎：白内障術後眼内炎のサイエンス. 沼津ベイエリア眼科フォーラム (第3回) (沼津), 2014. 10.
- (2) 招待講演：
- 1) Gocho K, Kameya S, Harashi T, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H : High - resolution adaptive optics imaging of Cone photoreceptors with Bietti Crystalline dystrophy associated with CYP4V2 mutation. WOC2014 (東京), 2014. 4.
- (3) 教育講演：
- 1) 小野眞史：ドライアイ (DE) とはシルマーテスト (涙液量検査) の実際 シェーグレン (SS) の診断と治療. ドライマウス講習会 (第23回) (東京), 2014. 5.
  - 2) 小野眞史：ドライアイ (DE) とはシルマーテスト (涙液量検査) の実際 シェーグレン (SS) の診断と治療. ドライマウス講習会 (第24回) (東京), 2014. 10.
  - 3) 小野眞史：医療マネジメント学会 2014年度 医療安全分科会 (第2回) (東京), 2014. 11.
  - 4) 中元兼二：治療導入期における患者説明のポイントと実際. 日本緑内障学会 (第25回) (大阪), 2014. 9.
  - 5) 鈴木久晴：創口作成と前囊切開のトラブル. 日本眼科手術学会総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
- (4) シンポジウム：
- 1) Hori J : Immune privilege of corneal transplantation - Corneal cell-mediated immune regulation. ARVO ocular immunity, autoimmunity and inflammation (Ft. Lauderdale), 2014. 10.
  - 2) Hori J : Corneal cell-mediated immune regulation and immune privilege. ISER (International Society for Eye Research) (San Francisco), 2014. 7.
  - 3) Shimmura-Tomita M, Hori J : Molecular mechanisms of immune privilege of corneal allografts. ISER (San Francisco), 2014. 7.
  - 4) Hori J : Novel Developments in the Investigation of Ocular Immunomodulation 「Anterior chamber-associated immune deviation (ACAID)」. WOC2014TOKYO (東京), 2014. 4.
  - 5) 鈴木久晴：半円式 CCC マーカー「日本発の白内障手術器具を再考する その1」. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 6) 中元兼二：正常眼圧緑内障のリスクファクターをどう捉えどう生かすか「正常眼圧緑内障リスクファクターとしての眼圧の役割」. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 7) 小早川信一郎：ASCRS2014 Hot Topics 「レビューセミナー」. ASCRS 2014 (アメリカ, ワシントン), 2014. 4.
  - 8) 後町清子：AOで得られた特殊所見「補償光学 (AO) 眼底検査アップデート」. 日本臨床視覚電気生理学会 (第62回) (東京), 2014. 10.
  - 9) Gocho K : Adaptive optics imaging in Geographic Atrophy「Understanding of the retina and its applications study (AURA Study). (Panel presentation)」。WOC, 2014, Submitted Course (東京), 2014. 4.
  - 10) Gocho K : Microcystic Macular Edema in autosomal dominant optic atrophy「Understanding of the retina and its applications study (AURA Study).(Panel presentation)」。WOC, 2014, Submitted Course (東京), 2014. 4.
- (5) セミナー：
- 1) 鈴木久晴：CENTURION® & Accommodative IOL. ASCRS (アメリカ, ボストン), 2014. 4.
  - 2) 鈴木久晴：水晶体嚢真性落屑：水晶体嚢の観察は重要なんです!! 日本白内障学会総会 (第53回) (東京), 2014. 9.
  - 3) 鈴木久晴：硬い核と角膜内皮脆弱例“難症例対策の引き出し”を増やしませんか!?. 日本臨床眼科学会 (第63回) (神戸), 2014. 10.

- 4) 鈴木久晴：ヒーロン V へのこだわり，白内障手術の分岐点：迷宮からの脱出，JSCRS ウィンターセミナー（第 3 回）（東京），2014. 12.
  - 5) 鈴木久晴：7mm-IOL に適した大 CCC 作成は難しい!？，巷に広がる 7mm-IOL に関する都市伝説!!，JSCRS ウィンターセミナー（第 3 回）（東京），2014. 12.
  - 6) 鈴木久晴：眼内レンズのエトセトラ，眼内レンズ 色と形とエトセトラ，日本眼科手術学会総会（第 38 回）（京都），2015. 1.
  - 7) 鈴木久晴：CENTURION® の実力：流体系と超音波テクノロジー，日本眼科手術学会総会（第 38 回）（京都），2015. 1.
- (6) 一般講演：
- 1) Taniguchi H, Kitahara Y, Hori J : Long-term observation of murine models of anterior scleritis. Asia-ARVO (横浜), 2015. 2.
  - 2) Kunishige T, Taniguchi H, Ohno T, Azuma M, Hori J : The V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) plays an essential role in the acceptance of corneal allografts. ISER (San Francisco), 2014. 7.
  - 3) Taniguchi H, Kitahara Y, Hori J : Long-term observation of murine models of anterior scleritis. ISER (San Francisco), 2014. 7.
  - 4) 國重智之, 谷口ヒロ子, 大野建洲<sup>1)</sup>, 東みゆき, 堀 純子 ( <sup>1)</sup> 東京医科歯科大学) : 角膜移植移植における V-domain Igsuppressor of T cell activation (VISTA) の役割. 日本眼炎症学会 (第 48 回) (東京), 2014. 7.
  - 5) Kunishige T, Taniguchi H, Ohno T, Azuma M : Role of V-Domain Ig Suppressor of T Cell Activation (VISTA) on Immune Privilege of Corneal Allograft. WOC2014TOKYO (World Ophthalmology Congress) (東京), 2014. 4.
  - 6) Masafumi O, Masaya S, Naoya K, Yoji T, Hiroshi T : Frontal lobe activation by color tone change-induced photophobia in patients with retinitis pigmentosa. WOC2014TOKYO (東京), 2014. 4.
  - 7) 熊谷直也<sup>1)</sup>, 鈴木雅也<sup>1)</sup>, 井上正雄<sup>1)</sup>, 小野眞史 ( <sup>1)</sup> 東海光学) : 散瞳時光負荷における fNIRS 大脳賦活シグナルによる羞明の定量化と皮膚血流外乱の影響. 日本光脳機能イメージング学会 学術集会 (第 17 回) (東京), 2014. 7.
  - 8) 小野眞史, 鈴木雅也<sup>1)</sup>, 熊谷直也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海光学) : コーチングによるイメージ想起時の 大脳賦活シグナルの検出. 日本光脳機能イメージング学会 学術集会 (第 17 回) (東京鈴木雅也, 熊谷直也), 2014. 7.
  - 9) 小野眞史, 鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 東海光学) : 羞明を伴うドライアイ患者における 色調変化による前頭葉賦活化. 日本臨床眼科学会 (第 68 回) (神戸鈴木雅也, 熊谷直也, 高橋浩), 2014. 11.
  - 10) 小野眞史, 鈴木雅也<sup>1)</sup>, 熊谷直也<sup>1)</sup>, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 東海光学) : ドライアイにおける光量, 色調, 角結膜刺激変化による羞明時前頭. 角膜カンファランス 2015 日本角膜学会総会 (第 39 回) (高知), 2015. 2.
  - 11) 山本裕義, 西岡裕司, 厚澤正幸, 厚澤弘陳, 横川昌彦, 小野眞史 : 両眼性複視の問題を義眼により調整した症例. 日本眼瞼義眼床学会 (第 26 回) (札幌), 2015. 3.
  - 12) Kameya S, Gocho K, Shinoda K, Mizota A, Takahashi H : High-resolution En face images of microcystic macular edema in patients with autosomal dominant optic atrophy. WOC2014TOKYO (東京), 2014. 4.
  - 13) Kameya S, Gocho K, Kikuchi S, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H : High-resolution En face images of microcystic macular edema in patients withautosomal dominant optic atrophy. ARVO-ISIE (オランダ, アメリカ), 2014. 5.
  - 14) Kameya S, Kikuchi S, Gocho K, El Shamieh S, Akeo K, Sugawara Y, Yamaki K, Zeitz C, Audo I, Takahashi H : A cone-rod dystrophy patient with a homozygous RP1L1 mutation. ARVO (オランダ, アメリカ), 2014. 5.
  - 15) Kameya S, Kikuchi S, Gocho K, El Shamieh S, Akeo K, Sugawara Y, Yamaki K, Zeitz C, Audo I, Hiroshi T : A cone-rod dystrophy patient with a homozygous RP1L1 mutation. ISCEV (ボストン, アメリカ), 2014. 7.
  - 16) 亀谷修平, 後町清子, 明尾慶一郎, 菊地佐知子, 白井亜由美<sup>1)</sup>, 山木邦比古, 林 孝彰<sup>1)</sup>, 常岡 寛<sup>1)</sup>, 溝田 淳<sup>1)</sup>, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学 眼科) : 補償光学眼底カメラによるクリスタリン網膜症の解析. 日本臨床視覚電気生理学学会 (第 62 回) (東京), 2014. 10.
  - 17) 福原葉子<sup>1)</sup>, 松本 直<sup>1)</sup>, 片山雄治<sup>1)</sup>, 小早川信一郎 ( <sup>1)</sup> 東邦大・大森) : 白内障手術 1 年後に顕在化した 2 重前囊収縮. JSCRS 学術総会 (第 29 回) (福岡), 2014. 7.
  - 18) 片山雄治<sup>1)</sup>, 有村 哲<sup>1)</sup>, 内匠秀尚<sup>1)</sup>, 小早川信一郎 ( <sup>1)</sup> 東邦大・大森) : 強膜内固定術の合併症. JSCRS 学術総会 (第 29 回) (福岡), 2014. 7.
  - 19) 小早川信一郎, 塙本 宰, 飯田嘉彦, 二宮欣彦, 森山 涼, 永原 幸 : みんなで考える白内障手術 : 実例から考える IOL 縫着・強膜内固定とその前処置. JSCRS 学術総会 (第 29 回) (福岡), 2014. 7.
  - 20) 薫 一帆, 北原由紀, 秋庭幹生, 小早川信一郎, 中山滋章, 高橋 浩 : Unilateral Acute Idiopathic Maculopathy の 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 68 回) (神戸), 2014. 11.
  - 21) 丸山貴大<sup>1)</sup>, 堀 裕一<sup>1)</sup>, 内匠秀尚<sup>1)</sup>, 小早川信一郎 ( <sup>1)</sup> 東邦大・大森) : 2 回対面通糸法を用いた小切開眼内レンズ縫着術. 日本眼科手術学会学術総会 (第 38 回) (京都), 2015. 1.
  - 22) 秋庭幹生, 小早川信一郎, 薫 一帆, 北原由紀, 小澤啓子<sup>1)</sup>, 高橋 浩 ( <sup>1)</sup> 東邦大・大森) : 新しく開発した軸マーキング用リング.

- 日本眼科手術学会学術総会（第38回）（京都），2015. 1.
- 23) 小早川信一郎, 太田俊彦<sup>1)</sup>, 山根 真<sup>2)</sup>, 川路隆博<sup>3)</sup>, 松崎有修<sup>4)</sup> (1) 順天堂大学 眼科, 2) 横浜市立大学附属市民総合医療センター, 3) 熊本大学 眼科, 4) 順天堂大学医学部附属静岡病院) : これから始める眼内レンズ強膜内固定術. 日本眼科手術学会学術総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
  - 24) 片山千加子, 高村悦子, 外園千恵, 佐々木香, 堀 純子, 加藤直子 : やさしい角結膜感染症クリニック : 角結膜感染症におけるステロイド投与方法. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 25) 高野靖子, 杉原 仁, 堀 純子 : 強膜炎の精査により診断に至った甲状腺眼症の1例. 日本眼炎症学会 (第48回) (東京), 2014. 7.
  - 26) 久保田大紀, 芹澤元子, 國重智之, 山口文雄, 山口博樹, 高瀬 博, 堀 純子 : 眼内浸潤と脳播種を生じた眼眼窩先端部原発多クローン性リンパ増殖性腫瘍の1例. 日本眼炎症学会 (第48回) (東京), 2014. 7.
  - 27) 仲野裕一郎, 一戸 唱, 堀 純子 : インフリキシマブが著効した関節リウマチ随伴壊死性強膜炎の1例. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 28) 由井智子, 伊東和香子, 志和利彦, 堀 純子 : 中心窩脈絡膜新生血管に対しラニビズマブが著効したVogt-小柳-原田病の1例. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 29) Kunishige T, Taniguchi T, Ohno T, Azuma M, Hori J : Role of V-Domain Ig Suppressor of T Cell Activation (VISTA) on Immune Privilege of Corneal Allograft. WOC (World Ophthalmology Congress) (日本), 2014. 4.
  - 30) Arima T, Kunishige T, Serizawa M, Nakamoto K, Hori J : Clinical Statistics for Secondary Glaucoma in Ocular Inflammatory Diseases. WOC (World Ophthalmology Congress) (東京), 2014. 4.
  - 31) Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H : Effect of torsional and longitudinal oscillation to the aqueous humor temperature. WOC2014 (東京), 2014. 4.
  - 32) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : A temperature in corneal endothelium during phacoemulsification. ASCRS, 32st Film Festival (アメリカ, ボストン), 2014. 4.
  - 33) Arima T, Suzuki H, Iwama M, Kunishige T, Shiwa T, Takahashi H : Usefulness of semicircular capsulotomy marker in surgical training. ASCRS (アメリカ, ボストン), 2014. 4.
  - 34) Ichinohe S, Suzuki H, Shiwa T, Takahashi H : Temperature alteration in the aqueous humor by viscoelastic materials during phacoemulsification. ASCRS (アメリカ, ボストン), 2014. 4.
  - 35) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : A temperature in corneal endothelium during phacoemulsification. DOC (ドイツ, ニュルンベルグ), 2014. 5.
  - 36) Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H : A temperature in corneal endothelium during phacoemulsification. XXXII Congress of the ESCRS (イギリス, ロンドン), 2014. 9.
  - 37) 鈴木久晴, 五十嵐勉, 志和利彦, 高橋 浩 : 超音波乳化吸引術における角膜内皮温度と各種粘弾性物質における内皮保護効果の検討. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 38) 高野靖子, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 超音波白内障手術における超音波チップベベルの向きと粘弾性物質の残存率の検討. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 39) 有馬武志, 鈴木久晴, 岩間真由美, 國重智之, 志和利彦, 高橋 浩 : 半円式CCCマーカーの教育的効果の検討. JSCRS (第29回) (福岡), 2014. 7.
  - 40) 仲野裕一郎, 芹澤元子, 伊藤由紀子, 佐藤景子, 鈴木久晴 : 水晶体囊真性落屑を伴った白内障手術の3例. Bay Ophthalmic Surgical Seminar (第12回) (神奈川), 2014. 11.
  - 41) 鈴木久晴, 五十嵐勉, 志和利彦, 高橋 浩 : 超音波白内障手術における角膜内皮温度. 日本臨床眼科学会 (第68回) (神戸), 2014. 11.
  - 42) 鈴木久晴, 芹澤元子, 伊藤由紀子, 佐藤景子, 仲野裕一郎, 高橋 浩 : 3重焦点眼内レンズの使用経験. 日本眼科手術学会総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
  - 43) 高野靖子, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : Balanced TipTM (ALCON) による前房温度の検討. 日本眼科手術学会総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
  - 44) 仲野裕一郎, 鈴木久晴, 芹澤元子, 佐藤景子, 伊藤由紀子, 志和利彦, 高橋 浩 : 異なるペリスタルティックポンプにおける粘弾性物質の残存時間の比較検討. 日本眼科手術学会総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
  - 45) 鈴木久晴, 五十嵐勉, 志和利彦, 高橋 浩 : 超音波乳化吸引中の前房温度. 日本眼科手術学会総会 (第38回) (京都), 2015. 1.
  - 46) Nakamoto K, Sato M, Takahashi H : Correlation of body mass index and sitting 24-hour intraocular pressure in normal tension glaucoma. WOC 2014 (東京), 2014. 4.
  - 47) 五十嵐勉, 三宅弘一, 小林舞香, 高橋和久, 三宅紀子, 飯島 修, 中元兼二, 平井幸彦, 島田 隆, 岡田 尚, 高橋 浩 : BDNFを

- 発現するチロシン変異 AAV2 を用いた網膜虚血モデルにおける神経保護効果. 日本網膜硝子体学会総会 (第 53 回) (大阪), 2014. 11.
- 48) Igarashi T, Miyake K, Miyake N, Iijima O, Yaguchi C, Shimada T, Takahashi H : Adeno-associated vector (type 8) -mediated expression of siRNA targeting vascular endothelial growth factor efficiently inhibits neovascularization in a murine choroidal neovascularization model. WOC2014Tokyo (東京), 2014. 4.
- 49) Takahashi K, Igarashi T, Shimizu A, Yamaguchi A, Fukushima Y, Igarashi T, Akeo K, Takahashi H : A definitive diagnosis of mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma made at a second biopsy examination. WOC2014Tokyo (東京), 2014. 4.
- 50) Ichinohe S, Igarashi T, Fujimoto C, Ono M, Takahashi H : Alteration of tear osmolality by sustained eye opening. WOC2014Tokyo (東京), 2014. 4.
- 51) Kobayashi M, Igarashi T, Fujimoto C, Iijima O, Takahashi H : Short-time exposure of hyperosmolarity induces interleukin 6 in corneal epithelial cells. The association of research in vision and ophthalmology (オランダ, アメリカ), 2014. 5.
- 52) Igarashi T, Miyake M, Kobayashi M, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K, Hirai Y, Shimada T, Takahashi H : Tyrosine-mutated AAV2 mediated BDNF gene therapy attenuates retinal ischemic injuries in rats. The association of research in vision and ophthalmology (ARVO) (オランダ, アメリカ), 2014. 5.
- 53) Igarashi T, Miyake M, Kobayashi M, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K, Hirai Y, Shimada T, Takahashi H : Tyrosine-mutated AAV2 mediated BDNF gene therapy attenuates retinal ischemic injuries in rats. American society of gene therapy (Washington DC), 2014. 5.
- 54) Igarashi T, Miyake M, Kobayashi M, Takahashi K, Miyake N, Iijima O, Nakamoto K, Hirai Y, Okada T, Takahashi H : Tyrosine-mutated AAV2 mediated BDNF rescued inner retina in rat retinal ischemic injury model. Japan society of gene therapy (19th) Tokyo (東京), 2014. 5.
- 55) Gocho K, Akeo K, Kameya S, Yamaki K, Mizota A, Takahashi H : The improvement of spoke-wheel pattern foveoschisis in a patient with X-linked retinoschisis treated with topical dorzolamide observed by high-resolution adaptive optics fundus camera. Asia ARVO (横浜), 2015. 2.
- 56) 後町清子, 亀谷修平, 明尾慶一郎, 菊地佐知子, 白井亜由美, 山本邦比古, 林 孝彰, 常岡 寛, 溝田 淳, 高橋 浩 : CYP4V2 遺伝子変異を伴う Bietti クリスタリン網膜症の補償光学眼底カメラによる解析. 日本臨床眼科学会 (第 68 回) (神戸), 2014. 11.
- 57) Gocho K, Kameya S, Kikuchi S, Shinoda K, Mizota A, Yamaki K, Takahashi H : High - resolution Adaptive Optics Images of Microcystic Macular Edema in Patients with Autosomal Dominant Optic Atrophy (ADOA). EURETINA Congress (LONDON), 2014. 9.
- 58) Gocho K, Akeo K, Kikuchi S, Usui, A, Kameya S, Yamaki K, Hayashi T, Tsuneoka H, Mizota A, Hiroshi T : High resolution images of cone photoreceptors with Bietti Crystalline dystrophy associated with CYP4V2 mutation. ARVO (オランダ, アメリカ), 2014. 5.
- 59) Ito N, Hayashi T, Gocho K, Kameya S, Tsuneoka H<sup>1)</sup> (1) 東京慈恵会医科大学 眼科) : Adaptive optics fundus camera reveals parafoveal cone loss in peripheral cone dystrophy. WOC2014 (東京), 2014. 4.
- 60) 明尾慶一郎, 後町清子, 亀谷修平, 山本邦比古, 溝田 淳, 高橋 浩 : 補償光学眼底カメラを使用することで黄斑部車軸様変性の変化を明瞭に観察することが出来た X 染色体劣性若年網膜分離症の 1 例. 日本臨床視覚電気生理学学会 (第 62 回) (東京), 2014. 10.
- 61) 仲野裕一郎, 鈴木久晴, 國重智之, 高橋 浩 : 若手術者が経験した 早期穿孔・・・後囊破損・・・悪夢の 1 例. コルニアフェイコセミナー (第 4 回) (横浜), 2014. 10.
- 62) 仲野裕一郎, 一戸 唱, 國重智之, 堀 純子 : 関節リウマチに伴う壊死性強膜炎. Infliximab Behçet's Meeting (東京), 2015. 3.
- 63) 白鳥 宙, 高橋 浩 : DSAEK 後に眼内炎を起こした 1 例. 角膜カンファレンス 2015 日本角膜学会総会 (第 39 回), 日本角膜移植学会 (第 31 回) (高知), 2015. 2.
- 64) 宮里佑未, 小野真史, 鈴木雅也<sup>1)</sup>, 熊谷直也<sup>1)</sup>, 高橋 浩 (1) 東海光学) : 健常人散瞳光負荷による羞明時前頭葉賦活と皮膚血流外乱の影響. 角膜カンファレンス 2015 日本角膜学会総会 (第 39 回) (高知), 2015. 2.
- 65) 白鳥 宙, 中元兼二, 高橋 浩 : 巨大な overhanging bleb に対して濾過胞切除結膜被覆術を施行した 1 例. 東京都眼科医会集談会 (第 786 回) (東京), 2014. 8.
- (7) 受賞講演 :
- 1) 小野真史, 鈴木雅也<sup>1)</sup>, 熊谷直也<sup>1)</sup>, 高橋 浩 (1) 東海光学) : 網膜色素変性症例における色調 変化時の羞明および前頭葉賦活. 日本眼科学会総会 (第 118 回) (東京), 2014. 4.

## 論文

### [追加分]

追加分原著：

- 1) 一戸 唱, 五十嵐勉, 藤本千明, 飯島 修, 小野真史, 高橋 浩：自発的開眼維持による涙液浸透圧の変化. あたらしい眼科 2014 ; 31 (2) : 257-259.

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) Kunishige T, Taniguchi H, Ohno T, Azuma M, Hori J : The V-domain Ig suppressor of T cell activation (VISTA) plays an essential role in the acceptance of corneal allografts. Asia-ARVO (The Association for Research in Vision and Ophthalmology) (横浜), 2014. 2.



## 26. 疼痛制御麻酔科学分野

### [付属病院麻酔科・ペインクリニック]

#### 研究概要

本年度も本教室の3大研究テーマである全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、外科系集中治療管理と患者重症化阻止、ならびに神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策について、大学院生を中心に多くの臨床および基礎的研究が行われた。基礎研究の一部は、薬理学鈴木教授、解剖学小澤教授、解剖学瀧澤教授の指導下で行われ、神経障害性疼痛における機序解明、麻酔による日内変動遺伝子変化の研究、麻酔と血中 microRNA 変動につき、その成果が報告された。また、手術侵襲制御、周術期体液・代謝管理、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等従来の臨床研究テーマについても幅広く研究が行われた。集中治療領域における ECMO に関しては、臨床運用とともにさらに一層の飛躍を遂げた。以下に主な内容を示す。基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ等を用いて、1) 麻酔による体内重要臓器における遺伝子発現への影響、2) 全身炎症反応・組織障害に対する麻酔薬の臓器保護効果と microRNA の関連、3) 全身麻酔にともなう日内変動の変化とその機序の解明、4) 神経障害性疼痛の機序と治療効果等。臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期  $\beta$  遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因解明、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) ECMO、7) 新たな疼痛管理法等。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takeuchi J, Sakamoto A, Takizawa T<sup>1)</sup> (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School) : Sevoflurane anesthesia persistently downregulates muscle-specific microRNA in rat plasma. *Int J Mol Med* 2014 ; 34 (1) : 291-298.
- 2) Goto G, Hori Y, Ishikawa M, Tanaka S, Sakamoto A : Changes in the gene expression levels of microRNAs in the rat hippocampus by sevoflurane and propofol anesthesia. *Mol Med Rep* 2014 ; 9 (5) : 1715-1722.
- 3) Sakamoto A, Hamasaki T<sup>1)</sup>, Kitakaze M<sup>2)</sup> (1) Department of Biomedical Statistics, Osaka University Graduate School of Medicine, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Research and Development Initiative Center, National Cerebral and Cardiovascular Center) : Perioperative landiolol administration reduces atrial fibrillation after cardiac surgery : A meta-analysis of randomized controlled trials. *Adv Ther* 2014 ; 31 (4) : 440-450.
- 4) Okabe T<sup>1)</sup>, Goto G, Hori Y, Sakamoto A (1) Dept of Anesthesiology, Hitachi, Ltd. Hitachinaka General Hospital) : Gastric tube insertion under direct vision using the King Vision video laryngoscope : a randomized, prospective, clinical trial. *BMC Anesthesiol* 2014 ; 14 : 82.
- 5) Ishikawa M, Sakamoto A : Retrospective evaluation of the predictive ractors of acute kidney injury after liver resection. *International Journal of Clinical Anesthesiology* 2014 ; 2 (2) : 1029.
- 6) 坪光祥晃<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科) : 感染性心内膜炎に対する術後管理の検討. *ICUとCCU* 2014 ; 38 (8) : 567-571.
- 7) Okabe T<sup>1)</sup>, Terashima H<sup>2)</sup>, Sakamoto A (1) Dept. of Anesthesiology, Hitachinak General Hospital, 2) Hitachinak Medical Education and Research Center, University of Tsukuba Hospital) : Determinants of liquid gastric emptying : comparisons between milk and isocalorically adjusted clear fluids. *Br J Anaesth* 2015 ; 114 (1) : 77-82.

##### (2) 総説：

- 1) 中里桂子, 坂本篤裕 : 高侵襲手術の麻酔と周術期管理 (術後集中治療). *麻酔* 2014 ; 63 (5) : 506-512.
- 2) 市場晋吾<sup>1)</sup>, 清水直樹<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>3)</sup> (1) 岡山大学大学院医師薬学総合研究科地域医療学講座, 2) 東京都立小児総合医療センター 救命・集中治療部, 3) 日本医科大学麻酔科・集中治療部) : 重症呼吸不全に対する Extracorporeal Membrane Oxygenation (ECMO). *日本集中治療医学会雑誌* 2014 ; 21 (4) : 313-322.
- 3) 青景聡之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup> (1) カロリンスカ大学病院 ECMO センター, 2) 日本医科大学 集中治療室) : 重症インフルエンザ治療と extracorporeal membrane oxygenation (ECMO). *日本集中治療医学会雑誌* 2014 ; 21 (5) : 478-480.
- 4) 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科, 2) カロリンスカ大学病院 ECMO センター) : 進化した呼吸管理 ECMO. *日本呼吸器内科学会雑誌* 2014 ; 3 (6) : 777-782.
- 5) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩 : ECMO の有用性について. *呼吸と循環* 2014 ; 62 (4) : 381-385.
- 6) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩 : 心不全患者における鎮静. *ICUとCCU* 2014 ; 38 (12) : 813-818.

- 7) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩: 急性心原性肺水腫に対する NPPV 療法. 人工呼吸 2014; 31 (2): 142-147.
- 8) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩: ECMO の現状と将来. 救急・集中治療「症例と Q & A で学ぶ最新の ECMO」 2014; 26 (11/12): 1409-1414.
- 9) 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩: 非侵襲的陽圧換気と高流量経鼻酸素療法. 救急・集中治療「人工呼吸管理—その常識は正しいか?—」 2014; 26 (9/10): 1185-1192.

(3) 症例報告:

- 1) Ishikawa M, Sakamoto A: Intraoperative descending aorta dissection during cardiac surgery. International Journal of Clinical Anesthesiology 2014; 2 (3): 1035.

著書

- 1) 坂本篤裕: [編集] 麻酔科医に必要な気道確保のポイントと教育 (坂本篤裕・村川雅洋編集), 2014; pp1-158, ライフメディコム.
- 2) 坂本篤裕: [分担] 開心術周術期心房細動発生とその対策. 循環器病学アップデート版 (川名正敏, 北風政史, 小室一成, 室原豊明, 山崎力, 山下武司編集), 2014; pp165-167, 西村書店.
- 3) 坂本篤裕: [監修] ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕監修・竹田晋浩, 鈴木謙一編集), 2015; pp1-266, 克誠堂出版.
- 4) 坂本篤裕: [分担] 第4章心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2015 (天羽敬祐監修), 2015; pp21-27, 総合医学社.
- 5) 源田雄紀, 少前貴康<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 血液浄化療法関連. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp23-36, 克誠堂出版株式会社.
- 6) 岸川洋昭, 小磯那津美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] ME 機器 (システム). ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp39-49, 克誠堂出版株式会社.
- 7) 本郷 卓, 齋藤智之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 人工呼吸器. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp51-63, 克誠堂出版株式会社.
- 8) 古市結富子, 戸村泰規<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 除細動器 AED. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp79-96, 克誠堂出版株式会社.
- 9) 中里桂子, 志村亜由香<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] パルスオキシメータ. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp97-104, 克誠堂出版株式会社.
- 10) 石川真士, 中野康太郎<sup>1)</sup>, 山崎覚志<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 輸液ポンプ/シリンジポンプ. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp105-115, 克誠堂出版株式会社.
- 11) 杉田慎二, 森嶋俊介<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] PCPS/ECMO (成人). ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp119-132, 克誠堂出版株式会社.
- 12) 竹田晋浩, 庭山ゆう子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 人工呼吸器関連. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp133-151, 克誠堂出版株式会社.
- 13) 小林克也, 豊富達智<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 特殊血液浄化装置. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp163-176, 克誠堂出版株式会社.
- 14) 安斎めぐみ, 中山拓也<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 高気圧酸素療法. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp179-188, 克誠堂出版株式会社.
- 15) 鈴木規仁, 八重田知巳<sup>1)</sup>, 河原香織<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): [分担] 手術室業務 (内視鏡・眼科手術・麻酔器など). ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻: 国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp189-214, 克誠堂出版株式会社.
- 16) 青景聡之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup> (1) カロリンスカ大学病院 ECMO センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院外科系集中治療科): [共著] 重症呼

吸不全に対する ECMO 治療について. 医療機関における新型インフルエンザ等対策ミニマム・エッセンシャルズ (岡部信彦), 2014 ; pp71-76, 南山堂.

- 17) 青景聡之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup> (1) カロリンスカ大学病院 ECMO センター, (2) 日本医科大学付属病院外科系集中治療科): [共著] ECMO. 実践シミュレーション教育 (監修: 志賀隆, 編集: 武田聡, 万代康弘, 池山貴也), 2014 ; pp256-263, メディカルサイエンス・インターナショナル.
- 18) 竹田晋浩: [分担] 第 38 章麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2015 (天羽敬祐監修), 2015 ; pp227-231, 総合医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 杉田慎二: ECMO を成功させるために. 呼吸療法医学会セミナー (第 39 回) (パシフィコ横浜), 2014. 11.

### (2) 教育講演:

- 1) 坂本篤裕: 新病院にむけての医療効率化と医療安全. 医療の質・安全学会学術集会 (第 9 回) (東京), 2014. 10.

### (3) シンポジウム:

- 1) 鈴木規仁: 突出痛に対する新しいレスキュー適正使用への取り組み. 日本緩和医療薬学会年会 (第 8 回) (愛媛県松山市), 2014. 10.

### (4) セミナー:

- 1) 坂本篤裕: 周術期における短時間作用型  $\beta$  遮断薬の展望. 高知循環管理セミナー 2015 (高知市), 2015. 1.

### (5) 一般講演:

- 1) 中里桂子, 古市結富子, 清水 淳<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科, (2) 日本医科大学集中治療室): 1 秒量の低い症例における開心術の検討. 日本心臓血管麻酔学会 (第 19 回) (大阪), 2014. 9.
- 2) 山本真記子, 中里桂子, 岸川洋昭, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 拡張型心筋症にて左室駆出率 5%, 肺気腫にて在宅酸素療法導入後の症例に対する, 開腹手術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 3) 池田里美, 竹内純平, 中里桂子, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 上行大動脈仮性瘤に対するステントグラフト内挿入術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 4) 陶 莉沙, 後藤玄太郎, 武藤友美, 坂本篤裕: 覚醒下開頭手術においてデクスメトミジン (DEX) を使用し覚醒時の管理が良好であった 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 5) 菊入麻紀子, 赤田信二<sup>1)</sup>, 佐藤千代<sup>1)</sup>, 後藤吉次<sup>1)</sup>, 守 真輝<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 東京臨海病院 麻酔科): 脊髄麻酔下における鎮静にデクスメトミジンを使用した 3 例の報告. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 6) 柴田淳史, 石川真士, 坂本篤裕: 長期透析患者における褐色細胞腫摘出術の術中輸液管理に経食道心エコーと FloTrac システムが有用であった 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 7) 滝井絢未, 岸川洋昭, 大森知恵, 並里 大, 中里桂子, 坂本篤裕: 麻酔導入後の酸素化不良により手術を中止した既往がある患者に対する麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 8) 岩井 愛, 保利陽子, 中里桂子, 坂本篤裕: 気管ステントの一部が食道に穿通した患者の直腸切除に対し, 自発呼吸下で呼吸管理を行った症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 9) 松浦加恵, 保利陽子, 石川真士, 古市結富子, 坂本篤裕: 甲状腺乳頭癌に対する頸部郭清術後に両側反回神経麻痺による呼吸困難を生じた症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京都新宿区), 2014. 8.
- 10) 北見ありさ, 源田雄紀, 鈴木規仁, 坂本篤裕: がん性疼痛に対するフェンタニル注射剤からオキシコドン注射剤へ種類変更の有用性. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京), 2014. 8.
- 11) 木村祐輔, 武藤友美, 坂本篤裕: ハンチントン病患者の前腕骨折手術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京), 2014. 8.
- 12) 古市結富子, 中里桂子, 鈴木規仁, 本郷 卓, 坂本篤裕: 軟骨形成不全症患者に対する大後頭孔拡大術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京), 2014. 8.
- 13) 金 博子<sup>1)</sup>, 佐藤真美子, 笠井麻紀<sup>1)</sup>, 足立 仁<sup>1)</sup>, 石井良昌<sup>2)</sup>, 金 正<sup>1)</sup> (1) 海老名総合病院 麻酔科, (2) 海老名総合病院 口腔外科): 気道の術前評価において 3D プリンターで作成した原寸大模型が有用であった 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京), 2014. 8.
- 14) 谷口佳奈, 中里桂子, 森田智教, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 左肺全摘後在宅酸素療法を導入されている症例に対するイレウス手術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会 (第 34 回) (東京), 2014. 11.
- 15) 石川真士, 坂本篤裕: レミフェンタニルは心拍動下冠動脈バイパス術の術後腎機能悪化を予防する. 日本臨床麻酔学会 (第 34 回) (東京), 2014. 11.

- 16) 仲野耕平, 並里 大, 保利陽子, 小林克也, 中里桂子, 鈴木規仁, 坂本篤裕: 胸部大動脈ステントグラフト内挿入術後遅発性対麻痺を発症した1症例. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 17) 岩崎宏俊, 石川真士, 坂本篤裕: 腎臓部分切除術における術後急性腎障害のリスク因子の検討. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 18) 羽田玲子, 田中俊輔, 永本盛嗣, 岩崎雅江, 幸田修典, 岸川洋昭, 本郷 卓, 坂本篤裕: 腸管牽引症候群に起因する低血圧が生じた症例. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 19) 木村祐輔, 武藤友美, 坂本篤裕: Pelizaeus-Merzbacher disease 成人患者の喉頭気管分離術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 20) 中里桂子, 本郷 卓, 陶 莉沙, 杉田慎二, 小林克也, 岸川洋昭, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 抗生剤によると考えられる高度で持続するアナフィラキシーショックを起こしアドレナリン投与が43時間に及んだ症例. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 21) 中川真志, 石川真士, 坂本篤裕: 術中Base excess値, 乳酸値は肝切除術の術後合併症予測因子となりうるか. 日本臨床麻酔学会 (第34回) (東京), 2014. 11.
  - 22) 大槻達郎, 石川真士, 田中俊輔, 保利陽子, 後藤玄太郎, 坂本篤裕: ラット急性肺障害モデルにおける麻酔薬の作用とmicroRNAの発現変化. 日本麻酔科学会学術集会 (第61回) (横浜), 2014. 5.
  - 23) 岸川洋昭, 坂本篤裕: 高濃度プロポフォールはヒト好中球アポトーシスを促進する. 日本麻酔科学会学術集会 (第61回) (横浜), 2014. 5.
  - 24) 森田智教, 石川真士, 並里 大, 坂本篤裕: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎細胞がん3症例の腫瘍の位置による麻酔法と術式の検討. 日本心臓血管麻酔学会学術集会 (第19回) (大阪), 2014. 9.
  - 25) 石川真士, 並里 大, 森田智教, 木村祐輔, 坂本篤裕: 心拍動下バイパス術: 急性腎障害リスクと術後への影響について. 日本心臓血管麻酔学会学術集会 (第19回) (大阪), 2014. 9.
  - 26) 古市結富子, 中里桂子, 岩崎宏俊, 源田雄紀, 杉田慎二, 小林克也, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 甲状腺摘出術後, 数日間にわたる人工呼吸管理を要した1症例. 日本呼吸療法医学会学術集会 (第36回) (秋田), 2014. 7.
  - 27) 中里桂子, 長谷川里音, 岸川洋昭, 本郷 卓, 杉田慎二<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院集中治療室): IABP, 一時的ペーシングを挿入し肝部分切除術を行った, 周術期心筋虚血のリスクの高い1症例. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.
  - 28) 永田紗弥子, 竹田寛恵, 森 啓介<sup>1)</sup>, 杉田慎二<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院集中治療室): ANCA関連血管炎に対してECMOと理学療法が奏功した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.
  - 29) 岩崎宏俊, 本郷 卓, 古市結富子, 中里桂子, 杉田慎二<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院集中治療室): 非心臓手術の出血量と短期生命予後の後ろ向き研究. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.
  - 30) Kimura Y, Sakamoto A: Changes of messenger RNA expression in the prefrontal cortex of pain model rats by electroconvulsive stimulation. American Society of Anesthesiologists. 2014 Annual meeting (109th) (San Francisco), 2014. 10.
  - 31) 永本盛嗣<sup>1, 2)</sup>, 飯島典夫<sup>1)</sup>, 石井寛高<sup>1)</sup>, 託見 健<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 小澤一史<sup>1)</sup> (日本医科大学大学院医学研究科 疼痛制御麻酔科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野): 麻酔薬の作用機序の研究のための株化細胞を用いた in vitro での実験系の確立. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第120回) (神戸), 2015. 3.
  - 32) 岸川洋昭<sup>1)</sup>, 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 岡部 格<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学麻酔科学教室): 集学的治療中の壊疽患者に対する疼痛管理経験. 日本ペインクリニック学会第48回大会 (東京), 2014. 7.
  - 33) 武藤友美<sup>1)</sup>, 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院麻酔科): 左尿管腫瘍の骨転移に伴うがん性疼痛に対してオピオイド種類変更が有用であった1症例. 日本ペインクリニック学会 (第48回) (東京), 2014. 7.
  - 34) 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 石川真士<sup>1)</sup>, 源田雄紀<sup>1)</sup>, 田中俊輔<sup>1)</sup>, 武藤友美<sup>1)</sup>, 岸川洋昭<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (日本医科大学麻酔科学教室): 舌癌による症候性舌咽神経痛にオピオイドが有効であった1例. 日本ペインクリニック学会 (第48回) (東京), 2014. 7.
  - 35) Morita T, Ishikawa M, Sakamoto A: Common microRNAs regulate liver protection of anesthetic and ischemic preconditioning. American Society of Anesthesiologists. 2014 Annual meeting (109th) (San Francisco), 2014. 10.
- (6) 委員会企画:
- 1) 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 鈴木規仁<sup>1)</sup> (三井記念病院 麻酔科): 超音波ガイド下ブロックは今や必須の麻酔手技の一つだ!. 日本麻酔科学会学術集会 (第61回) (横浜), 2014. 5.

## [武蔵小杉病院麻酔科]

### 研究概要

武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている。医局員が日常の麻酔 ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発

生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている。従って臨床にすぐ反映され、有益となる研究テーマであるという特徴を有している。食道がん、肺がん等の開胸手術における侵襲防御、産科領域の麻酔管理法、気道管理方は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 鈴木万三<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）産婦人科医のための脊椎麻酔。産婦人科の実際 2014；63（8）：1047-1052.
- 2) Inagi T<sup>1)</sup>, Manzo S<sup>1)</sup>, Osumi M<sup>1)</sup>, Bito H<sup>1)</sup> (1) Departmento of Anaesthesiology Musasikosugi Hospital Nippon Medical School)：Remifentanyl-based anaesthesia increases the incidence of postoperative surgical site infection. Journal of Hospital Infection 2014；89：61-68.
- 3) Manzo S<sup>1)</sup>, Kenji Y<sup>1)</sup>, Yumiko O<sup>1)</sup>, Yasuo I<sup>2)</sup>, Masahiro O<sup>2)</sup>, Hozumi M<sup>1)</sup>, Yoichi S<sup>1)</sup> (1) Department of Anesthesiology, Second Hospital Nippon Medical School Japan, 2) Department of Surgery Yokohama Asahi general Hospital Japan)：Sivelestat improved Oxygenation in a Patient Who Suddenly Developed Hypoxia During Surgical Resection of perforated Colon. International journal of clinical Anesthesiology 2014.

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 門倉ゆみ子<sup>1)</sup>, 岩瀬友里<sup>1)</sup>, 田中裕一<sup>1)</sup>, 鈴木新平<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：卵巣癌直腸浸潤による肛門部痛に対し上下腹腔神経叢ブロックが著効した1例。公益社団法人日本麻酔科学会 関東信越・東京支部合同学術集会（第54回）（東京），2014. 8.
- 2) 田中裕一<sup>1)</sup>, 鈴木新平<sup>1)</sup>, 門倉ゆみ子<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：神経障害性疼痛に対するエシタロプラムの効果。公益社団法人日本麻酔科学会関東信越・東京支部合同学術集会（第54回）（東京），2014. 8.
- 3) 和田美紀<sup>1)</sup>, 岩瀬友里<sup>1)</sup>, 鈴木万三<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：術中オピオイドの選択と術後白血球分画の関係。日本麻酔科学会学術集会（第61回）（横浜市），2014. 5.
- 4) 岩瀬友里<sup>1)</sup>, 堂本修平<sup>1)</sup>, 門倉ゆみ子<sup>1)</sup>, 鳥海博司<sup>1)</sup>, 大角 真<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：難治性筋緊張性頭痛に対しランダムアクセス低周波療法が著効した1例。東京・南関東疼痛懇談会（第29回）（川崎市），2015. 2.
- 5) 藤原佳美<sup>1)</sup>, 栗原香織<sup>1)</sup>, 二宮美香<sup>1)</sup>, 軽部みなど<sup>1)</sup>, 青山豊子<sup>1)</sup>, 小泉嘉子<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>1)</sup>, 宮内秀典<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 緩和ケアチーム)：緩和ケアチームが介入し困難と思われた終末期患者の故郷への転院希望を支えた1症例。日本緩和医療学会学術大会（第19回）（神戸），2014. 6.
- 6) 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 藤原佳美<sup>1)</sup>, 栗原香織<sup>1)</sup>, 二宮美香<sup>1)</sup>, 軽部みなど<sup>1)</sup>, 青山豊子<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>1)</sup>, 宮内秀典<sup>1)</sup>, 小泉嘉子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 緩和ケアチーム)：緩和ケアチーム介入を必要としたがんの痛みに対する治療の検討。日本緩和医療学会学術集会（第19回）（神戸），2014. 6.
- 7) 門倉ゆみ子<sup>1)</sup>, 田中裕一<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 麻酔科)：術中の心停止または洞停止により手術中止となり精査で右冠動脈狭窄を認めた2症例。日本臨床麻酔学会（第34回）（東京），2014. 10.

(2) 研究会：

- 1) 岩瀬友里<sup>1)</sup>, 堂本修平<sup>1)</sup>, 門倉ゆみ子<sup>1)</sup>, 田中裕一<sup>1)</sup>, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 尾藤博保<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科)：上下腹神経叢ブロックにより難治性肛門部痛が消失した1例。神奈川県痛みの研究会（第13回）（横浜），2014. 9.

### 論文

[追加分]

追加分症例報告：

- 1) Suzuki M<sup>1)</sup>, Toshiichirou I<sup>1)</sup>, Kikutani T<sup>1)</sup>, Mishima T<sup>1)</sup>, Bito H<sup>1)</sup> (1) musasikosugi hospital)：Negative pressure pulmonary edema after reversing rocuronium-induced neuromuscular blockade by sugammadex. Case Rep Anesthesiol 2014.

## [千葉北総病院麻酔科]

### 研究概要

当科では臨床に即した研究を追求しており、日常業務におけるモニタリング情報の解析に重点を置いている。しかしながら本年度は臨

床業務に忙殺されて十分な成果を挙げることができなかった。来年度は医局員一同、より多くの成果をあげるべく活動する予定である。

(1) 通常のモニタリングに基づいた解析 1) 麻酔中の脳血流モニタリング：近赤外線分光法を用いてオフポンプ CABG 中ならびに呼吸器外科手術中の脳血流の変化をモニタリングし、循環動態の変化や呼吸状態の変化が脳血流に与える影響を分析・解析し、脳血流の変化を適切に管理する麻酔方法を追求する。2) 麻酔中の機能的残気量の変化：腹腔鏡下手術における機能的残気量をモニタリングし、適切な呼吸管理を追求する。3) 麻酔中の基礎代謝量の変化：麻酔導入後より、麻酔薬投与や体温の低下によりヒトの代謝は変化する。麻酔薬や手術侵襲がヒトの基礎代謝に与える影響をモニタリングし、適切な呼吸管理と輸液、栄養管理を追求する。4) その他 (2) 介入的モニタリングに基づいた解析 1) 麻酔覚醒時の筋弛緩モニタリングと麻酔深度モニタリング：筋弛緩拮抗薬あるいはベンゾジアゼピン系薬物拮抗薬の投与前後の筋弛緩モニタリングと麻酔深度モニタリングを通してそのデータを分析、解析し、速やかに快適な麻酔覚醒管理を追求する。2) ペインクリニックにおける慢性疼痛患者に対する治療効果の精神医学的解析。3) その他 (3) 実験的研究 1) 胃排出速度規定因子の検討：健常成人を対象としてブドウ糖電解質溶液の胃排出速度の規定因子の検討を行っている。2) その他

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 坪光祥晃<sup>1,2)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院麻酔科, 2) 日本医科大学麻酔科学教室, 3) 日本医科大学大学院疼痛制御麻酔科学分野)：感染性心内膜炎に対する術後管理の検討。ICU と CCU 2014；38 (8)：567-571.

### 著書

- 1) 金 徹, 橋本美紀<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部)：〔分担〕IABP・集中治療関連。ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕監修, 竹田晋浩, 鈴木健一編集), 2015；pp158-162, 克誠堂出版株式会社。
- 2) 金 徹, 内田千草<sup>1)</sup>, 八木 瞳<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部)：〔分担〕カテーテル関連業務・EPS・その他。ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕監修, 竹田晋浩, 鈴木健一編集), 2015；pp231-251, 克誠堂出版株式会社..

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 金 徹, 岡崎大武<sup>2)</sup>, 鶴見昌史<sup>2)</sup>, 富田和憲<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター, 2) 日本医科大学千葉北総病院 集中治療部)：当院における周術期静脈血栓塞栓症の疫学研究 (集中治療における血栓症)。日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京都港区), 2015. 2.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 間瀬大司, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 杉田慎二<sup>1)</sup>, 小林克也<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 外科系集中治療科, 2) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科, 3) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：Perioperative management after the surgical ablation for atrial fibrillation. 日本不整脈学会学術大会 (第 29 回) (東京), 2014. 7.

(3) 一般講演：

- 1) 伊藤公亮, 金 徹, 渡邊 悠：術中に肺動脈塞栓症をきたし、救命しえた症例。公益社団法人日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 54 回) (東京), 2014. 8.
- 2) 坪光祥晃<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>2)</sup>, 中里桂子<sup>3)</sup>, 古市結富子<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 麻酔科, 2) 榊原記念病院 麻酔科, 3) 日本医科大学付属病院 麻酔科)：急性期・非急性期感染性心内膜炎手術麻酔の比較。心臓血管麻酔学会 (第 19 回) (大阪), 2014. 9.

## 27. 救急医学分野

### [付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

#### 研究概要

救急医学講座では研究テーマを「ショック・虚血再灌流に続発する臓器障害発生の機序解明」と設定し、外科、脳外科、整形外科、集中治療、熱傷、中毒、災害医学をサブスペシャリティーに持つ各グループが、幅広い学術研究・学会・論文発表を行った。

・外傷外科領域：重症外傷患者に行われる Open abdominal management 後の管理および新たな閉腹法の開発など、臨床手法に関して研究を進め報告を行った。

・脳神経外科領域：文部科学省や厚生労働省からの科学研究費等の複数の助成を受け、重症脳血管障害、頭部外傷、および蘇生後脳症に関して臨牀的、基礎的研究を行ない、多くの成果を学会で発表した。特に、重症頭部外傷研究では、早期低体温療法導入の効果に関する国内外の多施設共同研究を当講座主導で開始するなど、頭蓋内病態把握および予後改善を目指した研究を推進している。

・集中治療領域：重症病態に併発する呼吸不全、循環動態に関するモニタリングおよび管理指標に関する研究を行い、学位論文として発表した。また、重症外傷等による呼吸不全に対する ECMO 管理、ECMO 患者搬送体制に関する研究・発表を行った。

・熱傷領域：熱傷患者の予後を予測する熱傷指数の有用性に関する研究を行い、予後予測に関する科学的検証を行った。

・中毒領域：急性薬物・毒物中毒に対する内視鏡を利用した評価および消化管除染の有用性に関する報告など積極的な中毒患者治療・管理に関する発表を国内外で行った。

・災害医療領域：ドクターカー運用データベース作成、現場活動に伴う心的ストレスの解析および対処法の開発、海外災害に対する国際緊急派遣報告など、本学が推進する積極的な病院前救急医療を行うためのシステム構築に関する研究から実際の活動まで、幅広い研究発表を行った。

・基礎研究領域：文部科学省科学研究費を受け以下複数の研究を行った。出血性ショック後、虚血腸管から全身へ炎症性メディエータを運ぶ経路として腸管リンパ液に注目し、腸管リンパ液中のマイクロ RNA 中の役割に関する研究を開始した。また、外傷による軟部組織損傷の影響を観察する実験モデル・腎虚血再灌流モデルを作成し、臓器障害発生に関する研究を行っている。頭部外傷領域では、電磁波によるこれまでにない実験頭部外傷モデルを作成し、本研究成果により当講座大学院生が学位論文を作成中である。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) 市村美帆<sup>1)</sup>、高田治樹<sup>2)</sup>、増野智彦、吉野美緒<sup>3)</sup>、稲本絵里<sup>4)</sup>、松井 豊<sup>2)</sup>、横田裕行 (1) 目白大学人間学部、2) 筑波大学大学院人間総合科学研究科、3) 日本医科大学付属病院小児科、4) 日本医科大学多摩永山病院)：病院前救急診療活動を行う医師の活動中の感情と普段の精神的健康状態との関連。日本救急医学会雑誌 2014；25 (4)：141-151.
- 2) 中江竜太<sup>1)</sup>、高山泰広、小川太志<sup>1)</sup>、直江康孝<sup>1)</sup>、横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター)：Talk and Deteriorate の経過を呈した頭部外傷患者における D-dimer の検討。日本救急医学会雑誌 2014；25 (6)：247-253.
- 3) Satoh E<sup>1,2)</sup>、Tagami T<sup>1,3)</sup>、Watanabe A<sup>1)</sup>、Matsumoto G<sup>1)</sup>、Suzuki G<sup>1)</sup>、Onda H<sup>1)</sup>、Fuse A<sup>1)</sup>、Gemma A<sup>2)</sup>、Yokota H<sup>1)</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 3) Department of Clinical Epidemiology and Health Economics, School of Public Health, Graduate School of Medicine, the University of Tokyo)：Association between Serum Lactate Levels and Early Neurogenic Pulmonary Edema after Nontraumatic Subarachnoid Hemorrhage. Journal of Nippon Medical School 2014；81 (5)：305-312.
- 4) 横堀将司<sup>1,2)</sup>、藤木 悠<sup>1,2)</sup>、山口昌紘<sup>1,2)</sup>、五十嵐豊<sup>1,2)</sup>、橋詰哲広<sup>1,2)</sup>、恩田秀賢<sup>1,2)</sup>、布施 明<sup>1,2)</sup>、横田裕行<sup>1,2)</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, 2) Japan Neurotrauma Databank Committee)：重症頭部外傷における脳室内出血の臨牀的意義：積極的治療抵抗因子の病態は何か。Neurosurgical Emergency 2014；19 (2)：204-209.
- 5) 横堀将司、Bullock R<sup>1)</sup>、Gajavelli S<sup>1)</sup>、Bramlett H<sup>1)</sup>、Dietrich W D<sup>1)</sup>、横田裕行 (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine)：頭部外傷における Thromboelastography (TEG) を用いた血液凝固モニタリング。バイオメディカル 2014；(24)：4-15.
- 6) 三橋正典<sup>1)</sup>、田邊晴山、増野智彦、若菜 繁<sup>1)</sup>、白井 忠<sup>1)</sup>、岡田知己<sup>1)</sup>、横田裕行 (1) 東京消防庁)：搬送資器材の選択は病院前心肺停止傷病者の一ヶ月脳機能予後に影響を与えるか？：東京都のウツタイン搬送データの解析。日本臨床救急医学会雑誌 2015；18 (1)：15-21.

- 7) Gajavelli S<sup>1)</sup>, Shimoda K<sup>1)</sup>, Diaz J<sup>1)</sup>, Yokobori S<sup>2)</sup>, Spurlock M<sup>1)</sup>, Diaz D<sup>1)</sup>, Wick A<sup>1)</sup>, Weichao Z<sup>1)</sup>, Laiyee L<sup>1)</sup>, Deborah S<sup>1)</sup>, Tortella F<sup>1)</sup>, Bullock R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, FL, USA, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan ) : Glucose and oxygen metabolism following penetrating ballistic-like brain injury. *Journal of Cerebral Blood Flow and Metabolism*. 2015 ; 35 (5) : 773-780.
  - 8) Yokobori S, Watanabe A, Igarashi Y, Tagami T, Kuwamoto K, Ishinokami S, Yokota H : The serum level of brain natriuretic peptide increases in severe subarachnoid hemorrhage thereby reflecting an increase in both cardiac preload and afterload. *Cerebrovasc Dis*. 2014 ; 38 (4) : 276-83.
  - 9) Tagami T, Kuwamoto K, Watanabe A, Unemoto K, Yokobori S, Matsumoto G, Igarashi Y, Yokota H : Effect of Triple-H Prophylaxis on Global End-Diastolic Volume and Clinical Outcomes in Patients with Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage. *Neurocrit Care* 2014 ; 21 (3) : 462-469.
  - 10) Tagami T, Kuwamoto K, Watanabe A, Unemoto K, Yokobori S, Matsumoto G, Yokota H : Optimal range of global end-diastolic volume for fluid management after aneurysmal subarachnoid hemorrhage : a multicenter prospective cohort study. *Crit Care Med*. 2014 ; 42 (6) : 1348-1356.
  - 11) 横堀将司 : 治療薬物と持続脳波モニタリング. *Intensivist* 2014 ; 6 (4) : 727-733.
  - 12) 横堀将司 : シームレスな頭部外傷診療. *救急医学* 2014 ; 38 (7) : 779-783.
  - 13) Arai M, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Kim S, Masuno T, Hagiwara J, Ishii H, Yokota H ( <sup>1)</sup> Division of Emergency and Critical Care Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine ) : A novel technique for managing open abdomen with the combined use of mesh-mediated traction and the bilateral anterior rectus abdominis sheath turnover flap method : how to do it. *Surg Today* 2015 ; Epub ahead of print.
  - 14) Miyauchi M, Hayashida M, Yokota H : Evaluation of residual toxic substances in the stomach using upper gastrointestinal endoscopy for management of patients with oral drug overdose on admission : a prospective, observational study. *Medicine (Baltimore)* 2015 ; 94 (4) : 463-468.
- (2) 総説 :
- 1) 賀 亮, 新井正徳, 増野智彦, 松居亮平, 萩原 純, 石井浩統, 片桐美和, 金 史英, 宮内雅人, 辻井厚子, 横田裕行 : Open Abdomen Management における腹直筋外側ストーマの有用性の検討. *Japanese Journal of Acute Care Surgery* 2014 ; 4 (1) : 11-15.
  - 2) 金 史英, 萩原 純, 石井浩統, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 横田裕行 : 当院高度救命救急センターにおける Acute Care Surgeon の育成カリキュラム. *日本腹部救急医学会雑誌* 2014 ; 34 (5) : 981-985.
  - 3) 五十嵐豊, 増野智彦, 横田裕行 : 東京 23 区内における医師現場出動の特徴. *救急医学* 2014 ; 38 (11) : 1451-1453.
  - 4) 横田裕行 : 高齢者救急集中治療と終末期医療. *救急医学* 2014 ; 38 (9) : 1058-1064.
  - 5) 横田裕行 : 外傷学における頭部外傷の位置づけ : 第 28 回日本外傷学会総会・学術集会から. *脳神経外科ジャーナル* 2014 ; 23 (12) : 942-950.
  - 6) 荒木 尚, 横田裕行, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科 ) : 小児における脳死 : その成り立ち, 診断基準と要点. *小児の脳神経* 2014 ; 39 (3) : 254-261.
  - 7) 増野智彦 : ECMO トランスポート. *救急・集中治療* 2014 ; 26 (11-12) : 1472-1477.
  - 8) 増野智彦 : 破傷風トキソイドは, 妊婦や小児に使用してもいいの? . *Emergency Care* 2015 ; 354 : 104-105.
  - 9) 増野智彦 : 妊娠している患者に使用してはいけない薬剤を教えてください. また, 予防接種で使用していないワクチンはあるの? . *Emergency Care* 2015 ; 354 : 106-107.
  - 10) 増野智彦 : 外傷患者で, はじめの点滴はなぜ外液なの? . *Emergency Care* 2015 ; 354 : 108-109.
  - 11) Yokobori S, Mazzeo A, Gajavelli S, Bullock R : Mitochondrial Neuroprotection in Traumatic Brain Injury : Rationale and Therapeutic Strategies. *CNS & Neurological Disorders - Drug Targets*. 2014 ; 13 (4) : 606-619.
  - 12) 横堀将司, 山口昌紘, 藤木 悠, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 井上泰豪, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 頭部外傷におけるバイオマーカーの有用性と今後の展望. *脳神経外科ジャーナル* 2014 ; 23 (12) : 973-980.
  - 13) 横田裕行 : 救急救命士による処置範囲拡大の意義. *Pharma Medica* 2015 ; 33 (3) : 19-22.
  - 14) 荒木 尚 : 中等症・軽症頭部外傷への対応. *救急医学* 2014 ; 38 (7) : 822-826.
  - 15) 横田裕行 : 救急救命士による処置範囲拡大の意義. *Pharma Medica* 2015 ; 33 (3) : 19-22.
  - 16) 三宅康史<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>1,3)</sup>, 奥寺 敬<sup>1,4)</sup>, 北原孝雄<sup>1,4)</sup>, 島崎修次<sup>1,4)</sup>, 坪倉正治<sup>1,4)</sup>, 鶴田良介<sup>1,4)</sup>, 中村俊介<sup>1,4)</sup>, 小田泰崇<sup>1,4)</sup>, 清水敬樹<sup>1,4)</sup>, 白石振一郎<sup>1,4)</sup>, 若杉雅浩<sup>1,4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本救急医学会熱中症に関する委員会, <sup>2)</sup> 委員長, <sup>3)</sup> 担当理事, <sup>4)</sup> 委員 ) : 熱中症の実態調査—日本救急医学会 Heatstroke STUDY 熱中症の実態調査 : 日本救急医学会 Heatstroke STUDY2012 最終報告. *日本救急医学会雑誌* 2014 ; 25 (11) : 846-862.



(3) 症例報告：

- 1) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファランス Q&A. 救急医学 2014 ; 38 ( 8 ) : 987-990.
- 2) Tsukiyama A, Tagami T, Kim S, Yokota H : Use of 3-Dimensional Computed Tomography to Detect a Barium-Masked Fish Bone Causing Esophageal Perforation. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 ( 6 ) : 384-387.
- 3) Miyauchi M, Hayashida M<sup>1)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Benzalkonium chloride intoxication caused by intravenous self-injection. The Japanese Journal of Clinical Toxicology 2014 ; 27 ( 4 ) : 327-332.
- 4) Iwai K<sup>1)</sup>, Miyauchi M, Komazawa D<sup>1)</sup>, Murao R<sup>1)</sup>, Yokota H, Koyama A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Iwaki Kyoritu General Hospital) : Utility of Upper Gastrointestinal Endoscopy for Management of Patients with Roundup® Poisoning. Journal of Clinical Toxicology 2014 ; 4 ( 6 ) : 218.
- 5) 服部 陽<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 亀山大介<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : Damage Control Resuscitationにて救命し得た鈍的心損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2014 ; 35 ( 2 ) : 281-285.
- 6) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファランス Q&A. 救急医学 2014 ; 38 ( 8 ) : 604-607.
- 7) 宮内雅人, 石井浩統, 横田裕行, 高木 亮<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線医学) : 救急画像カンファランス Q&A. 救急医学 2014 ; 38 ( 8 ) : 1600-1603.

著 書

- 1) 横田裕行 : [監訳] 赤ちゃんと子どもの応急処置マニュアル. 赤ちゃんと子どもの応急処置マニュアル【原書第5版】([監訳] 横田裕行【翻訳主幹】植田育也, 荒木尚), 2014 ; 南江堂.
- 2) 横田裕行 : [分担] 脳死と脳死下臓器提供. 脳神経外科診療プラクティス4 : 神経救急診療の進め方, 2014 ; pp86-88, 文光堂.
- 3) 横堀将司 : [分担] 高齢者救急診療における留意点. 脳神経外科診療プラクティス4 : 神経救急診療の進め方, 2014 ; pp238-242, 文光堂.
- 4) 横田裕行 : [分担] 頭部外傷 : 総論. 脳神経外科周術期管理のすべて (第4版), 2014 ; pp308-320, 株式会社メディカルビュー.
- 5) 横堀将司, 横田裕行 : [分担] 急性頭蓋内損傷. 脳神経外科周術期管理のすべて (第4版), 2014 ; pp321-337, 株式会社メディカルビュー.
- 6) 横堀将司, 横田裕行 : [分担] 広範性(びまん性)脳損傷. 脳神経外科周術期管理のすべて (第4版), 2014 ; pp344-348, 株式会社メディカルビュー.
- 7) 横堀将司, 横田裕行 : [共著] 骨折, 髄液漏, 顔面損傷. 脳神経外科周術期管理のすべて (第4版), 2014 ; pp349-360, 株式会社メディカルビュー.
- 8) 荒木 尚, 横田裕行, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : [分担] 小児の頭部外傷. 脳神経外科周術期管理のすべて (第4版), 2014 ; pp361-377, 株式会社メディカルビュー.
- 9) 高山泰弘, 横田裕行, 小関一英<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 平成帝京大学健康メディカル学部) : [分担] 基礎疾患の治療と補充療法. 救急・集中治療 : 徹底ガイド DICのすべて 2014-15, 2014 ; pp873-881, 総合医学社.
- 10) 横田裕行 : [分担] 救急医療の現状と課題 : 特に高齢者救急医療を中心として. 救急医療達人に学ぶ! vol.2, 2014 ; pp3-29, メディカ出版.
- 11) 松本 尚, 横田裕行 : [分担] 頭部外傷. 消化器病診療第2版 ([監修] 一般財団法人 日本消化器病学会【編集】「消化器病診断(第2版)」編集委員会), 2014 ; pp267-270, 医学書院.
- 12) 横田裕行 : [分担] 脳死(脳死判定基準). 神経内科研修ノート, 2015 ; pp627-631, 診断と治療社.
- 13) 金 史英, 横田裕行 : [分担] 止血薬. Pocket Drugs 2015 ((監修) 福井次矢(編集) 小松康宏, 渡邊裕司), 2015 ; pp947-948, 医学書院.
- 14) Yokobori S, Hosein K<sup>1)</sup>, Gajavelli S<sup>1)</sup>, Zhang S<sup>2)</sup>, Wang K<sup>2)</sup>, Bullock R<sup>1)</sup>, Dietrich D<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Miami Miller School of Medicine, Miami FL USA., <sup>2)</sup> University of Florida, FL USA.) : [共著] Chapter 11. Biomarkers in Spinal Cord Injury. Biomarkers of Brain Injury and Neurological Disorders (Zhiqun Zhang, Firas Kobeissy, Kevin K.W. Wang), 2014 ; pp340-354, CRC Press.
- 15) 荒木 尚 : [共著] 2 損傷部位別の治療戦略 ①頭部外傷治療戦略. 外傷専門診療ガイドライン JETEC (監修 : 一般社団法人日本外傷学会 編集 : 日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン編集委員会), 2014 ; pp32-42, へるす出版.
- 16) 荒木 尚 : [分担] 3 外傷患者における集中治療管理 ③頭蓋内圧管理. 外傷専門診療ガイドライン JETEC (監修 : 一般社団法人日本外傷学会 編集 : 日本外傷学会外傷専門診療ガイドライン編集委員会), 2014 ; pp294-302, へるす出版.
- 17) 荒木 尚 : [翻訳主幹] 赤ちゃんと子どもの応急処置マニュアル. 赤ちゃんと子どもの応急処置マニュアル(原書第5版)([監訳] 横

田裕行〔翻訳主幹〕上田育也, 荒木 尚, 2014; 南江堂.

18) 宮内雅人:〔分担〕救急外来における各種モニタリング装置の使用法. 今日の治療指針(山口 徹), 2015; pp114-115, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 会長講演:

1) 横田裕行:重症頭部外傷の評価と治療:その不思議な病態への挑戦. 日本外傷学会総会・学術集会(第28回)(東京), 2014. 6.

### (2) 特別講演:

1) 荒木 尚:小児の脳死:重篤な意識障害の子どもたちを支える脳死学の在り方を求めて. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会(第27回)(東京), 2014. 6.

2) 横田裕行:病院前から始まる脳卒中治療. 福岡脳卒中救急カンファレンス(第9回)(福岡), 2014. 4.

3) 横田裕行:脳神経救急における脳死判定の意義. 徳島臓器移植研究会(第13回)(徳島), 2014. 6.

4) 横田裕行:末期患者・脳死患者の延命治療と看取り:高齢者救急医療の現場から. 烏山在宅医療連携塾(第3回)(東京), 2014. 10.

5) 横田裕行:円滑な脳死下臓器提供に向けて. 大阪府移植医療セミナー(第6回)(大阪), 2014. 11.

6) 松本 尚:重症体幹部外傷診療のためのシステム構築と治療成績. 日本医科大学医学会総会(第82回)(東京), 2014. 9.

### (3) 招待講演:

1) Yokobori S: Recent progress and prospects in TBI patient care. International Congress of Emergency Medicine (ICEM) 2014 (Hong Kong), 2014. 6.

2) 荒木 尚:小児頭部外傷の諸問題. 平成26年度「東京都子ども救命センター」地域連携会議及び研修会(東京), 2014. 9.

3) 荒木 尚:小児頭部外傷の診断と治療. 豊島区医師会小児初期救急出動医・豊島区小児科医会合同講演会(東京), 2014. 12.

4) 荒木 尚: Abusive Head Trauma (AHT) の病態と治療方針を探る. 宮城頭部外傷研究会(第14回)(仙台), 2015. 2.

### (4) 教育講演:

1) 横田裕行:救急隊の感染防止対策について. 東京消防庁本部救急研究会(東京), 2015. 2.

2) 荒木 尚, 横田裕行:小児の脳死判定と臓器提供における諸問題. 関東神経生理検査技術研究会日曜講習会(第50回)(東京), 2014. 6.

### (5) シンポジウム:

1) 横堀将司<sup>1)</sup>, 山口昌紘<sup>1)</sup>, 五十嵐豊<sup>1)</sup>, 亦野文宏<sup>1)</sup>, 井上泰豪<sup>1,2)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>(2)</sup> 日本医科大学脳神経外科:わが国におけるスポーツ関連頭部外傷の特徴:日本外傷データベース(JTDB)から検討. 日本脳神経外科救急学会(第20回)(東京), 2015. 1.

2) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 安武正弘<sup>1)</sup>, 川井 真, 須崎 真, 森田明夫<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター, <sup>(2)</sup> 日本医科大学脳神経外科:スポーツに関連した小児軽傷頭部外傷の特徴と管理. 日本脳神経外科救急学会(第20回)(東京), 2015. 1.

3) 横堀将司, Gajavelli S<sup>1)</sup>, Bullock R<sup>1)</sup>, 山口昌紘, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 井上泰豪, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 <sup>(1)</sup> Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine:重症頭部外傷における脳蘇生の有効性と限界:基礎研究からみた急性期治療の新しい方向性. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会(第27回)(東京), 2014. 6.

4) 鈴木健介<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行 <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター:病院に所属する救急救命士の役割と機能. 日本臨床脳神経外科学会(第17回)(東京), 2014. 7.

5) 横田裕行:救命救急医療における脳死患者への対応:セミナー開催の経験から. 日本臨床脳神経外科学会(第17回)(東京), 2014. 7.

6) 松本 学<sup>1,2)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 大下大輔<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>(2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター:救急・集中治療領域における Non-Convulsive Status Epileptics. 日本神経救急学会学術集会(第28回)(熱海), 2014. 7.

7) 横田裕行:臓器提供施設からの課題と対策. 日本移植学会総会(第50回)(東京), 2014. 9.

8) 五十嵐豊, 賀 亮, 萩原 純, 石井浩統, 片桐美和, 横堀将司, 増野智彦, 宮内雅人, 布施 明, 横田裕行:東京都心部におけるドクターカーによる外傷診療の展望. 日本外傷学会総会・学術集会(第28回)(東京), 2014. 6.

9) 松本 学<sup>1,3)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 岩瀬弘明<sup>1,2)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>(2)</sup> 山梨県立中央病院整形外科, <sup>(3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター:病院前医師派遣で可能となる緊急輸血早期判定. 日本外傷学会総会・学術集会(第28回)(東京), 2014. 6.

10) 益子一樹<sup>1)</sup>, 服部 陽<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 近田裕介<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 <sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター:フィールドから始める外傷蘇生の Maximum: Resuscitative Field Thoracotomy (RFT). 日本外傷学会総会・学術集会(第28回)(東京), 2014. 6.

- 11) 金 史英, 増野智彦, 横堀将司, 宮内雅人, 新井正徳, 横田裕行: Trauma pan scan は first line か. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 12) 田邊晴山<sup>1)</sup>, 横田裕行, 野口 宏<sup>2)</sup> (1) 救急救命東京研修所, (2) 愛知医科大学): 救急救命士が特定行為を実施する際のオンラインメディカルコントロールの意義について. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 13) 横堀将司, Gajavelli S<sup>1)</sup>, Bullock R<sup>1)</sup>, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 白銀一貴, 井上泰豪, 恩田秀賢, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine): 重症頭部外傷における急性期治療戦略の確立: ベッドからラボ, ラボからベッドへ. 日本脳神経外科学会・学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 14) 横堀将司, 末廣栄一, 黒田泰弘, 小畑仁司, 河北賢哉, 小田泰崇, 八ツ繁寛, 河井信行, 増野智彦, 横田裕行: HOPES-JAPAN Trial: 急性硬膜下血腫に対する術前早期導入脳低温療法の有効性と展望. 日本脳低温療法学会 (第 17 回) (静岡), 2014. 8.
- 15) 横田裕行, 横堀将司, 布施 明, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 近藤久禎<sup>1)</sup> (1) 国立病院機構災害医療センター): スマトラ沖地震津波災害から学ぶもの: JDR スリランカ国医療支援の経験から. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (東京), 2015. 2.
- 16) 村田智洋, 久保田麻沙美, 横堀将司, 山口昌紘, 五十嵐豊, 井上泰豪, 亦野文宏<sup>1)</sup>, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 荒木 尚, 布施 明, 森田明夫<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科): スポーツ関連頭部外傷の特徴: 日本外傷データベースの解析から. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 17) 金子純也<sup>1)</sup>, 谷 将星<sup>2)</sup>, 佐藤 慎<sup>3)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 桑本健太郎, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, (2) 会津中央病院救命救急センター, (3) 国立病院機構災害医療センター): 当救命センターにおける頭部外傷の急性期戦略 急性期凝固障害への介入と穿頭術の積極的活用について. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 18) 中江竜太<sup>1)</sup>, 高山泰広, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター): Talk and Deteriorate の経過を呈した頭部外傷患者における D-dimer の検討. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 19) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 安武正弘<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 伊藤保彦<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学総合診療科, (2) 日本医科大学小児科, (3) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋内出血を有する小児軽症頭部外傷の診断治療と長期予後. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 20) 横堀将司<sup>1)</sup>, 村田智洋<sup>1)</sup>, 久保田麻沙美<sup>1)</sup>, 山口昌紘<sup>1)</sup>, 五十嵐豊<sup>1)</sup>, 井上泰豪<sup>1)</sup>, 亦野文宏<sup>1,2)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院救命救急科, (2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 我が国における高齢者頭部外傷の特徴 日本外傷データベースの検討から. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (徳島), 2015. 3.
- 21) 金 史英, 松居亮平, 吉田吉太郎, 石井浩統, 萩原 純, 片桐美和, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行: 当施設における腹腔内出血コントロールの治療戦略と成績. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 22) 石井浩統, 恩田秀賢, 吉野雄大, 池田慎平, 笠井華子, 白銀一貴, 片桐美和, 横田裕行: 日常診療における診療チームのパフォーマンス均一化の試み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 23) 松本 学<sup>1,2)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 岩瀬弘明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, (2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 病院前医師派遣で可能となる緊急輸血早期判定スコアリングの作成. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 24) 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症外傷患者に対する大量輸血プロトコルの遵守は, 凝固能を改善するか?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 25) 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横堀将司<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup>, 須崎 真<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup>, 伊藤保彦<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, (2) 日本医科大学付属病院総合診療センター, (3) 日本医科大学脳神経外科, (4) 日本医科大学小児科): 頭蓋内出血を有する小児軽症頭部外傷の診断治療と長期予後. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 26) 苛原隆之, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 井上和生<sup>2)</sup>, 石原健吾<sup>3)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 伏木 亨<sup>2)</sup>, 横田裕行 (1) 京都大学初期診療・救急医学, (2) 京都大学農学研究科栄養化学, (3) 相山学園大学生生活化学部): マウス LPS 誘発敗血症モデルにおけるエネルギー基質代謝動態の変化. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 27) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明: 小児の脳死と臓器提供. 日本小児科学会 (第 117 回) (名古屋), 2014. 4.
- 28) 荒木 尚: 虐待による頭部外傷 (Abusive Head Trauma) の病態と治療方針. 日本小児救急医学会 (第 28 回) (横浜), 2014. 6.
- 29) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 増野智彦, 金 史英, 川井 真<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学総合診療センター, (2) 日本医科大学脳神経外科): Characteristics and management of sports-related mild traumatic brain injury with intracranial hemorrhagic lesion in children. 日本脳神経外科学会・学術総会 (第 73 回) (東京), 2014. 10.
- 30) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 高山泰広: 小児重症頭部外傷における神経集中治療の選択と減圧開頭術の適応. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.
- 31) 渡邊顕弘, 田上 隆, 横堀将司, 磯谷栄二<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 東京女子医科大学東医療センター救急医療科救命救急センター): くも膜

下出血周術期における循環を中心とした指標への評価. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島市), 2015. 3.

(6) パネルディスカッション:

- 1) 布施 明, 五十嵐豊, 横堀将司, 横田裕行, 久野将宗<sup>1)</sup>, 小笠原智子<sup>2)</sup>, 小井土雄一<sup>2)</sup>, 織田 順<sup>3)</sup>, 大友康裕<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 独立行政法人国立病院機構災害医療センター, 3) 東京医科大学病院救命救急センター, 4) 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター): 東京ドクターカー協議会の設立とその経緯. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 (第 9 回) (東京), 2014. 12.
- 2) 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症外傷患者に対する大量輸血プロトコルの遵守は, 早期死亡に影響したか?. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 3) 宮内雅人, 石井浩統, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行: 当院における 80 歳以上の非静脈瘤性上部消化管出血症例についての検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 4) 服部 陽<sup>1)</sup>, 柴田あみ<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 阪本太吾<sup>1)</sup>, 中山文彦<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 重症体幹部外傷救命のためのドクターヘリによる症例集約化の重要性. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 5) 横堀将司<sup>1,7)</sup>, 末廣栄一<sup>2,7)</sup>, 黒田泰弘<sup>3,7)</sup>, 小畑仁司<sup>4,7)</sup>, 河北賢哉<sup>3,7)</sup>, 小田泰崇<sup>5,7)</sup>, ハツ繁寛<sup>5,7)</sup>, 田中佐智子<sup>6,7)</sup>, 河井信行<sup>3,7)</sup>, 増野智彦<sup>1,7)</sup>, 横田裕行<sup>1,7)</sup> (1) 日本医科大学救急医学, 2) 山口大学脳外科・救急医学, 3) 香川大学脳外科・救急医学, 4) 大阪府三島救命救急センター, 5) 国立病院災害医療センター, 6) 京都大学大学院社会健康医学系, 7) HOPES Investigators): HOPES-JAPAN Trial: 術前早期導入脳低温療法の有効性と再生医療への展望. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 6) 佐藤 章<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 木下順弘<sup>2)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup> (1) 医療法人社団美心会黒沢病院脳卒中センター・救急部, 2) 日本救急医学会: 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会): 救急・集中医療における終末期医療のあり方に関する 3 学会合同提言に至るまで: 倫理的対応と医師教育の意義. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.
- 7) 横堀将司, Ross B<sup>1)</sup>, Shyam G<sup>1)</sup>, 山口昌紘, 五十嵐豊, 井上泰豪, 恩田秀賢, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (1) マイアミ大学医学部脳神経外科): 重症頭部外傷における急性期治療戦略の確立: 基礎研究から臨床研究へ. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.

(7) セミナー:

- 1) 荒木 尚: 小児外傷の特徴と諸問題. 医研セミナー (大阪), 2014. 9.
- 2) 荒木 尚: 小児外傷の特徴と諸問題. 医研セミナー (名古屋), 2014. 12.
- 3) 荒木 尚: 頭部外傷診療の心得. Trauma Conference (第 2 回) (東京), 2014. 10.
- 4) 荒木 尚: 小児頭部外傷の診断と治療. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) 教育セミナー (徳島), 2015. 3.

(8) ワークショップ:

- 1) 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>1)</sup>, 高山恭広, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 福田令雄<sup>1)</sup>, 盤井祐輔<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 谷将星<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 2) 東京臨海病院救急科): 重症頭部外傷における線溶系を指標とした戦略的 HITT の有効性. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 2) 林田和之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 服部 陽<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): ダメージコントロール手術: open abdomen・創部管理方の変遷と今後の試み. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 3) 田上 隆<sup>1,2)</sup>, 康永秀生<sup>2)</sup>, 松居亮平<sup>1)</sup>, 石井浩統<sup>1)</sup>, 萩原 純<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 新井正徳<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学): 鈍的大動脈損傷の治療比較: open repair endovascular. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 4) 金 史英, 萩原 純, 石井浩統, 恩田秀賢, 横堀将司, 塚本剛志, 増野智彦, 新井正徳, 布施 明, 横田裕行: 外傷蘇生の緊急手術時のチーム医療: 当院における取り組み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 5) 横堀将司, 末廣栄一, 黒田泰弘, 小畑仁司, 河北賢哉, 小田泰崇, ハツ繁寛, 田中佐智子, 河井信行, 増野智彦, 横田裕行: HOPES-JAPAN Trial: 術前早期導入脳低温療法の有効性と再生医療への展望. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 6) 布施 明, 若井聡智<sup>1)</sup>, 大西光雄<sup>2)</sup>, 後藤浩也<sup>3)</sup>, 奥村 徹<sup>4)</sup>, 齋藤大蔵<sup>5)</sup>, 横田裕行 (1) 国立病院機構大阪医療センター救命救急センター, 2) 大阪大学医学部附属病院救命救急センター, 3) 自衛隊中央病院, 4) 警視庁警務部理事官, 5) 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門): TC3 は東京オリンピック・パラリンピックに備えたテロ対応に必須である. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (東京), 2015. 2.
- 7) 布施 明, 賀 亮, 五十嵐豊, 萩原 純, 片桐美和, 石井浩統, 横堀将司, 増野智彦, 宮内雅人, 横田裕行: 災害医療を効果的に

行うための新しい情報収集・分析手法についての検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.

(9) ポスター :

- 1) 中江竜太<sup>1)</sup>, 高山泰広, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : 頭部外傷に伴う凝固・線溶系障害の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.
  - 2) 佐藤 慎<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>2)</sup>, 松本 学<sup>2)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 兵頭明夫<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学, <sup>3)</sup> 独協医科大学越谷病院脳神経外科) : 頸動脈海綿静脈洞瘻を認めた頭部顔面外傷患者の3例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.
  - 3) 須崎 真<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 小原俊郎<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1,2)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 総合診療外来における小児外傷の特徴と問題点. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.
  - 4) 近田祐介<sup>1)</sup>, 後藤美咲<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 原義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 高度軟部組織損傷を伴う小児脛骨開放骨折の1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.
  - 5) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 谷 将星<sup>1)</sup>, 盤井佑輔<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>1)</sup>, 福田令雄<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 当救命救急センターにおける後期高齢者外傷の現況. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京), 2014. 6.
  - 6) 谷 将星<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>2)</sup>, 北橋章子<sup>2)</sup>, 石之神小織<sup>2)</sup>, 桑本健太郎, 畝本恭子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : Prehospital care と迅速な穿頭術が有効であった墜落による切迫脳ヘルニアの1例. 日本脳神経外傷学会 (第38回) (徳島), 2015. 3.
  - 7) 藤木 悠<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>2)</sup>, 佐藤 慎, 金子純也, 松本 学, 直江康孝<sup>2)</sup>, 横田裕行, 兵藤明夫<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>3)</sup> 独協医科大学越谷病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 頭部顔面外傷患者に合併した内頸動脈海綿静脈洞瘻の3例. 日本脳神経外傷学会 (第38回) (徳島), 2015. 3.
  - 8) 若栗大朗<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : “Shaken elderly?” syndrome の2症例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
  - 9) 賀 亮, 萩原 純, 松居亮平, 石井浩統, 片桐美和, 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : 重症急性膵炎に対する膵局所動注法施行後に上腸間膜動脈血栓症を合併した2例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
  - 10) 池田慎平, 吉野雄大, 笠井華子, 石井浩統, 片桐美和, 恩田秀賢, 金 史英, 新井正徳, 増野智彦, 横田裕行 : 血管内治療を外科治療に併用して良好な転帰を得た上腸間膜静脈血栓症の1例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
  - 11) 井上泰豪, 萩原 純, 富永直樹, 山口昌紘, 小原良規, 横堀将司, 金 史英, 増野智彦, 小林克也<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学集中治療室) : 多発外傷の治療戦略にECMOを導入し, 有用であった1例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
  - 12) 柴田あみ<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院) : カテーテル関連血流感染症後に発症した非典型容血性尿毒症症候群. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
  - 13) Arai M, Kushimoto S, Kim S, Masuno T, Hagiwara J, Ishii H, Katagiri M, Matsui R, He L, Tsujii A, Yokota H : A novel technique for managing open abdomen by combined use of mesh traction and anterior rectus abdominis sheath turnover flap : a report of two cases. 2nd Joint Scientific Congress of KSACS and JSACS (Korea Soul), 2014. 4.
  - 14) 吉田文哉, 松本典子, 中尾淳一, 萩原 純, 小原良規, 塚本剛志, 川井 真, 横田裕行 : 肘関節後方脱臼に上腕動脈損傷を合併した1症例. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
  - 15) 吉野雄大, 池田慎平, 笠井華子, 松居亮平, 吉田吉太郎, 石井浩統, 萩原 純, 坂本和嘉子, 片桐美和, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : 門脈血栓症に対しIVR, 抗凝固療法, 手術を行った4例. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
  - 16) 川瀬 創, 萩原 純, 片桐美和, 石井浩統, 金 史英, 横堀将司, 増野智彦, 横田裕行 : 腹腔動脈の血栓塞栓を起こすも, 亜急性性に壊死臓器切除を行い救命し得た1例. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
- (10) 海外留学者講演 :
- 1) 横堀将司 : 頭部外傷後脳蘇生における治療戦略の確立. 日本医科大学医学会総会 (第82回) (東京), 2014. 9.
- (11) 一般講演 :
- 1) 杉中宏司<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 瀬尾卓生<sup>1)</sup>, 阪本太吾<sup>1)</sup>, 岡田一宏<sup>1)</sup>, 中山文彦<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : フライトドクターが行う

- advanced field triage についての検討. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
- 2) 萩原 純, 金 史英, 井上泰豪, 石井浩統, 横堀将司, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 著明な高トリグリセリド血症を伴った重症急性性肺炎の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 3) 吉田文哉, 廣瀬和俊, 松本典子, 松居亮平, 五十嵐豊, 吉田良太郎, 桑本健太郎, 塚本剛志, 辻井厚子, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行: 気腫性腎盂炎に対して高気圧酸素療法を施行した 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 4) 柴田あみ<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): *Klebsiella pneumoniae* による敗血症性血栓塞栓症候群の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 5) 井上泰豪, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 白銀一貴, 亦野文宏, 恩田秀賢, 横堀将司, 桑本健太郎, 荒木 尚, 布施 明, 横田裕行: 両側瞳孔散大し, 中脳出血とびまん性脳腫脹を呈していたが, 著明な神経学的改善を認め, 復学に至った重症小児頭部外傷の 1 症例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 6) 池田慎平, 吉野雄大, 笠井華子, 松居亮平, 吉田良太郎, 萩原 純, 石井浩統, 片桐美和, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 横田裕行, 坪 宏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科): 外傷性大動脈損傷に対して保存的治療を選択した 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 7) 松本 学<sup>1, 2)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 末梢血管損傷に対するステント治療. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 8) 岡田一宏<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 外傷における急性呼吸不全に対する Venovenous extracorporeal membrane oxygenation (VV-ECMO) を導入した 5 例の臨床的検討. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 9) 寺岡晋太郎, 恩田秀賢, 吉野雄大, 池田慎平, 笠井華子, 白銀一貴, 石井浩統, 坂本和嘉子, 片桐美和, 宮内雅人, 布施 明, 横田裕行: 経過中にたこつば型心筋症を発症した熱中症の 1 例. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
  - 10) 木村徳宏, 井上泰豪, 金谷貴大, 中尾淳一, 萩原 純, 小原良規, 横堀将司, 金 史英, 増野智彦, 横田裕行: *Edwardsiella tarda* による重症軟部組織感染症から敗血症性ショックを呈した 1 症例. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第 19 回) (仙台), 2015. 1.
  - 11) 荒木 尚, 横田裕行, 市川光太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会): 小児医療従事者に対する脳死判定教育の試み: 小児救急における脳死患者の対応セミナー報告. 日本脳神経外科救急学会 (第 20 回) (東京), 2015. 1.
  - 12) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 谷 将星<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 桑本健太郎, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 当施設における高齢者頭部外傷の予後に係る Talk and deteriorate の影響. 日本脳神経外科救急学会 (第 20 回) (東京), 2015. 1.
  - 13) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 安武正弘<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 組体操に関連した小児脳神経外傷の 6 例. 日本脳神経外科救急学会 (第 20 回) (東京), 2015. 1.
  - 14) 藤木 悠, 恩田秀賢, 山口昌紘, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行: 心肺停止蘇生後患者の生存率における聴性脳幹反応による検討. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会 (第 27 回) (東京), 2014. 6.
  - 15) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 森田明夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 他臓器損傷を合併した小児スポーツ関連頭部外傷の検討. 日本小児神経外科学会 (第 42 回) (仙台), 2014. 5.
  - 16) 荒木 尚<sup>1)</sup>, 市川光太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本小児救急医学会脳死問題検討委員会): 小児脳死下臓器提供に関する意識調査: セミナーアンケート結果より. 日本小児神経外科学会 (第 42 回) (仙台), 2014. 5.
  - 17) 後藤浩也<sup>1)</sup>, 布施 明, 横田裕行, 若井聡智<sup>2)</sup>, 大西光雄<sup>3)</sup>, 奥村 徹<sup>4)</sup>, 齋藤大蔵<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 自衛隊中央病院, <sup>2)</sup> 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター救命救急センター, <sup>3)</sup> 大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター, <sup>4)</sup> 警視庁警務部理事官, <sup>5)</sup> 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門): テロ発生時のヘリによる緊急患者搬送の要請. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 (第 9 回) (東京), 2014. 12.
  - 18) 布施 明, 若井聡智<sup>1)</sup>, 大西光雄<sup>2)</sup>, 後藤浩也<sup>3)</sup>, 奥村 徹<sup>4)</sup>, 齋藤大蔵<sup>5)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 自衛隊中央病院, <sup>4)</sup> 警視庁警務部理事官, <sup>5)</sup> 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門): Tactical Medicine は病院前救急診療の一分野である. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 (第 9 回) (東京), 2014. 12.
  - 19) 増野智彦, 吉野美緒<sup>1)</sup>, 重村朋子, 稲本絵里<sup>2)</sup>, 高田治樹<sup>3)</sup>, 市村 帆<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>3)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病院小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>3)</sup> 筑波大学大学院人間総合科学研究科, <sup>4)</sup> 目白大学): 病院前救急診療を行う医師の心理状態とその特性. 日本病院前救急診療医学会総会・学術集会 (第 9 回) (東京), 2014. 12.
  - 20) 平林篤志<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 病院前の不安定型骨盤輪骨折の診断の妥当性について. 日本航空医療学会総会 (第 21 回) (大阪), 2014. 11.

- 21) 宮内雅人, 吉田直人<sup>1)</sup>, 林田眞喜子<sup>2)</sup>, 大野曜吉<sup>2)</sup>, 増野智彦, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 足利赤十字病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学法医学教室): 急性薬物・毒物中毒に対する内視鏡を利用した入院時胃内評価と消化管除染“rescue endoscopy”の可能性. 日本中毒学会総会・学術集会 (第 36 回) (東京), 2014. 7.
- 22) 池田慎平, 恩田秀賢, 藤木 悠, 朝日林太郎, 石井浩統, 片桐美和, 増野智彦, 横田裕行: 高圧酸素療法を行い転帰が良好であった軟部組織感染症の 2 例. 日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 (第 11 回)・日本高気圧酸素医療技術学会学術集会・総会 (第 5 回) (静岡), 2014. 7.
- 23) 横堀将司<sup>1, 2)</sup>, Ross B<sup>3)</sup>, 藤木 悠<sup>2)</sup>, 山口昌紘<sup>2)</sup>, 五十嵐豊<sup>2)</sup>, 橋詰哲広<sup>2)</sup>, 恩田秀賢<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>1, 2)</sup>, 横田裕行<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科救急医学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> マイアミ大学医学部脳神経外科): 頭部外傷・神経集中治療におけるバイオマーカーの有用性と今後の展望. 日本脳神経外科コンgres総会 (第 34 回) (大阪), 2014. 5.
- 24) 谷 将星<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 富永直樹<sup>1)</sup>, 磐井佑輔<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 基礎疾患のない劇症型肺炎球菌性髄膜炎の 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 28 回) (熱海), 2014. 7.
- 25) 高山泰広<sup>1)</sup>, 横田裕行, 佐藤秀貴<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 花と森の東京病院救急科・脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京臨海病院救急部): 熱中症の症状でマスクされた虚血性脳血管障害について. 日本神経救急学会学術集会 (第 28 回) (熱海), 2014. 7.
- 26) 宮内雅人, 石井浩統, 増野智彦, 新井正徳, 金 史英, 横田裕行: 当院における上部消化管出血に対する気管挿管症例についての検討. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 29 回) (東京), 2014. 9.
- 27) 直江康孝<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 中野公介<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 高山泰広<sup>3)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京臨海病院救急科, <sup>3)</sup> 花と緑の東京病院救急科・脳神経外科): 頭部外傷後の Ddimer と年齢, CT 所見, 予後の関係. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 28) 松本 学<sup>1, 2)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 岩瀬弘明<sup>1, 2)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 山梨県立中央病院整形外科): Non-operative Management を中心とした鈍的腎損傷治療. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 29) 原 義明<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 骨盤周囲の軟部組織欠損に対する有茎大網被覆術の有用性. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 30) 荒木 尚<sup>1, 2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 橋詰哲広<sup>1)</sup>, 藤木 悠<sup>1)</sup>, 山口昌紘<sup>1)</sup>, 五十嵐豊<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター): 他臓器損傷を合併した小児スポーツ関連頭部外傷の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 31) 本村友一<sup>1)</sup>, 後藤美咲<sup>1)</sup>, 服部 陽<sup>1)</sup>, 近田裕介<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 胸腹部圧迫による外傷性窒息のメカニズム解明に向けた被験者実績. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 32) 恩田秀賢, 横堀将司, 荒木 尚, 増野智彦, 金 史英, 宮内雅人, 辻井厚子, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 当施設における高齢者医療の問題点と取り組み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 33) 宮内雅人, 新井正徳, 川井 真, 安武正弘<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療科): 当院におけるたらい回しゼロにむけた取り組み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 34) 坂庭弘晃<sup>1)</sup>, 白田武志<sup>1)</sup>, 吉田直人<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>2)</sup>, 荒木 尚, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 足利赤十字病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本体育大学保健医療学部救急医療学科): 当院における院内救急救命士による病院間搬送業務と現状. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 35) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 金 史英, 小川理郎, 横堀将司, 恩田秀賢: 当施設における小児スポーツ関連外傷の診療経験. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 36) 稲毛俊介<sup>1)</sup>, 畝本賜男<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部): 高度救命救急センターにおける重症部門システムを応用した薬物適正使用の取り組み. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 37) 伊澤 潤<sup>1)</sup>, 伊藤伸一<sup>1)</sup>, 増野智彦, 田上 隆, 横堀将司, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 布施 明, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 東京消防庁): 救急隊活動情報の活用: 静脈路確保トライ数と成功率の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 38) 小川理郎<sup>1)</sup>, 山崎義勝<sup>2)</sup>, 早川勝正<sup>2)</sup>, 倉沼義明<sup>2)</sup>, 白田武志<sup>3)</sup>, 坂庭弘晃<sup>3)</sup>, 吉田直人<sup>3)</sup>, 荒木 尚, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本体育大学保健医療学部救急医療学科, <sup>2)</sup> 足利市消防本部, <sup>3)</sup> 足利赤十字病院救命救急センター): 病院前 CPA の心拍再開後 (ROSC) の CPC1 (神経学的予後良好例) 症例の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 39) Yokobori S, Suehiro E, Kuroda Y, Kobata H, Kawakita K, Oda Y, Yatsushige H, Tanaka S, Kawai N, Masuno T, Yokota H, Suzuki M, Gajavelli S, Spurlock M, Bullock R: HOPES-JAPAN Trial: The randomized multicenter controlled trial for pre-operative early-induced hypothermia and its scientific rationale. International Hypothermia Symposium (5th) (Edinburgh),

2014. 7.

- 40) Yokobori S, Kanaya T, Yamaguchi M, Igarashi U, Hashizume A, Inoue Y, Shirokane K<sup>1)</sup>, Onda H, Masuno T, Fuse A, Yokota H ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Geriatric Traumatic Brain Injury in the Country with Highest Longevity : Lessons for the prehospital care. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (12th) (Tokyo), 2014. 9.
- 41) 増野智彦, 吉野美緒<sup>1)</sup>, 重村朋子, 稲本絵里<sup>2)</sup>, 高田治樹<sup>3)</sup>, 市村美帆<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>3)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>3)</sup> 筑波大学大学院人間総合科学研究科, <sup>4)</sup> 目白大学) : 病院前救急診療に伴う心的外傷ストレス軽減を目的とした事前教育の効果. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第20回) (東京), 2015. 2.
- 42) 布施 明, 市原正行<sup>1)</sup>, 大西光雄<sup>1)</sup>, 勝見 敦<sup>1)</sup>, 北川嘉己<sup>1)</sup>, 小林良三<sup>1)</sup>, 高橋 功<sup>1)</sup>, 中尾博之<sup>1)</sup>, 肥留川賢一<sup>1)</sup>, 眞瀬智彦<sup>1)</sup>, 森野一真<sup>1)</sup>, 山内 聡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 公益社団法人全日本病院協会 AMAT 研修ワーキンググループ) : AMAT (全日本病院協会 災害時医療支援活動班) 活動の概要. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第20回) (東京), 2015. 2.
- 43) 布施 明, 榊原庸貴<sup>1)</sup>, 成田徳雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> パスコ研究センター, <sup>2)</sup> 気仙沼市立病院脳神経外科) : 首都直下型地震に活用できる新しい情報収集・分析手法についての検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第20回) (東京), 2015. 2.
- 44) 荒木 尚, 横田裕行, 布施 明, 横堀将司, 恩田秀賢, 桑本健太郎, 安武正弘<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 組体操 (ピラミッド構築) による小児脳神経外傷の特徴と問題. 日本脳神経外傷学会 (第38回) (徳島), 2015. 3.
- 45) 田上 隆<sup>1)</sup>, 康永秀生<sup>2)</sup>, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 萩原 純<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1,3)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター) : 予後熱傷指数 (PBI) の妥当性. 日本熱傷学会関東地方会 (第23回) (東京), 2015. 1.
- 46) 田山英樹<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1, 2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター) : 当院における広範囲熱傷症例の現状とその治療戦略について. 日本熱傷学会関東地方会 (第23回) (東京), 2015. 1.
- 47) 青木宏信, 小川 令<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 藪野雄大, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 指間への厚め分層植皮術に陰圧閉鎖療法を用いた1例. 日本熱傷学会関東地方会 (第23回) (東京), 2015. 1.
- 48) Tanaka A<sup>1)</sup>, Fuse A, Kawamata J<sup>2)</sup>, Kass P<sup>3)</sup>, Hayama S<sup>4)</sup>, Arai T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Epidemiology, University of California, Cavis, <sup>2)</sup> Fukushima Veterinary Medical Association, <sup>3)</sup> Population health and reproduction, University of California, Davis, <sup>4)</sup> Department of Veterinary Medicine, Nippon Veterinary and Life Science University) : The Veterinarian's Role in Disasters<Lessons Learned from the March 2011 Great East Japan Earthquakes>. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (12th) (Tokyo), 2014. 9.
- 49) Sakakibara T<sup>1)</sup>, Fuse A, Gotoh Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> R & D. PASCO Corporation, <sup>2)</sup> Oversea Department, Pasco Corporation) : Development of the method to know the damage overview using disaster survey helicopters for deploying disaster medical teams. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (12th) (Tokyo), 2014. 9.
- 50) 松本 学<sup>1, 2)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 院外心肺停止患者に対する体外式心肺補助使用下脳低温療法における治療脱落の予測因子. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 51) 後藤美咲<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 川井 真, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 環軸椎骨折は初期評価で疑えるか?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 52) 飯田浩章<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 後藤美咲<sup>1)</sup>, 市川頼子<sup>1)</sup>, 杉中宏司<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 瀬尾卓生<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 川井 真, 横田裕行, 齋藤伸行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 多発外傷を合併した大腿骨骨折治療の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 53) 原 義明<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 川井 真, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 当施設における骨盤輪骨折に対する急性期治療の妥当性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 54) 布施 明, 坂 慎弥<sup>1)</sup>, 布施理美, 山口昌紘, 五十嵐豊, 荒木 尚, 金 史英, 宮内雅人, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 株式会社プラスアルファ・コンサルティング) : 気象データから熱中症救急搬送症例数を予測する. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 55) 萩原 純, 金 史英, 石井浩統, 橋詰哲広, 塚本剛志, 横堀将司, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 布施 明, 横田裕行 : 当施設における過去5年間の重症急性性肺炎症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 56) 松居亮平, 新井正徳, 賀 亮, 吉田良太郎, 石井浩統, 萩原 純, 片桐美和, 金 史英, 増野智彦, 辻井厚子, 横田裕行 : Open Abdominal Management (OAM) 後の閉腹における mesh traction の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡),



2014. 10.
- 57) 布施 明, 榊原庸貴<sup>1)</sup>, 成田徳雄<sup>2)</sup>, 五島幸夫<sup>3)</sup>, 村井信二<sup>2)</sup> (1) バスコ研究センター, 2) 気仙沼市立病院脳神経外科, 3) バスコ国際統括事業部) : 災害初期における医療活動のための空撮を用いた新たな情報収集手法の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 58) 塚本剛志, 賀 亮, 萩原 純, 石井浩統, 橋詰哲広, 横田裕行 : 当センター ICU 入院患者における入院後 VTE (Venous Thromboembolism) 発生の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 59) 布施 明, 五十嵐豊, 萩原 純, 横堀将司, 増野智彦, 横田裕行, 大西光雄<sup>1)</sup>, 徳野慎一<sup>2)</sup>, 奥村 徹<sup>3)</sup>, 齋藤大蔵<sup>4)</sup> (1) 大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター, 2) 防衛医科大学校防衛医学, 3) 警視庁警務部, 4) 防衛医科大学校外傷研究部門) : 本邦における事態対処医療 (Tactical Medicine) の現状. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 60) 須崎 真<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1,2)</sup>, 若栗大朗<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 宮内雅人<sup>1,2)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 小児外傷診療における ER の役割と今後の展望. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 61) 渡邊顕弘, 田上 隆, 横堀将司, 松本 学, 恩田秀賢, 布施 明, 磯谷栄二<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 東京女子医科大学東医療センター) : クモ膜下出血術後の CRP と予後との関連性—SHA PiCCO 多施設共同研究の結果から— . 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 62) 五十嵐豊, 松田陽子<sup>1)</sup>, 布施 明, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 横田裕行 (1) 東京都健康長寿医療センター病理診断科, 2) 日本医科大学大学院病理学 (統御機構・腫瘍学)) : マイクロ波照射によるラット頭部外傷モデルの作製. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 63) 中江竜太<sup>1)</sup>, 高山泰広, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター) : Talk and Deteriorate の経過を呈した頭部外傷患者における D-dimer の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 64) 布施 明<sup>1,2)</sup>, 大西光雄<sup>2)</sup>, 勝見 敦<sup>2)</sup>, 北川喜己<sup>2)</sup>, 小林良三<sup>2)</sup>, 高橋 功<sup>2)</sup>, 中尾博之<sup>2)</sup>, 肥沼川賢一<sup>2)</sup>, 眞瀬智彦<sup>2)</sup>, 森野一真<sup>2)</sup>, 山内 聡<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院救命救急科, 2) 公益社団法人全日本病院協会 AMAT 研修ワーキンググループ) : AMAT (全日本病院協会災害時医療支援活動班) 活動の基本概念についての検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 65) 橋詰哲広, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 白銀一貴, 井上泰豪, 恩田秀賢, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行 : 当院3次救命救急センターにおける脳梗塞患者の特徴と転帰. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 66) 山口昌紘, 鈴木 剛, 草野輝男<sup>1)</sup>, 布施 明, 岡本 研<sup>1)</sup>, 折茂英生<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)) : 全脳虚血再灌流障害モデルマウスにおける酸化ストレスマーカーの検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 67) 金 史英, 増野智彦, 恩田秀賢, 横堀将司, 塚本剛志, 新井正徳, 辻井厚子, 布施 明, 横田裕行 : 中央手術室以外での緊急手術に対する安全管理と non-technical skills (NTS) training. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 68) 田邊晴山<sup>1)</sup>, 横田裕行, 山本保博<sup>2)</sup> (1) 救急救命東京研修所, 2) 一般財団法人救急振興財団) : 救急救命士等の心肺蘇生の中止に関する研究. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 69) 宮内雅人, 松居亮平, 萩原 純, 石井浩統, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行 : 後期高齢者における非静脈瘤性上部消化管出血の臨床的特徴と治療方針について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 70) 服部 陽<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行, 富永 茂<sup>2)</sup>, 西本哲也<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本大学理工学部, 3) 日本大学工学部) : 医工連携交通事故実施調査によるシートベルト損傷の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 71) 富永直樹, 増野智彦, 小林克也<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>2)</sup>, 池山貴也<sup>3)</sup>, 齋藤 修<sup>3)</sup>, 清水直樹<sup>3)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属病院 ME 部, 3) 東京都立小児総合医療センター救命・集中治療部) : ECMO 患者病院間搬送に向けた当院での取り組み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第42回) (福岡), 2014. 10.
- 72) 恩田秀賢, 山口昌紘, 五十嵐豊, 井上泰豪, 亦野文宏, 横堀将司, 桑本健太郎, 布施 明, 横田裕行 : くも膜下出血術後髄液中 IL-6 の推移. 日本脳卒中学会総会 (第40回) (広島市), 2015. 3.
- 73) 恩田秀賢, 金谷貴大, 山口昌紘, 五十嵐豊, 井上泰豪, 白銀一貴, 橋詰哲広, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行 : くも膜下出血術後の髄液中サイトカイン (IL-6) の検討. 日本脳神経モニタリング学会 (第20回) (東京), 2014. 7.
- 74) 宮内雅人, 石井浩統, 橋詰哲広, 増野智彦, 横田裕行 : 当院における黄色ブドウ球菌の血液培養陽性症例における胸部 CT 画像所見の特徴. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.
- 75) 片桐美和, 石井浩統, 萩原 純, 吉田良太郎, 松居亮平, 賀 亮, 新井正徳, 金 史英, 横田裕行, 笠井華子, 池田慎平, 吉野雄大 : 当科における非閉塞性腸間膜虚血症 10 例の検討. 日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 (第6回) (青森), 2014. 9.
- 76) 松本 学<sup>1,2)</sup>, 小林辰輔<sup>1)</sup>, 岩瀬史朗<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 山梨県立中央病院救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : ECLS 離脱後大腿動脈仮性動脈瘤に対し

Covered Stent 留置術を施行した1例. 日本集中治療医学会学術集会 (第42回) (東京), 2015. 2.

(12) 一般示説:

- 1) 片桐美和, 松居亮平, 萩原 純, 吉田良太郎, 石井浩統, 金 史英, 増野智彦, 宮内雅人, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 多発外傷, 外傷性頭蓋内出血術後7日目に発症した遅発性脾破裂の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第51回) (京都), 2015. 3.

## 論文

[追加分]

追加分総説:

- 1) Povlishock J, Yokobori S, Kuroda Y, Polderman K: Cooling Strategies Targeting Trauma. Ther Hypothermia Temp Manag. 2014; 4 (1): 3-7.
- 2) Gajavelli S, Sinha V, Mazzeo A, Spurlock M, Lee S, Ahmed A, Yokobori S, Bullock M: Evidence to support mitochondrial neuroprotection, in severe traumatic brain injury. J Bioenerg Biomembr. 2015; 47 (1-2): 133-148.

## 著書

追加分:

- 1) 横堀将司: [共著] 頭蓋内圧, 内頸静脈酸素飽和度, Transcranial Doppler. 心停止後症候群に対する神経集中治療 (黒田泰弘), 2014; pp99-107, 総合医学社.
- 2) 横堀将司, 横田裕行: [共著] 頭部外傷. 救急・集中治療医学レビュー (島崎修次・前川剛志・岡本和文・横田裕行), 2014; pp190-196, 総合医学社.

## [武蔵小杉病院救命救急センター]

### 研究概要

2014年の当科の業績を振り返ると, 外傷に関する著作が3点, 中毒に関する著作が2点あった. 外傷も中毒もどちらも, 本学救急医学教室の主要な研究テーマである. また, 発表に目を転じると, 救急医学領域全般に及ぶ多彩なテーマについて数多くの発表を行った. 感染症8題, 外傷5題, 熱傷3題, 教育3題, 救急医療システム3題, 心肺蘇生2題, 中毒1題, 災害医療1題といった具合である. 部長が交代して2年以上経過して, やっと当科の研究, 学会活動も活性化されてきた端緒となった1年であった. しかし, 内容は症例報告が多く, 本腰を入れた継続的な研究はこれからであり, 更に精進努力していかなければならないと考えている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 吉田奈央<sup>3)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 望月 徹<sup>1, 2)</sup>, 上野ひろむ<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部): ICT 抗菌薬ラウンドの有用性調査. 日本環境感染学会誌 2014; 29 (4): 280-286.
- 2) 石丸直樹, 松田 潔, 菊池広子, 遠藤広史, 山村英治, 黒川 顕: 手術手技: ACS (Abdominal Compartment Syndrome) 予防法のひとつ工夫 (解説). 手術 2014; 68 (12): 1605-1612.
- 3) Tajima H<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Isshiki S<sup>3)</sup>, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>3)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Matsuda K, Furukawa A<sup>4)</sup> (1) Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Radiology, Nippon Medical School Hospital, (3) Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (4) Department of Radiological Science, Tokyo Metropolitan University): Angiography-assisted computed tomography for the detection and intervention of a subtle aneurysm of the omentum. Japan Journal of Radiology 2014; 32 (4): 238-241.

(2) 総説:

- 1) 菊池広子, 松田 潔: 【酸素の生体作用—基礎研究から応用医学までの新機軸—】一酸化炭素中毒と低酸素血症. THE LUNG-perspectives 2014; 22 (3): 299-302.

## 著書

- 1) 松田 潔: [分担] 四肢外傷. 改訂第3版外傷初期看護ガイドライン JNTEC, 2014; pp82-85, へるす出版.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 松田兼一<sup>1)</sup>, 岩瀬史明<sup>2)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup> (山梨大学医学部救急集中治療医学講座, <sup>2)</sup> 山梨県立中央病院救命救急センター)：救急救命士の再教育を考える 山梨県における MC 協議会の位置づけと救急救命士再教育の現状. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 2) 松田 潔：私が信州地方会を選んだ理由. 日本熱傷学会甲信地方会 (第 27 回) (長野), 2014. 9.
- 3) 田中秀治<sup>1)</sup>, 齋藤大蔵<sup>1)</sup>, 織田 順<sup>1)</sup>, 上山昌史<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>1,2)</sup>, 春成伸之<sup>1)</sup>, 矢島 務<sup>1)</sup>, 関根和弘<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本熱傷学会プレホスピタル委員会, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：日本におけるプレホスピタルの熱傷観察・処置・判断の改善のために. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
- 4) 松田 潔<sup>1,2)</sup>, 田中秀治<sup>2)</sup>, 上山昌史<sup>2)</sup>, 織田 順<sup>2)</sup>, 関根和弘<sup>2)</sup>, 春成伸之<sup>2)</sup>, 齋藤大蔵<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本熱傷学会プレホスピタル委員会)：日本熱傷学会 PBEC コースの概要とコースカリキュラム. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
- 5) Tajima H<sup>1)</sup>, Takenoshita N<sup>1)</sup>, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Onozawa S<sup>2)</sup>, Mine T<sup>2)</sup>, Ueda T<sup>2)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Tajima N<sup>2)</sup>, Isshiki S<sup>3)</sup>, Ichikawa T<sup>3)</sup>, Matsuda K (<sup>1)</sup> Center for Minimally Invasive Treatment, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>3)</sup> Radiology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital)：Angiography-assisted computed tomography for subtle aneurysms of the omentum. The Midnight Sun Conference, Symposium of the Scandinavian Japanese Radiological Society (10th), Nordic Japan PACS Symposium (13th) (Turku), 2014. 6.

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 岩瀬史明<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 小林辰補<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup> (山梨県立中央病院救命救急センター)：高齢者救急事案に係る課題と今後の展望 介護施設から当院救命救急センターに搬送された高齢者の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 2) 岩瀬史明<sup>1)</sup>, 井上潤一<sup>1)</sup>, 小林辰補<sup>1)</sup>, 宮崎善史<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 大嶽康介<sup>1)</sup>, 加藤頼子<sup>1)</sup>, 池田督司<sup>1)</sup>, 木下大輔<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup> (山梨県立中央病院救命救急センター)：ドクターカーの病院外心肺停止症例に対する効果の検証. 日本病院前救急診療医学会総会 (第 9 回) (東京), 2014. 12.

### (3) ワークショップ：

- 1) 本多 満<sup>1,3)</sup>, 安心院康彦<sup>1)</sup>, 岩瀬正顕<sup>1)</sup>, 西本泰久<sup>1)</sup>, 富岡譲二<sup>1)</sup>, 畑 倫明<sup>1)</sup>, 笠原真弓<sup>2)</sup>, 増山純二<sup>2)</sup>, 佐藤憲明<sup>2)</sup>, 松田 潔<sup>1,4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本臨床救急医学会教育研修委員会外傷初期診療におけるチーム医療推進検討ワーキンググループ, <sup>2)</sup> 日本救急看護学会 JNTEC 委員会, <sup>3)</sup> 東邦大学医療センター大森病院救命救急センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター)：外傷診療におけるチーム医療 JATEC と JNTEC との連携 PTD 回避を目的にした外傷標準化コースでの連携. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 2) 石丸直樹, 笠井華子, 山村栄治, 遠藤広史, 橋詰哲広, 菊池広子, 黒川 顕, 松田 潔：外傷性腹部救急疾患に対するプライマリケアでの JATEC の重要性と応用. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.

### (4) ポスター：

- 1) 門馬 治<sup>1)</sup>, 松田 潔, 菊池広子 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター看護部)：多発肋骨骨折に対し非侵襲的人工呼吸器管理を行った 1 例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京), 2014. 6.
- 2) 遠藤広史, 松田 潔, 望月 徹, 石之神小織, 菊池広子, 石丸直樹, 山村英治, 黒川 顕：ARDS と急性腎障害を合併した重症レジオネラ肺炎の 3 症例. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 3) 菊池広子, 山村英治, 遠藤広史, 石丸直樹, 石之神小織, 望月 徹, 松田 潔, 黒川 顕：初期臨床研修を中断せざるを得なかった研修医への対応と問題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 4) 望月 徹<sup>1,2)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 菊池広子<sup>1)</sup>, 遠藤広史<sup>1)</sup>, 石丸直樹<sup>1)</sup>, 山村英治<sup>1)</sup>, 黒川 顕 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：救命救急センターにおける MDRP アウトブレイク発生時の伝播拡大阻止策. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡), 2014. 10.
- 5) 高木宏治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 松田 潔, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 清水 渉<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科)：ECMO 管理中の理学療法が有効であった重症レジオネラ肺炎の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.

### (5) 一般講演：

- 1) 望月 徹<sup>1,2)</sup>, 上野ひろむ<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>2,3)</sup>, 山口朋禎<sup>2,4)</sup>, 吉田奈央<sup>2,3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：当院の救命救急センターにおける MDRP アウトブレイク発生時の伝播拡大阻止策. 日本感染症学会 (第 88 回) (東京), 2014. 6.
- 2) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2,3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院感染制御部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 日

本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：非プラスミド型 AmpC  $\beta$ -lactamase 産生菌の第 3,4 世代セファロsporin系抗菌薬の耐性化に関して。日本化学療法学会総会 (第 62 回) (福岡), 2014. 6.

- 3) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2,3)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 板橋寿和<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院感染制御部, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：Flavimonas orzyhabitans による菌血症の 2 例。日本化学療法学会総会 (第 62 回) (福岡), 2014. 6.
- 4) 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2,3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：当院におけるダプトマイシンの使用状況。日本化学療法学会総会 (第 62 回) (福岡), 2014. 6.
- 5) 石室正輝<sup>1)</sup>, 小峰達也<sup>1)</sup>, 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 門馬 治<sup>2)</sup>, 黒川 顕, 小河原美代子<sup>2)</sup>, 小見山かおり<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター救急救命士, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部)：病院職員としての救急救命士が, 病院リスクマネージメントに貢献する。日本臨床医学リスクマネージメント学会・学術集会 (第 12 回) (東京), 2014. 5.
- 6) 石之神小織, 松田 潔, 菊池広子, 石丸直樹, 遠藤広史, 河野陽介, 竹ノ下尚子, 竹島 元, 小峰達也, 黒川 顕：救急救命士による静脈路確保の現状と再教育病院研修における指導。日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木), 2014. 5.
- 7) 松田 潔, 石之神小織, 菊池広子, 遠藤広史, 石丸直樹, 河野陽介, 山村英治, 賀 亮, 望月 徹, 竹ノ下尚子, 黒川 顕：急性腎不全により心肺停止に陥った脱法ハーブ中毒の 1 例。日本中毒学会総会 (第 36 回) (東京), 2014. 7.
- 8) 吉田文哉, 松田 潔, 橋詰哲広, 菊池広子, 石丸直樹, 遠藤広史, 山村栄治, 五十嵐由美, 小峰達也, 石室正輝, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 黒川 顕 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：院外心肺停止症例に対する当院における体外循環式心肺蘇生の導入実績とその短期的予後。日本救命医療学会総会 (第 29 回) (東京), 2014. 9.
- 9) 久能木俊之介<sup>1)</sup>, 遠藤広史<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup>, 菊池広子<sup>1)</sup>, 石丸直樹<sup>1)</sup>, 橋詰哲広<sup>1)</sup>, 山村栄治<sup>1)</sup>, 笠井華子<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>3)</sup>, 望月 徹<sup>1,2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：多発外傷に胆嚢動脈損傷をともなった 1 例。日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (横浜), 2015. 2.
- 10) 野原 剛<sup>1)</sup>, 山村栄治<sup>1)</sup>, 遠藤広史<sup>1)</sup>, 石丸直樹<sup>1)</sup>, 橋詰哲広<sup>1)</sup>, 菊池広子<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1,2)</sup>, 松田 潔<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：観血的修復により良好な経過を得た腹膜外膀胱破裂の 1 例。日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 11) 石丸直樹, 松田 潔, 菊池広子, 遠藤広史, 山村栄治, 黒川 顕, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：肝細胞癌破裂による出血性ショックに対し ACS (Abdominal Compartment Syndrome 腹部コンパートメント症候群) の治療・予防を行った 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島), 2014. 11.
- 12) 山村栄治, 川口義樹<sup>1)</sup>, 西原佑一<sup>1)</sup>, 大住幸司<sup>1)</sup>, 徳山 丞<sup>1)</sup>, 浦上秀次郎<sup>1)</sup>, 尾本健一郎<sup>2)</sup>, 石志 紘<sup>1)</sup>, 島田 敦<sup>1)</sup>, 松井 哲<sup>1)</sup>, 大石 崇<sup>1)</sup>, 磯部 陽<sup>1)</sup> (1) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター外科, (2) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター救命救急センター)：貧血のため小腸切除が必要となった肺癌多発小腸転移の 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 76 回) (福島), 2014. 11.
- 13) 望月 徹<sup>1,2)</sup>, 上野ひろむ<sup>2)</sup>, 小林綾乃<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>2)</sup>, 吉田奈央<sup>2)</sup>, 吉岡美香<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：当院救命救急センターにおける多剤耐性菌発生時の監視培養を基にした一般病棟転棟・転出システム。日本環境感染学会総会 (第 30 回) (神戸), 2015. 2.

追加分一般講演：

- 1) 阪田 歩<sup>1)</sup>, 多熊清継<sup>2)</sup>, 大城健一<sup>2)</sup>, 箕輪良行<sup>3)</sup>, 和田崇文<sup>3)</sup>, 松田 潔, 黒川 顕 (1) 川崎市消防局, (2) 川崎市立川崎病院, (3) 聖マリアンナ医科大学)：川崎市の救命救急センター 3 施設における「救急車ダイバージョン」：救急隊の視点からの報告。日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 2) 竹島 元, 河野陽介, 遠藤広史, 石丸直樹, 菊池広子, 石之神小織, 望月 徹, 松田 潔, 黒川 顕：偶発性低体温症に合併した非閉塞性腸管虚血症 (NOMI) の 1 例。日本救急医学会関東地方会 (第 64 回) (横浜), 2014. 2.
- 3) 鈴木貴博<sup>1)</sup>, 大城健一<sup>2)</sup>, 東岡宏明<sup>3)</sup>, 松田 潔 (1) 川崎市立井田病院, (2) 川崎市立川崎病院, (3) 関東労災病院)：川崎市中原区における実践的な医療救護計画の策定。日本集団災害医学会総会 (第 19 回) (東京), 2014. 2.

## 【多摩永山病院救命救急センター】

### 研究概要

当施設は多摩地区の 3 次救急医療施設として多発外傷, 頭部外傷, 整形外科外傷, 熱傷, 虚血性心疾患, 脳血管障害, 薬物中毒, 災害医療と多岐に渡る患者に対して, それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に外科手術, 血管内治療を含む集中治療に当たるとともに, 各分野での臨床研究をおこなっている。重症患者における循環動態モニタリング, 頭部外傷に対する低体温療法, 脳梗塞急性期に対する rt-PA の投与, 血栓回収療法, 多発性外傷に対するダメージコントロール, 心肺停止の低体温療法などに取り組んでいる。また, ド

クターアンビュランスなど病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している。また、災害医療に関しても国内、海外への派遣に積極的に参加し、学会および誌上報告を行っている。これらの活動を基に、公的機関へのデータ登録や、救急医療システム構築に協力している。

## 研究業績

### 著書

- 1) 久野将宗：〔分担〕 トリアージタグの記載方法. 1人でも多くの命を救うために トリアージ-日常からトリアージを考える (山本保博・鶴飼拓 二宮宣文・山口孝治), 2014; pp35-46, 荘道社.
- 2) 鈴木健介：〔分担〕 集客イベントにおけるトリアージ. 1人でも多くの命を救うために トリアージ-日常からトリアージを考える (山本保博・鶴飼拓 二宮宣文・山口孝治), 2014; pp118-136, 荘道社.
- 3) 二宮宣文：〔分担〕 トリアージの教育・訓練方法. 1人でも多くの命を救うために トリアージ-日常からトリアージを考える (山本保博・鶴飼拓 二宮宣文・山口孝治), 2014; pp193-195, 荘道社.
- 4) 畝本恭子：〔分担〕 A. 治療 脊髄損傷. 今日の治療指針 (監修：山口徹・北原光夫 総編集：福井次矢・高木誠・小室一成), 2015; pp49-49, 医学書院.
- 5) 久野将宗：〔分担〕 B. 手技 カルディオバージョン. 今日の治療指針 (監修：山口徹・北原光夫 総編集：福井次矢・高木誠・小室一成), 2015; pp86-86, 医学書院.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 二宮宣文：Ready for action! Are you ready?. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (第12回) (東京ドームホテル (東京)), 2014. 9.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 鈴木健介, 二宮宣文, 畝本恭子, 久野将宗, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 福田令雄, 金子純也, 磐井佑輔：救急救命士病院実習の問題点と対策. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第17回) (自治医科大学 (栃木県)), 2014. 5.
- 2) 鈴木健介, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文, 横田裕行：病院に所属する救急救命士の役割と機能. 日本臨床脳神経外科学会 (第17回) (東京国際フォーラム (東京)), 2014. 7.
- 3) 金子純也, 谷 将星<sup>1)</sup>, 佐藤 慎<sup>2)</sup>, 北橋章子, 石之神小織, 栗本健太郎, 畝本恭子, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 会津中央病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 国立病院機構災害医療センター)：当救命センターにおける頭部外傷の急性期戦略 急性期凝固障害への介入と穿頭術の積極的活用について. 日本脳神経外傷学会 (第38回) (あわぎんホール (徳島)), 2015. 3.

#### (3) セミナー：

- 1) 畝本恭子：神経所見の診かた；個別実技指導. 日本神経救急学会学術集会 (第28回) (熱海コンベンションホール (静岡県)), 2014. 7.

#### (4) ワークショップ：

- 1) 栗本健太郎, 金子純也, 高山恭広, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 諸江雄太, 小柳正雄, 福田令雄, 磐井佑輔, 久野将宗, 畝本恭子, 谷 将星, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 東京臨海病院救急科)：重症頭部外傷における線溶系を指標とした戦略的 HITT の有効性. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.
- 2) 清水直樹<sup>1)</sup>, 齊藤 修<sup>1,2)</sup>, 池山貴也<sup>1)</sup>, 秋山 類<sup>1)</sup>, 新津健裕<sup>1)</sup>, 井上信明<sup>1)</sup>, 富永直樹, 増野智彦, 横田裕行, 竹田晋浩 (<sup>1)</sup> 東京都立小児総合医療センター, <sup>2)</sup> あいち小児保健医療総合センター)：小児重症呼吸不全症例の施設間搬送・ECMO 搬送について. 日本救急医学総会・学術集会 (第42回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.

#### (5) 一般講演：

- 1) 金子純也, 谷 将星, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 久野将宗, 小柳正雄, 諸江雄太, 畝本恭子：当センターにおける外傷診療成績と防ぎ得た外傷死症例の検討. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.
- 2) 鈴木健介, 久野将宗, 畝本恭子, 諸江雄太, 栗本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 谷 将星, 二宮宣文：外傷ショック患者に対する病院前輸液の効果：救急救命士処置拡大に向けて. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.
- 3) 金子純也, 谷 将星, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 久野将宗, 小柳正雄, 諸江雄太, 畝本恭子：重症頭部外傷を合併した多発外傷に対する治療戦略. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.
- 4) 諸江雄太, 畝本恭子, 福田令雄, 磐井佑輔, 栗本健太郎, 小柳正雄, 金子純也, 北橋章子, 谷 将星, 久野将宗：在宅酸素を要する高齢慢性呼吸器不全患者の flail chest を NPPV で管理し奏功した1例. 日本外傷学会総会・学術集会 (第28回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.

- 5) 畝本恭子, 谷 将星, 磐井佑輔, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 栗本健太郎, 諸江雄太, 久野将宗, 横田裕行: 当救命救急センターにおける後期高齢者外傷の現状. 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京ビッグサイト (東京都)), 2014. 6.
- 6) 谷 将星, 畝本恭子, 富永直樹, 磐井佑輔, 金子純也, 北橋章子, 栗本健太郎, 久野将宗, 横田裕行: 基礎疾患のない劇症型肺炎球菌性髄膜炎の 1 例. 日本神経救急学会学術集会 (第 28 回) (熱海コンベンションホール (静岡県)), 2014. 7.
- 7) 富永直樹, 金子純也, 鈴木健介, 齋藤美紀子, 谷 将星, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 石之神小織, 小柳正雄, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子: 意識障害にショックを合併し, 診断に難渋した副腎クリーゼの 1 例. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 29 回) (京王プラザホテル八王子 (東京)), 2014. 9.
- 8) 畝本恭子, 谷 将星, 富永直樹, 磐井佑輔, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 栗本健太郎, 石之神小織, 久野将宗, 諸江雄太, 鈴木健介: 痙攣性疾患に対する病院前呼吸補助の意義. 日本救命医療学会総会・学術集会 (第 29 回) (京王プラザホテル八王子 (東京)), 2014. 9.
- 9) 鈴木健介, 谷 将星, 磐井佑輔, 福田令雄, 金子純也, 小柳正雄, 栗本健太郎, 諸江雄太, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文: 養護教諭がトリアージを実施するために: 医療資格の有無による検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 10) 諸江雄太, 畝本恭子, 久野将宗, 栗本健太郎, 小柳正雄, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 北橋章子, 谷 将星, 鈴木健介: 3 年間に当センターに入院となった外傷 441 症例の review. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 11) 金子純也: 当救命センターでの頭部外傷診療急性期線溶亢進への介入と damage control surgery (DCS). 日本脳神経外科学会学術集会 (第 73 回) (グランドプリンスホテル新高輪 (東京)), 2014. 10.
- 12) 栗本健太郎: 自己完結型救命救急センターにおける重症くも膜下出血の治療成績. 日本脳神経外科学会学術集会 (第 73 回) (グランドプリンスホテル新高輪 (東京)), 2014. 10.
- 13) 諸江雄太, 畝本恭子, 栗本健太郎, 小柳正雄, 久野将宗, 北橋章子, 金子純也, 福田令雄, 磐井佑輔, 谷 将星, 鈴木健介: 高齢者外傷は非高齢者外傷より診療報酬請求が高いわけではない. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 14) 曾根悦子<sup>1)</sup>, 田中秀治<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>3)</sup>, 菊野隆明<sup>4)</sup>, 久野将宗, 小井土雄一<sup>5)</sup>, 市川政雄<sup>6)</sup>, 中尾俊一郎<sup>3)</sup>, 松下奈津実<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国士舘大学体育学部, <sup>2)</sup> 国士舘大学大学院救急システム研究科, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター病院, <sup>4)</sup> 東京医療センター, <sup>5)</sup> 災害医療センター, <sup>6)</sup> 筑波大学医学部医療系): ラオスにおける病院前外傷教育の導入について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 15) 二宮宣文, 久野将宗, 鈴木健介: 災害復興期における心不全マーカー検査の有用性. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 16) 畝本恭子, 谷 将星, 富永直樹, 磐井佑輔, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 栗本健太郎, 久野将宗, 諸江雄太: 当救命救急センターにおける高齢者痙攣症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 17) 磐井佑輔, 谷 将星, 富永直樹, 金子純也, 福田令雄, 北橋章子, 栗本章子, 小柳正雄, 諸江雄太, 久野将宗, 畝本恭子: 脾摘・脾機能低下のない成人に発症した劇症型肺炎球菌感染症. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 18) 二宮宣文, 久野将宗, 鈴木健介, 曾山明美<sup>1)</sup>, 戸松香代子<sup>1)</sup>, 中司明希<sup>1)</sup>, Edward S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社): 固定翼機による航空医療搬送の実情と将来. 日本航空医療学会総会 (第 21 回) (ホテル阪神 (大阪)), 2014. 11.
- 19) 畝本恭子: 当施設における高齢者頭部外傷の予後に係る Talk and deteriorate の影響. 日本脳神経外科救急学会 (第 20 回) (ステーションコンファレンス東京 (東京)), 2015. 1.
- 20) 金子純也, 鈴木健介, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 石之神小織, 小柳正雄, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子: 発熱と意識障害で発症し, 診断に苦慮した感染性心内膜炎の 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (ホテル日航東京 ホテルグランパシフィック LE DAIBA (東京)), 2015. 2.
- 21) 二宮宣文, スハルナン シバスンダラム<sup>1)</sup>, 内間利菜<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> アクシオヘリックス株式会社): スーダンにおけるドクターカー配布支援. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (たましん RISURU ホール ザ・クレストンホテル立川 (東京)), 2015. 2.
- 22) 鈴木健介, 谷 将星, 磐井佑輔, 福田令雄, 金子純也, 北橋章子, 小柳正雄, 諸江雄太, 石之神小織, 久野将宗, 畝本恭子, 二宮宣文: 養護教諭によるトリアージの可能性. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (たましん RISURU ホール ザ・クレストンホテル立川 (東京)), 2015. 2.
- 23) 久野将宗, 鈴木健介, 東岡宏明<sup>1)</sup>, 吉岡留美<sup>2)</sup>, 高桑大介<sup>3)</sup>, 白倉透規<sup>4)</sup>, 小平博博<sup>5)</sup>, 川井和枝<sup>6)</sup>, 金子秀夫<sup>7)</sup>, 中村京子<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup> 労働者健康福祉機構関東労災病院救急総合診療科, <sup>2)</sup> 朝霞地区看護専門学校, <sup>3)</sup> 日本赤十字社伊豆赤十字病院, <sup>4)</sup> 医療法人立川メディカルセンター立川総合病院, <sup>5)</sup> 明石市立市民病院救急総合診療科, <sup>6)</sup> 社会福祉法人恩賜財団静岡済生会総合病院, <sup>7)</sup> 社会医療法人財団

- 慈泉会相澤病院, 8) 株式会社ノルメカエイシア): 日本集団災害医学会セミナー (JADMS) のトリアージ教育プログラムについて, 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (たましん RISURU ホール ザ・クレストンホテル立川 (東京)), 2015. 2.
- 24) 富永直樹, 磐井佑輔, 福田令雄, 北橋章子, 栗本健太郎, 石之神小織, 小柳正雄, 久野将宗, 諸江雄太, 畝本恭子: 当施設での重症敗血症患者の治療成績. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (ホテル日航東京 ホテルグランパシフィック LE DAIBA (東京)), 2015. 2.
- 25) 北橋章子, 谷 将星, 金子純也, 石之神小織, 畝本恭子: 急性硬膜下血腫の重急性期に脳腫脹の増悪をきたした 1 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (あわぎんホール (徳島)), 2015. 3.
- 26) 谷 将星<sup>1)</sup>, 金子純也, 北橋章子, 石之神小織, 栗本健太郎, 畝本恭子 (1) 会津中央病院救命救急センター): Prehospital care と迅速な穿頭術が有効であった墜落による切迫脳ヘルニアの 1 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (あわぎんホール (徳島)), 2015. 3.
- 27) 藤木 悠<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>2)</sup>, 佐藤 慎, 金子純也, 松本 学, 直江康孝<sup>2)</sup>, 横田裕行, 兵頭明夫<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, 2) 川口市立医療センター救命救急センター, 3) 獨協医科大学越谷病院脳神経外科, 4) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 頭部顔面外傷患者に合併した内頸動脈海綿静脈洞瘻の 3 例. 日本脳神経外傷学会 (第 38 回) (あわぎんホール (徳島)), 2015. 3.
- 28) 富永直樹, 増野智彦, 小林克也<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>2)</sup>, 山口大介<sup>3)</sup>, 市場晋吾<sup>4)</sup>, 落合亮一<sup>5)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属病院 ME 部, 3) 航空自衛隊航空機動衛生隊, 4) 岡山大学病院救急科, 5) 東邦大学医療センター大森病院麻酔科): 航空輸送機を使用した ECMO 装着患者広域搬送への取り組み. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (ホテル日航東京 ホテルグランパシフィック LE DAIBA (東京)), 2015. 2.
- (6) 特別企画:
- 1) 畝本恭子, 岡田昌彦<sup>1)</sup>, 木田真紀<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 角 由佳<sup>1)</sup>, 本田ゆみえ<sup>1)</sup>, 矢口有乃<sup>1)</sup>, 田中 裕<sup>1)</sup> (1) 日本救急医学会女性医師参画推進特別委員会): 他学会の女性医師参画への取り組み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.
- 2) 富永直樹, 増野智彦, 小林克也<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>2)</sup>, 池山貴也<sup>3)</sup>, 齊藤 修<sup>3)</sup>, 清水直樹<sup>3)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院麻酔科, 2) 日本医科大学付属病院 ME 部, 3) 東京都立小児総合医療センター救命・集中治療部): ECMO 患者病院間搬送に向けた当院での取り組み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 42 回) (福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル&ホール (福岡)), 2014. 10.

## [千葉北総病院救命救急センター]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成 6 年 1 月に開設し, その後, 平成 8 年 1 月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に, 同年 11 月に千葉県の基幹災害拠点病院に認可された. 平成 11 年 4 月には県内 8 施設目の救命救急センターに認定され, 各種学会, 研究会において活発な活動を行っている. 平成 13 年 10 月からは, 厚生労働省のドクターヘリ事業における千葉県の基地病院となり, 千葉県及び茨城県南部で発生した重症外傷, 薬物中毒, 急性冠症候群, 急性大動脈疾患, 脳卒中などの様々な重症患者に対して早期の医療介入を行い, 適切な治療を提供している. さらに, 平成 22 年 6 月からはドクターヘリ事業を補完する目的にラビッドカーの運用も開始し成果を挙げている. 教育活動としては, JATEC, JPTEC, MCLS, ATOM, SSTT などの標準化教育プログラムの指導者を多数擁し, 医師, 看護師, 救急救命士, 本学学生, 専門学校生などへの質の高い救急医療教育を提供している. また, フライトドクターを目指す医師のための教育プログラムも確立している. 対外的にも千葉県の災害医療対策の中心的存在として, 多数の訓練の企画立案, 実施に携わっている. 研究テーマは, 体幹部外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究, 外傷患者に対するダメージコントロールの効果に関する研究, 救急医療システム, 特に外傷システムや新たな小児重症救急医療体制の構築に関する研究, 災害医療における現場動画転送に関する研究, メディカルコントロールに関する研究等, 多岐に渡っている. また, 日本大学工学部・理工学部や自動車メーカーと連携し, 交通事故調査と損傷の解明に関する産学共同研究も行っている. これらの研究成果を国内学会, 専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し, 広く内外に情報発信している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 車田和也<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 富永 茂<sup>3)</sup>, 本村友一<sup>4)</sup> (1) 日本大学大学院, 2) 日本大学工学部, 3) 日本大学理工学部, 4) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 自動車事故での脊椎損傷事例に関する解析. 日本機械学会 2014 年度年次大会論文集 2014.
- 2) Motomura T, Mashiko K, Matsumoto H, Motomura A<sup>1)</sup>, Iwase H<sup>1)</sup>, Oda S<sup>2)</sup>, Simamura F<sup>3)</sup>, Shoko T<sup>4)</sup>, Kitamura N<sup>5)</sup>, Sakaida K<sup>6)</sup>, Fukumoto Y<sup>7)</sup>, Kasuya M<sup>8)</sup>, Koyama T<sup>9)</sup>, Yokota H<sup>10)</sup> (1) Department of Legal Medicine, Graduate School of

Medicine, Chiba University, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>3)</sup> Chiba Emergency Medical Center, <sup>4)</sup> Trauma and Critical Care Center, Matsudo City Hospital, <sup>5)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Kimitsu Chuo Hospital, <sup>6)</sup> Funabashi Municipal Medical Center, <sup>7)</sup> Juntendo University Urayasu Hospital, <sup>8)</sup> Asahi General Hospital, <sup>9)</sup> Department of Emergency Medicine, Kashiwa Hospital, the Jikei University School of Medicine, <sup>10)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Preventable Trauma Death after Traffic Accidents in Chiba Prefecture, Japan, 2011 : Problems and Solutions. J Nippon Med Sch 2014 ; 81 (5) : 320-327.

- 3) 向川康介<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>1)</sup>, 富永 茂<sup>2)</sup>, 本村友一, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 日本大学工学部, <sup>2)</sup> 日本大学理工学部 ) : 日米傷害予測モデルの交通事故実態調査に基づく検証. 自動車技術会論文集 2015 ; 46 (1) : 127-132.
- 4) 富永 茂<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 本村友一, 松本 尚, Nils L<sup>3)</sup>, 木内 透<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学理工学部, <sup>2)</sup> 日本大学工学部, <sup>3)</sup> トヨタ自動車株式会社 ) : 日本の交通事故実態を反映した AACN 傷害予測アルゴリズムの研究. 自動車技術会雑誌 2014 ; 135 (14) : 5-10.
- 5) Hayashi S<sup>1)</sup>, Homma H<sup>2)</sup>, Nito M<sup>4)</sup>, Oda J<sup>2)</sup>, Nishiyama T<sup>3)</sup>, Kawamoto A<sup>5)</sup>, Kawata S<sup>1)</sup>, Sato N<sup>6)</sup>, Fukuhara T<sup>7)</sup>, Taguchi H<sup>8)</sup>, Mashiko K, Azuhata T<sup>9)</sup>, Kawai K<sup>2)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Yukioka T<sup>2)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> 東京医科大学解剖学, <sup>2)</sup> 東京医科大学救急医学, <sup>3)</sup> 東京医科大学麻酔科学, <sup>4)</sup> 愛知医科大学解剖学, <sup>5)</sup> 東京医科大学放射線医学, <sup>6)</sup> 京都大学初期診療・救急医学分野, <sup>7)</sup> 新潟大学高次災害救命医療センター, <sup>8)</sup> 近畿大学救急医学, <sup>9)</sup> 日本大学板橋病院救命救急センター, 他 ) : Saturated Salt Solution Method : A Useful Cadaver Embalming for Surgical Skills Training. Medicine 2014 ; 93 (27).

(2) 総説 :

- 1) 益子一樹 : ラピッドカー運用の特徴と課題 広域外傷医療圏とラピッドレスポンスカーの役割. 救急医学 2014 ; 38 (11) : 1461-1465.
- 2) 原 義明 : ドクターヘリ&ラピッド/ドクターカーによる救急現場での診療. 救急医学 2014 ; 38 (11) : 1358-1362.
- 3) 八木貴典, 松本 尚 : ドクターヘリの基礎知識. 救急医学 2014 ; 38 (11) : 1371-1374.
- 4) 松本 尚 : 救急医療体制 この15年. 千葉県医師会雑誌 2014 ; 66 (8) : 424-425.
- 5) 益子一樹, 安松比呂志, 本村友一, 林田和之, 齋藤伸行, 八木貴典, 松本 尚, 益子邦洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 南多摩病院 ) : Acute Care Surgery への取り組み : 実践と教育. 日本腹部救急医学会雑誌 2014 ; 34 (5) : 975-980.
- 6) 本村友一, 本庄貴志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 看護部 ) : 今日もヘリ日和～第1回～ 東日本大震災×ドクターヘリ. Emergency Care 2015 ; 28 (1) : 68-71.
- 7) 本村友一, 大森章代<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 看護部 ) : 今日もヘリ日和～第2回～ 小児重症外傷～救え! 野球少年～. Emergency Care 2015 ; 28 (2) : 82-85.
- 8) 本村友一, 重山香織<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 看護部 ) : 今日もヘリ日和～第3回～ 近未来の交通事故救急システム. Emergency Care 2015 ; 28 (3) : 102-106.
- 9) 安松比呂志, 松本 尚 : ドクターヘリ最前線. 救急医学 2014 ; 38 (13) : 1711-1714.
- 10) 大西志麻 : 1 発熱した児への初期対応 “見た目” を大事にして重症患者を見逃さない. 別冊 ER マガジン 2014 ; 11 (2) : 194-200.
- 11) 益子一樹 : I 総論初療室における蘇生処置 (ABCDE). 救急医学 2014 ; 38 (4) : 386-390.
- 12) 齋藤伸行 : 4. 凝固線異常を予防・回避するための蘇生カテコラミン. 救急・集中治療 2014 ; 26 (7・8) : 1108-1116.

(3) 研究報告書 :

- 1) 本村友一, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 西本哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学工学部 ) : 第 III 研究 : 日本医科大学千葉北総病院に搬送された交通事故患者データを活用した AACN アルゴリズムの検証. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015 ; 19-22.
- 2) 本村友一, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 西本哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学工学部 ) : 第 IV 研究 : GIDAS データを活用したアルゴリズムの検証. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015 ; 23-27.
- 3) 本村友一, 西本哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学工学部 ) : 第 V 研究 : 交通事故におけるドクターヘリ出動要請基準 (Field Triage 基準) の策定. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015 ; 28-33.
- 4) 本村友一, 西本哲也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学工学部 ) : 第 VI 研究 : 重症度予測の指標とドクターヘリ起動基準の策定. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015 ; 34-37.
- 5) 松本 尚, 横田英己<sup>1)</sup>, 小野寺貴史<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 朝日航洋株式会社 ) : 第 VII 研究 : ドクターヘリシステムの AACN による起動時の課題整理と運用マニュアル. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015 ; 38-40.
- 6) 高木由紀子<sup>1)</sup>, 米田 剛<sup>1)</sup>, 森崎哲夫<sup>1)</sup>, 松本 尚, 本村友一, 齋藤信夫<sup>2)</sup>, 横田英己<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> KDDI 株式会社, <sup>2)</sup> 株式会社日本緊急通報サービス, <sup>3)</sup> 朝日航洋株式会社 ) : 第 VIII 研究 : AACN が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けたプロトタイプシステムの研究・開発. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開



始に向けた研究報告書 2015：41-45.

- 7) 本村友一：第 IX 研究：歩行者用の傷害予測アルゴリズム開発に向けた課題整理：傷害予測因子や予後決定因子の抽出と、傷害予測アルゴリズムのモデル開発. 平成 25 年度トヨタ受託研究 先進事故通報装置 (AACN) が起動するドクターヘリシステムの試行的事業開始に向けた研究報告書 2015：19-22.

(4) 症例報告：

- 1) 三木隆久：Clamshell thoracotomy を必要とした鈍的心破裂の 2 症例. 心臓血管外科学会誌 Japanese Journal of Cardiovascular Surgery 2014：43 (4)：230-233.
- 2) 服部 陽, 松本 尚, 安松比呂志, 三木隆久, 平林篤志, 亀山大介, 本村友一, 飯田浩章, 益子一樹, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学)：Damage Control Resuscitation にて救命し得た鈍的心損傷の 1 例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2014：35 (2)：281-285.
- 3) 齋藤伸行, 讚井將満<sup>1)</sup> (1) 自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔・集中治療部)：JSEPTIC-CTG 活動報告⑧人工呼吸療法に関する疫学研究. INTENSIVIST 2014：6 (4)：770-773.

## 著書

- 1) 松本 尚：〔共著〕3) ドクターカー (3) ラピッドカー. 病院前救急医学 (編著／小濱啓次), 2014：pp62-67, ヘルス出版.
- 2) 三木隆久, 齋藤伸行, 益子邦洋：〔分担〕IV 外傷・熱傷の診断・治療 34. 肺挫傷の治療指針. 救急・集中治療最新ガイドライン 2014-2015 (岡元和文), 2014：pp113-115, 総合医学社.
- 3) 齋藤伸行：〔分担〕4 外傷周術期戦略. 外傷専門診療ガイドライン JETEC (監修／一般社団法人 日本外傷学会 編集／日本外傷学会専門診療ガイドライン編集委員会), 2014：pp208-220, へるす出版.
- 4) 齋藤伸行：〔分担〕3 外傷患者における集中治療管理 ②循環管理. 外傷専門診療ガイドライン JETEC (監修／一般社団法人 日本外傷学会 編集／日本外傷学会専門診療ガイドライン編集委員会), 2014：pp284-293, へるす出版.
- 5) 齋藤伸行：〔分担〕第 7 章 離脱 1. ウィーニングの用語とプロトコール. わかって動ける！人工呼吸管理ポケットブック『どうしたらいいのか』すぐわかる, チェックリストと頻用データ (志馬伸朗), 2014：pp133-135, 羊土社.
- 6) 齋藤伸行：〔分担〕第 7 章 離脱 2. 自発呼吸トライアル (SAT と SBT). わかって動ける！人工呼吸管理ポケットブック『どうしたらいいのか』すぐわかる, チェックリストと頻用データ (志馬伸朗), 2014：pp136-138, 羊土社.
- 7) 齋藤伸行：〔分担〕第 7 章 離脱 3. 抜管前の評価. わかって動ける！人工呼吸管理ポケットブック『どうしたらいいのか』すぐわかる, チェックリストと頻用データ (志馬伸朗), 2014：pp139-141, 羊土社.
- 8) 齋藤伸行：〔分担〕第 7 章 離脱 4. 抜管前の準備と抜管後の評価. わかって動ける！人工呼吸管理ポケットブック『どうしたらいいのか』すぐわかる, チェックリストと頻用データ (志馬伸朗), 2014：pp142-143, 羊土社.

## 学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Matsumoto H：ドクターヘリの過去・現在・将来. the 2014 Annual Congress of Korean Association of Aviation Emergency (Andong, Korea), 2014. 11.
- 2) 本村友一, 服部 陽, 近田祐介, 安松比呂志, 平林篤志, 飯田浩章, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本尚, 千葉春佳<sup>1)</sup>, 八木健人<sup>1)</sup>, 浮池孔洗<sup>1)</sup>, その他 1 名 (1) NTT ドコモ株式会社)：ドクターヘリ医師派遣現場からのスマートフォン動画伝送による救命術の早まり効果. 日本医工学治療学会 (第 31 回) (広島), 2015. 3.
- 3) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 木内 透<sup>3)</sup>, 吉田 傑<sup>4)</sup>, 石川博敏<sup>5)</sup> (1) 南多摩病院, 2) 日本大学工学部, 3) トヨタ自動車株式会社, 4) 本田技研株式会社, 5) 救急ヘリ病院ネットワーク HEM-NET)：先進交通事故自動通報システム (AACN) が起動するドクターヘリシステムによる, 新たな乗用車乗員の救命の可能性. 日本医工学治療学会 (第 31 回) (広島), 2015. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 益子一樹, 松本 尚, 柴田あみ, 後藤美咲, 服部 陽, 大西志麻, 平林篤志, 近田祐介, 杉中宏司, 瀬尾卓生, 阪本太吾, 安松比呂志, 岡田一宏, 中山文彦, 本村友一, その他 5 名：外傷蘇生における病院外蘇生の開胸術の位置づけ. 日本航空医療学会 (第 21 回) (大阪府大阪市), 2014. 11.
- 2) 齋藤伸行, 本村友一, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：重症外傷患者に対する大量輸血プロトコールの遵守は, 凝固能を改善するか?. 日本救急医学会 (第 42 回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
- 3) 益子一樹, 安松比呂志, 林田和之, 松本 尚：致死的外傷性腹腔内出血に対する DCR with DCS. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都府京都市), 2015. 3.
- 4) 益子一樹, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 齋藤伸行, 林田和之, 本村友一, 飯田浩章, 岡田一宏, 阪本太吾, 瀬尾卓生, 杉中宏司, 安松比呂志, 平林篤志, 近田祐介, その他 4 名：フィールドから始める外傷蘇生の “Maximum”：Resuscitative Field Thora-

cotomy. 日本外傷学会総会（第28回）（東京），2014. 6.

- 5) 益子一樹, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 齋藤伸行, 本村友一, 林田和之, 飯田浩章, 岡田一宏, 阪本太吾, 安松比呂志, 杉中宏司, 瀬尾卓生, 平林篤志, 近田祐介, その他5名: 当センターにおける院外蘇生的開胸術施行例の検討. 日本病院前救急医療医学会(第9回)(東京), 2014. 12.
  - 6) 安松比呂志, 齋藤伸行, 服部 陽, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 救急医学): 重症腹部外傷に対する Abdominal Compartment Syndrome 回避のための multimodal strategy. 日本集中治療医学会学術集会(第42回)(東京都, 港区), 2015. 2.
  - 7) 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 本村友一 (1) 医療法人永生会 南多摩病院): 医工連携による外傷診療・予防研究の質向上を目指して. 日本交通科学学会(第50回)(東京都, 品川区), 2014. 6.
  - 8) 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 筑波大学医学医療系臨床試験・臨床疫学教室, <sup>2)</sup> 日本医科大学侵襲生体管理分野救急医学講座): 重症外傷患者に対する大量輸血プロトコールの遵守は, 早期死亡に影響するか? (R-Resuscitation: 凝固機能・止血を考慮した輸液・輸血療法). 日本外傷学会総会学術集会(第28回), 2014. 6.
  - 9) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 服部 陽, 近田祐介, 八木貴典, 齋藤伸行, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学): 小児重症体幹部外傷に対する治療成績と診療システムの構築: “Trauma center-PICU complex model”. 日本外科学会定期学術集会(第114回)(京都府), 2014. 4.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 服部 陽, 柴田あみ, 安松比呂志, 阪本太吾, 中山文彦, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 付属病院高度救命救急センター): 重症体幹部外傷救命のためのドクターヘリによる症例集約化の重要性. 腹部救急医学会総会(第51回)(京都府京都市), 2015. 3.
- (4) セミナー:
- 1) Motomura T: The Effectiveness of the IOI in pre-hospital medical care. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (12th) (tokyo, Japan), 2014. 9.
- (5) ワークショップ:
- 1) 益子一樹, 服部 陽, 近田祐介, 平林篤志, 亀山大介, 安松比呂志, 三木隆久, 本村友一, 飯田浩章, 齋藤伸行, 林田和之, 八木貴典, 松本 尚, 原 義明, 益子邦洋: Trauma Operative “Management” はどうあるべきか. 日本外科学会定期学術集会(第114回)(京都), 2014. 4.
  - 2) 益子一樹, 安松比呂志, 服部 陽, 阪本太吾, 中山文彦, 本村友一, 林田和之, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 救急医学分野): 十二指腸損傷に対する外科治療に標準化は可能か?. 日本 Acute Care Surgery 学会総会(第6回)(青森), 2014. 9.
  - 3) 本村友一, 松本 尚, 中村光伸<sup>1)</sup>, 小林啓二<sup>2)</sup>, 高森美枝<sup>3)</sup>, 富永康裕<sup>4)</sup>, 浮池孔洗<sup>4)</sup>, 八木健人<sup>4)</sup>, 千葉春佳<sup>4)</sup>, 横田英己<sup>5)</sup>, 小早川義貴<sup>6)</sup>, 小井土雄一<sup>6)</sup> (1) 前橋赤十字病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 宇宙航空研究開発機構 (JAXA), <sup>3)</sup> 株式会社ウエザーニューズ, <sup>4)</sup> 株式会社 NTT docomo, <sup>5)</sup> 朝日航洋株式会社, <sup>6)</sup> 国立病院機構災害医療センター): スマートフォン動画伝送システムの災害時活用についての検証. 日本集団災害医学会(第20回)(東京都, 立川市), 2015. 2.
- (6) ポスター:
- 1) 岡田一宏, 齋藤伸行, 近田祐介, 安松比呂志, 本村友一, 益子一樹, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 付属病院救命救急科): 当院における persistent inflammation, and immunosuppression, and catabolism syndrome (PICS) 症例の検討. 日本集中治療医学会学術集会(第42回)(東京都, 港区), 2015. 2.
- (7) 一般講演:
- 1) Motomura T, Hattori Y, Konda Y, Yasumatsu H, Hirabayashi A, Suginaka H, Seo T, Sakamoto T, Okada K, Nakayama F, Iida H, Mashiko K, Hayashida K, Yagi T, Saito N, et al.: Real-Time Mobile Video Transmission System Using Smartphones in Disaster Site. APCDM (12) (Tokyo), 2014. 9.
  - 2) 車田和也<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 富永 茂<sup>3)</sup>, 本村友一 (1) 日本大学大学院, <sup>2)</sup> 日本大学工学部, <sup>3)</sup> 日本大学理工学部): 自動車事故での脊椎損傷事例に関する解析. 日本機械学会 2014 年度年次大会 (東京), 2014. 9.
  - 3) 富永 茂<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 本村友一, 松本 尚, Nils L<sup>3)</sup>, 木内 透<sup>3)</sup> (1) 日本大学理工学部, <sup>2)</sup> 日本大学工学部, <sup>3)</sup> トヨタ自動車株式会社): 日本の交通事故実態を反映した AACN 傷害予測アルゴリズムの研究. 自動車技術会秋季学術講演会, 2014. 10.
  - 4) 向川康介<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 富永 茂<sup>3)</sup>, 本村友一, 松本 尚 (1) 日本大学大学院, <sup>2)</sup> 日本大学工学部, <sup>3)</sup> 日本大学理工学部): 傷害予測モデルの適用限界についての事故事例解析. 自動車技術会秋季学術講演会, 2014. 10.
  - 5) 本村友一, 千葉春佳<sup>1)</sup>, 八木健人<sup>1)</sup>, 浮池孔洗<sup>1)</sup>, 松本 尚, 服部 陽, 近田祐介, 安松比呂志, 平林篤志, 飯田浩章, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, その他1名 (1) NTT ドコモ (株)): 医師派遣現場からのスマホ動画伝送による止血術の早まり効果. 日本航空医療学会(第21回)(大阪), 2014. 11.
  - 6) 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 川井 真<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 骨癒合過程における TGF- $\beta$  ファミ

- りの血漿中の濃度測定の意義. 日本骨折治療学会 (第40回) (熊本), 2014. 6.
- 7) 飯田浩章, 原 義明, 後藤美咲, 市川頼子, 杉中宏司, 平林篤志, 瀬尾卓生, 松本 尚, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 齋藤伸行 (1) 日本医科大学救急医学講座) : 多発外傷を合併した大腿骨骨折治療の検討. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 8) 八木貴典, 齋藤伸行, 近田祐介, 安松比呂志, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup>, 大西志麻 (1) 日本医科大学救急医学講座) : 日本外傷データベースを用いた重症小児症例集約の必要性. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 9) 服部 陽, 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup>, 富永 茂<sup>2)</sup>, 西本哲也<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本大学理工学部, 3) 日本大学工学部) : 医工連携交通事故実態調査によるシートベルト損傷の検討. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 10) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 千葉県交通事故調査委員会<sup>2)</sup> (1) 南多摩病院, 2) 千葉県交通事故調査委員会) : 救命救急センターと外傷 千葉県交通事故死亡事例5年間 (2008-12) の分析から. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 11) 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志, 川井 真<sup>1)</sup>, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 当施設における骨盤輪骨折に対する急性期治療の妥当性. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 12) 張替奈緒<sup>1)</sup>, 齋藤伸行, 松本 尚, 林田真喜子<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学法医学教室, 3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 経時的血中濃度測定を行ったグリホサート中毒の1例. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 13) 柴田あみ, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : カテーテル関連血流感染症後に発症した非典型溶血性尿毒症症候群 (atypical HUS) の1例. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 14) 後藤美咲, 齋藤伸行, 飯田浩章, 本村友一, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 原 義明, 川井 真<sup>1)</sup>, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 環軸椎骨折は初期評価で疑えるか?. 日本救急医学会 (第42回) (福岡県福岡市), 2014. 10.
  - 15) 阪本太吾, 益子一樹, 服部 陽, 安松比呂志, 中山文彦, 林田和之, 松本 尚 : 重症胸部外傷に対する Clamshell thoracotomy の成績. 日本 Acute Care Surgery 学会 (第6回) (青森県青森市), 2014. 9.
  - 16) Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yagi T, Hayashida K, Saito N, Iida H, Motomura T, Nakatama F, Okada K, Sakamoto T, Yasumatsu H, Seo T, Suginaka K, Konda Y, et al. : Clamshell thoracotomy for resuscitation and repair of life-threatening chest injury. European Congress of Trauma & Emergency Surgery / 2nd World Trauma Congress (15th) (Frawnkfurt, Germany), 2014. 5.
  - 17) 益子一樹, 安松比呂志, 服部 陽, 阪本太吾, 中山文彦, 本村友一, 林田和之, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 救急医学分野) : 当施設における Acute Care Surgery 研修の現状. 日本 Acute Care Syrgery 学会総会 (青森), 2014. 9.
  - 18) 中山文彦, 松本 尚, 益子一樹, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 林田和之, 本村友一, 安松比呂志, 服部 陽, 阪本太吾 : 大動脈基部損傷・大動脈弁閉鎖不全を伴う鈍的多発外傷の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第65回) (神奈川県, 横浜市), 2015. 2.
  - 19) 岡田一宏, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 外傷における急性呼吸不全に対して Venovenous extracorporeal membrane oxygenation (VV-ECMO) を導入した5例の臨床的検討. 日本救急医学会関東地方会 (第65回) (神奈川県横浜市), 2015. 2.
  - 20) 杉中宏司, 平林篤志, 瀬尾卓生, 阪本太吾, 岡田一宏, 中山文彦, 本村友一, 飯田浩章, 益子一樹, 林田和之, 八木貴典, 齋藤伸行, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 救急医学分野) : フライトドクターが行う advanced field triage についての検討. 日本救急医学会関東地方会 (第65回) (神奈川県, 横浜市), 2015. 2.
  - 21) 馬替 仁<sup>1)</sup>, 片山皓希<sup>1)</sup>, 實川東洋<sup>1)</sup>, 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 若松孝嘉<sup>2)</sup>, 柳下照子<sup>2)</sup>, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚 (1) 日本医科大学千葉北総病院 薬剤部, 2) 日本医科大学千葉北総病院 中央検査室) : 重症感染症における VCM の初期負荷投与が及ぼす準障害発現に関する検討. 千葉重症感染症研究会 (第10回) (千葉県, 千葉市), 2014. 6.
  - 22) 飯田浩章 : 不安定型骨盤骨折に両側大腿骨・下腿骨折 (Floating Knee) を合併した2例. 日本骨折治療学会 (第40回) (熊本県, 熊本市), 2014. 6.
  - 23) 平林篤志, 飯田浩章, 原 義明, 松本 尚, 川井 真<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学) : 当科における高齢者骨盤輪骨折の周術期管理について. 日本骨折治療学会 (第40回) (熊本), 2014. 6.
  - 24) 平林篤志, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学講座) : 病院前の不安定型骨盤輪骨折の診断の妥当性について. 日本航空医療学会総会 (第21回) (大阪府, 大阪市), 2014. 11.
  - 25) 齋藤伸行, 松本 尚, 金 徹<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>2)</sup>, 鶴見昌史<sup>2)</sup>, 富田和憲<sup>2)</sup>, 品田卓郎<sup>2)</sup>, 畑 典武<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, 2) 日本医科大学千葉北総病院集中治療部) : 当院における周術期静脈血栓症の疫学調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第

- 42回) (東京), 2015. 2.
- 26) 齋藤伸行<sup>1,2)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 我妻ゆき子<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター, 2) 筑波大学 医学医療系 臨床試験・臨床疫学教室, 3) 日本医科大学 侵襲生体管理分野 救急医学講座) : Evaluation of the Safety and Feasibility of Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta : REBOA in Japan. Annual Meeting of the American Association for the Surgery of Trauma and Clinical Congress of Acute Care Surgery (73rd) (Philadelphia, PA.), 2014. 9.
- 27) Matsumoto H : An Early Dispatch of Helicopter Emergency Medical Service via Advanced Automatic Collision Notification. Air Med world Congress 2014 (Roma), 2014. 6.
- 28) Matsumoto H, Motomura T, Nakamura M<sup>1)</sup>, Kohayagawa Y<sup>2)</sup>, Koido Y<sup>3)</sup>, Yamaguchi M<sup>4)</sup>, Yokota H<sup>5)</sup> (1) Maebashi Red Cross Hospital, 2) National Hospital Organization Disaster Medical Center, 3) Chiba City Fire Department, 4) Aero Asahi Corporation) : Development of the Command System for "Doctor-Helicopter Fleet" in Major Disaster. Asia Pacific Conference on Disaster Medicine (the 12th) (Tokyo), 2014. 9.
- 29) 松本 尚 : 胸腹部外傷. 小児救急集中治療ワークショップ (第22回) (つくば市), 2014. 10.
- 30) Matsumoto H, Hara Y, Yagi T, Hyashida K, Mashiko K, Saito N, Iida H, Motomura T, Miki T, Yasumatsu H, Kameyama D, Hirabayashi A, Hattori Y, Konda Y, Mashiko K : Impact of an urgent resuscitative surgery for severe torso trauma patients. European Congress of trauma & Emergency Surgery & 2nd World Trauma Congress (15th) (Frankfurt, Germany), 2014. 5.
- 31) Saito N, Sugiyama K<sup>1)</sup>, Ohnuma T<sup>2)</sup>, Kanemura T<sup>3)</sup>, Nasu M<sup>4)</sup>, Yoshidomi Y<sup>5)</sup>, Adachi H<sup>6)</sup>, Koami H<sup>7)</sup>, Tsujimoto Y<sup>8)</sup>, Tochiki A<sup>9)</sup>, Wagatsuma Y<sup>10)</sup>, Myumi T (1) TOKYO METROPOLITAN BOKUTOH HOSPITAL, Dept emergency and critical care medicine, Tokyo, Japan, 2) Saitama medical center, Jichi Medical University, Dept anesthesiology and critical care medicine, Saitama, Japan, 3) National Hospital Organization Disaster Medical Center, Dept emergency and critical care medicine, Tokyo, Japan, 4) Urasoe general hospital, Dept emergency and critical care medicine, Okinawa, Japan, 5) Saga-ken medical center, Kos-eikan, Dept emergency and critical care medicine, Saga, Japan, 6) Iizuka hospital, Dept critical care medicine, Fukuoka, Japan, 7) Saga university hospital, Dept emergency and critical care medicine, Saga, Japan, 8) Yamagata Prefectural Central Hospital, Dept emergency and critical care medicine, Yamagata, Japan, 9) Tsukuba Medical Center Hospital, Dept emergency and critical care medicine, Ibaraki, Japan, 10) University of Tsukuba, Faculty of Medicine, Department of Clinical Trial and Clinical Epidemiology, Ibaraki, Japan) : Effectiveness of polymyxin b immobilized fiber hemoperfusion in patients with septic shock due to gram-negative bacillus infection : the PMXHP study. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (35th) (ベルギー, ブリュッセル), 2015. 3.
- 32) Ohnishi S, Saito N, Yagi T, Konda Y, Hara Y, Matsumoto H : Association with amount of registration and outcome in pediatric severe trauma patients. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (35th) (ベルギー, ブリュッセル), 2015. 3.
- (8) 総会特別企画 :
- 1) 松本 尚 : Acute Care Surgery : 外科学の一分野としての"救急・外傷外科" (若手外科医のための教育セッション). 日本臨床外科学会総会 (第76回) (郡山市民文化センター他), 2014. 11.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分教育セミナー :

- 1) 松本 尚 : 重症腹部外傷に対する救急室開腹, DCS と治療成績. 日本腹部救急医学会総会 (第50回) (東京都), 2014. 3.

## 28. 形成再建再生医学分野

### [付属病院形成外科・美容外科]

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) 小川 令<sup>1)</sup>, 魯 峰<sup>1,2)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, 2) 中国南方病院形成外科) : 特集 : 再建部位別にみたティッシュ・エキスパンション法のコツ. 形成外科 2014 ; 57 (6) : 633-639.
- 2) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : ケロイド・肥厚性癬痕における手術適応を考える. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 8-11.
- 3) 小川 令, 赤石論史, 百束比古 : メカノバイオロジーから見たケロイド・肥厚性癬痕研究. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 35-39.
- 4) 青木宏信, 赤石論史, 百束比古, 小川 令 : 皮膚線維腫と肥厚性癬痕・ケロイドとの関連性の検討. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 46-48.
- 5) 赤石論史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院形成外科) : 有限要素法による縫合法の最適化. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 53-56.
- 6) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 宮里和明<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 3) 船堀眼科) : 牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した退行性下眼瞼内反症の長期結果と牽引筋腱膜縫着術単独手術症例との比較. 日本美容外科学会会報 2014 ; 36 (2) : 1-6.
- 7) 桐生 (長嶋) 有紀<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : ヒアルロン酸の乳房注入によると思われる後遺症の3例. 日本美容外科学会会報 2014 ; 36 (2) : 14-21.
- 8) Huang C, Ogawa R, Hyakusoku H : External wire-frame fixation of digital skin grafts : A non-invasive alternative to the K-wire insertion method. Burns 2014 ; 40 (5) : 981-986.
- 9) Ueda T<sup>1)</sup>, Fujita A<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>3)</sup>, Itoh Y<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Migita M<sup>1,2)</sup> (1) Pediatrics, Nippon Medical School, 2) Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 3) Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Adipose-derived stromal cells grown on a hydroxyapatite scaffold can support hematopoiesis in regenerated bone marrow in vivo. Cell Biol Int 2014 ; 38 (6) : 790-798.
- 10) Sano H<sup>1,2)</sup>, Shionoya K<sup>3)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> (1) Department of Surgical Science, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 3) Shionoya Orthopedic Clinic, Aichi) : Effect of Mechanical Forces on Finger Nail Curvature : An Analysis of the Effect of Occupation on Finger Nails. Dermatol Surg 2014 ; 40 (4) : 441-445.
- 11) Umezawa H<sup>1)</sup>, Nakamizo M<sup>2)</sup>, Yokoshima K<sup>2)</sup>, Nara S<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Nippon Medical School) : Reconstruction after resection of malignant parapharyngeal space tumor. Cas Rep Plast Surg Hand Surg 2014.
- 12) Umezawa H, Ogawa R, Hyakusoku H : Harvesting huge bipediced free flaps from the anterolateral and medial thigh : Combined saphenous-antrolateral thigh (SALT) flaps. J Plast Reconstr Aesthet Surg 2014.
- 13) Umezawa H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Gastrointestinal and Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Nippon Medical School) : Immediate free jejunum transfer for salvage surgery of gastric tube necrosis. Case Reports in Gastrointestinal Medicine 2014.
- 14) Hunag C<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> (1) Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Three-dimensional Reconstruction of Scar Contracture-bearing Axilla and Digital Webs Using the Square Flap Method. Plast Reconstr Surg Glob Open 2014 ; 2 (5) : e149-e149.
- 15) Sano H<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> (1) Department of Surgical Science, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Clinical Evidence for the Relationship between Nail Configuration and Mechanical Forces. Plast Reconstr Surg Glob Open 2014 ; 2 (3) : e115-e115.
- 16) Ogawa R<sup>1,2)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup>, Murphy G<sup>3)</sup>, Mizuno S<sup>4)</sup> (1) Division of Plastic Surgery, Department of Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, 2) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 3)

- Program in Dermatopathology, Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, <sup>4)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School) : Hydrostatic Pressure-Driven Three-Dimensional Cartilage Induction Using Human Adipose-Derived Stem Cells and Collagen Gels. *Tissue Eng Part A* 2014.
- 17) Stekelenburg C<sup>1,2)</sup>, Marck R<sup>1,3)</sup>, Tuinebreijer W<sup>1)</sup>, De Vet H<sup>5,6)</sup>, Ogawa R<sup>7)</sup>, Van Zuijlen P<sup>1,2)</sup> <sup>(1)</sup> Association of Dutch Burn Centers, Beverwijk, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, VU Medical Center, Amsterdam, <sup>3)</sup> MOVE Research Institute, VU University of Amsterdam, <sup>4)</sup> Burn Centre and the Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Red Cross Hospital, Beverwijk, <sup>5)</sup> EMGO Institute for Health and Care Research, VU University Medical Center, Amsterdam, <sup>6)</sup> Department of Epidemiology and Biostatistics, VU University Medical Center, Amsterdam, <sup>7)</sup> Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : A Systematic Review on Burn Scar Contracture Treatment : Searching for Evidence. *J Burn Care Res* 2014.
- 18) Hunag C<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing) : The link between hypertension and pathological scarring : Does hypertension cause or promote keloid and hypertrophic scar pathogenesis?. *Wound Repair and Regeneration* 2014 ; 22 (4) : 462-466.
- 19) Dong Z<sup>1)</sup>, Luo L<sup>1)</sup>, Liao Y<sup>1)</sup>, Zhang Y<sup>1)</sup>, Gao J<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup>, Ou C<sup>3)</sup>, Zhu M<sup>1)</sup>, Yang B<sup>1)</sup>, Lu F<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nanfang Hospital, Southern Medical University, Guangzhou, <sup>2)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Biostatistics, School of Public Health and Tropical Medicine, Southern Medical University, Guangzhou) : In vivo injectable human adipose tissue regeneration by adipose-derived stem cells isolated from the fluid portion of liposuction aspirates. *Tissue Cell* 2014 ; 46 (3) : 178-184.
- 20) Ogawa R : Reply : Analysis of surgical treatments for earlobe keloids : analysis of 174 lesions in 145 patients. 2014 ; 133 (5) : 726e-726e.
- 21) Ogawa R, Oki K, Hyakusoku H : Skin perforator freeways and pathways : understanding the role of true and choke anastomoses between perforator angiosomes and their impact on skin flap planning and outcomes. *Plastic and Reconstructive Surgery* 2014 ; 133 (5) : 719e-720e.
- 22) Ogawa R<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2,3)</sup>, Than N<sup>3)</sup>, Sasaki M<sup>4)</sup>, Fujita A<sup>4)</sup>, Akaishi S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2,3)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Personalized Genetic Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Associations between Keloid Severity and Single-Nucleotide Polymorphisms : Importance of rs8032158 as a Biomarker of Keloid Severity. *Journal of Investigative Dermatology* 2014 ; 134 (7) : 2041-2043.
- 23) Takami Y<sup>1)</sup>, Yamaguchi R<sup>2)</sup>, Ono S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Emergency Medicine and Burn Center, Kyorin University School of Medicine) : Clinical Application and Histological Properties of Autologous Tissue-engineered Skin Equivalents Using an Acellular Dermal Matrix. *Journal of Nippon Medical School* 2014 ; 81 (6) : 356-363.
- 24) Chin T, Ono S, Hyakusoku H : Successful repair of flayed tissue in a degloving injury of the hand by arteriovenous anastomosis. *J Plast Surg Hand Surg* 2014 ; 48 (6) : 423-425.
- 25) Koike S, Akaishi S, Nagashima Y, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Nd : YAG Laser Treatment for Keloids and Hypertrophic Scars : An Analysis of 102 Cases. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2015 ; 2 (12) : e272-e272.
- 26) Tajima S<sup>1,2)</sup>, Tobita M<sup>1)</sup>, Orbay H<sup>3)</sup>, Hyakusoku H<sup>4)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Dental and Oral Surgery, Japan Self Defense Force Yokosuka Hospital, <sup>3)</sup> Division of Plastic Surgery, University of California, <sup>4)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Direct and Indirect Effects of a Combination of Adipose-Derived Stem Cells and Platelet-Rich Plasma on Bone Regeneration. *Tissue Eng Part A* 2014.
- 27) Kuwahara K<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Tosa M<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Congenital auricular fistula involving the lobule with caudal extension of an abscess. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2014 ; 67 (12) : 1749-1750.
- 28) Uysal C<sup>1)</sup>, Tobita M<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>3)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine, Baskent University, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University, <sup>3)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : The Effect of Bone-Marrow-Derived Stem Cells and Adipose-Derived Stem Cells on Wound Contraction and Epithelization. *Adv Wound Care (New Rochelle)* 2014 ; 3 (6) : 405-413.
- 29) 有馬樹里, 小川 令, 赤石論史, 百東比古 : ケロイドの重症化と高血圧との関連性の検討. *日形会誌* 2014 ; 34 (6) : 435-440.

- 30) 松本 茂<sup>1)</sup>, 田中里佳<sup>1)</sup>, 岡田佳世子<sup>1)</sup>, 有田佳代<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup>, 田畑泰彦<sup>4)</sup>, 水野博司<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学医学部形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学循環器内科, <sup>4)</sup> 京都大学再生医科学研究所生体材料科学分野) : 塩基性線維芽細胞増殖因子徐放化ゼラチンシートを用いた難治性皮膚潰瘍治療. 再生医療 2015 ; 14 ( 1 ) : 42-47.
- 31) Yuan Y<sup>1,2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Plastic Surgery, Nanfang Hospital, Southern Medical University, Guangzhou) : Tissue-Engineered Breast Reconstruction : Bridging the Gap toward Large-Volume Tissue Engineering in Humans. Plast Reconstr Surg 2015 ; 135 ( 1 ) : 236e-237e.
- 32) Umezawa H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Nakamizo M<sup>2)</sup>, Yokoshima K<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Nippon Medical School) : A Comparison of Microsurgical Venous Anastomosis Techniques. Journal of Nippon Medical School 2015 ; 82 ( 1 ) : 14-20.
- 33) Arima J<sup>1)</sup>, Huang C<sup>1,2)</sup>, Rosner B<sup>3)</sup>, Akaishi S<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Beijing Tsinghua Changgung Hospital, Medical Center, Tsinghua University, <sup>3)</sup> Channing Laboratory, Harvard Medical School) : Hypertension : A systemic key to understanding local keloid severity. Wound Repair Regen 2015.
- 34) Ogawa R<sup>1)</sup>, Akaishi S<sup>1)</sup>, Dohi T<sup>1)</sup>, Kuribayashi S<sup>2)</sup>, Miyashita T<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiation Oncology, Nippon Medical School Hospital) : Analysis of the Surgical Treatments of 63 Keloids on the Cartilaginous Part of the Auricle : Effectiveness of the Core Excision Method. Plast Reconstr Surg 2015 ; 135 ( 3 ) : 868-875.
- 35) Yabuno Y<sup>1)</sup>, Tosa M<sup>1)</sup>, Iwakiri I<sup>1)</sup>, Nomoto S<sup>1)</sup>, Kaneko M<sup>1)</sup>, Kuwahara K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Refractory Leg Ulcers Associated with Klinefelter Syndrome. Journal of Nippon Medical School 2015 ; 82 ( 1 ) : 64-67.
- 36) Kuwahara H<sup>1)</sup>, Kubo K<sup>1)</sup>, Akiyama G<sup>2)</sup>, Takayama Y<sup>2)</sup>, Tosa R<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Aidu Chuo Hospital, <sup>2)</sup> Department of Emergency Medicine and Critical Care, Aidu Chuo Hospital, <sup>3)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : A Case of Obesity Hypoventilation Syndrome with Respiratory Failure that Improved with Abdominoplasty. Journal of Nippon Medical School 2015 ; 82 ( 1 ) : 39-42.
- (2) 総説 :
- 1) 百束比古 : 随想「形成外科と美容外科」. 形成外科 2014 ; 57 ( 6 ) : 591-591.
  - 2) 百束比古 : メソセラピーに対する意見. 医療判例解説 2014 ; 52 : 144-145.
  - 3) 小川 令 : 手指の癬痕拘縮に対する治療. 形成外科 2014 ; 57 : 90-97.
  - 4) 野本俊一, 百束比古 : 顔面美容の合併症・後遺症と処置一特に非吸収性 filler 注入の後遺症について一. PEPARS 2015 ; 99 : 147-153.
  - 5) 百束比古 : 乳房異物・脂肪注入の後遺症と処置. PEPARS 2015 ; 99 : 154-161.
  - 6) 小川 令 : 傷跡, 癬痕・ケロイドの美容外科. PEPARS 2015 ; 99 : 169-175.
- (3) 症例報告 :
- 1) 杉本貴子<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 黄 晨昱<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1,3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 東和病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科) : 正方弁法による腋窩癬痕拘縮再建の1例. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 66-69.
  - 2) 三羽英之<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院放射線治療科) : 手術および術後放射線治療が奏功したデュピトラン拘縮の1例. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2014 ; 8 : 70-73.
  - 3) 桐生(長嶋)有紀, 小川 令, 松本典子, 百束比古 : 大殿筋皮弁にて再建し得た殿部滑液包炎の1例. 日形会誌 2014 ; 34 ( 10 ) : 736-740.
  - 4) 桑原大彰<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>2)</sup>, 大木更一郎<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院美容外科・形成外科) : 深達性坐骨部褥瘡の再建における島状大腿二頭筋皮弁の有用性—プロペラ皮弁の応用—. 日本褥瘡学会誌 2014 ; 16 ( 4 ) : 562-566.

## 著 書

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科美容外科) : [分担] 1. 顔面・頸部, V 整容・修復のための形成術. 熱傷治療ガイド 2014 (池田弘人), 2014 ; pp1286-1294, へるす出版.
- 2) 小川 令 : [編集] 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015 ; 克誠堂出版.
- 3) 小川 令, 赤石論史 : [分担] 3. 癬痕のメカノバイオロジーとメカノセラピー, 基礎編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015 ; pp15-23, 克誠堂出版.

- 4) 小川 令, 赤石論史:〔分担〕6. ケロイド・肥厚性癬痕のメカニズム総論, 基礎編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp39-44, 克誠堂出版.
- 5) 小川 令, 赤石論史:〔分担〕14. 種々の癬痕に対する切除および縫合法, 実践編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp97-109, 克誠堂出版.
- 6) 百束比古:〔分担〕17. 熱傷癬痕・癬痕拘縮に対する予防・手術法, 実践編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp124-135, 克誠堂出版.
- 7) 小川 令:〔分担〕18. ケロイドに対する術後放射線治療, 実践編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp136-143, 克誠堂出版.
- 8) 赤石論史, 小川 令, 百束比古:〔分担〕23. ケロイド・肥厚性癬痕に対する Nd:YAG レーザー治療, 実践編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp184-189, 克誠堂出版.
- 9) かづきれいこ<sup>1)</sup> (1) REIKO KAZKI, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成外科:〔分担〕27. 癬痕に対するリハビリメイク, 実践編. 癬痕・ケロイドはここまで治せる Less-scar Wound Healing のための形成外科 (小川令), 2015; pp217-230, 克誠堂出版.
- 10) 百束比古:〔編集〕美容外科・抗加齢医療:基本から最先端まで<増大号>, PEPARS No.99 (百束比古), 2015; 全日本病院出版会.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 小川 令:傷あとに隠されたメカニズムの発見!:癬痕・ケロイド治療の最前線と最新知見. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 2) 百束比古:形成外科という仕事:写実のアート. 昭和大学医学部形成外科学教室同門会学術集会 (第32回) (東京), 2014. 9.
- 3) 百束比古:形成外科40年間の歩み. 再生再建外科研究会 (第3回) (東京), 2015. 2.

### (2) 招待講演:

- 1) Ogawa R, Hyakusoku H: Total Scar Management using Customized Surgical Procedures. The Congress of the International Society for Burn Injuries (17th) (Sydney), 2014. 10.
- 2) 小川 令:処置時の痛みを減らす本当の意味とは!?. WOC Advanced Seminar (東京), 2014. 5.
- 3) 小川 令:理想的な創閉鎖とは?:創傷治癒の最新理論と実践. 日本消化器外科学会総会 (第69回) (郡山), 2014. 7.
- 4) 小川 令:理想的な創傷治癒を達成するための創部閉鎖の Best Practice. 日本不整脈学会学術大会 (第29回) (東京), 2014. 7.
- 5) 小川 令:ロングパルス Nd:YAG レーザーを使用する有用性の検討:血管治療と癬痕・ケロイド治療への応用. トータルスキンセラピーミーティング東京 (第9回) (東京), 2014. 10.
- 6) 小川 令:ケロイド・肥厚性癬痕治療が変わる!:発症機序から最新治療まで. 鳥取県臨床皮膚科医会 (鳥取), 2015. 3.
- 7) 小川 令:力を感じて傷が治る!:創傷治癒とメカノバイオロジー. 四国創傷治癒研究会 (第2回) (徳島), 2015. 3.
- 8) Ogawa R: Energy Based Technology for Scars and Keloids. The Eastern Asia Dermatology Congress (3rd) (Jeju), 2014. 9.
- 9) Ogawa R: Recent Advancement of Total Scar Management. ASEAN Congress of Plastic Surgery in conjunction with 11th International Confederation for Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery: Asian Pacific Section Congress (17th) (Singapore), 2014. 8.
- 10) Ogawa R: Mechanotherapy: Revisiting Physical Therapy and Recruiting Mechanobiology for A New Era in Medicine: Possibility of Mechanotherapy for Hair Regeneration. The World Congress for Hair Research (8th) (Jeju), 2014. 5.
- 11) Ogawa R, Huang C: Mechanotherapy: revisiting physical therapy and recruiting mechanobiology for a new era in medicine: Biological Mechanisms of Distraction Osteogenesis. The International Congress on Craniofacial Osteobiology & Distraction (4th) (Maldives), 2014. 5.

### (3) シンポジウム:

- 1) 小野真平, 百束比古:穿通枝皮弁術の限界:その弱みを知りて, その強みを守る. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第57回) (長崎), 2014. 4.
- 2) 野本俊一, 小野真平, 小川 令, 百束比古:当院を訪れる顔面ファイラー注入後の後遺症症例の検討. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 3) 佐藤和夫:顔のヒアルロン酸注入に於ける血管損傷の注意点他:顔面に於けるヒアルロン酸注入の合併症. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 4) 佐藤和夫:A型ボツリヌス毒素製剤を使用した臨床について. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 5) 小川 令:「気づく力」とは「いかなる可能性も否定しない」柔軟さである. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 6) 佐野仁美<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 船坂陽子<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科, <sup>3)</sup>



- 日本医科大学皮膚科)：物理刺激が爪形態に与える影響。日本形成外科学会基礎学術集会(第23回)(松本), 2014. 10.
- 7) 佐野仁美, 小川 令：物理刺激が創傷治癒に与える影響：局所陰圧閉鎖療法による創傷治癒促進効果。日本形成外科学会基礎学術集会(第23回)(松本), 2014. 10.
  - 8) 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 佐野仁美, 有馬樹里, 百東比古：物理刺激が創傷治癒・瘢痕形成に与える影響：メカノバイオロジーとメカノセラピー。日本形成外科学会基礎学術集会(第23回)(松本), 2014. 10.
  - 9) 小川 令, 飯村剛史, 渡邊真泉, 百東比古：下腿末梢1/3以下における少数切開によるリンパ管静脈吻合手術：低侵襲・短時間の手術をめざして。日本マイクロサージャリー学会(第41回)(京都), 2014. 12.
  - 10) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科)：Lymphoscintigraphy with SPECT-CTを用いたリンパ浮腫の最新の診断法。日本フットケア学会年次学術集会(第13回)(東京), 2015. 2.
  - 11) 小川 令, 飯村剛史, 渡邊真泉, 百東比古：下肢リンパ浮腫に対する少数切開による低侵襲・短時間のリンパ管静脈吻合手術。日本フットケア学会年次学術集会(第13回)(東京), 2015. 2.
  - 12) 佐野仁美, 小川 令, 赤石論史, 百東比古：物理的刺激を考慮した爪変形性疾患の治療。日本フットケア学会年次学術集会(第13回)(東京), 2015. 2.
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 赤石論史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 菅 浩隆<sup>2)</sup>, Wong V<sup>2)</sup>, Gurtner G<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> スタンフォード大学形成外科)：瘢痕に対するレーザー治療は色調の改善だけか。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
- (5) ランチョンセミナー：
- 1) 小川 令：NPWTの近未来を考える：その可能性と限界。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
  - 2) 小川 令：レーザーを使用した血管性病変治療と瘢痕・ケロイド治療の創意工夫：ロングパルスNd：YAGレーザーを使用する有用性とその効果。日本美容外科学会総会(第37回)(東京), 2014. 9.
  - 3) 小川 令：きずの治療で痛みをとるのは良いこと？悪いこと？。日本創傷治癒学会(第44回)(仙台), 2014. 12.
- (6) ポスター：
- 1) 渡邊真泉<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 北村山公立病院)：体外衝撃波の皮膚への影響。日本抗加齢医学会総会(第14回)(大阪), 2014. 6.
  - 2) 青木宏信<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 杉本貴子<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：両側頬粘膜横転皮弁による下口唇広範囲欠損の再建を行った1例。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
  - 3) 石井暢明<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：島状皮弁と有茎皮弁の瘢痕分断効果のシミュレーション。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
  - 4) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：自家培養表皮ジェイスの使用経験。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
  - 5) 杉本貴子<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：手指の分層植皮術に対して手袋状ポリウレタンスポンジと陰圧吸引療法を用いて良好な結果を得た1例。日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
  - 6) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H：External Wire Frame Fixation of Digital Skin Grafts：A Non-invasive Alternative to the K-wire Insertion Method. The Congress of the International Society for Burn Injuries (17th)(Sydney), 2014. 10.
  - 7) Umezawa H<sup>1)</sup>, Vinh V<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> National Institute of Burns, Hanoi)：Burn Reconstruction using Bipedicled Super-Thin Flaps. The Congress of the International Society for Burn Injuries (17th)(Sydney), 2014. 10.
  - 8) Kuwahara H, Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H：Vascular Anatomical Study for Perforator Supercharged Super-Thin Flaps. The Congress of the International Society for Burn Injuries (17th)(Sydney), 2014. 10.
  - 9) 野本俊一, 小川 令, 外蘭 優, 百東比古：成長因子注射による後遺症症例の検討。日本医科大学医学会総会(第82回)(東京), 2014. 9.
  - 10) 外蘭 優, 三羽英之, 天海恵子, 小川 令, 百東比古：治療に難渋したコレステロール結晶塞栓症の1例。日本医科大学医学会総会(第82回)(東京), 2014. 9.
  - 11) 本田 梓<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1,2)</sup>, 桑原広輔<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>3)</sup>, 横島一彦<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：口腔内癌において広範な切除と下顎区域切除を必要とした症例

- に対する再建アプローチ. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
- 12) 青木宏信<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 杉本貴子<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 頬粘膜からの皮弁による下口唇欠損の再建例. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 13) 高見佳宏<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 東京労災病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 自家網状植皮との同時移植におけるトリプシン処理無細胞真皮マトリックスの有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 14) 杉本貴子<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 青木宏信<sup>1)</sup>, 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup>, 香西達一<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科, 3) 小山記念病院形成外科) : 手の植皮術に対する工夫. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 15) 安藤玲奈<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 庄司真美<sup>1)</sup>, 桑原広輔<sup>2)</sup>, 大木更一郎<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 局所皮弁による熱傷後外鼻欠損の再建. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 16) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 付属病院循環器内科) : ケロイドと血管内皮機能との関係についての二項ロジスティック回帰分析. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 17) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 杉本貴子<sup>1)</sup>, 青木宏信<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : プロペラフラップとスクエアフラップの瘢痕拘縮解除効果の力学的解析. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 18) 野守美千子, 小川 令, Huang C, 百東比古 : 正方弁法の立体幾何学モデルと症例検討による有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 19) 中尾淳一, 三羽英之, 小野真平, 梅澤裕己, 小川 令, 百東比古 : AV shunt を付加することによって良好な結果を得た切断指の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
  - 20) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科) : 当院における頭頸部再建術後合併症の解析と対応. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
- (7) 一般講演 :
- 1) 佐野仁美<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 塩野谷香<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 東京大学大学院医学系研究科, 2) 日本医科大学形成外科, 3) 塩之谷整形外科) : 巻き爪症例の歩行様式の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 2) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科) : ケロイド症例における血管内皮機能の解析. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 3) 有馬樹里, 小川 令, ファンチェンユー, 赤石諭史, 百東比古 : ケロイドの重症化と高血圧との関連性の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 4) 小川 令<sup>1)</sup>, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>2)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院放射線治療科) : 耳垂ケロイドに対する術後電子線照射 8Gy1 回照射の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 5) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 田組一朗<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 露出した頭皮下異物の対応. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 6) 小野真平<sup>1,2)</sup>, 大井宏之<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, 2) 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター) : Superficial Palmar Branch of the Radial Artery Flap による手指皮膚軟部組織欠損の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 7) 小野真平, 朝日林太郎, 百東比古 : 下行膝動脈穿通枝皮弁 Descending Genicular Artery Perforator (DGAP) Flap. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 8) 村上正洋<sup>1)</sup>, 庄司真美<sup>1)</sup>, 桑原広輔<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 眉毛下皮膚切除術と眼瞼挙筋前転法の同時手術の経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 9) 長嶋有紀, 赤石諭史, 百東比古 : ヒアルロン酸注入乳房の画像の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 10) 長嶋有紀<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>2)</sup>, 渋谷偉織<sup>2)</sup>, 渡邊真泉<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院) : 離島における形成外科診療の実態. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 11) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, 2) 日本医科大学放射線科) : リンパ浮腫術前・術後評価における 2 phase Dynamic Lymphoscintigraphy および SPECTCT の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
  - 12) 松本典子<sup>1)</sup>, 江浦重義<sup>2)</sup>, 梅澤裕己<sup>2)</sup>, 小野真平<sup>3)</sup>, 天海恵子<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念病院形成外科, 2) 日本医科大学

- 学付属病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup> 聖隷浜松病院手外科・マイクロサージャリーセンター) : フルニエ壞疽における陰圧閉鎖療法の有用性 : 13 症例の検討から. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 13) かづきれいこ<sup>1, 2)</sup>, 野町 健<sup>3)</sup>, 青木 律<sup>4)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> REIKO KAZKI, <sup>3)</sup> ヴィヴェンシアクリニック, <sup>4)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川) : 超極薄粘着シートのメイクアップへの応用. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 14) 三羽英之, 金子蘭子, 梅澤裕己, 江浦重義, 奈良慎平, 百東比古 : 局所皮弁と筋膜移植により閉鎖した気管皮膚瘻. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 15) 庄司真美<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>2)</sup>, 奈良慎平<sup>2)</sup>, 桑原大彰<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup> 会津中央病院形成外科) : 母指多指症 Wassel 分類 4 型に対する最終的な瘻痕の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 16) 石井暢明<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : 埋没耳における猫耳法と正方弁のデザインに関する考察 : 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 17) 佐野仁美<sup>1, 2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 塩野谷香<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 東京大学大学院, <sup>3)</sup> 塩之谷整形外科) : 職業の違いによる爪形態変化の解析. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 18) 佐野仁美<sup>1, 2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 東京大学大学院) : 片麻痺症例における手指爪形態の解析 : 物理的刺激が爪形態に与える影響の考察. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 19) 芹澤直隆, 大木更一郎, 野本俊一, 奈良慎平, 梅澤裕己, 松本典子, 百東比古 : 軟部組織に対するミノサイクリン創内注入療法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 20) 朝日林太郎<sup>1, 2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 皮膚組織欠損創に対する真皮欠損用グラフトインテグラ及び V. A. C. ATS 治療システム併用の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 21) 青木宏信, 小川 令, 赤石論史, 百東比古 : 皮膚線維腫 (dermatofibroma) とケロイド・肥厚性瘻痕との関連性の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 22) 外菌 優, 小川 令, 赤石論史, 百東比古 : 3D 画像撮影解析装置を用いた瘻痕治療の評価. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 23) 渡邊真泉<sup>1, 2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 北村山公立病院) : ケロイド・肥厚性瘻痕と糖尿病は合併するか? : 292 症例の解析から. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 24) 佐野仁美<sup>1, 2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 町田 幹<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 東京大学大学院医学系研究科, <sup>3)</sup> 日本医科大学放射線医学) : 乳房形態の左右差に関する画像学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 25) 野本俊一, 奈良慎平, 外菌 優, 大木更一郎, 百東比古 : 乳房異物肉芽腫摘出術と乳房固定術の新しいアプローチ. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 26) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, Vu Q<sup>2)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 長嶋有紀<sup>1)</sup>, 桑原広輔<sup>3)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> ベトナム国立熱傷研究所病院形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : Bipedicled free superthin flap による顔面頸部再建—ALT-DGAP combined superthin flap の可能性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 27) 朝日林太郎<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : Keystone flap 変法の考案. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 28) 櫻井 透<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 松本典子<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : 副咽頭間隙悪性腫瘍切除後欠損における遊離組織移植再建の有用性について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 29) 香西達一<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>3)</sup> (1) 医療法人社団善仁会小山記念病院皮膚科・形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 接着性スプリント (ピタシート®) の術後縫合創への使用経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 30) 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 杉本貴子<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科) : 内視鏡を用いることにより前頭部小切開のみで治療を行うことができた前頭部陥没骨折の治療経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 31) 小川 令 : 形成外科の夢を実現しよう!—ケロイド治療から見えてくる, 皮膚・血管再生に至る道. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 32) Mitsuwa H, Ogawa R, Ono S, Akaishi S, Hyakusoku H : Importance of Propeller Flaps for Surgical Therapy of Keloid. The Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (12th) (Seoul), 2014. 5.

- 33) Honda A, Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : Versatility of External Wire Frame Fixation Methods for Skin Grafting. The Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (12th) (Seoul), 2014. 5.
- 34) Ono S<sup>1,2)</sup>, Ohi H<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, (2) Hand & Microsurgery Center, Seirei Hamamatsu General Hospital) : Free Superficial Palmar Branch of the Radial Artery (SP-BRA) Flap for Finger Soft-Tissue Reconstruction. The Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (12th) (Seoul), 2014. 5.
- 35) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup> (1) 会津中央病院形成外科・美容外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 広範囲熱傷の治療戦略 : 超早期手術及び同種皮膚移植と自家培養表皮移植併用の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第40回) (埼玉), 2014. 6.
- 36) 高見佳宏<sup>1,2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 東京労災病院形成外科, (2) 日本医科大学形成外科) : 両前腕に Krukenberg 手術を行った重症熱傷症例の長期フォローアップ. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第40回) (埼玉), 2014. 6.
- 37) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科・美容外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 顔面頸部熱傷患者における気管切開術施工時の一工夫 : 前胸部 V-Y 前進皮弁の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第40回) (埼玉), 2014. 6.
- 38) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 西川みどり<sup>2)</sup>, 桑原大彰<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (2) 神栖済生会病院形成外科, (3) 会津中央病院形成外科・美容外科, (4) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : プロペラ皮弁法の熱傷後瘢痕拘縮再建での応用. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第40回) (埼玉), 2014. 6.
- 39) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, Vu Q<sup>2)</sup>, 長嶋有紀<sup>1)</sup>, 桑原広輔<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (2) ベトナム国立熱傷研究所病院形成外科, (3) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : ALT-DGAP combined superthin flap による頸部再建と完全遊離型超薄皮弁の新展開. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第40回) (埼玉), 2014. 6.
- 40) 芹澤直隆<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 櫻井 透<sup>1)</sup>, 天海恵子<sup>2)</sup>, 松本典子<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (2) 博慈会記念病院形成外科) : Flowthrough 型 ALT flap にて再建した右前腕悪性線維性組織球腫の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第30回) (東京), 2014. 7.
- 41) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 桑原大彰<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科・美容外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 外傷性刺青に対するハイドロサージェリーシステム「バーサジェット◇S」の使用経験. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 42) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, (2) 日本医科大学付属病院循環器内科) : ケロイドと血管内皮機能との関係. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 43) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 局所皮弁の立体効果に関する考察 : 有限要素法によるシミュレーションから. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 44) 野守美千子, 小川 令, ファンチェンユー, 百束比古 : 正方皮弁を用いた腋窩・指間瘢痕拘縮の立体的再建. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 45) 外蘭 優<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>2)</sup>, 野本俊一<sup>2)</sup>, 天海恵子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院形成外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 3D 画像撮影解析装置を用いた皮膚潰瘍治療の評価. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 46) 外蘭 優<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>2)</sup>, 野本俊一<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院形成外科, (2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 3D 画像撮影解析装置を用いた頭部・顔面領域における創傷治癒の評価. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 47) 本田 梓, 小川 令, 小野真平, 百束比古 : 植皮術におけるワイヤーフレーム外固定法の有用性. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第6回) (香川), 2014. 7.
- 48) 藪野雄大, 赤石論史, 外蘭 優, 小川 令, 百束比古 : 瘢痕の Nd : YAG レーザー治療の作用機序. 日本美容外科学会学術集会 (第120回) (札幌), 2014. 6.
- 49) 野本俊一<sup>1)</sup>, 外蘭 優<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, (2) 博慈会記念総合病院形成外科, (3) グリーンウッドスキンクリニック立川) : 成長因子皮下注射によると思われる後遺症症例の検討. 日本美容外科学会学術集会 (第120回) (札幌), 2014. 6.
- 50) 赤石論史, 小川 令, 土肥輝之, 百束比古 : ケロイドにおける血管に関する電顕像の再確認. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第9回) (東京), 2014. 8.
- 51) 小川 令<sup>1)</sup>, Capek L<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, (2) チェコ共和国リベツ工科大学機械工学科) : 前胸部ケロイド手術における大胸筋筋膜縫合の真皮に対する減張効果の計測. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第9回) (東京), 2014. 8.

- 52) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院 循環器内科): ケロイドと血管内皮機能との関係について二項ロジスティック回帰分析による検討. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第9回) (東京), 2014. 8.
- 53) 野本俊一<sup>1)</sup>, 桐生有紀<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 簡野晃次<sup>2)</sup>, 久保一人<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 東京血管外科クリニック): 抗加齢を目的とした上肢・手背の血管アンチエイジング治療—パルスレーザーによる血管内焼灼術. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 54) 渡邊真泉<sup>1,2)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 外薮 優<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科・美容外科, 2) 北村山公立病院): 陥没乳頭の術後固定法—エラストマー外筒とピアス式固定具の使用. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 55) かつきれいこ<sup>1,2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) REIKO KAZKI, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): アンチエイジング患者に対するリハビリメイクからの提案. 日本美容外科学会総会 (第37回) (東京), 2014. 9.
- 56) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科): ケロイド症例における血管内皮機能の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 57) 小川 令<sup>1)</sup>, チャベックルーカス<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科, 2) リベレッツ工科大学): ケロイド切除後創縫合における張力の計測: 前胸部ケロイド手術における大胸筋筋膜縫合の重要性. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 58) 土肥輝之<sup>1)</sup>, 三宅弘一<sup>2)</sup>, 青木雅代<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 岡田尚己<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学学生化学・分子生物学 (分子遺伝学) 高度先端医療技術開発センター遺伝子治療研究部門): ケロイド線維芽細胞へのTIMP2投与によるコラーゲン生成抑制効果の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 59) 松本典子<sup>1)</sup>, 青木雅代<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 東京労災病院形成外科・美容外科): ラット逆U字型腹部皮弁を用いた虚血・うっ血皮弁モデルの作成. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 60) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科学, 2) 日本医科大学放射線医学): Two phase dynamic lymphoscintigraphy および SPECT-CT の有用性とリンパ管静脈吻合術前後の定量的評価. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第23回) (松本), 2014. 10.
- 61) Nomori M, Ogawa R, Huang C, Hyakusoku H: Three-dimensional Reconstruction of Scar Contracture-bearing Axilla and Digital Webs by Using the Square Flap Method. The Congress of the International Society for Burn Injuries (17th) (Sydney), 2014. 10.
- 62) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 埋没耳形成術のデザインに関する考察: 有限要素法によるシミュレーションから. 日本シミュレーション外科学会 (第24回) (東京), 2014. 11.
- 63) 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): 側頭筋壊死を認めた側頭部ガス壊疽の1例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第32回) (大阪), 2014. 11.
- 64) 櫻井 透<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 森田明夫<sup>2)</sup>, 中溝宗永<sup>3)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科): 複数回手術された後の頭蓋底腫瘍再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第32回) (大阪), 2014. 11.
- 65) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 桑原大彰<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 重度顔面損傷を伴う熊による外傷4例の検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第32回) (大阪), 2014. 11.
- 66) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科学, 2) 日本医科大学放射線医学): リンパ浮腫におけるフチン酸を用いた two-phase dynamic lymphoscintigraphy および SPECT-CT の有用性とリンパ管静脈吻合手術の適応判断. 日本マイクロサージャリー学会 (第41回) (京都), 2014. 12.
- 67) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>2)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>3)</sup>, 中溝宗永<sup>4)</sup>, 横島一彦<sup>4)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院消化器内科, 3) 日本医科大学付属病院消化器外科, 4) 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科): 下咽頭・頸部食道再建が嚥下圧あるいは食道内圧に与える影響. 日本マイクロサージャリー学会 (第41回) (京都), 2014. 12.
- 68) 中尾淳一<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 三羽英之<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救急救命センター, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): AV shunt を付加することによって良好な結果を得た切断指の1例. 日本マイクロサージャリー学会 (第41回) (京都), 2014. 12.
- 69) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 桑原大彰<sup>1,2)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美

容外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): マイクロサージャリーを用いた血行再建により良好な経過を辿った熊による重度顔面損傷の1例. 日本マイクロサージャリー学会(第41回)(京都), 2014. 12.

- 70) 野一色千景<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 有馬樹里<sup>1)</sup>, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科): ケロイドと血管内皮機能に関連に対して二項ロジスティック回帰分析を用いての検討. 日本創傷治癒学会(第44回)(仙台), 2014. 12.
- 71) 高見佳宏<sup>1)</sup>, 大澤幸代<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京労災病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科): 手袋用粘着防止剤の作製と熱傷処置への使用. 日本熱傷学会関東地方会(第23回)(東京), 2015. 1.
- 72) 高見佳宏<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京労災病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科): 同時重層植皮術における基底膜温存型無細胞真皮マトリックスの問題点について. 日本熱傷学会関東地方会(第23回)(東京), 2015. 1.
- 73) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, Vu Q<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> ベトナム国立熱傷研究所): 熱傷再建における穿通枝皮弁の利用. 日本熱傷学会関東地方会(第23回)(東京), 2015. 1.
- 74) 青木宏信<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 中尾淳一<sup>2)</sup>, 藪野雄大<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 指間への厚め分層植皮術に陰圧閉鎖療法を用いた1例. 日本熱傷学会関東地方会(第23回)(東京), 2015. 1.
- 75) 朝日林太郎<sup>1)</sup>, 桑原大彰<sup>1,2)</sup>, 秋山 豪<sup>3)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>3)</sup> 会津中央病院高度救命救急センター): 手指の深達性熱傷治療におけるハイドロサージェリーシステム「パーサジェット®」の有用性. 日本熱傷学会関東地方会(第23回)(東京), 2015. 1.
- 76) 桑原大彰, 梅澤裕己, 中尾淳一, 百束比古: 頭頸部癌切除後再建の遊離皮弁移植における血管吻合器による静脈吻合の結果の検討. 日本形成外科手術手技学会(第20回)(鎌倉), 2015. 2.
- 77) 佐野仁美, 大木更一郎, 小川 令: 巻き爪・陥入爪に対する十川式爪矯正術の経験と既存の保存的治療との比較. 日本形成外科手術手技学会(第20回)(鎌倉), 2015. 2.
- 78) 朝日林太郎<sup>1)</sup>, 桑原大彰<sup>2)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): ハイドロサージェリーシステムによるデプリードマンの新展開: より優れた機能的, 整容的回復を目指して. 再生再建外科研究会(第3回)(東京), 2015. 2.
- 79) 野本俊一, 野守美千子, 小野真平, 大木更一郎, 百束比古: 顔面神経麻痺患者の下眼瞼外反および顔面非対称に対するフェイスリフトの応用. 再生再建外科研究会(第3回)(東京), 2015. 2.
- 80) 小野真平, 小川 令, 百束比古: 橈骨動脈浅掌枝皮弁(superficial palmar branch of radial artery flap: SPBRA flap)は手指皮膚軟部組織再建のbreakthroughに成り得るか?: 皮弁デザインのバリエーションと有茎皮弁としての可能性. 再生再建外科研究会(第3回)(東京), 2015. 2.
- 81) 佐野仁美<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 市岡 滋<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学形成外科): 潰瘍初発部位からの下肢切断率の検討: 拇趾潰瘍は予後不良である. 日本フットケア学会年次学術集会(第13回)(東京), 2015. 2.
- 82) 小野真平<sup>1)</sup>, 久保一人<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>2)</sup> 東京血管外科クリニック): ヘバーデン結節の新しい治療戦略: 残存する関節可動域を温存した整容再建. 関東形成外科学会東京地方会(第281回)(東京), 2015. 3.
- 83) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 形成外科学, <sup>2)</sup> 放射線医学): Two-phase dynamic lymphoscintigraphyおよびSPECT-CTの有用性とリンパ管静脈吻合術前後の定量的評価. 日本医科大学医学会総会(第82回)(東京), 2014. 9.
- (8) マゴットセラピー研究会:
- 1) 桐木園子<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 手塚晶人<sup>1)</sup>, 飯村剛史<sup>2)</sup>, 松田範子<sup>3)</sup>, 清水 渉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科): マゴットセラピー159例から考える難治性慢性下肢潰瘍治療と救肢. 日本フットケア学会年次学術集会(第13回)(東京), 2015. 2.
- (9) ミニシンポジウム:
- 1) 佐野仁美<sup>1,2)</sup>, 小川 令<sup>2)</sup>, 赤石論史<sup>2)</sup>, 秋元正宇<sup>3)</sup>, 光嶋 勲<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京大学大学院医学系研究科, <sup>2)</sup> 日本医科大学形成外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科): 爪再建におけるBasic Science: 爪形態の維持には物理的刺激が必要である. 日本形成外科学会総会・学術集会(第57回)(長崎), 2014. 4.
- (10) 主題演題:
- 1) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 中溝宗永<sup>2)</sup>, 横島一彦<sup>2)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院耳鼻科・頭頸部外科): 当院における頭頸部再建術後合併症の解析と対応. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第6回)(香川), 2014. 7.
- (11) 展示演題:
- 1) 外蘭 優, 赤石論史, 百束比古, 小川 令: キュートメーターを用いた部位による皮膚の硬さや弾力の違いの検討. 日本形成外科学

- 会基礎学術集会（第23回）（松本），2014. 10.
- 2) 青木宏信<sup>1)</sup>，赤石論史<sup>2)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，小川 令<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科：皮膚線維腫 CellularType とケロイド・肥厚性瘢痕との関連性の病理組織学的検討. 日本形成外科学会基礎学術集会（第23回）（松本），2014. 10.
  - 3) 石井暢明<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>1)</sup>，百束比古<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院形成外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科：切開面の変化によるドッグイヤー回避法：有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会（第23回）（松本），2014. 10.
  - 4) 佐野仁美<sup>1)</sup>，小川 令<sup>1)</sup>，船坂陽子<sup>2)</sup>，百束比古<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学形成外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学皮膚科：マウス無荷重モデルによる爪弯曲メカニズムの検証. 日本形成外科学会基礎学術集会（第23回）（松本），2014. 10.

## 論文

### [追加分]

追加分原著：

- 1) Matsumoto S<sup>1)</sup>，Tanaka R<sup>1)</sup>，Okada K<sup>1)</sup>，Arita K<sup>1)</sup>，Hyakusoku H<sup>2)</sup>，Miyamoto M<sup>3)</sup>，Tabat Y<sup>4)</sup>，Mizuno H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Regenerative Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University): The Effect of Control-released Basic Fibroblast Growth Factor in Wound Healing: Histological Analyses and Clinical Application. *Plast Reconstr Surg Glob Open* 2013; 1 (6): e44-e44.

## [武蔵小杉病院形成外科]

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 村上正洋，百束比古<sup>1)</sup>，宮里和明<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科，<sup>2)</sup> 船堀眼科：牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した退行性下眼瞼内反症の長期結果と牽引筋腱膜縫着術単独手術例との比較. *日本美容外科学会会報* 2014; 36 (2): 1-6.

(2) 総説：

- 1) 志村知子<sup>1)</sup>，村上正洋 <sup>(1)</sup> 付属病院高度救命救急センター：クリティカルケア. *WOC Nursing* 2014; 2 (4): 17-23.
- 2) 村上正洋，百束比古<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科：V. 製容・修復のための形成術 1. 顔面・頸部. *救急医学 熱傷治療ガイド* 2014 2014; 38 (10): 1286-1294.

(3) 症例報告：

- 1) Kuwahara K<sup>1)</sup>，Murakami M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>，Tosa M <sup>(1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery): Congenital auricular fistula involving the lobule with caudal extension of an abscess. *Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery* 2014; 67 (12): 1749-1750.

### 著書

- 1) 村上正洋：[分担] I 手術前の基本準備編：すべては患者満足のために：B おさえておきたい眼瞼手術の基本・準備ポイント：形成外科医の視点から. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp9-23, 全日本病院出版会.
- 2) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 A 上眼瞼の睫毛内反 埋没縫合法. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp52-57, 全日本病院出版会.
- 3) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 C 下眼瞼内反 牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した下眼瞼内反手術. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp124-130, 全日本病院出版会.
- 4) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 E 上眼瞼下垂 上眼瞼下垂とは. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp146-147, 全日本病院出版会.
- 5) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 F 皮膚弛緩 上眼瞼皮膚弛緩とは. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp211-211, 全日本病院出版会.
- 6) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 F 皮膚弛緩 眉毛下皮膚切除術. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント* (村上正洋，鹿嶋友敬)，2014；pp223-228, 全日本病院出版会.
- 7) 村上正洋：[分担] II 眼瞼手術の実践編 G 眼瞼外反 下眼瞼外反とは. *超アトラス眼瞼手術：眼科・形成外科の考えるポイント*

(村上正洋, 鹿嶋友敬), 2014 ; pp229-229, 全日本病院出版会.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 村上正洋 : 形成外科医の独学下眼瞼内反症手術. JSCR 学術集会 (第 12 回) (東京), 2014. 10.

### (2) 教育講演 :

- 1) 土佐真美子 : 産婦人科手術後瘢痕の予測と対応. 北日本産婦人科学会総会・学術講演会 (第 62 回) (金沢), 2014. 9.
- 2) 村上正洋 : やっていきましょう! 眉毛下皮膚切除術. おっしょい眼科手術の会 (第 13 回) (福岡), 2015. 2.

### (3) ポスター :

- 1) ガジザデ モハマッド, 土佐真美子, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝子診療科ゲノム先端医療部, <sup>2)</sup> 老人研究所病理部門) : ケロイドにおける IL-6 遺伝子一塩基多型解析. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 6 回) (高松), 2014. 7.
- 2) 土佐真美子, ガジザデ モハマッド, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 老人研究所病理部門) : ケロイド内の炎症に関わる非典型的な病理組織所見の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 6 回) (高松), 2014. 7.
- 3) 安藤玲奈, 村上正洋, 庄司真美, 桑原広輔<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 局所皮弁による熱傷後外鼻欠損の再建. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.
- 4) ガジザデモハマッド, 土佐真美子, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門) : Wnt/beta-catenin signaling in keloid pathogenesis. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 23 回) (松本), 2014. 10.

### (4) 一般講演 :

- 1) 土佐真美子, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院女性診療科・産科) : 同一手術者におけるモノフィラメント吸収糸と編み糸吸収糸の瘢痕比較. 瘢痕・ケロイド治療研究会 (第 9 回) (東京), 2014. 8.
- 2) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 江浦重義<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 西川みどり<sup>2)</sup>, 桑原大彰<sup>3)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院形成外科, <sup>3)</sup> 会津中央病院形成外科) : プロペラ皮弁法の熱傷後瘢痕拘縮再建での応用. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 40 回) (さいたま), 2014. 6.
- 3) 土佐真美子, ガジザデモハマッド, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門) : ケロイド患者における IL-6 一塩基多型と IL-6 値の関連についての検討. 日本形成外科学会基礎学術総会 (第 23 回) (松本), 2014. 10.
- 4) 土佐真美子, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院女性診療科・産科) : トラニラスト早期投与による手術後肥厚性瘢痕およびケロイド予防効果の検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 5) 村上正洋, 庄司真美, 桑原広輔<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 眉毛下皮膚切除術と眼瞼挙筋前転法の同時手術の経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 57 回) (長崎), 2014. 4.
- 6) 野村好美<sup>1)</sup>, 永迫さゆり<sup>1)</sup>, 西山絵美<sup>1)</sup>, 小野崎純<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>2)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院看護部, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院薬剤部) : 当院で発生した仙骨・尾骨褥瘡の治癒遅延要因の検討. 日本褥瘡学会学術集会 (第 16 回) (名古屋), 2014. 8.
- 7) 朝日林太郎<sup>1,2)</sup>, 桑原大彰<sup>1,2)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : マイクロサージャリーを用いた血行再建により良好な経過を辿った熊による重度顔面損傷の 1 例. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第 41 回) (京都), 2014. 12.
- 8) Ghazizadeh M, Igota S<sup>1)</sup>, Egawa S<sup>2)</sup>, Tosa M ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and reconstructive Surgery, Higashi-totuka Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Molecular pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Wnt/beta-catenin signaling is involved in keloid pathogenesis. International Conference on Surgery and Anesthesia (3rd) (Chicago), 2014. 11.
- 9) Ghazizadeh M : Interleukin-6 promoter polymorphism associated with keloid in the Japanese population. 日本疫学会学術総会 (第 25 回) (名古屋), 2015. 1.
- 10) 勝村宇博<sup>1)</sup>, 嘉鳥信忠<sup>1)</sup>, 笠井健一郎<sup>1)</sup>, 末岡健太郎<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 聖隷浜松病院眼形成眼窩外科) : 眼窩脂肪腫を認めた 1 例. 日本眼瞼義眼床手術学会 (第 26 回) (札幌), 2015. 3.

## [千葉北総病院形成外科]

### 研究概要

コンピュータ・シミュレーションによる臨床上的さまざまな現象の解明をテーマに研究をおこなっている。ケロイドの進展機序に関するコンピュータシミュレーションの研究、頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった。皮膚手術シミュレーションの研究は、様々な皮膚形成術をモデル化し、手術シミュレーションを行うものである。皮膚形成術により発生する皮膚の進展、圧縮変形、応力、ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した。褥瘡発生機序の研究は褥瘡モデルを作成し様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである。これらの結果から褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した。今後褥瘡発



生予防のための新しい器具の開発、褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる。ケロイドの進展機序に関する研究はケロイドをモデル化し応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである。従来のモデルでは説明のできなかった様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した。さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 赤石論史<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：有限要素法による縫合法の最適化。癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2014；8：53-56.

(2) 症例報告：

- 1) 杉本貴子<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 黄 晨<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：正方弁法による腋窩癬痕拘縮再建の1例。癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2014；8：66-69.

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 秋元正宇：計算から見えてくる力。日本形成外科学会 基礎学術集会（第23回）（キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）），2014. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 渋谷偉織, 秋元正宇, 石井暢明, 杉本貴子, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：内視鏡を用いることにより前頭部小切開のみで治療を行うことができた前頭骨陥没骨折の治療経験。日本形成外科学会総会・学術集会（第57回）（長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール，NCC&スタジオ（長崎市）），2014. 4.
- 2) 渋谷偉織, 秋元正宇, 石井暢明, 太組一朗<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：側頭筋壊死を認めた側頭部ガス壊疽の1例。日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会（第32回）（大阪市中央公会堂（大阪市北区中之島1-1-27）），2014. 11.
- 3) 香西達一<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 医療法人社団善仁会小山記念病院皮膚科・形成外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：接着性スプリント（ピタシート®）の術後縫合創への使用経験。日本形成外科学会総会・学術集会（第57回）（長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール，NCC&スタジオ（長崎市）），2014. 4.
- 4) 杉本貴子, 秋元正宇, 渋谷偉織, 石井暢明, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：手指の分層植皮術に対して手袋状ポリウレタンスポンジと陰圧吸引療法を用いて良好な結果を得た1例。日本創傷外科学会総会・学術集会（第6回）（かがわ国際会議場 サンポートホール高松（香川県高松市サンポート2-1）），2014. 7.
- 5) 石井暢明, 秋元正宇, 村上正洋<sup>2)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科)：埋没耳における猫耳法と正方弁のデザインに関する考察：有限要素法による解析から。日本形成外科学会総会・学術集会（第57回）（長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール，NCC&スタジオ（長崎市）），2014. 4.
- 6) 石井暢明, 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：島状皮弁と有茎皮弁の癬痕分断効果のシミュレーション。日本創傷外科学会総会・学術集会（第6回）（かがわ国際会議場・サンポートホール高松（香川県高松市サンポート2-1）），2014. 7.
- 7) 石井暢明, 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：切開面の変化によるドッグイヤー回避法：有限要素法による解析から。日本形成外科学会 基礎学術集会（第23回）（キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）），2014. 10.
- 8) 秋元正宇, 太組一朗<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：露出した頭皮下異物の対応。日本形成外科学会総会・学術集会（第57回）（長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール，NCC&スタジオ（長崎市）），2014. 4.
- 9) Akimoto M：Computational mechanical analysis of the historical two major cleft lip design. Asean Pacific Craniofacial Association Conference (The 10th) (Adelaide Australia), 2014. 9.
- 10) 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：局所皮弁の立体効果に関する考察：有限要素法によるシミュレーションから。日本創傷外科学会総会・学術集会（第6回）（かがわ国際会議場 サンポートホール高松（香川県高松市サンポート2-1）），2014. 7.
- 11) 秋元正宇, 石井暢明, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：埋没耳形成術のデザインに関する考察：有限要素法によるシミュレーションから。日本シミュレーション外科学会学術集会（第22回）（東京），2014. 11.

## 29. 付属病院付置施設等

### [付属病院遺伝診療科]

#### 研究概要

新しい時代の遺伝子医学に対応するため、遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がり、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として遺伝診療・遺伝カウンセリング外来診療を行っている。対象疾患は先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患数は平成26年3月までのべ約700件となった。遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師、認定遺伝カウンセラーによるチームで担当している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に基礎医学研究者、臨床医、臨床心理士などの各職種が参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。遺伝子検査はハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型エーラスダロス症候群などについて遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断、発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。特に、「無侵襲的出生前遺伝学的検査である母体血中 cell free DNA 胎児染色体検査 (NIPT) の遺伝カウンセリングに関する研究」に関する臨床研究実施施設として日本医学会の認定および登録を受け、平成25年10月より開始している。さらに、臨床遺伝教育に関しては、医学部卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 症例報告：

- 1) Yoneda A<sup>1)</sup>, Okada K<sup>1)</sup>, Okubo H<sup>1)</sup>, Matsuo M<sup>1)</sup>, Kishikawa H<sup>1)</sup>, Naing B, Watanabe A<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> (1) 光星会病院 外科, 2) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学) : Spontaneous colon perforations associated with a vascular type of Ehlers-Danlos syndrome. *Case Rep Gastroenterol* 2014 ; 8 (2) : 175-181.
- 2) Naing B, Watanabe A<sup>1)</sup>, Tanigaki S<sup>2)</sup>, Ono M<sup>2)</sup>, Iwashita M<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 杏林大学産婦人科 : Presymptomatic genetic analysis during pregnancy for vascular type Ehlers-Danlos syndrome. *Int Med Case Rep J* 2014 ; 7 : 99-102.
- 3) 高田雅代<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 澤井英明<sup>3)</sup>, 丸山秀彦, 塚原紗耶, 洪川昇平, 片山典子, 立石洋子, 熊澤一真, 中西美恵, 多田克彦, 森茂弘, 森田啓督, 山邊陽子, 中村 信, その他1名 (1) 香川県立中央病院, 2) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 3) 兵庫医科大学 : 出生前に超音波検査により疑われ, 出生後の遺伝子解析で確定診断した周産期型低フォスファターゼ症の1例. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2014 ; 50 (1) : 362-367.

##### 著書

- 1) 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部 : [翻訳] 第16章 薬理遺伝学. *コルフ臨床遺伝医学* (原書4版), 2014 ; pp244-252, 丸善.

##### 学会発表

###### (1) 特別講演：

- 1) 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部 : ヒトゲノム・遺伝子解析研究. 東京理科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する講習会 (第2回) (野田, 千葉), 2014. 4.

###### (2) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 付属病院 ゲノム先端医療部 : 病院における薬理遺伝学的な取り組み「臨床現場で薬剤師が知っておくべき薬理遺伝学的知識」. 日本医療薬学会年会 (第24回) (名古屋), 2014. 9.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学) : ヒトの遺伝リテラシー向上を目指した遺伝医学関連学会の取組「初等・中等教育課程における『ヒトの遺伝学』教育の課題と推進方策」. 日本学術会議第二部会主催公開シンポジウム (東京), 2014. 9.

###### (3) 一般講演：

- 1) 佐々木元子<sup>1, 2)</sup>, 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup>, 市石 博<sup>3)</sup>, 白石直樹<sup>4)</sup>, 櫻井晃洋<sup>2, 5)</sup> (1) 日本遺伝カウンセリング学会 遺伝教育委員会, 2) 日本人類遺伝学会 教育推進委員会, 3) 東京都立国分寺高等学校, 4) 東京都立豊島高等学校, 5) 札幌医科大学医学部 遺伝医学) : 中等教育における『ヒトの遺伝』の導入に向けた取り組み. 日本遺伝カウンセリング学会 (第38回) (大阪), 2014. 6.

- 2) 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup>, 市石 博<sup>3)</sup>, 中村雅浩<sup>4)</sup>, 鈴木恵子<sup>5)</sup>, 白石直樹<sup>6)</sup>, 佐々木元子<sup>1, 2)</sup>, 櫻井晃洋<sup>2, 7)</sup> (1) 日本人類遺伝学会 教育推進委員会, 2) 日本遺伝カウンセリング学会 遺伝教育委員会, 3) 東京都立国分寺高等学校, 4) 成城学園中学校高等学校, 5) 法政大学女子高等学校, 6) 東京都立豊島高等学校, 7) 札幌医科大学医学部 遺伝医学) : 中等教育における『ヒトの遺伝』の導入に向けた取り組み. 日本人類遺伝学会 (第 59 回) (東京), 2014. 11.
- 3) Watanabe A<sup>1)</sup>, Naing B<sup>2)</sup>, Akutsu K<sup>3)</sup>, Shimada T, Okada T (1) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 分子解剖学, 3) 付属病院 循環器内科) : An intronic deleted mutation in the COL3A1 gene affecting exon skipping causing vascular Ehlers-Danlos syndrome. The 64th American Society of Human Genetics Annual Meeting (San Diego, CA), 2014. 10.
- 4) 鳥居千春<sup>1)</sup>, 武内俊樹<sup>2)</sup>, 渡邊 淳, 三宅秀彦<sup>3)</sup>, 小崎里華<sup>4)</sup>, 中林一彦<sup>5)</sup>, 秦健一郎<sup>1)</sup>, 小崎健次郎 (1) 慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター, 2) 慶應義塾大学医学部小児科学教室, 3) 京都大学医学部付属病院遺伝子診療部, 4) 国立成育医療研究センター遺伝診療科, 5) 国立成育医療研究センター周産期病態研究部) : 凍結保存臍帯により確定診断に至った家族性先天性水頭症. 小児遺伝学会 (第 37 回) (名古屋), 2014. 4.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Watanabe A<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>2)</sup>, Fujita A, Naing B, Orimo H, Shimada T<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 2) 青森県立中央病院) : Perinatal hypophosphatasia caused by uniparental isodisomy. Bone 2014 ; 60 : 93-97.
- 2) Sago H, Sekizawa A, Yamada T, Endo T, Hukushima A, Murotsuki J, Kamei Y, Nanba S, Yotsumoto J, Osada H, Kasai Y, Watanabe A<sup>1)</sup>, Katagiri Y, Takesita N, Ogawa M, et al. (1) 日本医科大学生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Nationwide demonstration project of next-generation sequencing of cell-free DNA in maternal plasma in Japan : 1-year experience. Prenat Diagn 2015 ; 35 (4) : 331-336.

## [付属病院心臓血管集中治療科]

### 研究概要

学会活動では、急性心不全、心筋梗塞、大動脈解離、心原性ショック、重症不整脈など循環器救急・集中治療に関する幅広いテーマで、AHA、ESC、日本心臓病学会、日本集中治療医学会と関連主要学会にて報告した。また、論文報告では、「IABP の離脱指標に NT-proBNP が有用であることを検討した” Usefulness of N-terminal pro-brain natriuretic peptide levels to predict success of weaning from intra-aortic balloon pumping” をはじめ、原著ならびに症例報告を行った。総説では、「救急・集中治療医のための心エコー」を循環器内科スタッフと共に執筆、編集に加わった。最近の活動の特徴として、東京都 CCU ネットワークのデータ解析報告が多くを占めているが、今後は基本に戻った自施設データの詳細解析、あるいは自施設主導の多施設研究を行っていききたい。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Akutsu K, Yoshino H<sup>1)</sup>, Tobaru T<sup>1)</sup>, Hagiya K<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Tanaka K, Koyama N<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Nagao K<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup> (1) Tokyo CCU Network Scientific Committee) : Clinical Similarities and Differences between Patients with Acute Type B Aortic Dissection with Communicating vs. Non-Communicating False Lumen : Analysis of 502 Patients from the Tokyo CCU-Network Database. Circ J 2015 ; 79 (3) : 567-573.
- 2) Amano Y<sup>1)</sup>, Kitamura M, Yamada F, Akita K, Takayama M<sup>2)</sup>, Tachi M, Kumita S (1) Department of Radiology, 2) Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Magnetic resonance imaging of microvascular obstruction in hypertrophic obstructive cardiomyopathy after percutaneous transluminal septal myocardial ablation. Acta Radiol. 2014 ; Epub.
- 3) Nakamura S, Takano H, Matsuda J, Chinen D, Kitamura M, Murai K, Asai K, Yasutake M, Takayama M<sup>1)</sup>, Shimizu W (1) Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute) : Prognostic values of highly sensitive cardiac troponin T and B-type natriuretic peptide for clinical features in hypertrophic obstructive cardiomyopathy : a cross-sectional study. BMJ Open. 2014 ; 17 (4) : e005968.
- 4) Amano Y<sup>1)</sup>, Takeda M, Tachi M, Kitamura M, Kumita S (1) Department of Radiology) : Myocardial fibrosis evaluated by Look-Locker and late gadolinium enhancement magnetic resonance imaging in apical hypertrophic cardiomyopathy : association with ventricular tachyarrhythmia and risk factors. J Magn Reson Imaging. 2014 ; 40 (2) : 407-412.
- 5) Miyachi H, Onozawa H<sup>1)</sup>, Akutsu K, Shimizu W<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Murata S (1) Department of Radiology/Center for Advanced

Medical Technology, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine) : Treatment of visceral malperfusion in acute type B aortic dissection by percutaneous endovascular fenestration using a stent, with additional stenting of the true lumen. J Nippon Med School 2014 ; 81 (5) : 340-345.

6) Tokita Y<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Sato N<sup>2)</sup>, Hosokawa Y, Munakata R<sup>3)</sup>, Akutsu K, Shimizu W<sup>1)</sup>, Tanaka K ( <sup>1)</sup> Division of Cardiovascular Medicine, <sup>2)</sup> Musashi-Kosugi Hospital, <sup>3)</sup> Chiba Hokusou Hospital) : Usefulness of N-Terminal Pro-Brain Natriuretic Peptide Levels to Predict Success of Weaning from Intra-Aortic Balloon Pumping. Am J Cardiol 2014 ; 114 (6) : 942-945.

7) 塩村玲子, 細川雄亮, 池田 健, 川中秀和, 国保成暁, 村田広茂, 北村光信, 宮地秀樹, 塚 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 清水 渉 : 腹部大動脈瘤破裂による出血性ショックに対してIABOカテーテルを挿入し緊急手術を施行した1例. ICUとCCU 2014 ; 38 : S119-S122.

#### (2) 総説 :

1) 塚 宏一 : 急性大動脈解離にどう対応するか, ICI・CCUにおける循環管理. Heart View 2014 ; 18 (13) : 83-88.

2) 山本 剛 : 急性呼吸不全. 救急・集中治療 2015 ; 27 (1・2) : 145-147.

3) 山本 剛 : クリティカルケアでの心臓超音波. 麻酔 2014 ; 63 (9) : 954-961.

#### 著 書

1) 塚 宏一 : [分担] 急性大動脈解離. 今日の臨床サポート改定第二版 (電子図書) (永井良三), 2015 ; エルセビア・ジャパン.

2) 山本 剛 : [編集] 救急・集中治療医のための心エコー - FOCUSに基づいた評価法をマスターする -, 2015 ; 総合医学社.

3) 山本 剛 : [分担] 1次救命処置 (basic life support : BLS). 集中治療専門医テキスト第2版, 2015 ; pp88-95, 総合医学社.

4) 山本 剛 : [分担] 肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症. 集中治療専門医テキスト第2版, 2015 ; pp625-634, 総合医学社.

5) 山本 剛, 清水 渉 : [分担] 肺性心. 呼吸器疾患診療最新ガイドライン (弦間昭彦), 2014 ; pp146-150, 総合医学社.

6) 山本 剛, 田中啓治 : [分担] 急性冠症候群の治療指針. 救急・集中治療最新ガイドライン 2014 - '15 (岡元和文), 2014 ; pp270-272, 総合医学社.

7) 吉眞 孝 : [分担] 左室不全. 救急・集中治療医のための心エコー (山本 剛), 2015 ; pp63-71, 総合医学社.

8) 松田淳也, 山本 剛, 竹田晋浩 : [分担] 心原性肺水腫. NPPV まるごとブック : この一冊でズバリ知りたい! とことん理解! (呼吸器ケア 2014年冬季増刊) (石原 英樹, 竹川 幸恵), 2014 ; pp92-95, メディカ出版.

#### 学会発表

##### (1) 特別講演 :

1) 塚 宏一 : 急性大動脈解離の臨床 (教育講演). 日本画像医学会 (第34回) (東京), 2015. 2.

##### (2) シンポジウム :

1) 山本 剛, 清水 渉 : 循環器医も「痛み・不穏・せん妄管理」に関心をもつべきである. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.

##### (3) パネルディスカッション :

1) 塚 宏一 : ガイドライン変更が急性B型大動脈解離に管理に与える影響. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第23回) (東京), 2014. 8.

2) 山本 剛 : 若年に起こるPTEの実態, 東京CCUネットワークおよび自施設データより. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第23回), 2014. 8.

##### (4) ポスター :

1) 北村光信, 藤本雄飛<sup>1)</sup>, 渋谷淳介<sup>1)</sup>, 松田淳也, 吉眞 孝, 宮地秀樹, 細川雄亮, 塚 宏一, 山本 剛, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 循環器内科) : 治療抵抗性循環不全を伴う閉塞性肥大型心筋症へのカテーテル治療・体外式ペースメーカー併用の臨床的意義. 日本集中治療医学会 (第42回) (東京), 2015. 2.

##### (5) 一般講演 :

1) Akutsu K, Tanaka K, Hagiya K, Tobaru T, Yoshino H, Koyama N, Shimokawa T, Tagusari O, Taketani T, Niino T, Yamamoto T, Nagano K, Takayama M : Tokyo CCU network Scientific Committee. The outcome of aortic disease was associated with patients transfer time. 東京CCU研究会 (第34回) (東京), 2014. 12.

2) 塚 宏一, 渡邊 淳, 清水 渉 : 血管型Ehlers-Danlos症候群に対するCeliprololの関連 event 抑制効果の検討. 日本脈管学会 (第55回) (倉敷), 2014. 10.

3) 塚 宏一, 北村光信, 宮地秀樹, 細川雄亮, 山本 剛, 清水 渉 : 超高齢者に対して急性A型大動脈解離を手術を施行しなかった場合の転帰は予想より良好 : 手術しないという選択肢の検討. 日本心臓病学会 (第62回) (仙台), 2014. 9.

4) 高木宏治<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 松田 潔<sup>2)</sup>, 竹田晋浩, 清水 渉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院, <sup>2)</sup>

武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 循環器内科): ECMO 管理中の理学療法が有効であった重症レジオネラ肺炎の1例. 日本集中治療医学会 (第42回) (東京), 2015. 2.

- 5) Hayashi H, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Hayashi M, Yodogawa K, Tsuboi I, Takahashi K, Oka E, Ito K, Shimizu W: Impact of Sinus Rhythm Maintenance by Catheter Ablation of Atrial Fibrillation on BNP Level in the Patient with Hypertrophic Cardiomyopathy. 日本不整脈学会 (第29回), 2014. 7.
  - 6) 林 洋史, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 坪井一平, 高橋健太, 伊藤かな子, 岡英一郎, 藤本雄飛, 清水 渉: 完全右脚ブロック症例に発生した左脚ブロック型脚間リエントリーの1例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2014, 2014. 11.
  - 7) 林 洋史, 村田広茂, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 清水 渉: 経口アミオダロン不耐症例に合併した電気的ストームに対する静注アミオダロンの安全性および有効性. アミオダロン研究会 (第19回), 2014. 9.
  - 8) 細川雄亮, 加藤浩司<sup>1)</sup>, 福泉 偉<sup>1)</sup>, 池田 健<sup>1)</sup>, 乾 恵輔<sup>1)</sup>, 久保田芳明<sup>1)</sup>, 川中秀和, 北村光信, 中村俊一<sup>1)</sup>, 宮地秀樹, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 高木 元, その他5名 (<sup>1)</sup> 循環器内科): ステンント留置を行わなかった calcified nodule による ST 上昇型心筋梗塞の1例. 日本心血管インターベンション治療学会 (第23回), 2014. 7.
  - 9) 平田晶子, 細川雄亮, 岡英一郎<sup>1)</sup>, 古瀬領人, 池田 健<sup>1)</sup>, 林 洋史, 杉田慎二<sup>2)</sup>, 川中秀和<sup>1)</sup>, 北村光信, 小林克也, 坪 宏一, 山本 健, 竹田普浩, 新田 隆<sup>2)</sup>, 清水 渉 (<sup>1)</sup> 循環器内科, <sup>2)</sup> 心臓血管外科): 冠動脈塞栓症を契機に診断され感染性心内膜炎に対し僧帽弁置換および冠動脈バイパス術を行うも, 梗塞後左室リモデリングが急速に進行した1例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第23回) (東京), 2014. 8.
  - 10) 細川雄亮, 山本 剛, 川中秀和<sup>1)</sup>, 北村光信, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮地秀樹, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 田中啓治, 清水 渉: 治療抵抗性の乏尿性心不全に対する持続的血液濾過透析の治療成績. 日本心臓病学会学術集会 (第62回), 2014. 9.
  - 11) 知念大悟<sup>1)</sup>, 細川雄亮, 池田 健<sup>1)</sup>, 平田晶子, 林 洋史, 北村光信, 宮地秀樹, 村井綱児<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 山本 剛, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 清水 渉 (<sup>1)</sup> 循環器内科): 拡張型心筋症による難治性心不全に対し125日間に渡る長期IABP管理を行い改善した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第234回), 2014. 12.
  - 12) 細川雄亮, 山本 剛, 長尾 建<sup>1)</sup>, 立花栄三<sup>1)</sup>, 高山忠輝<sup>1)</sup>, 清水 渉, 高山守正<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京都CCUネットワーク学術委員会): 急性心不全による心原性ショックの特徴と予後: 急性心筋梗塞による心原性ショックとの比較. 東京CCU研究会 (第34回) (東京), 2014. 12.
  - 13) 池田重人, 宮地秀樹, 池田 健, 吉真 孝, 北村光信, 細川雄亮, 坪 宏一, 山本 剛, 清水 渉: 急性心不全発症を契機に診断された薬剤性SIADHの1例. 日本内科学会関東地方会 (第606回), 2014. 6.
  - 1) Kitamura M, Takayama M<sup>1)</sup>, Shibuya J, Matsuda J, Yoshinaga A, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (<sup>1)</sup> Sakakibara Heart Institute, Cardiology): Combination of Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation and Active Temporary Pacing Successfully Salvaged from Hemodynamic Deterioration and Decompensated Heart Failure for Drug-Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Catheter Interventions in Congenital, Structural and Valvular Heart Disease 2014 (Frankfurt, Germany), 2014. 6.
  - 2) 山本 剛: 急性肺塞栓症の治療戦略. 日本肺高血圧学会・日本肺循環学会合同学術集会 (第2回・第3回), 2014. 10.
- (6) poster :
- 1) Kitamura M, Takayama M<sup>1)</sup>, Shibuya J, Matsuda J, Yoshinaga A, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (<sup>1)</sup> Sakakibara Heart Institute, Cardiology): Clinical Characteristics of the patients received Repeat Percutaneous Transluminal Septal Myocardial Ablation in Refractory Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Catheter Interventions in Congenital, Structural and Valvular Heart Disease 2014 (Frankfurt, Germany), 2014. 6.
  - 2) Kitamura M, Amano Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Shibuya J, Matsuda J, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (<sup>1)</sup> Department of Radiology, <sup>2)</sup> Cardiology, Sakakibara Heart Institute): Clinical characteristics and cardiac magnetic resonance for the patients received repeat percutaneous transluminal septal myocardial ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. European Society of Cardiology Congress 2014 (Barcelona, Spain), 2014. 9.
  - 3) Kitamura M, Amano Y<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Shibuya J, Matsuda J, Nakamura S, Takano H, Asai K, Shimizu W (<sup>1)</sup> Department of Radiology, <sup>2)</sup> Cardiology, Sakakibara Heart Institute): Clinical characteristics and cardiac magnetic resonance for the patients received repeat percutaneous transluminal septal myocardial ablation in refractory hypertrophic obstructive cardiomyopathy. American Heart Association Scientific Session 2014 (Dallas, USA), 2014. 11.
  - 4) Kitamura M, Takagi A<sup>1)</sup>, Miyauchi K<sup>1)</sup>, Yamasaki M<sup>1)</sup>, Tanaka H<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Yamashita J<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Shimizu W, Yamamoto T, Nagao K<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Tokyo CCU network scientific committee): The volume of percutaneous coronary intervention procedures was not associated with in-hospital mortality for ST-segment elevation myocardial infarction in Tokyo metropolitan area. European Society of Cardiology Congress 2014 (Barcelona, Spain), 2014. 9.

(7) ポスター・セッション：

- 1) 吉眞 孝, 古瀬領人, 鈴木啓士, 平田晶子, 北村光信, 宮地秀樹, 細川雄亮, 坪 宏一, 山本 剛, 清水 渉：2D Speckle Tracking Strain を用いた心尖部 ballooning を呈する急性期心エコー図の分析. 集中治療医学会総会 (第 42 回), 2015. 2.
- 2) Hosokawa Y, Yamamoto T, Nagao K<sup>1)</sup>, Tachibana E<sup>1)</sup>, Takayama T<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>2)</sup>, Takayama M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tokyo CCU network Scientific Committee, <sup>2)</sup> Division of Cardiology) : Initial characteristics and outcomes of cardiogenic shock due to acute heart failure in comparison with acute myocardial infarction. AHA 2014 ReSS (chicago,USA), 2014. 11.
- 3) 小野寺健太<sup>1)</sup>, 細川雄亮, 古瀬領人, 鈴木啓士, 林 洋史, 平田晶子, 吉眞 孝, 北村光信, 宮地秀樹, 坪 宏一, 山本 剛, 清水 渉 ( <sup>1)</sup> 循環器内科) : 発症後二週間で心破裂を来たした下壁梗塞の 1 例. 東京 CCU 研究会 (第 34 回) (東京), 2014. 12.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説：

- 1) 坪 宏一：緊急大動脈疾患（心血管外傷を含む）救急・集中治療医のための心エコーガイド. 救急・集中治療 2014；27（12）：124-130.

#### 追加分原著：

- 1) Fukuizumi A, Akutsu K, Yamamoto T, Shimizu W, Mizuno K, Tanaka K : Surgical Thrombectomy for Floating Right Heart Thrombi in a Patient with Acute Type A Aortic Dissection Complicated with Pulmonary Embolism. Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014；20：937-340.
- 2) Amano Y<sup>1)</sup>, Kitamura M, Tachi M, Takeda M, Mizuno K, Kumita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology) : Delayed enhancement magnetic resonance imaging in hypertrophic cardiomyopathy with Basal septal hypertrophy and preserved ejection fraction : relationship with ventricular tachyarrhythmia. J Comput Assist Tomogr. 2014；38（1）：67-71.

## 著書

### 追加分：

- 1) 宮地秀樹, 坪 宏一：[分担] 大動脈解離の治療における血圧管理について教えてください。目標血圧と降圧薬の選択と投与方法はどのようなものでしょうか？. 高血圧診療 Q & A (北風 政史), 2014；pp264-266, 中外医学社.

## [付属病院病理診断科・病理部]

### 研究概要

現在病理診断科、病理部スタッフ、病理専門医である専任病理医 8 名、細胞検査士 9 名含む技師 11 名、事務員 1 名に加え、病理学教室と協力しながら日常診断業務（病理組織診断、細胞診、剖検診断）を遂行している。今年度は経験豊かな専任病理医 2 名を迎え、さらに病理専門医を目指す若き人材も得られたことにより、診断及び研究の磐石な基盤ができつつあり、将来への展望も開けてきた。研究テーマは、主に日常業務や毎週開催の内部検討会などに取り上げられた症例などから見出されている。その他、定期的で開催されている乳腺科、内分泌外科、女性診療科、消化器外科、内科との合同カンファレンスでは、問題症例につき臨床医とディスカッションすることによって知識が深まり、臨床側も病理側も、より踏み込んだ発表や研究ができるようになってきている。研究対象臓器は、乳腺、膵臓、女性器、泌尿器、呼吸器など多岐に渡り、各種学会において病理学教室の医師や臨床医と共同で発表を行っている。その他、病理学会、臨床細胞学会などでも多くの発表と研究のサポートを行った。今後も、新たな人材も活かしつつ、継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ohashi R, Ishii H, Naito Z, Himizu A : Morphological spectrum of renal pathology and its correlation to clinical features in patients with disseminated intravascular coagulation : a study involving a series of 21 autopsy cases. Pathol Int. 2014；64（9）：443-452.
- 2) Ohashi R, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology) : Down-regulation of fibroblast growth factor receptor 2 and its isoforms correlates with a high proliferation rate and poor prognosis in high-grade glioma. Oncol Rep 2014；32（3）：1163-1169.
- 3) Narita K<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Seike M<sup>2)</sup>, Naito Z, Gemma A<sup>2)</sup>, Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, <sup>2)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology) : Nestin regulates proliferation, migration, invasion and stem-

ness of lung adenocarcinoma. *Int J Oncol* 2014 ; 44 (4) : 1118-1130.

- 4) Takayama R<sup>1)</sup>, Ansai S<sup>2)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>2)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Naito Z, Kawana S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, <sup>2)</sup> Department of Dermatology) : Expression of lumican in hidroacanthoma simplex and clonal-type seborrheic keratosis as a potent differential diagnostic marker. *Am J Dermatopathol* 2014 ; 36 (8) : 655-660.
- 5) Wada R, Yagihashi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology and Molecular Medicine, Graduate School of Medicine, Hirosaki University, Japan) : The Expression of Glucagon-Like Peptide-1 Receptor and Dipeptidyl Peptidase-IV in Neuroendocrine Neoplasms of the Pancreas and Gastrointestinal Tract. *Endocr Pathol* 2014 ; 25 (5) : 390-396.
- 6) Yajima N<sup>1)</sup>, Wada R, Matsuzaki Y<sup>1)</sup>, Yagihashi S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Hirosaki University School of Medicine) : DNA damage response and its clinicopathological relationship in appendiceal tumors. *Int J Colorectal Dis* 2014 ; 29 (3) : 1349-1354.
- 7) Higo S<sup>2)</sup>, Shimizu A, Masuda Y<sup>2)</sup>, Nagasaka S<sup>2)</sup>, Kajimoto Y<sup>2)</sup>, Kanzaki G<sup>1)</sup>, Fukui M<sup>1)</sup>, Nagahama K<sup>2)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Tsuruoka S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, <sup>2)</sup> Analytic Human Pathology) : Acute Graft-Versus-Host disease of the kidney in allogeneic rat bone marrow transplantation. *PLoS One* 2014 ; 9 (12) : e115399.

(2) 総説 :

- 1) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 付属病院 腎臓内科) : 特集 : TTP/HUS/aHUS TMA (HUS/TTP を含む) の病理組織 *Renal pathology of thrombotic microangiopathy*. *日腎会誌* 2014 ; 56 (7) : 1031-1042.
- 2) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 付属病院 腎臓内科) : 特集 : AKI 診療の進歩 組織病理診断. *腎と透析* 2014 ; 76 (4) : 508-514.
- 3) 長濱清隆<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 解析人体病理) : Cardio-Renal Diabetes. *糖尿病性腎症カラーアトラス* 2014 ; 3 (3) : 4-7.
- 4) 神崎 剛<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 解析人体病理) : 腎のたまり病 アミロイド以外の蛋白由来物質が蓄積する疾患 軽鎖沈着症・重鎖沈着症の診断と最新の進歩. *腎と透析* 2014 ; 77 (2) : 171-178.
- 5) 長濱清隆<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 解析人体病理) : 特集 : 腎臓にとっての脂質とは何なのだろう 脂質異常に伴う腎の組織変化. *腎と透析* 2014 ; 77 (3) : 315-320.
- 6) 神崎 剛<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 解析人体病理) : 腎移植にかかわる医療従事者の役割と最新の知識 医療従事者の役割 病理医の役割. *腎と透析* 2015 ; 78 (1) : 35-38.
- 7) 長濱清隆<sup>1)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 解析人体病理) : 新たな腎臓病の知識・治療 最新の知識 膜性腎症の最新の知識 (PLA2R). *成人病と生活習慣病* 2015 ; 45 (1) : 42-46.

(3) 症例報告 :

- 1) Matsuda Y<sup>1)</sup>, Yoshimura H<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Murai K<sup>3)</sup>, Honma H<sup>3)</sup>, Ohashi R, Naito Z ( <sup>1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, <sup>2)</sup> Analytic Human Pathology, <sup>3)</sup> Cardiovascular Internal Medicine) : Aortic squamous metaplasia in a patient with aortoesophageal fistula secondary to thoracic aortic aneurysm : an autopsy case. *Pathol Int* 2014 ; 64 (4) : 173-177.
- 2) Ohno D<sup>1)</sup>, Sakai Y<sup>1)</sup>, Suuki A<sup>1)</sup>, Mugishima K<sup>1)</sup>, Sumi Y<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Shimizu, Tsuruoka S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology, and Rheumatology) : Dense deposit disease in an elderly patient : report of a case. *J Nippon Med Sch*. 2014 ; 81 (3) : 120-121.
- 3) Hoshino A<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>2)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Ishii H, Satoh S<sup>1)</sup>, Oba H<sup>3)</sup>, Sibuya T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Institute of Gastroenterology, NMS, Musashi kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterology Surgery, NMS, <sup>3)</sup> Surgery Sayama chuo Hospital) : A Case of Nonfunctioning Pancreatic Endocrine Tumor with Atypical Imaging Findings due to Prominent Fibrosis of the Tumor Stroma. *J Nippon Med sch* 2014 ; 81 (5) : 346-352.
- 4) Okamoto J<sup>1)</sup>, Kubokura H<sup>1)</sup>, Motoda N<sup>2)</sup>, Hoshina H<sup>1)</sup>, Ishi H, Kitayama Y<sup>2)</sup>, Usuda J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Thoracic Surgery, NMS, <sup>2)</sup> Department pathology, NMS, Musashi kosugi Hospital) : Local Recurrence of Lung Adenocarcinoma 10 Years after Left Upper Lobectomy Resembling Pseudomesotheliomatous Adenocarcinoma : A case Report. *J Nippon Med Sch* 2014 ; 81 (3) : 173-178.
- 5) 真山大輔<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 山口祐司<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>2)</sup>, 石井英昭, 及川真一<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 糖尿病・内分泌代謝内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : ミトコンドリア糖尿病の1例. *日医大医会誌* 2014 ; 10 (4) : 162-165.

著 書

- 1) Shimizu A, Kanzaki G : [分担] *Xenotransplantation.. Pathobiology of Human Disease* (Linda M, McManus, Richard N. Mitchell), 2014 ; pp665-675, Elsevier..

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 土井大祐<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 松原美幸, 渡會泰彦, 大橋隆治：SY10-1 AGC 総論：臨床的事項. 日本臨床細胞学会総会 (55 回) (横浜), 2014. 6.
- 2) 松原美幸, 功刀しのぶ, 大橋隆治, 川本雅司<sup>1)</sup> (1) 帝京大学医学部附属溝口病院臨床病理科)：非腫瘍性呼吸器疾患の細胞診：炎症性疾患を中心として. 日本臨床細胞学会 (55 回) (横浜), 2014. 6.

### (2) 一般講演：

- 1) 齋藤良明, 松原美幸, 大橋隆治, 石井英昭, 呉 壮香<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (1) 日本医科大学大学院統御機構診断病理学)：ENBD にて推定し得た腭頭部悪性リンパ腫の 1 例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (53 回) (下関), 2014. 11.
- 2) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 三菱化学メデイエンス)：乳腺 Solid papillary carcinoma の 2 症例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (53 回) (下関), 2014. 11.
- 3) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 三菱化学メデイエンス)：子宮頸部細胞診にて再発が推定された悪性リンパ腫の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (55 回) (横浜), 2014. 6.
- 4) 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 高屋 茜<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 彭 為霞, 内藤善哉 (1) 日本医科大学付属病院産婦人科)：Peutz-jeghers 症候群合併若年女性に発症した子宮頸部腺癌の 1 例. 日本臨床細胞学会総会 (55 回) (横浜), 2014. 6.
- 5) 葉山綾子, 大橋隆治, 松原美幸, 渡會泰彦, 石井英昭, 土屋眞一<sup>1)</sup> (1) 社会医療法人飯田病院病理診断科)：乳腺領域から発生した ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫の細胞・組織像. 日本臨床細胞学会総会 (55 回) (横浜), 2014. 6.
- 6) 大橋隆治, 松原美幸, 渡會泰彦, 石井英昭, 土屋眞一<sup>1)</sup> (1) 社会医療法人飯田病院病理診断科)：当院における乳腺症型線維腺腫の細胞組織像の検討. 日本臨床細胞学会 (55 回) (横浜), 2014. 6.
- 7) 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 平田知己<sup>2)</sup>, 竹内千枝<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 同呼吸器外科, 3) LSI メデイエンス, 4) 新百合ヶ丘総合病院)：高感度検出系試薬を用いた肺癌における ALK 免疫染色の検討. 日本医科大学医学会総会 (82 回) (東京), 2014. 9.
- 8) 庄司 昂<sup>1)</sup>, 永坂真也<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 解析人体病理学)：PPAR $\gamma$  アゴニストによるマクロファージのインフラソーム活性化抑制効果の検討. 日本医科大学医学会総会 (82 回) (東京), 2014. 9.
- 9) 神崎 剛<sup>1)</sup>, 永坂真也<sup>1)</sup>, 梶本雄介<sup>1)</sup>, 肥後清一郎<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 解析人体病理学)：MPO-ANCA 関連血管炎モデルにおける糸球体腎炎の増悪機序. 日本医科大学医学会総会 (82 回) (東京), 2014. 9.
- 10) 梶本雄介<sup>1)</sup>, 肥後清一郎<sup>1)</sup>, 神崎 剛<sup>1)</sup>, 永坂真也<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 清水 章 (1) 解析人体病理学)：非薄基底膜病の臨床病理学的特徴. 日本医科大学医学会総会 (82 回) (東京), 2014. 9.
- 11) 柳田裕美<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 新井 悟<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup>, 内藤善哉 (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 同 女性診療科・産科, 3) LSI メデイエンス, 4) 新百合ヶ丘総合病院)：悪性リンパ腫の再発を子宮頸管細胞診にて推定し得た 1 例. 日本医科大学医学会総会 (82 回) (東京), 2014. 9.
- 12) 内山美穂子<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 加藤雅彦<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 寺崎美佳<sup>2)</sup>, 彭 為霞, 石井英昭, 大橋隆治, 内藤善哉, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院産婦人科, 2) 日本医科大学解析人体病理学)：偶発的に発見された子宮頸部中腎管腺癌の 1 例. 関東連合産婦人科学会 (128 回) (松本), 2014. 10.
- 13) 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 新福魔弓<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤ひとみ<sup>1)</sup>, 丸木雄太<sup>1)</sup>, 山脇博士<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 大橋隆治, その他 2 名 (1) 日本医科大学消化器肝臓内科)：食道癌組織における Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (AP-1) 発現の解析 STAT3 を介した VEGF 産生. 日本消化器病学会総会 (100 回) (東京), 2014. 4.
- 14) 三枝英人<sup>1)</sup>, 山口 智<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 永積 渉<sup>1)</sup>, 伊藤裕之<sup>1)</sup>, 大橋隆治 (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)：高齢者男性に発症する輪状咽頭筋に限局したミオパチーによる嚥下障害 その臨床的特徴と経過について. 日本嚥下医学会総会 (37 回) (東京), 2014. 9.
- 15) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 岩本美樹<sup>1)</sup>, 飯田伸也<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 谷 瞳<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 大橋隆治, 土屋眞一, 武井寛之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 乳腺外科)：当院における転移性乳癌に対するペバシズマブとパクリタキセルの併用療法の検討. 日本乳癌学会総会 (22 回) (大阪), 2014. 7.
- 16) 長岡竜太<sup>1)</sup>, 軸蘭智雄<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 杉谷 巖<sup>1)</sup>, 大橋隆治, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科)：高カルシウム血症クリーゼを来した緊急手術となった副甲状腺腺癌の 1 例. 日本内分泌外科学会 (26 回) (名古屋), 2014. 4.



## [付属病院臨床検査部]

### 研究概要

当院は特定機能病院として登録されています。特定機能病院とは専門性に特化した高度な医療を行う機関の事であり、高度な医療に対応する為の検査を行うには、その基礎に正しく遂行された精度管理があり、その結果データの正確性・精密性・信頼性が保持され更に迅速性が伴う事が不可欠であると思います。これらの測定結果により医師は患者の病態を把握し、病気の早期発見、早期治療に役立っています。採血に於いても昨年（2014年）の8月から新病院開院と共に、中央採血室・1階採血室に外来採血を集中化し、両採血室を10分おきのラウンドにより検体を回収し迅速凝固剤の使用により検査室に到着した時には直ぐに遠心分離操作が開始出来る状態となり、その血清を大型の自動分析装置で測定し30分から40分程度で大半の検査結果が報告され、再検査があるものでも60分程度で臨床側に結果を提供しています。また、これらの検査を行うには検査システムの効率化や合理化が必要不可欠であり、その基礎には今回発表された検査の基礎的検討が重要となるのは言うまでもありません。また、特殊な菌種や耐性菌の検出があった場合、直ぐに感染制御部と協力してベットコントロール等を行い、アウトブレイクの阻止や耐性菌の削減又は管理を協力して行っています。また、POCT血糖測定器のラウンドによる精度管理を行い患者さんの血糖データを安定的に正確に測定出来る様になり臨床側・患者さんに喜ばれています。更に、救急外来対応として超緊急O型赤血球輸血や血中ガス分析・アルコール濃度等の薬物検査と広範囲に検査がおよび、これもこれらの学術検討を重ねてきた結果の賜物で検査項目の拡充がなされたためと考えます。今後も更なる努力を重ね業務拡充を図り、臨床側及び患者さんにとって価値ある臨床検査部として情報を発信し続ける事が大切と考えています。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 影山憲貴<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：血液ガス分析における検体攪拌の妥当性について：CLSIガイドラインに基づいて。日臨救急医学会誌 (JJSEM) 2014；VOL.17 (No.4)：509-514.

#### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：救急検査技師認定制度について。私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (第32回) (東京都), 2014. 11.

(2) セミナー：

- 1) 柴田泰史<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：救急医療における血液ガス分析と代謝項目同時測定 - その意義と解釈の実際、いっしょに学びませんか…。日本臨床検査自動化学会 (第46回) (兵庫県神戸市), 2014. 11.
- 2) 三橋 太<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院臨床検査部)：生物を利用した治療法の最近の話題。生物試料分析科学会関東支部学術集会 (第13回) (東京都), 2014. 6.

(3) 一般講演：

- 1) 園部一成<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>2)</sup>, 望月 徹<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院感染制御部, 3) 日本医科大学小杉病院感染制御部)：Flavimonas oryzihabitansによる菌血症の2例。日本感染症学会学術講演会 (第88回) 日本化学療法学会総会 (第62回) 合同学会 (福岡県), 2014. 6.
- 2) 田代彩香<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>1)</sup>, 小嶋佳子<sup>1)</sup>, 渡部明子<sup>1)</sup>, 篠山明宏<sup>1)</sup>, 武井玲子<sup>1)</sup>, 中村祐三<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：血液培養からPseudomonas oryzihabitansを繰り返し分離した2症例。東京都医学検査学会 (第10回) (東京都), 2014. 11.
- 3) 大川咲奈<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>1)</sup>, 田代彩香<sup>1)</sup>, 小嶋佳子<sup>1)</sup>, 武井玲子<sup>1)</sup>, 中村祐三<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院 感染制御部)：Nocardia属分離におけるWYOα寒天培地とMWY寒天培地の検出感度の比較検討。日本臨床微生物学会総会・学術集会 (第26回) (東京都), 2015. 1.
- 4) 杉本諒司<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 中村祐三<sup>1)</sup>, 福田節子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：可溶性フィブリンモノマー複合体測定試薬「ナノピアSF」の基礎的検討と有用性。日本医学検査学会 (第63回) (新潟県), 2014. 5.
- 5) 杉本諒司<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 中村祐三<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：呼吸不全を主訴に救急搬送されSF高値を示した1例。東京都医学検査学会 (第10回) (東京都), 2014. 11.
- 6) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：血中クレアチニン測定装置「スタットセンサーエクスプレスiクレアチニン」の有用性。日本臨床検査自動化学会 (第46回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
- 7) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院

- 臨床検査部)：血液ガス分析用シリンジ safePICO の有用性. 日本医学検査学会 (第 63 回) (新潟県), 2014. 5.
- 8) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：血液ガス迅速測定における動脈血サンプラー safe PICO Aspirator の評価. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 61 回) (福岡県), 2014. 11.
  - 9) 小川早恵子<sup>1,2)</sup>, 寺田 紀<sup>1,2)</sup>, 下津瑠美<sup>1,2)</sup>, 園部晴代<sup>1,2)</sup>, 植田貴子<sup>1,2)</sup>, 亀山澄子<sup>1,2)</sup>, 福田高久<sup>1,2)</sup>, 橋本政子<sup>1,2)</sup>, 飯野幸永<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院輸血部, 2) 日本医科大学付属病院臨床検査部)：当院における超緊急 O 型赤血球輸血の現状. 日本輸血・細胞治療学会総会～EBM に基づく輸血・細胞治療～(第 62 回) (奈良県), 2014. 5.
  - 10) 植田貴子<sup>1,2)</sup>, 寺田 紀<sup>1,2)</sup>, 下津瑠美<sup>1,2)</sup>, 園部晴代<sup>1,2)</sup>, 小早川恵子<sup>1,2)</sup>, 亀山澄子<sup>1,2)</sup>, 福田高久<sup>1,2)</sup>, 橋本政子<sup>1,2)</sup>, 飯野幸永<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院輸血部, 2) 日本医科大学付属病院臨床検査部)：緊急 O 型輸血後検体の血液型検査において試験管法と AutoVue の結果に差を認めた症例. 日本輸血・細胞治療学会総会～EBM に基づく輸血・細胞治療～(第 62 回) (奈良県), 2014. 5.
  - 11) 山下純一<sup>1)</sup>, 村山智美<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：汎用自動分析装置測定試薬ナノピア eTDM メトトレキサートの基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
  - 12) 山下純一<sup>1)</sup>, 村山智美<sup>1)</sup>, 鳴海武長<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：アルコール測定試薬の安定性の検証. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 61 回) (福岡県), 2014. 5.
  - 13) 山下純一<sup>1)</sup>, 村山智美<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：血中アルコール濃度測定試薬の基礎的検討. 東京都医学検査学会 (第 10 回) (東京都), 2014. 11.
  - 14) 村山智美<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：2 価フェノール類薬剤の影響を軽減した汎用自動分析装置測定試薬シグナスオート CRE の基礎的検討. 私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (第 32 回) (東京都), 2014. 10.
  - 15) 佐藤美里<sup>1)</sup>, 影山憲貴<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：全自動尿中有形成分分析装置 USCANNER (E) の検討. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
  - 16) 中島 愛<sup>1)</sup>, 橋本政子<sup>1)</sup>, 佐々木香織<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：全自動免疫測定装置 AIA-2000 による『E テスト「TOSOH」II (PIVKA-II)』の基礎的検討と有用性. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
  - 17) 佐々木香織<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 岩崎由美<sup>2)</sup>, 中島 愛<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 橋本政子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 2) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科・ゲノム先端医療部)：UGT1A1 遺伝子多型検査解析の検査部導入への試み. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
  - 18) 鳴海武長<sup>1)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：POCT 血糖測定機導入における臨床検査部および POC コーディネーターの役割. 東京都医学検査学会 (第 10 回) (東京都), 2014. 11.
  - 19) 鳴海武長<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：POCT 血糖測定機ワンタッチベリオプロ プラスの基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (兵庫県神戸市), 2014. 10.
  - 20) 鳴海武長<sup>1)</sup>, 三橋 太<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 山下純一<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 臨床検査部)：『血糖測定機』の管理運用におけるサポート体制の構築と臨床検査技師の役割. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 61 回) (福岡県), 2014. 11.
  - 21) 根井貴仁<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>2)</sup>, 望月 徹<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 感染制御部, 2) 日本医科大学付属病院 臨床検査部, 3) 日本医科大学小杉病院 感染制御部)：非プラスミド型 AmpC  $\beta$ -lactamase 産生菌の第 3,4 世代セファロsporin 系抗菌薬の耐性化に関して. 日本感染症学会 (第 88 回) 日本化学 (療第 88 回) 法学会 (福岡県), 2014. 6.
  - 22) 渡邊有起子<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 桐木園子<sup>3)</sup>, 菅野仁士<sup>4)</sup>, 永積 渉<sup>5, 6)</sup>, 酒井良子<sup>7)</sup>, 杉山理恵<sup>8)</sup>, 日ノ澤進一郎<sup>9)</sup>, 杉山未緒<sup>1)</sup>, 鈴木唯美<sup>1)</sup>, 本城和義<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 4) 日本医科大学付属病院消化器外科, 5) 日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 6) 日本医科大学付属病院言語聴覚士, 7) 日本医科大学付属病院栄養科, 8) 日本医科大学付属病院看護部, 9) 日本医科大学付属病院臨床検査部)：NST 介入によりジゴキシン中毒の診断に至った 1 例. 日本静脈経腸栄養学会学術集会 (第 30 回) (兵庫県神戸市), 2015. 2.

## [付属病院薬剤部]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 田中弘人<sup>1,2)</sup>, 光永修<sup>3,4)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 小林美沙樹<sup>2)</sup>, 奥山浩之<sup>3)</sup>, 高橋秀明<sup>3)</sup>, 大野 泉<sup>3)</sup>, 清水 怜<sup>3)</sup>, 坂本康成<sup>5)</sup>, 近藤俊輔<sup>5)</sup>, 森実千種<sup>5)</sup>, 上野秀樹<sup>5)</sup>, 奥坂拓志<sup>5)</sup>, 落合淳志<sup>4)</sup>, 池田公史<sup>3)</sup>, その他2名 (1) 日本医科大学付属病院・薬剤部, 2) 国立がん研究センター東病院・薬剤部, 3) 国立がん研究センター東病院・肝胆膵内科, 4) 国立がん研究センター東病院・臨床開発センター・臨床腫瘍病理分野, 5) 国立がん研究センター中央病院・肝胆膵内科): ゲムシタビン耐性進行膀胱癌における S-1 療法の投与スケジュールに影響される治療成績の検討. 癌と化学療法 2015; 42 (3): 313-317.

##### (2) 総説：

- 1) 森 洵子: 消毒薬の特性とその適応: 消毒薬を正しく使うために. 小児科 2015; 第56巻 (第2号): 169-178.
- 2) 鈴木 藍<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部): がん医療と緩和ケア (6): 抗がん剤の薬物動態と薬力学について〜エルロチニブを例として〜. 日本医科大学医学会雑誌 2015; 11 (1): 12-15.

#### 著書

- 1) 岸田悦子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): [編集協力] この患者・この症例にいちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド1, 2014; じほう.
- 2) 岸田悦子<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部, 2) 日本医科大学付属病院泌尿器科): [分担] 分子標的治療薬マスターガイド (弦間昭彦), 2014; pp74-89, 中外医学社.
- 3) 岸田悦子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): [自著] pharmatribune 9月号 薬の個性がみえる新薬解説 サビーン® 静注用500mg, 2014; メディカルトリビューン.
- 4) 輪湖哲也, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科): [共著] 分子標的と薬剤 EGFR ゲフィチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp34-45, 中外医学社.
- 5) 輪湖哲也, 弦間昭彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科): [共著] 分子標的と薬剤 EGFR エルロチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp46-57, 中外医学社.
- 6) 輪湖哲也, 久保田馨<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院呼吸器内科): [共著] 分子標的と薬剤 ALK クリゾチニブ. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp65-73, 中外医学社.
- 7) 輪湖哲也, 檀 和夫<sup>1)</sup> (1) 了徳寺大学健康科学部医学教育センター): [共著] 分子標的と薬剤 VEGF など血管新生阻害サリドマイド. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp151-157, 中外医学社.
- 8) 輪湖哲也, 檀 和夫<sup>1)</sup> (1) 了徳寺大学健康科学部医学教育センター): [共著] 分子標的と薬剤 VEGF など血管新生阻害レナリドミド. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp158-166, 中外医学社.
- 9) 輪湖哲也, 檀 和夫<sup>1)</sup> (1) 了徳寺大学健康科学部医学教育センター): [共著] 分子標的と薬剤 DNA メチル基転換酵素 アザシチジン. 分子標的治療薬マスターガイド, 2014; pp182-190, 中外医学社.
- 10) 輪湖哲也: [分担] 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs). この患者・この症例にいちばん適切な薬剤が選べる同効薬比較ガイド1, 2014; pp101-118, じほう.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 加藤あゆみ: フェンタニルクエン酸塩舌下錠を安全に運用するための緩和ケアチームの取り組み. 日本緩和医療薬学会年会シンポジウム (第8回) (愛媛), 2014. 10.

##### (2) 一般講演：

- 1) 稲毛俊介<sup>1)</sup>, 畝本賜男<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 2) 日本医科大学 大学院医学研究科救急医学分野): 高度救命救急センターにおける重症部門システムを応用した薬物適正使用への取り組み. 臨床救急医学会 (栃木県), 2014. 5.
- 2) 萩原 研<sup>1)</sup>, 大坂奈央子<sup>1)</sup>, 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 日本医科大学付属病院における外来院外処方的一般名処方運用方法と実態調査. 日本医科大学医学会総会 (東京都文京区), 2014. 9.
- 3) 今岡楓太<sup>1)</sup>, 矢島 領<sup>2)</sup>, 輪湖哲也<sup>2)</sup>, 黒田裕子<sup>1)</sup>, 松元一明<sup>1)</sup>, 木津純子<sup>1)</sup> (1) 慶應義塾大学 薬学部 実務薬学講座, 2) 日本医科大学付属病院 薬剤部): 院内製剤レバミピド内用液剤の安定性と味覚試験. 日本薬学会 (第135回) (神戸), 2015. 3.

- 4) 片山志郎：フィリピン共和国における台風被害に対する国際緊急援助隊医療チーム参加報告. 日本災害医療薬剤師学会学術大会（第3回）（東京），2014. 9.
- 5) 加藤あゆみ，片山志郎：フィリピン台風被害への支援活動から学ぶ，国内災害医療支援への薬剤師の関わり. 日本医療薬学会年会（第24回）（愛知），2014. 9.
- 6) 鈴木 藍<sup>1)</sup>，中村博子<sup>1)</sup>，長谷 綾<sup>1)</sup>，輪湖理絵<sup>1)</sup>，加藤あゆみ<sup>1)</sup>，池田征史<sup>2)</sup>，鈴木規仁<sup>3)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 看護部，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 緩和ケア科）：オキシコドン注へのオピオイドローテーションが有効であった2例. 日本緩和医療薬学会（第8回）（愛媛県県民文化会館（愛媛県）），2014. 10.
- 7) 岡田 慧<sup>1)</sup>，矢島 領<sup>1)</sup>，伊勢雄也<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院）：薬剤マスター登録支援システム導入における薬剤師業務の効率化. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第44回）（大宮），2014. 8.
- 8) 岡田 慧<sup>1)</sup>，矢島 領<sup>1)</sup>，伊勢雄也<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院）：薬剤マスター登録支援システム導入における薬剤師業務の効率化. 日本医科大学医学学会総会（東京都文京区），2014. 9.
- 9) 岡田 慧<sup>1)</sup>，杉山未緒<sup>1)</sup>，小松友梨香<sup>1)</sup>，渡邊友佳<sup>1)</sup>，飯田謙司<sup>1)</sup>，稲毛俊介<sup>1)</sup>，片山志郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部）：アレルギーを有する手術患者への薬剤師の関与. 日本薬学会第135年会（神戸），2015. 3.
- 10) 輪湖哲也<sup>1)</sup>，岸田悦子<sup>1)</sup>，百瀬未来，片山志郎，久保田馨<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 化学療法科）：外来化学療法における薬剤師の業務発展に向けて：疑義照会内容の再評価から. クリニカルファーマシーシンポジウム（第22回）/医療薬学フォーラム2014/（東京），2014. 6.

## 〔付属病院生理機能センター〕

### 研究概要

当センターでは，大学病院の使命である「臨床（検査）・研究・教育」の基本的な3本柱を軸に日々研鑽に励んでいる。特に「研究」は日常業務の延長線上である，と捉え生体情報から得られたデータの解析や症例報告を学会発表等につなげている。それを日常業務にフィードバックさせ，これがさらにスタッフの「教育」にもつながっていくという好循環を生み出している。このように，忙しい中にも楽しく，ときに厳しくスタッフ一丸となって切磋琢磨している。今年度は新棟への移転準備を最優先にしたため活動内容としては物足りないものとなってしまったが，その中でも日本心臓病学会において，Medical staff Award 賞受賞という輝かしい実績を残すことができた。来年度も期待したい。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 佐藤淳子，八島正明<sup>1)</sup>，加藤政利，菅谷寿理，飯野幸永，林 洋史<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，岩崎雄樹<sup>1)</sup>，林 明聡<sup>1)</sup>，宮内靖史<sup>1)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：貸出期間2週間のループ式イベントレコーダー検査における患者説明の重要性. 日本医科大学医学学会総会（第82回）（東京都文京区），2014. 9.
- 2) 加藤政利，福間長知<sup>1)</sup>，菅谷寿理，会田智弘，飯野幸永，高圓雅博<sup>1)</sup>，加藤和代<sup>1)</sup>，加藤祐子<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：心筋梗塞例における心肺運動負荷試験（CPX）指標と呼吸機能指標との関連. 日本医科大学医学学会総会（第82回）（東京都文京区），2014. 9.
- 3) 加藤政利，福間長知<sup>1)</sup>，菅谷寿理，会田智弘，吉田由紀子，加藤和代<sup>1)</sup>，高圓雅博<sup>1)</sup>，飯野幸永<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：心筋梗塞後患者における閉塞性呼吸機能障害と心肺運動負荷試験呼気延長との関係. 日本心臓リハビリテーション学会（第20回）（京都），2014. 7.
- 4) 吉永 綾<sup>1)</sup>，谷田篤志<sup>1)</sup>，合田浩紀<sup>1)</sup>，古瀬領人<sup>1)</sup>，小野寺健太<sup>1)</sup>，吉川雅智<sup>1)</sup>，横島友子<sup>1)</sup>，塚田弥生<sup>1)</sup>，松崎つや子，本間 博<sup>1)</sup>，新田 隆<sup>2)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門），<sup>2)</sup> 心臓血管外科学）：心不全に徐脈頻脈症候群を合併し経食道心エコーで心房筋肥大を認めた1例. 日本心エコー図学会（第25回）（石川県金沢市），2014. 4.
- 5) 佐藤丞子<sup>1)</sup>，吉川雅智<sup>1)</sup>，松崎つや子，吉永 綾<sup>1)</sup>，淀川顕司<sup>1)</sup>，横島友子<sup>1)</sup>，大野忠明<sup>1)</sup>，本間 博<sup>1)</sup>，清水 渉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：カテーテルアブレーション前に偶然見つかった先天性左心耳欠損の1例. 日本超音波医学会学術集会（第87回）（神奈川県横浜市），2014. 5.

## 〔付属病院看護部〕

### 研究概要

付属病院看護部ではアクションプランによる病院移転という一大事業があり，非常に困難な状況ではあったが，様々な看護専門領域で

の研究に取り組んだ。ここでは今年度4病院研修「臨床における看護研究の取り組み」で実施された研究について表題を紹介する。内科系領域では「糖尿病教育入院が療養生活にもたらす影響：再入院に至る患者と至らない患者の比較」, 「非がん看護領域の看護師の医療用麻薬使用に関する傾向と認識」, 外科系領域では「胸部大動脈瘤開胸術後のせん妄遷延化と発症要因の関連性」, 重症集中領域では「覚醒下のVVECMO管理における成人患者の内的経験」, 救命救急領域では「救命救急センターに勤務する看護師の手指衛生行動に影響を及ぼす要因の明確化」, 周手術領域では「ロボット支援腹腔鏡手術を受ける患者が抱く手術へのイメージ」の6演題であった。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 木野毅彦：2. 救急ナースになる前に「これだけは！」身につけたい必須ナレッジ⑦緊急時の薬剤投与. *Emergency Care* 2014；27(4)：53-58.
- 2) 内海清乃：第9回避難所における災害看護（ひろがる災害医療と看護 身につけるべき知識とスキル）. *看護教育* 2014；55(6)：500-506.
- 3) 榊 由里：ICUの終末期ケア Theme2-1（症例）患者の状況が受け入れられず感情的になっている家族. *呼吸器ケア* 2014；12(5)：74-77.

#### (2) インタビュー記事：

- 1) 細萱順一：The Artist. *看護技術* 2015；61(1)：1-3.

#### (3) 看護師シリーズ：

- 1) 安部節美, 小栗智美：退院支援における病棟看護師の退院支援プロセスの変化について. *日本医科大学医学会雑誌* 2015；11(1)：37-40.

### 著書

- 1) 細萱順一：〔分担〕第4章治療とケア 周手術期管理. *ナーシングケア Q & A*（宇都宮明美），2014；pp186-190. 総合医学社.
- 2) 古山景子：〔分担〕第II部応用編 第5章フォローアップ・サポート体制の確立. *糖尿病ベストプラクティス インスリン療法*（一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会），2014；pp118-123. 日本看護協会出版会.
- 3) 内海清乃：〔分担〕2. 初期外傷療と看護の役割 7) 患者および家族への対応. 改訂第3版 *外傷初期看護ガイドライン JNTEC*（一般社団法人日本救急看護学会），2014；pp26-28. ヘルス出版.
- 4) 山崎直人：〔分担〕V. 外傷患者に対する基本的処置と対応 10. 外傷部位に応じた初期対応と基本的処置. 改訂第3版 *外傷初期看護ガイドライン JNTEC*（一般社団法人日本救急看護学会），2014；pp223-226. へるす出版.
- 5) 斉藤徳子：〔共著〕III. 外傷初期病態の診断・治療 13. 外傷初期診療の実際. 改訂第3版 *外傷初期看護ガイドライン JNTEC*（一般社団法人日本救急看護学会），2014；pp104-104. へるす出版.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 澤真莉奈：新人看護師として就職してからこれまでの経過の中での成長と葛藤. *日本クリティカルケア看護学会（第10回）*（愛知），2014. 5.

#### (2) ポスター：

- 1) 山本まゆみ, 齋藤智子：大学病院の病棟で行われている退院支援, 退院調整の実態. *日本看護学会：在宅看護（第45回）*（山形），2014. 10.
- 2) 高橋聡子, 志村知子, 草谷和代, 内海清乃, 榊 由里, 佐藤憲明：当院における Doctor Ambulance 同乗看護師育成プログラムの開発. *日本外傷学会（第28回）*（東京），2014. 6.
- 3) 中野千草, 内藤明子：慢性心不全の高齢患者が語る「病気と共に生きること」：病みの軌跡の理論を用いた考察. *日本看護学会慢性期看護学術集会（第45回）*（徳島），2014. 9.

#### (3) 一般講演：

- 1) 榎本 茜, 佐藤憲明, 榊 由里, 黒田裕子<sup>1)</sup>, 福田和明<sup>1)</sup>, 樽松久美子<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 北里大学看護学部, <sup>2)</sup> 北里大学病院救命救急センター）：救命救急センターにおける DNAR 患者の家族援助に対する看護師の認識. *日本看護研究学会学術集会（第40回）*（奈良），2014. 8.
- 2) 山崎直人, 室岡 晃, 佐藤憲明：CPF 値を指標とした人工呼吸器管理患者の再挿管予防への検討. *日本救急看護学会（第16回）*（大阪），2014. 10.
- 3) 笠間秀一：薬剤耐性菌感染を起こした重症熱傷患者の hydrotherapy における多職種連携. *日本熱傷学会関東地方会（第23回）*（東京），2015. 1.

- 4) 田端陽太, 志村知子, 横山瑞恵, 鈴木雅智, 牛島麻衣, 三浦智子, 厚田 幸, 高橋幸憲, 桐谷真理子, 佐藤憲明: 口腔ケアで生じる環境汚染の実態とその防止対策に向けた検討. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (神奈川), 2015. 2.
  - 5) 田辺 緑: 当院における rt-PA 静注療法開始時間短縮への取り組み. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島), 2015. 3.
  - 6) 亀ヶ谷泰匡, 末松宏美: 覚醒下の VV-ECMO 管理における成人患者の内的経験. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.
  - 7) 鈴木真由美, 佐藤紀子, 吉田澄恵<sup>(1)</sup> 東京女子医科大学大学院看護学研究科): 大学病院で働き続けている 30 代後半看護師の看護実践. 日本看護管理学会 (第 18 回) (松山), 2014. 8.
  - 8) 木野毅彦: 中堅看護師における教育目標: 救急領域とそれ以外の領域の看護師では看護実践能力の差はあるのか. 日本救急看護学会総会 (第 16 回) (大阪), 2014. 10.
  - 9) 森 伊代: 小児先天性心疾患手術を受けた患児の母親が手術室看護師に抱く思い. 日本手術医学会総会 (第 36 回) (札幌), 2014. 9.
  - 10) 高橋幸憲, 志村知子, 三浦智子, 厚田雅子, 河合清貴, 佐藤憲明: 急性期重症患者に対する医療用粘着剤関連皮膚損傷の発生子測式の作成. 日本クリティカルケア看護学会 (第 10 回) (愛知), 2014. 5.
- (4) 交流集会:
- 1) 古山景子, 青木裕子<sup>1)</sup>, 市川知恵, 菊永恭子, 山地陽子<sup>2)</sup> (1) 東海大学医学部附属八王子病院, 2) JCHO 東京新宿メディカルセンター): SMBG に取り組む患者への支援を考える. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第 19 回) (岐阜), 2014. 9.
  - 2) 数間恵子<sup>1)</sup>, 河口てる子<sup>2)</sup>, 東めぐみ<sup>3)</sup>, 井波早苗<sup>4)</sup>, 古山景子, 米田昭子<sup>5)</sup> (1) 日本糖尿病教育・看護学会, 2) 日本赤十字北海道看護大学, 3) 駿河台日本大学病院, 4) 滋賀医科大学医学部附属病院, 5) 山梨県立大学): 特定行為研修制度を視野に入れた「修正 インスリン使用患者ケアプロトコール」. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第 19 回) (岐阜), 2014. 9.

## 論文

### [追加分]

#### 追加分総説:

- 1) 佐々木友子: 循環器系モニタリング (6) IABP: 風船で心臓の動きを補助したらどうなるのかをイメージする. 重症患者ケア 2015; 4 (1): 86-97.

## [付属病院放射線科技師室]

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説:

- 1) 土橋俊男: 歯科用金属による MRI への影響 (磁性アタッチメント, インプラントを含めて). 日本歯科評論 2014; 74 (12): 49-57.
- 2) 土橋俊男: 強磁性体吸着事故を減らすための根本策と具体策を説く. 新医療 2014; 41 (8): 94-97.

### 著書

- 1) 土橋俊男: [分担] MRI の安全管理. MRI 集中講習 (改訂版) (公益社団法人東京都診療放射線技師会), 2014; pp51-62, 株式会社三恵社.

### 学会発表

#### (1) 教育講演:

- 1) 土橋俊男: MRI 検査の安全管理について. 多摩画像診断と IVR セミナー 2014, 2014. 10.

#### (2) シンポジウム:

- 1) 土橋俊男: Advisa MRI 市販後調査: 最新データ (条件付き MRI 対応デバイスの現状と今後の運用). 日本不整脈学会 (第 29 回), 日本心電学会 (第 31 回): 合同学術大会, 2014. 7.

#### (3) パネルディスカッション:

- 1) 土橋俊男: 診療放射線技師の立場から (条件付き MRI デバイス患者様の MRI 検査における課題と解決の方向性. SureScan Japan Summit 2015, 2015. 3.
- 2) 平井国雄: 外傷診療における診療放射線技師の役割 (生命予後・機能予後を向上するための取り組みや工夫). 日本外傷学会総会・学術集会 (第 28 回) (東京都江東区), 2014. 6.

(4) セミナー：

- 1) 土橋俊男：ME セイフティーマネジメント：事例から考える対応・対策. Advanced CT・MR 2014, 2014. 6.
- 2) 土橋俊男：条件付き MRI 対応デバイス Up-to-date-information (条件付き MRI 対応心臓デバイスの最新情報). 日本磁気共鳴医学会 (第 42 回), 2014. 9.
- 3) 土橋俊男：MRI 対応デバイスの撮像条件を考慮した MRI 検査テクニック：アイソセンタ条件, 撮像時間等. MRI 対応心臓デバイスミーティング 2014, 2014. 4.
- 4) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理. 平成 26 年度 福祉保健局・病院経営本部 専門性向上研修, 2014. 11.
- 5) 土橋俊男：強磁性体の持込み (MR 医療安全セミナー). NPO 法人磁気共鳴専門技術者認定機構 (第 7 回), 2014. 12.
- 6) 土橋俊男：体内装着品への対応 (MR 医療安全セミナー). NPO 法人磁気共鳴専門技術者認定機構 (第 7 回), 2014. 12.
- 7) 土橋俊男：安全な MRI 検査を行うために：変化する MRI の安全性. 平成 26 年度国公立大学病院医療技術関係職員研修 (診療放射線技術者), 2014. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 平井国雄：救急放射線技術に関連した OFF-JT のありかた WG 調査研究：アンケートによる実態調査と課題：. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 17 回) (栃木県下野市), 2014. 5.
- 2) 平井国雄：災害時における充電式ポータブル X 線撮影システムの至適運用の検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 20 回) (東京都立川市), 2015. 2.

## [付属病院 ME 部]

### 研究業績

#### 著書

- 1) 鈴木健一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>1, 3)</sup>, その他 35 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院外科系集中治療科)：〔編集〕ME 機器 安全使用・管理マニュアル虎の巻 (坂本篤裕 竹田晋浩 鈴木健一), 2015；克誠堂出版.
- 2) 豊富達智, 小林克也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科系集中治療科)：〔共著〕特殊血液浄化療法. ME 機器安全使用・管理マニュアル 虎の巻：国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp163-176, 克誠堂.
- 3) 小磯那津美<sup>1)</sup>, 岸川洋昭<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学麻酔科学教室)：〔分担〕ME 機器管理 (システム). ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻：国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp39-49, 克誠堂.
- 4) 橋本美紀<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科)：〔共著〕第 III 章 集中治療関連 IABP. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp153-162, 克誠堂出版.
- 5) 美野輪恵子, 武藤友美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学麻酔科学教室)：〔共著〕保育器. ME 機器安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp253-261, 克誠堂出版株式会社.
- 6) 八木 瞳, 内田千草, 金 徹：〔分担〕カテーテル関連業務・EPS. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻：国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp231-251, 克誠堂出版株式会社.
- 7) 中山拓也<sup>1)</sup>, 安齋めぐみ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部, <sup>2)</sup> 日本医科大学麻酔科学教室)：〔共著〕第 IV 章 その他高気圧酸素療法. ME 機器 安全使用・管理マニュアル虎の巻国家資格取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (監修：坂本篤裕 編集：竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp179-188, 克誠堂出版株式会社.
- 8) 志村亜由香, 中里桂子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科)：〔分担〕パルスオキシメータ. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻, 2015；克誠堂出版.
- 9) 黄川田弥生, 鈴木健一, 清水 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科)：〔分担〕人工心肺・体外循環関連. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻：国家試験取得から臨床使用における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕・竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp3-22, 克誠堂出版株式会社.
- 10) 内田千草, 八木 瞳, 金 徹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科)：〔分担〕カテーテル関連業務・EPS. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻：国家試験取得から臨床現場における ME 機器の使用目的, 操作方法, トラブル対処まで (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015；pp231-251, 克誠堂出版株式会社.
- 11) 少前貴康<sup>1)</sup>, 源田雄紀<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学麻酔科学教室)：〔共著〕血液浄化療法関連. ME 機器安全使用・管理マニュアル (坂本篤

裕), 2015; pp23-36, 克誠堂出版株式会社.

- 12) 佐々木拓也, 寺嶋克幸<sup>1)</sup> (1) 三井記念病院麻酔科): [分担] 生体情報モニタ. ME 機器 安全使用・管理マニュアル 虎の巻 (坂本篤裕, 竹田晋浩, 鈴木健一), 2015; pp65-78, 克誠堂出版株式会社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 鈴木健一, 竹田晋浩, 倉藤晶子<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院看護部, 2) 日本医科大学付属病院麻酔科): 「チームで行う安全管理」: 臨床工学技士の立場から. 日本手術看護学会関東甲信越地区 (第 25 回) (神奈川県), 2014. 6.
- 2) 鈴木健一, 竹田晋浩, 濱田ゆう子, 大石沙織, 黄川田弥生, 内田千草, 美野輪恵子, 橋本美紀, 森嶋俊介, 豊富達智, 八重田知見, 少前貴康, 中山拓也, 八木 瞳, 小磯那津美, その他 13 名: 補助循環において臨床工学技士が関わるエリアは何処までか? 日本医科大学付属病院として… 日本体外循環技術医学会 (第 40 回) (広島県), 2014. 10.
- 3) 鈴木健一<sup>1, 2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 集中治療看護師検討委員会): 集中治療看護師に求められる臨床実践能力とは何か?. 日本集中治療医学会 (第 42 回) (東京), 2015. 2.

### (2) セミナー:

- 1) 鈴木健一: 連続的呼吸数測定と遠隔モニタリングシステム. 日本臨床工学技士会 (第 24 回) (宮城県), 2014. 5.
- 2) 鈴木健一: 手術で使用される ME 機器の基礎知識と安全な取り扱い. 日本手術看護学会関東甲信越地区セミナー (第 6 回) (東京), 2015. 2.
- 3) 濱田ゆう子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): ECMO・PCPS トラブルシューティング. 日本集中治療医学会学術集会 (第 42 回) (ホテル日航東京ホテル グランパシフィック LE DAIBA), 2015. 2.
- 4) 濱田ゆう子<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): 新しい呼吸管理: ネーザルハイフロ. 群馬クリティカルケア研究会 (第 7 回) (ニューサンピア), 2014. 11.

### (3) ワークショップ:

- 1) 鈴木健一, 竹田晋浩, 庭山ゆう子, 大石沙織, 黄川田弥生, 内田千草, 美野輪恵子, 橋本美紀, 森嶋俊介, 豊富達智, 八重田知見, 少前貴康, その他 14 名: 補助循環時のチーム医療と CE. 日本臨床工学技士会 (第 24 回) (宮城県), 2014. 5.

### (4) 一般講演:

- 1) 鈴木健一, 大石沙織, 八重田知見, 河原香織, 倉藤晶子<sup>1)</sup>, 上村明子<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院看護部, 2) 日本医科大学付属病院麻酔科): 手術室内における臨床工学技士の必要性. 日本手術医学会 (第 36 回) (北海道), 2014. 9.
- 2) 中山拓也<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 濱田ゆう子<sup>1)</sup>, 大石沙織<sup>1)</sup>, 黄川田弥生<sup>1)</sup>, 内田千草<sup>1)</sup>, 美野輪恵子<sup>1)</sup>, 橋本美紀<sup>1)</sup>, 森嶋俊介<sup>1)</sup>, 少前貴康<sup>1)</sup>, 豊富達智<sup>1)</sup>, 八重田知見<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学付属病院医療安全管理部): シリンジポンプのフランジ装着部によるサイフォニング現象の検証. 日本臨床工学会 (第 24 回) (宮城県仙台市青葉区青葉山無番地), 2014. 5.
- 3) 河原香織, 鈴木健一, 八重田知見, 美野輪恵子, 大石沙織: エキシマレーザーリード抜去術における臨床工学技士の関わり. 日本手術医学会総会 (第 36 回) (ロイトン札幌), 2014. 9.
- 4) 八木 瞳, 坪井一平, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 淀川顕司, 植竹俊介, 林 洋史, 高橋健太: 高出力でのエントレインメントペーシングにより Post-pacing Interval の短縮を呈した Ridge 依存性 AT の 1 例. 日本不整脈学会カテーテルアブレーション関連秋季大会 2014 (第 26 回) (新潟市中央区万代島 6-1 朱鷺メッセ), 2014. 10.
- 5) 志村亜由香, 八木 瞳, 小磯那津美, 少前貴康, 八重田知見, 豊富達智, 森嶋俊介, 橋本美紀, 美野輪恵子, 内田千草, 黄川田弥生, 大石沙織, 庭山ゆう子, 鈴木健一, 竹田晋浩: 当院における輸液, シリンジポンプの定期点検について. 日本臨床工学技士会 (第 24 回) (仙台国際センター), 2014. 5.
- 6) 豊富達智, 竹田晋浩, 鈴木健一: 高トリグリセライド血症による重症急性膵炎の患者に対し, DFPP と CHDF を施行した 1 例. 日本アフェレシス学会学術大会 (第 35 回) (東京), 2014. 9.
- 7) 小磯那津美<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 河原香織<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): 「モニタリングあれこれ」. JaSECT 関東甲信越地方会大会 (第 21 回) (軽井沢プリンスホテルウエスト), 2014. 4.
- 8) 橋本美紀<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 小磯那津美<sup>1)</sup>, 八木 瞳<sup>1)</sup>, 中山拓也<sup>1)</sup>, 少前貴康<sup>1)</sup>, 八重田知見<sup>1)</sup>, 豊富達智<sup>1)</sup>, 森嶋俊介<sup>1)</sup>, 美野輪恵子<sup>1)</sup>, 内田千草<sup>1)</sup>, 黄川田弥生<sup>1)</sup>, 大石沙織<sup>1)</sup>, 庭山ゆう子<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, その他 5 名 (1) 日本医科大学付属病院 ME 部): 自動カフ圧コントロールとハンドカフ圧計の実測値における比較検討. 日本呼吸療法医学会学術総会 【第 36 回】 (秋田市にぎわい交流館), 2014. 7.
- 9) 八重田知見<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 大石沙織<sup>1)</sup>, 美野輪恵子<sup>1)</sup>, 河原香織<sup>1)</sup>: 新病院開設に伴いロケーションシステムの導入を経験して. 日本手術医学会総会 (第 36 回) (北海道札幌市中央区北 1 条西 11 丁目 -1 ロイトン札幌), 2014. 9.
- 10) 大石沙織, 鈴木健一, 美野輪恵子, 河原香織: MEP (運動誘発電位) を臨床工学技士が行うための取り組みと, 手術件数に関して.



日本手術医学会（第36回）（札幌），2014. 10.

- 11) 少前貴康<sup>1)</sup>，鈴木健一<sup>1)</sup>，庭山ゆう子<sup>1)</sup>，黄川田弥生<sup>1)</sup>，大石沙織<sup>1)</sup>，森嶋俊介<sup>1)</sup>，内田千草<sup>1)</sup>，美野輪恵子<sup>1)</sup>，橋本美紀<sup>1)</sup>，豊富達智<sup>1)</sup>，八重田知見<sup>1)</sup>，中山拓也<sup>1)</sup>，竹田晋浩<sup>1)</sup>，鶴岡秀一<sup>2)</sup>，金子朋広<sup>2)</sup>，その他13名（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院 ME部，<sup>2)</sup>日本医科大学付属病院 腎臓内科）：高度の体液過剰を伴うクリオグロブリン血症に対してクライオフィльтраーションを行い著効した4症例についての検討。日本透析医学会学術集会・総会（第59回）（神戸），2014. 6.

追加分一般講演：

- 1) 鈴木健一，竹田晋浩，庭山ゆう子，大石沙織，黄川田弥生，内田千草，美野輪恵子，橋本美紀，森嶋俊介，豊富達智，八重田知見，少前貴康，その他14名：ECMO デバイスにおける遠心ポンプ入口圧の比較検討。日本集中治療医学会（第41回）（京都），2014. 2.

追加分特別講演：

- 1) 鈴木健一，竹田晋浩：『日本医科大学付属病院における ECMO 管理 ECMO project 発足からカロリンスカ大学 ECMO center での研修を経て』。日本体外循環医学会近畿地方会（第33回）（和歌山），2014. 2.

## [ワクチン療法研究施設]

### 研究概要

当研究施設は、1972年（昭和47）に開設され、故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質（SSM：いわゆる丸山ワクチン）による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSMの治験登録患者数は、2014年末日現在、398,048例を数え、依然として多数の新規患者の紹介を受けている。これらの患者のほとんどが学外からの紹介患者であることと、その大半が進行期癌・終末期癌であることは、SSMが治験薬として供給されているにも拘らず、その使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し、SSMの投与方法は画一に限定せず、主治医からの経過報告を基に患者ごとに個別に検討する体制をとっている。これらの研究の結果、基本投与方法のSSM-A・SSM-B交互隔日投与のほかにA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日投与等にするこで、化学療法・放射線療法等の副作用、特に白血球数減少の軽減、一般状態（QOL：Quality of Life）の改善につながる症例が報告されている。SSM使用患者は大半が進行期・終末期癌であるにも拘らず、良好な一般状態を維持しつつ、当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる。現在、SSMの使用状況・成績についての検討とともに、SSMの本来の使用目的といえるBRM（Biological Response Modifiers）としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌におけるQOL向上と延命効果の立場からの検討、SSMと既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討、長期生存者については背景要因の解析、延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また、SSMの投与経路ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 平井和人<sup>1)</sup>，安川明男<sup>2)</sup>，福岡 淳<sup>2)</sup>，鷺巣 誠<sup>3)</sup>，飯田和美（<sup>1)</sup>日本獣医生命科学大学・動物医療センター，<sup>2)</sup>西荻動物病院・東京都，<sup>3)</sup>アニマルウェルネスセンター・東京都）：SSM（人型結核菌体抽出物質）の獣医療における有用性の検討：犬の悪性黒色腫および腺癌におけるSSM使用例。日本医科大学医学会総会（第82回），2014. 9.
- 2) 福岡 淳<sup>1)</sup>，安川明男<sup>1)</sup>，平井和人<sup>2)</sup>，飯田和美（<sup>1)</sup>西荻動物病院・東京都，<sup>2)</sup>日本獣医生命科学大学・動物医療センター）：丸山ワクチン（SSM），ハイドロフォルテ，イムノグルカン，イムタスBPなどを用いて延命を続けている鼻腔腺癌の犬の1例。日本伝統獣医学会大会（第54回），2014. 12.

#### 論文

{追加分}

追加分原著：

- 1) Iida K, Higashi M<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>2)</sup>, Oda F<sup>3)</sup>, Yamada Y<sup>3)</sup>, Kawana S<sup>3)</sup>, Mitsuishi T<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University, Yachiyo Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Environmental Gerontology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School）：Histamine H1-Receptor Antagonistic Drug Olopatadine Suppresses TSLP in Atopic Dermatitis Model Mice. *Allergology International* 2013; 62 (1) : 137-138.

## [付属病院東洋医学科]

### 研究概要

本東洋医学科では、昨年6月に開催された第65回日本東洋医学会総会で、「東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症」と

いう総合タイトルで、メインシンポジウムを担当した。その中で、従来「未病」と考えられてきた漠然とした概念が、免疫システム、特にマクロファージや樹状細胞を主体とした「自然免疫担当細胞」の体内異物に対する慢性的な応答である、ことに言及したところ、多くの学会員から非常に興味をもたれ、以降、7月には日本東洋医学会神奈川県支部で、あるいは8月及び12月には文京区、杉並区医師会で、さらには10月には兵庫県支部会と北陸支部会で「免疫と漢方」に関する講演を依頼された。これまで「未病」という「体調不良の一種」が実は、大きな病気の始まりである、様々な不定愁訴が、実は体内に発生した「腫瘍」や体内に侵入したウイルスなどの異物に対する免疫応答の結果であり、その免疫応答の結果誘発された反応を「自然炎症 (homeostatic inflammation)」という新たな概念として規定されるに至ってきた。この「自然炎症」は西洋医学の概念の中でも注目を集めており、「自己修復」の過程で誘発される現象である。「自然炎症」を治癒に導くための様々な方策が進められており、そこには各種の「抗体医薬」の有用性も示唆されているが、当教室では漢方薬の成分の中に、こうした「自然炎症」を治療するための、有効成分が存在するという視点から、生薬成分による免疫制御に関する研究を展開している。この際、生薬成分の主体が、「サポニン群 (シャボン)」、「精油群」、あるいは「アルカロイド群」、「フラボノイド群」という、自然免疫活性化物質である「脂質」や「核酸」を制御する分子であることに着目し、自然免疫担当細胞である、「樹状細胞」、「NKT細胞」ならびに「 $\gamma$   $\delta$ 型 T細胞」であることに対する影響を科学的な側面から研究している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Omi K, Shimizu M<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Matsumura J<sup>1)</sup>, Takaku C, Shinya E<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Inhibition of R5-tropic human immunodeficiency virus type-1 replication in CD4+ natural killer T cells by gamma-delta T lymphocytes. *Immunology* 2014 ; 141 (4) : 596-608.
- 2) Matsushashi T<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Negishi Y<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : A low, non-toxic dose of paclitaxel can prevent dendritic cell-precursors from becoming tolerogenic dendritic cells with impaired functions. *Biomed. Res.* 2014 ; 35 (6) : 369-380.
- 3) Takahashi M<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Dichloroacetate induces cell cycle arrest in human glioblastoma cells persistently infected with measles virus : A way for controlling viral persistent infection. *Antiviral Res.* 2015 ; 113 (1) : 107-110.

#### (2) 総説：

- 1) 高橋秀実：(序) 樹状細胞とランゲルハンス細胞. *炎症と免疫* 2014 ; 22 (3) : 151-152.
- 2) 高橋秀実：Eカドヘリンとランゲルハンス細胞. *炎症と免疫* 2014 ; 22 (3) : 153-158.
- 3) 若林あや子<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : 腸管上皮内リンパ球の細胞傷害性 T細胞への分化. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 62 (1) : 17-24.
- 4) 新谷英滋<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : ヒト免疫不全ウイルス HIV-1 Nef による樹状細胞 CD1 脂質抗原提示機能の低下. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 62 (3) : 239-244.
- 5) 根岸靖幸<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : 樹状細胞による妊娠、分娩の制御. *臨床免疫・アレルギー科* 2014 ; 62 (6) : 604-608.
- 6) 高橋秀実：鼻アレルギー診療におけるエビデンス：治療法 6) 漢方薬の効果的な使い方. *Prog. Med.* 2014 ; 34 (10) : 1707-1711.
- 7) 松村次郎<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : HIV と悪性腫瘍. *臨床免疫・アレルギー科* 2015 ; 63 (1) : 21-27.
- 8) 高橋秀実：HAART 治療中の粘膜組織に潜伏する HIV とその制御. *日本エイズ学会誌* 2015 ; 17 (1) : 14-18.

### 著書

- 1) 今藤誠俊：〔分担〕知らなきゃ損する！ Doctor's pearl クリニカルパールから学ぶ漢方：治りきらないかぜ症状に対して。治療 2014 年増刊 Vol.96, 2014 ; pp580-582, 南山堂.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 平馬直樹：日本漢方医学復興の功労者 - 大塚敬節先生と矢数道明先生. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 5.
- 2) 高橋秀実：東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 6.
- 3) 高橋秀実：免疫疾患に対する温病治療：成人型 Still 病をモデルとして. 日本東洋医学会神奈川県支部総会 (横浜), 2014. 7.
- 4) 高橋秀実：日常診療に役立つ漢方医学とその作用機序に対する一考察. KAMPO 入門講座 (東京), 2014. 8.
- 5) 高橋秀実：ウイルス感染症に対する漢方治療. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 10.

- 6) 高橋秀実：免疫と漢方. 日本東洋医学会兵庫支部総会（神戸），2014. 10.
  - 7) 高橋秀実：免疫と漢方. 日本東洋医学会北陸支部総会（金沢），2014. 10.
  - 8) 高橋秀実：日常診療に役立つ漢方医学の基礎概念. 日本医科大学産婦人科学教室臨床研究会（東京），2014. 11.
  - 9) 平馬直樹：復脈湯類について. KAMPO Medical Conference（東京），2014. 12.
  - 10) 高橋秀実：ウイルスに対する生体応答と各種の疾病. KAMPO Medical Conference（東京），2015. 1.
  - 11) 平馬直樹：江戸時代口訣野医学の展開：津田玄仙の医学. KAMPO Medical Conference（東京），2015. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 平馬直樹：弁証論治のすすめ方 呼吸器症状. 仙台中医学研究会（宮城），2014. 4.
  - 2) 菅沼 栄：血分弁証2. 東京中医学研究会（東京），2014. 4.
  - 3) 菅沼 栄：血分弁証3. 東京中医学研究会（東京），2014. 5.
  - 4) 菅沼 栄：湿熱病・上焦湿熱1. 東京中医学研究会（東京），2014. 6.
  - 5) 平馬直樹：弁証論治のすすめ方. お茶の水漢方フォーラム（東京），2014. 7.
  - 6) 高橋秀実：ばい菌は本当にきたないの？. 子どもアカデミア講座（東京），2014. 7.
  - 7) 平馬直樹：弁証論治のすすめ方 皮膚症状. 仙台中医学研究会（宮城），2014. 7.
  - 8) 菅沼 栄：上焦湿熱2・中焦湿熱1. 東京中医学研究会（東京），2014. 7.
  - 9) 菅沼 栄：中焦湿熱2. 東京中医学研究会（東京），2014. 9.
  - 10) 平馬直樹：漢方方剤運用のための基礎理論講座 1 気の病証と治療 その1 気虚証. 仙台中医学研究会（宮城），2014. 10.
  - 11) 菅沼 栄：中焦湿熱3. 東京中医学研究会（東京），2014. 10.
  - 12) 菅沼 栄：中焦湿熱4. 東京中医学研究会（東京），2014. 11.
  - 13) 菅沼 胡：下焦湿熱. 東京中医研究会（東京），2015. 1.
  - 14) 菅沼 胡：中医学歴史と基本概念・中薬学総論. 東京中医研究会（東京），2015. 2.
  - 15) 菅沼 胡：解表薬：麻黄・桂枝. 東京中医研究会（東京），2015. 3.
- (3) シンポジウム：
- 1) 高橋秀実：シンポジウム I（統括）：東洋医学の発想と近代医学の最前線：未病と自然炎症. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 2) 高橋秀実：未病と自然炎症：生薬成分による制御の可能性. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 3) 菅沼 栄：症例から考える日本漢方と中医学の接点. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
- (4) セミナー：
- 1) 高橋秀実：抗体医薬は人類の救世主となるか. 北区医師会セミナー（東京），2014. 8.
  - 2) 高橋秀実：生体応答制御医学としての東洋医学. 杉並区医師会セミナー（東京），2014. 11.
- (5) ワークショップ：
- 1) 廣田 薫，高橋秀実：日本医科大学付属病院における湯液と鍼灸の併用治療の現状と展望. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 2) 大倉定之<sup>1)</sup>，Jonathan S<sup>2)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室，<sup>2)</sup> Division of Virology, MRC National Institute for Medical Research, London)：細胞内抑制因子 TRIM5a によるレトロウイルスのキャプシドの認識：もう1つの因子 Fv1 との比較. 日本エイズ学会学術集会（第28回）（大阪），2014. 12.
- (6) 一般講演：
- 1) Negishi Y<sup>1)</sup>，Ichikawa T<sup>1)</sup>，Takeshita T<sup>2)</sup>，Takahashi H<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Different role of IL-13 for the fetal loss induced by IL-12 treatment or 33D1+ DC depletion in mice. The 34th American Society of Reproductive Immunology. Boston (New York), 2014. 6.
  - 2) 高久 俊，廣田 薫，高久千鶴乃，近江恭子，小野顕人，大藪英一<sup>1)</sup>，平馬直樹，高橋秀実<sup>1)</sup> 越谷大袋クリニック)：手根管症候群に対して五積散が有効であった3例. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 3) 小野顕人，近江恭子，廣田 薫，高久 俊，平馬直樹，高橋秀実：湯液ならびに鍼灸治療の併用で腰部脊柱管狭窄症による疼痛が改善した1例. 日本東洋医学会学術総会（第65回）（東京），2014. 6.
  - 4) 福岡豊永，高久 俊，廣田 薫，平馬直樹，高橋秀実：重症の眩暈に対して鍼灸治療が即効性を示した1例. 日本中医学学会学術総会（第4回）（東京），2014. 9.
  - 5) 大倉定之<sup>1)</sup>，Jonathan S<sup>2)</sup>，高橋秀実<sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Virology, MRC National Institute for Medical Research, London)：マウス抑制因子 Fv1 によるマウス白血病ウイルスの認識機序. 日本ウイルス学会学術集会（第62回）（横浜），2014. 11.

- 6) Shinya E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Mori L<sup>2, 3)</sup>, De-G. L<sup>2, 3)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Singapore Immunology Network, Agency for Science, Technology and Research, <sup>3)</sup> Department of Biomedicine, University, of Basel) :  $\alpha$ -GalCer augmented the “trans-infection” of sulfatide-specific CD1a-restricted T cells via immature DCs. 日本エイズ学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2014. 12.
- 7) 松村次郎<sup>1)</sup>, 近江恭子, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 高橋秀実 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : ART の reservoir である NKT 細胞の制御に関わる  $\gamma$   $\delta$  T 細胞. 日本エイズ学会学術集会 (第 28 回) (大阪), 2014. 12.
- 8) Takahashi H, Matsushashi T<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Kohgo T<sup>1)</sup>, Date T, Negishi Y<sup>1)</sup>, Takeshita T ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Non-toxic dose of paclitaxel can prevent dendritic cell-precursors from becoming tolerogenic dendritic cells with impaired functions. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 9) Ichikawa T<sup>1)</sup>, Negishi Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : DEC-205+ DCs and NKT cells in the uterus activated by  $\alpha$ -GalCer cause fetal loss in mice. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 10) Negishi Y<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>1)</sup>, Koike E<sup>1)</sup>, Okura S<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Effects of glycolipid antigens on the differentiation of dendritic cells. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 11) Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Otsuka Y<sup>1)</sup>, Ishi K, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Enhancement of costimulatory molecule-expression on mucosal DCs by treatment with cholera toxin in vitro. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 12) Shinya E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Mori L<sup>2, 3)</sup>, De Libero G<sup>2, 3)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Singapore Immunology Network, Agency for Science, Technology and Research, <sup>3)</sup> Department of Biomedicine, University, of Basel) : HIV-1 Nef down-regulation CD1a-restricted lipid-antigen presentation in immature dendritic cells (iDCs) via Hemopoietic cell kinase (HCK) and p21-activated kinase 2 (PAK2). 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 13) Takaku S, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : IL-15 reenhances CD8+ HIV-1 gp160-specific murine CTL resistance to both Fas-FasL and perforin-granzyme mediated apoptosis induced by free antigenic peptide. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 14) Kumagai Y<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : The analysis of the interaction between HIV-1 gp120 and chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at immunoglobulin hypervariable regions. 日本免疫学会学術集会 (第 43 回) (京都), 2014. 12.
- 15) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (18). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 4.
- 16) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (19). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 5.
- 17) 小野顕人：湯液ならびに鍼灸治療の併用で腰部脊柱管狭窄症による疼痛が改善した 1 例. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 5.
- 18) 高久 俊：手根管症候群に対して五積散が有効であった 3 例. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 5.
- 19) 廣田 薫：日本医科大学付属病院における湯液と鍼灸の併用療法の現状と展望. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 5.
- 20) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (20). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 6.
- 21) 今藤誠俊：乳癌手術後の化学療法中に耳鳴で受診した 1 例. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 6.
- 22) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (21). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 7.
- 23) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (22). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 9.
- 24) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (23). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 10.
- 25) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (24). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 11.
- 26) 廣田 薫：温病からみた伝染性単核症. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 11.
- 27) 平馬直樹：天王補心丹解説. 温知会 (東京), 2014. 11.
- 28) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (25). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 12.
- 29) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (26). KAMPO Medical Conference (東京), 2015. 1.
- 30) 郷家明子：鍼灸入門：経絡治療の実際 (27). KAMPO Medical Conference (東京), 2015. 2.
- 31) 津田篤太郎：「漢方治療の有害事象」再考. KAMPO Medical Conference (東京), 2015. 2.
- 32) 郷家明子：鍼灸治療：経絡治療の実際 (28). KAMPO Medical Conference (東京), 2015. 3.

## 論文

### [追加分]

追加分原著：

- 1) 村上 努<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>(1)</sup> 日本医科大学微生物学免疫学教室) : Progress of the Host restriction Factors for HIV Control. 日本エイズ学会誌 2014 ; 16 (1) : 1-3.

## 著書

追加分：

- 1) 平馬直樹, 浅川 要<sup>1,2)</sup>, 辰巳 洋<sup>3)</sup> (1) 東京中医鍼灸センター, 2) 東京医療福祉専門学校, 3) 本草薬膳学院) : [監修] 基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書, 2014 ; pp1-255, ナツメ社.
- 2) 高橋秀実 : [分担] すぐに使える高齢者総合診療ノート. 漢方薬の使い方 (大場建三編), 2014 ; pp23-29, 日本医事新報社.
- 3) 神谷 茂<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 林 英生<sup>2)</sup>, 俣野哲朗<sup>3)</sup> (1) 杏林大学感染症学教室, 2) 中国学園大学, 3) 国立感染症研究所) : [監訳] ブラック微生物学 (第3版), 2014 ; pp167-176, 丸善出版.

## 学会発表

追加分教育講演：

- 1) 菅沼 栄 : 営分弁証 1. 東京中医学研究会 (東京), 2014. 1.
- 2) 菅沼 栄 : 営分弁証 2. 東京中医学研究会 (東京), 2014. 2.
- 3) 平馬直樹 : 弁証論治のすすめ方 呼吸器症状. 神奈川実践漢方勉強会 (横浜), 2014. 3.
- 4) 菅沼 栄 : 営分弁証 3・血分弁証 1. 東京中医学研究会 (東京), 2014. 3.

追加分一般講演：

- 1) 廣田 薫 : 漢方類用処方解説 芍薬甘草湯①. ラジオ NIKKEI 漢方トゥデイ (東京), 2014. 1.
- 2) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (15). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 1.
- 3) 平馬直樹 : 弁証論治のすすめ方 消化器症状. 仙台中医学研究会 (宮城), 2014. 1.
- 4) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (16). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 2.
- 5) 廣田 薫 : 漢方類用処方解説 芍薬甘草湯②. ラジオ NIKKEI 漢方トゥデイ (東京), 2014. 2.
- 6) 郷家明子 : 鍼灸入門 : 経絡治療の実際 (17). KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 3.

追加分シンポジウム：

- 1) 高橋秀実 : 腫瘍内樹状細胞と腫瘍免疫. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム (東京), 2014. 2.

追加分特別講演：

- 1) 平馬直樹 : 日本漢方の功労者, 大塚敬節と矢数道明. 2014 年中医薬学術研討会 (台北), 2014. 3.
- 2) 高橋秀実 : 成人型 Still 病の再燃と温病方剤 (清営湯加減法) の有用性. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 2.
- 3) 平馬直樹 : 東洋医学から見た「証」と体質. KAMPO Medical Conference (東京), 2014. 3.

## [ゲノム先端医療部]

### 研究概要

ヒト遺伝子研究の成果は、遺伝子検査の対象が従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹性へと幅が広がってきている。遺伝情報を個の医療に活用する、個人の疾患の早期診断さらに予防への応用、すなわちオーダーメイド医療（個別化医療）が現実のものになりつつある。今後、日常診療の場でオーダーメイド医療のための遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され、そのための院内での体制作りが急がれる。日本医科大学付属病院では法人の全面的支援を受けて全国の医科大学に先駆け、平成20年4月にオーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した。我々の部署では近年著しく増加してきた臨床の有用性が実証されつつある遺伝子情報を、倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている。全自動遺伝子解析装置を導入し、インターフェロンの感受性に関わる IL28B 遺伝子多型解析については、2013年5月に先進医療実施施設として認定され、検査を臨床検査部に移行した。イリノテカンの副作用に関連する UGT1A1 遺伝子についても検討し、個別化医療である遺伝子多型検査項目を増やしつつある。さらなる検査項目の増加を目指し検討を進めている。これらのオーダーメイド医療が臨床の場で実現されていくには、倫理的・法的・社会的問題 (Ethical, Legal and Social Issues) への対応を同時に検討することが求められる。ゲノム先端医療部は、これらの進歩に迅速に対応し、日本における先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Ogawa R<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Naing B, Sasaki M, Fujita A<sup>2)</sup>, Akaishi S, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> 付属病院 形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Associations Between Keloid Severity and Single Nucleotide Polymorphisms : Importance of rs8032158 as a Biomarker of Keloid Severity. J. Invest. Dermatol 2014 ; 134 (9) : 2041-2043.
- 2) Yamagishi A<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>2)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Hara K<sup>1)</sup>, Kan H<sup>1)</sup>, Yamada T<sup>1)</sup>, Koizumi M<sup>1)</sup>, Shinji S<sup>1)</sup>, Matsuda A<sup>1)</sup>, Sasaki J<sup>1)</sup>, Shimada T, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院 消化器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : Gene profiling and bioinformatics analyses reveal time course differential gene expression in surgically resected colorectal tissues. Oncol Rep 2014 ; 31 (4) : 1531-1538.

#### (2) 総説：

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : がんを対象としたエクソーム解析の実用化と倫理的課題. 臨床病理レビュー 2014 ; (153) : 8-11.

### 著書

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 付属病院 遺伝診療科) : [翻訳] 第16章 薬理遺伝学. コルフ臨床遺伝医学 (原書4版) (櫻井晃洋), 2014 ; pp244-252, 丸善.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 付属病院 遺伝診療科) : ヒトゲノム・遺伝子解析研究. 東京理科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する講習会 (第2回) (野田, 千葉), 2014. 4.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 付属病院 遺伝診療科) : 病院における薬理遺伝学的な取り組み「臨床現場で薬剤師が知っておくべき薬理遺伝学的知識」. 日本医療薬学会年会 (第24回) (東京), 2014. 9.

### 論文

#### [追加分]

#### 追加分総説：

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : テーラーメイド医療から見た SNP 遺伝子多型の戦略. 日本産婦人科医会研修ノート No92 「産婦人科における臨床遺伝学—ゲノム医療の展開—: 各論 (産科編, 婦人科編)」 2014 ; 92 : 79-84.

## 30. 武蔵小杉病院付置施設等

### [武蔵小杉病院消化器病センター]

#### 研究概要

当科は消化器外科医・内科医、内視鏡専門医で構成され消化器疾患全般の診断から治療まで幅広い診療・研究を行っている。以下に現在精力的に継続している臨床的、基礎的研究テーマについて紹介する。【悪性疾患】1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究 2. 胃癌、大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的・臨床病理学的研究 3. 肝細胞癌、膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究 4. 消化器癌の集学的治療、抗癌剤感受性試験による胃癌、大腸癌化学療法の確立 5. 進行膵・胆道癌に対する拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求 6. 肝臓癌に対する集学的治療 7. 消化器癌に対する鏡視下手術 8. 特殊内視鏡（拡大、特殊光）による消化管早期癌診断 9. 早期癌に対する内視鏡治療 10. IVRを応用した消化管、胆道、血管内ステント治療 11. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD、内視鏡的ステント）12. 進行再発大腸癌に対する分子標的治療とバイオマーカーの研究 13. 直腸癌治療における肛門機能温存の追及 【緊急疾患】1. イレウスの保存的・外科的治療、病態解析、新しい診断と治療の開発 2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療、臨床的研究 3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究 4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求 【良性疾患】1. 胃十二指腸潰瘍における H. pylori の臨床的・基礎的研究 2. 胆道結石に対する内視鏡的治療・腹腔鏡手術 3. 鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術（TAPP）の標準化と臨床的有用性の研究 4. 創傷治癒、外科侵襲に関する基礎研究 5. 小腸鏡・カプセル内視鏡による小腸疾患の早期診断・治療 6. 単孔式腹腔鏡下手術の標準化と臨床的有用性の研究 7. 炎症性腸疾患に対する分子生物学的治療の研究 8. イレウスに対する小腸鏡の診断・治療的有用性に関する研究

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Watanabe M, Suzuki H, Nomura S, Maejima K, Chihara N, Komine O, Mizutani S, Yoshino M, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School.) : Risk factors for surgical site infection in emergency colorectal surgery : a retrospective analysis. *Surgical Infections* 2014 ; 15 (3) : 256-261.
- 2) Watanabe M, Suzuki H, Nomura S, Hanawa H, Chihara N, Mizutani S, Yoshino M, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School.) : Performance Assessment of the Risk Index Category for Surgical Site Infection after Colorectal Surgery. *Surgical Infections* 2015 ; 16 (1) : 84-89.
- 3) 小峯 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 渋谷 肇<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科) : 各科における最新の鏡視下手術の実際 (ビデオ供覧) en bloc リンパ節郭清を目指した腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫. *埼玉県医学会雑誌* 2014 ; 49 (1) : 137-142.
- 4) Komine O, Suzuki H, Watanabe M, Nomura S, Mizutani S, Yoshino M, Chihara N, Mishima K, Oyama R, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Single-incision Laparoscopic Cholecystectomy with an Additional Needle Grasper : A Novel Technique. *J Nippon Med Sch* 2015 ; 82 (1) : 43-49.
- 5) 安田 宏<sup>1)</sup>, 竹中希久夫<sup>2)</sup>, 村山 均<sup>2)</sup>, 鈴木 修<sup>2)</sup>, 谷口桂三<sup>3)</sup>, 渡辺昌則, 小柳和夫<sup>4)</sup>, 橋本光正<sup>5)</sup>, 高橋 章<sup>2)</sup> (1) 聖マリアンナ医科大学, 2) 川崎市医師会, 3) 帝京大学溝ノ口病院, 4) 川崎市立川崎病院, 5) 川崎市立井田病院) : 川崎市胃がん内視鏡検診と Helicobacter pylori 診療 : 胃内視鏡検診は胃がん早期発見と予防につながる「胃がん・ピロリ菌胃炎検診」である. *Helicobacter Research* 2014 ; 18 (6) : 559-562.

##### (2) 症例報告：

- 1) 三島圭介<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : Self-expandable metallic stent 留置後に穿孔した S 状結腸癌イレウスの 1 例. *日本臨床外科学会雑誌* 2014 ; 第 75 卷 (6 号) : 1636-1641.
- 2) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup> (1) 海老名総合病院外科, 2) 海老名総合病院病理) : 術前補助化学療法が奏効した食道類基底細胞癌の 1 例. *日本外科系連合学会誌* 2014 ; 39 (5) : 888-893.
- 3) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 島田 竜<sup>1)</sup>, 石川英樹<sup>1)</sup>, 福田 俊<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西村ゆう<sup>2)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター 病理) : 上行結腸に発生した腺扁平上皮癌の 1 例. *癌と化学療法* 2014 ; 41 (12) : 1671-1673.
- 4) 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 島田 竜<sup>1)</sup>, 石川英樹<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科) : 大腸癌術後, 下部直腸癌に吻合部再発した時の経肛門的切除の経験. *癌と化学療法* 2014 ; 41 (12) : 1722-1724.

- 5) 石川英樹<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 東 四雄<sup>2)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 島田 竜<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西村ゆう<sup>3)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, (2) 埼玉県立がんセンター 泌尿器科, (3) 埼玉県立がんセンター 病理診断科) : S 状結腸癌術後膀胱内再発に対し経尿道的切除を行った 1 例. 癌と化学療法 2014 ; 12 (41) : 1799-1801.
- 6) Hoshino A<sup>3)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Suzuki H, Mizutani S, Yoshiharu N<sup>1)</sup>, Ishii H<sup>2)</sup>, Satoh S<sup>3)</sup>, Oba H<sup>3)</sup>, Shibuya T<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Gastrointestinal Surgery, Nippon Medical School, (2) Department of Pathology, Nippon Medical School, (3) Surgery, Sayama Chuo Hospital) : A Case of Nonfunctioning pancreatic Endocrine Tumor with Atypical Imaging Findings due to Prominent Fibrosis of the Tumor Stroma. The Journal of Nippon Medical School 2014 ; Vol.81 (No.5) : 346-352.

## 著 書

- 1) 渡辺昌則, 野村 聡, 埜 秀暁, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科学) : [分担] 食道がんに対する手術術式の進歩. 腫瘍内科, 2015 ; pp27-32, 科学評論社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) 渡辺昌則, 野村 聡, 埜 秀暁, 前島顕太郎, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 定時大腸手術の予防的抗菌薬順守に関する retrospective study. 日本外科感染症学会総会 (第 27 回) (東京), 2014. 12.
- 2) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科) : Previous abdominal surgery の TAPP 症例に対する術前 TAU mapping の活用. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 12 回) (東京), 2014. 6.

### (2) パネルディスカッション :

- 1) 渡辺昌則, 千原直人, 三浦克洋, 中田亮輔, 黒田誠司, 野村 聡, 吉野雅則, 鈴木英之, 田島廣之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, (2) 日本医科大学消化器外科) : 抗血栓薬内服患者の内視鏡検査における生検以上の手技 : ガイドライン順守の結果. 日本腹部救急医学会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 2) 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 菅 隼人, 内田英二 (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科) : 大腸癌腹腔鏡下手術における術中頭低位の妥当性と安全性. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.

### (3) ワークショップ :

- 1) 渡辺昌則, 野村 聡, 埜 秀暁, 三島圭介, 中田亮輔, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科) : 大腸汚染手術における SSI 発生率から検討した腹壁閉鎖法の選択. 日本腹部救急医学会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 2) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 救急医療に対する腹腔鏡下手術の標準化 閉鎖孔, 鼠径部ヘルニア嵌頓を中心に. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 3) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科) : 当院における嵌頓ヘルニアに対する緊急腹腔鏡下手術の標準化への取り組み. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 4) 村木 輝<sup>1, 2)</sup>, 高橋和裕<sup>2)</sup>, 有田 淳<sup>2)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 東戸塚記念病院 外科, (3) 日本医科大学 消化器外科) : 腹腔鏡下虫垂切除術における Reduced port surgery の解析 : 整容性, 経済性, 疼痛の評価について. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 5) 村木 輝<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 高橋和裕<sup>1)</sup>, 小松茂治<sup>1)</sup> (1) 東戸塚記念病院 外科) : 内ヘルニアに対する Triangulation 形成ならびに Traction 保持を意識した腹腔鏡下修復術. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.

### (4) 一般講演 :

- 1) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 埜 秀暁, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院 消化器外科) : E-PASS scoring system による胃癌手術における年齢別術後合併症発生リスクの検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 2) 前島顕太郎, 坊 英樹, 埜 秀暁, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 野村 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院 消化器外科) : 当科における腹腔鏡下胃切除術の検討. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (岩手), 2014. 10.
- 3) 前島顕太郎, 坊 英樹, 埜 秀暁, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 野村 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 付属病院 消化器外科) : 高齢者胃癌手術における術後合併症と縮小手術の予後に与える影響. 日本胃癌学会総会 (第 87 回) (広島), 2015. 3.
- 4) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 助



- 川 誠<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 外科): 早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術の E-PASS スコアリングシステムを用いた比較. 日本胃癌学会総会 (第 87 回) (広島), 2015. 3.
- 5) 三島圭介<sup>1, 4)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渋谷 肇<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 島田裕司<sup>2)</sup>, 内間久隆<sup>3)</sup>, 鈴木英之<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>5)</sup> (1) さいたま市民医療センター 外科, (2) さいたま市民医療センター 放射線科, (3) さいたま市民医療センター 病理診断科, (4) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (5) 日本医科大学付属病院 外科): 十二指腸狭窄を契機に発見された異所性膵癌の 1 例. 日本消化器外科 (69 回) (福島), 2014. 7.
- 6) 三島圭介<sup>1, 4)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渋谷 肇<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup>, 島田裕司<sup>3)</sup>, 大石卓司<sup>3)</sup>, 鈴木英之<sup>4)</sup>, 内田英二<sup>5)</sup> (1) さいたま市民医療センター 外科, (2) さいたま市民医療センター 病理診断科, (3) さいたま市民医療センター 放射線科, (4) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (5) 日本医科大学付属病院 外科): Two cases of HEPATIC inflammatory pseudotumor WHICH PRESENTED DIFFICULTY IN EXCLUDING MALIGNANCY by various graphic diagnosis. 日本肝胆膵外科学会 (第 26 回) (和歌山県), 2014. 6.
- 7) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 膵頭神経叢浸潤陽性膵癌に対する左方アプローチによる膵頭十二指腸切除の実際と臨床成績. 日本外科学会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 8) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 八木亜記<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 肝門部領域癌に対する門脈血栓を踏まえた術前ドレナージの工夫. 日本肝胆膵外科学会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
- 9) Mizutani S<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1, 2)</sup>, Muraki A<sup>1)</sup>, Yamagishi S<sup>1)</sup>, Ryosuke N<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>2)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>3)</sup> (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Department of Surgery, Seifukai Kobayashi Hospital, (3) Department of Surgery, Nippon Medical School): Operative procedure and clinical features of left posterior approach pancreaticoduodenectomy with total Mesopancreas excision for pancreatic head carcinoma. European Pancreatic Club (46th) (Southampton), 2014. 6.
- 10) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 膵頭神経叢浸潤陽性膵癌に対する左方アプローチによる膵頭十二指腸切除の手技と臨床成績. 日本膵切研究会 (第 41 回) (東京), 2014. 8.
- 11) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 胆石症腹腔鏡下胆嚢摘出術後の落下結石の検討. 日本内視鏡外科学会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 12) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 島田 竜<sup>1)</sup>, 石川英樹<sup>1)</sup>, 福田 俊<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 西村ゆう<sup>2)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科, (2) 埼玉県立がんセンター 病理): 上行結腸に発生した腺扁平上皮癌の 1 例. 癌局所療法研究会 (第 36 回) (大阪), 2014. 6.
- 13) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学外科): 切除可能膵頭部癌に対する SMA 神経叢全周温存, total Mesopancreas resection を伴う左方アプローチ膵頭十二指腸切除術. 日本臨床外科学会 (第 76 回) (郡山), 2014. 11.
- 14) 西村洋治<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 島田 竜<sup>1)</sup>, 石川英樹<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup> (1) 埼玉県立がんセンター 消化器外科): 大腸癌術後, 下部直腸に吻合部再発した時の経肛門的切除の経験. 癌局所療法研究会 (第 36 回) (大阪), 2014. 6.
- 15) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター, (3) 日本医科大学外科): 膵頭十二指腸切除術後第 10 病日に発症した SMA 血栓症による広範囲小腸虚血の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 16) 清水貴夫<sup>1)</sup>, 山本康弘<sup>1)</sup>, 岡村幹郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 古郡茉莉子<sup>1)</sup> (1) 小林病院 外科): 脱分化型後腹膜原発脂肪肉腫の 1 例. 北海道外科学会 (第 101 回) (札幌), 2014. 9.
- 17) 清水貴夫<sup>1)</sup>, 山本康弘<sup>1)</sup>, 岡村幹郎<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 鈴木達也<sup>1)</sup> (1) 小林病院 外科): 当院における下部消化管穿孔症例の検討. 北海道外科学会 (第 102 回) (札幌), 2015. 2.
- 18) 坊 英樹, 前島顕太郎, 埴 秀暁, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における創感染のない最適な創治療をめざした閉創の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 19) 坊 英樹, 前島顕太郎, 埴 秀暁, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): 消化器癌手術における SSI 予防を念頭においた閉創の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (郡山), 2014. 7.
- 20) 坊 英樹, 松信哲朗, 鈴木英之, 松田範子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): Fournier 症候群に高

- 圧酸素療法を併用した1例. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会(第49回)(鹿児島), 2014. 11.
- 21) 吉野雅則, 鈴木英之, 八木亜記, 黒田誠司, 和田由大, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 松本智司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 外科・消化器外科, (2) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下側方リンパ節郭清: 簡便化と定型化を目指して. 日本臨床外科学会総会(第76回)(福島), 2014. 11.
  - 22) 野村 聡, 渡辺昌則, 鈴木英之: 診断に難渋した胸部食道癌の1例. 神奈川食道疾患研究会(神奈川), 2014. 6.
  - 23) 野村 聡, 渡辺昌則, 鈴木英之, 塙 秀暁, 前島顕太郎, 坊 英樹, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科): Sarcoid reactionによる広範なリンパ節腫大が手術適応を迷わせた進行食道癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会(第331回)(東京), 2014. 9.
  - 24) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学付属病院外科): A case report of Juvenile Adenomyomatosis of the gallbladder suspected as eosinophilic cholecystitis. 日本肝胆膵外科学会(第26回)(和歌山), 2014. 6.
  - 25) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学付属病院外科): 膵頭十二指腸切除術後, 膵液瘻の重症化を予防するドレーン挿入法. 日本膵切研究会(第31回)(東京), 2014. 8.
  - 26) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学付属病院外科): Efficacy of continuous suction drainage tubes on drainage efficiency in patients with pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy. European Pancreatic Club (46th)(UK), 2014. 6.
  - 27) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科): ProGripTM Laparoscopic Self-Fixation Meshの使用経験. 神奈川ヘルニア研究会(第7回)(神奈川), 2014. 12.
  - 28) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 外科): 悪性大腸イレウスに対するSelf-expanding metallic stentの有効性. 日本外科学系連合学会学術集会(第39回)(東京), 2014. 6.
  - 29) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 渋谷 肇<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup> (1) さいたま市民医療センター 外科): 胃瘻を軸として発症した胃軸捻転症の1例. 埼玉県外科医会(第17回)(埼玉), 2014. 7.
  - 30) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 渋谷 肇<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup> (1) さいたま市民医療センター 外科): 胃瘻を軸として発症した胃軸捻転症の1例. 日本腹部救急医学会総会(第51回)(京都), 2015. 3.
  - 31) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 渡辺正則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科): 進行再発大腸癌に対するXELOXとFOLFOXの比較検討. 日本外科学会定期学術集会(第114回)(京都), 2014. 4.
  - 32) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌腹腔鏡下手術における術中頭低位の安全性に関する検討(国内外の論文レビューと現況). 日本消化器外科学会総会(第69回)(郡山), 2014. 7.
  - 33) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌腹腔鏡下手術における妥当な術中頭低位と安全性に関する検討. 日本大腸肛門病学会学術集会(第69回)(横浜), 2014. 11.
  - 34) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 八木亜記<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 渡辺正則<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科): 大腸癌腹腔鏡下手術を安全に行うための術中体位の工夫. 日本臨床外科学会(第76回)(郡山), 2014. 11.
  - 35) 鈴木英之, 吉野雅則, 三浦克洋, 渡辺正則, 内田英二 (1) 武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学消化器外科): 腹腔鏡下手術における術中頭低位と偶発症リスクの検討. 日本腹部救急医学界総会(第51回)(京都), 2015. 3.
  - 36) 村木 輝<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科): The thickness of pancreatic transection line as a risk factor for postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy using a tri-stapler. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第26回)(和歌山), 2014. 6.
  - 37) 村木 輝<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 日本医科大学 消化器外科): The thickness of pancreatic transection line as a risk factor for postoperative pancreatic fistula after distal pancreatectomy using the stapler. European pancreatic club (46th annual meeting)(Southampton(UK)), 2014. 6.
  - 38) 村木 輝<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, (2) 東戸塚記念病院 外科, (3) 日本医科大学 消化器外科): 自動縫合器を用いた尾側膵切除における膵液瘻発生の危険因子としての膵離断面の厚みの検討. 日本膵切研究会(第41回)(東京), 2014. 8.
  - 39) 村木 輝<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 清水貴夫<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日

- 本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器外科) : 大腸癌手術症例におけるクリニカルパスの有用性とその評価. 日本消化器外科学会総会 (第 69 回) (郡山), 2014. 7.
- 40) 村木 輝<sup>1, 2)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>2)</sup>, 高橋和裕<sup>2)</sup>, 小松茂治<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, <sup>2)</sup> 東戸塚記念病院 外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 消化器外科) : Reduced port surgery in laparoscopic appendectomy : a retrospective comparative study. The Scientific Meeting of Japan-Hungary-Poland Surgical Society (6th) (Tokyo), 2014. 10.
- 41) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 山際 亮<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院外科) : Congenital biliary dilatation in adults : a report of 5 cases. 日本肝胆膵外科学会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
- 42) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科) : 特殊な膜構造を呈する鼠径ヘルニアに対する TAPP に必要な知識と手術手技. 日本内視鏡外科学会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 43) 中田亮輔<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 村木 輝<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器外科) : Comparison of pancreatic fistula with other post-operative complications in regard to prolonged hospital stay after subtotal stomach-preserving pancreaticoduodenectomy (SSpPD). European pancreatic club (46th annual meeting) (Southampton (UK)), 2014. 6.
- 44) 星野有哉, 鈴木英之, 水谷 聡, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大外科学) : 当科における膵内分泌腫瘍切除例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 45) 助川 誠<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター) : 内視鏡的改善が困難であった輸入脚症候群の 1 例. 川崎内視鏡セミナー (第 5 回), 2014. 10.
- 46) 助川 誠<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学 消化器外科) : 内視鏡的止血に難渋し, IVR により止血を得た憩室出血の 1 例. 腹部救急医学会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.
- 47) 小峯 修<sup>1)</sup>, 鈴木英之, 渡邊昌則, 野村 聡, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 内田英二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 外科) : 単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術は術後創部痛・整容性を改善するか? 細径鉗子併用単孔式 (SILC) と 4 孔式手術 (CLC) の前向き無作為化比較試験. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回) (京都), 2014. 4.
- 48) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 中島嘉之<sup>2)</sup>, 井上博睦<sup>2)</sup>, 浅見育広<sup>2)</sup>, 福田重信<sup>2)</sup>, 上原健志<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 消化器内科) : 大腸内視鏡検査にて虫垂粘液嚢腫と鑑別が困難であった特発性虫垂重積症の 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 5.
- 49) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup>, 島田裕司<sup>3)</sup>, 大石卓爾<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 病理診断科, <sup>3)</sup> さいたま市民医療センター 放射線科) : 急性胆嚢炎で発症した胆嚢腺扁平上皮癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会学術集会 (第 26 回) (和歌山), 2014. 6.
- 50) 渡邊善正<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 病理診断科) : Bevacizumab 併用化学療法中に 3 回の消化管穿孔を発症した上行結腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 77 回) (郡山), 2014. 11.
- 51) 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 島田裕司<sup>2)</sup>, 大石卓爾<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 放射線科) : 急性虫垂炎として紹介された中結腸動脈, 下脛十二指腸動脈瘤破裂の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 77 回) (郡山), 2014. 11.
- 52) 小峯 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 澁谷哲男<sup>1)</sup>, 湯澤 俊<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 病理診断科) : 各科における最新の鏡視下手術の実際 (ビデオ供覧) 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下胃内手術 (単孔式・Reduced port surgery). 埼玉県医学会総会 (第 52 回) (浦和), 2015. 2.
- 53) 小峯 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科) : en bloc 郭清を目指した腹臥位胸腔鏡下食道切除術における上縦隔リンパ節郭清の工夫. 日本食道学会学術集会 (第 68 回) (東京), 2014. 7.
- 54) 小峯 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター 病理診断科) : 胃粘膜下腫瘍に対する自動縫合器を用いた腹腔鏡下胃内手術 (単孔式・Reduced Port Surgery) の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 55) 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター 外科) : 単孔式腹腔鏡下手術で胃 GIST に対する胃内手術と胆嚢摘出術を同時施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会 (第 27 回) (盛岡), 2014. 10.
- 56) 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター外科) : 日本腹部救急医学会総会. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.

(5) 主要関連演題：

- 1) 中田亮輔<sup>1, 2)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 去川秀樹<sup>1)</sup>, 鎌田順道<sup>1)</sup>, 宮前 拓<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup> (1) 海老名総合病院 外科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：腸閉塞症に対する腹腔鏡手術の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2015. 3.

追加分一般講演：

- 1) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 消化器外科)：胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 制癌剤適応研究会 (第 47 回) (名古屋), 2014. 3.
- 2) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター, 2) 日本医科大学 外科)：早期胃癌に対する開腹手術と腹腔鏡補助下手術の E-PASS scoring system を用いた比較. 日本胃癌学会総会 (第 86 回) (横浜), 2014. 3.
- 3) 小峯 修<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 澁谷 肇<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 島田裕司<sup>2)</sup>, 大石卓爾<sup>2)</sup>, 内間久隆<sup>3)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター放射線科, 3) さいたま市民医療センター病理診断科)：胃軸捻転内視鏡的整復後に捻転再発により胃穿孔を来した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 51 回) (京都), 2014. 3.

**[武蔵小杉病院循環器内科, 呼吸器内科, 腎臓内科, 神経内科, 動脈硬化・糖尿病・内分泌内科, 消化器内科, 腫瘍内科]**

**研究業績**

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Sato N : What's the Possibility of AQUARETICS in Acute Heart Failure Management : Clinical Application of AQUARETICS in Japan. The 7th Asia Pacific Congress of Heart Failure (Bari), 2014. 4.

(2) 一般講演：

- 1) 石川真由美, Brooks A, Rojo M, Chhabra Y, 南 史朗：肝部分切除後に必要な免疫反応である H2-BI の発現における成長ホルモンの役割. 日本内分泌学会学術総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 4.

**[武蔵小杉病院心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳腺外科, 内分泌外科]**

**研究概要**

1) 心臓血管外科領域：①近年、心臓血管外科領域において高齢者や他臓器疾患を有するハイリスク症例が増加しており、また複合手術が必要な症例も多く、高度な手術手技が要求される。高カリウムを中心とした心筋保護法は確立された方法であるが、最もすぐれた心筋保護法とは言い難い。当施設における持続逆行性心筋保護法の有用性について研究している。②冠動脈バイパス術において、高度脳血管疾患を有する患者が多く、周術期の脳血管合併症は依然大きな問題であるといえる。術前の脳血管の評価から、術中術後管理における脳合併症の予防に関して研究している。③冠動脈バイパス手術において、3次元CT検査を用いた静脈グラフトの術前評価を行い、その有用性を検討している。④大動脈外科におけるステントとグラフトの進歩は著しく、当施設においても血管内・低侵襲治療センターと連携してハイブリッドステントグラフト手術を行い、その有用性を検討している。2) 呼吸器外科領域：胸部3DCTの進歩により肺容積の定量が可能となった。この肺容積定量と術前呼吸機能検査をリンクさせることで、より精確な術後（肺切除後）予測肺機能の算定を行っている。特に慢性閉塞性肺疾患（COPD）や間質性肺炎（IP）などを合併した低肺機能（＝高リスク）肺癌症例においては、そのCT肺容積定量及び肺機能検査から得られるデータとの相関より、より厳密なリスク評価を行い、術式決定にフィードバックするという臨床研究を行っている。3) 乳腺外科領域：腫瘍内科と連携し、新薬治験などを行っている。また、補助治療の重要性を鑑みて、乳腺切除量から温存術の安全性について検討している。4) 内分泌外科領域：甲状腺・副甲状腺手術後前頸部創傷治癒の経時的評価、甲状腺切除量と術後補充療法の必要性の評価、甲状腺の切除標本を用いた分子生物学的特徴の検索。

**研究業績**

論文

(1) 原著：

- 1) Giroux-Leprieur E<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>2)</sup>, Mo M<sup>1)</sup>, Chez Z<sup>1)</sup>, Okamoto J, Clemen G<sup>1)</sup>, Li H<sup>1)</sup>, Wislez M<sup>1)</sup>, Jablons D<sup>1)</sup>, He B<sup>1)</sup> (1) University of California, San Francisco Thoracic Oncology Laboratory, 2) 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科)：The homeobox gene

EMX2 is a prognostic and predictive marker in malignant pleural mesothelioma. Lung Cancer 2014 ; 85 (3) : 465-471.

- 2) Imura H, Tanoue M<sup>1)</sup>, Shibata M<sup>1)</sup>, Maruyama Y, Shirakawa M<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : Acute type-A aortic dissection with patent false lumen through to the abdominal aorta : effects of a conventional elephant trunk on malperfusion syndromes and narrowed true lumen. Perfusion 2014 ; 29 (5) : 417-424.
- 3) Imura H, Hames-Y K<sup>1)</sup>, Miyagi Y<sup>1)</sup>, Murata H<sup>2)</sup>, Nitta T<sup>1)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院心臓血管外科, 2) 日本医科大学付属病院循環器内科) : Ablation on the mitral annulus for the treatment of atrial fibrillation : Anatomical consideration to prevent coronary injury. Journal of Arrhythmia 2014 ; 30 (6) : 444-445.

(2) 総説 :

- 1) 丸山雄二, 落 雅美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 川崎病冠動脈後遺症に対する冠動脈バイパス術の適応. 小児内科 2014 ; 46 (6) : 802-809.
- 2) 丸山雄二, 落 雅美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 川崎病冠動脈後遺症も対する冠動脈バイパス術. 日本臨床 2014 ; 72 (9) : 1669-1676.
- 3) 丸山雄二, Chambers JD<sup>1)</sup>, 別所竜蔵<sup>2)</sup>, 藤井正大<sup>2)</sup>, 仁科 大<sup>2)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> (1) Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayne Institute (King's College London) St Thomas' Hospital, 2) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 細胞レベルから見た外科的心筋保護法の現況と次世代への展望. 日本心臓血管外科学会雑誌 2014 ; 43 (5) : 239-253.

(3) 症例報告 :

- 1) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : 気管支・死腔瘻を伴う肺アスペルギローマに対する手術工夫 : 菌球除去後の気管支瘻孔閉鎖. 日本呼吸器外科学会雑誌 2014 ; 28 (6) : 707-711.
- 2) Okamoto J, Kubokura H, Motoda N<sup>1)</sup>, Hoshina H<sup>2)</sup>, Ishii H<sup>3)</sup>, Kitayama U<sup>3)</sup>, Usuda J<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科, 3) 日本医科大学呼吸器外科) : Local recurrence of lung adenocarcinoma 10 years after left upper lobectomy resembling pseudomesotheliomatous adenocarcinoma : a case report. J Nippon Med Sch. 2014 ; 81 (3) : 173-178.

(4) Letter to Editor :

- 1) 岡本淳一, 窪倉浩俊 : Letter to Editor 「肺アスペルギローマに対する空洞切開菌球除去 : 経胸腔アプローチは禁忌ではないのか」に対する返答. 日本呼吸器外科学会雑誌 2015 ; 29 (2) : 250-251.

## 著 書

- 1) 赤須東樹 : [分担] D. 内分泌・代謝・栄養疾患甲状腺腫瘍. イヤーノート TOPICS 2015-2016 第5版, 2015 ; pp156-157, 株式会社メディックメディア.

## 学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 丸山雄二, 芝田匡史<sup>1)</sup>, 高橋賢一朗<sup>1)</sup>, 田上素子<sup>1)</sup>, 廣本敦之<sup>1)</sup>, 白川 真<sup>1)</sup>, 渡邊嘉之<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 師田哲郎<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : フリーグラフトとしての GEA の使用法 : ITA-GEA による I-composite graft の有用性. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第19回), 2014. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) 赤須東樹 : 大きな甲状腺腫切除における胸骨舌骨筋横切の有用性 : パセドウ病に対する甲状腺亜全摘除術の経験から. 日本甲状腺外科学会学術集会 (第47回), 2014. 10.
- 2) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 許田典男<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院病理診断科, 3) 日本医科大学付属病院呼吸器外科) : 肺葉切除術における葉間作成の有無と術後予後への影響. 日本肺癌学会学術集会 (第55回), 2014. 11.
- 3) 窪倉浩俊, 岡本淳一, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 許田典男<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理診断部, 3) 日本医科大学呼吸器外科) : CDDP/TS1+ 放射線療法が著効し右肺全摘除術術後を施行, Pathological CR となった臨床病期 IIIB 期肺癌の2症例. 日本肺癌学会学術集会 (第55回), 2014. 11.
- 4) 窪倉浩俊, 岡本淳一, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : 無症状で経過した遅発的外傷性横隔膜ヘルニアの1例. 日本呼吸器外科学会総会 (第31回), 2014. 5.
- 5) 窪倉浩俊, 岡本淳一, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : 腹膜透析による横隔膜交通症に対する胸腔鏡下手術4症例の検討. 日本呼吸器外科学会総会 (第31回), 2014. 5.
- 6) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : 肺癌術後に間質性肺炎急性増悪を来した症例の転帰に関する検討. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第67回), 2014. 9.

- 7) 井村 肇, 仁科 大<sup>1)</sup>, 田上素子<sup>1)</sup>, 丸山雄二, 白川 真<sup>1)</sup>, 鈴木大悟<sup>1)</sup>, 吉尾敬秀, 新田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 心臓血管外科) : 重症脳血管病変を伴う冠動脈バイパス術 : どこまで重症な脳血管病変に対して安全な手術ができるか? . 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 67 回), 2014. 9.
- 8) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : 肺動脈・肺静脈に近接した肺腫瘍に対する腫瘍核出術の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 114 回), 2014. 4.
- 9) 岡本淳一, 許田典男<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊, 北山康彦<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学呼吸器外科) : 気胸術後の病理標本で偶然発見されたプラに認めた上皮内肺癌の 2 症例. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回), 2014. 4.
- 10) 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : 高齢者肺癌に対する外科治療の戦略 - 当院での治療経験から : 標準手術を行うべきか? . 日本呼吸器外科学会総会 (第 31 回), 2014. 5.
- 11) 園木謙太郎<sup>1)</sup>, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院研修医, 2) 日本医科大学呼吸器外科) : 髄液鼻漏を契機に起こした左膿胸の 1 症例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 165 回), 2014. 6.
- 12) 鈴木宏隆<sup>1)</sup>, 岡本淳一, 許田典男<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 研修医, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 病理部, 3) 日本医科大学付属病院 呼吸器外科) : 左後縦隔発生傍神経節腫瘍の 1 症例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (第 151 回), 2014. 12.
- 13) 小谷野麻耶<sup>1)</sup>, 岡本淳一, 窪倉浩俊, 白田実男<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院研修医, 2) 日本医科大学呼吸器外科) : 多発外傷後大量胸膜外血腫に対し, TAE 後に血腫除去を行った 1 例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 167 回), 2015. 3.

## 論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Okamoto J, Kubokura H, Usuda J<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学呼吸器外科) : Safe transection of aberrant arterise associated with pulmonary sequestrations. BMC Surg 2015 ; 15.

## [武蔵小杉病院中央検査室]

### 研究概要

平成 26 年度においては KL-6 (シアル化糖鎖抗原 KL-6) の院内測定を開始し, 現在は血中薬物濃度について測定法の再評価に取り組むと共に, L-FABP (L 型脂肪酸結合蛋白) における汎用機用試薬の開発をメーカーと共同で進めている. この活動の中で Viva-E によるアルベカシン測定については, 日本臨床検査自動化学会第 46 回大会において報告すると共に, 日本臨床検査技師会「医学検査」に投稿中であり, L-FABP についても投稿を予定している. 細菌検査においては検査法の見直しを図り, 効果的な選択分離培地の採用を目指し各種培地の比較検討等を実施すると共に, 更なる改革に取り組んでいる. 生理機能検査においては呼吸抵抗測定の新規開始を計画している. 平成 27 年度においては, 検査システム・検査機器の一括更新を予定しており, 年度当初は更新機器の性能評価と効果的活用法の策定が活動の中心となる. 新体制移行後は, より一層の待ち時間短縮と収支改善を目標に, 引き続き更新機器の効果的活用法について検証していく所存である.

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 高木 豊, 田村祥子, 高橋裕太, 森本 進, 岸 恵, 勝部康弘 : 高値検体の測定結果予測域による迅速測定の試み 特に AST・ALT について. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (神戸), 2014. 10.
- 2) 田村祥子, 高木 豊, 高橋裕太, 森本 進, 岸 恵, 勝部康弘 : Viva-E システムによるアルベカシン血中濃度測定試薬「ナノピア TDM アルベカシン」の適応性評価. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回) (神戸), 2014. 10.
- 3) 吉岡美香, 菅原 通, 望月 徹<sup>1)</sup>, 上野ひろむ<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 液体石けんの細菌汚染調査. 日本環境感染学会総会・学術集会 (第 30 回) (神戸), 2015. 2.

## [武蔵小杉病院薬剤部]

### 研究概要

武蔵小杉病院薬剤部では新体制 2 年目を迎え新たに下記業務を開始しました TPN 調製 (NICU 含む), 病棟薬剤業務実施加算, 院外処方箋発行率の向上, 後発医薬品への切り替え (数量ベース 60%以上), プレアボイド報告.

27年度には22名体制でスタートし、病棟業務の内容充実化を図ります。薬剤師がいることで適正な薬物療法がおこなわれていることを多方面から解析し、アピールしていくこととなります。また、学会発表や論文投稿も支援し、大学病院として薬剤師個人の資質向上にも努めます。

## 研究業績

### 論文

(1) 報告：

- 1) 吉田奈央, 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1, 2)</sup>, 上野ひろむ<sup>1, 3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部)：ICT 抗菌薬ラウンドの有用性調査. 日本環境感染学会誌 2014；29 (4)：280-286.

### 著書

- 1) 笠原英城：〔共著〕第6章抗リウマチ薬. 違いがわかる！同種・同効薬（改訂第2版），2014；pp72-80, 南江堂.
- 2) 松岡順子, 伊東明彦<sup>1)</sup> (1) 明治薬科大学治療評価学)：〔共著〕15章 服薬指導 Q116 吸入薬の使い方について教えてください. くすりとナーシング Q & A 第2版（西崎 統），2014；pp255-257, 総合医学社.

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 此松晶子, 宮田広樹, 小野寺恵子<sup>1)</sup>, 門倉玄武<sup>2)</sup>, 酒井 瞳<sup>2)</sup>, 野口周作, 勝俣範之<sup>2)</sup>, 笠原英城 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科)：抗がん剤由来の悪心嘔吐予防に対する癌治療学会制吐薬適正使用ガイドラインの遵守率. 日本臨床腫瘍学会学術集会（第12回）（福岡），2014. 7.
- 2) 吉田房江<sup>1, 2)</sup>, 青木和代<sup>1, 2)</sup>, 望月瑠美<sup>1, 2)</sup>, 東さやか<sup>2)</sup>, 山崎まゆ美<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院治験管理事務局)：循環器系疾患 第2相試験受託に際しての実施体制の整備と今後の課題. CRC と臨床試験のあり方を考える会議（第14回）（浜松），2014. 10.
- 3) 栗原香織<sup>1)</sup>, 藤原佳美<sup>1)</sup>, 軽部みなと<sup>1)</sup>, 青山豊子<sup>1)</sup>, 二宮美香<sup>1)</sup>, 小泉嘉子<sup>2)</sup>, 赤羽日出男<sup>3)</sup>, 岸 泰宏<sup>4)</sup>, 山口朋禎<sup>5)</sup>, 若城由美子, 宮内秀典, 宮田広樹 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 MSW, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院精神科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科)：緩和ケアチームが介入し困難と思われた終末期患者の在宅への希望を支援した1症例. 日本緩和医療学会学術集会（第19回）（神戸），2014. 6.
- 4) 野村好美<sup>1)</sup>, 永迫さゆり<sup>1)</sup>, 西山絵美<sup>1)</sup>, 小野崎純<sup>1)</sup>, 若城由美子, 村上正洋<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科)：当院で発生した仙骨・尾骨褥瘡の治療遅延要因の検討. 日本褥瘡学会学術集会（第16回）（名古屋），2014. 8.
- 5) 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央, 望月 徹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：当院におけるダプトマイシンの使用状況. 日本化学療法学会総会（第62回）（福岡），2014. 6.
- 6) 内田裕之<sup>1)</sup>, 野口周作, 吉田奈央, 牧野淳子<sup>2)</sup>, 岩崎弥生<sup>2)</sup>, 永井 徹<sup>3)</sup>, 白田 誠<sup>3)</sup>, 原 弘士<sup>3)</sup>, 山永雄介<sup>4)</sup>, 吉村 歩<sup>5)</sup>, 五十嵐文<sup>5)</sup>, 五十嵐俊<sup>5)</sup> (1) 関東労災病院薬剤部, 2) 厚木市立病院薬剤管理指導室, 3) 横浜市立脳血管医療センター薬剤科, 4) 神奈川県立循環器呼吸器病センター薬剤部, 5) 横浜市立市民病院薬剤部)：神奈川県下6施設における抗菌薬使用量と薬剤感受性の検討. 医療薬学フォーラム 2014 クリニカルファーマシーシンポジウム（第22回）（東京），2014. 6.
- 7) 三瓶由香, 宮内秀典, 此松晶子, 東さやか, 吉田奈央, 竹内崇浩, 野口周作, 笠原英城：シメプレビル+ペグインターフェロンアルファ+リバビリンの3剤併用療法における副作用モニタリング. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第44回）（大宮），2014. 8.
- 8) 前岡理利子, 東さやか, 此松晶子, 宮内秀典, 竹内崇浩, 吉田奈央, 野口周作, 笠原英城：エドキサバン使用状況調査を通じた下肢整形外科術後深部静脈血栓症予防における薬剤師の役割について. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会（第44回）（大宮），2014. 8.
- 9) 吉田奈央, 野口周作<sup>1)</sup>, 宮田広樹, 此松晶子, 東さやか, 宮内秀典, 竹内崇浩, 望月 徹<sup>1)</sup>, 笠原英城 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部)：周術期における抗菌薬使用状況調査. 日本医療薬学会年会（第24回）（名古屋），2014. 9.
- 10) 山口貴子<sup>1)</sup>, 月岡悦子<sup>1)</sup>, 斉藤浩子<sup>1)</sup>, 高木 聡<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>2)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 小林陽和<sup>3)</sup>, 中村康一<sup>4)</sup>, 加藤和久<sup>5)</sup>, 野口周作 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院栄養科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院整形外科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院 ME 部)：早期集中治療により救命しえた重症インフルエンザ肺炎の1例を経験して. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会（24回）（奈良），2014. 10.
- 11) 高木 聡<sup>1)</sup>, 山口貴子<sup>1)</sup>, 月岡悦子<sup>1)</sup>, 斉藤浩子<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>2)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 小林陽和<sup>3)</sup>, 中村康一<sup>4)</sup>, 加藤和久<sup>5)</sup>, 野口周作 (1) 日本

- 医科大学武蔵小杉病院看護部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院栄養科, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院整形外科, <sup>5)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 ME 部) : 費用対効果を考慮した栄養マネジメントで在宅移行した 1 症例. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会 (24 回) (奈良), 2014. 10.
- 12) 月岡悦子<sup>1)</sup>, 山口貴子<sup>1)</sup>, 齊藤浩子<sup>1)</sup>, 高木 聡<sup>1)</sup>, 臼杵二郎<sup>2)</sup>, 板倉潮人<sup>2)</sup>, 小林陽和<sup>3)</sup>, 中村康一<sup>4)</sup>, 加藤和久<sup>5)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup> (日本医科大学武蔵小杉病院看護部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院栄養科, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院整形外科, <sup>5)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 ME 部) : 当院における呼吸ケアチーム活動の実際と課題. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術大会 (24 回) (奈良), 2014. 10.
- 13) 吉岡美香<sup>1,2)</sup>, 菅原 通<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 上野ひろむ<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>2)</sup>, 吉田奈央<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 液体せっけんの細菌汚染調査. 日本環境感染学会総会・学術大会 (30 回) (神戸), 2015. 2.
- 14) 望月 徹<sup>1)</sup>, 上野ひろむ<sup>1)</sup>, 小林綾乃<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央<sup>1)</sup>, 吉岡美香<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : 当院救命救急センターにおける多剤耐性菌発生時の監視培養を基にした一般病棟転棟・転出システム. 日本環境感染学会総会・学術大会 (30 回) (神戸), 2015. 2.
- 15) 上野ひろむ<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部) : インフルエンザアウトブレイクを経験して. 日本環境感染学会総会・学術大会 (30 回) (神戸), 2015. 2.
- 16) 野口周作<sup>1)</sup>, 吉田奈央, 吉岡美香<sup>2)</sup>, 上野ひろむ<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1,3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター) : MDRP 複数伝播事例後の抗菌薬使用状況. 日本環境感染学会総会・学術大会 (30 回) (神戸), 2015. 2.
- 17) 松本すずか<sup>1)</sup>, 関根令奈<sup>1)</sup>, 福田宣子<sup>1)</sup>, 矢倉尚幸<sup>1)</sup>, 松岡順子, 稲葉健二郎<sup>1)</sup>, 湯本哲郎<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup> 総合相模更生病院薬剤部, <sup>2)</sup> 星薬科大学薬剤師職能開発研究部門) : 切迫流産・切迫早産の治療における塩酸リトドリンの副作用軽減に向けた病棟薬剤師の取り組み vol.1. かながわ薬剤師学術大会 (第 13 回) (横浜), 2015. 1.
- 18) 田原 温, 宮田広樹, 若城由美子, 竹内崇浩, 此松晶子, 野口周作, 笠原英城 : 癌化学療法患者における栄養状態の検討 低栄養状態での副作用発現の検討. かながわ薬剤師学術大会 (第 13 回) (横浜), 2015. 1.
- 19) 松岡順子, 今村真沙美, 野口周作, 笠原英城, 浦 裕之<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科) : てんかん患者の服薬アドヒアランス向上にむけた薬剤管理指導に関する検討. JEPICA2015 全国てんかんセンター協議会総会 (東京), 2015. 2.
- 20) 上森恵里, 此松晶子, 宮内秀典, 東さやか, 吉田奈央, 野口周作, 宮田広樹, 若城由美子, 笠原英城 : 帝王切開準備クラスにおける薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 (第 44 回) (大宮), 2014. 8.
- 21) 宮内秀典, 野口周作, 笠原英城 : 中部小児急病センターにおける院外処方に関する調査. 神奈川県病院学会 (第 33 回) (神奈川県), 2014. 10.
- 22) 望月 徹<sup>1)</sup>, 上野ひろむ<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup>, 吉田奈央<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院感染制御部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院呼吸器内科) : 当院の救命救急センターにおける MDRP アウトブレイク発生時の伝播防止策. 日本感染症学会学術大会 (第 88 回) (福岡), 2014. 6.
- (2) 講演 :
- 1) 笠原英城 : プレアボイド報告から見える薬学的患者ケアとその成果. 平成 26 年度県下統一調剤事故防止研修会 (神奈川県薬剤師会) (神奈川県薬剤師会館), 2014. 9.
- 2) 笠原英城 : プレアボイド : 臨床現場で活躍する薬剤師の実例と今後の展望. 神奈川県病院薬剤師会業務検討委員会研修会 (公益社団法人神奈川県病院薬剤師会) (第 47 回) (かながわ県民センターサポートホール), 2014. 10.
- 3) 笠原英城 : 医薬品情報専門薬剤師の活動状況, 病院薬剤師の立場 : インタビューフォームと PMDA を利用する DI 業務事例. 薬剤師の専門・認定の領域を知る講習会 (千葉県病院薬剤師会) (千葉商工会議所), 2014. 10.
- 4) 笠原英城 : 糖尿病薬および血糖値が変動する副作用について. 明日からの実践に役立つ川崎市糖尿病セミナー (川崎市キャリア開発センター) (第 70 回) (ミューザ川崎シンフォニーホール), 2014. 11.
- 5) 笠原英城 : 日経 DI クイズマスターによる「あなたの DI スキルは正しいですか?」. 薬剤師のキャリアセミナー (日経 DI) (名古屋国際センター), 2015. 1.
- 6) 宮田広樹 : 薬物療法の副作用対策とケア (GO, GO (55) 肺癌学会 : 学会へ行こうプログラム). 日本肺癌学会学術集会 (第 55 回) (国立京都国際会館), 2014. 11.

## 著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 笠原英城 : [共著] 妊婦授乳婦への薬物療法と海外リスク分類, 服薬指導薬剤情報. 今日の治療指針 2014, 2014 ; pp1578-1601, 医学



書院.

2) 笠原英城：〔共著〕耳鼻科，眼科他：処方ポイント，薬剤ポイント，治療薬ハンドブック 2014，2014；じほう.

## [武蔵小杉病院看護部]

### 研究概要

1) 卵巣がんの化学療法における標準療法，治療選択，副作用一問一答 2) NPPV ネザルハイフロー使用中の看護 3) せん妄発症率とせん妄による影響の調査と分析 4) 医療関連機器圧迫創の予防対策 5) ICDSC を用いたせん妄の実態と要因の分析 6) 呼吸ケアチームが介入し最期の時を在宅で看取った症例 7) P3 以上の難治性褥瘡の特徴の調査報告 8) I 型糖尿病患者のセルフモニタリング活用の血糖コントロールへの効果 9) ECMO 離脱に向けた呼吸リハビリテーション及び ADL 拡大に向けた看護実践 10) COPD 患者の肺リハビリテーション (V60 離脱から退院) の事例 11) IV ナース研修による効果と課題 12) カルボプラチン脱感作療法の実績とクリニカルパス開発 13) RST としての病棟への関わりにより救命に寄与した症例 14) 在宅人工呼吸器療法導入患者への栄養療法実施症例 15) 乳がん検診受診患者の動機，背景，自己検診の現状 16) 慢性呼吸器疾患への外来の取組みと包括的ケア 17) CCM インフルエンアアウトブレイク事例報告 18) 心不全の現状とチーム医療活動内容，認定看護師の役割の検討 19) 循環器疾患 (第二相試験) の実施体制整備と課題 20) 帝王切開後の非代償性心不全患者フォローアップ事例報告 21) 特定看護師試行事業における活動報告 22) 特定行為に係る看護師の研修制度創設手順書活用事業報告 23) 妊娠糖尿病患者の妊娠中期，産後の OGTT 結果の比較検討 24) 特定看護師試行事業対象者活動報告 25) RST 発足後 3 年の介入症例および活動報告 26) 新生児集中ケア認定看護師質評価指標の特徴と活動，実践と展望 27) デスカンファレンス開催後の意識変化検証 28) メンタルヘルス支援の実態と現状報告 29) M. Newman 理論に基づくパートナーシップのケアを実施し変容した過程 30) 多発肋骨骨折を伴う呼吸不全への NPPV 使用症例報告

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

1) 山口貴子，月岡悦子，岸 泰宏<sup>1)</sup> (1) 精神科)：Out comes after delirium in japanese intensive care unit. General Hospital psychiatry 2014；36 (6)：634-636.

#### 著書

- 1) 小野寺恵子，勝俣範之<sup>1)</sup> (1) 腫瘍内科)：〔分担〕卵巣がん化学療法の一問一答. プロフェッショナルがんナーシング Vol.4.No.2 (古瀬純司)，2014；pp62-68，メディカ出版株式会社.
- 2) 山口貴子，佐藤直樹<sup>1)</sup> (1) 循環器内科)：〔分担〕CCM で使用する呼吸管理機器とケア：酸素投与と NPPV. ハートナーシング第 28 巻 2 号，2015；pp84-92，メディカ出版株式会社.

#### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 野村好美：医療関連機器圧迫創の予防. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会 (第 11 回) (東京都)，2014. 7.
- 2) 二宮美香：リエゾン精神看護専門看護師によるスタッフのメンタルヘルス支援 (医療従事者の健康支援と統合病院精神医学). 日本総合病院精神医学会総会 (第 27 回) (茨城県つくば市)，2014. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 山口貴子，月岡悦子：ICDSC を用いた集中治療室のせん妄評価で知り得たこと. 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (第 10 回) (愛知県名古屋市)，2014. 5.
- 2) 野村好美，永迫さゆり，西山絵美，小野崎純，岩城由美子<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>2)</sup> (1) 薬剤部，<sup>2)</sup> 形成外科)：当院で発生した仙骨・尾骨褥瘡の治癒遅延要因の検討. 日本褥瘡学会学術集会 (第 16 回) (愛知県名古屋市)，2014. 8.
- 3) 金子佳世，福永ヒトミ，望月瑠美：I 型糖尿病外来における CGM と DMBG ダイアリー併用による療法支援の効果. 日本糖尿病教育・看護学会学術集会 (第 19 回) (岐阜県岐阜市)，2014. 9.
- 4) 伊波早乃，齋藤桂輔：ECMO 離脱に向けリハビリテーション看護に取り組んだ重症レジオネラ肺炎の 1 例. 日本看護学会—急性期看護—学術集会 (第 45 回) (神奈川県横浜市)，2014. 10.
- 5) 本間 圭，川上 薫：医療チームで実践する肺理学療法の有用性：病棟看護師主体のリハビリテーションへの取り組みから. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良県奈良市)，2014. 10.
- 6) 小野寺恵子，石川秀一，岡本 大，窪田裕子，上本知美：院内認定インジェクションナースによる静脈注射実施の実態と課題. 日本看護学会—看護教育—学術集会 (第 45 回) (新潟県新潟市)，2014. 9.

- 7) 小野寺恵子, 此松晶子<sup>1)</sup>, 酒井 瞳<sup>2)</sup>, 門倉玄武<sup>2)</sup>, 勝俣範之<sup>2)</sup> (1) 薬剤部, 2) 腫瘍内科): カルボプラチン脱感作療法の実績と安全に投与するための検討. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 12 回) (福岡県福岡市), 2014. 7.
  - 8) 山口貴子, 月岡悦子, 高木 聡, 齊藤浩子, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 小林陽和<sup>4)</sup>, 中村康一<sup>5)</sup> (1) 呼吸器内科, 2) ME 部, 3) 薬剤部, 4) 栄養科, 5) 整形外科 (PT)): 早期集中治療により救命し得た重症インフルエンザ肺炎の 1 例を経験して. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良県奈良市), 2014. 10.
  - 9) 高木 聡, 山口貴子, 齊藤浩子, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 小林陽和<sup>4)</sup>, 中村康一<sup>5)</sup> (1) 呼吸器内科, 2) ME 部, 3) 薬剤部, 4) 栄養科, 5) 整形外科 (PT)): 費用対効果を考慮した栄養マネジメントで在宅移行した症例. 日本呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良県奈良市), 2014. 10.
  - 10) 齋藤浩子: 慢性呼吸器疾患患者への外来における取り組み: 多職種介入による包括的ケア. 平成 26 年度川崎市看護協会 看護研究発表・報告会 (神奈川県川崎市), 2015. 2.
  - 11) 小林綾乃: 救命救急センターにおけるインフルエンザアウトブレイク. 日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会 (第 12 回) (東京都), 2014. 5.
  - 12) 石田洋子, 佐藤直樹<sup>1)</sup> (1) 循環器内科): 帝王切開後の非代償性心不全に対し看護介入が成功した 1 例. 日本心不全学会学術集会 (第 18 回) (大阪府大阪市), 2014. 10.
  - 13) 福永ヒトミ: 試行事業対象者 (特定看護師) の実際. 川崎市病院看護部長会 (神奈川県川崎市), 2014. 6.
  - 14) 福永ヒトミ, 佐々木友美, 金子佳世, 八木 孝<sup>1)</sup>, 木佐森舞夕<sup>1)</sup>, 石井真由美<sup>1)</sup>, 糸井博美<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup> (1) 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 2) 女性診療科・産科): 妊娠糖尿病患者の産後の対糖機能障害の検討. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第 30 回) (長崎県長崎市), 2014. 11.
  - 15) 福永ヒトミ, 高橋久美子: 特定看護師試行事業対象者の実際. 平成 26 年度赤十字医療施設東部ブロック看護部長研修会 (新潟県), 2015. 1.
  - 16) 月岡悦子, 高木 聡, 齊藤浩子, 臼杵二郎<sup>1)</sup>, 板倉潮人<sup>1)</sup>, 加藤和久<sup>2)</sup>, 野口周作<sup>3)</sup>, 小林陽和<sup>4)</sup>, 中村康一<sup>5)</sup> (1) 呼吸器内科, 2) ME 部, 3) 薬剤部, 4) 栄養科, 5) 整形外科 (PT)): 当院における呼吸ケアチーム活動の実際と課題. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良県奈良市), 2014. 10.
  - 17) 齋藤 文: 新生児集中ケア認定看護師質評価指標の課題と今後の展望. 日本新生児看護学会学術集会 (第 24 回) (愛媛県松山市), 2014. 11.
  - 18) 門馬 治: 亜急性期における多発肋骨骨折患者への非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV) について. 日本救急医学会関東地方会 (第 65 回) (神奈川県横浜市), 2015. 2.
- (3) ポスター発表:
- 1) 藤原佳美, 栗原香織, 青山豊子, 赤羽日出男<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup>, 岩城由美子<sup>3)</sup>, 宮内秀典<sup>3)</sup> (1) 麻酔科, 2) 呼吸器内科, 3) 薬剤部): 緩和ケアチームが介入し困難と思われた終末期患者の在宅への希望を支えた 1 症例. 日本緩和医療学会学術大会 (第 19 回) (兵庫県神戸市), 2014. 6.
  - 2) 高橋順子: A 病院における乳がん検診の現状と今後の課題. 日本がん看護学会学術集会 (第 29 回) (神奈川県横浜市), 2015. 2.
  - 3) 吉田房江, 青木和代, 望月瑠美, 福永ヒトミ, 山崎まゆみ<sup>1)</sup>, 東さやか<sup>1)</sup> (1) 薬剤部): 循環器系疾患第 2 相試験受託に際しての実施体制の整備と今後の課題. CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2014 (第 14 回) (静岡県浜松市), 2014. 10.
  - 4) 藤原佳美: デスカンファレンスがもたらす効果と課題. 日本 CNS 看護学会 (第 1 回) (東京都), 2014. 6.
  - 5) 藤原佳美: 苦悩を抱え治療を続ける患者に M.Newman の理論に基づくパートナーシップのケアを実施し変容した 1 症例. 日本死の臨床研究会年次大会 (第 38 回) (大分県別府市), 2014. 11.
- (4) メディカルスタッフセッション:
- 1) 石田洋子, 佐藤直樹<sup>1)</sup> (1) 循環器内科): 心不全のチーム医療 (心不全患者への教育とチーム医療). 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回) (宮城県仙台市), 2014. 9.
- (5) 学会企画交流集会 IV:
- 1) 福永ヒトミ: 特定行為に係る看護師の研究聖堂創設に向けてのプロトコール試行事業報告から: 挑戦! 拡がる慢性期看護の実践. 日本看護学会—慢性期看護—学術集会 (第 45 回) (徳島県徳島市), 2014. 9.

## [武蔵小杉病院放射線科技師室]

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 木梨玲奈：川崎市乳がん検診2次読影判定会 登録施設の紹介と現状. 川崎市乳がん検診画像講習会（第18回）（川崎市），2014. 10.
- 2) 池田龍紀：川崎市乳がん検診2次読影における取り込み（2）. 日本乳癌検診学会学術総会（第24回）（横浜），2014. 11.
- 3) 西村祥循：体幹部におけるラジアルスキャン（RADAR）併用呼吸同期法を用いた撮像法の検討. Advanced CT・MR2014（軽井沢），2014. 6.
- 4) 西村祥循：体幹部におけるRadial Scan（RADAR）併用呼吸同期法を用いた撮像法の検討. 日本磁気共鳴医学会大会（第42回）（京都），2014. 9.

## [武蔵小杉病院認知症センター]

### 研究概要

日本医科大学武蔵小杉病院は川崎市から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症に係わる鑑別診断と専門医療相談を行ない、認知症についての臨床的、社会医学的研究を行っている。街ぐるみ認知症相談センターにおいては認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る連携事業を行う研究をしている。1 街ぐるみ認知症相談センターで認知症の早期発見、また認知症の介護をしている方を支援するための相談業務を行ない、高齢者本人へのインタビュー調査による健常高齢者における物忘れ/認知症ケアのニーズについて研究を実施した。2 相談者のもの忘れなどに関する情報をかかりつけ医へ提供し、かかりつけ医を中心とした認知症の診療システムを構築する試みを実施し、その効果について研究をしている。3 市民が認知症について理解を深めるような試みとして、川崎市と共催の市民公開講座の実施、地域催事への参加、勉強会への講師派遣などを行っている。4 認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みとして、専門職向けの公開講座を年に3回、地域のかかりつけ医とのミーティングを年に2回実施している。5 川崎市の認知症まちづくり対策委員会に参加し、地域ぐるみで認知症になっても暮らしやすいまちづくりを目指して活動している。平成26年度は新たな試みとして、認知症はじめて教室の開催をおこなった。川崎市では不十分と考えている若年認知症の人への対策を補助するための若年性認知症の人と家族の方の集まりを継続して行っている。そして、もの忘れをめぐる高齢者とその家族の相互作用の問題についての研究を行っている。川崎市の企業が計画している製品やシステムの利用について川崎市とともに参画し、研究開発に協力している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ishii K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Nakanishi A<sup>3)</sup>, Kitamura S<sup>4)</sup>, Terashima A<sup>5)</sup> (1) Department of Radiology, Faculty of Medicine, Kinki University, (2) Department of Clinical and Experimental Neuroimaging, Center for Development of Advanced Medicine for Dementia, National Center for Geriatrics and Ge, (3) Department of Radiology, School of Medicine, Juntendo University, (4) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (5) Institute for Aging Brain and Cognitive Disorders, Hyogo Brain and Heart Center) : Computer-assisted system for diagnosing degenerative dementia using cerebral blood flow SPECT and 3D-SSP : a multicenter study. Jpn J Radiol. 2014 ; 32 (7) : 383-390.
- 2) 北村 伸<sup>1)</sup>, 井上幸恵<sup>2)</sup>, 松井大樹<sup>3)</sup>, 松下泰之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, (2) クレコンメディカルアセスメント株式会社, (3) 第一三共株式会社事業本部メディカルアフェアーズ部) : 中等度および高度アルツハイマー型認知症患者に対するメマンチン単剤療法の費用効果分析. 老年精神医学雑誌 2014 ; 25 (12) : 1361-1373.
- 3) 北村 伸<sup>1)</sup>, 井上幸恵<sup>2)</sup>, 松井大樹<sup>3)</sup>, 松下泰之<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院, (2) クレコンメディカルアセスメント株式会社, (3) 第一三共株式会社事業本部メディカルアフェアーズ部) : 中等度および高度アルツハイマー型認知症患者に対するメマンチンのドネベジルとの併用療法に関する費用効果分析. 老年精神医学雑誌 2014 ; 25 (12) : 1374-1387.
- 4) 川西智也<sup>1)</sup>, 稲垣千草<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 並木香奈子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1,2)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, (2) 日本医科大学医療心理学教室) : 地域在住の中・高齢者における認知症ケアに関連したニーズの実態 もの忘れ相談の実践に関する示唆. 日本認知症ケア学会誌 2014 ; 13 (3) : 618-626.
- 5) Ishiwata A<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>2)</sup>, Nomura T<sup>3)</sup>, Nemoto R<sup>4)</sup>, Ishii C<sup>4)</sup>, Wakamatsu N<sup>5)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (1) Department of Neurological

Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, Musashi-Kosugi Hospital, <sup>3)</sup> Department of Psychology, Nippon Medical School, Tokyo, <sup>4)</sup> The Community Consultation Center for Citizens with MCI and Dementia, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Rehabilitation, Niigata University of Rehabilitation): Early Identification of Cognitive Impairment and Dementia: Results from Four Years of the Community Consultation Center. Archives of Gerontology and Geriatrics 2014; 59 (2): 457-461.

- 6) Ishiwata A<sup>1)</sup>, Mizumura S<sup>2)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup>, Yamazaki M<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Toho University Omori Medical Center): The Potentially Protective Effect of Donepezil in Alzheimer's Disease. Dement Geriatr Cogn Disord 2014; 38 (3-4): 170-177.

(2) 総説:

- 1) 北村 伸: 認知症の薬物療法. 調剤と情報 2014; 20 (8): 48-53.  
2) 北村 伸: 認知症の地域医療の実際. 治療 2015; 97 (3): 409-413.  
3) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院神経内科): Alzheimer 病の統計解析画像. 神経内科 2014; 81 (5): 514-518.

(3) 症例報告:

- 1) 川西智也, 根本留美, 稲垣千草, 石渡明子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院神経内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): もの忘れ相談機関が展開する地域連携の実際: 連携ネットワーク構築のための活動と, 相談実践を通じた連携. 老年精神医学雑誌 2014; 25 (12): 1395-1339.

## 著書

- 1) 北村 伸: [分担] その他の認知障害を来す疾患②せん妄, うつ病, 糖尿病など. 内科医のための認知症診療ははじめの一步 (浦上克哉), 2014; pp52-59, 羊土社.  
2) 北村 伸: [分担] 神経学的診察. 内科医のための認知症診療ははじめの一步 (浦上克哉), 2014; pp93-108, 羊土社.  
3) 北村 伸<sup>1)</sup>: [分担] 血管性認知症. 内科医のための認知症診療ははじめの一步 (浦上克哉), 2014; pp162-168, 羊土社.  
4) 北村 伸<sup>1)</sup>: [分担] ケーススタディ: 実際に診断してみよう. 内科医のための認知症診療ははじめの一步 (浦上克哉), 2014; pp194-211, 羊土社.  
5) 川西智也 (<sup>1)</sup> 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター): [分担] 地域連携を重視した認知症相談. 合格ナビ! 臨床心理士指定大学院研究計画書 (遠田 諭・福井博一・村山恭朗・サイコロジカルコーチングスクール C4), 2014; pp229-229, 東京図書.

## 学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 北村 伸: 血管性認知症の現在 シンポジウム4 血管性認知症; 身体医学の視点から. 日本老年医学会学術集会 (第55回) (東京), 2014. 6.  
2) 野村俊明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 認知症ケアのプロフェッショナリズム. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.

(2) 一般講演:

- 1) 北村 伸: 問診と神経学的診察 認知症診療の実際セミナー「認知症診療の実際」. 日本老年医学会学術集会 (第55回) (福岡), 2014. 6.  
2) 石渡明子<sup>1)</sup>, 林 俊行<sup>1)</sup>, 並木香奈子, 井上志津子, 長久美江子, 根本留美, 稲垣千草, 川西智也<sup>2)</sup>, 野村俊明, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 認知症相談センターの認知症早期診断における役割. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.  
3) 櫻村正美<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 認知症高齢者と介護家族に対する認知行動療法の可能性: 文献レビューを通して. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.  
4) 川西智也, 根本留美, 稲垣千草, 並木香奈子, 石渡明子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 認知症者とのやりとりで生じる介護家族の困難: 家族会での観察から. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.  
5) 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 並木香奈子, 石渡明子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 地域の認知症相談における家族支援: 副介護者の相談内容からの検討. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.  
6) 並木香奈子, 井上志津子, 長久美江子, 佐藤貞夫, 千代勝彦, 本田啓二郎, 湧口泰昌, 根本留美, 稲垣千草, 川西智也, 石渡明子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学医療心理学教室): 認知症市民公開講座の開催から考える認知症の理解. 日本認知症予防学会 (第4回) (東京), 2014. 9.

- 7) 根本留美<sup>1)</sup>, 川西智也<sup>1)</sup>, 稲垣千草<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>2)</sup>, 並木香奈子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 新潟リハビリテーション大学, 3) 日本医科大学医療心理学教室, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院神経内科) : 地域臨床における認知症早期発見のための MoCA-J の有用性について : 街ぐるみ認知症相談センターの取り組みからの検討. 日本老年精神医学会総会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 8) 稲垣千草<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 川西智也<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学医療心理学教室, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 地域の認知症相談からみる家族のニーズ : 街ぐるみ認知症相談センターにおける家族相談の検討より. 日本老年精神医学会 (第 29 回) (東京), 2014. 6.
- 9) 川西智也<sup>1)</sup>, 稲垣千草<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 並木香奈子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 北村 伸 (1) 日本医科大学街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学医療心理学教室) : 認知症に関連した健常な中高年のニーズ調査 : 属性との関連に着目して. 日本認知症ケア学会 (第 15 回) (東京), 2014. 5.
- 10) 石渡明子<sup>1)</sup>, 水村 直, 林 俊行<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野) : アルツハイマー病における脳血流と認知機能との相関 : 最大値参照法を用いて. 日本神経学会総会 (第 55 回) (福岡), 2014. 5.
- 11) 稲垣千草<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 川西智也<sup>1)</sup>, 並木香奈子<sup>1)</sup>, 石渡明子<sup>2)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野, 2) 日本医科大学医療心理学教室) : 健常/MCI 高齢者の認知症ケアのニーズ : 地域包括支援センターへのインタビューを通して. 日本認知症予防学会 (第 4 回) (東京), 2014. 9.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Nakamura Y<sup>1)</sup>, Kitamura S<sup>2)</sup>, Honma A<sup>3)</sup>, Shiosakai K<sup>4)</sup>, Matsui D<sup>5)</sup> (1) Kagawa University, Faculty of Medicine, Department of Neuropsychiatry, 2) Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Department of Internal Medicine, 3) Center for Dementia Care Research and Training in Tokyo, 4) Clinical Data & Biostatistics Department, Daiichi Sankyo Co., Ltd, Tokyo, Japan, 5) Medical Affairs Department, Daiichi Sankyo Co., Ltd, Tokyo, Japan) : Efficacy and safety of memantine in patients with moderate to severe Alzheimer's disease : results of a pooled analysis of two randomized, double-blind, placebo-controlled trials in Japan. Expert Opin. Pharmacother 2014 ; 15 (7) : 913-925.

## 31. 多摩永山病院付置施設等

### [多摩永山病院病理部]

#### 研究概要

最近は免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれている. 現在の主な研究テーマは以下の通りである. (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立. (2) 免疫細胞・組織化学 (サイトケラチン 7/20/34  $\beta$  E12/35  $\beta$  H11, MIB-1, Napsin A, Villin) を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立. (3) 乳腺腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立: 細胞転写法を用いて ER, PgR, HER2 蛋白質, MIB-1 指数の他, HER2 に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅 (CISH) の両方を検討する. 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究: HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について. (4) リンパ節病変 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ. 2) リンパ節病変の分子生物学的検索. 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学. (5) 中皮腫 1) 体腔液による細胞転写やセルブロックによる免疫細胞・組織化学, 電顕的検索を用いた早期治療に向けての診断の確立. (6) 骨軟部腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用) (7) 子宮癌 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用); とくにセルブロック法. この他, 国際交流活動の一環としてタイ国などからの留学生の受け入れも行っている.

#### 研究業績

##### 著書

- 1) 細根 勝: [分担] 32. 鼻根部発赤腫脹, 鼻腔内腫瘍. 見逃してはならない血液疾患—病理から見た 44 症例 (北川昌伸・定平吉都・伊藤雅文), 2014; pp188-198, 医学書院.
- 2) 細根 勝: [分担] 44. 右前腕の暗紫色ドーム状皮膚腫瘍を主訴に来院. 見逃してはならない血液疾患—病理から見た 44 症例 (北川昌伸・定平吉都・伊藤雅文), 2014; pp257-266, 医学書院.
- 3) 細根 勝: [分担] 原発性体腔液リンパ腫. リンパ腫アトラス (森 茂郎), 2014; pp154-157, 文光堂.
- 4) 細根 勝: [分担] その他の医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患. リンパ腫アトラス (森 茂郎), 2014; pp254-257, 文光堂.
- 5) 細根 勝: [分担] 芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍. リンパ腫アトラス (森 茂郎), 2014; pp348-351, 文光堂.

##### 学会発表

###### (1) 特別講演:

- 1) Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M (1) Life Science Medicine, Pathology and Cytology Center): Usefulness of FNA cytology of breast tumor and actual situation in Japan. Asian Breast Diseases Association (12th) (Indonesia), 2014. 10.
- 2) Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M (1) Life Science Medicine, Pathology and Cytology Center): The role of the fine needle aspiration cytology in the diagnosis of breast tumors: Why has FNA cytology not decreased in Japan?. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (22th) (Thailand), 2015. 1.

###### (2) 招待講演:

- 1) 細根 勝: もう一度! リンパ節細胞診の基本と最近の話題. 神奈川県臨床細胞学会細胞検査士研修会 (神奈川), 2015. 2.

###### (3) 教育講演:

- 1) Hosone M: FNAB of Lymph Nodes in 2014: Diagnostic Best Practice Utilizing a Cytomorphological Pattern Approach and Ancillary testing: FNAB Diagnosis of Heterogeneous and Large T-cell Lymphoma: Cytopathology of Mature T/NK-cell Lymphoma. The International Academy of Pathology 2014 (Bangkok, Thailand), 2014. 10.
- 2) 細根 勝: もう一度! 新 WHO 分類: 画像診断にも役立つ悪性リンパ腫分類の考え方. つきじ放射線研究会 (第 26 回) こんな時にこそ考える悪性リンパ腫 (東京), 2014. 10.
- 3) 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (1) LSI メディエンス病理・細胞診センター): 乳腺の細胞診. 平成 26 年度 東京都多摩がん検診センター第 3 回細胞検査士養成公開講座 (東京), 2014. 8.
- 4) 片山博徳: 免疫・迅速: 基礎から上級まで. 中級者のための病理技術 STEP UP 同学院講習会 (第 1 回) (東京), 2014. 8.

###### (4) シンポジウム:

- 1) Katayama H, Hosone M, Komatsu K<sup>1)</sup>, Miyajima Y<sup>2)</sup> (1) Japanese Foundation for Cancer Research Clinical pathology center chief technologists, 2) Japanese Association of Medical Technologists): Japanese BLS at present and in the future. Congress of Korean association of Medical Technologist (52th) (Korea), 2014. 5.
- 2) 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (1) LSI メディエンス病理・細胞診センター, 2) 統御機構・腫瘍学): 細胞診検体を

用いた分子形態学的診断の現状と展望：乳癌細胞診標本を用いた HER2 サブタイプ分類. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会（第 46 回）（東京），2014. 10.

- 3) Maeda S<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Aoki T<sup>1)</sup>, Hayashi K<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M ( <sup>1)</sup> Life Science Medicine, Pathology and Cytology Center) : How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : Utility of the cell transfer method and/or the cell block method for immunochemical staining. International Congress of the International Academy of Pathology (30th) (Thailand), 2014. 10.

(5) セミナー：

- 1) 井川 修<sup>1)</sup>, 細根 勝, 新 博次 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科) : ヒト心臓解剖・病理標本展示 - 実臨床に役立つ心臓解剖ミニレクチャー①ヒト心臓標本の観察ポイント：右心系の注目点. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (東京), 2014. 7.
- 2) 井川 修<sup>1)</sup>, 細根 勝, 新 博次 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科) : ヒト心臓解剖・病理標本展示 - 実臨床に役立つ心臓解剖ミニレクチャー②ヒト心臓標本の観察ポイント：左心系の注目点. Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society (東京), 2014. 7.
- 3) 細根 勝：リンパ腫・骨髄・縦隔. 細胞診断学セミナー（第 39 回）（東京），2014. 8.

(6) ワークショップ：

- 1) Hosone M, Katayama H, Arai S, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School) : Diagnostic Cytology of Mature T/NK-cell Lymphoma. Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (The 22nd) (Phuket, Thailand), 2015. 1.

(7) 一般講演：

- 1) 柳田裕美, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 新井 悟, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学統御機構・腫瘍学, <sup>2)</sup> 三菱化学メディエンス) : 子宮頸部細胞診にて再発が推定された悪性リンパ腫の 1 例. 日本臨床細胞学会総会（第 55 回）（横浜），2014. 6.
- 2) 細根 勝：新報告様式に基づいたリンパ節穿刺吸引細胞診の有用性と問題点. 日本臨床細胞学会秋期大会（第 53 回）（山口），2014. 11.
- 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 大森美和子<sup>1)</sup>, 小林有紀<sup>1)</sup>, 細根 勝, 新井 悟, 白田実男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 呼吸器外科) : 非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対する Elrotinib の使用経験. 日本肺癌学会学術集会（第 55 回）（京都），2014. 11.
- 4) Hosone M, Arai S, Higashi N<sup>1)</sup>, Osada S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, Department of Dermatology, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, Department of Pathology) : CUTANEOUS INTRAVASCULAR NK/T-CELL LYMPHOMA MIMICKING ERYTHEMA NODOSUM AND DEEP VEIN THROMBOSIS : A CASE REPORT. Meeting of the European Association for Haematopathology (17th) (イスタンブール), 2014. 10.
- 5) 柳田裕美, 細根 勝, 新井 悟, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 丹野正隆<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> LSI メディエンス, <sup>3)</sup> 新百合ヶ丘総合病院, <sup>4)</sup> 病理学統御機構・腫瘍学) : 悪性リンパ腫の再発を子宮頸管細胞診にて推定し得た 1 例. 日本医科大学医学会総会（第 82 回）（東京），2014. 9.
- 6) 磯部宏昭, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 新井 悟, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学統御機構・腫瘍学, <sup>2)</sup> 三菱化学メディエンス) : 乳腺 Solid papillary carcinoma の 2 症例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第 53 回）（下関），2014. 10.
- 7) 岩瀬裕美, 細根 勝, 新井 悟, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 日吾美栄子, 平田知己<sup>1)</sup>, 竹内千枝<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 丹野正隆<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> LSI メディエンス, <sup>3)</sup> 新百合ヶ丘総合病院, <sup>4)</sup> 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 高感度検出系試薬を用いた肺癌における ALK 免疫染色の検討. 日本医科大学医学会総会（第 82 回）（東京），2014. 9.
- 8) 北川泰之<sup>1)</sup>, 丸山 剛<sup>1)</sup>, 牧野 晃<sup>1)</sup>, 今野俊介<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 新井 悟, 細根 勝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup> 整形外科) : 10 年の経過を有した下腿皮下 angiofibroma of soft tissue の 1 例. 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会（第 47 回）（大阪），2014. 7.
- 9) 北川泰之<sup>1)</sup>, 丸山 剛<sup>1)</sup>, 牧野 晃<sup>1)</sup>, 今野俊介<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 高井信朗<sup>2)</sup>, 新井 悟, 細根 勝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院整形外科, <sup>2)</sup> 整形外科) : 軟部腫瘍に対する穿刺吸引細胞診の臨床的意義. 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会（第 47 回）（大阪），2014. 7.
- 10) Maeda S<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Aoki T<sup>1)</sup>, Hayashi K<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M ( <sup>1)</sup> Life Science Medicine, Pathology and Cytology Center) : Is it possible to make a definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology ? . European Congress of Cytology (38th) (Switzerland), 2014. 9.

(8) スライドカンファレンス：

- 1) 片山博徳：スライドカンファレンス乳腺. 日本臨床細胞学会・学術集会（第 33 回）（東京），2014. 7.

## 論文

### 〔追加分〕

追加分症例報告：

- 1) 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松田明久<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 片山博徳, 丹野正隆 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科) : Siewert type II 食道胃接合部腺癌に対し胸腔鏡下食道切除術を施行した1例. 日医大医会誌 2013 ; 9 (3) : 160-163.

## 著書

追加分：

- 1) 細根 勝, 丹野正隆, 片山博徳, 磯部宏昭, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : [追加分 分担] 第2部 細胞診の実際とトピックスリンパ節：悪性. 病理と臨床 Pathology and Clinical Medicine (羽場礼二, 内藤善哉), 2013 ; pp360-371, 文光堂.
- 2) 片山博徳, 細根 勝, 丹野正隆, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, <sup>2)</sup> 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : [追加分 分担] 第1部 細胞診の基本 1. 細胞診断の基本 術中迅速細胞診. 病理と臨床 Pathology and Clinical Medicine (羽場礼二, 内藤善哉), 2013 ; pp53-62, 文光堂.

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) 片山博徳, 細根 勝, 東 敬子, 磯部宏昭, 益田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 前田昭太郎, 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> 病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 細胞転写法を用いた免疫細胞化学的染色による検討：特に中皮腫細胞と中皮細胞の鑑別について. 日本医科大学医学会総会 (第81回) (東京), 2013. 9.
- 2) 長田真一<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>2)</sup>, 細根 勝, 朝山敏夫<sup>3)</sup>, 近藤麻加<sup>3)</sup>, 中村弘之<sup>3)</sup>, 田中 徹<sup>4)</sup>, 古賀浩嗣<sup>5)</sup>, 橋本 隆<sup>5)</sup>, 川名誠司<sup>5)</sup> <sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩永山内科・循環器内科, <sup>3)</sup> 付属血液内科, <sup>4)</sup> 付属呼吸器内科, <sup>5)</sup> 久留米大皮膚科, <sup>6)</sup> 付属皮膚科) : 多発肺塞栓症, 高カテコラミン血症を合併した腫瘍随伴性天疱瘡の1例. 水疱症研究会 (第35回) (大分), 2013. 10.
- 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 白田実男<sup>2)</sup>, 細根 勝, 片山博徳 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院 呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 呼吸器外科) : Rankl 抗体 (Denosumab) 投与後, 骨転移および肺転移が縮小した肺扁平上皮癌の1例. 日本肺癌学会総会 (第54回) (東京), 2013. 11.
- 4) 丸木雄太<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士<sup>1)</sup>, 小杉友紀<sup>1)</sup>, 春日祐介<sup>1)</sup>, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 安積貴年<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 細根 勝 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院消化器科) : 高Ca血症を伴ったPTHrP陽性肉腫様肝細胞癌と考えられた1例. 日本内科学会関東地方会例会 (第604回) (東京), 2014. 3.

## 〔多摩永山病院中央検査室〕

### 研究概要

中央検査室では、「診察前検査」「検体検査の当日報告」を中心に臨床検査業務を行っている。平成26年4月からの新体制において、機器、試薬等の開発に対し協力を行い、また院内感染対策において積極的な関与を行った。また11月には検査システム、測定機器の更新を実施し、検査の精度と安全性が担保され、多様な検査への対応が可能となった。免疫検査においては、多様な測定系を有し、今後の臨床検査発展に対し寄与できると考える。また輸血分野においては、次世代の全自動輸血検査システムを導入し、輸血検査標準化への一翼を担うものと思われる。この状況下において検体検査部門では、発売前の測定機器、試薬等の性能評価を中心に学術活動を行った。また地域貢献として、生化学検査における精度管理研究会、性感染症予防教室、脳死患者対応セミナーなどに講師を派遣した。今後は、多摩地区の中心的な検査室を目指し、臨床検査業務を充実、発展させ、情報発信を行う。今年度の主な研究は下記のとおりである。1) CK-MB蛋白定量測定試薬「LタイプワコーCK-MBmass」の基礎的検討2) 新型全自動凝固測定装置 (CS-2500) の基礎的検討3) 液状マルチキャリブレーターの基礎的検討

### 研究業績

#### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 松田一平：知っておきたい輸入感染症：話題の感染症に対応するには？. 東京都臨床検査技師会都臨技フォーラム (東京都), 2015. 3.

(2) セミナー：

- 1) 井上 淳：外部委託先の精度管理. 多摩地区生化学精度管理研究会 (第3回) (東京都), 2015. 1.
- 2) 井上 淳：検査機器の精度を維持するには. 多摩地区生化学精度管理研究会 (第4回) (東京都), 2015. 2.



- 3) 久保田稔：ABR/EEG. 日本小児救急医学会（第28回）（神奈川県），2014. 6.
  - 4) 久保田稔：ABR・EEG（2014年救急医療における脳死患者の対応セミナー）. 日本臓器移植ネットワーク本部（神奈川県），2014. 11.
  - 5) 久保田稔：脳死下臓器提供における役割（2014年救急医療における脳死患者の対応セミナー）. 日本臓器移植ネットワーク本部（神奈川県），2014. 11.
  - 6) 久保田稔：脳死判定・重症意識における脳波検査のポイント. 関東神経生理検査技術研究会・日曜講習会（第51回）（東京都），2015. 1.
  - 7) 杉原秀人：TMI 世話人施設における血液培養の現状. 多摩地区微生物検査ネットワーク（東京都），2015. 3.
  - 8) 松田一平：正しい知識と方法で. 東京都臨床検査技師会 STI（性感染症）予防教室（東京都），2014. 6.
- (3) 一般講演：
- 1) 渡部百合子，作間俊介，榎本純子，野路佳子，成定朋美，井上 淳，平田知己：新型全自動凝固測定装置（CS-2500）の基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会（第46回）（兵庫県），2014. 10.
  - 2) 四田千穂美，成定朋美，大堀昂平，鈴木 亮，井上 淳，平田知己：液状マルチキャリプレーター（仮称）の基礎的検討. 東京都医学検査学会（第10回）（東京都），2014. 11.
  - 3) 成定朋美，井上 淳，四田千穂美，大堀昂平，渡部百合子，平田知己：CK-MB 蛋白定量測定試薬「L タイプワコー CK-MBmass」の基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会（第46回）（兵庫県），2014. 10.
  - 4) 丸山 弘<sup>1)</sup>，田中 愛<sup>1)</sup>，山本 愛<sup>1)</sup>，磐井佑輔<sup>1)</sup>，角田 隆<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>1)</sup>，鈴木美子（<sup>1)</sup> 感染制御部）：救命センターにおける MRSA 積極的監視培養. 日本環境感染学会総会・学術集会（第30回）（兵庫県），2015. 2.

## [多摩永山病院薬剤部]

### 研究概要

当薬剤部では、今年度10月より病棟における医療スタッフの負担軽減、医療安全及び薬物療法の質的向上を目的として薬剤師を全病棟に専従配置を実施した。このことはチーム医療の一員として患者への薬物療法に対する安全管理また薬物の適正使用に対し、薬剤師の職能を十分に発揮することが強く求められている。このような状況の中、以前より一部の病棟で実施してきた病棟専従薬剤師の医療安全への貢献について研究し薬剤師専従の有用性について発表した。また、地域での他病院との連携で糖尿病関連の成果をまとめ、発表した。今後は、病棟専従として薬剤師の職能を十分発揮し、より良い薬物治療の推進、適正使用の向上、また医薬品の安全管理に努力を積み重ね、貢献できるよう努力しなければならないと考えている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 名嘉真香小里<sup>1)</sup>，亀山明美，国貞真世<sup>2)</sup>，森 貴幸<sup>3)</sup>，井上 岳<sup>4)</sup>，宮川高一<sup>5)</sup>，大野 敦<sup>5)</sup>，杉山 徹<sup>5)</sup>，鈴木洋介<sup>5)</sup>，住友秀孝<sup>5)</sup>，関口芳弘<sup>5)</sup>，松下隆哉<sup>5)</sup>，宮城調司<sup>5)</sup>，矢島 賢<sup>5)</sup>，吉田敦行<sup>5)</sup>，その他4名（<sup>1)</sup> 高村内科クリニック外来，<sup>2)</sup> 多摩センタークリニックみらい，<sup>3)</sup> くにたちウラン薬局，<sup>4)</sup> 北里大学薬学部治療学III教室，<sup>5)</sup> 糖尿病療養者のためのセミナー）：リサーチマインドをもつ医療スタッフへ行う臨床研究の作り方のセミナー. 日本糖尿病学会年次学術集会（第57回）（大阪国際会議場），2014. 5.
- 2) 亀山明美，杉原加寿子，加藤浩子，村田和也：インスリンデグルクへ切り替えに伴う有効性・安全性の検討. 日本くすりと糖尿病学会学術集会（第3回）（アクロス福岡），2014. 11.
- 3) 淡路健作，田杭直哉，菅谷量俊，椎野元裕，村田和也：金属カチオン含有薬剤と薬効低下を起こす薬剤の相互作用予防に関する取り組み. 日本薬学会（第135年会）（神戸），2015. 3.
- 4) 嶋田紗知<sup>1)</sup>，加藤浩子，菅原加奈美<sup>2)</sup>，得田保雄<sup>3)</sup>，中澤 舞<sup>2)</sup>，波田博文<sup>4)</sup>，村田里佳<sup>5)</sup>，矢島 賢<sup>6)</sup>，吉田敦行<sup>7)</sup>，和田 茜<sup>8)</sup>，杉山徹<sup>9)</sup>，松下隆哉<sup>9)</sup>，住友秀孝<sup>9)</sup>，藤井仁美<sup>9)</sup>，関口芳雄<sup>9)</sup>，その他7名（<sup>1)</sup> あきしま相互病院，<sup>2)</sup> 立川相互病院，<sup>3)</sup> 日野市立病院，<sup>4)</sup> 小平薬局天神，<sup>5)</sup> 公立昭和病院，<sup>6)</sup> 国家公務員共済組合連合会立川病院，<sup>7)</sup> 近藤医院，<sup>8)</sup> 東京医科大学八王子医療センター，<sup>9)</sup> 糖尿病療養担当者のためのセミナー実行委員会）：糖尿病療養担当者のためのセミナーにて初心者を対象とした「糖尿病はじめてコース」アンケート結果から見えた事. 日本糖尿病学会年次学術集会（第57回）（大阪），2014. 5.
- 5) 波田博文<sup>1)</sup>，加藤浩子，菅原加奈美<sup>2)</sup>，得田保雄<sup>3)</sup>，村田里佳<sup>4)</sup>，吉田敦行<sup>5)</sup>（<sup>1)</sup> 小平薬局天神，<sup>2)</sup> 立川相互病院，<sup>3)</sup> 日野市立病院，<sup>4)</sup> 公立昭和病院，<sup>5)</sup> 近藤医院）：多職種アンケートから探る  $\alpha$ -GI による低血糖への対処に関する調査. 日本薬剤師会学術大会（第47回）（山形），2014. 10.
- 6) 波田博文<sup>1)</sup>，加藤浩子，嶋田紗知<sup>2)</sup>，菅原加奈美<sup>3)</sup>，得田保雄<sup>4)</sup>，中澤 舞<sup>3)</sup>，村田里佳<sup>5)</sup>，矢島 賢<sup>6)</sup>，吉田敦行<sup>7)</sup>，和田 茜<sup>8)</sup>，杉山徹<sup>9)</sup>，松下隆哉<sup>9)</sup>，住友秀孝<sup>9)</sup>，藤井仁美<sup>9)</sup>，関口芳夫<sup>9)</sup>，その他7名（<sup>1)</sup> 小平薬局天神，<sup>2)</sup> あきしま相互病院，<sup>3)</sup> 立川相互病院，<sup>4)</sup>

日野市立病院, 5) 公立昭和病院, 6) 国家公務員共済組合連合会立川病院, 7) 近藤医院, 8) 東京医科大学八王子医療センター, 9) 糖尿病療養担当者のためのセミナー実行委員会):  $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬による低血糖への対処に関する多職種アンケート調査, 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 57 回) (大阪), 2014. 5.

- 7) 杉原加寿子, 近藤匡慶, 下道友莉恵, 田杭直哉, 亀山明美, 菅谷量俊, 村田和也: 当院における薬剤師病棟常駐による医療安全面に関する評価, 医療薬学フォーラム 2014 クリニカルファーマシーシンポジウム (第 22 回) (東京), 2014. 6.
- 8) 高山喜光, 深尾彰平, 吉田真人, 近藤匡慶, 淡路健作, 堀川佳津美, 村田和也: 当院での経口オピオイド鎮痛薬使用患者における緩下剤の使用状況調査, 日本医療薬学会年会 (第 24 回) (名古屋), 2014. 9.

## [多摩永山病院消化器科]

### 研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指すとともに, 消化器疾患に関する臨床研究を行っている. 研究活動としては, 1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を, 上部および下部消化管内視鏡検査を用いて解析している. 具体的には, *Helicobacter pylori* 感染や非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や *Helicobacter pylori* の 2 次除菌, 3 次除菌における有効性の比較検討, 透析患者における尿素呼吸試験を含めた *Helicobacter pylori* の存在診断法の検討, 食道胃逆流症, 機能性胃症, 過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析, および, 逆流性食道炎や胃潰瘍の発生機序に関して, 基礎および臨床疫学的な研究を行っているほか, 2) 胃癌 ESD に及ぼす抗凝固薬の影響を検討している. また 3) C 型慢性肝炎に対するインターフェロン, リバビリン, プロテアーゼ阻害薬併用および経口 2 剤による治療効果と副作用の発現について検討し症例を蓄積中である. さらに 4) 炎症性腸疾患, とくに潰瘍性大腸炎に対する病態の解析を試み, 白血球 (顆粒球) 吸着療法, および抗 TNF 製剤による治療の症例も蓄積している. また 5) モンゴル, 中国, 韓国, ベトナム, タイ, ネパール, ミャンマー, バングラデシュなどの国々において *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患の現状と, 背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている. 特に, 平成 22 年度 4 月より大分大学との共同研究「アジア諸国における *Helicobacter pylori* 感染の実態と胃発癌機序の解明」が始まっているほか, 胆汁酸逆流が胃粘膜に及ぼす影響についても共同研究を行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 植木信江, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 中村洋<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学リウマチ科): NSAIDs 関連潰瘍合併症の代用マーカーである無症候性内視鏡的消化性潰瘍からの潜在性出血における抗血栓薬の関与. *Gastroenterological Endoscopy* 2014; 56 (6): 2019-2027.
- 2) Kawami N, Iwakiri K<sup>1)</sup>, Sano H<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学): Effects of aging and acid reflux on esophageal motility. *Digestion* 2015; 91 (3): 181-186.
- 3) 松久威史: *Helicobacter pylori* 感染と生活習慣病. *Helicobacter Research* 2014; 18 (5): 431-435.
- 4) Kawai T<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Sasaki H<sup>1)</sup>, Nagahara A<sup>1)</sup>, Asaoka D<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Masaoaka T<sup>1)</sup>, Nishizawa T<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1)</sup>, Ito M<sup>1)</sup>, Kurihara N<sup>1)</sup>, Omata F<sup>1)</sup>, Mizuno S<sup>1)</sup>, Torii A<sup>1)</sup>, et al. (1) Tokyo Helicobacter pylori study group): Changes in the first line *Helicobacter pylori* eradication rates using the triple therapy—a multicenter study in the Tokyo metropolitan area. *J Gastroenterol Hepatol* 2014; 29 (Suppl) (4): 29-32.
- 5) Matsuhisa T, Tsukui T: The first line eradication rate for *Helicobacter pylori* infection in functional dyspepsia patients. *Journal of Gastroenterology and Hepatology Research* 2014; 3 (7): 1156-1161.

##### (2) 総説:

- 1) 三宅一昌<sup>1)</sup>, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院消化器内科): 長期低用量アスピリンによる消化管出血の特徴. *日本高齢消化器病学会誌* 2014; 16 (2): 39-44.

##### (3) 症例報告:

- 1) 鈴木将大<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 大森 順, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 小腸濾胞性リンパ腫に随伴する小腸狭窄の 2 例. *消化と吸収* 2014; 37 (1): 39-39.

##### (4) 解説/特集:

- 1) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 大森 順, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 杉浦陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学): 【小腸潰瘍の鑑別診断】分類困難な小

## 著書

- 1) 植木信江 : [分担] CASE1 FP/RT 療法における消化器毒性 (食欲不振) Grade3/CASE3 FP 療法における消化器出血. がん化学療法における有害事象管理の実践 第二版改訂新版 (末永光邦, 横山雅大), 2014; pp3-8, 日本医学館.

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション :

- 1) 山脇博士, 二神生爾<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : [FD の亜分類と治療選択] EPS, PDS, EPS-PDS overlap 群における睡眠障害, QOL, 胃排出能の比較検討の試み. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.

### (2) ワークショップ :

- 1) 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 大森 順, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, その他 1 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : [小腸内視鏡の最新の工夫] 原因不明の消化管出血における小腸外病変の検討. 日本消化器内視鏡学会関東支部例会 (第 98 回), 2014. 6.
- 2) 山脇博士<sup>1)</sup>, 二神生爾, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : [FGID の病態生理学と脳腸相関研究の進歩] LPS 前投与 urocortin 1 脳槽内投与ラットにおける消化管粘膜局所の炎症及び胃排出能と小腸通過時間の比較検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.

### (3) 一般講演 :

- 1) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 大森 順, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器肝臓内科) : 大腸がんにおける Heregulin の発現は ErbB3 のリン酸化を介して血管新生を促進する. 日本消化器病学会大会 (第 56 回), 2014. 9.
- 2) 藤森俊二<sup>1)</sup>, 大森 順, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, その他 3 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 潰瘍性大腸炎の症状緩和における probiotics, prebiotics 単独投与および同時投与 (synbiotics) の比較検討. 日本消化器病学会 (第 45 回), 2014. 11.
- 3) 江原彰仁<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 藤本俊二<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : ダブルバルーン内視鏡が有用であった小腸憩室 11 症例の検討. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.
- 4) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 高橋陽子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 大腸がんにおけるリン酸化上皮成長因子受容体ファミリーの局在と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.
- 5) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 大森 順, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士, 小高康裕<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江, 小林 剛<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, その他 1 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 切除不能胃がん症例における予後スケール作成の試み (第 2 報). 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.
- 6) 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 玉木祐希江<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, その他 2 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器肝臓内科) : カプセル内視鏡における小腸検査及び診断の変遷. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回), 2014. 5.
- 7) 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>2)</sup>, 秋元直彦<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鈴木将大<sup>1)</sup>, 馬來康太郎<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>1)</sup>, 玉木祐希江<sup>1)</sup>, 松浦陽子<sup>1)</sup>, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 瀬尾継彦<sup>1)</sup>, 三井啓吾<sup>1)</sup>, 米澤真興<sup>1)</sup>, 田中 周<sup>1)</sup>, その他 2 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : ジクロフェナクとロキソプロフェンの小腸粘膜傷害の比較検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回), 2014. 5.
- 8) 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 佐藤ひとみ<sup>1)</sup>, 丸木雄太, 山脇博士, 小高康裕<sup>1)</sup>, 川見典之, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 三宅一昌, 岩切勝彦, 星原芳雄, 大橋隆治, その他 2 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器肝臓内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 食道癌組織における Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現の解析 STAT3 を介した VEGF 産生. 日本消化器病学会大会 (第 56 回), 2014. 9.
- 9) 二神生爾<sup>1)</sup>, 山脇博士, 佐藤ひとみ<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 消化管運動と薬剤 FD 患者における睡眠障害に及ぼす因子の検討. 日本臨床生理学会総会 (第 51 回), 2014. 11.
- 10) 山脇博士, 二神生爾<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 機能的胃腸症の病態・治療 EPS-PDS overlap 群における睡眠障害, QOL, 胃排出能の比較検討の試み. 胃病態機能研究会 (第 46 回), 2014. 8.
- 11) 大森 順, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 山脇博士, 山田章善<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名児耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江, 楠 正典<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器内科学) : 化学療法が著効した高齢 (80 歳以上) 切除不能胃癌の 2 例. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.

- 12) 丸木雄太, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 大森 順, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学, 2) 日本医科大学消化器外科): ESMO Group2 進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京国際フォーラム), 2014. 4.
- 13) 丸木雄太, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 大森 順, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学, 2) 日本医科大学 消化器外科): ESMO Group2 と診断した進行切除不能大腸がんの治療成績. 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (パシフィコ横浜), 2014. 8.
- 14) 丸木雄太, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 大森 順, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学, 2) 日本医科大学 消化器外科): 当科における Regorafenib の使用経験. 日本消化器関連学会週間 (第 22 回) (神戸国際展示場), 2014. 10.
- 15) 丸木雄太, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 大森 順, 江原彰仁<sup>1)</sup>, 小林 剛<sup>1)</sup>, 植木信江, 辰口篤志<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 菅 隼人<sup>2)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学, 2) 日本医科大学 消化器外科): ESMO Group2 と診断した進行切除不能大腸がんの治療の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 52 回) (京王プラザホテル), 2015. 2.
- 16) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): アカラシアバルーン拡張術の最新の短期及び長期治療成績. 日本消化器関連学会週間 (JDDW) (第 22 回) (神戸国際展示場), 2014. 10.
- 17) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 竹之内菜葉<sup>1)</sup>, 梅澤まり子<sup>1)</sup>, 星野慎太郎<sup>1)</sup>, 佐野弘仁<sup>1)</sup>, 田中由理子<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学): 食道蠕動収縮力と排出時間の関係. 日本食道学会学術集会 (第 68 回), 2014. 7.
- 18) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 加齢の食道運動機能に与える影響. 食道運動機能研究会 (第 7 回), 2014. 6.
- 19) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器内科学): 食道蠕動収縮力と排出時間の関係. Shining conference (6th), 2014. 10.
- 20) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 加齢と食道運動機能. The Barrett Club Meeting, 2014. 5.
- 21) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): アカラシアの type 分類に迷う症例. Shining conference (5th), 2014. 4.
- 22) 川見典之, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 難治性 GERD の病態と治療 PPI 倍量抵抗性 NERD 患者の病態と治療. 日本消化器病学会総会 (第 100 回), 2014. 4.
- 23) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 小杉友紀, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 大森 順, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士, 小高康裕<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江, 小林 剛<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, その他 1 名 (1) 日本医科大学消化器内科学): 切除不能胃がん症例における予後スケール作成の試み (第 2 報). 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京国際フォーラム), 2014. 4.
- 24) 大森 順, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太<sup>1)</sup>, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 山脇博士, 山田章善<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 植木信江, 楠 正典<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 化学療法が著効した高齢 (80 歳以上) 切除不能胃癌の 2 例. 日本消化器病学会総会 (第 100 回) (東京国際フォーラム), 2014. 4.
- 25) 植木信江, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 胃腫瘍に対する ESD 後出血における抗血栓薬の影響. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 87 回) (福岡), 2014. 5.
- 26) 河越哲郎<sup>1)</sup>, 丸木雄太, 大森 順, 小杉友紀, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 植木信江, 小林 剛<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 切除不能胃がん予後スケール作成の試み (第 2 報). 日本癌治療学会学術集会 (第 52 回) (パシフィコ横浜), 2014. 8.
- 27) 植木信江, 鮑本哲兵<sup>1)</sup>, 山田章善<sup>1)</sup>, 山脇博士, 小高康裕<sup>1)</sup>, 名見耶浩幸<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 楠 正典<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 三宅一昌<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器内科学): 抗血栓薬が胃 ESD 後潰瘍の治癒過程に及ぼす影響について. 日本消化器関連学会週間 (JDDW) (22), 2014. 10.
- (4) 症例報告:
- 1) 川見典之, 植木信江, 小杉友紀, 大森 順, 丸木雄太, 津久井拓, 齊藤明彦<sup>1)</sup>, 後藤 穰<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 坂本長逸<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 耳鼻咽喉科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科, 3) 日本医科大学付属病院 消化器肝臓内科): 水痘帯状疱疹ウイルスによる食道潰瘍, 反回神経麻痺を認め嚥下困難となった 1 例. 日本内科学会関東地方会 (第 613 回), 2015. 3.

## 論文

### {追加分}

追加分総説:

- 1) 松久威史, 岡本明彦<sup>1)</sup> (1) 岡本医院本院): 透析患者におけるピロリ菌除菌治療. 消化器内視鏡, 特集: 胃炎除菌時代の内視鏡診断 2013; Vol.25 (No.12): 2026-2027.
- 2) 村井隆三<sup>1)</sup>, 松久威史 (1) おなかクリニック): 東京都八王子市の内視鏡専門クリニックにおける Helicobacter pylori 診療の実際と課

題. *Helicobacter Research* 2013 ; 16 (6) : 546-552.

追加分原著 :

- 1) 松久威史, 津久井拓, 坂本長逸<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器内科) : 高齢者に対する *Helicobacter pylori* 除菌の意義についての検討. *Helicobacter Research* 2013 ; 17 (4) : 316-321.
- 2) Yamada S<sup>1)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Matsuhisa T, Makonkawkey L<sup>3)</sup>, Yoshida M<sup>4)</sup>, Chakrabandhu T<sup>1)</sup>, Lertprasertsuk N<sup>5)</sup>, Suttharat P<sup>1)</sup>, Chakrabandhu B<sup>1)</sup>, Nishiumi S<sup>4)</sup>, Chongraksut W<sup>1)</sup>, Azuma T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Gastrointestinal Surgery and Endoscopy, Department of Surgery, Chiang Mai University, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>4)</sup> Department of Gastroenterology, International Center for Medical Research and treatment, Kobe University School of Medicine, <sup>5)</sup> Department of Pathology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University) : Predominant mucosal IL-8 mRNA expression in non-cagA Thais is risk for gastric cancer. *World J Gastroenterol.* 2013 ; 21 (19) : 2941-2949.
- 3) Matsuhisa T, Arakawa T<sup>1)</sup>, Watanabe T<sup>2)</sup>, Tokutomi T<sup>3)</sup>, Sakurai K<sup>4)</sup>, Okamura S<sup>5)</sup>, Chono S<sup>6)</sup>, Kamada T<sup>7)</sup>, Sugiyama A<sup>8)</sup>, Fujimura Y<sup>9)</sup>, Matsuzawa K<sup>10)</sup>, Ito M, Yasuda M, Ota H, Haruma K<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Gastroenterological Surgery, Watanabe Hospital, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Tokutomi Clinic, <sup>4)</sup> Department of Gastroenterology and Hepatology, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, <sup>5)</sup> Digestive and Cardiovascular Medicine, University of Tokushima School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Internal Medicine, Machida Gastrointestinal Hospital, <sup>7)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, <sup>8)</sup> Department of Surgery, Sugiyama Clinic, <sup>9)</sup> Department of Internal Medicine, Center for Gastroenterology and Endoscopy, Kawasaki Hospital, Kawasaki Medical School, <sup>10)</sup> Department of Internal Medicine, Maruko Central General Hospital) : Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis and intestinal metaplasia : A multicenter study of 2283 cases. *Digestive Endoscopy* 2013 ; 25 (5) : 519-525.
- 4) Tomtitchong P, Tiemtanom S, Eiamtrakui S, Miki M, Matsuhisa T, Yamada N, Matsukura N : Gastroduodenal pathology in patients with asymptomatic gallbladderstones. *Hepatogastroenterology* 2014 ; 61 (129) : 236-239.

## 著 書

追加分 :

- 1) Asaoka D<sup>1)</sup>, Nagahara A<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Takahashi S<sup>2)</sup>, Tokunaga K<sup>2)</sup>, Kawai T<sup>3)</sup>, Kawakami K<sup>4)</sup>, Suzuki H<sup>5)</sup>, Suzuki M<sup>6)</sup>, Nishizawa T<sup>6)</sup>, Kirihara N<sup>7)</sup>, Ito M<sup>8)</sup>, Sasaki H<sup>1)</sup>, Omata F<sup>9)</sup>, Mizuno S<sup>10)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Juntendo University School of Medicine, <sup>2)</sup> Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>3)</sup> Endoscopy Center, Tokyo Medical University Hospital, <sup>4)</sup> Department of General Medicine and Primary Care, Tokyo Medical University Hospital, <sup>5)</sup> Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>6)</sup> Division of Gastroenterology, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>7)</sup> Department of Surgery, Nerima General Hospital, <sup>8)</sup> Department of Gastroenterology, Yotsuya Medical Cube, <sup>9)</sup> Division of Endoscopy, Department of Internal Medicine, St. Luke's International Hospital, <sup>10)</sup> and others) : [分担] Trends of Second-Line Eradication Therapy for *Helicobacter pylori* in Japan : A Multicenter Study in the Tokyo Metropolitan Area. *Helicobacter* 18 (Tetsuya Mine and Nobuhiro Sakaki), 2013 ; pp468-472, John Wiley & Sons Ltd.

## 学会発表

追加分一般講演 :

- 1) 松久威史<sup>1)</sup> : *H. pylori* 除菌適用疾患拡大のポイント, *H. pylori* 感染症 最近の話題 : 慢性胃炎除菌適用を踏まえて, 多摩 Hp 肝炎研究会 (第 18 回) (東京), 2013. 4.
- 2) 松久威史, Le-Sang K<sup>1)</sup>, Sunil-Sharma K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> チュンブン救急病院消化器科 : ベトナム, ホーチミン市, <sup>2)</sup> カトマンズ医科大学外科 : ネパール, カトマンズ) : 性差からみた日本人 (東アジア), ベトナム人 (東南アジア), ネパール人 (南アジア) の腺萎縮, 腸上皮化生. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 85 回) (京都), 2013. 5.
- 3) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, Le-Sang K<sup>2)</sup>, Hafeza A<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学教室, <sup>2)</sup> チュンブン救急病院消化器科 ベトナム, ホーチミン市, <sup>3)</sup> ダッカ医科大学消化器肝臓内科 バングラデシュ, ダッカ) : *H. pylori* 陽性ベトナム人 (東南アジア), バングラデシュ人 (南アジア) の胃粘膜. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第 19 回) (長崎), 2013. 6.
- 4) 佐々木仁<sup>1)</sup>, 永原章仁<sup>2)</sup>, 朝岡大介<sup>2)</sup>, 水野滋章<sup>3)</sup>, 川上浩平<sup>4)</sup>, 河合 隆<sup>5)</sup>, 正岡建洋, 鈴木秀和<sup>6)</sup>, 伊藤慎芳<sup>7)</sup>, 大草敏史<sup>8)</sup>, 小俣富美雄<sup>9)</sup>, 松久威史, 徳永健吾<sup>10)</sup>, 高橋信一<sup>10)</sup>, 西澤俊宏, その他 6 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院, <sup>2)</sup> 順天堂大学消化器内科, <sup>3)</sup> 日本大学肝臓消化器内科, <sup>4)</sup> 東京医科大学消化器内科, <sup>5)</sup> 東京医科大学内視鏡センター, <sup>6)</sup> 慶應義塾大学消化器内科, <sup>7)</sup> 四谷メディカル

- キューブ, <sup>8)</sup> 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, <sup>9)</sup> 聖路加国際病院内視鏡内科, <sup>10)</sup> 杏林大学第三内科 (他): 東京都内多施設共同調査における *Helicobacter pylori* 次, 2次除菌率. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.
- 5) 永原章仁<sup>1)</sup>, 松久威史, 伊藤楨芳<sup>2)</sup>, 水野滋章<sup>3)</sup>, 西澤俊宏<sup>4)</sup>, 栗原直人<sup>5)</sup>, 徳永健吾<sup>6)</sup>, 鈴木秀和<sup>7)</sup>, 鳥居 明<sup>8)</sup>, 鈴木雅之<sup>4)</sup>, 竹内義明<sup>9)</sup>, 小俣富美雄<sup>10)</sup>, 河合 隆, 大草敏史, 峯 徹哉, その他2名 (<sup>1)</sup> 順天堂大学消化器内科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ, <sup>3)</sup> 日本大学肝臓消化器内科, <sup>4)</sup> 国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>5)</sup> 練馬総合病院外科, <sup>6)</sup> 杏林大学第三内科, <sup>7)</sup> 慶應義塾大学消化器内科, <sup>8)</sup> 鳥居内科クリニック, <sup>9)</sup> 昭和大学消化器内科, <sup>10)</sup> 聖路加国際病院内視鏡内科 (他): ESD 治療可能な除菌後胃癌診断のための適正な内視鏡検査間隔の検討: 東京 Hp 研究会での多施設共同調査. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.
- 6) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup>, Hafeza A<sup>2)</sup>, Sunil Kt. S<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学病理学教室, <sup>2)</sup> ダッカ医科大学消化器肝臓内科: バングラデシュ, ダッカ, <sup>3)</sup> カトマンズ医科大学外科: ネパール, カトマンズ): 性差からみたバングラデシュ人, ネパール人 (南アジア) の腺萎縮, 腸上皮化生: 日本人 (東アジア) との比較. 日本消化器病学会大会 (第55回) (東京), 2013. 9.
- 7) 松久威史: 国民総除菌時代を迎えて. *Helicobacter* カンファレンス 2013 (東京), 2013. 10.
- 8) 松久威史: ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の除菌治療: 保険適用までの道のり. 多摩市消化器疾患懇話会 (第17回) (東京), 2013. 10.
- 9) Matsuhisa T, Le-Sang K<sup>1)</sup>, Hafeza A<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Gastroenterology, Trung Vuong Emergency Hospital, <sup>2)</sup> Department of Gastrointestinal and Liver diseases, Dhaka Medical College Hospital): Comparison of gastric mucosa between Vietnamese (Southeast Asia) and Bangladeshi (South Asia). Digestive Disease Week 2013 (Orlando, USA), 2013. 5.

追加分シンポジウム:

- 1) Matsuhisa T: *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosa in East, Southeast, and South Asian populations. *H. pylori* infection, early gastric cancer (Ulaanbaatar, Mongolia), 2013. 11.
- 2) 徳永健吾<sup>1)</sup>, 伊藤楨芳<sup>2)</sup>, 朝岡大介<sup>3)</sup>, 水野滋章<sup>4)</sup>, 松久威史, 佐々木仁, 永原章仁<sup>3)</sup>, 小俣富美雄<sup>5)</sup>, 正岡建洋, 鈴木秀和<sup>6)</sup>, 鳥居明<sup>7)</sup>, 栗原直人<sup>8)</sup>, 西澤俊宏<sup>9)</sup>, 鈴木雅之<sup>9)</sup>, 竹内義明<sup>10)</sup> (<sup>1)</sup> 杏林大学第三内科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ, <sup>3)</sup> 順天堂大学消化器内科, <sup>4)</sup> 日本大学肝臓消化器内科, <sup>5)</sup> 聖路加国際病院内視鏡内科, <sup>6)</sup> 慶應義塾大学消化器内科, <sup>7)</sup> 鳥居内科クリニック, <sup>8)</sup> 練馬総合病院外科, <sup>9)</sup> 国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>10)</sup> 昭和大学消化器内科): シタフロキサシンを用いた *H. pylori* 3次除菌療法: 東京都内他施設検討. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.

追加分ワークショップ:

- 1) 松久威史, 岡本明彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 岡本医院本院): 透析患者における *Helicobacter pylori* 感染の観察. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.
- 2) 伊藤楨芳<sup>1)</sup>, 佐々木仁, 浅岡大介<sup>2)</sup>, 永原章仁<sup>2)</sup>, 徳永健吾<sup>3)</sup>, 高橋信一<sup>3)</sup>, 竹内義明<sup>4)</sup>, 松久威史, 西澤俊宏<sup>5)</sup>, 鈴木雅之<sup>5)</sup>, 水野滋章<sup>6)</sup>, 峯 徹哉<sup>7)</sup>, 大草敏史<sup>8)</sup>, 小俣富美雄<sup>9)</sup>, 栗原直人<sup>10)</sup> (<sup>1)</sup> 四谷メディカルキューブ, <sup>2)</sup> 順天堂大学消化器内科, <sup>3)</sup> 杏林大学第三内科, <sup>4)</sup> 昭和大学消化器内科, <sup>5)</sup> 国立病院機構東京医療センター消化器科, <sup>6)</sup> 日本大学肝臓消化器内科, <sup>7)</sup> 東海大学消化器内科, <sup>8)</sup> 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, <sup>9)</sup> 聖路加国際病院内視鏡内科, <sup>10)</sup> 練馬総合病院外科): ペニシリンを用いないヘリコバクター除菌治療. 日本ヘリコバクター学会学術集会 (第19回) (長崎), 2013. 6.

追加分招待講演:

- 1) Matsuhisa T: *Helicobacter pylori* infection and gastroduodenal disease in East, Southeast and South Asian countries. 10th Japan-Korea Joint Symposium on *Helicobacter* Infection (Seoul, Korea), 2013. 5.

追加分特別講演:

- 1) 松久威史: *H. pylori* 感染診断, 除菌判定, 除菌後のピトフォル: 慢性胃炎除菌適用を踏まえて. 真壁医師会学術講演会 (茨城県真壁市), 2013. 5.
- 2) 松久威史: *Helicobacter pylori* 感染診断, 除菌治療を見直す: *Helicobacter pylori* 感染胃炎の除菌に向けて. 消化器・生活習慣病カンファレンス (薩摩川内市, 鹿児島), 2013. 6.
- 3) 松久威史: ヘリコバクター・ピロリ感染診断, 除菌治療を見直す: ヘリコバクター・ピロリ胃炎の除菌適用を踏まえて. 浜通りヘリコバクター・ピロリ研究会 (第3回) (いわき市), 2013. 7.

## 32. 千葉北総病院付置施設等

### [千葉北総病院集中治療室]

#### 研究概要

開設以来、重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態、診断、治療に係る研究を継続し、原著、症例報告、総説を含め国内外での誌上発表を行った。急性冠症候群については、冠動脈カテーテル治療の成績ならびに合併症について報告し、冠動脈解離の臨床的特徴、女性の心筋梗塞（特に若年者）の特徴についての研究を開始した。心不全については、急性腎障害についての研究継続とともに、重症度判定法としての新基準 APACHE-HF と心不全症例の季節による特徴を提唱した。肺循環については、旅行者血栓症を含めた肺血栓塞栓症についての研究を続けている。また、興味深い治療経過を呈した高齢者肺高血圧症例、劇症型心筋症、についての症例報告を行った。心停止後に入院した症例の神経学的保護を目的とした低体温療法の有用性、脳内酸素飽和度の臨床的意義ならびに最新の体表冷却装置の特長についての研究を継続している。その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法、急性血液浄化療法、呼吸管理法を中心に研究を継続している。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Okazaki H, Shirakabe A, Hata N, Yamamoto M, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : New scoring system (APACHE-HF) for predicting adverse outcomes in patients with acute heart failure : Evaluation of the APACHE II and Modified APACHE II scoring systems. *J Cardiology* 2014 ; 64 (6) : 441-449.
- 2) Shirakabe A, Kobayashi N, Hata N, Yamamoto M, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Prognostic impact of the serum heart-type fatty acid-binding protein (H-FABP) levels in patients admitted to the non-surgical intensive care unit. *Clin Res Cardiol* 2014 ; 103 (10) : 791-804.
- 3) Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Okazaki H, Shinada T, Tomita K, Yamamoto M, Tsurumi M, Matsushita M, Yamamoto Y, Yokoyama S, Asai K<sup>1)</sup>, Shimizu W<sup>1)</sup> (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Serum Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Level Can Be Used to Detect Acute Kidney Injury on Admission and Predict an Adverse Outcome in Patients With Acute Heart Failure. *Circ J* 2014 ; 79 (1) : 119-128.
- 4) Yamamoto Y, Shirakabe A, Hata N, Kobayashi N, Shinada T, Tomita K, Tsurumi M, Matsushita M, Okazaki H, Yokoyama S, Mizuno W<sup>1)</sup> (1) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Seasonal variation in patients with acute heart failure : Prognostic impact of admission in the summer. *Heart & Vessel* 2015 ; 130 (2) : 193-203.
- 5) Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Hata N, Shimizu W<sup>2)</sup> (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Reply to the Letter to the editor. "A comment on Thyrotoxic pericarditis". *Int J Cardiol* 2014 ; 175 (3) : 592-593.

###### (2) 総説：

- 1) 畑 典武：急性心不全における心腎連関（AKIの病態と対策）。*ICUとCCU* 2014 ; 38 (9) : 593-599.

#### 学会発表

##### (1) セミナー：

- 1) 小林宣明：教育セミナー5. ACS患者のプラークマネージメント「OCTでACSの機序に迫る」。日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.

##### (2) ワークショップ：

- 1) 齋藤伸行<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，金 徹<sup>2)</sup>，岡崎大武，鶴見昌史，富田和憲，品田卓郎，畑 典武 (1) 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター，2) 日本医科大学千葉北総病院 麻酔科)：当院における周術期静脈血栓塞栓症の疫学研究。日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.

##### (3) 一般講演：

- 1) 清田裕美，岡崎大武，宮國知世，澁谷淳介，加納誠士，鶴見昌史，白壁章宏，富田和憲，品田卓郎，横山真也，畑 典武，清水 渉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 循環器内科)：経口肺動脈拡張薬2剤併用が著効した重症肺動脈性肺高血圧症の1例。日本循環器学会関東甲信越

- 地方会（第232回）（東京），2014. 6.
- 2) Tsurumi M, Hata N, Takano M<sup>1)</sup>, Furuse E, Kano S, Okazaki H, Tomita K, Shinada T, Shimizu W<sup>2)</sup> (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Optical coherence tomography (OCT) identified plaque erosion in a young female with acute myocardial infarction : A case report. 日本心血管インターベンション治療学会（第23回）（名古屋），2014. 7.
  - 3) 塩村玲子：循環器疾患における心外合併症に対するカテーテル治療. 冠動脈疾患研究会（第5回）（東京），2014. 10.
  - 4) 小林宣明：臨床に生かす血管内イメージング：新旧モダリティーの比較. Cardiovascular Frontier（第1回）（東京），2014. 11.
  - 5) 澤谷倫史<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 内山沙央里<sup>1)</sup>, 福泉 偉<sup>1)</sup>, 志村徹郎<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 小宮山英徳<sup>1)</sup>, 山本哲平<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, その他3名 (1) 日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) : 発作性心房細動に伴う胸痛で受診し Type2MI と診断, CPAP が奏功している重症 OSAS 合併高血圧の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第234回）（東京），2014. 12.
  - 6) 岡崎大武, 内山沙央里, 古瀬領人, 鶴見昌史, 白壁章宏, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武, 清水 渉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学循環器内科) : 劇症型心筋症に横紋筋融解症を合併した A 型インフルエンザ (H1N1) の1例. 日本集中治療医学会学術集会（第42回）（東京），2015. 2.
  - 7) 岡崎大武 : New scoring system (APACHE-HF) for predicting adverse outcomes in patients with acute heart failure : Evaluation of the APACHE II and Modified APACHE II scoring systems. Next Generation Heart Failure Conference（東京），2015. 2.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Shinada T, Hata N, Yokoyama S, Kobayashi N, Tomita K, Shirakabe A, Tsurumi M, Okazaki H, Yamamoto Y : Usefulness of a surface cooling device (Arctic Sun®) for therapeutic hypothermia following cardiac arrest. J Cardiology 2014 ; 63 (1) : 46-52.

追加分症例報告 :

- 1) Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Goda H, Okazaki H, Shirakabe A, Yamamoto M, Okajima F<sup>2)</sup>, Emoto N<sup>2)</sup>, Hata N, Shimizu W<sup>3)</sup> (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dept of Endocrinology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School) : Acute pericarditis : Unique comorbidity of thyrotoxic crisis with Graves'disease. Int J Cardiol 2014 ; 171 (3) : e129-e130.

(1) 症例報告 :

## [千葉北総病院病理部]

## 研究業績

- 2) 池田真利子<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 角田陽平<sup>1)</sup>, 尾崎景子<sup>1)</sup>, 森 瑛子<sup>1)</sup>, 中田真理世<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 池田真利子<sup>1)</sup>, 羽鳥 努, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学附属病院女性診療科・産科) : 術前に診断し得た Angiomyofibroma の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2014 ; 32 (3) : 542-542.
- 3) 角田陽平<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 池田真利子<sup>1)</sup>, 森 瑛子<sup>1)</sup>, 尾崎景子<sup>1)</sup>, 中田真理世<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 渡辺美千明<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 羽鳥 努, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学附属病院女性診療科・産科) : 卵管発生と考えられた成熟嚢胞性奇形腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会雑誌 2014 ; 32 (3) : 525-525.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 山田 隆<sup>1)</sup>, 島津絢美, 山本晃人<sup>1)</sup>, 川瀬里衣子<sup>2)</sup>, 高屋 茜<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 土屋大祐<sup>3)</sup>, 羽鳥 努, 鴨井青龍<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科産科, 2) 日本医科大学附属病院女性診療科産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科産科) : 若年子宮体癌の高用量黄体ホルモン療法における経時的な内膜細胞像の検討. 日本臨床細胞学会総会春期大会（第55回）（横浜），2014. 6.
- 2) 相馬廣明<sup>1)</sup>, 多田正毅<sup>2)</sup>, 所 和夫<sup>2)</sup>, 吉成 勉<sup>2)</sup>, 吉浜 勲<sup>3)</sup>, 國場寛子<sup>1)</sup>, 藤田浩司<sup>4)</sup>, 峯尾松一郎<sup>4)</sup>, 小黒辰夫 (1) 埼玉医科大学産婦人科, 2) 厚友会 城西病院, 3) 東京医科大学電顕室, 4) 東京医科大学分子病理学) : 特異的な細胞間質像を示した子宮癌肉腫の超



微構造. 日本臨床分子形態学会総会・学術集会 (第 46 回) (東京都), 2014. 10.

- 3) 三枝順子, 京本晃典, 小黒辰夫, 飯塚幸人, 浅野伍郎, 内藤善哉, 羽鳥 努<sup>(1)</sup> 博慈会記念病院 病理部,<sup>(2)</sup> 日本医科大学病理学統御機構・腫瘍学): 上皮, 間葉系マーカー双方に陽性を呈した, ER 陽性乳癌の微細形態的検討. 日本臨床分子形態学会総会 (第 46 回), 2014. 10.

## [千葉北総病院中央検査室]

### 研究概要

平成 26 年度における当検査室の活動状況は, 平成 26 年 7 月に受審した財団法人日本医療機能評価機構よりの機能種別版評価項目 3rdG: Ver・1・0 を最も重要な課題として取り組んだ. また, 循環器内科を中心としたバスキュラーラボ関連検査のうち, 特に下肢静脈超音波検査を中心とした生理機能関連検査の充実に努めた. 本年度の取り組みとして学術的内容としては, ①輸血検査における適正な適合血選択の重要性を鑑み, 基礎的観点に立ち返り, 判定法の再確認. ②微生物関連検査として, 細菌性敗血症におけるプロカルシトニン有用性の検討や抗菌薬感受性検査の簡易化を目的とした検討. ③生理機能関連検査の中では, 睡眠時無呼吸症候群患者の頸動脈超音波検査との関連性や AHI と顎顔面計測についての検討. 心臓超音波検査における希少性の高い心房中隔血腫についての検討や, 運用後 1 年を経過した下肢静脈超音波検査の現況について検討. ③教育分野では, 人材育成における年度別内容の推移における検討が行われた. なお下記の業績は例年通り当検査室職員が筆頭名であるもの, および中心的役割を基本として掲載した. 今後も引き続き常に教育と技術水準の向上を目指すべく各種課題に取り組んで行く予定である.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 根本祐輔, 野本剛史, 清野精彦: 睡眠時無呼吸症候群患者の IMT 肥厚についての検討. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都), 2014. 9.
- 2) 嶋巻優理子, 野本剛史, 清野精彦: AHI と顎顔面計測との相関性について. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京都), 2014. 9.
- 3) 永井佑一, 町田幸雄, 野本剛史: 当院における下肢静脈超音波検査の検査状況について. 平成 26 年度日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 3 回) (千葉県木更津市), 2014. 9.

##### 追加分一般講演:

- 1) 永井敬子, 石渡統夫, 岡本直人, 野本剛史: 血液型検査の部分凝集から学ぶ適正な判断と適合血選択の重要性. 平成 26 年度日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 3 回) (千葉県木更津市), 2016. 9.
- 2) 海老沢有介, 木村裕子, 岡本直人, 野本剛史: 細菌性敗血症におけるプロカルシトニン測定の有用性の検討. 平成 26 年度日臨技首都圏支部医学検査学会 (第 3 回) (千葉県木更津市), 2016. 9.
- 3) 西村とき子, 亀山雅弥, 野本剛史, 稲見 徹, 清野精彦: 脳梗塞を契機に発見された心房中隔血腫の 1 例. 日本心臓病学会学術集会 (第 62 回) (宮城県仙台市), 2016. 9.
- 4) 岡本直人, 野本剛史: B 群溶レン菌における抗菌薬感受性検査簡易化の試み. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回大会) (兵庫県神戸市), 2016. 6.
- 5) 野本剛史, 岡本直人: 人材育成における年度別内容の推移: 特に目標設定の動向について. 日本臨床検査自動化学会 (第 46 回大会) (兵庫県神戸市), 2016. 6.

## [千葉北総病院薬剤部]

### 研究概要

平成 26 年度は全病棟に薬剤師を専従配置し 2 年目を迎えた. まだまだ若い薬剤師が多いなか, 各診療科のカンファレンス参加, また WEB 講演会, 研究会等に積極的に参加する薬剤師が多く見られ日々自己研鑽に励んでいる. そんな中, 専門薬剤師を目指していた数名が数年間の努力の成果が表れた年となった. 糖尿病療養指導士, 漢方薬生薬認定薬剤師, 緩和薬物療法薬剤師, 外来がん治療認定薬剤師がそれぞれ誕生した. 既取得のがん薬物療法認定薬剤師, 抗菌薬化学療法認定薬剤師, 救急専門薬剤師 N, ST 認定薬剤師を入れると着実に増えたことが伺える. 医療薬学会にエントリーした演題は, 優秀演題の候補になる評価の高い発表が出来た. 感染症における適正使用, 抗がん剤治療における安全対策など日々の業務の成果をまとめていくことは, 医療の質の向上にも貢献できるものと考えている. 今後は専門認定薬剤師取得者はそれぞれの領域の中核となり, 後輩育成することで部内全体のレベルアップを図り, 医師および看護師等の負担軽減を考慮した業務展開をしつつ, 適正かつ安全な医薬品の供給に貢献していきたい.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 浜田康次：最近 ARB 配合薬の処方が増えているにはなぜか？！. 治療 2014；96（5）：777-778.
- 2) 浜田康次：最近 ARB 配合薬の処方が増えているにはなぜか？！. 薬局 2014；65（6）：7-8.
- 3) 浜田康次：異見異聞，変わったもの，変わらないもの，変えなければならないもの. 薬事日報 2014；（11419）：5-5.
- 4) 浜田康次：ビスホスホネート系製剤の処方が多いのは月1回，週1回，それとも1日1回製剤？!. 薬局（南山堂）2014；65（8）：9-11.
- 5) 浜田康次：ビスホスホネート系製剤の処方が多いのは月1回，週1回，それとも1日1回製剤？!. 治療（南山堂）2014；96（7）：1023-1025.
- 6) 浜田康次：Nursing View 知っておきたい配合薬，その1，降圧薬の配合薬. 月刊ナーシング（学研）2014；34（10）：4-5.
- 7) 浜田康次：アルツハイマー型認知症治療薬のシェアはドネペジルの先発品 VS GE & 新薬？！. 薬局（南山堂）2014；65（10）：9-12.
- 8) 浜田康次：アルツハイマー型認知症治療薬のシェアはドネペジルの先発品 VS GE & 新薬？！. 治療（南山堂）2014；96（9）：1299-1302.
- 9) 浜田康次：異見異聞，敵は本能寺にあり，今こそ在宅医療を. 薬事日報 2014；（11470）：8-8.
- 10) 浜田康次：最新の保険査定事例から①. alfresa pharmacy news 2014；（227）：3-3.
- 11) 浜田康次：最新の保険査定事例から②. alfresa pharmacy news 2014；（229）：3-3.
- 12) 浜田康次：緑内障点眼薬の最新トレンド，シェアが急伸している薬は？！. 薬局（南山堂）2014；65（12）：9-12.
- 13) 浜田康次：緑内障点眼薬の最新トレンド，シェアが急伸している薬は？！. 治療（南山堂）2014；96（11）：1555-1558.
- 14) 浜田康次：最新の保険査定事例から③. alfresa pharmacy news 2014；（231）：3-3.
- 15) 浜田康次：Nursing View 知っておきたい配合薬，その2，降圧薬以外の配合薬. 月刊ナーシング（学研）2014；34（14）：8-9.
- 16) 浜田康次：最新の保険査定事例から④. alfresa pharmacy news 2014；（233）：3-3.
- 17) 浜田康次：ワルファリン VS 新規抗凝固薬（NOAC）シェアが多いのはどっち？！. 薬局（南山堂）2015；66（1）：9-11.
- 18) 浜田康次：ワルファリン VS 新規抗凝固薬（NOAC）シェアが多いのはどっち？！. 治療（南山堂）2015；97（1）：9-11.
- 19) 浜田康次：最新の保険査定事例から⑤. alfresa pharmacy news 2015；（235）：3-3.
- 20) 浜田康次：最新の保険査定事例から⑥. alfresa pharmacy news 2015；（237）：3-3.
- 21) 浜田康次：抗てんかん薬に新旧交代はあるか？. 薬局（南山堂）2015；66（3）：8-9.
- 22) 浜田康次：抗てんかん薬に新旧交代はあるか？. 治療（南山堂）2015；97（3）：304-305.
- 23) 浜田康次：最新の保険査定事例から⑦. alfresa pharmacy news 2015；（239）：3-3.
- 24) 丸 栄一<sup>1)</sup>，浦 裕之<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科）：グリアとてんかん焦点. Epilepsy：てんかんの総合学術誌 2014；8（1）：23-28.
- 25) 丸 栄一<sup>1)</sup>，浦 裕之<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経外科）：てんかんの病態生理—GABA<sub>A</sub> 受容体を中心に. 日本臨床 2014；72（5）：790-795.

#### (2) 特集 総合病院精神医学の新しい展開：

- 1) 太組一朗<sup>1)</sup>，浦 裕之，渡辺雅子<sup>2,3)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科，<sup>2)</sup> 国立精神・神経医療研究センター病院，<sup>3)</sup> おおみや西ロクリニック精神科）：総合病院におけるてんかん診療の課題 外科治療・新規抗てんかん薬・キャリアオーバー. 臨床精神医学 2014；43（6）：833-839.

### 著書

- 1) 浜田康次：〔監修〕総監修，1～3章，15章. 基礎からわかるハイリスク薬，2014；pp1-399，ナツメ社.
- 2) 浜田康次：〔分担〕わかりやすい薬剤情報提供のための一写真付/服薬指導 CD-ROM，2015；じほう.
- 3) 浜田康次<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 千葉北総病院薬剤部）：〔分担〕17章 やけど用薬 26章 強心薬 29章 排尿障害改善薬. 今日の OTC 薬—解説と便覧（改訂第3版）（中島恵美，伊東明彦），2015；pp400512532-405517541，南江堂.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 矢口 葵<sup>1)</sup>，宍戸玲太<sup>1)</sup>，柳澤宏明<sup>1)</sup>，平松祐哉<sup>1)</sup>，川上準子<sup>1)</sup>，星 憲司<sup>1)</sup>，青木空真<sup>1)</sup>，佐藤憲一<sup>1)</sup>，富口匡史<sup>2)</sup>，浜田康次<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 東北薬大 医薬情報科学教室，<sup>2)</sup> 日本アポック毛呂岩井薬局，<sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院薬剤部）：多剤処方における副作用発現重複評価ツール：処方解析と現場での有用性. 日本薬学会東北支部大会（第53回）（福島），2014. 10.
- 2) 平松祐哉<sup>1)</sup>，矢口 葵<sup>1)</sup>，宍戸玲太<sup>1)</sup>，柳澤宏明<sup>1)</sup>，大竹麻衣子<sup>1)</sup>，佐藤和佳子<sup>1)</sup>，川上準子<sup>1)</sup>，星 憲司<sup>1)</sup>，佐藤憲一<sup>1)</sup>，富口匡史<sup>2)</sup>，

- 浜田康次<sup>3)</sup> (1) 東北薬大 医薬情報科学教室, 2) 日本アポック毛呂岩井薬局, 3) 日本医科大学千葉北総病院薬剤部) : 多剤処方における副作用発現評価ツールの作成と臨床応用 : 保険薬局における処方解析. 日本薬学会 (第 135 年会) (神戸), 2015. 3.
- 3) 實川東洋<sup>1,2)</sup>, 片山皓希<sup>1)</sup>, 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 若松孝嘉<sup>3)</sup>, 齋藤伸行<sup>2,4)</sup>, 八木貴典<sup>4)</sup>, 原 義明<sup>4)</sup>, 松本 尚 (1) 千葉北総病院薬剤部, 2) 千葉北総病院感染制御部, 3) 千葉北総病院中央検査室, 4) 千葉北総病院救命救急センター) : 重症感染症における VCM 初回負荷投与設計に関する臨床効果の関係解析 : 有効性に関する検討. 日本医療薬学会 (第 24 回) (名古屋), 2014. 9.
- 4) 青野真弓<sup>1)</sup>, 中田千博<sup>1)</sup>, 實川東洋<sup>1)</sup>, 三上麻衣<sup>2)</sup>, 高市直子<sup>2)</sup>, 丸山美穂子<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>3)</sup>, 横瀬紀夫<sup>4)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部, 2) 千葉北総病院看護部, 3) 千葉北総病院輸液療法室, 4) 千葉北総病院化学療法委員会) : 電子カルテにおける抗がん剤累積投与量管理システムの導入. 千葉県病院薬剤師会会員研究発表会 (第 30 回) (千葉), 2015. 3.
- 5) 馬替 仁<sup>1)</sup>, 片山皓希<sup>1)</sup>, 實川東洋<sup>1)</sup>, 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 若松孝嘉<sup>2)</sup>, 柳下照子<sup>2)</sup>, 齋藤伸行<sup>3)</sup>, 八木貴典<sup>3)</sup>, 原 義明<sup>3)</sup>, 松本尚<sup>3)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部, 2) 千葉北総病院中央検査室, 3) 千葉北総病院救命救急センター) : 重症感染症における VCM の初回負荷投与が及ぼす腎障害発現に関する検討. 千葉重症感染症研究会 (第 10 回) (千葉), 2014. 6.
- 6) 青野真弓<sup>1)</sup>, 中田千博<sup>1)</sup>, 實川東洋<sup>1)</sup>, 三上麻衣子<sup>2)</sup>, 高市直子<sup>2)</sup>, 丸山美穂子<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部, 2) 千葉北総病院看護部) : 電子カルテにおける抗がん剤累積投与管理システムの導入. 日本医療薬学会 (第 24 回) (名古屋), 2014. 9.
- 7) 片山皓希<sup>1)</sup>, 實川東洋<sup>2,1)</sup>, 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup>, 若松孝嘉<sup>3)</sup>, 齋藤伸行<sup>2,4)</sup>, 八木貴典<sup>4)</sup>, 原 義明<sup>4)</sup>, 松本 尚 (1) 千葉北総病院薬剤部, 2) 千葉北総病院感染制御部, 3) 千葉北総病院中央検査室, 4) 千葉北総病院救命救急センター) : 重症感染症における VCM の初回負荷投与設計に関する臨床効果の関係解析 : 腎障害に関する検討. 日本医療薬学会 (第 24 回) (名古屋), 2014. 9.
- 8) 渡邊暁洋<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部) : 災害医療における薬剤師教育と学生教育について. 日本災害医療薬剤師学会 (第 4 回) (東京), 2015. 1.
- 9) 勝田 恵<sup>1)</sup>, 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 福田恵子<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部) : 多数傷病者発生時におけるエマルゴトレーニングに参加して. 日本災害医療薬剤師学会 (第 4 回) (東京), 2015. 1.
- 10) 松岡順子<sup>1)</sup>, 今村真沙美<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>1)</sup>, 笠原英城<sup>1)</sup>, 浦 裕之, 福田恵子, 太組一朗<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup>, 森田明夫<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科) : てんかん患者の服薬アドヒアランス向上にむけた薬剤管理指導に関する検討. 全国てんかんセンター協議会総会 2015 (東京), 2015. 2.
- (2) 分科会 :
- 1) 浦 裕之, 田中千尋, 渡邊暁洋, 福田恵子 : [急性期] 急性期病院における「薬剤シート」の運用状況. 千葉県脳卒中連携の会 (第 6 回) (幕張), 2015. 2.

## [千葉北総病院放射線センター]

### 研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。一般撮影部門では CR の画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている。MRI 検査部門では Raysum を用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の 3D Fusion Imaging また頸動脈狭窄症に対する diffusion と VHIVUS, OCT の検討, また SPGR を用いた AVMAVF に対する撮像法の検討を進めている。Angio 検査部門では OCT 画像における残存血液が与える影響について検討。RI 検査部門では SPECT における心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて、脳神経系についても行っている。放射線治療部門では放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。CT 検査部門では 3 次元 CT の信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

### 研究業績

#### 著書

- 丸山智之 : [分担] DR・IVR の読影方法スポーツ障害・外傷退行性疾患. 診療放射線技師 読影ノート 骨軟部編, 2014 ; pp100-126, 医療科学社.
- 阿部雅志 : [分担] クリニカルスタッフとしてのしびれ・痛み治療へのかかわり 放射線技師の立場から. クリニカルスタッフのためのしびれ・痛み診療と薬物治療, 2014 ; 中外医学社.
- 池亀 敏, 阿部雅志 : [分担] 救急医療における非造影 MRA がもたらす病院側のメリット. 新医療, 2014 ; 株式会社エム・イー振興協会.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演 :

- 加藤丈司 : 閉所恐怖を克服する : MR 検査における心理誘導. 千葉 MRI セミナー (第 32 回) (千葉), 2014. 10.

- 2) 丸山智之：撮影法の解析と画像診断：撮影編. 日本放射線技術学会東京部会技術フォーラム（第194回）（東京），2014. 11.
  - 3) 丸山智之：“どこまで使う？ Tomosynthesis”. 全国撮影技術読影研究会（第11回）（鈴鹿），2014. 11.
  - 4) 阿部雅志：撮影方の解析と画像診断⑤. 日本放射線技術学会東京部会技術フォーラム（第194回）（東京），2014. 11.
- (2) セミナー：
- 1) 阿部雅志：下肢の撮影技術と画像診断 下肢症例のMRIの撮影技術. 日本放射線技術学会東京部会技術セミナー（第88回）（東京），2014. 6.
- (3) 一般講演：
- 1) 阿部晃大：Tomosynthesisによるマルチ周波数処理を用いた頸動脈ステント内の描出の試み. 日本放射線技術学会総会学術大会（第70回）（横浜），2014. 4.
  - 2) 阿部晃大：Tomosynthesisによるマルチ周波数処理を用いた頸動脈ステント内の描出の試み. 東京部会春期学術大会（第68回）（東京），2014. 5.
  - 3) 阿部晃大：Tomosynthesisにおける金属対応フィルタの検討及び視覚評価. 関東フレッシュマンズ・フォーラム（第1回）（東京），2014. 7.
  - 4) 阿部晃大：高電圧撮影による股関節インプラントの画像評価：撮影条件と画像処理の検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第42回）（札幌），2014. 10.
  - 5) 阿部晃大：MRIを用いた線維性被膜の描出の試み. NPO法人日本血管内治療学会学術総会（第30回）（横浜），2014. 12.
  - 6) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>脳神経外科）：Evaluation of Integrated Volitional Control Electrical Stimulator for Intrinsic Muscle Using 3T MRI. 日本放射線技術学会 総会学術大会（第70回）（東京），2014. 4.
  - 7) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>脳神経外科）：3T MRIにおける脳腫瘍の造影効果：脳腫瘍の信号変化とコントラストについて. 日本脳ドック学会総会（第23回）（山口），2014. 6.
  - 8) 加藤丈司，富田尚樹，池亀 敏，永井淳史，阿部雅志，河原崎昇，岡田 進<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科，<sup>2)</sup>脳神経外科）：3T MRIにおける多発性硬化症のコントラスト改善について. 日本脳神経外科学会学術総会（第73回）（東京），2014. 10.
  - 9) Kato J, Kawarasaki N, Okada S<sup>1)</sup>, Shiro K<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neuro Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital）：The three-dimensional display of the blood flow in the vertebrobasilar artery and the external appearance of the blood vessel. Joint Annual Meeting ISMRM-ESMRMB SMRT Annual meeting (23rd) (Milano), 2014. 5.
  - 10) 富田尚樹，丸山智之，阿部雅志，阿部晃大：当院における股関節撮影. 関東フレッシュマンズ・フォーラム（第1回）（東京），2014. 7.
  - 11) 富田尚樹，丸山智之，阿部雅志：股関節側面撮影の検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第24回）（札幌），2014. 10.
  - 12) 丸山智之：下肢の撮影技術（ランニング障害を考える）. 日本放射線技術学会東京部会 部会セミナー（第88回）（東京），2014. 6.
  - 13) 丸山智之：低線量撮影技術の検討. 日本放射線技術学会 秋季学術大会（第42回）（札幌），2014. 10.
  - 14) 丸山智之：上肢（肩・肘）以来情報から考える画像診断. FSフォーラム（第67回）（東京），2015. 2.
  - 15) 阿部雅志，池亀 敏，加藤丈司，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 千葉北総病院 脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学 脳神経外科）：AVM塞栓術後のMRIを用いたASLの有用性の検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第42回）（札幌），2014. 10.
  - 16) 阿部雅志，池亀 敏，加藤丈司，小南修史<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>1)</sup>，森田明夫<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学 千葉北総病院 脳神経外科，<sup>2)</sup>日本医科大学 脳神経外科）：AVM塞栓術後にASLを用いた脳血流変化の検討. NPO法人 日本脳神経血管内治療学会学術大会総会（第30回）（横浜），2014. 12.

## [千葉北総病院歯科]

### 研究概要

歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的效果についての研究全身疾患と歯科治療の関係についての研究 II 型糖尿病と歯周病との関係についての研究交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的效果についての研究有病者における口腔衛生管理に対する臨床的效果についての研究などを行っている

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 織田洋武<sup>1)</sup>, 丸山昂介<sup>1)</sup>, 坪川瑞樹<sup>1)</sup>, 塩田剛太郎<sup>1)</sup>, 鴨井久博<sup>2)</sup>, 長弘謙樹<sup>1)</sup>, 佐藤 聡<sup>1)</sup> (1) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座, 2) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : オゾンジェルの口腔内細菌に対する効果ならびにヒト歯肉およびヒト歯根膜線維芽細胞への影響. 日歯保存誌 2014 ; 57 (4) : 369-376.
- 2) 白川 哲<sup>1)</sup>, 氏家優子<sup>1)</sup>, 大木亜悠子<sup>2)</sup>, 吉峰正彌<sup>2)</sup>, 小倉喜一郎<sup>2)</sup>, 鈴木丈一郎<sup>1)</sup>, 鴨井久博<sup>2)</sup>, 五味一博<sup>1)</sup> (1) 鶴見大学歯学部歯周病学講座, 2) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : 歯周疾患治療用歯磨剤塗布用試作歯ブラシのプラーク除去効果と臨床パラメーターの改善効果. 日歯周誌 2014 ; 56 (2) : 171-181.

### 著書

- 1) 藤川瑞穂, 鴨井久博 : [分担] 診断力ですと 開口障害と頬側の腫れ. DENTAL DIAMOND, 2014 ; pp125-126, デンタルダイヤモンド社.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 1 村田侑加<sup>1)</sup>, 鴨井久博<sup>1)</sup>, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 吉峰正彌<sup>1)</sup>, 大木亜悠子<sup>1)</sup>, 藤川瑞穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科) : 病院歯科における周術期口腔機能管理の取り組みと診査項目の分析. 日本口腔ケア学会総会学術大会 (第11回) (旭川), 2014. 6.
- 2) 吉峰正彌<sup>1)</sup>, 鴨井久博<sup>1)</sup>, 高市直子<sup>2)</sup>, 瀬谷知子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 3) 日本医科大学千葉北総病院外科) : 外来化学療法患者における口腔機能管理. 日本癌治療学会学術集会 (第52回) (横浜), 2014. 8.
- 3) 鈴木結己<sup>1)</sup>, 大畑菜々子<sup>1)</sup>, 村田侑加<sup>1)</sup>, 藤川瑞穂<sup>1)</sup>, 大木亜悠子<sup>1)</sup>, 吉峰正彌<sup>1)</sup>, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 藤田博之<sup>2)</sup>, 鴨井久博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 博慈会歯科医療クリニック) : 塩・生薬含有歯磨剤の使用時における歯周病患者に対する効果について. 2014年度ライフケア学会学術大会 (川崎), 2014. 11.
- 4) 大畑菜々子<sup>1)</sup>, 鈴木結己<sup>1)</sup>, 村田侑加<sup>1)</sup>, 藤川瑞穂<sup>1)</sup>, 大木亜悠子<sup>1)</sup>, 吉峰正彌<sup>1)</sup>, 小倉喜一郎<sup>1)</sup>, 根津雅彦<sup>2)</sup>, 鴨井久博<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院歯科, 2) 根津歯科医院) : 病院歯科における周術期口腔機能管理対象者の歯周疾患罹患状態と今後の課題. 2014年度ライフケア学会学術大会 (川崎), 2014. 11.

## [千葉北総病院看護部]

## 研究業績

### 著書

- 1) 古山めぐみ : [共著] 第6章 せん妄ケアの事例検討. シリーズ—現象学看護—1 せん妄, 2014 ; pp138-143, 日本評論社.
- 2) 辻田智美 : [共著] Let's Try! くふうもの. 整形外科看護, 2014 ; pp105-105, メディカ出版.
- 3) 有泉楽子 : [共著] よもやまギモン解決します!. BRAIN NURSING, 2014 ; pp42-42, メディカ出版.

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) 始関千加子 : Nursing Learn Management in Japanese Hospital. nursing management conference (1st) (Chaina Hainan), 2015. 3.
- 2) 采 宛亭 : Japanese Hospital Magnetic Nursing Management. nursing management conference (1st) (Chaina Hainan), 2015. 3.

#### (2) 一般講演：

- 1) 川上洋子, 木下菜奈, 松枝理沙, 横井亜耶 : 術中皮膚障害予防を目的とした側臥位体位固定方法の検討 : ピュアフィックス (R) を用いて. 脳神経外科手術と機器学会 (第23回) (福岡県 (福岡市)), 2014. 4.
- 2) 小泉はるか : 早期からの緩和ケアに向けた新たな取り組み : 自発的緩和ケア回診を振り返る. 日本緩和医療学会学術大会 (第19回) (兵庫県 (神戸市)), 2014. 6.
- 3) 下川正樹, 八木野健太, 加藤武大, 秋元麻衣, 金高薫利, 高安麻紀, 渡邊留奈, 田中 緑, 佐々木優子 : 意識障害患者に対するクーリングの有用性. 日本意識障害学会 (第23回) (北海道 (札幌市)), 2014. 8.
- 4) 大津賀康章, 青山晋作, 渡辺光子 : 周手術期における褥瘡の発生状況と要因. 日本褥瘡学会学術集会 (第16回) (愛知県 (名古屋

- 市)), 2014. 8.
- 5) 倉本雅男: A 病院救命救急科の中堅看護師が抱えている不安や学習ニーズをインタビューから知る. 日本救急看護学会学術集会 (第 16 回) (大阪府 (大阪市)), 2014. 10.
  - 6) 岡田知弥子: PHQ-9 導入による脳卒中後のうつ患者の早期発見への取り組み. 日本脳神経看護研究学会 (第 41 回) (東京都 (港区)), 2014. 10.
  - 7) 重山香織, 森 香織, 大森章代, 増渕美恵子: スマートフォン動画伝送システムにおける看護の有用性. 日本航空医療学会総会 (第 21 回) (大阪府 (大阪市)), 2014. 11.
  - 8) 白井 舞, 渡辺光子, 松本智司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科: 嚥嚥で片麻痺のある患者のストーマ装具選択. 関東東ストーマ・リハビリテーション研究会 (第 17 回) (千葉県 (浦安市)), 2014. 11.
  - 9) 森 真美, 山本紀子, 坂田紗貴子: 出生後 1 日までの母子異室における自律授乳ケアが母乳栄養確立に与える影響. 千葉県研究学会 (第 33 回) (千葉県 (千葉市)), 2015. 2.
  - 10) 坂巻雅美, 渡辺光子: パンフレットを用いた高齢者のストーマ装具交換指導: 記憶過程の符号化へのはたらきかけ. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 (第 32 回) (千葉県 (浦安市)), 2015. 2.
  - 11) 白井 舞: 嚥嚥で片麻痺のあるストーマ増設患者に対する排泄ケア自立への援助. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 (第 32 回) (千葉県 (浦安市)), 2015. 2.
  - 12) 櫻井美知子, 木下菜奈, 武田裕子, 佐々木優子, 水成隆之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター 脳神経外科: SCU を有する脳神経センターにおけるニューロナース活動の現状と問題点. 日本脳卒中学会総会 (第 40 回) (広島県 (広島市)), 2015. 3.

## 33. 医療安全管理部門

### [感染制御部]

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 三浦義彦, 根井貴仁, 森 洵子<sup>1)</sup>, 藤田昌久, 片山志郎<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部)：抗菌薬ラウンド実施による抗菌薬適正使用の推進. 日本医科大学医学会総会 (第 82 回) (東京), 2014. 9.

##### 追加分一般講演：

- 1) 三浦義彦, 根井貴仁, 森 洵子<sup>1)</sup>, 藤田昌久, 中川仁美, 片山志郎<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 薬剤部)：抗菌薬ラウンド対象患者の患者背景の調査ならびにラウンド実施による効果の検証. 日本医療薬学会年会 (第 23 回) (仙台), 2013. 9.
- 2) 三浦義彦, 藤田昌久, 中川仁美, 前原茂子<sup>1)</sup>, 根井貴仁, 前田美穂<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 看護部)：病院職員における麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価とその傾向分析. 日本環境感染学会総会 (第 29 回) (品川), 2014. 2.

## 〔4〕 付 置 研 究 施 設



# 1. 老人病研究所

## [分子細胞構造学分野]

### 研究概要

血管の形態は疾患と深いつながりがある。例えば、らせん状に蛇行した血管は老化に伴って増加し、高血圧による脳梗塞を引き起こすことが知られている。老人病研究所病理部門ではこのような血管形態と疾患のつながりに着目し、アフリカツメガエルのおたまジャクシを用い、研究を行っている。研究室ではこれまでに、らせん状に蛇行した血管を変態期に退縮する尾で見出しており、その他、分岐のほとんどない直線状の特殊な形態の血管などをmicroangiographyによって見出してきた。今年度は血管の形態と疾患のつながりをより直接的に解析するために、in vivo イメージングなどで血管の形態を長時間連続して観察することができる実験動物の開発を行った。VEGFR-2 プロモーターとエンハンサーで血管内皮細胞特異的にmCherryを発現するpCS2P+ベクターの構築は完了した。現在、このベクターを受精卵にinjectし、遺伝子組換え動物を作製する準備を進めている。さらに、血管内皮細胞特異的に目的の遺伝子を発現させるベクターも作製中であり、来年度はこれらのベクターから得た遺伝子組換え動物を用いた研究を行い、その成果を報告したい。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) セミナー：

- 1) 藤原正和：血管の形態学的な多様性 アフリカツメガエルを用いたイメージング解析。日本医科大学・日本獣医生命科学大学病理学合同カンファレンス（第3回）（東京），2015. 3.

## [細胞生物学分野]

### 研究概要

大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野（老人病研究所生化学部門）では、「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。ミトコンドリアから発せられる活性酸素が、ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。本年は、アルツハイマー病モデルマウスを作製し、同疾患における酸化ストレスの役割を明確にした。また、クロレラの経口投与が酸化ストレスを軽減し、筋疾患の改善に寄与できることを示唆した。更に、酸化ストレスを実時間で測定できる方法を確立し、論文を発表した。Journal of Investigative Dermatologyの表紙を飾った。水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし、2007年にNature Medicineに論文を発表した後は、他の研究室からの報告が相次ぎ、その引用論文は430報以上に至っている。心肺停止蘇生時の水素ガス吸引効果を米国雑誌Circulationに発表し、NHKニュースにとり上げられた。水素ガス医療を本格的に臨床応用することに向けての試みが始まりつつある。分子状水素の多彩な機能のメカニズムを追求し、解明できた内容を論文として投稿中である。ミトコンドリア病の改善薬として、以前の本研究室の成果に基づいてタウリンの大量投与の治験が行われ、良好な結果をもって終了した。今年度も海外での水素の臨床応用に関心が高まり、アメリカ、中国、台湾、シンガポールなどでの水素研究発表の講演が多かった。教授は学会活動においては、MitochondrionのEditing Board、医学誌Medical Gas Researchの副編集長を務め、分子状水素医学シンポジウム会長、日本Cell Death学会の理事長、日本ミトコンドリア学会理事、ミトコンドリア病患者家族の会顧問も引き続き務めている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Hayashida K<sup>1</sup>), Sano M<sup>2</sup>), Kamimura N, Yokota T, Suzuki M<sup>1</sup>), Ohta S, Fukuda K<sup>2</sup>), Hori S ( <sup>1</sup> Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, School of Medicine, Keio University, <sup>2</sup>Dept. of Cardiology, School of Medicine, Keio University) : Hydrogen Inhalation During Normoxic Resuscitation Improves Neurological Outcome in a Rat Model of Cardiac Arrest, Independent of Targeted Temperature Management. Circulation 2014 ; 130 (24) : 2173-2180.
- 2) Yokota T, Kamimura N, Igarashi T<sup>1</sup>), Takahashi H<sup>1</sup>), Ohta S, Oharazawa H<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup> Department of Ophthalmology, <sup>2</sup> Department of Ophthalmology, Musashikosugi Hospital) : Protective effect of molecular hydrogen against oxidative stress caused by peroxy-nitrite derived from nitric oxide in rat retina. Clin Experimental Ophthalmol 2015 ; in press.
- 3) Kanamaru T, Kamimura N, Yokota T, Nishimaki K, Takami S<sup>1</sup>), Akashiba H<sup>1</sup>), Shitaka Y<sup>1</sup>), Katsura K<sup>2</sup>), Kimura K<sup>2</sup>), Ohta S ( <sup>1</sup> Pharmacology Research Laboratories, Astellas Pharma Inc., <sup>2</sup> Department of Neurological Science, Graduate School of

Medicine) : Oxidative stress accelerates amyloid deposition and memory impairment in a double-transgenic mouse model of Alzheimer's disease. *Neurosci Lett* 2015 ; 587 : 126-31.

- 4) Yokoyama M<sup>1)</sup>, Okada S<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Shimizu I<sup>2)</sup>, Nijima A<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>2)</sup>, Ichimiya H, Kamimura N, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Ohta S, Fruttiger M<sup>3)</sup>, Lozano G<sup>4)</sup>, Minamino T ( <sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Biology and Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>3)</sup> Institute of Ophthalmology, University College London, <sup>4)</sup> Department of Genetics, The University of Texas MD Anderson Cancer Center) : Inhibition of endothelial p53 improves metabolic abnormalities related to dietary obesity. *Cell Rep* 2014 ; 7 (5) : 1691-1703.
- 5) Nakashima Y, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Nishimaki K, Kumamoto S<sup>2)</sup>, Maruyama I<sup>2)</sup>, Suzuki Y<sup>3)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Biological Process of Aging, Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol., <sup>2)</sup> Department of Research and Development, Chlorella Industry Co, Ltd, <sup>3)</sup> HDC Atlas Clinic) : Preventive effects of Chlorella on skeletal muscle atrophy in muscle-specific mitochondrial aldehyde dehydrogenase 2 activity-deficient mice. *BMC Complement Altern Med* 2014 ; 14 (390) : 1-9.
- 6) Wolf-M A, Nishimaki K, Kamimura N, Ohta S : Real-time monitoring of oxidative stress in live mouse skin. *J Invest Dermatol* 2014 ; 134 (6) : 1701-1709.
- 7) Lee H, Kiuchi T<sup>1)</sup>, Muto J<sup>1)</sup>, Ohta S, Mikami T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. Health and Sports Sci.) : Intense exercise enhances the hippocampal proliferation of progenitor cells via activating the Flk1 signaling cascade in mice. *J. Internal Med. Pharmacol.* 2014 ; 173 : 329-40.

(2) 総説 :

- 1) Ohta S : Molecular hydrogen as a preventive and therapeutic medical gas : initiation, development and potential of hydrogen medicine. *Pharmacol Ther* 2014 ; 144 (1) : 1-11.
- 2) Zhai X<sup>1)</sup>, Chen X<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>3)</sup>, Sun X ( <sup>1)</sup> Graduate Management Unit, Changhai hospital affiliated to the Second Military Medical University, <sup>2)</sup> Department of Orthopedics, Changhai hospital affiliated to the Second Military Medical University, <sup>3)</sup> Department of Navy Aeromedicine, Second Military Medical University) : Review and prospect of the biomedical effects of hydrogen. *Med Gas Res.* 2014 ; 4 (1) : 1-19.
- 3) Ohta S : Molecular hydrogen as a novel antioxidant : overview of the advantages of hydrogen for medical applications. *Methods Enzymol.* 2015 ; 555 : 289-317.
- 4) 太田成男 : 水素医学の創始, 展開, 今後の可能性 : 広範な疾患に対する分子状水素の予防ならびに治療の臨床応用へ向かって. *生化学* 2015 ; 87 (1) : 82-90.
- 5) 太田成男 : 医療への水素利用. *ケミカルエンジニアリング* 2015 ; 60 (3) : 42-48.

## 著 書

- 1) Sun X<sup>1)</sup>, Ohta S, Nakao A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Navy Aeromedicine, Second Military Medical University, <sup>2)</sup> Department of Emergency and critical care Medicine, Hyogo College of medicine) : [共著] Future Direction on Hydrogen Studies in "Hydrogen Molecular Biology and Medicine", 2014 ; pp109-117, Springer.
- 2) Sun X<sup>1)</sup>, Ohta S, Nakao A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Navy Aeromedicine, Second Military Medical University,, <sup>2)</sup> Department of Emergency and critical care Medicine, Hyogo College of medicine) : [共著] Hydrogen Element and Hydrogen Gas (2014) in "Hydrogen Molecular Biology and Medicine". *Hydrogen Molecular Biology and Medicine*, 2014 ; pp1-24, Springer.

## 学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 太田成男 : ミトコンドリア tRNA のタウリン修飾とその機能. 国際タウリン研究会日本部会 (第1回) (大阪), 2015. 2.
- 2) 太田成男 : ミトコンドリア活性酸素の実時間計測, 酸化ストレス亢進マウスの作製, 新概念の抗酸化物質としての水素. 日本基礎老化学会シンポジウム (第36回) (東京), 2014. 10.
- 3) 太田成男 : 基礎医学から臨床応用へ向かって. 日本性機能学会 学術総会 (第25回) (仙台), 2014. 9.
- 4) 太田成男 : How To 水素治療. 日本抗加齢医学会総会 (第14回) (大阪), 2014. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) Kamimura N, Ichimiya H, Ohta S : Molecular hydrogen induces hepatic PGC-1 $\alpha$  expression and reduces oxidative stress, improves obesity in db/db mice. International meeting of mitochondrial pathology (EUROMIT) (Tampere Finland), 2014. 6.
- 2) Nishimaki K, Wolf-M A, Yokota T, Kamimura N, Ohta S : Transgenic mice expressing the redox-sensitive green fluorescent protein in the cytosol and mitochondria. International meeting of mitochondrial pathology (EUROMIT) (Tampere Finland), 2014. 6.

- 3) Yokota T, Ogasawara H<sup>1)</sup>, Kamimura N, Igarashi T<sup>2)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Dept. Ophthalmol., <sup>2)</sup> Dept. Ophthalmol., Musashikosugi Hosp.) : Molecular hydrogen protects retina from oxidative stress and mitochondrial damage through reducing peroxynitrite derived from nitric oxide. International meeting of mitochondrial pathology (EUROMIT) (Tampere Finland), 2014. 6.
- 4) Amo T<sup>1)</sup>, Miyamoto T, Kamimura N, Asoh S, Ohta S ( <sup>1)</sup> Department of Applied Chemistry, National Defense Academy) : A somatic mutation of mitochondrial DNA confers resistance against an anti-cancer drug. International meeting of mitochondrial pathology (EUROMIT) (Tampere, Finland), 2014. 6.
- 5) 井内勝哉, 井本明美, 上村尚美, 一宮治美, 太田成男 : 低濃度の分子状水素はフリーラジカル連鎖反応に介入してシグナル伝達と遺伝子発現を制御する. 分子状水素医学シンポジウム (第5回) (名古屋), 2015. 3.
- 6) 上村尚美 : 水素分子は糖尿病モデルマウスにおいて肝臓での脂質代謝関連遺伝子発現を誘導し酸化ストレスを抑制し肥満を改善する. 日本薬理学会年会 (第88回) (名古屋), 2015. 3.
- 7) 中島裕也, Wolf-M A, 太田成男 : Blue light induces oxidative stress in live hairless mouse skin. 日本分子生物学会 (第37回) (横浜), 2014. 11.
- 8) 中島裕也, Wolf-M A, 太田成男 : Blue light induces mitochondrial oxidative stress in live hairless mouse skin. 日本ミトコンドリア学会 (第14回) (福岡), 2014. 12.

## 論文

### [追加分]

追加分原著 :

- 1) Kanamaru T, Kamimura N, Yokota T, Nishimaki K, Iuchi K, Lee H, Takami S<sup>1)</sup>, Akashiba H<sup>1)</sup>, Shitaka Y<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>2)</sup>, Kimura K<sup>2)</sup>, Ohta S ( <sup>1)</sup> Pharmacology Research Laboratories, Astellas Pharma Inc., <sup>2)</sup> Department of Neurological Science, Graduate School of Medicine) : Intravenous transplantation of bone marrow-derived mononuclear cells prevents memory impairment in transgenic mouse models of Alzheimer's disease. Brain Res. 2015 ; 1605 : 49-58.

## [遺伝子制御学分野]

### 研究概要

我々は、癌抑制因子 p53 がどのようなメカニズムで癌の発生をおさえているかを研究することで、癌化の分子機構を明らかにすることを目的に研究を続けている。この過程で、p53 のアポトーシス実行分子 Noxa の同定、p53 によるグルコース代謝の制限が癌化の抑制に重要である事を見出している。更に、p53 が機能なくなるとこのエネルギー代謝回路が暴走して癌化を起こすという新たな癌化の制御機構を見出している。これらの研究を進展させて、マウス個体での炎症誘発癌の発症における p53 と炎症の関連を解析している。その結果、炎症組織では p53 の誘導は起こるものの、p53 による排除機構が働かないこと、炎症における TLR シグナルが p53 の抑制に関わる事、p53 の下流で細胞周期の抑制機能が抑えられている事、p21 欠損マウスでは変異原を投与するのみで炎症を起こさなくても腫瘍が発生する事を見いだした。現在、大腸の幹細胞に特異的に変異型 K-ras を発現させる系を用いて解析を続けている。更に、ヘッジホッグ経路の転写因子 Gli1 がアルギニンメチル基転移酵素複合体であるメチロソームによって活性化されることを見出し、この機構が肺癌の癌幹細胞の維持に重要である事を見出した。更に、このメチロソームの構成分子が EGFR 等の細胞増殖を誘導するチロシンキナーゼや IL6 等の炎症性サイトカインによって誘導される転写因子 STAT3 によって転写誘導されて活性化することを見出した。そこで、EGFR 陽性肺癌細胞を解析し、この経路の抑制によって肺癌幹細胞数が著明に減少する事を見いだした。この機構は癌遺伝子シグナルと炎症シグナルがどのようにして癌幹細胞の維持機構シグナルに変換されるかを明らかにしたものであり、癌の伸展のメカニズムを考える上で新しい機構であると考えられる。加えて、呼吸器内科学教室と病理学教室との共同で肺癌症例の解析をし、メチロソーム及び Gli1 の発現が高い症例では予後が悪いという結果を見出している。これらの結果を論文にまとめている最中であり、これらの研究を介して、癌化の分子機構を明らかにしていこうと考えている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Wataru N<sup>1,2)</sup>, Hicks M<sup>2)</sup>, Nobuyuki T<sup>1)</sup>, Krystal G<sup>3)</sup>, Hisashi H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, Kawasaki, Japan, <sup>2)</sup> Department of Oral and Craniofacial Molecular Biology, School of Dentistry, Massey Cancer Center, Virginia Commonwealth University, Richmond, VA, USA, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Virginia Commonwealth University, McGuire Veterans Affairs Medical Center, Richmond, VA, USA) : Noxa determines localization and

stability of MCL-1 and consequently ABT-737 sensitivity in small cell lung cancer. *Cell Death Dis.* 2014 ; 5 : e1052.

- 2) Chakradeo S<sup>1)</sup>, Sharma K<sup>1)</sup>, Alhaddad A<sup>1)</sup>, Bakhshwin D<sup>1)</sup>, Le N<sup>1)</sup>, Harada H<sup>2)</sup>, Wataru N<sup>2,3)</sup>, Yeudall A<sup>4)</sup>, Torti S<sup>5)</sup>, Torti F<sup>1)</sup>, Gewirtz D ( <sup>1)</sup> Departments of Medicine and Pharmacology and Toxicology, Massey Cancer Center, Virginia Commonwealth University, Richmond, Virginia, <sup>2)</sup> Department of Oral and Craniofacial Molecular Biology, School of Dentistry, Virginia Commonwealth University, Richmond, Virginia, <sup>3)</sup> Department of Molecular Oncology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Molecular Biology and Biophysics, University of Connecticut Health Sciences, Farmington, Connecticut, <sup>5)</sup> Department of Medicine, University of Connecticut Health Sciences, Farmington, Connecticut) : Yet Another Function of p53-The Switch That Determines Whether Radiation-Induced Autophagy Will Be Cytoprotective or Nonprotective : Implications for Autophagy Inhibition as a Therapeutic Strategy. *Mol Pharmacol.* 2015 ; 87 ( 5 ) : 803-814.

## 学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 阿部芳憲<sup>1)</sup>, 田中 信之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所免疫部門) : STAT3 とアルギニンメチル基転移酵素 PRMT5 を介した新しい肺癌幹細胞様細胞の維持機構. 日本分子生物学会年会 ( 第 37 回 ) ( 横浜 ), 2014. 12.

(2) 一般講演 :

- 1) 谷村篤子<sup>1)</sup>, 上原郁野<sup>1)</sup>, 中里 茜<sup>1)</sup>, 田中 信之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所免疫部門) : 炎症誘発の発癌過程における p53-p21 経路抑制. 日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会 ( 第 79 回 ) ( 札幌 ), 2014. 6.
- 2) 上原郁野<sup>1)</sup>, 谷村篤子<sup>1)</sup>, 田中 信之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所免疫部門) : サイトカイン受容体の糖鎖修飾阻害による抗炎症効果及び発癌抑制効果の検討. 日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会 ( 第 79 回 ) ( 札幌 ), 2014. 6.
- 3) 谷村篤子<sup>1)</sup>, 上原郁野<sup>1)</sup>, 中里 茜<sup>1)</sup>, 田中 信之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所免疫部門) : 炎症誘発の発癌過程における p53-p21 経路の抑制の抑制. 日本分子生物学会年会 ( 第 37 回 ) ( 横浜 ), 2014. 12.
- 4) 上原郁野<sup>1)</sup>, 谷村篤子<sup>1)</sup>, 田中 信之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所免疫部門) : 2-Deoxy-D-Glucose の炎症誘発癌抑制効果. 日本分子生物学会年会 ( 第 37 回 ) ( 横浜 ), 2014. 12.

## [生体機能制御学分野]

### 研究概要

(1) 成長ホルモン (GH) の脂肪細胞アディポネクチン産生への作用の解明 ( 福島誠, 南史朗) : GH は食餌性肥満マウスの脂肪量を減らし, 内臓脂肪におけるアディポネクチン産生増加を介して酸化ストレスと慢性炎症を軽減し, その結果, 耐糖能障害を改善した. (2) GH の新たな生理作用の解明 ( 中田朋子, 南史朗) : GH がステロイドホルモンの代謝や胆汁酸の合成に関与する *aldo-keto-reductase family* に属する遺伝子の mRNA の量を調節することを明らかにした. (3) 低タンパク質栄養によるアディポネクチン増加の生理的意義 ( 豊島由香, 時田玲子, 田口雄亮) : 低タンパク質栄養状態における血中アディポネクチン量の増加は, 耐糖能や肝臓のインスリンシグナルの増強には関与しておらず, エネルギー消費量の増加に必要であることが明らかとなった. (4) 低タンパク質食による脂肪肝誘導機序の解明 ( 田口雄亮, 時田玲子, 豊島由香) : 低タンパク質食給餌ラットの単離肝細胞を用いた研究により, 低タンパク食下ではインスリンシグナルの増強を介して, 中性脂肪合成酵素であるアセチル CoA カルボキシラーゼ遺伝子発現が増加し, その結果, 中性脂肪が蓄積すると考えられた. (5) 養育行動の神経回路の研究 ( 折笠千登世, 勝又晴美) : 養育行動は, 生存を脅かす様々な要因から仔をまもる行動である. 本年度は, 養育行動関連の神経回路の特定を行い, その回路発現に関わる分子基盤を明らかにするための基礎的実験を行った.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ishikawa M<sup>1)</sup>, Tachibana T<sup>2)</sup>, Hashimoto H<sup>3)</sup>, Toyomura J<sup>4)</sup>, Ito T<sup>5)</sup>, Tsuboi K<sup>6)</sup>, Shibuya K<sup>7)</sup>, Hirose T<sup>6)</sup>, Minami S, Yoshino G<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Center of Endocrinology, Diabetes and Arteriosclerosis, Musashikosugi Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Core Research Facilities, The Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Anatomy II, Jikei University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Life Sciences, Faculty of Life Dentistry, Nippon Dental University, <sup>5)</sup> Division of Breast and Endocrine Surgery, Toho University School of Medicine, <sup>6)</sup> Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Toho University school of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Pathology, Toho University School of Medicine, Tokyo, Japan) : Functional analysis of three novel cell lines derived from human papillary thyroid carcinomas with three different clinical courses. *Hum Cell* 2014 ; 27 ( 3 ) : 111-120.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 折笠千登世<sup>1)</sup>, 永岡謙太郎<sup>2)</sup>, 近藤保彦<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 佐久間康夫<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所, 2) 東京農工大学, 3) 帝京科学大学, 4) 東京医療学院大学) : Mouse pup retrieval and crouching behavior following social isolation in virgin male mice (性的未経験オスの保育行動: 単飼による効果). 8th International Congress of Neuroendocrinology (国際神経内分泌学会大会) (第8回) (オーストラリア・シドニー), 2014. 8.
- 2) 折笠千登世<sup>1)</sup>, 永岡謙太郎<sup>2)</sup>, 近藤保彦<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 佐久間康夫<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所, 2) 東京農工大学, 3) 帝京科学大学, 4) 東京医療学院大学) : 社会的隔離条件下における性的未経験雄マウスの養育行動. 日本神経科学大会 (第37回) (パシフィコ 横浜), 2014. 9.
- 3) 福島 誠<sup>1)</sup>, 岡本芳久<sup>1)</sup>, 勝又晴美<sup>1)</sup>, 石川真由美<sup>2)</sup>, 石井 聡<sup>1)</sup>, 岡本真明<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院 生体機能制御学, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科) : アディポネクチンを介した成長ホルモンの食餌性肥満マウスの耐糖能と内臓脂肪への作用. 日本内分泌学会 (第87回) (福岡), 2014. 4.
- 4) 豊島由香<sup>1)</sup>, 時田玲子<sup>1)</sup>, 田口雄亮<sup>1)</sup>, 高橋伸一郎<sup>2)</sup>, 加藤久典<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 老人病研究所 生体機能制御学, 2) 東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用動物科学専攻, 3) 東京大学 総括プロジェクト機構 食と生命) : 低タンパク質栄養状態におけるエネルギー消費量の亢進は, 血中アディポネクチン量の増加を介して起こる. 日本アミノ酸学会 (第8回学術大会) (東京, 東京農業大学), 2014. 11.
- 5) 田口雄亮<sup>1)</sup>, 豊島由香<sup>1)</sup>, 時田玲子<sup>1)</sup>, 加藤久典<sup>2)</sup>, 高橋伸一郎<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 老人病研究所 生体機能制御学, 2) 東京大学 総括プロジェクト機構 食と生命, 3) 東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用動物科学専攻) : 低タンパク質食給餌ラットから単離した肝細胞ではインスリン依存性 acetyl-CoA carboxylase alpha 遺伝子発現が増強する. 日本栄養・食糧学会大会 (第68回) (札幌, 札幌市教育文化会館・酪農学園大), 2014. 5.
- 6) 石川真由美<sup>1,2)</sup>, A.j.brooks A<sup>2)</sup>, Rojo M<sup>2)</sup>, Chhabra Y<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, Parton R<sup>2)</sup>, Waters M<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 2) Molecular Cell Biology, Institute for Molecular Bioscience, University of Queensland) : 肝部分切除後に必要な免疫反応である H2-BI の発現における成長ホルモンの役割. 日本内分泌学会学術総会 (第87回) (福岡), 2014. 4.
- 7) Ishikawa M, Toyomura J, Kuboki K, Morita T, Tominaga N, Hirose T, Minami S, Yoshino : Role of growth hormone (GH) signaling pathways in the development of atherosclerosis. The 7th International Congress of the Growth Hormone Research Society and IGF Society, Singapore 2014 (Singapore), 2014. 10.
- 8) 鈴木安奈, 由井静香, 麦島康司, 八木 孝, 大塚智之, 石川真由美, 酒井行直, 南 史朗, 鶴岡秀一 : インフルエンザワクチン接種後に糖尿病性ケトアシドーシスを発症した劇症1型糖尿病の1例. 日本内科学会関東地方会 (第612回), 2015. 3.
- 9) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 楯谷三四郎<sup>3)</sup>, 春日雅人<sup>1)</sup>, 南 史朗, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター 分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部, 3) 神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌科) : 肝臓の脂肪酸合成酵素は肥満・糖尿病の病態において肝脂肪蓄積の促進と高血糖の抑制に寄与する. 日本臨床分子医学会学術集会 (第51回) (東京), 2014. 4.
- 10) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>1)</sup>, 楯谷三四郎<sup>1)</sup>, 春日雅人<sup>1)</sup>, 南 史朗, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター分子代謝制御研究部) : 脂肪酸合成酵素 FAS の脂肪肝・インスリン抵抗性における機能の解析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第57回) (大阪), 2014. 5.
- 11) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 春日雅人<sup>1)</sup>, 南 史朗, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター 分子代謝制御研究部) : 過栄養による脂肪肝・糖尿病における肝臓の de novo lipogenesis 亢進の病態生理学的意義の検討. 肝臓と糖尿病・代謝研究会 (第1回) (東京), 2014. 4.
- 12) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 春日雅人, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター 分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部, 3) 東京女子医科大学病理診断部) : 肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. アディポサイエンス・シンポジウム (第19回) (大阪), 2014. 8.
- 13) 福永ヒトミ<sup>1)</sup>, 望月瑠美<sup>1)</sup>, 佐々木友美<sup>1)</sup>, 金子佳世<sup>1)</sup>, 八木 孝, 木佐森舞夕<sup>2)</sup>, 石川真由美<sup>3)</sup>, 糸井博美<sup>4)</sup>, 南 史朗, 朝倉啓文<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 看護部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科) : 妊娠糖尿病患者の産後の耐糖能障害の検討. 日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 (第30回) (長崎), 2014. 11.
- 14) 八木 孝, 小林和陽<sup>1)</sup>, 輿水 学<sup>1)</sup>, 酒井良子<sup>1)</sup>, 森本千秋<sup>1)</sup>, 曾根教子<sup>2)</sup>, 八木亜記<sup>3)</sup>, 石川真由美<sup>4)</sup>, 南 史朗 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 栄養科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器センター, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院 内分泌・糖尿病・動脈硬化内科) : 糖尿病性ケトアシドーシス・急性動脈閉塞症に対し早期からの積極的な栄養介入にて良好な結果を得た1例. 日本静脈経腸栄養学会関東甲信越支部学術集会 (第2回) (高崎), 2014. 10.

- 15) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>3)</sup>, 南 史朗, 春日雅人<sup>1)</sup>, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部, 3) 東京女子医科大学病理診断科): 肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. 日本肥満学会 (第 35 回) (宮崎), 2014. 10.
- 16) 八木 孝, 酒井真志人<sup>1)</sup>, 内田 亨<sup>2)</sup>, 辻村 (早川) 知子<sup>1)</sup>, 山地大介<sup>1)</sup>, 矢野宏行<sup>1)</sup>, 満島 勝<sup>1)</sup>, 長嶋洋治<sup>2)</sup>, 南 史朗, 春日雅人<sup>1)</sup>, 松本道宏<sup>1)</sup> (1) 国立国際医療研究センター分子代謝制御研究部, 2) 兵庫大学健康科学部, 3) 東京女子医科大学 病理診断科): 肝臓特異的な脂肪酸合成酵素の欠損は ob/ob マウスの脂肪肝と耐糖能を改善するが随時高血糖を惹起する. 日本病態栄養学会年次学術集会 (第 18 回) (京都), 2015. 1.

## 2. 呼吸ケアクリニック

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Angata T<sup>1, 2)</sup>, Ishii T, Gao C<sup>1)</sup>, Ohtsubo K<sup>1)</sup>, Kitazume S<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>3)</sup>, Kida K, Taniguchi N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Systems Glycobiology Research Group, Global Research Cluster, <sup>2)</sup> Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica, <sup>3)</sup> Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Association of serum interleukin-27 with the exacerbation of chronic obstructive pulmonary disease. *Physiol Rep* 2014 ; 2 (7) : e12609.
- 2) Ishii T, Motegi T, Kamio K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Association of group component genetic variations in COPD and COPD exacerbation in a Japanese population. *Respirology* 2014 ; 19 (4) : 590-595.
- 3) Hattori K, Ishii T, Motegi T, Kusunoki Y, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between serum cardiac troponin T level and cardiopulmonary function in stable chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2015 ; 10 : 309-320.

##### (2) 総説：

- 1) 茂木 孝：ガイドラインに沿った実地診療のポイントとテクニック COPD 早期発見のテクニック 疑いから診断まで. *Medical Practice* 2014 ; 31 (4) : 563-567.
- 2) 木田厚瑞：医の焦点 COPD COPD の診断と治療. *アニムス* 2014 ; 19 (4) : 39-43.
- 3) 服部久弥子, 木田厚瑞：【シニア世代の旅行医学】65 歳からの肺炎予防 肺炎球菌ワクチンの重要性と有効性. *日本旅行医学会学会誌* 2014 ; 11 (1) : 39-43.
- 4) 石井健男, 木田厚瑞：SUPER VIEW 診る・識る・活かす「加齢と閉塞性肺疾患」. *Respir Trends* 2014 ; 4 (1) : 8-11.

#### 著書

- 1) 茂木 孝：〔分担〕COPD 患者の労作時息切れと併用療法による改善. COPD 治療におけるコンビネーションセラピー (一ノ瀬正和), 2014 ; pp30-36, 医薬ジャーナル社.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 茂木 孝：在宅酸素療法患者の評価・教育の現状と課題. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪), 2014. 4.
- 2) 茂木 孝：在宅酸素療法を受けている患者の災害時対策の現状 緊急時・災害時における HOT 患者の対応と問題点. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 54 回) (大阪), 2014. 4.

##### (2) 一般講演：

- 1) 茂木 孝, 田鎖幸江, 瀬川佳余, 伊藤亜紀, 山本未央, 古館隆子, 服部久弥子, 石井健男, 楠 祐司, 木田厚瑞：在宅酸素療法患者の酸素使用アドヒアランスに関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 24 回) (奈良), 2014. 10.
- 2) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kusunoki Y, Furutate R, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Dose the lung function decline correlate with the changes in COPD assessment test?. *ERS Annual Congress 2014 (Munich)*, 2014. 9.
- 3) Ishii T, Angata T<sup>1, 2)</sup>, Motegi T, Taniguchi N<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Systems Glycobiology Research Group, Global Research Cluster, RIKEN, <sup>2)</sup> Institute of Biological Chemistry, Academia Sinica) : Influence Of SIGLEC9 Polymorphisms On Characteristics Of Chronic Obstructive Pulmonary Disease Including Exacerbation-Prone Phenotype. *ATS 2014 International Conference (San Diego)*, 2014. 5.
- 4) Kusunoki Y, Hattori K, Nakamura T, Motegi T, Ishii T, Furutate R, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine and Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Increased frequency of supraventricular (SVPC) and ventricular arrhythmias (PVC) in stable patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD). *ERS Annual Congress 2014 (Munich)*, 2014. 9.

## 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 木田厚瑞, 藤本圭作<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 矢内 勝<sup>2)</sup> (1) 信州大学医学部保健学科検査技術学専攻生体情報検査学講座, 2) 石巻赤十字病院呼吸器内科)：大災害時に備え慢性重症の呼吸器疾患の対応策をどのように構築するか (座談会), 呼吸 2014 ; 33 (3) : 222-233.



### 3. 健診医療センター

#### 研究概要

健診医療センターでは、精神医学教室・薬理学教室と連携し画像による精神疾患の評価あるいは治療に関する治験・臨床研究を実施している。特にPETを利用したアミロイドイメージングやタウイメージングに関する検査を施行し、成果を上げている。タウイメージングについては、放射性薬剤の性質上特定波長の光を遮断する必要があり、製造から撮像までの環境や手順等の整備を行い、他の検査に支障をきたすことなく順調に検査を施行できるようになった。PETのみならずf-MRIを利用した研究にも取り組み、新しい刺激方法の導入のための整備を行っている。<sup>13</sup>N-アンモニアを利用した心筋血流PET検査は症例数を重ね、多枝病変あるいは心筋症・心不全に対する心筋灌流の評価に有益な結果を提示している。特に新しい技術を導入しているため、従来法による結果との乖離についても検討がなされ、有用性が示されている。心サルコイドーシスについては、前処置の体系が整備され腫瘍<sup>18</sup>F-FDG検査と同様の検査枠での検査実施が可能となり、また、前処置の適正さを判断するための基準について検討がなされ、評価の適正さについてデータを収集している段階である。技術系においては、画像を劣化させる体幹部からの散乱成分の検討が行われた。特に、アンモニアにおける心臓への影響は定量値算出に重要なパラメータとなり得るため、解析値に与える影響の検討は重要である。また、脳への影響を抑制するための防護装置についての検討がなされ、治験におけるPET検査における防護装置の有用性が示された。

#### 研究業績

##### 著書

- 1) 須田匡也：〔分担〕「リレー講座」核医学技術の基礎，SPECT装置による撮像から画像処理まで，臨床核医学，2014.

##### 学会発表

###### (1) 一般講演：

- 1) 金谷浩司<sup>1)</sup>，櫻井 実<sup>1)</sup>，長谷康二<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，武井めぐみ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 健診センター)：3D収集PET装置におけるアンモニア心筋PETの肝臓からの散乱線の検討。日本放射線技術学会第70回総会学術大会(第70回)(神奈川県横浜市)，2014. 4.
- 2) 富山 毅<sup>1)</sup>，石原圭一<sup>2)</sup>，須田匡也<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 放射線医学，2) 日本医科大学健診医療センター)：Comparison of time-of-flight with 3D RAMLA in a quantitative analysis for rest and stress myocardial blood flow using <sup>13</sup>N-ammonia PET. (第73回) 日本医学放射線学会総会2014(横浜)，2014. 4.
- 3) 富山 毅<sup>1)</sup>，石原圭一<sup>2)</sup>，須田匡也<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 放射線医学，2) 日本医科大学健診医療センター)：Assessment of pulmonary accumulation on <sup>13</sup>N-ammonia myocardial PET images. 日本核医学会学術総会2014(大阪)，2014. 11.
- 4) Tomiyama T<sup>1)</sup>，Kumita S<sup>1)</sup>，Ishihara K<sup>2)</sup>，Suda M<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 放射線医学，2) 日本医科大学健診医療センター)：Reduced heart rate response to adenosine was associated with low myocardial flow reserve in <sup>13</sup>N-ammonia PET studies. European Congress of Radiology (Wien (Vienna), Austria)，2015. 3.
- 5) Tomiyama T<sup>1)</sup>，Ishihara K<sup>2)</sup>，Suda M<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 放射線医学，2) 日本医科大学健診医療センター)：Impact of time-of-flight PET in a quantitative analysis on myocardial perfusion studies using <sup>13</sup>N-ammonia. SNMMI annual meeting 2014 (St. Louis, USA)，2014. 6.
- 6) 富山 毅<sup>1)</sup>，石原圭一<sup>2)</sup>，須田匡也<sup>2)</sup>：アンモニア心筋血流PETにおける肺野集積に関する検討。日本核医学会学術総会(第54回)(大阪)，2014. 11.
- 7) 櫻井 実，金谷浩司，武井めぐみ，須田匡也，長谷康二：頭部DynamicPETにおける視野外放射線除去能の検討。日本放射線技術学会総会学術大会(第70回)(横浜)，2014. 4.

## 4. 成田国際空港クリニック

### 研究概要

空港クリニックでは受診症例の分析研究を継続している。今年度は成田空港の国内線の充実と国内線旅客の増加に伴った、以前との比較研究を実施した。外国人旅客の最近の増加傾向により、旅客にしぼった詳細な検討を実施して行こうと考えている。今回の検討でも救急患者は旅客中心であり、外国人旅客と日本人旅客の比較、救急患者の旅客とそれ以外の比較検討等を実施して行く。現在、首都大学東京の松井教授と実施している体温・呼吸数・脈拍数の測定機器の共同研究は予定症例の半数には達しているので症例の検討を実施し、論文化について話し合う予定である。今年度は実際の検討や研究より、患者統計の正確性を高めるべく、分類や統計処理を明確にすることを中心としてきた。来年度は上記以外にも航空機災害時の救護活動マニュアル作りや、災害救護訓練などについても研究、検討して学会発表をして行きたいと考えている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 赤沼雅彦, 松浦直子：成田国際空港クリニックにおける診療症例 2012 年 2013 年の比較. 日本宇宙航空環境医学会（第 60 回）（東京（お茶の水）), 2014. 11.

##### (2) 認定医講習：

- 1) 赤沼雅彦：日本医科大学成田国際空港クリニックの現状と課題. 日本宇宙航空環境医学会（東京（お茶の水）), 2015. 3.

[5] そ の 他

# 1. 医学教育センター

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Fujikura T, Nemoto T<sup>1)</sup>, Takayanagi K, Kashimura M<sup>2)</sup>, Hayasaka Y, Shimizu K<sup>3)</sup> (1) Department of Physiology, 2) Department of Medical Psychology, 3) Division of Endocrine Surgery, Department of Surgery) : A Freshman Orientation Program to Provide an Overview of the Medical Learning Roadmap. Journal of Nippon Medical School 2014 ; 81 (6) : 378-383.

#### (2) 研究報告書：

- 1) 井上千鹿子：芸術学部の第1世代 SP からみた標準模擬患者の養成. 日本大学 FD 研究 2015 ; (3) : 56-58.

#### (3) 巻頭言：

- 1) 藤倉輝道：わが国における臨床アレルギー学の卒前教育. アレルギー・免疫 2014 ; 21 (11) : 15.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 海原純子：ストレス時代を生きる. 臨床検査自動化学会 (兵庫県神戸市), 2014. 10.

### (2) 招待講演：

- 1) 海原純子：逆境に強い心をそだてる. 日本心身医学会公開講座, 東京セルフ研究会 (第29回) (東京), 2014. 11.

### (3) 一般講演：

- 1) 井上千鹿子<sup>1, 2)</sup>, 飯田 洋<sup>2, 3)</sup>, 恒川幸司<sup>4)</sup>, 稲森雅彦<sup>3)</sup>, 福沢嘉孝<sup>4)</sup>, 後藤英司<sup>5)</sup> (1) 愛知医科大学大学院医学研究科基礎医学系 医学・医療教育学, 2) 横浜市立大学医学教育学教室, 3) 横浜市立大学消化器内科, 4) 愛知医科大学医学部医学教育センター, 5) 横浜保土ヶ谷中央病院) : 文科省 GP プログラムに採択された医学部におけるコミュニケーション教育の方略と評価に関する調査. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山大学), 2014. 7.
- 2) 恒川幸司<sup>1)</sup>, 井上千鹿子<sup>2)</sup>, 福沢嘉孝<sup>1)</sup> (1) 愛知医科大学医学部医学教育センター, 2) 愛知医科大学大学院 医学研究科 基礎医学系 医学・医療教育学) : 臨床実習の評価シート改訂による各診療科の評価における客観性への影響. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山大学), 2014. 7.
- 3) Suzuki T<sup>1)</sup>, Inoue C, Ikebuchi K<sup>1)</sup>, Hirano D<sup>1)</sup>, Miura Y<sup>1)</sup>, Iwakami S<sup>1)</sup>, Mimori N<sup>1)</sup> (1) School of Nursing and Rehabilitation Sciences at Odawara, International University of Health and Welfare) : Is it necessary for occupational therapy students to use COPM for OSCE?. The Association for Medical Education in Europe 2014 (Milan, Italy), 2014. 9.
- 4) 早坂明哲, 井上千鹿子, 伊藤高司, 伊藤保彦<sup>1)</sup>, 藤倉輝道 (1) 日本医科大学大学院医学研究科小児・思春期医学部) : タブレット端末を利用した医学系 OSCE 評価記録システムの導入. 大学 ICT 推進協議会 2014 年度年次大会 (仙台市), 2014. 12.
- 5) 阿曾亮子, 大西弘高<sup>1)</sup>, 藤倉輝道, 吾妻安良太<sup>2)</sup> (1) 東京大学医学教育国際研究センター, 2) 日本医科大学呼吸器内科) : 日本医科大学での SP 参加型医療面接実習が卒後に与えるインパクトの分析. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山), 2014. 7.
- 6) 阿曾亮子, 桑原健太郎<sup>1)</sup>, 藤倉輝道, 前田美穂<sup>1)</sup>, 金原和也<sup>2)</sup>, 井上千鹿子, 伊東泰夫<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学小児科, 2) 日本医科大学 SP) : 小児科の医療面接シミュレーションにおける種々の工夫の臨場感の向上への有用性. 日本医療シミュレーション教育学会 (第2回) (宮崎), 2014. 6.
- 7) 藤倉輝道, 高柳和江, 早坂明哲, 根本崇宏<sup>1)</sup>, 櫻村正美<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup> (1) 生理学 (生体統御学), 2) 臨床心理学, 3) 内分泌外科学) : PBL を発展させた医学部1年生向け学習ロードマップ体験プログラム. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山市), 2014. 7.
- 8) 海原純子, 錦谷まり子<sup>1)</sup> (1) 九州大学) : 被災地における転居経験と生活満足度, 地域との繋がりとのかわりについて. 日本ストレス学会 (第30回) (東京), 2014. 11.
- 9) 海原純子, 錦谷まり子<sup>1)</sup> (1) 九州大学) : 被災地における繋がり主観的健康観, 生活満足度について. 日本公衆衛生学会 (第73回) (栃木県宇都宮市), 2014. 11.
- 10) 藤倉輝道, 高柳和江, 早坂明哲, 根本崇宏<sup>1)</sup>, 櫻村正美<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup> (1) 生理学 (生体統御学), 2) 臨床心理学, 3) 内分泌外科学) : PBL を発展させた医学部1年生向け学習ロードマップ体験プログラム. 日本医学教育学会 (第46回) (和歌山市), 2014. 7.
- 11) 早坂明哲, 伊藤高司, 藤倉輝道 : 日本医科大学の e ラーニング環境と学生のアンケート調査報告. 日本医学教育学会大会 (第46回) (和歌山市), 2014. 7.

## 論文

### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Fujikura T<sup>1,2)</sup>, Takeshita T<sup>3)</sup>, Homma H<sup>4)</sup>, Adachi K<sup>5)</sup>, Miyake K<sup>6)</sup>, Kudo M<sup>7)</sup>, Takizawa T<sup>8)</sup>, Nagayama H<sup>9)</sup>, Hirakawa K<sup>10)</sup>  
(<sup>1)</sup> Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Head & Neck and Sensory Organ Science, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Department of Internal Medicine, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>6)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, <sup>7)</sup> Department of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School, <sup>8)</sup> Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, <sup>9)</sup> Department of Neurological, Nephrological and Rheumatological Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>10)</sup> Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Team-based learning using an audience response system : A possible new strategy for interactive medical education. *Journal of Nippon Medical School* 2013 ; 80 (1) : 63-69.
- 2) Umihara J, Nisikitani M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Fukuoka Womens'University) : Effect of perceived economic status on knowledge about cancer prevention, healthy behaviors, and cancer check up rate in Japan. *Ningen dock international* 2014 ; 1 (1) : 47-53.
- 3) Umihara J, Nisikitani M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Fukuoka Womens'University) : Emergent use of Twitter in the 2011 Tohoku Earthquake. *Disaster Medicine* 2013 ; 5 (28) : 434-440.

## 著書

追加分：

- 1) 海原純子：〔自著〕幸福力，2014；pp1-149，潮出版社。
- 2) 海原純子：〔分担〕都市の健康を考える。都市の健康一人，まち，社会の健康づくりー（全国市長会），2013；pp179-187，（株）ジェイクリエイト。

## 学会発表

追加分一般講演：

- 1) Umihara J : Rapport between cancer patients and physicians is a critical issue for patients'satisfaction with treatment decision. *World Conference on lung cancer (15th) (Sydney,Australia)*, 2013. 10.
- 2) 海原純子，錦谷まり子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 福岡女子大学文理学部) : 経済的ゆとり感が人生満足度に与える影響について。ポジティブサイコロジー学会（第2回）（福島県郡山市），2013. 10.
- 3) 海原純子，錦谷まり子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 福岡女子大学文理学部) : リジリエンスツイッターの提言。ポジティブサイコロジー医学会（第2回）（福島県郡山市），2013. 10.
- 4) 海原純子，錦谷まり子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 福岡女子大学文理学部) : 婚姻と周辺人間関係への評価。日本公衆衛生学会（第72回）（三重県津市），2013. 10.

追加分特別講演：

- 1) 海原純子：暮らしの中に認知行動療法を生かす。アジア認知行動療法会議学術総会（第4回）（東京），2013. 8.
- 2) 海原純子：がん患者の心のケアを考える。がん診療連携拠点病院セミナー（岐阜県岐阜市），2014. 3.
- 3) 海原純子：ポジティブな生き方。東北精神医会みちのくフォーラム2014（福島県郡山市），2014. 9.
- 4) 海原純子：命を大切に心のネットワークづくり。心の健康づくりセミナー（島根県雲南市），2014. 2.
- 5) 海原純子：ストレス時代を生きる。こころと身体の健康フォーラム（愛媛県伊予市），2014. 2.

## 2. 学生部

### [学生相談室]

#### 研究概要

学生相談室は、学生が直面する諸問題、例えば、人間関係や生活上の困りごと、家族や自分自身についての問題や悩みごと、情緒不安などについて、学生一人ひとりに応じた相談およびカウンセリング等を主としているが、臨床心理学、各種心理療法、メンタルヘルス等についての研究も折に触れて取り組んでいる。今年度は、昨年度に引き続き、本大学の医療心理学教室及び東京成徳大学との協働で、心理教育的介入プログラムに関わる研究を中心に行った。

#### 研究業績

##### 学会発表

(1) ポスター：

- 1) 石村郁夫<sup>1)</sup>，羽鳥健司<sup>2)</sup>，山口正寛<sup>3)</sup>，野村俊明<sup>4)</sup>，鋤柄のぞみ<sup>4)</sup> (1) 東京成徳大学，2) 埼玉学園大学，3) 東京未来大学，4) 日本医科大学)：Compssion Training Programs の概観と今後の展望。日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第16回大会（香川県高松），2014. 9.

##### 論文

##### [追加分]

追加分原著：

- 1) 石村郁夫<sup>1)</sup>，羽鳥健司<sup>2)</sup>，浅野憲一<sup>3)</sup>，山口正寛<sup>1)</sup>，野村俊明<sup>4)</sup>，鋤柄のぞみ<sup>4)</sup>，岩壁 茂<sup>5)</sup> (1) 東京成徳大学，2) 埼玉学園大学，3) 千葉大学大学院，4) 日本医科大学，5) お茶ノ水大学)：セルフ・コンパッション尺度の作成および信頼性と妥当性の検討。東京成徳大学大学院心理学研究科臨床心理学研究 2014：14：141-153.

# 付 表

# 1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1) 平成 26 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・一部基金） 交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
新学術領域研究 (研究領域提案型)	小林 克典	薬理学・准教授	2,800	※精神疾患のプレシナプスエンドフェノタイプとその発現機構の解析
基盤研究 (B)	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	3,200	※アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出
基盤研究 (B) (一部基金)	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	3,400	※妊娠高血圧症候群の分子病態におけるマイクロ RNA の役割解明と新規予知因子の開発
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	4,200	健康増進と疾病予防に寄与する分子状水素の多様な機能を発揮するメカニズムの解明
〃	岡田 尚巳	分子遺伝医学・大学院教授	2,600	アデノ随伴ウイルスベクターを応用した脳神経疾患に対する遺伝子細胞療法
〃	横堀 将司	救急医学・講師	3,900	虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫に対する術前急速導入脳低温療法の有効性の検討



## 2) 平成 26 年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・一部基金) 研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 清水 渉 循環器内科学	新学術領域研究	中沢 一雄 国立循環器病研究センター	※多階層データに基づく心臓電気現象の統合的機能シミュレーション
2 森田 明夫 脳神経外科学	基盤研究 (S)	光石 衛 東京大学	※超微細手術のための汎用プラットフォーム開発とそれを交える超精密テクノロジーの追求
3 宮下 次廣 放射線医学	基盤研究 (B)	宮川 成雄 早稲田大学	※臨床法学教育の課題と法科大学院教育の再検討
4 野村 俊明 武蔵境校舎 心理学 教室	〃	青木紀久代 お茶の水女子大学	※学校における心の健康と発達支援～学校力と地域・分化資源の活用
5 岡 敦子 武蔵境校舎 生物学 教室	〃	井筒 ゆみ 新潟大学	※自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム
6 岡田 尚巳 分子遺伝医学	〃	松崎 政紀 基礎生物学研究所	※大脳領野間機能的シナプス結合の系統的光マッピングと領野間シナプス可塑性の研究
7 岡田 尚巳 分子遺伝医学	〃	中村紳一郎 滋賀医科大学	※アルツハイマー病モデルサル、脳におけるヒト変異型 APP 強制発現と老人斑形成
8 瀧澤 俊広 分子解剖学	〃	齋藤 滋 富山大学	※免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する
9 樫村 正美 武蔵境校舎 医療心理学 教室	基盤研究 (B) (一部基金)	堀越 勝 国立精神・神経医療研究センター	※心的外傷後ストレス障害に対する認知処理療法の効果検証と治療メカニズムの解明
10 根井 貴仁 呼吸器内科学	〃	中田 光 新潟大学	※次世代シークエンサーを用いた GM-CSF 自己抗体産生機序の解明
11 三品 雅洋 神経内科学	〃	石渡 喜一 東京都健康長寿医療センター	※代謝型グルタミン酸受容体1型の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究
12 武井 寛幸 乳腺外科学	〃	関野 正樹 東京大学	※センチネルリンパ節を特定する磁気プローブの開発
13 本村 友一 救急医学	〃	西本 哲也 日本大学	ヒト胸腹部の損傷メカニズムの解明による災害発生時の安全ガイドラインの作成
14 石渡 俊行 病理学 (統御機構・腫瘍学)	〃	道下 正貴 日本獣医生命科学大学	犬の難治性がんにおけるがん幹細胞の特性解析とがん幹細胞標的治療法の基盤構築
			補助金直接経費合計額 4,420,000 円

## 3) 平成 26 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究 (C)	折笠千登世	老人病研究所 (疫学部門)・講師	1,000	※組み換えアデノウイルスベクターを用いた脳の性差形成機構の解明
〃	鶴岡 秀一	腎臓内科学・大学院教授	800	※アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発
〃	洲鎌 秀永	生理学 (生体統御学)・講師	1,300	※ノルアドレナリンによるミクログリア活性化と退行性神経変性病態のメカニズム
〃	横田 隆	老人病研究所 (分子生物学部門)・テクニカル・スタッフ	1,300	※水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析
〃	野村 務	消化器外科学・准教授	700	※医学生に対する内視鏡外科トレーニングの教育効果の検討
〃	高久 俊	微生物学・免疫学・講師	1,100	※漢方薬が免疫制御系細胞群に与える影響～腫瘍ワクチン効果の増強を目指して
〃	鋤柄のぞみ	学生相談室・助教	1,000	※自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発
〃	岡 敦子	武蔵境校舎 生物学教室・教授	1,000	※消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析
〃	高市 眞一	武蔵境校舎 生物学教室・准教授	500	※藻類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類
〃	永原 則之	基礎医学 RI 研究室・准教授	1,200	※硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに関する網羅的研究
〃	岡本 研	生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)・准教授	1,200	※XOR 変異マウスを用いたスーパーオキシドが個体に及ぼす長期的, 全身的影響の検証
〃	水口 義昭	消化器外科学・助教	1,200	※HBV 由来低分子 RNA の機能解析と肝癌発癌メカニズムの解明
〃	工藤 光洋	病理学 (統御機構・腫瘍学)・講師	1,400	※服薬コンプライアンスを改善する, 患者に応じて見せる糖尿病シミュレーションモデル
〃	川田 智之	衛生学公衆衛生学・大学院教授	1,400	※職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメンタルヘルスに関する総合的研究
〃	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・講師	1,200	※ディーゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・准教授	500	※メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究
〃	二神 生爾	消化器内科学・准教授	1,000	※胃癌腹膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構と ips gene 発現の解析
〃	高木 元	循環器内科学・講師	900	※薬剤送達システム徐放化多血小板血漿による血管再生治療
〃	丸山 光紀	循環器内科学・助教	500	※膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明
〃	清野 精彦	循環器内科学・教授	1,000	※心血管バイオマーカー・リンケージ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築
〃	石井 健男	呼吸器内科学・講師	1,300	※オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討
〃	清家 正博	呼吸器内科学・准教授	900	※肺癌の特異的血清およびエクソソーム由来マイクロ RNA の同定および個別化治療の応用
〃	清水 章	解析人体病理学・大学院教授	1,500	※ANCA 関連腎炎の発症進展に関わる免疫ネットワークの解明とその制御
〃	和田 龍一	付属病院 病理部・准教授	1,200	※EB ウイルス由来機能性 RNA を標的としたホジキンリンパ腫の実験的分子標的治療
〃	山口 博樹	血液内科学・准教授	500	※CAP1 遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明
〃	浅野 健	小児科学・准教授	1,100	※小児急性脳症において新規に発見したバイオマーカーの機能・神経病理学的探索
〃	三宅 紀子	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・テクニカル・スタッフ	1,300	※脳神経病変を標的としたリソゾーム病の新規治療法 (遺伝子治療) の開発
〃	長田 真一	皮膚科学・助教	800	※細胞極性制御因子による皮膚幹細胞の維持機構

〃	上田 諭	精神医学・講師	1,200	※ドパミントランスポーターイメージングによるレビー小体型認知症バイオマーカーの研究
〃	汲田伸一郎	臨床放射線医学・大学院教授	700	※MDCT/PETを用いた非侵襲的な冠動脈不安定プラーク検出に関する研究
〃	横田 裕行	救急医学・大学院教授	700	※臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究
〃	松田 明久	消化器外科学・助教	1,300	※MFG-E8をターゲットとした手術侵襲後炎症性生体反応の制御
〃	川野 陽一	消化器外科学・特別研究生	1,400	※小児生体肝移植後グラフト肝加齢変化のテロメア長とテロメラーゼ活性による解明
〃	井村 肇	心臓血管外科学・准教授	700	※人工心肺中低頻度人工呼吸の肺保護効果の研究：臨床応用と未熟肺への基礎的アプローチ
〃	白田 実男	呼吸器外科学・大学院教授	800	※末梢小型肺腺癌に対する次世代型気管支鏡治療の開発
〃	石角太郎	呼吸器外科学・講師	1,200	※中枢型肺癌に対する凍結融解療法を用いた新規内視鏡治療の開発
〃	桂 研一郎	神経内科学・准教授	800	※2型糖尿病合併脳梗塞における虚血性細胞障害増悪のメカニズムの追求と新規治療の試み
〃	森田 明夫	脳神経外科学・大学院教授	800	※医工学を用いた微小外科手術技術評価と効果的トレーニング法の開発
〃	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・大学院教授	1,300	※体内遺伝子発現変動からみた全身麻酔の機序解明
〃	市川 雅男	産婦人科学・講師	1,100	※胎児免疫寛容における胎児抗原特異的CTLの挙動と胎盤のバリア機構の解明
〃	桑原 慶充	産婦人科学・准教授	1,200	※子宮頸管リモデリング制御におけるプロゲステロンシグナリングの作用分子機構
〃	明楽 重夫	産婦人科学・教授	1,100	※Urocortin2の子宮内膜症における発現と病態への関与の解析
〃	Ruby Pawan- kar	小児科学・特任教授	900	※鼻副鼻腔炎を伴う鼻茸の発症機序と再発に関与するT細胞特にTreg細胞の新たな役割
〃	藤本 千明	眼科学・特別研究生	1,500	※高浸透圧と自然免疫がドライアイに及ぼす影響と、それに基づく新たな予防・治療戦略
〃	M GHAZIZA- DEH	形成外科学・非常勤講師	900	※ケロイド発生におけるWnt5aシグナル伝達機構の解明と分子標的治療への応用
〃	土佐真美子	形成外科学・講師	500	※ケロイド発生に関与するIL-6プロモーター領域一塩基多型の同定とその機能解析
〃	原 義明	救急医学・助教	800	※血漿マイクロRNA発現による骨折治療遅延の新しい分子治療の解明
〃	塚本 剛志	救急医学・助教	1,300	※骨軟部組織損傷後の臓器傷害発生メカニズムの検討
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	1,100	※放射線照射による消化管樹状細胞の活性化と卵白アルブミン特異的アレルギー反応の誘導
〃	野村 俊明	武蔵境校舎 心理学教室・教授	1,300	※ケア学への提言―街ぐるみ認知症相談センターの実践から
〃	原 行弘	リハビリテーション学・大学院教授	1,000	※脳機能画像をもとにした二元的脳機能賦活戦略
〃	大林 茂	リハビリテーション学・助教	1,000	※脳卒中後高次脳機能障害の皮質・皮質下相互作用による脳活動ガイド下介入治療
〃	三上 俊夫	武蔵境校舎 スポーツ科学教室・准教授	2,200	※グルココルチコイドは高強度運動による海馬での神経新生の増加を引き起こす要因か否か
〃	西槇貴代美	老人病研究所(生化学部門)・マネジメントサポート・スタッフ	1,300	※水素分子による酸化ストレス防御機構と脳内レドックス動態の解析
〃	長谷部 孝	武蔵境校舎 生物学教室・准教授	500	※消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御におけるNotchシグナル経路の役割
〃	石井 寛高	解剖学(生体構造学)・講師	1,200	※多重プロモーターと選択的スプライシングによるエストロゲン受容体発現調節機構の解明
〃	濱田 知宏	生理学(システム生理学)・助教	900	※心の性を司る視索前野性の二型核および分界条床核の性差形成機構
〃	柿沼 由彦	生体統御科学・大学院教授	2,100	※心筋細胞Ach産生系制御による代謝リモデリング介入効果についての基盤的研究

〃	鈴木 秀典	薬理学・大学院教授	1,200	※発達障害治療を指向した脳部位特異的マイクログリアにおける microRNA 機能解析
〃	平井 幸彦	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・講師	1,600	※適正製造規範に適合する簡易精製が可能な次世代 AAV ベクターの開発
〃	岩堀 徹	病理学 (解析人体病理学)・研究員	1,200	※多重染色 FACS を用いた腎組織病理診断に替わる糸球体腎炎の診断・病態解析法の確立
〃	阿曾 亮子	医学教育センター・助教	1,000	※医療面接実習において学生が行動変容を来たす模擬患者のフィードバック手法の特定
〃	茂木 孝	呼吸器内科学・助教	600	※患者状態適応型パスを用いた COPD の診療・連携パスの質評価に関する研究
〃	長谷場 健	法医学・准教授	1,300	※高 KmADH3 の慢性 Alc 摂取下での Alc 代謝と Alc 性障害発症における役割
〃	石渡 俊行	病理学 (統御機構・腫瘍学)・准教授	900	※microRNA による nestin 制御：膀胱癌治療の臨床応用を目指した検討
〃	高野 仁司	循環器内科学・准教授	1,700	※PET による冠動脈ステント留置部位の炎症反応の非侵襲的評価
〃	弦間 昭彦	呼吸器内科学・大学院教授	1,500	※ドライバー 遺伝子変異依存肺癌に対する finishing blow 治療に関する研究
〃	峯岸 裕司	呼吸器内科学・講師	900	※特発性間質性肺炎合併肺癌の化学療法関連急性増悪予測バイオマーカーの探索的研究
〃	木田 厚瑞	呼吸器内科学・特任教授	1,200	※Marfan 型 COPD の遺伝子レベルから見た ECM の動態と革新的治療に向けた研究
〃	寺崎 泰弘	病理学 (解析人体病理学)・准教授	1,400	※ヒト病変および新規動物モデルを用いたリンパ球浸潤性の肺線維化病変の病態解明
〃	飯島 修	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・助教	1,500	※低フォスファターゼ症マウスを用いた先天性代謝異常症の再生医療・細胞治療法の開発
〃	高橋 秀実	微生物学・免疫学・大学院教授	1,000	※ランゲルハンス細胞活性化による新たな免疫療法の開発
〃	安齋 真一	皮膚科学・准教授	1,200	※ケラトアカントーマは良性腫瘍か：プロテオミクスを用いた不均質性の解明
〃	館野 周	精神医学・准教授	900	※ドパミントランスポーター PET による妄想の病態解明と客観的評価法の開発研究
〃	眞野あすか	生理学 (生体統御学)・講師	1,000	※神経性食欲不振症の病態進行機序における視床下部 CRF の役割の解明
〃	田島 廣之	放射線医学・教授	900	※新規システムを用いた致死性静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド IVR に関する研究
〃	平方 敦史	消化器外科学・助教	1,300	※ミニブタ脳死ドナー/臓器への一酸化炭素投与の移植臓器生着延長効果と臓器間の相違
〃	坂本俊一郎	心臓血管外科学・講師	1,400	※心房細動治療における心房間伝導調整の研究
〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・准教授	1,900	※下垂体腺腫における Gremlin の発現と細胞内シグナルの解析に関する研究
〃	高井 信朗	整形外科学・大学院教授	1,300	※関節鏡視下色彩色差計測による関節軟骨評価法の開発
〃	坂井 敦	薬理学・講師	1,600	※神経障害性疼痛特異的 microRNA クラスターの多角的解析
〃	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・大学院教授	1,200	※原因不明不妊症における新規自己抗体とその標的抗原の同定
〃	松本 尚	救急医学・准教授	800	※体幹部外傷時の大量出血に対する超分子ゲルを用いた一時的止血効果に関する基礎的実験
〃	布施 明	救急医学・准教授	900	※マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析
〃	新井 正徳	救急医学・助教	1,200	※マウス腎虚血再灌流障害モデルにおける Egr-1 の役割
〃	金 史英	救急医学・助教	1,200	※急性腸間膜虚血の早期診断および救命率向上に向けた治療戦略の構築
〃	増野 智彦	救急医学・講師	1,200	※ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する組織損傷の影響
〃	上村 尚美	老人病研究所 (生化学部門)・准教授	1,300	水素分子の糖尿病改善効果と遺伝子発現誘導における作用機序の解明
〃	西山 康裕	神経内科学・助教	1,800	脳梗塞モデルにおけるマイクログリアとマクロファージが神経機能に与える影響の解明

〃	高橋 謙治	整形外科 (リウマチ科)・准教授	1,200	MRI による非侵襲温度分布モニタリングを指標とした関節深部加温法の開発
〃	菊地 浩人	武蔵境校舎 物理学教室・准教授	2,400	ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬—酵素薬剤相互作用のダイナミクス—
〃	小澤 一史	解剖学・神経生物学・大学院教授	1,500	新規生殖制御系への環境情報入力と三次元的相互作用, 生活環に関する機能形態学的研究
〃	浅井 明	内分泌糖尿病代謝内科学・研究生	1,300	なぜ耐糖能異常は動脈硬化性疾患の危険因子なのか: 新規モデルマウスを用いた解析
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・准教授	900	カーバメイト系農薬による抗癌免疫機能への影響及びその機序
〃	林田真喜子	法医学・准教授	2,000	法医中毒薬毒物の QTOF データに対する包括的マルチプロセス解析の検討
〃	宮永 晃彦	呼吸器内科学・助教	2,000	肺神経内分泌腫瘍の遺伝子変異・融合遺伝子の同定と新規治療標的バイオマーカーの開発
〃	神尾孝一郎	呼吸器内科学・助教	1,500	自家骨髄細胞の肺線維化病態への臨床応用に向けた培養系構築と脾臓の役割に関する研究
〃	吾妻安良太	呼吸器内科学・教授	1,500	肺線維化病態における mTOR-SPARC 経路の解明と新規バイオマーカーの探索
〃	寺崎 美佳	病理学 (解析人体病理学)・助教	1,700	炎症性肺疾患におけるサバイビンの分子病態の解明と新規遺伝子治療法の開発
〃	功刀しのぶ	病理学 (解析人体病理学)・講師	2,200	間質性肺炎におけるマイクロ RNA, エクソソームを介する病態の解析と臨床応用
〃	三品 雅洋	神経内科学・准教授	2,000	レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究
〃	田村 秀人	血液内科学・准教授	1,500	骨髄腫微小環境における SLAM ファミリー分子の機能解析と新規治療の開発
〃	猪口 孝一	血液内科学・大学院教授	1,900	新規 RCSD1-ABL1 遺伝子癌化能と分子標的薬開発
〃	桑名 正隆	アレルギー膠原病内科学・大学院教授	1,400	末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発
〃	永野 昌俊	薬理学・講師	1,500	染色体重複モデル動物を用いた科学的根拠に基づく自閉症治療法開発の基礎的研究
〃	植田 高弘	小児科学・講師	1,400	脂肪由来間葉系幹細胞を用いた骨髄再生の研究・人工骨髄の作成をめざして
〃	三宅 弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・准教授	1,400	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規動物モデル作製と治療法の開発
〃	深澤 隆治	小児科学・准教授	1,500	川崎病発症機序の解明
〃	天野 康雄	放射線医学・准教授	1,400	3次元タギング MRI を用いた心不全の予後予測
〃	松谷 毅	消化器外科学・講師	1,200	外科的侵襲時における脂肪組織と M1/M2 マクロファージのクロストーク機構の解明
〃	石井 永一	病理学 (解析人体病理学)・研究生	1,300	ラット肝臓移植モデルを用いた移植肝臓の免疫寛容獲得の機序とバイオマーカーの同定
〃	山田 岳史	消化器外科学・講師	600	cell free DNA を用いた EGFR 阻害剤耐性獲得機序解明
〃	松下 晃	消化器外科学・助教	1,200	膵癌における Stat5 の生物学的役割とそのシグナル伝達経路について
〃	近藤 幸尋	男性生殖器・泌尿器科学・大学院教授	1,700	尿路上皮癌における生理活性酸化脂質の新規役割の究明
〃	松根 彰志	耳鼻咽喉科学・教授	1,400	難治性鼻副鼻腔炎病態における局所粘膜での抗体産生に関する研究
〃	五十嵐 徹	小児科学・講師	1,300	網膜動脈閉塞症に対する水素水点眼の臨床応用
〃	高橋 浩	眼科学・大学院教授	1,400	網膜酸化ストレス傷害に対する水素水点眼の効果
〃	堀 純子	眼科学・准教授	1,600	眼組織の移植と再生のための眼免疫応答の制御
〃	小川 令	形成外科学・准教授	2,300	ケロイド発生における局所, 全身, 遺伝因子の相互作用機序の解明
〃	村上 正洋	形成外科学・准教授	2,200	ケロイドにおける Th17 細胞/制御性 T 細胞による免疫機構の解明と新治療の開発
挑戦的萌芽研究	岡田 尚巳	分子遺伝医学・大学院教授	1,000	※新規相同組換え法を応用した遺伝子変異修復システム
〃	石川 源	産婦人科学・講師	400	※栄養膜におけるクロマチン転写制御機構に着目した胎盤絨毛形成・妊娠維持機構の解明

〃	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	500	※サリン事件被害者の長期的な健康不安の解析
〃	崎村 耕二	武蔵境校舎 英語教室・教授	600	※Oxford & Cambridge Unions の討論に見る英語の論述表現
〃	村田 智	放射線医学・准教授	1,000	※高温温熱灌流療法の開発に対する研究
〃	山口 文雄	脳神経外科学・准教授	600	※悪性脳腫瘍に対する音響化学療法によるブレイクスルー
〃	渡邊 淳	生化学・分子生物学(分子遺伝学)・准教授	700	一般市民への「ヒトの遺伝」リテラシー向上を目指した課題調査とプログラム・教材開発
〃	檉村 正美	武蔵境校舎 医療心理学教室・講師	900	高齢者支援のための心理社会的介入プログラムの開発
〃	飯島 典生	解剖学(生体構造学)・准教授	500	近赤外発光による脳深部の in vivo 光イメージングシステムの構築
〃	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	1,400	転写制御因子 HIF-1 による抗癌剤耐性獲得の分子機構とそれに対する癌治療法の開発
〃	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学(代謝・栄養学)・講師	1,600	グルコース感受性に関わる細菌型 mitoNEET システムの網羅的解析
〃	江本 直也	内分泌糖尿病代謝内科学・准教授	1,000	神経経済学的適応障害としての 2 型糖尿病の行動経済学的病態分析
〃	平川 慶子	法医学・助教	2,900	死亡直前のけいれんの有無を死体髄液の核磁気共鳴分析を用いて診断する試み
〃	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	1,700	胆管癌特異的長鎖ノンコーディング RNA の同定と革新的治療法開発への挑戦
若手研究 (B)	根井 貴仁	呼吸器内科学・助教	600	※間質性肺疾患の末梢血中線維細胞に関する研究
〃	可知 悠子	衛生学・公衆衛生学・助教	600	※非正規雇用の増加は健康と医療の格差を拡大したのか—20 年間の経時的分析から
〃	山口 晃志	法医学・助教	900	※催眠薬代謝物の合成、分析及び催眠薬代謝に対する法医学的アプローチ
〃	佐藤 寛栄	薬理学・助教	1,100	※ADHD 病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索
〃	池田裕美子	薬理学・助教	1,000	※アルコール依存症治療薬の可能性としての NK1 受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果
〃	赤城 一郎	消化器外科学・助教	700	※食道癌における PIK3CA/Akt とマイクロ RNA に関する分子生物学的解析
〃	進士 誠一	消化器外科学・助教	900	※消化管神経内分泌腫瘍における lumican の機能解明と新規治療薬の開発
〃	彭 為霞	病理学(統御機構・腫瘍学)・助教	1,100	※子宮内膜癌における FGFR2IIIc の役割の解明及び新たな治療戦略の検討
〃	松本 学	救急医学・助教	1,000	※重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能
〃	荻野 拓也	リハビリテーション学・研究員	1,000	※脳機能評価を用いた新しい転倒予防戦略の構築
〃	鈴木 由香	老人病研究所(疫学部門)・助教	1,000	※低タンパク質栄養によるアディポネクチン増加機構の解明とその生理的意義
〃	長尾 元嗣	内分泌糖尿病代謝内科学・助教	1,200	※新規モデルマウスを用いた高脂肪食誘導性耐糖能異常における疾患感受性規定因子の解明
〃	林 宏紀	呼吸器内科学・助教	800	※クラスター分析による慢性閉塞性肺疾患のフェノタイプと特異バイオマーカーの同定
〃	永坂 真也	病理学(解析人体病理学)・助教	1,200	※プロスタグランジン E2-腎局在樹状細胞による糸球体腎炎発症・進展制御機構の解明
〃	近藤 麻加	血液内科学・助教	1,200	※骨髓異形成症候群(MDS)における IL-2 受容体 $\alpha$ 鎖を標的とした新規治療の検討
〃	嶺 貴彦	放射線医学・助教	1,700	※リピオドールの粘度調整法の確立と低粘度油性造影剤の開発
〃	小野澤志郎	放射線医学・助教	1,000	※肝臓がんに対する門脈逆流式閉鎖循環下肝灌流療法の開発
〃	栗田 二郎	心臓血管外科学・助教	500	※徐放化多血小板血漿による血管新生療法の開発
〃	間瀬 有里	産婦人科学・助教	1,400	※exosomal microRNA をもとにした周産期予後マーカーの新規開発
〃	本村 友一	救急医学・助教	500	※スマートフォンの動画・音声伝送システムを用いた一般市民による救急通報に関する研究

〃	阿部 芳憲	老人病研究所(免疫部門)・助教	600	※慢性炎症誘発性発痛に関わる新しいSonic hedgehog 遺伝子誘導機構の解明
〃	阿部 新	神経内科学・助教	1,300	急性期脳梗塞における ADMA 値の経時変化と身体機能予後への影響
〃	石井 俊行	生理学(システム生理学)・助教	1,700	コリン作動性ニューロンにおける新たなコリン代謝経路の解明
〃	玉井 勇人	血液内科学・助教	1,900	MLL/AF4 陽性 ALL の S100A6 抑制による新規治療開発
〃	林 美雪	小児科学・助教	1,200	小児喘息の phenotype-endotype に寄与するバイオマーカーの解明
〃	安齋めぐみ	麻酔科学・助教	700	In vitro イメージングを用いた吸入麻酔薬セボフルランの標的分子の探索
〃	丸山 基世	実験動物管理室・助教	800	冷痛覚過敏の治療標的としての TRPV3 チャンネル機能解析
〃	関根 久遠	耳鼻咽喉科学・助教	1,200	新たな内耳性難聴治療法の開発 RNAi による難聴原因蛋白 Cochlin の発現抑制
〃	本間 耕平	生理学(システム生理学)・助教	2,000	細胞機能解析によるヒト iPS 細胞由来視細胞の移植適期同定
〃	細萱 順一	付属病院 集中治療室・看護師	900	全身麻酔を受けた術後患者の自律神経活動を基盤とした離床プログラムの開発
〃	林 昌子	産婦人科学・助教	1,000	母体血中 RNA を用いた HLA 遺伝子の動態解析～胎児バイオマーカー開発への展開

## 4) 平成 26 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 研究分担の交付決定一覧

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 小早川信一郎 眼科学	基盤研究 (C)	小林 寅吉 東邦大学	※病院内温水洗浄便座装置の細菌汚染に関する調査研究
2 伊藤 滋朗 精神医学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
3 下田 健吾 精神医学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
4 朝山健太郎 精神医学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
5 澤谷 篤 精神医学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
6 池森 紀夫 精神医学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
7 小町 太郎 耳鼻咽喉科学	〃	三枝 英人 東京女子医科大学	※慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
8 鴨井 久博 千葉北総病院 歯科	〃	川村 浩樹 日本歯科大学	※唾液メタボローム解析による歯周病検出技術の確立
9 中澤 秀夫 武蔵境校舎 数学教室	〃	門脇 光輝 愛媛大学	※ある特異性を持つ波動伝播のグリーン関数の漸近挙動とその散乱理論への応用
10 高野 仁司 循環器内科学	〃	稲見 茂信 国際医療福祉大学	※冠動脈プラーク破綻発症機序の解明：コレステロール結晶の重要性
11 岡田 尚巳 分子遺伝医学	〃	永田 哲也 国立精神・神経医療研究センター	※アデノ随伴ウイルスを用いた筋ジストロフィーに対するエクソン・スキップ治療の開発
12 松下 晃 消化器外科学	〃	松田 陽子 東京都健康長寿医療センター	※睪癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討
13 石渡 俊行 病理学（統御機構・腫瘍学）	〃	松田 陽子 東京都健康長寿医療センター	※睪癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討
14 進士 誠一 消化器外科学	〃	松田 陽子 東京都健康長寿医療センター	※睪癌における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討
15 小川 令 形成再生再生医学	〃	西良 浩一 徳島大学	※腰部椎管狭窄症における黄色靭帯肥厚メカニズムの解明
16 松田 明久 消化器外科学	〃	角 由佳 順天堂大学	※ATP/adenosine balance からみた SIRS 病態の解明
17 鈴木 英紀 形態解析共同研究施設	〃	萩沢 康介 防衛医科大学校	※衝撃波に起因するびまん性肺出血の病態解明と止血制御対策
18 大久保善朗 精神・行動医学	〃	苅部 洋行 日本歯科大学	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
19 館野 周 精神医学	〃	苅部 洋行 日本歯科大学	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
20 肥田 道彦 精神医学	〃	苅部 洋行 日本歯科大学	※非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価
21 飯島 典生 解剖学（生体構造学）	〃	澤井 信彦 群馬大学	※キスペプチンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンを介した生殖生理調節を検証する
22 清水 渉 循環器内科学	〃	林 研至 金沢大学	※遺伝性不整脈の新規原因遺伝子検索およびゼブラフィッシュを用いた不整脈重症度評価
23 太田 成男 細胞生物学	〃	高木章乃夫 岡山大学	※脂肪肝～肝発癌の病期に応じた最適な酸化ストレス介入療法の開発
24 岸 泰宏 精神医学	〃	八田耕太郎 順天堂大学	※神経炎症を視点にしたせん妄の予測、予防、治療に関する総合研究
25 藤崎 弘士 武蔵境校舎 物理学教室	挑戦的萌芽研究	戸田 幹人 奈良女子大学	※非平衡非定常現象への統計科学の展開と生体分子の機能発現機構に対するその応用
26 平川 慶子 法医学	〃	鈴木 哲仁 京都大学	※テラヘルツ帯における農産物・食品の物性評価
27 平川 慶子 法医学	〃	竹内 恵 京都大学	※血清を用いた新たな乳がん検出法の開発
28 平川 慶子 法医学	〃	吉村 長久 京都大学	※核磁気共鳴を用いた滲透型加齢黄斑変性に対する抗 VEGF 治療の反応性予測法の開発
29 平川 慶子 法医学	〃	小池 薫 京都大学	※敗血症ラット検体を用いた近赤外とラマン分光法の新規解析技術の開発



30	平川 慶子 法医学	〃	佐藤 格夫 京都大学	テラヘルツ計測、代謝物計測を用いた腸管虚血壊死の 新たな早期診断法の確立
31	平川 慶子 法医学	〃	鈴木 崇生 京都大学	核磁気共鳴データのパターン認識による解析を応用し た敗血症重症化早期診断法の開発
				補助金直接経費合計額 9,070,000 円

5) 平成 26 年度補助委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
野村俊明, 石村郁夫, 野村俊明	人文科学・社会科学・医療心理学	代表 分担 分担	科学研究費補助金 科学研究 (B) 科学研究費補助金 科学研究 (C) 科学研究 (C)	ケア学への提言：街ぐるみ認知症相談センターの活動から 自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発	野村俊明 鋤柄のぞみ 青木紀久代	日本医科大学 日本医科大学学生相談室 お茶の水女子大学
野村俊明	人文科学・社会科学・医療心理学	代表分担	科学研究費補助金 科学研究	高齢者支援のための心理社会的介入プログラムの開発	樫村正美	日本医科大学
樫村正美	人文科学・社会科学・医療心理学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (B)	心的外傷後ストレス障害に対する認知処理解療法の効果検証と治療プログラムの説明	堀越 勝	国立精神・神経医療研究センター
中澤秀夫	自然科学・数学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	ある特異性を有する波動伝播のグリーン関数の漸近挙動とその散乱理論への応用	門脇光輝	愛媛大学大学院理工学研究科
藤崎弘士	自然科学・物理学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬：酵素薬剤相互作用のダイナミクス	菊地浩人	日本医科大学 医学部
	自然科学・物理学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	非平衡非定常現象への統計科学の展開と生体分子の機能発現機構に対するその応用	戸田幹人	奈良女子大学 理学部
	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	薬類におけるカロテノイドを用いた化学分類と系統分類	高市真一	日本医科大学
	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	消化管上皮幹細胞の起源と幹細胞制御における Notch シグナル経路の役割	長谷部孝	日本医科大学
	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	消化管上皮の脱分化を制御する幹細胞ニッチ形成機構の解析	岡 敦子	日本医科大学
岡 敦子	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 科学研究 (B)	自己抗原タンパク質を介して組織リモデリングに働く獲得免疫システム	井筒ゆみ	新潟大学
	外国語・英語	代表	科学研究費補助金 科学研究	Oxford & Cambridge Unions の討論に見る英語の論述表現	崎村耕二	日本医科大学
	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	グルココルチコイドは高強度運動による海馬での神経新生の増加を引き起こす要因か否か	三上俊夫	
	分子解剖学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究	胆管癌特異的長鎖ノンコーディング RNA の同定と革新的治療法開発への挑戦	瀧澤俊広	
	分子解剖学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究 (B)	妊娠高血圧症候群の分子病態におけるマイクロ RNA の役割解明と新規予知因子の開発	瀧澤俊広	
	分子解剖学分野	分担	科学研究費補助金 科学研究 (B)	免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する	齋藤 滋	富山大学医学薬学研究所 産婦人科教室
飯島典生, 託貝 健, 石井寛高, 岩田衣世, 肥後心平	解剖学・神経生物学分野	代表分担	科学研究費補助金 科学研究 (C)	新規生殖制御系への環境情報入力と 3 次元的相互作用, 生活環境に関する機能形態学的研究	小澤一史	
	解剖学・神経生物学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究	近赤外発光による脳深部の in vivo 光イメージングシステムの構築	飯島典生	
	解剖学・神経生物学分野	代表	科学研究費補助金 科学研究 (C)	多重プロモーターと選択的スプライシングによるエストロゲン受容体発現調節機構の解明	石井寛高	
	解剖学・神経生物学分野	代表	日本イライリイリ株式会社 教育・研究助成金 (2014 年度)	ヒトエストロゲン受容体変異体ノ機能と発現調節機構の解明	服部裕次郎	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 手研究 (B)	細胞機能解析によるヒトiPS細胞由来視細胞の移植適期同定	本間耕平	
	感覚情報科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	心の性を司る視索前野野性的二型核および分界条床核の性差形成機構	濱田知宏	システム生理
	生体統御科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ノルアドレナリンによるミミクログリア活性化と逆行性神経変性病態のメカニズム	洲鎌秀永	
	生体統御科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	心筋細胞ACh産生系制御による代謝リモデリング介入効果についての基盤的研究	柿沼由彦	
	生体統御科学分野	代表	車両競技公益資金記念 財団	内在性非神経性コリン作動系賦活法の探索とその効果機序の解明	柿沼由彦	
根本崇宏	生体統御科学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	Urocartin2の子宮内膜症における発現と病態への関与の解析	明楽重夫	日本医科大学産婦人科学
長尾元嗣, 根本崇宏, 芝崎保	生体統御科学分野	分担	喫煙科学研究財団	ニコチン投与母ラットあるいは父ラットからの出生仔における成長後の耐糖能の異常の検討	杉原 仁	日本医科大学 内分泌糖尿病代謝内科
	生体統御科学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	神経性食欲不振症の病態進行機序における視床下部CRFの役割の解明	眞野あすか	
	代謝・栄養学分野	代表	科学研究費補助金 芽研究	グルコース感受性に関わる細菌型 mitoNEET システムの網羅的解析	岩崎俊雄	
	代謝・栄養学分野	代表	外国人特別研究員奨励 費 (科研費)	細胞増殖に関わる細菌型 mitoNEET の生体内レドックス制御システムの網羅的解析	岩崎俊雄	
	代謝・栄養学分野	代表	長瀬科学技術振興財団 研究助成 (平成26年度)	グルコース感受性に関わる細菌型 mitoNEET の生体内レドックス制御システムの解析	岩崎俊雄	
	代謝・栄養学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	XOR変異マウスを用いたスーパーオキシドが個体に及ぼす長期的、全身的影響の検証	岡本 研	日本医科大学 生化学・分子生物学 (代 謝・栄養学)
岡本 研	代謝・栄養学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ヒトには効くがバクテリアには効かない痛風薬：酵素薬相互作用のダイナミクス	菊地浩人	日本医科大学 物理学教室
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規動物モデル作製と治療法の開発	三宅弘一	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	脳神経病変を標的としたリゾソーム病の新規治療法 (遺伝子治療) の開発	三宅紀子	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	低フォスファターゼ症マウスを用いた先天性代謝異常症の再生医療・細胞治療法の開発	飯島 修	
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ヒト病変および新規動物モデルを用いたリソソーム浸潤性の肺線維化病変の病態解明	寺崎泰弘	解析人体病理学
三宅弘一	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	炎症性肺疾患におけるサバイビンの分子病態の解明と新規遺伝子治療法の開発	寺崎美佳	解析人体病理学
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	筋ジストロフィーの遺伝子治療を旨とした免疫寛容誘導法の検討	喜納裕美	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 手研究 (B)	機能強化型間葉系間質細胞を用いた細胞移植治療法開発の基盤研究	笠原優子	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	超音波血液脳関門開放とAAVベクターを用いた成体マーマーセットでかんかんモデルの開発	岡田浩典	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (B)	Aデノ随伴ウイルスベクターを応用した脳神経疾患に対する遺伝子細胞療法	岡田尚巳	
	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 芽研究	新規相同組換え法を応用した遺伝子変異修復システム	岡田尚巳	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	大脳領野間機能的シナプス結合の系統的光マッピングと領野間シナプス可塑性の研究	松崎政紀	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アルツハイマー病モデルサル、脳におけるヒト変異型 APP 強制発現と老人斑形成	中村伸一郎	滋賀医科大学動物生命科学 学研究所センター
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省科研費補助 金	ALS に対する新規治療技術の創出	山梨裕司	東京大学医学研究所 細胞増殖部門 腫瘍抑制分野
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省科研費補助 金	難治性神経変性疾患に対する神経シナプス形成を促進させるマイクロRNAの補充による新規治療法の開発と確立	北條浩彦	国立精神・神経医療研究 センター
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	遺伝性髄鞘形成不全症の病態に基づく革新的な治療法の開発のための研究	井上 健	国立精神・神経医療研究 センター
渡邊 淳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省科研費補助 金	希少がんの発生に関与する遺伝要因の解明のため多施設共同研究体制の構築と遺伝子探索	吉田輝彦	国立がん研究センター研 究所
渡邊 淳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省科研費補助 金	胎児・新生児骨系統疾患の診断と予後に関する研究	澤井英明	遺伝医学研究分野 産科婦人科学講座
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	適正製造規範に適合する簡易精製が可能な次世代AAVベクターの開発	平井幸彦	
岡田尚巳	分子遺伝医学分野	分担	厚生労働省科研費補助 金	革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業	小野寺雅史	国立成育医療研究セン ター
齋藤文仁, 永野昌俊, 坂井 敦	薬理学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	発達障害治療を指向した脳部位特異的ミクログリアにおける microRNA 機能解析	鈴木秀典	
鈴木秀典, 坂井 敦	薬理学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	染色体重複モデル動物を用いた科学的根拠に基づき自閉症治療法開発の基礎的研究	永野昌俊	
	薬理学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	神経障害性疼痛特異的 microRNA クラスターの多角的解析	坂井 敦	
	薬理学分野	代表	科学研究費補助金 新学術領域研究	精神疾患のプレシナプスエンドフェノタイプとその発現機構の解析	小林克典	
	薬理学分野	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	アルコール依存症治療薬の可能性としてのNK1受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす効果	池田裕美子	日本医科大学大学院精 神・行動医学
鈴木秀典	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	ADHD 病態におけるシナプス機能異常の電気生理学的検討および治療薬の探索	佐藤寛栄	
永野昌俊	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	日本医科大学救急医学
永野昌俊	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マイクログリアによる新しい脳損傷モデルの病態解析	布施 明	
鈴木秀典	薬理学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	硫化水素産生不全を伴う硫黄転移酵素ノックアウトマウスに關する網羅的研究	永原則之	日本医科大学放射線性同位 元素研究室
	薬理学分野	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業 CREST	精神の表出系としての行動異常の総合的研究	内匠 透	理学研究所 脳科学総合研究センター
	薬理学分野	代表	武田科学振興財団研究 助成金	脳神経細胞の経験依存的な成熟調節機構を利用した抗うつ効果の解析	小林克典	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ANCA 関連腎炎の発症進展に關わる免疫ネットワークの解明とその制御	清水 章	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ヒト病変および新規動物モデルを用いたリンパ球浸潤性の肺線維化病変の病態解明	寺崎泰弘	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	間質性肺炎におけるマイクロRNA、エクソソームを介する病態の解析と臨床応用	功刀しのぶ	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	炎症性肺炎におけるサバイビンの分子病態の解明と新規遺伝子治療法の開発	寺崎美佳	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ラット肝臓移植モデルを用いた移植肝臓の免疫寛容獲得の機序とパイオカーの同定	石井永一	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	多重染色FACSを用いた腎組織病理診断に替わる糸球体腎炎の診断・病態解析法の確立	岩堀 徹	
	解析人体病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (B)	プロスタグランジン F2-腎局在樹状細胞による糸球体腎炎発症・進展制御機構の解明	永坂真也	
寺崎泰弘	解析人体病理学分野	主任分担	厚生労働省科研費補助金	びまん性肺疾患に関する調査研究	本間 栄	東邦大学医学部内科学講座呼吸器内科分野(大森)
内藤善哉, 工藤光洋, 彭 為霞, 田中信之, 古川文夫	統御機構診断病理学分野	代表分担	喫煙科学研究財団平成26年度研究助成	タバコ抽出物によるびまん性肺胞傷害における2-deoxy-D-glucoseの抑制効果について	内藤善哉	統御機構診断病理学
	統御機構診断病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	microRNA による nestin 制御：降瘤治療の臨床応用を目指した検討	石渡俊行	
内藤善哉, 工藤光洋	統御機構診断病理学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ケラトアカントーマは良性腫瘍か：プロテオミクスを用いた不均質性の解明	安齋眞一	皮膚粘膜病態学
	統御機構診断病理学分野	代表	2013年度(一社)大学女性協会の国内奨学生ホームズ奨学生(2014年度運用)	甲状腺腫瘍の細胞診の意義と組織学的相違に關わる遺伝子・タンパク質発現の検討：チェルノブイリ原発事故および福島原発事故による健康被害にむけた対策	呉 壮香	
内藤善哉	統御機構診断病理学分野	代表分担	平成26年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	Clinical Rebiopsy Bank Project を基盤とした包括的がん治療開発拠点形成	弦間昭彦	呼吸器内科学
	統御機構診断病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	子宮内膜癌における FGFR2IIIc の役割の解明及び新たな治療戦略の検討	彭 為霞	
	統御機構診断病理学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	服薬コンプライアンスを改善する、患者に応じた見せる糖尿病シミュレーションモデル	工藤光洋	
高橋秀実	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ランゲルハンス細胞活性化による新たな免疫療法の開発	高橋秀実	日本医科大学微生物学・免疫学教室
	微生物学・免疫学分野	分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	Clinical Rebiopsy Bank Project を基盤とした包括的がん治療開発拠点形成 (課題：再発痛における樹状細胞の解析)	弦間昭彦	日本医科大学内科学 (呼吸器内科学) 教室
高橋秀実	微生物学・免疫学分野	分担	厚生労働省科研費補助金	粘膜自然免疫を標的とした HIV の感染伝播とその制御	岩本愛吉	東京大学医科学研究所先端医療研究センター・感染症分野
	微生物学・免疫学分野	代表	NPO 丸山ワケチン研究助成	腫瘍内樹状細胞の誘導機序	高橋秀実	日本医科大学微生物学・免疫学教室
	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	漢方薬が免疫制御系細胞群に与える影響～腫瘍ワクチン増強を目指して	高久 俊	日本医科大学微生物学・免疫学教室
	微生物学・免疫学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	放射線照射による消化器樹状細胞の活性化と卵白アラブルブミン特異的アレルギー反応の誘導	若林あや子	日本医科大学微生物学・免疫学教室

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
根岸靖幸	微生物学・免疫学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	胎児免疫寛容における胎児抗原特異的CTLの挙動と胎盤のバリア機構の解明	市川雅男	日本医科大学産婦人科学教室
大塚俊昭, 稲垣弘文, 若山葉子, 勝又聖夫	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	職場勤務者のメタボリック症候群関連指標とメタボリックヘルスに関する総合的研究	川田智之	日本医科大学
稲垣弘文, 川田智之	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究	サリン事件被害者の長期的な健康不安の解析	勝又聖夫	日本医科大学
西山康裕, 稲垣弘文, 川田智之	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究	大塚俊昭	日本医科大学
川田智之	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	カーバメイト系農薬による抗腫免疫機能への影響及びその機序	李 卿	日本医科大学
李 卿	衛生学公衆衛生学分野	分担	公益財団法人車両競技公益資金記念財団	平成26年度森林浴による健康増進等に関する調査研究	宮崎良文	千葉大学
川田智之	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	農林水産省高度化事業 研究	「戦略的イノベーション創造プログラム(次世代農林水産業創造技術)」12-(5)脳・内分泌・自律神経・免疫活動を用いた人での評価法の開発	李 卿	日本医科大学
川田智之, 吾妻安良太, 稲垣弘文, 平田幸代	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ダイゼル排気粒子によるマウス肺線維症病態への増悪作用の分子メカニズムの解明	李 英姫	日本医科大学
李 英姫	衛生学公衆衛生学分野	代表分担	科学研究費補助金 特種領域研究	環境と次世代健康科学：疾患原因解明と予防に向けた先進的研究	武田 健	東京理科大学 総合研究機構
植草協子	法医学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	高KmADH3の慢性Alc摂取下でのAlc代謝とAlc性障害発症における役割	長谷場健	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	法医中毒薬毒物のQTOFデータに対する包括的マルチプロセス解析の検討	林田眞喜子	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	催眠薬代謝物の合成、分析及び催眠薬代謝に対する法医学的アプローチ	山口晃志	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	代表	科学研究費補助金 基盤研究	死亡直前のいれいの有無を死体髄液の核磁気共鳴分析を用いて診断する試み	平川慶子	日本医科大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	テラヘルツ帯における農産物・食品の物性評価	鈴木哲仁	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	血清を用いた新たな乳がん検出法の開発	竹内 恵	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	核磁気共鳴を用いた滲出型加齢黄斑変性に対する抗VEGF治療の反応性予測法の開発	吉村長久	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	敗血症ラット検体を用いた近赤外とラマン分光法の新規解析技術の開発	小池 薫	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	テラヘルツ計測、代謝物計測を用いた腸管虚血壊死の新たな早期診断法の確立	佐藤格夫	京都大学
平川慶子	法医学分野	分担	科学研究費補助金 基盤研究	核磁気共鳴データのパターン認識による解析を応用した敗血症重症化早期診断法の開発	鈴木崇生	京都大学
秋元敏雄, 丸山基世	基礎医学共同研究利用施設・実験動物管理室 基礎医学共同研究利用施設・実験動物管理室	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(B) 科学研究費補助金 基盤研究(C)	冷痛覚過敏の治療標的としてのTRPV3チャネル機能解析 高KmADH3の慢性Alc摂取下でのAlc代謝とAlc性障害発症における役割	丸山基世 長谷場健	実験動物管理室 法医学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
鈴木英紀	基礎医学共同研究利用施設・形態解析共同研究施設	分担	厚生労働省科研費補助金	人工血小板/H12 (ADP) リボソーム：臨床研究への移行を目指した品質管理と薬物試験	半田 誠	慶應大学輸血・細胞療法センター
木下 学, 佐藤俊一, 鈴木英紀, 武岡真司, 齋藤大蔵, 半田 誠	基礎医学共同研究利用施設・形態解析共同研究施設	分担	科学研究費補助金 (C)	衝撃波に起因するびまん性肺出血の病態解明と止血制御対策	萩沢康介	防衛医科大学校
阿部 新	循環器内科学分野・千葉北総病院循環器内科 循環器内科学分野・千葉北総病院循環器内科 神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科 神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	代表 代表 代表 分担	科学研究費補助金 (C) 科学研究費補助金 (C) 科学研究費補助金 (C) 戦略的イノベーション創造プログラム (次世代農林水産業創造技術)	心血管バイオマーカー・リケンゲ解析と心血管疾患予防のための包括的治療戦略の構築 膜電位・細胞内カルシウム同時マッピングによる除細動後心室細動再発の機序解明 レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究 食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化させる次世代機能性食品開発へのグラントデザイン	清野精彦 丸山光紀 三品雅洋 阿部啓子	国立大学法人東京大学
西山康裕	神経内科学分野・武蔵小杉病院神経内科	代表	科学研究費補助金 (C)	脳梗塞モデルにおけるミクログリアとマクロファージが神経機能に与える影響の解明	西山康裕	日本医科大学
三品雅洋	神経内科学分野・武蔵小杉病院神経内科 神経内科学分野・脳病態画像解析講座 神経内科学分野・脳病態画像解析講座	分担 代表 分担	科学研究費補助金 (C) 科学研究費補助金 (C) 科学研究費補助金 (B)	メチルアルギニン誘導体とメタボリック症候群発症リスクに関する職域疫学研究 レヴィ小体病における脳機能の代償とアミロイド分布の関連に関する研究 代謝型グルタミン酸受容体1型の分子イメージング：フアーストインヒビターマニピュレーション	大塚俊昭 三品雅洋 石渡喜一	日本医科大学 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所 神経画像研究チーム
鶴岡秀一, 金子朋広, 鶴岡秀一	腎臓内科学分野・付属病院腎臓内科 腎臓内科学分野・付属病院腎臓内科 腎臓内科学分野・付属病院腎臓内科	代表 分担 分担	科学研究費補助金 (C) 厚生労働省科研費補助金 厚生労働省科研費補助金	アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発 慢性腎臓病患者に対する人工透析導入への進展予防に関する研究 慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発	鶴岡秀一 山縣邦弘 成田一衛	筑波大学 新潟大学
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	免疫疾患におけるT細胞サブセットの機能異常とその修復法の開発	山本一彦	東京大学医学部附属病院アレルギマナ・リウマチ内科
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	尹 浩信	熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学分野
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究	尹 浩信	熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学分野
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	ペーチエット病に関する調査研究	水木信久	横浜市立大学医学研究科視覚器病態学
桑名正隆	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	血液凝固異常症等に関する研究	村田 満	慶應義塾大学医学部臨床検査医学
	アレルギー・膠原病内科学分野・付属病院アレルギマナ・膠原病内科	代表	科学研究費補助金 (C)	末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発	桑名正隆	日本医科大学大学院医学研究科 アレルギマナ・膠原病内科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
玉井勇人	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	骨髄腫微小環境におけるSLAMファミリー分子の機能解析と新規治療の開発	田村秀人	日本医科大学付属病院
	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	骨髄異形成症候群(MDS)におけるIL-2受容体 $\alpha$ 鎖を標的とした新規治療の検討	近藤麻加	
	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	新規RCSDD1-ABL1遺伝子癌化能と分子標的薬開発	猪口孝一	日本医科大学付属病院
	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	MLL/AF4陽性ALLのSI00A6抑制による新規治療開発	玉井勇人	
	血液内科学分野・付属病院血液内科	主任	厚生労働省科研費補助金	難治性疾患等克服研究事業	山口博樹	日本医科大学付属病院
	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	CAP1遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明	山口博樹	
	血液内科学分野・付属病院血液内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	CAP1遺伝子変異による急性骨髄性白血病の発症や再発機序の解明	山口博樹	日本医科大学 血液内科
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断ガイドラインの作成に関する研究	伊藤悦朗	
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	がん研究開発費	福田隆浩	
山口博樹	血液内科学分野・付属病院血液内科	分担	厚生労働省科研費補助金	稀少小児遺伝性血液疾患に対する新規責任遺伝子の探索と遺伝子診断システムの構築に関する研究	小高勢二	
坂本長逸	消化器内科学分野・付属病院消化器・肝臓内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	胃腸膜播種における間葉系幹細胞のホーミング分子機構とips gene発現の解析	二神生爾	日本医科大学 消化器内科学
	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	新規モデルマウスを用いた高脂肪食誘導性耐糖能異常における疾患感受性規定因子の解明	長尾元嗣	
	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	なぜ耐糖能異常は動脈硬化性疾患の危険因子なのか：新規モデルマウスを用いた解析	浅井 明	
稲垣恭子	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	石橋 俊	自治医科大学
及川真一	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(JDCS)	曾根博仁	新潟大学
長尾元嗣	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	代表分担	喫煙科学研究財団	ニコチン投与母ラットあるいは父ラットからの出生仔における成長後の耐糖能異常の検討	杉原 仁	日本医科大学 内分泌糖尿病代謝内科
弦間昭彦	内分泌糖尿病代謝内科学分野・千葉北総病院内分泌内科	代表	科学研究費補助金 戦略的萌芽研究	神経経済学的適応障害としての2型糖尿病の行動経済学的病態分析	江本直也	
	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肺癌の特異的およびエクソソーム由来マイクロRNAの同定および個別化医療への応用	清家正博	
茂木 孝	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	患者状態適応型パスを用いたCOPDの診療・連携パスの質評価に関する研究	茂木 孝	
木田厚瑞, 石井健男	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	災害時及び災害者に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	
	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	保険医療分野における 基盤研究推進事業(独立 行政法人 医薬基盤研究 所)	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発	谷口直之	独立行政法人 理化学研 究所
石井健男	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	Marfan型COPDの遺伝子レベルから見たECMの動態と革新的治療に向けた研究	木田厚瑞	



研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
弦間昭彦, 清家正博	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科 呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担 代表	科学研究費補助金 科学研究費補助金 科学研究費補助金	肺神経内分沁腫瘍の遺伝子変異・融合遺伝子の 同定と新規治療標的バイオマーカーの開発 オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪 メカニズムの検討	宮永晃彦 石井健男	
田中信之, 清家正博	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表分担	科学研究費補助金	ドラッグ治療に関する研究	弦間昭彦	
勝俣(範之)	呼吸器内科学分野・武蔵小杉病院腫瘍内 科	分担	科学研究費補助金	充実したがんサバイブシブに向けた多角的 支援モデルの開発に関する研究 (H25-A-18)	高橋 都	
岸 泰宏	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金	神経炎症を視座にしたせん妄の予測、予防、治 療に関する総合研究	八田耕太郎	順天堂大学
木村真人, 小林士郎, 水成隆之, 駒場祐一, 下田健吾, 大村朋子, 鈴木順一, 藤田聡行, 奥川達也	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助 金	身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の 向上に資する研究：脳卒中地域連携パスにおけ るPHQ-9を用いたうつ病・うつ状態の評価と運 用実績	伊藤弘人	国立精神・神経医療研究 センター精神保健研究所 社会精神保健研究部
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助 金	高齢者うつ病の病態診断と治療評価のためのイ メージングバイオマーカーの開発と実用化	大久保善朗	日本医科大学大学院 精神・行動医学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助 金	高齢者うつ病の病態診断と治療評価のためのイ メージングバイオマーカーの開発と実用化	大久保善朗	日本医科大学大学院 精神・行動医学
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金 科学研究費補助金	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ 病のアレルツハハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 科学研究費補助金	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ 病のアレルツハハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	代表分担	ドーピング検査手法の 実効性の確保に関する 整備事業	中枢神経作用薬の高次脳機能に対する効果およ び薬物動態を同定するための脳機能画像を用い た新しいドーピング検査技術の研究開発	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	ドーピング検査手法の 実効性の確保に関する 整備事業	中枢神経作用薬の高次脳機能に対する効果およ び薬物動態を同定するための脳機能画像を用い た新しいドーピング検査技術の研究開発	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	代表分担	独立行政法人放射線医 学総合研究所	PET 疾患診断研究拠点	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	独立行政法人放射線医 学総合研究所	PET 疾患診断研究拠点	大久保善朗	日本医科大学大学院・精 神行動医学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 科学研究費補助金	ドーパミントランスポーターPETによる妄想の病 態解明と客観的評価法の開発研究	舘野 周	日本医科大学
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経 科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メ ンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金 科学研究費補助金	非侵襲的脳機能画像を用いた歯科恐怖症に対 する効果的な認知行動技法の定量的評価	苅部洋行	日本歯科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
舘野 周	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソナルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ドパミントランスポートターミネーターによるレビー小体型認知症バイオマーカーの研究	上田 諭	日本医科大学
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソナルヘルス科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	リアルタイム fMRI を用いたバイオフィードバック法による精神科ニューロリハビリテーションへの応用	松田哲也	玉川大学脳科学研究所
大久保善朗	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソナルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価	苅部洋行	日本歯科大学
肥田道彦	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソナルヘルス科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価	苅部洋行	日本歯科大学
	精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メソナルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ドパミントランスポートターミネーターによるレビー小体型認知症のバイオマーカーに関する研究	上田 諭	日本医科大学
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	Lilly Grant	キンドリングでかんかんモデルを用いたてんかんマウスにおける VGF ペプチドの脳内発現の検討	浅野 健	
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	日本損害保険協会	交通事故医療に関する一般研究助成: 小児交通外傷時に対する心理社会的療法の早期介入の効果について	浅野 健	
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	Pfizer grant	小児急性脳症患児髄液の NMR, MS 解析 (2)	浅野 健	
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	脂肪由来間葉系幹細胞を用いた骨髄再生の研究・人工骨髄の作成をめざして	植田高弘	日本医科大学
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	川崎病発症機序の解明	深澤隆治	日本医科大学小児科
伊藤保彦, 高橋秀実, 内藤善哉, 瀧澤俊広, 内田英一, 田中信之, 清家正博, 竹下俊行	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	Clinical Rebiopsy Bank Project を基盤とした包括的がん治療開発拠点形成	弦間昭彦	日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科学
	小児・思春期医学分野・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児内科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	小児喘息の phenotype-endotype に寄与するバイオマーカーの解明	林 美雪	付属病院小児科
浅井邦也	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科, 放射線治療科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	3 次元タキシング MRI を用いた心不全の子後予測	天野康雄	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
小林靖宏	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、 放射線治療科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	MDCT/PETを用いた非侵襲的な冠動脈不安定 プラーク検出に関する研究	汲田伸一郎	
	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、 放射線治療科	代表	科学研究費補助金 芽研究	高温温熱灌流療法の開発に対する研究	村田 智	
	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、 放射線治療科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	リピドロールの粘度調整法の確立と低粘度油性 造影剤の開発	嶺 貴彦	放射線医学
	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、 放射線治療科	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	肝臓がんに対する門脈逆流式閉鎖循環下肝灌流 療法の開発	小野澤志郎	放射線科
能勢隆之	臨床放射線医学分野・多摩永山病院放射 線治療科	分担	平成26年度厚生労働科 学研究委託費革新的がん 医療実用化研究事業 伊丹班 (26270801)	乳がんの高線量率組織内照射の研究：トレーサ ビリティの確保された線源と画像誘導を利用し た高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究 (26270801)	伊丹 純	国立がん研究センター中 央病院放射線治療科
	リハビリテーション学分野・千葉北総病 院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳機能画像をもとにした二元的脳機能賦活戦略	原 行弘	日本医科大学大学院医学 研究科リハビリテーショ ン学分野
伏屋洋志, 大林 茂, 妹尾麻代, 村岡慶裕	リハビリテーション学分野・千葉北総病 院リハビリテーション科	代表分担	日本損害保険協会交通 事故医療特定課題研究 助成	麻痺手指の運動改善を促すFES grobeの開発と 効果検証	原 行弘	日本医科大学大学院医学 研究科リハビリテーショ ン学分野
	呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	中房型肺がんに対する凍結融解療法を用いた新 規内視鏡治療の開発	石角太一郎	日本医科大学 附属病院 呼吸器外科
	呼吸器外科学分野・付属病院呼吸器外科・ 千葉北総病院呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	末梢小型肺腺癌に対する次世代型気管支鏡治療 の開発	白田実男	日本医科大学 附属病院 呼吸器外科
	脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	工学を用いた微小外科手術技術評価と効果的 トレーニング法の開発	森田明夫	日本医科大学大学院医学 研究科
森田明夫	脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	分担	科学研究費補助金 基盤研究(S)	超微細手術のための汎用ブラットフォーム開発 とそれを支える超精密テクノロジーの追求	光石 衛	東京大学工学系研究科
	脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	代表	日本イライリリー株 式会社・教育・研究助 成金(2014年度)	ヒトエストロゲン受容体変異体の機能と発現調 節機構の解明	服部裕次郎	日本医科大学大学院医学 研究科
	脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	下垂体腺腫におけるGremlinの発現と細胞内シ グナルの解析に関する研究	吉田大蔵	日本医科大学脳神経外科
太組一朗	脳神経外科学分野・武蔵小杉病院脳神経 外科	分担	厚生労働省科研費補助 金	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関す る調査研究	水澤英洋	国立精神神経医療研究セ ンター病院
喜多村孝幸	脳神経外科学分野・武蔵小杉病院脳神経 外科	分担	厚生労働省科研費補助 金	脳脊髄液減少症の診断・治療法の確立に関する 研究	嘉山孝正	
中井章人	女性生殖発達病態学分野・多摩永山病院 女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助 金	人工妊娠中絶の地域格差に関する研究	池田智明	三重大学
中井章人	女性生殖発達病態学分野・多摩永山病院 女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助 金	地域格差是正を通じた周産期医療体制の将来バ ジヨン現実に向けた先行研究	田村正徳	埼玉医科大学総合医療セ ンター
中井章人	女性生殖発達病態学分野・多摩永山病院 女性診療科・産科	分担	厚生労働省科研費補助 金	持続可能な周産期医療体制の構築のための研究	海野信也	北里大学
	頭頸部・感覚器科学分野・付属病院耳鼻咽 喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病 院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	難治性鼻副鼻腔炎病態における局所粘膜での抗 体産生に関する研究	松根彰志	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	頭頸部・感覚器科学分野・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	老人性難聴とエピソード ネグロチン蛋白質修飾の解 析	渡邊健一	日本医科大学耳鼻咽喉科
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	網膜酸化ストレス傷害に 対する水素水点眼の効 果	高橋 浩	
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	眼内微小環境の恒常性維 持の分子機構の解析と 眼組織移植への応用	堀 純子	
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	平成26年度若手研究者 奨励賞	角膜血管リンパ管新生に おけるICOSの働き	國重智之	
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	平成26年度丸山記念研 究助成金	角膜移植の免疫応答にお けるV-domain Ig sup- pressor of T cell activa- tion (VISTA)の役割	國重智之	
高橋 浩, 五十嵐勉	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	分担	科学研究費補助金 若手研究 (B)	高浸透圧と自然免疫がド ライアイに及ぼす影響 と、それに基づく新たな 予防・治療戦略	藤本千明	
	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	代表	若手研究奨励賞	世界初の自己免疫性強 膜炎マウスモデルの作 成と眼局所の分子病態 解析	谷口ヒロ子	
高橋 浩, 五十嵐勉	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	網膜動脈閉塞症に 対する水素水点眼の臨 床応用	五十嵐徹	
竹田晋浩	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・バイオフィニクック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	体内遺伝子変動から みたら全身麻酔の機序 解明	坂本篤裕	日本医科大学
竹田晋浩	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・バイオフィニクック	分担	厚生労働省科研費補 助金	重症循環不全・呼吸不 全に提供される体外式 膜型人工肺 (ECMO) 療 法の研修やレジストリ ネットワーク体制の構 築に関する研究	落合亮一	東邦大学
増野智彦, 末廣栄一, 河井信行, 小田泰崇, 田中佐智子, 黒田泰弘	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・バイオフィニクック	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	In vitro イメージング を用いた吸入麻酔薬セ ボフルランの標的分子の 探索	森島恒雄	岡山大学
増野智彦, 大泉 旭, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救急救命救急センター・付属病院救急救命救急センター・多摩永山病院救急救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	虚血再灌流病態を伴う 外傷性脳内血腫に 対する術前急速導 入脳低温療法の有効 性の検討	安齋めぐみ 横堀将司	日本医科大学
増野智彦, 塚本剛志, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救急救命救急センター・付属病院救急救命救急センター・多摩永山病院救急救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	骨軟部組織損傷後の 臓器傷害発生メカニ ズムの検討	塚本剛志	
増野智彦, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救急救命救急センター・付属病院救急救命救急センター・多摩永山病院救急救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	マウス腎虚血再灌流 障害モデルにおける Egr-1の役割	新井正徳	
増野智彦, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救急救命救急センター・付属病院救急救命救急センター・多摩永山病院救急救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	急性腸間膜虚血の 早期診断および救 命率向上に向けた 治療戦略の構築	金 史英	
塚本剛志, 新井正徳, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救急救命救急センター・付属病院救急救命救急センター・多摩永山病院救急救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ショック後腸管リン パ液生理活性およ び臓器障害に 対する組織損傷の 影響	増野智彦	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
横田裕行、 布施明、 増野智彦、 恩田秀賢、 井上泰豪、 橋詰哲広、 五十嵐豊、 山口昌紘、 金谷貴大	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター 救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表 代表分担	科学研究費補助金 手研究 (B) 日本損害保険協会 交通 事故医療特定課題研究 助成	重症脳損傷における脳低温療法後の免疫機能 高齢者重症頭部外傷における機能転帰改善を指向した真学的治療戦略の確立：日本頭部外傷データベースプロジェクト2015による検討	松本 学 横堀将司	
横田裕行、 布施明、 横堀将司、 五十嵐豊、 竹田晋浩、 増野智彦	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター 救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担 主任分担	日本損害保険協会 交通 事故医療に関する一般 研究助成 厚生労働省科研費補助 金	ドクターカー（ラピッド・レスポンスカー）による医療機関と消防機関の効果的連携に関する疫学研究：交通外傷診療における連携構築へ向けて 「重症循環不全・呼吸不全に提供される体外式膜型人工肺 (ECMO) 療法の研修やレジストリネットワーク体制の構築に関する研究」	増野智彦 落合亮一	東邦大学
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助 金	脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	横田裕行	昭和大学医学部救急医療 講座
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助 金	効果的な熱中症予防のための医学的情報等の収集・評価体制構築に関する研究	三宅康史	帝京大学医学部救急医学 講座
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助 金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	坂本哲也	
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助 金	救急救命士の処置範囲に係る研究	野口 宏	藤田保健衛生大学医学部 救命救急医学講座
横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助 金	救急医療体制の推進に関する研究	山本保博	救急振興財団
荒木 尚	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助 金	脳卒中や心筋梗塞に関する医療連携構築に関する研究	横田裕行	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助 金	脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	横田裕行	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
片山 映, 松田陽子, 横田裕行, 永野昌俊	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究	横田裕行	
	救急医学分野・付属病院救命救急科・付属病院高度救命センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析	布施 明	
	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	血漿 microRNA 発現による骨折治癒遅延の新しい分子治療の解明	原 義明	
	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	体幹部外傷時の大量出血に対する超分子ゲルを用いた一時的止血効果に関する基礎的実験	松本 尚	
	救急医学分野・千葉北総病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	スマートフォンの動画・音声伝送システムを用いた一般市民による救急通報に関する研究	本村友一	
	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院認知症センター	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	ケア学への提言：街ぐるみ認知症相談センターの実践から	野村俊明	日本医科大学医療心理学 教室
上村尚美, Wolf MA, 井内勝哉, 西槇貴代美, 一宮治美, 横田 隆	老人病研究所・細胞生物学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (B)	健康増進と疾病に寄与する分子状水素の多彩な機能を発揮するメカニズムの解明	太田成男	大学院医学研究科加齢科 学系細胞生物学分野
太田成男, Wolf MA, 井内勝哉	老人病研究所・細胞生物学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	水素分子の糖尿病改善効果と遺伝子発現誘導における作用機序の解明	上村尚美	老人病研究所生化学部門
	老人病研究所・細胞生物学分野	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	水素分子による酸化ストレス防御機構と脳内レドックス動態の解析	西槇貴代美	老人病研究所生化学部門
太田成男	老人病研究所・細胞生物学分野	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	水素水の網膜神経保護効果と酸化ストレスの定量的評価システムによる解析	横田 隆	
太田成男	老人病研究所・細胞生物学分野	分担	厚生労働省科研費補助金	ミトコンドリア脳筋症 MELAS 脳卒中様発作に対するタウリン療法の開発	砂田芳秀	川崎医科大学
太田成男	老人病研究所・細胞生物学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	グルココルチコイドは高強度運動による海馬での神経新生の増加を引き起こす要因か否か	三上俊夫	日本医科大学スポーツ科 学
太田成男	老人病研究所・細胞生物学分野	分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	脂肪肝炎：肝発ガンの病気に応じた最適な酸化ストレス介入療法の開発	高木章乃夫	岡山大学
	老人病研究所・遺伝子制御学分野	代表	科学研究費補助金 芽研究	転写因子 HIF-1 による抗癌剤耐性獲得の分子機構とそれに対する癌治療法の開発	田中 信之	日本医科大学老人病研究 所免疫部門
茂木 孝	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	患者状態適応型パスを用いた COPD の診療・連携パスの質評価に関する研究	茂木 孝	
	呼吸ケアクリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	災害時及び被災者に備えた慢性閉塞性肺疾患等の生活習慣病患者の災害脆弱性に関する研究	木田厚瑞	
木田厚瑞, 石井健男	呼吸ケアクリニック	分担	独立行政法人医薬基盤 研究所委託研究	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発の動態と革新的治療に向けた研究	谷口直之	独立行政法人 理化学研 究所
石井健男	呼吸ケアクリニック	代表分担	科学研究費補助金 盤研究 (C)	Marfan 型 COPD の遺伝子レベルから見た ECM の動態と革新的治療に向けた研究	木田厚瑞	
	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 盤研究 (C)	オートファジーによる慢性閉塞性肺疾患の増悪メカニズムの検討	石井健男	
藤倉輝道	医学教育センター	代表分担	科学研究費補助金 特定領域研究	医療面接実習において学生が行動変容を来たす模擬患者のフィードバック手法の特定	阿曾亮子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
海原純子	医学教育センター	分担		がん研究開発費23-A-30 支持療法の開発と標準化のための研究	久保田馨	がん診療センター
	医学教育センター 学生部・学生相談室	代表 代表	復興庁 科学研究費補助金 基盤研究(C)	心の健康サポート事業 自己への思いやりの態度を育成強化させる心理教育的介入法の開発	海原純子 鋤柄のぞみ	

6) 平成 26 年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
高橋宏典 <sup>1,2)</sup>	( <sup>1</sup> )自治医科大学産科婦人科講座、 <sup>2</sup> )日本医科大学大学院分子解剖学分野)・分子解剖学分野	個人	優秀演題賞	CD44 を介した絨毛外栄養膜細胞の浸潤調節機構の解明 (MW-3-3)	第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会	2014	4
根本崇宏	生体統御科学分野	個人	川上正澄賞 (第 30 回)	ストレスや栄養状態が視床下部、下垂体ホルモンの分泌に与える影響	日本神経内分泌学会	2014	10
岩崎俊雄	代謝・栄養学分野	個人	長瀬研究振興賞	グルコース感受性に関わる細菌型 mitoNEET の生体内レドックス制御システム解析	長瀬科学技術振興財団	2014	4
笠原優子, 喜納裕美, 千代智子 <sup>1)</sup> , 岡田浩典, 武田伸一 <sup>1)</sup> , 岡田尚巳	( <sup>1</sup> )国立精神・神経医療研究センター神経研究所)・分子遺伝医学分野	個人	第 35 回 日本炎症・再生医学学会 優秀演題賞	IL-10 強制発現による機能強化型 MSCs の作製と生存解析	日本炎症・再生医学会	2014	7
Hayashita-Kinoh H	分子遺伝医学分野	個人	American Society of Gene & Cell Therapy 17th Annual Meeting Abstract Travel Award	Immune tolerance induction in canine X-linked muscular dystrophy with rAAV9-microdystrophin transduction	American Society of Gene & Cell Therapy	2014	5
岡田浩典	分子遺伝医学分野	個人	第 19 回 日本遺伝子治療学会 アンジェス賞	Generation of muscular dystrophy NHP model with rAAV 1 and 9-mediated transduction of common marmoset	日本遺伝子治療学会	2014	8
Mishina M	神経内科学分野・付属病院神経・脳血管内科	個人	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2013	Low density of signal receptors in early Alzheimer's disease	日本核医学学会	2013	
Mishina M <sup>1,2)</sup> , Ohyama M <sup>1,2)</sup> , Ishii K <sup>1)</sup> , Kitamura S <sup>2,4)</sup> , Kimura Y <sup>1,5)</sup> , Oda K <sup>1)</sup> , Kawamura K <sup>1,6)</sup> , Sasaki T <sup>1,7)</sup> , Kobayashi S <sup>3)</sup> , Katayama Y <sup>2)</sup> , Ishiwata K <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2</sup> )Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, <sup>3</sup> )Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>4</sup> )Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>5</sup> )Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>6</sup> )Center for Integrated Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata, <sup>7</sup> )Research Team for Molecular Biomarkers, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology)・神経内科学分野・脳病態画像解析学講座	グループ	Annals of Nuclear Medicine Frequently Cited Paper 2013	Low density of signal receptors in early Alzheimer's disease	日本核医学学会	2014	7
田村秀人 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学付属病院血液内科)・血液内科学分野・付属病院血液内科	個人	International Myeloma Foundation Japan's grants (堀之内朗記念助成)	骨髄腫における SLAM ファミリー分子の機能とそれらを標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変 T 細胞免疫療法		2014	5



受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
濱田泰子 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学付属病院血液内科・血液内科学分野・付属病院血液内科	個人	日本血液学会 JSH-KSH Fellowship Exchange Award 2014	New treatment strategy for myelodysplastic syndromes by targeting VSIG4, a negative regulator of T-cell activation, expressed on blasts		2014	5
小野寺麻加 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学付属病院血液内科・血液内科学分野・付属病院血液内科	個人	平成26年度日本医科大学医学奨励賞	骨髄異形成症候群における腫瘍免疫抑制機序の解明と新規免疫療法の検討		2014	9
玉井勇人 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学付属病院血液内科・血液内科学分野・付属病院血液内科	個人	先端医薬研究助成金	MLL/AF4陽性急性リンパ性白血病の腫瘍免疫の回避を標的とする新規治療法の研究		2015	1
玉井勇人 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学付属病院血液内科・血液内科学分野・付属病院血液内科	個人	丸山記念研究助成金	MLL/AF4陽性急性リンパ性白血病の新規治療の開発		2014	7
長尾元嗣	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	個人	医学研究助成金	Gene-Environment Interactionに基づいた新しい糖尿病モデルマウスの開発とその解析	日本医科大学同窓会	2014	5
浅井 明	内分泌糖尿病代謝内科学分野・付属病院糖尿病・内分泌代謝内科	個人	研究者育成助成(ロッテ重光学術賞)	過食の出現における遺伝子・環境相互作用：メタボリックシンドロームの根源を探る	公益財団法人ロッテ財団	2015	3
清家正博	呼吸器内科学分野・付属病院呼吸器内科、化学療法科	個人	平成25年度日本肺癌学会篠井・河合賞	肺癌におけるmicroRNA異常の解明と新規治療法の開発に向けた研究		2014	11
肥田道彦 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学精神医学教室)・精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	第三期若手研究者育成プログラム・奨励賞	統合失調症の選択的音声感受領域の脳病態とFOXP2関連遺伝子の影響に関する検討	日本生物学的精神医学会	2014	9
肥田道彦 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学精神医学教室)・精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	Royal Australia and New Zealand College of Psychiatrists 2015年総会 海外派遣	Cerebral response to non-verbal affective vocalizations and cross-cultural differences by Asian and Caucasian Listeners : An fMRI study	日本精神神経学会、王立オーストラリア・ニュージーランド精神医学会	2014	11
肥田道彦 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学精神医学教室)・精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	世界精神医学会2015年総会若手研究者派遣	Cross-cultural differences of cerebral response to affective vocalization between Caucasian and Asian participants	日本精神神経学会、世界精神医学会	2015	1
肥田道彦 <sup>1)</sup>	( <sup>1</sup> )日本医科大学精神医学教室)・精神・行動医学分野・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	平成26年度日本医科大学若手研究者奨励賞	ドパミンD2受容体PETと音感情認知fMRIを用いた統合失調症治療起点の解明	日本医科大学	2014	7
Sekine T	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	個人	ISMIRM Travel Award		JSMRM	2014	5
Sekine T	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科、放射線治療科	個人	AIRP fellowship		JRS	2014	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究・論文	受賞団体	年	月
Murata S	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科, 放射線治療科	個人	Magna Cum Laude	Pilot study of percutaneous isolated pancreas perfusion chemotherapy: pharmacokinetic and histological assessment in a pig model	CIRSE	2014	9
Murata S	臨床放射線医学分野・付属病院放射線科, 放射線治療科	個人	Lorenzo Capusotti Award	Minimal Invasive Radiology	IASGO	2014	12
Onozawa S, Miki I, Murata S, Tajima H, Yamaguchi H, Mine T, Ueda T, Sugihara F, Akiba A, Yasui D, Sugihara H <sup>1)</sup> , Hayashi H, Kumita S Hara Y <sup>1)</sup>	(1)Nippon Medical School Endocrinology)・臨床放射線医学分野・付属病院放射線科, 放射線治療科	個人		Detectivity and anatomical characteristics of right adrenal veins in thin slice enhanced CT for adrenal venous sampling	日本IVR学会	2014	6
村井保夫	脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	個人	Best research award in 4th Asia-Oceania Conference of Physical & Rehabilitation Medicine 脳卒中の外科学会賞(鈴木賞)	Dual effects with functional electrical stimulation (FES) and neuro-modulation on the brain cortical perfusion among strokes 機骨動脈グラフトの基本 80例の反省を込めた基本手技と術後管理のポイント	日本脳卒中の外科学会	2014	4
服部 裕次郎 <sup>2)</sup> , 石井 寛高 <sup>1)</sup> , 森田 明夫 <sup>2)</sup> , 小澤 一史 <sup>1)</sup>	(1)日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生化学分野, 2)日本医科大学大学院医学研究科脳神経外科学分野・脳神経外科学分野・付属病院脳神経外科	個人	第24回臨床内分泌代謝 Update 優秀ポスター賞	新規ヒトエストロゲン受容体変異体の同定と機能解析	日本内分泌学会	2014	11
岩下 哲	整形外科学分野・付属病院整形外科・リウマチ外科, 武蔵小杉病院整形外科, 多摩永山病院整形外科, 千葉北総病院整形外科	個人	第63回東日本整形災害外科学会学術奨励賞	夜間痛を伴う腱板断裂例の臨床的特徴に関する検討	東日本整形災害外科学会	2014	9
望月祐輔	整形外科学分野・付属病院整形外科・リウマチ外科, 武蔵小杉病院整形外科, 多摩永山病院整形外科, 千葉北総病院整形外科	個人	平成25年度 整形災害外科学会研究助成財団奨励賞	ATDC5を用いたCol2a1のSox9結合部位に対するCRISPR/Cas9システムでのTarget CHIP法	整形災害外科学会研究助成財団	2014	5
國重智之	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	平成26年度丸山記念研究助成金	角膜移植の免疫応答におけるV-domain Ig suppressor of Tcell activation (VISTA)の役割		2014	7
國重智之	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	若手研究奨励賞	角膜血管リンパ管新生におけるICOSの働き		2014	9
Suzuki H, Igarashi T, Shiwa T, Takahashi H	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	Scientific 部門, 第2位	A temperature in corneal endothelium during phacoemulsification	2014ESCRS, Video Awards 2014	2014	9
谷口ヒロ子	眼科学分野・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	若手研究奨励賞	世界初の自己免疫性強膜炎マウスモデルの作成と眼局所の分子病態解析		2014	9
大槻達郎, 石川真士, 田中俊輔, 保利陽子, 後藤玄太郎, 坂本篤裕	疼痛制御麻酔科学分野・付属病院麻酔科・ペイニングクリニック	グループ	優秀演題賞	フラット急性肺障害モデルにおける麻酔薬の作用とmicroRNAの発現変化	第61回日本麻酔科学会学術集会	2014	5

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
横堀将司	救急医学分野・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	日本医科大学賞（研究部門）	脳損傷患者に対する術前早期導入脳低温療法に関する橋渡し研究と血管内冷却法を用いた臨床研究	日本医科大学	2015	1
横堀将司, 藤木 悠, 山口 昌敏, 五十嵐豊, 橋詰哲広, 因田秀賢, 布施 明, 横田裕行	救急医学分野・付属病院救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	個人	日本脳神経外科救急学会学術奨励賞	重症頭部外傷における脳室内出血の臨床的意義-積極的治療抵抗因子の病態は何か	日本脳神経外科救急学会	2015	1
齋藤伸行 <sup>1,2)</sup> , 八木貴典 <sup>1)</sup> , 松本 尚 <sup>1)</sup> , 原 義明 <sup>1)</sup> , 林田和之 <sup>1)</sup> , 益子一樹 <sup>1)</sup> , 本村友一 <sup>1)</sup> , 飯田浩章 <sup>1)</sup> , 横田裕行 <sup>3)</sup> , 我妻ゆき子 <sup>2)</sup>	(1)日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2)筑波大学医学医療系臨床試験・臨床疫学教室, 3)日本医科大学侵襲生体管理分野救急医学講座)・救命医学分野・千葉北総病院救命救急センター	個人	International report award	Evaluation of the Safety and Feasibility of Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta : REBOA			
American Association for the Surgery of Trauma 加藤政利	付属病院付置施設等・付属病院生理機能センター	個人	Medical Staff Award 賞	心筋梗塞患者における呼吸機能検査から見た心肺運動負荷試験(CPX)指標	日本心臓病学会	2013	9
田原 温, 宮田広樹	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院薬劑部	個人	第13回かながわ薬剤師学会大会優秀賞	痛化学療法患者における栄養状態の検討-低栄養状態での副作用発現の検討	公益社団法人神奈川県薬剤師会 奈川県薬剤師会	2015	1
川西智也 <sup>1)</sup>	(1)日本医科大学武蔵小杉病院認知症センター・武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院認知症センター	個人	浦上賞	認知症者とのやりとりで生じる介護家族の困難：家族会での観察から	第4回日本認知症予防学会	2014	9
岩瀬裕美, 細根 勝, 新井 悟, 片山博慈, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 日吉美栄子, 平田知己 <sup>1)</sup> , 竹内千枝 <sup>1)</sup> , 吉野直之 <sup>1)</sup> , 前田昭太郎 <sup>2)</sup> , 丹野正隆 <sup>3)</sup> , 内藤善哉 <sup>4)</sup>	(1)多摩永山病院呼吸器外科, 2)LSIメテイエンス, 3)新百合ヶ丘総合病院, 4)病理学(統御機構・腫瘍学))・多摩永山病院付置施設等・多摩永山病院病理部	個人	日本医科大学医学会総会優秀演題賞	高感度検出系試薬を用いた肺癌におけるALK免疫染色の検討	日本医科大学医学会	2014	9
松久威史	多摩永山病院付置施設等・多摩永山病院消化器科	個人	平成26年度日本消化器内視鏡学会賞受賞	Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis and intestinal metaplasia : A multicenter study of 2283 cases	松久威史	2014	10

7) 平成 26 年度知的財産一覧 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
岡田尚巳, 武田伸一	分子遺伝医学分野	移植用幹細胞及びその製造方法	PCT/JP2014/063448 (2014/05/21)			独立行政法人国立精神・ 神経医療研究センター
岡田尚巳, 今川 究	分子遺伝医学分野	歯髄由来多能性幹細胞を含有する 筋ジストロフィー治療剤	2014-231379 (2014/11/14)			JCR ファーマ
渡邊 淳, 島田 隆	分子遺伝医学分野	家族性大動脈瘤の遺伝子変異スク リーニング方法	2009-200768 (2009/08/31)	2011-050284 (2011/03/17)	5648949 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 折茂英生	分子遺伝医学分野	低フォスファターゼ症の遺伝子変 異スクリーニング方法	2009-200612 (2009/08/31)	2011-050283 (2011/03/17)	5648948 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学
波田伸一郎, 尾見康夫	臨床放射線医学分野・放 射線治療科	画像表示装置および画像表示プロ グラム並びに画像診断装置	特願 2010-100464 (2010/04/26)	特開 2011-123045 (2011/06/23)	特許第 5502583 号 (2014/03/20)	学校法人日本医科大学, ジーン・メディカル・シ ステムズ・グローバル・テ クノロジー・カンパニー・ エルエルシー
吉田大蔵	脳神経外科学分野・付 属病院脳神経外科	トランスフェクション剤	特願 2010-526725 (2009/08/06)	WO2010/024262 (2014/03/04)	特許第 5606318 号 (2014/09/05)	吉田大蔵, 武井次郎
渡邊 淳, 島田 隆	付属病院付置施設等・ 付属病院遺伝診療科	家族性大動脈瘤の遺伝子変異スク リーニング方法	2009-200768 (2009/08/31)	2011-050284 (2011/03/17)	5648949 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 折茂英生	付属病院付置施設等・ 付属病院遺伝診療科	低フォスファターゼ症の遺伝子変 異スクリーニング方法	2009-200612 (2009/08/31)	2011-050283 (2011/03/17)	5648948 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 島田 隆	付属病院付置施設等・ ゲノム先端医療部	家族性大動脈瘤の遺伝子変異スク リーニング方法	2009-200768 (2009/08/31)	2011-050284 (2011/03/17)	5648949 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学
渡邊 淳, 折茂英生	付属病院付置施設等・ ゲノム先端医療部	低フォスファターゼ症の遺伝子変 異スクリーニング方法	2009-200612 (2009/08/31)	2011-050283 (2011/03/17)	5648948 (2014/11/21)	学校法人日本医科大学

## 2. 動物実験実施状況

1) 平成26年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書(課題)数(平成26年4月～平成27年3月)

教室名	予定者数	受講者数	課題数	科名	予定者数	受講者数	課題数
[基礎部門]				[附属病院]			
分子解剖学	8	8	2	循環器内科学		4	
解剖学・神経生物学	17	10	15	神経内科学	11	14	8
感覚情報科学	17	10	5	腎臓内科学	2	5	2
生体統御科学	9	10	8	血液内科学	5	8	1
代謝・栄養学	15	11	5	消化器内科学	7	6	1
分子遺伝医学	20	13	2	内分泌糖尿病代謝内科学	10	8	1
薬理学	20	20	7	呼吸器内科学	6	9	5
解析人体病理学	19	16	10	小児・思春期医学	8	14	3
統御機構病理学	19	10	3	皮膚粘膜病態学	8	9	1
微生物学・免疫学	24	20	14	疼痛制御麻酔科学	17	14	5
衛生学公衆衛生学	9	8	3	臨床放射線医学	8	9	6
法医学	12	13	7	呼吸器外科学	4	6	1
形態解析共同研究施設	0	3	1	消化器外科学		4	
実験動物管理室	16	16	5	心臓血管外科学	7	11	2
基礎RI研究室	2	3	1	脳神経外科学	10	10	1
小計	207	171	88	眼科学	18	9	6
				頭頸部・感覚器科学	1	1	1
				女性生殖発達病態学	5	7	2
				リウマチ科			
				形成再生再生医学	19	19	5
				整形外科	2	3	1
				救急医療	10	14	4
				ワクチン療法			
				生命科学研究センター			
実験予定者の合計	422			小計	158	184	56
講習会受講者数の合計	408						
課題数の合計	186						

  

科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数
[武蔵小杉病院]			
内分泌科	1	1	4
血管内・低侵襲治療センター			
呼吸器外科			
眼科			
小児科			
小計	1	1	4
[多摩永山病院]			
小児科	2	2	1
救命救急センター			
眼科			
耳鼻科	1		
小計	3	2	1
[千葉北総病院]			
循環器内科	3	2	1
救命救急センター	5	3	2
脳神経外科	3	3	1
小計	11	8	4
[老人病研究所]			
病理学	4	4	1
生化学	11	11	9
免疫学	13	13	13
疫学	8	8	4
小計	36	36	27
[武蔵境(新丸子)校舎]			
生物学	3	3	3
スポーツ科学	3	3	3
小計	6	6	6

実験予定者計：422名 講習会受講者計：408名 実験課題数計：186題(研究課題提出者の所属が2教室ある場合は重複計数)

2) 平成26年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率(ケージ数を基に算出(%))

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	70.5	73.5	68.9	61.8	65.5	61.8	59.4	60.9	62.2	66.5	60.3	0.0	59.3
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	34.2	34.7	35.8	33.7	34.2	35.8	36.3	37.9	40.0	38.4	19.5	0.0	31.7
	P1A クリーン動物飼育室	29.1	28.6	29.2	27.9	32.3	30.6	26.9	26.2	25.4	22.5	25.2	0.0	25.3
ラット	SPF 動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P1A クリーン動物飼育室	43.2	43.2	33.8	31.8	2.2	26.4	23.6	22.3	23.6	22.3	24.3	0.0	24.7
モルモット		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ウサギ イヌ・ブタ 魚	クリーン動物飼育室	10.0	10.0	10.0	10.0	26.7	13.3	23.3	16.7	16.7	0.0	3.3	0.0	11.7
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	69.8	69.3	67.8	68.9	74.6	73.1	65.7	71.3	69.6	71.0	68.4	83.2	71.1
	P3A 感染動物飼育室	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	4.2	4.2	5.2	5.2	2.1	2.2
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	48.6	50.0	40.9	35.7	32.9	36.2	38.1	31.0	35.7	38.6	36.7	52.4	39.7
	P1A クリーン動物飼育室	37.9	43.1	42.4	38.6	39.8	39.5	37.1	33.3	39.8	41.4	43.3	66.4	41.9
ラット	SPF 動物飼育室	70.0	72.7	70.7	78.0	81.3	72.7	71.3	82.0	72.0	76.7	65.3	74.0	73.9
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	P1A クリーン動物飼育室	48.3	36.7	33.9	32.8	40.6	36.1	29.4	32.2	50.0	46.7	40.6	56.1	40.3
ウサギ・モルモット		0.0	0.0	13.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5

3) 平成26年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	271	96	123	437	65	122	98	177	93	155	44	0	1,681
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	5	0	30	9	8	62	6	33	4	0	0	157
	PIA クリーン動物飼育室	415	387	255	350	285	209	158	276	140	217	121	195	3,008
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PIA クリーン動物飼育室	91	48	62	106	74	41	32	41	57	58	12	0	622
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		0	0	0	5	0	4	0	4	2	2	0	0	17
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ブタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	374	380	386	494	399	428	417	335	314	339	708	394	4,968
	P3A 感染動物飼育室	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	9
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	29	47	78	44	24	60	44	83	53	86	168	103	819
	PIA クリーン動物飼育室	206	189	147	166	115	163	125	151	150	164	495	206	2,277
ラット	SPF 動物飼育室	85	102	103	20	180	38	40	95	74	60	76	39	912
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PIA クリーン動物飼育室	66	50	76	75	117	100	39	85	106	168	81	110	1,073
ウサギ	PIA クリーン動物飼育室	1	7	16	0	0	0	0	0	0	2	7	4	37
モルモット		0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7

4) 平成26年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	168	71	270	351	146	77	102	177	117	1,471	718	0	3,668
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	12	5	12	19	6	11	25	19	20	97	128	0	354
	P1A クリーン動物飼育室	412	405	285	332	291	280	174	276	209	184	677	100	3,625
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	59	81	58	106	66	59	32	41	46	65	75	0	688
モルモット ウサギ イヌ ブタ 魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	2	3	4	2	6	1	2	0	20
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	322	431	358	340	405	528	361	335	365	271	511	387	4,614
	P3A 感染動物飼育室	0	0	3	1	0	1	0	0	1	0	1	5	12
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	29	51	114	72	28	65	68	60	60	81	63	72	741
	P1A クリーン動物飼育室	169	178	185	130	133	152	225	106	114	117	147	283	1,939
ラット	SPF 動物飼育室	106	170	48	59	149	86	13	120	38	60	22	56	927
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	93	69	84	75	132	130	47	37	75	179	45	155	1,121
ウサギ モルモット	P1A クリーン動物飼育室	1	5	18	0	0	0	0	0	0	2	3	3	32
		0	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7



5) 平成26年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	21,950	27,337	21,983	21,364	21,580	20,422	21,653	32,018	17,142	25,289	7,648	0	238,386
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	5,636	5,739	5,421	5,343	5,724	5,564	6,369	6,305	5,098	7,794	1,612	0	60,605
	P1A クリーン動物飼育室	20,991	22,587	23,449	22,190	22,894	19,212	19,174	21,549	16,693	24,642	9,981	8,347	231,709
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラット	SPF 動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	3,314	3,536	3,210	2,475	2,126	1,915	1,881	1,710	1,554	2,464	590	0	24,775
モルモット		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウサギ		90	93	90	98	212	151	154	145	68	41	18	0	1,160
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ブタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	38,310	38,315	37,070	40,648	42,147	40,533	40,974	41,691	34,252	52,255	42,192	49,437	497,824
	P3A 感染動物飼育室	0	33	81	94	93	60	186	180	146	185	150	75	1,283
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	6,820	6,885	6,038	5,579	4,849	4,949	4,011	3,969	3,872	6,392	6,395	9,121	68,880
	P1A クリーン動物飼育室	16,320	20,018	17,447	17,450	16,971	17,059	16,249	17,836	13,751	22,976	22,491	28,104	226,672
ラット	SPF 動物飼育室	8,766	7,952	7,790	8,126	10,344	7,559	7,623	7,121	6,149	9,195	6,471	6,333	93,429
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	P1A クリーン動物飼育室	5,303	4,379	3,655	3,972	4,575	3,732	2,939	3,498	4,161	6,621	4,910	5,954	53,699
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	6	24	86	0	0	0	0	0	0	22	62	60	260
モルモット		0	15	38	3	0	0	0	0	0	0	0	0	56

## あ と が き

研究業績に拘る必要性、必然性は何なのか……。私事であるが、私は本学に着任するまでに、国内的にこの研究業績に優れた解剖学の研究室で過ごしてきました。解剖学は年間150時間前後の教育義務に追われ、自らの研究の時間を作り出すことが極めて厳しい研究室ですが、それでも自らの自由な時間、睡眠時間、食事の時間を削ってでも競争に負けない業績を目指すことが一流大学の矜持と考える研究室でした。前任校のすぐ前を川が流れており、その川を挟んですぐ対面に（ノーベル賞受賞者を輩出している）超一流の旧帝国大学が位置しています。この状況を、100m競争に例えると、スタートの時点ですでに40mのbehindを背負っていると意識し、それを埋めるためには、2倍、3倍の努力しかない、歴代の研究室の先輩諸氏は懸命に頑張り、科学研究費を始め、多数の研究資金獲得にも努力してきました。その結果、その研究室からは多数の教授が輩出され、現在でも8名の現役教授が全国で頑張っています。科学研究費を獲得するためには、斬新な研究のアイデア、計画、発展性を示す必要がありますが、なんと言ってもそのアイデア、計画、発展性を裏付ける研究業績がきちんとあるか否かが大きなポイントであります。

平成27年6月より研究部長（研究部委員会委員長）に選任されました。その以前に、教務部長として新しいカリキュラム、国際認証基準を目指せるカリキュラム策定に汗をかきました。責任者の立場になった時に、2つの立ち位置の在り方があると思います。一つは、出来るだけ静かに、現状維持を大切に考える立場のパターンです。もう一つは、きちんと課題を設定し、その課題解決の方策を考え、実行することです。私は疑いもなく、後者を選択し、本学の研究水準の向上と、強い意識を持って研究活動に取り組む組織の構築をテーマにしたいと考えています。そのためには、現状に甘えることなく、満足することなく、常に上を目指す意識が必要です。本学は、様々な厳しい情勢の中、研究・教育活動に対する理解が高く、恵まれた財政支援がなされています。であるならば、それに見合う結果（業績）を残すことは「義務」であるといって過言ではありません。本学の科学研究費獲得件数はこの数年、170件以上を安定的に確保するに至りつつあります。本学の潜在的能力を勘案した時に、次の大台、すなわち200件を超える目標は夢物語ではないと思います。加えて厚労科研、その他の民間研究費などの積極的獲得を目指し、またその獲得が望める圧倒的な研究業績、研究能力を有した実力校を目指そうではありませんか。

平成27年8月

研究部長（研究部委員会委員長） 小澤 一史

平成27年 8 月 20 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 部 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5